

朝鮮語ⅠA 2016年度以前入学者

101244A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜1限 水曜2限

ー

15

週2コマ

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことは使えるようになります。
2. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

主に語彙を覚えることになります。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ハングルの成り立ちと歴史的背景
ハングル文字の仕組み
母音字母 (1)
挨拶のことば
- 第 2 回 子音字母 (1)
字母 (1) による語彙の練習
仮名のハングル表記
挨拶のことば
- 第 3 回 母音字母 (2) と子音字母 (2)
字母 (2) による語彙の練習
挨拶のことば
- 第 4 回 終声・パッチムのある文字と語彙の練習
発音の規則(1): 連音化
挨拶のことば
- 第 5 回 小テスト: 文字と発音
第 1 課
語彙の練習
「ーです(か)」の表現
- 第 6 回 語彙の練習。名前や身分、学年などを言う
- 第 7 回 語彙の練習。助詞「-は」と「-が」
聞き返しの「-ですか」
- 第 8 回 語彙の練習。専攻、住まい、出身を言う練習。
アクティビティ: インタビューを行い、名前や身分出身などを聞いて記録し、報告する
- 第 9 回 語彙の練習。発音の規則(2): 激音化と濃音化。
助詞「-に」「-と」「-も」
- 第 10 回

語彙の練習。発音の規則(3): /h/の脱落及び弱化。

住まいを聞き合う: 「-に住んでいます(か)」

第 11 回 語彙の練習。存在の表現: 「います(か)/あります(か)」の練習

第 12 回 存在の表現の練習。
アクティビティ: インタビューを行い、住まいや家族構成を聞いて記録し、報告する

第 13 回 小テスト(筆記)を実施。復習: 自己紹介と家族紹介。漢数詞の練習

第 14 回 小テスト(口頭)を実施: 自己紹介・家族紹介。
文化紹介: 韓国の家庭

第 15 回 語彙の練習。漢数詞と助数詞の練習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するように丁寧にサポートします。

さらに、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

2回の小テスト(筆記と口頭)の平均点: 80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点(授業参加度): 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『韓国語 初級でアクティビティ!』/金美仙・金美華/ことばの森/2017/9.791195009572E12/学内販売をしない予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

大学書林(語学学校)の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験(韓国語)の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演: 韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語 I B 2016年度以前入学者

101244B0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜2限 水曜1限

ー

15

週2コマ

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことは使えるようになります。
2. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

主に語彙を覚えることになります。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ハングルの成り立ちと歴史的背景
ハングル文字の仕組み
母音字母 (1)
挨拶のことば
- 第 2 回 子音字母 (1)
字母 (1) による語彙の練習
仮名のハングル表記
挨拶のことば
- 第 3 回 母音字母 (2) と子音字母 (2)
字母 (2) による語彙の練習
挨拶のことば
- 第 4 回 終声・パッチムのある文字と語彙の練習
発音の規則(1): 連音化
挨拶のことば
- 第 5 回 小テスト: 文字と発音
第 1 課
語彙の練習
「ーですか」の表現
- 第 6 回 語彙の練習。名前や身分、学年などを言う
- 第 7 回 語彙の練習。助詞「-は」と「-が」
聞き返しの「ーですか」
- 第 8 回 語彙の練習。専攻、住まい、出身を言う練習。
アクティビティ: インタビューを行い、名前や身分出身などを聞いて記録し、報告する
- 第 9 回 語彙の練習。発音の規則(2): 激音化と濃音化。
助詞「-に」「-と」「-も」
- 第 10 回

語彙の練習。発音の規則(3): /h/の脱落及び弱化。

住まいを聞き合う: 「~に住んでいますか」

第 11 回 語彙の練習。存在の表現: 「いますか/ありますか」の練習

第 12 回 存在の表現の練習。
アクティビティ: インタビューを行い、住まいや家族構成を聞いて記録し、報告する

第 13 回 小テスト (筆記) を実施。復習: 自己紹介と家族紹介。漢数詞の練習

第 14 回 小テスト (口頭) を実施: 自己紹介・家族紹介。
文化紹介: 韓国の家庭

第 15 回 語彙の練習。漢数詞と助数詞の練習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するように丁寧にサポートします。

さらに、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

2回の小テスト(筆記と口頭)の平均点: 80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点 (授業参加度): 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『韓国語 初級でアクティビティ!』/金美仙・金美華/ことばの森/2017/9.791195009572E12/学内販売をしない予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

大学書林 (語学学校) の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験 (韓国語) の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演: 韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語 I C 2016年度以前入学者

101244C0J
大学
共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)
1年次 2年次 3年次 4年次
1単位 後期前半
月曜3限 水曜3限
15
週2コマ
金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことは使えるようになります。
2. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

主に語彙を覚えることになります。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ハングルの成り立ちと歴史的背景
ハングル文字の仕組み
母音字母 (1)
挨拶のことば
- 第 2 回 子音字母 (1)
字母 (1) による語彙の練習
仮名のハングル表記
挨拶のことば
- 第 3 回 母音字母 (2) と子音字母 (2)
字母 (2) による語彙の練習
挨拶のことば
- 第 4 回 終声・パッチムのある文字と語彙の練習
発音の規則(1): 連音化
挨拶のことば
- 第 5 回 小テスト: 文字と発音
第 1 課
語彙の練習
「一ですか」の表現
- 第 6 回 語彙の練習。名前や身分、学年などを言う
- 第 7 回 語彙の練習。助詞「一は」と「一が」
聞き返しの「一ですか」
- 第 8 回 語彙の練習。専攻、住まい、出身を言う練習。
アクティビティ: インタビューを行い、名前や身分出身などを聞いて記録し、報告する
- 第 9 回 語彙の練習。発音の規則(2): 激音化と濃音化。
助詞「一に」「一と」「一も」
- 第 10 回

語彙の練習。発音の規則(3): /h/の脱落及び弱化。
住まいを聞き合う: 「一に住んでいますか」

- 第 11 回 語彙の練習。存在の表現: 「一いますか/ありますか」の練習
- 第 12 回 存在の表現の練習。
アクティビティ: インタビューを行い、住まいや家族構成を聞いて記録し、報告する
- 第 13 回 小テスト (筆記) を実施。復習: 自己紹介と家族紹介。漢数詞の練習
- 第 14 回 小テスト (口頭) を実施: 自己紹介・家族紹介。
文化紹介: 韓国の家庭
- 第 15 回 語彙の練習。漢数詞と助数詞の練習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するように丁寧にサポートします。

さらに、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

2回の小テスト(筆記と口頭)の平均点: 80%
毎回の返却時に解説を行う。
平常点(授業参加度): 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『韓国語 初級でアクティビティ!』/金美仙・金美華/ことばの森/2017/9.791195009572E12/学内販売をしない予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

大学書林(語学学校)の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師
大学入試センター試験(韓国語)の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演: 韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語Ⅱ A 2016年度以前入学者

101245A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜1限 水曜2限

ー

15

週2コマ 「朝鮮語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

【科目の教育目標 (Course Description)】

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことは使えるようになります。
2. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

主に語彙を覚えることとなります。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

- 第 1 回 助数詞の練習。一日の時間割や予定を言う。
- 第 2 回 語彙の練習。「ーします」の表現 (1)。助詞「ーを」
- 第 3 回 週末及び一週間の過ごし方を言う。
アクティビティ：一週間の過ごし方を、最も忙しい日と暇な日を言い分けて話し合う。
- 第 4 回 小テスト (筆記) を実施。
復習：一週間の過ごし方。漢数詞とその活用
- 第 5 回 小テスト (口頭) を実施：一週間の過ごし方。文化紹介：韓国の祝日及び記念日
- 第 6 回 語彙の練習。固有数詞と個数の数え方
- 第 7 回 数字の言い方の練習。お金及び値段交渉の言い方
- 第 8 回 語彙の練習。買い物に使われる表現の練習
- 第 9 回 アクティビティ：買い物のロールプレーを行い、報告し合う。第5課の語彙の予習
- 第 10 回 「ーします」の表現 (2)。助詞：手段の「ーで」。語尾「ーでしょ？」の練習。
移動の手段及びかかる時間を表す表現「ーまでーで行く」と「ー分かかります」の練習
- 第 11 回 アクティビティ：インタビューを行い、通学の手段と時間を聞いて記録し、報告する。
第6課の語彙の予習。希望の表現「ーしたい」の練習
- 第 12 回 理由を表す語尾「ーするから」。予定を表す表現「ーするつもりだ」。希望の表現「ーしてみたい」
- 第 13 回

近い未来の予定を言う。

誘ったり、勧めたりする練習。

アクティビティ：インタビューを行い、夏休みの予定を聞いて記録し、報告する

第 14 回 復習：第5課と第6課。文化紹介：夏バテ防止の韓国料理

第 15 回 小テスト (口頭) を実施：移動の手段及びかかる時間と夏休みの予定。

総復習

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するように丁寧にサポートします。

さらに、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

10

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

小テストの平均点：80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点 (授業参加度)：20%

【留意事項 (Other Information)】

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

『韓国語 初級でアクティビティ！』/金美華・金美仙/ことばの森/2017/9.791195009572E12/学内販売をしない予定

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫

大学書林 (語学学校) の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験 (韓国語) の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語 II B 2016年度以前入学者

101245B0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜2限 水曜1限

ー

15

週2コマ 「朝鮮語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

【科目の教育目標 (Course Description)】

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことは使えるようになります。
3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

主に語彙を覚えることとなります。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

- 第 1 回 助数詞の練習。一日の時間割や予定を言う。
- 第 2 回 語彙の練習。「ーします」の表現 (1)。助詞「ーを」
- 第 3 回 週末及び一週間の過ごし方を言う。
アクティビティ：一週間の過ごし方を、最も忙しい日と暇な日を言い分けて話し合う。
- 第 4 回 小テスト (筆記) を実施。
復習：一週間の過ごし方。漢数詞とその活用
- 第 5 回 小テスト (口頭) を実施：一週間の過ごし方。文化紹介：韓国の祝日及び記念日
- 第 6 回 語彙の練習。固有数詞と個数の数え方
- 第 7 回 数字の言い方の練習。お金及び値段交渉の言い方
- 第 8 回 語彙の練習。買い物に使われる表現の練習
- 第 9 回 アクティビティ：買い物のロールプレーを行い、報告し合う。第5課の語彙の予習
- 第 10 回 「ーします」の表現 (2)。助詞：手段の「ーで」。語尾「ーでしょ？」の練習。
移動の手段及びかかる時間を表す表現「ーまでーで行く」と「ー分かかります」の練習
- 第 11 回 アクティビティ：インタビューを行い、通学の手段と時間を聞いて記録し、報告する。
第6課の語彙の予習。希望の表現「ーしたい」の練習
- 第 12 回 理由を表す語尾「ーするから」。予定を表す表現「ーするつもりだ」。希望の表現「ーしてみたい」
- 第 13 回

近い未来の予定を言う。

誘ったり、勧めたりする練習。

アクティビティ：インタビューを行い、夏休みの予定を聞いて記録し、報告する

第 14 回 復習：第5課と第6課。文化紹介：夏バテ防止の韓国料理

第 15 回 小テスト (口頭) を実施：移動の手段及びかかる時間と夏休みの予定。

総復習

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するように丁寧にサポートします。

さらに、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

10

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

小テストの平均点：80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点 (授業参加度)：20%

【留意事項 (Other Information)】

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

『韓国語 初級でアクティビティ！』/金美華・金美仙/ことばの森/2017/9.791195009572E12/学内販売をしない予定

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫

大学書林 (語学学校) の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験 (韓国語) の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語 II C 2016年度以前入学者

101245C0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜3限 水曜3限

ー

15

週2コマ 「朝鮮語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

【科目の教育目標 (Course Description)】

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことは使えるようになります。
3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

主に語彙を覚えることとなります。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

- 第 1 回 助数詞の練習。一日の時間割や予定を言う。
- 第 2 回 語彙の練習。「ーします」の表現 (1)。助詞「ーを」
- 第 3 回 週末及び一週間の過ごし方を言う。
アクティビティ：一週間の過ごし方を、最も忙しい日と暇な日を言い分けて話し合う。
- 第 4 回 小テスト (筆記) を実施。
復習：一週間の過ごし方。漢数詞とその活用
- 第 5 回 小テスト (口頭) を実施：一週間の過ごし方。文化紹介：韓国の祝日及び記念日
- 第 6 回 語彙の練習。固有数詞と個数の数え方
- 第 7 回 数字の言い方の練習。お金及び値段交渉の言い方
- 第 8 回 語彙の練習。買い物に使われる表現の練習
- 第 9 回 アクティビティ：買い物のロールプレーを行い、報告し合う。第5課の語彙の予習
- 第 10 回 「ーします」の表現 (2)。助詞：手段の「ーで」。語尾「ーでしょ？」の練習。
移動の手段及びかかる時間を表す表現「ーまでーで行く」と「ー分かかります」の練習
- 第 11 回 アクティビティ：インタビューを行い、通学の手段と時間を聞いて記録し、報告する。
第6課の語彙の予習。希望の表現「ーしたい」の練習
- 第 12 回 理由を表す語尾「ーするから」。予定を表す表現「ーするつもりだ」。希望の表現「ーしてみたい」
- 第 13 回

近い未来の予定を言う。

誘ったり、勧めたりする練習。

アクティビティ：インタビューを行い、夏休みの予定を聞いて記録し、報告する

第 14 回 復習：第5課と第6課。文化紹介：夏バテ防止の韓国料理

第 15 回 小テスト (口頭) を実施：移動の手段及びかかる時間と夏休みの予定。

総復習

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するように丁寧にサポートします。

さらに、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

10

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

小テストの平均点：80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点 (授業参加度)：20%

【留意事項 (Other Information)】

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

『韓国語 初級でアクティビティ！』/金美華・金美仙/ことばの森/2017/9.791195009572E12/学内販売をしない予定

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫

大学書林 (語学学校) の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験 (韓国語) の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語Ⅲ 2016年度以前入学者

101246NOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期前半

月曜4限 水曜4限

ー

15

週2コマ 「朝鮮語I・II」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 交流会や旅行した時に簡単な意思疎通ができます。
2. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

語彙やその関連表現を覚えることになります。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 復習及びガイダンス。
語彙の練習。過去形の作り方及び練習
- 第 2 回 夏休みの過ごし方の対話練習。
週末をどう過ごしたかについて対話練習
- 第 3 回 「ーですとも」の表現の練習。夏休みに行ったところやしたことを表す表現の練習
- 第 4 回 アクティビティ：インタビューを行い、夏休みの過ごし方を聞いて記録し、報告する。
第 8 課の語彙の練習
- 第 5 回 語彙の復習。連体形の作り方及び練習。
連体形を用いたフレーズの練習
- 第 6 回 「私の夢」をテーマに作文を行い、その訂正。
- 第 7 回 「ーすることができる」の表現。助詞「ーや」、「ーか」の練習。逆接の語尾「ーが」の練習
- 第 8 回 作文 (私の夢) の音読練習：発音、イントネーションなどの練習。
暗記して発表する
- 第 9 回 小テスト (筆記) を実施：過去形と連体形。文化紹介：秋夕について
- 第 10 回 小テスト (口頭) を実施：「私の夢」について発表。第 9 課の語彙の練習
- 第 11 回 語彙の練習。「ーしましょうか」の表現。誘う表現のパターン練習
- 第 12 回 趣味について短い対話練習。
ロールプレー：相手の都合を聞いて、遊びに誘ったり、提案したりする。
- 第 13 回 語彙の練習。「ーしてください」の表現。依頼の表現のパターン練習
- 第 14 回

今やりたいことについて短い対話練習。

アクティビティ：インタビューを行い、好きなことや時間があればしたいことなどを聞いて記録し、報告する

第 15 回 語彙の練習。「ーしに行く」の形式の作り方及び練習。「ーしても」の形式の作り方及び練習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

知識の定着をしっかりと確認したうえで、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で練習した語彙やその関連表現をさらに課題として覚えることになります。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

2回の小テスト(筆記と口頭)の平均点：50%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点 (授業参加度)：50%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『韓国語 初級でアクティビティ!』/金美華・金美仙/ことばの森/2017/9.791195009572E12/学内販売をしない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

大学書林 (語学学校) の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験 (韓国語) の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語Ⅳ 2016年度以前入学者

101247N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜4限 水曜4限

ー

15

週2コマ 「朝鮮語Ⅲ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

こと。

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 交流会や旅行した時に簡単な意思疎通ができます。
2. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

語彙やその関連表現を覚えることになります。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 味に関する表現の練習。好きな料理と苦手な料理を話し合う
- 第 2 回 「ーしたことがありますか」の表現のパターン練習。「どうぞーしてください」の表現のパターン練習
- 第 3 回 食べた韓国料理を紹介し合って、発表する。
アクティビティ：インタビューを行い、食べたことのある料理を聞いたり、勧めたりして、その内容を記録して報告する
- 第 4 回 小テスト (筆記) を実施：第8課と第9課の文法及び語彙と表現。文化紹介：韓国の家庭料理
- 第 5 回 小テスト (口頭) を実施：韓国料理について話し合い、一緒に食べに行く会話。
文化紹介：キムチとキムジャン
- 第 6 回 語彙の練習。準備動作を表す「ーして」の形式の作り方と練習。「ーすれば」の形式の作り方と練習
- 第 7 回 移動の仕方に関する表現の練習。移動先の位置を説明する表現の練習
- 第 8 回 「ーしなければ」の形式の作り方と練習。「ーしなければなりません」のパターン練習
- 第 9 回 ペアワーク：目的地を聞いて説明する。
アクティビティ：友達を家に招待し、自宅までの道順を説明する
- 第 10 回 語彙の練習。並列の「ーして」の形づくりと練習。変則用言の活用練習。
勧める表現のパターン練習
- 第 11 回

行きつけの店の特徴を説明する表現の練習。

行きつけの場所やお勧めの店を紹介する内容の作文を行い、訂正する

第 12 回 「ーしながら」の形式の作り方と練習。

習慣を表す表現の練習。

第 13 回 作文 (お勧めの店) の音読練習：

発音、イントネーションなどの練習及び暗記

第 14 回 小テスト (筆記) を実施。総復習。

文化紹介：韓国のお正月

第 15 回 小テスト (口頭) を実施：お勧めの店を発表。

文化紹介：韓国の学校制度

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

知識の定着をしっかりと確認したうえで、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で練習した語彙やその関連表現をさらに課題として覚えることになります。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テストの平均点：80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点 (授業参加度)：20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『韓国語 初級でアクティビティ!』/金美華・金美仙/ことばの森/2017/9.791195009572E12/学内販売をしない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

大学書林 (語学学校) の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験 (韓国語) の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語Ⅴ 2016年度以前入学者

101248N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 4限 水曜 4限

—

15

週2コマ 「朝鮮語Ⅳ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 総合的な能力において中級レベルに達する。
2. やさしい日常会話が可能な知識を学び、実践力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

豊富な語彙力をつける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスと初級の復習。第1課の語彙の練習
- 第 2 回 動詞の現在連体形と先行動作の「ーして」の作り方及び使い方の練習
- 第 3 回 刺身の食べ方を説明する練習。日韓の食べ方を話し合う。
- 第 4 回 第2課の語彙の練習。文法：動詞の過去連体形と「ーしたことがある/ない」
- 第 5 回 第2課の実践練習：韓国旅行の経験談を話し合う。
- 第 6 回 第3課 文法：動詞の未来連体形と「ーするつもりです」
- 第 7 回 実践練習：卒業後の予定について話し合う。
- 第 8 回 第4課 文法：形容詞・指定詞の現在連体形
- 第 9 回 実践練習：人物描写の言い方の練習。写真を見ながら説明しあう。
- 第 10 回 第5課 文法：「ーするのですが、ーするのに」
- 第 11 回 実践練習：お断りをしながら頼みことをする。
- 第 12 回 復習：第1課～第5課。テストを実施。電話の表現
- 第 13 回 第6課 不規則用言 (その1)。理由を表す表現
- 第 14 回 チゲの食べ方の助言を行う。
- 第 15 回 第7課 不規則用言 (その2)。義務を表す表現

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

用言の活用の体系をマスターするために、形の作り方及び文における使い方を丁寧にサポートしていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

単語のみならず連語単位の語彙を幅広く習得するための課題が出される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テストの平均点 80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点 (授業参加度) 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

朝鮮語Ⅳを受講しているか同じレベルの学習歴をもつこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『できる韓国語初級Ⅱ』(新装版)』/新大久保学院・李志暎・金鎮姫/DEKIRU出版/2016/978-4-87217-886-9/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

大学書林 (語学学校) の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験 (韓国語) の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語Ⅵ 2016年度以前入学者

101249N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 4限 水曜 4限

—

15

週2コマ 「朝鮮語Ⅴ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 総合的な能力において中級レベルに達する。
2. やさしい日常会話が可能な知識を学び、実践力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

豊富な語彙力をつける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 不規則用言 (その2)。義務を表す表現の復習。外国語の学習方法について話し合う。

第 2 回 第8課 不規則用言 (その3)。「一ために、一するため」の表現

第 3 回 実践会話：風邪と体調について話し合う。

第 4 回 第9課 不規則用言 (その4)。「一するじゃないですか」の表現

第 5 回 実践会話：血液型について話し合う。

第 6 回 第10課 不規則用言 (その5)。「一してみる」の表現

第 7 回 実践会話：色違いの服を選び、買い物をする

第 8 回 復習：第6課～第10課。テストを実施。着用に関する表現の練習。

第 9 回 第11課 リウル語幹用言の活用形。「意志・約束・決意」の言い方。

第 10 回 実践練習：ハンブルでEメールを書く練習

第 11 回 第12課 状態を表す「一している」。「一しないでください」の表現

第 12 回 実践会話：サイン会場で話し合う

第 13 回 第13課 推量と婉曲の言い方

第 14 回 実践会話：雨の日の外出に関して話し合う

第 15 回 総復習とテストを実施。天気に関する表現
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
用言の活用の体系をマスターするために、形の作り方及び文における使い方を丁寧にサポートしていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
単語のみならず連語単位の語彙を幅広く習得するための課題が出される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
小テストの平均点 80%
毎回の返却時に解説を行う。
平常点 (授業参加度) 20%

〔留意事項 (Other Information)〕
朝鮮語Ⅴを受講しているか同じレベルの学習歴をもつこと。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『できる韓国語初級Ⅱ』(新装版)/新大久保学院・李志暎・金鎮姫/DEKIRU出版/2016/978-4-87217-886-9/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
〈実践的科目〉
大学書林 (語学学校) の韓国語講師
東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師
大学入試センター試験 (韓国語) の解説書を書く。
ハンブル能力検定試験の採点
埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化
語学学校で使用される内部教材作成

海外研修 (語学) II a A 2017年度以降入学者

GBE1355A0J
大学
共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)
1年次 2年次 3年次
2単位 集中
その他
DP3 : 言語力
30
集中
東郷 多津 York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- (1) スピーキングを中心とした英語コミュニケーションスキルを習得し、短期間で英会話能力を向上させる。
- (2) オーストラリアの生活、文化、自然、歴史、社会事情等への理解を深め、オーストラリアの多文化社会を知る。
- (3) 海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。
- (4) オーストラリア人との交流やホームステイを通して 英語による日常生活の実際を体験する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) Communication Skills + α
シドニー大学のCentre for English Teachingが実施する一般英語コースで英語力向上のための授業を受講する。スピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの4技能とともに、単語、文法等を含め総合的に英語を学ぶ。オーストラリアをはじめ英語圏での生活に必要な英語力だけでなく、仕事で必要となる英語でのコミュニケーション力を身に付ける。また、場面や状況に応じて必要とされる語彙や表現について学ぶ。
- (2) Student Talks
オーストラリアの文化や歴史、自然など授業で学んだ範囲から、各個人にテーマが与えられる。そのテーマに沿って、研究し、まとめたものを英語で発表する。発表後、英語の発音の矯正、文法、慣用表現について先生よりフィードバックがあり、自身の英語を改善することにより、英語力をさらに高める。
- (3) 選択授業
リスニングとスピーキングに特化したクラスでは、テレビ番組や映画を英語で理解し、英語でディスカッションを行う。また、授業で学んだ内容等をさらに発展させ、理解を深める。また、日本人にとって苦手な発音について訓練し、より自然な英語の発音を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

(1) 海外研修日程（予定）

2020年2月15日（土）～3月8日（日）23日間

(2) シドニー大学（オーストラリア）

(3) 授業計画

シドニー大学にて3週間の授業を受講する。

英語研修：週平均20時間×3週間＝計60時間

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

①研修初日にプレースメントテストがあり、参加者の英語のレベルに応じたクラスに配属される。

②毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率はもとより、学習に対する努力度やグループディスカッション等に対する前向きな取り組み、英語による積極的な発言力を重視する。

③特に研修先大学での研修中は日本語を一切話さないようにする。

④研修中は全てのプログラムに出席する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

(1)英語の語彙数を増やしておくこと。

(2)旅行書やインターネット等でオーストラリア（シドニー）について事前知識を得ること（地理、大まかな歴史、文化等）。

(3)日本の文化を英語で伝えることができるように準備しておくこと。

(4)研修に行く前に、イメージンスペースや会話の授業など学内で英語を話す機会を設けること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度、授業態度、課題、発表等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時にシドニー大学より授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項（Other Information）〕

(1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。

(2) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーションに必ず出席すること。

(3) 最少催行人員数に達した場合は、往路と帰路に本学教職員またはJTB京都支店から添乗員が同行する。現地滞在中は、シドニー大学の担当者が引率者に代わって緊急時の対応にあたる。

(4) 受講者が最少催行人数（10名）に達しない場合、1名からの個人参加も可能であるが、この場合は引率が同行しない。

(5) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

海外研修（語学）II b A 2017年度以降入学者

GBE1356A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP3：言語力

30

集中

東郷 多津 York Weatherford

〔科目の教育目標（Course Description）〕

(1) 英会話を中心としたコミュニケーションスキルと総合的な英語運用能力を向上させる。特に英語を聴く力、話す力を伸ばすことに重点をおく。

(2) イギリスの生活、文化、歴史、社会事情等の理解を深める。

(3) 海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身につける。

(4) イギリスの大学におけるキャンパスライフを通して、英国人学生や他国からの留学生との交流を深める。

(5) イギリス人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1) Core Language Lessons

カンタベリークライストチャーチ大学が実施する一般英語コースで英語力向上のための授業を受講する。授業初日に行われる英語プレースメントテストによりレベル別クラスに分けられ、授業が行われる。

テキストを使用し、正しい英文法を身につける。またその英文法を日常英会話の中で運用できるようにスピーキングやリスニングの時間も組み込まれている。毎日の授業で宿題が出るので必ず提出することが求められる。

(2) Presentation

イギリスの文化、演説、ニュース等のトピックを通して、英語で自信を持って話すことを目指す。各自でテーマを設定して研究し、研修の最後に口頭発表を行う。

(3) Language Skills

各自の興味や関心に基づいて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの中から学びたいものを選んで学ぶことができる。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

(1) 海外研修日程（予定）

2019年8月18日（日）～9月8日（日）22日間

(2) 研修先大学 カンタベリークライストチャーチ大学（イギリス）

(3) 授業計画

カンタベリークライストチャーチ大学にて3週間の授業を受講する。

英語研修：週平均約21時間×3週間＝計63時間

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

①研修初日にプレースメントテストがあり、参加者の英語のレベルに応じたクラスに配属される。

②毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率はもとより、学習に対する努力度やグループディスカッション等に対する前向きな取り組み、英語による積極的な発言力を重視する。

③特に研修先大学での研修中は日本語を一切話さないようにする。

④研修中は全てのプログラムに出席する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

(1)英語の語彙数を増やしておくこと。

(2)旅行書やインターネット等でイギリスについて事前知識を得ること（地理、大まかな歴史、文化等）。

(3)日本の文化を英語で伝えることができるように準備しておくこと。

(4)研修に行く前に、イマージョンスペースや会話の授業など学内で英語を話す機会を設けること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度、授業態度、課題、発表等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時にカンタベリークライストチャーチ大学より授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項（Other Information）〕

(1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。

(2) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーションに必ず出席すること。

(3) 最少催行人員数に達した場合は、往路と帰路に本学教職員またはJTB京都支店から添乗員が同行する。現地滞在中は、カンタベリークライストチャーチ大学の担当者が引率者に代わって緊急時の対応にあたる。

(4) 受講者が最少催行人数（10名）に達しない場合、1名からの個人参加も可能であるが、この場合は引率が同行しない。

(5) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

(6) 本研修は本学の定期試験と重なる可能性があるため、各自が定期試験を終えてから出発するものとする。本研修

の日程が本学の定期試験(前期)と重なる場合は、所定の手続きにより教務課に申請すれば追試験が認められる。その場合は、定期試験日程がわかり次第、教務課にて追試験の手続きを行うこと。レポート提出については、提出期限が海外研修と重なる場合でも、海外研修出発以前に提出しなければならない。また、補講と重なる場合も教務課で手続きを行うこと。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

海外研修（語学）Ⅱ b B 2017年度以降入学者

GBE1356BJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP3：言語力

30

集中

東郷 多津 York Weatherford

〔科目の教育目標（Course Description）〕

(1)英会話を中心とした英語コミュニケーションスキルを磨き、総合的な英語運用能力を向上させる。

(2)カナダの生活、文化、自然、歴史、社会事情等の理解を深める。

(3)海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身につける。

(4)カナダ人学生との交流やホームステイを通して海外での日常生活の実際を体験する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1)English for Effective Communication

トロント大学が実施する英語集中コースのレベル別クラスで学ぶ。どのクラスにおいても、話す力、聴く力に重点をおいた総合的なコミュニケーション技法、発音、語彙力を向上させる。また、実践的で正確なスピーキングとライティング能力を身につける。

(2)“Fluency Fridays”

テーマ別にディスカッションを通して、どれくらい自信を持ってコミュニケーションできるかや、流暢さも含め1週間の学習成果を確認する。

(3)Intercultural Communication

週に1度、小グループに分かれてグループリーダーの指導のもと、リラックスした状況で会話練習やディスカッションを行なう。ネイティブスピーカーとの会話を通して自然な英語の発話に慣れ、多様な国籍を持つ学生の考え方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

(1) 海外研修日程 (予定)

2019年8月5日 (月)～9月1日 (日) 28日間

(2) 研修先大学 トロント大学 (カナダ)

(3) 授業計画

トロント大学にて4週間の授業を受講する (1日平均4時間×20日間=計80時間)。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①研修初日にプレースメントテストがあり、参加者の英語のレベルに応じたクラスに配属される。

②毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率のもとより、学習に対する努力度やグループディスカッション等に対する前向きな取り組み、英語による積極的な発言力を重視する。

③特に研修先大学での研修中は日本語を一切話さないようにする。

④研修中は全てのプログラムに出席する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

(1) 英語の語彙数を増やしておくこと。

(2) 旅行書やインターネット等でカナダ (トロント) について事前知識を得ること (地理、大まかな歴史、文化等)。

(3) 日本の文化を英語で伝えることができるように準備しておくこと。

(4) 研修に行く前に、イマージョンスペースや会話の授業など学内で英語を話す機会を設けること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研修先大学での授業参加度、授業態度、課題、発表等に基づいて総合的に評価する。研修終了時にトロント大学より授与される「修了証書」を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

(1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。

(2) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーションに必ず出席すること。

(3) 本研修は、個人参加型研修である。1名から参加可能であるが、引率は同行しない。

(4) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

(5) 本研修は本学の定期試験と重なる可能性があるため、各自が定期試験を終えてから出発するものとする。本研修の日程が本学の定期試験(前期)と重なる場合は、所定の手続きにより教務課に申請すれば追試験が認められる。その場合

は、定期試験日程がわかり次第、教務課にて追試験の手続きを行うこと。レポート提出については、提出期限が海外研修と重なる場合でも、海外研修出発以前に提出しなければならない。また、補講と重なる場合も教務課で手続きを行うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

やさしいビジネス英会話 A

GBE2302A0E

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次

1単位 後期

木曜 3限

DP3 : 言語力

15

Eric Hail

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation

第 2 回 Unit 7- Reasons

第 3 回 Unit 7- Reasons

第 4 回 Unit 8 - History

第 5 回 Unit 8 - History

第 6 回 Unit 9 - Comforts

第 7 回 Unit 9 - Comforts

第 8 回 Unit 10 - Adventure

第 9 回 Unit 10 - Adventure

第 10 回 Unit 11 - Learning

第 11 回 Unit 11 - Learning

第 12 回 Unit 12 - Activities

第 13 回 Unit 12 - Activities

第 14 回 Unit 12 - Activities

第 15 回 English Workshop

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

0

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class Participation and Behavior 100%

〔留意事項 (Other Information)〕

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Wide Angle 1, Jennifer Carlson, Oxford University Press, 978 0 19 452860 3

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫trained and experienced EFL professional

やさしいビジネス英会話 B

GBE2302B0E

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

木曜 3限

DP3 : 言語力

15

Eric Hail

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will

include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation

第 2 回 Unit 1 - Self

第 3 回 Unit 1 - Self

第 4 回 Unit 2 - Things

第 5 回 Unit 2 - Things

第 6 回 Unit 3 - Places

第 7 回 Unit 3 - Places

第 8 回 Unit 4 - Life

第 9 回 Unit 4 - Life

第 10 回 Unit 5 - Travel

第 11 回 Unit 5 - Travel

第 12 回 Unit 6 - Skills

第 13 回 Unit 6 - Skills

第 14 回 Unit 6 - Skills

第 15 回 English Workshop

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

0

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class Participation and Behavior 100%

〔留意事項 (Other Information)〕

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Wide Angle 1, Jennifer Carlson, Oxford University Press, 978 0 19 452860 3

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
 ≪実践的科目≫trained and experienced EFL professional

コリア語ⅠA 2017年度以降入学者

GBF1303A0J

大学
 共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次
 2単位 前期
 月曜1限 水曜2限
 DP3: 言語力
 30
 週2コマ
 金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりとつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。
3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

主に語彙を覚えることとなります。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ハングルの成り立ちと歴史的背景
 ハングル文字の仕組み
 母音字母 (1)
 挨拶のことば
- 第 2 回 子音字母 (1)
 字母 (1) による語彙の練習
 仮名のハングル表記
 挨拶のことば
- 第 3 回 母音字母 (2) と子音字母 (2)
 字母 (2) による語彙の練習
 挨拶のことば
- 第 4 回 終声・パッチムのある文字と語彙の練習
 発音の規則(1): 連音化
 挨拶のことば
- 第 5 回 小テスト: 文字と発音
 第 1 課
 語彙の練習
 「一です(か)」の表現
- 第 6 回 語彙の練習。名前や身分、学年などを言う
- 第 7 回 語彙の練習。助詞「一は」と「一が」
 聞き返しの「一ですか」
- 第 8 回 語彙の練習。専攻、住まい、出身を言う練習。
 アクティビティ: インタビューを行い、名前や身分出身などを聞いて記録し、報告する

- 第 9 回 語彙の練習。発音の規則(2): 激音化と濃音化。
 助詞「一に」「一と」「一も」
- 第 10 回 語彙の練習。発音の規則(3): /h/ の脱落及び弱化。
 住まいを聞き合う: 「一に住んでいます(か)」
- 第 11 回 語彙の練習。存在の表現: 「一います(か)/一あります(か)」の練習
- 第 12 回 存在の表現の練習。
 アクティビティ: インタビューを行い、住まいや家族構成を聞いて記録し、報告する
- 第 13 回 小テスト (筆記) を実施。
 復習: 自己紹介と家族紹介。漢数詞の練習
- 第 14 回 小テスト (口頭) を実施: 自己紹介・家族紹介。
 文化紹介: 韓国の家庭
- 第 15 回 語彙の練習。漢数詞と助数詞の練習
- 第 16 回 助数詞の練習。一日の時間割や予定を言う。
- 第 17 回 語彙の練習。「一します」の表現 (1)。助詞「一を」
- 第 18 回 週末及び一週間の過ごし方を言う。
 アクティビティ: 一週間の過ごし方を、最も忙しい日と暇な日を言い分けて話し合う。
- 第 19 回 小テスト (筆記) を実施。
 復習: 一週間の過ごし方。漢数詞とその活用
- 第 20 回 小テスト (口頭) を実施: 一週間の過ごし方。文化紹介: 韓国の祝日及び記念日
- 第 21 回 語彙の練習。固有数詞と個数の数え方
- 第 22 回 数字の言い方の練習。お金及び値段交渉の言い方
- 第 23 回 語彙の練習。買い物に使われる表現の練習
- 第 24 回 アクティビティ: 買い物のロールプレーを行い、報告し合う。第 5 課の語彙の予習
- 第 25 回 「一します」の表現 (2)。助詞: 手段の「一で」。
 語尾「一でしょ?」の練習。
 移動の手段及びかかる時間を表す表現「一まで一で行く」と「一分かかります」の練習
- 第 26 回 アクティビティ: インタビューを行い、通学の手段と時間を聞いて記録し、報告する。
 第 6 課の語彙の予習。希望の表現「一したい」の練習
- 第 27 回 理由を表す語尾「一するから」。予定を表す表現「一するつもりだ」。希望の表現「一してみたい」
- 第 28 回 近い未来の予定を言う。
 誘ったり、勧めたりする練習。
 アクティビティ: インタビューを行い、夏休みの予定を聞いて記録し、報告する
- 第 29 回 復習: 第 5 課と第 6 課。文化紹介: 夏バテ防止の韓国料理
- 第 30 回 小テスト (口頭) を実施: 移動の手段及びかかる時間と夏休みの予定。
 総復習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するように丁寧にサポートします。

さらに、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第2外国語の学習の場合、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テストの平均点：80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点 (授業参加度)：20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『韓国語 初級でアクティビティ!』/金美仙金美華・/ことばの森/2017/979-11-950095-7-2/0学内販売しない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」

大学書林 (語学学校) の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験 (韓国語) の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

コリア語ⅠB 2017年度以降入学者

GBF1303BOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

月曜2限 水曜1限

DP3：言語力

30

週2コマ

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりとつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。
3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

主に語彙を覚えることになります。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ハングルの成り立ちと歴史的背景
ハングル文字の仕組み
母音字母 (1)
挨拶のことば
- 第 2 回 子音字母 (1)
字母 (1) による語彙の練習
仮名のハングル表記
挨拶のことば
- 第 3 回 母音字母 (2) と子音字母 (2)
字母 (2) による語彙の練習
挨拶のことば
- 第 4 回 終声・パッチムのある文字と語彙の練習
発音の規則(1)：連音化
挨拶のことば
- 第 5 回 小テスト：文字と発音
第 1 課
語彙の練習
「一ですか」の表現
- 第 6 回 語彙の練習。名前や身分、学年などを言う
- 第 7 回 語彙の練習。助詞「一は」と「一が」
聞き返しの「一ですか」
- 第 8 回 語彙の練習。専攻・住まい・出身を言う練習。
アクティビティ：インタビューを行い、名前や身分出身などを聞いて記録し、報告する
- 第 9 回 語彙の練習。発音の規則(2)：激音化と濃音化。
助詞「一に」「一と」「一も」
- 第 10 回 語彙の練習。発音の規則(3)：/h/の脱落及び弱化。
住まいを聞き合う：「一に住んでいますか」
- 第 11 回 語彙の練習。存在の表現：「一いますか/ありますか」の練習
- 第 12 回 存在の表現の練習。
アクティビティ：インタビューを行い、住まいや家族構成を聞いて記録し、報告する
- 第 13 回 小テスト (筆記) を実施。
復習：自己紹介と家族紹介。漢数詞の練習
- 第 14 回 小テスト (口頭) を実施：自己紹介・家族紹介。
文化紹介：韓国の家庭
- 第 15 回 語彙の練習。漢数詞と助数詞の練習
- 第 16 回 助数詞の練習。一日の時間割や予定を言う。
- 第 17 回 語彙の練習。「一します」の表現 (1)。助詞「一を」
- 第 18 回 週末及び一週間の過ごし方を言う。
アクティビティ：一週間の過ごし方を、最も忙しい日と暇な日を言い分けて話し合う。
- 第 19 回 小テスト (筆記) を実施。
復習：一週間の過ごし方。漢数詞とその活用
- 第 20 回 小テスト (口頭) を実施：一週間の過ごし方。文化紹介：韓国の祝日及び記念日

- 第 21 回 語彙の練習。固有数詞と個数の数え方
 第 22 回 数字の言い方の練習。お金及び値段交渉の言い方
 第 23 回 語彙の練習。買い物に使われる表現の練習
 第 24 回 アクティビティ：買い物のロールプレーを行い、報告し合う。第5課の語彙の予習
 第 25 回 「ーします」の表現（2）。助詞：手段の「ーで」。語尾「ーでしょ？」の練習。
 移動の手段及びかかる時間を表す表現「ーまでーで行く」と「ー分かかります」の練習
 第 26 回 アクティビティ：インタビューを行い、通学の手
 段と時間を聞いて記録し、報告する。
 第6課の語彙の予習。希望の表現「ーしたい」の練習
 第 27 回 理由を表す語尾「ーするから」。予定を表す表現「ーするつもりだ」。希望の表現「ーしてみたい」
 第 28 回 近い未来の予定を言う。
 誘ったり、勧めたりする練習。
 アクティビティ：インタビューを行い、夏休みの予定を聞いて記録し、報告する
 第 29 回 復習：第5課と第6課。文化紹介：夏バテ防止の韓国料理
 第 30 回 小テスト（口頭）を実施：移動の手段及びかかる時間と夏休みの予定。
 総復習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するように丁寧にサポートします。

さらに、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

小テストの平均点：80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点（授業参加度）：20%

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『韓国語 初級でアクティビティ！』/金美仙金美華・/ことばの森/2017/979-11-950095-7-2/0学内販売しない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

大学書林（語学学校）の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験（韓国語）の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

コリア語ⅠC 2017年度以降入学者

GBF1303C0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次

2単位 後期

月曜 3限 水曜 3限

DP3：言語力

30

週2コマ

金 美仙

〔科目の教育目標（Course Description）〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりとつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。
3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

主に語彙を覚えることとなります。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 ハングルの成り立ちと歴史的背景

ハングル文字の仕組み

母音字母（1）

挨拶のことば

第 2 回 子音字母（1）

字母（1）による語彙の練習

仮名のハングル表記

挨拶のことば

第 3 回 母音字母（2）と子音字母（2）

字母（2）による語彙の練習

挨拶のことば

第 4 回 終声・パッチムのある文字と語彙の練習

発音の規則(1)：連音化

挨拶のことば

第 5 回 小テスト：文字と発音

第1課

- 語彙の練習
「一です(か)」の表現
- 第 6 回 語彙の練習。名前や身分、学年などを言う
- 第 7 回 語彙の練習。助詞「一は」と「一が」
聞き返しの「一ですか」
- 第 8 回 語彙の練習。専攻、住まい、出身を言う練習。
アクティビティ：インタビューを行い、名前や身分出身などを聞いて記録し、報告する
- 第 9 回 語彙の練習。発音の規則(2)：激音化と濃音化。
助詞「一に」「一と」「一も」
- 第 10 回 語彙の練習。発音の規則(3)：/h/の脱落及び弱化。
住まいを聞き合う：「一に住んでいます(か)」
- 第 11 回 語彙の練習。存在の表現：「一います(か)/一あります(か)」の練習
- 第 12 回 存在の表現の練習。
アクティビティ：インタビューを行い、住まいや家族構成を聞いて記録し、報告する
- 第 13 回 小テスト(筆記)を実施。
復習：自己紹介と家族紹介。漢数詞の練習
- 第 14 回 小テスト(口頭)を実施：自己紹介・家族紹介。
文化紹介：韓国の家庭
- 第 15 回 語彙の練習。漢数詞と助数詞の練習
- 第 16 回 助数詞の練習。一日の時間割や予定を言う。
- 第 17 回 語彙の練習。「一します」の表現(1)。助詞「一を」
- 第 18 回 週末及び一週間の過ごし方を言う。
アクティビティ：一週間の過ごし方を、最も忙しい日と暇な日を言い分けて話し合う。
- 第 19 回 小テスト(筆記)を実施。
復習：一週間の過ごし方。漢数詞とその活用
- 第 20 回 小テスト(口頭)を実施：一週間の過ごし方。文化紹介：韓国の祝日及び記念日
- 第 21 回 語彙の練習。固有数詞と個数の数え方
- 第 22 回 数字の言い方の練習。お金及び値段交渉の言い方
- 第 23 回 語彙の練習。買い物に使われる表現の練習
- 第 24 回 アクティビティ：買い物のロールプレーを行い、報告し合う。第5課の語彙の予習
- 第 25 回 「一します」の表現(2)。助詞：手段の「一で」。
語尾「一でしょ?」の練習。
移動の手段及びかかる時間を表す表現「一まで一で行く」と「一分かかります」の練習
- 第 26 回 アクティビティ：インタビューを行い、通学の手
段と時間を聞いて記録し、報告する。
第6課の語彙の予習。希望の表現「一したい」の
練習
- 第 27 回 理由を表す語尾「一するから」。予定を表す表現
「一するつもりだ」。希望の表現「一してみたい」
- 第 28 回 近い未来の予定を言う。
誘ったり、勧めたりする練習。
アクティビティ：インタビューを行い、夏休みの
予定を聞いて記録し、報告する
- 第 29 回 復習：第5課と第6課。文化紹介：夏バテ防止の韓
国料理
- 第 30 回

小テスト(口頭)を実施：移動の手段及びかかる
時間と夏休みの予定。

総復習

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するように丁寧にサポートします。

さらに、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビ
ティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。授業で語彙を覚える作業をある程度サポートし、さらに課題として覚えることとなります。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

10

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

小テストの平均点：80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点(授業参加度)：20%

〔留意事項(Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『韓国語 初級でアクティビティ!』/金美仙金美華・/ことばの森/2017/979-11-950095-7-2/0学内販売しない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

大学書林(語学学校)の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験(韓国語)の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

コリア語Ⅱ 2017年度以降入学者

GBF1353NOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

月曜4限 水曜4限

DP3: 言語力

30

週2コマ 「コリア語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

【科目の教育目標 (Course Description)】

1. 交流会や旅行した時に簡単な意思疎通ができます。
2. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

語彙やその関連表現を覚えることになります。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

- 第 1 回 復習及びガイダンス。
語彙の練習。過去形の作り方及び練習
- 第 2 回 夏休みの過ごし方の対話練習。
週末をどう過ごしたかについて対話練習
- 第 3 回 「一ですとも」の表現の練習。夏休みに行ったところやしたことを表す表現の練習
- 第 4 回 アクティビティ：インタビューを行い、夏休みの過ごし方を聞いて記録し、報告する。
第 8 課の語彙の練習
- 第 5 回 語彙の復習。連体形の作り方及び練習。
連体形を用いたフレーズの練習
- 第 6 回 「私の夢」をテーマに作文を行い、その訂正。
- 第 7 回 「一することができる」の表現。助詞「一や」、「一か」の練習。逆接の語尾「一が」の練習
- 第 8 回 作文 (私の夢) の音読練習：発音、イントネーションなどの練習。
暗記して発表する
- 第 9 回 小テスト (筆記) を実施：過去形と連体形。文化紹介：秋夕について
- 第 10 回 小テスト (口頭) を実施：「私の夢」について発表。第 9 課の語彙の練習
- 第 11 回 語彙の練習。「一しましょうか」の表現。誘う表現のパターン練習
- 第 12 回 趣味について短い対話練習。
ロールプレー：相手の都合を聞いて、遊びに誘ったり、提案したりする。
- 第 13 回 語彙の練習。「一してください」の表現。依頼の表現のパターン練習
- 第 14 回

今やりたいことについて短い対話練習。

アクティビティ：インタビューを行い、好きなことや時間があればしたいことなどを聞いて記録し、報告する

- 第 15 回 語彙の練習。「一しに行く」の形式の作り方及び練習。「一しても」の形式の作り方及び練習
- 第 16 回 味に関する表現の練習。好きな料理と苦手な料理を話し合う
- 第 17 回 「一したことがありますか」の表現のパターン練習。「どうぞ一してください」の表現のパターン練習
- 第 18 回 食べた韓国料理を紹介し合って、発表する。
アクティビティ：インタビューを行い、食べたことのある料理を聞いたり、勧めたりして、その内容を記録して報告する
- 第 19 回 小テスト (筆記) を実施：第 8 課と第 9 課の文法及び語彙と表現。文化紹介：韓国の家庭料理
- 第 20 回 小テスト (口頭) を実施：韓国料理について話し合い、一緒に食べに行く会話。
文化紹介：キムチとキムジャン
- 第 21 回 語彙の練習。準備動作を表す「一して」の形式の作り方と練習。「一すれば」の形式の作り方と練習
- 第 22 回 移動の仕方に関する表現の練習。移動先の位置を説明する表現の練習
- 第 23 回 「一しなければ」の形式の作り方と練習。「一しなければなりません」のパターン練習
- 第 24 回 ペアワーク：目的地を聞いて説明する。
アクティビティ：友達を家に招待し、自宅までの道順を説明する
- 第 25 回 語彙の練習。並列の「一して」の形づくりと練習。変則用言の活用練習。
勧める表現のパターン練習
- 第 26 回 行きつけの店の特徴を説明する表現の練習。
行きつけの場所やお勧めの店を紹介する内容の作文を行い、訂正する
- 第 27 回 「一しながら」の形式の作り方と練習。
習慣を表す表現の練習。
- 第 28 回 作文 (お勧めの店) の音読練習：
発音、イントネーションなどの練習及び暗記
- 第 29 回 小テスト (筆記) を実施。総復習。
文化紹介：韓国のお正月
- 第 30 回 小テスト (口頭) を実施：お勧めの店を発表。
文化紹介：韓国の学校制度
- 【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】
実施しない
- 【教育・学習の方法 (Course Methods)】
知識の定着をしっかりと確認したうえで、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。
- 【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】
授業で練習した語彙やその関連表現をさらに課題として覚えることになります。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テストの平均点：80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点 (授業参加度)：20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『韓国語 初級でアクティビティ!』/金美華・金美仙/ことばの森/2017/979-11-950095-7-2/0学内販売しない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

大学書林 (語学学校) の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験 (韓国語) の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

海外研修 (語学) | 2017年度以降入学者

GBF1354N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP3：言語力

30

集中

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

(1)韓国語 (初級～中級) の会話を中心とした集中語学研修を通して、基本的な韓国語会話やコミュニケーションができる語学力を磨く。特に韓国語を聴く力、話す力を伸ばすことに重点をおく。

(2)韓国の文化、韓国の生活様式、社会事情等への理解を深める。

(3)海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野、自立した生活態度を身に付ける。

(4)韓国の大学におけるキャンパスライフを通して、韓国人学生との交流を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)韓国語授業

1日4時間の韓国語授業を受講し短期間で集中的に聴く、話す、読む、書く能力を総合的に磨き、日常生活に必要な実用的な会話を習得する。

(2)韓国文化研修

韓国文化を学ぶための体験授業があり、韓国の工芸、料理、映画等をはじめ、韓国の伝統芸能に触れるフィールドワークが実施される。

(3)韓国人学生との会話練習

韓国カトリック大学の学生がチューターとなり韓国語の発音や会話訓練を行う。また、クラブ活動や文化活動を通して韓国語を実際に使う機会を設ける。

(4)実地見学

週1回はキャンパスを離れて実地見学を行う。朝鮮王朝の宮殿である景福宮やテレビ局等を訪ね、韓国の歴史や文化を実地に見学する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1)海外研修日程 (予定)

平成31年8月4日 (日)～8月18日 (日) 15日間

(2)研修先大学 韓国カトリック大学 (私立)

(3)研修スケジュール (予定) 下表のとおり。

(4)授業計画

韓国カトリック大学にて2週間の研修を合計60時間受講する。

①韓国語：計32時間

②韓国文化見学・実習：計17時間

③文化交流：計11時間

(5)学習方法

①現地到着後にプレースメントテストを行い、各自の韓国語レベルに応じてクラス編成が行われる。

②毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率のもとより、学習に対する努力度や韓国語による積極的な発言が重視される。

③韓国人学生や他大学からの学生との交流活動には積極的に参加し、韓国語で会話する。

④時間を厳守し、遅刻、欠席をしないようにする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

(1)韓国語に少しでも触れておくこと。

(2)旅行書やインターネット等で韓国について事前知識を得ること (地理、大まかな歴史、文化等)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、授業態度、課題、発表、テスト等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時に韓国カトリック大学より授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

(1)研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。

(2)韓国カトリック大学が実施するプログラムに参加するため、初級程度の韓国語の知識が必要となる。また、欠席や遅刻過多の場合は、プログラム修了が認められず、単位が認定されない場合がある。

(3)研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、参加者の前期定期試験の終了日程、現地受入機関や交通機関などの都合により変更になることがある。

(4)研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション(6月25日(火)予定)に必ず出席すること。

(5)本研修は、個別参加の形態をとるため、1名から参加可能であるが、引率者は同行しない。

(6)本研修は本学の定期試験と重なる可能性があるため、各自が定期試験を終えてから出発するものとする。本研修の日程が本学の定期試験(前期)と重なる場合は、所定の手続きにより教務課に申請すれば追試験が認められる。その場合は、定期試験日程がわかり次第、教務課にて追試験の手続きを行うこと。レポート提出については、提出期限が海外研修と重なる場合でも、海外研修出発以前に提出しなければならない。また、補講と重なる場合も教務課で手続きを行うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶

コリア語Ⅲ 2017年度以降入学者

GBF2301N0J
大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

月曜4限 水曜4限

DP3: 言語力

30

週2コマ 「コリア語II」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 総合的な能力において中級レベルに達する。
2. やさしい日常会話が可能な知識を学び、実践力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

豊富な語彙力をつける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスと初級の復習。第1課の語彙の練習。
 - 第 2 回 動詞の現在連体形と先行動作の「ーして」の作り方及び使い方の練習
 - 第 3 回 刺身の食べ方を説明する練習。日韓の食べ方を話し合う。
 - 第 4 回 第2課の語彙の練習。文法：動詞の過去連体形と「ーしたことがある/ない」
 - 第 5 回 実践練習：韓国旅行の体験を話し合う。
 - 第 6 回 第3課 文法：動詞の未来連体形と「ーするつもりです」
 - 第 7 回 実戦練習：卒業後の予定について話し合う。
 - 第 8 回 第4課 文法：形容詞・指定詞の現在連体形
 - 第 9 回 実践練習：人物描写の言い方の練習。写真を見ながら説明し合う。
 - 第 10 回 第5課 文法：「ーするのですが、ーするのに」
 - 第 11 回 実践練習：お断りをしながら頼みことをする。
 - 第 12 回 復習：第1課～第5課。テストを実施。電話の表現
 - 第 13 回 第6課 不規則用言 (その1)。理由を表す表現
 - 第 14 回 実践会話：チゲの食べ方の助言を行う。
 - 第 15 回 第7課 不規則用言 (その2)。義務を表す表現
 - 第 16 回 実践会話：外国語の学習方法について話し合う。
 - 第 17 回 第8課 不規則用言 (その3)。「ーために、ーするため」の表現
 - 第 18 回 実践会話：風邪と体調について話し合う。
 - 第 19 回 第9課 不規則用言 (その4)。「ーするじゃないですか」の表現
 - 第 20 回 実践会話：血液型について話し合う。
 - 第 21 回 第10課 不規則用言 (その5)。「ーしてみる」の表現。
 - 第 22 回 実践会話：色違いの服を選び、買い物をする。
 - 第 23 回 復習：第6課～第10課。テストを実施。着用に關する表現の練習
 - 第 24 回 第11課 リウル語幹用言の活用形。「意志・約束・決意」の言い方
 - 第 25 回 実践練習：ハングルでEメールを書く練習
 - 第 26 回 第12課 状態を表す「ーしている」。「ーしないでください」の表現
 - 第 27 回 実践会話：サイン会場で話し合う。
 - 第 28 回 第13課 推量と婉曲の言い方
 - 第 29 回 雨の日の外出に関する会話。
 - 第 30 回 総復習とテストを実施。天気に関する表現
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- 用言の活用の体系をマスターするために、形の作り方及び文における使い方を丁寧にサポートしていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

単語のみならず連語単位の語彙を幅広く習得するための課題が出される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テストの平均点 80%

毎回の返却時に解説を行う。

平常点 (授業参加度) 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

코리아語 I と II を受講しているか同レベルの学習歴をもつこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『できる韓国語初級Ⅱ』(新装版) / 新大久保学院・李志暎・金鎮姫/DEKIRU出版/2016/978-4-87217-886-9/1

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

大学書林(語学学校)の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験(韓国語)の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演: 韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

ホスピタリティ入門A

GCP1500A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

水曜3限

DP5: 共生・協働する力

60

英語英文学科はCクラスを履修すること

岩田 真理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・「ホスピタリティ」を考察する中で、人として大切なことについても学ぶ。

・文字面だけで理解するのではなく、授業態度も含め、日常生活でのホスピタリティを体得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
ーホスピタリティへのアプローチ ホスピタリティの概念を理解する。本講座で取り上げるホスピタリティへのアプローチの方法を理解する。
- 第 2 回 ホスピタリティとは
一言葉からのアプローチ 「ホスピタリティ」の語源からアプローチする。ホスピタリティの定義とはどのようなものであるのかを考察する。
- 第 3 回 ホスピタリティと人間
一人間の感情とホスピタリティー ホスピタリティを提供する動物としての人間の存在からホスピタリティを紐解いていく試みをする。
- 第 4 回 ホスピタリティと文化①
ー文化・感情表現・地域のおもてなしー ホスピタリティの表出の仕方,感じ方などに文化や時代による違いなど,地域や文化・文明による差異を考察してみる。
- 第 5 回 ホスピタリティと文化②
ー歴史とホスピタリティー ホスピタリティの歴史を考察する。時代の変遷と社会の変遷においてなにか変わりがあるのかないのかを考察する。
- 第 6 回 ホスピタリティと産業①
ー産業構造の変化とホスピタリティの重要性ー サービス産業,ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。
- 第 7 回 ホスピタリティと産業②
ー産業・社会の変化とホスピタリティを考えるー ホスピタリティ産業の変化を予測し,社会の変化にともなってホスピタリティ産業というものの変化を推測してみる。
- 第 8 回 ホスピタリティと産業③
ーエアラインにおけるホスピタリティー 航空機を運航する商品とはどのような特徴があるのかを考える。実際のエアライン (ANA) をモデルとして考えてみる。
- 第 9 回 ホスピタリティとチームワーク
・企業や地域社会などでチームワークがなぜ必要なのかを理解する。
・チームでホスピタリティを相手に伝えるにはどのような連携が必要なのかを理解する。
- 第 10 回 ホスピタリティとコミュニケーション
ホスピタリティとコミュニケーションの関係を理解する。
相手に与える印象はどのような要素で決まるのかを理解する。
- 第 11 回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ
ホスピタリティを相手に伝えるための具体的なコミュニケーション方法について解説する。

- 第 12 回 ホスピタリティと観光産業①
観光産業で発揮されるホスピタリティの重要性を
考える。
- 第 13 回 ホスピタリティと観光産業②
旅行者の満足とはどのようなものかを考える
- 第 14 回 ホスピタリティと観光産業③
観光および航空輸送に焦点をあてて演習を組み込
みながら観光客に対するホスピタリティを考え
る。

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポ
ート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テ
ーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。
毎回、小レポートによりホスピタリティを考察する。授業
中の発問と学生の解答に対して、適宜高等でフィードバ
ックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で配布される資料をよく理解し、次週のテーマに関連
性を持たせ考察してくる。日常生活でホスピタリティを出
来ただけ実践する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (30%)、小レポート (20%)、確認テ
スト (50%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすす
める。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間
を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。そ
の後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

ホスピタリティ入門B

GCP1500B0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

水曜3限

DP5: 共生・協働する力

60

英語英文学科はCクラスを履修すること

岩田 真理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究す
る。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り
上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリ
ティ」について考え表現できることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・「ホスピタリティ」を考察する中で、人として大切なこ
とについても学ぶ。

・文字面だけで理解するのではなく、授業態度も含め、日
常生活でのホスピタリティを体得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

ーホスピタリティへのアプローチ ホスピタ
リティの概念を理解する。本講座で取り上げるホス
ピタリティへのアプローチの方法を理解する。

第 2 回 ホスピタリティとは

ー言葉からのアプローチ 「ホスピタリティ」
の語源からアプローチする。ホスピタリティの定
義とはどのようなものであるのかを考察する。

第 3 回 ホスピタリティと人間

ー人間の感情とホスピタリティー ホスピタリ
ティを提供する動物としての人間の存在からホス
ピタリティを紐解いていく試みをする。

第 4 回 ホスピタリティと文化①

ー文化・感情表現・地域のおもてなしー ホス
ピタリティの表出の仕方,感じ方などに文化や時代
による違いなど,地域や文化・文明による差異を
考察してみる。

第 5 回 ホスピタリティと文化②

ー歴史とホスピタリティー ホスピタリティの歴
史を考察する。時代の変遷と社会の変遷におい
てなにか変わりがあるのかないのかを考察する。

第 6 回 ホスピタリティと産業①

ー産業構造の変化とホスピタリティの重要性ー サ
ービス産業,ホスピタリティ産業が求められる時
代背景を産業構造の変化を追いながら考える。

第 7 回 ホスピタリティと産業②

一産業・社会の変化とホスピタリティを考える一
ホスピタリティ産業の変化を予測し、社会の変化
にともなってホスピタリティ産業というものの変
化を推測してみる。

- 第 8 回 ホスピタリティと産業③
一エアラインにおけるホスピタリティー 航
空機を運航する商品とはどのような特徴があるの
かを考える。実際のエアライン (ANA) をモデル
として考えてみる。
- 第 9 回 ホスピタリティとチームワーク
#NAME?
- 第 10 回 ホスピタリティとコミュニケーション
#NAME?
- 第 11 回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ
ホスピタリティを相手に伝えるための具体的なコ
ミュニケーション方法について解説する。
- 第 12 回 ホスピタリティと観光産業①
観光産業で発揮されるホスピタリティの重要性を
考える。
- 第 13 回 ホスピタリティと観光産業②
旅行者の満足とはどのようなものかを考える
- 第 14 回 ホスピタリティと観光産業③
観光および航空輸送に焦点をあてて演習を組み込
みながら観光客に対するホスピタリティを考え
る。
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポ
ート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テ
ーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。
毎回、小レポートによりホスピタリティを考察する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で配布される資料をよく理解し、次週のテーマに関連
性を持たせ考察してくる。日常生活でホスピタリティを出
来るだけ実践する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (30%)、小レポート (20%)、確認テ
スト (50%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすす
める。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

別途指示

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ANA客室乗務員として1万時間の飛行時
間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。そ
の後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

ホスピタリティ入門C

GCP1500C0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

火曜3限

DP5: 共生・協働する力

60

英語英文学科専用

岩田 真理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究す
る。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り
上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリ
ティ」について考え表現できることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・「ホスピタリティ」を考察する中で、人として大切なこと
についても学ぶ。

・文字面だけで理解するのではなく、授業態度も含め、日
常生活でのホスピタリティを体得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

一ホスピタリティへのアプローチ ホスピタリ
ティの概念を理解する。本講座で取り上げるホス
ピタリティへのアプローチの方法を理解する。

第 2 回 ホスピタリティとは

一言葉からのアプローチ 「ホスピタリティ」
の語源からアプローチする。ホスピタリティの定
義とはどのようなものであるのかを考察する。

第 3 回 ホスピタリティと人間

一人間の感情とホスピタリティー ホスピタリ
ティを提供する動物としての人間の存在からホス
ピタリティを紐解いていく試みをする。

第 4 回 ホスピタリティと文化①

一文化・感情表現・地域のおもてなしー ホス
ピタリティの表出の仕方、感じ方などに文化や時
代による違いなど、地域や文化・文明による差異
を考察してみる。

第 5 回 ホスピタリティと文化②

一歴史とホスピタリティー ホスピタリティの歴
史を考察する。時代の変遷と社会の変遷におい
てなにか変わりがあるのかないのかを考察する。

- 第 6 回 ホスピタリティと産業①
一産業構造の変化とホスピタリティの重要性一 サービス産業,ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。
- 第 7 回 ホスピタリティと産業②
一産業・社会の変化とホスピタリティを考える一ホスピタリティ産業の変化を予測し,社会の変化にともなってホスピタリティ産業というものの変化を推測してみる。
- 第 8 回 ホスピタリティと産業③
一エアラインにおけるホスピタリティー 航空機を運航する商品とはどのような特徴があるのかを考える。実際のエアライン (ANA) をモデルとして考えてみる。
- 第 9 回 ホスピタリティとチームワーク
#NAME?
- 第 10 回 ホスピタリティとコミュニケーション
#NAME?
- 第 11 回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ
ホスピタリティを相手に伝えるための具体的なコミュニケーション方法について解説する。
- 第 12 回 ホスピタリティと観光産業①
観光産業で発揮されるホスピタリティの重要性を考える。
- 第 13 回 ホスピタリティと観光産業②
旅行者の満足とはどのようなものかを考える
- 第 14 回 ホスピタリティと観光産業③
観光および航空輸送に焦点をあてて演習を組み込みながら観光客に対するホスピタリティを考える。
- 第 15 回 まとめ
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。毎回、小レポートによりホスピタリティを考察する。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
授業で配布される資料をよく理解し、次週のテーマに関連性を持たせ考察してくる。日常生活でホスピタリティを出るだけ実践する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
評価は、授業態度 (30%)、小レポート (20%)、確認テスト (50%) に基づいて総合的に評価する。
〔留意事項 (Other Information)〕
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすすめる。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

別途指示

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

キャリア形成ゼミ

GCP2600N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

60

定員20人 集中

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会で必要とされる力を「社会人基礎力」*1と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が社会で活動するプロジェクトをゼミとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。またこのプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。

*1「社会人基礎力」とは「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」の3つの能力と12の能力要素を2006年に経済産業省が定義づけしたものである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)各ゼミに関連した業界分析、職業知識、また情報収集力、分析力をつけること。

(2)企画書を作成する力をつけること。

(3)グループでの協同力や、コミュニケーション力をつけること。

(4)企画を立案し、実行する力を身につけること。

企画を伝える力、プレゼンテーション力を身につけること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

情報収集力	各ゼミの到達目標に対して、必要な情報を集められていない。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を、指示された通りに集めている。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を集め、時折共有している。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を能動的に集め、たびたび共有している。
企画力	目標達成に向けた策を自ら考えられてはいない。	目標達成に向けた提案を考えられている。指示した解決方法を選択できている。	目標達成に向けた策を提案している。新しい解決方法を時折考えられている。	目標達成に向けた複数の提案をし、最善の策を選択している。既存の発想にとらわれず、常に新しい解決方法を考えられている。
コミュニケーション力	意思疎通が困難。	意見を言い、他者の意見を聞き入れるときもある。教員が示すことで自分の役割を理解できている。	積極的に意見を言い、他者の意見を聞き入れている。時折チームで協力しようという意志が感じられる。	メンバーとしての役割を理解し、チームで協働しようという強い意志が感じられる。
実行力	指示されても課題に取り組まない。	指示があれば課題に取り組める。目標を明確にし、実行している。	自ら率先して課題に取り組んでいる。目標を明確にし、計画を立てて実行している。	自ら率先して課題に取り組む、他者を巻き込んで遂行できる。
プレゼンテーション力	伝えたい内容が相手に伝わらない。	伝えたい内容が伝わるよう工夫されている部分がある。	伝えたい内容が正しく伝わるよう効果的に工夫されている。	伝えたい内容が正しく伝わるよう論理的に構成され、効果的に工夫されている。

- 各ゼミで現場見学等を行う
- 第 4 回 【各ゼミでの活動③】
現場実践等で情報収集を行う
- 第 5 回 【各ゼミでの活動④】
企画のテーマ設定から企画立案(1) お互いの興味を知る
- 第 6 回 【各ゼミでの活動⑤】
企画のテーマ設定から企画立案(2) テーマ設定から企画を考える
- 第 7 回 【各ゼミでの活動⑥】
グループワーク(1) 企画に沿って、各ゼミの実際の活動を進める
- 第 8 回 【各ゼミでの活動⑦】
グループワーク(2) 各ゼミで問題点をそれぞれ克服しながら、活動を進める
- 第 9 回 【10月に実施予定の全体会～情報交換会～】
情報交換会（ゼミの活動内容と展望を明らかにし、今後の課題を見つける。他のゼミの取組の報告から所属ゼミに活かせることを見つける。プレゼン形式にはせず、グループワークを行う）
- 第 10 回 【各ゼミでの活動⑧】
グループワーク(3) 企画の目的達成に向けて、各ゼミでの活動を進める
- 第 11 回 【各ゼミでの活動⑨】
企画の実施（各ゼミで春からプランしてきた企画の集大成）
- 第 12 回 【各ゼミでの活動⑩】
グループワーク(4) 内容確認会、成果発表会に向けて、プレゼンテーションの準備
- 第 13 回 【12月に実施予定の全体会～内容確認会～】
内容確認会（全体での発表会。各ゼミの通年にわたる活動の成果を確認する。成果発表会に向けて、不足等ないか確認する。各ゼミの活動が単位認定（2単位）に相当するものかを確認する）
- 第 14 回 【各ゼミでの活動⑪】
実施した企画に対する「振り返り（検証）」。さらに、その活動を「社会人基礎力・これからの就活」に結びつけるための議論
- 第 15 回 【1月に実施の全体会～成果発表会～】
成果発表会と総括（各ゼミの1年間の活動とその成果を発表する。各ゼミの取組の内容・成果を伝える）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・ゼミごとに取り込むべき課題を十分に認識し、情報収集、分析をして取り組むこと。
- ・実践演習は学外での活動が中心となるため、マナー、社会人としての心構えなど事前の指導をしっかりと受け、事前指導から終了後の報告会まで積極的に参加すること。
- ・グループワークや他者との協同作業が中心となるため、積極的なコミュニケーションを心がけること。
- ・具体的なスケジュールはキャリアセンターの指示に従う

〔授業計画〕

- 第 1 回 【5月実施予定の全体会】
オリエンテーション・第1回講義（社会人の心構え、マナー研修、社会人としてのスキルの調査、各ゼミの個別相談会）
- 第 2 回 【各ゼミでの活動①】
各ゼミの目標などについて担当者と話し合う。各ゼミごとの「業界研究」などの活動を始める
- 第 3 回 【各ゼミでの活動②】

こと。

・事前の指導から成果発表会まで必ず出席し、やむをえず欠席する場合は担当教員の指示に従うこと。

・「キャリア形成ゼミ」の活動については、授業支援システム(manaba)などを利用して報告書を作成し、提出すること。

・授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・各ゼミの目的などを理解する。

・自分が選んだゼミの活動内容を理解し、概要について下調べをしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

情報収集力(10%)、企画力(10%)、コミュニケーション力(10%)、実行力(10%)、プレゼンテーション力(10%)、各ゼミで設定した達成目標(40%)、最終回の全体会でのプレゼンテーションに対する評価(10%)を基本とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

・2019年度実施のゼミの種類としては、以下のものが予定されている。

旅行プランナーゼミ、ブライダル業界ゼミ、町づくりプランナーゼミ、編集倶楽部、イベント企画ゼミ、など

・それぞれのゼミの詳細については、新学期(4月上旬)に実施される「キャリア形成ゼミの説明会」への出席、あるいはキャリアセンターに向いて、確認すること。

・一定の人数が集まらなければ実施しないゼミや定員が決まっているゼミもあるので、説明会時に確認すること。

・この科目はWeb登録の必要はなく、活動後に単位が認定される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

インターンシップA

GCP2650A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

30

集中

濱中 倫秀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

就業体験を通して、自己の職業適性や将来設計について考えるきっかけとする。

その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。

さらには、事後研修を通して明確なキャリアビジョンの確立及び意欲を喚起し、主体的な職業選択が出来るようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・就業体験を学び深いものにする為に、実習前に実習先の研究と目標設定を行う。

・就業体験から得られた学びに基づき、進路選択に向けての情報収集方法を学ぶ。

・就業体験を通して学び得た事と、今後の行動計画をまとめ、プレゼンテーションする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 事前研修①

インターンシップの概要・心構えとマナー・事前課題の説明

*日時・教室は4月のガイダンスにて説明する

第 2 回 事前研修②

実習先の研究成果についての発表・目標立案

*日時・教室は4月のガイダンスにて説明する

第 3 回 実習①

実習先での就業体験

第 4 回 実習②

実習先での就業体験

第 5 回 実習③

実習先での就業体験

第 6 回 実習④

実習先での就業体験

第 7 回 実習⑤

実習先での就業体験

第 8 回 実習⑥

実習先での就業体験

第 9 回 実習⑦

実習先での就業体験

- 第10回 実習⑧
実習先での就業体験
- 第11回 実習⑨
実習先での就業体験
- 第12回 実習⑩
実習先での就業体験
- 第13回 事後研修①
実習の振り返り・経験交流とレポート課題について説明
- 第14回 事後研修②
実習で学び得た事の整理と今後の行動計画の立案・プレゼンテーション準備
- 第15回 成果発表会
学び得たことと今後の行動計画のプレゼンテーション
- *日時・教室は4月のガイダンスにて説明する
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施する。

(事前・事後学習及び成果発表会の日時と教室は4月のガイダンスで説明する)

提出するレポートは下記の通り。

いずれも評価に大きく関わるので別途指示する期日までにそれぞれ確実に提出すること。

- 1.実習前／実習先についての事前レポート
- 2.実習中／毎日記入する実習日誌
- 3.実習後／事後レポート

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究しておくこと。

・実習先では指示を待つだけではなく、自分から進んで何ができるのかを考え行動すること。

・現場で働く社会人に確認・質問したい内容を考えておくこと。

・夏休みの暑い時期にあたるので、水分補給や十分な睡眠等、体調管理を万全にすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度 85% (実習先の評価60%、事前・事後研修および成果発表会の評価25%)

レポート15% (未提出者は評価対象外) で評価する。

※事前・事後研修・成果発表会はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

・申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。

・キャリアセンターからの連絡、指示は掲示によることが多いので、各自で掲示板を確認し、把握しておくこ

と。

・自己開拓したインターンシップについてはキャリアセンターの規定を満たせば単位として認める。

・遅刻、欠席厳禁

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

中小企業での採用人事経験あり。

インターンシップB

GCP2650B0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

30

集中

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム(コーオプ教育)は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムである。

本プログラムは、キャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

プロジェクトを通して、様々な角度から実社会を見つめ、現状を把握する力、課題を発見する力、その課題を解決する力を身につけることが目標である。受入先が提示したプロジェクトのテーマに沿って成果重視の活動を行うプログラムとなっており、受入先にとってもメリットとなっている。そのため専門性や独創性および協調性が求められる。講義では、具体的にプロジェクトを推進しながら目標を修正し、そのつど受入先とすりあわせながら検討を重ねていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

＜プロジェクトの導入＞

第1講、第2講 6/13 (木) オリエンテーション、プロジェクトの形成

第3講、第4講 6/20 (木) プロジェクト・マネジメント (PCM 講義とワークシート①)

第5講、第6講 6/27 (木) プレゼンテーショントレーニング、コミュニケーショントレーニング

第7講、第8講 7/4 (木) プロジェクト・マネジメント (ワークシート②③)

＜プロジェクトの形成＞

第9講、第10講 7/11 (木) プロジェクト・マネジメント (今後の活動確認、意見交換など)

第11講～第13講 9/5 (木) サマーセッション・プロジェクト・マネジメント (夏期活動中間報告)

夏季休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行う。

＜プロジェクトの振り返り＞

第14講、第15講 10/3 (木) プロジェクト・マネジメント (夏期活動最終報告)

第16講、第17講 10/10 (木) プロジェクト・マネジメント (評価方法の概要、ワークシート④)

第18講、第19講 10/24 (木) プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備)

＜プロジェクト報告・評価＞

第20講～第23講 11/9 (土) 10:40～19:00 プロジェクト・マネジメント (自己評価)、プレゼンテーション、修了式、懇親会

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

6月～11月の約5ヵ月間、企業・行政機関・非営利組織 (NPO・NGO等) が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。

・授業予定については、「インターンシップ・プログラム2019年度募集ガイド」で確認すること。授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をすること

・実習に行く前に指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考えること。

・現場で働く社会人に質問できる内容を考えておくこと。

・夏休みの暑い時期にあたるので体調管理を万全に整えること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

① 講義の受講状況 20%

② 学習レポートの内容 20%

③ 実習の参加状況 (受入先実習状況報告書の評価を参考) 50%

④ 全体を通じて成長が見られるか 10%

合計100%

〔留意事項 (Other Information)〕

大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、長期プロジェクトコースと受入先を選択し、事前にweb申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要がある。

①説明・相談会：

2019年4月20日 (土) インターンシップ事前説明会・相談会

2019年4月25日 (木) 長期プロジェクトコース説明会・相談会

②出願・面接日：2019年5月10日 (金)、5月11日 (土)

③Web申込期間：2019年4月19日 (金)～5月8日 (水)

詳細は、大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に問い合わせること。なお、学内説明会は4月に実施予定である。

・インターンシップB (長期プロジェクトコース) は3年次生推奨である。

・別途、受講料が必要である。

・会場はすべて、キャンパスプラザ京都となる。

・学習レポートおよびプロジェクトの提出期間は、11月14日(木) 15:00～19:00 である (提出場所はキャンパスプラザ京都)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

<http://www.consortium.or.jp/project/intern>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

インターンシップC

GCP2650C0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

30

集中

須川 いずみ

【科目の教育目標 (Course Description)】

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム(コーオプ教育)は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムである。

本プログラムは、キャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムである。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

事前学習から実習、続いて事後学習という体系化された学習プログラムを通じて、実社会への理解を深め、社会性や職業観を身につけるとともに、実習後の学生生活における課題の整理と目標を明らかにすることを目指す。

事前学習・事後学習では、業界・業種別、或いは行政・非営利組織(NPO・NGO等)別にクラスを編成し、他大学の学生と共に業界研究やディスカッション等を行うことで、目標を達成させる。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

<事前学習>

第1講～第5講 6/15(土) 10:00～18:10 オリエンテーション①、リスクマネジメント講習①、クラスの相互理解、実習に向けた目標と仮説設定、コミュニケーショントレーニング

原則、6/17～7/5に実習先を訪問し、実習内容・期間の確認などの指導を受ける。

第6講～第9講 6/29(土) 10:00～16:50 業界と社会に対する学習①②、スキルアップトレーニング

第10講～第13講 7/6(土) 10:00～17:30 実習に向けた目標と仮説設定①②③、リスクマネジメント講習②、オリエンテーション②

<実習>

原則、8/1～9/20に実習を実施する。期間中に担当コーディネーターによる中間指導がある。

<事後学習>

第14講～第18講 9/21(土) 10:00～17:40 実習経験の共有①②③、実習経験交流会、実習経験の振り返り/全体講評/修了式

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

なし

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

8月上旬～9月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO等)において、2週間～1ヵ月程度の実習を行う。

・授業予定については、「インターンシップ・プログラム2019年度募集ガイド」で確認すること。

・授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をすること

・実習に行く前に指示を待つだけではなく、自分から進んで何ができるのかを考えること。

・現場で働く社会人に質問できる内容を考えておくこと。

・夏休みの暑い時期にあたるので体調管理を万全に整えること。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

① 事前学習および事後学習の受講状況 40%

② 事前学習レポートおよび事後学習レポートの内容 20%

③ 実習の参加状況 (受入先実習状況報告書の評価を参考) 30%

④ 全体を通じて成長が見られるか 10%

合計100%

【留意事項 (Other Information)】

大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、ビジネス・パブリックコースと受入先を選択し、事前にweb申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要がある。

①説明・相談会:

2019年4月20日(土) インターンシップ事前説明会・相談会

②出願・面接日: 2019年5月10日(金)、5月11日(土)

③Web申込期間: 2019年4月19日(金)～5月8日(水)

詳細は、大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に問い合わせること。なお、学内説明会は4月に実施予定である。

・インターンシップC（ビジネス・パブリックコース）は2年次生推奨である。

・別途、受講料が必要である。

・事前学習、事後学習の会場は原則、龍谷大学深草キャンパスとなる。

・事前学習レポートの提出期間は、7月19日（金）、20日（土）10:00～17:00 である（提出場所はキャンパスプラザ京都）。

・事後学習レポートの提出期間は、10月4日（金）、5日（土）10:00～17:00 である（提出場所はキャンパスプラザ京都）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.consortium.or.jp/project/intern>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

キャリア形成

GCP3600N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

3年次

2単位 前期

木曜 2限

DP6：創造・発信力

60

定員40人

濱中 倫秀

〔科目の教育目標（Course Description）〕

間近に迫った就職活動・進路決定に向けて、キャリアを自ら切り拓くための実践的な知識を学ぶ。座学によるインプットだけではなく、グループ内での意見交換や発表の機会を通してアウトプット能力も身につける。

さらにはロールモデルとして就職活動を終えた4年生の体験談も実施し、自身の未来について様々な選択肢と可能性を発見し、自己肯定感の向上に繋げる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

・様々な業界や職種の基礎知識をゲストスピーカーの話を通して理解出来る。

・グループで共同して作業し、指示されたアウトプットをすることが出来る。

・先輩の就職活動体験談を聞き、自分に置き換えて行動目標を立てることが出来る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 講義のオリエンテーション

この講義の目標や進め方について

第 2 回 自己分析①

自分に関する情報をシートを使って分類する／前半

第 3 回 自己分析②

自分に関する情報をシートを使って分類する／後半

第 4 回 自己分析③

グループワーク

第 5 回 ロールモデルの研究

学生時代の取り組みを活かして内定した先輩に学ぶ・グループワーク

第 6 回 ロールモデルの研究

インターンシップを活用して内定した先輩に学ぶ・グループワーク

第 7 回 キャリアセンターの活用事例

キャリアセンターで受けられるサポート内容の紹介

第 8 回 様々な業界と仕事

製造業界と具体的な仕事の特徴について紹介

第 9 回 様々な業界と仕事

流通業界と具体的な仕事の特徴について紹介

第 10 回 様々な業界と仕事

サービス業界と具体的な仕事の特徴について紹介

第 11 回 自分に合った働き方を考える

ワークライフバランスを中心とした企業研究とグループワーク

第 12 回 自分に合った働き方を考える

顧客へのサービス構造を中心とした企業研究とグループワーク

第 13 回 私の就職・進路決定戦略①

自らの目指す就職・進路の決定に向けての行動計画を考える

第 14 回 私の就職・進路決定戦略②

自らの目指す就職・進路の決定に向けての行動計画を発表

第 15 回 まとめ・講義内試験

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・グループワークを多く取り入れるので、積極的に発言・関与すること。

・グループで話し合った結果の発表の機会も講義内で設ける。

・ポストイットやA3の用紙は教室に準備するのでグループワークの際に活用すること。

・レポートや講義内試験、ノートに関しては評価終了後全て返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・次回の講義までの予習課題を、講義の終わりに毎回提示するので予習してくること。

・グループワークの妨げになるので、欠席・遅刻をしないこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度 30%

講義内試験 50%

レポート 20%

* 1 1 回 (3 分の 2) 以上の出席を持って評価対象とする。

* 欠席 6 回以上は不可。(遅刻は 2 回で欠席 1 回分とする)

〔留意事項 (Other Information)〕

参考図書及び講義用のノート「キャリアデザインノート」が必要になるので、

各自購入し毎回持参すること。(初回の講義で説明)

補助資料やプリントは適宜配布する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

中小企業での採用人事経験あり。

海外インターンシップA 2017年度以降入学者

GCP3650A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

30

集中

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

(1)海外の職場で実際に英語を使って仕事をするを体験することにより、英語応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力を涵養し、積極性や責任感、キャリア意識を身に付ける。

(2)ニュージーランドの生活、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。

(3)ニュージーランド人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。主な業務内容と必要とされる英語力 (TOEIC) の目安は以下のとおりである。

(1)一般企業 <TOEIC 470~730以上>

(一般事務の補助業務、大学や専門学校等での学校事務等)

(2)観光関連企業 <TOEIC 730以上>

(旅行会社の補助業務、ガイドアシスタント、空港アシス

ト、観光局での事務アシスタント等)

(3)幼児教育機関 <英語力問わず>

(保育園や幼稚園で先生の補助業務、子供の出席管理、遊び相手、食事補助等)

(4)福祉施設 <TOEIC 550以上>

(高齢者福祉施設での介護補助、食事手伝い、ベッドメイキング、話し相手等、介護のアシスタント業務)

(5)ボランティア団体 <TOEIC 550以上>

(各種ボランティア団体での活動や事務アシスタント等)

(6)学校 (中高) 日本語教育 <英語力問わず>

(中・高校等で日本語教師のアシスタント、日本文化紹介、発音指導、ゲーム、会話補助等)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

(1)海外研修日程 (予定)

夏期または春期のいずれかを選択する。

①夏期開講

2019年8月24日 (土) ~9月15日 (日) 23日間

②春期開講

2020年2月8日 (土) ~2月29日 (土) 22日間

(2)研修 (インターンシップ) 先

オークランド市内の企業、団体等

(3)研修計画

1日平均7時間x約3週間

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

① インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションや現地でのインターンシップ事後指導に必ず出席すること。

② インターンシップ研修中は、遅刻、欠席をしない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。

③ インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- (1) ビジネス英語に関する語彙や文書に触れておく。
- (2) 旅行書やインターネットでニュージーランドの事前知識を得ること (地理、大まかな歴史、文化など)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研修参加度・態度、課題、研修先機関からの評価、レポート等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時にオセアニア交流センターより授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

- (1) 参加費用を含む研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。
- (2) 受講申込時にTOEIC成績通知書を提出すること。
- (3) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。
- (4) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計2回 (夏期の場合 第1回目: 6月20日 (木)、第2回目: 7月18日 (木)、春期の場合 第1回目: 12月5日 (木)、第2回目: 2020年1月16日 (木) 予定) に必ず出席すること。
- (5) 本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、インターンシップやホームステイ等については、オセアニア交流センター・オークランド事務所の日本人担当者が現地での対応にあたる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

海外インターンシップB 2017年度以降入学者

GCP3650B0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

30

集中

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

(1) 海外の職場で実際に英語を使って仕事をすることを体験することにより、英語応用力を習得するとともに、国際性

とコミュニケーション能力を涵養し、積極性や責任感、キャリア意識を身に付ける。

(2) オーストラリアの生活、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。

(3) オーストラリア人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。主な業務内容と必要とされる英語力 (TOEIC) の目安は以下のとおりである。

- (1) 一般企業 <TOEIC 470~730以上>
(一般事務の補助業務、大学や専門学校等での学校事務等)
- (2) 観光関連企業 <TOEIC 730以上>
(ホテルや旅行会社の補助業務、ガイドアシスタント、空港アシスト、観光局での事務アシスタント等)
- (3) 幼児教育機関 <英語力問わず>
(保育園や幼稚園で先生の補助業務、子供の出席管理、遊び相手、食事補助等)
- (4) 福祉施設 <TOEIC 550以上>
(高齢者福祉施設での介護補助、食事手伝い、ベッドメイキング、話し相手等、介護のアシスタント業務)
- (5) ボランティア団体 <TOEIC 550以上>
(各種ボランティア団体での活動や事務アシスタント等)
- (6) 学校 (小中高) 日本語教育 <英語力問わず>
(小・中・高校等で日本語教師のアシスタント、日本文化紹介、発音指導、ゲーム、会話補助等)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

(1) 海外研修日程 (予定)

夏期または春期のいずれかを選択する。

① 夏期開講

2019年8月24日 (土) ~ 9月15日 (土) 23日間

② 春期開講

2020年2月8日 (土) ~ 3月1日 (日) 23日間

(2) 研修 (インターンシップ) 先

ブリズベン市内の企業、団体等

(3) 研修計画

1日平均7時間×約3週間

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

① インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションや現地でのインターンシップ事後指導に必ず出席すること。

② インターンシップ研修中は、遅刻、欠席をしない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。

③ インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

(1) ビジネス英語に関する語彙や文書に触れておく。

(2) 旅行書やインターネットでオーストラリアの事前知識を得ること (地理、大まかな歴史、文化など)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研修参加度・態度、課題、研修先機関からの評価、レポート等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時にオセアニア交流センターより授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

(1) 参加費用を含む研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。

(2) 受講申込時にTOEIC成績通知書を提出すること。

(3) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

(4) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計2回 (夏期の場合 第1回目: 6月20日 (木)、第2回目: 7月18日 (木)、春期の場合 第1回目: 12月5日 (木)、第2回目: 2020年1月16日 (木) 予定) に必ず出席すること。

(5) 本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、インターンシップやホームステイ等については、オセアニア交流センター・オークランド事務所の日本人担当者が現地での対応にあたる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

海外インターンシップC 2017年度以降入学者

GCP3650C0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

30

集中

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

(1) アメリカのシリコンバレーにある米国企業・団体、日系企業等で実践的な就業体験を行うことにより、グローバルな視点と国際性、コミュニケーション能力、積極性や責任感、キャリア意識を身につける。

(2) アメリカの生活、経済、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して多様な価値観や考え方を学ぶ。

(3) アメリカ人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。英語の語学力が高い場合は、アメリカ人指導員のもとで英語による実務研修を行う。英語の語学力が低い場合は、日系企業で日本人指導員のもとで実務研修を行う。主な業務内容と必要とされる英語力の目安は以下のとおりである。

(1) 米国企業・団体 <TOEIC 730以上が望ましい>

(マーケティングリサーチ、企画プランニング、在庫管理、営業補佐等の実務を体験する。米国企業・団体の種類とは、次の通り。ソフトウェア・WEB開発、機械開発、貿易商社、通販会社、流通、出版・メディア、食品開発・販売、デザイン会社、美容関連、会計事務所、幼児教育施設、福祉事務所等)

(2) 日系企業 <日常会話程度>

(企画プランニング、リサーチ等のサポート業務を体験する)

(3) 旅行会社 <日常会話程度>

(カスタマーサポート、企画、マーケティング、WEBサポート)

(4) 食品製造 <英語力問わず>

(食品分析、マーケティング)

(5) アパレル貿易 <英語力問わず>

(営業管理、WEB制作、在庫管理)

(6) 教育関係 <日常会話程度>

(日本語教師のアシスタント、日本文化紹介、発音指導、会話補助等)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

(1)海外研修日程（予定）

夏期または春期のいずれかを選択する。

① 夏期開講

2019年8月25日（日）～9月15日（日）22日間

② 春期開講

2020年2月9日（日）～3月1日（日）22日間

(2)研修（インターンシップ）先

アメリカ・カリフォルニア州シリコンバレーに所在する企業等

(3)研修計画

1日平均7時間×約3週間

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

① インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションに必ず出席すること。また、現地で行われるビジネス講座、実習課題のプレゼンテーションに参加すること。

② インターンシップ研修中は、遅刻、欠席をしない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。

③ インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

(1)ビジネス英語に関する語彙や文書に触れておく。

(2)旅行書やインターネットで渡航先地域の事前知識を得ること（地理、歴史、文化など）。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研修参加度・態度、課題、研修先機関からの評価、レポート等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時に授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項（Other Information）〕

(1)研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。

(2)申込時に、TOEIC成績通知書の提出を求められることがある。また、受け入れ企業・団体の担当者によるスカイプでの面接を行う。面接の結果、不採用となる場合もある。

(3)研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。

また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

(4)研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計2回（夏期の場合 第1回目：6月20日（木）、第2回目：7月18日（木）、春期の場合 第1回目：12月5日（木）、第2回目：2020年1月16日（木）予定）に必ず出席すること。

(5)本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、インターンシップやホームステイ等については、オセアニア交流センターのカリフォルニア在住日本人アドバイザーが現地での対応にあたる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

歴史の中の女性

GEH1150N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次

2単位 後期

木曜2限

DP1：自分を育てる力

60

寺西 みどり

〔科目の教育目標（Course Description）〕

男性中心とされる歴史において女性は社会とどのように係わりいかなる変容をとげたのか。アメリカと日本を中心に、文化史・宗教史・社会史上重要な役割を果たした女性達の思想や活動を歴史的に考察する。本学の母体であるノートルダム教育修道女会に触れ、修道女考察も行なう。映画から、その時代の女性を反映している側面をみる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

女性学・女性史の始まり

女性と社会進出・女性解放運動

アメリカ史・日本史の概観、社会背景と女性の変容をみる
修道女の場合

映画鑑賞や読書により、個別の女性の生涯について考えたり、職業と家庭について考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 コース概説・女性学とは・女性学の歴史・女性の分類

第 2 回 アメリカの女性:フェミニズム第1波

第 3 回 アメリカの女性:19世紀～20世紀中期

- 第 4 回 アメリカの女性:フェミニズム第 2 波
- 第 5 回 映画鑑賞:フェミニズム第 2 波の流れとしての女性心理
- 第 6 回 日本の女性:平安時代～鎌倉・室町時代
- 第 7 回 日本の女性:戦国時代・江戸時代
- 第 8 回 明治時代～現代
- 第 9 回 DVD鑑賞:平塚らいてうと市川房枝
- 第 10 回 DVD鑑賞:現代日本女性の職業と子育てに関する座談会
- 第 11 回 映画鑑賞:人生の選択の自由と家庭生活について現代アメリカの男女の意識
- 第 12 回 修道女概論
女性の人生選択の自由宗教と宗教について
- 第 13 回 ノートルダム教育修道女会について
アメリカの修道女
- 第 14 回 映画鑑賞:第二次世界大戦以前のヨーロッパの修道院生活
- 第 15 回 映画鑑賞:前回に続く、修道女の社会的使命と個人的感情について
質問の時間を設ける

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心とする

映画鑑賞と講義内容を関連づける

課題を考え、意見を述べる (小人数クラスの場合のみ実施)

学生の意見への感想を直後の講義の中に盛り込む

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

アメリカ文化を自分なりにイメージしてみる

日本史の流れ (歴史教科書の目次程度でよい) を捉えておく

ノートの整理をする

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末試験の点数で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内容と映画鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特定のテキストはない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要時に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

必要時に指示する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

翻訳業務経験38年。現在ノートルダム教育修道女会事務室に翻訳担当として非常勤務中。

通訳業務経験あり。

YBU英会話教室講師。

長唄協会関西支部女流三味線演奏部員

日本近現代史

GEH1201N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

水曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

小林 健太

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は、日本史のなかでも特に近代史・現代史の分野を講義します。高校までの日本史のように、ただ暗記するだけではなく、「その出来事が歴史の流れのなかになんかどう位置づけられるか」ということに重点を置きたいと思います。歴史 (学) では「なぜ、そうなったのか」と考えることがとても重要だからです。この講義を通して、皆さんが少しでも歴史の「なぜ」に興味を持っていただけたら幸いです。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1、歴史は過去のものではなく、現在にも影響を及ぼしていることを理解する。

2、中学校や高校の「教科書」に書かれていることだけではない、多彩な歴史の世界を認識する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス 歴史を学ぶことの意味

第 2 回 日本の近現代とはどのような時代か

第 3 回 開国と倒幕—新選組

第 4 回 明治維新期の政治的動向

第 5 回 民衆が見た明治維新

第 6 回 国会開設・帝国憲法

第 7 回 日清・日露戦争

第 8 回 ジャーナリズムの展開

第 9 回 大正デモクラシーと第一次世界大戦

第 10 回 日中戦争

第 11 回 太平洋戦争

第 12 回 占領下の日本

第 13 回 独立と高度経済成長

第 14 回 沖縄返還と現代の日本

第 15 回 総まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業方法

- (イ) 配布プリントを使用し、基本的に講義形式で行う。
- (ロ) 講義は、毎回設定したテーマのなかで1つのトピックをとりあげて深く考察する。
- (ハ) 1回程度、小課題を提出してもらう。
- (ニ) 毎講義終了時に、出席確認を兼ねて小ペーパーに意見等を記述してもらう。
- (ホ) コメントカード等による質問に対して適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各テーマに関係した著書・論文・メディア情報などより、自分で問題点・疑問点を考えておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 評価は、期末レポート (70%)、小課題 (15%)、コメントカード (15%) によって行う。
2. 講義3分の2以上の出席を期末レポートの提出資格とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

近年、学生の読書量減少が問題となっているので、講義時に論文などを読んでもらい、理解力や表現力も身につけてもらいたいと考えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

NHK文化センター梅田教室、朝日カルチャーセンター芦屋教室で、中世～近代の政治・宗教に関する古文書講座を担当している。

身近な医学

GEN1201NOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次

2単位 前期集中

その他

DP2: 知識・理解力

60

萩原 暢子 河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

健康に関する情報を理解する上で、あるいは、医療・保健分野で活動する上で基礎となる医療用語および代表的な疾患の診断方法、治療などを体系的に理解していく。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 医療における基礎的な用語を使うことができる

2. 代表的な疾患の概念を説明できる
3. 代表的な疾患の診断・検査法を説明できる
4. 代表的な疾患の治療方法を説明できる
5. 代表的な疾患の予防法について説明できる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 生活習慣病の代表的な疾患(糖尿病、脳卒中、心臓病、高血圧など)について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
2. 代表的な悪性腫瘍(胃がん、大腸がん、肺がん、白血病)について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
3. 代表的な消化器系疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
4. 代表的な呼吸器疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
5. 代表的な内分泌疾患、腎臓病、膠原病、血液疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
6. 代表的な精神疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
7. 代表的な婦人科疾患、小児疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
8. その他日常の診療で遭遇することの多い疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
9. 各回の確認試験により、各自でフィードバックを行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	医学を学ぶという意識がない	医学的な知識を学ぶという自覚を持っている	医学的な知識を学んで自分の生活に活かすことができる	医学的な知識を学ぶことで、より高度な内容に興味を持って、知識を深めていく
知識・理解力	内容が全く理解できない	医学的な内容であることは理解できる	医学的な内容を理解できる	医学的により詳しい内容まで理解できる
言語力	医学用語が全く理解できない	医学用語であることは理解できる	医学用語の内容を理解することができる	医学用語の内容を理解して、適切に使うことができる
思考・解決力	医学的な問題点を全く理解できない	医学的に問題があるということは理解できる	医学的な問題について、原因を考えようとする力がある	医学的な問題について原因を考えて、対応策を提案することができる
共生・協働する力	先行研究や他人の意見を参考にしない	先行研究に基づいて医学的な理解	先行研究から深めた医学的知識を周囲の人た	レベル3に加えて新しい知見を他

		を深めようとする	ちと共有する	者に発表できる
創造・発信力	自分勝手な医学的な知識の発信を行う	自ら周囲の状況を踏まえて、医学的な知識の扱い方を考える	デジタル技術などを踏まえて、医学的な知識の扱い方を考える	レベル3に加えて情報モラルも加味しながら医学的知識の扱い方を考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 糖尿病について
糖尿病について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 2 回 血液疾患について
血液疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 3 回 高血圧について
高血圧について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 4 回 脳卒中について
脳卒中について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 5 回 呼吸器の炎症性疾患、喘息について
呼吸器の炎症性疾患、喘息について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 6 回 腎臓疾患、膠原病について
腎臓疾患、膠原病について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 7 回 心臓疾患について
心臓疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 8 回 消化器がん
消化器がん（胃がん、大腸がんなど）について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 9 回 甲状腺疾患、その他の主な内分泌疾患について
甲状腺疾患、その他の主な内分泌疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 10 回 婦人科疾患について
婦人科疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 11 回 肺がんについて
肺がんについて、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 12 回 肝臓・胆のう・膵臓の炎症性疾患について
肝臓・胆のう・膵臓の炎症性疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 13 回 小児疾患について
小児疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 14 回 精神疾患について

精神疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）

第 15 回 頭痛、めまい、腰痛など
頭痛、めまい、腰痛など、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式で、プリント、配付資料およびパワーポイント・視聴覚教材を使用する。

各回小テストについて、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。最終回については、テスト終了後に講評する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

該当箇所を参考図書で予習する。講義内容について、復習をしっかりと行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（20％）と毎回行う確認試験（80％）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、飲食は禁止します。

- ・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

- ・前期、月1～2回程度の土曜日集中講義とする。

- ・授業の内容は、担当者により多少前後することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

人体のしくみと病気がわかる事典/奈良信雄（監修）/西東社/2013/978-4-7916-1948-1

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 医師として病院等での診療経験あり。

環境学概論

GEN1550NOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

木曜 3限

DP5: 共生・協働する力

60

豊田 陽介

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

授業を通じて、深刻さを増す環境問題と現代社会のライフスタイルが直結していることに気づくことを目指す。生身の自分をとりまく環境がどのようなものであるかを考える機会にし、その上で、受講者および授業者が同時代、同社会に生きる「人」として共に生きていく姿について考えていきたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1.「環境」、「環境問題」について理解する 2.環境問題とライフスタイル (および自分) との関連に気づく 3.今後の社会 (および自分) のビジョンについて考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 環境問題とはじめ
環境問題について過去の環境問題や公害問題から地球環境問題への変遷とその特徴について学ぶ
- 第 2 回 地球環境問題と私達の社会、暮らし (1) 地球温暖化問題
世界的な課題となっている地球温暖化問題について科学的に考える
- 第 3 回 地球環境問題と私達の社会、暮らし (2) エネルギー問題
エネルギーと社会・経済・環境との結びつきについて、ワークショップを通じて気づく
- 第 4 回 地球環境問題と私達の社会、暮らし (3) 生物多様性
普段利用している製品や食べているものなどから、私たちの暮らしと生物多様性の関係についてとらえる
- 第 5 回 地球環境問題と私達の社会、暮らし (4) 交通問題
京都や富山、ドイツ・フライブルク、スイス・チューリッヒなどの都市における交通・まちづくりの取組事例を参考にまちづくりのあり方を考える
- 第 6 回 地球環境問題と私達の社会、暮らし (5) オゾン層破壊
普段意識することのないオゾン層破壊についてどのような関係があるのかを学ぶ

- 第 7 回 地球環境問題と私達の社会、暮らし (6) 森林保全・活用
日本における森林保全・活用の現状を学ぶとともに、海外での先進事例との比較から今後の日本の林業のあり方を考える
- 第 8 回 地球環境問題と私達の社会、暮らし (7) 廃棄物・ごみ問題
私たちの暮らしや社会から毎日のように大量に出る廃棄物・ごみ問題について考える
- 第 9 回 持続可能な社会づくり (1) 教育・ひとづくり×環境
持続可能な社会づくりのための教育 (ESD) について日本国内の事例をもとに、その考え方や手法について学ぶ
- 第 10 回 持続可能な社会づくり (2) 地域資源×環境×まちづくり
環境と社会・経済のバランスのとれた持続可能な地域社会のあり方について、地域資源を生かしたまちづくりの事例から考える
- 第 11 回 持続可能な社会づくり (3) 農業×環境×観光
日本の農業の抱える問題について知るとともに、環境や観光の視点から注目を集めているイタリアのアグリツーリズムを参考にこれからの農業のあり方を考える
- 第 12 回 持続可能な社会づくり (4) 地域×エネルギー
日本から流出する年10兆円程度のエネルギー費用を地域内に循環させ、地域を豊かにする再生可能エネルギーを活用した地域づくりの可能性について国内外の事例を学び考える
- 第 13 回 持続可能な社会づくり (5) 企業×環境-グリーン経済
企業にとっての環境問題はリスクでありチャンスである。PatagoniaやLUSHなどの企業の取り組みを参考に、今後の企業のあり方について考える
- 第 14 回 持続可能な社会づくり (6) 金融×環境-ダイベストメント
近年、銀行や機関投資家 (保険会社、年金基金、投資会社など) などが、環境・社会・ガバナンスについて配慮した投融資を進めている。私たちのお金をめぐる状況がどのように変化してきているのか、また私たち個人に何ができるのかを「お金」という視点から考える
- 第 15 回 持続可能な社会づくり (7) 大学×環境
大学をフィールドとして実施できる環境対策について先進事例を知るとともに、本学でどのような取り組みができるかをワークショップで考える

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義が主であるが、受講者が考え、体験する機会とするために教室の条件下で行なえるワークを取り入れる。授業で行なった小レポート等については、次回授業で全体に対してフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 「自習のテーマ」を授業 (レジュメ) にて提示する
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末レポート70%、授業参加度30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社 (Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社 (Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

「なぜイタリアの村は美しく元気なのか」 宗田 好史、学芸出版、2012、9784761525361

「ローカル・ガバナンス」的場・平岡・豊田・木原、学芸出版、2018、4761532394

「100%再生可能へ！欧州のエネルギー自立地域」 滝川 薫、学芸出版、2012、9784761525309

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》(20年)

・温暖化防止に取り組むNGOの研究者として調査研究を行っている

・小学校での環境教育の実践や地域での再生可能エネルギーの導入支援、自治体のエネルギー計画の策定やその支援などに長年携わっている

ジェンダー論

GES1150NJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP1: 自分を育てる力

60

藤田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- ・ジェンダーの意味と成り立ちの理解。
- ・ジェンダー視点で社会を分析する力をつける。
- ・ジェンダー平等のための国際的、国内的施策の理解。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・国際社会におけるジェンダー問題 (途上国の開発・貧困など)

・国内におけるジェンダー問題 (教育、労働、女性に対する暴力、貧困など)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	ジェンダーを理解しようとしな	自分の経験とジェンダーを関連付けて考えることができる	自分を含め、社会をジェンダー視点で考えることができる	ジェンダーを理解したうえで、自分の人生を自分で選択できる
知識・理解力	ジェンダーの意味が理解できない	ジェンダーの意味と成り立ちが理解できる	ジェンダーをめぐる課題を見つけることができる	ジェンダーをめぐる課題を分析できる
思考・解決力	ジェンダー平等が果たす役割を考えようとし	自分を取り巻く環境がジェンダー平等であるかどうかを	ジェンダー平等のために何が必要かを考えることができる	日本を含む地球規模におけるジェンダー平等のための解決策を

〔授業計画〕

第 1 回 序論

授業予定、試験の説明

第 2 回 「ジェンダーとは」

- ・ジェンダーの意味
- ・ジェンダーの歴史的背景

第 3 回 「教育とジェンダー」

- ・ジェンダー視点でみる教育制度の歴史
- ・ジェンダー視点でみる教育制度の現状

第 4 回 「女性に対する暴力—ジェンダー視点—①」

- ・女性に対する暴力の背景
- ・女性に対する暴力根絶の取り組み

第 5 回 「女性に対する暴力—ジェンダー視点—②」

- ・女性に対する暴力の現状

第 6 回 「労働とジェンダー①」

- ・労働に関する用語
- ・ジェンダー視点からの女性労働の歴史

第 7 回 「労働とジェンダー②」

- ・ジェンダー視点からの労働市場の現状と課題

第 8 回 「ジェンダーと開発」

- ・ジェンダー視点からの途上国への援助

第 9 回 「家庭生活とジェンダー」

- ・家族をめぐるジェンダー政策の歴史
- ・現代社会の家庭生活の現状とジェンダー

第 10 回 「災害とジェンダー」

- ・災害時のジェンダーによる影響
- ・ジェンダー視点からの防災計画の変遷

第 11 回 「貧困とジェンダー」

- ・国際社会における貧困
- ・日本における貧困の現状

第 12 回 「政治とジェンダー」

- ・ジェンダー視点からの政治参画

第 13 回 「ジェンダー平等への取り組み」

- ・国際社会におけるジェンダー平等の取り組み
- ・日本におけるジェンダー平等への取り組み

第 14 回 「試験とまとめ」

- ・試験とまとめ

第 15 回 「まとめ」

- ・「試験とまとめ」の解説
- ・授業全体のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・授業時にプリント配布
- ・授業時に課題提出 (2~3回予定)

課題提出の次の授業時に解説

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・新聞やインターネットなどの情報 (政策や制度など) をジェンダー視点で考える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

5

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50%)、課題・試験 (50%) に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内容の順序の入れ替え、社会状況に合わせ内容変更等を行う場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

- ・男女共同参画推進センターに勤務経験あり。
- ・女性のための相談員 (DV相談、離婚相談等) として行政機関にて勤務中。

ボランティア概論

GES1500N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

水曜 2限

DP5 : 共生・協働する力

60

志藤 修史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会にとってボランティアはどのような意味があるのでしょうか。なぜ、ボランティアをする人がいるのでしょうか。

この講義ではボランティアの実際を見る中で、ボランティアとボランティアをめぐる私たちの社会との関係について基本的な内容を理解をすることを狙いとします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. ボランティアの理念とは何かを理解する。
2. 共に生きる心を理解する。
3. ボランティア活動の多様性を知る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 今日のボランティアの状況
オリエンテーション。ボランティアをめぐる今日の状況。
- 第 2 回 ボランティアの考え方
ボランティアをめぐる言葉の使われ方と意味
- 第 3 回 ボランティアの現状と課題
ボランティアの現状と理解の視点
- 第 4 回 福祉に関するボランティア
福祉に関するボランティアの現状
- 第 5 回 福祉に関するボランティアの課題
福祉に関するボランティアの課題と方向
- 第 6 回 ボランティアと地域社会
ボランティアと地域社会との関わり
- 第 7 回 災害とボランティア
災害とボランティアの今日的状況
- 第 8 回 災害とボランティアを巡る課題
災害とボランティアにおける課題と展望
- 第 9 回 ボランティアの概念と原理
ボランティアの基本原則を問い直す視点
- 第 10 回 ボランティアコーディネーター
ボランティアの支援とコーディネーター
- 第 11 回 ボランティアを巡る考え方と人
ボランティアとボランティアをめぐる人々
- 第 12 回 ボランティア活動の内容を再考する
ボランティアの活動内容にある隘路
- 第 13 回 現代社会とボランティア
社会とボランティア
- 第 14 回 私たちの生活とボランティア
くらしとボランティア
- 第 15 回 ふりかえり
まとめとふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポート試験を実施。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法
講義形式とする。
2. 学習方法
 - (1) 現実に起こっていることを予断なく受け止める。
 - (2) 講義内容を知識として留めるだけでなく、活動に参加してみようと考えてみること。
 - (3) 最終のレポートの課題の内容については、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
3. 参考文献

参考文献もなるべく目を通し、自分自身の意見をまとめておくこと。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ① 配布した資料を事前に読み、理解しておくこと。
- ② 日頃から社会の様々な出来事に関心を持つこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は毎回の授業時に行う小レポート (50%)、最終レポート (40%)、クラス・レスポンス (10%) に基づいて行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

講義中に資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ボランティアという病』/丸山千夏/宝島新書/2016/

『地域福祉の今を学ぶ』/妻鹿ふみ子/ミネルヴァ書房/2010/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

社会福祉士の資格を有し、社会福祉協議会にて勤務の経験あり。

海外研修 (生活と社会) 2017年度以降入学者

GES1650N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

15

集中

酒井 久美子 牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

テーマ：英国のファッションと文化

(1) 世界4大ファッション都市の一つであるロンドンで、ファッションの歴史や文化、現代のファッション事情などについて学ぶ。

(2) ロンドン芸術大学のアートコースで英語による服飾に関する講義、また実際に作品を制作することで、制作の現場および服飾品の制作過程を知る。

(3) 学外学習において、英国の文化や日常生活に触れ、国際理解や国際的な視野を広げる。

(4) 短期間ではあるが、専門的な内容も含めた語学研修により、英語力を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 英国におけるファッションの歴史と文化

(2) ロンドンの現代ファッション

(3) 服飾品の制作に関する知識と技術

(4) 英国の人々の暮らし

などについて、観察、体験して、考察する。日本や、パリ、ミラノ、ニューヨークとの違いについて考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

(1) 海外研修日程 (予定)

平成31年9月8日 (日) ~9月15日 (日) 8日間

(2) 研修先

ロンドン芸術大学 (英国)

(3) 授業計画

ロンドン芸術大学および附属語学センターで午前中3時間 (5回) の英語研修と午後3.5時間 (2回) のアートコースでのワークショップ、その他の学外学習を受講する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 事前講義・事後指導

下記の内容の事前講義2回、事後指導1回の計3回を必ず受講すること。

具体的な日程は、後日調整のうえ、決定する。

①英国の歴史、社会と文化

②ロンドンのファッション

③服飾品制作の事前準備

④ロンドンでの人々の暮らし

(2) 研修内容

・ロンドン芸術大学で英語研修

・ロンドン芸術大学、アートコースでのワークショップ (服飾品制作)

・美術館見学

・英国文化体験や市内散策

(3) 学習方法

①事前講義、事後指導は必ず出席すること。海外研修における積極的な受講姿勢が望まれる。

②服飾品制作については、事前講義時間内で準備が完成しない場合は、補習を行うことがある。

③研修のまとめとして、パワーポイントによる発表とディスカッションが求められる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

(1) 英国、ロンドンについて、インターネット等で事前知識 (地理、歴史、文化等) を得ること。

(2) 研修に行く前にイメージンスペースやその他の方法で、英語を話す機会を設けること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

事前・事後講義の授業参加度、研修時の参加態度・受講姿勢・研修のまとめの発表内容とディスカッションへの参加姿勢に基づき評価し、帰国後単位を認定する。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 研修プログラムの詳細や受講申し込み方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。
2. 受講者が最少催行人数（10名）に達しない場合、または研修先の情勢によって研修の実施を取り止める場合がある。また、スケジュールは現地受入機関および交通機関などの都合により変更になることがある。
3. 研修参加決定者は、事前・事後指導（計3回）および渡航前オリエンテーション（7月18日（木）予定）に必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶

西洋思想 2016年度以前入学者

101025NOJ
 大学
 共通教育科目
 2年次 3年次 4年次
 2単位 前期
 月曜3限
 ー
 60
 選択必修
 松井 吉康

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「意志とは何か」と訊かれて、即答できる日本人はそう多くはない。他方、欧米では、意志は人格の核心である。この違いは何か。「意志」という言葉の理解を出発点として、西洋の考え方の基本を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

古代ギリシアの時代から、西洋において意志がどのようなものとして意識されてきたのかを、様々な思想家の生き方や考え方から学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業ガイダンス。この講義の狙い。
- 第 2 回 日本社会と西洋社会の違い。自分の考えで行動するか、周りを見渡して行動するか。

第 3 回 日本人が考える「意志」とは何か。私達は、日常の中でどれだけ「意志」ということを意識しているか。

第 4 回 主体的であるとはどういうことか。一人一人が「個人」であることの意味。

第 5 回 古代ギリシアにおける意志のあり方。ソクラテスの場合。

第 6 回 『ソクラテスの弁明』におけるソクラテスの主体性。

第 7 回 キリスト教世界における「意志」のあり方。罪の主体としての「個人」と「意志」。

第 8 回 「責任」と「意志」。その一体性。

第 9 回 近代ヨーロッパ世界における「意志」の発端としてのデカルト哲学。

第 10 回 真理の判定者である「私たち一人一人」。私を離れて真理があるのではないということ。

第 11 回 欧米社会における「意志」「責任」「自由」。日本社会に見られる無責任体質の源泉である「意志の不在」。

第 12 回 日本の近代化が置き忘れてきた「意志」。日本の近代化が追求してきたのは何か。

第 13 回 「私の意志」とは何か。一人一人が、それを自らに問うてみる。

第 14 回 欧米社会と日本の社会における「意志」の位置づけの違い。私達が考えているよりも、欧米と日本は大きく異なるということに気づくこと。

第 15 回 全体のまとめ。質問の時間。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 授業方法：講義、質疑応答
- 2) 学習方法：質疑応答の中で自分の考えを磨く

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義で扱った事柄を、自分の問題として、日常の中で消化していく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

100パーセント、最終レポートで評価する。レポートを執筆する際には、問題を自分の問題として捉え、あくまでも自分の頭で考えることが大切である。したがって評価もまた、各人が「どれだけ自分の頭で考えたか」で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義という形式ですが、大切なことは、聴講している皆さんが自分で考えるということです。発言を強制したりはしませんが、できるだけ質疑応答が盛んに行われるような授業にしたいと思っていますので、積極的な参加を期待します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽ⅠA 2016年度以前入学者

101029A0J
大学
共通教育科目
1年次
0.5単位 後期前半
木曜 4限
—
7.5
必修
久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、
樂の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ること
になる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリス
ト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時
代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介してい
きたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽
家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考え
る。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を
感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化につ
いても理解するように努める。(2) さまざまな聖歌を歌う
ことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 キリスト教音楽とは
- 第 2 回 教会暦と音楽
- 第 3 回 ミサと聖歌について① (開祭・ことばの典礼)
- 第 4 回 ミサと聖歌について② (感謝の典礼・交わりの儀・閉祭)
- 第 5 回 キリスト教に関するDVD
- 第 6 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
- 第 7 回 聖母マリアと音楽
- 第 8 回 ミサと祈り
※「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、DVDレポート (20点)、授業レポート (50点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(3回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/
9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ (改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/
1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/
2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/
9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽 I B 2016年度以前入学者

101029B0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 0.5単位 前期前半
 木曜 4限
 ー
 7.5
 必修
 久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 キリスト教音楽とは
- 第 2 回 教会暦と音楽
- 第 3 回 ミサと聖歌について① (開祭・ことばの典礼)
- 第 4 回 ミサと聖歌について② (感謝の典礼・交わりの儀・閉祭)
- 第 5 回 キリスト教に関するDVD
- 第 6 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
- 第 7 回 聖母マリアと音楽
- 第 8 回 ミサと祈り
 ※「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法
 基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。
2. 学習の方法
 音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、DVDレポート (20点)、授業レポート (50点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(3回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ(改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽 I C 2016年度以前入学者

101029C0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 0.5単位 後期前半
 金曜 4限
 ー
 7.5
 必修
 久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考え

る。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 キリスト教音楽とは
- 第 2 回 教会暦と音楽
- 第 3 回 ミサと聖歌について① (開祭・ことばの典礼)
- 第 4 回 ミサと聖歌について② (感謝の典礼・交わりの儀・閉祭)
- 第 5 回 キリスト教に関するDVD
- 第 6 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
- 第 7 回 聖母マリアと音楽
- 第 8 回 ミサと祈り
※「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法
基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法
音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、DVDレポート (20点)、授業レポート (50点) に基づいて総合的に行う。欠席回数¹が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(3回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ(改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽 I D 2016年度以前入学者

101029D0J

大学

共通教育科目

1年次

0.5単位 前期前半

金曜 4限

一

7.5

必修

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 キリスト教音楽とは
- 第 2 回 教会暦と音楽
- 第 3 回 ミサと聖歌について① (開祭・ことばの典礼)
- 第 4 回 ミサと聖歌について② (感謝の典礼・交わりの儀・閉祭)
- 第 5 回 キリスト教に関するDVD
- 第 6 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
- 第 7 回 聖母マリアと音楽

第 8 回 ミサと祈り

※「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、DVDレポート (20点)、授業レポート (50点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(3回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ(改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽Ⅱ A 2016年度以前入学者

101030A0J

大学

共通教育科目

1年次

0.5単位 後期後半

木曜4限

ー

7.5

必修

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 キリスト教音楽とは

第 2 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌を聴く～

第 3 回 モーツァルトの宗教音楽～レクイエムを聴く～

第 4 回 アドヴェント(待降節)の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト

第 5 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVDより～

第 6 回 オルガンのしくみ、イタリアのオルガンオルガンとその音楽

第 7 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽

第 8 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目

を通しておく。

提出物に対する講評を授業中に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7.5

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、DVDレポート (20点)、授業レポート (50点) に基づいて総合的に行う。欠席回数¹が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(3回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

・ 読替科目「キリスト教音楽入門」の第1回目には必ず出席のこと。

・ 授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽ⅡB 2016年度以前入学者

101030B0J
大学
共通教育科目
1年次
0.5単位 前期後半
木曜4限
—
7.5
必修
久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介してい

きたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第1回 キリスト教音楽とは

第2回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌を聴く～

第3回 モーツァルトの宗教音楽～レクイエムを聴く～

第4回 アドヴェント(待降節)の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト

第5回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVDより～

第6回 オルガンのしくみ、イタリアのオルガンオルガンとその音楽

第7回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽

第8回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

提出物に対する講評を授業中に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7.5

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、DVDレポート (20点)、授業レポート (50点) に基づいて総合的に行う。欠席回数¹が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(3回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

・ 読替科目「キリスト教音楽入門」の第1回目には必ず出席のこと。

・ 授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽ⅡC 2016年度以前入学者

101030C0J
大学
共通教育科目
1年次
0.5単位 後期後半
金曜 4限
ー
7.5
必修
久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、樂の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。
- (2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 キリスト教音楽とは

第 2 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌を聴く～

第 3 回 モーツァルトの宗教音楽～レクイエムを聴く～
第 4 回 アドヴェント(待降節)の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト

第 5 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVDより～

第 6 回 オルガンのしくみ、イタリアのオルガンオルガンとその音楽

第 7 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽

第 8 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

提出物に対する講評を授業中に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7.5

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(30点)、DVDレポート(20点)、授業レポート(50点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(3回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

・ 代替科目「キリスト教音楽入門」の第1回目には必ず出席のこと。

・ 授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽Ⅱ D 2016年度以前入学者

101030D0J
大学
共通教育科目
1年次
0.5単位 前期後半
金曜4限
ー
7.5
必修
久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 キリスト教音楽とは
 - 第 2 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌を聴く～
 - 第 3 回 モーツァルトの宗教音楽～レクイエムを聴く～
 - 第 4 回 アドヴェント (待降節) の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
 - 第 5 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVDより～
 - 第 6 回 オルガンのしくみ、イタリアのオルガンオルガンとその音楽
 - 第 7 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽
 - 第 8 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次の範囲に目

を通しておく。

提出物に対する講評を授業中に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7.5

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、DVDレポート (20点)、授業レポート (50点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(3回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

・ 代替科目「キリスト教音楽入門」の第1回目には必ず出席のこと。

・ 授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学Ⅰ 2016年度以前入学者

101031A0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期集中
その他
ー
30
必修
吉田 智子 笹岡 隆甫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、永遠の世界を見据える自校教育(徳育)と、時間的世界を見据えるキャリア教育(知育)とを組み合わせたものである。受講者はこのような多面的な学びを通して、ノートルダムの徳と知の精神の基礎を学び、知性と品

性を兼ね備えた人間になろうと常に自ら努力することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

カトリック精神・現実社会の諸相を学ぶことを通じて、ノートルダム精神の基礎を身につける。また、ノートルダムの「徳と知の精神」の体得を目指すことで、知性と品性の両方を持つ人間になる素養を身につける。

- ・ノートルダムのミッション・コミットメントの理解
- ・自校についてルーツを含めて知る
- ・自分のキャリアを意識する
- ・学歌を理解し覚え、正しい英語で歌う

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 「ノートルダム学I」の導入教育、ノートルダムのミッション・コミットメント（私たちの決意）を学ぶ（吉田智子）
- 第 2 回 ノートルダムでのコミュニケーション～学内でのマナーとエチケット～（キャリアセンター）
- 第 3 回 学歌で学ぶノートルダム・スピリット～英語の歌詞を理解して歌うために～（グレゴリー・ピーターソン、久野 将健）
- 第 4 回 聖母マリアの生活と現代社会（シスタージョアンナ徐）
- 第 5 回 華道に学ぶ～心豊かな日常への姿勢～（笹岡 隆甫 華道未生流笹岡家元）
- 第 6 回 自校を知り、自分の将来に役立てる（シスターベルナルド岩井泰子）
- 第 7 回 ノートルダムの世界ネットワーク（シスタージュディス鎌田諭珠）
- 第 8 回 受講した講義のレポートの提出と振り返り（提出されたレポートに対する講評）

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

集中授業として実施される特別プログラムであり、manabaコースの教材を用いたE-Learningも利用して学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示する。配付されたテキストやプリントを事前に読んでくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 30%、提出物 70%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

2016年度以前入学者用に集中授業として実施される特別プログラムである。manabaコースの教材を用いたE-Learningも利用して学ぶ。

授業の日時については、掲示および4月の新学期オリエ

ンテーション期間中に実施される第1回の授業の指示に従うこと（第1回目の授業の日時と場所は、新学期オリエンテーション日程表を参照のこと）。なお、8回すべての授業を吉田智子（徳と知教育センター教授）が統括する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』/徳と知教育センター/京都ノートルダム女子大学/2018//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『レーゲンスブルクの船主の娘～カロリーナ・ゲルハルディンガー、イエスのマザーテレジア、ノートルダム修道女会創立者～』/シスターマルグリート塩田、シスターマグダレン野元/ノートルダム教育修道女会/1992/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学II 2016年度以前入学者

101032A0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期集中
その他
ー
30
必修
吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、永遠の世界を見据える自校教育（徳育）と、時間的世界を見据えるキャリア教育（知育）とを組み合わせたものである。受講者はこのような多面的な学びを通して、ノートルダムの徳と知の精神の基礎を学び、知性と品性を兼ね備えた人間になろうと常に自ら努力することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

カトリック精神・現実社会の諸相を学ぶことを通じて、ノートルダム精神の基礎を身につける。また、ノートルダムの「徳と知の精神」の体得を目指すことで、知性と品性の両方を持つ人間になる素養を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 「ノートルダム学II」の導入教育
- 第 2 回 「ノートルダム学I」で学んだ内容の確認（manabaにて確認）
- 第 3 回 茶道に学ぶ～日本文化の入り口～（伊住 禮次朗 茶道裏千家/茶道資料館副館長）
- 第 4 回

ND6・ノートルダムで身につける6つの力 ～コミュニケーション力の大切さ～

- 第5回 本学のミッション・コミットメントを生きる（真田 雅子学長）
 第6回 女性の権利とライフデザイン（社会保険労務士 山田 真由子）
 第7回 インターネット時代の情報の扱い方 ～ネット社会を味方にするためには～（神月 紀輔）
 第8回 課題（礼状）提出の提出と振り返り。提出された課題の例や講評はmanabaにて公開する
 【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

集中授業として実施される特別プログラムであり、manabaコースの教材を用いたE-Learningも利用して学ぶ。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

詳細は授業時に指示する。配付されたテキストやプリントを事前に読んでくる。

【準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）】

15

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

授業参加度30%、提出物70%で評価する。

【留意事項（Other Information）】

2016年度以前入学者用に集中授業として実施される特別プログラムである。manabaコースの教材を用いたE-Learningも利用して学ぶ。

授業の日時については、掲示および4月の新学期オリエンテーション期間中に実施される第1回の授業の指示に従うこと（第1回目の授業の日時と場所は、新学期オリエンテーション日程表を参照のこと）。なお、8回すべての授業を吉田智子（徳と知教育センター教授）が統括する。

【テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）】

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』/徳と知教育センター/京都ノートルダム女子大学/2018//学内販売予定

【参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）】

『レーゲンスブルクの船主の娘～カロリーナ・ゲルハルディングー、イエスのマザーテレジア、ノートルダム修道女会創立者～』/シスターマルグリート塩田、シスターマグダレン野元/ノートルダム教育修道女会/1992/

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

ノートルダム学Ⅲ 2016年度以前入学者

101033NOJ
 大学
 共通教育科目
 4年次
 1単位 集中
 その他
 ー
 30
 必修
 吉田 智子 中里 郁子 久野 将健

【科目の教育目標（Course Description）】

卒業して社会人となることを目前に控え、本学で学んだ大学生活を静かに振り返ることを通して自己の成長を自覚すると共に、社会に出る心構えとしてノートルダム精神（「永遠」を見据えつつ「此の世」でしっかり生きる精神）を再度自覚し直し、志を固めることをねらいとする。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

- 1、社会人としての自覚を持ち、ノートルダム精神を再認識して卒業に臨む。
- 2、黙想会を通して本学での学生生活を静かに振り返り積極的な自己評価を行う。
- 3、卒業後のキャリアデザインを描くことができる。
- 4、卒業式に向けての準備と心構え。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

- 第1回 社会人としての自立とノートルダム精神（久野将健、吉田智子）
 第2回 職業に就いて自立するために（マイナビ 若松怜奈）
 第3回 自分らしく生きる－聖書のまなざし－（中里郁子）
 第4回 女性の権利とライフデザイン（社会保険労務士 山田真由子）
 第5回 黙想会（ノートルダム教育修道女会 シスタージョアンナ徐）
 第6回 各学科ごとの授業を実施（学科教員が担当。日時は学科ごとに案内）
 第7回 4年間の学修成果の確認（学科教員が担当。日時は学科ごとに案内）
 第8回 卒業式を迎えるにあたって（久野将健、他）
 【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

この授業では社会人となる心構えとキャリアプランニングを明確にもつことを目指す。そのため講義だけでなく、実践的な学びやワークショップなど体験型の学びを主とした形式を取る。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。配付されたプリントを読む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度および授業態度、各授業ごとのコメントや感想等の提出、キャリア形成自己評価などを総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

年間を通して集中授業として実施されるので、授業の日時については別途、案内する。第1回～第3回は、4月の新学期オリエンテーション期間中に行う。4年次生の必修科目なので、授業に欠席せざるを得ない時は学事課に相談すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし (必要に応じて、配布)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』/徳と知教育センター/京都ノートルダム女子大学/2018//学内販売予定

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学Ⅲ 2016年度以前入学者

101033U0J

大学

共通教育科目

4年次

1単位 前期集中

その他

ー

30

必修

久野 将健 中里 郁子 吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業して社会人となることを目前に控え、本学で学んだ大学生活を静かに振り返ることを通して自己の成長を自覚すると共に、社会に出る心構えとしてノートルダム精神(「永遠」を見据えつつ「此の世」でしっかり生きる精神)を再度自覚し直し志を固めることをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1、社会人としての自覚を持ち、ノートルダム精神を再認識して卒業に臨む。
- 2、本学での学生生活を振り返り積極的な自己評価を行う。
- 3、卒業後のキャリアデザインを描くことができる。
- 4、卒業式に向けての準備と心構え。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 社会人としての自立とノートルダム精神 (久野将健、吉田智子)

第 2 回 職業に就いて自立するために (マイナビ 若松怜奈)

第 3 回 自分らしく生きるー聖書のまなざしー (中里郁子)

第 4 回 ノートルダムのミッション・コミットメント (私たちの決意) を踏まえた行動を考える (吉田智子)

第 5 回 前期に実施される、カトリック教育センター主催「公開講座」に参加

第 6 回 学歌で学ぶノートルダム・スピリット (冊子「徳と知を学ぶノートルダム学」を参考文献に。吉田智子)

第 7 回 京都ノートルダム女子大学の創生と軌跡 (冊子「徳と知を学ぶノートルダム学」を参考文献に。吉田智子)

第 8 回 レポートの提出と振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

この授業では社会人となる心構えとキャリアプランニングを明確にもつことを目指す。そのため講義だけでなく、実践的な学びやワークショップなど体験型の学びを主とした形式を取る。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。配付されたプリントを読む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度および授業態度、各授業ごとのコメントや感想等の提出、キャリア形成自己評価などを総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

再履修者に対して、前期の間に「ノートルダム学Ⅲ」を終わらせる特別のプログラムである。第1回～第3回までは、通年の通常プログラムとの合同授業で、第4回以降が独自プログラムとなっている。詳細については、4月の新学期オリエンテーション期間中に行う「第4回の授業」で指示する。「第4回の授業」の日時と場所については、新学期オリエンテーション期間中に実施される第1回の授業で、吉田智子に確認すること。不明な点は、学事課に相談すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし (必要に応じて、配布)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』/徳と知教育センター/京都ノートルダム女子大学/2018//学内販売予定

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学Ⅲ 2016年度以前入学者

101033WOJ
 大学
 共通教育科目
 4年次
 1単位 後期集中
 その他
 ー
 30
 必修
 久野 将健 中里 郁子 吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業して社会人となることを目前に控え、本学で学んだ大学生活を静かに振り返ることを通じて自己の成長を自覚すると共に、社会に出る心構えとしてノートルダム精神(「永遠」を見据えつつ「此の世」でしっかり生きる精神)を再度自覚し直し志を固めることをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1、社会人としての自覚を持ち、ノートルダム精神を再認識して卒業に臨む。
- 2、黙想会を通して本学での学生生活を静かに振り返り積極的な自己評価を行う。
- 3、卒業後のキャリアデザインを描くことができる。
- 4、卒業式に向けての準備と心構え。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 社会人としての自立とノートルダム精神 (久野将健、吉田智子)
- 第 2 回 職業に就いて自立するために (マイナビ 若松怜奈)
- 第 3 回 自分らしく生きるー聖書のまなざしー (中里郁子)
- 第 4 回 女性の権利とライフデザイン (社会保険労務士 山田真由子)
- 第 5 回 黙想会 (ノートルダム教育修道女会 シスタージョアンナ徐)
- 第 6 回 各学科ごとの授業を実施 (学科教員が担当。日時は学科ごとに案内)
- 第 7 回 4年間の学修成果の確認 (学科教員が担当。日時は学科ごとに案内)
- 第 8 回 卒業式を迎えるにあたって (久野将健、他)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

この授業では社会人となる心構えとキャリアプランニングを明確にもつこと目指す。そのため講義だけでなく、実践

的な学びやワークショップなど体験型の学びを主とした形式を取る。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。配付されたプリントを読んでくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度および授業態度、各授業ごとのコメントや感想等の提出、キャリア形成自己評価などを総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

再履修者のために、後期のみで「ノートルダム学Ⅲ」を終わらせる特別のプログラムである。第1回～第3回までの授業は前期に実施されるため、manabaコースの教材を用いたE-Learningで学び、レポートを提出する。第4回以降が通常の通常プログラムとの合同授業である。

集中授業として実施されるので、授業の日時については別途、案内する。「第4回の授業」に出たときにも、自分が後期のみ受講者であることを吉田智子に申し出ること。その他、不明な点は、学事課に相談すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし (必要に応じて、配布)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』/徳と知教育センター/京都ノートルダム女子大学/2018//学内販売予定

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ドイツ語Ⅰ 2016年度以前入学者

101230NOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次 2年次 3年次 4年次
 1単位 前期前半
 火曜 2限 木曜 3限
 ー
 15
 週2コマ
 青木 三陽

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

読み物・作文、やさしい会話、ビデオ教材の使用などを通じてドイツ語を話す人々の文化や思考法を学ぶ。

また、初級文法の知識を身につけつつ、ドイツ語の文章を正確に読めるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.教科書の内容に沿った文法課題
- 2.教科書、配布物による文章読解、作文
- 3.視聴覚教材によるドイツ文化の学習

4.ペア・グループワークによるドイツ語会話やディスカッション、またその練習成果としての口頭発表

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、アルファベット
- 第 2 回 ドイツ語の発音
- 第 3 回 動詞の現在人称変化
- 第 4 回 ドイツの都市事情
- 第 5 回 名詞の性
- 第 6 回 ドイツのパン
- 第 7 回 不規則動詞の人称変化
- 第 8 回 名詞の複数形
- 第 9 回 アウトバーン
- 第 10 回 不規則動詞の現在人称変化
- 第 11 回 名詞の複数形
- 第 12 回 名詞の3格
- 第 13 回 ドイツの自動車産業
- 第 14 回 前置詞と名詞の格
- 第 15 回 副文

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

使用教科書の本文は全て二人の人物の会話で成り立っているため、付属の視聴覚教材を利用しつつ、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な学習を目指す。これはペアワーク・グループワークが主な手段となる。同時に講師による文法項目の解説とそれに続く練習問題により、個別の読解力を養う。いずれにしても積極的な授業参加態度が必要不可欠である。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書付属の視聴覚教材を用いて毎回発音の確認をしておくこと。また、教科書中の練習問題に関しては授業中に予習範囲を具体的に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点50%、定期試験50%の総合評価とする。
なお、授業運営の都合上、毎回出欠の確認をとる。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数等の事情により授業予定は若干変更になる場合もある。その場合は授業中に指示する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ドイツ語の時間 恋するベルリン』/清野智昭/朝日出版社/20017/9784255253930C1084/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ドイツ語Ⅱ 2016年度以前入学者

101231N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

火曜2限 木曜3限

ー

15

週2コマ 「ドイツ語I」を履修済み又はそれと同程度のドイツ語学力を有すること

青木 三陽

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

読み物・作文、やさしい会話、ビデオ教材の使用などを通じてドイツ語を話す人々の文化や思考法を学ぶ。

また、初級文法の知識を身につけつつ、ドイツ語の文章を正確に読めるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.教科書の内容に沿った文法課題
- 2.教科書、配布物による文章読解、作文
- 3.視聴覚教材によるドイツ文化の学習
- 4.ペア・グループワークによるドイツ語会話やディスカッション、またその練習成果としての口頭発表

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ドイツの交通事情
- 第 2 回 人称代名詞の3・4格
- 第 3 回 再帰代名詞と再帰動詞
- 第 4 回 名詞の2格
- 第 5 回 ドイツの医療制度
- 第 6 回 定冠詞類
- 第 7 回 不定冠詞類
- 第 8 回 否定冠詞
- 第 9 回 書店と「マンガ」
- 第 10 回 zu不定詞句
- 第 11 回 分離動詞
- 第 12 回 話法の助動詞
- 第 13 回 未来形
- 第 14 回 ドイツの美容院
- 第 15 回 今期のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

使用教科書の本文は全て二人の人物の会話で成り立っているため、付属の視聴覚教材を利用しつつ、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な学習を目指す。これはペアワーク・グループワークが主な手段となる。同時に講師による文法項目の解説とそれに続く練習問題により、個別の読解力を養う。いずれにしても積極的な授業参加態度が必要不可欠である。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書付属の視聴覚教材を用いて毎回発音の確認をしておくこと。また、教科書中の練習問題に関しては授業中に予習範囲を具体的に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点50%、定期試験50%の総合評価とする。
 なお、授業運営の都合上、毎回出欠の確認をとる。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数等の事情により授業予定は若干変更になる場合もある。その場合は授業中に指示する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ドイツ語の時間 恋するベルリン』/清野智昭/朝日出版社/20017/9784255253930C1084/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語ⅠA 2016年度以前入学者

101234A0J
 大学
 共通教育科目
 1年次 2年次 3年次 4年次
 1単位 後期前半
 月曜1限 水曜2限
 ー
 15
 週2コマ
 田中 敏彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書(この教科書は一生使えます)を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法の

しくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭にフランスの文化(歌や映画や文学)について紹介します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞の活用などの文法的側面を、同じほど重視しながら学習します。皆さんが直面する最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 発音Ⅰ 基本母音と子音・綴り字の読み方の規則
① フランス語綴り字は見たとおりには読まない!
- 第 2 回 発音Ⅱ 綴り字の読み方の規則②
フランス語特有の音楽とは(リズム・アクセント・イントネーション)?
- 第 3 回 第1課 名詞・形容詞・冠詞
- 第 4 回 同上 (練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。原則として一つの課を2回で学習します。)
- 第 5 回 第2課 動詞の直説法現在 英語は動詞活用がきわめて簡略化された言語ですが、フランス語は古くからの活用を保存しているため、英語に比べるとかなり複雑です!
- 第 6 回 第3課 部分冠詞 フランス語には英語よりも多くの冠詞がある!
- 第 7 回 同上 (練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。)
- 第 8 回 第4課 比較構文 英語とフランス語はよく似ているので、英語からの類推はかなり有効です。比較構文は英語と基本的に同じ(しかもより簡単)!
- 第 9 回 同上 (練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。)
- 第 10 回 第5課 複合過去 英語の現在完了とは似て異なるもの! 似ていてもかなり違うことがあるので要注意!
- 第 11 回 同上 (練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。)
- 第 12 回 第6課 命令法 英語からの類推が有効なケースです。命令法も英語とほぼ同じ。
- 第 13 回 同上 (練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。)
- 第 14 回 第7課 代名動詞 英語の再帰動詞がフランス語では大活躍しますが、それはなぜ?
- 第 15 回

同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施します。第15回目に前期前半の試験を行います。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切なのです。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の教科の勉強とは違います。理解するだけでは不十分で、体で覚えなければならないのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度（出席および練習問題）と定期試験の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項（Other Information）〕

※ 第15回目に試験を実施します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5訂版/9784560060919/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/9784010753088

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語 I B 2016年度以前入学者

101234B0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期前半

月曜2限 水曜1限

—

15

週2コマ

田中 敏彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書（この教科書は一生使えます）を使用して、半年間で「知

的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭にフランスの文化（歌や映画や文学）について紹介します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞の活用などの文法的側面を、同じほど重視しながら学習します。皆さんが直面する最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第1回 発音I 基本母音と子音・綴り字の読み方の規則①

フランス語綴り

字は見たとおりには読まない！

第2回 発音II 綴り字の読み方の規則②

フランス語特有の音楽とは（リズム・アクセント・イントネーション）？

第3回 第1課 名詞・形容詞・冠詞

第4回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。原則として一つの課を2回で学習します。）

第5回 第2課 動詞の直説法現在 英語は動詞活用がきわめて簡略化された言語ですが、フランス語は古くからの活用を保存しているため、英語に比べるとかなり複雑です！

第6回 第3課 部分冠詞 フランス語には英語よりも多くの冠詞がある！

第7回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

第8回 第4課 比較構文 英語とフランス語はよく似ているので、英語からの類推はかなり有効です。比較構文は英語と基本的に同じ（しかもより簡単）！

第9回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

第10回 第5課 複合過去 英語の現在完了とは似て異なるもの！似ていてもかなり違うことがあるので要注意！

第11回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

第12回 第6課 命令法 英語からの類推が有効なケースです。命令法も英語とほぼ同じ。

第13回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

第14回 第7課 代名動詞 英語の再帰動詞がフランス語では大活躍しますが、それはなぜ？

第15回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施します。第15回目に前期前半の試験を行います。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切なのです。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるということで、この点スポーツとよく似ています。他の教科の勉強とは違います。理解するだけでは不十分で、体で覚えなければならないのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度（出席および練習問題）と定期試験の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項（Other Information）〕

※ 第15回目に試験を実施します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5訂版/9784560060919/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/9784010753088

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語 I C 2016年度以前入学者

101234C0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 3限 金曜 3限

ー

15

週2コマ

田中 敏彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をも

つこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書（この教科書は一生使えます）を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭にフランスの文化（歌や映画や文学）について紹介します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞の活用などの文法的側面を、同じほど重視しながら学習します。皆さんが直面する最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第1回 発音 I 基本母音と子音・綴り字の読み方の規則①

フランス語綴り

字は見たとおりには読まない！

第2回 発音 II 綴り字の読み方の規則②

フランス語特有の音楽とは（リズム・アクセント・イントネーション）？

第3回 第1課 名詞・形容詞・冠詞

第4回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。原則として一つの課を2回で学習します。）

第5回 第2課 動詞の直説法現在 英語は動詞活用がきわめて簡略化された言語ですが、フランス語は古くからの活用を保存しているので、英語に比べるとかなり複雑です！

第6回 第3課 部分冠詞 フランス語には英語よりも多くの冠詞がある！

第7回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

第8回 第4課 比較構文 英語とフランス語はよく似ているので、英語からの類推はかなり有効です。比較構文は英語と基本的に同じ（しかもより簡単）！

第9回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

第10回 第5課 複合過去 英語の現在完了とは似て異なるもの！似ていてもかなり違うことがあるので要注意！

第11回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

第12回 第6課 命令法 英語からの類推が有効なケースです。命令法も英語とほぼ同じ。

第 13 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

第 14 回 第 7 課 代名動詞 英語の再帰動詞がフランス語では大活躍しますが、それはなぜ？

第 15 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施します。第 15 回目に前期前半の試験を行います。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切なのです。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の教科の勉強とは違います。理解するだけでは不十分で、体で覚えなければならないのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度（出席および練習問題）と定期試験の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項（Other Information）〕

※ 第15回目に試験を実施します。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5訂版/9784560060919/学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/9784010753088

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語 II A 2016年度以前入学者

101235A0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜 1限 水曜 2限

—

15

週2コマ 「フランス語I」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。

田中 敏彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書（この教科書は一生使えます）を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても適宜お話するつもりです。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同様に重視して学習します。開始後の最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 後半の第 1 回目にはフランス語の動詞システム（アスペクト・時制・叙法）について概観します。これを知っていればフランス語学習のある程度は見通しを持つことができます。

第 2 回 第 8 課 直説法半過去・大過去 これ以後新しい動詞活用が次から次へと出てきます。活用には一定のルールがあるので、見かけほど覚えるのは難しくはありません！

第 3 回 同上

第 4 回 第 9 課 単純未来・前未来 英語は助動詞を使って未来を表現しますが、フランス語は独立した未来形の活用をもっています。

第 5 回 同上

第 6 回

第10課 疑問代名詞・関係代名詞 疑問代名詞は関係代名詞としても使います。これも英語と同じです。

第 7 回 同上

第 8 回 第11課 単純過去・前過去 単純過去は歴史上や物語上の出来事を示す活用形で、これを知らずに小説は読めません！

第 9 回 同上

第 10 回 第12課 条件法 条件法とは、直接法の過去未来が転じて、事実とは異なる動作・状態を表現するようになったものです。これで非現実の世界を表現します。

第 11 回 同上

第 12 回 第13課 接続法現在・過去 接続法は英語にもあります。仮定法現在と呼ばれているものです。しかし英語には本来の接続法の断片しか残っていません。

第 13 回 同上 フランス語には古くからの接続法の全体が残っています。

第 14 回 予備 余裕があればシャンソンの名曲を聴いていただこうと思っています。ここまでくれば「愛の賛歌」でも「枯葉」でも歌詞の意味がわかります！

第 15 回 試験（1時間）と解説（30分・答え合わせおよび説明）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する（30回目に後半のまとめの試験を行います）。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるので、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の科目のように単に知的に覚えるだけでは十分ではないのです。体で覚えるということが必要なのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度（出席および練習問題）と小テストと定期試験の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5訂版/9784560060919/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/2010年第4版/9784010753088

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語 II B 2016年度以前入学者

101235BOJ

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ 「フランス語I」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。

田中 敏彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書（この教科書は一生使えます）を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても適宜お話するつもりです。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同様に重視して学習します。開始後の最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 後半の第 1 回目にはフランス語の動詞システム（アスペクト・時制・叙法）について概観します。これを知っていればフランス語学習のある程度の見通しを持つことができるはずで。

第 2 回 第 8 課 直説法半過去・大過去 これ以後新しい動詞活用が次から次へと出てきます。活用には一定のルールがあるので、見かけほど覚えるのは難しくはありません！

- 第 3 回 同上
- 第 4 回 第9課 単純未来・前未来 英語は助動詞を使って未来を表現しますが、フランス語は独立した未来形の活用をもっています。
- 第 5 回 同上
- 第 6 回 第10課 疑問代名詞・関係代名詞 疑問代名詞は関係代名詞としても使います。これも英語と同じです。
- 第 7 回 同上
- 第 8 回 第11課 単純過去・前過去 単純過去は歴史上や物語上の出来事を示す活用形で、これを知らずに小説は読めません！
- 第 9 回 同上
- 第 10 回 第12課 条件法 条件法とは、直接法の過去未来が転じて、事実とは異なる動作・状態を表現するようになったものです。これで非現実の世界を表現します。
- 第 11 回 同上
- 第 12 回 第13課 接続法現在・過去 接続法は英語にもあります。仮定法現在と呼ばれているものです。しかし英語には本来の接続法の断片しか残っていません。
- 第 13 回 同上 フランス語には古くからの接続法の全体が残っています。
- 第 14 回 予備 余裕があればシャンソンの名曲を聴いていただこうと思っています。ここまでくれば「愛の賛歌」でも「枯葉」でも歌詞の意味がわかります！
- 第 15 回 試験（1時間）と解説（30分・答え合わせおよび説明）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する（30回目に後半のまとめの試験を行います）。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の科目のように単に知的に覚えるだけでは十分ではないのです。体で覚えるということが必要なのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度（出席および練習問題）と小テストと定期試験の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5訂版/9784560060919/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/2010年第4版/9784010753088

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語ⅡC 2016年度以前入学者

101235C0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 3限 金曜 3限

—

15

週2コマ 「フランス語I」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。

田中 敏彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書（この教科書は一生使えます）を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても適宜お話しするつもりです。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同様に重視して学習します。開始後の最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 後半の第 1 回目にはフランス語の動詞システム（アスペクト・時制・叙法）について概観します。

- これを知っていればフランス語学習のある程度の見通しを持つことができるはずです。
- 第 2 回 第 8 課 直説法半過去・大過去 これ以後新しい動詞活用が次から次へと出てきます。活用には一定のルールがあるので、見かけほど覚えるのは難しくはありません！
- 第 3 回 同上
- 第 4 回 第 9 課 単純未来・前未来 英語は助動詞を使って未来を表現しますが、フランス語は独立した未来形の活用をもっています。
- 第 5 回 同上
- 第 6 回 第 10 課 疑問代名詞・関係代名詞 疑問代名詞は関係代名詞としても使います。これも英語と同じです。
- 第 7 回 同上
- 第 8 回 第 11 課 単純過去・前過去 単純過去は歴史上や物語上の出来事を示す活用形で、これを知らずに小説は読めません！
- 第 9 回 同上
- 第 10 回 第 12 課 条件法 条件法とは、直接法の過去未来が転じて、事実とは異なる動作・状態を表現するようになったものです。これで非現実の世界を表現します。
- 第 11 回 同上
- 第 12 回 第 13 課 接続法現在・過去 接続法は英語にもあります。仮定法現在と呼ばれているものです。しかし英語には本来の接続法の断片しか残っていません。
- 第 13 回 同上 フランス語には古くからの接続法の全体が残っています。
- 第 14 回 予備 余裕があればシャンソンの名曲を聴いていただこうと思っています。ここまでくれば「愛の賛歌」でも「枯葉」でも歌詞の意味がわかります！
- 第 15 回 試験（1時間）と解説（30分・答え合わせおよび説明）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する（30回目に後半のまとめの試験を行います）。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるということで、この点スポーツとよく似ています。他の科目のように単に知的に覚えるだけでは十分ではないのです。体で覚えるということが必要なのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度（出席および練習問題）と小テストと定期試験の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5訂版/9784560060919/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/2010年第4版/9784010753088

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

スペイン語ⅠA 2016年度以前入学者

101240A0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 1限 水曜 2限

ー

15

週2コマ

平山 幸乃

〔科目の教育目標（Course Description）〕

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度の力をつける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

スペイン語の文章を音読する。

初歩的な会話表現を習得する。

基礎文法（直説法現在）を習得する。

スペイン語圏の文化について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 第1課 アルファベット

第 2 回 第1課 母音、子音、アクセント

第 3 回 第2課 名詞

第 4 回 第2課 冠詞

第 5 回 第3課 形容詞

第 6 回 第3課 指示詞

第 7 回 第4課 主語

第 8 回 第4課 serの直説法現在

第 9 回 第4課 疑問文と否定文

第 10 回 第5課 estarの直説法現在

第 11 回 第5課 serとestarの比較

第 12 回 第5課 所有詞

第 13 回 第 6 課 hayの用法
 第 14 回 第 6 課 estarとhayの比較
 第 15 回 第 6 課 時刻・曜日・月日の表現
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。

前回の授業で学んだ内容を復習する。

教科書の付属CDでの聞き取り、及び音読を行う。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

各課ごとに行う小テストで評価する。

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『Plaza Amigos Espa?ol para hablar I』/青砥清一 他/朝日出版社/2011/9784255550428/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/2003/9784560000489

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

スペイン語 I B 2016年度以前入学者

101240B0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ

平山 幸乃

[科目の教育目標 (Course Description)]

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度の力をつける。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

スペイン語の文章を音読する。

初歩的な会話表現を習得する。

基礎文法(直説法現在)を習得する。

スペイン語圏の文化について学ぶ。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

[授業計画]

第 1 回 第1課 アルファベット

第 2 回 第1課 母音、子音、アクセント

第 3 回 第2課 名詞

第 4 回 第2課 冠詞

第 5 回 第3課 形容詞

第 6 回 第3課 指示詞

第 7 回 第4課 主語

第 8 回 第4課 serの直説法現在

第 9 回 第4課 疑問文と否定文

第 10 回 第5課 estarの直説法現在

第 11 回 第5課 serとestarの比較

第 12 回 第5課 所有詞

第 13 回 第6課 hayの用法

第 14 回 第6課 estarとhayの比較

第 15 回 第6課 時刻・曜日・月日の表現

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。

前回の授業で学んだ内容を復習する。

教科書の付属CDでの聞き取り、及び音読を行う。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

各課ごとに行う小テストで評価する。

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『Plaza Amigos Espa?ol para hablar I』/青砥清一 他/朝日出版社/2011/9784255550428/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/2003/9784560000489

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

スペイン語Ⅱ A 2016年度以前入学者

101241A0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜1限 水曜2限

ー

15

週2コマ 「スペイン語I」履修済み又はそれと同程度のスペイン語
学力を有すること。

平山 幸乃

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度
の力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

スペイン語の文章を音読する。

初歩的な会話表現を習得する。

基礎文法(直説法現在)を習得する。

スペイン語圏の文化について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 第7課 -ar動詞の直説法現在
- 第2回 第7課 疑問詞・前置詞
- 第3回 第8課 -er動詞の直説法現在
- 第4回 第8課 -ir動詞の直説法現在
- 第5回 第9課 動詞quererの直説法現在
- 第6回 第9課 動詞poderの直説法現在
- 第7回 第10課 動詞hacerの直説法現在
- 第8回 第10課 動詞tenerの直説法現在
- 第9回 第10課 基数
- 第10回 第11課 動詞irの直説法現在
- 第11回 第11課 動詞venirの直説法現在
- 第12回 第12課 動詞darの直説法現在
- 第13回 第12課 動詞saberの直説法現在
- 第14回 第12課 目的格人称代名詞
- 第15回 これまでの復習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。

前回の授業で学んだ内容を復習する。

教科書の付属CDでの聞き取り、及び音読を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各課ごとに行う小テストで評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Plaza Amigos Espa?ol para hablar I』/青砥清一 他/朝日出版社/2011/9784255550428/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/2003/9784560000489

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

スペイン語Ⅱ B 2016年度以前入学者

101241B0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜2限 水曜1限

ー

15

週2コマ 「スペイン語I」履修済み又はそれと同程度のスペイン語
学力を有すること。

平山 幸乃

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度
の力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

スペイン語の文章を音読する。

初歩的な会話表現を習得する。

基礎文法(直説法現在)を習得する。

スペイン語圏の文化について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 第7課 -ar動詞の直説法現在
- 第2回 第7課 疑問詞・前置詞
- 第3回 第8課 -er動詞の直説法現在
- 第4回 第8課 -ir動詞の直説法現在
- 第5回 第9課 動詞quererの直説法現在
- 第6回 第9課 動詞poderの直説法現在
- 第7回 第10課 動詞hacerの直説法現在
- 第8回 第10課 動詞tenerの直説法現在
- 第9回 第10課 基数

- 第 10 回 第 1 1 課 動詞irの直説法現在
- 第 11 回 第 1 1 課 動詞venirの直説法現在
- 第 12 回 第 1 2 課 動詞darの直説法現在
- 第 13 回 第 1 2 課 動詞saberの直説法現在
- 第 14 回 第 1 2 課 目的格人称代名詞
- 第 15 回 これまでの復習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。

前回の授業で学んだ内容を復習する。

教科書の付属CDでの聞き取り、及び音読を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各課ごとにを行う小テストで評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Plaza Amigos Espa?ol para hablar I』/青砥清一 他/朝日出版社/2011/978425550428/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/2003/9784560000489

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I A (16以前) 2016年度以前入学者

101250A0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 3限 水曜 3限

—

15

週2コマ

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びは

じめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことが本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を覚える。
3. スマートフォンの学習アプリを使って、中国語の単語帳を作ってみる。
4. 中国語検定準4級を目指す。
5. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
使用する教科書の第1課から第5課まで授業する予定。
中国語についての紹介
- 第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について
四声の特徴、発音、表記記号と表記ルール
- 第 3 回 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表記記号と表記ルール
- 第 4 回 中国語の子音
子音の発音、表記記号と表記ルール
- 第 5 回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第 6 回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第 7 回 3つの基本の疑問文
諾否疑問文、疑問詞疑問文と反復疑問文
- 第 8 回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 数詞について
数字の言い方、使い方
- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第 12 回 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
- 第 13 回 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第 14 回 量詞について
ものの数え方、量詞の中国語文の中の立ち位置
- 第 15 回 総合練習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

外部講師或いは留学生を招いて、中国語、中国文化など多文化交流に関する討論会を開く場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

白帝社ホームページ

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I B (16以前) 2016年度以前入学者

101250B0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 2限 水曜 1限

ー

15

週2コマ

柴 礼敏

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語

としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことが本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を覚える。
3. スマートフォンの学習アプリを使って、中国語の単語帳を作ってみる。
4. 中国語検定準4級を目指す。

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

使用する教科書の第1課から第5課まで授業する予定。

中国語についての紹介

第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について

四声の特徴、発音、表記記号と表記ルール

第 3 回 中国語の母音

単母音と複合母音音の発音、表記記号と表記ルール

第 4 回 中国語の子音

子音の発音、表記記号と表記ルール

第 5 回 中国語で名前を言う

名前の言い方、聞き方

第 6 回 動詞“是”の使い方

判断文“是”の肯定文、否定文

第 7 回 3つの基本の疑問文

諸否疑問文、疑問詞疑問文と反復疑問文

第 8 回 基本的な構文 (1)

動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文

第 9 回 数詞について

数字の言い方、使い方

第 10 回 基本的な構文 (2)

形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文

第 11 回 時の言い方 (1)

日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置

第 12 回 時の言い方 (2)

時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置

第 13 回 比較の構文

比較の肯定文、否定文、疑問文

第 14 回 量詞について

ものの数え方、量詞の中国語文の中の立ち位置

第 15 回 総合練習

テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで

で会話する。

3.ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

外部講師或いは留学生を招いて、中国語、中国文化など多文化交流に関する討論会を開く場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

白帝社ホームページ

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I C (16以前) 2016年度以前入学者

101250C0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期前半

月曜1限 水曜2限

ー

15

週2コマ

陶 盈

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本

格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことが本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.基本的な発音と声調をマスターする。
- 2.簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を覚える。
3. スマートフォンの学習アプリを使って、中国語の単語帳を作ってみる。
4. 中国語検定準4級を目指す。
- 5.授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
使用する教科書の第1課から第5課まで授業する予定。
中国語についての紹介
- 第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について
四声の特徴、発音、表記記号と表記ルール
- 第 3 回 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表記記号と表記ルール
- 第 4 回 中国語の子音
子音の発音、表記記号と表記ルール
- 第 5 回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第 6 回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第 7 回 3つの基本の疑問文
諾否疑問文、疑問詞疑問文と反復疑問文
- 第 8 回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 数詞について
数字の言い方、使い方
- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)

- 日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第12回 時の言い方(2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
- 第13回 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第14回 量詞について
ものの数え方、量詞の中国語文の中の立ち位置
- 第15回 総合練習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

外部講師或いは留学生を招いて、中国語、中国文化など多文化交流に関する討論会を開く場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

白帝社ホームページ

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫日本電産株式会社中途入社、海外事業管理部に配属。法務・知的財産・広報・財務・社長書簡など多分野にわたる専門資料の翻訳、社長と中国政府高官との会

談そのた社内会議の通訳、その他海外事業の管理業務を担当。翻訳通訳とも日中双方向担当。産業翻訳・通訳者としての実務経験4年。

中国語 I D (16以前) 2016年度以前入学者

101250DOJ

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜1限 水曜2限

ー

15

週2コマ

王 嵐

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことが本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を覚える。
3. スマートフォンの学習アプリを使って、中国語の単語帳を作ってみる。
4. 中国語検定準4級を目指す。

〔授業計画〕

- 第1回 イントロダクション
使用する教科書の第1課から第5課まで授業する予定。
中国語についての紹介
- 第2回 中国語の特徴の一つ声調について
四声の特徴、発音、表記記号と表記ルール
- 第3回 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表記記号と表記ルール
- 第4回 中国語の子音
子音の発音、表記記号と表記ルール
- 第5回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第6回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第7回 3つの基本の疑問文
諾否疑問文、疑問詞疑問文と反復疑問文
- 第8回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第9回 数詞について
数字の言い方、使い方

- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第 12 回 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
- 第 13 回 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第 14 回 量詞について
ものの数え方、量詞の中国語文の中の立ち位置
- 第 15 回 総合練習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

外部講師或いは留学生を招いて、中国語、中国文化など多文化交流に関する討論会を開く場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

白帝社ホームページ

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 II A (16以前) 2016年度以前入学者

101251A0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 3限 水曜 3限

—

15

週2コマ 「中国語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語Iの前半に引き続き、基礎的な中国語文法と会話を中心に授業を進める。授業中の個人またはグループ学習による発音練習、会話練習、中国語朗読の繰り返しを通して、学生の会話力をアップさせることを目標とします。またゲストとして中国人留学生を授業に招き、学生同士の中国語会話を通じて、会話練習と文化交流も行う予定。その他、言語学習を通して、学生の異文化への興味を起こさせるために、時には中国に関する最新映像、特に中国の大学生、若者に関するニュースを上映し、学生と異文化コミュニケーションの話題もする予定。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な文法をマスターする。
2. 簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を学習する。
3. スマートフォンの学習アプリを使って、中国語で大学紹介のビデオを作成する。
4. 中国語検定準4級を目指す。
5. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 復習
使用する教科書の第6課から第10課を学習する予定。
前半に学んだ中国語の復習
- 第 2 回 指示詞について
もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
- 第 3 回 基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文一連動文について
- 第 4 回 願望表現の言い方
“会”、“能”、“可以”の使い方
- 第 5 回 もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方
- 第 6 回 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 7 回 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文

第 8 回	経験相について 経験相の肯定文、否定文、疑問文
第 9 回	いくつかの副詞について ”才”、”就”、”太…了”の使い方
第 10 回	補語について (1) 程度補語の使い方
第 11 回	”在”+場所の構文 前置詞”在”の使い方
第 12 回	いくつかの前置詞について ”給”、”?”、”从”、”跟”の使い方
第 13 回	趣味、嗜好の言い方 ”喜?”、”?”、”?…感?趣”の使い方
第 14 回	時間の量について 時間の量の表現と中国語文の中の立ち位置
第 15 回	総合復習 テストと解説
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕	
実施しない	
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕	
1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。	
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。	
3. ビデオによる映像資料を多用する。	
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕	
本教科書には課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。	
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕	
7	
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕	
評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。	
〔留意事項 (Other Information)〕	
外部講師或いは留学生を招いて、中国語、中国文化など多文化交流に関する討論会を開く場合もある。	
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕	
『語順から学ぶ中国語 1 改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/ 2015//学内販売予定	
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕	
『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//	
『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//	
〔参考URL(URL for Reference)〕	
〔実務経験のある教員による実践的科目〕	

中国語 II B (16以前) 2016年度以前入学者

101251BOJ

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ 「中国語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

柴 礼敏

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語Iの前半に引き続き、基礎的な中国語文法と会話を中心に授業を進める。授業中の個人またはグループ学習による発音練習、会話練習、中国語朗読の繰り返しを通して、学生の会話力をアップさせることを目標とします。またゲストとして中国人留学生を授業に招き、学生同士の中国語会話を通じて、会話練習と文化交流も行う予定。その他、言語学習を通して、学生の異文化への興味を起こさせるために、時には中国に関する最新映像、特に中国の大学生、若者に関するニュースを上映し、学生と異文化コミュニケーションの話題もする予定。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な文法をマスターする。
2. 簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を学習する。
3. スマートフォンの学習アプリを使って、中国語で大学紹介のビデオを作成する。
4. 中国語検定準4級を目指す。

〔授業計画〕

- | | |
|--------|-------------------------------------------------|
| 第 1 回 | 復習
使用する教科書の第6課から第10課を学習する予定。
前半に学んだ中国語の復習 |
| 第 2 回 | 指示詞について
もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方 |
| 第 3 回 | 基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文一連動文について |
| 第 4 回 | 願望表現の言い方
“会”、“能”、“可以”の使い方 |
| 第 5 回 | もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方 |
| 第 6 回 | 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文 |
| 第 7 回 | 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文 |
| 第 8 回 | 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文 |
| 第 9 回 | いくつかの副詞について
”才”、“就”、“太…了”の使い方 |
| 第 10 回 | 補語について (1)
程度補語の使い方 |

- 第 11 回 ”在”+場所の構文
前置詞”在”の使い方
- 第 12 回 いくつかの前置詞
”給”、”?”、”?”、”跟”の使い方
- 第 13 回 趣味、嗜好の言い方
”喜?”、”?”、”?”・・・感?趣”の使い方
- 第 14 回 時間の量について
時間の量の表現と中国語文の中の立ち位置
- 第 15 回 総合復習
テストと解説
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書には課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

外部講師或いは留学生を招いて、中国語、中国文化など多文化交流に関する討論会を開く場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語 1 改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/ 2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 II C (16以前) 2016年度以前入学者

101251C0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜 1限 水曜 2限

ー

15

週2コマ 「中国語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

陶 盈

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語Iの前半に引き続き、基礎的な中国語文法と会話を中心に授業を進める。授業中の個人またはグループ学習による発音練習、会話練習、中国語朗読の繰り返しを通して、学生の会話力をアップさせることを目標とします。またゲストとして中国人留学生を授業に招き、学生同士の中国語会話を通じて、会話練習と文化交流も行う予定。その他、言語学習を通して、学生の異文化への興味を起こさせるために、時には中国に関する最新映像、特に中国の大学生、若者に関するニュースを上映し、学生と異文化コミュニケーションの話題もする予定。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な文法をマスターする。
2. 簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を学習する。
3. スマートフォンの学習アプリを使って、中国語で大学紹介のビデオを作成する。
4. 中国語検定準4級を目指す。
5. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 復習

使用する教科書の第6課から第10課を学習する予定。

前半に学んだ中国語の復習

第 2 回 指示詞について

- もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
- 第 3 回 基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文—連動文について
- 第 4 回 願望表現の言い方
“会”、“能”、“可以”の使い方
- 第 5 回 もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方
- 第 6 回 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 7 回 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 8 回 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 いくつかの副詞について
“才”、“就”、“太…了”の使い方
- 第 10 回 補語について (1)
程度補語の使い方
- 第 11 回 “在”+場所の構文
前置詞“在”の使い方
- 第 12 回 いくつかの前置詞
“給”、“?”、“从”、“跟”の使い方
- 第 13 回 趣味、嗜好の言い方
“喜?”、“?”、“?…感?趣”の使い方
- 第 14 回 時間の量について
時間の量の表現と中国語文の中の立ち位置
- 第 15 回 総合復習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書には課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

外部講師或いは留学生を招いて、中国語、中国文化など多文化交流に関する討論会を開く場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語 1 改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/ 2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》日本電産株式会社中途入社、海外事業管理部に配属。法務・知的財産・広報・財務・社長書簡など多分野にわたる専門資料の翻訳、社長と中国政府高官との会談そのた社内会議の通訳、その他海外事業の管理業務を担当。翻訳通訳とも日中双方向担当。産業翻訳・通訳者としての実務経験4年。

中国語 II D (16以前) 2016年度以前入学者

101251D0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 1限 水曜 2限

—

15

週2コマ 「中国語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

王 嵐

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語Iの前半に引き続き、基礎的な中国語文法と会話を中心に授業を進める。授業中の個人またはグループ学習による発音練習、会話練習、中国語朗読の繰り返しを通して、学生の会話力をアップさせることを目標とします。またゲストとして中国人留学生を授業に招き、学生同士の中国語会話を通じて、会話練習と文化交流も行う予定。その他、言語学習を通して、学生の異文化への興味を起こさせるために、時には中国に関する最新映像、特に中国の大学生、若者に関するニュースを上映し、学生と異文化コミュニケーションの話題もする予定。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な文法をマスターする。
2. 簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を学習する。
3. スマートフォンの学習アプリを使って、中国語で大学紹介のビデオを作成する。
4. 中国語検定準4級を目指す。

〔授業計画〕

第 1 回 復習

使用する教科書の第6課から第10課を学習する予定。

前半に学んだ中国語の復習

第 2 回 指示詞について

- 第 3 回 物の、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文—連動文
について
- 第 4 回 願望表現の言い方
“会”、“能”、“可以”の使い方
- 第 5 回 もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方
- 第 6 回 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 7 回 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 8 回 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 いくつかの副詞について
“才”、“就”、“太…了”の使い方
- 第 10 回 補語について (1)
程度補語の使い方
- 第 11 回 “在”+場所の構文
前置詞“在”の使い方
- 第 12 回 いくつかの前置詞
“給”、“?”、“?”、“跟”の使い方
- 第 13 回 趣味、嗜好の言い方
“喜?”、“?”、“?…感?趣”の使い方
- 第 14 回 時間の量について
時間の量の表現と中国語文の中の立ち位置
- 第 15 回 総合復習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書には課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

外部講師或いは留学生を招いて、中国語、中国文化など多文化交流に関する討論会を開く場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語 1 改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/ 2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語Ⅲ (16以前) 2016年度以前入学者

101252N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期前半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ 「中国語II」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業はすでに一年間中国語を学習した学生を対象とするものである。中国語Iと中国語IIで学習した日常会話や基本的な文法を確認しながら、より高度な中国語を身につけることを目標とする。中国語と中国文化に興味を持たせることが肝心である。教科書にある文法と単語学習をしっかりと消化した上、授業ごとに、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場面を設定し、グループ学習と会話練習を行う。中国語検定試験準4級に合格することを念頭において、中国語Iと中国語IIで学習したの会話、単語、文法を復習しながら、準4級の過去問題も練習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 発音と文法の復習。
2. 日常会話をさらにグレードアップする。
3. 中国語検定試験準4級合格を目指す。
4. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
使用する教科書の第1課から第5課まで授業する予定。
中国語Iと中国語IIの復習
- 第 2 回 方向補語(1)
方向補語“来”と“去”
- 第 3 回 いくつかの前置詞

- ”到”、”对”、”除了”の使い方
- 第 4 回 理由と原因を言う
“因?・・・所以”の使い方
- 第 5 回 結果補語について
“動詞+完”、“動詞+到”、“動詞+好”などの使い方
- 第 6 回 副詞と数量詞の違い
副詞「有点儿」と数量詞「一点儿」の使い分け
- 第 7 回 使役文について
使役文の構文と作り方
- 第 8 回 方向補語（2）
複合方向補語の使い方
- 第 9 回 存現文について
存現文の特徴と構文
- 第 10 回 受け身について
受け身の構文と言ひ方
- 第 11 回 間接目的語について
間接目的語の特徴と構文
- 第 12 回 処置文について
処置文“把”の使い方
- 第 13 回 語気助詞について
変化を表す“了”の使い方
- 第 14 回 推量の表現について
推量の“会・・・了”について
- 第 15 回 総合練習
テストと解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 音声教材を使い、聞き取り練習をする。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（15%）、予習復習成果（宿題提出を含む、15%）、テスト（70%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

外部講師或いは留学生を招いて、中国語、中国文化など多文化交流に関する討論会を開く場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語 2 改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//
『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

白帝社ホームページ

<http://www.kakuteisha.co.jp/audio/gojun-2.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語Ⅳ（16以前） 2016年度以前入学者

101253N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ 「中国語Ⅲ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

朱 鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本授業は中国語Ⅲを終了した学生、あるいは同等程度のレベルのある学生を対象とするものである。中国人と簡単なコミュニケーションができる程度の中国語を身につけることを目標とする。中国語と中国文化に興味を持たせることが肝心である。教科書にある文法と単語学習をしっかりと消化した上、授業ごとに、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場面を設定し、グループ学習と会話練習を行う。中国語検定試験準4級に合格することを念頭において、中国語Ⅲの会話、単語、文法を復習しながら、準4級の過去問題も繰り返し練習する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 発音と文法の復習。
2. 日常会話をさらにグレードアップする。
3. 中国語検定試験準4級合格を目指す。
4. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 前半のまとめ

使用する教科書の第6課から第10課まで授業する予定。

前半の復習

- 第 2 回 動詞の持続と状態について
“動詞+着”の構文と使い方
- 第 3 回 主述述語文について
主述述語文の特徴と構文
- 第 4 回 目的を表現する
“了”の使い方
- 第 5 回 強調の表現
「一点儿也/都」+否定の言い方
- 第 6 回 可能補語について
可能補語の構文と使い方
- 第 7 回 許可、可能の表現
“可以”、“能”の使い方
- 第 8 回 仮定文
“如果・・・的?”の構文と使い方
- 第 9 回 方向補語の派生的な表現
“動詞+起来”、“動詞+下去”の使い方
- 第 10 回 変化を表現する
“已?・・・了”の構文と使い方
- 第 11 回 兼語文について
兼語式連動文
- 第 12 回 可能補語の派生的な表現
“動詞+得起”、“動詞+得下”の使い方
- 第 13 回 補語について
中国語における補語発達の理由
- 第 14 回 提案と誘いの言い方
“怎??”の言い方
- 第 15 回 総合練習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声教材を使い、聞き取り練習をする。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

外部講師或いは留学生を招いて、中国語、中国文化など多文化交流に関する討論会を開く場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語 2 改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

白帝社ホームページ

<http://www.kakuteisha.co.jp/audio/gojun-2.html>

教科書の音声をダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語Ⅴ 2016年度以前入学者

101260N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ 「中国語Ⅳ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること ※平成22年度以後入学者に適用

朱鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語上級レベルの授業である。初級と中級を学習した教科書を利用して、ワンランク上の総合的な学習を行う。学習の目標としては「ネイティブ並に中国語を話すではなく、ひるむことなく学習した中国語でコミュニケーションできる」ことである。また中国語検定試験準4級、4級合格を目指して、必要な文法と単語を中心に学習することも本授業の目標の一つである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。
2. 中国語検定試験準4級、4級に必要な単語を覚え、文章の読解力とヒアリング能力を向上させる。
3. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 中国語検定試験準4級の単語—単語の範囲

第 2 回 中国語検定試験準4級の文法—肯定文、否定文

- 第 3 回 中国語検定試験準4級のリスニングーピンインのリスニング
- 第 4 回 中国語検定試験準4級の漢字ー中国語漢字と日本語漢字の違い
- 第 5 回 中国語検定試験準4級の記事ー読解
- 第 6 回 中国語検定試験準4級の翻訳ー日本語から中国語へ
- 第 7 回 模擬テストー2017年の過去問を中心に
- 第 8 回 中国語検定試験準4級の単語ー単語の理解と覚え方
- 第 9 回 中国語検定試験準4級の文法ー疑問文、仮定文
- 第 10 回 中国語検定試験準4級のリスニングー短文のリスニング
- 第 11 回 中国語検定試験準4級の漢字ー書き方
- 第 12 回 中国語検定試験準4級の記事ー作文
- 第 13 回 中国語検定試験準4級の翻訳ー中国語から日本語へ翻訳
- 第 14 回 模擬テストー2018年の過去問を中心に
- 第 15 回 テストと解説
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
中国語検定試験準4級、4級レベルを目指して、過去の問題集や受験用の問題集を繰り返す練習する。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また小テストも実施する予定。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
10
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015//学内販売予定
『語順から学ぶ中国語2改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015//学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
中国語検定試験 過去問 WEB https://chukenweb.jp/list_tests.php
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語VI 2016年度以前入学者

101261NOJ

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 2限 水曜 1限

ー

15

週2コマ 「中国語V」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること ※平成22年度以後入学者に適用

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は中国語Vを受けた学生、あるいは同レベルに達した学生を対象にし、中国語検定試験準4級、4級を受けることを目標にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中国語Vに引き続き、中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。
2. 中国語検定試験準4級と4級に必要な単語を覚え、文章の読解力をヒアリング能力を向上させる。
3. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 中国語検定試験4級の単語ー単語の範囲
- 第 2 回 中国語検定試験4級の文法ー肯定文、否定文
- 第 3 回 中国語検定試験4級のリスニングーピンインのリスニング
- 第 4 回 中国語検定試験4級の漢字ー中国語漢字と日本語漢字の違い
- 第 5 回 中国語検定試験4級の記事ー読解
- 第 6 回 中国語検定試験4級の翻訳ー日本語から中国語へ
- 第 7 回 模擬テストー2017年の過去問を中心に
- 第 8 回 中国語検定試験4級の単語ー単語の理解と覚え方
- 第 9 回 中国語検定試験4級の文法ー疑問文、仮定文
- 第 10 回 中国語検定試験4級のリスニングー短文のリスニング
- 第 11 回 中国語検定試験4級の漢字ー書き方
- 第 12 回 中国語検定試験4級の記事ー作文
- 第 13 回 中国語検定試験4級の翻訳ー中国語から日本語へ
- 第 14 回 模擬テストー2018年の過去問を中心に
- 第 15 回 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

中国語検定試験準4級、4級レベルを目指して、過去の問題集や受験用の問題集を繰り返す練習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015//学内販売予定

『語順から学ぶ中国語2改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

中国語検定試験 過去問WEB https://chukenweb.jp/list_tests.php

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラビア語Ⅰ 2016年度以前入学者

101561N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期前半

火曜3限 木曜1限

—

15

定員40人 週2コマ

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「アラビア語」は中東・北アフリカを中心とする国々で用いられ、世界の言語の中でも大変広い地域で話されている。また国連の公用語の1つにも数えられている主要言語のひとつである。本科目の目標はアラビア語の読み・書き・聞く・話す基本を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことである。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、28文字からなるアラビア語のアルファベットの書き方と発音を学び、基礎的な語彙、挨拶や日常会話表現を学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 28文字から成るアラビア語のアルファベットの書き方・発音を学ぶ。
2. 教科書の基本文や会話を理解し、文法を学ぶ。

3. ドリルで応用力をつける。

4. アラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 アラビア語とは
- 第2回 「こんにちは」アラビア語のアルファベット
- 第3回 「おはよう」アラビア語のアルファベット
- 第4回 「またお会いするまで」アラビア語のアルファベット
- 第5回 「こんばんは」アラビア語のアルファベット
- 第6回 「ありがとう」アラビア語のアルファベット
- 第7回 「ようこそ」アラビア語のアルファベット
- 第8回 「お元気ですか」アラビア語のアルファベット以外の文字と記号
- 第9回 「アッサラーム・アライクム」太陽文字と月文字
- 第10回 「あなたの名前は？」○○人という表現、数字1～10
- 第11回 「私の名前は…」名前の書き方
- 第12回 「はい」「いいえ」格について
- 第13回 「ごめんなさい」名詞の性について
- 第14回 「あなたは学生ですか」独立人称代名詞
- 第15回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 予習で事前に課題を理解し、語彙など必要事項を記憶する。
2. 授業で十分に理解する。
3. 授業中のテストで理解の確認を行う。
4. 復習で学習したことを把握し、保持する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 教科書の課された範囲を毎回予習する。
2. 小テストがある場合は、それに備える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加25%、小テスト・宿題25%、試験50%。
出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

回によっては、イマージョン・スペースや教室の内外で、ネイティブ・スピーカーなどのゲスト講師を招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラーム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『初歩のアラビア語』/鷺見朗子/放送大学教育振興会/2011//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『パスポート日本語アラビア語辞典』/本田幸一他編/白水社/2004/

『パスポート初級アラビア語辞典』/本田幸一他編/白水社/1997/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラビア語Ⅱ 2016年度以前入学者

101562NOJ

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

火曜 3限 木曜 1限

ー

15

定員40人 週2コマ

鷺見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、「アラビア語Ⅰ」で培ったアラビア語の読み・書き・聞く・話す能力をさらに伸ばし、応用力をつけていくことである。基本フレーズとスキットに含まれる文法を理解し、文法に関連付けたコミュニケーション能力を高める。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、出身の表現、場所の尋ね方、家族の紹介、数詞(基数)、単数・双数・複数、動詞未完了形、動詞完了形、語根と語形パターン、等位文の否定、疑問詞などを学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 教科書の基本文や会話を理解しながら、文法を学ぶ。
2. ドリルで応用力をつける。
3. アラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 「モスクはどこですか」 定冠詞
- 第 2 回 「それはここから近いですか」 形容詞
- 第 3 回 「こちらはどなたですか」 接尾人称代名詞
- 第 4 回 「これは私の父です」「○○があります」 指示代名詞
- 第 5 回 「いつもみなさんがお元気でありますように」 イダーファ

第 6 回 「あなたたちは車を持っていますか」 前置詞を使った所有表現

第 7 回 「これらのお寺や神社は素晴らしいです」 双数・複数

第 8 回 「2つの有名な公園があります」 名詞と形容詞の一致

第 9 回 「アラビア語を勉強しています」 動詞未完了形

第 10 回 「この石けんはいくらですか」 動詞未完了形

第 11 回 「パレスチナ料理を食べましたか」 動詞完了形・語根

第 12 回 「私は彼がとても好きなの」 等位文の否定ライサ

第 13 回 「彼は日本では知られていないよ」 自己紹介

第 14 回 「私は○○が好きです」 の表現

第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 予習で事前に課題を理解し、語彙など必要事項を記憶する。
2. 授業で十分に理解する。
3. 授業中のテストで理解の確認を行う。
4. 復習で学習したことを把握し、保持する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 教科書の課された範囲を毎回予習する。
2. 小テストがある場合は、それに備える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加25%、小テスト・宿題25%、試験50%。

出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

「アラビア語Ⅰ」の履修者およびそれと同等のアラビア語の学力を備えていると担当教員がみなした者を対象とする。回によっては、イマージョン・スペースや教室の内外で、ネイティブ・スピーカーなどのゲスト講師を招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラーム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『初歩のアラビア語』/鷺見朗子/放送大学教育振興会/2011//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『パスポート日本語アラビア語辞典』/本田幸一他編/白水社/2004/

『パスポート 初級アラビア語辞典』/本田幸一他編/白水社/1997/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラビア語Ⅲ 2016年度以前入学者

101563NOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次 2年次 3年次 4年次
 1単位 前期
 木曜4限
 ー
 15
 定員40人
 鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、「アラビア語Ⅰ」「アラビア語Ⅱ」で学んだことを基盤に、4技能(読み・書き・聞く・話す)を統合的に活用でき、正しい文法知識に基づいた、より高度なコミュニケーション能力を伸ばすことである。また、スキットと会話表現を通じて、新しい語彙、動詞活用、正しい発音を習得することである。内容としては、現在の習慣や状況の説明、既に起こったことの説明、数詞(序数)、時刻、第2形～第10形の動詞派生形とその活用などを学習する。アラビア語学習のなかでアラブ文化の理解もさらに育んでいく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. コミュニケーション力を伸ばす。
2. 文法事項を正確に理解する。
3. 語彙・表現力をつける。
4. 正しい発音を身につける。
5. アラブ文化の理解を促進する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 「ジュハアが好きです」疑問詞
- 第3回 「いつ旅行から帰りましたか」(動詞の復習)
- 第4回 「いつ旅行から帰りましたか」(語根と語形パターン)
- 第5回 「私は彼がとても好きなの」(曜日の表現)
- 第6回 「私は彼がとても好きなの」(月の表現)
- 第7回 「僕は教師だったんだ」(カーナの活用)
- 第8回 「僕は教師だったんだ」(ライサの活用)
- 第9回 「何時ですか」(数の表現)
- 第10回 「何時ですか」(時間の表現)
- 第11回 「3本のペンがあります」(基数と序数 0～10)
- 第12回 「3本のペンがあります」(基数と序数 11～19)
- 第13回 「ジュースが飲みたいです」(動詞未完了接続法の活用)
- 第14回 「ジュースが飲みたいです」(動詞未完了接続法の用法)
- 第15回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ペア・グループ学習
2. 講義
3. 演習

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 教科書の予習・復習
2. 教科書のCD, DVDの視聴
3. 小テストに備えて単語や基本文の学習

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加20%、小テスト・宿題30%、試験50%。
 出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

「アラビア語Ⅰ」「アラビア語Ⅱ」の単位取得者およびそれと同等のアラビア語の学力を備えていると担当教員がみなした者を対象とする。

受講生の理解の進み具合によって、授業内容の進度を調整する場合もある。

また、回によっては、イマージョン・スペースや教室の外で、ネイティブ・スピーカなどのゲスト講師を招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラーム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

参考文献を組み合わせたものを授業で配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『AlKitaab Part1 2nd ed.』/AlBatal/Georgetown UP//

『Mastering Arabic 1 2nd ed.』/Wightwick/Hippocrene//

『初歩のアラビア語』/鷲見朗子/放送大学教育振興会/2011/

参考URLにあげたコンテンツも授業で使用する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

大阪大学アラビア語コンテンツ

<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/fic/ara/>

クリエイティブ・コモンズ・ライセンス

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラビア語Ⅳ 2016年度以前入学者

101564N0J
 大学
 共通教育科目
 1年次 2年次 3年次 4年次
 1単位 後期
 木曜4限
 ー
 15
 定員40人
 鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、「アラビア語Ⅰ」「アラビア語Ⅱ」「アラビア語Ⅲ」で学んだことを土台に、文法に関連付けた、よりレベルの高いコミュニケーション能力をつけ、応用力を高めることである。バランスのとれた4技能(読み・書き・聞く・話す)の育成にも力を入れる。また、スキット、会話表現を通じて、語彙力を拡充し、より正しい発音を習得することをめざす。内容としては、仮定の出来事の表現、命令形を使った表現、受け身の表現、比較の表現などを学習する。アラビア語学習のなかでアラブ文化の理解もさらに深めていく

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. コミュニケーション力を伸ばす。
2. 文法事項を正確に理解する。
3. 語彙・表現力をつける。
4. 正しい発音を身につける。
5. アラブ文化の理解を促進する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクションと復習
- 第 2 回 「毎朝何時に起きますか」(日常行動の表現)
- 第 3 回 「毎朝何時に家を出ますか」(日常行動の表現)
- 第 4 回 「月曜日に彼女に会いました」(曜日・月)
- 第 5 回 「月曜日に彼女に会いました」(日付)
- 第 6 回 「砂糖を1袋とりんごを3つください」(動詞命令形単数)
- 第 7 回 「砂糖を1袋とりんごを3つください」(動詞命令形複数)
- 第 8 回 「犬はテーブルの下にいます」(前置詞の復習)
- 第 9 回 「犬はテーブルの下にいます」(接尾人称代名詞の復習)
- 第 10 回 「今日は何度ですか」(基数と序数 11~19)
- 第 11 回 「今日は何度ですか」(基数と序数 20~100)
- 第 12 回 「親愛なるアフマドへ」(はがきの書き方)
- 第 13 回 「親愛なるアフマドへ」(手紙の書き方)
- 第 14 回 「大学ではアラブ文学を専攻しています」(教育についての表現)
- 第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ペア・グループ学習
2. 講義
3. 演習

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 教科書の予習・復習
2. 教科書のCD, DVDの視聴
3. 小テストに備えて単語や基本文の学習

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加20%、小テスト・宿題30%、試験50%。
 出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

「アラビア語Ⅲ」の履修者およびそれと同等のアラビア語の学力を備えていると担当教員がみなした者を対象とする。受講生の理解の進み具合によって、授業内容の進度を調整する場合もある。

また、回によっては、イマージョン・スペースや教室の外で、ネイティブ・スピーカーを招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラーム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

参考文献を組み合わせたものを授業で配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『AlKitaab Part1 2nd ed.』/AlBatal/Georgetown UP//

『Mastering Arabic 1 2nd ed.』/Wightwick/Hippocrene//

『初歩のアラビア語 '11』/鷲見朗子/放送大学教育振興会/2011/

参考URLにあげたコンテンツも授業で使用する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

大阪大学アラビア語コンテンツ

<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/fic/ara/index.html>

クリエイティブ・コモンズ・ライセンス

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

GBE1300A0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 月曜1限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The class is an intermediate English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student's ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and internationally. Emphasis will be given to appropriate word choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

Students shall learn about discourse structure, and general day-to-day and academic writing design. While this course emphasizes speaking and writing skills, students shall continue to develop all four skills. Including, understand key ideas and principles of good English conversation competencies along with daily writing skills such as e-mails.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce 'Small Talk', Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Food from the Earth; Contrast general and current actions
- 第 3 回 Week 3: Describe favourite dishes and food
- 第 4 回 Week 4: Express Yourself ? Talk about personal experiences
- 第 5 回 Week 5: Using small talk to break the ice
- 第 6 回 Week 6: Cities ? Describe your city or town
- 第 7 回 Week 7: Make predictions about the future
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: The Body ? Discuss ways to stay healthy
- 第 10 回 Week 10: Suggest helpful natural remedies
- 第 11 回 Week 11: Challenges ? Talk about facing challenges

- 第 12 回 Week 12: Describe a personal challenge
- 第 13 回 Week 13: Transitions ? Talk about milestones in your life

- 第 14 回 Week 14: Describe an important transition in your life

- 第 15 回 Week 15: Final in-class exam.
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY 100%) IN ENGLISH!
- ii) In class, activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.
- iii) Students are expected to complete their homework on time!
- iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!
- v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

Students shall be required to do at least 1 hours of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that her written work reaches the teacher on time.

Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

-15 minutes per day listen to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

Students' grade in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task)

- Active Class Participation.....20%
- Small Talk10%
- Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class).....30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit (pass the course).

Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or “makeup” work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit “request for special consideration for students participating in extracurricular activities” issued by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students’ success and final grade in this course.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

World English2 Second Editon; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2015; 978-1-305-08947-1

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 I B

GBE1300BOJ

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3 : 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The class is an intermediate English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student’s ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and internationally. Emphasis will be given to appropriate word choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students shall learn about discourse structure, and general day-to-day and academic writing design. While this course emphasizes speaking and writing skills, students shall continue to develop all four skills. Including, understand key ideas and principles of good English conversation competencies along with daily writing skills such as e-mails.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce ‘ Small Talk ’, Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Food from the Earth; Contrast general and current actions
- 第 3 回 Week 3: Describe favourite dishes and food
- 第 4 回 Week 4: Express Yourself ? Talk about personal experiences
- 第 5 回 Week 5: Using small talk to break the ice
- 第 6 回 Week 6: Cities ? Describe your city or town
- 第 7 回 Week 7: Make predictions about the future
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: The Body ? Discuss ways to stay healthy
- 第 10 回 Week 10: Suggest helpful natural remedies
- 第 11 回 Week 11: Challenges ? Talk about facing challenges

- 第 12 回 Week 12: Describe a personal challenge
 第 13 回 Week 13: Transitions ? Talk about milestones in your life
 第 14 回 Week 14: Describe an important transition in your life
 第 15 回 Week 15: Final in-class exam.
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

- i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY 100%) IN ENGLISH!
 ii) In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.
 iii) Students are expected to complete their homework on time!
 iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!
 v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students shall be required to do at least 1 hours of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that his or her written work reaches the teacher on time.

Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

-15 minutes per day listen to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Students' grade in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class)30%

[留意事項 (Other Information)]

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit.

Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or "makeup" work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit "request for special consideration for students participating in extracurricular activities" issued by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students' success and final grade in this course.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

World English2 Second Edition; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2015; 978-1-305-08947-1

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語基礎 I C

GBE1300C0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 月曜1限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 村上 裕美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

基礎英語では英文の様々な購読法で作品を読み味わうと同時に語彙、語彙運用、文法学習をはじめとして行間を読むことにより英文理解を深めます。

また、作品には子どもの目線と大人の目線など人間関係や社会の価値観などを学ぶことができます。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

英語の既習の知識を活用し、英文を理解するために必要な語彙力を高め、指示代名詞の働きに注意して英文を読みます。また、英文の裏にある様々な情報を引き出しその文が語る背景知識を知る楽しさを味わってもらいたい。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義の目的と目標
 オリエンテーション
 英語力自己診断
- 第 2 回 Saint-Exuperyとその生涯
 Saint-Exuperyとその生涯について調べたことを発表し、当時の社会について考察します
- 第 3 回 Part 1 Boa or Hat?
 Boa or Hat?の絵を読んで可視化できるように絵をかきます。文中にみられる多様な熟語を学びます
- 第 4 回 Part 2 Desert of Sahara
 登場人物が降り立った場所について読み、置かれた状況について考察します
- 第 5 回 Part 3 A Little Man
 砂漠で出会ったA Little Manについて読み、登場の意味を考えます
- 第 6 回 Part 4 Draw Me a Sheep.
 A Little Manの願いを読み、どのようなメッセージがあるか考えます
- 第 7 回 Part 5 The Little Prince
 The Little Princeとはどのような人物か読み取ります。その情報から読み取れる情報を考えます
- 第 8 回 Part 6 Another Planets
 Another Planetsとして描かれる惑星を読み取り、どのようなメッセージが隠されているか考えます
- 第 9 回 Part 7 Where did the Little Prince come from?

- the Little Princeが地球に来た経緯を読み、どのようなメッセージが込められているか考えます
- 第 10 回 Part 8 Asteroid B-612
 Asteroid B-612の住人について読み、現代人にも通じるメッセージを読み取ります
- 第 11 回 Part 9 The Fairy-Tale
 The Fairy-Taleを読み、その隠されたメッセージを考えます
- 第 12 回 Part 10 Baobabs
 Baobabsとは何かを読み、作品における意味を考えます
- 第 13 回 Part 11 Terrible Seeds
 作品で描かれるTerrible Seedsとはどのようなものか読み取り、何がterribleなのかを考えます
- 第 14 回 Presentation Part 1
 Presentation 1
 クラスの半数の方が作品に関するテーマについて英語で発表します
- 第 15 回 Presentation part 2
 Presentation 2
 クラスの半数の方が作品に関するテーマについて英語で発表します

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

毎回の授業では、様々な世界の問題点を取り上げ、授業者が作成した教材を使用して学習します。

また、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とし、英語によるプレゼンテーションも実施します。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

準備学習のために、次回の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を事前学習の準備をしてください。読みとりの正確さを確認するために予習学習内容の小テストを実施します。また、時には学習内容を復習し、次回の授業で小テストを実施することもあります。

授業時に予習をして不明だった箇所を講義にて学習しましょう。

また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。その成果を個人またはグループで英語によるプレゼンテーションで発表します。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

1

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- 小テスト（復習テストおよび小テスト） 60%
- 14回の授業において実施し、毎回解説およびフィードバックします。
- 取り組み（提出物・予習・発表・プレゼンテーション） 40%
- レポート3回およびプレゼンテーション1回は授業期間内に採点のうえフィードバックします。

〔留意事項 (Other Information)〕

遅刻もしくは欠席は毎回の授業開始時に実施する小テストを受けることができないため単位修得に大きく影響します。十分注意してください。

携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当者が作成した資料を使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

One look dictionary

<http://www.onelook.com/>

英英辞典のオンライン辞書 (無料)

ALC 英辞郎

<http://www.alc.co.jp/>

イデオム検索に便利なオンライン辞書 (無料)

英文法大全

<http://www.eibunpou.net/>

オンライン文法書 (無料)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高等学校における英語非常勤講師の実務経験をいかし、高校での学びと大学における学びの連携を考慮して指導。

英語基礎 I D

GBE1300D0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

村上 裕美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎英語では英文の様々な購読法で作品を読み味わうと同時に語彙、語彙運用、文法学習をはじめとして行間を読むことにより英文理解を深めます。

また、作品には子どもの目線と大人の目線など人間関係や社会の価値観などを学ぶことができます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英語の既習の知識を活用し、英文を理解するために必要な語彙力を高め、指示代名詞の働きに注意して英文を読みます。また、英文の裏にある様々な情報を引き出しその文が語る背景知識を知る楽しさを味わってもらいたい。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 講義の目的と目標

オリエンテーション

英語力自己診断

第 2 回 Saint-Exuperyとその生涯

Saint-Exuperyとその生涯について調べたことを発表し、当時の社会について考察します

第 3 回 Part 1 Boa or Hat?

Boa or Hat?の絵を読んで可視化できるように絵をかきます。文中にみられる多様な熟語を学びます

第 4 回 Part 2 Desert of Sahara

登場人物が降り立った場所について読み、置かれた状況について考察します

第 5 回 Part 3 A Little Man

砂漠で出会ったA Little Manについて読み、登場の意味を考えます

第 6 回 Part 4 Draw Me a Sheep.

A Little Manの願いを読み、どのようなメッセージがあるか考えます

第 7 回 Part 5 The Little Prince

The Little Princeとはどのような人物か読み取ります。その情報から読み取れる情報を考えます

第 8 回 Part 6 Another Planets

Another Planetsとして描かれる惑星を読み取り、どのようなメッセージが隠されているか考えます

第 9 回 Part 7 Where did the Little Prince come from?

the Little Princeが地球に来た経緯を読み、どのようなメッセージが込められているか考えます

第 10 回 Part 8 Asteroid B-612

Asteroid B-612の住人について読み、現代人にも通じるメッセージを読み取ります

第 11 回 Part 9 The Fairy-Tale

The Fairy-Taleを読み、その隠されたメッセージを考えます

第 12 回 Part 10 Baobabs

Baobabsとは何かを読み、作品における意味を考えます

第 13 回 Part 11 Terrible Seeds

作品で描かれるTerrible Seedsとはどのようなものか読み取り、何がterribleなのかを考えます

第 14 回 Presentation Part 1

Presentation 1

クラスの半数の方が作品に関するテーマについて英語で発表します

第 15 回 Presentation part 2

Presentation 2

クラスの半数の方が作品に関するテーマについて英語で発表します

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業では、様々な世界の問題点を取り上げ、授業者が作成した教材を使用して学習します。

また、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とし、英語によるプレゼンテーションも実施します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

準備学習のために、次回の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を読み取る事前学習の準備をしてください。読みとりの正確さを確認するために予習学習内容の小テストを実施します。また、時には学習内容を復習し、次回の授業で小テストを実施することもあります。

授業時に予習をして不明だった箇所を講義にて学習しましょう。

また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。その成果を個人またはグループで英語によるプレゼンテーションで発表します。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

1

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト (復習テストおよび小テスト) 60%
14回の授業において実施し、毎回解説およびフィードバックします。

取り組み (提出物・予習・発表・プレゼンテーション) 40%
レポート3回およびプレゼンテーション1回は授業期間内に採点のうえフィードバックします。

〔留意事項 (Other Information)〕

遅刻もしくは欠席は毎回の授業開始時に実施する小テストを受けることができないため単位修得に大きく影響します。十分注意してください。

携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当者が作成した資料を使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

One look dictionary

<http://www.onelook.com/>

英英辞典のオンライン辞書 (無料)

ALC 英辞郎

<http://www.alc.co.jp/>

イデオム検索に便利なオンライン辞書 (無料)

英文法大全

<http://www.eibunpou.net/>

オンライン文法書 (無料)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高等学校における英語非常勤講師の実務経験をいかし、高校での学びと大学における学びの連携を考慮して指導。

英語基礎 I E

GBE1300E0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

石川 真美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

授業では英語で書かれた新聞記事を読みます。それらの新聞記事を通して、世界で起こっている様々な事柄を理解し、自分の意見を持ち、それを英語で表現する能力の養成を目指します。実際の新聞記事を精読しながら、高校までに学んだ文法と語彙の知識を整理し、さらに語彙を増やします。授業を通して、英語を受容する力 (読む力と聴く力) を増強させ、英語を産出 (話す・書く) する意欲につなげます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 文法知識を整理する
2. 語彙力を向上させる
3. 英語の産出に向けた基礎的能力を養成する
4. 国内外での出来事を知る
5. 国内外の歴史・文化を知る

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	国内外の地理、歴史の知識が全くない。	国内外の地理、歴史の知識が少しはある。	国内外の地理、歴史の知識がある程度ある。	国内外の地理、歴史の知識が充分にある。
言語力	英語の基本構文が理解できない。身の回りの具体的な事柄に関する語彙がない。	英語の基本構文が理解できる。身の回りの具体的な事柄に関する語彙がある。	英語の基本構文を組み合わせた文が理解できる。具体的な事柄に加え、感情表現に関する語彙がある。	複雑な構造の英語の長文が理解できる。自分の意見を論理的に表現する語彙がある。
思考・解決力	背景知識がなく、英語力がないために、与えられる情報を理解できない。	背景知識が少しはあり、具体的な事柄に関する英語の知識がある。複数の情報を理解し、整理できる。	背景知識がある程度あり、抽象的な事柄に関する英語の知識がある。批判的思考力のある程度理解している。	背景知識が充分にあり、抽象的な事柄に関する英語の知識がある。批判的思考力を理解している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Unit 1 Study: Microwave ovens are cooking the environment
- 第 3 回 Unit 2 Truck damages Peru’s ancient Nazca Lines
- 第 4 回 Unit 3 Firms struggle to secure IT workers
- 第 5 回 Unit 4 Global automakers to speed up electrified vehicle rollout
- 第 6 回 Unit 1~4の復習
- 第 7 回 Unit 5 Pharmacists in Oita create guidebook for drinkable spa
- 第 8 回 Unit 6 SpaceX’s rocket blasts off, puts sports car in space
- 第 9 回 Unit 7 Single-person households expected to hit 40% in 2040
- 第 10 回 Unit 5~7の復習
- 第 11 回 Unit 8 Govt plans to implement ‘EdTech’ for schools
- 第 12 回 Unit 9 Universities help run cafeterias for low-income kids
- 第 13 回 Unit 10 Tunisian schoolgirls rebel against uniforms
- 第 14 回 Unit 8~10の復習
- 第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回のクラスで語彙の小テストを行い、テスト直後に各自で確認をして、語彙理解のフィードバックをします。グループでの精読を中心に新聞記事を読みます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習として、テキストの練習問題に取り組んで下さい。わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻繁に小テストをしますのでしっかり復習しましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業評価は小テストとまとめテストの結果 (80%)、授業に向かう姿勢 (20%) から総合的に判断します。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Meet the World English Through Newspapers 2019』 / Yasuhiko Wakaari/成美堂/2019/978479199/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高等学校での英語非常勤講師

英和辞典と和英辞典の用例作成および校閲

英語基礎 I F

GBE1300F0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3：言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

石川 真美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

授業では英語で書かれた新聞記事を読みます。それらの新聞記事を通して、世界で起こっている様々な事柄を理解し、自分の意見を持ち、それを英語で表現する能力の養成を目指します。実際の新聞記事を精読しながら、高校までに学んだ文法と語彙の知識を整理し、さらに語彙を増やします。授業を通して、英語を受容する力 (読む力と聴く力) を増強させ、英語を産出 (話す・書く) する意欲につなげます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 文法知識を整理する
2. 語彙力を向上させる
3. 英語の産出に向けた基礎的能力を養成する
4. 国内外での出来事を知る
5. 国内外の歴史・文化を知る

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	国内外の地理、歴史の知識が全くない。	国内外の地理、歴史の知識が少しはある。	国内外の地理、歴史の知識がある程度ある。	国内外の地理、歴史の知識が充分にある。
言語力	英語の基本構文が理解できない。身の回りの具体的な事柄に関する語彙がない。	英語の基本構文が理解できる。身の回りの具体的な事柄に関する語彙がある。	英語の基本構文を組み合わせた文が理解できる。具体的な事柄に加え、感情表現に関する語彙がある。	複雑な構造の英語の長文が理解できる。自分の意見を論理的に表現する語彙がある。
思考・解決力	背景知識がなく、英語力がないために、与えられる情報を理解できない。	背景知識が少しはあり、具体的な事柄に関する英語の知識がある。複数の情報を理解し、整理できる。	背景知識がある程度あり、抽象的な事柄に関する英語の知識がある。批判的思考力のある程度理解している。	背景知識が充分にあり、抽象的な事柄に関する英語の知識がある。批判的思考力を理解している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Unit 1 Study: Microwave ovens are cooking the environment
- 第 3 回 Unit 2 Truck damages Peru's ancient Nazca Lines
- 第 4 回 Unit 3 Firms struggle to secure IT workers
- 第 5 回 Unit 4 Global automakers to speed up electrified vehicle rollout
- 第 6 回 Unit 1~4の復習
- 第 7 回 Unit 5 Pharmacists in Oita create guidebook for drinkable spa
- 第 8 回 Unit 6 SpaceX's rocket blasts off, puts sports car in space
- 第 9 回 Unit 7 Single-person households expected to hit 40% in 2040
- 第 10 回 Unit 5~7の復習
- 第 11 回 Unit 8 Govt plans to implement 'EdTech' for schools
- 第 12 回 Unit 9 Universities help run cafeterias for low-income kids
- 第 13 回 Unit 10 Tunisian schoolgirls rebel against uniforms
- 第 14 回 Unit 8~10の復習
- 第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回のクラスで語彙の小テストを行い、テスト直後に各自で確認をして、語彙理解のフィードバックをします。グループでの精読を中心に新聞記事を読みます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習として、テキストの練習問題に取り組んで下さい。わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻繁に小テストをしますのでしっかり復習しましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業評価は小テストとまとめテストの結果 (80%)、授業に向かう姿勢 (20%) から総合的に判断します。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Meet the World English Through Newspapers 2019』 / Yasuhiko Wakaari/成美堂/2019/978479199/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高等学校での英語非常勤講師

英和辞典と和英辞典の用例作成および校閲

英語基礎 I G

GBE1300G0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は、英文を効率よく読むことができるようになることです。やや難し目の音声付きの英文テキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに、英語の音声についていけるよう、速く正確な読解ができるようにします。また、イギリス英語の発音に触れ英語の多様性を理解するとともに、市販の教材を用いた自学自習の方法と習慣を身につけ、基本的な英語の知識と能力を習得することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり (書きとり) を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキスト本文の内容に関する質問を行い、理解度を確認する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Chapter1 01 忘れ物をしちゃったみたい p.013
02 天気予報をチェック p.017
- 第 3 回 Chapter1 03 ノー制服デー、何を着ていく? p.021
04 ブロッコリーも食べなくちゃだめ! p.025
- 第 4 回 Chapter1 05 楽しいショッピング p.029
06 ここでニュースです p.033
- 第 5 回 Chapter1 07 赤ちゃんの落とし物 p.037
08 昨日の夜、あなたの家に... p.041
- 第 6 回 Chapter1 09 郵便局にて p.045
10 何時に、どこに集合? p.049
- 第 7 回 Chapter1 11 メラニーはいますか? p.053
Chapter2 12 すいません、渋滞しています p.059
- 第 8 回 アメリカ英語とイギリス英語聞き比べ
- 第 9 回 Chapter2 13 ウォーカー・ホテルズのご案内 p.063
14 シムズ部長のご予定は p.067
- 第 10 回 Chapter2 15 彼女のプレゼン、光ってたね p.073
16 新しい機器を導入したいんです p.077
- 第 11 回 Chapter2 17 注文と違うものが届きました p.081
18 ファクス機の使い方 p.087

第 12 回 Chapter2 19 1週間の支店研修 p.091
20 書類の山に埋もれていたもの p.097

第 13 回 Chapter2 21 会議を終えるにあたって p.101
Chapter3 22 運転手さん、景気はどう？ p.107

第 14 回 Chapter3 23 彼氏と彼女とストーンヘンジ p.111
24 イギリスの名物が食べたい! p.117

第 15 回 まとめテストと解説
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
本授業では、やや難し目のイギリス英語の音声付きテキストを用いて、英文の書き取りと読解を中心とするトレーニングを行い、基礎的な英語能力の向上を目指します。また、語彙力向上のために、毎回テキスト内の重要な単語・表現についての小テストを実施します。授業中にテキスト内の表現や文法項目について解説し、必要に応じて関連する動画などを提示し理解を深めます。授業後は、復習で理解度を確認し、次回の授業で適宜フィードバックを行います。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
毎回行う単語テストに備え、指定された範囲の予習をしておくこと。
(単語テストは成績評価の35%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。)
(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。)
次回分の音声を最低でも一回は聞き、テキストのクイズに挑戦してみること。
各回で扱った範囲の英文について、復習として書き取りと読解をしていくこと。
復習の際、聞き取れなかった箇所、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
毎回行う単語テスト(35%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(35%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。
〔留意事項 (Other Information)〕
初回の授業までに教科書を購入しておくこと。
授業には必ず辞書を持参すること。
出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。
・本クラスは、以下のような人にオススメです。
やや難し目のテキストを用いますので、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力があり、英語の力を伸ばしたい、上のレベルを目指したいという意欲のある人の受講を勧めます。
音声付きのテキストを用いますので、読解だけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。
イギリス英語のテキストを用いますので、イギリスの言葉や文化に興味がある人や、中学・高校で習うアメリカ英語

以外に触れてみたい人、国ごとに特徴が異なる英語の多様性に興味がある人にも受講を勧めます。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『究極のイギリス英語リスニング Standard』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757446208/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『ダボス会議で聞く 世界の英語』/鶴田知佳子・柴田真一/コスモピア株式会社/2008/9784902091540
『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757418059
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 I H

GBE1300H0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜2限
DP3：言語力
15
必修(英語英文学科以外) クラス選択
黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は、英文を効率よく読むことができるようになることです。音声付きの英文のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに、英語の音声についていけるよう、速く正確な読解ができるようにします。また、イギリス英語の発音に触れ英語の多様性を理解するとともに、市販の教材を用いた自学自習の方法と習慣を身につけ、基本的な英語の知識と能力を習得することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり(書きとり)を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキスト本文の内容に関する質問を行い、理解度を確認する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 Chapter1 01 忘れ物をしちやっみたい p.013
02 天気予報をチェック p.017
第 3 回

Chapter1 03 ノー制服デー、何を着ていく？ p.021
 04 ブロッコリーも食べなくちゃだめ！ p.025

第 4 回 Chapter1 05 楽しいショッピング p.029
 06 ここでニュースです p.033

第 5 回 Chapter1 07 赤ちゃんの落とし物 p.037
 08 昨日の夜、あなたの家に... p.041

第 6 回 Chapter1 09 郵便局にて p.045
 10 何時に、どこに集合？ p.049

第 7 回 Chapter1 11 メラニーはいますか？ p.053
 Chapter2 12 すいません、渋滞していて p.059

第 8 回 アメリカ英語とイギリス英語聞き比べ

第 9 回 Chapter2 13 ウォーカー・ホテルズのご案内 p.063
 14 シムズ部長のご予定は p.067

第 10 回 Chapter2 15 彼女のプレゼン、光ってたね p.073
 16 新しい機器を導入したいんです p.077

第 11 回 Chapter2 17 注文と違うものが届きました p.081
 18 ファクス機の使い方 p.087

第 12 回 Chapter2 19 1週間の支店研修 p.091
 20 書類の山に埋もれていたもの p.097

第 13 回 Chapter2 21 会議を終えるにあたって p.101
 Chapter3 22 運転手さん、景気はどう？ p.107

第 14 回 Chapter3 23 彼氏と彼女とストーンヘンジ p.111
 24 イギリスの名物が食べたい！ p.117

第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、やや難し目のイギリス英語の音声付きテキストを用いて、英文の書き取りと読解を中心とするトレーニングを行い、基礎的な英語能力の向上を目指します。また、語彙力向上のために、毎回テキスト内の重要な単語・表現についての小テストを実施します。授業中にテキスト内の表現や文法項目について解説し、必要に応じて関連する動画などを提示し理解を深めます。授業後は、復習で理解度を確認し、次回の授業で適宜フィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、指定された範囲の予習をしておくこと。

(単語テストは成績評価の35%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。)

(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。)
 次回分の音声最低でも一回は聞き、テキストのクイズに挑戦してみる。

各回で扱った範囲の英文について、復習として書き取りと読解をしていくこと。

復習の際、聞き取れなかった箇所、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(35%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど

(35%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

やや難し目のテキストを用いますので、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力があり、英語の力を伸ばしたい、上のレベルを目指したいという意欲のある人の受講を勧めます。

音声付きのテキストを用いますので、読解だけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。

イギリス英語のテキストを用いますので、イギリスの言葉や文化に興味がある人や、中学・高校で習うアメリカ英語以外に触れてみたい人、国ごとに特徴が異なる英語の多様性に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『究極のイギリス英語リスニング Standard』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757446208/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ダボス会議で聞く 世界の英語』/鶴田知佳子・柴田真一/コスモピア株式会社/2008/9784902091540

『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757418059

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 I J

GBE1300J0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

伊村 大樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語の仕組みを理解し、ある程度のレベルの英文を自分で読みこなせるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・文型の基礎を理解する
- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

--	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション 読解のための文型・文法 1
- 第 2 回 読解のための文型・文法 2
- 第 3 回 英語のことわざ—班での協力によるプリント作成
- 第 4 回 英語のことわざ前半の解釈検討
- 第 5 回 英語のことわざ後半の解釈検討
- 第 6 回 受動態—動詞句の種類
- 第 7 回 読解「ヨーロッパの十字軍」
- 第 8 回 分詞の働き
- 第 9 回 読解「黒死病」
- 第 10 回 不定詞の働き
- 第 11 回 読解「ベートーベンの矜持」
- 第 12 回 読解「血液型性格診断と心理スキーマ」
- 第 13 回 ウェルズ『世界史概観』の描く歴史—ブッダの出家
- 第 14 回 まとめの試験と解説
- 第 15 回 総括と追加課題の指示等

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書はありません。まず高校までの文法を簡単におさらいし、その後はプリントを配布して教材とします。プリントの和訳を中心に読解のトレーニングを行います。できるだけ日本語ではなく英語の語順に沿った解釈を試みます。授業内で行うまとめのテストの後に、フィードバックとして正答の説明と解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし(プリントを使用)

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 I K

GBE1300K0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3: 言語力

15

必修(英語英文学科以外) クラス選択

伊村 大樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語の仕組みを理解し、ある程度のレベルの英文を自分で読みこなせるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・文型の基礎を理解する
- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション 読解のための文型・文法 1
- 第 2 回 読解のための文型・文法 2
- 第 3 回 英語のことわざ—班での協力によるプリント作成
- 第 4 回 英語のことわざ前半の解釈検討
- 第 5 回 英語のことわざ後半の解釈検討
- 第 6 回 受動態—動詞句の種類
- 第 7 回 読解「ヨーロッパの十字軍」
- 第 8 回 分詞の働き
- 第 9 回 読解「黒死病」
- 第 10 回 不定詞の働き
- 第 11 回 読解「ベートーベンの矜持」
- 第 12 回 読解「血液型性格診断と心理スキーマ」
- 第 13 回 ウェルズ『世界史概観』の描く歴史—ブッダの出家
- 第 14 回 まとめの試験と解説
- 第 15 回 総括と追加課題の指示等

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書はありません。まず高校までの文法を簡単におさらいし、その後はプリントを配布して教材とします。プリントの和訳を中心に読解のトレーニングを行います。できるだけ日本語ではなく英語の語順に沿った解釈を試みます。授業内で行うまとめのテストの後に、フィードバックとして正答の説明と解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材

に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし(プリントを使用)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 I L

GBE1300L0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜1限

DP3：言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

田中 祐子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

短めの文章(80~180語)を読み、その中で過去に学習した単語や文法事項を確認しながら、読む楽しみを実感する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

単語の復習と語彙力の向上

基本的な文法事項の確認

和訳に頼らない読解

映画内の重要な台詞の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 Unit 1 Marathon Men and Women

第 2 回 Unit 2 Healthy Choices

第 3 回 Unit 3 Laughing Matters

第 4 回 Unit 4 Animation the Japanese Way

第 5 回 Unit 5 Dreams Come True?

第 6 回 Unit 6 The Statue of Liberty

第 7 回 Unit 7 The Taj Mahal and Shah Jahan

第 8 回 Unit 8 Universal Design

第 9 回 Unit 9 Mars One

第 10 回 映画鑑賞 (語彙や表現の確認)

第 11 回 映画鑑賞 (重要な台詞の理解)

第 12 回 Unit 10 Getting Around

第 13 回 Unit 11 The "Meat" of Tomorrow

第 14 回 Unit 12 Art Crime

第 15 回 Final Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。各章の読み物は、段階的に2つあり、可能な限り難解な方へ進む。

映画の大まかな内容と時代背景を確認した上で、字幕を英語にして鑑賞し、使用されている語彙や表現を学ぶ。

授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

英文の下読みをしてくる。単語を事前に調べておく。

指示された単語を覚える (単語テストあり)

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%) 小テスト (50%) 提出課題 (20%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内容と映画鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Reading Steps』/Robert Hickling 他/金星堂/2015年/978-4-7647-3992-5/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 I M

GBE1300M0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3：言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

田中 祐子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

短めの文章(80~180語)を読み、その中で過去に学習した単語や文法事項を確認しながら、読む楽しみを実感する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

単語の復習と語彙力の向上
 基本的な文法事項の確認
 和訳に頼らない読解
 映画内の重要な台詞の理解
 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 1 Marathon Men and Women
- 第 2 回 Unit 2 Healthy Choices
- 第 3 回 Unit 3 Laughing Matters
- 第 4 回 Unit 4 Animation the Japanese Way
- 第 5 回 Unit 5 Dreams Come True?
- 第 6 回 Unit 6 The Statue of Liberty
- 第 7 回 Unit 7 The Taj Mahal and Shah Jahan
- 第 8 回 Unit 8 Universal Design
- 第 9 回 Unit 9 Mars One
- 第 10 回 映画鑑賞 (語彙や表現の確認)
- 第 11 回 映画鑑賞 (重要な台詞の理解)
- 第 12 回 Unit 10 Getting Around
- 第 13 回 Unit 11 The "Meat" of Tomorrow
- 第 14 回 Unit 12 Art Crime
- 第 15 回 Final Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。各章の読み物は段階的に2つあり、可能な限り難解な方へ進む。

映画の大まかな内容と時代背景を確認した上で、字幕を英語にして鑑賞し、使用されている語彙や表現を学ぶ。授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

英文の下読みをしてくる単語を事前に調べておく。指示された単語を覚える (単語テストあり)

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%) 小テスト (50%) 提出課題 (20%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内容と映画鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Reading Steps』/Robert Hickling 他/金星堂/2015年/978-4-7647-3992-5/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 I P

GBE1300POJ

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

寺西 みどり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

入門レベルの英語を再学習し、苦手意識を軽減する。

単語の意味と発音を知る。

きわめて容易な教科書を用い、意味の理解だけを目指す。

映画鑑賞から、理解の瞬間を体験する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

発音も含め、単語を覚える。

教科書の説明をよく読み、中学時代の基本文法を思い出す。

5~6行の簡単な文章を読み、意味の理解の後、音読の練習をする。

余裕があれば、短文・単文に限定の上、簡単な英作文に取り組む。

字幕と音声英語にし、誰もが筋を知っている映画を鑑賞する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

コースの説明

イマージョンスペース紹介

第 2 回 Unit 1

動詞(1)be動詞

単語の発音練習

"I am eiteen now." で始まる簡単な文章を読む。

第 3 回 Unit 2 前半

動詞(2)一般動詞

単語の発音練習

第 4 回 Unit 2 後半

動詞(2)一般動詞

単語の発音練習

第 5 回 DVD学習 1

映画鑑賞(ディズニー作品を予定)

注目すべき台詞を事前に紹介する

第 6 回 Unit 3

未来形
単語の発音練習
Unit 1～3の文法を含む文章を読む

第7回 Unit 4
助動詞
単語の発音練習
”May I?”で始まる会話文を読む

第8回 DVD学習2
映画鑑賞(ディズニー作品を予定)
注目すべき台詞を事前に紹介する

第9回 Unit 5前半
冠詞
単語の発音練習

第10回 Unit 5後半
Unit 1～5の文法を含む文章を読む
生活に役立つ表現一覧

第11回 Unit 6
代名詞
単語の発音練習

第12回 Unit 7
前置詞
単語の発音練習

第13回 DVD学習3
映画鑑賞(ディズニー作品を予定)
注目すべき台詞を事前に紹介する

第14回 Unit 8
接続詞
単語の発音練習
接続詞を多く含む文章を読む

第15回 まとめ
質問受付
まとめテスト
答案回収後、テストと同じ問題を復習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
定期期間内の試験は行わず、最終回にまとめテストをする。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
説明後、教科書の問題に取り組む。
指名して問に答えたり、音読をしてもらう。
その場で正解を発表し、各自訂正してもらう。音読については、1文ごとに注意点を確認する。
相当簡単なので安心してよい。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
その日の箇所に事前に目を通すだけでよい。
単語テスト等小テストを予告した場合は必ず覚えてくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
8

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
まとめテストと小テストおよび授業参加度により総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕
映画鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
Simply Grammar <Revised Edition>
Kikuji Saito
南雲堂
2017年
ISBN 9784523178316

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
必要時に指示する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
必要時に指示する
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
翻訳業務経験38年。現在ノートルダム教育修道女会事務室に翻訳担当として非常勤勤務中。
通訳業務経験あり。

英語基礎 I N

GBE1300N0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜1限

DP3：言語力

15

必修（英語英文学科以外） クラス選択

寺西 みどり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースは和訳を重視するため、「英語で考える」という主流の英語学習の理想とは異なる面があるが、原文を正しく捉え、センスのある日本語に直すという「翻訳」の分野は健在である。その初歩を体験することを目的とする。

日本に多大な影響を与えたアメリカ合衆国について知識を得る。

アメリカの地理と歴史が簡単な英文で書かれたテキストを読む。

最終的に独自の和訳本を完成し達成感を味わってもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

基本文法を習得していることを前提とする。

年表や地図など、アメリカの小・中学校のような地理・歴史教材になじむ。

アメリカ合衆国の成り立ちを知る。

内容をすべて正しい日本語に訳してみる。

1文ずつの説明を聞き理解すること。

和訳ノートを提出する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
コース説明とイメージンスペース紹介
教科書の事前の知識のコーナー
- 第 2 回 Chapter 1
Reading : アメリカ大陸の地理
- 第 3 回 Chapter 1
Reading : ネイティブアメリカンの到来
- 第 4 回 Chapter 1
Reading : ネイティブアメリカンの文化
- 第 5 回 Chapter 1
Reading : 新世界の探索
- 第 6 回 Chapter 1
Reading : クリストファー・コロンブス
- 第 7 回 Chapter 2
アメリカの誕生
事前の知識のコーナー
- 第 8 回 Chapter 2
Reading : 植民地
- 第 9 回 Chapter 2
Reading : トラブル
- 第 10 回 Chapter 2
Reading : 国家の誕生
- 第 11 回 Chapter 2
Reading : ジョージ・ワシントン
- 第 12 回 Chapter 3
アメリカ合衆国の発展
事前の知識のコーナー
- 第 13 回 Chapter 3
国土の拡大
- 第 14 回 Chapter 3
文化の充実
- 第 15 回 まとめ
和訳ノートを提出する
教科書内の設問からまとめテスト

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験期間中には行わない。

最終回にまとめテストをする。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義をよく聞き和訳作業に取り組む。

課題は、発表またはレポート提出の形をとる。

発表には口頭で、提出物には朱入れで評価を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

単語を調べ、下読みをする。

この時点で訳ができなくてもよい。

人名・地名は別途調べておくとよい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

1 又は 2

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

まとめテストと提出物および授業参加度により総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

How America Became America <アメリカのあゆみ>

George H. Isted

英潮社

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要時に指示する

〔参考URL(URL for Reference) 〕

必要時に指示する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

翻訳業務経験38年。現在ノートルダム教育修道女会事務室に翻訳担当として非常勤勤務中。

通訳業務経験あり。

YBU英会話教室講師

英語総合 I A

GBE1301A0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜2限

DP3 : 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The purpose of this course is to help students develop writing skills in contexts where they are likely to encounter and use English. This course begins with basic sentence patterns and moves on to paragraph writing and developing skills in narrative prose. This term will focus on writing English in the context of Twentieth Century media such as the internet.

Students will be expected to produce individual written work, as well as collaborative work with their classmates.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn how to apply their prior knowledge of English to produce coherent writing in various mediums, including essays, journal entries and commentary. Through peer review and collaborative projects, students will acquire editing and proofreading skills. Additionally, students will acquire a more thorough understanding of English grammar, vocabulary, and writing conventions.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
- 第 2 回 Writing sentences
- 第 3 回 Understanding paragraphs
- 第 4 回 The process of writing
- 第 5 回 The narrative style
- 第 6 回 Me, Myself & I: drafting
- 第 7 回 Me, Myself & I: editing
- 第 8 回 Dear diary...
- 第 9 回 My Narrative: Social Media
- 第 10 回 Social Media: editing
- 第 11 回 The Final Essay
- 第 12 回 Final essay: Drafting
- 第 13 回 Final essay: Peer feedback
- 第 14 回 Final essay: Editing and submission
- 第 15 回 Reflection & self-evaluation

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Classes will be conducted entirely in English. In class, tasks will include individual work (paragraph and short prose), as well as collaborative tasks (peer reviewing and group writing projects), through which students will work together to improve their writing.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of readings, pre-writing, and revising written work.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Evaluation of writing tasks in this class will be based on a mixture of individual and class feedback on written work and participation, and a rubric presented to the students before each task. Students will self-evaluate using their rubrics, and the course instructor will conduct evaluations based on identical criteria. Final grades will be determined based on the following:

- ・ Class participation (20%)
- ・ Writing tasks (50%)
- ・ Final Essay (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Materials will be provided in class

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『Ready to Write Level 2: Perfecting Paragraphs (4th Edition)』 / Karen Blanchard, Christine Root/Pearson Longman/2010/9780131363328/学内販売予定

『英語スピーキングルールブック?論理を学び表現力を養う』 / 石井 洋佑/テイエス企画/2015/4887841701

『英語ライティングの原理原則——テストに強くなる、レポート・論文で評価される』 / 山岡 大基/テイエス企画/2018/4887842031

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合 I B

GBE1301BOJ

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The purpose of this course is to help students develop writing skills in contexts where they are likely to encounter and use English. This course begins with basic sentence patterns and moves on to paragraph writing and developing skills in narrative prose. This term will focus on writing English in the context of Twentieth Century media such as the internet.

Students will be expected to produce individual written work, as well as collaborative work with their classmates.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn how to apply their prior knowledge of English to produce coherent writing in various mediums, including essays, journal entries and commentary. Through peer review and collaborative projects, students will acquire editing and proofreading skills. Additionally, students will acquire a more thorough understanding of English grammar, vocabulary, and writing conventions.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
 - 第 2 回 Writing sentences
 - 第 3 回 Understanding paragraphs
 - 第 4 回 The process of writing
 - 第 5 回 The narrative style
 - 第 6 回 Me, Myself & I: drafting
 - 第 7 回 Me, Myself & I: editing
 - 第 8 回 Dear diary...
 - 第 9 回 My Narrative: Social Media
 - 第 10 回 Social Media: editing
 - 第 11 回 The Final Essay
 - 第 12 回 Final essay: Drafting
 - 第 13 回 Final essay: Peer feedback
 - 第 14 回 Final essay: Editing and submission
 - 第 15 回 Reflection & self-evaluation
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Classes will be conducted entirely in English. In class, tasks will include individual work (paragraph and short prose), as well as collaborative tasks (peer reviewing and group writing projects), through which students will work together to improve their writing.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of readings, pre-writing, and revising written work.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Evaluation of writing tasks in this class will be based on a mixture of individual and class feedback on written work and participation, and a rubric presented to the students before each task. Students will self-evaluate using their rubrics, and the course instructor will conduct evaluations based on identical criteria. Final grades will be determined based on the following:

- ・ Class participation (20%)
- ・ Writing tasks (50%)
- ・ Final Essay (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Materials will be provided in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『Ready to Write Level 2: Perfecting Paragraphs (4th Edition)』/
Karen Blanchard, Christine Root/Pearson Longman/
2010/9780131363328/学内販売予定

『英語スピーキングルールブック?論理を学び表現力を養う』/
石井 洋佑/テイエス企画/2015/4887841701

『英語ライティングの原理原則——テストに強くなる、レポート・論文で評価される』/山岡 大基/テイエス企画/
2018/4887842031

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合 I C

GBE1301C0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜 2限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

藤本 幸治

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までには初級レベル(TOEIC400-500)の英語を完全に習得し、最終的にアカデミックな英語を読み、書けるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までには初級レベル(TOEIC400-500)、および学術的な英語を理解し、また、書けるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	英語の基本構造が理解できない。	日本語と英語の基本構造が理解出来、基本的な表現を行うことができる。	十分な語彙力を有し、十分に意思疎通できる英語を書くことができる。	限られた知識を臨機応変に利用し、活用できる。

知識・理解力	基本語彙が500語を下回る。	基本語彙が1500程度である。	学習語彙が3000語に達している。	学習語彙が5000語以上ある。
言語力	基本5文型が理解できない	基本5文型を理解できる。	基本5文型を利用して、基本的な英語表現ができる。	基本5文型を応用し、臨機応変に展開できる。
思考・解決力	論理的な文章が理解できない。	基本的な論理的文章が書くことができる。	主張に関して十分な根拠を示しながら英文を書くことができる。	3段論法を基準とした合理的な文章を書くことができる。
共生・協働する力	グループワークができない。	グループワークに参加して活動できる。	グループ内で円滑に作業し、グループを取りまとめることができる。	グループの意見をまとめ、リーダーとして指示することができる。
創造・発信力	基本和文英訳ができない。	初歩的な英文を書くことができる。	論理的な英文を書くことができる。	自らの主張を英文で論理的にサポートしながら、示すことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業目標の理解
導入：コミュニケーション能力を高める英語学習法
- 第 2 回 基本5文型再考（1）。
第1&3文型を取る動詞を用いた表現練習
- 第 3 回 基本5文型再考（2）
第4文型を取る動詞を用いた表現練習
- 第 4 回 基本5文型再考（3）
第2文型を取る動詞を用いた表現練習
- 第 5 回 英語の時制を理解する。
現在時制と過去時制を正しく理解し、使う演習
- 第 6 回 基本文型のまとめ
第1～5回 復習演習とまとめ
- 第 7 回 未来を示す現在時制
未来を表す表現を理解し、使う演習
- 第 8 回 進行動詞の理解と活用
現在進行形と過去進行形を理解し、使う演習
- 第 9 回 完了形の多義の理解と応用
現在完了形を理解し、使う練習
- 第 10 回 法助動詞の意味
相手の気持ちを表す表現練習（1）：法助動詞1
- 第 11 回 法助動詞の理解と応用
相手の気持ちを表す表現練習（2）：法助動詞2
- 第 12 回 英語時制のまとめ
第6～11回 復習演習とまとめ

- 第 13 回 不定詞型の理解（1）
to不定詞と動名詞を理解し、使う演習
- 第 14 回 不定詞型の理解（2）
未来を表すto不定詞と現在と過去を表す動名詞
- 第 15 回 学期内学習項目の総まとめ
review of the semester
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。第15回週目のReview of the Semesterで課題、レポートに対するフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
指定された予習範囲の単語の意味調べ
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度（30%）、小テスト・レポート（30%）、まとめのテスト（40%）
〔留意事項（Other Information）〕
予習と復習は必須です。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『A Primer of Communication in English』/M. Koyama et al/Syohakusha/2017//学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合 I D

GBE1301D0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
水曜1限
DP3：言語力
15
必修（英語英文学科以外） クラス選択
藤本 幸治

〔科目の教育目標（Course Description）〕

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までには初級レベル(TOEIC400-500)の英語を完全に習得し、最終的にアカデミックな英語を読み、書けるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までには初級レベル(TOEIC400-500)、および学術的な英語を理解し、また、書けるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業目標の理解
導入：発信型英語学習法
- 第 2 回 基本 5 文型再考 (1)
「～が～する」のパターン
- 第 3 回 基本 5 文型再考 (2)
「～に～ををする」のパターン
- 第 4 回 基本 5 文型再考 (3)
人や物を説明しよう (1)
- 第 5 回 基本 5 文型再考 (4)
人や物を説明しよう (2)
- 第 6 回 現在時制と過去時制
「いつも～している／～した」のパターン
- 第 7 回 基本文型のまとめ
第2～6回 まとめ総合演習
- 第 8 回 進行形の理解
「今(その時)～している(していた)」のパターン
- 第 9 回 完了形の理解
過去のことが現在まで影響する形
- 第 10 回 法助動詞の理解
「話し手の気持ちを表す表現 (1)
- 第 11 回 法助動詞の応用
「話し手の気持ちを表す表現」(2)
- 第 12 回 不定詞と現在分詞
「～すること」を表す2種類の形
- 第 13 回 英語時制のまとめ
第8～12回 まとめ総合演習
- 第 14 回 不定詞と動名詞
2種類の「～すること」の形を区別する方法
- 第 15 回 学期内学習項目まとめ
review of the semester

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。第15回週目のReview of the Semesterで課題、レポートに対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指定された予習範囲の単語の意味調べ

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (30%)、まとめのテスト (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

予習と復習は必須です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『A Primer of Communication in English』/M. Koyama et al/ Syohakusha/2017//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合 I E

GBE1301E0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜 2限

DP3：言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は基本的な英語ライティングの技術を習得することです。基礎的な文法、スペリング、句読法、などを復習し、パラグラフの規則を覚えることにより、自信をもって英語で「書く」ことが出来るようになることを目指します。そして、クラスでの練習を積み重ね、うまく「パラグラフ」を組み立て、伝えたいと思う内容を伝えることが出来る能力を身に付けてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
- 2.文を正しく組み立てるために英文法を復習すること
- 3.1つの話題について、数文をうまくつなげ、まとめて書くこと
- 4.よいパラグラフとは何かを理解して、その構成にしたがって、読み手を意識した英文を書くこと
- 5.多種のプロジェクトに取り組み、自分でまたはクラスメートを相談しながら、内容を充実させる方法を学ぶこと

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

Writing	ごく基本的な日常表現や個人的情報であっても、まとまって書くことができない。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を使って書くことができる。	仕事、学校、娯楽など身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を組み合わせたパラグラフを作ることができる。	抽象的な話題でも具体的な話題でも、幅広い話題について、明確で詳細な文章を作り、それらを組み合わせ、複数のパラグラフにまとめることができる。
言語力	基本的な文の構造がわからない。必要な単語を調べることができない。	教えられたら、基本的な文の構造を思いだせる。また、単語を調べることができる。	基本的な文の構造を理解できている。または、必要な単語を調べて選ぶことができる。	基本的な文の構造を使うだけではなく、いろいろな文法事項を用いて文を書くことができる。辞書を使いながら、いろいろな語彙を調べて、正しく使用することができる。
思考・解決力	教員に言われたことを書くまたは、作業することができない。	教員やクラスメートに説明されたら作業を進めることができる。	わからないことがある場合、教員やクラスメートに質問や相談をするが、基本的にはテキストを読んで、作業を進めることができる。	適宜、必要に応じてクラスメートと相談したり、辞書や必要な文献を利用しながら、テキストを読んで作業を進めることができる。
共生・協働する力	振り返りシートに署名を頼むことができない。	振り返りシートに署名ができたと同時に、誰かのシートに署名をすることができる。	振り返りシートやクラスメートの作品にコメントをすることができる。または、協同作業で自分の分担をこなすことができる。	自分の分担をこなすだけではなく、クラスメートやチームメートと、積極的に協力しながら、課題をこなすことができる。

創造・発信力	教えられた内容しか書くことができない。	教えられた内容やモデルを見て、その一部を変えて書くことができる。	教えられた内容やモデルを見て、自分で考えた文や内容を追加できる。	教えられた内容やモデルを見て、自分オリジナルの文や内容を考えて書くことができる。
--------	---------------------	----------------------------------	----------------------------------	------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 - 第 2 回 PBL1：心の地図を使って自分を表現する①：心の地図の作成
 - 第 3 回 PBL1：心の地図を使って自分を表現する②：心の地図を使ってライティング
 - 第 4 回 PBL2：4コマストーリーを書こう①：短い物語の完成
 - 第 5 回 PBL2：4コマストーリーを書こう②：発表、修正、提出
 - 第 6 回 PBL3：絵本翻訳①：1冊めの絵本（英語→日本語）選択と翻訳
 - 第 7 回 PBL3：絵本翻訳②：2冊めの絵本（日本語→英語）選択と翻訳
 - 第 8 回 PBL3：絵本翻訳③：絵本と翻訳絵本と自分の翻訳の比較と考察
 - 第 9 回 PBL4：ポスターづくり①：ポスター構想と原稿作成
 - 第 10 回 PBL4：ポスターづくり②：ポスターの完成
 - 第 11 回 PBL4：ポスター発表
 - 第 12 回 PBL4：ポスター発表のまとめと英作文
 - 第 13 回 まとめの英作文①英作文を書く：英作文の下書き完成
 - 第 14 回 まとめの英作文②発表、修正して提出：英作文の発表、修正、提出
 - 第 15 回 前期の振り返りと自己評価
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本授業は主としてプロジェクト形式で行われます。そのため、授業中は、ペアやグループによる学生同士の話し合いの場が設けられます。3~4名のグループでの発表も課されます。このように、教室では、できるだけ英語を使ってコミュニケーションを図るなど、主体的かつ能動的な英語の作文練習を行いましょう。

課題に関するフィードバックは、必要と要望に応じて、授業内またはweb上で、個人または全体に対して行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

英作文は基本的に授業中に完成させます。その授業時間内に完成できるよう、必要なことがあれば、その準備をして次の授業に臨みましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、自己管理できるよう、予め示した判定方法にしたがって、算定可能な形で示します。まとめの英作文は、教員の示す判定基準に基づいて自己採点をします。同時に、教員も同じ判定基準で採点をします。最終評価は、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行う。

- ・ 授業参加点 (予習、発表及び課題提出点を含む) (40%)、
- ・ 英作文・課題点 (まとめの英作文を含む) (60%)

皆さんは、第一回目の授業で、評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、各プロジェクトを通して、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業では、1) 授業内では学習するみなさんが主体となって、クラスメートと協同してさまざまなライティングに関わる活動に参加する、2) 辞書を持って授業に出席する、これら2つが強く求められます。さらに、授業ごとに細かく点数配分が決まっているので、出席を自己管理する必要があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『伝えるためのライティング』(東郷多津・田中美和子) 2018年 kindle版

(テキストの取得方法については、第1回目の授業の中で説明します。)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Evergreen / いいずな書店/ 2017年

英語意味順学習法/ 田地野彰/ ディスカヴァー・トゥエンティワン/ 2011

Oxford Junior Illustrated Thesaurus

〔参考URL(URL for Reference)〕

「意味順学習法」とは/ https://www.youtube.com/watch?v=YjBC4zn_Z3s

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合 I F

GBE1301F0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 水曜1限
 DP3: 言語力
 15
 必修 (英語英文学科以外) クラス選択
 森 ユキエ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

これまでに学習してきた英語をベースとして、さらに実際的な英語運用能力を開発することに重点を置きます。日本語を直訳することによって起こる英語表現の間違いを豊富な文例で指摘し、正確な英作文が書けるように学習します。英作文の訓練が実際の英会話にも大いに役立つように、授

業は構成されています。また[TOEIC]での成果が向上することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 様々な現場での実際の英語運用の経験
- 2) 文法習得とライティングの統合練習
- 3) 語彙力の向上 ([TOEIC]対策も含む)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction 日本語に引きずられない自然な英語表現とは何か
 - 第 2 回 1 Intransitive Verbs (自動詞) 文法解説・練習問題・英作文
 - 第 3 回 2 Transitive Verbs (他動詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 1 Health
 - 第 4 回 3 Tense (基本時制) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 2 Shopping
 - 第 5 回 4 Progressive Form & Perfect Form (進行形・完了形) 文法解説・宿題の 解答
 - 第 6 回 5 Phrasal Verbs (句動詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 3 Sports
 - 第 7 回 6 Nouns (名詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 4 Travel
 - 第 8 回 English Checklist 1 - 6 小テストとその解説
 - 第 9 回 Book 1 Lesson 1 - 4 応用問題とその解説
 - 第 10 回 7 Articles (冠詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 5 Art & Design
 - 第 11 回 8 Pronouns (代名詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 6 Nature
 - 第 12 回 9 Adjectives (形容詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 7 Social Issues
 - 第 13 回 10 Adverbs (副詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 8 Gender
 - 第 14 回 English Checklist 7 - 10 小テストとその解説
 - 第 15 回 Book 1 Lesson 5 - 8 応用問題とその解説
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 毎回、惑わされやすい日本語をどのように英語で表現するか、文例を参考に文法事項も加えて解説する。
- 2) テキストの問題に取り組み、自分で英作文しながら文構造を理解する。
- 3) CD,DVD を利用して、日常的に使用する語彙を習得し、それによって読解能力を高め、作文能力の強化をはかる。
- 4) 授業中に実施する小テストにおける学生の解答に対して、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1) 授業で指示された該当箇所を丁寧に辞書を引いて予習する。
- 2) 毎回課題が出るので、それを次回までに仕上げてくる。
- 3) 授業で学習した箇所を必ず復習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業参加度 (30%)、小テストを含む提出課題 (40%)、授業時の課題 (30%) の総合評価とする。

欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『English Checklist』 / 小中秀彦 / NAN ' UN-DO / 2009/9.784523176268E12/学内販売予定

『Interactive English Book for the TOEIC Test Book 1』 / 内田雅克 他

松柏社/2013/9.784881986684E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示、または別途配布する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫通訳案内士として通訳・翻訳の実務経験あり

英語総合 I G

GBE1301G0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
水曜2限
DP3: 言語力
15
必修(英語英文学科以外) クラス選択
松岡 真由子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースの目標は、以下の2つです。1つはロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を高め、英語を自分の言葉として「使える」ようになること、もう1つは、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることです。そのために、協働学習を通じて4技能のスキルアップを図るとともに、自分で目標を立てて自分の学習を振り返り、そして評価するという、自己調整プロセスをベースにした課題に取り組みます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. すでに習得している基礎的な英文法を再確認すること
2. 英語を使用する場面で使える様々な表現を習得すること
3. 英文から必要な情報を読み取り、理解すること
4. 自分が伝えたいことを英語で表現できるようになること
5. ペアやグループワークを通じて、自分の英語学習を深める方法を知り、実践すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Writing	テキストで扱われているようなごく基本的な日常表現や個人的情報であつても、英語でまとまった文を書くことができない。	テキストで扱われているようなごく基本的な個人情報や家族情報、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を使って書くことができる。	テキストで扱われているような特定の話題について、複数の英文を組み合わせてパラグラフにまとめることができる。	テキストで扱われている特定の話題はもちろん、さらに複雑な話題について、複数の英文を組み合わせてパラグラフにまとめることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
Unit1 Welcome to L.A. 文法 (be動詞)・語彙学習・プレリスニング・リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 2 回 Unit2 I Love Fruit! 文法 (可算名詞/不可算名詞)・語彙学習・プレリスニング
- 第 3 回 Unit2 I Love Fruit! リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 4 回 Unit3 Campus Life 文法 (一般動詞・現在時制)・語彙学習・プレリスニング
- 第 5 回 Unit3 Campus Life リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 6 回 Unit4 Lunchtime 文法 (代名詞)・語彙学習・プレリスニング
- 第 7 回 Unit4 Lunchtime リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 8 回 第1回小テスト
Unit5 First Date 文法 (一般動詞・過去時制)・語彙学習・プレリスニング
- 第 9 回 Unit5 First Date リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 10 回 Unit6 Where's Linda? 文法 (進行形)・語彙学習・プレリスニング
- 第 11 回 Unit6 Where's Linda? リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 12 回

Unit7 Andy's News 文法 (will/be going to)・語彙
学習・プレリスニング

第 13 回 Unit7 Andy's News リスニング・スピーキング・
英文読解・英作文

第 14 回 第2回小テスト
グループプレゼンテーション準備

第 15 回 グループプレゼンテーション
まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

クラスでは、各ユニットを2回に分けて学習します。1回目は、ターゲットとなる文法や語彙を確認し、それに関する問題に取り組みます。また、次の導入として、映像を見ながら対話文のリスニングをします。2回目は、映像で出てきた短いやりとりのシーンを使って、会話表現の練習を行います。さらに、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。必ず辞書(紙の辞書、電子辞書など)を持参してください。

テストは、授業内で行う小テストとプレゼンテーションの2種類です。小テストは文法問題、ライティング、英文読解を中心とした問題構成です。プレゼンテーションは、グループライティングを発表します。

テストについては当日に解答を確認し解説を行います。プレゼンテーションについては、自己評価、他者評価を合わせて後日結果をフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

クラスで使用するテキストの動画、音声、問題データは、全てPCやスマートフォン、携帯端末からダウンロードできます。事前に予習をし、授業後は復習をすることをすすめます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

皆さんは、初回の授業で、学習ポートフォリオを使った自己評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。また、毎回の授業でのペア、グループワークに対しても自己評価をしてもらいます。

最終評価については、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行います。

1) 授業参加(授業参加度、ポートフォリオを用いた自己評価を含む)(55%)

2) 小テスト・グループプレゼンテーション (45%)

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業では、毎回ペア、グループワークを行います。評価方法・評価基準に記載されている「授業参加度」とは、ペア、グループワークでの活動を評価するものです。

また、授業時にYoutubeの動画(詳細は授業時にお知らせし

ます)を適宜使いながら、アメリカの町の様子や自然な英語でのやり取りを知る機会を持ちます。動画をアップされているご本人からは、授業時での使用許可を得ています。〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～』/Robert Hickling Misato Usukura/金星堂/2018/9784764740495/学内販売予定

進度や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践の科目〕

英語総合 I H

GBE1301H0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修(英語英文学科以外) クラス選択

松岡 真由子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースの目標は、以下の2つです。1つはロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を高め、英語を自分の言葉として「使える」ようになること、もう1つは、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることです。そのために、協働学習を通じて4技能のスキルアップを図るとともに、自分で目標を立てて自分の学習を振り返り、そして評価するという、自己調整プロセスをベースにした課題に取り組みます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. すでに習得している基礎的な英文法を再確認すること
2. 英語を使用する場面で使える様々な表現を習得すること
3. 英文から必要な情報を読み取り、理解すること
4. 自分が伝えたいことを英語で表現できるようになること
5. ペアやグループワークを通じて、自分の英語学習を深める方法を知り、実践すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

Writing	テキストで扱われているようなごく基本的な日常表現や個人的情報であっても、英語でまとまった文を書くことができない。	テキストで扱われているようなごく基本的な個人情報や家族情報、地元の地理、仕事など、直接の関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を使って書くことができる。	テキストで扱われているような特定の話題について、複数の英文を組み合わせることでパラグラフにまとめることができる。	テキストで扱われている特定の話題はもちろん、さらに複雑な話題について、複数の英文を組み合わせることでパラグラフにまとめることができる。
---------	----------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
Unit1 Welcome to L.A. 文法 (be動詞)・語彙学習・プレリスニング・リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 2 回 Unit2 I Love Fruit! 文法 (可算名詞/不可算名詞)・語彙学習・プレリスニング
- 第 3 回 Unit2 I Love Fruit! リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 4 回 Unit3 Campus Life 文法 (一般動詞・現在時制)・語彙学習・プレリスニング
- 第 5 回 Unit3 Campus Life リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 6 回 Unit4 Lunchtime 文法 (代名詞)・語彙学習・プレリスニング
- 第 7 回 Unit4 Lunchtime リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 8 回 第1回小テスト
Unit5 First Date 文法 (一般動詞・過去時制)・語彙学習・プレリスニング
- 第 9 回 Unit5 First Date リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 10 回 Unit6 Where's Linda? 文法 (進行形)・語彙学習・プレリスニング
- 第 11 回 Unit6 Where's Linda? リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 12 回 Unit7 Andy's News 文法 (will/be going to)・語彙学習・プレリスニング
- 第 13 回 Unit7 Andy's News リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 14 回 第2回小テスト
グループプレゼンテーション準備
- 第 15 回 グループプレゼンテーション
まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

クラスでは、各ユニットを2回に分けて学習します。1回目は、ターゲットとなる文法や語彙を確認し、それに関する問題に取り組みます。また、次回の導入として、映像を見ながら対話文のリスニングをします。2回目は、映像で出てきた短いやりとりのシーンを使って、会話表現の練習を行います。さらに、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。必ず辞書 (紙の辞書、電子辞書など) を持参してください。
テストは、授業内で行う小テストとプレゼンテーションの2種類です。小テストは文法問題、ライティング、英文読解を中心とした問題構成です。プレゼンテーションは、グループライティングを発表します。

テストについては当日に解答を確認し解説を行います。プレゼンテーションについては、自己評価、他者評価を合わせて後日結果をフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

クラスで使用するテキストの動画、音声、問題データは、全てPCやスマートフォン、携帯端末からダウンロードできます。事前に予習をし、授業後は復習をすることをすすめます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

皆さんは、初回の授業で、学習ポートフォリオを使った自己評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。また、毎回の授業でのペア、グループワークに対しても自己評価をしてもらいます。

最終評価については、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行います。

- 1) 授業参加 (授業参加度、ポートフォリオを用いた自己評価を含む) (55%)
- 2) 小テスト・グループプレゼンテーション (45%)

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業では、毎回ペア、グループワークを行います。評価方法・評価基準に記載されている「授業参加度」とは、ペア、グループワークでの活動を評価するものです。また、授業時にYoutubeの動画 (詳細は授業時にお知らせします) を適宜使いながら、アメリカの町の様子や自然な英語でのやり取りを知る機会を持ちます。動画をアップされているご本人からは、授業時での使用許可を得ています。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～』/Robert Hickling Misato Usukura/金星堂/2018/9784764740495/学内販売予定

進度や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

英語総合 I J

GBE1301JOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 水曜2限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 黒田 一平

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目の目的は基本的な英語ライティングの技術を習得することです。留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、ごく基本的な日常表現や、家庭や学校での表現、自分自身や家族の情報を伝える表現などを身につけます。それらの表現を用いて英文を書き、話すことで、英語を自分の言葉として「使う」ことに慣れ、英語で伝えたい内容を伝えることができるようになることを目指します。また、基礎となる知識や能力を身につけ、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. テキストの音声の聞きとり（書きとり）を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキストの英文や表現を用いて会話を作り（ペアワーク）、それらの表現を使えるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 第 2 回 Part1 01 空港での入国審査 p.010
 02 税関での手続き p.014
 第 3 回 Part1 03 空港に迎えに来てもらう p.018
 04 家族を紹介される p.022
 第 4 回 Part1 05 自己紹介をする p.026
 06 日本からのおみやげを渡す p.030
 第 5 回 Part1 07 家の中を案内してもらう p.034
 08 ホストファミリーの家のルール p.038
 第 6 回 Part1 09 ホストファミリーとはじめての食事 p.042
 10 食事の後片付けを手伝う p.046
 第 7 回 Part1 11 洗濯機や食器の使い方を教わる p.050
 12 浴室の使い方 p.054
 第 8 回 Part1 13 ホストファミリーとテレビを見る p.058
 14 電話をかける p.062
 第 9 回

- Part1 15 寝る前のあいさつ p.066
 16 朝のあいさつ p.070
 第 10 回 Part1 17 学校への行き方を教える p.074
 18 昼食について p.078
 第 11 回 Part2 19 教室の場所をたずねる p.086
 20 近くの席の生徒にあいさつする p.090
 第 12 回 Part2 21 授業が始まる時 p.094
 22 授業中に使われる表現 p.098
 第 13 回 Part2 23 先生に質問したいとき p.102
 24 グループディスカッションをする p.106
 第 14 回 Part2 25 学校でランチタイム p.110
 26 グループで宿題をする p.114
 第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本授業では、テキストの音声の書き取りと、テキスト内の表現を用いた英作文を中心とする授業中のトレーニングによって、英語能力の向上を目指します。また、単語や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。小テストは次の回で返却し、結果をフィードバックします。授業中は、留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、様々な場面における英語表現に触れることで、場面ごとに適切な自己表現ができるようになることを目標として、各場面ごとにペアワークを取り入れた英作文と会話練習を行います。各ペアは、その場面において自分たちならどんな会話をするかを考え、その会話を英作文します。授業ごとに、数組のペアに出来上がった会話を発表してもらいます。授業後は、復習（宿題）で理解度を確認し、次回の授業で適宜コメントするなどのフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回行う単語テストに備え、予習をしてもらうこと。範囲は授業中に連絡します。

（テキスト自体は比較的平易ですが、単語は割と難しいものもあります。）

（また、テスト範囲内の単語や表現の数は、割と多めです。）
 （覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。）
 （単語テストは成績評価の35%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。）

また、予習として、次回分の範囲の音声を最低でも一回は聞き、声に出して読んで来てもらうこと。

復習として、各回で扱った範囲のテキストの会話について、毎回書き取りと読解をしてもらうこと。

基礎的な英語力を養うために、毎回manabaの小テスト機能を用いて基本的な文法事項や語句、英作文などについての問題を出すので、指定された期日までに提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

毎回行う単語テスト(35%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど

(35%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

【留意事項 (Other Information)】

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

比較的平易なテキストを用いますので、基本的な単語や文法項目、英作文に不安がある人の受講を勧めます。逆に、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力がある人にとっては簡単すぎるかもしれません。

音声付きのテキストを用いますので、ライティングだけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。留学・ホームステイにおける会話のテキストを用いますので、留学やホームステイに行ってみたい人や、留学やホームステイにおける英語の日常会話に興味がある人にも受講を勧めます。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

『ホームステイの英会話リアル表現BOOK』/イムラン・スィディキ/ナツメ社/2016/9784816360121/学内販売予定
 進度や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

英語総合 I K

GBE1301K0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 水曜1限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 黒田 一平

【科目の教育目標 (Course Description)】

本科目の目的は基本的な英語ライティングの技術を習得することです。留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、ごく基本的な日常表現や、家庭や学校での表現、自分自身や家族の情報を伝える表現などを身につけます。それらの表現を用いて英文を書き、話すことで、英語を自分の言葉として「使う」ことに慣れ、英語で伝えたい内容を伝えることができるようになることを目指します。また、基礎となる知識や能力を身につけ、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることを目指します。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. テキストの音声の聞きとり（書きとり）を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキストの英文や表現を用いて会話を作り（ペアワーク）、それらの表現を使えるようにする。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Part1 01 空港での入国審査 p.010
02 税関での手続き p.014
- 第 3 回 Part1 03 空港に迎えに来てもらう p.018
04 家族を紹介される p.022
- 第 4 回 Part1 05 自己紹介をする p.026
06 日本からのおみやげを渡す p.030
- 第 5 回 Part1 07 家の中を案内してもらう p.034
08 ホストファミリーの家のルール p.038
- 第 6 回 Part1 09 ホストファミリーとはじめての食事 p.042
10 食事の後片付けを手伝う p.046
- 第 7 回 Part1 11 洗濯機や食器の使い方を教わる p.050
12 浴室の使い方 p.054
- 第 8 回 Part1 13 ホストファミリーとテレビを見る p.058
14 電話をかける p.062
- 第 9 回 Part1 15 寝る前のあいさつ p.066
16 朝のあいさつ p.070
- 第 10 回 Part1 17 学校への行き方を教える p.074
18 昼食について p.078
- 第 11 回 Part2 19 教室の場所をたずねる p.086
20 近くの席の生徒にあいさつする p.090
- 第 12 回 Part2 21 授業が始まる時 p.094
22 授業中に使われる表現 p.098
- 第 13 回 Part2 23 先生に質問したいとき p.102
24 グループディスカッションをする p.106
- 第 14 回 Part2 25 学校でランチタイム p.110
26 グループで宿題をする p.114
- 第 15 回 まとめテストと解説

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

本授業では、テキストの音声の書き取りと、テキスト内の表現を用いた英作文を中心とする授業中のトレーニングによって、英語能力の向上を目指します。また、単語や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。小テストは次の回で返却し、結果をフィードバックします。授業中は、留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、様々な場面における英語表現に触れることで、場面ごとに適切な自己表現ができるようになることを目標として、各場面ごとにペアワークを取り

入れた英作文と会話練習を行います。各ペアは、その場面において自分たちならどんな会話をするかを考え、その会話を英作文します。授業ごとに、数組のペアに出来上がった会話を発表してもらいます。授業後は、復習（宿題）で理解度を確認し、次回の授業で適宜コメントするなどのフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回行う単語テストに備え、予習をしてくること。範囲は授業中に連絡します。

（テキスト自体は比較的平易ですが、単語は割と難しいものもあります。）

（また、テスト範囲内の単語や表現の数は、割と多めです。）
 （覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。）
 （単語テストは成績評価の35%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。）

また、予習として、次回分の範囲の音声 lowest でも一回は聞き、声に出して読んで来てくること。

復習として、各回で扱った範囲のテキストの会話について、毎回書き取りと読解をしてくること。

基礎的な英語力を養うために、毎回manabaの小テスト機能を用いて基本的な文法事項や語句、英作文などについての問題を出すので、指定された期日までに提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

毎回行う単語テスト(35%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(35%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項（Other Information）〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

比較的平易なテキストを用いますので、基本的な単語や文法項目、英作文に不安がある人の受講を勧めます。逆に、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力がある人にとっては簡単すぎるかもしれません。

音声付きのテキストを用いますので、ライティングだけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。留学・ホームステイにおける会話のテキストを用いますので、留学やホームステイに行ってみたい人や、留学やホームステイにおける英語の日常会話に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ホームステイの英会話リアル表現BOOK』/イムラン・スィディキ/ナツメ社/2016/9784816360121/学内販売予定
 進捗や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合 I L

GBE1301L0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜2限

DP3：言語力

15

必修（英語英文学科以外） クラス選択

田中 美和子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

このクラスでは、英文法の知識と英単語の習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、訳せるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 U1 Friends and Family: 友人と家族
 Unit1-A Meet and Introduce People : 挨拶の仕方、語彙学習 Be動詞、所有格
 オリエンテーション
- 第 2 回 発音記号を学ぼう①
 Unit1-B, C Identify Family Members: 発音記号、形容詞を学ぶ、句型SVC
 小テスト
- 第 3 回 英語の構造①
 Unit1-D Present Your Family 英文読解、英語の文構造
- 第 4 回 リスニングのコツ①
 Unit1-E Animal Families ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
 ライティング課題
- 第 5 回 U2 Jobs around the World: 仕事について
 Unit2-A Identify Jobs: 語彙学習, 縮約、不定冠詞の使い方
- 第 6 回 発音記号を学ぼう②
 Unit2-B,C Talk about Jobs and Countries: 発音記号、数の表現、気候の表現
 小テスト
- 第 7 回 英語の構造②

- Unit2-D Compare Jobs in Different Countries: 英文読解、英語の文構造
- 第 8 回 リスニングのコツ②
- Unit2-E A Job for Children: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
ライティング課題
- 第 9 回 U3 Houses and Apartments: マンションと一戸建て
- Unit3-A Identify Jobs: 語彙学習, there構文、数えられる名詞
- 第 10 回 発音記号を学ぼう③
- Unit3-B,C Talk about Jobs and Countries: 発音記号、前置詞の用法
小テスト
- 第 11 回 英語の構造③
- Unit3-D Compare Houses: 英文読解、英語の文構造
- 第 12 回 リスニングのコツ③
- Unit3-E A Very Special Village: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
ライティング課題
- 第 13 回 英語を日本語にしてみよう①
ライティング
- 第 14 回 英語を日本語にしてみよう②
プレゼンテーション
- 第 15 回 前期まとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを4回に分けて学習します。1回目は、そのユニットの語彙学習に始まり、主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、単語テストから始めて、発音記号の学習、そして文法事項を含む日常会話を聞き、対話文を実際に話す練習も行います。3回目はユニットで焦点をあてたリーディングから始め、それに基づいて、ライティングをしていきます。さらに4回目で、学習した文法事項を復習してから、英作文の練習を行います。必ず辞書(電子辞書、紙の辞書)を持参してください。課題(小テストなど)は、実施した後、基本的に、すぐ答え合わせをします。みんながわからない点があれば、次の授業でまとめて説明をして、返却します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業には積極的に参加しましょう。なお、小テスト、およびライティング課題に関して予告をします。十分準備をして臨みましょう。そして、テキストのトピックに関して自由に調べてみましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度及び授業態度(予習・発表)(30%)、授業中課題(20%)、発表課題(10%)、小テストおよび英作文課題(40%)の総合評価を行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

遅刻2回で欠席1回に換算します。なお、授業には辞書(電子辞書、紙の辞書)を持参すること。持ってきていない場合は減点になります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『World English Intro (second edition)』/Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase /Cengage Learning/2015//学内販売予定

ISBN: 9781305089518

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合 I M

GBE1301M0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修(英語英文学科以外) クラス選択

田中 美和子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、英文法の知識と英単語の習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、訳せるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 U1 Friends and Family: 友人と家族
Unit1-A Meet and Introduce People: 挨拶の仕方、語彙学習 Be動詞、所有格
オリエンテーション
- 第 2 回 発音記号を学ぼう①
Unit1-B, C Identify Family Members: 発音記号、形容詞を学ぶ、文型SVC
小テスト
- 第 3 回 英語の構造①
Unit1-D Present Your Family 英文読解、英語の文構造

- 第 4 回 リスニングのコツ①
Unit1-E Animal Families ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
ライティング課題
- 第 5 回 U2 Jobs around the World: 仕事について
Unit2-A Identify Jobs: 語彙学習, 縮約、不定冠詞の使い方
- 第 6 回 発音記号を学ぼう②
Unit2-B,C Talk about Jobs and Countries: 発音記号、数の表現、気候の表現
小テスト
- 第 7 回 英語の構造②
Unit2-D Compare Jobs in Different Countries: 英文読解、英語の文構造
- 第 8 回 リスニングのコツ②
Unit2-E A Job for Children: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
ライティング課題
- 第 9 回 U3 Houses and Apartments: マンションと一戸建て
Unit3-A Identify Jobs: 語彙学習, there構文、数えられる名詞
- 第 10 回 発音記号を学ぼう③
Unit3-B,C Talk about Jobs and Countries: 発音記号、前置詞の用法
小テスト
- 第 11 回 英語の構造③
Unit3-D Compare Houses: 英文読解、英語の文構造
- 第 12 回 リスニングのコツ③
Unit3-E A Very Special Village: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
ライティング課題
- 第 13 回 英語を日本語にしてみよう①
ライティング
- 第 14 回 英語を日本語にしてみよう②
プレゼンテーション
- 第 15 回 前期まとめ
前期まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを4回に分けて学習します。1回目は、そのユニットの語彙学習に始まり、主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、単語テストから始めて、発音記号の学習、そして文法事項を含む日常会話を聞き、対話文を実際に話す練習も行います。3回目はユニットで焦点をあてたリーディングから始め、それに基づいて、ライティングをしていきます。さらに4回目で、学習した文法事項を復習してから、英作文の練習を行います。必ず辞書(電子辞書、紙の辞書)を持参してください。

課題(小テストなど)は、実施した後、基本的に、すぐ答え合わせをします。みんながわからない点があれば、次

回の授業でまとめて説明をして、返却します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業には積極的に参加しましょう。なお、小テスト、およびライティング課題に関して予告をします。十分準備をして臨みましょう。そして、テキストのトピックに関して自由に調べてみましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度及び授業態度(予習・発表)(30%)、授業中課題(20%)、発表課題(10%)、小テストおよび英作文課題(40%)の総合評価を行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

遅刻2回で欠席1回に換算します。なお、授業には辞書(電子辞書、紙の辞書)を持参すること。持ってきていない場合は減点になります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『World English Intro (second edition)』/Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase /Cengage Learning/2015//学内販売予定

ISBN: 9781305089518

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合 I P

GBE1301POJ

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修(英語英文学科以外) クラス選択

岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、ロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて、英文法の知識と語彙やフレーズの習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけること、英語で自分のことを表現できるようになることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、文章を書けるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit1 Welcome to L.A.
オリエンテーション、文法学習 (be動詞)、リスニング、スピーキング
- 第 2 回 Unit1 Welcome to L.A.
英文読解、英作文
- 第 3 回 Unit 2 I Love Fruits!
文法学習 (可算名詞/不可算名詞)、リスニング、スピーキング
- 第 4 回 Unit 2 I Love Fruits!
英文読解、英作文
- 第 5 回 Unit 3 Campus Life
文法学習 (一般動詞)、リスニング、スピーキング
- 第 6 回 Unit 3 Campus Life
英文読解、英作文
- 第 7 回 Unit 4 Lunchtime
文法学習 (代名詞)、リスニング、スピーキング
- 第 8 回 Unit 4 Lunchtime
英文読解、英作文
- 第 9 回 Unit 5 First Date
文法学習 (一般動詞過去時制)、リスニング、スピーキング
- 第 10 回 Unit 5 First Date
英文読解、英作文
- 第 11 回 Unit 6 Where's Linda?
文法学習 (進行形)、リスニング、スピーキング
- 第 12 回 Unit 6 Where's Linda?
英文読解、英作文
- 第 13 回 Unit 7 Andy's News
文法学習 (未来形will / be going to)、リスニング、スピーキング
- 第 14 回 Unit 7 Andy's News
英文読解、英作文
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを2回に分けて学習します。1回目は、ビデオシーンを見ながら、リスニングを行います。次に、その対話文を使って、語彙やフレーズも学びながら、グループで会話練習 (スピーキング学習) を行います。主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。必ず辞書 (紙の辞書、電子辞書など) を持参してください。

各ユニット終了後、毎回復習テストを行います。

テストや英作文といった課題に対しては、毎回実施後にク

ラス全体への解説、又は個別にコメントを記載し返却します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

単語、熟語は各自事前に調べておくこと。

授業内でできなかった課題については必ず次回までに完成させること。

テキストの動画、音声はすべてPCやスマートフォン、携帯端末からダウンロードできます。事前に予習し、授業後は復習することを薦めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度及び、授業態度 (予習・発表・グループワーク含む) (30%)、小テスト (30%)、英作文 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ〜映像で学ぶ大学基礎英語?』/Robert Hickling, 白倉美里/金星堂/2018年/ISBN978-4-7647-4049-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合 I N

GBE1301N0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜2限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、ロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて、英文法の知識と語彙やフレーズの習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけること、英語で自分のことを表現できるようになることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、文章を書けるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

--	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit1 Welcome to L.A.
オリエンテーション、Unit1 文法学習 (be動詞)、リスニング、スピーキング
- 第 2 回 Unit1 Welcome to L.A.
英文読解、英作文
- 第 3 回 Unit 2 I Love Fruits!
文法学習 (可算名詞/不可算名詞)、リスニング、スピーキング
- 第 4 回 Unit 2 I Love Fruits!
英文読解、英作文
- 第 5 回 Unit 3 Campus Life
文法学習 (一般動詞)、リスニング、スピーキング
- 第 6 回 Unit 3 Campus Life
英文読解、英作文
- 第 7 回 Unit 4 Lunchtime
文法学習 (代名詞)、リスニング、スピーキング
- 第 8 回 Unit 4 Lunchtime
英文読解、英作文
- 第 9 回 Unit 5 First Date
文法学習 (一般動詞過去時制)、リスニング、スピーキング
- 第 10 回 Unit 5 First Date
英文読解、英作文
- 第 11 回 Unit 6 Where's Linda?
文法学習 (進行形)、リスニング、スピーキング
- 第 12 回 Unit 6 Where's Linda?
英文読解、英作文
- 第 13 回 Unit 7 Andy's News
文法学習 (未来形will / be going to)、リスニング、スピーキング
- 第 14 回 Unit 7 Andy's News
英文読解、英作文
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを 2 回に分けて学習します。1 回目は、ビデオシーンを見ながら、リスニングを行います。次に、その対話文を使って、語彙やフレーズも学びながら、グループで会話練習 (スピーキング学習) を行います。主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2 回目は、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。必ず辞書 (紙の辞書、電子辞書など) を持参してください。

各ユニット終了後、毎回復習テストを行います。

テストや英作文といった課題に対しては、毎回実施後にクラス全体への解説、又は個別にコメントを記載し返却します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

単語、熟語は各自事前に調べておくこと。

授業内でできなかった課題については必ず次回までに完成させること。

テキストの動画、音声はすべてPCやスマホ、携帯端末からダウンロードできます。事前に予習し、授業後は復習することを薦めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度及び、授業態度 (予習・発表・グループワーク含む) (30%)、小テスト (30%)、英作文 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語?』/Robert Hickling, 白倉美里/金星堂/2018年 /ISBN978-4-7647-4049-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 II A

GBE1350A0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The class is an intermediate English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student's ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and internationally. Emphasis will be given to appropriate word choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students shall learn about discourse structure, and general day-to-day and academic writing design. While this course emphasizes speaking and writing skills, students shall

continue to develop all four skills. Including, understand key ideas and principles of good English conversation competencies along with daily writing skills such as e-mails.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce ‘ Small Talk ’, Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Luxuries: Explain how we get luxury items
- 第 3 回 Week 3: Discuss what makes people’s lives better
- 第 4 回 Week4: Nature: Talk about possible future situations
- 第 5 回 Week 5: Discuss a problem in nature
- 第 6 回 Week 6: Life in the past: Contrast different ways of life
- 第 7 回 Week 7: Compare today with the past
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: Travel: Talk about preparations for a trip
- 第 10 回 Week 10: Discuss the pros and cons of tourism
- 第 11 回 Week 11: Careers: Ask and answer job-related questions
- 第 12 回 Week 12: Talk about career planning
- 第 13 回 Week 13: Celebrations: Describe a festival
- 第 14 回 Week 14: Share opinions about holidays
- 第 15 回 Week 15: Final in-class exam.

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY 100%) IN ENGLISH!
- ii) In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.
- iii) Students are expected to complete their homework on time!
- iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!
- v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students shall be required to do at least 1 hours of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that his or her written work reaches the teacher on time.

Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

-15 minutes per day listen to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students’ grade in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class)30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit.

Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or “makeup” work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit “request for special consideration for students participating in extracurricular activities” issued by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to

communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students' success and final grade in this course.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

World English2 Second Edition; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2015; 978-1-305-08946-4

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語基礎 II B

GBE1350B0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜2限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

Thomas T. Nishikawa

[科目の教育目標 (Course Description)]

The class is an intermediate English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student's ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and internationally. Emphasis will be given to appropriate word choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Students shall learn about discourse structure, and general day-to-day and academic writing design. While this course emphasizes speaking and writing skills, students shall continue to develop all four skills. Including, understand key ideas and principles of good English conversation competencies along with daily writing skills such as e-mails.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

[授業計画]

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce 'Small Talk', Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Luxuries: Explain how we get luxury items
- 第 3 回 Week 3: Discuss what makes people's lives better
- 第 4 回 Week4: Nature: Talk about possible future situations
- 第 5 回 Week 5: Discuss a problem in nature
- 第 6 回 Week 6: Life in the past: Contrast different ways of life
- 第 7 回 Week 7: Compare today with the past
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: Travel: Talk about preparations for a trip
- 第 10 回 Week 10: Discuss the pros and cons of tourism
- 第 11 回 Week 11: Careers: Ask and answer job-related questions
- 第 12 回 Week 12: Talk about career planning
- 第 13 回 Week 13: Celebrations: Describe a festival
- 第 14 回 Week 14: Share opinions about holidays
- 第 15 回 Week 15: Final in-class exam.

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

- i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY 100%) IN ENGLISH!
- ii) In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.
- iii) Students are expected to complete their homework on time!
- iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!
- v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students shall be required to do at least 1 hours of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo

homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that his or her written work reaches the teacher on time.

Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

-15 minutes per day listen to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Students' grade in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class)30%

[留意事項 (Other Information)]

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit.

Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or "makeup" work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit "request for special consideration for students participating in extracurricular activities" issued by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students' success and final grade in this course.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

World English2 Second Edition; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2015; 978-1-305-08946-4

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語基礎ⅡC

GBE1350C0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修(英語英文学科以外) クラス選択

村上 裕美

[科目の教育目標 (Course Description)]

基礎英語では英文の様々な購読法で作品を読み味わうと同時に語彙、語彙運用、文法学習をはじめとして行間を読むことにより英文理解を深めます。

また、作品には子どもの目線と大人の目線など人間関係や社会の価値観などを学ぶことができます。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

英語の既習の知識を活用し、英文を理解するために必要な語彙力を高め、指示代名詞の働きに注意して英文を読みます。また、英文の裏にある様々な情報を引き出しその文が語る背景知識を知る楽しさを味わってもらいたい。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

[授業計画]

第 1 回 オリエンテーション

オリエンテーション

英語力自己診断

第 2 回 Arabian Nightsについて

Arabian Nightの背景知識や社会情勢、価値観などを学びます

第 3 回 The Fisherman Part 1

登場人物であるThe Fishermanについて読み取ります。作品中に使用される語彙から異文化が見受けられる箇所を考察します

第 4 回 The Fisherman Part 2
The Fishermanの身に起きた出来事を読み取り、読み取った内容を絵に描き英文を可視化します

第 5 回 The Fisherman Part 3
The Fishermanの目の前に現れた人物について読み取り、読み取った内容を絵に描き英文を可視化します

第 6 回 The Fisherman Part 4
The Fishermanの前に現れた人物の主張からどのような出来事があったのかを読み取ります。その読み取りからその人物の人生を考察します

第 7 回 The Fisherman Part 5
作品の最後の部分を読み取ります。The fishermanの知恵を読み取ります。作品最後の描写の意味とArabian Nightsとの関係を考えます。

第 8 回 Disney Films and Seacret Messages Part 1
ディズニー映画に描かれる隠れたメッセージについて読みモンスターに込められた意味を考えます。Part 1はMonstersについて考えます

第 9 回 Disney Films and Seacret Messages Part 2
Part 2では映画Mulanについて隠れたメッセージについて読み、社会概念や価値観を考えます

第 10 回 Disney Films and Seacret Messages Part 3
Part 3ではThe Lion Kingの挿入歌、Hakuna Matataにこめられたメッセージを読み、哲学を読み取ります

第 11 回 Disney Films and Seacret Messages Part 4
Part 4ではPocahontasにみられるメッセージから映画に描かれた社会背景や価値観を考えます

第 12 回 Disney Films and Seacret Messages Part 5
Part 5ではSleeping Beautyにみられるメッセージを読み、作者が最も伝えなかったこととは何かを考えます

第 13 回 Disney Films and Seacret Messages Part 6
Part 6ではWalt Disneyについて読み、その時代の家族の在り方について考えます
また、その作品としてFrozenを取り上げます

第 14 回 Presentation Part 1

第 15 回 Presentation Part 2

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しません

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業では、様々な世界の問題点を取り上げ、授業者が作成した教材を使用して学習します。

また、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とし、英語によるプレゼンテーションも実施します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

準備学習のために、次回の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を読み取る事前学習

の準備をしてください。読みとりの正確さを確認するために予習学習内容の小テストを実施します。また、時には学習内容を復習し、次回の授業で小テストを実施することもあります。

授業時に予習をして不明だった箇所を講義にて学習しましょう。

また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。その成果を個人またはグループで英語によるプレゼンテーションで発表します。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

1

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト (復習テストおよび小テスト) 60%

14回の授業において実施し、毎回解説およびフィードバックします。

取り組み (提出物・予習・発表・プレゼンテーション) 40%
レポート3回およびプレゼンテーション1回は授業期間内に採点のうえフィードバックします。

〔留意事項 (Other Information)〕

遅刻もしくは欠席は毎回の授業開始時に実施する小テストを受けることができないため単位修得に大きく影響します。特に5回以上の欠席は単位習得が難しくなります。十分注意してください。

携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当者が作成した資料を使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Johnson Cheu 編 (2019) Disney Films and Seacret Messages : Race, Ethnicity, Gender Sexuality and Disability「ディズニーアニメと多様化する社会」(松柏社)

〔参考URL(URL for Reference)〕

One look dictionary

<http://www.onelook.com/>

英英辞典のオンライン辞書 (無料)

ALC 英辞郎

<http://www.alc.co.jp/>

イデオム検索に便利なオンライン辞書 (無料)

英文法大全

<http://www.eibunpou.net/>

オンライン文法書 (無料)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高等学校における英語非常勤講師の実務経験をいかし、高校での学びと大学における学びの連携を考慮して指導。

GBE1350D0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 月曜 2限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 村上 裕美

【科目の教育目標（Course Description）】

基礎英語では英文の様々な購読法で作品を読み味わうと同時に語彙、語彙運用、文法学習をはじめとして行間を読むことにより英文理解を深めます。

また、作品には子どもの目線と大人の目線など人間関係や社会の価値観などを学ぶことができます。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

英語の既習の知識を活用し、英文を理解するために必要な語彙力を高め、指示代名詞の働きに注意して英文を読みます。また、英文の裏にある様々な情報を引き出しその文が語る背景知識を知る楽しさを味わってもらいたい。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
オリエンテーション
英語力自己診断
- 第 2 回 Arabian Nightsについて
Arabian Nightの背景知識や社会情勢、価値観などを学びます
- 第 3 回 The Fisherman Part 1
登場人物であるThe Fishermanについて読み取ります。作品中に使用される語彙から異文化が見受けられる箇所を考察します
- 第 4 回 The Fisherman Part 2
The Fishermanの身に起きた出来事を読み取り、読み取った内容を絵に描き英文を可視化します
- 第 5 回 The Fisherman Part 3
The Fishermanの目の前に現れた人物について読み取り、読み取った内容を絵に描き英文を可視化します
- 第 6 回 The Fisherman Part 4
The Fishermanの前に現れた人物の主張からどのような出来事があったのかを読み取ります。その読み取りからその人物の人生を考察します
- 第 7 回 The Fisherman Part 5
作品の最後の部分を読み取ります。The fishermanの知恵を読み取ります。作品最後の描写の意味とArabian Nightsとの関係を考えます。

- 第 8 回 Disney Films and Seacret Messages Part 1
デイズニー映画に描かれる隠れたメッセージについて読みモンスターに込められた意味を考えます。Part 1はMonstersについて考えます
- 第 9 回 Disney Films and Seacret Messages Part 2
Part 2では映画 Mulanについて隠れたメッセージについて読み、社会概念や価値観を考えます
- 第 10 回 Disney Films and Seacret Messages Part 3
Part 3ではThe Lion Kingの挿入歌、Hakuna Matataにこめられたメッセージを読み、哲学を読み取ります
- 第 11 回 Disney Films and Seacret Messages Part 4
Part 4ではPocahontasにみられるメッセージから映画に描かれた社会背景や価値観を考えます
- 第 12 回 Disney Films and Seacret Messages Part 5
Part 5ではSleeping Beautyにみられるメッセージを読み、作者が最も伝えたかったこととは何かを考えます
- 第 13 回 Disney Films and Seacret Messages Part 6
Part 6ではWalt Disneyについて読み、その時代の家族の在り方について考えます
また、その作品としてFrozenを取り上げます
- 第 14 回 Presentation Part 1
クラスの半分の方がテーマについて英語で発表します
- 第 15 回 Presentation Part 2
クラスの半分の方がテーマについて英語で発表します

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しません

【教育・学習の方法（Course Methods）】

毎回の授業では、様々な世界の問題点を取り上げ、授業者が作成した教材を使用して学習します。

また、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とし、英語によるプレゼンテーションも実施します。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

準備学習のために、次回の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を読み取る事前学習の準備をしてください。読みとりの正確さを確認するために予習学習内容の小テストを実施します。また、時には学習内容を復習し、次回の授業で小テストを実施することもあります。

授業時に予習をして不明だった箇所を講義にて学習しましょう。

また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。その成果を個人またはグループで英語によるプレゼンテーションで発表します。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

1

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト (復習テストおよび小テスト) 60%
14回の授業において実施し、毎回解説およびフィードバックします。

取り組み (提出物・予習・発表・プレゼンテーション) 40%
レポート3回およびプレゼンテーション1回は授業期間内に採点のうえフィードバックします。

〔留意事項 (Other Information)〕

遅刻もしくは欠席は毎回の授業開始時に実施する小テストを受けることができないため単位修得に大きく影響します。特に5回以上の欠席は単位習得が難しくなります。十分注意してください。

携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当者が作成した資料を使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Johnson Cheu 編 (2019) Disney Films and Secret Messages : Race, Ethnicity, Gender Sexuality and Disability 「デイズニーアニメと多様化する社会」(松柏社)

〔参考URL(URL for Reference)〕

One look dictionary

<http://www.onelook.com/>

英英辞典のオンライン辞書 (無料)

ALC 英辞郎

<http://www.alc.co.jp/>

イデオム検索に便利なオンライン辞書 (無料)

英文法大全

<http://www.eibunpou.net/>

オンライン文法書 (無料)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高等学校における英語非常勤講師の実務経験をいかし、高校での学びと大学における学びの連携を考慮して指導。

英語基礎 II E

GBE1350E0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

石川 真美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

授業では英語で書かれた新聞記事を読みます。それらの新聞記事を通して、世界で起こっている様々な事柄を理解し、自分の意見を持ち、それを英語で表現する能力の養成を目指します。実際の新聞記事を精読しながら、高校までに学

んだ文法と語彙の知識を整理し、さらに語彙を増やします。授業を通して、英語を受容する力 (読む力と聴く力) を増強させ、英語を産出 (話す・書く) する意欲につなげます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 文法知識を整理する
2. 語彙力を向上させる
3. 英語の産出に向けた基礎的能力を養成する
4. 国内外での出来事を知る
5. 国内外の歴史・文化を知る

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	国内外の地理、歴史の知識が全くない。	国内外の地理、歴史の知識が少しはある。	国内外の地理、歴史の知識がある程度ある。	国内外の地理、歴史の知識が充分にある。
言語力	英語の基本構文が理解できない。身の回りの具体的な事柄に関する語彙がない。	英語の基本構文が理解できる。身の回りの具体的な事柄に関する語彙がある。	英語の基本構文を組み合わせた文が理解できる。具体的な事柄に加え、感情表現に関する語彙がある。	複雑な構造の英語の長文が理解できる。自分の意見を論理的に表現する語彙がある。
思考・解決力	背景知識がなく、英語力がないために、与えられる情報を理解できない。	背景知識が少しはあり、具体的な事柄に関する英語の知識がある。複数の情報を理解し、整理できる。	背景知識がある程度あり、抽象的な事柄に関する英語の知識がある。批判的思考力がある程度理解している。	背景知識が充分にあり、抽象的な事柄に関する英語の知識がある。批判的思考力を理解している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Unit 11 English added to more school entrance exams
- 第 3 回 Unit 12 International body OK's Japanese names for undersea
- 第 4 回 Unit 13 Language schools eyed to prep Asian workers for Japan
- 第 5 回 Unit 14 Shopping app tested to reduce food loss
- 第 6 回 Unit 11~14の復習
- 第 7 回 Unit 15 Saudi women score right to watch soccer in stadium
- 第 8 回 Unit 16 Oxfam to focus on wealth gap at upcoming economic forum
- 第 9 回 Unit 17 Lack of oxygen hurting corals in world's oceans
- 第 10 回 Unit 15~17の復習
- 第 11 回

Unit 18 Translation system eyed for '20 reads facial expressions

- 第 12 回 Unit 19 NASA seeks skiers to measure snowpack
- 第 13 回 Unit 20 U.S. states promoting civil rights tourism
- 第 14 回 Unit 18~20 の復習
- 第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回のクラスで語彙の小テストを行い、授業内で各自で確認をして、語彙理解のフィードバックをします。グループでの精読を中心に新聞記事を読みます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習として、テキストの練習問題に取り組んで下さい。わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻繁に小テストをしますのでしっかり復習しましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業評価は小テストとまとめテストの結果 (80%)、授業に向かう姿勢 (20%) から総合的に判断します。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Meet the World English Through Newspapers 2019』 / Yasuhiko Wakaari/成美堂/2019/978479199/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高等学校での英語非常勤講師

和英辞典と英和辞典の用例作成および校閲

英語基礎 II F

GBE1350F0J

大学
共通教育科目

1年次
1単位 後期

月曜2限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

石川 真美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

授業では英語で書かれた新聞記事を読みます。それらの新聞記事を通して、世界で起こっている様々な事柄を理解し、自分の意見を持ち、それを英語で表現する能力の養成を目標

指します。実際の新聞記事を精読しながら、高校までに学んだ文法と語彙の知識を整理し、さらに語彙を増やします。授業を通して、英語を受容する力 (読む力と聴く力) を増強させ、英語を産出 (話す・書く) する意欲につなげます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 文法知識を整理する
2. 語彙力を向上させる
3. 英語の産出に向けた基礎的能力を養成する
4. 国内外での出来事を知る
5. 国内外の歴史・文化を知る

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	国内外の地理、歴史の知識が全くない。	国内外の地理、歴史の知識が少しはある。	国内外の地理、歴史の知識がある程度ある。	国内外の地理、歴史の知識が充分にある。
言語力	英語の基本構文が理解できない。身の回りの具体的な事柄に関する語彙がない。	英語の基本構文が理解できる。身の回りの具体的な事柄に関する語彙がある。	英語の基本構文を組み合わせた文が理解できる。具体的な事柄に加え、感情表現に関する語彙がある。	複雑な構造の英語の長文が理解できる。自分の意見を論理的に表現する語彙がある。
思考・解決力	背景知識がなく、英語力がないために、与えられる情報を理解できない。	背景知識が少しはあり、具体的な事柄に関する英語の知識がある。複数の情報を理解し、整理できる。	背景知識がある程度あり、抽象的な事柄に関する英語の知識がある。批判的思考力のある程度理解している。	背景知識が充分にあり、抽象的な事柄に関する英語の知識がある。批判的思考力を理解している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Unit 11 English added to more school entrance exams
- 第 3 回 Unit 12 International body OK's Japanese names for undersea
- 第 4 回 Unit 13 Language schools eyed to prep Asian workers for Japan
- 第 5 回 Unit 14 Shopping app tested to reduce food loss
- 第 6 回 Unit 11~14の復習
- 第 7 回 Unit 15 Saudi women score right to watch soccer in stadium
- 第 8 回 Unit 16 Oxfam to focus on wealth gap at upcoming economic forum
- 第 9 回 Unit 17 Lack of oxygen hurting corals in world's oceans
- 第 10 回 Unit 15~17の復習

第 11 回 Unit 18 Translation system eyed for '20 reads facial expressions

第 12 回 Unit 19 NASA seeks skiers to measure snowpack

第 13 回 Unit 20 U.S. states promoting civil rights tourism

第 14 回 Unit 18~20 の復習

第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回のクラスで語彙の小テストを行い、授業内で各自で確認をして、語彙理解のフィードバックをします。グループでの精読を中心に新聞記事を読みます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習として、テキストの練習問題に取り組んで下さい。わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻繁に小テストをしますのでしっかり復習しましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業評価は小テストとまとめテストの結果 (80%)、授業に向かう姿勢 (20%) から総合的に判断します。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Meet the World English Through Newspapers 2019』 / Yasuhiko Wakaari/成美堂/2019/978479199/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高等学校での英語非常勤講師

和英辞典と英和辞典の用例作成および校閲

英語基礎 II G

GBE1350G0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は、英文を効率よく読むことができるようになることです。音声付きの英文のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに、英語の音声についていけるよう、速く正確な読解ができるようにします。また、イギリス英語の発音に触れ英語の多様性を理解するとともに、市販の教材を用いた自学自習の方法と習慣を身につけ、基本的な英語の知識と能力を習得することを目指します。

に、英語の音声についていけるよう、速く正確な読解ができるようにします。また、イギリス英語の発音に触れ英語の多様性を理解するとともに、市販の教材を用いた自学自習の方法と習慣を身につけ、基本的な英語の知識と能力を習得することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり (書きとり) を行い、読解力やリスニングの力を養う。

2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。

3. テキスト本文の内容に関する質問を行い、理解度を確認する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 Chapter3 25 ロンドン塔へようこそ p.121

26 こんなすてきなお天気の日 p.125

第 3 回 Chapter3 27 ビールの本場で何を飲む? p.129

28 フィッシュ・アンド・チップス p.133

第 4 回 Chapter3 29 ワーズワースのふるさとへ p.137

30 ハワース・ブロンテ博物館 p.141

第 5 回 Chapter3 31 演劇、それともミュージカル? p.145

Chapter4 32 ビッグベンの鐘の音 p.151

第 6 回 Chapter4 33 イギリス人と友達になる方法 p.155

34 ロンドン内 p.161

第 7 回 Chapter4 35 スヌーカーのルール p.165

36 ポール・ポッツの半生 p.169

第 8 回 世界の英語聞き比べ

第 9 回 Chapter4 37 ティーは紅茶にあらず?! p.173

38 違う言葉、同じ意味 p.177

第 10 回 Chapter4 39 サッカーの楽しみ p.181

40 プリティッシュ・インベーション p.187

第 11 回 Chapter5 41 女王と首相 p.193

42 到着が遅れております電車は... p.197

第 12 回 Chapter5 43 スランプに落ちたシェークスピア p.201

44 サンドイッチの誕生 p.205

第 13 回 Chapter5 45 招かれざる客 p.209

世界の英語聞き比べ

第 14 回 世界の英語聞き比べ

第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、やや難し目のイギリス英語の音声付きテキストを用いて、英文の書き取りと読解を中心とするトレーニングを行い、基礎的な英語能力の向上を目指します。また、語彙力向上のために、毎回テキスト内の重要な単語・表現についての小テストを実施します。授業中にテキスト内の

表現や文法項目について解説し、必要に応じて関連する動画などを提示し理解を深めます。授業後は、復習で理解度を確認し、次回の授業で適宜フィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、各回で指定された範囲の予習をしていくこと。

各回で扱った範囲の英文について、復習として書き取りと読解をしていくこと。

復習の際、聞き取れなかった箇所、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(35%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(35%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

やや難し目のテキストを用いますので、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力があり、英語の力を伸ばしたい、上のレベルを目指したいという意欲のある人の受講を勧めます。

音声付きのテキストを用いますので、読解だけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。

イギリス英語のテキストを用いますので、イギリスの言葉や文化に興味がある人や、中学・高校で習うアメリカ英語以外に触れてみたい人、国ごとに特徴が異なる英語の多様性に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『究極のイギリス英語リスニング Standard』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757446208/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ダボス会議で聞く 世界の英語』/鶴田知佳子・柴田真一/コスモピア株式会社/2008/9784902091540

『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757418059

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 II H

GBE1350H0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜2限

DP3: 言語力

15

必修(英語英文学科以外) クラス選択

黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は、英文を効率よく読むことができるようになることです。音声付きの英文のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに、英語の音声についていけるよう、速く正確な読解ができるようにします。また、イギリス英語の発音に触れ英語の多様性を理解するとともに、市販の教材を用いた自学自習の方法と習慣を身につけ、基本的な英語の知識と能力を習得することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり(書きとり)を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキスト本文の内容に関する質問を行い、理解度を確認する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Chapter3 25 ロンドン塔へようこそ p.121
26 こんなすてきなお天気の日 p.125
- 第 3 回 Chapter3 27 ビールの本場で何を飲む? p.129
28 フィッシュ・アンド・チップス p.133
- 第 4 回 Chapter3 29 ワーズワースのふるさとへ p.137
30 ハワース・ブロンテ博物館 p.141
- 第 5 回 Chapter3 31 演劇、それともミュージカル? p.145
Chapter4 32 ビッグベンの鐘の音 p.151
- 第 6 回 Chapter4 33 イギリス人と友達になる方法 p.155
34 ロンドン内 p.161
- 第 7 回 Chapter4 35 スヌーカーのルール p.165
36 ポール・ポッツの半生 p.169
- 第 8 回 世界の英語聞き比べ
- 第 9 回 Chapter4 37 ティーは紅茶にあらず?! p.173
38 違う言葉、同じ意味 p.177
- 第 10 回 Chapter4 39 サッカーの楽しみ p.181
40 ブリティッシュ・インベージョン p.187
- 第 11 回 Chapter5 41 女王と首相 p.193
42 到着が遅れております電車は... p.197

第 12 回 Chapter5 43 スランプに落ちたシェークスピア p.201

44 サンドイッチの誕生 p.205

第 13 回 Chapter5 45 招かれざる客 p.209

世界の英語聞き比べ

第 14 回 世界の英語聞き比べ

第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、やや難し目のイギリス英語の音声付きテキストを用いて、英文の書き取りと読解を中心とするトレーニングを行い、基礎的な英語能力の向上を目指します。また、語彙力向上のために、毎回テキスト内の重要な単語・表現についての小テストを実施します。授業中にテキスト内の表現や文法項目について解説し、必要に応じて関連する動画などを提示し理解を深めます。授業後は、復習で理解度を確認し、次回の授業で適宜フィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、指定された範囲の予習をしてくること。

(単語テストは成績評価の35%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。)

(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。)

次回分の音声最低でも一回は聞き、テキストのクイズに挑戦してみる。

各回で扱った範囲の英文について、復習として書き取りと読解をしていくこと。

復習の際、聞き取れなかった箇所、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(35%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(35%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

やや難し目のテキストを用いますので、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力があり、英語の力を伸ばしたい、上のレベルを目指したいという意欲のある人の受講を勧めます。

音声付きのテキストを用いますので、読解だけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。

イギリス英語のテキストを用いますので、イギリスの言葉や文化に興味がある人や、中学・高校で習うアメリカ英語

以外に触れてみたい人、国ごとに特徴が異なる英語の多様性に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『究極のイギリス英語リスニング Standard』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757446208/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ダボス会議で聞く 世界の英語』/鶴田知佳子・柴田真一/コスモピア株式会社/2008/9784902091540

『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757418059

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 II J

GBE1350J0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

伊村 大樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語基礎 I までで学んだことに基づき、英文読解の力を養う。読解の教材として心理学の入門書や H. G. ウェルズ『世界史概観』といった一般書を用い、より高度な英文に触れる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・文型の基礎を理解する
- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 読解のための英文法再論

第 2 回 英語で読む心理学的事例報告1 知覚の仕組み

第 3 回 英語で読む心理学的事例報告2 環境の学習効果

第 4 回 英語で読む心理学的事例報告3 記憶術とその弊害

第 5 回 英語で読む心理学的事例報告4 論理思考と言語

第 6 回 英語で読む心理学的事例報告5 モチベーションとパフォーマンス

第 7 回 英語で読む心理学的事例報告6 生得的抽象概念

第 8 回 英語で読む心理学的事例報告7 早期教育の効果—ヘッドスタート事業

第 9 回

- 英語で読む心理学的事例報告8 権威と従順—ミル
グラム実験
- 第 10 回 英語で読む心理学的事例報告9 差別・分断と協調
のメカニズム
- 第 11 回 英語で読む世界宗教の誕生1 ユダヤ教とその予言
者たち
- 第 12 回 英語で読む世界宗教の誕生2 イエスの教え
- 第 13 回 英語で読む世界宗教の誕生3 ムハンマドとイスラ
ム
- 第 14 回 まとめのテストと解説
- 第 15 回 総括と追加課題の指示等
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書はありません。英語基礎 I に引き続き、プリントを
配布して教材とします。英語圏の一般読者向けの文章を教
材としますので、解説は詳しく行います。

授業内で行うまとめのテストの後に、フィードバックとし
て正答の説明と解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところを
チェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材
に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準
備も怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%
の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した
場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認
められません。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

特になし(プリントを使用)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Psychology: A Very Short Introduction (Gillian Butler and
Freda McManus, Oxford University Press)

A Short History of the World (H. G. Wells)

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 II K

GBE1350K0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜2限

DP3: 言語力

15

必修(英語英文学科以外) クラス選択

伊村 大樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語基礎 I までで学んだことに基づき、英文読解の力を養う。
読解の教材として心理学の入門書や H. G. ウェルズ『世
界史概観』といった一般書を用い、より高度な英文に触れ
る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・文型の基礎を理解する
- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 読解のための英文法再論
- 第 2 回 英語で読む心理学的事例報告1 知覚の仕組み
- 第 3 回 英語で読む心理学的事例報告2 環境の学習効果
- 第 4 回 英語で読む心理学的事例報告3 記憶術とその弊害
- 第 5 回 英語で読む心理学的事例報告4 論理思考と言語
- 第 6 回 英語で読む心理学的事例報告5 モチベーションと
パフォーマンス
- 第 7 回 英語で読む心理学的事例報告6 生得的抽象概念
- 第 8 回 英語で読む心理学的事例報告7 早期教育の効果—
ヘッドスタート事業
- 第 9 回 英語で読む心理学的事例報告8 権威と従順—ミル
グラム実験
- 第 10 回 英語で読む心理学的事例報告9 差別・分断と協調
のメカニズム
- 第 11 回 英語で読む世界宗教の誕生1 ユダヤ教とその予言
者たち
- 第 12 回 英語で読む世界宗教の誕生2 イエスの教え
- 第 13 回 英語で読む世界宗教の誕生3 ムハンマドとイスラ
ム
- 第 14 回 まとめのテストと解説
- 第 15 回 総括と追加課題の指示等

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書はありません。英語基礎 I に引き続き、プリントを
配布して教材とします。英語圏の一般読者向けの文章を教

材としますので、解説は詳しく行います。

授業内で行うまとめのテストの後に、フィードバックとして正答の説明と解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし(プリントを使用)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Psychology: A Very Short Introduction (Gillian Butler and Freda McManus, Oxford University Press)

A Short History of the World (H. G. Wells)

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎ⅡL

GBE1350L0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

田中 祐子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

短めの文章(18~180語)を読み、その中で過去に学習した単語や文法事項を確認しながら、読む楽しみを実感する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

単語の復習と語彙力の向上

基本的な文法事項の確認

和訳に頼らない読解

映画内の重要な台詞の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 Unit 13 Do Animals Know Things We Don't Know?

第 2 回 Unit 14 Godiva?The Lady and the Chocolate

第 3 回 Unit 15 Aloha Hawaii

第 4 回 Unit 16 Everyone Loves a Circus

第 5 回 Unit 17 Text Messaging

第 6 回 Unit 18 What Type Are You?

第 7 回 Unit 19 Japanese Food Customs

第 8 回 Unit 20 Mascot Characters

第 9 回 Unit 21 Trees—One of Nature's Wonders

第 10 回 映画鑑賞 (語彙や表現の確認)

第 11 回 映画鑑賞 (重要な台詞の理解)

第 12 回 Unit 22 Koban at Your Service

第 13 回 Unit 23 3-D Printers

第 14 回 Unit 24 Fashion Trends Start Here

第 15 回 Final Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。各章の読み物は、段階的に2つあり、可能な限り難解な方へ進む。

映画の大まかな内容と時代背景を確認した上で、字幕を英語にして鑑賞し、使用されている語彙や表現を学ぶ。

授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

英文の下読みをしてくる。単語を事前に調べておく。

指示された単語を覚える (単語テストあり)

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%) 小テスト (50%) 提出課題 (20%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

DVD鑑賞の回次は流動的です

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Reading Steps』/Robert Hickling 他/金星堂/2015年/978-4-7647-3992-5/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 II M

GBE1350M0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 月曜 2限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 田中 祐子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

短めの文章(80~180語)を読み、その中で過去に学習した単語や文法事項を確認しながら、読む楽しさを実感する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

単語の復習と語彙力の向上
 基本的な文法事項の確認
 和訳に頼らない読解
 映画内の重要な台詞の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 13 Do Animals Know Things We Don't Know?
- 第 2 回 Unit 14 Godiva?The Lady and the Chocolate
- 第 3 回 Unit 15 Aloha Hawaii
- 第 4 回 Unit 16 Everyone Loves a Circus
- 第 5 回 Unit 17 Text Messaging
- 第 6 回 Unit 18 What Type Are You?
- 第 7 回 Unit 19 Japanese Food Customs
- 第 8 回 Unit 20 Mascot Characters
- 第 9 回 Unit 21 Trees?One of Nature's Wonders
- 第 10 回 映画鑑賞（語彙や表現の確認）
- 第 11 回 映画鑑賞（重要な台詞の理解）
- 第 12 回 Unit 22 Koban at Your Service
- 第 13 回 Unit 23 3-D Printers
- 第 14 回 Unit 24 Fashion Trends Start Here
- 第 15 回 Final Review

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。各章の読み物は、段階的に2つあり、可能な限り難解な方へ進む。

映画の大まかな内容と時代背景を確認した上で、字幕を英語にして鑑賞し、使用されている語彙や表現を学ぶ。

授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

英文の下読みをしてくる。単語を事前に調べておく。

指示された単語を覚える（単語テストあり）

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30％）小テスト（50％）提出課題（20％）に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

DVD鑑賞の回次は流動的です

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『Reading Steps』/Robert Hickling 他/金星堂/2015年/978-4-7647-3992-5/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語基礎 II P

GBE1350P0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 月曜 2限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 寺西 みどり

〔科目の教育目標（Course Description）〕

入門レベルの英語を再学習し、苦手意識を軽減する。

単語の意味と発音を知る。

きわめて容易な教科書を用い、意味の理解だけを目指す。

映画鑑賞から、理解の瞬間を体験する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

発音も含め、単語を覚える。

教科書の説明をよく読み、中学時代の基本文法を思い出す。5～6行の簡単な文章を読み、意味の理解の後、音読の練習をする。

余裕があれば、短文・単文に限定の上、簡単な英作文に取り組む。

字幕と音声英語にし、誰もが筋を知っている映画を鑑賞する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 9

	進行形 単語の発音練習 進行形を含む文章を読む	
第 2 回	Unit 10 前半 受動態 動詞の活用 単語の発音練習	第 15 回 まとめ 質問受付 まとめテスト 答案回収後、テストと同じ問題を復習
第 3 回	Unit 10 後半 受動態 単語の発音練習 受動態を含む文章を読む	[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート] 定期期間内の試験は行わず、最終回にまとめテストをする。
第 4 回	DVD学習 4 映画鑑賞(ディズニー作品を予定) 注目すべき台詞を事前に紹介する	[教育・学習の方法 (Course Methods)] 説明後、教科書の問題に取り組む。 指名して問に答えてもらう。 音読も当てる。 相当簡単なので安心してよい。
第 5 回	Unit 11 前半 完了形 動詞の活用 単語の発音練習	[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)] その日の箇所に事前に目を通すだけでよい。 単語テスト等小テストを予告した場合は必ず覚えてくること。
第 6 回	Unit 11 後半 完了形 動詞の活用 単語の発音練習 完了形を含む文章を読む	[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))] 8
第 7 回	Unit 12 比較 形容詞の復習 形容詞の変化 単語の発音練習	[評価方法・評価基準 (Evaluation)] まとめテストと小テストおよび授業参加度により総合的に評価する
第 8 回	DVD学習 5 映画鑑賞(ディズニー作品を予定) 注目すべき台詞を事前に紹介する	[留意事項 (Other Information)] 映画鑑賞の回次は流動的です [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
第 9 回	Unit 13 不定詞 単語の発音練習 完了形を含む文章を読む	Simply Grammar <Revised Edition> Kikuji Saito 南雲堂 2017年 ISBN 9784523178316
第 10 回	Unit 14 動名詞 動名詞を含む文章を読む 生活に役立つ単語一覧	[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)] 必要時に指示する [参考URL(URL for Reference)] 必要時に指示する
第 11 回	Unit 15 関係代名詞 関係代名詞を含む文章を読む 生活に役立つ単語一覧	[実務経験のある教員による実践的科目] «実践的科目» 翻訳業務経験38年。現在ノートルダム教育修道女会事務室に翻訳担当として非常勤勤務中。 通訳業務経験あり。
第 12 回	DVD学習 6 映画鑑賞(ディズニー作品を予定) 注目すべき台詞を事前に紹介する	
第 13 回	Unit 16 前半 仮定法 単語の発音練習 動詞の活用復習	
第 14 回	Unit 16 後半 仮定法 仮定法を含む文章を読む 生活に役立つ単語一覧	

英語基礎 II N

GBE1350NOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 月曜1限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 寺西 みどり

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本コースは和訳を重視するため、「英語で考える」という主流の英語学習の理想とは異なる面があるが、原文を正しく捉え、センスのある日本語に直すという「翻訳」の分野は健在である。その初歩を体験することを目的とする。

日本に多大な影響を与えたアメリカ合衆国について知識を得る。

アメリカの地理と歴史が簡単な英文で書かれたテキストを読む。

最終的に独自の和訳本を完成し達成感を味わってもらいたい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

基本文法を習得していることを前提とする。

年表や地図など、アメリカの小・中学校のような地理・歴史教材になじむ。

アメリカ合衆国の成り立ちを知る。

内容をすべて正しい日本語に訳してみる。

1文ずつの説明を聞き理解すること。

和訳ノートを提出する。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Chapter 4
事前の知識のコーナー
- 第 2 回 Chapter 4
奴隷問題
- 第 3 回 Chapter 4
南北戦争
- 第 4 回 Chapter 4
アブラハム・リンカーン
- 第 5 回 Chapter 5
事前の知識のコーナー
- 第 6 回 Chapter 5
産業の発達
- 第 7 回 Chapter 5
西部開拓とインディアン
- 第 8 回 Chapter 5
ジェーン・アダムス
- 第 9 回 Chapter 6

事前の知識のコーナー

- 第 10 回 Chapter 6
大恐慌
- 第 11 回 Chapter 6
第二次世界大戦
- 第 12 回 Chapter 6
映画鑑賞
20世紀末のアメリカの訴訟文化にファンタジーを織り交ぜた作品
クリスマス時期のアメリカ文化を味わう
- 第 13 回 Chapter 6
冷戦
- 第 14 回 Chapter 6
フランクリン・ローズベルト
- 第 15 回 Chapter 6
まとめとまとめテスト
教科書の設問からまとめテストを行う
後期の和訳ノートを提出する

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験期間中には行わない。

最終回にまとめテストをする。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義をよく聞き和訳作業に取り組む。

発表には口頭で、評価を行い注意点を確認する。提出物は朱入れで返却する。

試験のフィードバックは、答案回収後に、机間巡回の際の印象を述べる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

単語を調べ、下読みをする。

この時点で訳ができなくてもよい。

人名・地名は別途調べておくことよい

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

まとめテストと提出物および授業参加度により総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

How America Became America <アメリカのあゆみ>

George H. Isted

英潮社

ISBN 4268003312C3082

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要時に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

必要時に指示する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

翻訳業務歴38年。現在ノートルダム教育修道女会事務室に翻訳担当として非常勤勤務中。

通訳の経験あり。
YBU英会話教室講師

英語総合ⅡA

GBE1351A0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
水曜2限
DP3：言語力
15
必修（英語英文学科以外） クラス選択
Rebecca Paterson

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The purpose of this course is to help students become more proficient writers, building on the skills acquired in the first semester. This course will begin with a review of sentence features and paragraph structure before focusing on expository and persuasive writing styles. The course will guide students through the writing process as well as provide instruction for writing often required in examinations. Students will be expected to produce individual written work, as well as collaborative work with their classmates.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

Students will learn how to apply the skills acquired in the first semester to creating longer prose based on two different styles of writing to finally producing an essay based on a topic of their choice. Through peer review and collaborative projects, students will refine their editing and proofreading skills. Additionally, students will further deepen their understanding of English grammar, vocabulary, and writing conventions.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
- 第 2 回 Sentences & paragraphs: a review
- 第 3 回 Expressing your opinion 1
- 第 4 回 Expressing your opinion 2

- 第 5 回 Comparing and contrasting 1
 - 第 6 回 Comparing and contrasting 2
 - 第 7 回 Fake News!
 - 第 8 回 Writing summaries
 - 第 9 回 Persuasive writing
 - 第 10 回 Pet peeves
 - 第 11 回 Pet peeves: continued
 - 第 12 回 Final essay: Drafting
 - 第 13 回 Final essay: Peer feedback
 - 第 14 回 Final essay: Editing and submission
 - 第 15 回 Reflection & self-evaluation
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Classes will be conducted entirely in English. In class, tasks will include individual work (paragraph and essay writing), as well as collaborative tasks (peer reviewing and group writing projects), through which students will work together to improve their writing.

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of readings, pre-writing, and revising written work.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

Evaluation of writing tasks in this class will be based on a mixture of individual and class feedback on written work and participation, and a rubric presented to the students before each task. Students will self-evaluate using their rubrics, and the course instructor will conduct evaluations based on identical criteria. Final grades will be determined based on the following:

- ・ Class participation (20%)
- ・ Writing tasks (50%)
- ・ Final Essay (30%)

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

Materials will be provided in class.

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『Ready to Write Level 2: Perfecting Paragraphs (4th Edition)』/
Karen Blanchard, Christine Root/Pearson Longman/
2010/9780131363328/学内販売予定

『英語スピーキングルールブック?論理を学び表現力を養う』/
石井 洋佑/テイエス企画/2015/4887841701

『英語ライティングの原理原則——テストに強くなる、レポート・論文で評価される』/山岡 大基/テイエス企画/

[参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

英語総合ⅡB

GBE1351BOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 水曜1限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 Rebecca Paterson

[科目の教育目標 (Course Description)]

The purpose of this course is to help students become more proficient writers, building on the skills acquired in the first semester. This course will begin with a review of sentence features and paragraph structure before focusing on expository and persuasive writing styles. The course will guide students through the writing process as well as provide instruction for writing often required in examinations. Students will be expected to produce individual written work, as well as collaborative work with their classmates.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Students will learn how to apply the skills acquired in the first semester to creating longer prose based on two different styles of writing to finally producing an essay based on a topic of their choice. Through peer review and collaborative projects, students will refine their editing and proofreading skills. Additionally, students will further deepen their understanding of English grammar, vocabulary, and writing conventions.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 Orientation
- 第 2 回 Sentences & paragraphs: a review

- 第 3 回 Expressing your opinion 1
 - 第 4 回 Expressing your opinion 2
 - 第 5 回 Comparing and contrasting 1
 - 第 6 回 Comparing and contrasting 2
 - 第 7 回 Fake News!
 - 第 8 回 Writing summaries
 - 第 9 回 Persuasive writing
 - 第 10 回 Pet peeves
 - 第 11 回 Pet peeves: continued
 - 第 12 回 Final essay: Drafting
 - 第 13 回 Final essay: Peer feedback
 - 第 14 回 Final essay: Editing and submission
 - 第 15 回 Refection & self-evaluation
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

Classes will be conducted entirely in English. In class, tasks will include individual work (paragraph and essay writing), as well as collaborative tasks (peer reviewing and group writing projects), through which students will work together to improve their writing.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of readings, pre-writing, and revising written work.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

10

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Evaluation of writing tasks in this class will be based on a mixture of individual and class feedback on written work and participation, and a rubric presented to the students before each task. Students will self-evaluate using their rubrics, and the course instructor will conduct evaluations based on identical criteria. Final grades will be determined based on the following:

- ・ Class participation (20%)
- ・ Writing tasks (50%)
- ・ Final Essay (30%)

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

Materials will be provided in class

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『Ready to Write Level 2: Perfecting Paragraphs (4th Edition)』/ Karen Blanchard, Christine Root/Pearson Longman/2010/9780131363328/学内販売予定

『英語スピーキングルールブック?論理を学び表現力を養う』/ 石井 洋佑/テイエス企画/2015/4887841701

『英語ライティングの原理原則——テストに強くなる、レポート・論文で評価される』/山岡 大基/テイエス企画/2018/4887842031

〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合ⅡC

GBE1351C0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
水曜2限
DP3：言語力
15
必修（英語英文学科以外） クラス選択
藤本 幸治

〔科目の教育目標（Course Description）〕

中級レベル(TOEIC500-600)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までには中級レベル(TOEIC500-600)の英語を完全に読み、書けるようにする。また、パラグラフライティングを行うことで、アカデミックかつ論理的な英文を読み、書く力の基礎を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

TOEIC600点程度のレベルの単語、構文を十分に活用し、正しい英文を書いて、読めるようになるために大別して3つの課題を消化する。

- 1) 場所についての説明を読み、書く。
- 2) 作業工程についての英文を読み、書いてみる。
- 3) 自分の意見を相手に正確に伝える英文をパラグラフで構成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業目標の理解
導入：さらにコミュニケーション能力を高める英語学習について
- 第 2 回 不定詞の理解と応用（1）
to不定詞の副詞的用法を理解し、使う。
- 第 3 回 不定詞の理解と応用（2）
to不定詞の形容詞的用法を理解し、使う。
- 第 4 回 受動態再考
受動態を理解し、使う
- 第 5 回 現在分詞再考
現在分詞の形容詞的用法を理解し、使う。
- 第 6 回 動詞の時制と相のまとめ
第1～5回 復習演習とまとめ

- 第 7 回 過去分詞の理解と応用
過去分詞の形容詞的用法を理解し、使う。
- 第 8 回 関係代名詞再考（1）
関係代名詞の主格と目的格を理解し、使う。
- 第 9 回 関係代名詞再考（2）
関係代名詞の所有格と関係代名詞Whatを理解し、使う。
- 第 10 回 接続詞の理解と応用
英語の接続詞を理解し、使う。
- 第 11 回 疑問文再考
疑問詞疑問文と間接疑問文を理解し、使う。
- 第 12 回 英語の非基本形まとめ
第7～11回 復習演習とまとめ
- 第 13 回 仮定法の理解と応用
仮定法を理解し、使う。
- 第 14 回 比較構文の理解と応用
比較級と最上級を理解し、使う
- 第 15 回 学期内学習項の復習
学期総まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。第15回週目のReview of the Semesterで課題、レポートに対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

分からない単語の意味を辞書で調べる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、小テスト・レポート（30%）、授業最終回まとめのテスト（40%）

〔留意事項（Other Information）〕

指定された予習、復習は必須事項です。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『A Primer of Communication in English』/M. Koyama et al/ Shohakusya /2017//学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合ⅡD

GBE1351D0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 水曜1限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 藤本 幸治

〔科目の教育目標（Course Description）〕

中級レベル(TOEIC500-600)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までには中級レベル(TOEIC500-600)の英語を完全に読み、書けるようにする。また、パラグラフライティングを行うことで、アカデミックかつ論理的な英文を読み、書く力の基礎を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

TOEIC600点程度のレベルの単語、構文を十分に活用し、正しい英文を書いて、読めるようになるために大別して3つの課題を消化する。

- 1) 場所についての説明を読み、書く。
- 2) 作業工程についての英文を読み、書いてみる。
- 3) 自分の意見を相手に正確に伝える英文をパラグラフで構成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業目標理解
 Introduction1:より効果的に英語を話す、書くために
- 第 2 回 不定詞の理解と応用（1）
 「～をするために」と「～して」を表す形
- 第 3 回 不定詞の理解と応用（2）
 「～するための」と「～するという」を表す形
- 第 4 回 受動態再考
 「～される」を表す形
- 第 5 回 進行形の理解と応用
 「～している」を表す形
- 第 6 回 過去分詞形再考
 「～された」を表す形
- 第 7 回 英語の態のまとめ
 第2～6回 まとめ総合演習
- 第 8 回 当為接続詞の理解と応用
 等位接続詞の役割を理解し、活用する
- 第 9 回 従属接続詞の理解と応用
 従属接続の役割を理解し、活用する
- 第 10 回 関係代名詞再考
 2つのものを効果的につなぐ

- 第 11 回 疑問文の理解と応用
 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法
- 第 12 回 仮定法の理解と応用
 「現実離れたこと」を表す形
- 第 13 回 英語非基本形のまとめ
 第8回～第12回 まとめの総合演習
- 第 14 回 形容詞の比較級と最上級再考
 二つ以上のものを比べる（順位を表す）方法
- 第 15 回 学期内学習内容のまとめ
 review of the semester

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。第15回週目のReview of the Semesterで課題、レポートに対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

分からない単語の意味を辞書で調べる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、小テスト・レポート（30%）、授業最終回まとめのテスト（40%）

〔留意事項（Other Information）〕

指定された予習、復習は必須事項です。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『A Primer of Communication in English』/M. Koyama/Syohakusya/2017//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

GBE1351E0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 水曜2限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 東郷 多津

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目の目的は基本的な英語ライティングの技術を習得することです。基礎的な文法、スペリング、句読法、などを復習し、パラグラフの規則を覚えることにより、さらに自信をもって英語で「書く」ことが出来るようになることを目指します。そして、クラスでの練習を積み重ね、うまく「パラグラフ」を組み立て、より多くの伝えたいと思う内容を伝えることが出来る能力を身に付けてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1.すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
- 2.文を正しく組み立てるために英文法を復習すること
- 3.1つの話題について、数文をうまくつなげ、まとめて書くこと
- 4.よいパラグラフとは何かを理解して、その構成にしたがって、読み手を意識した英文を書くこと
5. 多種のプロジェクトに取り組み、自分でまたはクラスメートと相談しながら、内容を充実させる方法を学ぶこと

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Writing	ごく基本的な日常表現や個人的情報であって、まとまって書くことができない。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を使って書くことができる。	仕事、学校、娯楽など身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を組み合わせたパラグラフを作ることができる。	抽象的な話題でも具体的な話題でも、幅広い話題について、明確で詳細な文章を作り、それらを組み合わせ、複数のパラグラフにまとめることができる。

言語力	基本的な文の構造がわからない。必要な単語を調べることができない。	教えられたら、基本的な文の構造を思いだせる。また、単語を調べることができる。	基本的な文の構造を理解できている。または、必要な単語を調べて選ぶことができる。	基本的な文の構造を使っただけではなく、いろいろな文法事項を用いて文を書くことができる。辞書を使いながら、いろいろな語彙を調べて、正しく使用することができる。
思考・解決力	教員に言われたことを書くまたは、作業することができない。	教員やクラスメートに説明されたら作業を進めることができる。	わからないことがある場合、教員やクラスメートに質問や相談をするが、基本的にはテキストを読んで、作業を進めることができる。	適宜、必要に応じてクラスメートと相談したり、辞書や必要な文献を利用しながら、テキストを読んで作業を進めることができる。
共生・協働する力	振り返りシートに署名を頼むことができない。	振り返りシートに署名を頼むことができたと同時に、誰かのシートに署名をすることができる。	振り返りシートやクラスメートの作品にコメントをすることができた。または、協同作業で自分の分担をこなすことができる。	自分の分担をこなすだけでなく、クラスメートやチームメートと、積極的に協力しながら、課題をこなすことができる。
創造・発信力	教えられた内容しか書くことができない。	教えられた内容やモデルを見て、その一部を変えて書くことができる。	教えられた内容やモデルを見て、自分で考えた文や内容を追加できる。	教えられた内容やモデルを見て、自分オリジナルの文や内容を考えて書くことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 授業概要の説明と後期の目標設定
- 第 2 回 PBL1：ショートストーリーを書く①：
 ショートストーリー1（テーマ：Autumn）の完成
- 第 3 回 PBL1：ショートストーリーを書く②：
 ショートストーリー2（自由テーマ）の完成
- 第 4 回 PBL1：ショートストーリーの品評会

- 第 5 回 PBL2：ポスターづくり①：
ポスター構想と原稿作成
- 第 6 回 PBL2：ポスターづくり②：
ポスター制作
- 第 7 回 PBL2：ポスターづくり③：
ポスターの完成と発表練習
- 第 8 回 PBL2：ポスター発表
- 第 9 回 PBL2：ポスター発表のまとめと英作文
- 第 10 回 PBL3：絵本づくり①：
物語の構成、完成
- 第 11 回 PBL3：絵本づくり②：
絵本の完成
- 第 12 回 PBL3：絵本づくり③：
絵本の品評会
- 第 13 回 まとめの英作文①：
英作文の下書き完成
- 第 14 回 まとめの英作文②：
クラスメートの英作文を読む&英作文の修正、提出
- 第 15 回 後期の振り返りと自己評価
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本授業は主としてプロジェクト形式で行われます。そのため、授業中は、ペアやグループによる学生同士の話し合いの場が設けられます。3~4名のグループでの発表も課されます。このように、教室では、できるだけ英語を使ってコミュニケーションを図るなど、主体的かつ能動的な英語の作文練習を行いましょ

う。課題に関するフィードバックは、必要と要望に応じて、授業内またはweb上で、個人または全体に対して行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

英作文は基本的に授業中に完成させます。その授業時間内に完成できるよう、必要なことがあれば次の授業までにその準備をして臨みましょう。授業中に課題が完成しない場合、次回授業までに必ず授業外に完成させましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、自己管理できるよう、予め示した判定方法にしたがって、算定可能な形で示します。まとめの英作文は、教員の示す判定基準に基づいて自己採点をします。同時に、教員も同じ判定基準で採点をします。最終評価は、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行う。

- ・ 授業参加点（予習、発表及び課題提出点を含む）（40%）、
- ・ 英作文・課題点（まとめの英作文を含む）（60%）

皆さんは、第一回目の授業で、評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、各プロジェクトを通して、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

〔留意事項（Other Information）〕

この授業では、1）授業内では学習するみなさんが主体となって、クラスメートと協同してさまざまなライティング

に関わる活動に参加する、2）辞書を持って授業に出席する、これら2つが強く求められます。さらに、授業ごとに細かく点数配分が決まっているので、出席を自己管理する必要があります。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『もっと伝えるためのライティング』（東郷多津・田中美和子）2017年

（テキストの入手方法については初回の授業で説明します）

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Evergreen / いいずな書店 / 2017年

英語意味順学習法/ 田地野彰/ ディスカヴァー・トゥエンティワン / 2011

Oxford Junior Illustrated Thesaurus

〔参考URL(URL for Reference) 〕

「意味順学習法」とは / https://www.youtube.com/watch?v=YjBC4zn_Z3s

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合 II F

GBE1351F0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3：言語力

15

必修（英語英文学科以外） クラス選択

森 ユキエ

〔科目の教育目標（Course Description）〕

これまでに学習してきた英語をベースに、さらに実際の英語運用能力を開発することに重点を置きます。日本語を直訳することによって起こる英語表現の間違いを豊富な文例で指摘し、正確な英作文が書けるように学習します。英作文の訓練が実際の英会話にも大いに役立つように、授業は構成されています。また[TOEIC]での成果が向上することを目指します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1）様々な現場での実際の英語運用の経験
- 2）文法習得とライティングの統合練習
- 3）語彙力の向上（[TOEIC]対策も含む）

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction 英作文のコツ（辞書の選び方・引き方など）

第 2 回 11 Voice（態）文法解説・練習問題・英作文

- 第 3 回 12 Infinitives (不定詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 9 Entertainment
- 第 4 回 13 Gerunds (動名詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 10 Comparative Culture
- 第 5 回 14 Participles (分詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 11 Science
- 第 6 回 15 Prepositions (前置詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 12 Environment
- 第 7 回 English Checklist 1 1 - 1 5 小テストとその解説
- 第 8 回 Book 1 Lesson 9 - 1 2 応用問題とその解説
- 第 9 回 16 Conjunctions & Interrogatives (接続詞・疑問詞)
文法解説・宿題の解答
- 第 10 回 17 Relatives (関係詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 13 Sleep & Dream
- 第 11 回 18 Comparison (比較) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 14 Taste
- 第 12 回 19 Negation (否定) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 15 Biodiversity
- 第 13 回 20 Subjunctive Mood (仮定法) 文法解説・宿題の解答
- 第 14 回 English Checklist 1 6 - 2 0 小テストとその解説
- 第 15 回 Book 1 Lesson 1 3 - 1 5 応用問題とその解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 毎回、惑わされやすい日本語をどのように英語で表現するか、文例を参考に文法事項も加えて解説する。
- 2) テキストの問題に取り組み、自分で英作文しながら文構造を理解する。
- 3) CD,DVD を利用して、日常的に使用する語彙を習得し、それによって読解能力を高め、作文能力の強化をはかる。
- 4) 小テストで実施する学生の英作文の解答に対して、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1) 授業で学習した箇所を必ず復習する。
- 2) 授業で指示された該当箇所を丁寧に辞書を引いて予習する。
- 3) 毎回課題 (穴埋め問題・英作文など) が出るので、それを次回までに仕上げてくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業参加度 (30%)、小テストを含む提出課題 (40%)、授業時の課題 (30%) の総合評価とする。

欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『English Checklist』 / 小中秀彦 / NAN ' UN-DO / 2009/9.784523176268E12/学内販売予定

『Interactive English Book for the TOEIC Test Book 1』 / 内田雅克 他 / 松柏社 / 2013/9.784881986684E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示、または別途配布する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 通訳案内士として通訳・翻訳の実務経験あり。

英語総合 II G

GBE1351G0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜2限

DP3 : 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

松岡 真由子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースの目標は、以下の2つです。1つはロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を高め、英語を自分の言葉として「使える」ようになること、もう1つは、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることです。そのために、協働学習を通じて4技能のスキルアップを図るとともに、自分で目標を立てて自分の学習を振り返り、そして評価するという、自己調整プロセスをベースにした課題に取り組みます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. すでに習得している基礎的な英文法を再確認すること
2. 英語を使用する場面で使える様々な表現を習得すること
3. 英文から必要な情報を読み取り、理解すること
4. 自分が伝えたいことを英語で表現できるようになること
5. ペアやグループワークを通じて、自分の英語学習を深める方法を知り、実践すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

Writing	テキストで扱われているようなごく基本的な日常表現や個人的情報であつても、英語でまとまった文を書くことができない。	テキストで扱われているようなごく基本的な個人情報や家族情報、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を使って書くことができる。	テキストで扱われているような特定の話題について、複数の英文を組み合わせることでパラグラフにまとめることができる。	テキストで扱われている特定の話題はもちろん、さらに複雑な話題について、複数の英文を組み合わせることでパラグラフにまとめることができる。
---------	----------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
Unit8 Shopping in Santa Monica 文法（助動詞）・語彙学習・プレリスニング・リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 2 回 Unit9 Moving Day 文法（前置詞）・語彙学習・プレリスニング・リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 3 回 Unit10 A Beautiful View 文法（現在完了）・語彙学習・プレリスニング
- 第 4 回 Unit10 A Beautiful View リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 5 回 Unit11 Sunday Fun 文法（比較）・語彙学習・プレリスニング
- 第 6 回 Unit11 Sunday Fun リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 7 回 第1回小テスト
Unit12 Seeing Stars 文法（WH疑問文）・語彙学習・プレリスニング
- 第 8 回 Unit12 Seeing Stars リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 9 回 Unit13 Buying Food for a BBQ 文法（動名詞／不定詞）・語彙学習・プレリスニング
- 第 10 回 Unit13 Buying Food for a BBQ リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 11 回 Unit14 Putting on a New Face 文法（接続詞）・語彙学習・プレリスニング
- 第 12 回 Unit14 Putting on a New Face リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 13 回 Unit15 Nice Surprises 文法（受動態）・語彙学習・プレリスニング
- 第 14 回 Unit15 Nice Surprises リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 15 回 第2回小テスト
グループプレゼンテーション
まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

クラスでは、各ユニットを2回に分けて学習します。1回目は、ターゲットとなる文法や語彙を確認し、それに関する問題に取り組みます。また、次回の導入として、映像を見ながら対話文のリスニングをします。2回目は、映像で出てきた短いやりとりのシーンを使って、会話表現の練習を行います。さらに、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。必ず辞書（紙の辞書、電子辞書など）を持参してください。

テストは、授業内で行う小テストとプレゼンテーションの2種類です。小テストは文法問題、ライティング、英文読解を中心とした問題構成です。プレゼンテーションは、グループライティングを発表します。

テストについては当日に解答を確認し解説を行います。プレゼンテーションについては、自己評価、他者評価を合わせて後日結果をフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

クラスで使用するテキストの動画、音声、問題データは、全てPCやスマートフォン、携帯端末からダウンロードできます。事前に予習をし、授業後は復習をすることをすすめます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

皆さんは、初回の授業で、学習ポートフォリオを使った自己評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

また、毎回の授業でのペア、グループワークに対しても自己評価をしてもらいます。

最終評価については、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行います。

- 1) 授業参加（授業参加度、ポートフォリオを用いた自己評価を含む）（55%）
- 2) 小テスト・グループプレゼンテーション（45%）

〔留意事項（Other Information）〕

この授業では、毎回ペア、グループワークを行います。評価方法・評価基準に記載されている「授業参加度」とは、ペア、グループワークでの活動を評価するものです。

また、授業時にYoutubeの動画（詳細は授業時にお知らせします）を適宜使いながら、アメリカの町の様子や自然な英語でのやり取りを知る機会を持ちます。動画をアップされているご本人からは、授業時での使用許可を得ています。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～』/Robert Hickling Misato Usukura/金星堂/

2018/9784764740495/学内販売予定

進度や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合ⅡH

GBE1351H0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3：言語力

15

必修（英語英文学科以外） クラス選択

松岡 真由子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本コースの目標は、以下の2つです。1つはロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を高め、英語を自分の言葉として「使える」ようになること、もう1つは、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることです。そのために、協働学習を通じて4技能のスキルアップを図るとともに、自分で目標を立てて自分の学習を振り返り、そして評価するという、自己調整プロセスをベースにした課題に取り組みます。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. すでに習得している基礎的な英文法を再確認すること
2. 英語を使用する場面で使える様々な表現を習得すること
3. 英文から必要な情報を読み取り、理解すること
4. 自分が伝えたいことを英語で表現できるようになること
5. ペアやグループワークを通じて、自分の英語学習を深める方法を知り、実践すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

Writing	テキストで扱われているようなごく基本的な日常表現や個人的情報であつても、英語でまとめた文を書くことができない。	テキストで扱われているようなごく基本的な個人情報や家族情報、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を使って書くことができる。	テキストで扱われているような特定の話題について、複数の英文を組み合わせてパラグラフにまとめることができる。	テキストで扱われている特定の話題はもちろん、さらに複雑な話題について、複数の英文を組み合わせてパラグラフにまとめることができる。
---------	---------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
Unit8 Shopping in Santa Monica 文法（助動詞）・語彙学習・プレリスニング・リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 2 回 Unit9 Moving Day 文法（前置詞）・語彙学習・プレリスニング・リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 3 回 Unit10 A Beautiful View 文法（現在完了）・語彙学習・プレリスニング
- 第 4 回 Unit10 A Beautiful View リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 5 回 Unit11 Sunday Fun 文法（比較）・語彙学習・プレリスニング
- 第 6 回 Unit11 Sunday Fun リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 7 回 第1回小テスト
Unit12 Seeing Stars 文法（WH疑問文）・語彙学習・プレリスニング
- 第 8 回 Unit12 Seeing Stars リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 9 回 Unit13 Buying Food for a BBQ 文法（動名詞／不定詞）・語彙学習・プレリスニング
- 第 10 回 Unit13 Buying Food for a BBQ リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 11 回 Unit14 Putting on a New Face 文法（接続詞）・語彙学習・プレリスニング
- 第 12 回 Unit14 Putting on a New Face リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 13 回 Unit15 Nice Surprises 文法（受動態）・語彙学習・プレリスニング
- 第 14 回 Unit15 Nice Surprises リスニング・スピーキング・英文読解・英作文
- 第 15 回 第2回小テスト
グループプレゼンテーション
まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

クラスでは、各ユニットを2回に分けて学習します。1回目は、ターゲットとなる文法や語彙を確認し、それに関する問題に取り組みます。また、次の導入として、映像を見ながら対話文のリスニングをします。2回目は、映像で出てきた短いやりとりのシーンを使って、会話表現の練習を行います。さらに、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。必ず辞書(紙の辞書、電子辞書など)を持参してください。

テストは、授業内で行う小テストとプレゼンテーションの2種類です。小テストは文法問題、ライティング、英文読解を中心とした問題構成です。プレゼンテーションは、グループライティングを発表します。

テストについては当日に解答を確認し解説を行います。プレゼンテーションについては、自己評価、他者評価を合わせて後日結果をフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

クラスで使用するテキストの動画、音声、問題データは、全てPCやスマートフォン、携帯端末からダウンロードできます。事前に予習をし、授業後は復習をすることをすすめます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

皆さんは、初回の授業で、学習ポートフォリオを使った自己評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

また、毎回の授業でのペア、グループワークに対しても自己評価をしてもらいます。

最終評価については、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行います。

1) 授業参加(授業参加度、ポートフォリオを用いた自己評価を含む)(55%)

2) 小テスト・グループプレゼンテーション (45%)

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業では、毎回ペア、グループワークを行います。評価方法・評価基準に記載されている「授業参加度」とは、ペア、グループワークでの活動を評価するものです。

また、授業時にYoutubeの動画(詳細は授業時にお知らせします)を適宜使いながら、アメリカの町の様子や自然な英語でのやり取りを知る機会を持ちます。動画をアップされているご本人からは、授業時での使用許可を得ています。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～』/Robert Hickling Misato Usukura/金星堂/

2018/9784764740495/学内販売予定

進捗や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合ⅡJ

GBE1351J0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜2限

DP3: 言語力

15

必修(英語英文学科以外) クラス選択

黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は基本的な英語ライティングの技術を習得することです。留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、ごく基本的な日常表現や、家庭や学校での表現、自分自身や家族の情報を伝える表現などを身につけます。それらの表現を用いて英文を書き、話すことで、英語を自分の言葉として「使う」ことに慣れ、英語で伝えたい内容を伝えることができるようになることを目指します。また、基礎となる知識や能力を身につけ、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり(書きとり)を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキストの英文や表現を用いて会話を作り(ペアワーク)、それらの表現を使えるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション

第2回 Part2 27 図書室で p.118

28 放課後の過ごし方 p.122

第3回 Part3 29 自分の家族について話す p.134

30 日本での生活について話す p.138

第4回 Part3 31 趣味の映画の話をする p.142

32 自分の将来の夢について話す p.146

第5回 Part3 33 和食について話す p.150

34 日本の文化について話す p.154

第6回 Part3 35 日本の歴史について話す p.158

Part4 36 食事のマナー p.166

- 第 7 回 Part4 37 食前・食後のあいさつ p.170
38 食べられないものがあるとき p.174
- 第 8 回 Part4 39 和食を作ってあげる p.178
40 スーパーマーケットで p.182
- 第 9 回 Part4 41 デパートで p.186
42 ショッピングモールで p.190
- 第 10 回 Part4 43 支払いのとき p.194
44 スポーツを楽しむ p.198
- 第 11 回 Part4 45 美術館に行く p.202
46 パーティで p.206
- 第 12 回 Part4 47 バスに乗る p.210
48 電車・地下鉄に乗る p.214
- 第 13 回 Part4 49 タクシーに乗る p.218
50 道に迷う p.222
- 第 14 回 Part4 51 体調不良のとき p.226
52 病院で p.230
- 第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、テキストの音声の書き取りと、テキスト内の表現を用いた英作文を中心とする授業中のトレーニングによって、英語能力の向上を目指します。また、単語や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。小テストは次の回で返却し、結果をフィードバックします。授業中は、留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、様々な場面における英語表現に触れることで、場面ごとに適切な自己表現ができるようになることを目標として、各場面ごとにペアワークを取り入れた英作文と会話練習を行います。各ペアは、その場面において自分たちならどんな会話をするかを考え、その会話を英作文します。授業ごとに、数組のペアに出来上がった会話を発表してもらいます。授業後は、復習(宿題)で理解度を確認し、次回の授業で適宜コメントするなどのフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、予習をしてもらうこと。範囲は授業中に連絡します。

(テキスト自体は比較的平易ですが、単語は割と難しいものもあります。)

(また、テスト範囲内の単語や表現の数は、割と多めです。)

(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。)

(単語テストは成績評価の35%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。)

また、予習として、次回分の範囲の音声を最低でも一回は聞き、声に出して読んで来てもらうこと。

復習として、各回で扱った範囲のテキストの会話について、毎回書き取りと読解をしてもらうこと。

基礎的な英語力を養うために、毎回manabaの小テスト機能を用いて基本的な文法事項や語句、英作文などについての問題を出すので、指定された期日までに提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(35%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(35%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

比較的平易なテキストを用いますので、基本的な単語や文法項目、英作文に不安がある人の受講を勧めます。逆に、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力がある人にとっては簡単すぎるかもしれません。

音声付きのテキストを用いますので、ライティングだけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。留学・ホームステイにおける会話のテキストを用いますので、留学やホームステイに行ってみたい人や、留学やホームステイにおける英語の日常会話に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ホームステイの英会話リアル表現BOOK』/イムラン・スィディキ/ナツメ社/2016/9784816360121/学内販売予定

進度や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合ⅡK

GBE1351K0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修(英語英文学科以外) クラス選択

黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は基本的な英語ライティングの技術を習得することです。留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、ごく基本的な日常表現や、家庭や学校での表現、自分自身や家族の情報を伝える表現などを身につけます。それらの表現を用いて英文を書き、話すことで、英語を自分の言葉として「使う」ことに慣れ、

英語で伝えたい内容を伝えることができるようになることを目指します。また、基礎となる知識や能力を身につけ、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり（書きとり）を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキストの英文や表現を用いて会話を作り（ペアワーク）、それらの表現を使えるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Part2 27 図書室で p.118
28 放課後の過ごし方 p.122
- 第 3 回 Part3 29 自分の家族について話す p.134
30 日本での生活について話す p.138
- 第 4 回 Part3 31 趣味の映画の話をする p.142
32 自分の将来の夢について話す p.146
- 第 5 回 Part3 33 和食について話す p.150
34 日本の文化について話す p.154
- 第 6 回 Part3 35 日本の歴史について話す p.158
Part4 36 食事のマナー p.166
- 第 7 回 Part4 37 食前・食後のあいさつ p.170
38 食べられないものがあるとき p.174
- 第 8 回 Part4 39 和食を作ってあげる p.178
40 スーパーマーケットで p.182
- 第 9 回 Part4 41 デパートで p.186
42 ショッピングモールで p.190
- 第 10 回 Part4 43 支払いのとき p.194
44 スポーツを楽しむ p.198
- 第 11 回 Part4 45 美術館に行く p.202
46 パーティで p.206
- 第 12 回 Part4 47 バスに乗る p.210
48 電車・地下鉄に乗る p.214
- 第 13 回 Part4 49 タクシーに乗る p.218
50 道に迷う p.222
- 第 14 回 Part4 51 体調不良のとき p.226
52 病院で p.230
- 第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、テキストの音声の書き取りと、テキスト内の表現を用いた英作文を中心とする授業中のトレーニングによって、英語能力の向上を目指します。また、単語や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。小テストは次の回で返却し、結果をフィードバックします。

授業中は、留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、様々な場面における英語表現に触れることで、場面ごとに適切な自己表現ができるようになることを目標として、各場面ごとにペアワークを取り入れた英作文と会話練習を行います。各ペアは、その場面において自分たちならどんな会話をするかを考え、その会話を英作文します。授業ごとに、数組のペアに出来上がった会話を発表してもらいます。授業後は、復習（宿題）で理解度を確認し、次回の授業で適宜コメントするなどのフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、予習をしてもらうこと。範囲は授業中に連絡します。

(テキスト自体は比較的平易ですが、単語は割と難しいものもあります。)

(また、テスト範囲内の単語や表現の数は、割と多めです。)(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。)(単語テストは成績評価の35%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。)

また、予習として、次回分の範囲の音声を最低でも一回は聞き、声に出して読んで来てもらうこと。

復習として、各回で扱った範囲のテキストの会話について、毎回書き取りと読解をしてもらうこと。

基礎的な英語力を養うために、毎回manabaの小テスト機能を用いて基本的な文法事項や語句、英作文などについての問題を出すので、指定された期日までに提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(35%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(35%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

比較的平易なテキストを用いますので、基本的な単語や文法項目、英作文に不安がある人の受講を勧めます。逆に、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力がある人にとっては簡単すぎるかもしれません。

音声付きのテキストを用いますので、ライティングだけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。留学・ホームステイにおける会話のテキストを用いますので、留学やホームステイに行ってみたい人や、留学やホームステイにおける英語の日常会話に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ホームステイの英会話リアル表現BOOK』/イムラン・スィディキ/ナツメ社/2016/9784816360121/学内販売予定
 進捗や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合ⅡL

GBE1351LOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 水曜2限
 DP3：言語力
 15
 必修（英語英文学科以外） クラス選択
 田中 美和子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、英文法の知識と英単語の習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、訳せるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 U4 Possessions: 所有
 Unit4-A Identify Personal Possessions : 語彙学習
 指示代名詞、所有表現
 オリエンテーション
- 第 2 回 発音記号を学ぼう①
 Unit4-B, C Talk about People's Possessions: 発音記号、所有を表す動詞、文型SVO
 小テスト
- 第 3 回 英語の構造①
 Unit4-D Jewelry 英文読解、英語の文構造
- 第 4 回 リスニングのコツ①
 Unit4-E Uncovering the Past: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
 ライティング課題
- 第 5 回 U5 Daily Activities: 日々の活動について

- Unit5-A Tell Time: 語彙学習, 時間に関するさまざまな表現
- 第 6 回 発音記号を学ぼう②
 Unit5-B,C Talk about People's Daily Activities: 発音記号、頻度を表す副詞
 小テスト
- 第 7 回 英語の構造②
 Unit5-D Describing a Dream Job: 英文読解、英語の文構造
- 第 8 回 リスニングのコツ②
 Unit5-E Zoo Dentists: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
 ライティング課題
- 第 9 回 U6 Getting There: そこへ行くには
 Unit6-A Ask for and Give Directions: 語彙学習, 場所を表す前置詞句、命令文
- 第 10 回 発音記号を学ぼう③
 Unit6-B,C Create and Use a Tour Route: 発音記号、場所の尋ね方、have to
 小テスト
- 第 11 回 英語の構造③
 Unit6-D Record a Journey: 英文読解、英語の文構造
- 第 12 回 リスニングのコツ③
 Unit6-E Volcano Trek: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
 ライティング課題
- 第 13 回 日本語を英語にしてみよう①
 ライティング
- 第 14 回 日本語を英語にしてみよう②
 プレゼンテーション
- 第 15 回 後期まとめ
 後期まとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
 実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
 授業では、各ユニットを4回に分けて学習します。1回目は、そのユニットの語彙学習に始まり、主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、単語テストから始めて、発音記号の学習、そして文法事項を含む日常会話を聞き、対話文を実際に話す練習も行います。3回目はユニットで焦点をあてたリーディングから始め、それに基づいて、ライティングをしていきます。さらに4回目で、学習した文法事項を復習してから、英作文の練習を行います。必ず辞書(電子辞書、紙の辞書)を持参してください。
 課題(小テストなど)は、実施した後、基本的に、すぐ答え合わせをします。みんながわからない点があれば、次の授業でまとめて説明をして、返却します。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 授業には積極的に参加しましょう。なお、小テスト、およびライティング課題に関して予告をします。十分準備をし

て臨みましょう。そして、テキストのトピックに関して自由に調べてみましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度及び授業態度 (予習・発表) (30%)、授業中課題(20%)、発表課題 (10%)、小テストおよび英作文課題(40%)の総合評価を行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

遅刻2回で欠席1回に換算します。なお、授業には辞書(電子辞書、紙の辞書)を持参すること。持ってきていない場合は減点になります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『World English Intro (second edition)』/Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase /Cengage Learning/ 2015//学内販売予定

ISBN: 9781305089518

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合ⅡM

GBE1351M0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 (英語英文学科以外) クラス選択

田中 美和子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、英文法の知識と英単語の習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、訳せるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 U4 Possessions: 所有

Unit4-A Identify Personal Possessions : 語彙学習
指示代名詞、所有表現

オリエンテーション

第 2 回 発音記号を学ぼう①

Unit4-B, C Talk about People's Possessions: 発音記号、所有を表す動詞、文型SVO

小テスト

第 3 回 英語の構造①

Unit4-D Jewelry 英文読解、英語の文構造

第 4 回 リスニングのコツ①

Unit4-E Uncovering the Past: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習

ライティング課題

第 5 回 U5 Daily Activities: 日々の活動について

Unit5-A Tell Time: 語彙学習, 時間に関するさまざまな表現

第 6 回 発音記号を学ぼう②

Unit5-B,C Talk about People's Daily Activities: 発音記号、頻度を表す副詞

小テスト

第 7 回 英語の構造②

Unit5-D Describing a Dream Job: 英文読解、英語の文構造

第 8 回 リスニングのコツ②

Unit5-E Zoo Dentists: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習

ライティング課題

第 9 回 U6 Getting There: そこへ行くには

Unit6-A Ask for and Give Directions: 語彙学習, 場所を表す前置詞句、命令文

第 10 回 発音記号を学ぼう③

Unit6-B,C Create and Use a Tour Route: 発音記号、場所の尋ね方、have to

小テスト

第 11 回 英語の構造③

Unit6-D Record a Journey: 英文読解、英語の文構造

第 12 回 リスニングのコツ③

Unit6-E Volcano Trek: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習

ライティング課題

第 13 回 日本語を英語にしてみよう①

ライティング

第 14 回 日本語を英語にしてみよう②

プレゼンテーション

第 15 回 後期まとめ

後期まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを4回に分けて学習します。1回目は、そのユニットの語彙学習に始まり、主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、単

語テストから始めて、発音記号の学習、そして文法事項を含む日常会話を聞き、対話文を実際に話す練習も行います。3回目はユニットで焦点をあてたリーディングから始め、それに基づいて、ライティングをしていきます。さらに4回目で、学習した文法事項を復習してから、英作文の練習を行います。必ず辞書(電子辞書、紙の辞書)を持参してください。

課題(小テストなど)は、実施した後、基本的に、すぐ答え合わせをします。みんながわからない点があれば、次の授業でまとめて説明をして、返却します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業には積極的に参加しましょう。なお、小テスト、およびライティング課題に関して予告をします。十分準備をして臨みましょう。そして、テキストのトピックに関して自由に調べてみましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度及び授業態度(予習・発表)(30%)、授業中課題(20%)、発表課題(10%)、小テストおよび英作文課題(40%)の総合評価を行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

遅刻2回で欠席1回に換算します。なお、授業には辞書(電子辞書、紙の辞書)を持参すること。持ってきていない場合は減点になります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『World English Intro (second edition)』/Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase /Cengage Learning/2015//学内販売予定

ISBN: 9781305089518

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合 II P

GBE1351POJ

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修(英語英文学科以外) クラス選択

岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、ロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて、英文法の知識と語彙やフレーズの習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能

を使って、「使える」英語を身につけること、英語で自分のことを表現できるようになることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、文章を書けるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 8 Shopping in Santa Monica
文法学習(助動詞)、リスニング、スピーキング
- 第 2 回 Unit 8 Shopping in Santa Monica
英文読解、英作文
- 第 3 回 Unit 9 Moving Day
文法学習(前置詞)、リスニング、スピーキング
- 第 4 回 Unit 9 Moving Day
英文読解、英作文
- 第 5 回 Unit 10 A Beautiful View
文法学習(現在完了)、リスニング、スピーキング
- 第 6 回 Unit 10 A Beautiful View
英文読解、英作文
- 第 7 回 Unit 11 Sunday Fun
文法学習(比較)、リスニング、スピーキング
- 第 8 回 Unit 11 Sunday Fun
英文読解、英作文
- 第 9 回 Unit 12 Seeing Stars
文法学習(WH疑問文)、リスニング、スピーキング
- 第 10 回 Unit 12 Seeing Stars
英文読解、英作文
- 第 11 回 Unit 13 Buying Food for a BBQ
文法学習(動名詞/不定詞)、リスニング、スピーキング
- 第 12 回 Unit 13 Buying Food for a BBQ
英文読解、英作文
- 第 13 回 Unit 14 Putting on a New Face
文法学習(接続詞)、リスニング、スピーキング
- 第 14 回 Unit 14 Putting on a New Face
英文読解、英作文
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを2回に分けて学習します。1回目は、ビデオシーンを見ながら、リスニングを行います。次に、その対話文を使って、語彙やフレーズも学びながら、グループで会話練習(スピーキング学習)を行います。主

要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。必ず辞書（紙の辞書、電子辞書など）を持参してください。

各ユニット終了後、毎回復習テストを行います。テストや英作文といった課題に対しては、毎回実施後にクラス全体への解説、又は個別にコメントを記載し返却します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

単語、熟語は各自事前に調べておくこと。授業内でできなかった課題については必ず次回までに完成させること。テキストの動画、音声はすべてPCやスマホ、携帯端末からダウンロードできます。事前に予習し、授業後は復習することを薦めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度及び、授業態度（予習・発表・グループワーク含む）(30%)、小テスト（30%）、英作文（40%）

〔留意事項 (Other Information)〕
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語?』／Robert Hickling, 白倉美里／金星堂／2018年／ISBN978-4-7647-4049-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語総合ⅡN

GBE1351N0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
水曜2限
DP3：言語力
15
必修（英語英文学科以外） クラス選択
岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、ロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて、英文法の知識と語彙やフレーズの習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけること、英語で自分のことを表現できるようになることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習

3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、文章を書けるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 8 Shopping in Santa Monica
文法学習（助動詞）、リスニング、スピーキング
- 第 2 回 Unit 8 Shopping in Santa Monica
英文読解、英作文
- 第 3 回 Unit 9 Moving Day
文法学習（前置詞）、リスニング、スピーキング
- 第 4 回 Unit 9 Moving Day
英文読解、英作文
- 第 5 回 Unit 10 A Beautiful View
文法学習（現在完了）、リスニング、スピーキング
- 第 6 回 Unit 10 A Beautiful View
英文読解、英作文
- 第 7 回 Unit 11 Sunday Fun
文法学習（比較）、リスニング、スピーキング
- 第 8 回 Unit 11 Sunday Fun
英文読解、英作文
- 第 9 回 Unit 12 Seeing Stars
文法学習（WH疑問文）、リスニング、スピーキング
- 第 10 回 Unit 12 Seeing Stars
英文読解、英作文
- 第 11 回 Unit 13 Buying Food for a BBQ
文法学習（動名詞／不定詞）、リスニング、スピーキング
- 第 12 回 Unit 13 Buying Food for a BBQ
英文読解、英作文
- 第 13 回 Unit 14 Putting on a New Face
文法学習（接続詞）、リスニング、スピーキング
- 第 14 回 Unit 14 Putting on a New Face
英文読解、英作文
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを2回に分けて学習します。1回目は、ビデオシーンを見ながら、リスニングを行います。次に、その対話文を使って、語彙やフレーズも学びながら、グループで会話練習（スピーキング学習）を行います。主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。必ず辞書（紙の辞書、電子辞書など）を持参してください。

各ユニット終了後、毎回復習テストを行います。

テストや英作文といった課題に対しては、毎回実施後にクラス全体への解説、又は個別にコメントを記載し返却します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

単語、熟語は各自事前に調べておくこと。

授業内でできなかった課題については必ず次回までに完成させること。

テキストの動画、音声はすべてPCやスマートフォン、携帯端末からダウンロードできます。事前に予習し、授業後は復習することを薦めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度及び、授業態度 (予習・発表・グループワーク含む) (30%)、小テスト (30%)、英作文 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語?』/Robert Hickling, 白倉美里/金星堂/2018年 / ISBN978-4-7647-4049-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日常の英会話 A

GBE2300A0E

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

金曜3限

DP3: 言語力

15

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed. Special emphasis will be placed on the vocabulary and structures required for everyday living situations.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. in order to improve their speaking ability and succeed in the course, students must participate actively in class activities and complete homework on time.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 Class introduction

第 2 回 A day in the life

第 3 回 Travel

第 4 回 Staying Healthy

第 5 回 Describing personality

第 6 回 The town where I live

第 7 回 Giving Advice

第 8 回 Culture

第 9 回 Environment

第 10 回 Work and job hunting

第 11 回 Giving and receiving gifts

第 12 回 The future

第 13 回 Coffeetalk

第 14 回 minipresentations

第 15 回 class review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This class will be conducted entirely in English. Students will learn how to use a variety of structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation and preparation 25%

Homework 30%

Speaking assignments 30%

Quizzes 15%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule and content may change to suit the needs of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

There is no textbook for this class. We will use handouts, video, and online materials.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日常の英会話 B

GBE2300B0E
 大学
 共通教育科目
 2年次
 1単位 後期
 金曜 3限
 DP3 : 言語力
 15
 Katy Simpson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course teaches students about developing oral fluency for daily communication in English. Focus will be given to building speaking confidence and understanding how English functions communicatively in social interactions.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be able to build speaking confidence through student centered class activities and being made aware of the importance of discourse markers.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction: - Meeting & Greeting People
- 第 2 回 Oral Fluency: Speaking for an extended period
- 第 3 回 Growing Up: Past Tense questions and answers
- 第 4 回 At Home & at School: Expressing frequency
- 第 5 回 Going Out: Making plans
- 第 6 回 Food and Drink: Expressing likes and dislikes
- 第 7 回 The Future: Future tense questions & answers
- 第 8 回 Review of Units 1 - 6. Oral Fluency development practice.
- 第 9 回 Travel: Asking Directions
- 第 10 回 Staying Healthy: Describing Routine
- 第 11 回 People I know: Describing People
- 第 12 回 Storytelling: Past progressive tense questions and answers
- 第 13 回 Entertainment: Making phone calls
- 第 14 回 Society: Making suggestions
- 第 15 回 Review Oral Fluency, Discourse Markers, Units 7 - 12. Final Projects evaluation

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The class will be conducted entirely in English and students will be expected to speak with other students on a regular basis in class. Students will spend most of the class time talking in English about a range of topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation & class attitude 40%, homework assignments 30%, Final Project 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践の科目〕

日常の英会話 C

GBE2300C0E
 大学
 共通教育科目
 2年次
 1単位 前期
 木曜 4限
 DP3 : 言語力
 15
 Eric Hail

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed. Special emphasis will be placed on the vocabulary and structures required for everyday living situations.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
- 第 2 回 English Firsthand Unit 1- Introducing yourself
- 第 3 回 English Firsthand Unit 1- Greeting people
- 第 4 回 English Firsthand Unit 1- Exchanging information
- 第 5 回 English Firsthand Unit 2- Describing clothing
- 第 6 回 English Firsthand Unit 2- Talking about fashion
- 第 7 回 English Firsthand Unit 2 - Talking about unusual fashion
- 第 8 回 English Firsthand Unit 3- How do you stay healthy?
- 第 9 回 English Firsthand Unit 3 - What makes you happy?
- 第 10 回 English Firsthand Unit 3 - Giving advice
- 第 11 回 English Firsthand Unit 4 - Giving directions
- 第 12 回 English Firsthand Unit 4 - Asking for directions
- 第 13 回 English Firsthand Unit 4 - Following directions
- 第 14 回 English Firsthand Unit 4 - Understanding map directions
- 第 15 回 English Workshop

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

0

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class Participation, Behavior 100%

〔留意事項 (Other Information)〕

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

Schedule subject to change.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『English Firsthand Success (5th Edition)』/Michael Rost/Pearson Longman/2017/ 9789813130210/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫trained and experienced EFL professional

おもてなしの英会話 A

GBE2301A0E

大学

共通教育科目

2年次

1単位 前期

月曜 4限

DP3 : 言語力

15

Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will help prepare students to use English for work in the TOURISM, HOSPITALITY and TRAVEL industries. Classes will cover a variety of situations, including travel agencies and hotels. Students will learn tourism-related vocabulary and practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce ‘ Small Talk ’ , Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce the textbook
- 第 2 回 International Travel: Asking questions, taking a booking
- 第 3 回 International Travel: Best way to get there, organizing
- 第 4 回 Phone Calls
- 第 5 回 Food and Drink: Greeting, taking order
- 第 6 回 Food and Drink: explaining a menu
- 第 7 回 Correspondence
- 第 8 回 Accommodation: Reservations, checking in
in-class mid-term exam
- 第 9 回 Accommodation: Facilities, giving information
- 第 10 回 Money
- 第 11 回 Travelling Around: To and from the airport, local knowledge
- 第 12 回 Travelling Around: Giving directions, offering and requesting
- 第 13 回 Problems: Offering help, dealing with complaints
- 第 14 回 Problems: Better safe than sorry, difficult customers
- 第 15 回 Final in-class exam

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY 100%) IN ENGLISH!

ii) In class, activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

iii) Students are expected to complete their homework on time!

iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!

v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students shall be required to do at least 1 hours of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that his or her written work reaches the teacher on time.

Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

-15 minutes per day listen to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students' grade in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class)30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students

are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit.

Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or "makeup" work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit "request for special consideration for students participating in extracurricular activities" issued by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students' success and final grade in this course.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Welcome!: English for the Travel and Tourism Industry, 2nd Edition』/Leo Jones/Cambridge/2005/9780521606592/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

おもてなしの英会話B

GBE2301B0E
 大学
 共通教育科目
 2年次
 1単位 前期
 月曜 4限
 DP3 : 言語力
 15
 Katy Simpson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will help prepare students to use English for work in the tourism, hospitality and travel industries. Classes will cover a variety of situations including travel agencies, hotels, restaurants, or even just helping a stranger on the street. Students will practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency. Primary attention will be given to listening and speaking; however, some reading and writing will also be required.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency. In addition, students will improve their pronunciation skills through awareness-building, recognition, and production activities. Students will be able to build speaking confidence through student centered class activities.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 The check-in
- 第 3 回 The hotel bedroom
- 第 4 回 Bathroom & porter
- 第 5 回 Services in the hotel
- 第 6 回 Locations of facilities
- 第 7 回 Room services
- 第 8 回 Problems & solutions
- 第 9 回 Taking bar orders
- 第 10 回 Restaurant orders & recommendations
- 第 11 回 Restaurant complaints, payment, & tipping culture
- 第 12 回 Places to visit
- 第 13 回 Enquiries
- 第 14 回 Using the phone
- 第 15 回 The check-out

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The class will be conducted entirely in English and students will be expected to speak with other students on a regular basis in class. Students will spend most of the class time talking in English about a range of topics and have self-generated daily conversations in pairs and small groups, as well as participate in interactive role-plays based on textbook topics.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation & class attitude 30%, homework assignments 20%, Quizzes 20%, Final Project 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

おもてなしの英会話D

GBE2301D0E
 大学
 共通教育科目
 2年次
 1単位 前期
 木曜 2限
 DP3 : 言語力
 15
 Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will help prepare students to use English for work in the tourism, hospitality and travel industries, with a particular focus on being able to talk about various aspects of Japanese culture and life. Students will practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency. Primary attention will be given to listening and speaking; however, some reading and writing may also be required.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will develop the skills be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency. In addition, students will improve their pronunciation skills through awareness-building, recognition, and production activities. Students will be able to build speaking confidence through student-centered class activities.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the course with Requirements and Expectations
- 第 2 回 Giving Directions and Helping
- 第 3 回 Talking about Yourself
- 第 4 回 Being a Host
- 第 5 回 Commuting by Train
- 第 6 回 Taking Classes
- 第 7 回 Talking with a Stranger
- 第 8 回 Finding Friends
- 第 9 回 Potluck
- 第 10 回 Sumo
- 第 11 回 Four Seasons
- 第 12 回 Green Tea
- 第 13 回 Japanese Food
- 第 14 回 Part-time Jobs
- 第 15 回 Final Project (Skit)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The class will be conducted entirely in English and students will be expected to speak with other students on a regular basis in class. Students will spend most of the class time talking in English about a range of topics and have self-generated daily conversations in pairs and small groups, as well as participate in interactive role-plays based on textbook topics.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 30%

Homework assignments: 20%

In-class Tasks: 20%

Final Project: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語リスニング初級A

GBE2303A0J

大学

共通教育科目

2年次

1単位 前期

金曜 2限

DP3 : 言語力

15

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

国際社会において「相手の言っていることを理解する」ことは非常に重要です。そのためには総合的な英語力を向上させる必要がありますが、本コースでは、必要な英語力を身に付ける第一歩として、特にリスニング力強化に焦点をしばって練習します。まず、英語の音声と文字情報を連動させる学習から始め、英語特有のリズム、イントネーション、発音などを、いつでもどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用して習得することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

実際の映画を利用することにより、以下の課題習得を目指します。

1. 英語への興味が深まる。
2. 英単語を見て正確に発音できるようになる。
3. 英語の発音を正確に聞き取れるようになる。
4. 自然な日常表現を覚えることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
リスニング力	音は聞こえるが、全部	短い文や重要な単語な	6語以上の単語からな	ほとんどの会話におい

が一つの音に聞こえ、単語として聞き分けることができない。	ら聞き分けることができる。	る文であっても、重要や語句はほとんど聞きとることができる。または、日本語の説明があれば、類推することができる。	て、性別や年齢や方言に関わらず、重要な語句は聞き取ることができる。文意を理解できる。または、日本語を参考に会話文を再現できる。
------------------------------	---------------	---------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation

※授業予定の詳細については初回の授業で説明します。受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。

第 2 回 1 皇帝の決断

※1本の映画 "Mulan" を Scene ごとに区切って学習します

第 3 回 2 仲人の前で

第 4 回 3 遅咲きの花

第 5 回 4 父のために

第 6 回 5 強力な守護神

第 7 回 6 優秀な新兵たち

第 8 回 7 さあ、仕事に取りかかろう！

第 9 回 8 いざ、出陣！

第 10 回 9 われらが英雄 Ping

第 11 回 10 暴露

第 12 回 11 皇帝救出

第 13 回 12 Mulan 故郷に戻る

第 14 回 まとめとテスト

第 15 回 Review

テストの講評と解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、音声や映像を利用して、英語の語、句、文の聞き取り練習を行います。また、それらについて音声上の特徴を理解した上で発声の練習をします。具体的には以下の活動を含みます。

○Vocabulary: 日常的に使用する基本語彙を習得する

○Reading: 字幕を素早く読んで、内容を把握する

○Listening: 字幕無しで台詞を聞き取る

○Speaking: 映画のシーンに合わせて台詞を言う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

欠席した場合は翌週の課題に影響しますので、かならずプリントを取りにきて、翌週の授業までに課題を済ませてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は以下を目安として総合的に判断します。

授業参加点 10%

小テスト点 40%

中テスト点 50%

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点がなくなるだけでなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※テストは基本的に授業の最初に行います。遅刻をするとテストが受けられませんので注意してください。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は大きく減点されます。また、6回以上欠席した場合は原則として単位が認定されません。

〔留意事項 (Other Information)〕

●リスニング初級者対象ですが、発声の練習も行います。

●受講者には、欠席をせずに、根気強く英語を聞き、積極的に発生する姿勢を求めます。

●小テストは授業開始後行います。遅刻や欠席の場合、減点がありますが追試を受けられます。

●筆記用具や辞書 (最低限、英和辞典) がなくて授業を受けられない場合、授業参加度は加算されません。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

毎時プリントを配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語リスニング初級 B

GBE2303B0J

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

金曜 2限

DP3: 言語力

15

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

国際社会において「相手の言っていることを理解する」ことは非常に重要です。そのためには総合的な英語力を向上させる必要がありますが、本コースでは、必要な英語力を身に付ける第一歩として、特にリスニング力強化に焦点をしばって練習します。まず、英語の音声と文字情報を連動させる学習から始め、英語特有のリズム、イントネーション、発音などを、いつでもどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用して習得することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

実際の映画を利用することにより、以下を目指します。

1. 英語への興味を深める。
2. 英単語や英文を見て正確に発音できるようになる。
3. 英語の発音を正確に聞き取れるようになる。
4. 自然な日常表現を覚え、口にすることができる。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation

※授業予定の詳細については初回の授業で説明します。受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。

第 2 回 1 April Rhodes

映画 glee (Season 1:Episode 5,11,12)を題材としたテキストを使用します。

第 3 回 2 New Member

第 4 回 3 Come Back to Glee

第 5 回 4 Somebody to Love

第 6 回 5 Hairgraphy

第 7 回 6 Objective Achieved

第 8 回 7 You Set Me Up

第 9 回 8 True Colors

第 10 回 9 The Thunderclap

第 11 回 10 We Need a Co-Captain

第 12 回 11 Jump

第 13 回 12 Smile

第 14 回 まとめとテスト

第 15 回 Review

テストの講評と解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、以下の4つのスキルアップをねらった活動を含めます。音声や映像を利用して、英語の語、句、文の聞き取り練習を行います。また、それらについて音声上の特徴を理解した上で発声の練習をします。

- Vocabulary:日常的に使用する基本語彙を習得する
- Reading:字幕を素早く読んで、内容を把握する
- Listening:字幕無しで台詞を聞き取る
- Speaking:映画のシーンに合わせて台詞を言う

具体的には、映画 glee (Season 1:Episode 5,11,12)を題材としたテキストを使用し、1回に1ユニットずつ進みます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

欠席した場合は翌週の課題に影響しますので、かならずプリントを取りにきて、翌週の授業までに課題を済ませてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は以下を目安として総合的に判断します。

授業参加点 10%

小テスト点 40%

中テスト点 50%

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点がなくなるだけではなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※テストは基本的に授業の最初に行います。遅刻をするとテストが受けられませんので注意してください。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は大きく減点されます。また、6回以上欠席した場合は原則として単位が認定されません。

〔留意事項 (Other Information)〕

●リスニング初級者対象です。

●欠席をせずに、根気強く英語を聞こうとする姿勢のある学生に受講をお勧めします。

●課題の小テストは授業開始後行います。

●授業中に辞書を使用しますので、辞書(最低限、英和辞典)は必ず持参してください。

●テキスト、筆記用具などがなくて授業を受けられない場合、授業参加度は加算されません。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Communicate in English with glee The Road to Sectionals』/角山照彦, Simon Capper/松柏社/2019/978-4-88198-742-1/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

読むための英語

GBE2304A0E

大学

共通教育科目

2年次

1単位 前期

火曜3限

DP3: 言語力

15

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このコースの目的は、英語を多読 (extensive reading) することによって、英語の学力を全体的にのばし、英語学習を楽しむことです。受講生は、多くの英語文献 (平易で楽しめる教材) を読むことによって、だんだんと辞書に頼らずに早く読めるようになるでしょう。このクラスの受講生

はEnglish graded readersの教材を図書館から借りることができます。それらの教材の中で興味のあるものを選び、選んだ本について他の受講生と話し合う機会を持ちます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will become better readers, increase their knowledge of vocabulary,

improve their listening and speaking skills, and experience increased motivation to learn English.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to Extensive Reading
- 第 2 回 Reading and You Questionnaire
- 第 3 回 Book Covers and Blurbs
- 第 4 回 Instant Book Report
- 第 5 回 Book Review Round Robin
- 第 6 回 The Story and Me
- 第 7 回 Draw a Picture
- 第 8 回 Poster Presentations
- 第 9 回 Shared Dictation
- 第 10 回 What Comes Next?
- 第 11 回 Haiku Book Summaries
- 第 12 回 Alliteration, Metaphor, and Simile
- 第 13 回 Sentence Detective
- 第 14 回 The Book vs the Movie
- 第 15 回 Book Presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will have time in class for sustained silent reading. Additionally, students will work together to discuss the books they have read. In order to keep track of the books they have read, students will use an online quiz system that is designed to check whether they have read the books.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of reading at least one book per week and preparing short presentations for their classmates.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Weekly reading assignments: 50%

Presentations: 30%

Participation in group discussions: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

※英文科以外の学生向きの科目です。(This class is for non-English majors.)

An English-English dictionary is highly recommended.

Please read the graded reader books in the library and the Immersion Space! Read as much as you can every day.

The class schedule is subject to change.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Students will need to purchase an account on xreading.com.

Graded Readers (図書館2階閲覧室Readersコーナーに置いています。)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

<https://xreading.com>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

身近な英文法 A

GBE2305A0J

大学

共通教育科目

2年次

1単位 前期

水曜3限

DP3: 言語力

15

松岡 真由子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースの目標は、以下の2つです。1つは、今までに習得した英文法の再確認をし、TOEICで発揮すべき実践的な英語力の素地を作ること、もう1つは、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることです。そのために、協働学習を通じて4技能のスキルアップを図るとともに、自分で目標を立てて自分の学習を振り返り、そして評価するという、自己調整プロセスをベースにした課題に取り組みます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英文法知識と語彙力を強化すること
2. 対話文を通じてリスニング、スピーキング力を強化すること
3. 英文を読んで必要な情報を的確に理解する力を強化すること
4. 英文法知識を基に、自分の言いたいことを表現する力を強化すること
5. ペアやグループワークを通じて、自分の英語学習を深める方法を知り、実践すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

文法・語彙力	テキストに書かれてある基本的文法や語彙表現を理解し、使用することができない。	テキストに書かれてある基本的文法や語彙表現を理解し、TOEIC練習問題の基礎レベルの問題であれば正解することができる。	テキストに書かれてある基本的文法や語彙表現、発展的事項を理解し、TOEIC練習問題の基礎から中級レベルの問題であれば正解することができる。	テキストに書かれていない語彙表現や発展的事項を理解し、TOEIC練習問題の中級レベルの問題であれば正解することができる。
Listening	テキストに書かれてある会話やモノローグを聞き取り、内容を理解することができない。	テキストに書かれてある会話やモノローグを聞き取り、8割方内容を理解することができる。	テキストに書かれてある会話やモノローグを聞き取り、ほぼ全ての内容を理解することができる。	テキストに書かれていない発展問題やTOEIC実践問題であっても、会話やモノローグを聞き取り、8割方内容を理解することができる。
Reading	テキストに書かれてあるメール文や短い英文を読んで内容を理解することができない。	テキストに書かれてあるメール文や短い英文を読んで内容を理解し、基礎的な設問に正解することができる。	テキストに書かれてある英文を読んで内容を理解し、基礎から中級レベルの設問に正解することができる。	テキストに書かれていない発展問題やTOEIC実践問題であっても、英文の内容を理解し、基礎から中級レベルの設問に正解することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
Pre-Unit 文法（品詞と語順）
Unit1 Job & Careers 文法（現在時制）
- 第 2 回 Unit2 Entertainment 文法（可算名詞／不可算名詞）
Unit3 Work Schedule 文法（前置詞）
- 第 3 回 小テスト（Pre-Unit, Unit1,2,3）
第1、2回のまとめと演習
- 第 4 回 Unit4 Health & Fitness 文法（過去時制）
Unit5 Shopping 文法（進行形）
- 第 5 回 Unit6 Business Meeting 文法（代名詞）
Unit7 Recruitment 文法（現在完了）
- 第 6 回 小テスト（Unit4,5,6,7）
第4、5回のまとめと演習
- 第 7 回 Unit8 Customer Needs 文法（接続詞）
Unit9 Business Trip 文法（will/be going to）

- 第 8 回 Unit10 Advertising 文法（比較）
Unit11 Factory Tour 文法（受動態）
- 第 9 回 小テスト（Unit8,9,10,11）
第7、8回のまとめと演習
- 第 10 回 Unit12 Money Matters 文法（動名詞／不定詞）
Unit13 Leisure 文法（助動詞）
- 第 11 回 Unit14 Environment 文法（分詞）
Unit15 Business Tie-Up 文法（関係詞節）
- 第 12 回 小テスト（Unit12,13,14,15）
第10、11回のまとめと演習
- 第 13 回 TOEIC基礎演習（1）
- 第 14 回 TOEIC基礎演習（2）
- 第 15 回 TOEIC Review（第13,14回で正答率が低かったPartを中心）に演習）
TOEIC Basic Vocabulary Quiz（Unit1～15の語彙の総復習）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

TOEICテストでよく扱われるトピックを題材にしたテキストで、ターゲットとなる文法事項の強化、そして4技能の強化を図ります。

（文法）問題演習で文法知識のインプットとアウトプットをします。

（語彙）TOEICを意識した語彙力強化のセクションを通じて、TOEICの頻出語彙の定着を図ります。

（聞く・話す）短い対話文を聞き取ってディクテーション（書き取り）をしたり、繰り返し声に出して（書く・読む）リスニング力強化を図ります。

（読む・書く）ターゲットとなる文法事項を用いて自分の伝えたいことを表現したり、TOEIC形式の問題演習を通じて、英文の内容を読み取る練習をします。

4ユニットにつき1回の割合で小テストと復習の時間を取ります。また、全15回の授業において、適宜TOEIC形式の問題を用いた演習をします。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

クラスで使用するテキストの音声データは、PCやスマートフォン、携帯端末からダウンロードできます。事前に予習をし、授業後は復習をすることをすすめます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

皆さんは、初回の授業で、学習ポートフォリオを使った自己評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。また、毎回の授業でのペア、グループワークに対しても自己評価をしてもらいます。

最終評価については、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行います。

- 1) 授業参加(授業参加度、ポートフォリオ評価を含む)(55%)
- 2) 小テスト(45%)

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『English Switch ストーリーで学ぶ大学基礎英語とTOEICテキスト頻出語彙』/Robert Hickling Misato Usukura/金星堂/2017/9784764740129/学内販売予定

進度や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

身近な英文法B

GBE2305B0J
大学
共通教育科目
2年次
1単位 前期
月曜3限
DP3: 言語力
15
伊村 大樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

外国語としての英語の理解に必要な英文法を基礎から学びなおし、習得する。

また、学んだ英文法・語法の知識を生かした表現とスムーズな読解の能力、具体的には英検2級に合格する程度の語学力を身に着ける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基礎的な英文法の習得
2. 文法構造を理解した上での作文
3. 素早く正確な読解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨN 英文法概観
 第 2 回 Unit 1 品詞
 第 3 回 Unit 2 比較
 第 4 回 Unit 3 不定詞
 第 5 回 Unit 4 動名詞
 第 6 回 Unit 5 分詞
 第 7 回 Unit 6 接続詞
 第 8 回 Unit 7 前置詞
 第 9 回 Unit 8 代名詞
 第 10 回 Unit 9 関係代名詞
 Unit 10 関係副詞
 第 11 回 Unit 11 時制 1
 Unit 12 時制 2
 第 12 回 Unit 13 助動詞
 第 13 回 Unit 14 仮定法

第 14 回 まとめ の 試験 と 解説

第 15 回 試験の返却と総まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストは英検2級程度の合格を見据えて、英文法を一から学びたい人にも対応した比較的易しめのもので、基本的な理解ができている人の学びなおしにも対応しています。

授業では1回で1ユニットずつ進みます。単語テストと講師の説明の後、実践練習を繰り返していきます。

授業には、必ず英和辞書を持ってくること。携帯・スマートフォンの辞書ではなく、電子辞書・冊子辞書のどちらかに限る。

授業内で行うまとめのテストの後に、フィードバックとして正答の説明と解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業の前に、次の授業で扱うユニットの最初にある単語調べをしておくこと。確認の小テストを行います。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は小テスト(10%) 授業参加度(30%)とまとめのテスト(60%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『English Grammar for Life』/Aaron Calcote他/National Geographic Learning/2018/978-4-86312-307-6/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献に関しては授業時に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

旅行の英会話A

GBE2350A0E
大学
共通教育科目
2年次
1単位 後期
木曜4限
DP3: 言語力
15
Eric Hail

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is designed to help to prepare students for a study abroad trip. Students will engage in a variety of activities using role-plays, activities, pair work, and group work to learn about various aspects of English speaking countries. The goal in this course is for students to be able to understand and use "

survival Travel English” when they travel abroad (e.g., how to pass through immigration, how to exchange money, how to order a meal, how to check in/out of a hotel, etc...) In addition, students will improve their overall English skills and knowledge of countries and places around the world.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements. THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH! Every student is expected to actively participate!

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
- 第 2 回 English Firsthand Unit 5
- 第 3 回 English Firsthand Unit 5/ Choosing a Study Abroad Country
- 第 4 回 English Firsthand Unit 6
- 第 5 回 English Firsthand Unit 6/ Getting and Using a Phone Abroad
- 第 6 回 English Firsthand Unit 7
- 第 7 回 English Firsthand Unit 7/ Homestays
- 第 8 回 English Firsthand Unit 8
- 第 9 回 English Firsthand Unit 8/ Cultureshock
- 第 10 回 English Firsthand Unit 9
- 第 11 回 English Firsthand Unit 9/ Money, Credit Cards, Travelers Checks
- 第 12 回 English Firsthand Unit 10
- 第 13 回 English Firsthand Unit 10/ Safety and Being Street Smart
- 第 14 回 English Firsthand Unit 10/ Getting Around Town - Transportation
- 第 15 回 English Workshop

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice for traveling abroad. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

0

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation, and Behavior 100%

〔留意事項 (Other Information)〕

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『English Firsthand Success (5th Edition)』/Michael Rost/Pearson Longman// 9789813130210/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫extensive international travel experience, lived in 4 different countries, taught in 3 different countries

旅行の英会話 B

GBE2350B0E

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

木曜 4限

DP3 : 言語力

15

Katy Simpson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is designed to help to prepare students for travel abroad. Students will engage in a variety of activities using role-plays, activities, pair work, and group work to learn about various aspects of English speaking countries. The goal in this course is for students to be able to understand and use "survival Travel English" when they travel abroad. In addition, this course teaches students about developing oral fluency for daily communication in English while traveling abroad. Focus will be given to building speaking confidence in some typical travel situations.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be able to build speaking confidence through student centered class activities which focus on understanding how to better use English for communicative purposes while traveling abroad.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction
Travel Plans
 - 第 2 回 What Should I Bring
 - 第 3 回 Catching a Plane - At the airport
 - 第 4 回 Checking In/Out - At a hotel
 - 第 5 回 Meeting Roommates
 - 第 6 回 Housekeeping
 - 第 7 回 Buying Groceries
 - 第 8 回 Eating at a Market
 - 第 9 回 Eating at a Coffee Shop
 - 第 10 回 Getting Around the City
 - 第 11 回 Where Am I? Asking Directions
 - 第 12 回 I'm Sick
 - 第 13 回 Museums for Free - Local Sightseeing
 - 第 14 回 Do as the Romans Do - Local festivals / culture
 - 第 15 回 Buying Souvenirs. Final Project Evaluations
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The class will be conducted entirely in English and students will be expected to speak with other students on a regular basis in class. Students will spend most of the class time talking in English about a range of topics and have self-generated daily conversations in pairs and small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation & class attitude 40%, homework assignments & reports 30%, Final Project 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

留学の英会話

GBE2351A0E

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

月曜 4限

DP3 : 言語力

15

Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will focus on preparing students for studying abroad. Students will be given various tasks to complete throughout the course. These tasks will help students develop their self-reliance. In addition, students will improve their overall English skills, especially those skills needed to be a successful student studying abroad.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will improve their overall English skills. They will also develop greater fluency and the ability to express their ideas and opinions effectively using English. Students will become more comfortable and confident using English. They will become more autonomous and self-reliant in their approach to learning. They will become more prepared for study abroad.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce 'Small Talk', Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce the textbook

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

- 第 2 回 Unit 1: My Suitcase Is Overweight
Airport check-in / Airline baggage rules
- 第 3 回 Unit 2: I'm Suffering from Jet Lag
Jet lag / Time zones
- 第 4 回 Unit 3: Each Host Family Is Different
Homestays / Host family rules
- 第 5 回 Unit 4: I'm Experiencing Culture Shock
Cultural differences / Stages of culture shock
- 第 6 回 Unit 5: My Dormitory Is too Noisy
Dormitory life / Suggestions and requests
- 第 7 回 Unit 6: How Can I Make Friends?
Making friends / Activities overseas

- 第 8 回 Unit 7: What Should I Talk About?
Talking with people / Conversation topics
in-class mid-term exam
- 第 9 回 Unit 8: I Feel Homesick
Missing Japan / Dealing with homesickness
- 第 10 回 Unit 9: How Do I Order Food?
Ordering and paying in a restaurant
- 第 11 回 Unit 10: I Lost My Passport
Losing something / Valuable possessions
- 第 12 回 Text Unit 11: I Need to Go to Hospital
Going to a clinic or hospital / Health advice
- 第 13 回 Unit 12: I Don't Want to Leave
Preparing to return to Japan / Benefits of going abroad
- 第 14 回 Review
- 第 15 回 Final in-class exam
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY 100%) IN ENGLISH!
- ii) In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.
- iii) Students are expected to complete their homework on time!
- iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!
- v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students shall be required to do at least 1 hours of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that his or her written work reaches the teacher on time.

Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

-15 minutes per day listen to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students' grade in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class)30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit.

Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or "makeup" work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit "request for special consideration for students participating in extracurricular activities" issued by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students' success and final grade in this course.

***The course may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics and level of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Communicate Abroad』/Simon Cookson and Chihiro Tajima/Cengage/National Geographic Learning//978-4-86312-277-2/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

[参考URL(URL for Reference)]

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

[実務経験のある教員による実践的科目]

歌って覚える英語表現

GBE2352N0J
大学
共通教育科目
2年次
1単位 後期
木曜2限
DP3: 言語力
15
Daniel Pearce

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course focuses on American and British Music from the late 20th century until the present day. Through a selection of songs, students will improve their listening skills while also developing their expressive abilities and knowledge of the social impact/background of the music.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Students will be able to develop their expressive ability by learning about collocations and improve their vocabulary by listening to a selection of songs. Students will be required to listen to and understand songs, create their own translations, and share their opinions on the music with their classmates.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 Introduction: General Overview of the Course
- 第 2 回 Unit 1: Getting to know English music (Major Artists of the 20th Century)
- 第 3 回 Unit 2: For No One / Beatles
- 第 4 回 Unit 3: Changes / David Bowie
- 第 5 回 Unit 4: Another Brick in the Wall / Pink Floyd
- 第 6 回 Unit 5: Like A Rolling Stone / Bob Dylan
- 第 7 回 Unit 6: Small Axe / Bob Marley
- 第 8 回 Project Assignment #1: Favorite Song Discussion Activity
- 第 9 回 Unit 7: Heroes / David Bowie
- 第 10 回 Unit 8: Zimbabwe / Bob Marley
- 第 11 回 Unit 9: Two Suns in the Sunset / Pink Floyd
- 第 12 回 Unit 10: Revolution / The Beatles
- 第 13 回 Unit 11: A Hard Rain's A-Gonna Fall / Bob Dylan
- 第 14 回 Unit 12: Under Pressure / Queen & David Bowie
- 第 15 回 Project Assignment #2: Favorite Video Discussion Activity

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

Students will be expected to speak with other students on a regular basis in class discussing the text songs as well as personal song choices. Students may be asked to give translations or interpretations of song lyrics in either Japanese or English.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Participation: 50%

In-class Assignments: 50%

[留意事項 (Other Information)]

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

No textbook is required. Students will be provided with materials by the teacher.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語リスニング中級 A

GBE2353A0J
 大学
 共通教育科目
 2年次
 1単位 前期
 火曜2限
 DP3：言語力
 15
 東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

国際社会において「相手の言うことがわかる」ことは非常に重要です。そのためには総合的な英語力を向上させる必要がありますが、本コースでは、さらなるリスニング力強化を目指して練習します。英語特有のリズム、イントネーション、発音などを理解しながら、さらに自然で、複雑な文や会話をいつでも習得することを目指します。

本コースではどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用します。つまり、このコースでは、単なるリスニングの練習だけではなく、身の回りにある機会を生きた英語学習法として利用する方法を習得する練習も行います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英語によるドラマ・映画を利用することにより、以下の課題習得を目指します。

1. 英語への興味が深まる。
2. 英語の発音を正確に聞いたり発声したりできる。
3. より早いスピードあるいはより複雑な内容の英語の会話が聞き取れるようになる。
4. 自然な日常表現を覚えることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
リスニング力	音は聞こえるが、全部が一つの音に聞こえ、単語として聞き分けることができない。	短い文や重要な単語なら聞き分けることができる。	6語以上の単語からなる文であっても、重要や語句はほとんど聞きとることができる。または、日本語の説明があれば、類推することができる。	ほとんどの会話において、性別や年齢や方言に関わらず、重要な語句は聞き取ることができ、文意を理解できる。または、日本語を参考に会話文を再現できる。

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation

授業予定の詳細については初回の授業で説明します。受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。

第 2 回 1 Job Interview

※1本の映画 "The Devil Wears Prada" をシーン別に区切って学習します。

第 3 回 2 First Day on the Job

第 4 回 3 Hurricane on the Weekend

第 5 回 4 Andy's Makeover

第 6 回 5 Andy Meets Christian

第 7 回 6 Miranda's Request

第 8 回 7 Nate's Birthday

第 9 回 8 Andy's Decision

第 10 回 9 Breakup with Nate

第 11 回 10 The Dream Job

第 12 回 11 Announcement at the Party

第 13 回 12 Andy's Final Choice

第 14 回 まとめとテスト

第 15 回 FeedbackとReview

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、映画を題材としたテキストを使用し、1回に1ユニットずつ進みます。以下の4つのスキルアップをねらった活動を含めます。音声や映像を利用して、英語の語、句、文の聞き取り練習を行います。また、それらについて音声上の特徴を理解した上で発声の練習をします。

○Vocabulary: 日常に使用する基本語彙を習得する

○Reading: テキストを素早く読んで、内容を把握する

○Listening: ドラマの台詞を聞き取る

○Writing: 聞き取った単語を正確に書き取る

○Speaking: ドラマのシーンに合わせて台詞を言う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

欠席した場合は翌週の課題に影響しますので、かならず課題を翌週の授業までに済ませてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は以下を目安として総合的に判断します。

小テスト点 50%

中テスト点 50%

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点だけでなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は大きく減点されます。また、6回以上欠席した場合は原則として単位が認定されません。

〔留意事項 (Other Information)〕

◎リスニング中級者対象のクラスです。

◎授業中に指示した活動を行わない場合、単位は保証されませんので、安易な受講はおすすめしません。最後まで授業を続けるために以下の目安を参考にしてください。(目安: 「リスニング初級」の単位を修得した学生、および、TOEIC400点前後、またはTOEICリスニングスコア200点以上)

●小テストは授業開始直後に行います。遅刻や欠席の場合、減点がありますが追試を受けられます。

●テキスト、辞書（最低限、英和辞典）や筆記用具などがなくて授業を受けられない場合、授業参加点および課題点は加算されません。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『「プラダを着た悪魔」で学ぶコミュニケーション英語』/ Aline Trosh McKenna/松柏社/2016/9.784881987124E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語リスニング中級B

GBE2353B0J
大学
共通教育科目
2年次
1単位 後期
火曜2限
DP3：言語力
15
東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

国際社会において「相手の言うことがわかる」ことは非常に重要です。そのためには総合的な英語力を向上させる必要がありますが、本コースでは、さらなるリスニング力強化を目指して練習します。英語特有のリズム、イントネーション、発音などを理解しながら、さらに自然で、複雑な文や会話をいつでも習得することを目指します。

本コースではどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用します。つまり、このコースでは、単なるリスニングの練習だけではなく、身の回りにある機会を生きた英語学習法として利用する方法を習得する練習も行います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英語によるドラマ・映画を利用することにより、以下の課題習得を目指します。

1. 英語への興味が深まる。
2. 英語の発音を正確に聞いたり発声したりできる。
3. より早いスピードあるいはより複雑な内容の英語の会話が聞き取れるようになる。
4. 自然な日常表現を覚えることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

リスニング力	音は聞こえるが、全部が一つの音に聞こえ、単語として聞き分けることができない。	短い文や重要な単語なら聞き分けることができる。	6語以上の単語からなる文であっても、重要語句はほとんど聞きとることができる。または、日本語の説明があれば、類推することができる。	ほとんどの会話において、性別や年齢や方言に関わらず、重要な語句は聞き取ることができ、文意を理解できる。または、日本語を参考に会話文を再現できる。
--------	----------------------------------------	-------------------------	------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation

授業予定の詳細については初回の授業で説明します。受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。

第 2 回 1 思い出から現実へ

※1本の映画 "While You Were Sleeping" をシーン別に区切って学習します。

第 3 回 2 突然の出来事

第 4 回 3 真夜中の病院

第 5 回 4 遅れたクリスマス

第 6 回 5 質問攻め

第 7 回 6 婚約プレゼント

第 8 回 7 シカゴの夜

第 9 回 8 それぞれの悩み

第 10 回 9 誤解

第 11 回 10 目覚め

第 12 回 11 揺れる気持ち

第 13 回 12 プロポーズ

第 14 回 13 あなたが寝てる間に

第 15 回 まとめのテストとReview

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、以下の4つのスキルアップをねらった活動を含めます。音声や映像を利用して、英語の語、句、文の聞き取り練習を行います。また、それらについて音声上の特徴を理解した上で発声の練習をします。

○Vocabulary: 日常に使用する基本語彙を習得する

○Reading: テキストを素早く読んで、内容を把握する

○Listening: ドラマの台詞を聞き取る

○Writing: 聞き取った単語を正確に書き取る

○Speaking: ドラマのシーンに合わせて台詞を言う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

欠席した場合は翌週の課題に影響しますので、かならずプリントをもらって課題を翌週の授業までに済ませてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は以下を目安として総合的に判断します。

小テスト点 50%

中テスト点 50%

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点がなくなるだけではなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は大きく減点されます。また、6回以上欠席した場合は原則として単位が認定されません。

〔留意事項 (Other Information)〕

◎リスニング中級者対象のクラスです。発声の練習も行います。

●受講者には、欠席をせずに、根気強く英語を聞き、積極的に発生する姿勢を求めます。授業中に指示した活動を行わない場合、単位は保証されませんので、安易な受講はおすすめしません。

●小テストは授業開始直後に行います。遅刻や欠席の場合、減点がありますが追試を受けられます。

●筆記用具、辞書などがなくて授業を受けられない場合、授業参加点および課題点は加算されません。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

毎時プリントを配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実用英語基礎A

GBE2354A0J

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

水曜3限

DP3: 言語力

15

松岡 真由子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースの目標は、以下の2つです。1つは、今までに習得した英文法の再確認をし、TOEICで発揮すべき実践的な英語力の素地を作ること、もう1つは、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることです。そのために、協働学習を通じて4技能のスキルアップを図るとともに、自分で目標を立てて自分の学習を振り返り、そして評価するという、自己調整プロセスをベースにした課題に取り組みます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英文法知識と語彙力を強化すること
2. 対話文を通じてリスニング、スピーキング力を強化すること
3. 英文を読んで必要な情報を的確に理解する力を強化すること
4. 英文法知識を基に、自分の言いたいことを表現する力を強化すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文法・語彙力	テキストに書かれてあるレベルの文法、語彙が理解できない。	テキストに書かれてあるレベルの文法、語彙が理解でき、基礎的な問題であれば自力で解くことができる。	テキストに書かれてあるレベルの文法、語彙がテキストに書かれてあるレベルの文法、語彙が理解でき、基礎から中級レベルの問題を自力で解くことができる。	テキストに書かれていないレベルの文法、語彙も理解し、自力で問題を解くことができる。
Listening	テキストに出てくる短い対話やモノローグを聞き取り、自力で問題を解くことができない。	テキストに出てくる短い対話やモノローグを聞き取り、基礎的な問題であれば自力で問題を解くことができる。	テキストに出てくる短い対話やモノローグを聞き取り、基礎から中級レベルの問題を自力で問題を解くことができる。	TOEIC演習で出題されるレベルのリスニング問題であっても、内容を聞き取り、自力で問題を解くことができる。
Reading	テキストに出てくる短い英文を読み取り、自力で問題を解くことができない。	テキストに出てくる短い英文を読み取り、基礎的な問題であれば自力で問題を解くことができる。	テキストに出てくる英文を読み取り、基礎から中級レベルの問題を自力で問題を解くことができる。	TOEIC演習で出題されるレベルのリーディング問題であっても、内容を読み取り、自力で問題を解くことができる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 Unit 1 Travel

品詞①: 名詞 (可算名詞・不可算名詞)

Unit 2 Dining Out

品詞②: 形容詞 (名詞修飾、補語)

第 3 回

	Unit 3 Media 品詞③：副詞（動詞・形容詞修飾） Unit 4 Entertainment 時制（現在・過去・未来・現在進行形）
第 4 回	Unit 5 Purchasing 3単現のs（修飾語句を伴う主語） Unit1～5復習
第 5 回	小テスト TOEIC基礎演習
第 6 回	Unit 6 Clients 能動態・受動態（感情を表す表現） Unit 7 Recruiting 動詞の後ろの動名詞・不定詞（前置詞の後ろの動名詞、定型表現）
第 7 回	Unit 8 Personnel 代名詞（主格・所有格・目的格・所有代名詞） Unit 9 Advertising 比較（比較級、最上級、as ... as）
第 8 回	Unit 10 Meetings 前置詞（理由・譲歩・時、定型表現） Unit6～10復習
第 9 回	小テスト TOEIC基礎演習
第 10 回	Unit 11 Finance 接続詞（理由・譲歩・時） Unit 12 Offices 前置詞・接続詞対比
第 11 回	Unit 13 Daily Life 関係代名詞（主格・所有格・目的格） Unit 14 Sales & Marketing 語彙①（名詞・形容詞）
第 12 回	Unit 15 Events 語彙②（動詞・副詞） Unit11～15復習
第 13 回	小テスト TOEIC基礎演習
第 14 回	TOEIC実践演習
第 15 回	TOEIC実践演習 TOEIC Vocabulary Quiz（Unit1～15の既習語彙の復習）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

TOEICテストでよく扱われるトピックを題材にしたテキストで、ターゲットとなる文法事項の強化、そして4技能の強化を図ります。

（文法）問題演習で文法知識のインプットとアウトプットをします。

（語彙）TOEICを意識した語彙力強化のセクションを通じて、TOEICの頻出語彙の定着を図ります。

（聞く・話す）短い対話文を聞き取ってディクテーション（書き取り）をしたり、繰り返し声に出して（書く・読む）リスニング力強化を図ります。

（読む・書く）ターゲットとなる文法事項を用いて自分の伝えたいことを表現したり、TOEIC形式の問題演習を通じて、英文の内容を読み取る練習をします。

4ユニットにつき1回の割合で小テストと復習の時間を取ります。また、全15回の授業において、適宜TOEIC形式の問題を用いた演習をします。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

クラスで使用するテキストの音声データは、PCやスマートフォン、携帯端末からダウンロードできます。事前に予習をし、授業後は復習をすることをすすめます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

皆さんは、初回の授業で、学習ポートフォリオを使った自己評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。また、毎回の授業でのペア、グループワークに対しても自己評価をしてもらいます。

最終評価については、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行います。

- 1) 授業参加(授業参加度、ポートフォリオ評価を含む) (55%)
- 2) 小テスト (45%)

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST: PRE-INTERMEDIATE レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：準中級編』/早川幸治 番場直之シリーズ監修 溝口優美子 柳田真知子 著/金星堂/2019/9784764740891/学内販売予定
進度や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実用英語基礎B

GBE2354B0J

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

月曜3限

DP3：言語力

15

伊村 大樹

〔科目の教育目標（Course Description）〕

英検(実用英語技能検定試験)2級レベルの資格試験を受ける学生のための基礎的な受験対策。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英検の特徴を知り、2級レベルでできるだけ高い得点を取るのに必要な聴き取り・英文法・語法の能力、読解力等を獲得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction 授業の進め方と基本的英文法
- 第 2 回 Lesson 1
文法演習
読解 The History of Confectionery
- 第 3 回 Lesson 2
文法演習
読解 Alex the Parrot and Animal Intelligence
- 第 4 回 Lesson 3
文法演習
読解 Trees from the Sky
- 第 5 回 Lesson 4
文法演習
読解 Whale and Dolphin Strandings
- 第 6 回 Lesson 5
文法演習
読解 Quake Computing
- 第 7 回 Lesson 6
文法演習
読解 Roman Architectural Wonders
- 第 8 回 中間試験と解説
- 第 9 回 Lesson 7
文法演習
読解 E-Book Readers Are Everywhere!
- 第 10 回 Lesson 8
文法演習
読解 The Noisy Oceans
- 第 11 回 Lesson 9
文法演習
読解 Earthships
- 第 12 回 Lesson 10
文法演習
読解 The Mystery of Kaspar Hauser
- 第 13 回 Lesson 11
文法演習
読解 Strange Rain
- 第 14 回 Lesson 12
文法演習
読解 Back to the Past
- 第 15 回 期末試験と解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、毎回1章ずつテキストを進める。TOEICテストの実戦形式の問題にたくさん触れながら、必要な知識を学んでいきます。

授業内で行う中間・期末テストの後に、フィードバックとして正答の説明と解説を行います。メールによる問い合わせ等も受け付けます。アドレスは以下。

itrees49@gmail.com

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第2回目以降の授業には、毎回必ず教科書の問題を(リスニングを含めて)全部解答しておいてから臨むこと。辞書や参考書等を使用して、できる限り全問正解を目指してください。授業では答え合わせと解説が中心になります。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加点(小テストを含む) 40%

まとめのテスト (中間・期末) 60%

※上記の割合は目安であり、授業の進行状態や学生の意見等も参考に調整します。

〔留意事項 (Other Information)〕

資格試験に真剣に取り組むことを希望しない学生には受講を勧めません。

授業には必ず辞書を持参すること。電子辞書・冊子辞書のどちらでも構いません。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Eiken 2: Sure to Succeed 英検2級合格への道』/坂部俊行 岡島徳昭 ウィリアム・ノエル/National Geographic Learning南雲堂/2011/978-4-523-17675-6/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アカデミック英語

GBE3300N0E

大学

共通教育科目

3年次

1単位 前期

金曜 3限

DP3 : 言語力

15

週2コマ

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスの教育目標はきわめて現実的である。日本国内の大学院進学を目指している学生諸君が入試などで評価される英語能力が高い「英語読解能力」であることを前提と

して、このクラスはその能力育成を目指す。このクラスでは、受講生が興味をもつ題材について読み、議論することに重きをおきます。また、研究の進め方を学び、また研究内容を短いリサーチペーパーとしてまとめ、口頭での発表をする機会を持ちます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will acquire essential reading, writing, speaking, and discussion skills for academic purposes. They will also gain greater confidence in effectively expressing their ideas and opinions in English.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to Academic English and Research Papers
- 第 2 回 Research Paper Topics
- 第 3 回 Conducting Research
- 第 4 回 The Thesis Statement
- 第 5 回 The Working Outline
- 第 6 回 Writing the First Draft
- 第 7 回 Writing the Title and Introduction
- 第 8 回 Support, Accuracy, Logic, and Relevance
- 第 9 回 Writing the Body
- 第 10 回 Writing the Conclusion
- 第 11 回 Citing and Quoting Sources
- 第 12 回 Writing the Reference List
- 第 13 回 Evaluating and Rewriting Your Paper
- 第 14 回 Presenting Your Paper
- 第 15 回 Final Presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of reading, preparing for discussion, conducting research, writing, and preparing presentations.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

30% Class Participation and Discussion

35% Mini Research Paper

35% Oral Presentation

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Basic Steps to Writing Research Papers, Second Edition/David E. Kluge and Matthew A. Taylor/Cengage Learning/2018/978-4-86312-308-3/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ドイツ語 2017年度以降入学者

GBF1300N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

火曜 2限 木曜 3限

DP3 : 言語力

30

週2コマ

青木 三陽

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

読み物・作文、やさしい会話、ビデオ教材の使用などを通じてドイツ語を話す人々の文化や思考法を学ぶ。

また、初級文法の知識を身につけつつ、ドイツ語の文章を正確に読めるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.教科書の内容に沿った文法課題
- 2.教科書、配布物による文章読解、作文
- 3.視聴覚教材によるドイツ文化の学習
- 4.ペア・グループワークによるドイツ語会話やディスカッション、またその練習成果としての口頭発表

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、アルファベット
- 第 2 回 ドイツ語の発音
- 第 3 回 動詞の現在人称変化
- 第 4 回 ドイツの都市事情
- 第 5 回 名詞の性
- 第 6 回 ドイツのパン
- 第 7 回 不規則動詞の人称変化
- 第 8 回 名詞の複数形
- 第 9 回 アウトバーン
- 第 10 回 不規則動詞の現在人称変化
- 第 11 回 名詞の複数形
- 第 12 回 名詞の3格
- 第 13 回 ドイツの自動車産業
- 第 14 回 前置詞と名詞の格

- 第 15 回 副文
- 第 16 回 ドイツの交通事情
- 第 17 回 人称代名詞の3・4格
- 第 18 回 再帰代名詞と再帰動詞
- 第 19 回 名詞の2格
- 第 20 回 ドイツの医療制度
- 第 21 回 定冠詞類
- 第 22 回 不定冠詞類
- 第 23 回 否定冠詞
- 第 24 回 書店と「マンガ」
- 第 25 回 zu不定詞句
- 第 26 回 分離動詞
- 第 27 回 話法の助動詞
- 第 28 回 未来形
- 第 29 回 ドイツの美容院
- 第 30 回 今期のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

使用教科書の本文は全て二人の人物の会話で成り立っているため、付属の視聴覚教材を利用しつつ、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な学習を目指す。これはペアワーク・グループワークが主な手段となる。同時に講師による文法項目の解説とそれに続く練習問題により、個別の読解力を養う。いずれにしても積極的な授業参加態度が必要不可欠である。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書付属の視聴覚教材を用いて毎回発音の確認をしておくこと。また、教科書中の練習問題に関しては授業中に予習範囲を具体的に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点50%、定期試験50%の総合評価とする。
なお、授業運営の都合上、毎回出欠の確認をとる。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数等の事情により授業予定は若干変更になる場合もある。その場合は授業中に指示する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ドイツ語の時間 恋するベルリン』/清野智昭/朝日出版社/20017/9784255253930C1084/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

スペイン語 A 2017年度以降入学者

GBF1301A0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 前期
月曜 1限 水曜 2限
DP3 : 言語力
30
週2コマ
平山 幸乃

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度の力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

スペイン語の文章を音読する。
初歩的な会話表現を習得する。
基礎文法(直説法現在)を習得する。
スペイン語圏の文化について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 第1課 アルファベット
- 第 2 回 第1課 母音、子音、アクセント
- 第 3 回 第2課 名詞
- 第 4 回 第2課 冠詞
- 第 5 回 第3課 形容詞
- 第 6 回 第3課 指示詞
- 第 7 回 第4課 主語
- 第 8 回 第4課 serの直説法現在
- 第 9 回 第4課 疑問文と否定文
- 第 10 回 第5課 estarの直説法現在
- 第 11 回 第5課 serとestarの比較
- 第 12 回 第5課 所有詞
- 第 13 回 第6課 hayの用法
- 第 14 回 第6課 estarとhayの比較
- 第 15 回 第6課 時刻・曜日・月日の表現
- 第 16 回 第7課 -ar動詞の直説法現在
- 第 17 回 第7課 疑問詞・前置詞
- 第 18 回 第8課 -er動詞の直説法現在
- 第 19 回 第8課 -ir動詞の直説法現在
- 第 20 回 第9課 動詞quererの直説法現在
- 第 21 回 第9課 動詞poderの直説法現在
- 第 22 回 第10課 動詞hacerの直説法現在
- 第 23 回 第10課 動詞tenerの直説法現在
- 第 24 回 第10課 基数
- 第 25 回 第11課 動詞irの直説法現在
- 第 26 回 第11課 動詞venirの直説法現在
- 第 27 回 第12課 動詞darの直説法現在
- 第 28 回 第12課 動詞saberの直説法現在

第 29 回 第 1 2 課 目的格人称代名詞

第 30 回 これまでの復習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。

前回の授業で学んだ内容を復習する。

教科書の付属CDでの聞き取り、及び音読を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各課ごとに行う小テストで評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Plaza Amigos Espa?ol para hablar I』/青砥清一 他/朝日出版社/2011/978425550428/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/2003/9784560000489

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

スペイン語B 2017年度以降入学者

GBF1301B0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

月曜2限 水曜1限

DP3: 言語力

30

週2コマ

平山 幸乃

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度の力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

スペイン語の文章を音読する。

初歩的な会話表現を習得する。

基礎文法(直説法現在)を習得する。

スペイン語圏の文化について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

--	--	--	--	--

〔授業計画〕

第 1 回 第1課 アルファベット

第 2 回 第1課 母音、子音、アクセント

第 3 回 第2課 名詞

第 4 回 第2課 冠詞

第 5 回 第3課 形容詞

第 6 回 第3課 指示詞

第 7 回 第4課 主語

第 8 回 第4課 serの直説法現在

第 9 回 第4課 疑問文と否定文

第 10 回 第5課 estarの直説法現在

第 11 回 第5課 serとestarの比較

第 12 回 第5課 所有詞

第 13 回 第6課 hayの用法

第 14 回 第6課 estarとhayの比較

第 15 回 第6課 時刻・曜日・月日の表現

第 16 回 第7課 -ar動詞の直説法現在

第 17 回 第7課 疑問詞・前置詞

第 18 回 第8課 -er動詞の直説法現在

第 19 回 第8課 -ir動詞の直説法現在

第 20 回 第9課 動詞quererの直説法現在

第 21 回 第9課 動詞poderの直説法現在

第 22 回 第10課 動詞hacerの直説法現在

第 23 回 第10課 動詞tenerの直説法現在

第 24 回 第10課 基数

第 25 回 第11課 動詞irの直説法現在

第 26 回 第11課 動詞venirの直説法現在

第 27 回 第12課 動詞darの直説法現在

第 28 回 第12課 動詞saberの直説法現在

第 29 回 第12課 目的格人称代名詞

第 30 回 これまでの復習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。

前回の授業で学んだ内容を復習する。

教科書の付属CDでの聞き取り、及び音読を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各課ごとに行う小テストで評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Plaza Amigos Espa?ol para hablar I』/青砥清一 他/朝日出版社/2011/9784255550428/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/2003/9784560000489

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I A 2017年度以降入学者

GBF1302A0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 前期
月曜3限 水曜3限
DP3：言語力
30
週2コマ
朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を覚える。
3. スマートフォンを使って、中国語で自己紹介と大学紹介のビデオを作ってみる。
4. 中国語検定準4級を目指す。
5. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
中国語とは何か
- 第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について
声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール
- 第 3 回 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 4 回 中国語の子音

- 子音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 5 回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第 6 回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第 7 回 3つの基本の疑問文
諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文
- 第 8 回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 数詞について
数字を覚える
- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第 12 回 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
- 第 13 回 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第 14 回 量詞について
ものの数え方、中国語文の中での立ち位置
- 第 15 回 前半のまとめ
中間テストとテスト解説
- 第 16 回 後半の学ぶについて
前半の復習と後半の内容説明
- 第 17 回 指示詞について
もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
- 第 18 回 基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文?連動文について
- 第 19 回 願望表現について
“会”、“能”、“可以”の使い方
- 第 20 回 もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方
- 第 21 回 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 22 回 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 23 回 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文
- 第 24 回 いくつかの副詞について
“才”、“就”、“太・・・了”の使い方
- 第 25 回 補語について (1)
程度補語の使い方
- 第 26 回 “在”+場所の構文
前置詞“在”の使い方
- 第 27 回 いくつかの前置詞について
“?”、“?”、“从”、“跟”の使い方
- 第 28 回 趣味、嗜好の言い方
“喜?”、“?”、“?・・・感?趣”の使い方
- 第 29 回 時間の量について
時間の量の表現、中国語文の中の立ち位置
- 第 30 回 総合復習

テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習辞典』/相原 茂/朝日出版社// 『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I B 2017年度以降入学者

GBF1302B0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 前期
月曜2限 水曜1限
DP3: 言語力
30
週2コマ
柴 礼敏

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語

彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を覚える。
3. スマートフォンを使って、中国語で自己紹介と大学紹介のビデオを作ってみる。
4. 中国語検定準4級を目指す。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
中国語とは何か
- 第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について
声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール
- 第 3 回 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 4 回 中国語の子音
子音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 5 回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第 6 回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第 7 回 3つの基本の疑問文
諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文
- 第 8 回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 数詞について
数字を覚える
- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第 12 回 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
- 第 13 回 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第 14 回 量詞について
ものの数え方、中国語文の中での立ち位置
- 第 15 回 前半のまとめ
中間テストとテスト解説
- 第 16 回 後半の学ぶについて
前半の復習と後半の内容説明
- 第 17 回 指示詞について
もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
- 第 18 回 基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文?連動文について
- 第 19 回 願望表現について
“会”、“能”、“可以”の使い方
- 第 20 回 もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方

- 第 21 回 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 22 回 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 23 回 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文
- 第 24 回 いくつかの副詞
”才”、”就”、”太・・・了”の使い方
- 第 25 回 補語について (1)
程度補語の使い方
- 第 26 回 ”在”+場所の構文
前置詞”在”の使い方
- 第 27 回 いくつかの前置詞
”?”、”?”、”?”、”跟”の使い方
- 第 28 回 趣味、嗜好の言い方
”喜?”、”?”、”?”・・・感?趣”の使い方
- 第 29 回 時間の量について
時間の量の表現、中国語文の中の立ち位置
- 第 30 回 総合復習
テストとまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015 年// 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社// 『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I C 2017年度以降入学者

GBF1302C0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

月曜1限 水曜2限

DP3: 言語力

30

週2コマ

陶 盈

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を覚える。
3. スマートフォンを使って、中国語で自己紹介と大学紹介のビデオを作ってみる。
4. 中国語検定準4級を目指す。
5. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

中国語とは何か

第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について

声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール

第 3 回 中国語の母音

単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール

第 4 回	中国語の子音 子音の発音、表音記号と表音ルール
第 5 回	中国語で名前を言う 名前の言い方、聞き方
第 6 回	動詞“是”の使い方 判断文“是”の肯定文、否定文
第 7 回	3つの基本の疑問文 諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文
第 8 回	基本的な構文 (1) 動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
第 9 回	数詞について 数字を覚える
第 10 回	基本的な構文 (2) 形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
第 11 回	時の言い方 (1) 日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
第 12 回	時の言い方 (2) 時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
第 13 回	比較の構文 比較の肯定文、否定文、疑問文
第 14 回	量詞について ものの数え方、中国語文の中での立ち位置
第 15 回	前半のまとめ 中間テストとテスト解説
第 16 回	後半の学ぶについて 前半の復習と後半の内容説明
第 17 回	指示詞について もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
第 18 回	基本的な構文 (3) 二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文?連動文について
第 19 回	願望表現について “会”、“能”、“可以”の使い方
第 20 回	もう一つの疑問文 選択疑問文の言い方
第 21 回	完了形について 完了形の肯定文、否定文、疑問文
第 22 回	進行形について 進行形の肯定文、否定文、疑問文
第 23 回	経験相について 経験相の肯定文、否定文、疑問文
第 24 回	いくつかの副詞について “才”、“就”、“太・・・了”の使い方
第 25 回	補語について (1) 程度補語の使い方
第 26 回	“在”+場所の構文 前置詞“在”の使い方
第 27 回	いくつかの前置詞について “?”、“?”、“从”、“跟”の使い方
第 28 回	趣味、嗜好の言い方 “喜?”、“?”、“?・・・感?趣”の使い方
第 29 回	時間の量について 時間の量の表現、中国語文の中の立ち位置

第 30 回	総合復習 テストと解説
	〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕 しない 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕 1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。 2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。 3. ビデオによる映像資料を多用する。 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕 本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]〕 10 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕 評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。 〔留意事項 (Other Information)〕 留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕 『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015 年// 学内販売予定 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕 『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社// 『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館// 〔参考URL(URL for Reference) 〕 http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html 教科書の音声ダウンロードできます。 〔実務経験のある教員による実践的科目〕 ≪実践的科目≫日本電産株式会社中途入社、海外事業管理部に配属。法務・知的財産・広報・財務・社長書簡など多分野にわたる専門資料の翻訳、社長と中国政府高官との会談そのた社内会議の通訳、その他海外事業の管理業務を担当。翻訳通訳とも日中双方向担当。産業翻訳・通訳者としての実務経験4年。

GBF1302D0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 前期
月曜1限 水曜2限
DP3: 言語力
30
週2コマ
王 嵐

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 簡単な日常会話といくつかもてなしの中国語を覚える。
3. スマートフォンを使って、中国語で自己紹介と大学紹介のビデオを作ってみる。
4. 中国語検定準4級を目指す。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
中国語とは何か
- 第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について
声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール
- 第 3 回 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 4 回 中国語の子音
子音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 5 回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第 6 回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第 7 回 3つの基本の疑問文
諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文
- 第 8 回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 数詞について
数字を覚える
- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第 12 回 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置

- 第 13 回 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第 14 回 量詞について
ものの数え方、中国語文の中での立ち位置
- 第 15 回 前半のまとめ
中間テストとテスト解説
- 第 16 回 後半の学ぶについて
前半の復習と後半の内容説明
- 第 17 回 指示詞について
もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
- 第 18 回 基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文?連動文について
- 第 19 回 願望表現について
“会”、“能”、“可以”の使い方
- 第 20 回 もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方
- 第 21 回 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 22 回 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 23 回 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文
- 第 24 回 いくつかの副詞
“才”、“就”、“太・・・了”の使い方
- 第 25 回 補語について (1)
程度補語の使い方
- 第 26 回 “在”+場所の構文
前置詞“在”の使い方
- 第 27 回 いくつかの前置詞
“?”、“?”、“?”、“跟”の使い方
- 第 28 回 趣味、嗜好の言い方
“喜?”、“?”、“?・・・感?趣”の使い方
- 第 29 回 時間の量について
時間の量の表現、中国語文の中の立ち位置
- 第 30 回 総合復習
テストとまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習辞典』/相原 茂/朝日出版社// 『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語 A 2017年度以降入学者

GBF1350A0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 2単位 後期
 月曜1限 水曜2限
 DP3: 言語力
 30
 週2コマ
 田中 敏彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書(この教科書は一生使えます)を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭でフランスの文化(シャンソン・映画・文学・絵画など)について紹介します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同時に学習します。皆さんが直面する最初の課題は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 発音1 基本母音と子音
- 第2回 発音2 綴り字の読み方①「フランス語の綴り字は見たまま読まない」
- 第3回 綴り字の読み方②
- 第4回 リエゾン・アンシェンヌマン・エリジョン 「リエゾンの多さは仏語の特徴」
- 第5回 フランス語特有の音楽とは(リズム・アクセント・イントネーション)
- 第6回 第1課 名詞・形容詞・冠詞および第一群規則動詞
- 第7回 第2課 第二群規則動詞 否定文・疑問文
- 第8回 第3課 冠詞のシステム(不定冠詞・定冠詞・部分冠詞) 仏語特有の冠詞・部分冠詞
- 第9回 第4課 形容詞と副詞の比較級最上級
- 第10回 練習問題
- 第11回 第5課 複合過去「仏語の複合過去は英語の現在完了と過去形を合わせたもの」
- 第12回 練習問題
- 第13回 第6課 命令法
- 第14回 練習問題
- 第15回 前半試験
- 第16回 フランス語動詞システムの概観
- 第17回 第7課 代名動詞 「代名動詞の活躍はフランス語の特徴」
- 第18回 練習問題
- 第19回 第8課 直説法の半過去・大過去
- 第20回 練習問題
- 第21回 第9課 単純未来・前未来
- 第22回 練習問題
- 第23回 第10課 疑問代名詞・関係代名詞
- 第24回 練習問題
- 第25回 第11課 単純過去 「物語上の、ならびに歴史上の出来事を示す」単純過去
- 第24回 練習問題
- 第25回 第12課 条件法 「直説法は現実を、条件法は非現実を表現する」
- 第26回 練習問題
- 第27回 第13課 接続法 「直説法は現実を、接続法は現実以前の可能性を表現する」
- 第28回 練習問題
- 第29回 第14課 接続法・半過去・大過去
- 第30回 後半試験

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する(第15回と第30回の2回)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚え

る必要があるので、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の科目のように知識を得るだけでなく、「体で覚え」なければ、実際の役にはたたないのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (出席および練習問題) と定期試験の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/最新版/ISBN: 9784560060919/1

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/ISBN:4010750510

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語 B 2017年度以降入学者

GBF1350B0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 後期
月曜2限 水曜1限
DP3: 言語力
30
週2コマ
田中 敏彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書(この教科書は一生使えます)を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭でフランスの文化(シャンソン・映画・文学・絵画など)について紹介します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同時に学習します。皆さんが直面する最初の課題は綴り字の読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第1回 発音1 基本母音と子音

第2回 発音2 綴り字の読み方①「フランス語の綴り字は見たまま読まない」

第3回 綴り字の読み方②

第4回 リエゾン・アンシェンヌマン・エリジョン 「リエゾンの多さは仏語の特徴」

第5回 フランス語特有の音楽とは(リズム・アクセント・イントネーション)

第6回 第1課 名詞・形容詞・冠詞および第一群規則動詞

第7回 第2課 第二群規則動詞 否定文・疑問文

第8回 第3課 冠詞のシステム(不定冠詞・定冠詞・部分冠詞) 仏語特有の冠詞・部分冠詞

第9回 第4課 形容詞と副詞の比較級最上級

第10回 練習問題

第11回 第5課 複合過去「仏語の複合過去は英語の現在完了と過去形を合わせたもの」

第12回 練習問題

第13回 第6課 命令法

第14回 練習問題

第15回 前半試験

第16回 フランス語動詞システムの概観

第17回 第7課 代名動詞 「代名動詞の活躍はフランス語の特徴」

第18回 練習問題

第19回 第8課 直説法の半過去・大過去

第20回 練習問題

第21回 第9課 単純未来・前未来

第22回 練習問題

第23回 第10課 疑問代名詞・関係代名詞

第24回 練習問題

第25回 第11課 単純過去 「物語上の、ならびに歴史上の出来事を示す」単純過去

第24回 練習問題

第25回 第12課 条件法 「直説法は現実を、条件法は非現実を表現する」

第26回 練習問題

第27回 第13課 接続法 「直説法は現実を、接続法は現実以前の可能性を表現する」

第28回 練習問題

第29回 第14課 接続法・半過去・大過去

第30回 後半試験

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する (第15回と第30回の2回)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の科目のように知識を得るだけでなく、「体で覚え」なければ、実際の役にはたたないのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (出席および練習問題) と定期試験の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/最新版/ISBN: 9784560060919/1

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/ISBN:4010750510

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語C 2017年度以降入学者

GBF1350C0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

月曜 3限 金曜 3限

DP3: 言語力

30

週2コマ

田中 敏彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書(この教科書は一生使えます)を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうこと

を目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭でフランスの文化(シャンソン・映画・文学・絵画など)について紹介します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同時に学習します。皆さんが直面する最初の課題は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第1回 発音1 基本母音と子音

第2回 発音2 綴り字の読み方①「フランス語の綴り字は見たまま読まない」

第3回 綴り字の読み方②

第4回 リエゾン・アンシェンヌマン・エリジョン 「リエゾンの多さは仏語の特徴」

第5回 フランス語特有の音楽とは(リズム・アクセント・イントネーション)

第6回 第1課 名詞・形容詞・冠詞および第一群規則動詞

第7回 第2課 第二群規則動詞 否定文・疑問文

第8回 第3課 冠詞のシステム(不定冠詞・定冠詞・部分冠詞) 仏語特有の冠詞・部分冠詞

第9回 第4課 形容詞と副詞の比較級最上級

第10回 練習問題

第11回 第5課 複合過去「仏語の複合過去は英語の現在完了と過去形を合わせたもの」

第12回 練習問題

第13回 第6課 命令法

第14回 練習問題

第15回 前半試験

第16回 フランス語動詞システムの概観

第17回 第7課 代名動詞「代名動詞の活躍はフランス語の特徴」

第18回 練習問題

第19回 第8課 直説法の半過去・大過去

第20回 練習問題

第21回 第9課 単純未来・前未来

第22回 練習問題

第23回 第10課 疑問代名詞・関係代名詞

第24回 練習問題

第25回 第11課 単純過去「物語上の、ならびに歴史上の出来事を示す」単純過去

第24回 練習問題

第25回 第12課 条件法「直説法は現実を、条件法は非現実

を表現する」

第26回 練習問題

第27回 第13課 接続法 「直説法は現実を、接続法は現実以前の可能性を表現する」

第28回 練習問題

第29回 第14課 接続法・半過去・大過去

第30回 後半試験

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する (第15回と第30回の2回)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといいうことで、この点スポーツとよく似ています。他の科目のように知識を得るだけでなく、「体で覚え」なければ、実際の役にはたたないのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (出席および練習問題) と定期試験の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/最新版/ISBN: 9784560060919/1

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/ISBN:4010750510

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラビア語 2017年度以降入学者

GBF1351N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

火曜 3限 木曜 1限

DP3: 言語力

30

週2コマ

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「アラビア語」は中東・北アフリカを中心とする国々で用いられ、世界の言語の中でも大変広い地域で話されている。また国連の公用語の1つにも数えられている主要言語のひとつである。本科目の目標はアラビア語の読み・書き・聞く・話す基本を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことである。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、28文字からなるアラビア語のアルファベットの書き方と発音を学び、基礎的な語彙、挨拶や日常会話表現を学習する。基本フレーズとスキットに含まれる文法を理解し、文法に関連付けたコミュニケーション能力を高める。また、出身の表現、場所の尋ね方、家族の紹介、数詞 (基数)、単数・双数・複数、動詞未完了形、動詞完了形、語根と語形パターン、等位文の否定、疑問詞などを学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 28文字から成るアラビア語のアルファベットの書き方・発音を学ぶ。
2. 教科書の基本文や会話を理解し、文法を学ぶ。
3. ドリルで応用力をつける。
4. アラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 アラビア語とは

第 2 回 「こんにちは」アラビア語のアルファベット

第 3 回 「おはよう」アラビア語のアルファベット

第 4 回 「またお会いするまで」アラビア語のアルファベット

第 5 回 「こんばんは」アラビア語のアルファベット

第 6 回 「ありがとう」アラビア語のアルファベット

第 7 回 「ようこそ」アラビア語のアルファベット

第 8 回 「お元気ですか」アラビア語のアルファベット以外の文字と記号

第 9 回 「アッサラーム・アライクム」太陽文字と月文字

第 10 回 「あなたの名前は？」○○人という表現、数字1～10

第 11 回 「私の名前は…」名前の書き方

- 第 12 回 「はい」「いいえ」格について
- 第 13 回 「ごめんなさい」名詞の性について
- 第 14 回 「あなたは学生ですか」独立人称代名詞
- 第 15 回 14回までの復習
- 第 16 回 「モスクはどこですか」定冠詞
- 第 17 回 「それはここから近いですか」形容詞
- 第 18 回 「こちらはどなたですか」接尾人称代名詞
- 第 19 回 「これは私の父です」「○○があります」指示代名詞
- 第 20 回 「いつもみなさんがお元気でありますように」イダーファ
- 第 21 回 「あなたたちは車を持っていますか」前置詞を使った所有表現
- 第 22 回 「これらのお寺や神社は素晴らしいです」双数・複数
- 第 23 回 「2つの有名な公園があります」名詞と形容詞の一致
- 第 24 回 「アラビア語を勉強しています」動詞未完了形
- 第 25 回 「この石けんはいくらですか」動詞未完了形
- 第 26 回 「パレスチナ料理を食べましたか」動詞完了形・語根
- 第 27 回 「私は彼がとても好きなの」等位文の否定ライサ
- 第 28 回 「彼は日本では知られていないよ」自己紹介
- 第 29 回 「私は○○が好きです」の表現
- 第 30 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 予習で事前に課題を理解し、語彙など必要事項を記憶する。
2. 授業で十分に理解する。
3. 授業中のテストで理解の確認を行う。
4. 復習で学習したことを把握し、保持する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 教科書の課された範囲を毎回予習する。
2. 小テストがある場合は、それに備える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加25%、小テスト・宿題25%、試験50%。
出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

回によっては、イマージョン・スペースや教室の内外で、ネイティブ・スピーカーなどのゲスト講師を招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラーム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『初歩のアラビア語』/鷺見朗子/放送大学教育振興会/2011/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『パスポート日本語アラビア語辞典』/本田幸一他編/白水社/2004/

『パスポート初級アラビア語辞典』/本田幸一他編/白水社/1997/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語Ⅱ 2017年度以降入学者

GBF1352N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

月曜2限 水曜1限

DP3: 言語力

30

週2コマ 「中国語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業はすでに中国語Iを学習した学生を対象とするものである。中国語Iで学習した日常会話や基本的な文法を確認しながら、より高度な中国語を身につけることを目標とする。中国語と中国文化に興味を持たせることが肝心である。教科書にある文法と単語学習をしっかりと消化した上、授業ごとに、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場面を設定し、グループ学習と会話練習を行う。中国語検定試験準4級に合格することを念頭において、中国語Iで学習した会話、単語、文法を復習しながら、準4級の過去問題も練習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 発音と文法の復習。
2. 日常会話をさらにグレードアップする。
3. 中国語検定試験準4級合格を目指す。
4. スマートフォンを使って、中国語で留学生へのインタビュービデオを作成する。
5. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
中国語Iの復習
- 第 2 回 方向補語(1)
方向補語“来”と“去”
- 第 3 回 いくつかの前置詞
“到”、“对”、“除了”の使い方
- 第 4 回 理由と原因を言う
“因?・・・所以”の使い方

- 第 5 回 結果補語について
“動詞+完”, “動詞+到”, “動詞+好”などの使い方
- 第 6 回 副詞と数量詞の違い
副詞「有点儿」と数量詞「一点儿」の使い分け
- 第 7 回 使役文について
使役文の構文と作り方
- 第 8 回 方向補語(2)
複合方向補語の使い方
- 第 9 回 存現文について
存現文の特徴と構文
- 第 10 回 受け身について
受け身の構文と言い方
- 第 11 回 間接目的語について
間接目的語の特徴と構文
- 第 12 回 処置文について
処置文「把」の使い方
- 第 13 回 語気助詞について
変化を表す“了”の使い方
- 第 14 回 推量の表現について
推量の“会・・・了”について
- 第 15 回 前半のまとめ
中間テストと解説
- 第 16 回 後半の授業について
前半の説明と後半の内容紹介
- 第 17 回 動詞の持続と状態について
“動詞+着”の構文と使い方
- 第 18 回 主述述語文について
主述述語文の特徴と構文
- 第 19 回 目的を表現する
“了”の使い方
- 第 20 回 強調の表現
「一点儿也/都」+否定の言い方
- 第 21 回 可能補語について
可能補語の構文と使い方
- 第 22 回 許可、可能の表現
“可以”、“能”の使い方
- 第 23 回 仮定文について
“如果・・・的?”の構文と使い方
- 第 24 回 方向補語の派生的な表現
“動詞+起来”、“動詞+下去”の使い方
- 第 25 回 変化を表現する
“已?・・・了”の構文と使い方
- 第 26 回 兼語文について
兼語式連動文
- 第 27 回 可能補語の派生的な表現
“動詞+得起”、“動詞+得下”の使い方
- 第 28 回 補語について
中国語における補語発達の理由
- 第 29 回 提案や誘いの言い方
“怎?”の使い方
- 第 30 回 総合練習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声教材を使い、聞き取り練習をする。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

外部講師或いは留学生を招いて、中国語、中国文化などの多文化交流に関する討論会を開く場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語2改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015年//1/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語Ⅲ 2017年度以降入学者

GBF2300N0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 前期

月曜 2限 水曜 1限

DP3: 言語力

30

週2コマ 「中国語Ⅱ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語上級レベルの授業である。初級と中級を学習した教科書を利用して、ワンランク上の総合的な学習を行う。学習の目標としては「ネイティブ並に中国語を話すではなく、ひるむことなく学習した中国語でコミュニケーションできる」ことである。また中国語検定試験準4級、4

級合格を目指して、必要な文法と単語を中心に学習することも本授業の目標の一つである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。
2. 中国語検定試験準4級、4級に必要な単語を覚え、文章の読解力とヒアリング能力を向上させる。
3. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 中国語検定試験準4級の単語－単語の範囲
- 第 2 回 中国語検定試験準4級の文法－肯定文、否定文
- 第 3 回 中国語検定試験準4級のリスニング－ピンインのリスニング
- 第 4 回 中国語検定試験準4級の漢字－中国語漢字と日本語漢字の違い
- 第 5 回 中国語検定試験準4級の記事－読解
- 第 6 回 中国語検定試験準4級の翻訳－日本語から中国語へ
- 第 7 回 模擬テスト－2017年の過去問を中心に
- 第 8 回 中国語検定試験準4級の単語－単語の理解と覚え方
- 第 9 回 中国語検定試験準4級の文法－疑問文、仮定文
- 第 10 回 中国語検定試験準4級のリスニング－短文のリスニング
- 第 11 回 中国語検定試験準4級の漢字－書き方
- 第 12 回 中国語検定試験準4級の記事－作文
- 第 13 回 中国語検定試験準4級の翻訳－中国語から日本語へ
- 第 14 回 模擬テスト－2018年の過去問を中心に
- 第 15 回 中間テストと解説
- 第 16 回 中国語検定試験4級の単語－単語の範囲
- 第 17 回 中国語検定試験4級の文法－肯定文、否定文
- 第 18 回 中国語検定試験4級のリスニング－ピンインのリスニング
- 第 19 回 中国語検定試験4級の漢字－中国語漢字と日本語漢字の違い
- 第 20 回 中国語検定試験4級の記事－読解
- 第 21 回 中国語検定試験4級の翻訳－日本語から中国語へ
- 第 22 回 模擬テスト－2017年の過去問を中心に
- 第 23 回 中国語検定試験4級の単語－単語の理解と覚え方
- 第 24 回 中国語検定試験4級の文法－疑問文、仮定文
- 第 25 回 中国語検定試験4級のリスニング－短文のリスニング
- 第 26 回 中国語検定試験4級の漢字－書き方
- 第 27 回 中国語検定試験4級の記事－作文
- 第 28 回 中国語検定試験4級の翻訳－中国語から日本語へ
- 第 29 回 模擬テスト－2018年の過去問を中心に
- 第 30 回 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

中国語検定試験準4級、4級レベルを目指して、過去の問題集や受験用の問題集を繰り返す練習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また小テストも実施する予定。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順で学ぶ中国語I改訂版』/朱捷、朱鳳/白帝社/2015/1/学内販売予定

『語順で学ぶ中国語II改訂版』/朱捷、朱鳳/白帝社/2015/1/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語講読 I

GBJ1300N0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

火曜 3限

DP3：言語力

15

外国人留学生は履修すること (留学生以外は履修できない)

稲垣 顕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 多様な文章を読み解く読解力の強化 2. 現代日本と世界を取り巻く社会事情を理解するための語彙および表現の習得 3. 日本語の自然な発話の習得 4. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、自己紹介
- 第 2 回 シャドーイング練習①『シャドーイング 日本語を話そう・中～上級編』p.24、聴解
- 第 3 回 シャドーイング練習②同p.26、文章読解①〈遺伝子組み換え〉
- 第 4 回 シャドーイング練習③同p.28、文章読解②〈生命倫理〉
- 第 5 回 キーワードネット検索・発表
- 第 6 回 シャドーイング練習④同p.30、文章読解③〈出生前診断〉
- 第 7 回 シャドーイング練習⑤同p.32、文章読解④〈遺伝子診断〉
- 第 8 回 シャドーイング練習⑥同p.46、ディスカッション〈生命倫理〉
- 第 9 回 シャドーイング練習⑦同p.48、文章読解⑤〈ジェンダーとは?〉
- 第 10 回 シャドーイング練習⑧同p.50、文章読解⑥〈ことばに焼きつけられているもの〉
- 第 11 回 シャドーイング練習⑨同p.52、文章読解⑦〈夫婦別姓〉
- 第 12 回 シャドーイング練習⑩同p.66、文章読解⑧〈草食系男子〉
- 第 13 回 シャドーイング練習⑪同p.68、ディスカッション〈ジェンダー〉
- 第 14 回 前期学習のまとめと到達度確認テスト
- 第 15 回 到達度確認テスト解答とフィードバック、後期の日本語講読Ⅱについて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 多様な新聞・雑誌・専門書・グラフ等を教材として読んでいきます。学生にはその都度資料(教材)を配布します。また、学生各自が情報収集し、それについて発表・意見交換します。テーマは主に生命倫理・「ことば」に見るジェンダーなど。 2. ほぼ毎回シャドーイング練習を行います。 3. 授業進度に合わせて適宜小テストを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学生は毎回配付資料の事前予習および授業への積極的参加が求められます。また、適宜各自の興味に沿っての情報収集(新聞・インターネットなど)を課します。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(30%)、提出課題(15%)、小テスト(25%)、到達度確認テスト(30%)に基づいて総合的に行います。遅刻3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

〔留意事項 (Other Information)〕

履修生の日本語能力、ニーズ、希望などに応じて、授業内容、順序等の変更を行うことがあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集 第4版』『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』『シャドーイング 日本語を話そう・中～上級編』『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

該当なし

日本語表現 I

GBJ1301N0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 水曜1限
 DP3: 言語力
 15
 外国人留学生は履修すること(留学生以外は履修できない)
 高岸 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語を母語としない留学生が、日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現で文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1. 現代の日本を取り巻く様々な社会事情を理解するための時事用語および表現文型の習得
- 2. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化
- 3. 提示用資料を使用した効果的なプレゼンテーションの方法の習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 口頭発表の仕方を学ぶ。『外国人留学生研究発表小論文集』(2006-2018)に掲載されている先輩留学生の調査報告書を読み、第一回口頭発表のテーマを決める。
- 第 2 回 論文の「序論・本論・結論」という構成を学ぶ。
- 第 3 回 第一回口頭発表で全員が発表する。そこで、各自が選んだ「先輩留学生が書いた調査報告書」を紹介する。
- 第 4 回 日本や他の国々の社会問題について書かれた論説文や新聞記事を読み、第二回口頭発表のテーマを決める。
- 第 5 回 選んだテーマに関連した先行研究や調査報告書をさらに収集し、それらの資料に基づき「報告書」の構想を練る。
- 第 6 回 報告書を作成する(1)。「序論」を書く。
- 第 7 回 報告書を作成する(2)。「本論」「結論」を書く。
- 第 8 回 報告書を作成する(3)。「引用の仕方」を学び、報告書の最後に「参考・引用文献」を書く。発表用資料(おもにパワーポイント)を作成する。
- 第 9 回 第二回口頭発表で「関心のあるテーマについての報告」を行う(1)。クラスメートの発表を批評する。
- 第 10 回 第二回口頭発表で「関心のあるテーマについての報告」を行う(2)。クラスメートの発表を批評する。口頭発表のフィードバックをする。
- 第 11 回 「質問紙調査票」の作り方を学ぶ。質問紙調査の実施方法、対象者、調査目的を考えて「質問紙調査計画書」を書く。
- 第 12 回 質問紙調査計画書をもとに、質問紙調査票を作成する。
- 第 13 回 ピア・ラーニングを行う(1)(ペアで、お互いの質問紙調査票に回答し合い、不備な点を指摘し合い、質問紙調査票を訂正する)。
- 第 14 回 ピア・ラーニングを行う(2)(ペアで、訂正した調査票を再び検討し合い、質問紙調査票を完成させる)。
- 第 15 回 質問紙調査票の最終チェックを行う。質問紙調査実施時に注意する点を確認する。反省とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

まず、小論文やレポートを作成するための知識や方法を学びます。そして日本の社会問題を扱った読み物を教材に精読や速読を行なうことによって、高いレベルでの長文読解力を身につけます。それらの教材から得た情報に基づきレポートを作成し、口頭発表を行ないます。さらに質問紙調査用紙を作成し、実際に質問紙調査を行ないます。

こうしたクラス活動を進めていく中で、学生たちは、発表用レポート、発表のための提示用資料、質問紙調査計画書、調査票などを、その都度設定された提出期限までに仕上げていくことが求められます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業では、自分の感じたことや思いを述べる「感想文」ではなく、客観的な根拠を提示しながら読み手を論理的に説得する「論述文」を書くことが求められます。そのため『小論文への12のステップ』『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』などのテキストの問題に取り組みながら論文の書き方の基礎から学習し、『大学生と留学生のための論文ワークブック』の「序論、本論、結びの役割と書き方」の章を参考にしながら論文形式のレポートを書きます。また効果的な口頭発表を行なうために、『アカデミック・プレゼンテーション入門』の「スライドの作り方」の章を参考に提示用資料を作成し、さらに発表内容の構成や順序を工夫する、口頭発表の練習をする、などの準備をします。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度30%、1回目の口頭発表10%、2回目の口頭発表20%、論文形式のレポート作成20%、プロジェクトワーク(質問紙調査計画書、調査票作成)20%に基づいて総合的に行います。遅刻は3回で欠席1回とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途指示

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『大学生と留学生のための論文ワークブック』/浜田麻里他著/くろしお出版/1998/9784874241271

『アカデミック・プレゼンテーション入門』/三浦香苗他著/ひつじ書房/2006/4894763370

『日本語口頭発表と討論の技術 ～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』/東海大学留学生センター口頭発表教材研究会/東海大学出版会/1995/4486013549

『小論文への12のステップ』/友松悦子著/スリーエーネットワーク/2008/9784883194889

『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』/石黒圭・筒井千絵著/スリーエーネットワーク/2009/4883195023

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他著、ひつじ書房) 2005

4894762293

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語講読 II

GBJ1350NOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 火曜3限
 DP3: 言語力
 15
 外国人留学生は履修すること(留学生以外は履修できない)
 稲垣 顕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 多様な文章を読み解く読解力の強化
2. 現代日本と世界を取り巻く社会事情を理解するための語彙および表現の習得
3. 日本語の自然な発話の習得
4. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 シャドーイング練習①『シャドーイング 日本語で話そう・中～上級編』p.70、文章読解①〈地球温暖化〉
- 第 2 回 シャドーイング練習②同p.72、文章読解②〈大気汚染〉
- 第 3 回 シャドーイング練習③同p.74、発表・意見交換①〈オゾン層の破壊〉
- 第 4 回 シャドーイング練習④同p.76、文章読解③〈廃棄物の増加〉
- 第 5 回 シャドーイング練習⑤同p.84、文章読解④〈環境破壊〉
- 第 6 回 シャドーイング練習⑥同p.86、発表・意見交換②〈森林の減少〉
- 第 7 回 シャドーイング練習⑦同p.88、文章読解⑤〈環境商品の選択〉
- 第 8 回 シャドーイング練習⑧同p.90、文章読解⑥〈気候変動締約国会議〉
- 第 9 回 シャドーイング練習⑨同p.102、発表・意見交換③〈江戸のリサイクル社会〉
- 第 10 回 シャドーイング練習⑩同p.104 発表・意見交換④〈リサイクル〉
- 第 11 回

シャドーイング練習⑪同p.106 文章読解⑦〈イヤと言う勇氣〉

第 12 回 シャドーイング練習⑫同p.108 文章読解⑧〈いじめを防ぐ 加害者と向き合おう〉

第 13 回 シャドーイング練習⑬同p.110 発表・意見交換⑤〈豊かな生活とは?〉

第 14 回 後期学習のまとめと到達度確認テスト

第 15 回 到達度確認テスト解答とフィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 多様な新聞・雑誌・専門書・グラフ等を教材として読んでいきます。学生にはその都度資料(教材)を配布します。また、学生各自が興味のあるものを情報収集し、それについて発表・意見交換します。テーマは主に環境問題、他
2. 毎回シャドーイング練習を行います。
3. 授業進度に合わせて適宜小テストを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学生は毎回配付資料の事前予習および授業への積極的参加が求められます。また、適宜各自の興味に沿っての情報収集(新聞・インターネットなど)を課します。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

出席・授業参加度(30%)、課題発表・(20%)、小テスト(20%)、到達度確認テスト(30%)に基づいて総合的に行います。遅刻3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

〔留意事項 (Other Information)〕

履修生の日本語能力、ニーズ、希望などに応じて、授業順序、内容、テーマなどの変更を行うことがあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』『シャドーイング 日本語で話そう・中～上級編』『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集 第4版』

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

該当なし

日本語表現 II

GBJ1351NOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 水曜1限
 DP3：言語力
 15
 外国人留学生は履修すること（留学生以外は履修できない）
 高岸 雅子

【科目の教育目標（Course Description）】

日本語を母語としない留学生が、日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現で発表し、文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養います。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

1. 現代の日本を取り巻く様々な社会事情を理解するための時事用語および表現文型の習得
2. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化
3. 提示用資料を使用した効果的なプレゼンテーションの方法の習得
4. 論理的で説得力のある主張の仕方、相手の話を理解し分析する聞き方、相手の意見の矛盾を発見しそれを的確に指摘する方法などの習得

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

- 第 1 回 「質問紙調査の進捗状況」の中間報告をする。質問紙調査によって得られたデータをもとに、「調査報告書」の全体の流れを考え、「報告書の構成表」を作成する。
- 第 2 回 ピア・ラーニングを行う（1）（ペアで、お互いが作った「報告書の構成表」を検討し合い、「構成表」を訂正する）。
- 第 3 回 ピア・ラーニングを行う（2）（「報告書の構成表」の訂正版を再度ペアで検討し合い、全体の流れを決める）。
- 第 4 回 調査報告書を作成する（1）（「序論」を書く）。
- 第 5 回 調査報告書を作成する（2）（「本論」を書く）。
- 第 6 回 調査報告書を作成する（3）（「結論」を書く）。
- 第 7 回 調査報告書を作成する（4）（配布用資料（レジュメ）を作成する）。質疑応答の表現を学ぶ。
- 第 8 回 調査報告書を作成する（5）（発表用資料（おもにパワーポイント）を作成する）。

- 第 9 回 第三回口頭発表の練習を行う（1）クラスメートの発表を批評する。
- 第 10 回 第三回口頭発表の練習を行う（2）口頭発表のフィードバックをする。
- 第 11 回 学内で開催予定の『外国人留学生研究発表会』において第三回口頭発表を行う。
- 第 12 回 『外国人留学生研究発表会』における第三回口頭発表のフィードバックをする。
ディベート形式の討論について学ぶ。13回目授業のディベートのテーマを「身近な問題」から選び、役割を決める。
- 第 13 回 ディベート形式の討論の練習を行う。14回目授業のディベートのテーマを「価値論題（ある考えが良いか悪いかなど価値に関する論題を議論する）」から選び、役割を決める。
- 第 14 回 ディベート形式の討論を行う（1）。15回目授業のディベートのテーマを「政策論題（政府が打ち出したある政策に賛成か反対かを議論する）」から選び、役割を決める。
- 第 15 回 ディベート形式の討論を行う（2）。反省とまとめ

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

夏期休暇中に収集した質問紙調査の結果などをもとに、調査の途中経過報告書、調査報告書を作成し、その都度設定された期限までに提出することが求められます。また作成した調査報告書をもとに発表原稿、発表資料、提示用資料を準備し、『外国人留学生研究発表会』において口頭発表を行います。ディベート形式の討論の場においては、決められたルールに従って積極的に討論に参加することが求められます。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

「口頭発表」に向けて、まず『大学生と留学生のための論文ワークブック』の『序論、本論、結びの役割と書き方』の章を参考にしながら「調査報告書」を書きます。また効果的な口頭発表を行なうために、『アカデミック・プレゼンテーション入門』の「スライドの作り方」の章を参考に提示用資料を作成し、さらに発表内容の構成や順序を工夫する、口頭発表の練習をする、などの準備をします。そして「ディベート形式の討論」に向けて、『日本語口頭発表と討論の技術～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』の「討論」の章を読んで討論の方法とルールを学びます。そしてテーマに関連した資料を探しそれをもとに自己の主張をまとめ基調演説を考え、さらに相手の基調演説や反論を予測し、その解答を考えるなどの準備をします。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

評価は、授業態度30%、調査報告書作成30%、口頭発表25%、ディベート形式の討論15%に基づいて総合的に行います。遅刻は3回で欠席1回とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途指示

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『大学生と留学生のための論文ワークブック』/浜田麻里他著/くろしお出版/1998/9784874241271

『アカデミック・プレゼンテーション入門』/三浦香苗他著/ひつじ書房/2006/4894763370

『日本語口頭発表と討論の技術～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』/東海大学留学生センター口頭発表教材研究会編/東海大学出版会/1995/4486013549

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』/大島弥生他著/ひつじ書房/2005/4894762293

『小論文への12のステップ』/友松悦子著/スリーエーネットワーク/2008/9784883194889

『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』 石黒圭・筒井千絵著、スリーエーネットワーク、2008、4883195023

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語特講Ⅰ

GBJ2300N0J

大学

共通教育科目

2年次

1単位 前期

火曜4限

DP3：言語力

15

外国人留学生は履修すること（留学生以外は履修できない）

田中 貴子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本における新聞、小説、論説など幅広い分野の文章を読んだり、テレビ、ビデオなどの教材を視聴したりして日本の文化や思想への認識を深める。発表、ディスカッションなどの学習活動を通して、日本語運用能力を自主的に身につける。同時に現代日本社会の諸問題を考察して自分の考えをまとめ、わかりやすく論理的に文章化することで書く力も養う。また、毎回、文法・語彙・漢字などの言語知識の宿題を課し、次回クイズを行う。これらを通して、日本語表現力をさらに豊かにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 講義だけでなく自主的に学習する方法を学ぶ。
2. 各テーマに沿った文献、資料、グラフなどを読んだり聞いたりする力をつける。
3. ディスカッションや発表を通じて、適切な話し方や自分の考えをまとめて書く力を身につける。
4. 日本の文化を知り、異文化に関する認識を深める。
5. 宿題およびクイズにより、さらに高度な日本語の表現を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	日本語能力を向上する努力をしない	日本語能力の向上を大切に考える	日本語能力を向上するために、自ら積極的に学ぶ	日本語能力をどのように活用できるか考え、自ら成長できる
知識・理解力	基礎的な日本語や日本に関する知識がない	大学で行う授業に最低限ついていける日本語や日本に関する知識を有する	専門的な日本語や日本に関する知識を有する	広範囲の分野における日本語や日本に関する知識を有し、深めることができる
言語力	基礎的な日本語が理解できていない	JLPT N1レベルの日本語能力を有する	ネイティブと同等程度の自然な日本語能力を有する	広範囲の日本語能力を使って発信できる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	日本語や日本に関する問題を考えようとする	日本語や日本に関する問題を解決できる	日本語や日本に関する問題点を自ら見つけ出し解決できる
共生・協働する力	授業で学んだ知識や他者の意見を参考にしない	授業で学んだ知識や他者の意見を参考にしようとする	考えた結果を他者と共有し、自分の考えを深めようとする	他の多くの情報や考えを共有し、自らの考えを発信できる
創造・発信力	自分勝手な情報発信を行う	自ら、周囲の状況を踏まえて、日本語で発信できる	自らの考えや、他者の考えを総合的に判断して日本語で発信できる	レベル3に加えて、モラルも考慮に入れ、日本語で多様な発信ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 日本語の世界
- 第 3 回 日本の文化
- 第 4 回 日本人の行動様式
- 第 5 回 言語とコミュニケーション
- 第 6 回 食生活
- 第 7 回 異文化理解
- 第 8 回 環境と人間
- 第 9 回 民話・昔話
- 第 10 回 少子高齢化社会
- 第 11 回 季節感
- 第 12 回 教育と学び

- 第 13 回 科学と技術
- 第 14 回 現代の社会
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各テーマに沿って様々な資料を読んだり、聞いたりする。
各テーマに関する考えをまとめディスカッションを行う。
内容についてのタスクや作文を行う。

言語知識 (文法・語彙・漢字など) に関するタスクおよびクイズを行う。

各回のタスクおよびクイズについて、次回に全体に対してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学生は各テーマに沿った資料を読んでくること。
言語知識の宿題を自主学習。次週の小クイズに準備することが求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、出席率、授業参加度 (30%)、提出課題 (40%)、試験 (30%) により総合的に行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

毎回、プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『留学生のためのここが大切文章表現のルール』////

『中上級学習者のための日本語読解ワークブック』//アルク//
9.784757416222E12

『上級学習者のための日本語読解ワークブック』//アルク//
9.784757419292E12

『新完全マスター日本語能力試験N1』//スリーエーネットワーク//

『インタビュープロジェクト日本人の価値観発見』//くろしお出版//

超級表現+使える名句

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

日本語学校、インターナショナルスクールにおいて留学生に対して、豊中市国際交流協会、神戸市国際交流協会において在留外国人に対する日本語教育を担当

日本語特講 II

GBJ2350N0J

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

金曜2限

DP3: 言語力

15

外国人留学生は履修すること (留学生以外は履修できない)

日比 伊奈穂

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

適切な待遇表現で話し、手紙・メールが書けるようになることを目標とする。

コミュニケーション能力を高めるための応用技術を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・状況や相手に応じて適した表現で、かつ的確な談話構成で話すことができるようになる。

・適切な表現、構成で手紙やメールが書けるようになる。

・わかりやすく的確に説明し、説得力をもって意見が言えるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 敬語

第 3 回 メール の 書き方 の 基本

第 4 回 問い合わせ

問い合わせのメールの書き方

第 5 回 依頼 (1)

口頭で依頼する

第 6 回 依頼 (2)

メールで依頼する

第 7 回 依頼 (3)

メールで依頼への返事を書く

第 8 回 申し出 (1)

口頭で申し出をする

第 9 回 申し出 (2)

口頭で申し出を受ける・断る

第 10 回 申し出 (3)

申し出へメールで返信する

第 11 回 アルバイトの面接

第 12 回 入学試験の面接

第 13 回 就職の面接 (1)

長所・短所

第 14 回 就職の面接 (2)

自己PR

第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・状況に応じた適切な表現は何かを考える。
- ・内容に応じた適切な構成はどのようなものかを考える。
- ・ロールプレイを行う。
- ・手紙・メールを書く練習を行う。
- ・課題やテストは授業内で全体、または個別に講評する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日ごろから待遇表現に気をつけて話す。

目上の人との会話、連絡などの経験を授業に生かす。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

8

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 (授業参加度等) : 40%、課題・テスト : 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

体育実技 A

GBL1100A0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 月曜 4限
 DPI : 自分を育てる力
 15
 野村 照夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心身ともに健康で豊かな生涯を送るための基礎知識を身につける。特に、健康の重要性について理解を深め、履修者自身にとってより良い健康づくりの内容と方法を習得し、運動の生活化を図ることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①人間の身体活動の基となる体力・運動能力の向上を図る。
- ②運動の生活化を図ることにより、生涯にわたる健康の土台を築く。
- ③スポーツ実習を通じて、自他を尊重する能力、中間と強力切磋琢磨し合う能力、コミュニケーション能力の向上を図る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
履修上の注意事項の確認。授業の進め方についての説明。
- 第 2 回 体力テスト
文科省新体力テストから握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こし、シャトルランを実施し、自己の体力を把握する。
- 第 3 回 テニス：ストローク
テニスの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 4 回 テニス：サーブ
テニスのストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 5 回 テニス：ゲーム
テニスのゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
- 第 6 回 ウォーキング
ウォーキングの方法を実習し、健康づくりに役立てられるようにする。
- 第 7 回 バドミントン：ストローク
バドミントンの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 8 回 バドミントン：サーブ
バドミントンのストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 9 回 バドミントン：ゲーム
バドミントンのゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
- 第 10 回 卓球：ストローク
卓球の基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 11 回 卓球：サーブ
卓球のストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 12 回 卓球：ゲーム、レポート課題
卓球のゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
自己の体力についてデータに基づく特性を考察し、健康維持増進のための方法をレポート課題により提案する。
- 第 13 回 トレーニング方法
トレーニング機器の使い方を理解し、実践する。
- 第 14 回 ストレッチと体ほぐし
トレーニングの後のストレッチと体ほぐしによって、ボディメンテナンスを行う。
- 第 15 回 まとめ、フィードバック
レポートの講評を行い、健康スポーツに関する総合的な議論を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①授業方法＝トレーニング・ストレッチ・各種スポーツの実践を中心に行う。特にトレーニングやストレッチに関しては、身体のどの部位に効果があるのかを理解した上で、普段の生活の中でも実践可能なスキルを養成する。 ②資料＝必要に応じ、随時プリントを配布する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

総合的に日常生活における運動・栄養・休養に関わる健康維持活動を実践する。スポーツ種目のルールを理解する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

受講態度・取り組み(60%)、体力・技能水準(20%)、小レポート・レポート・課題(20%)として総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ガイダンス以外は、必ず運動できる服装(トレーニングウェア、ジャージ等)に着替えて授業に参加すること。初回に欠席した場合は、教員の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

大学における健康・スポーツに関する科目担当実績あり
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

体育実技B

GBL1100B0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜4限
DPI：自分を育てる力
15
野村 晴美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心身ともに健康で豊かな生涯を送るための基礎知識を身につける。特に、健康の重要性について理解を深め、履修者自身にとってより良い健康づくりの内容と方法を習得し、運動の生活化を図ることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①人間の身体活動の基となる体力・運動能力の向上を図る。
- ②運動の生活化を図ることにより、生涯にわたる健康の土台を築く。
- ③スポーツ実習を通じて、自他を尊重する能力、中間と強力切磋琢磨し合う能力、コミュニケーション能力の向上を図る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
履修上の注意事項の確認。授業の進め方についての説明。
- 第 2 回 体力テスト
文科省新体力テストから握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こし、シャトルランを実施し、自己の体力を把握する。
- 第 3 回 テニス：ストローク
テニスの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 4 回 テニス：サーブ
テニスのストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 5 回 テニス：ゲーム
テニスのゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
- 第 6 回 ウォーキング
ウォーキングの方法を実習し、健康づくりに役立てられるようにする。
- 第 7 回 バドミントン：ストローク
バドミンントンの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 8 回 バドミントン：サーブ
バドミンントンのストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 9 回 バドミントン：ゲーム
バドミンントンのゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
- 第 10 回 卓球：ストローク
卓球の基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 11 回 卓球：サーブ
卓球のストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 12 回 卓球：ゲーム、レポート課題
卓球のゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
自己の体力についてデータに基づく特性を考察し、健康維持増進のための方法をレポート課題により提案する。
- 第 13 回 トレーニング機器の使い方と実践
トレーニング機器の使い方を理解し、実践する。
- 第 14 回 ストレッチと体ほぐし
トレーニングの後のストレッチと体ほぐしによって、ボディメンテナンスを行う。
- 第 15 回 まとめ、フィードバック
レポートの講評を行い、健康スポーツに関する総合的な議論を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①授業方法＝トレーニング・ストレッチ・各種スポーツの実践を中心に行う。特にトレーニングやストレッチに関しては、身体のだの部位に効果があるのかを理解した上で、普段の生活の中でも実践可能なスキルを養成する。 ②資料＝必要に応じ、随時プリントを配布する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

総合的に日常生活における運動・栄養・休養に関わる健康維持活動を実践する。スポーツ種目のルールを理解する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

受講態度・取り組み(60%)、体力・技能水準(20%)、小レポート・レポート・課題(20%)として総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ガイダンス以外は、必ず運動できる服装 (トレーニングウェア、ジャージ等) に着替えて授業に参加すること。初回に欠席した場合は、教員の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

大学における健康・スポーツに関する科目担当実績あり
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

健康スポーツ演習 A

GBL1150AJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

月曜3限

DPI：自分を育てる力

60

野村 照夫 野村 晴美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スポーツの講義および実践を通して、運動することの楽しさを知り、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成すること及び、自分自身の健康や体力についても理解を深め、普段の生活に役立てることが出来る能力を身に付けることを目的とする。また、他者との関わりの中で、コミュニケーション能力の向上も目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. スポーツテストにより基礎体力の測定を行い、自己の体力や健康について理解する。

2. スポーツ種目の実践により、「わかる」と「できる」の融合を目指して、各人の身体知を獲得し、運動の楽しさを味わう。

3. グループ活動を通して、他者との関わり方を学ぶ。

4. スポーツの講義を通して、「する」「みる」「支える」といった、スポーツへの様々な関わり方について理解する。

5. スポーツの講義を通して、自分自身の生活を振り返り、健康増進の意識を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

履修上の注意事項の確認。授業の進め方についての説明。

第 2 回 スポーツテスト

文科省新体力テストから握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こし、シャトルランを実施し、自己の体力を把握する。

第 3 回 テニス：ストローク

テニスの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。

第 4 回 テニス：サーブ

テニスのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。

第 5 回 テニス：ゲーム

テニスのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようになる。

第 6 回 ウォーキング

ウォーキングの方法を理解し、実践する。それを健康づくりに役立てられるようにする。

第 7 回 バドミントン：ストローク

バドミンントンの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。

第 8 回 バドミントン：サーブ

バドミンントンのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。

第 9 回 バドミントン：ゲーム

バドミンントンのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。

第 10 回 卓球：ストローク

卓球の基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。

第 11 回 卓球：サーブ

卓球のストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。

第 12 回 卓球：ゲーム、レポート課題

卓球のゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。自己の体力についてデータに基づく特性を考察し、健康維持増進のための方法をレポート課題により提案する。

- 第 13 回 トレーニング方法
トレーニング機器の使い方を理解し、目的に応じたトレーニング方法を実践する。
- 第 14 回 コンディショニング：ストレッチとからだほぐし
トレーニングの後のストレッチや体ほぐしの方法を理解し、ボディメンテナンスの重要性を知る。
- 第 15 回 スポーツと健康
演習内容の振り返りとレポート課題のフィードバックを行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1)スポーツの実技は屋外・屋内の施設を利用する。
屋外はテニスコート・グラウンド等、屋内はアリーナ・トレーニングルーム等を使用するスポーツ種目を行う。
- (2)簡単なスポーツテストを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

スポーツテストの結果を踏まえ、自らのスポーツライフを計画し、日常生活において意識的に運動やスポーツを実践すること。また、スポーツや健康に関する情報や文献等を収集し、レポート課題の参考にすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

受講態度・技能水準 (60点)、小レポート・レポート・課題 (40点) として総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

オリエンテーション以外は、必ず運動できる服装 (トレーニングウェア、ジャージ等) に着替えて授業に参加すること。初回に欠席した場合は、教員の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

大学における健康・スポーツに関する科目担当実績あり
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

健康スポーツ演習 B

GBL1150BOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

月曜 3限

DP1：自分を育てる力

60

野村 照夫 野村 晴美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スポーツの講義および実践を通して、運動することの楽しさを知り、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成すること及び、自分自身の健康や体力についても理解を深め、普段の生活に役立てることが出来る能力を身に付けることを目的とする。また、他者との関わりの中で、コミュニケーション能力の向上も目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. スポーツテストにより基礎体力の測定を行い、自己の体力や健康について理解する。
2. スポーツ種目の実践により、「わかる」と「できる」の融合を目指して、各人の身体知を獲得し、運動の楽しさを味わう。
3. グループ活動を通して、他者との関わり方を学ぶ。
4. スポーツの講義を通して、「する」「みる」「支える」といった、スポーツへの様々な関わり方について理解する。
5. スポーツの講義を通して、自分自身の生活を振り返り、健康増進の意識を高める。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
履修上の注意事項の確認。授業の進め方についての説明。
- 第 2 回 スポーツテスト
文科省新体力テストから握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こし、シャトルランを実施し、自己の体力を把握する。
- 第 3 回 テニス：ストローク
テニスの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。
- 第 4 回 テニス：サーブ
テニスのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。
- 第 5 回 テニス：ゲーム
テニスのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。

- 第 6 回 ウォーキング
ウォーキングの方法を理解し、実践する。それを健康づくりに役立てられるようにする。
- 第 7 回 バドミントン：ストローク
バドミントンの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。
- 第 8 回 バドミントン：サーブ
バドミントンのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。
- 第 9 回 バドミントン：ゲーム
バドミントンのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。
- 第 10 回 卓球：ストローク
卓球の基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。
- 第 11 回 卓球：サーブ
卓球のストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。
- 第 12 回 卓球：ゲーム、レポート課題
卓球のゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。自己の体力についてデータに基づく特性を考察し、健康維持増進のための方法をレポート課題により提案する。
- 第 13 回 トレーニング方法
トレーニング機器の使い方を理解し、目的に応じたトレーニング方法を実践する。
- 第 14 回 コンディショニング：ストレッチとからだほぐし
トレーニングの後のストレッチや体ほぐしの方法を理解し、ボディメンテナンスの重要性を知る。
- 第 15 回 スポーツと健康
演習内容の振り返りとレポート課題のフィードバックを行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1)スポーツの実技は屋外・屋内の施設を利用する。
屋外はテニスコート・グラウンド等、屋内はアリーナ・トレーニングルーム等を使用するスポーツ種目を行う。

(2)簡単なスポーツテストを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

スポーツテストの結果を踏まえ、自らのスポーツライフを計画し、日常生活において意識的に運動やスポーツを実践すること。また、スポーツや健康に関する情報や文献等を収集し、レポート課題の参考にすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

受講態度・技能水準 (60点)、小レポート・レポート・課題 (40点) として総合的に評価する。全体に対して15回目にフィードバックする

〔留意事項 (Other Information)〕

オリエンテーション以外は、必ず運動できる服装 (トレーニングウェア、ジャージ等) に着替えて授業に参加すること。初回に欠席した場合は、教員の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

大学における健康・スポーツに関する科目担当実績あり
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

健康スポーツ演習C

GBL1150C0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

金曜1限

DP1：自分を育てる力

60

住本 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スポーツの講義および実践を通して、運動することの楽しさを知り、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成すること及び、自分自身の健康や体力についても理解を深め、普段の生活に役立てることが出来る能力を身に付けることを目的とする。また、他者との関わりの中で、コミュニケーション能力の向上も目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. スポーツテストにより基礎体力の測定を行い、自己の体力や健康について理解する。
2. スポーツ種目の実践により、「わかる」と「できる」の融合を目指して、各人の身体知を獲得し、運動の楽しさを味わう。
3. グループ活動を通して、他者との関わり方を学ぶ。
4. スポーツの講義を通して、「する」「みる」「支える」といった、スポーツへの様々な関わり方について理解する。
5. スポーツの講義を通して、自分自身の生活を振り返り、健康増進の意識を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 スポーツテスト（握力、反復横とび、上体起こしなどを測定）
- 第 3 回 スポンジテニス：ストローク
- 第 4 回 スポンジテニス：サーブ
- 第 5 回 テニス：ストローク
- 第 6 回 テニス：サーブ
- 第 7 回 テニス：ゲーム（シングルス）
- 第 8 回 テニス：ゲーム（ダブルス）
- 第 9 回 卓球：基礎
- 第 10 回 卓球：ゲーム
- 第 11 回 バドミントン：基礎
- 第 12 回 バドミントン：ゲーム
- 第 13 回 フィットネス：Gボールや小さいボールを使った運動
- 第 14 回 これからの健康づくりに関する講義
- 第 15 回 スポーツと健康：まとめとレポート課題

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)スポーツの実技は屋外・屋内の施設を利用する。屋外はテニスコート・グラウンド等、屋内はアリーナ・トレーニングルーム等を使用するスポーツ種目を行う。
- (2)簡単なスポーツテストを行う。
- (3)レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
- (4)最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
- (5)1回～15回のすべての授業を通して、固定したグループ（学科混合）で行う可能性がある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

スポーツテストの結果を踏まえ、自らのスポーツライフを計画し、日常生活において意識的に運動やスポーツを実践すること。また、スポーツや健康に関する情報や文献等を収集し、レポート課題の参考にすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

受講態度・積極性などの運動に取り組む姿勢（70点）、小レポート・レポート（30点）として総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

実技の回は、必ず運動できる服装（トレーニングウェア、ジャージ等）に着替えて活動に参加すること。初回到欠席した場合は、教員の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

体育講義

GBL1151N0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期集中

その他

DP1：自分を育てる力

30

全7.5コマ

住本 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「健康」について、心とからだの両面からの理解を深め、自らのからだを具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」的要素から学ぶ。またスポーツや体育の原理・原則について理解することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・現代の健康に関する問題について理解する。
- ・スポーツや運動の実践が身体・精神に与える影響について理解する。
- ・日常生活にスポーツ、運動をどのように取り入れるかについて考察する。
- ・発育発達と発達段階に応じたトレーニングについて理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 現代生活における健康、スポーツ、学校体育の諸問題
- 第 2 回 運動と健康
- 第 3 回 健康と栄養（ウエイトコントロール）
- 第 4 回 スポーツ、運動と心理（ストレス等）
- 第 5 回 子どもの発育・発達と健康
- 第 6 回 体育と指導者（コーチングとティーチング）
- 第 7 回 スポーツとジェンダー、女性の健康
- 第 8 回 (45分)：スポーツとビジネス、メディア
- 第 9 回 テストと解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションを中心に展開する。
- ・資料については、授業中に適宜配布する。
- ・manabaやresponを使用し、授業を進行する。
- ・テスト後にテストに関するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・日常生活における、自己の健康に目を向けておく。
- ・初回の授業で、すべての講義資料を配布するので、次時

の講義資料の事前問題を解いてくる。事前問題を解くにあたり、インターネットやTV、新聞等のメディアを利用する。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

8

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、受講態度 (20点) テスト (60点)、小レポート (20点) として総合評価を行う。原則、すべての講義に出席することを求める。合計得点が60点に満たない場合、単位認定には至らない。

〔留意事項 (Other Information)〕

積極的にディスカッションやその他の作業に取り組むこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『教養としての体育原理』/友添秀則・岡出美則編著/大修館書店//

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I A

GBL1400A0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜 5限
DP4 : 思考・解決力
15
必修 クラス指定
吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作 (パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など) や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作 (文書作成、ファイル管理、印刷方法など) を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成 (データの分析と考察、含) や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・情報モラルに関する理解 (情報の信憑性と知的財産権の保護)
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解

- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
 - ・研究活動推進のためのE-Mail・WWWの利用
 - ・タッチタイピングの習得
 - ・論文作成のための日本語文書作成
 - ・論文作成 (特に、データの分析と考察) のための表計算ソフトの活用
 - ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
 - ・ファイル管理・フォルダの概念の理解
- 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書 (基本的な関数、グラフの利用も含) を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使っ	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれ	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書 (ア	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在に

	た文書を作成できない	ば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	ニメーションの設定も含)を作成することができる	プレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含み、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス、入力の基礎、ファイル管理、タイピング練習
- 第 2 回 E-Mail (Active!mail) の利用、WWW検索 (基本的な情報検索)、情報モラル
- 第 3 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1) (基本的な文書を作成する方法)
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2) (効果的に表を作成する方法)
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(3) (画像や図形などを使った表現力をアップする機能)
- 第 6 回

- 表計算ソフトの基本操作(1) (基本操作、数式の入力、表の作成方法)
- 第 7 回
- 表計算ソフトの基本操作(2) (基本的な関数、グラフ作成)
- 第 8 回
- 表計算ソフトの基本操作の総復習 (データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門)
- 第 9 回
- 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
～図書館を活用しよう～ (OPACの利用・文献探索・データベース活用法など)
- 第 10 回
- プレゼンテーションソフトの基本操作(1) (レイアウト、デザイン、特殊効果など)
- 第 11 回
- プレゼンテーションソフトの基本操作(2) (印刷方法など)
- 第 12 回
- 日本語文書作成ソフトの応用操作(1) (レポートや論文の作成に役立つ機能<1>など)
- 第 13 回
- 日本語文書作成ソフトの応用操作(2) (レポートや論文の作成に役立つ機能<2>など)
- 第 14 回
- 日本語文書作成ソフトの総復習 (タイピングと総復習)
- 第 15 回
- 実技確認テストとまとめ (実技確認テストの終了後に講評)
- 【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】
- 実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

情報演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

第9回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検 (ICTプロフィシエンシー検定) の3級以上、もしくは MOS (Microsoft Office Specialist) の2科目以上 (Wordと もう1科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016対応)』/FOM/FOM出版/2016/978-4-86510-347-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I B

GBL1400B0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 月曜 5限
 DP4 : 思考・解決力
 15
 必修 クラス指定
 吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作 (パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など) や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作 (文書作成、ファイル管理、印刷方法など) を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成 (デ

ータの分析と考察、含) や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・情報モラルに関する理解 (情報の信憑性と知的財産権の保護)
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mail・WWWの利用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成 (特に、データの分析と考察) のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成す	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書 (基本的な関数、グラフの利用も	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用す

		ることが できる	含)を作成 することが できる	ることが できる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書(アニメーションの設定も含)を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

第 1 回

ガイダンス、入力の基礎、ファイル管理、タイピング練習

第 2 回

E-Mail (Active!mail) の利用、WWW検索 (基本的な情報検索)、情報モラル

第 3 回

日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
(基本的な文書を作成する方法)

第 4 回

- 日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
(効果的に表を作成する方法)
- 第 5 回
- 日本語文書作成ソフトの基本操作(3)
(画像や図形などを使った表現力をアップする機能)
- 第 6 回
- 表計算ソフトの基本操作(1)
(基本操作、数式の入力、表の作成方法)
- 第 7 回
- 表計算ソフトの基本操作(2)
(基本的な関数、グラフ作成)
- 第 8 回
- 表計算ソフトの基本操作の総復習
(データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門)
- 第 9 回
- 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
～図書館を活用しよう～
(OPACの利用・文献探索・データベース活用法など)
- 第 10 回
- プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
(レイアウト、デザイン、特殊効果など)
- 第 11 回
- プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
(印刷方法など)
- 第 12 回
- 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
(レポートや論文の作成に役立つ機能<1>など)
- 第 13 回
- 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
(レポートや論文の作成に役立つ機能<2>など)
- 第 14 回
- 日本語文書作成ソフトの総復習
(タイピングと総復習)
- 第 15 回
- 実技確認テストとまとめ
(実技確認テストの終了後に講評)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

情報演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

第9回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検 (ICTプロフィシエンシー検定) の3級以上、もしくはMOS (Microsoft Office Specialist) の2科目以上 (Wordともう1科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016対応)』/FOM/FOM出版/2016/978-4-86510-347-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I C

GBL1400C0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
火曜 5限
DP4 : 思考・解決力
15
必修 クラス指定
吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作 (パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など) や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作 (文書作成、ファイル管理、印刷方法など) を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要

不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成 (データの分析と考察、含) や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・情報モラルに関する理解 (情報の信憑性と知的財産権の保護)
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mail・WWWの利用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成 (特に、データの分析と考察) のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる

表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含み、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

第 1 回

ガイダンス、入力の基礎、ファイル管理、タイピング練習

第 2 回

E-Mail (Active!mail) の利用、WWW検索 (基本的な情報検索)、情報モラル

第 3 回

日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
(基本的な文書を作成する方法)

第 4 回

日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
(効果的に表を作成する方法)

第 5 回

日本語文書作成ソフトの基本操作(3)
(画像や図形などを使った表現力をアップする機能)

第 6 回

表計算ソフトの基本操作(1)
(基本操作、数式の入力、表の作成方法)

第 7 回

表計算ソフトの基本操作(2)
(基本的な関数、グラフ作成)

第 8 回

表計算ソフトの基本操作の総復習
(データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門)

第 9 回

大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
～図書館を活用しよう～
(OPACの利用・文献探索・データベース活用など)

第 10 回

プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
(レイアウト、デザイン、特殊効果など)

第 11 回

プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
(印刷方法など)

第 12 回

日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
(レポートや論文の作成に役立つ機能<1>など)

第 13 回

日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
(レポートや論文の作成に役立つ機能<2>など)

第 14 回

日本語文書作成ソフトの総復習
(タイピングと総復習)

第 15 回

実技確認テストとまとめ
(実技確認テストの終了後に講評)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

情報演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと（テーマは事前に授業内で提示）。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度（実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）(40%)、提出課題（20%）、実技確認テスト（40%）の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

第9回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくはMOS（Microsoft Office Specialist）の2科目以上（Wordともう1科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016対応)』/FOM/FOM出版/2016/978-4-86510-347-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I D

GBL1400D0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

火曜 5限

DP4：思考・解決力

15

必修 クラス指定

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mail・WWWの利用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる

タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含め）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含め）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる

パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。
----------------	--------------------	-------------------------------------------------------	-------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------

【授業計画】

- 第 1 回
ガイダンス、入力の基礎、ファイル管理、タイピング練習
- 第 2 回
E-Mail (Active!mail) の利用、WWW検索 (基本的な情報検索)、情報モラル
- 第 3 回
日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
(基本的な文書を作成する方法)
- 第 4 回
日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
(効果的に表を作成する方法)
- 第 5 回
日本語文書作成ソフトの基本操作(3)
(画像や図形などを使った表現力をアップする機能)
- 第 6 回
表計算ソフトの基本操作(1)
(基本操作、数式の入力、表の作成方法)
- 第 7 回
表計算ソフトの基本操作(2)
(基本的な関数、グラフ作成)
- 第 8 回
表計算ソフトの基本操作の総復習
(データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門)
- 第 9 回
大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
～図書館を活用しよう～
(OPACの利用・文献探索・データベース活用法など)
- 第 10 回
プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
(レイアウト、デザイン、特殊効果など)
- 第 11 回

プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
(印刷方法など)

第 12 回

日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
(レポートや論文の作成に役立つ機能<1>など)

第 13 回

日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
(レポートや論文の作成に役立つ機能<2>など)

第 14 回

日本語文書作成ソフトの総復習
(タイピングと総復習)

第 15 回

実技確認テストとまとめ
(実技確認テストの終了後に講評)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
情報演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕
第9回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することができる。

P検 (ICTプロフィシエンシー検定) の3級以上、もしくは MOS (Microsoft Office Specialist) の2科目以上 (Wordともう1科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
なし。プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016対応)』/FOM/FOM出版/2016/978-4-86510-347-2

〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I E

GBL1400E0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
金曜5限
DP4: 思考・解決力
15
必修 クラス指定
吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作 (パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など) や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作 (文書作成、ファイル管理、印刷方法など) を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成 (データの分析と考察、含) や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・情報モラルに関する理解 (情報の信憑性と知的財産権の保護)
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mail・WWWの利用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成 (特に、データの分析と考察) のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書(基本的な関数、グラフの利用も含)を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書(アニメーションの設定も含)を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる

Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書き送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含み、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回
ガイダンス、入力の基礎、ファイル管理、タイピング練習
- 第 2 回
E-Mail (Active!mail) の利用、WWW検索 (基本的な情報検索)、情報モラル
- 第 3 回
日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
(基本的な文書を作成する方法)
- 第 4 回
日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
(効果的に表を作成する方法)
- 第 5 回
日本語文書作成ソフトの基本操作(3)
(画像や図形などを使った表現力をアップする機能)
- 第 6 回
表計算ソフトの基本操作(1)
(基本操作、数式の入力、表の作成方法)
- 第 7 回
表計算ソフトの基本操作(2)
(基本的な関数、グラフ作成)
- 第 8 回

表計算ソフトの基本操作の総復習
(データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門)

第 9 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
～図書館を活用しよう～
(OPACの利用・文献探索・データベース活用法など)

第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
(レイアウト、デザイン、特殊効果など)

第 11 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
(印刷方法など)

第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
(レポートや論文の作成に役立つ機能<1>など)

第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
(レポートや論文の作成に役立つ機能<2>など)

第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習
(タイピングと総復習)

第 15 回 実技確認テストとまとめ
(実技確認テストの終了後に講評)

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】
実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】
情報演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】
復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】
15

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】
授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

【留意事項 (Other Information)】
第9回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検 (ICTプロフィシエンシー検定) の3級以上、もしくは

は MOS (Microsoft Office Specialist) の2科目以上 (Wordと
もう1科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定
を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位
認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添え
て、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務
課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起
算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、こ
れらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受け
ることを選択することも可能であり、その場合は、評価の
点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には
「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない)。
【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)】
なし。プリントを配布する。
【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】
『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office
2016対応)』/FOM/FOM出版/2016/978-4-86510-347-2
【参考URL(URL for Reference)】
【実務経験のある教員による実践的科目】

情報演習 I F

GBL1400F0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
月曜 5限
DP4 : 思考・解決力
15
必修 クラス指定
吉田 智子

【科目の教育目標 (Course Description)】

コンピュータシステムの基本的な操作 (パスワード変更、
電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など) や、レ
ポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作 (文書
作成、ファイル管理、印刷方法など) を習得する。これら
は、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、
文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要
不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不
可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッ
チタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフ
ト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒
業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成 (デ
ータの分析と考察、含) や論文発表に使えるレベルを、実
習を通して実践的に身につける。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ・情報モラルに関する理解 (情報の信憑性と知的財産権の保護)
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解

- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mail・WWWの利用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含め）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる

プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含め）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回
ガイダンス、入力の基礎、ファイル管理、タイピング練習
- 第 2 回
E-Mail (Active!mail) の利用、WWW検索 (基本的な情報検索)、情報モラル
- 第 3 回
日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
(基本的な文書を作成する方法)
- 第 4 回
日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
(効果的に表を作成する方法)
- 第 5 回

	日本語文書作成ソフトの基本操作(3) (画像や図形などを使った表現力をアップする機能)
第 6 回	表計算ソフトの基本操作(1) (基本操作、数式の入力、表の作成方法)
第 7 回	表計算ソフトの基本操作(2) (基本的な関数、グラフ作成)
第 8 回	表計算ソフトの基本操作の総復習 (データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門)
第 9 回	大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用 ～図書館を活用しよう～ (OPACの利用・文献探索・データベース活用方法など)
第 10 回	プレゼンテーションソフトの基本操作(1) (レイアウト、デザイン、特殊効果など)
第 11 回	プレゼンテーションソフトの基本操作(2) (印刷方法など)
第 12 回	日本語文書作成ソフトの応用操作(1) (レポートや論文の作成に役立つ機能<1>など)
第 13 回	日本語文書作成ソフトの応用操作(2) (レポートや論文の作成に役立つ機能<2>など)
第 14 回	日本語文書作成ソフトの総復習 (タイピングと総復習)
第 15 回	実技確認テストとまとめ (実技確認テストの終了後に講評)
	〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕 実施しない
	〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕 情報演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。
	〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕 復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。
	〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

第9回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検 (ICTプロフィシエンシー検定) の3級以上、もしくは MOS (Microsoft Office Specialist) の2科目以上 (Wordと もう1科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016対応)』/FOM/FOM出版/2016/978-4-86510-347-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I G

GBL1400G0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜 5限

DP4 : 思考・解決力

15

必修 クラス指定

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作 (パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など) や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作 (文書作成、ファイル管理、印刷方法など) を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッ

チタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）

- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mail・WWWの利用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる

表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

第 1 回

ガイダンス、入力の基礎、ファイル管理、タイピング練習

- 第 2 回 E-Mail (Active!mail) の利用、WWW検索 (基本的な情報検索)、情報モラル
- 第 3 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1) (基本的な文書を作成する方法)
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2) (効果的に表を作成する方法)
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(3) (画像や図形などを使った表現力をアップする機能)
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1) (基本操作、数式の入力、表の作成方法)
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2) (基本的な関数、グラフ作成)
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作の総復習 (データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門)
- 第 9 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
～図書館を活用しよう～
(OPACの利用・文献探索・データベース活用法など)
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1) (レイアウト、デザイン、特殊効果など)
- 第 11 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2) (印刷方法など)
- 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1) (レポートや論文の作成に役立つ機能<1>など)
- 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2) (レポートや論文の作成に役立つ機能<2>など)
- 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習 (タイピングと総復習)
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ (実技確認テストの終了後に講評)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

情報演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

第9回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検 (ICTプロフィシエンシー検定) の3級以上、もしくは MOS (Microsoft Office Specialist) の2科目以上 (Wordと もう1科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016対応)』/FOM/FOM出版/2016/978-4-86510-347-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I H

GBL1400H0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 火曜 5限
 DP4：思考・解決力
 15
 必修 クラス指定
 吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作 (パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など) や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作 (文書作成、ファイル管理、印刷方法など) を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成 (データの分析と考察、含) や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・情報モラルに関する理解 (情報の信憑性と知的財産権の保護)
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mail・WWWの利用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成 (特に、データの分析と考察) のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる

タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書 (基本的な関数、グラフの利用も含) を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書 (アニメーションの設定も含) を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる

パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含み、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。
----------------	--------------------	-------------------------------------------------------	-------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、入力の基礎、ファイル管理、タイピング練習
- 第 2 回 E-Mail (Active!mail) の利用、WWW検索 (基本的な情報検索)、情報モラル
- 第 3 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1) (基本的な文書を作成する方法)
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2) (効果的に表を作成する方法)
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(3) (画像や図形などを使った表現力をアップする機能)
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1) (基本操作、数式の入力、表の作成方法)
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2) (基本的な関数、グラフ作成)
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作の総復習 (データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門)
- 第 9 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
～図書館を活用しよう～
(OPACの利用・文献探索・データベース活用法など)
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1) (レイアウト、デザイン、特殊効果など)
- 第 11 回

- プレゼンテーションソフトの基本操作(2) (印刷方法など)
 - 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1) (レポートや論文の作成に役立つ機能<1>など)
 - 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2) (レポートや論文の作成に役立つ機能<2>など)
 - 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習 (タイピングと総復習)
 - 第 15 回 実技確認テストとまとめ (実技確認テストの終了後に講評)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

情報演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

第9回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検 (ICTプロフィシエンシー検定) の3級以上、もしくは MOS (Microsoft Office Specialist) の2科目以上 (Wordと もう1科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない)。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

なし。プリントを配布する。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『情報リテラシー アプリ編<改訂版>(Windows 10・Office 2016対応)』/FOM/FOM出版/2016/978-4-86510-347-2

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

情報演習 I J

GBL1400JOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 火曜 5限
 DP4 : 思考・解決力
 15
 必修 クラス指定
 吉田 智子

[科目の教育目標 (Course Description)]

コンピュータシステムの基本的な操作 (パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など) や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作 (文書作成、ファイル管理、印刷方法など) を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成(データの分析と考察、含)や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- ・情報モラルに関する理解 (情報の信憑性と知的財産権の保護)
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mail・WWWの利用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成 (特に、データの分析と考察) のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書(基本的な関数、グラフの利用も含)を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書(アニメーションの設定も含)を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索シ	Webによる情報収集や蔵書検索シ	例題どおりの操作であれば、操作	例題で紹介された操作を応用させ	自分の書きたいレポートや論文に

システムの利用	システムの利用ができない	マニュアルの指示を参考に、利用することができる	て、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回
ガイダンス、入力の基礎、ファイル管理、タイピング練習
- 第 2 回
E-Mail (Active!mail) の利用、WWW検索 (基本的な情報検索)、情報モラル
- 第 3 回
日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
(基本的な文書を作成する方法)
- 第 4 回
日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
(効果的に表を作成する方法)
- 第 5 回
日本語文書作成ソフトの基本操作(3)
(画像や図形などを使った表現力をアップする機能)
- 第 6 回
表計算ソフトの基本操作(1)
(基本操作、数式の入力、表の作成方法)
- 第 7 回
表計算ソフトの基本操作(2)
(基本的な関数、グラフ作成)
- 第 8 回
表計算ソフトの基本操作の総復習
(データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門)

- 第 9 回
大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
～図書館を活用しよう～
(OPACの利用・文献探索・データベース活用法など)
- 第 10 回
プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
(レイアウト、デザイン、特殊効果など)
- 第 11 回
プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
(印刷方法など)
- 第 12 回
日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
(レポートや論文の作成に役立つ機能<1>など)
- 第 13 回
日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
(レポートや論文の作成に役立つ機能<2>など)
- 第 14 回
日本語文書作成ソフトの総復習
(タイピングと総復習)
- 第 15 回
実技確認テストとまとめ
(実技確認テストの終了後に講評)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

情報演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

第9回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検 (ICTプロフィシエンシー検定) の3級以上、もしくは MOS (Microsoft Office Specialist) の2科目以上 (Wordと もう1科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位

認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016対応)』/FOM/FOM出版/2016/978-4-86510-347-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I K

GBL1400K0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 金曜 5限
 DP4: 思考・解決力
 15
 必修 クラス指定
 吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mail・WWWの利用

- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作

		に、作成することができ	ることができる	することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含み、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス、入力の基礎、ファイル管理、タイピング練習
- 第 2 回 E-Mail (Active!mail) の利用、WWW検索 (基本的な情報検索)、情報モラル
- 第 3 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1) (基本的な文書を作成する方法)
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2) (効果的に表を作成する方法)
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(3) (画像や図形などを使った表現力をアップする機能)
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1) (基本操作、数式の入力、表の作成方法)
- 第 7 回

- 表計算ソフトの基本操作(2) (基本的な関数、グラフ作成)
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作の総復習 (データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門)
- 第 9 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用 ~図書館を活用しよう~ (OPACの利用・文献探索・データベース活用方法など)
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1) (レイアウト、デザイン、特殊効果など)
- 第 11 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2) (印刷方法など)
- 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1) (レポートや論文の作成に役立つ機能<1>など)
- 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2) (レポートや論文の作成に役立つ機能<2>など)
- 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習 (タイピングと総復習)
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ (実技確認テストの終了後に講評)
- 【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】
- 実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

情報演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

【留意事項 (Other Information)】

第9回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更

することがある。

P検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくはMOS（Microsoft Office Specialist）の2科目以上（Wordともう1科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016対応)』/FOM/FOM出版/2016/978-4-86510-347-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文章表現法 A

GBL1450A0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 後期
水曜3限
DP4：思考・解決力
60
定員50人
田丸 歩実

〔科目の教育目標（Course Description）〕

大学の授業で課されるレポート・論文とは何かを知り、よりよいレポートが書けるようになることを目指す。学術的な文章を「読む」トレーニングと同時に、アカデミックライティングの基本的な構成について学びながら「書く」トレーニングをすることで、文章を書く自信をつける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1) レポートを書く上で必要な言語能力（語彙力、文章構成力など）を養う
- 2) 他者の文章の論点を理解し、自分の言葉で要約できるようになる
- 3) 無断引用などをせず、文献を適切な形式で利用できるようになる
- 4) 自分の考えを発展させ、適切に表現する力を身につける

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

言語力	レポートにふさわしい表現を用いることができない	正しい書き言葉を用いることができる	文と文の論理関係を明確にし、文章全体の構造を意識しながら書ける	論文やプレゼンテーションなど様々な文章表現に構造があることを理解し、実践できる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	論理的文章を読み、著者の論点を理解できる	著者の主張と根拠を理解し、それに対して自分なりの考えをもつことができる	他者の文章を批判的に読み、適切な問いを立てることで自らの考えを発展させることができる
共生・協働する力	他者の主張を無断引用する	他者の主張と自らの意見を区別できる	他者の主張やデータを、ルールに則った形で引用できる	他者の主張を適切に引用し、自らの主張を効果的に論じることができる
創造・発信力	体裁や書式のルールを守ることができない	体裁や書式のルールがあることを理解し、それに従おうとする	体裁や書式がきちんと整った文書を作成できる	場面に応じて必要な体裁や書式を選択でき、読み手や聞き手を意識したフォーマットで文書を作成できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
文章の種類と特徴、文章表現の決まりごとについて学ぶ
- 第 2 回 論理的文章の文章構成
レポート・論文の構造を学ぶ
- 第 3 回 論理的文章の読解
メモをとりながら読む、論点を簡条書きにする
- 第 4 回 論理的文章の分解
問いと答えを見つける、主張と根拠を見分ける
- 第 5 回 要約の書き方
簡条書きから文章にする、他者の主張を自分の言葉でまとめる
- 第 6 回 語彙と文体
書き言葉と話し言葉の違いを知る、レポートにふさわしい表現に直す
- 第 7 回 要約の練習
著者の主張と根拠をまとめる、文字数に応じて情報の量を加減する
※授業終了後に要約課題の提出
- 第 8 回 リサーチ・クエスチョンの立て方

- 要約課題のフィードバックと期末レポート課題の説明、適切な問題提起とは何かを考える
- 第 9 回 批評の仕方
著者の主張を批評する、自分の意見をもつ
- 第 10 回 情報の集め方
図書館・インターネットの利用方法、情報の取捨選択
- 第 11 回 パラグラフ・ライティングの導入
パラグラフの構造を知る、自分でもパラグラフを書く
- 第 12 回 パラグラフ・ライティングの練習
パラグラフを書くことに親しむ
- 第 13 回 序論と結論の執筆
序論と結論の構造を知る、レポート課題に沿った序論と結論を書く
- 第 14 回 引用のルール・参考文献リストの書き方
無断引用にならない引用の仕方を学ぶ、参考文献リストの書き方を練習する
- 第 15 回 推敲と体裁の確認
ピアレビューを通しレポートの推敲をする
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目では、講義によって文章表現の基本的なルールを解説するとともに、学生自らが「読む」「書く」トレーニングを行う時間を多く設ける。内容によっては授業時間外に取り組むべき課題も数回実施する予定である。7回目の講義が終了した時点で要約課題を提出してもらい、次の講義でフィードバックを行う。最終試験として予定しているレポート課題では、講義内容を活用して論理的文章が書いているかを見る。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回配布プリントを用いて授業を進めるため、基本的に予習は必要ないが、配布プリントと板書内容の復習を必ずした上で翌回の授業に参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

積極性 (30%)、課題などの提出物 (40%)、期末レポート (30%) から評価を算出する。全授業回数の2/3以上の出席と、最終課題である期末レポートの提出が単位取得の条件となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

- 1) ガイダンスをおこなうため、初回の授業から参加すること
- 2) 授業内で資料を配付する
- 3) 授業計画は、実際の授業の状況に応じて順序を変えることがあるので留意されたい

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

基本的に、授業中に配るプリントやスライドなどを使って授業を進める。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ21のワーク』/ 桑田てるみ (編) / 実教出版 / 2015 / 9784407336146

『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』/ 石井一成 / ナツメ社 / 2011 / 9784816350573

『この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』/ 石黒圭 / 日本実業出版社 / 2012 / 9784534049278

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文章表現法 B

GBL1450BOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

水曜 3限

DP4：思考・解決力

60

定員50人

田丸 歩実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学の授業で課されるレポート・論文とは何かを知り、よりよいレポートが書けるようになることを目指す。学術的な文章を「読む」トレーニングと同時に、アカデミックライティングの基本的な構成について学びながら「書く」トレーニングをすることで、文章を書く自信をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) レポートを書く上で必要な言語能力 (語彙力、文章構成力など) を養う
 - 2) 他者の文章の論点を理解し、自分の言葉で要約できるようになる
 - 3) 無断引用などをせず、文献を適切な形式で利用できるようになる
 - 4) 自分の考えを発展させ、適切に表現する力を身につける
- 〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	レポートにふさわしい表現を用いることができない	正しい書き言葉を用いることができる	文と文の論理関係を明確にし、文章全体の構造を意識しながら書ける	論文やプレゼンテーションなど様々な文章表現に構造があることを理解し、実践できる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	論理的文章を読み、著者の論点を理解できる	著者の主張と根拠を理解し、それに対して自分なりの考	他者の文章を批判的に読み、適切な問いを立てることで自らの考え

			えをもつことができる	を發展させることができる
共生・協働する力	他者の主張を無断引用する	他者の主張と自らの意見を区別できる	他者の主張やデータやルールに則った形で引用できる	他者の主張を適切に引用し、自らの主張を効果的に論じることができる
創造・発信力	体裁や書式のルールを守ることができない	体裁や書式のルールがあることを理解し、それに従おうとする	体裁や書式がきちんと整った文書を作成できる	場面に応じて必要な体裁や書式を選択でき、読み手や聞き手を意識したフォーマットで文書を作成できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
文章の種類と特徴、文章表現の決まりごとについて学ぶ
- 第 2 回 論理的文章の文章構成
レポート・論文の構造を学ぶ
- 第 3 回 論理的文章の読解
メモをとりながら読む、論点を簡条書きにする
- 第 4 回 論理的文章の分解
問いと答えを見つける、主張と根拠を見分ける
- 第 5 回 要約の書き方
簡条書きから文章にする、他者の主張を自分の言葉でまとめる
- 第 6 回 語彙と文体
書き言葉と話し言葉の違いを知る、レポートにふさわしい表現に直す
- 第 7 回 要約の練習
著者の主張と根拠をまとめる、文字数に応じて情報の量を加減する
※授業終了後に要約課題の提出
- 第 8 回 リサーチ・クエスチョンの立て方
要約課題のフィードバックと期末レポート課題の説明、適切な問題提起とは何かを考える
- 第 9 回 批評の仕方
著者の主張を批評する、自分の意見をもつ
- 第 10 回 情報の集め方
図書館・インターネットの利用方法、情報の取捨選択
- 第 11 回 パラグラフ・ライティングの導入
パラグラフの構造を知る、自分でもパラグラフを書く
- 第 12 回 パラグラフ・ライティングの練習
パラグラフを書くことに親しむ
- 第 13 回 序論と結論の執筆

序論と結論の構造を知る、レポート課題に沿った序論と結論を書く

第 14 回 引用のルール・参考文献リストの書き方
無断引用にならない引用の仕方を学ぶ、参考文献リストの書き方を練習する

第 15 回 推敲と体裁の確認
ピアレビューを通しレポートの推敲をする

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目では、講義によって文章表現の基本的なルールを解説するとともに、学生自らが「読む」「書く」トレーニングを行う時間を多く設ける。内容によっては授業時間外に取り組むべき課題も数回実施する予定である。7回目の講義が終了した時点で要約課題を提出してもらい、次の講義でフィードバックを行う。最終試験として予定しているレポート課題では、講義内容を活用して論理的文章が書けているかをみる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回配布プリントを用いて授業を進めるため、基本的に予習は必要ないが、配布プリントと板書内容の復習を必ずした上で翌回の授業に参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

積極性 (30%)、課題などの提出物 (40%)、期末レポート (30%) から評価を算出する。全授業回数数の2/3以上の出席と、最終課題である期末レポートの提出が単位取得の条件となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

- 1) ガイダンスをおこなうため、初回の授業から参加すること
- 2) 授業内で資料を配付する
- 3) 授業計画は、実際の授業の状況に応じて順序を変えることがあるので留意されたい

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

基本的に、授業中に配るプリントやスライドなどを使って授業を進める

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ21のワーク』 / 桑田てるみ (編) / 実教出版 / 2015 / 9784407336146

『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』 / 石井一成 / ナツメ社 / 2011 / 9784816350573

『この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』 / 石黒圭 / 日本実業出版社 / 2012 / 9784534049278

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 II A

GBL2400A0J
 大学
 共通教育科目
 2年次
 1単位 前期
 月曜 3限
 DP4：思考・解決力
 15
 定員35人 「情報演習I」を履修していることが望ましい
 吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学や企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフトに関して、応用スキルを習得し、社会で必要とされるIT応用力を養うことを目的とする。コースで使用するソフト(Microsoft Office2016製品)の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist【MOS】資格への対応力を養い、資格取得のための一助とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

以下の操作の応用スキル(研究活動、社会人として活用できるレベル)を習得する。

- ・日本語文書ソフト
- ・表計算ソフト(表計算、グラフ、データベース、関数、データ分析)
- ・プレゼンテーションソフト
- ・ソフトとソフト間の相互利用

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能、目次の自動生成など、必要な機能を使って、レポートや論文を作成することができる	MOS Word 2016で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	各種の関数を利用、複数のシートの操作、データベースの活用など、必要な機能を使って操作することができる	MOS Excel 2016で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる

プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、必要な機能を使って操作することができる	オブジェクトの活用を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
各種ソフトの選択と統合	作成する文書に適したソフトを選んだり、統合したりできない	授業での指示を参考に、作成する文書に応じたソフトを選んだり、他のソフトで作ったものを統合したりできる	例題で紹介されたソフトの選択と統合を応用させて、ソフトを統合させた文書を作成することができる	Word、Excel、PowerPointで実現可能な文書が自由自在に作成できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、表計算ソフトの基本操作(1)
(表の作成や編集、罫線、基本的な関数、グラフ作成など)
- 第 2 回 日本語文書作成ソフトの応用操作
(レポートや論文作成に役立つ機能)
- 第 3 回 Microsoft Office Specialist【MOS】と日本語文書作成ソフト総復習
(MOS Word 2016の概要と体験版の模擬試験など)
- 第 4 回 プレゼンテーションソフトの応用操作
(役立つ機能などの応用的な使い方<1>)
- 第 5 回 プレゼンテーションソフトの総復習
(役立つ機能などの応用的な使い方<2>)
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(2)
(表の編集、印刷設定など)
- 第 7 回 表計算ソフトの応用操作(1)
(データベースの操作、複数シートの操作)
- 第 8 回 表計算ソフトの応用操作(2)
(関数<1>、条件付き書式、ユーザー定義の表示形式など)
- 第 9 回 表計算ソフトの応用操作(3)
(関数<2>、データベースの活用)
- 第 10 回 表計算ソフトの応用操作(4)
(これまでの復習)
- 第 11 回 表計算ソフトを利用したデータ分析(1)
(統計の基礎、分析、活用方法とは)
- 第 12 回 表計算ソフトを利用したデータ分析(2)
(総合演習など)
- 第 13 回 表計算ソフトの応用操作(5)
(複合グラフ作成、ピボットテーブル、WordとExcelの連携など)

第 14 回 Microsoft Office Specialist 【MOS】 と表計算ソフトの総復習

(MOS Excel 2016の概要と体験版の模擬試験など)

第 15 回 実技確認テストとまとめ

(実技確認テストの終了後に講評)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

パソコン演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

準備学習の具体的な方法として、復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施する「実技確認テスト」を必ず受けること。

なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

MOS (Microsoft Office Specialist) の3科目以上 (Word/Excel/PowerPoint/Accessのうちの3科目以上) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で、「情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016対応) (定価：本体1800円) を購入価格：1500円程度で販売。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 II B

GBL2400BOJ

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

月曜3限

DP4：思考・解決力

15

定員35人 「情報演習I」を履修していることが望ましい

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学や企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフトに関して、応用スキルを習得し、社会で必要とされるIT応用力を養うことを目的とする。コースで使用するソフト (Microsoft Office2016製品) の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist 【MOS】 資格への対応力を養い、資格取得のための一助とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

以下の操作の応用スキル (研究活動、社会人として活用できるレベル) を習得する。

- ・日本語文書ソフト
- ・表計算ソフト (表計算、グラフ、データベース、関数、データ分析)
- ・プレゼンテーションソフト
- ・ソフトとソフト間の相互利用

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能、目次の自動生成など、必要な機能を使って、レポートや論文を作成することができる	MOS Word 2016で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	各種の関数を利用、複数のシートの操作、データベースの活用など、必要な機能を使って操作することができる	MOS Excel 2016で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる

プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、必要な機能を使って操作することができる	オブジェクトの活用を含めて、自由にプレゼンテーションソフトを操作することができる
各種ソフトの選択と統合	作成する文書に適したソフトを選んだり、統合したりできない	授業での指示を参考に、作成する文書に応じたソフトを選んだり、他のソフトで作ったものを統合したりできる	例題で紹介されたソフトの選択と統合を応用させて、ソフトを統合させた文書を作成することができる	Word、Excel、PowerPointで実現可能な文書が自由に作成できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、表計算ソフトの基本操作(1)
(表の作成や編集、罫線、基本的な関数、グラフ作成など)
- 第 2 回 日本語文書作成ソフトの応用操作
(レポートや論文作成に役立つ機能)
- 第 3 回 Microsoft Office Specialist【MOS】と日本語文書作成ソフト総復習
(MOS Word 2016の概要と体験版の模擬試験など)
- 第 4 回 プレゼンテーションソフトの応用操作
(役立つ機能などの応用的な使い方<1>)
- 第 5 回 プレゼンテーションソフトの総復習
(役立つ機能などの応用的な使い方<2>)
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(2)
(表の編集、印刷設定など)
- 第 7 回 表計算ソフトの応用操作(1)
(データベースの操作、複数シートの操作)
- 第 8 回 表計算ソフトの応用操作(2)
(関数<1>、条件付き書式、ユーザー定義の表示形式など)
- 第 9 回 表計算ソフトの応用操作(3)
(関数<2>、データベースの活用)
- 第 10 回 表計算ソフトの応用操作(4)
(これまでの復習)
- 第 11 回 表計算ソフトを利用したデータ分析(1)
(統計の基礎、分析、活用方法とは)
- 第 12 回 表計算ソフトを利用したデータ分析(2)
(総合演習など)
- 第 13 回 表計算ソフトの応用操作(5)
(複合グラフ作成、ピボットテーブル、WordとExcelの連携など)

- 第 14 回 Microsoft Office Specialist【MOS】と表計算ソフトの総復習
(MOS Excel 2016の概要と体験版の模擬試験など)
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
(実技確認テストの終了後に講評)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

パソコン演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

準備学習の具体的な方法として、復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施する「実技確認テスト」を必ず受けること。

なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

MOS (Microsoft Office Specialist) の3科目以上 (Word/Excel/PowerPoint/Accessのうちの3科目以上) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で、「情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016対応) (定価：本体1800円) を購入価格：1500円程度で販売。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 II C

GBL2400C0J
 大学
 共通教育科目
 2年次
 1単位 後期
 火曜 3限
 DP4：思考・解決力
 15
 定員35人 「情報演習I」を履修していることが望ましい
 吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学や企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフトに関して、応用スキルを習得し、社会で必要とされるIT応用力を養うことを目的とする。コースで使用するソフト(Microsoft Office2016製品)の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist【MOS】資格への対応力を養い、資格取得のための一助とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

以下の操作の応用スキル(研究活動、社会人として活用できるレベル)を習得する。

- ・日本語文書ソフト
- ・表計算ソフト(表計算、グラフ、データベース、関数、データ分析)
- ・プレゼンテーションソフト
- ・ソフトとソフト間の相互利用

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能、目次の自動生成など、必要な機能を使って、レポートや論文を作成することができる	MOS Word 2016で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	各種の関数を利用、複数のシートの操作、データベースの活用など、必要な機能を使って操作することができる	MOS Excel 2016で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる

プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、必要な機能を使って操作することができる	オブジェクトの活用を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
各種ソフトの選択と統合	作成する文書に適したソフトを選んだり、統合したりできない	授業での指示を参考に、作成する文書に応じたソフトを選んだり、他のソフトで作ったものを統合したりできる	例題で紹介されたソフトの選択と統合を応用させて、ソフトを統合させた文書を作成することができる	Word、Excel、PowerPointで実現可能な文書が自由自在に作成できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、表計算ソフトの基本操作(1)
(表の作成や編集、罫線、基本的な関数、グラフ作成など)
- 第 2 回 日本語文書作成ソフトの応用操作
(レポートや論文作成に役立つ機能)
- 第 3 回 Microsoft Office Specialist【MOS】と日本語文書作成ソフト総復習
(MOS Word 2016の概要と体験版の模擬試験など)
- 第 4 回 プレゼンテーションソフトの応用操作
(役立つ機能などの応用的な使い方<1>)
- 第 5 回 プレゼンテーションソフトの総復習
(役立つ機能などの応用的な使い方<2>)
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(2)
(表の編集、印刷設定など)
- 第 7 回 表計算ソフトの応用操作(1)
(データベースの操作、複数シートの操作)
- 第 8 回 表計算ソフトの応用操作(2)
(関数<1>、条件付き書式、ユーザー定義の表示形式など)
- 第 9 回 表計算ソフトの応用操作(3)
(関数<2>、データベースの活用)
- 第 10 回 表計算ソフトの応用操作(4)
(これまでの復習)
- 第 11 回 表計算ソフトを利用したデータ分析(1)
(統計の基礎、分析、活用方法とは)
- 第 12 回 表計算ソフトを利用したデータ分析(2)
(総合演習など)
- 第 13 回 表計算ソフトの応用操作(5)
(複合グラフ作成、ピボットテーブル、WordとExcelの連携など)

第 14 回 Microsoft Office Specialist 【MOS】 と表計算ソフトの総復習

(MOS Excel 2016の概要と体験版の模擬試験など)

第 15 回 実技確認テストとまとめ

(実技確認テストの終了後に講評)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

パソコン演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

準備学習の具体的な方法として、復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施する「実技確認テスト」を必ず受けること。

なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと (テーマは事前に授業内で提示)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

MOS (Microsoft Office Specialist) の3科目以上 (Word/Excel/PowerPoint/Accessのうちの3科目以上) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で、「情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016対応) (定価：本体1800円) を購入価格：1500円程度で販売。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報処理 A

GBL2450A0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 前期

水曜 3限

DP4：思考・解決力

60

定員26人

伊藤 泰子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インターネット上で使えるさまざまなサービス (機能) は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力 (ネットワークリテラシー) を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 大学で利用するパソコンのOS (WindowsとLinux)
- ・ インターネットの機能としくみ
- ・ 電子メールのコミュニケーション特性
- ・ Webページを利用した情報検索
- ・ 情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・ プログラミング実習 (体験)
- ・ 画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・ HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- ・ HTMLとCSSによるWebページ制作実習

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 コンピュータの基礎知識
- 第 3 回 インターネット上の機能 (電子メール、Webページなど) の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
- 第 4 回 ディレクトリ (フォルダ) の階層構造の理解 OS (WindowsとUnix系OS) の理解、起動と切り替え
- 第 5 回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割
- 第 6 回 Webページを利用した情報検索、批判的閲覧
- 第 7 回

HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性

- 第 8 回 Webページ制作実習(1) HTML基本
第 9 回 Webページ制作実習(2) HTML応用
第 10 回 Webページ制作実習(3) CSS基本
第 11 回 Webページ制作実習(4) CSS応用
第 12 回 プログラミング実習
第 13 回 Webページ課題作成(1) サイト企画
第 14 回 Webページ課題作成(2) コンテンツ、デザイン作成
第 15 回 ファイル転送によるWebページの学内公開、
まとめテスト、解答・解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、小テストやレポート課題も課す。教科書として、『改訂新版インターネット講座』を使う。

フィードバックとして、試験・レポート提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート・課題 (20%)、テスト (50%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.notredame.ac.jp/~yito/ipro.html>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

情報処理 B

GBL2450BOJ

大学

共通教育科目

2年次

2単位 前期

水曜 4限

DP4：思考・解決力

60

定員26人

伊藤 泰子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インターネット上で使えるさまざまなサービス (機能) は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力 (ネットワークリテラシー) を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 大学で利用するパソコンのOS (WindowsとLinux)
- ・ インターネットの機能としくみ
- ・ 電子メールのコミュニケーション特性
- ・ Webページを利用した情報検索
- ・ 情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・ プログラミング実習 (体験)
- ・ 画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・ HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- ・ HTMLとCSSによるWebページ制作実習

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
第 2 回 コンピュータの基礎知識
第 3 回 インターネット上の機能 (電子メール、Webページなど) の理解と利用、
電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
第 4 回 ディレクトリ (フォルダ) の階層構造の理解
OS (WindowsとUnix系OS) の理解、起動と切り替え
第 5 回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割
第 6 回 Webページを利用した情報検索、批判的閲覧
第 7 回

HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性

- 第 8 回 Webページ制作実習(1) HTML基本
- 第 9 回 Webページ制作実習(2) HTML応用
- 第 10 回 Webページ制作実習(3) CSS基本
- 第 11 回 Webページ制作実習(4) CSS応用
- 第 12 回 プログラミング実習
- 第 13 回 Webページ課題作成(1) サイト企画
- 第 14 回 Webページ課題作成(2) コンテンツ、デザイン作成
- 第 15 回 ファイル転送によるWebページの学内公開、まとめテスト、解答・解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、小テストやレポート課題も課す。教科書として、『改訂新版インターネット講座』を使う。

フィードバックとして、試験・レポート提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート・課題 (20%)、テスト (50%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.notredame.ac.jp/~yito/ipro.html>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

情報処理 C

GBL2450C0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 前期

金曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

定員26人

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インターネット上で使えるさまざまなサービス (機能) は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとwebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力 (ネットワークリテラシー) を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義・演習に加えて実習も行い、webページ制作などを通じて情報発信力を習得する。

さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・大学で利用するパソコンのOS (WindowsとLinux)
- ・インターネットの機能としくみ
- ・電子メールのコミュニケーション特性
- ・webページを利用した情報検索
- ・情報発信の役割を持つwebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・プログラミング入門
- ・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回

ガイダンス、コンピュータの基礎知識、コンピュータの五大要素 (入力、制御、演算、記憶、出力) とOSについて

第 2 回

インターネット上の機能 (電子メール、webページなど) の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解

第 3 回

webページを利用した情報検索、批判的閲覧、インターネットのしくみの理解(1)

第 4 回

webページを利用した情報検索、批判的閲覧、インターネットのしくみの理解(2)

第 5 回 OSの理解 (WindowsおよびLinux)、ディレクトリ (フォルダ) の階層構造の理解、webサーバーを使ったwebページの学内公開に関する知識

第 6 回 プログラミング入門(1)～逐次処理～

第 7 回 プログラミング入門(2)～条件分岐～

第 8 回 プログラミング入門(3)～繰り返し処理～

第 9 回 プログラミング入門(4)～プログラミングの活用～

第 10 回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性 (HTML文書とタグについて)

第 11 回 webページ制作実習(1)～HTMLで文書構造を指定～

第 12 回 webページ制作実習(2)～HTMLで画像を表現～

第 13 回 webページ制作実習(3)～CSSでデザインと色を指定～

第 14 回 ファイル転送によるwebページの学内公開

第 15 回 筆記によるまとめテストの実施と総括 (解答例や講評はmanabaにて公開)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
(授業の最終日に) 実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
講義・演習と実習を交えながら授業を行なう。適宜、レポート課題も課す。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は事前に予告するので、準備をして参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加 (30%)、レポート・課題 (20%)、まとめテスト (50%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『改訂新版 インターネット講座』/吉田智子、他著/北大路書房/2014/978476282830/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報処理 D

GBL2450DOJ
大学
共通教育科目
2年次 後期
2単位 水曜 4限
DP4 : 思考・解決力
60
定員26人
伊藤 泰子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インターネット上で使えるさまざまなサービス (機能) は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力 (ネットワークリテラシー) を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 大学で利用するパソコンのOS (WindowsとLinux)
- ・ インターネットの機能としくみ
- ・ 電子メールのコミュニケーション特性
- ・ Webページを利用した情報検索
- ・ 情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・ プログラミング実習 (体験)
- ・ 画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・ HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- ・ HTMLとCSSによるWebページ制作実習

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 コンピュータの基礎知識
- 第 3 回 インターネット上の機能 (電子メール、Webページなど) の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
- 第 4 回

- ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解
OS（WindowsとUnix系OS）の理解、起動と切り替え
- 第 5 回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割
- 第 6 回 Webページを利用した情報検索、批判的閲覧
- 第 7 回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- 第 8 回 Webページ制作実習(1) HTML基本
- 第 9 回 Webページ制作実習(2) HTML応用
- 第 10 回 Webページ制作実習(3) CSS基本
- 第 11 回 Webページ制作実習(4) CSS応用
- 第 12 回 プログラミング実習
- 第 13 回 Webページ課題作成(1) サイト企画
- 第 14 回 Webページ課題作成(2) コンテンツ、デザイン作成
- 第 15 回 ファイル転送によるWebページの学内公開、まとめテスト、解答・解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、小テストやレポート課題も課す。教科書として、『改訂新版インターネット講座』を使う。

フィードバックとして、試験・レポート提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、レポート・課題（20%）、テスト（50%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.notredame.ac.jp/~yito/ipro.html>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

情報処理 E

GBL2450E0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 後期

金曜1限

DP4：思考・解決力

60

定員26人

中村 亮太

〔科目の教育目標（Course Description）〕

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとwebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義・演習に加えて実習も行い、webページ制作では基礎のHTMLだけでなくMarkdown記法のMDwikiを活用し、情報発信力を習得する。

さらに、コンピュータの本質を理解するためにマイコンボードを用いたプログラミング実習で計測制御の基礎を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・大学で利用するパソコンのOS（WindowsとLinux）
- ・インターネットの機能としくみ
- ・電子メールのコミュニケーション特性
- ・webページを利用した情報検索
- ・情報発信の役割を持つwebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・プログラミング体験（入門と活用）
- ・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・HTMLで記述するwwwの情報提供のしくみと可能性
- ・MDwikiを活用したMarkdown記法によるwebページ制作

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	コンピュータの仕組みがわからず、使われる側である	コンピュータがなんでもできる便利な箱でないと気が付いた	コンピュータとの向き合い方を考えることができる	コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータを使う側になる
知識・理解力	コンピュータの操作が	プログラムを解説して	プログラムを見るだけ	レベル3に加え、他者

	まったくできない	もらうと、プログラムの動きを理解することができる	でプログラムの動きを理解することができる	が理解できるよう教えることができる
言語力	コンピュータに関する専門用語が理解できない	コンピュータに関する専門用語を6割程度理解できている	コンピュータに関する専門用語が一通り理解できている	レベル3に加え、他者に説明することができる
思考・解決力	与えられた課題をこなすだけである	応用問題を解くことができる	プログラミング的思考ができる力がある	計算論的思考ができる力がある
共生・協働する力	一人でモクモクと課題に取り組んでいる	近くに座って困っている学生に答えを教える	近くに座って困っている学生に適切なアドバイスができる	近くに座って困っている学生に口頭でのみ適切なアドバイスができる
創造・発信力	授業で学んだことを他者に説明できない	授業資料を掲示しながら学んだことを他者に説明できる	授業で学んだことを他者に説明できる	授業で学んだことを他者に説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、コンピュータの基礎知識
全15回の授業の流れと成績のつけ方に関してコンピュータに関する基礎知識と専門用語
- 第 2 回 インターネット上の機能
電子メールやwebページなどの理解と利用
電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
電子メールのCCやBCCの受信実習
電子メールマナーにのっとっての送信実習
- 第 3 回 プログラミング入門(1)
身の回りにある電子機器と入出力装置
micro:bitを用いたマイコンボード制御の基礎
- 第 4 回 プログラミング入門(2)
micro:bitによるLチカ
- 第 5 回 プログラミング入門(3)
micro:bitによる繰り返し処理
- 第 6 回 プログラミング入門(4)
micro:bitのセンサーの値による条件分岐
- 第 7 回 プログラミング入門(5)
micro:bitの活用
- 第 8 回 OSの理解、ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解
遠隔ログイン（SSH）によるCUI操作
ディレクトリ階層構造の理解
- 第 9 回 World Wide Webについて

- インターネットのしくみの理解
webページを利用した情報検索実習
webページの批判的閲覧
- 第 10 回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
HTMLによるwebページ制作練習
- 第 11 回 webページ制作実習(1)
MDwikiを活用したwebページ制作実習(1)～Markdown記法とMDwikiについて～
- 第 12 回 webページ制作実習(2)
MDwikiを活用したwebページ制作実習(2)～MDwikiを支える技術について～
- 第 13 回 webページ制作実習(3)
MDwikiを活用したwebページ制作実習(3)～MDwikiのカスタマイズについて～
- 第 14 回 webページの公開
ファイル転送によるwebページの公開
- 第 15 回 情報化社会を支える技術のテストと総まとめ
第1～14回目の総まとめ
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義・演習と実習を交えながら授業を行なう。適宜、レポート課題も課す。
また授業ごとに質問や感想などのフィードバックコメントをmanabaで投稿してもらい、次回授業開始時にコメント返しを行う。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は事前に予告するので、準備をして参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度（30%）、レポート・課題・テスト（70%）の総合点で評価する。
- 〔留意事項（Other Information）〕
本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済みか、その内容をすでに習得していること。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『改訂新版 インターネット講座』/吉田智子、他著/北大路書房/2014/978476282830/学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
高等学校で情報科教員としての勤務経験があり、現在も継続して勤務中

情報処理 F

GBL2450F0J
 大学
 共通教育科目
 2年次
 2単位 後期
 金曜 2限
 DP4：思考・解決力
 60
 定員26人
 中村 亮太

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとwebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義・演習に加えて実習も行い、webページ制作では基礎のHTMLだけでなくMarkdown記法のMDwikiを活用し、情報発信力を習得する。

さらに、コンピュータの本質を理解するためにマイコンボードを用いたプログラミング実習で計測制御の基礎を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・大学で利用するパソコンのOS（WindowsとLinux）
- ・インターネットの機能としくみ
- ・電子メールのコミュニケーション特性
- ・webページを利用した情報検索
- ・情報発信の役割を持つwebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・プログラミング体験（入門と活用）
- ・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・HTMLで記述するwwwの情報提供のしくみと可能性
- ・MDwikiを活用したMarkdown記法によるwebページ制作

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	コンピュータの仕組みがわからず、使われる側である	コンピュータがなんでもできる便利な箱でないと気が付いた	コンピュータとの向き合い方を考えることができる	コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータを使う側になる
知識・理解力	コンピュータの操作がまったくできない	プログラムを解説してもらおうと、プログラムの動きを理解することができる	プログラムを見るだけでプログラムの動きを理解することができる	レベル3に加え、他者が理解できるよう教えることができる

言語力	コンピュータに関する専門用語が理解できない	コンピュータに関する専門用語を6割程度理解できている	コンピュータに関する専門用語が一通り理解できている	レベル3に加え、他者に説明することができる
思考・解決力	与えられた課題をこなすだけである	応用問題を解くことができる	プログラミグ的思考ができる力がある	計算論的思考ができる力がある
共生・協働する力	一人でモクモクと課題に取り組んでいる	近くに座って困っている学生に答えを教える	近くに座って困っている学生に適切なアドバイスができる	近くに座って困っている学生に口頭でのみで適切なアドバイスができる
創造・発信力	授業で学んだことを他者に説明することができない	授業資料を掲示しながら学んだことを他者に説明できる	授業で学んだことを他者に説明することができる	授業で学んだことを他者に説明することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、コンピュータの基礎知識
全15回の授業の流れと成績のつけ方に関してコンピュータに関する基礎知識と専門用語
- 第 2 回 インターネット上の機能
電子メールやwebページなどの理解と利用
電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
電子メールのCCやBCCの受信実習
電子メールマナーにのっとっての送信実習
- 第 3 回 プログラミング入門(1)
身の回りにある電子機器と入出力装置
micro:bitを用いたマイコンボード制御の基礎
- 第 4 回 プログラミング入門(2)
micro:bitによるLチカ
- 第 5 回 プログラミング入門(3)
micro:bitによる繰り返し処理
- 第 6 回 プログラミング入門(4)
micro:bitのセンサーの値による条件分岐
- 第 7 回 プログラミング入門(5)
micro:bitの活用
- 第 8 回 OSの理解、ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解
遠隔ログイン（SSH）によるCUI操作
ディレクトリ階層構造の理解
- 第 9 回 World Wide Webについて
インターネットのしくみの理解
webページを利用した情報検索実習
webページの批判的閲覧
- 第 10 回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
HTMLによるwebページ制作練習

- 第 11 回 webページ制作実習(1)
MDwikiを活用したwebページ制作実習(1) ~
Markdown記法とMDwikiについて~
- 第 12 回 webページ制作実習(2)
MDwikiを活用したwebページ制作実習(2) ~
MDwikiを支える技術について~
- 第 13 回 webページ制作実習(3)
MDwikiを活用したwebページ制作実習(3) ~
MDwikiのカスタマイズについて~
- 第 14 回 webページの公開
ファイル転送によるwebページの公開
- 第 15 回 情報化社会を支える技術のテストと総まとめ
第1~14回目の総まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義・演習と実習を交えながら授業を行なう。適宜、レポート課題も課す。

また授業ごとに質問や感想などのフィードバックコメントをmanabaで投稿してもらい、次回授業開始時にコメント返しを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は事前に予告するので、準備をして参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート・課題・テスト (70%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版 インターネット講座』/吉田智子、他著/北大路書房/2014/978476282830/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高等学校で情報科教員としての勤務経験があり、現在も継続して勤務中

キリスト教入門A

GCE1100A0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

木曜4限

DP1：自分を育てる力

60

必修 クラス指定

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本学の教育理念にとって、カトリック (キリスト教) の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学び、説明できるようにする。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、福音の現代社会へのメッセージを理解し、表現することができることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 聖書の成立と構成
- 2 救いの歴史と契約
- 3 イエス・キリストの新しい契約
- 4 神の国のメッセージ
- 5 イエス・キリストの教えとわざ
- 6 現代における福音の意義

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 人間と宗教
- 第 2 回 キリスト教と聖書
- 第 3 回 福音と現代社会
- 第 4 回 教会の秘跡
- 第 5 回 創造物語
- 第 6 回 出エジプトとシナイ契約
- 第 7 回 放蕩息子
- 第 8 回 ミサと祈り
- 第 9 回 神の国
- 第 10 回 愛とゆるし
- 第 11 回 善きサマリア人
- 第 12 回 まことのぶどうの木
- 第 13 回 受難物語
- 第 14 回 復活
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1 授業方法 (1)講義を中心とするが、聖書を共に読み、共にその意味を考え発言するよう受講者の授業への積極的参加が望まれる。(2) 随時配布される参考資料も参考にして聖書の解釈を行い、キリスト教の思想を理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

示された聖書の箇所や配布される資料を読んで聖書の内容を把握した上で授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への取り組み、参加度、リアクションペーパー (30パーセント)、レポート (70パーセント) に基づいて総合的に評価する。リアクションペーパー、レポートについては授業中に解説・講評する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへの出席を奨励し、授業参加度に加えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/ISBN9784820212713/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教入門B

GCE1100BOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

木曜4限

DPI: 自分を育てる力

60

必修 クラス指定

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本学の教育理念にとって、カトリック (キリスト教) の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学び、説明できるようにする。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、福音の現代社会へのメッセージを理解し、表現することができることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 聖書の成立と構成 2 救いの歴史と契約 3 イエス・キリストの新しい契約 4 神の国のメッセージ 5 イエス・キリストの教えとわざ 6 現代における福音の意義

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 人間と宗教

第 2 回 キリスト教と聖書

第 3 回 福音と現代社会

第 4 回 教会の秘跡

第 5 回 創造物語

第 6 回 出エジプトとシナイ契約

第 7 回 放蕩息子

第 8 回 ミサと祈り

(物故者追悼ミサとノートルダムクリスマスへの出席を求める)

第 9 回 神の国

第 10 回 愛とゆるし

第 11 回 善きサマリア人

第 12 回 まことのぶどうの木

第 13 回 受難物語

第 14 回 復活

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1 授業方法 (1)講義を中心とするが、聖書を共に読み、共にその意味を考え発言するよう受講者の授業への積極的参加が望まれる。(2) 随時配布される参考資料も参考にして聖書の解釈を行い、キリスト教の思想を理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

示された聖書の箇所や配布される資料を読んで聖書の内容を把握した上で授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への取り組み、参加度、リアクションペーパー (30パーセント)、確認テスト (70パーセント) に基づいて総合的に評価する。リアクションペーパー、レポートについては授業中に解説・講評する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへの出席を奨励し、授業参加度に加えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/ISBN9784820212713/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教入門C

GCE1100C0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

金曜4限

DPI: 自分を育てる力

60

必修 クラス指定

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本学の教育理念にとって、カトリック(キリスト教)の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学び、説明できるようにする。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えと愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、福音の現代社会へのメッセージを理解し、表現することができることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 聖書の成立と構成 2 救いの歴史と契約 3 イエス・キリストの新しい契約 4 神の国のメッセージ 5 イエス・キリストの教えとわざ 6 現代における福音の意義

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第1回 人間と宗教
第2回 キリスト教と聖書
第3回 福音と現代社会
第4回 教会の秘跡
第5回 創造物語
第6回 出エジプトとシナイ契約
第7回 放蕩息子
第8回 ミサと祈り

第9回 神の国

第10回 愛とゆるし

第11回 善きサマリア人

第12回 まことのぶどうの木

第13回 受難物語

第14回 復活

第15回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1 授業方法 (1)講義を中心とするが、聖書を共に読み、共にその意味を考え発言するよう受講者の授業への積極的参加が望まれる。(2)随時配布される参考資料も参考にして聖書の解釈を行い、キリスト教の思想を理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

示された聖書の箇所や配布される資料を読んで聖書の内容を把握した上で授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への取り組み、参加度、リアクションペーパー(30パーセント)、レポート(70パーセント)に基づいて総合的に評価する。リアクションペーパー、レポートについては授業中に解説・講評する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへの出席を奨励し、授業参加度に加えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/ISBN9784820212713/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教入門D

GCE1100D0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 2単位 後期
 金曜4限
 DP1：自分を育てる力
 60
 必修 クラス指定
 中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本学の教育理念にとって、カトリック（キリスト教）の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学び、説明できるようにする。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、福音の現代社会へのメッセージを理解し、表現することができることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 聖書の成立と構成 2 救いの歴史と契約 3 イエス・キリストの新しい契約 4 神の国のメッセージ 5 イエス・キリストの教えとわざ 6 現代における福音の意義

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 人間と宗教
 第 2 回 キリスト教と聖書
 第 3 回 福音と現代社会
 第 4 回 教会の秘跡
 第 5 回 創造物語
 第 6 回 出エジプトとシナイ契約
 第 7 回 放蕩息子
 第 8 回 ミサと祈り
 (物故者追悼ミサとノートルダムクリスマスへの出席を求める)
 第 9 回 神の国
 第 10 回 愛とゆるし
 第 11 回 善きサマリア人
 第 12 回 まことのぶどうの木
 第 13 回 受難物語
 第 14 回 復活
 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1 授業方法 (1)講義を中心とするが、聖書を共に読み、共にその意味を考え発言するよう受講者の授業への積極的参加が望まれる。(2)随時配布される参考資料も参考にして聖書の解釈を行い、キリスト教の思想を理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

示された聖書の箇所や配布される資料を読んで聖書の内容を把握した上で授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への取り組み、参加度、リアクションペーパー(30パーセント)、レポート(70パーセント)に基づいて総合的に評価する。リアクションペーパー、レポートについては授業中に解説・講評する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへの出席を奨励し、授業参加度に加えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/ISBN9784820212713/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽入門A 2017年度以降入学者

GCE1101A0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

木曜4限

DP1：自分を育てる力

15

必修 クラス指定

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考え

る。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 キリスト教音楽とは
 - 第 2 回 教会暦と音楽
 - 第 3 回 ミサと聖歌について① (開祭・ことばの典礼)
 - 第 4 回 ミサと聖歌について② (感謝の典礼・交わりの儀・閉祭)
 - 第 5 回 キリスト教に関するDVD
 - 第 6 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
 - 第 7 回 聖母マリアと音楽
 - 第 8 回 ミサと祈り
※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。
 - 第 9 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌を聴きながら～
 - 第 10 回 モーツァルトの宗教音楽～レクイエムを聴き学ぶ～
 - 第 11 回 アドヴェント (待降節) の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
 - 第 12 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVDより～
 - 第 13 回 オルガンのしくみ及びイタリアのオルガンオルガンとその音楽
 - 第 14 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽
 - 第 15 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

学 習 の 方 法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、試験 (50点)、レポート (20点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ (改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽入門B 2017年度以降入学者

GCE1101B0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

木曜4限

DP1: 自分を育てる力

15

必修 クラス指定

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。
- (2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 キリスト教音楽とは
 - 第 2 回 教会暦と音楽
 - 第 3 回 ミサと聖歌について① (開祭・ことばの典礼)
 - 第 4 回 ミサと聖歌について② (感謝の典礼・交わりの儀・閉祭)
 - 第 5 回 キリスト教に関するDVD
 - 第 6 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
 - 第 7 回 聖母マリアと音楽
 - 第 8 回 ミサと祈り
※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。
 - 第 9 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌を聴きながら～
 - 第 10 回 モーツァルトの宗教音楽～レクイエムを聴き学ぶ～
 - 第 11 回 アドヴェント (待降節) の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
 - 第 12 回 クリスマスの音楽～ライプチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVDより～
 - 第 13 回 オルガンのしくみ及びイタリアのオルガンオルガンとその音楽
 - 第 14 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽
 - 第 15 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

学 習 の 方 法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、試験 (50点)、レポート (20点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ (改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽入門C 2017年度以降入学者

GCE1101C0J
大学

共通教育科目
1年次

1単位 後期
金曜4限

DP1: 自分を育てる力
15

必修 クラス指定
久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める

る。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 キリスト教音楽とは
 - 第 2 回 教会暦と音楽
 - 第 3 回 ミサと聖歌について①（開祭・ことばの典礼）
 - 第 4 回 ミサと聖歌について②（感謝の典礼・交わりの儀・閉祭）
 - 第 5 回 キリスト教に関するDVD
 - 第 6 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
 - 第 7 回 聖母マリアと音楽
 - 第 8 回 ミサと祈り
※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。
 - 第 9 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌を聴きながら～
 - 第 10 回 モーツァルトの宗教音楽～レクイエムを聴き学ぶ～
 - 第 11 回 アドヴェント（待降節）の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
 - 第 12 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVDより～
 - 第 13 回 オルガンのしくみ及びイタリアのオルガンオルガンとその音楽
 - 第 14 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽
 - 第 15 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

学 習 の 方 法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通ししておく。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30点）、試験（50点）、レポート（20点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場

合は、原則として単位を与えない。（6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。）

〔留意事項（Other Information）〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ（改訂版）』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽入門D 2017年度以降入学者

GCE1101DOJ
大学

共通教育科目
1年次

1単位 前期
金曜4限

DP1：自分を育てる力
15

必修 クラス指定
久野 将健

〔科目の教育目標（Course Description）〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 キリスト教音楽とは
 第 2 回 教会暦と音楽
 第 3 回 ミサと聖歌について①（開祭・ことばの典礼）
 第 4 回 ミサと聖歌について②（感謝の典礼・交わりの儀・閉祭）
 第 5 回 キリスト教に関するDVD
 第 6 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
 第 7 回 聖母マリアと音楽
 第 8 回 ミサと祈り
 ※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。
 第 9 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌を聴きながら～
 第 10 回 モーツァルトの宗教音楽～レクイエムを聴き学ぶ～
 第 11 回 アドヴェント（待降節）の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
 第 12 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVDより～
 第 13 回 オルガンのしくみ及びイタリアのオルガンオルガンとその音楽
 第 14 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽
 第 15 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽
 [定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート]

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

学 習 の 方 法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30点）、試験（50点）、レポート（20点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。（6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。）

〔留意事項（Other Information）〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ（改訂版）』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

聖書と文化A

GCE2100A0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 前期

木曜1限

DP1：自分を育てる力

60

中里 郁子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

新約聖書の福音書に描かれるイエスを一世紀のパレスチナで生きた一人の人間として眺め、当時の文化的背景を考慮しつつ、キリスト教成立以前のありのままの人間としてのイエスを探究し、当時の人々にとってイエスが信仰の対象となるに至る過程をイエス時代の文化との関係において理解し論じることができる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1 福音書に描かれるイエスの言葉と行為 2 イエス時代のユダヤ人の文化 3 イエス時代の人々の生活 4 イエスの裁判とユダヤ人の伝統 5 イエスへの信仰

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 イエスの時代の文化的背景

- 第 3 回 イエスと当時の人々
- 第 4 回 イエスによる赦し
- 第 5 回 イエスによる癒し
- 第 6 回 ユダヤ社会における連帯とイエス
- 第 7 回 イエスと政治
- 第 8 回 古代ユダヤ人の時の観念と歴史感覚
- 第 9 回 神殿の清め
- 第 10 回 初代教会の共同体
- 第 11 回 神の国の到来
- 第 12 回 ユダヤ人のメシア待望
- 第 13 回 ユダヤ人の殉教の伝統とイエスの裁判
- 第 14 回 イエスへの信仰
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1 授業方法は講義を中心とするが、聖書を読み、参考文献を調べて積極的に授業に参加する。2 随時参考資料を配布する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関連する聖書の箇所をあらかじめ読んで授業に臨む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への取り組み・リアクションペーパー (30%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。リアクションペーパーとレポートについて、授業中に解説と講評を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新共同訳『聖書』(旧約聖書続編つき)』//日本聖書協会//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献は授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

聖書と文化 B

GCE2100B0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 後期

金曜3限

DP1：自分を育てる力

60

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新約聖書の福音書に描かれるイエスを一世紀のパレスチナで生きた一人の人間として眺め、当時の文化的背景を考慮しつつ、キリスト教成立以前のありのままの人間としてのイエスを探究し、当時の人々にとってイエスが信仰の対象となるに至る過程をイエス時代の文化との関係において理解し論じることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 福音書に描かれるイエスの言葉と行為 2 イエス時代のユダヤ人の文化 3 イエス時代の人々の生活 4 イエスの裁判とユダヤ人の伝統 5 イエスへの信仰

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 イエスの時代の文化的背景
- 第 3 回 イエスと当時の人々
- 第 4 回 イエスによる赦し
- 第 5 回 イエスによる癒し
- 第 6 回 ユダヤ社会における連帯とイエス
- 第 7 回 イエスと政治
- 第 8 回 古代ユダヤ人の時の観念と歴史感覚
- 第 9 回 神殿の清め
- 第 10 回 初代教会の共同体
- 第 11 回 神の国の到来
- 第 12 回 ユダヤ人のメシア待望
- 第 13 回 ユダヤ人の殉教の伝統とイエスの裁判
- 第 14 回 イエスへの信仰
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1 授業方法は講義を中心とするが、聖書を読み、参考文献を調べて積極的に授業に参加する。2 随時参考資料を配布する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関連する聖書の箇所をあらかじめ読んで授業に臨む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への取り組み・リアクションペーパー (30%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。リアクションペーパーとレポートについて、授業中に解説と講評を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新共同訳『聖書』(旧約聖書統編つき)』//日本聖書協会//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献は授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教思想

GCE2101N0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 前期

月曜2限

DPI：自分を育てる力

60

須藤 英幸

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

多様な価値観によって混迷を深める現代社会にあって、わたしたちは自分自身や他者をどのように理解すればよいのだろうか、また、どのように生きていけばよいのだろうか。このような問題を、キリスト教思想を通して考える。授業では、渡辺和子、ポール・トゥルニエ、ヴィクトール・フランクル、C.S.ルイスらのキリスト教思想家の著書を紹介しながら、それぞれの重要なトピックを考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①「わたしはだれ？」で、聖書とキリスト教思想を通して自己のアイデンティティーを学ぶ。
- ②「あなたはだれ？」で、聖書とキリスト教思想を通して人間関係を学ぶ。
- ③「あなたはだれ？」で、父なる神とイエス・キリストを学ぶ。
- ④「生きるってなに？」で、生きることの意味を学ぶ。
- ⑤「愛するってむずかしい？」で、キリスト教の愛の思想を学ぶ。

以上のキリスト教思想に触れることによって自分を見つめなおし、家族・友人・学校・地域社会などのコミュニティーの中で支え合うことの重要性を自覚し、自分と他者の独自性を尊重しつつ、お互いの存在を受容していけるような良識を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 イントロダクション
授業の進め方や講義全体の概要
- 第2回 わたしはだれ？ (1)
聖書の中の人間観
- 第3回 わたしはだれ？ (2)
聖書の中の女性たち
- 第4回 わたしはだれ？ (3)
女性であることと人格性
- 第5回 あなたはだれ？ (1)
聖書の中の人間関係
- 第6回 あなたはだれ？ (2)
分かち合いの喜び
- 第7回 あなたはだれ？ (3)
キリスト教の結婚観
- 第8回 神さまはだれ？ (1)
愛なる神さま
- 第9回 神さまはだれ？ (2)
イエス・キリスト
- 第10回 生きるってなに？ (1)
生活のリズムの重要性
- 第11回 生きるってなに？ (2)
悲しみの意味と傷の癒やし
- 第12回 生きるってなに？ (3)
自分をゆるすこと、他者を受容すること
- 第13回 愛するってむずかしい？ (1)
四つの愛
- 第14回 愛するってむずかしい？ (2)
愛に関する誤解
- 第15回 愛するってむずかしい？ (3)
愛することとコミュニティー

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業方法：講義

学習方法：テキストを授業に持参すること

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指示されたテキスト箇所を読んでくること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度：20%

読書課題：30%

定期試験：50%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『「ひと」として大切なこと』/渡辺和子/PHP研究所/2005/9784569664286/学内販売予定

『美しい人に—愛はほほえみから』/渡辺和子/PHP研究所/2008/9784569698526/学内販売予定

聖書も用いる

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『夜と霧』/ヴィクトール・フランクル/みすず書房/2002/9784622039709

『四つの愛』/C・S・ルイス/新教出版社/2011/9784400520597
その他、授業内で資料を配付する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

2007～2012年にかけて教会で説教を担当。

キリスト教と日本文化

GCE2150N0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 後期

木曜3限

DPI：自分を育てる力

60

増田 斎 ジョン ブリーン

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本のすみずみまでに浸透しているキリスト教を歴史、社会、文学という側面から分析し、東西交流の実態を敏感に把握する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

歴史的には16世紀半ばから今日までのキリスト教の伝播史を、社会的には土着の神道、仏教との折り合いを、文学的にはキリシタン文学、日本人のキリスト教文学、宣教師の日本語著書を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 ザビエルの来日と日本理解 (増田)
- 第2回 ザビエルの足跡を踏む宣教師たち (増田)
- 第3回 日本キリシタン史の転換期 (ブリーン)
- 第4回 カンドウ神父の日本文化への貢献 (増田)
- 第5回 鎖国とキリシタン禁制 (ブリーン)
- 第6回 事件としての隠れキリシタン (ブリーン)
- 第7回 ホイヴェルス神父の日本文学への寄与 (増田)
- 第8回 ネラン神父と遠藤周作 (増田)
- 第9回 St Agnes教会フィールド・ワーク (ブリーン)
- 第10回 日本女子と近代キリスト教① (増田)

第11回 日本女子と近代キリスト教② (増田)

第12回 日本の近代化とキリスト教 (ブリーン)

第13回 日本女子と近代キリスト教③ (増田)

第14回 戦争とキリスト教 (ブリーン)

第15回 総括と小テスト (ブリーン)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講師は教科書を指定し、ハンドアウトを課題に合わせて用意し、毎回の授業の主旨を事前に知らせる。授業は、学生が指定された教材を閲読し、積極的に授業に参加することを重視する。研究レポートを書くための研究と作文の方法をも教える。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業前に定められた教科書、ハンドアウト、小説などを読了し、ノートを取り、感想と質問を準備し、授業で討論に参加する。また、指定されたテーマに関する短時間の発表を要求される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

5

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 10%、期間中課題 30%、期末レポート 40%、小テスト 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ザビエルの夢を紡ぐ：近代宣教師たちの日本語文学』//平凡社/2018年//学内販売予定

『ミッションスクールになぜ美人が多いのか：日本女子とキリスト教』/朝日新聞/2018年/学内販売予定)

講師の用意したハンドアウトを中心に。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本キリスト教史：年表で読む』/鈴木範久/教文館/2017/9784764274198

『キリシタン信仰史の研究』/五野井隆史/吉川弘文館/2017/9784642034791

『キリシタンが拓いた日本語文学』/郭南燕/明石書店/2017/9784750345574

『キリスト教の真実』/竹下節子/筑摩書房/2012/9784480066596

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教美術

GCE2151N0J
 大学
 共通教育科目
 2年次
 2単位 前期
 水曜1限
 DPI：自分を育てる力
 60
 吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

4世紀以降、長い時間をかけて成立したキリスト教美術には、繰り返し描かれ続けてきた主題と表現上の約束事がある。さまざまな地域・時代に制作された作品を通して、未知の作品に出会ったときにも、ある程度主題を推測できる力を養うことを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. キリスト教美術の主要な主題と表現上の約束の基本を知る。
2. キリスト教美術の歴史的な流れの基本を知る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 イントロダクション・旧約聖書(1)
- 第2回 旧約聖書(2) 大洪水など
- 第3回 旧約聖書(3) モーセなど
- 第4回 旧約聖書(4) ユディトなど
- 第5回 旧約聖書(5) トビアスなど
- 第6回 マリア伝など
- 第7回 新約聖書(1) 受胎告知など
- 第8回 新約聖書(2) キリストの洗礼など
- 第9回 新約聖書(3) 受難伝など
- 第10回 新約聖書(4) 復活など
- 第11回 新約聖書(5) ヨハネ黙示録など
- 第12回 諸聖人(1) マグダラのマリアなど
- 第13回 諸聖人(2) 聖ゲオルギウスなど
- 第14回 諸聖人(3) 聖ヒエロニムスなど
- 第15回 まとめ(歴史的概観)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・スライド(パワーポイント)を用いた講義形式とする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布資料の指示した箇所を読み、課題があればしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度50%、学期末試験50%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教美術図典』/柳宗玄・中森義宗/吉川弘文館/1990/4642072276

『西洋美術解説事典』/ジェイムズ・ホール/河出書房新社/1988/4309260918

『一冊でわかる名画と聖書』/船本弘毅/成美堂出版/2011/9784415309873

このほか、適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

画像検索サイト(英語) Web Gallery of Art (<https://www.wga.hu/>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽A

GCE2152A0J
 大学
 共通教育科目
 2年次
 2単位 後期
 火曜4限
 DPI：自分を育てる力
 60
 久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ヘンデル(1685-1759)作曲のオラトリオ「メサイアHWV.56」を学ぶ。テキストの日本語訳を読みときながら、ヘンデルの音楽を味わい、その音楽の意味と宗派を超えたキリスト教音楽の普遍性について考えたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) オラトリオのテキストと音楽との関連性を理解するように努める。
- (2) ヘンデルの音楽の特徴や他の作曲家(特にJ.S.バッハ)の音楽との比較をする。
- (3) オラトリオ「メサイアHWV.56」を味わうことにより自己の音楽的視野を広げる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 ヘンデルの生涯(前半)
- 第2回 ヘンデルの生涯(後半)
- 第3回 ヘンデルのドキュメンタリーDVDを視聴
- 第4回

- ≪メサイア≫第1部
 第1－5曲
 第5回 第6－10曲
 第6回 第11－15曲
 第7回 第16－21曲
 第8回 ≪メサイア≫第2部
 第22－26曲
 第9回 第27－30曲
 第10回 第31－35曲
 第11回 第36－39曲
 第12回 第40－44曲
 第13回 ≪メサイア≫第3部
 第45－47曲
 第14回 第48－50曲
 第15回 第51－53曲

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業実施方法 講義。レポートを課すことがある。
2. 学習の方法 音楽を聴く際には静かにする。次回の範囲に目を通しておく。
3. 使用教材 プリント、CD、DVD等。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業以外にも月例の学内ミサに積極的に参加するなどキリスト教に親しんでほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、レポート2回 (70点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合 (6回欠席) は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへの出席を奨励し、授業参加度に加えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『「メサイア」ハンドブック』/三ヶ尻正/ショパン/1998年/978-4-88364-091-1/有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽B

GCE2152B0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 前期

火曜4限

DP1：自分を育てる力

60

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ヘンデル (1685-1759) 作曲のオラトリオ≪メサイアHWV.56≫を学ぶ。テキストの日本語訳を読みとぎながら、ヘンデルの音楽を味わい、その音楽の意味と宗派を超えたキリスト教音楽の普遍性について考えたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) オラトリオのテキストと音楽との関連性を理解するように努める。
- (2) ヘンデルの音楽の特徴や他の作曲家 (特にJ.S.バッハ) の音楽との比較をする。
- (3) オラトリオ≪メサイアHWV.56≫を味わうことにより自己の音楽的視野を広げる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 ヘンデルの生涯 (前半)
 第2回 ヘンデルの生涯 (後半)
 第3回 ヘンデルのドキュメンタリーDVDを視聴
 第4回 ≪メサイア≫第1部
 第1－5曲
 第5回 第6－10曲
 第6回 第11－15曲
 第7回 第16－21曲
 第8回 ≪メサイア≫第2部
 第22－26曲
 第9回 第27－30曲
 第10回 第31－35曲
 第11回 第36－39曲
 第12回 第40－44曲
 第13回 ≪メサイア≫第3部
 第45－47曲
 第14回 第48－50曲
 第15回 第51－53曲

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業実施方法 講義。レポートを課すことがある。

2. 学習の方法 音楽を聴く際には静かにする。次回の範囲に目を通しておく。

3. 使用教材 プリント、CD,DVD等。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業以外にも月例の学内ミサに積極的に参加するなどキリスト教に親しんでほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、レポート2回 (70点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合 (6回欠席) は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへの出席を奨励し、授業参加度に加えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『「メサイア」ハンドブック』/三ヶ尻正/ショパン/1998年/978-4-88364-091-1/有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学 A 2017年度以降入学者

GCP1100A0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

金曜1限

DPI: 自分を育てる力

60

必修 クラス指定

吉田 智子 神月 紀輔 中里 郁子 久野 将健 笹岡 隆甫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、永遠的世界を見据える自校教育(徳育)と、時間的世界を見据えるキャリア教育(知育)とを組み合わせたものである。受講者はこのような多面的な学びを通して、ノートルダムの徳と知の精神の基礎を学び、知性と品性を兼ね備えた人間になろうと常に自ら努力することを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

カトリック精神・日本伝統文化・現実社会の諸相を学ぶことを通じて、ノートルダム精神の基礎を身につける。また、ノートルダムの「徳と知の精神」の体得を目指すことで、知性と品性の両方を持つ人間になる素養を身につける。
 ・ノートルダムのミッション・コミットメントを理解する
 ・自校についてルーツを含めて知り、自分のキャリアに役

立てる

- ・学歌を理解し覚え、正しい英語で歌う
- ・日本伝統文化に親しむ
- ・ネット時代の情報の扱い方を知る
- ・社会人基礎力として本学が定めた ND6の概要を知る

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ノートルダムのミッション・コミットメントの理解	ミッション・コミットメントが何かを知らない	ミッション・コミットメントの存在と四つの動詞を知っている	ミッション・コミットメントの内容、特に四つの動詞の意味を深く理解している	ミッション・コミットメントの四つの動詞を、日々の生活で実践している
自校のルーツおよび学歌の理解	自校のルーツおよび学歌を知らない	自校のルーツおよび学歌の内容を知っている	自校のルーツおよび学歌の意味を深く理解し、日々の生活に関連づけて考えることができる	自校のルーツおよび学歌に含まれたノートルダム・スピリットを、自分の将来に活かす決意を持っている
自分のキャリアを意識する	ライフキャリアについて考えていない	大学時代が自分のライフキャリアの準備期間であることを知っている	単なる職業キャリアのみならず、人生や生活を包括的にとらえるライフキャリアを理解し、大学生生活はそのための貴重な準備期間であると実感している	精神的にも経済的にも自立した人間となるためのライフキャリアを意識して、有意義な大学生生活を送っている
日本伝統文化に親しむ	日本伝統文化に興味を持たない	日本伝統文化としての茶道、華道の基本を知っている	海外から見た日本伝統文化にも興味を持ち、たとえば、日本の茶道や華道が海外のティータイムやフラーアレンジメントとどう違うかが説明できる	数々の日本文化を総合的に扱うことのできる茶道、生命を文化として扱う華道を含む日本伝統文化をたしなむことで、知性と品性を兼ね備えた人間をめざしている

<p>本学が定めたND6の概要を知る</p>	<p>ND6が何かを知らない</p>	<p>ND6の項目(6つの力)を知っている</p>	<p>ND6の6つの力を理解し、大学で提供される各授業で主にどの力を高められるかを把握して授業を受けている</p>	<p>卒業までに「自分を育てる力、知識・理解力、言語力、思考・解決力、共生・協働する力、創造・発信力」という、ND6の6つの力を高めるために日々、努力している</p>
------------------------	--------------------	---------------------------	-----------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 「ノートルダム学」とは(吉田智子)、ノートルダムのミッション・コミットメントを学ぶ(シスター和田環理事長)
- 第 2 回 ノートルダムでのコミュニケーション ～学内でのマナーとエチケット～(キャリアセンター 菓子田 圭子)
- 第 3 回 学歌で学ぶノートルダム・スピリット ～英語の歌詞を理解して歌うために～(久野将健、グレゴリー・ピーターソン)
- 第 4 回 インターネット時代の情報の扱い方(1) ～大学生として求められる力～(神月 紀輔、吉田 智子)
- 第 5 回 聖母マリアの生活と現代社会(ノートルダム教育修道女会 シスタージョアンナ徐)
- 第 6 回 華道に学ぶ ～心豊かな日常生活への姿勢～(笹岡 隆甫 華道未生流笹岡家元)
- 第 7 回 自校を知り、自分の将来に役立てる(ノートルダム教育修道女会 シスターベルナルド岩井 泰子)
- 第 8 回 ノートルダムの世界ネットワーク(ノートルダム教育修道女会 シスタージュディス鎌田 諭珠)
- 第 9 回 キャリアデザインの実践 ～4年間の大学生活をプランする～(マイナビ 若松 伶奈)
- 第 10 回 茶道に学ぶ ～日本文化の入り口～(伊住 禮次朗 茶道裏千家/茶道資料館副館長)
- 第 11 回 ND6・ノートルダムで身につける6つの力～コミュニケーション力の大切さ～(吉田 智子)
- 第 12 回

- 本学の「徳と知の精神」を生きる(真田 雅子 本学学長)
- 第 13 回 女性の権利とライフデザイン(社会保険労務士 山田 真由子)
 - 第 14 回 インターネット時代の情報の扱い方(2) ～ネット社会を味方にするためには～(神月 紀輔)
 - 第 15 回 課題(礼状)提出、まとめテストの実施と振り返り。解答例や講評はmanabaにて公開(吉田 智子)
- 〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕
- (最終回の授業の中で)実施する
- 〔教育・学習の方法(Course Methods)〕
- 講義・体験学習などを併用し、毎回の授業には授業支援システム(manabaとrespon)を使う。詳細は授業時に指示するが、準備学習としてテキストやプリントを読んだり、課題に取り組んだりする学習を要する。
- 〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕
- 詳細は授業時に指示する。配付されたテキストやプリントを事前に読んでくる。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕
- 30
- 〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕
- 授業参加度30%、提出物40%、まとめテスト30%で評価する。
- 〔留意事項(Other Information)〕
- 各回の講義の順序は予定であり、講師や場所の都合で前後する可能性があるため、授業中の指示に従うこと。
- なお、ゲスト講師を招いての授業も含めて、15回すべての授業を吉田智子(徳と知教育センター教授)が統括する。〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- 『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』/徳と知教育センター/京都ノートルダム女子大学/2018//学内販売予定
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 『レーゲンスブルクの船主の娘～カロリーナ・ゲルハルディングー、イエスのマザーテレジア、ノートルダム修道女会創立者～』/シスターマルグリート塩田、シスターマグダレン野元/ノートルダム教育修道女会/1992/
- 『いけばな—知性で愛でる日本の美—』/笹岡隆甫/新潮新書/2011/
- 『女性リーダー4.0 新時代のキャリア術』/坂東眞理子/朝日新聞出版/2016/
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学B 2017年度以降入学者

GCP1100B0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

金曜2限

DPI：自分を育てる力

60

必修 クラス指定

吉田 智子 神月 紀輔 中里 郁子 久野 将健 笹岡 隆甫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、永遠的世界を見据える自校教育（徳育）と、時間的世界を見据えるキャリア教育（知育）とを組み合わせたものである。受講者はこのような多面的な学びを通して、ノートルダムの徳と知の精神の基礎を学び、知性と品性を兼ね備えた人間になろうと常に自ら努力することを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

カトリック精神・日本伝統文化・現実社会の諸相を学ぶことを通じて、ノートルダム精神の基礎を身につける。また、ノートルダムの「徳と知の精神」の体得を目指すことで、知性と品性の両方を持つ人間になる素養を身につける。

- ・ノートルダムのミッション・コミットメントを理解する
- ・自校についてルーツを含めて知り、自分のキャリアに役立てる

- ・学歌を理解し覚え、正しい英語で歌う
- ・日本伝統文化に親しむ
- ・ネット時代の情報の扱い方を知る
- ・社会人基礎力として本学が定めた ND6の概要を知る

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ノートルダムのミッション・コミットメントの理解	ミッション・コミットメントが何かを知らない	ミッション・コミットメントの存在と四つの動詞を知っている	ミッション・コミットメントの内容、特に四つの動詞の意味を深く理解している	ミッション・コミットメントの四つの動詞を、日々の生活で実践している
自校のルーツおよび学歌の理解	自校のルーツおよび学歌を知らない	自校のルーツおよび学歌の内容を知っている	自校のルーツおよび学歌の意味を深く理解し、日々の生活に関連づけて考えることができる	自校のルーツおよび学歌に含まれたノートルダム・スピリットを、自分の将来に活かす決意を持っている

自分のキャリアを意識する	ライフキャリアについて考えていない	大学時代が自分のライフキャリアの準備期間であることを知っている	単なる職業キャリアのみならず、人生や生活を包括的にとらえるライフキャリアを理解し、大学生生活はそのための貴重な準備期間であると実感している	精神的にも経済的にも自立した人間となるためのライフキャリアを意識して、有意義な大学生生活を送っている
日本伝統文化に親しむ	日本伝統文化に興味を持たない	日本伝統文化としての茶道、華道の基本を知っている	海外から見た日本伝統文化にも興味を持ち、たとえば、日本の茶道や華道が海外のティータイムやフラワーアレンジメントとどう違うかが説明できる	数々の日本文化を総合的に扱うことのできる茶道、生命を文化として扱う華道を含む日本伝統文化をたしなむことで、知性と品性を兼ね備えた人間をめざしている
本学が定めた ND6の概要を知る	ND6が何かを知らない	ND6の項目(6つの力)を知っている	ND6の6つの力を理解し、大学で提供される各授業で主にどの力を高められるかを把握して授業を受けている	卒業までに「自分を育てる力、知識・理解力、言語力、思考・解決力、共生・協働する力、創造・発信力」という、ND6の6つの力を高めるために日々、努力している

〔授業計画〕

第 1 回

「ノートルダム学」とは(吉田智子)、ノートルダムのミッション・コミットメントを学ぶ(シスター和田環理事長)

第 2 回

ノートルダムでのコミュニケーション ～学内でのマナーとエチケット～(キャリアセンター 菓子田 圭子)

第 3 回

- 学歌で学ぶノートルダム・スピリット ～英語の歌詞を理解して歌うために～(久野将健、グレゴリー・ピーターソン)
- 第 4 回 インターネット時代の情報の扱い方(1) ～大学生として求められる力～(神月 紀輔、吉田 智子)
- 第 5 回 聖母マリアの生活と現代社会(ノートルダム教育修道女会 シスタージョアンナ徐)
- 第 6 回 華道に学ぶ ～心豊かな日常生活への姿勢～(笹岡 隆甫 華道末生流笹岡家元)
- 第 7 回 自校を知り、自分の将来に役立てる(ノートルダム教育修道女会 シスターベルナルド岩井 泰子)
- 第 8 回 ノートルダムの世界ネットワーク(ノートルダム教育修道女会 シスタージュディス鎌田 諭珠)
- 第 9 回 キャリアデザインの実践 ～4年間の大学生活をプランする～(マイナビ 若松 伶奈)
- 第 10 回 茶道に学ぶ ～日本文化の入り口～(伊住 禮次朗 茶道裏千家/茶道資料館副館長)
- 第 11 回 ND6・ノートルダムで身につける6つの力～コミュニケーション力の大切さ～(吉田 智子)
- 第 12 回 本学の「徳と知の精神」を生きる(眞田 雅子 本学学長)
- 第 13 回 女性の権利とライフデザイン(社会保険労務士 山田 真由子)
- 第 14 回 インターネット時代の情報の扱い方(2) ～ネット社会を味方にするためには～(神月 紀輔)
- 第 15 回 課題(礼状)提出、まとめテストの実施と振り返り。解答例や講評はmanabaにて公開(吉田 智子)
- 〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕
- (最終回の授業の中で)実施する
- 〔教育・学習の方法(Course Methods)〕
- 講義・体験学習などを併用し、毎回の授業には授業支援システム(manabaとrespon)を使う。詳細は授業時に指示するが、準備学習としてテキストやプリントを読んだり、課題に取り組んだりする学習を要する。
- 〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕
- 詳細は授業時に指示する。配付されたテキストやプリントを事前に読んでくる。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

30

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

授業参加度30%、提出物40%、まとめテスト30%で評価する。

〔留意事項(Other Information)〕

各回の講義の順序は予定であり、講師や場所の都合で前後する可能性があるため、授業中の指示に従うこと。

なお、ゲスト講師を招いての授業も含めて、15回すべての授業を吉田智子(徳と知教育センター教授)が統括する。〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』/徳と知教育センター/京都ノートルダム女子大学/2018//学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『レーゲンスブルクの船主の娘～カロリーナ・ゲルハルディングー、イエスのマザーテレジア、ノートルダム修道女会創立者～』/シスターマルグリート塩田、シスターマグダレン野元/ノートルダム教育修道女会/1992/

『いけばな—知性で愛でる日本の美—』/笹岡隆甫/新潮新書/2011/

『女性リーダー4.0 新時代のキャリア術』/坂東眞理子/朝日新聞出版/2016/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

女性とライフキャリアA

GCP1101A0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

木曜3限

DP1:自分を育てる力

60

青木 加奈子

〔科目の教育目標(Course Description)〕

学生生活を終えた後の長い人生を「いかに生きるか」を考えるために必要な知識を得るとともに、女性の特性を認識しながら自己のキャリアデザインを考えることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題(Course Objectives)〕

自分の人生を主体的・自律的に生きるために必要な知識を身に付け、考える力を養成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション:「ライフキャリア」とはなにか?

第 2 回

ライフキャリアに「主体性」が求められる背景(わけ)

- 第 3 回 日本女性の生き方の変化
- 第 4 回 女性の「労働」を考える
- 第 5 回 グループワーク①：問題提起とグループ分け
- 第 6 回 グループワーク②：正規雇用者としてのライフキャリアの利点／問題点
- 第 7 回 グループワーク③：グループ作業
- 第 8 回 グループワーク④：グループ発表
- 第 9 回 グループワーク⑤：グループワーク総括・女性が参加するさまざまな社会活動
- 第 10 回 マネープランニングと女性のライフキャリア（ゲストスピーカーの予定）
- 第 11 回 ケアと女性のライフキャリア
- 第 12 回 女性の貧困問題
- 第 13 回 父子世帯の父の視点から考える女性のライフキャリア（ゲストスピーカーの予定）
- 第 14 回 デンマーク女性のライフキャリア戦略
- 第 15 回 グローバル化と女性のライフキャリア

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する（期末レポート）

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

<教育・学習の方法>

- ・ライフキャリアの多様性を理解する（講義）。
- ・それぞれのライフキャリアの利点や課題をグループで考え発表する（グループワーク）。
- ・人生の局面で遭遇する課題を理解したうえで、自己のライフキャリアについて考える（個人ワーク）。

<課題（レポート）のフィードバック方法>

課題（レポート）は授業中に受講生自ら発言する機会を設ける。または次回の授業で返却後、いくつかの回答については紹介し、受講生の間で共有する（場合によっては、manabaで公開する）。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業中に次回までの課題を指示する。必ず準備して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

期末レポート 40%、授業中の課題 40%、受講態度 20%

〔留意事項（Other Information）〕

- ・女性とライフキャリア「A」と「B」は同じ内容である。前期では「A」が、後期では「B」が開講となる。
- ・受講生の人数やゲストスピーカーの都合により、授業予定が変更になる場合がある。事前に授業内で連絡するので、しっかり聞いておくこと。また、時事問題を多く扱うため、学期開始後に授業内容を一部変更することもある（事前告知はする）。
- ・レジュメは授業の5日前までに「manaba」に公開する。必要であれば、プリントするなど各自で準備をすること。
- ・グループディスカッションのグループ分けは、学科や学年を交ぜて行う。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

特になし。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『女性とライフキャリア』/矢澤澄子・岡村清子（編）/勁草書房/2009/9784326653515

『大学生のためのキャリアデザイン入門』/岩上真珠・大槻奈巳（編）/有斐閣/2014/9784641174009

『国際比較 若者のキャリア』/岩上真珠（編）/新曜社/2015/9784788513464

『キャリア開発論』/武石恵美子/中央経済社/2016/9784502198410

『女性のためのライフプランニング [第2版]』/田和真希/大学教育出版/2016/9784864293921

そのほか、講義内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

女性とライフキャリアB

GCP1101BOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

木曜3限

DP1：自分を育てる力

60

青木 加奈子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

学生生活を終えた後の長い人生を「いかに生きるか」を考えるために必要な知識を得るとともに、女性の特性を認識しながら自己のキャリアデザインを考えることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

自分の人生を主体的・自律的に生きるために必要な知識を身に付け、考える力を養成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション：「ライフキャリア」とはなにか？
- 第 2 回 ライフキャリアに「主体性」が求められる背景(わけ)
- 第 3 回 日本女性の生き方の変化
- 第 4 回 女性の「労働」を考える
- 第 5 回 グループワーク①：問題提起とグループ分け
- 第 6 回 グループワーク②：正規雇用者としてのライフキャリアの利点／問題点

- 第 7 回 グループワーク③：グループ作業
 - 第 8 回 グループワーク④：グループ発表
 - 第 9 回 グループワーク⑤：グループワーク総括・女性が参加するさまざまな社会活動
 - 第 10 回 マネープランニングと女性のライフキャリア（ゲストスピーカーの予定）
 - 第 11 回 ケアと女性のライフキャリア
 - 第 12 回 女性の貧困問題
 - 第 13 回 父子世帯の父の視点から考える女性のライフキャリア（ゲストスピーカーの予定）
 - 第 14 回 デンマーク女性のライフキャリア戦略
 - 第 15 回 グローバル化と女性のライフキャリア
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する（期末レポート）

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

＜教育・学習の方法＞

- ・ライフキャリアの多様性を理解する（講義）。
- ・それぞれのライフキャリアの利点や課題をグループで考え発表する（グループワーク）。
- ・人生の局面で遭遇する課題を理解したうえで、自己のライフキャリアについて考える（個人ワーク）。

＜課題（レポート）のフィードバック方法＞

課題（レポート）は授業中に受講生自ら発言する機会を設ける。または次回の授業で返却後、いくつかの回答については紹介し、受講生の間で共有する（場合によっては、manabaで公開する）。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業中に次回までの課題を指示する。必ず準備して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

期末レポート 40%、授業中の課題 40%、受講態度 20%

〔留意事項（Other Information）〕

- ・女性とライフキャリア「A」と「B」は同じ内容である。前期では「A」が、後期では「B」が開講となる。
- ・受講生の人数やゲストスピーカーの都合により、授業予定が変更になる場合がある。事前に授業内で連絡するので、しっかり聞いておくこと。また、時事問題を多く扱うため、学期開始後に授業内容を一部変更することもある（事前告知はする）。
- ・レジュメは授業の 5 日前までに「manaba」に公開する。必要であれば、プリントするなど各自で準備をすること。
- ・グループディスカッションのグループ分けは、学科や学年を交ぜて行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『女性とライフキャリア』/矢澤澄子・岡村清子（編）/勁草書房/2009/9784326653515

『大学生のためのキャリアデザイン入門』/岩上真珠・大概奈巳（編）/有斐閣/2014/9784641174009

『国際比較 若者のキャリア』/岩上真珠（編）/新曜社/2015/9784788513464

『キャリア開発論』/武石恵美子/中央経済社/2016/9784502198410

『女性のためのライフプランニング [第 2 版]』/田和真希/大学教育出版/2016/9784864293921

そのほか、講義内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ホスピタリティ京都

GCP3500NOJ

大学

共通教育科目

2年次 3年次

2単位 前期

火曜 2限

DP5：共生・協働する力

60

吉澤 健吉 笹岡 隆甫

〔科目の教育目標（Course Description）〕

京都のもてなしの文化について考えるオムニバス形式の授業である。京都を中心に活躍するゲスト講師の方々をお迎えして話をうかがい、日本の伝統文化、および接遇の文化に対する理解を深める。

華道・茶道など日本の伝統文化を継承する方、旅館・土産物・老舗料理屋・ホテル業界など現代の京都で活躍する方たちの貴重な話をうかがい、京都とホスピタリティ（もてなし）に関わる理念と実践について、映像を活用しながら多角的また具体的に学ぶことが目標となる。

特に、日本の伝統文化を伝えてきた京都の、国内および国際的交流の歴史をふまえ、京都に受け継がれる、コミュニケーションの方法としての「もてなし」の独自性について考察し、理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・京都を中心とした日本文化とホスピタリティの関わりを知る。
- ・ホスピタリティ実践のために必要な心構えを知る。
- ・人の関わりと文化について自分なりの考えを持つことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ホスピタリティとは何か
京都産業大学文化学部京都文化学科の吉澤健吉教授が、ホスピタリティという言葉のもつ意味を解説。各回のゲスト講師についてプロフィールを紹介する。
- 第 2 回 茶の湯のおもてなし
表千家堀内長生庵の堀内紀彦宗匠（前ノートルダム小学校同窓会長）が、茶の湯のおもてなしについて講義する。
- 第 3 回 華道ともてなし① 華道の基礎知識
本学客員教授で、ノートルダム小学校OB（元同窓会長）の華道末生流笹岡の笹岡隆甫家元が、華道の基礎知識について講義する。
- 第 4 回 華道ともてなし② 華道の精神
華道末生流笹岡の笹岡隆甫家元が、華道の精神について講義する。
- 第 5 回 華道ともてなし③ 華道と人の関わり
華道末生流笹岡の笹岡隆甫家元が、華道と人との関わりについて講義する。
- 第 6 回 老舗旅館のおもてなし
本学の小学校から女子大までのOGで、京都を代表する老舗旅館女将の西村明美氏が、旅館経営を通じた伝統と革新について講義する。
- 第 7 回 和菓子とおもてなし
本学OGで、聖護院ハツ橋総本店専務の鈴鹿可奈子氏が、伝統のハツ橋と新商品nikinikiを例に伝統と革新について講義する。
- 第 8 回 華道ともてなし④ 華道と社会
華道末生流笹岡の笹岡隆甫家元が、華道と現代社会の関わりについて講義する。
- 第 9 回 華道ともてなし⑤ 華道と京都の環境
華道末生流笹岡の笹岡隆甫家元が、華道と京都の環境について講義する。
- 第 10 回 京の食文化～私のこだわり
テレビでも知られる南禅寺畔の老舗懐石料理屋、瓢亭主人の高橋英一氏がだしのとおり方に始まる懐石料理の極意を講義する。
- 第 11 回 花街のおもてなし
京都最大の花街、祇園甲部のお茶屋「美の八重」社長の坂田憲治氏が、本物の芸妓さんとともに花街のおもてなしについて講義する。
- 第 12 回 老舗ホテルのおもてなし

京都最古の老舗ホテル、ウェスティン都ホテル京都客室支配人の大西正夫氏が、外資や東京のホテルとは違う、京都の老舗ホテルのおもてなしについて講義する。

- 第 13 回 清水寺とおもてなし
ノートルダム小学校OBで、京都を代表する観光寺院、清水寺執事補の大西英玄氏が、清水寺でのおもてなしについて講義する。
- 第 14 回 京都のおもてなし総論
京都産業大学文化学部の吉澤健吉教授が、世界でもトップクラスの京都のおもてなしの特徴について講義する。
- 第 15 回 まとめ
京都産業大学文化学部の吉澤健吉教授が、この講座のまとめと現代におけるホスピタリティの意義について講義する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義を通して、多様なもてなしの理念や実践を知り、京都文化の理解を深める。
- ・考えをまとめる力を養うために、毎時間、講義の内容に対する意見をまとめる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・授業で紹介した参考文献などを実際に自分で読んでおく。
- ・紹介した参考文献以外にも読書体験を広げ、京都の文化について考えを深める。
- ・授業で紹介された京都の地を実際に自分で歩いてみる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、平常点（授業への参加度合いなど40%）、学期末のレポート（60%）により総合的に行う。出席率が学期全体の3分の2に満たない者は評価の対象としない。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・定期試験に代わり、レポートを提出する。
- ・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- 『いけばな—知性で愛でる日本の美』/笹岡隆甫/新潮新書/2012/9784106104428
『百花の教え』/笹岡隆甫/ぶんか社/2010/9784821142972
『美的生活のヒント』/笹岡隆甫/マガジンハウス/2007/9784838717811
『京都・瓢亭 四季の日本料理』/高橋英一/NHK出版/2014/9784140332863

『おこしやす 京のおかみさん』京都新聞社編/京都新聞出版センター/2001/4763804995

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり 担当の吉澤健吉京都産業大学教授はジャーナリストとして長年新聞社で実務経験あり。ゲスト講師も各分野における実務経験のある第一人者を招いている。

外国文学

GEH1200NOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

火曜1限

DP2：知識・理解力

60

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

アラブ文学とはアラビア語で表現された文学をさす。その起源はイスラームが興る以前の西暦6世紀に遡る。それ以来、アラブ文学は現代に至るまで豊かで固有の文学伝統を築いてきた。本科目では代表的ジャンル（聖典、詩、物語など）の各作品（和訳）を注意深く読むことによって、その文学伝統を理解し、内容の考察及び解釈の仕方を学ぶ。具体的には、アラブ文学に大きな影響を与えてきたイスラームの聖典「コーラン」、もっとも長い歴史をもつアラブ古典詩、そして今や世界文学となった「アラビアンナイト」を扱う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 古典アラブ文学（コーラン・詩）

2 アラブ物語文学（アラビアンナイト）

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 イスラーム、コーラン、アラブ古典詩
- 第3回 アラビアン・ナイトの背景
- 第4回 アラビアン・ナイト序話
- 第5回 ロバと牡牛の話
- 第6回 アラジンと魔法のランプ パート1
- 第7回 アラジンと魔法のランプ パート2
- 第8回 アラジンと魔法のランプ パート3
- 第9回 ディズニー映画「アラジン」
- 第10回 物語と映画との比較
- 第11回 アラジンと魔法のランプ 全体の理解
- 第12回 ドラマ「アラジン」
- 第13回 アラビアン・ナイト終話 短い版
- 第14回 アラビアン・ナイト終話 長い版
- 第15回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 文学テキストの時代背景の理解
- 2 文学テキストの読解
- 3 文学テキストと映画の比較

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

文学テキストを事前に読み、課題プリントの設問に答える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加・課題プリント40%、試験60%

出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うことがある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

東アジア近現代史

GEH1202NOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

水曜1限

DP2：知識・理解力

60

根岸 智代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

中国をはじめとするアジア諸国の現状を文化や歴史的視点などから考察する。アジア諸国の歴史や現在抱えている問題点、日本との関係などについて提示する。そこから、今後アジア諸国と日本との関係をどのように築くべきかという問題について理解を深めることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現代東アジア地域の実情を理解し、日本とのかかわりを考察するための視点

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第1回 中国 中国概観

広大な中国全土、そこに住む民族を紹介する。

- 第 2 回 台湾の風土、歴史
台湾の風土、文化、歴史を紹介する。
- 第 3 回 戦後台湾と日台関係
1945年以降の台湾の歴史、現在の台湾を紹介し、これからの日台関係を考察する。
- 第 4 回 香港の歴史・日本との関わり
香港の歴史、日本と香港の関わりを紹介し、今の香港が置かれている立場を考察する。
- 第 5 回 香港・マカオの歴史
第4回で考察した現在の香港の状況を考察し、またマカオの歴史も紹介する。中国に返還されたマカオと香港の問題にも焦点をあてて考察する
- 第 6 回 シンガポール
東南アジアに位置するシンガポールの風土、歴史を紹介する。観光地として有名なシンガポールだが、さまざまな民族がまじりあう土地でもある。民族が共存するポイントは何かを考察してもらいたい。
- 第 7 回 韓国
戦後韓国の発展と日韓関係
1930年代からの日本と韓国の歴史について考察する。
- 第 8 回 韓国の歴史と文化
引き続き、韓国の歴史について紹介し、将来の日韓関係はどうあるべきかを考察してもらいたい。また韓国の文化事情にも触れたい。
- 第 9 回 ベトナム（1）
ベトナムの歴史について紹介する。またベトナムの文化事情にも触れ、日本とベトナムとの関係についても考察してもらいたい。
- 第 10 回 中国近現代史（1）
清朝末期、アヘン戦争から中華民国までの歴史を概括する。
- 第 11 回 中国 近現代史
中華民国から中華人民共和国へ：中華民国成立後、日中戦争を経て、共産党による中華人民共和国が1949年に成立するまでの概括する。
- 第 12 回 現代中国（1）
1950年代～1970年代の中国
建国後から文化大革命の混乱期までを紹介する。
- 第 13 回 現代中国（2）
改革開放初期の中国 1980年～2000年の目覚ましい発展をとげていった中国について紹介する。
- 第 14 回 現代中国（3）
現代の中国を紹介し、これからの日中関係についてどうあるべきかを考察してもらいたい。
- 第 15 回 今までのまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・授業方法
①授業はパワーポイントを利用した講義形式で実施する。
②随時、関連する映像資料を見る。
③プリントを配布する。
- ・学習方法
①講義を通して、東アジアに関する理解を深める。
②授業で取り上げられた個別の内容を学習し、定期試験を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回、授業後に配布した資料等で復習し、不特定の課題および定期試験に備えること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績は、定期試験（70%）、授業時の課題（数回実施、30%）の総合評価とする。また欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として成績評価の対象としない。

〔留意事項（Other Information）〕

授業予定は授業の進行状況に応じて多少前後する可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『概説近現代中国政治史』/浅野亮 川井悟/ミネルヴァ書房/2012年/978-4623061006

『シリーズ中国近現代史1～6』/吉澤誠一郎、川島真、石川禎浩、久保亨、高原明夫、西村成雄/岩波文庫/2010年/別途指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本文学

GEH1250N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP2：知識・理解力

60

武田 悠希

〔科目の教育目標（Course Description）〕

日本文学の表現と、文化背景について理解する。第一に、言語で表現された文学の特徴について考える。講義予定の後半では、アニメ・ドラマ・映画など、物語を表す他ジャンルの表現と比較して、言語表現の独自性や可能性を理解する。第二に、国際交流の中で形づくられてきた、日本文学の特徴について考える。古代から近現代まで、日本は当時交流のあった国の文化の影響を受けながら、独自の表現

を生み出してきた。その歴史と、具体的な表現の特徴を理解する。これら二つの視点をふまえ、日本文学に対する概説的知識を身につけ、言語表現としての文学を分析し読解できることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・文学表現の鑑賞方法を学び、表現の豊かさを理解する。
- ・具体的な文学表現を読解し、日本文学の特徴を理解する。
- ・文学表現の背景にある、日本文化の特徴を理解する。
- ・近年の批評・研究を参照し、日本文学の今日的意義を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 文学とは何か、授業の進め方と評価方法
- 第 2 回 明治20年代の日本語表現— (1) 句読法—
- 第 3 回 明治20年代の日本語表現— (2) 子どものための読物と表現—
- 第 4 回 近代的出版産業の黎明期— (1) 読者の拡大—
- 第 5 回 近代出版産業の黎明期— (2) 雑誌・視覚効果の変遷—
- 第 6 回 芥川龍之介「蜘蛛の糸」の概要と工夫
- 第 7 回 芥川龍之介「蜘蛛の糸」の言語表現・読書体験
- 第 8 回 芥川龍之介「蜘蛛の糸」の特徴(原典、映像表現との比較)
- 第 9 回 和製ファンタジーの機能
- 第 10 回 上橋菜穂子「精霊の守り人」を読む(1)—複数の文化・ものの見方を描く—
- 第 11 回 上橋菜穂子「精霊の守り人」を読む(2)—異文化体験をさせるための表現—
- 第 12 回 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」と映像表現の相関関係(1)—アニメ版『銀河鉄道の夜』の特徴—
- 第 13 回 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」と映像表現の相関関係(2)—映画表現からの影響—
- 第 14 回 現代作品における小説表現の試み
- 第 15 回 近代小説の表現の特徴

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・配布したプリントにより、様々な文学表現に実際に触れ、講義をとおして、文学表現に対する理解を深める。
- ・考えをまとめ表現する力を養うために、毎時間の終わりに、講義の内容に関わる簡単なワーク作業を行うか、または感想・意見をまとめて提出する。

〔課題に対するフィードバックの方法〕

- ・毎時間の終わりに提出する意見文(質問・感想も含む)については、次回以降の授業冒頭で適宜口頭によりフィードバックする。なお、授業の内容によっては、意見文に書かれた質問や意見をプリントに記載して配布する回もある。

- ・なお、期末レポートのテーマについても、授業前後の時間に随時質問や相談を受け付ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・授業で紹介した文学作品や参考文献を読解する。
- ・紹介した作品以外にも読書体験を広げ、日本語表現について自分の考えをまとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(30%)、毎時間の意見文(30%)、学期末のレポート(40%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・試験に代わり、レポートを提出する。
- ・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

※授業の進捗状況や参加者の様子などを判断した上で、授業予定を一部変更する可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配付

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『読むための理論』/石原千秋・他/世織書房/1991/9784906388011

『アダブテーションの理論』/リンダ・ハッチオン/晃洋書房/2012/9784771022676

『小説の方法』/真銅正宏/萌書房/2007/9784860650285

『現代文学理論』/土田知則/新曜社/1996/9784788505797

『超入門!現代文学理論講座』/蓼沼正美/筑摩書房/2015/9784480689467

6.小森陽一・他『岩波講座文学』(岩波書店、2004、ISBN: 9784000112017)

その他、授業内で適宜参考文献を紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

精霊の守り人・「守り人」シリーズ 公式サイト 上橋菜穂子 偕成社

<https://www.kaiseisha.co.jp/special/moribito/>

上橋菜穂子 公式サイト

<http://uehashi.com/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本の宗教

GEH1251N0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 後期
水曜 4限
DP2：知識・理解力
60
小林 健太

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本の宗教を学ぶことは、日本の文化を学ぶことにつながります。日本には古来から存在する習俗に、仏教やキリスト教などの外来の宗教が融合して文化を形成してきました。そこで本講義では、日本においてどのような宗教が存在し、歴史・文化にどのような影響を与えてきたかを考えたいと思います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 「宗教」という講義ですが、教義の内容を学ぶのではなく、日本の歴史のなかでどのような役割を果たしていたか、という問題を考えます。
2. 日本の「宗教」を通じて、自分の生活がそれにより成立している側面を理解してもらいます。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス 宗教とはなんだろうか
- 第 2 回 文字を持たなかった時代の信仰
- 第 3 回 神話と宗教
- 第 4 回 神仏習合
- 第 5 回 鎌倉新仏教の登場
- 第 6 回 一向一揆・武将たちの信仰
- 第 7 回 キリシタンの問題
- 第 8 回 幕府の宗教政策
- 第 9 回 流行神の誕生
- 第 10 回 廃仏毀釈と仏教教団
- 第 11 回 明治政府の宗教政策
- 第 12 回 戦争と宗教
- 第 13 回 現代の宗教
- 第 14 回 日常生活のなかの宗教—初詣・お墓参り
- 第 15 回 総まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業方法

(イ) パワーポイント・配布プリントを使用し、基本的に講義形式で行う。

(ロ) 講義は、毎回設定したテーマのなかで1つのトピックをとりあげて深く考察する。

(ハ) 1回程度、小課題を提出してもらう。

(ニ) 毎講義終了時に、出席確認を兼ねて小ペーパーに意見等を記述してもらう。

(ホ) コメントカード等の質問に対して適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各テーマに関係した著書・論文・メディア情報などより、自分で問題点・疑問点を考えておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 評価は、期末レポート (70%)、小課題 (15%)、コメントカード (15%) によって行う。
2. 講義3分の2以上の出席を期末レポートの提出資格とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

近年、学生の読書量減少が問題となっているので、講義時に論文などを読んでもらい、理解力や表現力も身につけてもらいたいと考えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

NHK文化センター梅田教室、朝日カルチャーセンター芦屋教室で、中世～近代の政治・宗教に関する古文書講座を担当している。また、本願寺史料研究所で、中世～近代の仏教を中心とした宗教関係史料の調査・整理作業に従事。

ヨーロッパ近現代史

GEH1252N0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 後期
月曜 3限
DP2：知識・理解力
60
上山 益己

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

受講生はこの授業を通じて、

1. ヨーロッパ近現代史の基本的な知識を身につけることができる。
2. ヨーロッパ世界の拡大が世界に与えた影響を理解できる。
3. 近年のヨーロッパ情勢について、歴史的に説明することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. ヨーロッパ近現代史の基本的知識を得る。
2. グローバルな視点を重視し、ヨーロッパとアジアやアメリカとの関係にもふれる。
3. 現代の国際社会の諸問題について、その背景を歴史的に理解できるようにする。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入：ヨーロッパの歴史を学ぶ意味
- 第 2 回 ヨーロッパによる海外進出の開始
- 第 3 回 世界交易における英仏の覇権争い
- 第 4 回 「啓蒙の光」と近代思想の誕生
- 第 5 回 二つの革命～アメリカとフランス～
- 第 6 回 ナポレオンの帝国
- 第 7 回 近代化の伝播
- 第 8 回 ウィーン体制の崩壊とドイツ・イタリアの統一
- 第 9 回 植民地帝国という野望の衝突
- 第 10 回 抗うアジア・アフリカの人びと
- 第 11 回 第一次世界大戦の激震
- 第 12 回 ドイツの荒廃とナチスの台頭
- 第 13 回 第二次世界大戦の悪夢
- 第 14 回 冷戦、そして現代へ
- 第 15 回 まとめ：近代ヨーロッパの光と影

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業の実施方法
 - (1) 授業は講義形式で行う。
 - (2) プリントを配布し、それをもとに授業を進める。
 - (3) 理解を深めるため、視覚資料 (画像・写真・映像など) を積極的に利用する。
2. 学習の方法
 - (1) 授業中は口頭で話す内容も含め、積極的にノートをとること。
 - (2) 授業後にはテキストやノートに基づいて復習すること。
 - (3) 不明な点は、各回の授業終了後に質問すること。

3. 試験に対するフィードバックの方法

試験では、単なる国名や人物名ではなく、西欧近現代史の全体的な流れを把握しているかどうか問われる。このため、授業の内容をしっかりとノートなどに取り、これをよく理解する必要がある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 事前に前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。
2. 授業で紹介する文献・映像作品を鑑賞すると理解が深まる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (90%) に受講態度 (10%) を加味して総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- (1) 授業の進度や受講生の状況に応じて、予定を変更する場合がある。
- (2) 講義中の私語や携帯電話の使用など、他の受講生に迷惑を及ぼすと考えられる行為には、退室を命じるなど厳格に対処する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『アニメで読む世界史』/藤川隆男 (編) /山川出版社/2011/9784634640740

『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』/小山哲ほか (編) /ミネルヴァ書房/2011/9784623059386

『興亡の世界史 近代ヨーロッパの覇権』/福井憲彦/講談社/2017/9784062924672

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文化人類学

GEH1253N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

火曜2限

DP2 : 知識・理解力

60

橘 健一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

文化人類学は、自分たちにとって一見わけのわからない「異文化」つまり「他者」の理解を目指し、展開してきた学問です。その文化人類学を学ぶということは、自己と他者のつながりを考えることであり、それは自己を開いていくことにもつながります。

この授業では、文化人類学の議論や調査手法を紹介し、さらに「自己たちを見つめ直すフィールドワーク」(アクティブ・グループ・ラーニング) を実際におこなうことで、既存のものごとの意味や自己の枠を解体して、新たな世界を創り出す力を涵養することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・文化とは何か、文化にはどのような問題が関わるのか理解する。
- ・文化人類学にとってのフィールドワークの意義を理解する。

- ・フィールドワークの歴史的な展開と具体的な手法を理解し、それを身につける。
- ・現代社会の問題点を理解し、将来に向けた新たな道筋を構想できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己の思考や行為を見つめ直すことができない。	自己の思考や行為を分析できる。	自己の思考や行為を分析した上で、その限界を知ることができる。	自己の思考や行為を見つめ直し、新たな世界を創造的に構築できる。
知識・理解力	議論の断片しか把握していない。	議論の大筋を把握している。	議論の歴史的展開を理解している。	議論の歴史的展開を理解したうえで、現状を反省的に捉えることができる。
思考・解決力	事例を分析することができない。	事例を並べて、纏めることができる。	事例を抽象化し、不変的な枠組みを見いだすことができる。	事例から見いだした不変的な枠組みをさらに展開することができる。
共生・協働する力	意見交換することができない。	意見交換して、記録することができる。	意見交換して、全体を纏めることができる。	意見交換して、相互の議論を上げることができる。
創造・発信力	観察、聞き取りが十分にできない。	観察、聞き取りした事実を記録することができる。	観察、聞き取りした事実全体を纏めることができる。	観察、聞き取りした事実と他の事象とを結びつけて論じることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 他者との出会い
コンタクトゾーンと挨拶を考える
- 第 2 回 資料の蒐集と概念化
記憶・記録とフィールドワークを考える
- 第 3 回 文化の分類と一覧表
定義、分類と質問作りを考える
- 第 4 回 地理的探検と地図
スケールと景観を考える
- 第 5 回 文化の伝播と分布
中心と周辺を考える
- 第 6 回 民俗と起源
聞き書きと心性を考える
- 第 7 回 機能主義と人類学

- 地位と役割を考える
 - 第 8 回 構造主義と人類学
言語と意味を考える
 - 第 9 回 神話と象徴
出来事と解釈を考える
 - 第 10 回 儀礼と身体加工
大人になること、女性になることを考える
 - 第 11 回 贈与・交換と人類学
やり取りと道徳を考える
 - 第 12 回 国民国家と人類学
民族と国民を考える
 - 第 13 回 産業化の進展と人類学
ファッションと個性を考える
 - 第 14 回 ハビトゥスと人類学
良い・悪い趣味と身体を考える
 - 第 15 回 世界をどう開くのか
世界の意識化と改編を考える
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
毎回、資料を提示、テーマを解説した上で、受講者個人やグループの経験に沿った記述、分析を求めた上で、その都度、解説をおこないながら、授業を進める。受講者個人の主体的な関わりとグループ内での協力が求められる。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
授業時間内で消化しきれない課題を、授業時間外に課すことになるので、しっかりこなして、提出して欲しい。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
毎回の授業時間内の課題に加えて、授業時間外の課題の内容を確認し、授業の参加度、理解度を評価する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
この講義は、昨年度までに比べてより実践的な内容で、小テストも実施しないが、授業時間中に多くの作業を求めているので、留意の上、受講して欲しい。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
テキストは用いないが、資料やレジュメを適宜配布する。
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『発想法 改版』/川喜田二郎/中公新書/2017/4121801369
『フィールドワーク入門—地域調査のすすめ』/市川健夫/古今書院/1985/4772213651
『新版 民俗調査ハンドブック』上野、福田、高梨、宮田編/吉川弘文堂/1987/4642072683
『エスノメソドロジー—社会学的思考の解体』/ガーフィンケル/せりか書房/1987/4796701494
『言葉と物—人文科学の考古学』/M. フーコー/新潮社/1974/410506701X

〔参考URL(URL for Reference)〕

特になし

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

1997年国際交流基金、アジア理解講座「ネパールを知ろう」
講師

1995年日本ネパール協会、ネパール語講座講師

身近な心理学

GEH1400N0J

大学
共通教育科目

1年次

2単位 前期

火曜3限

DP4：思考・解決力

60

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学は人間の行動・心理を科学的な手法で理解しようとする学問であるが、心理学で取り扱う問題意識は、そのほとんどが日常生活で感じることや疑問に内在される。本授業では、初めて心理学を学ぶ学生を対象に、心理学について、日常生活での問題意識を例に挙げながら、基礎的な心理学理論および研究法、心理的支援の方法と実際について解説する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。
- 2 知覚・学習・記憶のメカニズムを理解する。
- 3 人の成長・発達と心理との関係について理解する。
- 4 他者との関わり方や他者に対する認知について理解する。
- 5 日常生活と心の健康との関係について理解する。
- 6 心理的支援の基礎的方法について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 心理学とは
- 第 2 回 ものの見え方、見方の心理学
- 第 3 回 学習の心理学
- 第 4 回 記憶の心理学
- 第 5 回 動機づけの心理学
- 第 6 回 感情と欲求の心理学
- 第 7 回 性格の心理学
- 第 8 回 発達の心理学 (子どもの発達)
- 第 9 回 発達の心理学 (青年期の発達)
- 第 10 回 親子関係の心理学
- 第 11 回 友人関係・恋愛関係の心理学
- 第 12 回 ジェンダー・セクシュアリティの心理学
- 第 13 回 集団行動の心理学
- 第 14 回 日常生活とこころの健康

第 15 回 人を理解するためのアセスメントと心理的支援
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ power pointを使用し、主に講義形式で授業を進める。
- ・ テキストは使用せず、毎回レジュメを配布する。
- ・ 予習課題や授業後の振り返り課題への回答を求める。
- ・ 社会福祉士や精神保健福祉士の「心理学理論と心理的支援」に関する過去問に取り組む機会を作る。
- ・ 課題 (テスト) については、授業内に解説を行うことでフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ 予習課題への回答を求める
- ・ 日常行動や社会生活と照らし合わせて、身近に心理学を理解するために、一般的読者を対象にした心理学の入門書を読んでみることを勧める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

最終テスト (80%)、授業の振り返りや課題 (20%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内容に関する疑問や不明な箇所があれば積極的に質問し、また、自分で心理学文献・辞典・事典を調べて理解するように努めてほしい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しない。配布資料を用いる。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生命倫理

GEN1150N0J

大学
共通教育科目

1年次

2単位 後期

月曜3限

DP1：自分を育てる力

60

松井 吉康

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「臓器移植」「薬害」「障がい者問題」さらには女性の人生にとって大きな問題である「妊娠、出産、中絶」といった「リプロダクティブヘルス」に関係する事柄について、その背景となる基本的知識を習得し、それらを通して自らの生命観を捉え直してもらおう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現代社会における善悪の理解、先端医療技術についての知識の習得、経済原理と生命の尊厳、リプロダクティブヘルスについての基礎知識の習得、障がい学、「私の生命」へのまなざし

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 倫理学とは
- 第 3 回 現代社会の善悪の基準
- 第 4 回 薬害
- 第 5 回 差別を知る
- 第 6 回 卵子老化
- 第 7 回 出生前診断
- 第 8 回 様々な障がい
- 第 9 回 ダウン症
- 第 10 回 中絶、減胎手術
- 第 11 回 性と生
- 第 12 回 戦争 (1) 沖縄戦
- 第 13 回 戦争 (2) 沖縄の戦後
- 第 14 回 新型うつ
- 第 15 回 「私」と「私の生命」

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

倫理学についての基本的知識を習得した後、様々な問題についてドキュメンタリーを見せ、それらについて考えてもらう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

普段から自分の身の回りで起こっている出来事やニュースなどで報じられる医療問題、社会問題について関心を持つようにしておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

100パーセント、最終レポートで評価する。レポートを執筆する際には、問題を自分の問題として捉え、あくまでも自分の頭で考えることが大切である。したがって評価もまた、各人が「どれだけ自分の頭で考えたか」で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

出来るだけ質疑応答の多い授業にしたいと思っています。教師が毎回、様々な問いを投げ掛けますが、学生の側からも色々な質問や発言が出てくる事を期待しています。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

地球と宇宙の科学

GEN1200N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

木曜 5限

DP2: 知識・理解力

60

玉井 雅人

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

地球環境がどのように機能しているのかを学び、その科学的な理解を深めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 地球内部の構造と大地の動きについて理解し、それに基づいて、地殻変動現象(地震・火山活動・造山運動)のしくみを説明できる。
2. 大気と太陽エネルギーの性質について理解し、それに関連した地球環境問題(オゾン層の破壊・地球温暖化)を考えるための科学的基礎を養う。
3. 地球形成時と現在の地球環境の比較を通じて、大気の進化と生命との関係性を概観できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・地球環境とは?
- 第 2 回 地球内部の構造 1 (地震波の性質)
- 第 3 回 地球内部の構造 2 (地球内部の大構造)
- 第 4 回 アイソスタシー (大陸と海洋の地下構造)
- 第 5 回 大陸移動説
- 第 6 回 海洋底拡大説
- 第 7 回 プレートテクトニクス
- 第 8 回 プレート境界での地殻変動現象 (地震・火山活動・造山運動)
- 第 9 回 日本列島での地殻変動現象 (地震・火山活動・造山運動)
- 第 10 回 大気と太陽エネルギー
- 第 11 回 大気による紫外線の吸収
- 第 12 回 地球の熱収支と温室効果
- 第 13 回 地球の誕生
- 第 14 回 大気の進化と生命 1 (酸素の発生)
- 第 15 回 大気の進化と生命 2 (二酸化炭素の固定)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法：講義形式で行う。必要に応じて資料プリントを配付する。
2. 学習方法：授業中は、講義内容を、その場で理解するように努めること。授業後には、ノートや資料プリントを見直して、理解を確認しておくことが望ましい。
3. 課題に対するフィードバックの方法：授業中に、適宜コメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ノートや資料プリントを見直して、前回までの講義内容を理解しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (学期末の筆記試験により、講義内容全体の理解度を判断する) (80%)

平常点 (講義内容の簡単なまとめや感想により、授業への集中度を判断する) (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業予定は、変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『地震・プレート・陸と海-地学入門-』/深尾良夫/岩波書店/1985/9784005000920

『新版地球進化論』/松井孝典/岩波書店/2010/9784006002039

その他は、必要があれば授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

身近な自然科学

GEN1400N0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 前期
火曜 2限
DP4：思考・解決力
60
定員32人
小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象を理解を深めることを目的とする。本講義を通して、日常世界を科学の目でも見るようになることを目指したい。

このような姿は、現在重視されている「科学的リテラシー」へとつながるものである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・身近に見られる科学的現象に関心をもつことができる。
- ・身近な科学的現象から基礎的な科学的知識の理解を深めることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	講義で扱った科学的現象や事例について、説明することができない。	講義で扱った科学的現象や事例について、おおまかに説明することができる。	講義で扱った科学的現象や事例について、適切に説明することができる。	レベル3に加え、身近な科学的現象や事例に関心をもち、進んで調べ、そのことについて説明することができる。
思考・解決力	身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象を適用して考え、表現することができない。	教員の助言に基づき、身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象を適用して考え、表現することができる。	身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象を適用して考え、表現することができる。	レベル3に加え、これから遭遇する問題や意思決定のために、科学的知識を適用して考えることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 日本付近の気象
- 第 3 回 気象情報とその利用
- 第 4 回 人体①：消化器系 (口～胃)
- 第 5 回 人体②：消化器系 (十二指腸～肛門)
- 第 6 回 人体③：呼吸器系
- 第 7 回 遺伝
- 第 8 回 音
- 第 9 回 光
- 第 10 回 とける
- 第 11 回 植物の多様性 (学外活動)
- 第 12 回 調べ学習① (テーマ決定、資料収集)
- 第 13 回 調べ学習② (まとめ・発表資料の作成)
- 第 14 回 発表
- 第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・講義に加え、観察・実験、クラフト活動を行う予定である。
 ・課題レポートについては、教員によるコメントや受講者同士の相互評価によりフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・授業資料に基づいて、内容の復習をすること。
 ・授業時に、トピックと関連したテーマを複数提示するので、各自で選択して調べておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題レポート70%，授業参加度 (responにより振り返りコメント) 30% で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

・受講者の関心や人数、教材の準備状況によって学習内容を変更することがあります。

・クラフト活動等を行うため、のり、はさみ、カッターを持参すること。

・学外活動を行う予定である。それに伴う交通費、入場料等は受講生負担なので留意すること (参考：昨年度は府立植物園で実施し、入場料200円を自己負担)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし

授業の資料は、適宜提示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

その都度、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

暮らしの統計学

GEN1450N0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 2単位 前期
 火曜3限
 DP4：思考・解決力
 60
 後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野であり、また、企業においても、数学の中で学んでもらいたい分野の上位にあげられることが多い。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを基に、統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統計データの種類や集計法の理解
2. グラフの種類と特徴の理解

3. 統計データの代表的な指標の理解

4. 平均値の比較と連続変数の関連性の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				学んだ統計の手法をもとにより高度なレベルの統計手法を学べる
知識・理解力				統計の手法ごとに何を分析できるかを理解している
言語力				統計の手法を自らの言葉で説明できる
思考・解決力				データに対して適切な分析手法を選び、実施することができる
共生・協働する力				分析によって得られた結果を文章にまとめ、統計を知らない人に伝えることができる
創造・発信力				問題解決のために、今あるデータに加えて足りないデータを集め、分析できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 データの取得
- 第 3 回 データの入力
- 第 4 回 様々なグラフ
- 第 5 回 代表値
- 第 6 回 分散・標準偏差・標準誤差
- 第 7 回 相関関係と因果関係
- 第 8 回 帰無仮説とその棄却
- 第 9 回 2変数の比較
- 第 10 回 分布
- 第 11 回 回帰
- 第 12 回 分散分析 (1) 主効果

- 第 13 回 分散分析 (2) 交互作用
- 第 14 回 回帰分析を用いた交互作用の検定
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

PowerPoint、Excelなどを使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。また、授業時に簡単な演習を行ってもらおう。次回の授業の最初に、演習の内容について、復習、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業終わりに次回の予告をするので、インターネット検索などにより、次回のトピックのあらましをつかんでおく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題レポートをほぼ毎授業提出してもらおう。テストは行わず、提出物(100%)に基づき評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『統計数字を読み解くセンス』/青木繁伸/化学同人/2009/4759813272

『悩めるみんなの統計学入門』/中西達夫/技術評論社/2010/4774144702

『マンガでわかる統計学』/高橋信著/トレンド・プロマンガ制作/オーム社/2004

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

統計を使った量的研究に関する論文を国際学術誌に複数掲載している。

情報科学入門A 2017年度以降入学者

GEN1451A0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

金曜2限

DP4: 思考・解決力

60

定員26人

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

2020年度から小学校でのプログラミング教育が始まる。小学校でのプログラミング教育は、コンピュータに関する新しい教科が設けられるのではなく、算数や理科など既存の教科の中で、プログラミングを取り入れた学習が実施される。さらに、家庭においても子どものプログラミング的思考の能力を育む重要性も高まっている。

このような背景のもと、この授業では我々が毎日使うコンピュータ(PC、スマホ、タブレットなど)の基盤になっている情報科学の理論や原理の第一歩を、コンピュータの部品(LED、スイッチ、マイコン等)を使った実験を通して具体的に学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. コンピュータの入出力の理解
2. コンピュータの内部でのデータの表現方法の理解
3. littleBitsなどを使った実験によるコンピュータのしくみの理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 コンピュータと日常生活(1)
ガイダンス、コンピュータの種類、コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの概念
- 第 2 回 コンピュータと日常生活(2)
コンピュータへの入力情報と処理内容、入力と出力をlittleBitsなどで実験
- 第 3 回 コンピュータのデータ表現(1)
コンピュータの数値の表現、コンピュータと2進数
- 第 4 回 コンピュータのデータ表現(2)
データをLEDのon/offで送信するための実験装置を作ろう
- 第 5 回 コンピュータのデータ表現(3)
コンピュータの文字の表現、文字コードとは、データのon/offで文字を送信しよう
- 第 6 回 コンピュータのデータ表現(4)
コンピュータの画像の表現、画像の2値化、色の表現 (RGB値)

- 第 7 回 コンピュータの仕組み(1)
コンピュータ内部の階層構造 ～最下位が「ビットと電気信号」、最上位がアプリケーション～
- 第 8 回 コンピュータの仕組み(2)
論理回路入門、littleBitsの実験で論理回路を理解
- 第 9 回 コンピュータの仕組み(3)
加算回路入門、littleBitsの実験で加算回路（半加算回路）を理解
- 第 10 回 コンピュータの仕組み(4)
コンピュータの動作（5大装置、プログラム内蔵方式、CPU）
- 第 11 回 コンピュータの仕組み(5)
コンピュータの記憶装置、入出力装置
- 第 12 回 インタラクティブ作品制作(1)
littleBitsなどを用いてインタラクティブ作品を制作。工作や手芸材料も利用
- 第 13 回 インタラクティブ作品制作(2)
技術とアートの融合した作品に仕上げる
- 第 14 回 インタラクティブ作品制作(3)
インタラクティブ作品の発表としくみの議論
- 第 15 回 筆記テストとまとめ
(テストの終了後に講評をすると同時に、manabaに解答例を公開)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義に加えて演習としての実験も取り入れて学習する。コンピュータのしくみを、コンピュータの部品などを使った実験を通して学ぶ。この実験を通して、なぜコンピュータがプログラム通りの動作しかできないのかについても理解する。

実習として、かわいくしたLEDの光らせ方で文字を送信したり、littleBitsという「電子回路を磁石でつないで確認できるキット」を使った実習などの各種の実験を通して情報科学の基礎を学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で扱う内容に関連するテキスト記述を、事前に読んでくる。特に、実験をする場合はテキストを読むことで、実験の意義が理解できる。また、授業で実施した実験内容を記録として書き込んでおくことで、次回の授業の準備学習となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、提出課題 (20%)、テスト (50%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

毎回の授業が継続した実習や演習になっているので、欠席すると授業が理解できなくなる可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『情報の表現とコンピュータの仕組み[第5版]』/青木征男/ムイスリ/2014/9784896412307/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ルビィのぼうけん[コンピューターの国のルビィ]』/リンダ・リウカス/翔泳社/2017/

『ルビィのぼうけん[こんにちは! プログラミング]』/リンダ・リウカス/翔泳社/2016/

『littleBitsではじめる電子工作』/田中正吾/工学社/2016/

『ティンカリングをはじめよう～アート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ～』/Karen Wilkinson 他/オライリー・ジャパン/2015/

『コンピュータを使わない情報教育 アンプラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進 監訳/イーテキスト研究所/2007/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報科学入門B 2017年度以降入学者

GEN1451B0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

金曜4限

DP4: 思考・解決力

60

定員26人

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

2020年度から小学校でのプログラミング教育が始まる。小学校でのプログラミング教育は、コンピュータに関する新しい教科が設けられるのではなく、算数や理科など既存の教科の中で、プログラミングを取り入れた学習が実施される。さらに、家庭においても子どものプログラミング的思考の能力を育む重要性も高まっている。

このような背景のもと、この授業では我々が毎日使うコンピュータ(PC、スマホ、タブレットなど)の基盤になっている情報科学の理論や原理の第一歩を、コンピュータの部品(LED、スイッチ、マイコン等)を使った実験を通して具体的に学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. コンピュータの入出力の理解
2. コンピュータの内部でのデータの表現方法の理解
3. littleBitsなどを使った実験によるコンピュータのしくみの理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

--	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 コンピュータと日常生活(1)
ガイダンス、コンピュータの種類、コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの概念
- 第 2 回 コンピュータと日常生活(2)
コンピュータへの入力情報と処理内容、入力と出力をlittleBitsなどで実験
- 第 3 回 コンピュータのデータ表現(1)
コンピュータの数値の表現、コンピュータと2進数
- 第 4 回 コンピュータのデータ表現(2)
データをLEDのon/offで送信するための実験装置を作ろう
- 第 5 回 コンピュータのデータ表現(3)
コンピュータの文字の表現、文字コードとは、データのon/offで文字を送信しよう
- 第 6 回 コンピュータのデータ表現(4)
コンピュータの画像の表現、画像の2値化、色の表現 (RGB値)
- 第 7 回 コンピュータの仕組み(1)
コンピュータ内部の階層構造 ~最下位が「ビットと電気信号」、最上位がアプリケーション~
- 第 8 回 コンピュータの仕組み(2)
論理回路入門、littleBitsの実験で論理回路を理解
- 第 9 回 コンピュータの仕組み(3)
加算回路入門、littleBitsの実験で加算回路(半加算回路)を理解
- 第 10 回 コンピュータの仕組み(4)
コンピュータの動作 (5大装置、プログラム内蔵方式、CPU)
- 第 11 回 コンピュータの仕組み(5)
コンピュータの記憶装置、入出力装置
- 第 12 回 インタラクティブ作品制作(1)
littleBitsなどを用いてインタラクティブ作品を制作。工作や手芸材料も利用
- 第 13 回 インタラクティブ作品制作(2)
技術とアートの融合した作品に仕上げる
- 第 14 回 インタラクティブ作品制作(3)
インタラクティブ作品の発表としくみの議論
- 第 15 回 筆記テストとまとめ
(テストの終了後に講評をすると同時に、manabaに解答例を公開)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義に加えて演習としての実験も取り入れて学習する。コンピュータのしくみを、コンピュータの部品などを使った実験を通して学ぶ。この実験を通して、なぜコンピュータがプログラム通りの動作しかできないのかについても理解する。

実習として、かわいくしたLEDの光らせ方で文字を送信し

たり、littleBitsという「電子回路を磁石でつないで確認できるキット」を使った実習などの各種の実験を通して情報科学の基礎を学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で扱う内容に関連するテキスト記述を、事前に読んでくる。特に、実験をする場合はテキストを読むことで、実験の意義が理解できる。また、授業で実施した実験内容を記録として書き込んでおくことで、次回の授業の準備学習となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、提出課題 (20%)、テスト (50%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

毎回の授業が継続した実習や演習になっているので、欠席すると授業が理解できなくなる可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『情報の表現とコンピュータの仕組み[第5版]』/青木征男/ムイスリ/2014/9784896412307/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ルビィのぼうけん[コンピューターの国のルビィ]』/リンダ・リウカス/翔泳社/2017/

『ルビィのぼうけん[こんにちは! プログラミング]』/リンダ・リウカス/翔泳社/2016/

『littleBitsではじめる電子工作』/田中正吾/工学社/2016/

『ティンカリングをはじめよう~アート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ~』/Karen Wilkinson 他/オライリー・ジャパン/2015/

『コンピュータを使わない情報教育 アンプラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進 監訳/イーテキスト研究所/2007/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こどもと自然 2017年度以降入学者

GEN1500N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

月曜 5限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

高井 直美 薦田 未央 小川 博士 藤本 陽三

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

地域の子どもや家族と大学生が、自然素材を活用し、野外や屋内で交流する。年2回実施予定の「自然と遊ぼう!」プ

プログラムに企画段階から関わることを通して、地域社会への能動的発信力や対人関係スキルを身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①自然科学の面白さ・不思議さを子どもに伝える力・感性を身につける ②新たな遊びを考案する創造力を養う ③他者と共同作業を行う際の協調性を身につける ④幼児・児童の心理や関わり方を実践的に学ぶ ⑤イベント情報を発信するためのスキルと作法を学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力		自分で企画を考える		
知識・理解力		子どもに伝える自然科学の知識を持つ		
言語力		自分の考えを文章にまとめる		
思考・解決力		企画を実現する方法を考える		
共生・協働する力		グループで協力して企画を準備		
創造・発信力		イベントの際に、自分の役割を果たす		

〔授業計画〕

- 第 1 回 幼児と小学生の自然との関わりについて
今までの「自然と遊ぼう！」で行ってきたことを振り返る。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 2 回 こどもの好奇心を引き出す遊びについて
自然科学を遊びで体験する方法を学ぶ。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 3 回 今年度のテーマについて
テーマに応じた「自然と遊ぼう！①」の企画のイメージ作り。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 4 回 グループで企画を立てる
「自然と遊ぼう！①」の企画・実施案を検討し、グループに分かれる。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 5 回 企画の実施方法を検討
各グループで「自然と遊ぼう！①」で企画内容の実施方法を考える。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 6 回 企画の試行1回目
各グループで「自然と遊ぼう！①」で行う企画を試行する。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 7 回 企画の修正

- 各グループで「自然と遊ぼう！①」で行う企画を修正する。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 8 回 企画の決定
各グループで行う、「自然と遊ぼう！①」で行う企画内容を固める。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 9 回 企画の準備
各グループで「自然と遊ぼう！①」で行う企画の準備を行う。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 10 回 イベント全体の準備
他のグループの企画にも参加し、イベント全体の準備を行う。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 11 回 「自然と遊ぼう！」当日準備前半
「自然と遊ぼう！①」当日の準備（前半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 12 回 「自然と遊ぼう！」当日準備後半
「自然と遊ぼう！①」当日の準備（後半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 13 回 「自然と遊ぼう！」実施（前半）
「自然と遊ぼう！①」の実施（前半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 14 回 「自然と遊ぼう！」実施（後半）
「自然と遊ぼう！①」の実施（後半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 15 回 今後の活動に向けて反省と課題
「自然と遊ぼう！①」の振り返りと「自然と遊ぼう！②」の企画を行う。担当教員：高井・小川・藤本・薦田

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①教員によるオリエンテーション ②グループでの自然科学体験（観察や実験など）および遊びの企画 ③参加者募集のチラシ作成 ④実施の準備 ⑤「自然と遊ぼう！」の実施 振り返りとショートレポート（授業参加態度の評価について、最終週にフィードバックを行う）

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

身近な自然（草木花、木の実、昆虫、自然現象など）に興味を持ち、観察や実験を行う。
自然物や身近なものを使った造形遊びやゲームのアイデアを広げる。
身近にいる子どもに関心を持ち、どのくらいの年齢の子どもがどのような行動をするか、何に興味を示すのか、しっかりと観察する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度80%、ショートレポート20%

〔留意事項 (Other Information)〕

「自然と遊ぼう！」イベントは、地域のこどもたちに大学に来てもらって行う。ある一日の日曜日で4コマを充てる（その分、通常の授業時間が4コマ休講となる）。1回目の授業

や掲示で、日曜日の実施日を確認したうえで、登録を確定すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

小川・藤本：教員として学校に勤務経験あり。

暮らしの法律学

GES1200NOJ
大学
共通教育科目
1年次
2単位 前期
火曜 2限
DP2：知識・理解力
60
梶山 玉香

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学生が、社会における法の役割を知り、身の回りの事象を民法の規定に結び付けて考えることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①法律の読み方、解釈の技法、判例の役割について学ぶ、②バイク事故の事例を素材とし、不法行為責任について学ぶ、③契約トラブルが生じる事例（欠陥自動車の売買、英会話教室の中途退学）を素材とし、契約責任について学ぶ、④奨学金の事例を素材とし、返済に関する本人および保証人の責任について学ぶ、⑤結婚の事例を素材とし、婚姻制度および親子関係について学ぶ、⑥認知症の事例を素材とし、行為能力制度や責任能力制度、それを補うための後見制度、監督義務者制度について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
講義内容について、必要かつ正確な知識を備えているか	法律用語、制度の趣旨や概要が全く理解できていない。	法律用語、制度の趣旨や概要の理解がかなり不正確である。	法律用語、制度の趣旨や概要の理解に不正確なところがある。	法律用語、制度の趣旨や概要の理解がほぼ正確である。
講義内容について、自分なりに思考できているか	問題の本質が全く捉えられていない。	何が問題であるかは一応理解できているものの、十分な思考ができていない。	何が問題であるかを理解し、思考はできているが、表面的なものにとどまっている。	何が問題であるかをしっかり理解し、自分なりの問題意識をもって、広く、深く思考できている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 法律は守らなければならない？～法の種類～
法律やルールというと、「守らなければならないもの」というちょっと堅苦しいイメージを持っていませんか。それは、これまでなじんできたのが罰則つきのルールだからです。たとえば、「学校にゲーム機を持ち込んではいけぬ」というルール...ルールを破ったら先生に叱られる、という具合です。
でも、民法という法律は、少し違います。民法には、罰則がないのです！？
- 第 2 回 法律があればすべて解決できる？～法の解釈～
トラブルが生じたとき、「法律ではどうなっていますか？」とよく聞かれます。けれど、「こうなります」と言えることと、「こういう可能性もあります。でも、別の考え方もあります」という、あいまいな答えになってしまうことがあります。それは、法律に何でも書いてあるわけではないからです。
- 第 3 回 ある友達の「結婚」①婚姻届を出す意味
設例に出てくる花子さんは、「結婚」するけれど、苗字は変えたくないから、婚姻届は出さない、とっています。「結婚」すると、必ず苗字が変わるのでしょうか。婚姻届を出さなくても、「結婚」はできるのでしょうか。そして、婚姻届を出さない場合には、どんな不利益があるのでしょうか。
- 第 4 回 ある友達の「結婚」②婚姻と子ども
法律婚の一つの効果として、「法律上の婚姻している男女間に生まれた子の父親を、女性の「夫」と決める」機能があります。これを「嫡出推定」といいます。では、「法律上の婚姻をしていない男女間に生まれた子」の父親は、どのようにして決めるのでしょうか。
「嫡出推定」は、DNA鑑定などがなかった時代から「子の地位の安定」に寄与してきましたが、最近、少し困った問題が生じています。時代に合わせて、制度を見直すべきでしょうか。
- 第 5 回 親が離婚したら ①離婚するには
日本では、婚姻と同じく、離婚も当事者の合意と役所への届出だけで、簡単に行うことができます。これは、欧米の国にはない文化です。では、合意ができない場合、つまり、一方は「別れたい」と思い、他方は「別れたくない」と思っている場合には、どのような解決が図られるのでしょうか。
- 第 6 回 親が離婚したら ②離婚と子ども
離婚をすると、婚姻関係は終了します。夫婦は、ともに築いた財産を分配し、ともに過ごした家から出て、婚姻のために氏を変更した者は婚姻前の氏に戻り、それぞれ別の道を歩むこととなります。夫婦はそれでよいとしても、その間に生まれた子はどうなるのでしょうか。子はどうやら面倒を見るのでしょうか。それによって、氏が変わるのでしょうか。第3・4回に出てきた「嫡出推定」の話

や、夫婦とその子の「氏」の話、「戸籍」の話も、少し形を変えて問題になります。

第 7 回 バイクで人身事故を起こしたら ①不法行為による損害賠償

第1回の講義で、自動車で交通事故を起こしたときに適用される3つの法律、刑法、行政法、民法の話をしました。民法上は「損害賠償」をしなければならない、ということでした。なぜ、損害賠償をしなければならないかというと、交通事故を起こした人の行為が「不法行為」にあたるからです。

どのような場合に「不法行為」となるのでしょうか。そして、損害賠償額は、どのようにして決まるのでしょうか。

第 8 回 バイクで人身事故を起こしたら ②加害者側の反論

不法行為の成立が認められると、加害者は、発生した損害の全額を賠償しなければなりません。しかし、事故などによって損害が発生する場合、どちらか一方だけが悪いとは限りません。被害者のほうにも落ち度がある場合、損害賠償額はどのように調整されるのでしょうか。今回は、そうした加害者側からの反論について考えてみましょう。

第 9 回 買った自動車が故障していたら ①契約を結ぶ

第7回では、交通事故により損害が生じた場合、被害者が加害者に対して損害賠償請求権を有する、という話をしました。こんなふうには、ある人が別の人の対して、ある行為（損害賠償の支払い）を請求できる権利を「債権（さいけん）」といいます。債権は、不法行為以外の原因でも発生します。

第9～12回では、債権発生原因の1つ、「契約」について学習します。

第9・10回で扱うのは、「物売り、買い」する売買契約（ばいばいけいやく）です。売買契約には、債権を発生させるだけでなく、所有権を移転させる効果もあります。

契約は、どのような場合に成立するのでしょうか。

第 10 回 買った自動車が故障していたら ②契約違反があったとき

契約が有効に成立すると、契約を結んだ人（当事者）の一方、または、双方が義務（債務）を負います。その義務が果たされることによって、契約内容が実現されます。では、義務がきちんと果たされないとき、つまり、契約違反があった場合には、どのようにすればよいのでしょうか。

第 11 回 入学するときお金を借りたら①お金を借りる契約と利息の話

今回は、お金の貸し借りに関する契約です。お金を借りる契約では、通常は、利息という対価が支払われます。どれだけ利息をとるかは当事者の話し合いで決まりますが、「お金を貸す」人の力が強い場合が多いですから、あまり高額にならない

よう、利息制限法という法律が利息の上限を定めています。

第 12 回 入学するときお金を借りたら②借金が返せなかったとき

借りたお金は返さなければなりません。そういう約束になっているからです。返さない場合には、「返してくれ」と請求することができます。お金を借りる契約上、貸主は、貸金の返還を求める権利（債権）を有し、借主は、貸金を返還する義務（債務）を負っているからです。返還が遅れた場合には、その間の「損害賠償」を求めることができます。

けれど、なかなか返してもらえないときは、どうすればよいのでしょうか。確実に返してもらえないときに別のところからお金を回収する、あるいは、他の人よりも優先的に回収するための方法、「担保」をとっておくのです。

第 13 回 祖母が認知症になったら ①契約の場面

民法は、「人はみな平等・対等」という理念のもとに、さまざまな制度を設けています。しかし、実際には、知識、情報収集力、交渉力、経済力などの点で、人は必ずしも「平等・対等」ではありません。

そのような格差による不利益が生じないように、消費者契約法や借地借家法、利息制限法といった特別法が置かれていますが、民法の中にも、「判断能力が十分でない人を支える制度」が存在します。

今回は、契約（第9～12回）の場面で、未成年者、病気や障害、加齢により十分な判断力を有しない成年者に対し、どのような保護が与えられているかを見ることにします。

第 14 回 祖母が認知症になったら ②不法行為の場面

犯罪に関するニュースでは、しばしば「〇〇には、犯行当時、責任能力がなく・・・」という話が出てきます。刑法には「心神喪失者の行為は、罰しない」「心神耗弱者の行為は、その刑を減輕する」（39条）という規定があります。障がい等により、自分の行為が違法であること等の判断やそれにもとづく行動のコントロール（違法な行為であるからやめておこうという自制）が全くできない、あるいは、そのための能力が著しく減退しているような状態にある場合は「責任能力」が全くあるいは十分に備わっていないため、処罰されなかったり、刑が減刑されたりします。また、「十四歳に満たない者の行為は、罰しない」（41条）という規定もありますが、これは14歳未満の人には「責任能力」が備わっていないからです。

では、不法行為（第7・8回）の場面では、どうでしょうか。

第 15 回 試験と解説

第1回～第14回までの講義内容をどれだけ正確に理解できているかを確認するため、「試験」を行

います。内容は、正誤問題と論述問題です。論述問題では、知識の正確さだけでなく、講義で扱った問題を社会問題や自分の体験と結びつけながら深く思考しているか、それを文章で的確に表現できているかを見ます。

「試験」のあとには、解説を行います。

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しませんが、第15回に授業内評価として「試験」を実施します。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

1つのテーマにつき、2回に分けて扱います。不定期に5回、講義内容に関する小レポートを提出してもらいます。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

【予習】法律の制度や用語をいきなり授業で聞くと、難解に感じることが多いです。第3回以降、授業前に、配布されたレジュメとテキストの該当箇所（前の授業で指示）には、必ず目を通してきてください（10分程度で済みます）。

【復習】もう一度、テキストの該当箇所を読みなおしてください。理解できないところは、レジュメやノートを見直すといよいでしょう。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

60

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

授業時の課題（授業の終わりに提出する小レポート5回分）（50%）、第15回に実施する「試験」での評価（50%）

【留意事項 (Other Information)】

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

『18歳からはじめる民法』/潮見佳男/法律文化社/2017/9784589035578/学内販売予定

レジュメを配布するが、テキストは必ず購入し、毎回持参してください。レジュメは、manabaを通じて事前に配布するほか、講義でも配布します。

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

『プレップ法学を学ぶ前に』/道垣内弘人/弘文堂/2017/9784335313127

『判例六法 平成31年度』/中田裕康/有斐閣/2017/9784641003378

参考文献を購入する必要はありませんが、特に「プレップ法学を学ぶ前に」は開講前に読んでおくと、講義内容が理解しやすくなるでしょう。

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

国際関係論入門

GES1201N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

月曜3限

DP2: 知識・理解力

60

北澤 義之

【科目の教育目標 (Course Description)】

国際関係論では、学際的な手法を用いることにより、1 国家の安全と発展に関する役割、2 国際社会における協力の模索、3 新しい国際的課題の確認を行うことです。その学習を通して、自分の経験を国際関係論の知識と結びつけて説明できるようになることです。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

国際関係論入門では、国際社会を理解するために1 戦争と平和の問題の理解、2 貧困・環境問題に対する理解、3 国際社会における日本の位置づけに関する理解、4 国際協力におけるNGOや女性の役割の理解を深めていきます。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

第 1 回 世界の今

授業の進め方についてのガイダンス。世界の直面している諸問題について概説します。推奨するインターネットサイトの紹介。

第 2 回 国際社会とは？

「国際社会」の成立について学びます。とくに国際関係の発展と国際社会の関係について解説します。

第 3 回 国際社会における日本

近代の日本がどのように国際社会との関係を構築していったかを学びます。

第 4 回 日本の中の国際社会

グローバル化による日本社会の変化について学習します。日本人とは何かを改めて考えます。

第 5 回 国際関係とジェンダー

国際関係の変化と女性の地位の問題を考えます。

第 6 回 安全保障について

国家の安全と対立の問題を考えます。

第 7 回 戦争と平和

第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦の経験を通して、戦争と平和の問題を考えます。

第 8 回 日本と戦争

日本の戦争経験をもとに、市民や女性と戦争について考察します。

第 9 回 日本の対外政策について

- 第二次大戦後の日本の外交と平和主義について考えます。
- 第10回 冷戦後の世界
冷戦後の対立、テロなどの実態やそれへの対応の問題点について考えます。
- 第11回 SDGsをめぐる1
民主主義や人権と国際関係について考察します。
- 第12回 SDGsをめぐる2
貧困とは何か、貧困の背景や対応について考察します。
- 第13回 SDGsをめぐる3
難民問題と移民問題についてその背景と対応について考察します。
- 第14回 SDGsをめぐる4
環境問題の概要について理解を図ります。
- 第15回 21世紀の国際関係
人類の直面する今後の課題を整理し、日本の役割などについて考えます。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しません。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は講義形式で行われますが、アクティブラーニングの要素も取り入れます。レポートや課題については教室で授業時にコメントします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

manabaを用いて、事前に目を通すべき資料や情報を発信します。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (20%)、小テスト・質問票へのコメントなど (30%)、レポート (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

欠席、遅刻についてのルールは、最初の授業の時に伝えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

全体を通じてのテキストはありません。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

教室で紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/>

国連広報センター <http://www.unic.or.jp/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会学概論

GES1202N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

月曜3限

DP2: 知識・理解力

60

翁 和美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「社会とは何か」と問われれば、多くの人は、答えに窮するだろう。それは、自らが生まれ育ち所属する社会が私たちにあって自明であり、その自明性を問いかけることがないほど私たちが社会化されているからである。程度の差はあれ、私たちは誰しもが社会的存在である。この講義では、社会的存在である人間を理解することを第一の目的にする。先人がいかに社会を明らかにし、それと向き合ってきたのかをたどるとともに、私たちが生きている現代社会の具体的な状況・文脈を取り上げて「社会とは何か」を考えていく。とにかく受講生は深く思考することが求められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

社会的存在である人間を理解するための補助線となる社会的用語や概念をあつかうことができるようになる。同時に、積極的なstudy (=語源はラテン語で「熱意を持って追求する」が原義) の意識を身につけるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 社会と社会学
社会学の講義全体の目的と目標を知る。
- 第2回 産業社会とその組織
近代化の経緯とともに、産業社会の特徴について考える。
- 第3回 ジェンダー
社会行為の根拠に潜む社会的・文化的性差について見出す。
- 第4回 教育と学校制度
教育と学校の社会的機能の違いをとらえる。
- 第5回 近代国民国家と民族
近代国民国家の特徴から民族紛争の根本原因を探る。
- 第6回 家族
都市化に着目しながら、核家族化と少子化現象について検討する。
- 第7回 大衆社会論
ナチスドイツの台頭を事例に大衆の特徴について学ぶ。
- 第8回 逸脱—選別と排除のメカニズム

逸脱が生じるメカニズムから社会学的発想を身に付ける。

- 第 9 回 文化と貧困
植林を事例に環境保全ボランティアの落とし穴について発見する。
- 第 10 回 応用1：自己決定・自己責任論
現代社会の強力なイデオロギーを脱構築する。
- 第 11 回 応用2：介入と他者関係性
安楽死・尊厳死を事例に公的領域と私的領域の関係性における課題を追究する。
- 第 12 回 応用3：私的領域の社会化
私的領域の課題解決の糸口を見出す。
- 第 13 回 実践1：精神医学と精神医療（1）
教材を視聴し病院や施設の雰囲気を感じるとともに人間関係について観察する。
- 第 14 回 実践2：精神医学と精神医療（2）
教材の読解を行ないながら、医療社会学の知見を習得する。
- 第 15 回 実践3：認知症患者と福祉の場
参与観察のデータを元に、社会学的視座の魅力と構想力を確認する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する。ただし、何を実施するのかについては、授業における学生の発言内容とリアクション・ペーパーの内容に応じて決める。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

基本的に対話形式で解説を行なう。また、授業中に学生が意見を提示し合う機会やディスカッションをする機会を設ける。したがって、受講生は積極的に発言する必要がある。講義後、受講生は、リアクション・ペーパーの作成を求められることがあるが、そこに他受講生の意見やディスカッションを通じて深めた自身の考えを表明するとともに不明な点について質問をするようにする。コメントを入れたリアクション・ペーパーについては、適宜、氏名を公表せずに授業で共有する。定期試験に替わるレポートを実施する場合は合評会を行なう。それを受講生は次のstudyに結び付ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

準備学習は必要ない代わりに、しっかり復習をするようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

0

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

リアクション・ペーパー（配分:30%）と最終課題（配分:70%）で総合的に評価する。リアクション・ペーパーに関しては、回を重ねるにしたがって配点を高くする。最終課題は、授業内での受講生の発言内容とリアクション・ペーパーの内容に応じて決定する。なお、欠席回数による失格条件は設定しないが、リアクション・ペーパーの提出が評価に反映する一方、講義内容を反映していない最終課題は無効となるので、欠席は失格につながる。

〔留意事項（Other Information）〕

講義内容は受講生のカラーやニーズに応じて変更する。とりわけ、応用編と実践編は、受講生の授業内での発言内容とリアクション・ペーパーの内容に対応して決定する。実習や就職活動などで長期に欠席する場合は単位修得に影響するので事前に相談するようにする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要に応じて資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

なし

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

憲法と人権

GES1250N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

木曜1限

DP2：知識・理解力

60

宮村 教平

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「憲法」は国の基本法です。その国の仕組みや、どのような価値が人権として保障されるかが書かれている法律文書です。皆さんのこの授業での目的は、このような「憲法」の全体像をつかむとともに、その本質にどのような考え方があるのかを学ぶことにあります。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ①憲法とは何か ②権力分立の意義 ③人権保障の意義
④人権保障における現代的な問題（具体的な事例から人権を考えます）

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義ガイダンス（授業の進め方等の説明、法学の入門的な話）
- 第 2 回 憲法とは何か？
- 第 3 回 国民主権とは何か
- 第 4 回 国会の仕組み
- 第 5 回 議院内閣制
- 第 6 回 裁判所
- 第 7 回 基本的人権の意味
- 第 8 回 思想・良心の自由、信教の自由
- 第 9 回 表現の自由

- 第 10 回 職業選択の自由
- 第 11 回 生存権
- 第 12 回 教育を受ける権利
- 第 13 回 法の下での平等
- 第 14 回 新しい人権
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験期間中に筆記試験を実施します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

※法律学は言葉の学問であり、論理の学問です。まず、「(指定)教科書を読む」ということが大事です。授業は講義ですが、教科書を中心に、そこに書かれている内容の難しいところや、具体例が必要などころなどをより詳しく説明していきます(別途、講師の作成したレジュメを利用する予定。初回講義の際に指示します。)

※試験終了後に問題の解説をmanabaで公開します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指定教科書の毎回の該当箇所を、まずは各自で読むことが大切です。「今日は何をするのだろうか?」という気持ちで授業に臨むのと、「今日は、こういう話を聴けるんだ」という予測のもとに授業に臨むのでは、同じ授業でも内容の吸収率が違います。難しいことはしなくて構いませんので、教科書だけは目をとおしてきてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7.5

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験やレポートで評価します。テストは文章で聞かれて文章で説明するものです。(※成績評価の方法は、開講後、履修登録者の人数によっては変更されることもあります。)

〔留意事項 (Other Information)〕

※授業予定や成績評価方法は、開講後、変更することがあります。この変更については、講義内で適宜、指示します。受講する人は、必ず、初回講義に出席し、授業のやり方や成績評価についての説明をきいてください。(それをきかなかったための不利益は、各自の責任です。)

※また、出席回数が極端に少ない者は、そもそも成績評価の対象となりません。5回欠席があった場合、その時点で成績評価の対象から外します。

※留学生・帰国子女の学生へ: この授業の単位をとるためには、標準的な日本語の読解力・記述力が必要です。

Attention: In order to take credit in this class, standard Japanese ability (reading & writing) is required.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『スタディ憲法』/曾我部真裕・横山真紀 共編/法律文化社/2018//学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

暮らしの経済学

GES1251N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

木曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

百木 漢

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会人として企業などで活躍するためには、何といても経済に関する知識が不可欠である。本講義では、経済学の基本的な考え方を分かりやすく解説し、社会情勢や経済ニュースを深く理解できる「力」を習得することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・経済学の考え方の基礎を学ぶ
- ・家計や企業の行動から経済政策まで、その仕組みを理論的に学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション～経済学とは～
- 第 2 回 戦後日本経済の歩み (1) 戦後復興から高度経済成長へ
- 第 3 回 戦後日本経済の歩み (2) 安定成長期からバブル経済へ
- 第 4 回 戦後日本経済の歩み (3) 失われた20年
- 第 5 回 景気循環 ?好景気と不景気の波
- 第 6 回 需要と供給のバランス——需要曲線と供給曲線
- 第 7 回 円高と円安——為替相場
- 第 8 回 アベノミクスの仕組み (1) 金融政策
- 第 9 回 アベノミクスの仕組み (2) 財政政策
- 第 10 回 アベノミクスの仕組み (3) 成長戦略
- 第 11 回 経済学の歴史——スミス、マルクス、ケインズ
- 第 12 回 戦後国際経済の歩み
- 第 13 回 これまでの振り返りとまとめ (1)
- 第 14 回 これまでの振り返りとまとめ (2)
- 第 15 回 試験と解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義は基本的にレジュメ中心で行う予定であるが、必要に応じて参考文献を紹介する。

難しい数学を用いず、分かりやすさ第一で講義する。

試験後はその内容についての解説を行い、質問などを受けつける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業は、前回までの授業内容を理解しているという前提で行われるため復習を心がけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

出席アンケート (平常点: 30%)

期末のまとめの確認テスト (平常点: 70%)

〔留意事項 (Other Information)〕

・授業中は周りの人に迷惑をかける行為をしないようにすること。

・授業予定については、進行の都合により、大幅に変更される可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要な文献は授業中で適宜指示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

子育てとワークライフバランス

GES2100N0J

大学

共通教育科目

2年次

1単位 前期後半

月曜4限

DPI: 自分を育てる力

30

全7.5コマ

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代日本の子育ておよび女性のライフキャリアの現状や課題について、基礎的な知識を得るとともに、企業や教育現場、地域社会など、さまざまな分野で活躍している「母」「父」の立場の方や関連する仕事をしている方にお話をうかがい、受講生自身の生き方について考えます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 現代女性を取り巻く現状について学びます。
2. さまざまな事例を知り、そこから生き方のヒントを得て、自分の生き方を考えます。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 子育てとライフキャリアを考える (入門)

※6月10日4講時後半 (15:40~16:25) に実施: <子どもと子育てのための生活環境学> 終了後

第 2 回 女性の子育て環境 法律と現状

第 3 回 外部講師による講義1 ワークライフバランス

第 4 回 外部講師による講義2 父の視点から見た育児

第 5 回 外部講師による講義3 雑誌に見る子育ての動向

第 6 回 外部講師による講義4 仕事と子育ての両立

第 7 回 外部講師による講義5 働くということ

第 8 回 子育てとライフキャリアを考える (理解度確認と振り返り)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義によって基本的な知識を得るとともに、外部講師のお話から、女性の生き方について深く考察します。

筆記試験については、終了後manabaで講評をします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日頃から新聞をよく読み、現代日本の子育てを取り巻く環境に関心を持つようになしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の課題50%、筆記試験50% (第8回に実施) の割合で評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 授業の順番を変更する場合があります。
2. 外部講師には、子育てとキャリアの両立、女性にとってのキャリアパスなどの視点からお話いただきます。テーマの小さな変更がある場合もあります。予定の詳細は授業時に配布します。
3. <子どもと子育てのための生活環境学> とは、同じ時間帯に開講しており、学期の前半が <子どもと子育てのための生活環境学>、後半が本科目 <子育てとワークライフバランス> です。同時履修が望ましいでしょう。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こどもと子育ての生活環境学

GES2101N0J
 大学
 共通教育科目
 2年次
 1単位 前期前半
 月曜4限
 DPI：自分を育てる力
 30
 全7.5コマ
 中村 久美 竹原 広実 牛田 好美 藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもの発達にとって、さらにその子どもを育てる親も含めた子育て世帯や親子の暮らしにとって重要な生活環境の問題を、「衣」「食」「住」「家族」の視点から考える。社会状況や政府の少子化対策、女性の生き方など、子どもと子育て世帯をめぐる諸情勢と関連付けて理解し、将来の自己の問題として主体的に考えていけるようにすることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・子どもと子育て世帯をめぐる社会問題を理解する
- ・子どもの発達、および子育てにとって必要な生活環境条件を理解する
- ・子どもが成長していくことや子どもを育てていくことの価値意識をもつ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
子どもと子育てのための生活環境に対する理解と思考	子どもの発達と子育て世帯の暮らしの現状や潜在する問題についてほとんど理解できていない	子どもの発達と子育て世帯の暮らしの現状については何となく認識できている。	現状の理解のうえに、衣食住に関わる諸問題については一定の認識があり、それらに対して考えをめぐらすこともある	子どもの発達と子育て世帯の暮らしの現状や潜在する問題を理解するとともに、自分でも考え、今後の動向にまで思考が及んでいる
主体的に学ぶこと	提示された課題への取組はふじゅうぶんである	レポートやテストなどの課題はまずまずこなす	授業中には積極的にノートをとり、授業後に質問したり、他の受講者の意見を熱心に聴く	受講や課題作成に際し、積極的に関連事項を文献やNetで調べる

〔授業計画〕

第 1 回 「子どもと子育てのための生活環境学」概説(中村)

- 子どもと子育てファッション1-子どもの成長と衣生活 (牛田)
- 第 2 回 子どもと子育てファッション2—マタニティ時期とファッション (牛田)
- 第 3 回 子どもと母親の食生活 (藤原)
- 第 4 回 子どもの成長と食生活 (藤原)
- 第 5 回 子どもの遊びと住環境 (竹原)
- 第 6 回 子どもと家族の住空間 1 - 子ども室をめぐる問題 (中村)
- 第 7 回 子どもと家族の住空間 2 - 子育て世帯の新たな居住の形 (中村)
- 第 8 回 子どもと子育て世帯の生活環境 総括 まとめ課題 (中村)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・毎回の授業を振り返るとともに、7回にわたるオムニバス授業を、自分で総合し、子どもと子育てのための望ましい「生活環境」像を構築する。最終回にまとめの課題に取り組むと同時に直後にその解説を行うので、それぞれの学びの振り返りを行うこと。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・シラバスによって授業展開を理解しておく
- ・新聞の家庭欄、生活欄を読む習慣をつける

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回の授業参加度 (前回の振り返り課題やディスカッションへの参加状況など 50%) と、まとめの課題 (50%) で評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

8回目の授業は、前半45分で本授業のまとめを行い、後半は〈子育てとワークライフバランス〉の第1回目の授業になる。〈子育てとワークライフバランス〉とは、同じ時間帯に開講しており、学期の前半が〈子どもと子育てのための生活環境学〉、後半が〈子育てとワークライフバランス〉となる。前半、後半続けて2科目とも履修することが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

毎回の担当教員が資料を配布する

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で、関連参考図書を紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語実践（4技能）Ⅰ

GBE2306N0E

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期集中

その他

DP3：言語力

15

Katy Simpson Jacques Wilburn Hardy Jr.
Daniel Pearce Rebecca Paterson

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The aim of this course is to promote and practice further usage of the four skills in English communication. Students are encouraged to find a balance between input and output while striving to improve their practical English skills over time.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1) By the end of the course, students will have shown improvement in:

? Their attitude towards English, realizing that English is a tool for communication purposes and that regular and ongoing efforts at using English will result in measurable gains as well as a positive attitude to further language studies.

? Any of the four skills practiced, as well as the increased vocabulary used and a better understanding that using correct grammar is necessary, simply to express meaning effectively.

(2) Students will have been exposed to a wide variety of input and output opportunities: conversations, interviews, short videos, games, activities and live spoken English by the teacher and fellow classmates.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 The Four Seasons
- 第 2 回 School Life
- 第 3 回 Sports Activities
- 第 4 回 Domestic Travel
- 第 5 回 Friends

- 第 6 回 Hobbies
- 第 7 回 Part-time Jobs
- 第 8 回 Food
- 第 9 回 TV & Movies
- 第 10 回 Physical Health
- 第 11 回 The Future
- 第 12 回 Music
- 第 13 回 Social Media
- 第 14 回 Memories
- 第 15 回 Preferences

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Students will receive extensive and ongoing formative feedback during four skills activities in class. They will also receive feedback on the content and delivery of activities done for homework.

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive reading, listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

Students will be evaluated based on efforts at improving their English in and out of class.

Participation 50%

Writing Assignment 25%

Speaking Interview 25%

〔留意事項（Other Information）〕

Students are expected to make an effort. Everyone who makes an effort will be able to improve some of their four skills using English.

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

なし

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

なし

〔参考URL(URL for Reference) 〕

Reading practice - <https://www.newsinlevels.com/>

Reading practice - <http://www.cdlponline.org/>

Listening practice - ELLLO ? <http://ello.org/>

Listening practice - Lyrics Training - <https://lyricstraining.com/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語実践（4技能）II

GBE2356N0E

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期集中

その他

DP3：言語力

15

Katy Simpson Jacques Wilburn Hardy Jr.
Daniel Pearce Rebecca Paterson

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The aim of this course is to promote and practice further usage of the four skills in English communication. Students are encouraged to find a balance between input and output while striving to improve their practical English skills over time.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1) By the end of the course, students will have shown improvement in:

? Their attitude towards English, realizing that English is a tool for communication purposes and that regular and ongoing efforts at using English will result in measurable gains as well as a positive attitude to further language studies.

? Any of the four skills practiced, as well as the increased vocabulary used and a better understanding that using correct grammar is necessary, simply to express meaning effectively.

(2) Students will have been exposed to a wide variety of input and output opportunities: conversations, interviews, short videos, games, activities and live spoken English by the teacher and fellow classmates.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Favorite Times of the Year
- 第 2 回 Life on Campus
- 第 3 回 Indoor & Outdoor Activities
- 第 4 回 International Travel
- 第 5 回 Friendship and Personalities

第 6 回 Leisure Activities

第 7 回 Occupations

第 8 回 Cooking & Eating Out

第 9 回 YouTube Channels

第 10 回 Mental Health & Mindfulness

第 11 回 Planning My Future

第 12 回 Musical Instruments and Musical Artists

第 13 回 SNS Instagram, Twitter, and Facebook

第 14 回 Best & Worst Experiences

第 15 回 Goals & Bucket List

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Students will receive extensive and ongoing formative feedback during four skills activities in class. They will also receive feedback on the content and delivery of activities done for homework.

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive reading, listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

Students will be evaluated based on efforts at improving their English in and out of class.

Participation 50%

Writing Assignment 25%

Speaking Interview 25%

〔留意事項（Other Information）〕

Students are expected to make an effort. Everyone who makes an effort will be able to improve some of their four skills using English.

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

なし

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

なし

〔参考URL(URL for Reference)〕

Reading practice - <https://www.newsinlevels.com/>

Reading practice - <http://www.cdllponline.org/>

Listening practice - ELLLO ? <http://ello.org/>

Listening practice - Lyrics Training - <https://lyricstraining.com/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC III

EGB2305N1J
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)
 2年次
 2単位 前期
 木曜 4限
 DP3: 言語力
 60
 定員40人
 櫃本 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。多くの企業、官公庁、大学などで英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価できるテストとして採用されています。

文法知識、語彙力、リスニングやリーディングの能力を向上させ、TOEIC(R)解答のストラテジーを習得して、高得点を獲得することを目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. TOEIC(R)テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEIC(R)テストでよく使用される語彙を身につける
3. TOEIC(R)テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの力を身につける
4. 600点以上にスコアをのばす

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション Listening 模擬試験
 オリエンテーション
 Listening 模擬試験
- 第 2 回 Reading 模擬試験
 Reading 模擬試験
- 第 3 回 Part 1 Part 5

- Part 1 動詞の聞き取り
 Part 5 品詞、態、
- 第 4 回 Part 2 Part 5
 Part 2 難易度の高い問題と選択肢の引っ掛け
 Part 5 接続詞
- 第 5 回 Part 2 Part 5
 Part 2 実践問題
 Part 5 関係詞
- 第 6 回 Part 2、Part 5、まとめと小テスト
 Part 2、Part 5、まとめと小テスト
- 第 7 回 Part 6、Part 3
 Part 6 実用的な文書の特色を捉える
 Part 3 問題文の種類と、意味の取りにくい問題文
- 第 8 回 Part 6、Part 3
 Part 6 パラグラフ、文脈でパッセージを読む
 Part 3 会話の詳細な情報を聞き取る
- 第 9 回 Part 6、Part 3 の実践問題と小テスト
 Part 3とPart 6の実践問題と小テスト
- 第 10 回 Part 7
 Part 7 実用性のある文書の特徴をおさえる
- 第 11 回 Part 7、Part 4
 Part 7 意味の取りにくい問題文、選択肢に慣れる
- Part 4 トークの状況を把握する
- 第 12 回 Part 7、Part 4 実践問題
 Part 7、Part 4 実践問題
- 第 13 回 Part 7、Part 4 実践問題 と小テスト
 Part 7、Part 4 実践問題 と小テスト
- 第 14 回 Listening 模擬試験
 Listening 模擬試験 と解説
- 第 15 回 Reading 模擬試験
 Reading 模擬試験 と解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. TOEICの出題形式や意図を理解する。
2. 解答ストラテジー (= 解法) のポイントをおさえ、使えるようにする。
3. 本番と同じ問題を使ってTOEICの英語を段階的に習得する。
4. TOEIC に取り組むための基本的英語力をおさえる。
5. TOEIC試験対策という目的を超えコミュニケーションのために使える英語の習得も目指す。
6. 授業ではペアワーク、グループワーク、発表などを通じて発話しながら学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

TOEIC 600を越えるためには、クラスでの勉強だけでは十分ではありません。クラスで出される課題に加え、携帯のTOEIC学習アプリや、英語でラジオ、テレビ(携帯でも視聴できる)で聞いたり、日常生活に英語を取り入れてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト 30%、

自宅、授業中課題 50%

授業中の模擬試験 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

すでにTOEICスコア500以上の取得者はTOEIC I,IIを履修していなくても受講できます。

このTOEICIIIコースは、スコア500~730が目標です。

授業で使う課題用プリントは忘れず持参できるようファイルなどにまとめて管理してください。

授業の内容を理解するだけでなく、英語、または日本語での発話が必要になります

シラバスの内容、進度、小テストの回数などは進み具合で変わる可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 5 / TOEIC ETS / 国際ビジネスコミュニケーション協会 / 2019 / 978-4-906033-57-7/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で、役に立つ書籍、サイト、アプリ、番組などを紹介していきます。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

TOEIC IV

EGB2355N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

木曜 4限

DP3: 言語力

60

定員40人

櫃本 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEICの問題の特徴をさらに詳しく追求し、正解を得るためには何が必要かを考え、実行します。高得点を得るためには、問題に慣れると同時に、正確に速読、速聴する力が必要です。リスニングとリーディング力を確実に向上させるためには、スピーキング、ライティングをも絡めながら学習することが効果的です。TOEIC高得点だけでなく、社会で必要とされる英語力を養成します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

TOEICの英語を素材にして、速読、速聴、リピーティング、シャドウイング、リテリング、サマライジングなどの方法で英語力を鍛え、問題分析を通して論理的な思考力を養います。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション Listening 模擬試験
オリエンテーション Listening 模擬試験

第 2 回 Reading 模擬試験
Reading 模擬試験

第 3 回 Part 1, Part 5
Part 1, Part 5

第 4 回 Part 5 Part 2
Part 5 Part 2

第 5 回 Part 1 Part 2 Part 5 小テスト
Part 1 Part 2 Part 5 小テスト

第 6 回 Part 3 Part 6
Part 3 Part 6

第 7 回 Part 3 Part 6
Part 3 Part 6

第 8 回 Part 3 Part 6 小テスト
Part 3 Part 6 小テスト

第 9 回 Part 4 Part 7
Part 4 Part 7

第 10 回 Part 4 Part 7
Part 4 Part 7

第 11 回 Part 4 Part 7
Part 4 Part 7

第 12 回 Part 4 Part 7 小テスト
Part 4 Part 7 小テスト

第 13 回 Listening 模擬試験
Listening 模擬試験

第 14 回 Reading 模擬試験
Reading 模擬試験

第 15 回 Listening & Reading 模擬試験解説
Listening & Reading 模擬試験解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 本番と同じ問題を使って TOEIC の出題形式や意図を理解する。
2. 解答ストラテジー (= 解法) のポイントをおさえ、使えるようにする。
3. TOEIC に取り組むための英語力を 4 技能を駆使して養う。
4. TOEIC を通じて、社会人として必要な英語力を養う。
5. TOEIC 試験対策という目的を超えコミュニケーションのために使える英語の習得も目指す。
6. 授業ではペアワーク、グループワーク、発表なども通じて発話しながら学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習よりも、指示された課題を家庭学習してください。授業で学んだ箇所は、何度も音声で聞いてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト 30%、

プリント課題 50%

授業中の模擬試験 20%、

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で使う課題用プリントは忘れず持参できるようファイルなどにまとめて管理してください。

授業の内容を理解するだけではなく、英語、または日本語での発話が必要になります

シラバスの内容、進度、小テストの回数などは進み具合で変わる可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6/ 国際ビジネスコミュニケーション協会/2020 /ISBN-10: 490603358X , ISBN-13: 978-4906033584/学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で、役に立つ書籍、サイト、アプリ、番組などを紹介していきます。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

エアライン・サービス論

EGR1500N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

木曜1限

DP5 : 共生・協働する力

60

岩田 真理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

エアライン業界を広く全般的に理解し、主にエアラインで提供しているサービス部分 (オペレーション部門・カスタマー部門) について焦点をあわせエアラインの業務の構成やエアライン・サービスに必要な要素を理解する。また、エアライン業界を通じて、会社組織は共通目標達成のため、専門性を磨きながら多くの職種の人々が共生し組織が成り立っていることを学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

ホスピタリティ産業の代表として、航空業界を取り上げ、エアラインサービスを幅広く学ぶなかで、お客様のみならず、仲間に対しても思いやりをもって接することの大切さを多様な職種を学ぶなかで理解を深める。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

講義の進め方、目的、評価など。エアラインのサービス全体を考える。

第 2 回 航空運送事業の特性

航空業界に関わる基本的な知識と現在の業界の状況、事業特性を学び、航空業界全体を理解する。

第 3 回 エアラインの提供するサービス

公共交通機関であるエアラインは、安全運航のためにどのような取り組みをしているのか。保安と安全の重要性を認識する。

第 4 回 予約部門

予約・販売部門の業務内容と求められる要素を理解する。航空券とは何か、また、世界の予約システムを理解する。

第 5 回 空港サービスⅠ

カスタマーラインの業務として旅客スタッフの業務を取り上げる。空港での仕事をお客様からの視点でとりあげ、旅客の流れにそって空港業務を理解する。

第 6 回 空港サービスⅡ

オペレーションラインの業務として、グランドハンドリング業務を取り上げる。航空機が空港に到着し、出発するまでの地上業務を理解する。

- 第 7 回 機内サービスⅠ
客室乗務員の役割を考え、業務の流れを追いながら、その仕事の内容を理解する。
- 第 8 回 機内サービスⅡ
機内の業務を支える業務について理解する。機内食ケータリング事業、航空機関連物品調達事業など、機内サービス全般を支える業務を取り上げる。
- 第 9 回 オペレーションⅠ－パイロットの業務－
飛行機の基礎知識を理解する。また、運航乗務員(パイロット)の養成の流れや業務内容を理解する。パイロットはお客様と接する機会は少ないが「運航」を通じたサービスを考える。
- 第 10 回 オペレーションⅡ－運航の定時性を守る業務－
運行管理者とは何か、運航を支える定時性をコントロールする部門がどのような動きをしているのか概要を紹介する。
- 第 11 回 オペレーションⅢ－整備部門の業務－
運航を支える安全に一番近い整備部門がどのように構成されているのか、安全とサービスについて考える。
- 第 12 回 貨物輸送部門
貨物サービスを取り上げ、航空貨物の現状を考える。ハブ空港とは何か、日本のハブ空港の現状、アジアのハブ空港競争を紹介する。
- 第 13 回 エアラインサービス～その他の業務～
－マイレージサービスとアライアンス－
顧客接点における営業戦略の一部としてのマイレージサービスやアライアンスの現状を理解する。
- 第 14 回 エアラインサービスの多様性
LCC(格安航空会社)の特徴とレガシーキャリア(既存航空会社)との違いを理解する。
- 第 15 回 確認テストとまとめ
〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法(Course Methods)〕
パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマによって関連DVDなど視聴する。
授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕
日頃より、航空業界やサービス業に関するTVニュース・新聞記事等に関心をもって目配りをすること。
次回までに各回で配布された資料をもとに復習をして臨む。
疑問点を明らかにして質問すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕
30
〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕
評価は、授業態度(30%)、小レポート(20%)、確認テスト(50%)に基づいて総合的に評価する。
〔留意事項(Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『エアラインオペレーション入門』/(株)ANA総合研究所(編集)/ (株)ぎょうせい/2010/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

エアライン・ビジネス論

EGR2550N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科(実践的科目)

2年次

2単位 後期

木曜1限

DP5: 共生・協働する力

60

岩田 真理子

〔科目の教育目標(Course Description)〕

航空会社を一企業として取り上げ、受講生が現代の企業の仕組みや取り組みを理解することを目指す。

また、受講生が就業意識を高めることを目標とする。

国際社会が日々変化を遂げている中で、多文化理解を深めつつ今後の航空ビジネスの在り方を論じることができる。

〔教育・学習の個別課題(Course Objectives)〕

世界及び国内の政治・経済・文化・環境情勢の変動が航空業界に与える影響を推考する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション－授業概要－(対面)
授業の進め方、学習内容と求めるレベル、授業上の注意事項などを理解する。
- 第 2 回 航空の歴史と変遷(対面)
航空の歴史、戦後の航空技術の発展、空の大衆化までの変遷を理解する。
- 第 3 回 民間航空の歴史(オンライン)
戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政から規制緩和まで、民間航空の歴史について理解する。
- 第 4 回 世界の航空の自由化(オンライン)
第二次世界大戦後の民間航空に関するルール作り、米国を中心とした民間航空の再編に反発する欧州各国、そして自由化への道、現在の航空事情を理解する

- ために不可欠なOPEN SKY政策について理解する。
- 第 5 回 我が国の航空自由化（オンライン）
4 5・4 7 体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化合意の意味などについて理解する。
- 第 6 回 収入を増やす努力① ハブ&スポーク（オンライン）
格安航空の対極にあるフルサービスキャリア、その基本となるネットワーク戦略「ハブ&スポーク」についてメリット、デメリットを理解する。
- 第 7 回 収入を増やす努力② グローバルアライアンス（対面）
グローバルアライアンス（航空連合）誕生の背景、メリットについて解説し、3 大アライアンスについて学ぶ。
- 第 8 回 収入を増やす努力③ マイレージ・プログラム（オンライン）
マイレージ・プログラムの目的・役割・仕組みについて解説し、現状の課題と今後について学ぶ。
- 第 9 回 収入を増やす努力④ CRSとイールドマネジメント（オンライン）
CRSとは？航空会社のイールドマネジメントについて学ぶ。
- 第 10 回 支出を減らす努力 コストマネジメント（オンライン）
燃料ヘッジ・燃料サーチャージなど航空会社の様々なコストマネジメント策について学ぶ。
- 第 11 回 格安航空躍進（対面）
航空の自由化に伴い、現在、最も航空業界で注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを理解する。
- 第 12 回 企業の社会的責任（CSR）と環境（オンライン）
航空会社の社会的責任（CSR）について解説し、環境経営戦略や現状を学ぶ。
- 第 13 回 顧客満足（CS）（オンライン）
CSとは何か、ブランドとは？ANAのブランド戦略とCS推進活動について学ぶ。
- 第 14 回 航空と環境問題（オンライン）
地球温暖化、騒音、大気汚染、リサイクルなど、航空業界の環境問題について学ぶ。
- 第 15 回 確認テストとまとめ（対面）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
対面とオンラインの組み合わせで実施する。オンラインの場合もパワーポイント（音声付）を使用し、主に講義主体で進める。テーマによって関連DVDなど視聴する。回により、課題レポートを記入する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・「航空産業入門」の該当の章を熟読して授業に臨むこと。

- ・日頃から航空関係のTVニュース、新聞記事などに目を配ること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、課題レポートの提出状況などの学習過程、授業態度、確認テストに基づいて総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『航空産業入門』/(株) ANA総合研究所/東洋経済新報社/2017//学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

エアライン研修

EGR3502NOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科（実践的科目）

2年次 3年次

2単位 集中

その他

DP5：共生・協働する力

60

定員20人 集中

須川 いずみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕

エアラインプログラムを履修した者を対象として、ANAグループおよびホテルの主な職場を実際に訪れ、様々な文化的背景のお客様に対してどのように接しているのか、ホテルや航空業界で働くということの内側から体験し、高い職業意識の育成、自主性・創造性・協調性のある人材育成を目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. これまでに学んできたことの集大成として、ホテルや航空業界の現場を訪問し、実践してみる。何より、実際のお客様がいらっしゃる現場であることをしっかりと認識し、挨拶はもとより、良識ある行動を期待する。2. 実際の現場を体験することにより、自身の適正との確認、ならびに業界の様々な職種を自分の目で確認し、将来への足がかりとする。3. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 事前授業①
身だしなみとビジネスマナー
- 第 2 回 事前授業②
ホテル業務・グランドスタッフ業務・貨物業務、
- 第 3 回 ホテル業界①
スターゲートタワーホテル大阪 「ホテルの
接遇とは」
- 第 4 回 ホテル業界②
「ホテルの仕事を学ぶ」
- 第 5 回 ホテル業界③
「ベッドメイキング練習」
- 第 6 回 ホテル業界④
「テーブルマナー研修」～宿泊～
- 第 7 回 空港見学①
第二ターミナル見学
- 第 8 回 空港見学②
第三ターミナル見学
- 第 9 回 空港見学③
関西空港（KIX）国内線地上業務
- 第 10 回 空港見学④
関西空港（KIX）国際地上業務
- 第 11 回 空港見学⑤
グランドスタッフの業務を学ぶ
- 第 12 回 空港見学⑥
ANAコントロールルーム見学
- 第 13 回 空港見学⑦
客室乗務員ブリーフィング見学
- 第 14 回 空港見学⑧
学びの分かち合い
- 第 15 回 事後研修
反省会とレポート作成

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

一般の人がなかなか目にすることが少ないコールセンター業務やグランドスタッフの業務の裏側などエアラインプログラムならではの業務体験を行う。また、全日空ゲートタワーホテル大阪では、ホテル業務全般に加えて、テーブルマナー講習会も開催し、サービスする側と受ける側のマナーやホスピタリティをベテランのホテルマンから学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

本研修を希望する方は、日常的にマナーや言葉遣いに関心を持ち、自己を高める努力を期待する。事前研修にて実施する内容を、現場訪問までの間、繰り返し復習し身につけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研修中の受講態度（40%）、事前課題シート（20%）、事後レポート（40%）を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

エントリーシートによる応募制とする。人数枠を超えた場合は原則として上級生を優先とする。実習費用は本人負担となる（宿泊費用、テーブルマナー実習、交通費）。訪問先企業の都合で年度によって研修内容が調整により変更の可能性もある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無〕〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

キャリアデベロップメントA

EGR3551A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科（実践的科目）

3年次 4年次

1単位 後期

月曜 3限

DP5：共生・協働する力

15

定員16人

岩田 真理子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

1. キャリアとは何か、キャリアの意味するところを理解する。
2. 講義全体を通して、自分の職業生活がイメージできるようになる。
3. 自分の考えを他の人の前で述べる際、文章を丸暗記したものではなく自分の言葉で述べるができるようになっていく。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

自分のキャリアを考えていくということは、自分の人生をどのように生きるかという点につながる。キャリアを単に就職先の選択というのではなく、自分の強みや弱み、自分の志望や将来図を描けるようになることが実りある学生生活を送ることになる。あわせて自分自身の未来をイメージすることが心の中にどのような変化を生み出すかを体感しながら臨むことを期待する。

キャリアの理解につとめ、自分が進むべき方向性を模索する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				一時保存

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーションー授業理解ー
授業の進め方、目的、注意事項などを理解する。

- 第 2 回 キャリア理解 <基礎>
 - ・キャリアの基本的理解
 - ・キャリアと自分の生き方との関連性を考える
- 第 3 回 社会で求められる力
 - ・社会、産業、組織について
 - ・社会で求められる力とは
 - ・社会に出るまでに出来ること
- 第 4 回 自己理解①
 - ・自分自身に関心と興味を持つ
 - ・自分自身に内在する力を整理する
 - ・目指す方向性を理解する
- 第 5 回 自己理解②
 - ・自分自身を客観的に理解する
 - ・「就職」について考える
 - ・職業の3つの機能を理解する
- 第 6 回 キャリア理解① <業界研究>
 - ・業界-企業の間を通って、日本企業の特徴を理解する
- 第 7 回 キャリア理解② <業界研究>
 - ・仕事、業界、ライフキャリアの関連性をもとに職業選択において直面することを全体で考える
- 第 8 回 キャリア理解③ <業界研究>
 - ・グループプレゼンテーションを実施する
- 第 9 回 自己表現 STEP I ①
 - ・言語、非言語の表現方法の基礎を学ぶ
 - ・実習を通して自己の課題を発見する
- 第 10 回 自己表現 STEP I ②
 - ・面接の模擬練習を通して、気付き・観察力を養う
- 第 11 回 自己表現 STEP II ①
 - ・自分の意見を述べる
- 第 12 回 自己表現 STEP II ②
 - ・グループディスカッションを体験する
- 第 13 回 自己理解とストレス
- 第 14 回 個別相談
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

配布資料に基づき、自分で考える。インターネットを使用し、業界研究を行う。

授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・課題シートは確実に取り組んでくること
- ・授業で学んだことを積み重ね、将来を見据えて自分の方向性を考える
- ・日常的に新聞を読んだり日本・世界の出来事に関心をもつこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度 (40%)、課題達成度 (30%)、理解度確認 (30%) を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

キャリアデベロップメントB

EGR3551B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

3年次 4年次

1単位 後期

木曜3限

DP5 : 共生・協働する力

15

定員16人

岩田 真理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. キャリアとは何か、キャリアの意味するところを理解する。
2. 講義全体を通して、自分の職業生活がイメージできるようになる。
3. 自分の考えを他の人の前で述べる際、文章を丸暗記したものではなく自分の言葉で述べるできるようになっている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

自分のキャリアを考えていくということは、自分の人生をどのように生きるかという点につながる。キャリアを単に就職先の選択というのではなく、自分の強みや弱み、自分の志望や将来図を描けるようになることが実りある学生生活を送ることになる。あわせて自分自身の未来をイメージすることが心の中にどのような変化を生み出すかを体感しながら臨むことを期待する。

キャリアの理解につとめ、自分が進むべき方向性を模索する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション-授業理解-
授業の進め方、目的、注意事項などを理解する。
- 第 2 回 キャリア理解 <基礎>

- ・キャリアの基本的理解
- ・キャリアと自分の生き方との関連性を考える
- 第 3 回 社会で求められる力
 - ・社会、産業、組織について
 - ・社会で求められる力とは
 - ・社会に出るまでに出来ること
- 第 4 回 自己理解①ー
 - ・自分自身に関心と興味を持つ
 - ・自分自身に内在する力を整理する
 - ・目指す方向性を理解す
- 第 5 回 自己理解②
 - ・自分自身を客観的に理解する
 - ・「就職」について考える
 - ・職業の3つの機能を理解する
- 第 6 回 キャリア理解① <業界研究>
 - ・業界-企業の関係を通して、日本企業の特徴を理解する
- 第 7 回 キャリア理解② <業界研究>
 - ・仕事、業界、ライフキャリアの関連性をもとに職業選択において直面することを全体で考える。
- 第 8 回 キャリア理解③ <業界研究>
 - ・グループプレゼンテーションを実施する
- 第 9 回 自己表現 STEP I ①
 - ・言語、非言語の表現方法の基礎を学ぶ
 - ・実習を通して自己の課題を発見する
- 第 10 回 自己表現 STEP I ②
 - ・面接の模擬練習を通して、気付き・観察力を養う
- 第 11 回 自己表現 STEP II ①
 - ・自分の意見を述べる
- 第 12 回 自己表現 STEP II ②
 - ・グループディスカッションを体験する
- 第 13 回 自己理解とストレス
- 第 14 回 個別相談
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・配布資料に基づき、自分で考える
- ・インターネットを使用し、業界研究を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・課題シートは確実に取り組んでくること。
- ・授業で学んだことを積み重ね、将来を見据えて自分の方向性を考える。
- ・日常的に新聞を読んだり日本・世界の出来事に関心をもつこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度 (40%)、課題達成度 (30%)、理解度確認 (30%) を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

ビジネスマナー演習 A

EGR3550A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

3年次 4年次

1単位 後期

月曜4限

DP5 : 共生・協働する力

15

定員16人

岩田 真理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ホスピタリティを学んだ学生に対し、卒業後社会に出る前に一程度のソーシャルマナーを体得しておくことを目指す。ビジネスマナーのみにかかわらず、ひろく社会においてホスピタリティの精神を自分以外の人間に伝えるようになることが目的である。(基礎的な表現方法を習得したことを前提とする。少人数8~10名程度で行い、実践力を身に付ける。)

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

課題テキストを参考としながら、必要に応じ、資料を配布する。説明を基に、実技も多く取り入れる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション -授業概要説明-
ソーシャルマナーとは何か。授業概要と進め方を理解する
- 第 2 回 社会人の身だしなみと基本的心構え
身だしなみチェックと社会人としての基本的心構えを学ぶ
- 第 3 回 社会人としての立ち居振舞い
品位・印象度を高める動作、身振り、表現力を学ぶ
- 第 4 回 交通のマナー
交通関係一般的な知識、理解、同行者へのホスピタリティを考える
- 第 5 回 正しい言葉遣いと敬語

- 社会人にふさわしい言葉遣いと敬語のルールを学ぶ
- 第 6 回 感じのよい電話応対 ①
態度・表情を伴わない電話のマナーを体得する
- 第 7 回 感じのよい電話応対 ②
様々な事例を体得する
- 第 8 回 訪問のマナー
訪問時の一般的な手順を学ぶ。(名刺交換)
- 第 9 回 応接のマナー
一般的な来客応対を体得する。(受付、案内、応接席次など)
- 第 10 回 ビジネス文書の基本①
社内文書・社外文書など一般的な文書の作成方法を理解する
- 第 11 回 ビジネス文書②
前回の基本をもとに実際の文章を作成してみる
- 第 12 回 レストランのマナー
レストランで食事をとる際のマナーを体得する
※可能な限りレストラン利用により実習を行う(有料)
- 第 13 回 冠婚葬祭のマナー
結婚式に招かれた場合、訃報を受けた場合
- 第 14 回 ソーシャルマナー総合
総合的な表現力を体得・強化する。社会においてふさわしい、かつ品位のある言動がとれるように個別指導を行う
- 第 15 回 まとめ
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
実践的内容を積み重ねていく。日常生活で取り入れることが身につけるためには大切である。社会で常識とされている事柄を広く体得する。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
課題テキストの関連箇所を予習して臨むこと。習得したことは速やかに実践すること。
授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
評価は、授業参加度 (60%)、確認テスト (40%) にて総合的に評価する。
〔留意事項 (Other Information)〕
原則として、二回目からスーツ着用を求める。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『ビジネスマナーの基本ルール』/ANAビジネスソリューション (株)/成美堂出版/9784415310152/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

ビジネスマナー演習B

EGR3550BOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

3年次 4年次

1単位 後期

木曜4限

DP5 : 共生・協働する力

15

定員16人

岩田 真理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ホスピタリティを学んだ学生に対し、卒業後社会に出る前に一程度のソーシャルマナーを体得しておくことを目指す。ビジネスマナーのみにかかわらず、ひろく社会においてホスピタリティの精神を自分以外の人間に伝えるようになることが目的である。(基礎的な表現方法を習得したことを前提とする。少人数8~10名程度で行い、実践力を身に付ける。)

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

課題テキストを参考としながら、必要に応じ、資料を配布する。説明を基に、実技も多く取り入れる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション -授業概要説明-
ソーシャルマナーとは何か。授業概要と進め方を理解する
- 第 2 回 社会人の身だしなみと基本的心構え
身だしなみチェックと社会人としての基本的心構えを学ぶ
- 第 3 回 社会人としての立ち居振舞い
品位・印象度を高める動作、身振り、表現力を学ぶ
- 第 4 回 交通のマナー
交通関係一般的な知識、理解、同行者へのホスピタリティを考える
- 第 5 回 正しい言葉遣いと敬語
社会人にふさわしい言葉遣いと敬語のルールを学ぶ
- 第 6 回 感じのよい電話応対 ①
態度・表情を伴わない電話のマナーを体得する
- 第 7 回 感じのよい電話応対 ②
様々な事例を体得する

- 第 8 回 訪問のマナー
訪問時の一般的な手順を学ぶ。(名刺交換)
- 第 9 回 応接のマナー
一般的な来客応対を体得する。(受付、案内、応接席次など)
- 第 10 回 ビジネス文書の基本①
社内文書・社外文書など一般的な文書の作成方法を理解する
- 第 11 回 ビジネス文書②
前回の基本をもとに実際の文章を作成してみる
- 第 12 回 レストランのマナー
レストランで食事をとる際のマナーを体得する
※可能な限りレストラン利用により実習を行う(有料)
- 第 13 回 冠婚葬祭のマナー
結婚式に招かれた場合、訃報を受けた場合
- 第 14 回 ソーシャルマナー総合
総合的な表現力を体得・強化する。社会においてふさわしい、かつ品位のある言動がとれるように個別指導を行う
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実践的内容を積み重ねていく。日常生活で取り入れることが身につけるためには大切である。社会で常識とされている事柄を広く体得する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

課題テキストの関連箇所を予習して臨むこと。習得したことは速やかに実践すること。

授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (60%)、確認テスト (40%) にて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

原則として、二回目からスーツ着用を求める。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ビジネスマナーの基本ルール』/ANAビジネスソリューション(株)/成美堂出版//9784415310152/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

フィールド研究

EGR3501N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 前期

月曜3限

DP5: 共生・協働する力

60

定員16人

岩田 真理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「ホスピタリティ産業」について理解を深める。それぞれの学生が産業の中のホスピタリティ要素の高い業種や企業を探究し、実社会における「ホスピタリティ」のあり方を自分なりに評価・研究した内容をまとめあげる。課題の発見・調査と評価・発表までのプロセスを体験することを目指す。学生には考え抜く力や積極的な意見の発表を求める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

調査研究する中で、P-D-C-Aサイクルを理解し、体感すること。自分で考え抜く力を養い、考えたことを他人に伝える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーションー授業理解ー
授業の進め方の説明、及び、フィールドワークの意義やプロセスの踏み方を理解する。
- 第 2 回 ホスピタリティを再考する
ホスピタリティとは何か、各自の学んできたこと、考えを述べ、振り返る。
- 第 3 回 ホスピタリティ産業とは
ホスピタリティ産業の概要を確認するとともに、今後の授業方針を検討する。
- 第 4 回 事例検討I
ホスピタリティが高いといわれる企業として、アミューズメントパークの特徴を検討する。
- 第 5 回 事例検討II
ホスピタリティが高いといわれる企業として、金融機関の特徴を検討する。
- 第 6 回 事例検討III
ホスピタリティが高いといわれる企業として、鉄道会社の特徴を検討する。
- 第 7 回 事例検討IV
ホスピタリティが高いといわれる組織として、医療関連の特徴を検討する。
- 第 8 回 課題検討I
研究する産業の決定を行う。意見交換を行いながら個人課題を決定する。
- 第 9 回 課題検討II

研究する産業の評価尺度の検討を行う。意見交換を行いながら個人評価の方法を検討する。

- 第 10 回 フィールドワーク PLAN
個人計画をたてる。PLAN-DO - CHECK - ACTIONのあり方を理解し、最終ゴールを確認する。
- 第 11 回 フィールドワーク ①
個人計画に基づき、研究を進める。
- 第 12 回 フィールドワーク ②
研究の進捗を振り返りながら、考察をまとめる。
- 第 13 回 プレゼンテーション準備
研究内容をパワーポイントにまとめる。
- 第 14 回 プレゼンテーション①
全体半数に分けて受講者前半グループの個人発表及び、他者の発表を受けての質疑応答への参加。
- 第 15 回 プレゼンテーション②
全体半数に分けて受講者後半グループの個人発表及び、他者の発表を受けての質疑応答への参加。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ホスピタリティ産業を紹介している資料に基づき、何社かをグループワークで事例検討を行う。その後、各自が研究したいホスピタリティ産業を選び、個人研究を進める。

研究結果をプレゼンテーションにより発表する。授業中の発問と学生の解答や各自の研究の進捗内容に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日常生活の中で、ホスピタリティを発揮している産業に着目し、その背景を可能な限り探る。

事例研究でとりあげる産業 (企業) の特徴から何故ホスピタリティが高いのかを学ぶ。

事例研究をもとに興味のある産業 (企業) を選定する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (50%) プレゼンテーション (50%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

自分の考えを表現し、積極的に授業に参加すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接客講師として5年間の経験を有す。

プレゼンテーション演習

CSA2457N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

定員30人

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

効果的なプレゼンテーション技法を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・数多く実践練習をすることを通して、望ましいプレゼンテーション技法を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
プレゼンテーション技能	テーマに適したプレゼンテーションになっていない。自己課題を認識してない。	各テーマに適したプレゼンテーションをする。自己課題を認識し、改善するよう取り組む。	聴衆にとって効果的なプレゼンテーションをすることができる。自己課題を認識し改善している。	工夫を凝らして、聴衆にとって効果的なプレゼンテーションにすることができる。自己課題を認識し、高度な技能を身に付けている。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 プレゼンテーションの基礎の確認

プレゼンテーション技法に関するプレゼンテーション

第 3 回 身体表現

プレゼンテーション (1)

第 4 回 効果的なプレゼンテーションの技法

第 5 回 プレゼンテーション (2)

準備、練習 (イベント紹介)

第 6 回 プレゼンテーション (2)

発表と振り返り (イベント紹介)

第 7 回 プレゼンテーション (3) -①

準備、練習 (会社の説明)

第 8 回 プレゼンテーション (3) -①

プレゼンテーション (会社の説明)

第 9 回 プレゼンテーション (3) -②

準備、練習 (商品の説明)

第 10 回 プレゼンテーション (3) -②

社内検討会と聴衆分析

第 11 回 プレゼンテーション (3) -③

- 社外プレゼンテーションの準備
- 第12回 プレゼンテーション (3) -③
社外プレゼンテーションリハーサル
- 第13回 最終のプレゼンテーション
本番 A (実技テスト)
- 第14回 最終のプレゼンテーション
本番 B (実技テスト)
- 第15回 最終のプレゼンテーション
本番 C (実技テスト)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・口頭表現 (論理表現、音声表現) や身体表現についての基礎を学習し、数多く練習する。
- ・事前調査、聴衆分析、ストーリー作り、適切な用語の選択について実践的に行う。
- ・他者にコメントをすることを通して、自己のプレゼンテーションを振り返る。
- ・プレゼンテーションの本番の際にフィードバックがある。
- ・最終のプレゼンテーションについて報告書 (レポート) を提出する。
- ・一部、オンライン (オンデマンド) で実施することで、充実した準備・練習をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・各課題の準備・練習をする。
- ・自己課題について、普段から改善するよう努める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、最終のプレゼンテーション (30%)、授業参加度 (40%)、レポート (30%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・実践的な授業のため、進行状況等により、随時、内容・方法を調整していく。
- ・人前で話すことに自信がない場合やプレゼンテーションの基礎的な方法論から学習したい場合は、「プレゼンテーション概論」を履修してから本授業を履修することが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ビジネスプレゼンテーション改訂版』/武田秀子編/実教出版/2011/4407322616/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『パブリックスピーキング人を動かすコミュニケーション術』/蔭山洋介/NTT出版/2011/4757122837

『シンプルプレゼン』/ガー・レイノルズ/日経ビジネスアソシエ/2011/4822230546

『スティーブ・ジョブズ驚異のプレゼン』/カマイン・ガロ/日経BP社/2010/482224816X

『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』/ジェレミー・ドノバン/新潮社/2013/4105064916

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 社会人に対するセミナー (プレゼンテーション) 講師経験あり。

ホスピタリティ・スキルA

EGR2100A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜4限

DP1: 自分を育てる力

60

定員20人

岩田 真理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「ホスピタリティ」を他者に伝える言語・非言語コミュニケーションスキルやマナー、社会生活上の好ましいルールの遵守など一般的な内容を取りあげ、ホスピタリティを感じさせる行動が適切にとれるようになることを目指す。各回必ず演習を行い繰り返し指導を受けることにより実践的な学びを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・ホスピタリティを表現することを実習形式で進めるが、内容は多岐に渡るため、授業で実施したことは、日々の生活で繰り返し表現し身につけることが大切である。考察、実習を繰り返すなかで、感性を磨くことを意識して参加すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション - 授業概要 -
授業の進め方、学習内容と求めるレベル、授業上の注意事項などを理解する。自己紹介を実施する。
- 第2回 ホスピタリティを伝える要素 - 伝わるコミュニケーションとは -
コミュニケーションの考え方、高いコミュニケーションスキルを身に付けることの重要性を理解する。聞くことと話すこと。
- 第3回 ホスピタリティを伝える基本 - 異文化コミュニケーション -
自己と他者とのコミュニケーションを考え表現する。
- 第4回 言葉で表すホスピタリティI - 敬語で伝える気持ち -

- 言語コミュニケーションのうち、会話における敬語表現を学ぶ。
- 第 5 回 言葉で表すホスピタリティⅡー敬語を文章に表すー
言語コミュニケーションのうち、文章表現について基本を学ぶ。
- 第 6 回 表現力Ⅰー非言語コミュニケーションー
非言語コミュニケーションにおいて相手に印象つける要素は何かを考える。自己表現と他者認知のずれを確認する。
- 第 7 回 表現力Ⅱー印象を高めるためにー
印象を左右するものは何か。印象をよくするためにはどのような工夫をすれば良いのかを理解する。
- 第 8 回 表現力Ⅲー好印象の表情とはー
相手に与える印象において大きな影響を与える表情について個人ごとに指導を行う。
- 第 9 回 表現力Ⅳー行動で伝える思いやりー
礼儀作法を含め、一般的に体得しておくことを求められる一般社会の動作、振る舞いを体得する。
- 第 10 回 表現力Ⅴー声だけのコミュニケーションー
電話応対をとりあげ、演習を行いながら好印象の応対を体得する。
- 第 11 回 表現力Ⅵー文字であらわす思いやりー
文章やメールなど相手の立場にたった表現力を考え、実践する。
- 第 12 回 社会のルール・マナーー他者尊重のコミュニケーションー
人間は社会的な存在であることを認識し、社会上のコミュニケーションのあり方を考えて実践できるようにする。
- 第 13 回 総合演習Ⅰーロールプレイングー
学内の食堂などの場面設定を行い、習得状況を自己判断する。
- 第 14 回 総合演習Ⅱーロールプレイングー
学事課、キャリアセンターなどの場面設定を行い、習得状況を自己判断する。
- 第 15 回 まとめ
定着度を確認する
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
配布資料に基づき、ホスピタリティについて考察しながら、実習を重ねる。
授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
各回で実施する内容は、日常生活に直結するものばかりである。授業はきっかけにしか過ぎず、自身で出来るようにするという意識を持ち、繰り返しの実践によってのみ身につけることが出来る。各回で実施した内容は日常の中で繰り返し実践すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (50%) 実技習得度 (50%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

ホスピタリティ・スキルB

EGR2100B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜3限

DP1: 自分を育てる力

60

定員20人

岩田 真理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「ホスピタリティ」を他者に伝える言語・非言語コミュニケーションスキルやマナー、社会生活上の好ましいルールの遵守など一般的な内容を取りあげ、ホスピタリティを感じさせる行動が適切にとれるようになることを目指す。各回必ず演習を行い繰り返し指導を受けることにより実践的な学びを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・ホスピタリティを表現することを実習形式で進めるが、内容は多岐に渡るため、授業で実施したことは、日々の生活で繰り返し表現し身につけることが大切である。考察、実習を繰り返すなかで、感性を磨くことを意識して参加すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーションー授業概要ー

授業の進め方、学習内容と求めるレベル、授業上の注意事項などを理解する。自己紹介を実施する。

- 第 2 回 ホスピタリティを伝える要素 –伝わるコミュニケーションとは–
コミュニケーションの考え方、高いコミュニケーションスキルを身に付けることの重要性を理解する。聞くことと話すこと。
- 第 3 回 ホスピタリティを伝える基本–異文化コミュニケーション–
自己と他者とのコミュニケーションを考え表現する。
- 第 4 回 言葉で表すホスピタリティI –敬語で伝える気持ち–
言語コミュニケーションのうち、会話における敬語表現を学ぶ。
- 第 5 回 言葉で表すホスピタリティII –敬語を文章に表す–
言語コミュニケーションのうち、文章表現について基本を学ぶ。
- 第 6 回 表現力 I–非言語コミュニケーション–
非言語コミュニケーションにおいて相手に印象つける要素は何かを考える。自己表現と他者認知のずれを確認する。
- 第 7 回 表現力 II –印象を高めるために–
印象を左右するものは何か。印象をよくするためにはどのような工夫をすれば良いのかを理解する。
- 第 8 回 表現力 III –好印象の表情とは–
相手に与える印象において大きな影響を与える表情について個人ごとに指導を行う。
- 第 9 回 表現力 IV–行動で伝える思いやり–
礼儀作法を含め、一般的に体得しておくことを求められる一般社会の動作、振る舞いを体得する。
- 第 10 回 表現力 V –声だけのコミュニケーション–
電話応対をとりあげ、演習を行いながら好印象の応対を体得する。
- 第 11 回 表現力 VI–文字であらわす思いやり–
文章やメールなど相手の立場にたった表現力を考え、実践する。
- 第 12 回 社会のルール・マナー –他者尊重のコミュニケーション–
人間は社会的な存在であることを認識し、社会上のコミュニケーションのあり方を考えて実践できるようにする。
- 第 13 回 総合演習I –ロールプレイング–
学内の食堂などの場面設定を行い、習得状況を自己判断する。
- 第 14 回 総合演習II –ロールプレイング–
学事課、キャリアセンターなどの場面設定を行い、習得状況を自己判断する。
- 第 15 回 まとめ
定着度を確認する
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・配布資料に基づき、ホスピタリティについて考察しながら、実習を重ねる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回で実施する内容は、日常生活に直結するものばかりである。授業はきっかけにしか過ぎず、自身で出来るようにするという意識を持ち、繰り返しの実践によってのみ身につけることが出来る。各回で実施した内容は日常の中で繰り返し実践すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (50%) 実技習得度 (50%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

ホスピタリティ論

EGR1151N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

火曜 4限

DP1: 自分を育てる力

60

ホスピタリティ入門

岩田 真理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「ホスピタリティ」についての理解を深めると同時に、「ホスピタリティ」を発揮する側にとって必要な要素や構造について考察する。ホスピタリティ入門を理解した学生が、さらにホスピタリティを行動化することを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・「ホスピタリティ入門」で学んだことを更に一步踏み込んで学習する。・他者に対する思いやり・気遣いについての考察を深める。・日常におけるホスピタリティに関する気付きや発揮が求められる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーションー授業概要の理解ー(対面)
授業概要説明。授業全体の進め方の理解とホスピタリティとはどのようなものかという復習を行う。
- 第 2 回 ホスピタリティの発揮①ーホスピタリティの高い人間とはー(オンライン)
個人のホスピタリティの発揮について、ひとりの人間としてどのようにあるべきなのかを考える。
- 第 3 回 ホスピタリティの発揮②ーホスピタリティと企業との関係ー(オンライン)
ホスピタリティが企業にとって必要なものはどのような要素が必要とされるのかについて考察する。CSとの関係を考える。
- 第 4 回 ホスピタリティの発揮③ーホスピタリティの醸成ー(オンライン)
ホスピタリティマインドを高めていく方法や個人の中その重要性を認識させることができるのかを考えてみる。人材教育。
- 第 5 回 ホスピタリティと評価①ー評価方法の検討ー(オンライン)
ホスピタリティはどのように評価するのか。ホスピタリティの評価尺度について考えてみる。
- 第 6 回 ホスピタリティと評価②ー評価とフィードバックー(対面)
ホスピタリティを評価ーフィードバックする効果的なサイクルを考える。
- 第 7 回 ホスピタリティとマニュアルー伝える/伝わる「ホスピタリティ」ー(オンライン)
お客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。
- 第 8 回 ホスピタリティとコミュニケーション①ー場の重要性ー(対面)
お客様にホスピタリティを届けるためにどのような場面を重要にするべきか、検証する。
- 第 9 回 ホスピタリティとコミュニケーション②ー働く個人と集団の連携ー(オンライン)
集団としてのホスピタリティが発揮されるときに働く力を考える。

- 第 10 回 ホスピタリティマネジメントーホスピタリティマインドを生み出す背景ー(オンライン)
ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。
- 第 11 回 事例検討①(オンライン)
空港でのエピソードをもとにホスピタリティを考える。
- 第 12 回 事例検討②(対面)
伝統の老舗における一期一会についてホスピタリティを考える。
- 第 13 回 事例検討③(対面)
航空会社でのエピソードからホスピタリティを考える。
- 第 14 回 事例検討④(対面)
大学生活におけるホスピタリティを考える。
- 第 15 回 確認テストとまとめ(対面)
〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法(Course Methods)〕
対面時もパワーポイント(オンラインの場合もパワーポイント(音声付))を使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。各回、事後レポートを記入する。
〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕
ホスピタリティ入門で学んだことがベースとなるため、以前の資料を振り返りながら、考察を深める。ホスピタリティが体現できるよう日常の中で実践を重ねる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕
30
〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕
評価は、課題レポートの提出状況などの学習過程、授業態度、確認テストに基づいて総合的に評価する。
〔留意事項(Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすすめる。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
《実践的科目》ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

医療サポート英語Ⅱ

EGR2351N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 4限

DP3: 言語力

60

医療サポート英語I

Margarite Westra

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The course aims to increase knowledge of Medical English vocabulary, useful phrases, and to provide familiarity in using English in situations specific to medical services provision.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Frequent vocabulary tests will be assigned. There will also be some assigned reading. A larger vocabulary test will take place during the final class.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 L1
Introduction to Medical English
- 第 2 回 L2
Medical English for Tourism and Travel
- 第 3 回 L3
Medical Specialization, Neurology
- 第 4 回 L4
Role-play: consultation
- 第 5 回 L5
Medical Specialization, Urology
- 第 6 回 L6
Medical Specialization, Reproductive Health
- 第 7 回 L7
Role-play: Bedside English
- 第 8 回 L8
Medical Specialization, Endocrinology

第 9 回 L9

Medical Specialization, Emergency Medicine

第 10 回 L10

Role-play: emergency

第 11 回 L11

Medical Specialization, Rehabilitation

第 12 回 L12

Medical Specialization, Diet and Nutrition

第 13 回 L13

Developments in Medicine

第 14 回 L14

Medical Tourism

第 15 回 L15

Course overview: Bringing it all together

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will study the theme related vocabulary and rehearse various English-language medical situations by engaging in structured role-play activities with other class members. This fall of 2020 classes will be online, and therefore also role play will be done online. It is best if we can see each other, so please prepare enough internet access to allow for your camera to be on.

For a broader understanding articles related to the textbook and video material may be introduced.

Feedback will be given during class, or for assignments the following week.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Reading assigned printed sheets and vocabulary revising for regular tests.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Regular tests 30%, class participation 20%, assignments 20%, final test 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

The Lesson Plan above is a guideline, and the teacher may find reason to pursue an alternative schedule.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Because We Care』/Maki Inoue & Tadashi Ihara/CENGAGE/2010/9.784863121294E12/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『医療通訳』/多文化共生センターきょうと/日本医療教育財団/2014/

厚生労働省のホームページよりダウンロードできます

https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000057158.pdf

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

《実践的科目》 オランダで看護婦として病院での勤務経験あり。

英語科教育法Ⅲ A

EGR3200A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

集中

東郷 多津

【科目の教育目標 (Course Description)】

英語科教育法Ⅰ及びⅡで扱った内容を復習することから始め、それらの学習事項を応用する形で、実践活動を行います。そして、それらの活動を通じて実際に教壇に立つ際に必要とされる種々の知識・技能に習熟していくことが目標となります。具体的には、英語教育の意義・目的、教授法・教材論・学習者論・教師論・4技能の具体的な指導法・発音指導の留意点・評価法・教室英語の効果的な使い方などについて確認した上で、それらの技能、とりわけ実際の授業で必要となる4技能の指導に関する実践力を身につけることが求められます。また、教材の準備、教具の使用法、情報機器の使用法などについても、実際に模擬授業を行う中で習熟していくことが目標となります。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

英語教員に求められる知識・技能に関して、以下の諸点に習熟することが求められます

1. 日本の英語教育政策と目的
2. 教師に求められる資質と学習者要因
3. 言語習得と教授法
4. 学習指導要領
5. 4技能の具体的な指導法（発音・語彙指導などを含む）
6. 指導案（教材・副教材を含む）の作成
7. 評価に関すること
8. クラスルーム・イングリッシュの習熟
9. 英語教員に求められる十分な英語力

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	学習指導要領、テキストを読んでいる	学習指導要領、テキストを読んだ	学習指導要領の内容及びテキストで扱う英語教員に必要な内容を理解している	学習指導要領の内容及びテキストで扱う英語教員に必要な内容を理解しており、これを他者に説明できる
言語力	求められる英語力を身につけていない	求められた基準英語力を身につけている	求められた基準以上の英語力を身につけている	求められた基準以上の英語力に加え、さまざまな状況に応じて反応できる英語力を備えている
授業構想力	学習指導要領の把握、または、教材に適した指導法が選択されないまま学習指導案が作成されている	学習指導要領に基づいた単元や本時の目標及び評価と活動を設定することができる	学習指導要領を活かし、学習者が共感できる目標及び評価を設定することができる。または、学習者が興味・関心を持てる活動を設定することができる	学習指導要領を活かし、学習者が共感できる目標及び評価を設定ことができ、かつ、それらに沿って、学習者を「主体的・対話的で深い学び」に導く活動を盛り込んだ学習指導案を作成できる
授業実践力	学習指導案に沿った授業が展開できない	学習指導案に沿った授業展開ができる	学習指導案にもとづきながら、学習者の反応や理解度に意識を向けることができる	学習者の反応や理解度に応じて、臨機応変に学習指導案を修正しながら、授業が展開できる

【授業計画】

- 第 1 回 本授業の意義と目的について－英語教師になるということの意味について考える－
- 第 2 回 学習指導要領とは何か
- 第 3 回 学習指導要領が示す英語力
- 第 4 回 学習指導要領・小中高の英語指導の一貫性
- 第 5 回 小学校の授業づくり
- 第 6 回 中学校の授業づくり
- 第 7 回 高等学校の授業づくり
- 第 8 回 学習指導案の書き方

- 第 9 回 授業の工夫－クラスルーム・イングリッシュ－
- 第 10 回 授業の工夫－導入(warm-up)の指導－
- 第 11 回 授業の工夫－文法・句型・ターゲットセンテンスの指導－
- 第 12 回 授業の工夫－語彙導入・本文学習後の発展活動－
- 第 13 回 模擬授業－導入・ターゲットセンテンス・語彙・発展活動を中心に－
- 第 14 回 授業の工夫－本文学習－
- 第 15 回 模擬授業－本文学習を中心に－

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実際の授業においての、4 技能「5 つの領域」の指導力向上に重点を置きます。それら高度な指導力に裏打ちされる授業実現に向けて、指導案の精緻な検証と作成、英語授業の実際の組み立て、教材・教具の使用法などの英語教育実践力を、模擬授業を通して養ってもらいます。本講座は、指導案の作成とそれに基づいての模擬授業、授業に対するディスカッションとフィードバックが軸となって進められます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの精読、発表の準備、英語運用能力の向上のための自己学習、英語教育雑誌等に普段から目を通すなどを実践したうえで授業に臨むこと
2. 指導案の作成、模擬授業の準備、ディスカッション及びフィードバックに対する振り返りシートの作成は特に入念に行うこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加 20%、指導案・模擬授業 60%、期末レポート 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・教職科目なので、遅刻や欠席には留意すること。
- ・教師になる自覚を持ち、積極的な参加姿勢を望む。
- ・各自、英語力の向上に努めること。前期末 (英語科教育法Ⅲ修了時点) で TOEIC 600 点を目指すこと。(※文部科学省は 2013 年の「第 2 期教育振興基本計画」では「英語教員に求められる英語力の目標」として「英検準 1 級・TOEFL iBT 80 点・TOEIC 730 点」を掲げている)
- ・指定の使用キスト 3 冊 (『改訂版 新しい英語科授業の実践』・『英語科教育実習ハンドブック』『NEW HORIZON 3』) を毎時授業に持参すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂版 新しい英語科授業の実践』/石田雅近・小泉仁・古家貴雄・加納幹雄・齋藤嘉則/金星堂/2020/9784764741119/学内販売有り

『英語科教育実習ハンドブック』/米山朝二・杉山敏・多田茂/大修館書店/2013/9784469245752/学内販売有り

『NEW HORIZON 3』/文部科学省検定教科書/東京書籍/学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『英語教育用語辞典 第 3 版』/白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則/大修館書店/2019/9784469246285

『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)』/文部科学省/東洋館出版社/2018/9784491034607

『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語活動・外国語編』/文部科学省/開隆館出版/2018/9784304051685

『中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)』/文部科学省/東山書房/2018/9784827815580

『中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語編』/文部科学省/開隆堂/2018/9784304051692

『高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示)』文部科学省

『高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 外国語編・英語編』文部科学省

〔参考 URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語科教育法Ⅲ B

EGR3200BJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

3 年次

2 単位 後期

火曜 3 限

DP2: 知識・理解力

60

集中

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語科教育法Ⅰ及びⅡで扱った内容を復習することから始め、それらの学習事項を応用する形で、実践活動を行います。そして、それらの活動を通じて実際に教壇に立つ際に必要とされる種々の知識・技能に習熟していくことが目標となります。具体的には、英語教育の意義・目的、教授法・教材論・学習者論・教師論・4 技能の具体的な指導法・発音指導の留意点・評価法・教室英語の効果的な使い方などについて確認した上で、それらの技能、とりわけ実際の授業で必要となる 4 技能の指導に関する実践力を身につけることが求められます。また、教材の準備、教具の使用法、情報機器の使用法などについても、実際に模擬授業を行う中で習熟していくことが目標となります。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英語教員に求められる知識・技能に関して、以下の諸点に習熟することが求められます

1. 日本の英語教育政策と目的
2. 教師に求められる資質と学習者要因
3. 言語習得と教授法
4. 学習指導要領
5. 4 技能の具体的な指導法 (発音・語彙指導などを含む)
6. 指導案 (教材・副教材を含む) の作成
7. 評価に関すること

8. クラスルーム・イングリッシュの習熟

9. 英語教員に求められる十分な英語力

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学習指導要領、テキストを読んでいない	学習指導要領、テキストを読んだ	学習指導要領の内容及びテキストで扱う英語教員に必要な内容を理解している	学習指導要領の内容及びテキストで扱う英語教員に必要な内容を理解しており、これを他者に説明できる
言語力	求められる英語力を身に付けていない	求められた基準英語力を身に付けている	求められた基準以上の英語力を身に付けている	求められた基準以上の英語力に加え、さまざまな状況に応じて反応できる英語力を備えている
授業構想力	学習指導要領の把握、または、教材に適した指導法が選択されないまま学習指導案が作成されている	学習指導要領に基づいた単元や本時の目標及び評価と活動を設定することができる	学習指導要領を活かし、学習者が共感できる目標及び評価を設定することができる。または、学習者が興味・関心を持てる活動を設定することができる	学習指導要領を活かし、学習者が共感できる目標及び評価を設定ことができ、かつ、それらに沿って、学習者を「主体的・対話的で深い学び」に導く活動を盛り込んだ学習指導案を作成できる
授業実践力	学習指導案に沿った授業が展開できない	学習指導案に沿った授業展開ができる	学習指導案にもとづきながら、学習者の反応や理解度に意識を向けることができる	学習者の反応や理解度に応じて、臨機応変に学習指導案を修正しながら、授業が展開できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 本授業の意義と目的について－英語教師になるということの意味について考える－
- 第 2 回 学習指導要領とは何か
- 第 3 回 学習指導要領が示す英語力

- 第 4 回 学習指導要領・小中高の英語指導の一貫性
 - 第 5 回 小学校の授業づくり
 - 第 6 回 中学校の授業づくり
 - 第 7 回 高等学校の授業づくり
 - 第 8 回 学習指導案の書き方
 - 第 9 回 授業の工夫－クラスルーム・イングリッシュ－
 - 第 10 回 授業の工夫－導入(warm-up)の指導－
 - 第 11 回 授業の工夫－文法・文型・ターゲットセンテンスの指導－
 - 第 12 回 授業の工夫－語彙導入・本文学習後の発展活動－
 - 第 13 回 模擬授業－導入・ターゲットセンテンス・語彙・発展活動を中心に－
 - 第 14 回 授業の工夫－本文学習－
 - 第 15 回 模擬授業－本文学習を中心に－
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実際の授業においての、4技能「5つの領域」の指導力向上に重点を置きます。それら高度な指導力に裏打ちされる授業実現に向けて、指導案の精緻な検証と作成、英語授業の実際の組み立て、教材・教具の使用法などの英語教育実践力を、模擬授業を通して養ってもらいます。本講座は、指導案の作成とそれに基づいての模擬授業、授業に対するディスカッションとフィードバックが軸となって進められます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの精読、発表の準備、英語運用能力の向上のための自己学習、英語教育雑誌等に普段から目を通すなどを実践したうえで授業に臨むこと
2. 指導案の作成、模擬授業の準備、ディスカッション及びフィードバックに対する振り返りシートの作成は特に入念に行うこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加 20%、指導案・模擬授業 60%、期末レポート 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。
- ・教職科目なので、遅刻や欠席には留意すること。
- ・教師になる自覚を持ち、積極的な参加姿勢を望む。
- ・各自、英語力の向上に努めること。前期末(英語科教育法Ⅲ修了時点)でTOEIC 600点を目指すこと。(※文部科学省は2013年の「第2期教育振興基本計画」では「英語教員に求められる英語力の目標」として「英検準1級・TOEFL iBT80点・TOEIC730点」を掲げている)
- ・指定の使用キスト3冊(『改訂版 新しい英語科授業の実践』・『英語科教育実習ハンドブック』『NEW HORIZON 3』)を毎時授業に持参すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂版 新しい英語科授業の実践』/石田雅近・小泉仁・古家貴雄・加納幹雄・齋藤嘉則/金星堂/2020/9784764741119/学内販売有り

『英語科教育実習ハンドブック』/米山朝二・杉山敏・多田茂/大修館書店/2013/9784469245752/学内販売有り

『NEW HORIZON 3』/文部科学省検定教科書/東京書籍/学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『英語教育用語辞典 第3版』/白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則/大修館書店/2019/9784469246285

『小学校学習指導要領(平成29年告示)』/文部科学省/東洋館出版社/2018/9784491034607

『小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 外国語活動・外国語編』/文部科学省/開隆館出版/2018/9784304051685

『中学校学習指導要領(平成29年告示)』/文部科学省/東山書房/2018/9784827815580

『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 外国語編』/文部科学省/開隆堂/2018/9784304051692

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』文部科学省

『高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説 外国語編・英語編』文部科学省

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語科教育法Ⅳ

EGR3250N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科(実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜4限

DP2: 知識・理解力

60

集中

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講座では、英語教員として教壇に立つにあたって必要な知識と技能を身につけ、教育実習において最大限の効果を生むための準備を行うことを目標とします。具体的には、英語指導のための教材を作成し、模擬授業を通して英語授業の計画・実施・評価を行い、実践的な英語指導力を養います。特に、実際の授業で必要となる4技能5つの領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り・発表)」「書くこと」)の指導に関しての発展的実践力を身につけることが求められます。また、教材の準備、教具の使用法、情報機器の使用法などについても、実際に模擬授業を行う中で習熟していくことが目標となります。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英語教員に求められる技能に関して、以下の諸点に習熟することが求められます

1. 日本の英語教育政策と目的
2. 教師に求められる資質と学習者要因
3. 言語習得と教授法
4. 学習指導要領
5. 4技能の具体的指導法(発音・語彙指導などを含む)
6. 指導案(教材・副教材を含む)の作成
7. 教材・教具の使用法
8. 評価に関すること
9. クラスルーム・イングリッシュの習熟
10. 英語教員に求められる十分な英語力

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学習指導要領、テキストを読んでいない	学習指導要領、テキストを読んだ	学習指導要領の内容及びテキストで扱う英語教員に必要な内容を理解している	学習指導要領の内容及びテキストで扱う英語教員に必要な内容を理解しており、これを他者に説明できる
言語力	求められる英語力の基準に達していない	求められた基準英語力を身につけている	求められた基準以上の英語力を身につけている	求められた基準以上の英語力に加え、さまざまな状況に応じて反応できる英語力を備えている
授業構想力	学習指導要領の把握、または、教材に適した指導法が選択されないまま学習指導案が作成されている	学習指導要領に基づいた単元や本時の目標及び評価と活動を設定することができる	学習指導要領を活かし、学習者が共感できる目標及び評価を設定することができる。または、学習者が興味・関心を持てる活動を設定することができる	学習指導要領を活かし、学習者が共感できる目標及び評価を設定ことができ、かつ、それらに沿って、学習者を「主体的・対話的で深い学び」に導く活動を盛り込んだ学習指導案を作成できる

授業実践力	学習指導案に沿った授業が展開できない	学習指導案に沿った授業展開ができる	学習指導案にもとづきながら、学習者の反応や理解度に意識を向けることができる	学習者の反応や理解度に応じて、臨機応変に学習指導案を修正しながら、授業が展開できる
-------	--------------------	-------------------	---------------------------------------	-------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 教材の活用－AV機器及びビデオ・インターネット教材について－
 - 第 2 回 教材の作成・指導の具体例－発音・文字－
 - 第 3 回 模擬授業と振り返り－発音・文字－
 - 第 4 回 教材の作成・指導の具体例－語彙・文法－
 - 第 5 回 模擬授業と振り返り－語彙・文法－
 - 第 6 回 教材の作成・指導の具体例－リスニング－
 - 第 7 回 模擬授業と振り返り－リスニング－
 - 第 8 回 教材の作成・指導の具体例－リーディング－
 - 第 9 回 模擬授業と振り返り－リーディング－
 - 第 10 回 教材の作成・指導の具体例－スピーキング（やり取り・発表）－
 - 第 11 回 模擬授業と振り返り－スピーキング（やり取り・発表）－
 - 第 12 回 教材の作成・指導の具体例－ライティング－
 - 第 13 回 模擬授業と振り返り－ライティング－
 - 第 14 回 評価について
 - 第 15 回 ALTとのチーム・ティーチングについて
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

具体的な指導場面を想定して指導案を作成し、教育実習において求められる、ひいては英語教員になるにあたって必要な、指導技術を身につけるための演習を行います。中学・高校の教科書を利用して、指導事項の精選、指導案の作成、模擬授業の準備、模擬授業、評価・授業の振り返り等の実践を、時間が許す限り行います。また、英語科教育法Ⅲに引き続き、4技能「5つの領域」の指導力向上には特に重点を置きます。それら高度な指導力に裏打ちされる授業実現に向けて、指導案の精緻な検証と作成、英語授業の実際の組み立て、教材・教具の使用法などの英語教育実践力を、模擬授業を通してさらに強化していきます。本講座は、指導案の作成とそれに基づいての模擬授業、授業に対するディスカッションとフィードバックが軸となって進められます。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. テキストの精読、発表の準備、英語運用能力の向上のための自己学習、英語教育雑誌等に普段から目を通すなどを実践したうえで授業に臨むこと
2. 指導案の作成、模擬授業の準備、ディスカッション及びフィードバックに対する振り返りシートの作成は特に入念に行うこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加 20%、指導案・模擬授業 60%、期末レポート 20%

〔留意事項（Other Information）〕

- ・教職科目なので、遅刻や欠席には留意すること。
- ・教師になる自覚を持ち、積極的な参加姿勢を望む。
- ・各自、英語力の向上に努めること。前期末（英語科教育法Ⅲ修了時点）でTOEIC 600点を目指すこと。（※文部科学省は2013年の「第2期教育振興基本計画」では「英語教員に求められる英語力の目標」として「英検準1級・TOEFL iBT80点・TOEIC730点」を掲げている）

・指定の使用キスト3冊（『改訂版 新しい英語科授業の実践』・『英語科教育実習ハンドブック』『NEW HORIZON 3』）を毎時授業に持参すること

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『改訂版 新しい英語科授業の実践』/石田雅近・小泉仁・古家貴雄・加納幹雄・齋藤嘉則/金星堂/ 2020/9784764741119/学内販売有り

『英語科教育実習ハンドブック』/米山朝二・杉山敏・多田茂/大修館書店/2013/9784469245752/学内販売有り

『NEW HORIZON 3』/文部科学省検定教科書/東京書籍/学内販売有り

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『英語教育用語辞典 第3版』/白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則/大修館書店/2019/9784469246285

『小学校学習指導要領（平成29年告示）』/文部科学省/東洋館出版社/2018/9784491034607

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』/文部科学省/開隆館出版/2018/9784304051685

『中学校学習指導要領（平成29年告示）』/文部科学省/東山書房/2018/9784827815580

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』/文部科学省/開隆堂/2018/9784304051692

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』文部科学省

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編・英語編』文部科学省

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

応用プレゼンテーション演習

CSA3900NOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜3限

ー

60

定員30人

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

視覚資料の特性や作成上の留意点などを理解した上で資料作成を行い、プレゼンテーションに関する統合的な学習経験によって総合的思考力を高め、臨機応変の対応と効果的なプレゼンテーションができるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・プレゼンテーションの基礎知識をもとに、視覚資料に関する意義、種類、特徴などを理解し、聴者に効果的な視覚資料を作成できる。

・商品企画、事前準備、プレゼンテーション、報告など、プレゼンテーション実務を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
プレゼンテーション実務	プレゼンテーションをする。報告書を提出する。	各テーマに適した資料作成、プレゼンテーションをすることができる。質問に答えることができる。ルールを守って、誤字脱字のない報告書が書ける。	聴衆にとって効果的な資料作成、プレゼンテーションをすることができる。質問に対して、聴衆にわかりやすく説明することができる。読み手にわかりやすい報告書が書ける。	各テーマに工夫を凝らして、聴衆にとって効果的な資料作成、プレゼンテーションをすることができる。質問に対して、聴衆に効果的な説明等ができる。読み手に効果的な報告書を書くことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 ビジュアル化の意義
視覚資料のポイントと図解、プレゼンテーション (準備)
- 第 3 回 ビジュアル化の意義
図解を使ったプレゼンテーション準備、練習
- 第 4 回 ビジュアル化の意義
図解を使ったプレゼンテーション A
- 第 5 回 ビジュアル化の意義

- 図解を使ったプレゼンテーション B
- 第 6 回 ビジュアル化の意義
図解を使ったプレゼンテーション C
- 第 7 回 視覚資料の種類と特徴
視覚資料の理解、準備
- 第 8 回 視覚資料の種類と特徴
視覚資料を使ったプレゼンテーション 準備、練習
- 第 9 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点
視覚資料を使ったプレゼンテーション A
- 第 10 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点
視覚資料を使ったプレゼンテーション B
- 第 11 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点
視覚資料を使ったプレゼンテーション C
- 第 12 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点
提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点の理解、準備
- 第 13 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点
準備、練習
- 第 14 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点
準備 (リハーサル、相互評価)
- 第 15 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点 (まとめ)
プレゼンテーション (実技テスト)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・各課題について、学習、準備、練習、発表を行う。
- ・実施するプレゼンテーションへの質問に対応する。
- ・相互評価をする。
- ・プレゼンテーションごとに、内容、工夫点、他者の発表から得たこと、今後の課題、感想等についての報告書を提出する (3回)。
- ・プレゼンテーションおよび報告書に対して、随時フィードバックがある。
- ・一部、オンライン (オンデマンド) で実施することで、充実した準備・練習をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・各テーマについて、準備・練習を行う。
- ・授業内でできなかったことは、次週までに仕上げしておく。
- ・プレゼンテーション後に「報告書」を作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、最終プレゼンテーション (30%)、授業参加度 (40%)、報告書 (30%) に基づき、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ゲスト講師による授業を行うこともある。
- ・進行状況等によって、随時、内容・方法を調整していく。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ビジネスプレゼンテーション』/武田秀子編/実教出版/2011/978-4407322613/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『シンプル・プレゼン』/ガー・レイノルズ/日経ビジネスアソシエ/2011/4822230546

『プレゼンテーションZEN 第2版』/ガー・レイノルズ/ピアソン桐原/2012/462106603X

『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』/ジェレミー・ドノバン/新潮社/2013/4105064916

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」 社会人に対するセミナー (プレゼンテーション) 講師経験あり。

接遇のための日本語

EGR2350N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

1単位 後期

火曜2限

DP3: 言語力

15

橘高 邦子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人間のコミュニケーション手段の起源は指さしと物まねといわれている。そこには「協力」と「共有」という社会的動機が強くある。社会の中での「接遇」が人間関係にどのような影響を及ぼすのか。接遇における「話しことば」と「心あるもてなし」を理解し、実践的なコミュニケーションワークでことばの力を磨く

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 自分が発する「ことば」はどこへ向けられているのか。他者への意識を持ちながら適切な「ことば」の選択ができるようにすること

2 自分らしい声をみつけ、誰にでもわかりやすく、心に届く表現を身につけること

3 様々な場面で敬語を自然に使いこなせるようにすること

4 「あがり」や「緊張」を克服してパブリックスピーキングを上達させること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	誠実に課題の取り組みができない	課題に取り組んではいないもの、主体性がない	課題に対して、強く興味を持ち、対処できる	課題に対して、いつも知識の準備があり、多面的に自分を評価できる
知識・理解力	接遇に関する用語や意義について理解していない	接遇に対する理解と社会常識を持っている	接遇に対する一般的なマナーが理解できている	接遇やサービスの機能を理解し、時代の変化と共に対応できる
言語力	敬語や言葉による対人心理を理解していない	敬語や言葉による対人心理を理解し、正確な表現をしようとしている	どんな状況でもマニュアルに頼っているもの、正確な表現ができる	どんな状況でもマニュアルに頼らず、正確で豊かな表現ができる
思考・解決力	言葉や状況の形だけにとらわれ、本質をとらえることができない	言葉や状況の本質をとらえようとしているものの、一部を曲解している	与えられた問題や課題についての要点を説明できる	与えられた問題や課題を的確に処理できる
共生・協働する力	グループワークにおいて、積極的な発言がない	グループワークにおいて、自分を中心とした発言に偏ってしまう	グループワークにおいて、他者への意識を持ってはいるが、具体的な行動に移せていない	グループワークにおいて、他者への意識を強く持ち、リーダーやフォロワーとしての役割を担うことができる
創造・発信力	自らの言葉で表現し、伝えることができない	一般的な言葉で表現し、伝えることができる	自らの言葉で表現し、伝えることができているもの、言語に対する問題意識を持っていない	学びを社会で生かすことができ、また言語に対する問題意識を持ち続けている

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション

講義のねらい、目標の確認、グループワークのすすめ方

第2回 自分の声をみつける

相手にキチンと伝わる発声法を実践する

第3回 「敬語」を考える

社会における人間関係と「敬語」についての考察

第4回 「敬語」を使ってプレゼンをする

- ビジネスシーンでの立場を考え、「敬語」を意識してプレゼンテーションをする
- 第 5 回 間違えやすい「敬語」
「させていただきます」症候群についての考察
- 第 6 回 接遇に関する問題解決に取り組んでみる
社会での立場と状況を理解し、的確な「ことば」を使って問題解決のトレーニングをする
- 第 7 回 接遇に関する対応力を考える
敬語を使って様々なシチュエーションによる対応力を磨くトレーニング
- 第 8 回 「きく」こと、とは
ことばのコミュニケーション「きく」ことの社会での重要性を考える
- 第 9 回 「聴く」ことについて
欠落してはいけない情報を「聴いて」まとめるトレーニング
- 第 10 回 実践・パブリックスピーキングの基本
相手から求められていることを的確に理解し、わかりやすい構成を考える
- 第 11 回 実践・パブリックスピーキングの応用
自分の視点を軸として、相手が求めていることに的確に応え表現をするトレーニング
- 第 12 回 電話の受け方とかけ方
ビジネスにおいて、相手に誠実さが伝わる電話の受け方とかけ方のトレーニング
- 第 13 回 今のことばを考える（文化庁 国語に関する世論調査より）
若者ことばやSNSで使用される「ことば」についての考察
- 第 14 回 接遇における「きき方」と「話し方」
相手の心に届く「きき方」と「話し方」を考え実践する
- 第 15 回 接遇とは（まとめ）
相手の心に響く接遇とはどういうものか、各自の実習実践について振り返ってみる

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

- 1 ロールプレイングにより社会の様々な立場や場面で洗練された接遇のことばを自然に使えるようにする
- 2 テーマ指定のパブリックスピーキングにより 聞き手の心に響く会話術を養う
- 3 ワークショップ形式の中で、他の学生の意見も受け入れ自分のことばと思考の引き出しを増やす
- 4 各講義での課題における実習実践はその都度各自にフィードバックし、学生同士で相互評価も行う

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

- 1 日常の読書習慣にコミュニケーション関連の書籍を取り入れ、ことばの感性を磨く
- 2 自分自身の日常会話を振り返って何が足りないかに気づく
- 3 社会の動きの中から生れた新しいことば、時事用語、トレンドワードに興味を持ち、ことばへの意識を高める

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

積極的な授業参加、意欲 40%。課題への取組 30%。レポートと習熟度テスト 30%

【留意事項（Other Information）】

欠席が続くと課題達成が困難になるので気をつけること

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

なし。毎回レジュメ、教材配布

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

特になし。必要に応じて指示

【参考URL(URL for Reference)】

特になし

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫

実務経験等：NHK報道番組部キャスター、リポーター・民放ラジオ情報番組ナビゲーターの経験あり

Academic Reading I 2016年度以前入学者

201014N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 集中

その他

—

60

必修

木島 菜菜子

【科目の教育目標（Course Description）】

本科目は、英語英文学演習（ゼミ）に所属して本格的に学術活動（卒業研究に向けた学習）を開始する3年次生を対象とし、卒業研究作成のために必要となる英語文献（学術論文、専門書、等）を適切かつ効率よく読み、要約し、記録する技術の習得を目標とする。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

自らの卒業研究に必要な英語学術論文、専門書等を：

<1> 適切に収集する技術の習得

<2> 精読し、適切かつ効率よく理解する技術の習得

<3> 要約し、参考・引用文献として記録する技術の習得

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	素読の習慣がない	ゆっくりでも何とか出来る	理解出来ないなりに、成し遂げる	抵抗なく達成できる
知識・理解力	意欲がない	説明を求める	少しの説明で理解する	自ら調べる

言語力	語彙力が少ない	初期段階の単語が理解出来る	高校の必須単語が理解出来る	なるべく辞書を使用しないで理解出来る
思考・解決力	何事にも努力をしない	助言をすると、意欲が出る	自らのできる範囲で考え、解決する	自ら、進める
共生・協働する力	協調性がない	自分を出そうと努力する	必要な時は交わる努力をする	常に積極的である
創造・発信力	課題に根差した物はない	何とか捻りだそうとする	調査したり努力はする	自ら進んで方向性を見つける

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
 第 2 回 Reading 課題1 "Stonehenge" (1)
 第 3 回 Reading 課題1 "Stonehenge" (2)
 第 4 回 Reading 課題2 "Hadrian's Wall" (1)
 第 5 回 Reading 課題2 "Hadrian's Wall" (2)
 第 6 回 Reading 課題3 "Caernarfon Castle" (1)
 第 7 回 Reading 課題3 "Caernarfon Castle" (2)
 第 8 回 Reading 課題4 "Canterbury Cathedral" (1)
 第 9 回 Reading 課題4 "Canterbury Cathedral" (2)
 第 10 回 How to read documents;
 Reading assignments review and feedback
 第 11 回 Reading 課題5 "Tudor Houses" (1)
 第 12 回 Reading 課題6 "Tudor Houses" (2)
 第 13 回 Reading 課題7 "Country Houses" (1)
 第 14 回 Reading 課題8 "Country Houses" (2)
 第 15 回 Review and quiz
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

担当教員との協議により、各学生の卒業論文トピックに適切な Reading assignments (学術論文、著書、または著書の一部) を複数決定する。学生は、事前に予習をして授業にのぞみ、授業時間内にはそれぞれのリーディングタスクをこなし、ペアやグループワークでの活動などを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

準備学習においては、わからない単語や表現は全て辞書をひき、訳文を考えた上で、疑問点を明らかにしておくこと。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

2

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class performance: 40%

Reading assignments: 30%

Review quiz: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業には、必ず辞書を持参すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

British Society through its buildings / Simon Rosati annotated by Hisao Kondo / Eihosha / 2017 / 978-4-269-15019-5 / 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Reading II 2016年度以前入学者

201015N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 集中

その他

—

60

必修

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、Academic Reading Iで習得した技術を踏まえ、卒業研究作成のために必要となる英語文献(学術論文、専門書、等)を適切かつ効率よく読み、要約し、記録する技術をさらに発展させることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

自らの卒業研究に必要な英語学術論文、専門書等を:

<1> 適切に収集する技術の発展

<2> 精読し、適切かつ効率よく理解する技術の発展

<3> 要約し、参考・引用文献として記録する技術の発展

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	積極的ではない	助言すると何とかできる	ゆっくりでも自ら進める	自ら努力して進む
知識・理解力	努力をしようとしらない	助言すると、調べたりする	自ら、調査する	率先して挑む
言語力	基本的な言葉を読んでいない	初期の語彙力はある	中等の語彙力はある	語彙は豊富である
思考・解決力	努力が見えない	意欲が行動と伴わない	意欲や解決力が現れる	行動として表れている
共生・協働する力	意気込みがない	消極的であるが、表れている	クラスワークにも表れる	日常生活に表れている

創造・発信力	あるとは思いますが、発揮しようとしていない	発揮する気持ちが少しはあるようである	クラスワークに表れている	翻訳するときに、特に現れている
--------	-----------------------	--------------------	--------------	-----------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Reading 課題1
- 第 2 回 Reading 課題2
- 第 3 回 Reading 課題3
- 第 4 回 Reading 課題4
- 第 5 回 Reading 課題5
- 第 6 回 Reading 課題6
- 第 7 回 Reading 課題7
- 第 8 回 Reading 課題8
- 第 9 回 Reading 課題9
- 第 10 回 Reading 課題10
- 第 11 回 Reading 課題11
- 第 12 回 Reading 課題12
- 第 13 回 Reading 課題13
- 第 14 回 Reading 課題14
- 第 15 回 Review and quiz

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

担当教員との協議により、各学生の卒業論文トピックに適切な Reading assignments (学術論文、著書、または著書の一部) を決定する。学生は、事前に予習をして授業にのぞみ、授業時間内にはそれぞれのリーディングタスクをこなし、ペアやグループワークでの活動などを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

準備学習においては、わからない単語や表現は全て辞書をひき、訳文を考えた上で、疑問点を明らかにしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

3

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class performance: 40%

Reading assignments: 30%

Review quiz: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Writing I A

EGB3301A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

金曜 4限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to improve students' writing skills in order to be ready for writing their senior thesis and other academic work in English.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Produce quality academic prose by editing and revising successive drafts of each essay.

Formulate and develop drafts based on topics of each student's own interests with an awareness of how it will be read by a general audience.

Evaluate student's own drafts (and the work of other writers) and give critical feedback.

Properly acknowledge sources and know how to avoid plagiarism.

Develop a personalised learning strategy for improving writing skills.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introductory class
- 第 2 回 Narrative essay first draft
- 第 3 回 Narrative essay second draft
- 第 4 回 Narrative essay third draft: peer consultation
- 第 5 回 Narrative essay fourth draft: teacher consultation
- 第 6 回 Narrative essay fourth draft: teacher feedback
- 第 7 回 Narrative essay final draft
Introduction to persuasive essay
- 第 8 回 Persuasive essay first draft: plan and structure
- 第 9 回 Persuasive essay second draft: argument and development

第 10 回 Persuasive essay third draft: peer consultation
 第 11 回 Persuasive essay fourth draft: teacher consultation
 第 12 回 Persuasive essay fourth draft: teacher feedback
 第 13 回 Grammar review
 第 14 回 Persuasive essay final draft: in-class writing
 第 15 回 Persuasive essay returned: consultations
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 The course is conducted entirely in English.

Students write a variety of assignments based on their interests both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, homework, and other work. Students receive advice on their personalised learning strategy. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should prepare for each class by practicing writing as much English as possible using their personalised learning strategy. Students may be required to catch up on the writing of their drafts if they fall behind schedule.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 In-class participation and quizzes 40%
 Essay 60%

[留意事項 (Other Information)]
 The schedule is flexible.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

Academic Writing I B

EGB3301B0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 3年次
 2単位 前期
 金曜 4限
 DP3: 言語力
 60
 必修 クラス指定
 Jacques Wilburn Hardy Jr.

[科目の教育目標 (Course Description)]
 This course focuses on developing skills needed for conducting research and writing research papers. Students will learn to choose topics for research, find and evaluate sources of information, take organized notes, document sources appropriately, and write a well-supported research paper.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]
 Upon completion of this course, students will be able to:
 (1) Write effective thesis statements and topic sentences
 (2) Support ideas effectively in writing
 (3) Take organized notes on source material and use them effectively
 (4) Paraphrase and summarize source material appropriately
 (5) Clearly distinguish between source material and one's own voice
 (6) Write papers according to style guidelines

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Students can: 1) find and use reliable sources for research; 2) make and support convincing arguments; 3) properly cite sources of evidence; 4) properly format a research paper 5) write with accuracy and clarity	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction: What is research?
- 第 2 回 Topics, research questions, and thesis statements
- 第 3 回 Finding and Evaluating sources
- 第 4 回 Understanding article organization
- 第 5 回 Avoiding plagiarism
- 第 6 回 Note taking
- 第 7 回 Citation
- 第 8 回 Effective Support
- 第 9 回 Paraphrasing
- 第 10 回 Introductions and conclusions
- 第 11 回 Peer review and feedback
- 第 12 回 Revising
- 第 13 回 Formatting a research paper
- 第 14 回 Mini presentations of research
- 第 15 回 Course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This class will be conducted entirely in English. We will use both online and face to face instruction. Most materials, activities, and assignments will be conducted through MANABA. This class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback and focused writing help. Students will receive written feedback on each draft of their written work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

All homework and assignments must be completed on time. Late assignments will receive a significant reduction in score. In case of absence, students must still submit assignments electronically before the deadline.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Research papers 50%

Class participation and preparation 10%

Homework 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Basic Steps to Writing Research Papers』/David E. Kluge & Matthew A. Taylor/Cengage/2007/9784902902891/学内販売予定

An additional textbook may be announced later.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Writing I C

EGB3301COJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

金曜 4限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、基礎的な英語のライティングを学び、また英語で文章を「書く」経験を通じ、論理的思考を修得することを目的とする。文法を正しく用い、また類義語辞典や、活用辞典を活用して、アカデミックな英文作成を行う。授業ではライティングスキルを一つ一つ習得し、効果的な「書き方」の理解を深めるとともに、エッセイを書くことによって、思考を紙面に迅速に刻み込む練習を反復する。日本語を英語に和訳するという作業にならないよう注意し、アイデアをそのまま英語で書くということを心がけてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 英訳の作業をするのではなく、アイデアをそのまま英語で表現する。
- 2 パラグラフの構造を理解し、論理的にアイデアを組み立てていく。
- 3 推敲を重ね、よりアカデミックな表現法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction

第 2 回 The topic Sentence of the Paragraph

第 3 回 The Topic Sentence of the Paragraph 英作

- 第 4 回 The Specific Details of the Paragraph
- 第 5 回 The Specific Details of the Paragraph 英作
- 第 6 回 Time Order
- 第 7 回 Time Order 英作
- 第 8 回 Review
- 第 9 回 Space Order
- 第 10 回 Space Order 英作
- 第 11 回 Process and Direction
- 第 12 回 Process and Direction 英作
- 第 13 回 Cause and Effect
- 第 14 回 Cause and Effect 英作
- 第 15 回 Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

エッセイ・トピックの選定においても、エッセイの内容充実においても、授業外での情報検索が必要不可欠となります。トピックに関連する事柄を事前に図書館で調査することが肝要です。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 25%

エッセイ 25%

テスト 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進度、学生の理解度に応じて予定を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs』/Hisatake Jimbo, Richard B. Murto/Macmillan/2012/9.784777360093E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Writing I D

EGB3301D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

金曜 4限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、身近なトピックに関して、文法的に正しい英語の文章を書き、かつ、効果的にパラグラフ構成されたアカデミック・エッセイを書くことを目標とします。まずは、エッセイを書く前段階として、トピックの選び方、アウトラインの組み立て、トピック・センテンスの書き方等を学びます。つぎに、パラグラフの様々な展開法を学習します。最終的に、4~5パラグラフから成るエッセイ(400 words程度)に取り組み、卒業論文執筆の準備とします。毎授業、英文を書くことになるので、電子辞書等を必ず持参のこと。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 伝えたいことを正確かつ効果的に英語で表現できる。

2 様々な展開法を適切に用いてパラグラフを書くことができる。

3 身近な話題について、4~5パラグラフから成るエッセイを書けるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

シラバスの説明、フリーライティングなど

第 2 回 The Topic Sentence of the Paragraph

第 3 回 The Topic Sentence of the Paragraph

文章作成

第 4 回 The Specific Details of the Paragraph

第 5 回 The Specific Details of the Paragraph

文章作成

- 第 6 回 Time Order
 第 7 回 Time Order
 文章作成
 第 8 回 Review
 第 9 回 Space Order
 第 10 回 Space Order
 文章作成
 第 11 回 Process and Direction
 第 12 回 Process and Direction
 文章作成
 第 13 回 Cause and Effect
 第 14 回 Cause and Effect
 文章作成
 第 15 回 Review
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成する。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

エッセイ・トピックの選定においても、エッセイの内容充実においても、授業外での情報検索が必要不可欠となる。トピックに関連する事柄を事前に図書館で調査することが肝要である。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Attendance and class performance 25 %

Assignments 45%

Final essay 30%

[留意事項 (Other Information)]

授業には必ず辞書を持参すること。授業の進度、学生の理解度に応じて予定を変更することがある。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs / Hisatake Jimbo, Richard B. Murto / Macmillan / 2012 / 9784777360093E12 / 学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業中に適宜紹介する。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Academic Writing II A

EGB3351A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

金曜 4限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is to improve students' writing skills in order to be ready for writing their senior thesis and other academic work in English. Students learn what is required for each of the various elements of a good thesis: Introduction, Literature Review, Research Method, Results, Discussion, Conclusion, References, Appendices, Abstract.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Produce quality academic prose by editing and revising successive drafts of the 'Introduction' and 'Literature Review'.

Formulate and develop drafts based on topics of each student's own interests with an awareness of how it will be read by a professor.

Evaluate student's own drafts (and the work of other writers) and give critical feedback.

Properly acknowledge sources and know how to avoid plagiarism.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

[授業計画]

- 第 1 回 **ONLINE**
 Introduction to writing a thesis
- 第 2 回 **CLASSROOM**
 Writing your 'Introduction' - hook, motivation, gap in research
- 第 3 回 **ONLINE**
 Writing your 'Introduction' - summary of background, main themes, research method
- 第 4 回 **CLASSROOM**
 Writing your 'Literature Review' - define terms, introduce topics
- 第 5 回 **ONLINE**

- Writing your 'Literature Review' - incorporate annotated bibliography
- 第 6 回 **ONLINE**
Writing your 'Research Method' - justifying your research tool
- 第 7 回 **ONLINE**
Writing your 'Research Method' - describing your research tool
- 第 8 回 **CLASSROOM**
Revising your 'Introduction' draft
- 第 9 回 **CLASSROOM**
Revising your 'Literature Review' draft
- 第 10 回 **CLASSROOM**
Revising your 'Research Method' draft
- 第 11 回 **ONLINE**
Writing your 'Results' - reporting your findings
- 第 12 回 **ONLINE**
Writing your 'Discussion' - decide 3-4 items to discuss, add your analysis
- 第 13 回 **ONLINE**
Writing your 'Conclusion' - restate research question, add conclusions to research question, limitations to research, areas for further research
- 第 14 回 **ONLINE**
Writing your 'References' and 'Appendices' - cross-check references with in-text citations, make sure references are correctly formatted, add necessary appendices
- 第 15 回 **ONLINE**
Revising your drafts
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
実施しない
[教育・学習の方法 (Course Methods)]
The course is conducted entirely in English.

The course uses a blended approach. Some classes are online, some classes are face to face. Please check Manaba regularly for any changes to the schedule.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, drafts, and other work. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should prepare for each class as directed by the teacher.

Please always bring your drafts to face-to-face classes. It is better if you bring a laptop with your draft. If you cannot bring a laptop, please bring a double-spaced printed copy with your draft.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Writing assignment (500-word 'Introduction') 50%

Writing assignment (1,000 word 'Literature Review') 50%

[留意事項 (Other Information)]

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示は

manabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は

毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

お知らせが締め切り直前となりましたが、よろしくお願ひします。

The schedule is flexible, especially depending on the coronavirus situation.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

Students must wear a mask in class.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Academic Writing II B

EGB3351B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

金曜 4限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course will introduce students to the concepts and skills needed to conduct basic field research. They will conduct a semester-long guided-research project on a topic of their choice, write a paper detailing their findings, and present their work orally in class.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

At the end of the course, students will be able to:

- (1) Understand the basic differences between qualitative and quantitative research and types of data
- (2) Apply bibliographic research to their research questions
- (3) Understand and follow important considerations in research ethics
- (4) Construct and use surveys or interview protocols to gather data
- (5) Securely store and organize data and notes for research
- (6) Practice basic techniques for data analysis (finding patterns, descriptive statistics) and display
- (7) Write a clear, organized research paper with proper citations and format

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
<p>言語力 Students can: 1) find and use reliable sources for research; 2) make and support convincing arguments; 3) properly cite sources of evidence; 4) properly format a research paper; 5) write with accuracy and clarity 6) choose and develop a topic for research; 7) conduct simple survey/ interviews for research</p>	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course intro: what is field work?
- 第 2 回 Types of Research and data
- 第 3 回 Forming your research question
- 第 4 回 Basic research paper structure

- 第 5 回 Conducting surveys and interviews
- 第 6 回 Writing workshop
- 第 7 回 Writing an annotated bibliography
- 第 8 回 Writing the introduction
- 第 9 回 Organizing your research paper
- 第 10 回 Peer review and feedback
- 第 11 回 Writing your discussion & conclusion
- 第 12 回 Writing an abstract
- 第 13 回 Formatting; Presentations of projects, Q&A Day 1
- 第 14 回 Presentations of projects, Q&A Day 2; audience responses

第 15 回 course review and reflections

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This class will be conducted entirely in English. We will use both online and face to face instruction. Most materials, activities, and assignments will be conducted through MANABA. This class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback and focused writing help. Students will receive written feedback on each draft of their written work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

All assignments must be submitted on time. Late work will receive a substantial reduction in score. In case of absence, written work should be submitted electronically before the deadline. Peer review and writing conferences will be employed to help students manage their projects. Active participation and thorough preparation is crucial. Students need to work independently and continuously throughout the semester to make steady progress.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Annotated Bibliography 15%

Quizzes 15%

Homework and preparation 20%

Final paper 40%

Final presentation 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

This course will not have a textbook. A packet of handouts will be provided by the instructor.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

Academic Writing II C

EGB3351C0J
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 3年次
 2単位 後期
 金曜 4限
 DP3: 言語力
 60
 必修 クラス指定
 大川 淳

[科目の教育目標 (Course Description)]

この授業は、基礎的な英語のライティングを学び、また英語で文章を「書く」経験を通じ、英語論文執筆に接続するアカデミックな英語表現を習得することを目的とする。授業ではライティングスキルを一つ一つ習得し、効果的な「書き方」の理解を深めるとともに、英語論文で頻出する英語表現を反復して使用することにより、アカデミックな表現や語彙の知識の向上を目指す。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- 卒業論文に活かすことができるアカデミックな英語表現を習得する。
- パラグラフの書き方のスキルを学び、論理的にアイデアを組み立てていく。
- 推敲を重ね、より正確な英語表現法を習得する。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Examples (Introduction)
- 第 3 回 Examples (Reading paragraphs)
- 第 4 回 Writing an Essay and Peer Review (オンライン授業)
- 第 5 回 Definition (Introduction)

- 第 6 回 Definition (Reading paragraphs)
- 第 7 回 Writing an Essay and Peer Review (オンライン授業)
- 第 8 回 Comparison and Contrast (Introduction)
- 第 9 回 Comparison and Contrast (Reading paragraphs)
- 第 10 回 Writing an Essay and Peer Review (オンライン授業)

- 第 11 回 Counterargument (Introduction)
- 第 12 回 Counterargument (Reading paragraphs)
- 第 13 回 Writing an Essay (オンライン授業)
- 第 14 回 Exam
- 第 15 回 Review

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。また、授業で学ぶ英語表現については、卒業論文執筆時に活かせるように必ずノートにまとめておくこと。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

毎回の授業で指定された範囲を熟読しておくこと。

また、エッセイを執筆する際、個々の研究テーマにつながる論文を授業で使用することがありますので、先行研究リサーチを行うことが求められます。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

平常点 25%

エッセイ 25%

テスト 50%

[留意事項 (Other Information)]

授業の進度、学生の理解度に応じて予定を変更することがある。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs』/Hisatake Jimbo, Richard B. Murto/Macmillan/2012/9.784777360093E12/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業時に適宜紹介する。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Academic Writing II D

EGB3351D0J
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 3年次
 2単位 後期
 金曜 4限
 DP3 : 言語力
 60
 必修 クラス指定
 木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、卒業論文を見据え、自分が選んだトピックに関して、文法的に正しい英語の文章を書き、かつ、効果的にパラグラフ構成されたアカデミック・エッセイを書くことを目標とします。まずは、テキストを用いてパラグラフの基本構造を復習し、効果的なライティングスキルを確認します。次にそれをエッセイとして発展させる方法を学びます。さらに、英語論文で頻出する英語表現を反復して使用することにより、アカデミックな表現や語彙の知識の向上を目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 卒業論文に活かすことができるアカデミックな英語表現を習得する。
- 2 パラグラフおよびエッセイの書き方のスキルを学び、論理的にアイデアを組み立てる方法を身につける。
- 3 推敲を重ね、より正確な英語表現法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン (対面)
 -授業形態の説明、シラバスの内容の確認、質問の受け付けなど
 -Final Essayのトピックの選定 (Assignment 1)
- 第 2 回 Chapter 4: Space Order (Manaba)
 -テキストの内容の学習。
 -アカデミックな表現や語彙の習得(プリント配布)
 -Final Essayのトピックの選定(2) (Assignment 2)

- 第 3 回 Chapter 5: Process and Direction (Manaba)
 -テキストの内容の学習。
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
 -Final Essayのトピックの選定(3) (Assignment 3)
- 第 4 回 Chapter 6: Cause and Effect (Manaba)
 -テキストの内容の学習。
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
 -Final Essayのアウトラインの作成 (Assignment 4)
- 第 5 回 Chapter 7: Examples (対面)
 -テキストの内容の学習。
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
 -Final Essayのアウトラインの作成(2) (Assignment 5)
- 第 6 回 Chapter 8: Definition (Manaba)
 -テキストの内容の学習。
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
 -Final Essayのアウトラインの作成(3) (Assignment 6)
- 第 7 回 Chapter 9: Classification (Manaba)
 -テキストの内容の学習。
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
 -Final Essayのためのリサーチ (Assignment 7)
- 第 8 回 Chapter 10: Comparison and Contrast (Manaba)
 -テキストの内容の学習。
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
 -Final Essayのためのリサーチ(2) (Assignment 8)
- 第 9 回 From Paragraph to Essay (1) (対面)
 プリントを使って次の内容を学習します。
 -エッセイの構造
 -Analyzing the Model Essay
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
 -Final Essayの構造の確認 (Assignment 9)
- 第 10 回 From Paragraph to Essay (2) (Manaba)
 プリントを使って次の内容を学習します。
 -Parts of an Essay: The Introductory Paragraph
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
 -Final Essayの The Introductory Paragraph 執筆 (Assignment 10)
- 第 11 回 From Paragraph to Essay (3) (Manaba)
 プリントを使って次の内容を学習します。
 -Parts of an Essay: Body Paragraphs
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
 -Final Essayの Body Paragraphs 執筆 (Assignment 11)

第 12 回 From Paragraph to Essay (4) (Manaba)
 プリントを使って次の内容を学習します。
 -Parts of an Essay: The Concluding Paragraph
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認。
 -Final Essay の The Concluding Paragraph 執筆 (Assignment 12)

第 13 回 Using Outside Sources (1) (対面)
 プリントを使って次の内容を学習します。
 -Using and Citing Sources: Plagiarism, Correct Citations
 -Reporting Verbs and Phrases (1)
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認。
 -Final Essay における引用の確認 (Assignment 13)

第 14 回 Using Outside Sources (2) (Manaba)
 プリントを使って次の内容を学習します。
 -Quotations and Paraphrasing
 -Reporting Verbs and Phrases (2)
 -アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認。
 -Final Essay における引用の確認(2) (Assignment 14)

第 15 回 Review (Manaba)
 Final Essay の提出
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。また、授業で学ぶ英語表現については、卒業論文執筆時に活かせるように必ずノートにまとめておくこと。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

毎回の授業で指定された範囲を熟読しておくこと。また、エッセイを執筆する際、個々の研究テーマにつながる論文を授業で使用することがありますので、先行研究リサーチを行うことが求められます。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Assignments 70 %

Vocabulary Quiz 10%

Final essay 20%

[留意事項 (Other Information)]

本科目は、対面授業とManabaを使用したオンライン授業のブレンド型授業です。感染拡大状況の悪化による対面授業の中止を含め、授業計画は、受講生の課題への取り組みの進捗などに応じて変更することがあります。変更点は原則として1週間前までにManabaのコースニュースで掲示しますので、毎週必ずManabaをチェックしてください。

対面授業には必ず辞書を持参してください。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs / Hisatake Jimbo, Richard B. Murto / Macmillan / 2012 / 9784777360093E12 / 学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

プリントをPDFの形でManabaのコースコンテンツにおきます。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Listening I A

EGB2302A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

水曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Steven Herder

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is to improve both academic and general English listening skills in order to prepare students for a successful study abroad experience.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

(1) Improvements in Academic English Listening by understanding metacognitive listening strategies (methods used to help students understand the way they learn), listening for elements of discourse (main ideas, reasons, details, etc.), note taking, explaining, summarizing, and paraphrasing.

(2) Improvements in General English Listening by understanding the challenging realities of spoken English (linking, blends, weak vowels, dropped sounds, syllable stress, etc.), identifying main ideas, compensation strategies, personalized strategies for continued listening improvements.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Advanced Listening Expectations: 1) Can comprehend a short talk of around 1000 to 1250 words	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

<p>(4 to 5 minutes) on unfamiliar topics (academic, business, etc.); 2) Can score TOEIC 250 in Listening; 3) Can understand the main point of conversations on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc.; 4) Can understand the main point of many radio or TV programs on current affairs or topics of personal or professional interest.</p>				
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introducing a Listening Course
 - 第 2 回 Determining your Listening Level
 - 第 3 回 Identifying Listening Strategies
 - 第 4 回 Listening for the Main Idea
 - 第 5 回 Listening for Reasons and Explanations
 - 第 6 回 Listening for English Rhetorical Structure
 - 第 7 回 Listening for Specific Functions
 - 第 8 回 Listening Test and Feedback (Midterm)
 - 第 9 回 Recognizing a Speaker's Tone
 - 第 10 回 Recognizing Signposts and Transition Words
 - 第 11 回 Recognizing Facts & Opinions
 - 第 12 回 Recognizing Cause & Effect Relationships
 - 第 13 回 Inferring Meaning
 - 第 14 回 Making Predictions
 - 第 15 回 Individual Oral Reports and Feedback (Final)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
(Students will be exposed to and receive ongoing formative feedback on a wide variety of listening opportunities: conversations, short lectures, podcasts, YouTube videos, songs, movies & TV shows, news programs, interviews, and live spoken English by the teacher and classmates. Students will complete a midterm listening test and a final oral report.)

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to prepare for class as much as necessary to keep up with their classmates. Homework assignments include vocabulary study, a personalized listening program, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Class Participation 40%

(2) Midterm Listening Test 30%

(3) Final Oral Report 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

<https://www.newsinlevels.com/>

<http://ello.org>

<http://www.cdlponline.org>

<https://lyricstraining.com/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Listening I B

EGB2302B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

水曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to improve both academic and general English listening skills in order to prepare students for either a successful study abroad experience or for continued development of overall English communication skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) By the end of the course, students will have shown improvement in:

Academic English Listening--understanding metacognitive listening strategies (methods used to help students understand

the way they learn), listening for elements of discourse (main ideas, reasons, details, etc.), note-taking, explaining, summarizing, and paraphrasing.

General English Listening--understanding the challenging realities of spoken English (linking, blends, weak vowels, dropped sounds, syllable stress, etc.), identifying main ideas, compensation strategies, personalized strategies for continued listening improvements.

(2) Students will have been exposed to a wide variety of listening opportunities: conversations, short lectures, podcasts, YouTube videos, songs, movies & TV shows, news programs, interviews, and live spoken English by the teacher and classmates.

[ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

<p>言語力</p> <p>1) Can comprehend a short talk of around 1000 to 1250 words (4 to 5 minutes) on unfamiliar topics (academic, business, etc.); 2) Can score TOEIC 250 in Listening; 3) Can understand the main point of conversations on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc.; 4) Can understand the main point of many radio or TV programs on current affairs or topics of personal or professional interest.</p>	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	------------------------------------------------------------	----------------------------------

[授業計画]

- 第 1 回 Course Introduction
- 第 2 回 Unit 1: Living for Work: prelistening
- 第 3 回 Unit 1: Living for Work: listening to an interview
- 第 4 回 Unit 1: Living for Work: listening to an informal conversation
- 第 5 回 Unit 2: Good Times, Good Feelings: prelistening
- 第 6 回 Unit 2: Good Times, Good Feelings: Listening to a lecture
- 第 7 回 Unit 2: Good Times, Good Feelings: Listening to a talk

- 第 8 回 Unit 3: Treasures from the Past: prelistening
- 第 9 回 Unit 3: Treasures from the Past: Listening to a talk
- 第 10 回 Unit 3: Treasures from the Past: Listening to a conversation
- 第 11 回 Midterm review and expansion
- 第 12 回 Unit 4: Weather and Climate: Listening to a radio show
- 第 13 回 Unit 4: Weather and Climate: Listening to a conversation
- 第 14 回 Unit 4: Weather and Climate: expansion
- 第 15 回 Course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. Individual, pair, and small group work will all be a part of class, so thorough active participation is required. The schedule for the course is flexible and may change to suit the needs of the class. Assessment methods will include quizzes, homework exercises, and projects. Students will receive ongoing written and spoken feedback on their work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as listening to songs and watching movies in English. Because interaction with other students will be an important part of the course, it is crucial to prepare well for each lesson in order to work together.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation and quizzes 40%

Homework 30%

Final Project 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Pathways 1: Listening, Speaking, and Critical Thinking/Becky Tarver Chase/Heinle Cengage/2013/9781111350369

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Listening I C

EGB2302C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

水曜2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In this course, students will develop their oral communication skills. Listening and understanding the naturally spoken English of the teacher and peers is a main goal. We will practice listening for gist and details. We will study characteristics of spoken English such as 'linking sounds', 'weak vowels', 'sentence stress' and 'blended sounds'. An awareness of these features of spoken English will help students tackle authentic listening tasks outside of the classroom. The students will keep a listening journal/portfolio, documenting their progress, weaknesses and strengths of their listening skill.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of this course, students will:

- 1) more successfully communicate meaning to their peers
- 2) have practiced and improved their understanding of naturally spoken English
- 3) have an awareness of the features of naturally spoken English
- 4) be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks
- 5) be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome to Advanced Listening I
Introduction to the course, community building activities
- 第 2 回 Community building activities (Unit 0)
Goal setting, listening journal set up
- 第 3 回 Unit 1: I like action movies
All classes will follow this loose format-->
1) Listening journal (in-class activity)
2) Speaking and listening activities
3) HW: online listening activity + reflection in the Listening Journal
- 第 4 回 Unit 1: I like action movies
Listening features: sentence stress
Speaking strategies: Confirmation: asking for repetition
- 第 5 回 Unit 2: How much is that?
Listening features: Weak vowels
Speaking strategies: Confirmation: asking questions
- 第 6 回 Unit 2: How much is that?
- 第 7 回 Unit 3: Is that your cousin?
Listening features: Sentence stress
Speaking strategies: Confirmation: repeating key information
- 第 8 回 Unit 3: Is that your cousin?
- 第 9 回 Unit 4: How was your weekend?
Listening features: Disappearing sounds
Speaking strategies: Involvement: asking questions
- 第 10 回 Unit 4: How was your weekend?
- 第 11 回 Unit 5: What do you do?
Listening features: Sentence stress
Speaking strategies: Clarification: using examples
- 第 12 回 Unit 5: What do you do?
- 第 13 回 Unit 6: I get to work at eight
Listening features: Weak vowels
Speaking strategies: Confirmation: repeating key information
- 第 14 回 Unit 6: I get to work at eight
- 第 15 回 Final reflections on learning

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students are expected to attend class every week, actively participate and show effort, and complete the assigned homework.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to actively participate every class period AND diligently practice and reflect on their listening experiences outside of class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active participation: 30%

Listening Journal/Portfolio 40%

Quizzes 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Communication Spotlight (High Beginner) / Graham-Marr, A. / Abax ELT Publishers / ISBN 978-1-78547-029-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

Advanced Listening I D

EGB2302D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

水曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to listen and understand a variety of topics in English with confidence.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives. Students will be expected to listening to and express their thoughts and opinions about content in English.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Advanced Listening Expectations: 1) Can comprehend a short talk of around 1000 to 1250 words	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

<p>(4 to 5 minutes) on unfamiliar topics (academic, business, etc.); 2) Can score TOEIC 250 in Listening; 3) Can understand the main point of conversations on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc.; 4) Can understand the main point of many radio or TV programs on current affairs or topics of personal or professional interest.</p>				
<p>言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary</p>	<p>Does not meet course expectations yet</p>	<p>Meets some course expectations</p>	<p>Meets most course expectations and excels on some criteria</p>	<p>Exceeds most course expectations</p>

〔授業計画〕
第 1 回

Introduction and Explanation of the Advanced Listening II D Course with Requirements and Expectations.

第 2 回 Topic Area 1: Interruptions
 第 3 回 Topic Area 2: Rules
 第 4 回 Topic Area 3: Experiences
 第 5 回 Topic Area 4: Opinions
 第 6 回 Topic Area 5: Recommendations
 第 7 回 Topic Area 6: Reported Speech
 第 8 回 Topic Area 7: Questions
 第 9 回 Topic Area 8: Dates & Times
 第 10 回 Topic Area 9: Solutions to Problems
 第 11 回 Topic Area 10: Complaints
 第 12 回 Topic Area 11: Recent events
 第 13 回 Topic Area 12: Global Events
 第 14 回 Topic Area 13: Preparing for Final Listening Quiz
 第 15 回 Final Listening Quiz, Reflection on Course and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
 実施しない
 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
 This course will be conducted mostly in English. Each class will include at least one long-listening activity related to the topic, as well as related short-listening or speaking activities. Activities will be done individually, in pairs or in small groups.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 Students are expected to come to class with any homework completed, note-taking materials, and any other material that the teacher may have given to the students.
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
 15
 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
 Participation: 30%
 Homework Assignments: 20%
 Listening Comprehension Tasks: 30%
 Final Listening Quiz: 20%
 〔留意事項 (Other Information)〕
 This course schedule will be flexible based on the needs of the students.
 This course will be a blended course in the Fall of 2020. This means that some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Please check the Course news and assignments on Manaba each week for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Listening II B

EGB2352B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

水曜2限

DP3：言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will be a continuation of Advanced Listening I. The aim of this course is to improve both academic and general English listening skills in order to prepare students for either a successful study abroad experience or for continued development of overall English communication skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1) By the end of the course, students will have shown improvement in:

Academic English Listening--understanding metacognitive listening strategies (methods used to help students understand the way they learn), listening for elements of discourse (main ideas, reasons, details, etc.), note-taking, explaining, summarizing, and paraphrasing.

General English Listening--understanding the challenging realities of spoken English (linking, blends, weak vowels, dropped sounds, syllable stress, etc.), identifying main ideas, compensation strategies, personalized strategies for continued listening improvements.

(2) Students will have been exposed to a wide variety of listening opportunities: conversations, short lectures, podcasts, YouTube videos, songs, movies & TV shows, news programs, interviews, and live spoken English by the teacher and classmates.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力1) Can comprehend a short talk of around 1000 to 1250 words (4 to 5 minutes) on unfamiliar topics (academic, business, etc.); 2) Can score TOEIC 250 in Listening; 3) Can understand the main point of conversations on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc.; 4) Can understand the main point of many radio or TV programs on current affairs or topics of personal or professional interest.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 5: Focus on Food: Prelistening
- 第 2 回 Unit 5: Focus on Food: listening
- 第 3 回 Unit 5: Focus on Food: expansion
- 第 4 回 Unit 6: Housing: Prelistening
- 第 5 回 Unit 6: Housing: listening
- 第 6 回 Unit 7: Exploring Space: Prelistening
- 第 7 回 Unit 7: Exploring Space: listening
- 第 8 回 Unit 8: Art and Music: Prelistening
- 第 9 回 Unit 8: Art and Music: listening
- 第 10 回 Unit 9: Our Relationship with Nature: Prelistening

- 第 11 回 Unit 9: Our Relationship with Nature: listening
- 第 12 回 Unit 9: Our Relationship with Nature: expansion
- 第 13 回 Unit 10: How We Communicate: Prelistening
- 第 14 回 Unit 10: How We Communicate: listening
- 第 15 回 Unit 10: How We Communicate: expansion

Course Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. We will use both online and face to face instruction. Most materials, activities, and assignments will be conducted through MANABA. This class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback, discussion, and focused activities. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class of their written work.

Assessment methods will include quizzes, homework exercises, and projects. Students will receive ongoing written and spoken feedback on their work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as listening to songs and watching movies in English. Because interaction with other students will be an important part of the course, it is crucial to prepare well for each lesson in order to work together.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation & quizzes 15%

Homework 60%

Final Project 25%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Pathways 1: Listening, Speaking, and Critical Thinking/Becky Tarver Chase/Heinle Cengage/2013/9781111350369

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Listening II C

EGB2352C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

水曜2限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In this course, students will further develop their oral communication skills. Listening and understanding the naturally spoken English of the teacher and peers is a main goal. We will practice listening for gist and details. We will study characteristics of spoken English such as 'linking sounds', 'weak vowels', 'sentence stress' and 'blended sounds'. An awareness of these features of spoken English will help students tackle authentic listening tasks outside of the classroom. The students will continue to keep a listening journal, documenting their progress, weaknesses and strengths of their listening skill.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of this course, students will:

- 1) more successfully communicate meaning to their peers
- 2) have practiced and improved their understanding of naturally spoken English
- 3) have an understanding of the features of naturally spoken English
- 4) be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks
- 5) be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome back from summer vacation!
ON CAMPUS: Introduction to the course; Textbook orientation; Negotiation of class format; Community building activities.
- 第 2 回 Unit 1: Action Movies
The course will follow this loose format:
1) Speaking activities in the classroom 1-2 times a month
2) Focused listening activities from the textbook for homework (Manaba submission)
3) Listening Journal homework as usual (Manaba submission)
- 第 3 回 Unit 1: I like action movies
- 第 4 回 Unit 2: How much is that?
- 第 5 回 Unit 2: How much is that?
- 第 6 回 Unit 3: Is this your cousin?
- 第 7 回 Unit 3: Is this your cousin?
- 第 8 回 Unit 4: How was your weekend?
- 第 9 回 Unit 4: How was your weekend?
- 第 10 回 Unit 5: What do you do?
- 第 11 回 Unit 5: What do you do?
- 第 12 回 Unit 6: I get to work at eight.
- 第 13 回 Unit 6: I get to work at eight.
- 第 14 回 Interview test
Depending on the effects of the Coronavirus, we will hold these interviews in the classroom or on Zoom. I will tell you details later.
- 第 15 回 Final reflections on learning
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
The course will be conducted entirely in English. Students are expected to actively participate in the classroom/ online and show effort + complete the assigned homework. We will be using the textbook this term.
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to actively participate both in the classroom and online AND diligently practice and reflect on their listening experiences outside of class.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
Manaba assignments: 30%
Listening Journal: 30%
Interview: 20%
Quizlet: 20%
〔留意事項 (Other Information)〕
This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must

look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Communication Spotlight (High Beginner) / Graham-Marr, A. / Abax ELT Publishers / ISBN 978-1-78547-029-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

Advanced Listening II A

EGB2352A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

水曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course develops listening skills building on the foundations of Listening I/II. The goal is for students to develop the skills needed to comprehend spoken English. The course uses natural-sounding recordings that reflect everyday situations that students may encounter both in Japan and abroad.

The course provides good preparation for future TOEIC tests and for students who will study abroad using English.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Develop the skills needed to comprehend a variety of spoken English of different styles.

Improve the recognition and understanding of spoken words and phrases (including vocabulary already known from previous study).

Listen to English with increasingly difficult speeds, pronunciations, and vocabulary.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Advanced Listening Expectations: 1) Can	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels	Exceeds most course expectations

<p>comprehend a short talk of around 1000 to 1250 words (4 to 5 minutes) on unfamiliar topics (academic, business, etc.); 2) Can score TOEIC 250 in Listening; 3) Can understand the main point of conversations on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc.; 4) Can understand the main point of many radio or TV programs on current affairs or topics of personal or professional interest.</p>			<p>on some criteria</p>	
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	-------------------------	--

[授業計画]

- 第 1 回 **CLASSROOM**
Introduction: Advanced Listening in English
- 第 2 回 **ONLINE**
Determining your Listening Level

TOPIC Women as Leaders: Antifragility - An Introduction
- 第 3 回 **ONLINE**
Identifying Listening Strategies
- 第 4 回 **ONLINE**
TOPIC Beauty: Fashion, Ageing

- Listening for the main idea ? Students listen to identify the overall ideas expressed in the whole recording.
- 第 5 回 **ONLINE**
TOPIC Food: Dieting, Fasting, Medicine
Listening for details ? Students listen for groups of words and phrases at sentence level.
- 第 6 回 **CLASSROOM**
TOPIC Exercise: Weights, Running
Presentations
Discussion
- 第 7 回 **ONLINE**
Listening for specific information ? Students listen for particular information at word level.
- 第 8 回 **ONLINE**
TOPIC Relaxation: Sleep, Mindset
Predicting ? Students try to guess key information contained in the recording before they listen.
- 第 9 回 **ONLINE**
TOPICS Security, Resources: Minimalism +, Stocks vs Bonds/Cash
Recognising a Speaker's Tone or Accent
- 第 10 回 **ONLINE**
TOPIC Entertainment: Information Diet
Recognizing Signposts and Transition Words
- 第 11 回 **CLASSROOM**
TOPIC Education: Lifelong learning, Intelligence, Language
Presentations
Discussion
- 第 12 回 **ONLINE**
Inferring meaning ? Students listen to identify the difference between what the speaker says and what they actually mean.
- 第 13 回 **ONLINE**
TOPIC Relationships: Honesty, Criticism, Partners
Identifying emotion ? Students listen to identify the mood of certain speakers.
- 第 14 回 **ONLINE**
TOPIC Work: Lifetime employment, Streisand Effect, doctor vs taxi driver
Presentations
Discussion
- 第 15 回 **CLASSROOM**
Feedback
Course Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

The course uses a blended approach. Some classes are online, some classes are face to face. Please check Manaba regularly for any changes to the schedule.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, homework, and other work. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

Students listen to conversations, interviews, songs, video clips, and other authentic audio. Students listen to English from native English-speaking countries particularly the UK and the US, as well as from non-native countries including those near Japan.

Students actively listen to English using a variety of activities.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should prepare for each class as directed by the teacher.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments and quizzes 80%

Quizlet 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示は manaba のコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は 毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

お知らせが締め切り直前となりましたが、よろしくお願ひします。

The schedule is flexible, especially depending on the coronavirus situation.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

Students must wear a mask in class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Listening II D

EGB2352D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

水曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to listen and understand a variety of topics in English with confidence.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives. Students will be expected to listening to and express their thoughts and opinions about content in English.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Advanced Listening Expectations: 1) Can comprehend a short talk of around 1000 to 1250 words (4 to 5 minutes) on unfamiliar topics (academic, business, etc.); 2) Can score TOEIC 250 in Listening;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

<p>3) Can understand the main point of conversations on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc.; 4) Can understand the main point of many radio or TV programs on current affairs or topics of personal or professional interest.</p>				
<p>言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary</p>	<p>Does not meet course expectations yet</p>	<p>Meets some course expectations</p>	<p>Meets most course expectations and excels on some criteria</p>	<p>Exceeds most course expectations</p>

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the Advanced Listening II D Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Pet Peeves
- 第 3 回 Topic Area 2: Invitations
- 第 4 回 Topic Area 3: Conflicting Opinions
- 第 5 回 Topic Area 4: Reasons
- 第 6 回 Topic Area 5: Strengths and Weaknesses
- 第 7 回 Topic Area 6: Regrets
- 第 8 回 Topic Area 7: Questions
- 第 9 回 Topic Area 8: Advice
- 第 10 回 Topic Area 9: Plans
- 第 11 回 Topic Area 10: Bad News

第 12 回 Topic Area 11: Recent Events (News)
 第 13 回 Topic Area 12: Short Lecture
 第 14 回 Topic Area 13: Preparing for Final Listening Quiz
 第 15 回 Final Listening Quiz, Reflection on Course and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
 実施しない
 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
 This course will be conducted mostly in English. Each class will include at least one long-listening activity related to the topic, as well as related short-listening or speaking activities. Activities will be done individually, in pairs or in small groups.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.
 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 Students are expected to come to class with any homework completed, note-taking materials, and any other material that the teacher may have given to the students. students.
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
 15
 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
 Participation: 30%
 Homework Assignments: 20%
 Listening Comprehension Tasks: 30%
 Final Listening Quiz: 20%
 〔留意事項 (Other Information)〕
 This course schedule will be flexible based on the needs of the students.
 This course will be a blended course in the Fall of 2020. This means that some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Please check the Course news and assignments on Manaba each week for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
 No text required. Students will be provided with materials in class.
 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
 〔参考URL(URL for Reference) 〕
 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading I A

EGB2300A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

火曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The focus of this course is on the development of English reading skills. The main goal is for students to improve their reading comprehension and vocabulary skills through intensive and extensive reading activities. Students will also acquire critical reading skills and the ability to express their views on various topics through discussion, presentation, and writing tasks.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

授業の概要

The course begins with an overview of reading skills and the differences between intensive and extensive reading. Students will have the opportunity to reflect on their own reading habits in relation to the goals of the course and consider their individual strengths and weaknesses.

Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy.

Activities will include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and exercises in identifying main ideas and their supporting details.

Students will also discuss and present their own ideas in order to explore a critical analysis of the readings.

In addition, students will increase their receptive and productive vocabulary through a variety of lexical analysis activities.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力 Advanced Reading Expectations: 1) Can read over 150 WPM; 2) Has reached Extensive Reading Goal; 3) Can score TOEIC 250 in Reading; 4) Can begin to notice rhetorical devices; 5) Can distinguish elements of various genres; 6) Can process and understand some academic discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Intensive Reading vs Extensive Reading; Self-Reflection on Reading Habits
 - 第 2 回 Identifying Main Ideas and Supporting Points
 - 第 3 回 Scanning for Details
 - 第 4 回 Summarizing and Paraphrasing
 - 第 5 回 Using Background Knowledge to Make Predictions
 - 第 6 回 Previewing by Skimming and Scanning
 - 第 7 回 Using Headings to Understand Main Ideas
 - 第 8 回 Distinguishing Facts and Opinions
 - 第 9 回 Scanning for Patterns of Organization
 - 第 10 回 Making Inferences
 - 第 11 回 Interpreting Graphs, Tables, and Charts
 - 第 12 回 Recognizing a Sequence of Events
 - 第 13 回 Identifying Comparison-Contrast Organization
 - 第 14 回 Distinguishing Problem-Solution from Comparison-Contrast
 - 第 15 回 Understanding Cause and Effect
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary

knowledge through reading-based tasks.

Students will also do extensive reading outside of class on a regular basis. This requires students to select and read graded readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website and/or submitting book reports.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide answers to all reading comprehension questions so that students may check their own work.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Reading Activities 40%

Written Work 20%

Vocabulary Quizzes 20%

Extensive Reading (M-Reader Quizzes) 20%

[留意事項 (Other Information)]

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Reading I B

EGB2300B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

火曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is to improve students' English reading skills in order to be ready for the junior class 'Academic Reading'.

The course also provides good preparation for future TOEIC tests and for students who will study abroad using English.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Acquire mastery of high frequency vocabulary.

Improve reading fluency using extensive reading.

Read English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

Develop a personalised learning strategy for improving reading skills.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

[授業計画]

第 1 回 Student Introduction Activities
Course Introduction

第 2 回 Symbols - Reading - Color Me Pink

第 3 回 Symbols - Color Me Pink, comprehension activities

第 4 回 Symbols - Lucky Number

第 5 回 Symbols - Lucky number, comprehension activities

第 6 回 Customs - Reading - Thanksgiving

第 7 回 Customs - Thanksgiving, comprehension activities

第 8 回 Customs - Reading - Hop to It

第 9 回 Customs - Hop to it, comprehension activities

第 10 回 Mind and Body - Reading Personality Revealed

第 11 回 Mind and Body - Personality Revealed, comprehension activities

第 12 回 Mind and Body - Personality Revealed, comprehension and discussion activities

第 13 回 Mind and Body - Reading - Pets to the Rescue

第 14 回 Mind and Body - Pets to the Rescue, comprehension activities

第 15 回 Mind and Body - Pets to the Rescue, comprehension and discussion activities

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

The course is conducted entirely in English.

Students read a variety of intermediate-level English including journal articles, excerpts from books, newspaper articles, blogs, and other material according to each student's interests.

Students actively read English using a variety of activities designed to ensure comprehension.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, homework, and other work. Students receive advice on their personalised learning strategy. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should prepare for each class by reading as much English as possible using their personalised learning strategy.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

In-class participation and quizzes 60%

Homework and M-Reader extensive reading quizzes 40%

[留意事項 (Other Information)]

The schedule is flexible.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

Weaving it Together 3, fourth edition/Broukal/National Geographic Learning/Cengage Learning/2015/ISBN 9.781305251663E12

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Reading I C

EGB2300C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

火曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Daniel Pearce

[科目の教育目標 (Course Description)]

The focus of this course is on the development of general English reading skills. The main goal is for students to improve their reading comprehension and vocabulary skills through a variety of intensive and extensive reading activities.

Students will also acquire critical reading skills and the ability to express their views on various topics through discussion, presentation, and writing tasks. Texts used will include English short novels as well as a variety of other texts such as essays and news pieces. Texts will be selected based on student level and interest.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details, as well as pair and group

discussions on reading content. Other activities will include scanning and skimming activities and comprehension tasks to identify main ideas and supporting details. In addition, students will develop their receptive and productive vocabulary through lexical analysis activities. Students will also discuss and present their own ideas on the text regularly throughout the course.

Students will also be expected to do extensive reading outside of the class on a regular basis. This requires students to select and read grader readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Advanced Reading Expectations: 1) Can read over 150 WPM; 2) Has reached Extensive Reading Goal; 3) Can score TOEIC 250 in Reading; 4) Can begin to notice rhetorical devices; 5) Can distinguish elements of various genres; 6) Can process and understand some	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

academic discourse				
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Understanding Paragraphs
- 第 3 回 Novel Chapter 1:
Reading for Understanding, Vocabulary, and Content
- 第 4 回 Novel Chapter 1:
Group Discussion on Content and Themes
- 第 5 回 Skimming and Scanning
- 第 6 回 Novel Chapter 2:
Reading for Understanding, Vocabulary, and Content
- 第 7 回 Novel Chapter 2:
Group Discussion on Content and Themes
- 第 8 回 Reading for the Gist
- 第 9 回 Novel Chapter 3:
Reading for Understanding, Vocabulary, and Content
- 第 10 回 Novel Chapter 3:
Group Discussion on Content and Themes
- 第 11 回 Reading for Supporting Evidence
- 第 12 回 Novel Chapter 4:
Reading for Understanding, Vocabulary, and Content
- 第 13 回 Novel Chapter 4:
Group Discussion on Content and Themes
- 第 14 回 Understanding Structure
- 第 15 回 Feedback, Reflection and Final Essay Preparation
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted mostly in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups.

Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks. The schedule for the course is flexible and may change to suit the needs of the class.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for class by doing reading and homework assignments. Students should read actively, meaning that they will be prepared to discuss and ask questions about the texts they have read. Homework should be completed on time.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom Participation: 30%

Homework Assignments: 30%

M-Reader: 20%

Final Report: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

This course will be conducted online through asynchronous Manaba assignments. Be sure to check Course News and assignments on Manaba each week for specific instructions.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading I D

EGB2300DOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

火曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

尾崎 裕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

400 words程度の英語で書かれたエッセイを読み、速くかつ正確に内容を把握する力を習得することを目指す。また、1年次に引き続き語彙力の強化も目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①文の構造を理解し、正確に英文を読むことができる。
- ②パラグラフ間の論理的な関係に注意しながら読むことができる。
- ③ある程度のまとまった英文を逐一訳すことなく読み通し、大意を把握することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業の準備をしない	理解できない事柄を調べる	下調べをする	内容を把握する
知識・理解力	何事にも興味を持たない	異文化に興味を持つ	聞く耳を持つ	自ら調べる
言語力	初期単語が理解出来ない	初期単語が理解できる	中等単語が理解できる	率先して学ぶ
思考・解決力	文法が理解できない	何とか努力する	興味のある事柄を調べる	興味を広げて学ぶ
共生・協働する力	消極的である	何とか努力する	結果を出せる喜びを知る	さらに飛躍する努力を惜しまない
創造・発信力	消極的である	嫌々でも努力する	成果を見る喜びを知る	自ら進んで学ぶ

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction : 授業の概要、評価方法、予習の仕方などの説明
- 第 2 回 Unit 1: When in Rome...
- 第 3 回 Unit 1: When in Rome...
- 第 4 回 Unit 2: This is Good!
- 第 5 回 Unit 2: This is Good!
- 第 6 回 Unit 3: Abraham Lincoln's Dream
- 第 7 回 Unit 3: Abraham Lincoln's Dream
- 第 8 回 まとめテスト&解説
- 第 9 回 Unit 4: Just a Magic Trick?
- 第 10 回 Unit 4: Just a Magic Trick?
- 第 11 回 Unit 5: Never the Twain Shall Meet?
- 第 12 回 Unit 5: Never the Twain Shall Meet?
- 第 13 回 Unit 6: The Lucky Silk Scarf
- 第 14 回 Unit 6: The Lucky Silk Scarf
- 第 15 回 まとめテスト&解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

エッセイ内で用いられている重要な英語表現や、各パラグラフの構造などを確認し、本文に関する様々なタスクをこなすことで内容の理解を深める。また、ペアやグループで疑問点を話し合う機会を適宜設ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指定された範囲の予習をしてきてください。詳しくは開講時に指示します。

また、新しいUnitに入るごとに単語テストを実施する予定なので準備しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内での取り組みの積極性、予習・復習の度合い: 40%

まとめテスト (2回) : 50%

単語テスト : 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進度や扱うUnitはクラスの状態に応じて変更になる可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Read Smart PLUS』/ Seisuke Yasunami, and others / Cengage Learning / 2015 / ISBN: 9784863122628 / 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading II B

EGB2350B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

火曜2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course develops English reading skills building on the foundations provided by Reading I/II.. Students learn high frequency vocabulary and improve their reading fluency using extensive reading. Students learn to read English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary. Students should aim to read quickly but thoroughly.

The course is good preparation for the junior class 'Academic Reading', future TOEIC tests, and for students who want to study abroad.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Acquire mastery of high frequency vocabulary.

Improve reading fluency using extensive reading.

Read English with increasingly difficult content, grammar,

and vocabulary.

Develop a personalised learning strategy for improving reading skills.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Language ability	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

- 第 1 回 **ONLINE**
People Making a Difference - Reading - Saving Animals
- 第 2 回 **ONLINE**
People Making a Difference - Saving Animals, comprehension activities
- 第 3 回 **CLASSROOM**
People Making a Difference - Saving Animals, comprehension activities and discussion
- 第 4 回 **ONLINE**
People Making a Difference - Educating Kenya's Girls
- 第 5 回 **ONLINE**
People Making a Difference - Educating Kenya's Girls, comprehension activities
- 第 6 回 **CLASSROOM**
People Making a Difference - Educating Kenya's Girls, comprehension activities and discussion
- 第 7 回 **ONLINE**
Food - Reading - Sushi
- 第 8 回 **ONLINE**
Food - Sushi, comprehension activities
- 第 9 回 **CLASSROOM**
Food - Sushi, comprehension activities and discussion
- 第 10 回 **ONLINE**
Food - Reading - Breakfast
- 第 11 回 **ONLINE**
Food - Breakfast, comprehension activities
- 第 12 回 **CLASSROOM**
Food - Breakfast, comprehension activities and comprehension
- 第 13 回 **ONLINE**
Language - Reading - Keeping it Secret
- 第 14 回 **ONLINE**
Language - Keeping it Secret, comprehension activities
- 第 15 回 **ONLINE**
Language-Keeping it Secret, comprehension activities and discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

The course uses a blended approach. Some classes are online, some classes are face to face. Please check Manaba regularly for any changes to the schedule.

Students read a variety of English including journal articles, excerpts from books, newspaper articles, blogs, and other material according to each student's interests.

Students actively read English using a variety of activities designed to ensure comprehension.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, homework, and other work. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should prepare for each class as directed by the teacher.

Please bring the textbook, paper, and pens to class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments and quizzes 80%

Extensive reading quizzes 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示は

manabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

お知らせが締め切り直前となりましたが、よろしくお願ひします。

The schedule is flexible, especially depending on the coronavirus situation.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

Students must wear a mask in class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Weaving it Together 3, fourth edition/Broukal/National Geographic Learning/Cengage Learning/2015/ISBN 9.781305251663E12

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading II C

EGB2350C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is a continuation of Advanced Reading I. The aim of this course is for students to continue developing the skills and strategies that are involved in the reading process through engagement with several types of text.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details, as well as pair and group

discussions on reading content. Other activities will include scanning and skimming activities and comprehension tasks to identify main ideas and supporting details. In addition, students will develop their receptive and productive vocabulary through lexical analysis activities. Students will also discuss and present their own ideas on the text regularly throughout the course.

Students will also be expected to do extensive reading outside of the class on a regular basis. This requires students to select and read grader readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

Advanced Reading Expectations: 1) Can read over 150 WPM; 2) Has reached Extensive Reading Goal; 3) Can score TOEIC 250 in Reading; 4) Can begin to notice rhetorical devices; 5) Can distinguish elements of various genres; 6) Can process and understand some academic discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Review of Basic Reading Skills; Self-Reflection on Reading Habits
- 第 2 回 Topic Sentences and Main Ideas
- 第 3 回 Identifying Arguments and Opinions
- 第 4 回 Finding Synonyms to Identify Repeated Ideas
- 第 5 回 Identifying Examples, Reasons, and Explanations
- 第 6 回 Recognizing Signposting to Understand Text Organization

- 第 7 回 Identifying Primary and Secondary Research
- 第 8 回 Using Pronoun Reference to Understand Text Organization
- 第 9 回 Identifying Tone to Understand an Author's Opinion
- 第 10 回 Deducing the Meaning of New Words from Context
- 第 11 回 Identifying Definitions in Texts
- 第 12 回 Distinguishing Facts from Assumptions
- 第 13 回 Scanning Texts for Specific Examples
- 第 14 回 Note Taking in Your Own Words
- 第 15 回 Forming Research Questions

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

This course will be conducted mostly in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks. The schedule for the course is flexible and may change to suit the needs of the class.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students must prepare thoroughly for class by doing reading and homework assignments. Students should read actively, meaning that they will be prepared to discuss and ask questions about the texts they have read. Homework should be completed on time.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

45

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Participation: 40%

Written Reflections: 40%

M-Reader: 20%

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

No text required. Students will be provided with materials in class.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Reading II A

EGB2350A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

火曜2限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

York Weatherford

[科目の教育目標 (Course Description)]

The focus of this course is on the continued development of English reading skills. The main goal is for students to improve their reading comprehension and vocabulary skills through intensive and extensive reading activities. Students will also acquire critical reading skills and the ability to express their views on various topics through discussion, presentation, and writing tasks. This course will also help students prepare for study abroad through immersion in the cultures and current events of their chosen destination countries.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

授業の概要

The course begins with a review of reading skills and the differences between intensive and extensive reading. Students will have the opportunity to reflect on their own reading habits in relation to the goals of the course and consider their individual strengths and weaknesses.

Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy.

Activities will include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and exercises in identifying main ideas and their supporting details.

Students will also discuss and present their own ideas in order to explore a critical analysis of the readings.

In addition, students will increase their receptive and productive vocabulary through a variety of lexical analysis activities.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Advanced	Does not meet course	Meets some course	Meets most course	Exceeds most course

Reading Expectations: 1) Can read over 150 WPM; 2) Has reached Extensive Reading Goal; 3) Can score TOEIC 250 in Reading; 4) Can begin to notice rhetorical devices; 5) Can distinguish elements of various genres; 6) Can process and understand some academic discourse	expectations yet	expectations	expectations and excels in some areas	expectations
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------	--------------	---------------------------------------	--------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Review of Basic Reading Skills; Self-Reflection on Reading Habits
 - 第 2 回 Topic Sentences and Main Ideas
 - 第 3 回 Identifying Arguments and Opinions
 - 第 4 回 Finding Synonyms to Identify Repeated Ideas
 - 第 5 回 Identifying Examples, Reasons, and Explanations
 - 第 6 回 Recognizing Signposting to Understand Text Organization
 - 第 7 回 Identifying Primary and Secondary Research
 - 第 8 回 Using Pronoun Reference to Understand Text Organization
 - 第 9 回 Identifying Tone to Understand an Author's Opinion
 - 第 10 回 Deducing the Meaning of New Words from Context
 - 第 11 回 Identifying Definitions in Texts
 - 第 12 回 Distinguishing Facts from Assumptions
 - 第 13 回 Scanning Texts for Specific Examples
 - 第 14 回 Note Taking in Your Own Words
 - 第 15 回 Forming Research Questions
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

Students will also do extensive reading outside of class on a regular basis. This requires students to select and read graded readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes and/or submitting book reports.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide answers to all reading comprehension questions so that students may check their own work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Reading Activities 40%

Written Work 20%

Vocabulary Quizzes 20%

Extensive Reading 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

This course will be a blended course in the fall of 2020. This means some classes will be face-to-face and some classes will be asynchronous (manaba assignments). Therefore, you must look carefully on manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading II D

EGB2350D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

火曜2限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

尾崎 裕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

400 words程度の英語で書かれたエッセイを読み、正確かつスムーズに内容を把握する力を習得することを目指す。また、1年次に引き続き語彙力の強化も目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①文の構造を理解し、正確に英文を読むことができる。
- ②パラグラフ間の論理的な関係に注意しながら読むことができる。
- ③ある程度のもつまった英文を逐一訳すことなく読み通し、大意を把握することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業の準備をしない	理解できない事柄を調べる	下調べをする	内容を把握する
知識・理解力	興味を持たない	興味があまりない	聞く耳を持つ	自ら調べる
言語力	初期単語が理解出来ない	初期単語が理解できる	中等単語が理解できる	率先して調べる
思考・解決力	文法が理解出来ない	何とか努力はする	興味あることを調べる	意欲的になる
共生・協働する力	消極的である	何とか努力はする	結果を出せる喜びを知る	さらに飛躍する
創造・発信力	消極的である	嫌々でも努力はする	成果を見る喜びを知る	意欲的になる

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction (※対面)
授業の概要や進め方、評価方法などの説明
- 第 2 回 Unit 6: The Lucky Silk Scarf
- 第 3 回 Unit 6: The Lucky Silk Scarf & 単語クイズ
- 第 4 回 Unit 7: A Way with Words
- 第 5 回 Unit 7: A Way with Words & 単語クイズ
- 第 6 回 Unit 8: What Planet Are You from?
- 第 7 回 Unit 8: What Planet Are You from? & 単語クイズ
- 第 8 回 復習テスト&解説 (※対面)
- 第 9 回 Unit 9: What Are You Waiting for?
- 第 10 回 Unit 9: What Are You Waiting for? & 単語クイズ

第 11 回 Unit 10: Better Apart?

第 12 回 Unit 10: Better Apart? & 単語クイズ

第 13 回 Unit 11: Cheaters Never Prosper

第 14 回 Unit 11: Cheaters Never Prosper & 単語クイズ

第 15 回 復習テスト&解説 (※対面)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

エッセイ内で用いられている重要な英語表現や、各パラグラフの構造などを確認し、本文に関する様々なタスクをこなすことで内容の理解を深める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ほとんどの課題をmanabaを通して提出してもらう形になりますので、期限に間に合うように学習を進めてください。準備よりも復習に力を入れるようにし、わからない箇所はそのままにせずに積極的に質問するようにしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

テキストの課題への取り組みとその成績: 40%

単語クイズ (6回) : 20%

復習テスト (2回) : 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

初回Introductionと2回の復習テストに関しては、教室で実施することにします。

テキストの課題や単語クイズについてはmanaba上で解答してもらう予定ですので、必ず指定された期限内に提出するようにしてください。(前後で対面授業を受講している方もいると思われますので、2限目の授業時間内に解答時間を制限してmanaba上で小テスト等をおこなうことはありません。)

※上記は9月10日時点での予定です。授業の実施方法について変更が生じる場合は、manabaのコースニュース上で事前にお知らせします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Read Smart PLUS』/ Seisuke Yasunami, and others / Cengage Learning / 2015 / ISBN: 9784863122628 / 学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Speaking I A

EGB2303A0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次
 1単位 前期
 月曜1限
 DP3：言語力
 15
 必修 クラス指定
 Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to improve both academic and general English speaking skills in order to prepare students for a successful study abroad experience.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) Improvements in Academic English Speaking by increasing productive vocabulary, understanding the difference between passive and active vocabulary, making academic presentations, speaking logically, asking better questions, using set academic phrases.

(2) Improvements in General English Speaking by gaining some confidence from practicing a wide range of functions: giving & asking for an opinion, agreeing & disagreeing, explaining, interrupting, complaining, describing, giving & asking for advice, etc.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

Advanced Speaking Expectations: 1) Can speak at 120 WPM (fluency); 2) Can display clear pronunciation; 3) Can use intonation, accents, volume and pauses to express messages successfully. 4) Can use grammar well (accuracy); 5) Can use a range of grammar and vocabulary (complexity). 6) Can use gestures and eye contact when speaking English	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
共生・協働する力: Ability to work together; Give opinions; Able to help others; Able to ask for help; Ability to find your role in a group; Ability to take action	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introducing a Speaking Course
 - 第 2 回 Determining your Speaking Level
 - 第 3 回 Identifying Speaking Strategies
 - 第 4 回 Describing Experiences in the Past
 - 第 5 回 Agreeing & Disagreeing
 - 第 6 回 Making Suggestions
 - 第 7 回 Asking for Recommendations
 - 第 8 回 Speech Test and Feedback (Midterm)
 - 第 9 回 Interrupting & Asking for Clarity
 - 第 10 回 Giving & Asking for Opinions
 - 第 11 回 Interviewing Others for Preferences
 - 第 12 回 Describing Personality Types
 - 第 13 回 Interviewing for a Job
 - 第 14 回 Discussing the Future
 - 第 15 回 Individual Presentations and Feedback
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will be given a great number of speaking opportunities with the aim of these experiences leading to increased speaking confidence: pair work, small group work, speech test (Midterm), asking questions, asking follow-up questions, sharing opinions in class presentation (Final), etc.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to participate actively in class. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation and Homework 40%

In class Tests 30%

Final Presentation 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Google Search, Improving English Language Speaking

For example,

<https://www.fluentu.com/blog/english/how-to-improve-spoken-english/>

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Speaking I B

EGB2303B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation, and topics will be relevant to university students in the global era.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use both in their daily lives and in discussing slightly more complex issues. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Speaking Expectations: 1) Can speak 90 WPM (fluency); 2) Can display clear pronunciation, especially L/R, B/V, Shi/See; 3) Can use grammar well (accuracy); 4) can attempt to use compound/complex sentences; 5) Can use more appropriate	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

vocabulary (complexity); 6) Can use gestures and eye contact when speaking English				
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the Advanced Speaking II Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: University, Study & Life 1
Brainstorming & Drafting
- 第 3 回 Topic Area 1: University, Study & Life 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 4 回 Topic Area 1: University, Study & Life 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 5 回 Topic Area 2: Issues in Modern Japanese Society 1
Brainstorming & Drafting
- 第 6 回 Topic Area 2: Issues in Modern Japanese Society 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 7 回 Topic Area 2: Issues in Modern Japanese Society 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 8 回 Poster Presentation 1: Drafting
- 第 9 回 Poster Presentation 2: Preparing
- 第 10 回 Poster Presentation 3: Practicing
- 第 11 回 Poster Presentation 4: Presenting
- 第 12 回 Topic Area 3: Future Plans 1
Brainstorming & Drafting
- 第 13 回 Topic Area 3: Future Plans 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 14 回 Topic Area 3: Future Plans 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 15 回 Final Oral Exam, Reflection on Course and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Students will spend most of the class time talking in English about given topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student-centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 20%

Homework & In-class Tasks: 60%

Oral Exam: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

This course will be a blended course in the Fall of 2020. This means that some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Please check the Course news and assignments on Manaba each week for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

Advanced Speaking I C

EGB2303C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

月曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation, and topics will be relevant to university students in the global era.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use both in their daily lives and in discussing slightly more complex issues. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction and Explanation of the Advanced Speaking I Course with Requirements and Expectations.

第 2 回 Topic Area 1: Young People Today 1

第 3 回 Topic Area 1: Young People Today 2

第 4 回 Topic Area 1: Young People Today 3

第 5 回 Topic Area 2: Person You Admire 1

第 6 回 Topic Area 2: Person You Admire 2

第 7 回 Topic Area 2: Person You Admire 3

第 8 回 Poster Presentation 1: Drafting

第 9 回 Poster Presentation 2: Preparing

第 10 回 Poster Presentation 3: Practicing

第 11 回 Poster Presentation 4: Presenting

第 12 回 Topic Area 3: Speaking about Japan 1

第 13 回 Topic Area 3: Speaking about Japan 2

第 14 回 Topic Area 3: Speaking about Japan 3

第 15 回 Final Oral Exam

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs

or in small groups. Students will spend most of the class time talking in English about given topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student-centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 20%

Homework & In-class Presentations: 60%

Oral Exam: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Speaking I D

EGB2303D0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次
 1単位 前期
 月曜1限
 DP3 : 言語力
 15
 必修 クラス指定
 Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to improve both academic and general English speaking skills in order to prepare students for either a successful study abroad experience or for continued development of overall English communication skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) By the end of the course, students will have shown improvement in:

? Academic English Speaking ? increasing productive vocabulary, understanding the difference between passive and active vocabulary, making academic presentations, speaking logically, asking better questions, using set academic phrases.

? General English Speaking ? gaining some confidence from practicing a wide range of functions: giving & asking for an opinion, agreeing & disagreeing, explaining, interrupting, complaining, describing, giving & asking for advice, etc.

(2) Students will have been given to a great number of speaking opportunities with the aim of these experiences leading to increased speaking confidence: pair work, small group work, speeches, asking questions, asking follow-up questions, sharing opinions in class, etc.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力1) Can speak at 120 WPM (fluency); 2) Can display clear pronunciation; 3) Can use intonation, accents, volume and pauses to express messages successfully. 4) Can use grammar well (accuracy); 5) Can use a range of grammar and vocabulary (complexity). 6) Can use gestures and eye contact when speaking English.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	------------------------------------------------------------	----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction
- 第 2 回 Chapter 1 Same and Different Preview and vocabulary
- 第 3 回 Chapter 1 Same and Different Speaking
- 第 4 回 Chapter 1 Same and Different Expansion
- 第 5 回 Chapter 2 Love your job preview and vocabulary
- 第 6 回 Chapter 2 Love your job Speaking
- 第 7 回 Chapter 2 Love your job Expansion
- 第 8 回 Chapter 3 Unusual Destinations preview and vocabulary
- 第 9 回 Chapter 3 Unusual Destinations Speaking
- 第 10 回 Chapter 3 Unusual Destinations Expansion
- 第 11 回 Chapter 4 High Tech, No Tech preview and vocabulary
- 第 12 回 Chapter 4 High Tech, No Tech Speaking
- 第 13 回 Chapter 4 High Tech, No Tech Expansion
- 第 14 回 Final Projects Presentation
- 第 15 回 Course review and Goal setting

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Assessments will include presentations, vocabulary exercises, and graded short speaking activities. Students will receive oral and written feedback on their assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, and materials for the day. Active participation and cooperation with other students is required.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation 40%

Homework 30%

Final Presentation 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Pathways Foundations: Listening, Speaking, and Critical Thinking/Rebecca Tarver Chase, Kristin L. Johannsen, & Paul MacIntyre/978-1-33-756250-8

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Speaking II B

EGB2353B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

月曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation, and topics will be relevant to university students in the global era.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use both in their daily lives and in discussing slightly more complex issues. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Speaking Expectations: 1) Can speak 90 WPM (fluency); 2) Can display clear pronunciation, especially th, L/R, B/V, Shi/ See; 3) Can use grammar well (accuracy); 4) can attempt to use compound /complex sentences; 5) Can use more appropriate vocabulary (complexity); 6) Can use gestures and eye contact when speaking English	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Use grammar correctly; Use appropriat e vocabulary				
----------------------------------------------------------------------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the Advanced Speaking II Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Interacting with Visitors to Japan 1 Brainstorming & Drafting
- 第 3 回 Topic Area 1: Interacting with Visitors to Japan 2 Finalizing Drafts & Practicing
- 第 4 回 Topic Area 1: Interacting with Visitors to Japan 3 Presentations & Giving Feedback
- 第 5 回 Topic Area 2: Helping Out & Giving Directions 1 Brainstorming & Drafting
- 第 6 回 Topic Area 2: Helping Out & Giving Directions 2 Finalizing Drafts & Practicing
- 第 7 回 Topic Area 2: Helping Out & Giving Directions 3 Presentations & Giving Feedback
- 第 8 回 Poster Presentation 1: Drafting
- 第 9 回 Poster Presentation 2: Preparing
- 第 10 回 Poster Presentation 3: Practicing
- 第 11 回 Poster Presentation 4: Presenting
- 第 12 回 Topic Area 3: Future Plans 1 Brainstorming & Drafting
- 第 13 回 Topic Area 3: Future Plans 2 Finalizing Drafts & Practicing
- 第 14 回 Topic Area 3: Future Plans 3 Presentations & Giving Feedback
- 第 15 回 Final Oral Exam, Reflection on Course and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Students will spend most of the class time talking in English about given

topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student-centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 20%

Homework & Presentations: 60%

Oral Exam: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

This course will be a blended course in the Fall of 2020. This means that some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Please check the Course news and assignments on Manaba each week for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

Advanced Speaking II C

EGB2353C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation, and topics will be relevant to university students in the global era.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use both in their daily lives and in discussing slightly more complex issues. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the Advanced Speaking II Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Interacting with Visitors to Japan 1
- 第 3 回 Topic Area 1: Interacting with Visitors to Japan 2
- 第 4 回 Topic Area 1: Interacting with Visitors to Japan 3
- 第 5 回 Topic Area 2: Helping Out & Giving Directions 1
- 第 6 回 Topic Area 2: Helping Out & Giving Directions 2
- 第 7 回 Topic Area 2: Helping Out & Giving Directions 3
- 第 8 回 Poster Presentation 1: Drafting
- 第 9 回 Poster Presentation 2: Preparing
- 第 10 回 Poster Presentation 3: Practicing
- 第 11 回 Poster Presentation 4: Presenting
- 第 12 回 Topic Area 3: Future Plans 1
- 第 13 回 Topic Area 3: Future Plans 2
- 第 14 回 Topic Area 3: Future Plans 3
- 第 15 回 Final Oral Exam

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Students will spend most of the class time talking in English

about given topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments

completed before the start of the lesson. This is a student-centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 20%

Homework & Presentations: 60%

Oral Exam: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Autumn of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Speaking II A

EGB2353A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

月曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to improve both academic and general English speaking skills in order to prepare students for a successful study abroad experience.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) Improvements in Academic English Speaking by increasing productive vocabulary, understanding the difference between passive and active vocabulary, making academic presentations, speaking logically, asking better questions, using set academic phrases.

(2) Improvements in General English Speaking by gaining some confidence from practicing a wide range of functions: giving & asking for an opinion, agreeing & disagreeing, explaining, interrupting, complaining, describing, giving & asking for advice, etc.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Advanced Speaking Expectations: 1) Can speak at 120 WPM (fluency); 2) Can display clear pronunciation; 3) Can use intonation, accents, volume and pauses to express messages successfully. 4) Can use grammar well (accuracy); 5) Can use a range of grammar and vocabulary (complexity). 6) Can use gestures and eye contact when speaking English	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

共生・協働する力: Ability to work together; Give opinions; Able to help others; Able to ask for help; Ability to find your role in a group; Ability to take action	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	------------------------------------------------------------	----------------------------------

[授業計画]

- 第 1 回 Introducing Speaking Course Goals and Direction
- 第 2 回 Setting Up Your Speaking Portfolio
- 第 3 回 Developing Personal Speaking Strategies
- 第 4 回 Describing Experiences in the Future
- 第 5 回 Identifying Pros and Cons
- 第 6 回 Making Suggestions
- 第 7 回 Asking for Recommendations
- 第 8 回 Speech Test and Feedback (Midterm)
- 第 9 回 Defining Issues
- 第 10 回 Giving & Asking for Opinions
- 第 11 回 Peer Presenting Practice
- 第 12 回 Describing Highlights and Attractions
- 第 13 回 Describing Approaches, Successes & Failures
- 第 14 回 Discussing the Future
- 第 15 回 Individual Presentations and Feedback

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

Students will be given a great number of speaking opportunities with the aim of these experiences leading to increased speaking confidence: pair work, small group work, speech test (Midterm), asking questions, asking follow-up questions, sharing opinions in class presentation (Final), etc.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to participate actively in class. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Class participation and Homework 40%

In class Tests 30%

Final Presentation 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Google Search, Improving English Language Speaking

For example,

<https://www.fluentu.com/blog/english/how-to-improve-spoken-english/>

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Speaking II D

EGB2353D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

月曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is a continuation of Advanced Speaking I. Students will learn vocabulary and practice speaking for both academic and daily life contexts.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will improve their speaking fluency, their confidence and Willingness to Communicate in English, and their ability to manage conversation with others. They will also improve their ability to make clear and well-constructed short presentations.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力1) Can speak at 120 WPM (fluency); 2) Can display clear pronunciation; 3) Can use intonation, accents, volume and pauses to express messages successfully. 4) Can use grammar well (accuracy); 5) Can use a range of grammar and vocabulary (complexity). 6) Can use gestures and eye contact when speaking English	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Chapter 5 Risk and Reward: preview and vocabulary
- 第 2 回 Chapter 5 Risk and Reward: speaking
- 第 3 回 Chapter 5 Risk and Reward: expansion
- 第 4 回 Chapter 6 Taking Action: preview and vocabulary
- 第 5 回 Chapter 6 Taking Action: speaking
- 第 6 回 Chapter 6 Taking Action: expansion
- 第 7 回 Chapter 7 Lost and Found: preview and vocabulary
- 第 8 回 Chapter 7 Lost and Found: Speaking
- 第 9 回 Chapter 7 Lost and Found: expansion
- 第 10 回 Chapter 8 Breakthroughs: preview and vocabulary
- 第 11 回 Chapter 8 Breakthroughs: Speaking
- 第 12 回 Chapter 8 Breakthroughs: expansion
- 第 13 回 Presentation Strategies practice
- 第 14 回 Final Presentations
- 第 15 回 Course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This class will be conducted entirely in English. We will use both online and face to face instruction. Most materials, activities, and assignments will be conducted through MANABA. To prevent the spread of coronavirus, close interaction activities will be avoided. In addition, this class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback and focused instruction. Students will receive oral and written feedback on their work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, and materials for the day. Active participation and cooperation are required.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation 40%

Homework 30%

Final Presentation 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Pathways Foundations: Listening, Speaking, and Critical Thinking/Rebecca Tarver Chase, Kristin L. Johannsen, & Paul MacIntyre/978-1-33-756250-8

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Writing I A

EGB2301A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

金曜2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading I/II and Writing I/II.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The development of paragraphs and the composition of short essays will be stressed. Students will review the topic sentence and learn how to use a thesis statement to help them organize their essays coherently.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力 Advanced Writing Expectations: 1) Can write 15 WPM; 2) Can type 30 WPM; 3) Can write clear 5-paragraph essays; 4) Can use a range of compound and complex sentences; 5) Can use appropriate vocabulary; 6) Can use verbs, nouns, adjectives, adverbs to express ideas clearly; 7) Can write persuasively and in various genres	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	---------------------------------------------------------	----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 The Writing Process
 - 第 2 回 Pre-Writing
 - 第 3 回 Paragraph Structure
 - 第 4 回 Paragraph Support and Development
 - 第 5 回 Concluding Sentences
 - 第 6 回 Descriptive Paragraphs
 - 第 7 回 Opinion Paragraphs
 - 第 8 回 Comparison/Contrast Paragraphs
 - 第 9 回 Problem/Solution Paragraphs
 - 第 10 回 From Paragraph to Essay
 - 第 11 回 Thesis Statements
 - 第 12 回 Essay Outlining
 - 第 13 回 Introductions and Conclusions
 - 第 14 回 Unity and Coherence
 - 第 15 回 Final Paper and Presentation
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Classes will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

Feedback methods:

Students will receive written feedback from the instructor on all writing assignments within one week of submission.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom performance 30%

Written work 70%

〔留意事項 (Other Information)〕

The syllabus is subject to change depending on the abilities of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Writing Essays: From Paragraph to Essay/ Dorothy E. Zemach and Lisa A. Ghulldu/Macmillan Education/2011/023041592X

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Writing I B

EGB2301B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

金曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to improve students' English writing skills in order to be ready for the junior class 'Academic Writing'.

The course also provides good preparation for students who will study abroad using English.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Build from pattern practice towards more elaborate prose.

Improve writing fluency using each student's unique educational and cultural background.

Write English with increasingly sophisticated grammar, vocabulary, and rhetoric.

Develop a personalised learning strategy for improving writing skills.

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

- 第 1 回 Student Introduction Activities
Course Introduction
- 第 2 回 Paragraph structure: explanation and exercises
- 第 3 回 Paragraph structure: writing practice
- 第 4 回 Thesis statement: explanation and exercises
- 第 5 回 Thesis statement: writing practice
- 第 6 回 Introductions: explanation and exercises
- 第 7 回 Introductions: writing practice
- 第 8 回 Conclusions: explanation and exercises
- 第 9 回 Conclusions: writing practice
- 第 10 回 Character traits essay: explanation and exercises
- 第 11 回 Character traits essay: writing practice
- 第 12 回 Character traits essay: consultations
- 第 13 回 Keeping healthy essay: explanation and exercises
- 第 14 回 Keeping healthy essay: writing practice
- 第 15 回 Keeping healthy essay: consultations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students write a variety of assignments based on their interests both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, homework, and other work. Students receive advice on their personalised learning strategy. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should prepare for each class by practicing writing as

much English as possible using their personalised learning strategy. Students may be required to catch up on the writing of their drafts if they fall behind schedule.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

In-class participation and quizzes 40%

Essay 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule is flexible.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Weaving it Together 3, fourth edition/Broukal/National Geographic Learning/Cengage Learning/2015/ISBN 9.781305251663E12

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Writing I C

EGB2301C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

金曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In this course, students will build on the paragraph writing skills they learned in their first year to ultimately write cohesive short essays. The students will also keep a regular weekly journal to practice communicating ideas in written form. The class is upbeat, fun but rigorous! Let's see what we can accomplish this year!

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will:

- 1) show a mastery of basic paragraph writing structure
- 2) be able to support ideas with examples and details, either personal or fact-based
- 3) understand plagiarism and why a reference list is necessary
- 4) have an awareness of basic essay writing structure
- 5) understand the importance of cohesion and how best to execute this in an essay

6) Be proud of the work they have accomplished (and have had some fun)!

[ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 Welcome to Advanced Writing I!
Course Introduction and community building, journal introduction
- 第 2 回 Review of paragraph writing
- 第 3 回 Review of paragraph writing
- 第 4 回 Essay basics: structure
- 第 5 回 Essay basics: from paragraph to essay
- 第 6 回 Introduction paragraph
- 第 7 回 Hook + Thesis Statements
- 第 8 回 Body paragraphs + Cohesion
- 第 9 回 Conclusion paragraphs
- 第 10 回 Peer review
- 第 11 回 Polishing your work
- 第 12 回 Opinion essay due/ Problem solution essay introduction
Gathering and developing ideas with peers
- 第 13 回 Problem solution essay
Mini-presentations
- 第 14 回 Problem / solution essay organization
Peer review
- 第 15 回 Problem solution essay due/ Reflections on learning

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

The course will be conducted in English. It is imperative that students complete assigned homework to prepare for classroom activities.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students must prepare thoroughly for class by doing all writing and homework assignments. Students who do not complete homework will have a difficult time participating

during class time so it is essential that effort is made to keep up with the assignments.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Active participation: 30%

Essays: 40%

Journal: 30%

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

The instructor will provide all materials. It is advised that students buy a file to keep important handouts. More information will be given about materials to bring on the first day of class.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

0

[参考URL(URL for Reference)]

0

[実務経験のある教員による実践的科目]

0

Advanced Writing I D

EGB2301D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

金曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

田中 祐子

[科目の教育目標 (Course Description)]

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Students will develop their basic research and writing skills necessary for academic writing.

[ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction & Self Introduction
- 第 2 回 Making Questionnaires
- 第 3 回 Writing Up Questionnaire Results
- 第 4 回 Topic Sentences
- 第 5 回 Writing Topic Sentences
- 第 6 回 Interviewing
- 第 7 回 Analyzing Interview Data
- 第 8 回 Understanding Supporting Sentences
- 第 9 回 Staying On-Topic
- 第 10 回 Conducting Observations
- 第 11 回 Ethics
- 第 12 回 Analyzing Your Observation Data
- 第 13 回 Concluding Sentences
- 第 14 回 Writing Concluding Sentences
- 第 15 回 Final Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

At first students will collect primary data by developing questionnaires, interviews and observations to support their writing. Finally they will use secondary data, learning how to summarize and paraphrase other people's writing to support their research.

Feedback can be oral or written depending on students' needs and mistakes.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Weekly written homework must be completed before class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom performance 30%, Written work 70%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Research & Write: Essential Skills for Academic Writing』 / Andy Boon/Macmillan Education/2015/9784777365166/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Writing II B

EGB2351B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 2限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to improve students' English writing skills in order to be ready for the junior class 'Academic Writing'.

The course also provides good preparation for students who will study abroad using English.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Build from pattern practice towards more elaborate prose such as short essays.

Improve writing fluency using each student's unique educational and cultural background.

Write English with increasingly sophisticated grammar, vocabulary, and rhetoric.

Develop a personalised learning strategy for improving writing skills.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

第 1 回 **CLASSROOM**

Descriptive essay: explanation and exercises

第 2 回 **ONLINE**

Descriptive essay: writing practice - outline and rough draft

第 3 回 **ONLINE**

Descriptive essay: writing practice - revise, edit, write

第 4 回 **CLASSROOM**

Narrative essay: explanation and exercises

第 5 回 **ONLINE**

Narrative essay: writing practice - outline and rough draft

- 第 6 回 **ONLINE**
Narrative essay: writing practice - revise, edit, write
- 第 7 回 **CLASSROOM**
Comparison essay on food preparation: explanation and exercises
- 第 8 回 **ONLINE**
Comparison essay on food preparation: writing practice - outline and rough draft
- 第 9 回 **ONLINE**
Comparison essay on food preparation: writing practice - revise, edit, write
- 第 10 回 **CLASSROOM**
Comparison essay on eating customs: explanation and exercises
- 第 11 回 **ONLINE**
Comparison essay on eating customs: writing practice - outline and rough draft
- 第 12 回 **ONLINE**
Comparison essay on eating customs: writing practice - revise, edit, write
- 第 13 回 **CLASSROOM**
Essay on giving reasons for behavior: explanation and exercises
- 第 14 回 **ONLINE**
Essay on giving reasons for behavior: writing practice - outline and rough draft
- 第 15 回 **ONLINE**
Essay on giving reasons for behavior: writing practice - revise, edit, write
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
実施しない
[教育・学習の方法 (Course Methods)]
The course is conducted entirely in English.

The course uses a blended approach. Some classes are online, some classes are face to face. Please check Manaba regularly for any changes to the schedule.

Students write a variety of assignments based on their interests both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, homework, and other work. Students receive advice on their personalised learning strategy. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should prepare for each class as directed by the teacher.

Please bring the textbook, paper, and pens to class.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Assignments and quizzes 60%

Essay 40%

[留意事項 (Other Information)]

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示は

manabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は

毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

お知らせが締め切り直前となりましたが、よろしくお願ひします。

The schedule is flexible.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

Weaving it Together 3, fourth edition/Broukal/National Geographic Learning/Cengage Learning/2015/ISBN 9.781305251663E12

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Writing II C

EGB2351C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Gretchen Clark

[科目の教育目標 (Course Description)]

Students will build on the paragraph writing skills they learned during the spring term and begin writing short essays on personal topics (opinion essays) as well as social issues (problem/solution essays). Students will keep a writing journal in order to form a writing habit.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will:

- 1) show a mastery of basic essay writing structure
- 2) be able to support ideas with examples and details, either personal or fact-based
- 3) understand plagiarism and why a reference list is necessary
- 4) understand the importance of cohesion and how best to execute this in an essay
- 6) be proud of the work they have accomplished (and have had some fun)!

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome back from summer vacation!
Course introduction and community building;
Negotiation of course format;
- 第 2 回 Review of paragraph writing/ formatting
- 第 3 回 Essay basics: structure
- 第 4 回 Essay basics: from paragraph to essay
- 第 5 回 Introduction paragraphs
- 第 6 回 Hook + Thesis Statements
- 第 7 回 Body paragraphs + Cohesion
- 第 8 回 Conclusion paragraphs
- 第 9 回 Peer review
- 第 10 回 Polishing your work
- 第 11 回 Opinion essay due/ Problem-solution essay introduction
Gathering and developing ideas
- 第 12 回 Problem- solution essay
Mini-presentations
- 第 13 回 Problem solution essay organization
peer review
- 第 14 回 Workshop
Personal consultations with teacher
- 第 15 回 Problem-solution essay due/ Reflections on learning

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted in English. It is imperative that students complete assigned homework to prepare for classroom activities. Like the spring term, all assignments will be collected on Manaba. Depending on the needs of students, we will meet in the classroom 1-2 times a month.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for class by doing all writing and homework assignments. Students who do not complete homework will have a difficult time participating during class time so it is essential that effort is made to keep up with the assignments.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Journal: 30%

Writing assignments (this includes preparation, drafts and the final submission): 60%

Review quiz: 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

There is no textbook.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

Advanced Writing II A

EGB2351A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 2限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The purpose of this course is to prepare for studying abroad programs in which students are interested, making full use of their writing proficiency developed through reading/writing

courses that they have taken thus far. Students are expected to make research on colleges, universities, and institutes they have in mind, and train themselves in completing promising application documents.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The most important point to be learned is how to write persuasive essays as in statement of purpose and self-advertisement. On the basis of the systematic and coherent organization of paragraphs and the composition of essays that they have learned in previous courses, students will acquire skills of presenting themselves effectively.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Advanced Writing Expectations: 1) Can make objectives for studying abroad clear; 2) Can collect information about study abroad programs; 3) Can list objectives for studying abroad; 4) Can make outlines of objectives; 5) Can write a persuasive 5-paragraph statement of purpose; 6) Can write an appealing self-advertisement essay; 7) Can evaluate others' essays	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction: Objectives for Studying Abroad
- 第 2 回 Listing and Outlining of Studying Abroad
- 第 3 回 Introductory Paragraph (Writing Assignment 1)
- 第 4 回 Supporting Paragraph I (Writing Assignment 2)
- 第 5 回 Supporting Paragraph II (Writing Assignment 3)
- 第 6 回 Supporting Paragraph III (Writing Assignment 4)
- 第 7 回 Concluding Paragraph (Writing Assignment 5)
- 第 8 回 How to Appeal Oneself
- 第 9 回 Listing and Outlining of Self-Advertisement
- 第 10 回 Introductory Paragraph (Writing Assignment 6)
- 第 11 回 Supporting Paragraph I (Writing Assignment 7)
- 第 12 回 Supporting Paragraph II (Writing Assignment 8)
- 第 13 回 Supporting Paragraph III (Writing Assignment 9)
- 第 14 回 Concluding Paragraph (Writing Assignment 10)
- 第 15 回 Evaluation of Essays by Other Students

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

Feedback methods:

Students will receive written feedback from the instructor on all writing assignments within one or two weeks of submission.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom performance 30%

Written work 70%

〔留意事項 (Other Information)〕

The syllabus is subject to change depending on the abilities of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

To be decided and announced in class accordingly to students' level

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Writing II D

EGB2351D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

田中 祐子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will develop their basic research and writing skills necessary for academic writing.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 What Is an Essay?
- 第 2 回 Writing Introductions
- 第 3 回 Writing Supporting Paragraphs
- 第 4 回 Finding Secondary Data Sources
- 第 5 回 Taking Secondary Data Notes
- 第 6 回 Culture Shock
- 第 7 回 Quoting Secondary Data
- 第 8 回 Citations & End Reference Lists
- 第 9 回 Plagiarism
- 第 10 回 Summarizing
- 第 11 回 Paraphrasing
- 第 12 回 Understanding the Two Sides of an Argument
- 第 13 回 Organizing Your Argument Essay
- 第 14 回 Looking Back & Looking Forward
- 第 15 回 Final Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

At first students will collect primary data by developing questionnaires, interviews and observations to support their writing. Finally they will use secondary data, learning how to summarize and paraphrase other people's writing to support their research.

Feedback can be oral or written depending on students' needs and mistakes.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Weekly written homework must be completed before class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom performance 30%, Written work 70%

〔留意事項 (Other Information)〕

This class is a continuation of Advanced Writing I

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Research & Write: Essential Skills for Academic Writing』 / Andy Boon/Macmillan Education/2015/9784777365166/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Communication Skills I

EGB3302N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

1単位 前期

月曜 3限

DP3 : 言語力

15

定員20人 「SpeakingI・II」、「ListeningI・II」、「Advanced SpeakingI・II」、「Advanced ListeningI・II」履修者であること

Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This class is a discussion-based English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student's ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and

internationally. Emphasis will be given to appropriate word choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework. This course will be conducted exclusively in English and students should be prepared to actively participate and share their ideas and opinions.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The interactive activities in this class involve learning and practicing oral communication skills that can be applied to academic situations. We will work on aspects of accuracy and organization of ideas as well as strategies for gleaning meaning from content.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
The ability to nurture yourself				
Knowledge and understanding				
Language skills				
Thinking and solving skills				
Symbiosis and cooperation				
Creation and transmission				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce ‘ Small Talk ’, Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Food for Life; Contrast general and current actions
- 第 3 回 Week 3: Describe favourite dishes and food
- 第 4 回 Week 4: Express Yourself; Talk about personal experiences
- 第 5 回 Week 5: Using small talk to break the ice

- 第 6 回 Week 6: Cities; Describe your city or town
- 第 7 回 Week 7: Make predictions about the future
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: The Body; Discuss ways to stay healthy
- 第 10 回 Week 10: Suggest helpful natural remedies
- 第 11 回 Week 11: Challenges; Talk about facing challenges
- 第 12 回 Week 12: Describe a personal challenge
- 第 13 回 Week 13: Transitions; Talk about milestones in your life
- 第 14 回 Week 14: Describe an important transition in your life
- 第 15 回 Week 15: Course Questionnaire, Feedback, Final in-class exam [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート] 実施しない. No exam during exam week

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY (100%) IN ENGLISH!
- ii) In class, activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.
- iii) Students are expected to complete their homework on time!
- iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!
- v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students shall be required to do at least 1 hour of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that her written work reaches the teacher on time. Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course. [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))] Standard Prep Study 15 (fifteen) hours approximately in addition to assignments and homework

-15 minutes per day listening to native English, for example,

CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students' grade for this class will be based on class participation

(including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class).....30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit (pass the course).

***Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

****Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or "makeup" work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit "request for special consideration for students participating in extracurricular activities" issued by the University beforehand.

*****The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students' success and final grade in this course.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

World English2 Third Editon; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2020; 978-0-357-13031-5 (Combo Split A)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

Communication Skills II

EGB3352N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

1単位 後期

月曜3限

DP3 : 言語力

15

定員20人 「Communication SkillsI」履修者であること

Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This class is a discussion-based English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student's ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and internationally. Emphasis will be given to appropriate word choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework. This course will be conducted exclusively in English and students should be prepared to actively participate and share their ideas and opinions.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The interactive activities in this class involve learning and practicing oral communication skills that can be applied to academic situations. We will work on aspects of accuracy and organization of ideas as well as strategies for gleaning meaning from content.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
The ability to nurture yourself				
Knowledge and				

understanding				
Language skills				
Thinking and solving skills				
Symbiosis and cooperation				
Creation and transmission				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, reintroduce ‘ Small Talk ’, Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Things that Matter: Talk about Needs and Wants
- 第 3 回 Week 3: Discuss what makes people’s lives better
- 第 4 回 Week4: Conservation: Talk about Consequences
- 第 5 回 Week 5: Discuss a problem in nature
- 第 6 回 Week 6: Life Now and in the Past: Contrast different ways of life
- 第 7 回 Week 7: Compare today with the past
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: Travel: Talk about preparations for a trip
- 第 10 回 Week 10: Discuss Travel; English at the Airport
- 第 11 回 Week 11: Careers: Ask and answer job-related questions
- 第 12 回 Week 12: Talk about career planning
- 第 13 回 Week 13: Celebrations: Describe a festival
- 第 14 回 Week 14: Share opinions about holidays
- 第 15 回 Week 15: Course Questionnaire, Feedback, Final in-class exam.

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY (100%) IN ENGLISH!
- ii) In class, activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.
- iii) Students are expected to complete their homework on time!
- iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!

v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students shall be required to do at least 1 hour of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that her written work reaches the teacher on time. Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

Standard Prep Study 15 (fifteen) hours approximately in addition to regular assignments and homework

-15 minutes per day listening to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students’ grade for this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class).....30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in prestudy and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit (pass the course).

***Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

****Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or “makeup” work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit “ request for special consideration for students participating in extracurricular activities ” issued by the University beforehand.

*****The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students.
Class

attendance and active participation in in-class pair work/ group work are paramount towards students’ success and final grade in this course.

*****This course will be a blended course in the FALL of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

World English2 Third Edition; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2020; 978-0-357-13032-2 (Combo Split B)
[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

0
[参考URL(URL for Reference)]

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

[実務経験のある教員による実践的科目]
0

Comparative Culture

EGE3553N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 4限

DP5 : 共生・協働する力

60

York Weatherford

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is for students to gain a deeper understanding of both American and Japanese culture

through cross-cultural comparison. The course will begin with an introduction to culture and its various dimensions. Students will then be introduced to a different aspect of culture each week and explore the differences between the two countries. Students will be able to discuss the complexities of cultural differences as a result of the knowledge gained through this course.

As for DP 共生・協働する力, students will gain the ability to work together and help others, in particular as it related to working with people from different cultural backgrounds.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Students are expected to be attentive to all lectures and take careful notes on their contents. Students will also be encouraged to ask questions and offer their own opinions when appropriate.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 Introduction to Cross-Cultural Studies
- 第 2 回 Traditional Values and Beliefs
- 第 3 回 Religion
- 第 4 回 Business and the Economy
- 第 5 回 Politics and the Electoral Process
- 第 6 回 Status of Minorities
- 第 7 回 Education
- 第 8 回 Sports and Leisure
- 第 9 回 Family Structure and Child Raising/Gender Roles
- 第 10 回 Health and Welfare
- 第 11 回 Law and Order
- 第 12 回 Food and Diet
- 第 13 回 Popular Music
- 第 14 回 Movies and Television
- 第 15 回 Final Group Presentations and Discussion

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This lecture course will be conducted entirely in English. Handouts and slideshow presentations will be provided.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide oral commentary and corrections during communication activities. In addition, students will receive written evaluations after each presentation.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete reading assignments before each session. Students may also be asked to research the topics beforehand.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Quizzes 40%

Class Preparation 20%

Class Participation 20%

Final Presentations/Discussion 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

This course will be a blended course in the fall of 2020. This means some classes will be face-to-face and some classes will be asynchronous (manaba assignments). Therefore, you must look carefully on manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Datesman, M.K., Crandall, J.O., & Kearny, E.N, (2014). American Ways: An Introduction to American Culture. London: Pearson Education.

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Comparative Culture Workshop

EGE3250N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜2限

DP2: 知識・理解力

60

定員30人

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英国を中心に英語圏文化を実践的に学ぶ。The purpose of this course is to familiarize students with the culture of English speaking countries especially the U.K., by actual practices such as making English tea, so that they will gain a deeper understanding of the nation and its culture.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

映画や文献を使って英国史を学ぶ。The course will provide an overview and in-depth introduction to British history through films and reading materials in English. Students will also have chances to practice English culture.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業内容をしっかり理解できない。	多少理解していても漠然としている。	しっかり把握し、自分でまとめることができる。	理解したことを自ら発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation オリエンテーション
- 第 2 回 How do you say 「英国」 in English? 英国を英語で言うと?
- 第 3 回 U.K. as a Nation 英国という国
- 第 4 回 Pre-history イギリスの歴史 (先史時代から)
- 第 5 回 Anglo-Saxon Invasion アングロサクソン侵略
- 第 6 回 Medieval Period and the Reign of the Tudors 中世とチューダー朝
- 第 7 回 Anne of the Thousand Days 『1000日のアン』
- 第 8 回 England and Religious Reformation イギリスと宗教改革
- 第 9 回 A Book Jacket or a Box ブックカバーもしくはカルトナーージュ実習
- 第 10 回 Stained Glass ステンドグラス実習
- 第 11 回 A Christmas Wreath クリスマスリース実習
- 第 12 回 Learning English Tea イギリスのお茶を学ぶ
- 第 13 回 English Tea and Recipe イギリスのお茶とレシピ
- 第 14 回 Tea Party ティーパーティ実習
- 第 15 回 Feedback and Exam etc. フィードバックと試験その他

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループディスカッションとプレゼンテーションの機会がある。Students will study the history of Britain. Students will often work and discuss in groups. In this way, they can gain a greater understanding of the British culture and language. They are also expected to do a presentation.

授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。Students will receive feedback in the form of my in-class responses to their questions

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

出席と宿題の義務。Students are expected to complete all assignments.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class Participation (30%)

Quizzes (20%)

Exam (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

The language of the course is mainly English but students not in Global course are welcome. Students will have to pay about 5,000 yen for materials.この授業は基本的には英語で行うがグローバル以外の学生も歓迎である。但し、実習材料費5,000円必要である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Print プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『Britain』/James O'Driscoll/Oxford/1995/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Creative Writing

EGE3354N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 3限

DP3 : 言語力

60

Karin L. Swanson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This is an English-language Creative Writing course. Students will learn and practice different modes and genres of writing.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

To develop skills and confidence in creative writing of types such as short stories, descriptive prose, opinion essays and poetry. Also, to learn both self- and peer-editing. At the completion of the course, students will be able to originate a plan, including an outline, for a creative writing project, to write consecutive drafts, follow through with editing the drafts, and re-writing.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction of the class; writing mechanics

第 2 回 Structural techniques of writing; story-telling/creation

第 3 回 Short stories; writing summaries

第 4 回 Short stories; creating a narrative and development

第 5 回 Short stories; editing/peer review

第 6 回 Descriptive prose; outlining, organization

第 7 回 Descriptive prose; developing ideas

第 8 回 Descriptive prose; editing, peer review

第 9 回 Descriptive prose; re-writing

第 10 回 Non-fiction opinion essays; outlining, organization

第 11 回 Non-fiction opinion essays; developing ideas

第 12 回 Non-fiction opinion essays; editing, peer review

第 13 回 Non-fiction opinion essays; re-writing

第 14 回 Poetry - Japanese to English

第 15 回 Poetry - Western models

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Techniques and methods include precis writing, free-writing, content and technical editing, and development of narrative and descriptive writing from pictures.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

There will often be opportunities to write during the class, but there will also be weekly homework, which will be checked for completion the following week. Further, as the writing projects build upon previous steps, it is important to stay

current with finished homework. Not doing so will result in a difficulty to keep up with the class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation and finished writing homework are the two most important components of the final grade, and both will be evaluated every week. A more detailed explanation of the grading system will be distributed and explained on the first class meeting day of the semester, so students are especially encouraged to be present on that day.

A brief breakdown follows:

Class Participation - 28%

Class Preparation/Homework - 42%

Submitted written assignments - 30%

Grades given by the instructor on written papers (such as A, B, C, etc.), will be decided by considering the following points:

- as the class is `Creative Writing; does the paper show creativity and imagination?
- whether or not the paper is the length assigned by the teacher
- if the paper is turned in on time, or late
- if the paper contains numerous mistakes; for example, grammar, spelling, or poor use of paragraphs to divide sections of the writing

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

All learning materials will be provided by the teacher.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

n/a

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Debate

EGE3403N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 3限

DP4 : 思考・解決力

60

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course aims to improve students' ability to evaluate arguments, express and defend opinions, and engage in civil public discourse through the development of strategies for debate.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

At the end of this course, students will be able to:

- (1) Form and express well-supported arguments on debatable topics
- (2) Evaluate the logic and support of claims and arguments
- (3) Respond to opposing opinions clearly, confidently, and respectfully
- (4) Use relevant and properly attributed evidence to support opinions
- (5) Recognize and avoid logical fallacies, bias, and disingenuous argumentation
- (6) Research, prepare for, and conduct a formal debate
- (7) Appreciate the role of reasoned debate in public life

Students will learn and use strategies and lexis for engaging in discussion and debate. They will analyze written and spoken arguments and respond to them in both writing and speech. Speaking in a variety of situations (public speaking, Q&A, discussion, and informal group work) will help students develop their proficiency and confidence. Throughout the term, students will research and prepare for a final debate, working as members of a team and documenting their progress.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力(1) express well-supported arguments (2) Evaluate the logic and support of claims(3) Respond to opposing opinions (4)) Use relevant and properly attributed evidence to support opinions(5)) Recognize and avoid logical fallacies(6) conduct a formal debate	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction: Why debate?
- 第 2 回 Styles of debate introduction
- 第 3 回 Types of evidence
- 第 4 回 Using logos, pathos, and ethos
- 第 5 回 Making an opening statement
- 第 6 回 Logical fallacies: faulty reasoning
- 第 7 回 Logical fallacies: types of red herring and ad-hominem
- 第 8 回 Rebuttals
- 第 9 回 A closer look at debate roles: speakers and judges
- 第 10 回 Making a closing argument
- 第 11 回 debate prep and research
- 第 12 回 Practice debate
- 第 13 回 Class debates
- 第 14 回 Debate discussion and feedback
- 第 15 回 Reflection and course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will read, write, and interact in English for each meeting. Active participation is crucial for success. Students will receive oral and written feedback on their assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

This course will involve individual, pair, and group work, so it is important to prepare thoroughly for every class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class preparation and participation 15%

Spoken assignments 15%

Quizzes 15%

Written homework 20%

Final Debate and accompanying documents 35%

〔留意事項 (Other Information)〕

The syllabus and schedule may change to suit the needs of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

This course will not use a textbook. Students will be provided with a course packet of handouts to use throughout the semester.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Global English Seminar

EGE4651N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

2単位 前期

火曜 3限

DP6 : 創造・発信力

60

グローバル英語コース必修

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will explore the long-term impact of the Global English Course as it relates to employment and personal lifestyle. The main goal of the course is for students to initially reflect on how they changed as a result of learning in an all-English environment, including their study abroad experience. Then, students will be expected to express changes in personal attitudes and beliefs, improvements in their abilities, and their own degree of globalization.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will demonstrate their ability to:

(1) Understand, interpret, and synthesize concepts of personal growth and development (Reading and Listening Skills)

(2) Plan, develop, revise and present their own personal growth and development in English (Speaking/Presentation and Writing Skills)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introducing Concepts of Change from Studying in English and Studying Abroad
- 第 2 回 Reflecting on Personal Growth & Development
- 第 3 回 Understanding Job Hunting Interviews
- 第 4 回 Exploring Resilience
- 第 5 回 Taking Initiative

- 第 6 回 Recognizing Improvements in Abilities
 - 第 7 回 Defining Real Communication Skills
 - 第 8 回 Group Project Presentations
 - 第 9 回 Showing Flexibility
 - 第 10 回 Having Positive Attitudes
 - 第 11 回 Leveraging Perseverance
 - 第 12 回 Determining Individual Globalization
 - 第 13 回 Explaining Intercultural Skills Acquired from SA
 - 第 14 回 Being a Leader & a Follower
 - 第 15 回 Individual Presentations and Feedback
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Homework Assignments & Participation:

There will be ongoing homework assignments. English will be the working language for the class. There will be regular written commentaries submitted online according to the homework schedule. Homework will be shared in discussion groups in class.

Group Project:

In small groups, students will create a bilingual job interview simulation, taking on roles as interviewers and interviewee. Students will develop effective questions and answers in their attempt to provide one another a valuable practice interview experience. Further details of the project will be provided in class.

Final Presentation:

Using PowerPoint, realia, or any other creative materials, students will make a final presentation to the class demonstrating the long-term impact of their study abroad experience. Further details of the presentation will be provided in class.

Feedback: Students will receive regular feedback from the teacher and their peers on all written and oral assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected complete the assigned readings and prepare for group discussions and individual presentations.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Written Commentaries: 40% (Reflections on Personal Change)

(2) Group Project 30% (Interview Simulations)

(3) Final Presentation: 30% (Individual Speeches)

〔留意事項 (Other Information)〕

This course is designed for the Global English Course students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Survey of Global Personnel Development and Long-term Impact of Study Abroad (Yokota, 2016)

グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する調査 (Yokota, 2016)

Retrieved from: <http://recsie.or.jp/project/gj5000/>

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Global Human Resource Development

EGE3651N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course focuses on Global Jinzai Skills development. The first stage is to identify these so-called soft skills, then the real challenge is to leverage them when making plans for your future.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will:

1. Understand the difference between hard and soft skills, and especially their importance.
2. Identify a wide range of soft skills related to Emotional Intelligence and Personality type.
3. Know themselves better and be able to talk positively about their strengths.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 Expectations: Can take positive steps in becoming a citizen; Can maximize personal strengths	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
知識・理解力	Does not meet course	Meets some course	Meets most course	Exceeds most course

Expectations: Can understand personal strengths; Can highlight positive personality traits; Can identify EQ good points	expectations yet	expectations	expectations and excels on some criteria	expectations
創造・発信力 Expectations: Can see multiple perspectives; Ability to ask questions; Ability to solve problems; Be logical, persuasive, and organized in your thinking	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Hard vs. Soft Skills
 - 第 2 回 Intercultural Awareness
 - 第 3 回 Diversity in the Global Workplace
 - 第 4 回 Emotional Intelligence (EQ)
 - 第 5 回 EQ Self-awareness
 - 第 6 回 EQ Self-control
 - 第 7 回 EQ Social Awareness
 - 第 8 回 EQ Relationship Management
 - 第 9 回 The Elevator Pitch Test
 - 第 10 回 Confidence, Self-worth, and Self-esteem
 - 第 11 回 The Confidence Gap
 - 第 12 回 Personality Types
 - 第 13 回 Leveraging Personality Strengths
 - 第 14 回 Zest, Grit, and Mindsets
 - 第 15 回 Final Oral Report and Feedback
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will read, reflect on, and discuss the literature on soft skills. They will also do pair work, small group work, and present for one another about the literature and about themselves. They will do an Elevator Pitch Test and a Final Oral Report.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must read before class, reflect on their own strengths and weaknesses and be prepared to ask questions and discuss ideas in class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students will be evaluated based on efforts both in and out of class.

Class participation & Homework 40%

Elevator Pitch Test 30%

Final Oral Report 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Emotional Intelligence, Goleman (1995)

<http://amzn.to/2AlidJI>

Emotional Intelligence 2.0, Bradberry & Greaves (2010)

<http://amzn.to/2k5Wp4t>

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Global Issues

EGE2250N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP2 : 知識・理解力

90

拝田 清

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to increase knowledge of current global issues, and to develop the basic skills needed for discussions in academic settings.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to proactively participate in all classroom-based activities in pairs and groups. Students are required to make presentations in groups or in pairs during the final day.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
グローバル社会についての知識・理解	グローバル社会の現状や課題をまったく知らない	グローバル社会の現状や課題について1つなら例を挙げることができる	グローバル社会の現状や課題について2つの例を挙げることができる	グローバル社会の現状や課題について3つ以上の例を挙げることができる
英語の能力	質問に対してYes./No.で答えることしかできない	質問に対して英語を使って1文で答えることができる	質問に対して自分の答えとその理由を2文の英語で答えることができる	質問に対する答えだけでなく、自分の意見を3文以上の英語で展開できる
思考・解決能力	課題解決に向けて考えようとする意欲が乏しい	課題解決に向けて考えようとする意欲がある	課題解決に向けて考えをまとめ、自分なりの解答を提示できる	課題解決に向けて複数の視点・観点から検討し、複数の解答を提示できる
協働する意欲・能力	他人と協働することに積極的でない	仲のいい相手とのペアワークには意欲的に取り組む	ペアワークもグループワークも意欲的に取り組む	他人との協働に積極的で、時には自らがリーダーとなることもできる
プレゼンテーション能力	PPT(プレゼンテーションソフト)などは使用せず、発表言語もほぼ日本語である	発表にはPPTなども利用し、理解可能な英語で情報提供ができている	映像や音声をPPTなどでうまく使いこなし、正確な英語で情報提供や意見提示ができる	映像や音声をPPTなどを的確に使い、文字情報も論理的であり、使用する英語は流暢かつ正確で、説得力あるプレゼンテーションができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
Overview of the planned sessions
- 第 2 回 Education and Gender
Unit 1: Creating Opportunities for Learning in Afghanistan and India
- 第 3 回 Global Warming
Unit 2: Environmental Threats to Our Planet
- 第 4 回 Drinking Water
Unit 3: Getting Safe Water in the Gaza Strip
- 第 5 回 Poverty and Hunger

- Unit 4: Child Malnutrition in Niger
- 第 6 回 Terrorism
Unit 5: 9/11 Attacks and Counter Terrorism Strategy
- 第 7 回 Movie-viewing
Watching a movie dealing with environmental issues.
- 第 8 回 Landmines
Unit 10: Demining in Afghanistan and Cambodia
- 第 9 回 Refugees
Unit 11: Life in a Refugee Camp and International Refugee Law
- 第 10 回 Aung San Suu Kyi
Unit 13: Peace Activist for Democracy and Human Rights
- 第 11 回 Preparation for the Final Presentation (1)
Students prepare for the final presentation
- 第 12 回 Preparation for the Final Presentation (2)
Students prepare and rehearse for the final presentation
- 第 13 回 Presentations (1)
Feedback and discussion
- 第 14 回 Presentations (2)
Feedback and discussion
- 第 15 回 Review
Reviewing the past lectures and giving feedback
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
None / 実施しない。
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
This course will be conducted entirely in English, and students will achieve in-class tasks in pairs and in groups. In addition, students will prepare for their final presentation in groups.
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
Students will be required to completing the assigned readings before class.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
Classroom Participation: 30%
In-class Assignments: 20%
Group Presentation: 50%
〔留意事項 (Other Information)〕
The schedule above will be flexible. The instructor will adjust some aspects of the course to benefit the students.
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『Global Issues Towards Peace DVDで学ぶ共存社会—グローバル時代を考える』, 達川奎三他, 南雲堂, 2014年, ISBN 978-4-523-17741-8, 学内販売有

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

Handouts are distributed in class.

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Intercultural Communication and Adjustment

EGE2501NOE

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜 2限

DP5 : 共生・協働する力

60

「異文化間コミュニケーション」「Intercultural Communication and Adjustment」のうち、いずれか一方の単位を修得すると、他方を履修することはできない

Lyle De Souza

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course will help students understand intercultural contact, appreciate cultural and individual differences, adapt to unfamiliar situations, and communicate with confidence, empathy, and integrity. A variety of activities in English will help students prepare to study abroad. Communication with people from other cultures will be included.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. Understand identity and affiliation.
2. Identify elements of subjective culture.
3. Recognize stereotypes and prejudices.
4. Appreciate differences between people.
5. Manage intercultural anxiety and conflict.
6. Articulate important personal values.
7. Improve English communication skills.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

[授業計画]

- 第 1 回 Culture and intercultural communication (introduction)
- 第 2 回 The study of culture
- 第 3 回 Intercultural contact
- 第 4 回 Intercultural communication on the Internet
- 第 5 回 Group affiliation and cultural identity (cross-cultural activity)
- 第 6 回 Intergroup tension
- 第 7 回 Outcomes of contact
- 第 8 回 Tolerance and mediation (cross-cultural activity)

第 9 回 Sojourner adjustment overview

第 10 回 Sojourner adjustment challenges (cross-cultural activity)

第 11 回 Sojourner adjustment strategies (cross-cultural activity)

第 12 回 Empathy and worldviews in contact

第 13 回 Ethical dilemmas and social issues

第 14 回 Universal Declaration of Human Rights

第 15 回 Course review and feedback

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施する (Report)

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. The class will be conducted entirely in English.
2. Activities will include lectures, group discussions, videos, and communication with people from other cultures.
3. Students will participate in an online forum (manaba).
4. Students may use Voices of Youth (UNICEF) resources and join cross-cultural discussions on social media.
5. Report: an 800-word case study in English.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, homework, and other work. Students receive detailed feedback on their final report. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. Read the class text.
2. Read current online forum threads (manaba).
3. Write online forum contributions in English (manaba).

Students should also review each class to make sure that they understand everything.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Class participation (discussion, cross-cultural activities, etc.)

30%

Online forum participation 20%

Report 50%

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Japan Studies

EGE2200N0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次 3年次 4年次
 2単位 前期
 木曜 4限
 DP2 : 知識・理解力
 90
 Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The course looks at key moments in the development of modern Japan. We explore these moments using various theories and concepts. The course uses a wide range of primary source materials in English.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

This series of lectures introduces students to key issues relating to Japan Studies covering theories, history, society, politics, culture, and economics. By the end of the course, students will have a much better understanding of Japan and its place in the modern world.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

- 第 1 回 Japan Studies: Theories
- 第 2 回 Japan Studies: Methods
- 第 3 回 Traditional Japanese Culture: Japan, the Beautiful, and Myself
- 第 4 回 Nationalism and Nihonjinron
- 第 5 回 Culture: The Literature of the Japanese Diaspora
- 第 6 回 Cool Japan: Japanese Popular Culture
- 第 7 回 History of Japan (pre-modern to modern)
- 第 8 回 History of Japan (modern to contemporary)
- 第 9 回 Society: Diversity in Japan
- 第 10 回 Society: Women in Japan
- 第 11 回 Society: Aging Japan
- 第 12 回 Politics: Cultural Flows
- 第 13 回 Economics: The End of Lifetime Employment
- 第 14 回 The Future of Japan
- 第 15 回 Course review and feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する (Report 800 words)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. The class will be conducted entirely in English.
2. Activities will include lectures, group discussions, and

videos.

3. Report: an 800-word case study in English.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, homework, and other work. Students receive detailed feedback on their final report. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. Read the class text.
2. Read current online forum threads (manaba).
3. Write online forum contributions in English (manaba).

Students should also review each class to make sure that they understand everything.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation 30%

Online forum participation 20%

Report 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

The teacher may change the content and order of some of the classes depending on the interests of students.

The schedule is flexible.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Japan Studies Workshop

EGE3251N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

定員30人

嶋本 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

年々日本を訪れる外国人観光客が増えています。2020年は東京オリンピックが開催されます。政府も今年までに外国人観光客を3000万人に引き上げることを決定しています。

なかでも、京都は外国人観光客に一番人気があります。その理由は寺社を含む古都の風情があるからです。本校は京都にあります。その地の利を大事にして、我が国の伝統や文化を正しく理解し、実際に訪れ、外国語である英語でどのように伝えるのかを学びたいと思います。

講師は、長らく通訳案内士として、英語で海外の人々に日本文化を紹介してきました。その経験から日本文化の理解とその伝え方の実体験をお伝えます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

本授業では、

1. 日本の伝統的事象を英語説明できることを目的とします。
2. 日本文化の基本構造を解説します。
3. 期間中に、課外実習として現役の通訳案内士である担当講師とともに、京都市内の寺社を訪れ、体験します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	Japan Studiesについて知ろうとする。	Japan Studiesを理解しようとする。	Japan Studiesについて、考えを深めようとする。	Japan Studiesを自らの言葉で語れるようになる。
知識・理解力	テキストの英語の単語を知る。	テキストの内容を20ワードで英作文ができる。	テキストの内容を50ワード以内で英作文ができる。	テキストの内容を50ワード以上の英作文ができる。
言語力	テキストの英単語を覚える。	テキストの内容を英語20ワードで話せるようになる。	テキストの内容を50ワード以内で話せるようになる。	テキストの内容を50ワード以上の言葉で話せるようになる。
思考・解決力	テストに解答する。	毎回のテストに高得点をとる。	レポートの内容を考えて、作成できる。	レポートの内容に自身の視点を踏まえることができる。
共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする。	友人たちと一緒に学ぼうとする。	友人とともにJapan Studiesの課題を学ぼうとする。	友人とともにJapan Studiesの勉強会をする。
創造・発信力	毎回のテストを受け取る。	毎回のテストに高得点を取れるように自宅学習をする。	レポートを作成できる。	レポートの内容に自身の視点が反映されている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 日本の文化 娯楽
オリエンテーション。 アニメ、カラオケなどの日本の娯楽を英語で話せるようにします。
- 第 2 回 日本の観光名所

日本の庭園の紹介と西洋の庭園との違いを英語で話せるようにします。

- 第 3 回 日本の宗教と精神
京都には多くの神社と寺院があります。それらの特徴を英語で話せるようにします。
- 第 4 回 日本の宗教と精神
日本神話と天皇を英語で話せるようにします。
- 第 5 回 日本の年中行事
七五三と子供の日のような日本の年中行事を話せるようにします。
- 第 6 回 日本の装い
日本の装いである着物を英語で話せるようにします。
- 第 7 回 日本のスポーツ
主に、相撲を英語で話せるようにします。
- 第 8 回 フィールドワーク
京都の寺院で、通訳案内の実践を行います。
- 第 9 回 日本の芸能
顔見世の季節ですので、歌舞伎を英語で話せるようにします。
- 第 10 回 日本の料理について
お正月が近づいてきますので、おせち料理を英語で話せるようにします。
- 第 11 回 日本の酒について
日本の酒について英語で説明できるようにします。日本酒の起源は神道とのつながりが深いですから、歴史的背景に英語で話せるようにします。
- 第 12 回 フィールドワーク
京都の神社で、通訳案内の実践を行います。
- 第 13 回 日本の文化
茶道を英語で話せるようにします。
- 第 14 回 日本語について
日本語の特徴を英語で話せるようにします。
- 第 15 回 日本に観光名所
温泉の特徴を英語で話せるようにします。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

1. 定期試験は実施しません。
2. 毎週その回で学んだ内容を、次回にリスニングテストをします。
3. 時に応じて英作文の宿題を出します。2と3が日常点となります。
4. 期末にはレポートを提出していただきます。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テキスト『英語で説明する日本の文化』の音声教材を使います。
2. 翌週には復習としてのリスニングテストをし、採点をして返却します。
3. 通訳技法であるシャドーイングや、英語の速度を調整するリスニングのトレーニングを導入します。
4. 英語を発語することを重視します。積極的に英語を使ってください。
5. 発音することに恥ずかしがらないで下さい。

6. 講義の解説には、DVDを含む映像やパワーポイントを使います。

7. 期間中に課外実習として現役の通訳案内士である担当講師とともに、京都市半日観光ツアー（講義2回分）への参加を求めます。2019年度では、伏見稲荷大社、東福寺、三十三間堂に行きました。

8. 授業中の質問には、その都度授業の中で口頭でフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 毎回のクラスでは、前回のクラスで学んだ内容についてのリスニング試験を行います。

2. その準備には、テキストのCDを最低30回は聞いていただきます。

3. 単語テストもありますので、次回までには2時間は復習してください。

4. テキストの内容に興味があれば、自主的に読み進めてください。

5. 学んでいる内容についてわからないことがあれば、事前に調べて、質問をしてください。

6. できるだけ講師から具体的な解説をしたいと思えます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度 / Class participation (30%)

授業でおこなう毎回の試験/ (40%)

最終回のレポート提出 (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 授業の一環である実地研修は、日時と見学場所を受講学生と調整します。

2. 実地研修の曜日は土曜日になります。

3. 参加費用として、拝観料は1500円程度の実費です。

4. 交通費は実費です。交通手段と訪問地、実地研修当日の天候により、費用は異なります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『英語で説明する日本の文化』／植田一三・上田敏子／語研／ISBN 978-4-87615-189-9／学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『あなたも通訳ガイドです 英語で案内する京都』/柴山かつの/Japan Times/2015年/9784789013680

『心にひびく日本のしきたり TIES WITH The PAST Japanese Customs, Traditions and Manners』/酒井信彦/講談社バイリンガル・ブックス/2011年/978062500500

『英語で紹介するハンドブック』/松本美江/アルク/2014年/978475724395

『プロが教える現場の英語通訳ガイドスキル』/クリス・ローソン 伊集院幸子/三修社/2010年/9784384055795

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

講師は現役の通訳案内士ですので、15回の講義のうち2回分は京都市内の寺社に行き、ガイドの実践を行います。

Listening I A

EGB1302A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to comprehend spoken English for academic and communicative purposes.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom activities is required. These activities include pre-listening, listening, and post-listening tasks.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Listening Expectations: 1) Can comprehend a short passage of around 500 to 750 words (2 to 3 minutes); 2) Can score TOEIC 200 in Listening; 3) Can understand simple conversations about topics of personal interest (e.g. hobbies, music, and sports); 4) Can understand	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations

d short, clear, simple messages and announcements (e.g. meeting place and time, arrival and departure times for transportation).				
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction; Phone Messages
 - 第 2 回 Voicemail Messages
 - 第 3 回 Tech Support
 - 第 4 回 Computer Repairs
 - 第 5 回 Opinions and Suggestions
 - 第 6 回 Problems and Solutions
 - 第 7 回 Sales Reports
 - 第 8 回 Sales Targets
 - 第 9 回 Researching Information
 - 第 10 回 Finalizing Concepts
 - 第 11 回 Target Marketing
 - 第 12 回 Focus Group Testing
 - 第 13 回 Airport Check-in
 - 第 14 回 Flight Announcement
 - 第 15 回 Hotel Check-in
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class listening activities during each class. The instructor will provide the correct answers so that students may check their own work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Listening PRO 1/Jenny Wilsen/Cengage Learning/2014/9789865840365/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践の科目〕

Listening I B

EGB1302B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to improve students' English listening skills in order to be ready for the sophomore class 'Advanced Listening'.

The course also provides good preparation for future TOEIC tests and for students who will study abroad using English.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Improve the recognition and understanding of spoken words and phrases (including vocabulary already known from previous study).

Listen to English with increasingly difficult speeds, pronunciations, and vocabulary.

Develop a personalised learning strategy for improving listening skills.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction
 - 第 2 回 Unit 1 Food: Listening
 - 第 3 回 Unit 1 Food: Video
 - 第 4 回 Unit 1 Food: Expansion
 - 第 5 回 Unit 2 Festivals: Listening
 - 第 6 回 Unit 2 Festivals: Video
 - 第 7 回 Unit 2 Festivals: Expansion
 - 第 8 回 Unit 3 Music: Listening
 - 第 9 回 Unit 3 Music: Video
 - 第 10 回 Unit 3 Music: Expansion
 - 第 11 回 Unit 4 Journeys: Listening
 - 第 12 回 Unit 4 Journeys: Video
 - 第 13 回 Unit 4 Journeys: Expansion
 - 第 14 回 Final project presentations
 - 第 15 回 Feedback on final project
- Course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students listen to conversations, interviews, songs, video clips, and other authentic audio. Students listen to English from native English-speaking countries particularly the UK and the US, as well as from non-native countries including those near Japan.

Students actively listen to English using a variety of activities. In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Students receive regular feedback from the teacher on their in-class activities, homework, and other work. Students receive detailed feedback on their final project and advice on their personalised learning strategy. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should prepare for each class by listening to as much English as possible using their personalised learning strategy.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

In-class participation and quizzes 40%

Homework 30%

Final project 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule is flexible.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Inspire 2/Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon/Cengage/2014/ISBN 1-133-96368-4

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening I C

EGB1302C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course focuses mainly on improving student's listening ability. It will give students a variety of listening opportunities including conversations, songs, radio shows, movies, YouTube clips, interviews, and discussions. In addition to American English, students will be exposed to accents from other English speaking countries as well as non-native speaker accents.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. There will be weekly listening tests, providing a good preparation for future TOEIC tests.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力1) Can comprehend a short passage of around 500 to 750 words (2 to 3 minutes); 2) Can score TOEIC 200	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

<p>in Listening; 3) Can understand simple conversations about topics of personal interest (e.g. hobbies, music, and sports); 4) Can understand short, clear, simple messages and announcements (e.g. meeting place and time, arrival and departure times for transportation).</p>					
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction
- 第 2 回 Unit 1 Food: Listening 1 (page 12)
- 第 3 回 Unit 1 Food: Video
- 第 4 回 Unit 1 Food: expansion
- 第 5 回 Unit 2 Festivals: Listening 1 (page 20)
- 第 6 回 Unit 2 Festivals: Video
- 第 7 回 Unit 2 Festivals: expansion
- 第 8 回 Unit 3 Jobs: Listening (pg 32)
- 第 9 回 Unit 3 Jobs: video
- 第 10 回 Unit 3 Jobs: expansion
- 第 11 回 Unit 4 Journeys: Listening 1 (pg 40)
- 第 12 回 Unit 4 Journeys: video
- 第 13 回 Unit 4 Journeys: expansion
- 第 14 回 Unit 5 Music: Listening 1 (pg 52)
- 第 15 回 Unit 5 Music: video

Course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will receive ongoing oral and written feedback on their assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as listening to songs and watching movies in English. Because students will engage in pair and group work in every class, they are expected to prepare for each class by doing any homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation 20%

Homework 40%

In class Tests 20%

Final Presentation 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Inspire 2/Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon/Cengage/2014

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

News in Levels

<https://www.newsinlevels.com/>

Academic English

ELLLO

<http://elllo.org>

General English

Lyrics Training

<https://lyricstraining.com/>

General English

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening I D

EGB1302D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through various activities, the students will develop their ability to listen to and understand English conversations that not only could occur in the events and activities of daily life but that deal with current events in order to prepare students

to participate as knowledgeable participants in English discourse.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives and help them understand the concept of becoming global citizens. Students will develop the skills to understand the gist and details of spoken information, as well as the critical thinking skills necessary to understand it.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Listening Expectations: 1) Can comprehend a short passage of around 500 to 750 words (2 to 3 minutes); 2) Can score TOEIC 200 in Listening; 3) Can understand simple conversations about topics of personal interest (e.g. hobbies, music, and sports); 4) Can understand short, clear, simple messages and announcements (e.g. meeting place and time, arrival and departure times for transportation).	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	------------------------------------------------------------	----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the Listening I Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Food
- 第 3 回 Topic Area 2: Family
- 第 4 回 Topic Area 3: Songs
- 第 5 回 Topic Area 4: Cities
- 第 6 回 Topic Area 5: Jobs
- 第 7 回 Topic Area 6: Hobbies
- 第 8 回 Topic Area 7: Nature
- 第 9 回 Topic Area 8: Questions
- 第 10 回 Topic Area 9: Nature
- 第 11 回 Topic Area 10: Career
- 第 12 回 Topic Area 11: Travel
- 第 13 回 Topic Area 12: Recent Events
- 第 14 回 Topic Area 13: Preparing for Final Listening Quiz
- 第 15 回 Final Listening Quiz, Reflection on Course and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The class will be conducted mostly in English and students will be expected to speak with other students on a regular basis in class. Students will spend most of the class time talking in English about the given listening topics in pairs and small groups with attention being given to understanding how to be active listeners and better develop communicative competence. Every class will include a listening comprehension component that will count to the final grade.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student-centered listening course so students will be expected to put a lot of effort into both listening and speaking in English with classmates regularly.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 30%

Homework Assignments: 20%

Listening Comprehension Tasks: 30%

Final Listening Quiz: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

This course will be a blended course in the Fall of 2020. This means that some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Please check the Course news and assignments on Manaba each week for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening I E

EGB1302E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3 : 言語力

45

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In this course, students will develop their oral communication skills. Listening and understanding the naturally spoken English of the teacher and peers is a main goal. We will practice listening for gist and details. We will study characteristics of spoken English such as 'linking sounds', 'weak vowels', 'sentence stress' and 'blended sounds'. An awareness of these features of spoken English will help students tackle authentic listening tasks outside of the classroom. The students will keep a listening journal/portfolio,

document their progress, and weaknesses and strengths of their listening skill.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of this course, students will:

- 1) more successfully communicate meaning to their peers
- 2) have practiced and improved their understanding of naturally spoken English
- 3) have an awareness of the features of naturally spoken English
- 4) be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks
- 5) be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome to Listening I
Introduction to the course, community building activities
- 第 2 回 Community building activities (Unit 0)
Goal setting, listening journal set up
- 第 3 回 Unit 1: What's your name
All classes will follow this loose format-->
1) Listening journal (in-class activity)
2) Speaking and listening activities
3) HW: online listening activity + reflection in the Listening Journal
- 第 4 回 Unit 1: What's your name
- 第 5 回 Unit 2: I love fashion!
- 第 6 回 Unit 2: I love fashion!
- 第 7 回 Unit 3: How do you stay healthy?
- 第 8 回 Unit 3: How do you stay healthy?
- 第 9 回 Unit 4: How do I get there?
- 第 10 回 Unit 4: How do I get there?
- 第 11 回 Unit 5: What's that?
- 第 12 回 Unit 5: What's that?
- 第 13 回 Unit 6: What's your dream?
- 第 14 回 Unit 6: What's your dream?

第 15 回 Final reflections on learning

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

There is no final exam.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students are expected to attend class every week, actively participate and show effort, and complete the assigned homework.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to actively participate every class period AND diligently practice and reflect on their listening experiences outside of class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active participation: 30%

Listening Journal/Portfolio 40%

Quizzes 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

English Firsthand Success (5th edition) / Helgesen, M; Wiltshire, J., Brown, S. / Pearson Education South Asia Pte Ltd / 2018 / ISBN 9789813130210

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening II A

EGB1352A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed to comprehend spoken English for academic and communicative purposes.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom activities is required.

These activities include pre-listening, listening, and post-listening tasks.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Listening Expectations: 1) Can comprehend a short passage of around 500 to 750 words (2 to 3 minutes); 2) Can score TOEIC 200 in Listening; 3) Can understand simple conversations about topics of personal interest (e.g. hobbies, music, and sports); 4) Can understand short, clear, simple messages and announcements (e.g. meeting place and time, arrival and departure times for transportation).	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction to Class; Concierge Services

第 2 回 Direction

第 3 回 City Transportation

第 4 回 Background and Personality

第 5 回 Work Experience

第 6 回 Coworkers

第 7 回 Job Duties

第 8 回 Promotions

- 第 9 回 Awards
 - 第 10 回 Table Chit-chat
 - 第 11 回 The Atmosphere
 - 第 12 回 Orders Given to a Kitchen
 - 第 13 回 Customer Issues and Resolutions
 - 第 14 回 Bargains and Deals
 - 第 15 回 Returned Purchases
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class listening activities during each class. The instructor will provide the correct answers so that students may check their own work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

This course will be a blended course in the fall of 2020. This means some classes will be face-to-face and some classes will be asynchronous (manaba assignments). Therefore, you must look carefully on manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Listening PRO 1/Jenny Wilsen/Cengage Learning/2014/9789865840365/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening II B

EGB1352B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course develops listening skills. The goal is for students to develop the skills needed to comprehend spoken English. Teachers will choose materials that feature natural-sounding recordings that reflect everyday situations that students may encounter both in Japan and abroad.

The course provides good preparation for future TOEIC tests and for students who will study abroad using English.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Develop the skills needed to comprehend a variety of spoken English of different styles.

Improve the recognition and understanding of spoken words and phrases (including vocabulary already known from previous study).

Listen to English with increasingly difficult speeds, pronunciations, and vocabulary.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

第 1 回 **CLASSROOM**

Introduction

第 2 回 **ONLINE**

Unit 1 Food: Listening

第 3 回 **ONLINE**

Unit 2 Festivals: Listening

第 4 回 **ONLINE**

Unit 3 Cities: Listening

第 5 回 **ONLINE**

Unit 4 Jobs: Listening

第 6 回 **CLASSROOM**

Videos & Discussion
 第 7 回 **ONLINE**
 Unit 5 Music: Listening
 第 8 回 **ONLINE**
 Unit 6 Journeys: Listening
 第 9 回 **ONLINE**
 Unit 7 Family: Listening
 第 10 回 **ONLINE**
 Unit 8 Nature: Listening
 第 11 回 **CLASSROOM**
 Videos and Discussion
 第 12 回 **ONLINE**
 Unit 9 Happiness: Listening
 第 13 回 **ONLINE**
 Unit 10: Conservation: Listening
 第 14 回 **CLASSROOM**
 Videos and Discussion
 第 15 回 **ONLINE**
 Feedback
 Course Review
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 The course is conducted entirely in English.

The course uses a blended approach. Some classes are online, some classes are face to face. Please check Manaba regularly for any changes to the schedule.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, homework, and other work. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

Students listen to conversations, interviews, songs, video clips, and other authentic audio. Students listen to English from native English-speaking countries particularly the UK and the US, as well as from non-native countries including those near Japan.

Students actively listen to English using a variety of activities.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should prepare for each class as directed by the teacher.

Please bring the textbook, paper, and pens to class.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Assignments and quizzes 80%

Quizlet 20%

[留意事項 (Other Information)]

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示は manaba のコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

お知らせが締め切り直前となりましたが、よろしくお願ひします。

The schedule is flexible, especially depending on the coronavirus situation.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

Students must wear a mask in class.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

Inspire 2/Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon/Cengage/2014/978-1-133-96368-4

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Listening II C

EGB1352C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course focuses mainly on improving student's listening ability. It will give the students a variety of listening opportunities including conversations, songs, radio shows, movies, YouTube clips, interviews, and discussions. In addition to American English, students will be exposed to accents from other English speaking countries as well as non-native speaker accents.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. There will be weekly listening tests a good preparation for future TOEIC tests.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
<p>言語力 Listening Expectations: 1) Can comprehend a short passage of around 500 to 750 words (2 to 3 minutes); 2) Can score TOEIC 200 in Listening; 3) Can understand simple conversations about topics of personal interest (e.g. hobbies, music, and sports); 4) Can understand short, clear, simple messages and announcements (e.g. meeting place and time, arrival and departure times for transportation).</p>	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 6 Journeys Listening 2 (pg 62)
- 第 2 回 Unit 6 Journeys video
- 第 3 回 Unit 6 Journeys expansion

- 第 4 回 Unit 7 Family Listening 1 (p 73)
- 第 5 回 Unit 7 Family video
- 第 6 回 Unit 7 Family expansion
- 第 7 回 Unit 8 Nature: Listening 1 (pg 80)
- 第 8 回 Unit 8 Nature: video
- 第 9 回 Unit 8 Nature: expansion
- 第 10 回 Unit 9 Happiness: Listening 1 (p. 92)
- 第 11 回 Unit 9 Happiness: video
- 第 12 回 Unit 9 Happiness: expansion
- 第 13 回 Unit 10: Conservation Listening 1 (p 100)
- 第 14 回 Unit 10: Conservation video
- 第 15 回 Unit 10: Conservation expansion

Course Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This class will be conducted entirely in English. We will use both online and face to face instruction. Most materials, activities, and assignments will be conducted through MANABA. This class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback and focused writing help. Students will receive oral and written feedback on their work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class as much as possible. Because students will engage in pair and group work in every class, they are expected to prepare for each class by doing any homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation 20%

Homework 40%

Quizzes 20%

Final Project 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Inspire 2/Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon/Cengage/2014/978-1-133-96368-4

This is the same book used in Listening 1.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

[参考URL(URL for Reference)]

News in Levels

<https://www.newsinlevels.com/>

Academic English

ELLLO

<http://elllo.org>

General English

Lyrics Training

<https://lyricstraining.com/>

General English

[実務経験のある教員による実践的科目]

Listening II D

EGB1352D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

[科目の教育目標 (Course Description)]

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to listen and understand English confidently.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives.

[ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

Listening Expectations: 1) Can comprehend a short passage of around 500 to 750 words (2 to 3 minutes); 2) Can score TOEIC 200 in Listening; 3) Can understand simple conversations about topics of personal interest (e.g. hobbies, music, and sports); 4) Can understand short, clear, simple messages and announcements (e.g. meeting place and time, arrival and departure times for transportation).	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	------------------------------------------------------------	----------------------------------

言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	------------------------------------------------------------	----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the Listening II D Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Friendship
- 第 3 回 Topic Area 2: Fears and Phobias
- 第 4 回 Topic Area 3: Health
- 第 5 回 Topic Area 4: Disappearing Cultures
- 第 6 回 Topic Area 5: Youth
- 第 7 回 Topic Area 6: Study
- 第 8 回 Topic Area 7: Questions
- 第 9 回 Topic Area 8: Responsibilities
- 第 10 回 Topic Area 9: Trends
- 第 11 回 Topic Area 10: Consumerism
- 第 12 回 Topic Area 11: Recent Events
- 第 13 回 Topic Area 12: Recent Events
- 第 14 回 Topic Area 13: Sports
- 第 15 回 Final Listening Quiz, Reflection on Course and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. All assignments will re-enforce the points covered in class. Students will receive ongoing formative feedback during in-class listening activities. Students will also be encouraged to record personal weaknesses in homework listening, then address those issues in class.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, loose leaf paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

The final grade will be determined as follows:

Homework, Classwork 30%

Tests and Quizzes 30%

Oral Exams 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

This course will be a blended course in the Fall of 2020. This means that some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Please check the Course news and assignments on Manaba each week for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening II E

EGB1352E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3 : 言語力

45

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This term, students will develop their oral communication skills. Listening and understanding the naturally spoken English of the teacher and peers is the main goal. We will practice listening for gist and details. We will study characteristics of spoken English such as 'linking sounds', 'weak vowels', 'sentence stress' and 'blended sounds'. An awareness of these features of spoken English will help students tackle authentic listening tasks outside of the classroom. The students will continue keeping a listening journal, documenting their progress, weaknesses and strengths of their listening skill.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of this course, students will:

- 1) more successfully communicate meaning to their peers

- 2) have practiced and improved their understanding of naturally spoken English
- 3) have an understanding of the features of naturally spoken English
- 4) be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks
- 5) be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome back from summer vacation!
ON CAMPUS: Introduction to the course; Textbook orientation; Negotiation of class format; Community building activities.
- 第 2 回 Unit 1: What's your name?
The course will follow this loose format:
1) Speaking activities in the classroom 1-2 times a month
2) Focused listening activities from the textbook for homework (Manaba submission)
3) Listening Journal homework as usual (Manaba submission)
- 第 3 回 Unit 1: What's your name?
- 第 4 回 Unit 2: I love fashion!
- 第 5 回 Unit 2: I love fashion!
- 第 6 回 Unit 3: How do you stay healthy?
- 第 7 回 Unit 3: How do you stay healthy?
- 第 8 回 Unit 4: How do I get there?
- 第 9 回 Unit 4: How do I get there?
- 第 10 回 Unit 5: What's that?
- 第 11 回 Unit 5: What's that?
- 第 12 回 Unit 6: What's your dream?
- 第 13 回 Unit 6: What's your dream?
- 第 14 回 Interview test
Depending on the effects of the Coronavirus, we will hold these interviews in the classroom or on Zoom. I will tell you details later.

第 15 回 Final reflections on learning/ goal setting for year 2
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

There is no final exam.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students are expected to actively participate in the classroom/ online, show effort, and complete the assigned homework. We will be using the textbook this term.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to actively participate both in the classroom and online AND diligently practice and reflect on their listening experiences outside of class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Manaba Assignments: 30%

Listening Journal: 30%

Interview: 20%

Quizlet: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

English Firsthand Success (5th edition) / Helgesen, M; Wiltshire, J., Brown, S. / Pearson Education South Asia Pte Ltd / 2018 / ISBN 9789813130210

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

前期と同じ

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Persuasive Communication

EGE3402N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次 4年次

2単位 後期

金曜1限

DP4: 思考・解決力

60

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will mainly survey different theories in the field of persuasion/social influence. The main goal of the course is to

facilitate students' understanding of and ability to evaluate persuasive communication (social campaign, media advertisement, interpersonal communication, etc.).

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

By the end of the course, students should know:

(1) How to interpret, understand, and evaluate persuasive messages

(2) How to plan and develop their own persuasive communication

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 Orientation / Introduction to Persuasion
 - 第 2 回 On Comm Skill / Persuasion & Attitude
 - 第 3 回 Persuasion and Attitude
 - 第 4 回 Theory of Reasoned Action
 - 第 5 回 Cognitive Dissonance Theory
 - 第 6 回 Elaboration Likelihood Model
 - 第 7 回 Review & Midterm Exam
 - 第 8 回 Group Project Orientation / Research Methods (1): Survey Research
 - 第 9 回 Research Methods (2): Scale Development
 - 第 10 回 Message Factor (1): Compliance Gaining Strategies
 - 第 11 回 Message Factor (2): Fear Appeal
 - 第 12 回 Covert Communication (1): Deception in Advertisement
 - 第 13 回 Covert Communication (2): Pragmatics Theory of Deception
 - 第 14 回 Group Project Presentation Day 1: Groups 1, 2, & 3
 - 第 15 回 Group Project Presentation Day 2: Groups 4 & 5
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

Homework Assignments & Participation: There will be several homework assignments during the term. Each assignment will be worth 20~25pts and will be due at the beginning of the next class period. You must TYPE your answers (unless told otherwise) and submit them in class. You also need to

contribute to class discussion.

Group Project: As a group, you will develop a persuasive message (or campaign) which attempts to persuade a real target (e.g., students at KNDU, college students in general, etc.). In this assignment, you will (a) observe your targets' attitude before you develop a message, (b) develop a persuasive message, and (c) measure your targets' attitude change. As always, your persuasive message should reflect your knowledge of "effective" persuasion. Further instructions will be given in class as the semester goes on.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

The students are expected to read the assigned reading materials and be fully ready for discussions in class.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

45

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

(1) Quizzes: 40% (including the Midterm Exam)

(2) Group Project 30%

(3) Final Paper: 30%

[留意事項 (Other Information)]

This course will be a "blended" course in the Fall of 2020. We will be meeting in class for some weeks, but some classes will be asynchronous (manaba assignments etc.). Carefully follow the instructor's instruction at Manaba, and make sure to check the the Course News every week.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

0

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『Persuasive Communication, 3rd ed』 /Stiff., J. B., & Mongeau, P. A./Guilford Publication/2016/1462526845

[参考URL(URL for Reference)]

0

[実務経験のある教員による実践的科目]

0

Popular Culture

EGE2201N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

Gretchen Clark

[科目の教育目標 (Course Description)]

In this course, students will learn about various current and past popular culture trends in television, cinema, music,

fashion, sports, social media and more. Classroom activities will include short-mini lectures about international trends and opportunities for students to introduce and talk about their own interests. We will also discuss how societal values might shape popular culture. The course will conclude with a final project in which students will research and present on a past or current trend in another country.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will:

- 1) be familiar with various aspects of popular culture from around the world
- 2) be able to speak about various popular trends with their classmates
- 3) developed some skill in critically analyzing how a particular trend reflects values of current society

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction: From street to tweet. An introduction to pop culture
- 第 2 回 Section 1: Social media (The rise of Facebook)
- 第 3 回 Section 1: Social media (Instagram, Twitter, SnapChat etc.)
- 第 4 回 Section 2: Entertainment: Music (Beyonce, Taylor Swift, Ani DiFranco etc.)
- 第 5 回 Section 2: Entertainment: 'Reality' TV/Movies (Survivor, The Amazing Race, Project Runway, The Blair Witch Project etc.)
- 第 6 回 Section 2: Entertainment: Animation (Kiki's Delivery Service, Frozen etc.)
- 第 7 回 Section 2: Entertainment: Celebrity change makers (Lady Gaga, Emma Watson, Awkwafina etc.)
- 第 8 回 Section 3: Lifestyle: Wellness (Oprah Winfrey, Rupy Ajula, Kayla Itsines etc.)
- 第 9 回 Section 3: Lifestyle: Minimalism (Muji, Marie Kondo, Joshua Becker etc.)
- 第 10 回 Section 4: Fashion: Fast fashion (Uniqlo, Zara etc.)
- 第 11 回 Section 4: Fashion: Magazines and advertising (Seventeen, Sassy and Riot Grrls etc)

第 12 回 Project work

第 13 回 Project work

第 14 回 Project work

第 15 回 Final Presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. Students will be expected to be attentive during lectures, and to be actively involved in class discussions. Regular course work will be completed individually, in pairs, and in small group format.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. Students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active Participation: 30%

Quizzes: 20%

Other speaking and writing activities (homework, reflections on lectures etc.): 20%

Final Project: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook required. Students will be given materials needed by the instructor.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

Public Speaking

EGE2302N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 4限

DP3 : 言語力

60

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course develops public speaking skills in English. The goal is for students to be able to speak in public in a variety of

situations. In particular, the course focuses on using academic presentation software to describe pictures, data, statistics, and charts. Students also participate in topical and issue-based speaking, as well as personal stories and first-person narratives.

The course provides good preparation and confidence for customer-facing careers, as well as providing confidence to students who will study abroad using English.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) Master a variety of short speech styles such as describing a place or area, teaching about a festival or event, or introducing a visiting guest to our university.

(2) Develop and practice academic presentations based on topics discussed in class.

(3) Carry out focused research in English using the Internet to collect statistics, charts, and other information necessary to make a presentation.

(4) Improve and learn computer skills related to constructing visual aids for presentations.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

- 第 1 回 **CLASSROOM**
Introduction to 'Public Speaking'
- 第 2 回 **ONLINE**
Memorising
- 第 3 回 **ONLINE**
Body: posture, hand position
- 第 4 回 **ONLINE**
Body: gestures, pauses
- 第 5 回 **ONLINE**
Body: voice projection, eye contact
- 第 6 回 **CLASSROOM**
Presentations
- 第 7 回 **ONLINE**
Content: make the audience care, use speaking words
- 第 8 回 **ONLINE**
Content: use stories, phrasing
- 第 9 回 **ONLINE**
Content: volume, dialogue voice
- 第 10 回 **ONLINE**
Content: voice variation, pauses for effect
- 第 11 回 **CLASSROOM**
Presentations
- 第 12 回 **ONLINE**

PowerPoint: design principles

第 13 回 **ONLINE**

PowerPoint: adding content

第 14 回 **ONLINE**

PowerPoint: delivery

第 15 回 **CLASSROOM**

Presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

The course uses a blended approach. Some classes are online, some classes are face to face. Please check Manaba regularly for any changes to the schedule.

Some of the issues and topics for units in this course will be decided in advance. However, students are expected to choose and develop their own subjects and topics of interest from current events, global, and regional issues. This will require independent and lateral thinking skills. We will research and view authentic websites about the topics studied.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, homework, and other work. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should prepare for each class as directed by the teacher.

Students will need preparation and practice for a variety of short speaking presentations. The public speaking that we do in class will rarely be longer than 5 minutes per student. However, although this is short students must realise that it takes a long time to practice by themselves to become good at public speaking.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

60% presentation - speeches (x2)

40% presentation - PowerPoint

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

お知らせが締め切り直前となりましたが、よろしくお願ひします。

The schedule is flexible, especially depending on the coronavirus situation.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

Students must wear a mask in class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Reading I A 2013年度以降入学者

EGB1300A0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 1年次
 2単位 前期
 火曜1限
 DP3 : 言語力
 60
 必修 クラス指定
 York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will also increase their receptive and productive vocabulary.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details, as well as pair and group discussions on reading content. Other activities will include scanning and skimming activities and comprehension tasks to identify main ideas and supporting details. In addition, students will develop their receptive and productive vocabulary through lexical analysis activities. Students will also discuss and present their own ideas on the readings

regularly throughout the course.

Students will also be expected to do extensive reading outside of the class on a regular basis. This requires students to select and read graded readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Reading Expectations: 1) Can read at 120 WPM; 2) Has reached Extensive Reading Goal; 3) Can score TOEIC 200 in Reading; 4) Can understand the main ideas; 5) Can find reasons and examples; 6) Can express the meaning of written discourse;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction
- 第 2 回 Predicting
- 第 3 回 Scanning
- 第 4 回 Reading for Details?
- 第 5 回 Identifying Parts of Speech?
- 第 6 回 Using Subheadings to Predict Content?
- 第 7 回 Fluency Practice
- 第 8 回 Establishing Context
- 第 9 回 Finding Supporting Ideas
- 第 10 回 Interpreting Tables and Graphs
- 第 11 回 Identifying Steps in a Sequence
- 第 12 回 Understanding a Chronology
- 第 13 回 Identifying Events in a Narrative
- 第 14 回 Recognizing Synonyms
- 第 15 回 Fluency Practice
Final Reports

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for every class in order to participate actively. Preparation includes reading assignments, written work, and other tasks.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom Participation: 30%

Homework Assignments: 30%

Quizzes: 20%

Extensive Reading (M-Reader Quizzes): 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Reading I B 2013年度以降入学者

EGB1300B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

火曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

尾崎 裕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

平易な英語で書かれた様々なトピックに関する英文を読み、文章構造の確認や要約作成などをおこないながら、情報を正確に読み取る力を習得することを目指す。また、語彙力の強化と文法事項の復習をとおして、大学での学びに必要な英語力の基礎を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①英文読解に必要な基本的な語彙と文法を身につける。

②文の構造を理解し、正確に英文を読むことができる。

③英語を逐一訳すことなく、ある程度スムーズに読むことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction : 授業の概要、評価方法、予習の仕方などの説明

第 2 回 Unit 1: Our Aging Society

第 3 回 Unit 1: Our Aging Society

第 4 回 Unit 2: Holiday Memories

第 5 回 Unit 2: Holiday Memories

第 6 回 Unit 3: Sport

第 7 回 Unit 3: Sport

第 8 回 まとめテスト&解説

第 9 回 Unit 4: Foreign Workers

第 10 回 Unit 4: Foreign Workers

第 11 回 Unit 8: Weather and Global Warming

第 12 回 Unit 8: Weather and Global Warming

第 13 回 Unit 9: Recycling

第 14 回 Unit 9: Recycling

第 15 回 まとめテスト&解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストの英文で用いられている重要な英語表現や文法事項を確認し、本文に関する様々なタスクをこなすことで内容の理解を深める。さらに、簡単な作文問題をとおして英語表現の定着をはかる。適宜、ペアやグループでの活動も取り入れる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指定された範囲の予習をしてきてください。詳しくは開講時に指示します。

また、新しいUnitに入るごとに単語テストを実施する予定なので準備しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内での取り組みの積極性、予習・復習の度合い: 40%

まとめテスト (2回) : 50%

単語テスト : 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進度や扱うUnitはクラスの状態に応じて変更になる可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『English Indicator 2 (Pre-Intermediate)』 Terry O'Brien著 南雲堂、2017年。ISBN:9784523178323 学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Reading I C 2013年度以降入学者

EGB1300C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

火曜1限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Over the semester students will read an academic text, and engage in discussions based on the content they have read. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will also increase their receptive and productive vocabulary. The main text will be supplemented with targeted reading instruction in order to develop understanding of various types of text.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details, as well as pair and group discussions on reading content. Other activities will include scanning and skimming activities and comprehension tasks to identify main ideas and supporting details. In addition, students will develop their receptive and productive vocabulary through lexical analysis activities. Students will also discuss and present their own ideas on the text regularly throughout the course.

Students will also be expected to do extensive reading outside of the class on a regular basis. This requires students to select and read grader readers that suit their own interests and

abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Reading Expectations: 1) Can read at 120 WPM; 2) Has reached Extensive Reading Goal; 3) Can score TOEIC 200 in Reading; 4) Can understand the main ideas; 5) Can find reasons and examples; 6) Can express the meaning of written discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction and Explanation of the Reading I A Course with Requirements and Expectations.

第 2 回 Approaching an Academic Text/Prereading and Vocabulary for Topic 1

第 3 回 Topic 1: "Why Are People Bilingual?"

- 第 4 回 Prereading and Vocabulary for Topic 2
- 第 5 回 Topic 2: "Describing Bilinguals"
- 第 6 回 Prereading and Vocabulary for Topic 3
- 第 7 回 Topic 3: "The Functions of Languages"
- 第 8 回 Prereading and Vocabulary for Topic 4
- 第 9 回 Topic 4: "Code-Switching and Borrowing"
- 第 10 回 Prereading and Vocabulary for Topic 5
- 第 11 回 Topic 5: "Having an Accent in a Language"
- 第 12 回 Prereading and Vocabulary for Topic 6
- 第 13 回 Topic 6: "Languages Across the Lifespan"
- 第 14 回 Preparation for Final Assignment
- 第 15 回 Reflection & Feedback, Preparation for Final Report

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施する

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students will be required to prepare for classes by completing the assigned readings and any other tasks prior to attending.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

45

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Classroom Participation: 30%

Homework Assignments: 30%

M-Reader: 20%

Final report: 20%

[留意事項 (Other Information)]

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class. This course will be conducted online through asynchronous Manaba assignments. Be sure to check Course News and assignments on Manaba each week for specific instructions.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

No text required. Students will be provided with materials in class.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Reading I D 2013年度以降入学者

EGB1300DOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

火曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

木島 菜菜子

[科目の教育目標 (Course Description)]

The readings and assignments in this class will cover a variety of topics and reading skills. Reading skills will be taught to promote fluency and accuracy. These skills will hopefully lead to success in the reading of academic texts.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

The aim of this course is to help students develop reading skills that will be useful in their further academic studies.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 イントロダクション
授業の進め方と求められる受講態度、予習復習の進め方、評価について
- 第 2 回 Unit 1
"Welcome to Britain" (1)
- 第 3 回 Unit 1
"Welcome to Britain" (2), Quiz
- 第 4 回 Unit 2
"London (1)"
- 第 5 回 Unit 2
"London (1)" (2), Quiz
- 第 6 回 Unit 3
"London (2)"
- 第 7 回 Unit 3
"London (2)" (2), Quiz
- 第 8 回 Unit 4

- ”London (3)”
 第 9 回 Unit 4
 ”London (3)” (2), Quiz
 第 10 回 Unit 5
 ”In the Heart of England”
 第 11 回 Unit 5
 ”In the Heart of England” (2), Quiz
 第 12 回 Unit 6
 ”Manchester”
 第 13 回 Unit 6
 ”Manchester” (2), Quiz
 第 14 回 Unit 7
 ”York and Haworth”
 第 15 回 Unit 7
 ”York and Haworth” (2), Quiz

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will complete all in-class tasks and homework assignments on time. These tasks and assignments may be done individually, in pairs or in small groups. Each of these tasks and assignments will re-enforce the reading skills that the students are developing.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to come to class with homework completed.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the successful completion of class activities (30%), homework assignments (20%), Extensive Reading (M-Reader Quizzes) (20%) and quizzes (30%).

〔留意事項 (Other Information)〕

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Each of the reading skills will be introduced, practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class.

必ず予習をすること。辞書を持参すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Passport to Britain』 Mark Jewel / Asahi Press / 2010 / 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Reading I E

EGB1300E0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

火曜1限

DP3 : 言語力

90

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will also increase their receptive and productive vocabulary.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details. Students will increase their vocabulary from study of GSL and TOEIC lists. Students will demonstrate their understanding of course texts through written and oral work. Students will improve reading speed and fluency through timed and extensive reading, as well as develop their ability to read intensively for understanding of academic concepts.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力1) Can read at 120 WPM; 2) Has reached Extensive Reading Goal; 3) Can score TOEIC 200 in Reading; 4) Can understand the main ideas of texts; 5) Can find reasons and examples; 6) Can express the	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

meaning of written discourse				
------------------------------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction
- 第 2 回 Topic 1: Family: introduction and text preview
- 第 3 回 Topic 1: Family: intensive reading
- 第 4 回 Topic 1: Family: expansion
- 第 5 回 Topic 2: Education: introduction and text preview
- 第 6 回 Topic 2: Education: intensive reading
- 第 7 回 Topic 2: Education: expansion
- 第 8 回 Midterm review
- 第 9 回 Topic 3: Health & stress: introduction and text preview
- 第 10 回 Topic 3: Health & stress: intensive reading
- 第 11 回 Topic 3: Health & stress: expansion
- 第 12 回 Topic 4: Culture: introduction and text preview
- 第 13 回 Topic 4: Culture: intensive reading
- 第 14 回 Topic 4: Culture: expansion
- 第 15 回 Course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

No final exam

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop vocabulary and knowledge of grammar and text construction through reading-based tasks. Students will receive written and oral feedback on their assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for every class in order to participate actively.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom participation 20%

Written work 20%

Homework 20%

Quizzes 20%

Extensive Reading (M-Reader Quizzes) 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

This course will not use a textbook. Handouts will be provided by instructor.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Reading II A 2013年度以降入学者

EGB1350A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will increase their receptive and productive vocabulary.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details, as well as pair and group discussions on reading content. Other activities will include scanning and skimming activities and comprehension tasks to identify main ideas and supporting details. In addition, students will develop their receptive and productive vocabulary through lexical analysis activities. Students will also discuss and present their own ideas on the readings regularly throughout the course.

Students will also be expected to do extensive reading outside of the class on a regular basis. This requires students to select and read graded readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Reading Expectations: 1) Can read at 120 WPM; 2) Has reached Extensive Reading Goal; 3) Can score TOEIC 200 in	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations

Reading: 4) Can understand the main ideas; 5) Can find reasons and examples; 6) Can express the meaning of written discourse;				
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction
- 第 2 回 Skimming for Main Ideas
- 第 3 回 Identifying Supporting Details
- 第 4 回 Identifying Transition Words
- 第 5 回 Making Inferences
- 第 6 回 Scanning for Details
- 第 7 回 Fluency Practice
- 第 8 回 Making Predictions
- 第 9 回 Recognizing Connections
- 第 10 回 Guessing Meaning from Context
- 第 11 回 Identifying the Target Audience
- 第 12 回 Understanding Pronoun Reference
- 第 13 回 Taking Notes
- 第 14 回 Evaluating Source Reliability
- 第 15 回 Fluency Practice
- Final Reports

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for every class in order to participate actively. Preparation includes reading assignments, written work, and other tasks.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom Participation: 30%

Homework Assignments: 30%

Quizzes: 20%

Extensive Reading (M-Reader Quizzes): 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the

class.

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

This course will be a blended course in the fall of 2020. This means some classes will be face-to-face and some classes will be asynchronous (manaba assignments). Therefore, you must look carefully on manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Reading II B 2013年度以降入学者

EGB1350B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

尾崎 裕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

平易な英語で書かれた様々なトピックに関する英文を読み、文章構造の確認や要約作成などをおこないながら、情報を正確に読み取る力を習得することを目指す。また、語彙力の強化と文法事項の復習をとおして、大学での学びに必要な英語力の基礎を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①英文読解に必要な基本的な語彙と文法を身につける。
- ②文の構造を理解し、正確に英文を読むことができる。
- ③英語を逐一訳すことなく、ある程度スムーズに読むことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction (※対面)
授業の概要や進め方、評価方法などの説明
- 第 2 回 Unit 10: Commuting
- 第 3 回 Unit 10: Commuting & 単語クイズ
- 第 4 回 Unit 11: Crumbling Britain
- 第 5 回 Unit 11: Crumbling Britain & 単語クイズ
- 第 6 回 Unit 12: Advertising
- 第 7 回 Unit 12: Advertising & 単語クイズ
- 第 8 回 復習テスト&解説 (※対面)
- 第 9 回 Unit 13: Technology and Us
- 第 10 回 Unit 13: Technology and Us & 単語クイズ
- 第 11 回 Unit 14: Cars
- 第 12 回 Unit 14: Cars & 単語クイズ
- 第 13 回 Unit 15: Our Education
- 第 14 回 Unit 15: Our Education & 単語クイズ
- 第 15 回 復習テスト&解説 (※対面)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストの英文で用いられている重要な英語表現や文法事項を確認し、本文に関する様々なタスクをこなすことで内容の理解を深める。さらに、簡単な作文問題をとおして英語表現の定着をはかる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ほとんどの課題をmanabaを通して提出してもらう形になりますので、期限に間に合うように学習を進めてください。準備よりも復習に力をいれるようにし、わからない箇所はそのままにせずに積極的に質問するようにしてください。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

テキストの課題への取り組みとその成績: 40%

単語クイズ (6回) : 20%

復習テスト (2回) : 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

初回Introductionと2回の復習テストに関しては、教室で実施することにします。

テキストの課題や単語クイズについてはmanaba上で解答してもらう予定ですので、指定された期限内に提出するようにしてください。(2限目に対面授業を受講している方もいると思われるので、1限目の授業時間内に解答時間を制限してmanaba上で小テスト等をおこなうことはありません。)

※上記は9月10日時点での予定です。授業の実施方法について変更が生じる場合は、manabaのコースニュース上で事前にお知らせします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『English Indicator 2 (Pre-Intermediate)』 Terry O'Brien著 南雲堂、2017年。ISBN:9784523178323 学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Reading II C 2013年度以降入学者

EGB1350C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is a continuation of Reading 1. The aim of this course is for students to continue developing the skills and strategies that are involved in the reading process through engagement with several types of text.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details, as well as pair and group discussions on reading content. Other activities will include scanning and skimming activities and comprehension tasks to identify main ideas and supporting details. In addition, students will develop their receptive and productive vocabulary through lexical analysis activities. Students will also discuss and present their own ideas on the text regularly throughout the course.

Students will also be expected to do extensive reading outside of the class on a regular basis. This requires students to select and read grader readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Reading Expectations: 1) Can read at 120 WPM; 2) Has reached Extensive	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Reading Goal; 3) Can score TOEIC 200 in Reading; 4) Can understand the main ideas; 5) Can find reasons and examples; 6) Can express the meaning of written discourse				
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction
 - 第 2 回 Skimming for Main Ideas
 - 第 3 回 Identifying Supporting Details
 - 第 4 回 Identifying Transition Words
 - 第 5 回 Making Inferences
 - 第 6 回 Scanning for Details
 - 第 7 回 Fluency Practice
 - 第 8 回 Making Predictions
 - 第 9 回 Recognizing Connections
 - 第 10 回 Guessing Meaning from Context
 - 第 11 回 Identifying the Target Audience
 - 第 12 回 Understanding Pronoun Reference
 - 第 13 回 Taking Notes
 - 第 14 回 Evaluating Source Reliability
 - 第 15 回 Fluency Practice
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will be required to prepare for classes by completing the assigned readings and any other tasks prior to attending.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 40%

Written Reflections: 40%

M-Reader: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

This course will be conducted online through asynchronous Manaba assignments. Be sure to check Course News and assignments on Manaba each week for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Reading II D 2013年度以降入学者

EGB1350DOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

火曜 1限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

木島 菜葉子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The readings and assignments in this class will cover a variety of topics and reading skills. Reading skills will be taught to promote fluency and accuracy. These skills will hopefully lead

to success in the reading of academic texts. In this course, students will further develop the skills introduced, practiced and developed in Reading I C.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course to help students develop reading skills that will be useful in their further academic studies.

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction, Unit 1 (Face to Face)
 -Unit 1 Reading and Exercises
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 2 回 Unit 2 (Online)
 -Unit 2 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 3 回 Unit 3 (Online)
 -Unit 3 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 4 回 Unit 4 (Online)
 -Unit 4 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 5 回 Unit 5 (Face to Face)
 -Unit 5 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 6 回 Unit 6 (Online)
 -Unit 6 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 7 回 Unit 7 (Online)
 -Unit 7 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 8 回 Unit 8 (Online)

- Unit 8 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 9 回 Unit 9 (Face to Face)
 -Unit 9 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 10 回 Unit 10 (Online)
 -Unit 10 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 11 回 Unit 11 (Online)
 -Unit 11 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 12 回 Unit 12 (Online)
 -Unit 12 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 13 回 Unit 13 (Face to Face)
 -Unit 13 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 14 回 Unit 14 (Online)
 -Unit 14 Reading and Exercises, Summary
 -Quiz
 -Extensive Reading
- 第 15 回 Review (Online)
 #NAME?

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本コースは、対面と、Manabaを使用したオンラインのブレンド型授業です。オンラインでは主に、Manabaでのレポート提出と小テストを行い、提出したレポートについて、個別のフィードバックを受けます。対面授業時には、授業計画に沿って、授業で扱われる範囲を予習して授業に参加してください。また、オンラインでの学習時に出た質問などを聞くようにしてください。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

辞書を使って授業で扱われる範囲を読んでおくこと。わからない単語は調べておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments 35%

Quizzes 28%

Extensive Reading assignments 35%

Last Reflection 2%

〔留意事項 (Other Information)〕

感染拡大状況の悪化による対面授業の中止を含め、授業計画は、受講生の課題への取り組みの進捗などに応じて変更

することがあります。変更点は原則として1週間前までにManabaのコースニュースで掲示しますので、毎週必ずManabaをチェックしてください。

対面授業には必ず辞書を持参してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Passport to Britain』 / Mark Jewel / Asahi Press / 2010 / 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Reading II E

EGB1350E0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP3：言語力

90

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will also increase their receptive and productive vocabulary.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details. Students will increase their vocabulary from study of GSL and TOEIC lists. Students will demonstrate their understanding of course texts through written and oral work. Students will improve reading speed and fluency through timed and extensive reading, as well as develop their ability to read intensively for understanding of academic concepts.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力1) Can read at 120 WPM; 2) Has reached Extensive Reading Goal; 3) Can score TOEIC 200 in Reading; 4) Can understand the main ideas; 5) Can find reasons and examples; 6) Can express the meaning of written discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction
- 第 2 回 Topic 1: Motivation: introduction & text preview
- 第 3 回 Topic 1: Motivation: intensive reading
- 第 4 回 Topic 1: Motivation: expansion
- 第 5 回 Topic 2: Human relationships: introduction & text preview
- 第 6 回 Topic 2: Human Relationships: intensive reading
- 第 7 回 Topic 2: Human Relationships: expansion
- 第 8 回 Midterm review
- 第 9 回 Topic 3: Media: introduction & text preview
- 第 10 回 Topic 3: Media: intensive reading
- 第 11 回 Topic 3: Media: expansion
- 第 12 回 Topic 4: Technology: introduction & text preview
- 第 13 回 Topic 4: Technology: intensive reading
- 第 14 回 Topic 4: Technology: expansion
- 第 15 回 Course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

There is no final exam for this course.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This class will be conducted entirely in English. We will use both online and face to face instruction. Most materials, activities, and assignments will be conducted through MANABA. This class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback and focused instruction. Students will receive oral and written feedback on their work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for every class in order to participate actively.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation 10%

Written work 25%

Homework 25%

Quizzes 20%

Extensive Reading (M-Reader Quizzes) 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class. Students will receive written and oral feedback on their assignments.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

This course will not use a textbook. Handouts will be provided by instructor.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking I A

EGB1303A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

月曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In this course, students will develop their oral English communication skills. Students will have lots of opportunities to speak both with each other and also with the teacher. The course will focus mainly on fluency, but students will also practice pronunciation, intonation and rhythm through conversations and discussions about not only everyday topics but also current social issues introduced in the text. Main assessed speaking tasks include role plays, in-class recordings, and a final interview. Students will practice communicating in English in a fun and lively classroom environment where making an effort is important. Enthusiasm in the classroom helps build confidence which is the foundation of successful communication. Let's do our best and have a great term!

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1) Feel comfortable discussing both everyday topics AND current social issues from at least 5 units of the textbook (U1-10; The class will choose five.)

2) Have an awareness of conversational and discussion strategies and useful phrases

3) Be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks

4) Be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Welcome to Speaking I

Introduction to the course, community building activities, decide which units to cover as a class

第 2 回 Get to know your classmates

Community building activities, goal setting

Target communication skill: Dealing with problems when speaking

第 3 回 Unit 1: The guy with green hair

Target communication skill: Using examples to explain / follow-up questions

第 4 回 Unit 1: The guy with green hair

Target communication Skill: Using examples to explain / follow-up questions

第 5 回 Unit 2: The shoplifter

Target communication skill: Reactions

第 6 回 Unit 2: The shoplifter

Target communication skill: Reactions

第 7 回 Unit 3: I'm not addicted!

Target communication skill:

第 8 回 Unit 3: I'm not addicted!

第 9 回 Unit 4: Social media star

第 10 回 Unit 4: Social media star

第 11 回 Unit 5: Who pays?

第 12 回 Unit 5: Who pays?

第 13 回 Preparation for the interview test

第 14 回 Interview test

第 15 回 Final reflections on learning

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

There is no final exam. Students will be assessed on their speaking ability periodically throughout the course.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students are expected to attend class every week, actively participate and show effort, and complete the assigned homework.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to prepare for their in-class speaking experiences by completing any homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the following:

Active participation: 30%

Recordings: 20%

Role plays: 20%

Interview test: 20%

Other speaking and writing activities: 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Impact Issues 1 (3rd edition) / Day, R., Shaules, J., Yamanaka, J. / Pearson Education South Asia Pterosaur's Ltd. / 2019 / ISBN 9789813134379

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

Speaking I B

EGB1303B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to communicate effectively in English. Students will also gain confidence in speaking as they produce volumes of spoken output and receive ongoing formative feedback.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Fluency, Accuracy, and Complexity in Speaking

第 2 回 Output, Output, and More Output, Fluency Activities

第 3 回 Classmate Interviews - Your English History, Fluency Activities

第 4 回 Classmate Interviews - Your Study System, Fluency Activities

第 5 回 The Hot Seat - Fluency & Speed

第 6 回 Narratives - Childhood Stories

第 7 回 Narratives - Favorites, Dreams, & Goals

第 8 回 Review Exercises of TTT

第 9 回 My Personality - Personality Surveys, Dictogloss

第 10 回 Describing - Japanese Culture

第 11 回 Describing - Japanese Pop Culture

第 12 回 Explaining - Best Things about Japan

- 第 13 回 Explaining - Worst Things about Japan
- 第 14 回 Final Presentations and Feedback (First half of class)
- 第 15 回 Final Presentations and Feedback (Second half of class)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will receive extensive and ongoing formative feedback during speaking activities in class. They will also receive feedback on the content and delivery of recorded speaking activities done for homework.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students will be evaluated based on efforts at improving their English in and out of class.

Class participation & Homework 40%

In class Tests 30%

Final Presentation 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Google Search, "How to Improve my Speaking"

For example,

<https://www.fluentu.com/blog/english/how-to-improve-spoken-english/>

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking I C

EGB1303C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力 Speaking Expectations: 1) Can speak 90 WPM (fluency); 2) Can display clear pronunciation, especially th, L/R, B/V, Shi/ See; 3) Can use grammar well (accuracy); 4) can attempt to use compound /complex sentences; 5) Can use more appropriate vocabulary (complexity); 6) Can use gestures and eye contact when speaking English	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	---------------------------------------------------------	----------------------------------

[授業計画]

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the Speaking I Course with Requirements and Expectations. General Introductions.
- 第 2 回 Making Small Talk; Making Eye Contact
- 第 3 回 Interviewing a Classmate
- 第 4 回 Giving a Presentation about Yourself
- 第 5 回 Using Listing Words; Closing a Presentation
- 第 6 回 Discussing Different Types of Jobs
- 第 7 回 Presenting Your Dream Job
- 第 8 回 Oral Fluency Workshop: Discourse Markers
- 第 9 回 Agreeing and Disagreeing; Presenting with Graphics
- 第 10 回 Planning a Vacation for Your Teacher
- 第 11 回 Presenting Class Survey Results
- 第 12 回 Giving Reasons; Getting People's Attention
- 第 13 回 Presenting a New Tech Device

第 14 回 Presenting a New App

第 15 回 Final Project Evaluations

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

The class will be conducted entirely in English and students will be expected to speak with other students on a regular basis in class. Students will spend most of the class time talking in English about text book topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups. Additionally, students will give oral presentations after each unit.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide oral commentary and corrections during communications activities. In addition, students will receive written evaluations after each presentation.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Participation & class attitude 30%, homework assignments 40%, Final Project 30%

[留意事項 (Other Information)]

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『Pathways: Foundations』/Becky Tarver Chase; Kristin L. Johannsen; Paul MacIntyre; Kathy Najafi; Cyndy Fettig/Cengage/National Geographic Learning/2018/978-1-33-756250-8/学内販売予定

Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions & speaking practice. The textbook will also be needed for homework due each week.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Speaking I D

EGB1303D0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 1年次
 1単位 前期
 月曜 2限
 DP3 : 言語力
 15
 必修 クラス指定
 Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives, as well as to discuss issues that are relevant to their lives as university students.

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

Speaking Expectations: 1) Can speak 90 WPM (fluency); 2) Can display clear pronunciation, especially th, L/R, B/V, Shi/See; 3) Can use grammar well (accuracy); 4) can attempt to use compound /complex sentences; 5) Can use more appropriate vocabulary (complexity); 6) Can use gestures and eye contact when speaking English	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

第 1 回

- Introduction and Explanation of the Speaking I Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Speaking about Yourself 1
Brainstorming & Drafting
 - 第 3 回 Topic Area 1: Speaking about Yourself 2
Finalizing Drafts & Practicing
 - 第 4 回 Topic Area 1: Speaking about Yourself 3
Presentations & Giving Feedback
 - 第 5 回 Topic Area 2: Speaking about Your Hobbies 1
Brainstorming & Drafting
 - 第 6 回 Topic Area 2: Speaking about Your Hobbies 2
Finalizing Drafts & Practicing
 - 第 7 回 Topic Area 2: Speaking about Your Hobbies 3
Presentations & Giving Feedback
 - 第 8 回 Poster Presentation 1: Drafting
 - 第 9 回 Poster Presentation 2: Preparing
 - 第 10 回 Poster Presentation 3: Practicing
 - 第 11 回 Poster Presentation 4: Presenting
 - 第 12 回 Topic Area 3: Speaking about Japan 1
Brainstorming & Drafting
 - 第 13 回 Topic Area 3: Speaking about Japan 2
Finalizing Drafts & Practicing
 - 第 14 回 Topic Area 3: Speaking about Japan
Presentations & Giving Feedback
 - 第 15 回 Final Oral Exam, Reflection on Course and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Students will be expected to participate in conversations and presentations.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to come to class with homework completed, writing and note-taking materials, and any other material that the teacher may have given to the students.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Homework and In-class Tasks: 30%

In-class Presentations: 30%

Oral Exams: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

This course will be a blended course in the Fall of 2020. This means that some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Please check the Course news and assignments on Manaba each week for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking I E

EGB1303E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

月曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to communicate effectively in English in academic and everyday situations. Students will also practice pronunciation and presentation skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will:

- (1) begin to speak English more confidently in a variety of situations such as conversation, small group discussions, and public speaking
- (2) be able to use English for simple classroom tasks such as greetings, requests, and asking questions
- (3) improve English speaking fluency
- (4) be able to speak at greater length in English on familiar topics, using examples and details
- (5) enlarge productive and receptive English vocabulary (GSL, TOEIC, AWL)
- (6) be able to extend interaction with peers in English

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力1) Can speak 90 WPM	Does not meet course	Meets some course	Meets most course	Exceeds most course expectation

(fluency); 2) Can display clear pronunciation; 3) Can use grammar well (accuracy); 4) can attempt to use compound /complex sentences; 5) Can use more appropriate vocabulary (complexity); 6) Can use gestures and eye contact when speaking English	expectations yet	expectations	s and excels on some criteria	expectations
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------	--------------	-------------------------------	--------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction
- 第 2 回 Topic 1: Family: topic introduction and vocabulary
- 第 3 回 Topic 1: Family: discussion
- 第 4 回 Topic 1: Family: mini presentation
- 第 5 回 Topic 2: Education: topic introduction and vocabulary
- 第 6 回 Topic 2: Education: discussion
- 第 7 回 Topic 2: Education: mini presentation
- 第 8 回 Midterm presentations
- 第 9 回 Topic 3: Health and Stress: topic introduction and vocabulary
- 第 10 回 Topic 3: Health and Stress: discussion
- 第 11 回 Topic 3: Health and Stress: mini presentation
- 第 12 回 Topic 4: Culture: topic introduction and vocabulary
- 第 13 回 Topic 4: Culture: discussion
- 第 14 回 Topic 4: Culture: mini-presentation
- 第 15 回 Final presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will receive oral and written feedback on all assignments. Active participation in all classroom activities is

required. These activities include conversations, discussions, and presentations.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the following:

Class Participation and homework: 40%

Larger spoken assignments: 40%

Vocabulary Quizzes: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook required. Students will be given materials needed by the instructor.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking II A

EGB1353A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

月曜2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The focus this term is for students to further develop their oral English communication skills. Students will have some opportunities to speak both with each other and also with the teacher in the classroom but also outside the classroom using the PC/mobile application, Flipgrid. The course will focus mainly on fluency, but students will also practice pronunciation, intonation and rhythm through conversations and **small group discussions** about not only everyday topics but also current social issues introduced in the text. We will focus on **looking at issues from many points of view and expressing our opinions to our peers**. Main assessed tasks

are: Flipgrid videos, recordings and textbook work completion.
Let's do our best and have a great term!
〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course students should,

- 1) Feel comfortable discussing both everyday topics AND current social issues from at least 5 units of the textbook
- 2) Have an ability to use conversational and discussion strategies and useful phrases
- 3) Be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks
- 4) Be proud of the work and effort you have given every class
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome back from summer vacation
ON CAMPUS: Discussion about Speaking II during COVID; Negotiation about course goals, preferred learning style, type of feedback from Gretchen etc. Instruction of how to download and use the application, Flipgrid. Please bring a mask and be ready to practice 3密.
- 第 2 回 Unit 11: Pet Peeve
For this unit and all future units, we will practice the conversational skills of: saying and supporting opinions, asking follow-up questions for clarification and getting more information, reacting to what is said etc.
- 第 3 回 Unit 11: Pet Peeve
- 第 4 回 Unit 12: Close your eyes and see
- 第 5 回 Unit 12: Close your eyes and see
- 第 6 回 Unit 13: Protecting our environment
- 第 7 回 Unit 13: Protecting our environment
- 第 8 回 Unit 14: Get a job!
- 第 9 回 Unit 14: Get a job!
- 第 10 回 Unit 15: To tell or not to tell
- 第 11 回 Unit 15: To tell or not to tell
- 第 12 回 Unit 16: Flight 77
- 第 13 回 Unit 16: Flight 77

第 14 回 Interview test

第 15 回 Final reflections on learning/ plans for year two
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

There is no final exam. Students will be assessed on their speaking ability periodically throughout the course.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students are expected to actively participate both in the classroom and online, show effort, and complete the assigned homework. This term, you will need a PC/mobile phone to use the application, Flipgrid.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to prepare for their in-class speaking experiences by completing any homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Textbook exercises: 20%

Thinking topics: 20%

Recordings/ Flipgrid videos: 40%

Interview test: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

前期と同じ Impact Issues 1 (3rd edition) / Day, R., Shaules, J., Yamanaka, J. / Pearson Education South Asia Pterosaur's Ltd. / 2019 / ISBN 9789813134379

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

Speaking II B

EGB1353B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

月曜 2限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to communicate effectively in English. Students will also gain confidence in speaking as they produce volumes of spoken output and receive ongoing formative feedback.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Focusing on Better Accuracy or More Complexity
- 第 2 回 Harvard Study - Happiness
- 第 3 回 Stanford Study - Mindsets
- 第 4 回 Research Studies - Sleep
- 第 5 回 Personality - Blood types
- 第 6 回 Online Trust Businesses - Kickstarter & Indiegogo
- 第 7 回 Online Trust Businesses - Tripadvisor, Airbnb
- 第 8 回 Individual Interviews and Goal Setting
- 第 9 回 Extended Discourse - Famous Women
- 第 10 回 Extended Discourse - Famous Men
- 第 11 回 Extended Discourse - Famous Things
- 第 12 回 Extended Discourse - Famous Places
- 第 13 回 Speaking Fluency Posttest WPM
- 第 14 回 Final Presentations
- 第 15 回 Evaluation, Feedback, and Goal Setting

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will receive extensive and ongoing formative feedback during speaking activities in class. They will also receive feedback on the content and delivery of recorded speaking activities done for homework.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students will be evaluated based on efforts at improving English in and out of class.

Class participation & Homework 40%

In class Tests 30%

Final Presentation 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Autumn of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Google Search, "How to Improve my Speaking"

For example,

<https://www.fluentu.com/blog/english/how-to-improve-spoken-english/>

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking II C

EGB1353C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

月曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives. Students will also learn additional oral fluency enhancement skills.

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力 Speaking Expectations: 1) Can speak 90 WPM (fluency); 2) Can display clear pronunciation, especially th, L/R, B/V, Shi/See; 3) Can use grammar well (accuracy); 4) can attempt to use compound /complex sentences; 5) Can use more appropriate vocabulary (complexity); 6) Can use gestures and eye contact when speaking English	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the Speaking II Course with Requirements and Expectations. General Introductions.
- 第 2 回 Giving Examples; Asking for Questions
- 第 3 回 Presenting a Personal Plan
- 第 4 回 Telling a Story
- 第 5 回 Giving Sources of Information; Using Photos for Emphasis and Effect
- 第 6 回 Presenting a Project Plan
- 第 7 回 Presenting a Project Using images
- 第 8 回 Mid-term Graded Oral Discussions
- 第 9 回 Saying Years Correctly; Body Language
- 第 10 回 Talking about Your Life
- 第 11 回 Presenting a Personal History
- 第 12 回 Expressing Opinions; Using Questions
- 第 13 回 Group Debates on Cloning

第 14 回 Group Presentation: DNA in the real World
 第 15 回 Final Project Evaluation / In-class Graded Discussions

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The class will be conducted entirely in English and students will be expected to speak with other students on a regular basis in class. Students will spend most of the class time talking in English about text book topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups. Additionally, students will give oral presentations after each unit.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide oral commentary and corrections during communications activities. In addition, students will receive written evaluations after each presentation.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation & class attitude 30%, homework assignments 20%, Graded Oral Discussions 20%, Final Project 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

This course will be a blended course in the fall of 2020. This means some classes will be face-to-face and some classes will be asynchronous (manaba assignments). Therefore, you must look carefully on manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Pathways: Foundations』/Becky Tarver Chase; Kristin L. Johanssen; Paul MacIntyre; Kathy Najafi; Cyndy Fettig/Cengage/National Geographic Learning/2018/978-1-33-756250-8/学内販売予定

Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions & speaking practice. The textbook will also be needed for homework.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking II D

EGB1353D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

月曜2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives, as well as to discuss issues that are relevant to their lives as university students.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Speaking Expectations: 1) Can speak 90 WPM (fluency); 2) Can display clear pronunciation, especially th, L/R, B/V, Shi/See; 3) Can use grammar well (accuracy); 4) can attempt to use compound/complex sentences; 5) Can use	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

more appropriate vocabulary (complexity); 6) Can use gestures and eye contact when speaking English				
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

[授業計画]

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the Speaking I Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Young People Today 1 Brainstorming & Drafting
- 第 3 回 Topic Area 1: Young People Today 2 Finalizing Drafts & Practicing
- 第 4 回 Topic Area 1: Young People Today 3 Presentations & Giving Feedback
- 第 5 回 Topic Area 2: Someone You Admire 1 Brainstorming & Drafting
- 第 6 回 Topic Area 2: Someone You Admire 2 Finalizing Drafts & Practicing
- 第 7 回 Topic Area 2: Someone You Admire 3 Presentations & Giving Feedback
- 第 8 回 Poster Presentation 1: Drafting
- 第 9 回 Poster Presentation 2: Preparing
- 第 10 回 Poster Presentation 3: Practicing
- 第 11 回 Poster Presentation 4: Presentation
- 第 12 回 Topic Area 3: Future Plans 1 Brainstorming & Drafting
- 第 13 回 Topic Area 3: Future Plans 2 Finalizing Drafts & Practicing
- 第 14 回 Topic Area 3: Future Plans 3 Presentations & Giving Feedback
- 第 15 回

Final Oral Exam, Reflection on Course and Feedback

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Students will be expected to participate in conversations and presentations.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to come to class with homework completed, writing and note-taking materials, and any other material that the teacher may have given to the students.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Homework and In-class Tasks: 30%

In-class Presentations: 30%

Oral Exams: 40%

[留意事項 (Other Information)]

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

This course will be a blended course in the Fall of 2020. This means that some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Please check the Course news and assignments on Manaba each week for specific instructions.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

No text required. Students will be provided with materials in class.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Speaking II E

EGB1353E0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 1年次
 1単位 後期
 月曜 2限
 DP3 : 言語力
 15
 必修 クラス指定
 Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed to communicate effectively in English in academic and everyday situations. Students will also practice pronunciation and presentation skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will:

- (1) begin to speak English more confidently in a variety of situations such as conversation, small group discussions, and public speaking
- (2) be able to use English for simple classroom tasks such as greetings, requests, and asking questions
- (3) improve English speaking fluency
- (4) be able to speak at greater length in English on familiar topics, using examples and details
- (5) enlarge productive and receptive English vocabulary (GSL, TOEIC, AWL)
- (6) be able to extend interaction with peers in English

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力1) Can speak 90 WPM (fluency); 2) Can display clear pronunciation; 3) Can use grammar well (accuracy); 4) can attempt to use compound /complex sentences; 5) Can use more appropriate vocabulary (complexity); 6) Can use gestures and eye contact when speaking English	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction and goal setting
- 第 2 回 Topic 1: Motivation: introduction and vocabulary
- 第 3 回 Topic 1: Motivation: discussion
- 第 4 回 Topic 1: Motivation: mini presentation
- 第 5 回 Topic 2: Human Relationships: introduction and vocabulary
- 第 6 回 Topic 2: Human Relationships: discussion
- 第 7 回 Topic 2: Human Relationships: mini presentation
- 第 8 回 Midterm presentations
- 第 9 回 Topic 3: Media: introduction and vocabulary
- 第 10 回 Topic 3: Media: discussion
- 第 11 回 Topic 3: Media: mini presentation
- 第 12 回 Topic 4: Technology: introduction and vocabulary
- 第 13 回 Topic 4: Technology: discussion
- 第 14 回 Topic 4: Technology: mini-presentations
- 第 15 回 Final presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This class will be conducted entirely in English. We will use both online and face to face instruction. Most materials,

activities, and assignments will be conducted through MANABA. This class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback and focused writing help. Students will receive written feedback on each draft of their written work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the following:

Class Participation and homework: 40%

Larger spoken assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook required. Students will be given materials needed by the instructor.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEFL I

EGB1306N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

木曜 4限

DP3 : 言語力

60

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The TOEFL is one of the two most widely used English exams around the world. This is the primary tool used by US universities and other academic institutions when assessing students English ability prior to acceptance. This course will not only cover strategies for TOEFL test-taking but will also aim to develop the linguistic skills (including, but not limited to, academic writing) that are necessary for study overseas.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

This course will familiarize students with the format of the TOEFL test. Students will learn strategies for categorizing and answering questions, effective time management, and knowledge of common vocabulary used in the TOEFL test.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	Does not make any individual effort	Makes effort when encouraged	Occasionally makes effort autonomously	Consistently displays an autonomous approach
言語力	Does not attempt to understand /express beyond prior ability	Struggles to understand /express beyond prior ability	Consistently attempts to understand /express beyond prior ability	Consistently attempts to understand /express beyond prior ability, and is proactive in seeking tools to develop this competence

〔授業計画〕

- 第 1 回 TOEFL Introduction & Diagnostic Test
- 第 2 回 Independent Speaking Part 1: TOEFL speaking and Basic Speaking Skills
- 第 3 回 Independent Speaking Part 2: TOEFL free-choice speaking
- 第 4 回 Independent Speaking Part 3: TOEFL paired-choice speaking
- 第 5 回 Independent Speaking Part 4: Speaking Assessment
- 第 6 回 Independent Writing Part 1: Understanding Essay Prompts/Making Plans
- 第 7 回 Independent Writing Part 2: Basic Essay Structure/Creating a Thesis Statement
- 第 8 回 Independent Writing Part 3: Developing Supporting Paragraphs
- 第 9 回 Independent Writing Part 4: Creating a Unified, Coherent Essay
- 第 10 回 Listening Part 1: Understanding the Gist
- 第 11 回 Listening Part 2: Understanding the Details
- 第 12 回 Listening Part 3: Understanding the Function
- 第 13 回 Listening Part 4: Understanding the Whole Text
- 第 14 回 Writing/Speaking Test and Strategies Instruction
- 第 15 回 Feedback & Reflection: Strategies for Self Study

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn grammar points and vocabulary, craft essays and practice listening tasks as well as speaking exercises in pairs and as a group. Students will also learn how to study at home for this test.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will take TOEFL practice tests as well as autonomous learning exercises in order to familiarize themselves with the test.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 30%

Homework: 30%

Tests and Quizzes: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

This course will be conducted online through asynchronous Manaba assignments. Be sure to check Course News and assignments on Manaba each week for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEFL II

EGB1356N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

木曜 4限

DP3 : 言語力

60

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The TOEFL is one of the two most widely used English exams around the world. This is the primary tool used by US universities and other academic

institutions when assessing students

English ability prior to acceptance. This course will not only cover strategies for TOEFL test-taking but will also aim to develop the linguistic skills (including, but not limited to, academic

writing) that are necessary for study overseas.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

This course will familiarize students the format of the TOEFL test. Students will learn strategies or categorizing and answering questions, effective time management, and knowledge of common vocabulary used in the TOEFL test.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	Does not make any individual effort	Makes effort when encouraged	Occasionally makes effort autonomously	Consistently displays an autonomous approach
言語力	Does not attempt to understand /express beyond prior ability	Struggles to understand /express beyond prior ability	Consistently attempts to understand /express beyond prior ability	Consistently attempts to understand /express beyond prior ability, and is proactive in seeking tools to develop this competence

〔授業計画〕

- 第 1 回 TOEFL Introduction & Diagnostic Test
- 第 2 回 Integrated Speaking Part 1: TOEFL Integrated Speaking, Speaking based on Given Information
- 第 3 回 Integrated Speaking Part 2: Reading, Listening, and Speaking (Campus Life)
- 第 4 回 Integrated Speaking Part 3: Reading, Listening, and Speaking (Academic Settings)
- 第 5 回 Integrated Speaking Part 4: Speaking Assessment
- 第 6 回 Integrated Writing Part 1: Understanding the reading/listening content
- 第 7 回 Integrated Writing Part 2: Developing the main points, Comparing and Contrasting
- 第 8 回 Integrated Writing Part 3: Planning a Response, Unifying the Main Points
- 第 9 回 Integrated Writing Part 4: Developing Thesis Statements and Conclusions from Source Material
- 第 10 回 Integrated Speaking Part 5: Writing Assessment
- 第 11 回 Integrated Speaking Part 5: Comparing and Contrasting
- 第 12 回 Integrated Speaking Part 6: Selecting Appropriate Information from Source Material

第 13 回 Integrated Speaking Part 7: Developing Concise Summaries

第 14 回 Integrated Speaking Part 8: Writing Assessment 2

第 15 回 Feedback & Reflection: Strategies for Future Study
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn grammar points and vocabulary, craft essays and practice listening tasks as well as speaking exercises in pairs and as a group. Students will also learn how to study at home for this test.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will take TOEFL practice tests as well as autonomous learning exercises in order to familiarize themselves with the test.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 30%

Homework: 30%

Tests and Quizzes: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

This course will be conducted online through asynchronous Manaba assignments. Be sure to check Course News and assignments on Manaba each week for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC I A

EGB1305A1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

金曜 4限

DP3 : 言語力

60

定員40人

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEIC is an international test evaluating practical English proficiency, and has been adopted in Japan to evaluate English-language communication abilities at many companies, government agencies, universities, etc. The goal of this course is to acquire strategies to improve grammar knowledge, vocabulary, listening and reading skills, and to achieve a high score in the TOEIC test.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

There are a number of objectives in this course:

1. Become familiar with the format, instructions and questions of the TOEIC test, and develop appropriate time management and efficient information processing ability when taking the test.
2. Acquire the vocabulary frequently used in the TOEIC test and significantly increase Receptive Vocabulary
3. Review the grammar that should be completed by the high school stage and strengthen the grammar and grammar as explicit knowledge
4. Learn basic English communication skills, not just English for the TOEIC test
5. Improve reading speed by acquiring skills that enable students to understand meanings in English word order instead of Japanese word order during reading
6. Effectively combine and use two processes for listening and speech word recognition (Bottom-up & Top-down Strategies) so that you can listen while predicting answers
7. Be able to score 600 points in the TOEIC test

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Listening Expectations: 1) Students will score TOEIC Listening 325; 2) Can understand the	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

listening section; 3) Can employ strategies to solve listening problems; 4) Can work ahead of the test				
言語力 Reading Expectations: 1) Students will score TOEIC Reading 275; 2) Can understand the reading section; 3) Can employ strategies to solve reading problems; 4) Can manage time restrictions	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

- Reading Test 2 - In-class Workshop Part 2
Quizlet 201-240
- 第 7 回 Midterm Test
Midterm Test
Reading & Vocabulary
Quizlet 241-280
- 第 8 回 Test 3
Reading Test 3 - In-class Workshop
Quizlet 281-320
- 第 9 回 Test 4
Reading Test 4 - In-class Workshop
Quizlet 321-360
- 第 10 回 Test 5
Reading Test 5 - In-class Workshop
Quizlet 361-400
- 第 11 回 Test 6
Reading Test 6 - In-class Workshop
Quizlet 401-440
- 第 12 回 Test 7
Reading Test 7 - In-class Workshop
Quizlet 441-480
- 第 13 回 Test 8
Reading Test 8 - In-class Workshop
Quizlet 481-520
- 第 14 回 Test 9
Reading Test 9 - In-class Workshop
Quizlet 521-560
- 第 15 回 Final Test
Final Test
Reading & Vocabulary
Quizlet 561-600

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

No

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. Understand the test and question types
2. Develop time management skills
3. Develop test-taking strategies
4. See every test mistake as an opportunity to learn something useful

Students will have a TOEIC midterm test and a TOEIC final test.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Pre-study vocabulary, do vocabulary writing, do post-study from previous lessons

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Midterm 25%, Final 25%, Class efforts 25%, Vocabulary quizzes 25%

[授業計画]

- 第 1 回 Introduction
Introduction - TOEIC test, learning methods and class goals
Quizlet 1-40
- 第 2 回 Vocabulary
Vocabulary studies - Quizlet (Active vs Passive Vocabulary)
Quizlet 41-80
- 第 3 回 Test 1.1
Reading Test 1 - In-class Workshop Part 1
Quizlet 81-120
- 第 4 回 Test 1.2
Reading Test 1 - In-class Workshop Part 2
Quizlet 121-160
- 第 5 回 Test 2.1
Reading Test 2 - In-class Workshop Part 1
Quizlet 161-200
- 第 6 回 Test 2.2

〔留意事項 (Other Information)〕

The TOEIC test is an excellent opportunity to see the relationship between EFFORTS and RESULTS. The more time you invest in good studying methods, the higher your points will be. There is NO LIMIT to how many points you can get in your first year. It all depends on your efforts and proper study methods.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

TOEIC(R) L&Rテスト YBM超実戦模試リーディング1000問 (Japanese) 単行本 (ソフトカバー) ?2018/6/13

Publisher: 朝日出版社 (June 13, 2018)

Language: 日本語

ISBN-10: 4255010641

ISBN-13: 978-4255010649

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

TOEICテスト公式サイト : <http://www.toEIC.or.jp/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC I B

EGB1305B1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

木曜 3限

DP3 : 言語力

60

定員40人

櫃本 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。多くの企業、官公庁、大学などで英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価できるテストとして採用されています。

文法知識、語彙力、リスニングやリーディングの能力を向上させ、TOEIC(R)解答のストラテジーを習得して、高得点を獲得することを目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. TOEIC(R)テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEIC(R)テストでよく使用される語彙を身につける
3. TOEIC(R)テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける
4. 400点~500点にスコアをのぼす

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
TOEICとは? Orientation
Part 1 現在進行、現在完了、受動態
- 第 2 回 Part 5、Part 2
Part 5 品詞問題、語彙問題
Part 2 基本的な疑問文と応答
- 第 3 回 Part 5、Part 2
Part 5 動詞の問題、語彙問題
Part 2 ひっかけを避ける方法と、難易度の高い問題への取り組み方
- 第 4 回 Part 1、Part 2、Part 5
Part 1, Part 2, Part 5 の実践問題
Part 1, Part 2, Part 5 小テスト
- 第 5 回 Part 3、Part 5
Part 5 接続詞
Part 3 問題文の種類と、意味の取りにくい問題文
- 第 6 回 Part 3、Part 5
Part 5 分詞
Part 3 問題文から聞き取りのポイントをおさえる、選択肢の語法に慣れる
- 第 7 回 Part 6、Part 3
Part 6 実用性のある文書の特徴をおさえる
Part 3 会話の状況を把握する
- 第 8 回 Part 6、Part 3
Part 6 パラグラフ、文脈でパッセージを読む
Part 3 会話の詳細な情報を聞き取る
- 第 9 回 Part 6、Part 3 の実践問題と小テスト
Part 3, Part 6 実践問題
Part 6, Part 3 小テスト
- 第 10 回 Part 7
Part 7 実用性のある文書の特徴をおさえる
- 第 11 回 Part 7、Part 4
Part 7 意味の取りにくい問題文、選択肢に慣れる
Part 4 トークの状況を把握する
- 第 12 回 Part 7、Part 4

Part 7、Part 4 実践問題

第 13 回 Part 7、Part 4 小テスト
Part 7、Part 4 実践問題
Part 7、Part 4 小テスト

第 14 回 Listening 模擬試験
Listening 模擬試験 と解説

第 15 回 Reading 模擬試験
Reading 模擬試験 と解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- TOEICの出題形式や意図を理解する。
- 解答ストラテジー (= 解法) のポイントをおさえ、使えるようにする。
- 本番と同じ問題を使ってTOEICの英語を段階的に習得する。
- TOEICに取り組むための基本的英語力をおさえる。
- TOEIC試験対策という目的を超えコミュニケーションのために使える英語の習得も目指す。
- 授業ではペアワーク、グループワーク、発表などを通じて発話しながら学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
予習よりも、指示された自宅での課題中心に学習してください。授業で学んだ箇所は、何度も音声で聞いて発音してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
小テスト 30%、
プリント課題 50%
授業中の模擬試験 20%、

〔留意事項 (Other Information)〕
初めてTOEICを受験する学生から400～500点をを目指す学生に適切なレベルのクラスです。
授業で使う課題用プリントは忘れず持参できるようファイルなどにまとめて管理してください。
授業の内容を理解するだけでなく、英語、または日本語での発話が必要になります
シラバスの内容、進度、小テストの回数などは進み具合で変わる可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 5 / TOEIC ETS / 国際ビジネスコミュニケーション協会 / 2019 / 978-4-906033-57-7/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

TOEIC I C

EGB1305C1E
大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
1年次
2単位 前期
水曜 4限
DP3 : 言語力
60
定員40人
岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEICとは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。世界150か国で実施されており、各国の様々な企業、学校、団体において、いろいろな用途・目的で幅広く採用されています。日本の企業でも、新入社員の英語能力測定、英語研修の効果測定、海外出張・昇進・昇格の要件として利用されています。本科目では、TOEICに必要な基礎的な英語力の習得・強化を目指し、スコアアップを目標とします。(目標スコアは400～500点)

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- TOEICの形式・指示・問題の傾向に慣れ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
- TOEICでよく使用される語彙や表現を身につける
- 基礎的な文法を復習する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション「TOEICとは」、Unit1 人物の動作と状態 (Part1)、表・用紙(Part7)
- 第 2 回 TOEICハーフテスト
- 第 3 回 Unit2 疑問詞を使った疑問文(Part2)、手紙・Eメール(Part7)
- 第 4 回 Unit3 日常場面での会話(Part3)、品詞(Part5)

- 第 5 回 Unit4 アナウンス・ツアー(Part4)、動詞(Part5)
- 第 6 回 Unit5 物の状態と位置(Part1)、チャット(Part7)
- 第 7 回 Unit6 基本構文(依頼/提案/申し出)と応答の決まり文句(Part2)、手紙・Eメール(Part7)
- 第 8 回 Unit7 電話での会話(Part3)、代名詞・関係代名詞(Part5)
- 第 9 回 Unit8 ラジオ放送・宣伝(Part4)、接続詞・前置詞(Part5)
- 第 10 回 Unit9 Yes/No疑問文(Part2)、ダブルパッセージ(2つの文書)(Part7)
- 第 11 回 Unit10 オフィスでの会話①(Part4)、Part5の復習(Part5)
- 第 12 回 Unit11 留守番電話(Part4)、トリプルパッセージ(3つの文書)(Part7)
- 第 13 回 Unit12 オフィスでの会話②(Part3)、Unit13 時制・代名詞・語彙問題
- 第 14 回 Unit14 トーク・スピーチ・会議の一部(Part4)、つなぎ言葉・文の挿入(Part6)
- 第 15 回 TOEICハーフテスト、解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストにそって、各パートごとの学習を行い、それぞれの出題形式を理解し、解答時のポイントをおさえます。毎回、リスニングとリーディングの両方の学習を実施、テキストでは頻出語句が取り上げられているので、聞き取り、書き取りはもちろん、音声を使ってリピーティングやシャドーウィングの学習を取り込みながら、TOEICの基本的な語彙や表現を身につけていきます。

授業での課題(テキスト問題、プリント学習、テスト)においては、実施後解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの予習(授業毎に指示します)
2. 語彙テストの勉強(毎回授業初めに単語テストを行います)

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度及び授業態度(予習・発表・発声)30%、小テスト50%(語彙テスト40%・暗記テスト20%)、TOEICハーフテスト20%で評価を行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業には必ず辞書を持参すること。携帯電話を利用した辞書は認めません。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] Target 500』/早川 幸治/桐原書店/2018年/978-4-342-55015-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC II A

EGB1355A1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜 4限

DP3: 言語力

60

定員40人

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEIC is an international test evaluating practical English proficiency, and has been adopted in Japan to evaluate English-language communication abilities at many companies, government agencies, universities, etc. The goal of this course is to acquire strategies to improve grammar knowledge, vocabulary, listening and reading skills, and to achieve a high score in the TOEIC test.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

There are a number of objectives in this course:

1. Become familiar with the format, instructions and questions of the TOEIC test, and develop appropriate time management and efficient information processing ability when taking the test.
2. Acquire the vocabulary frequently used in the TOEIC test and significantly increase Receptive Vocabulary
3. Review the grammar that should be completed by the high school stage and strengthen the grammar and grammar as explicit knowledge
4. Learn basic English communication skills, not just English for the TOEIC test
5. Improve reading speed by acquiring skills that enable students to understand meanings in English word order instead of Japanese word order during reading
6. Effectively combine and use two processes for listening and speech word recognition (Bottom-up & Top-down Strategies) so that you can listen while predicting answers
7. Be able to score 600 points in the TOEIC test

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Listening Expectations: 1) Students will score	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

TOEIC Listening 325; 2) Can understand the listening section; 3) Can employ strategies to solve listening problems; 4) Can work ahead of the test				
言語力 Reading Expectations: 1) Students will score TOEIC Reading 275; 2) Can understand the reading section; 3) Can employ strategies to solve reading problems; 4) Can manage time restrictions	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

- Listening Test 2 - In-class Workshop Part 1
Quizlet 761-800
- 第 6 回 Test 2.2
Listening Test 2 - In-class Workshop Part 2
Quizlet 801-840
- 第 7 回 Midterm Test
Midterm Test
Listening & Vocabulary
Quizlet 841-880
- 第 8 回 Test 3
Listening Test 3 - In-class Workshop
Quizlet 881-920
- 第 9 回 Test 4
Listening Test 4 - In-class Workshop
Quizlet 921-960
- 第 10 回 Test 5
Listening Test 5 - In-class Workshop
Quizlet 961-1000
- 第 11 回 Test 6
Listening Test 6 - In-class Workshop
Quizlet 1001-1040
- 第 12 回 Test 7
Listening Test 7 - In-class Workshop
Quizlet 1041-1080
- 第 13 回 Test 8
Listening Test 8 - In-class Workshop
Quizlet 1081-1120
- 第 14 回 Test 9
Listening Test 9 - In-class Workshop
Quizlet 1121-1160
- 第 15 回 Final Test
Final Test
Listening & Vocabulary
Quizlet 1161-1200

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

No

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. Understand the test and question types
2. Develop time management skills
3. Develop test-taking strategies
4. See every test mistake as an opportunity to learn something useful

Students will have a TOEIC midterm test and a TOEIC final test.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Pre-study vocabulary, do vocabulary writing, do post-study from previous lessons

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
Introduction - TOEIC test LISTENING, learning methods and class goals
Quizlet 601-640
- 第 2 回 Vocabulary
Listening Vocabulary studies - Written word vs Spoken word (weakening, elision, etc)
Quizlet 641-680
- 第 3 回 Test 1.1
Listening Test 1 - In-class Workshop Part 1
Quizlet 681-720
- 第 4 回 Test 1.2
Listening Test 1 - In-class Workshop Part 2
Quizlet 721-760
- 第 5 回 Test 2.1

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Midterm 25%, Final 25%, Class efforts 25%, Vocabulary quizzes 25%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

The TOEIC test is an excellent opportunity to see the relationship between EFFORTS and RESULTS. The more time you invest in good studying methods, the higher your points will be. There is NO LIMIT to how many points you can get in your first year. It all depends on your efforts and proper study methods.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

TOEIC(R) L&Rテスト YBM超実戦模試リスニング1000問 [MP3音声付き] (Japanese) Paperback ? 2018/3/10

Publisher: 朝日出版社 (March 10, 2018)

Language: 日本語

ISBN-10: 4255010455

ISBN-13: 978-4255010458

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

TOEICテスト公式サイト : <http://www.toEIC.or.jp/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC II B

EGB1355B1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

木曜3限

DP3 : 言語力

60

定員40人

櫃本 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。多くの企業、官公庁、大学などで英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価できるテストとして採用されています。

文法知識、語彙力、リスニングやリーディングの能力を向上させ、TOEIC(R)解答のストラテジーを習得して、高得点を獲得することを目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. TOEIC(R)テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と

効率的な情報処理能力を養う

2. TOEIC(R)テストでよく使用される語彙を身につける

3. TOEIC(R)テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの

基礎力を身につける

4. 400点~500点にスコアをのぼす

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション Listening 模擬試験

Listening 模擬試験

第 2 回 Reading 模擬試験

Reading 模擬試験

第 3 回 Part 1, Part 5

Part 1, 動詞の聞き取り

Part 5 文法問題

第 4 回 Part 5 Part 2

Part 5 語彙問題

Part 2 質問、応答の多様性

第 5 回 Part 1 Part 2 Part 5 小テスト

Part 1 Part 2 Part 5 実践問題

Part1,2,5,の小テスト

第 6 回 Part 3 Part 6

Part 3 問題の種類と選択肢の特徴

Part 6 問題の種類とパラグラフリーディング

第 7 回 Part 3 Part 6 実践問題

Part 3, Part 6 実践問題

第 8 回 Part 3 Part 6 小テスト

Part 3, Part 6 実践問題

Part3, 6,小テスト

第 9 回 Part 4 Part 7

Part 4 問題文の先読みと選択肢の特徴

Part 7 実用文書の特徴

第 10 回 Part 4 Part 7

Part 4 シチュエーションの把握

Part 7 問題文の種類と選択肢の特徴

- 第 11 回 Part 4 Part 7
Part 4 実践問題
Part 7 問題分析
- 第 12 回 Part 4 Part 7
Part 4 実践問題
Part 7 実践問題
- 第 13 回 Part 4 Part 7 小テスト
Part 4,7 実践問題
Part 4,7 小テスト
- 第 14 回 Listening 模擬試験
Listening 模擬試験 と解説
- 第 15 回 Reading 模擬試験
Reading 模擬試験 と解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 本番と同じ問題を使って TOEIC の出題形式や意図を理解する。
2. 解答ストラテジー (= 解法) のポイントをおさえ、使えるようにする。
3. TOEIC に取り組むための基本的英語力をおさえる。
4. TOEIC を通じて、社会人として必要な英語力を養う。
5. TOEIC 試験対策という目的を超えコミュニケーションのために使える英語の習得も目指す。
6. 授業ではペアワーク、グループワーク、発表などを通じて発話しながら学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習よりも、指示された課題を家庭学習してください。授業で学んだ箇所は、何度も音声で聞いてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト 30%、
プリント課題 50%

授業中の模擬試験 20%、

〔留意事項 (Other Information)〕

初めて TOEIC を受験する学生から 400~500 点をを目指す学生に適切なレベルのクラスです。

授業で使う課題用プリントは忘れず持参できるようファイルなどにまとめて管理してください。

授業の内容を理解するだけでなく、英語、または日本語での発話が必要になります。

シラバスの内容、進度、小テストの回数などは進み具合で変わる可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6/ 国際ビジネスコミュニケーション協会/2020 /ISBN-10: 490603358X , ISBN-13: 978-4906033584/学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で、役に立つ書籍、サイト、アプリ、番組などを紹介していきます。

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

TOEIC II C

EGB1355C1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

水曜4限

DP3: 言語力

60

定員40人

岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEICとは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。世界150か国で実施されており、各国の様々な企業、学校、団体において、いろいろな用途・目的で幅広く採用されています。日本の企業でも、新入社員の英語能力測定、英語研修の効果測定、海外出張・昇進・昇格の要件として利用されています。本科目では、TOEICで必要な基礎的な英語力の習得・強化を目指し、スコアアップを目標とします(目標スコア600点)

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. TOEICの形式・指示・問題の傾向に慣れ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEICでよく使用される語彙や表現を身につける
3. 文法の復習をしながら、リーディング力を強化する
4. TOEICのためだけでなく、日常的に使える英語表現を習得することで、一般的な英語のコミュニケーション能力向上を目指す

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、Unit1 Daily Life (対面授業)
- 第 2 回 Unit2 Places
- 第 3 回 Unit3 People
- 第 4 回 Unit4 Travel
- 第 5 回 Unit5 Business
- 第 6 回 Unit6 Office
- 第 7 回 Unit7 Technology
- 第 8 回 Unit8 Personnel
- 第 9 回 Unit9 Management
- 第 10 回 Unit10 Purchasing
- 第 11 回 Unit11 Finances
- 第 12 回 Unit12 Media
- 第 13 回 Unit13 Entertainment
- 第 14 回 Unit14 Health
- 第 15 回 TOEIC ハーフテスト (対面授業)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Unitとごとに授業を進めていきます。各Unitではそれぞれ統一されたトピックで、TOEICのPart1から7の全パートを学習します。各パートの出題形式に慣れ、解答時のポイントを抑え、スピーディに解答できるように練習していきます。さらに、音声を使って、ディクテーションやリピーティング、シャドーウィングの練習に取り組みながら、基本語彙・表現の習得とリスニング力の強化を図ります。授業での課題 (テキスト問題、プリント学習、テスト) においては、実施後解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの予習
2. 前回の復習

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度及び授業態度 (対面授業においては予習・発表・発声練習、オンライン授業においてはmanabaの閲覧や課題提出の有無) 20%、小テスト30%、提出課題30%、TOEICハーフテスト20%で評価を行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 初回授業にて、このクラスの説明を行いますので、出席してください。
2. 提出物については必ずを期限を守ってください。manabaのレポートや小テストは提出期限を過ぎると提出できなくなりますので、注意してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST GOAL600』/Mark D. Stafford/桐原書店/2017/978-4-342-55263-2/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Women in Leadership

EGE3550N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜2限

DP5: 共生・協働する力

60

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course explores leadership theory and practice. It focuses heavily on how current trends and concepts relate to women in Japan.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) Students will become aware of leadership issues
- 2) Students will learn to discuss leadership issues related to themselves
- 3) Students will incorporate some leadership issues into their future plans

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力 Expectations: Students understand and can express awareness of leadership issues	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

言語力 Expectations: Students can communicate clearly and effectively	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
思考・解決力 Expectations: Students can see multiple perspectives; Ability to ask questions; Ability to solve problems; Be logical, persuasive, and organized in your thinking	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Popular Leadership Theories
- 第 2 回 Women leaders in Japan and Abroad
- 第 3 回 Global Companies Excelling at Leadership
- 第 4 回 Nadeshiko Brand Companies in Japan
- 第 5 回 Leadership Styles
- 第 6 回 Managers vs. Leaders
- 第 7 回 In-Class Test
- 第 8 回 3 Factors in Executive Presence
- 第 9 回 The Gender Gap World Report
- 第 10 回 50 Quotes about Leadership
- 第 11 回 Japanese Innovators in Leadership
- 第 12 回 Role Models, Mentors, and Sempai
- 第 13 回 Secrets of the World's Most Successful Women
- 第 14 回 Harvard Longitudinal Study on Happiness
- 第 15 回 Final Oral Report and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

There will be a number of readings for pre-study, short lectures in class, workshop activities, and ongoing small group discussions. There will be an in-class test and a final oral report.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Pre-reading before class will make the class much easier for you and much more meaningful. Writing notes on the readings, including questions and your opinions will be very useful for you. Asking questions in class will be highly rewarded and appreciated.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students will be evaluated based on efforts in and out of class.

Class participation & Homework 40%

In-class Test 30%

Final Oral Report 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Google Search any weekly topics for a wide range of background reading.

For example, Nadeshiko Brand

http://www.meti.go.jp/english/press/2017/0911_001.html

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing I A 2013年度以降入学者

EGB1301A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

金曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This is a course in paragraph-writing designed to introduce the conventions of English-style prose within a variety of genres necessary for the development of overall writing skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn how to write well-organized, grammatically correct paragraphs. They will be introduced to the concepts of topic sentences and supporting sentences.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力1) Can write 10 WPM;	Does not meet course	Meets some course	Meets most course expectation	Exceeds most course

2) Can type 25 WPM; 3) Can write organized paragraphs; 4) Can understand and use topic sentences, reasons, details, and examples in paragraphs; 5) Can use appropriate vocabulary; 6) Can use some connecting words	expectations yet	expectations	s and excels on some criteria	expectations
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------	--------------	-------------------------------	--------------

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

30% Participation and preparation

70% Writing assignments

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

No textbook

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Writing I B 2013年度以降入学者

EGB1301BOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

金曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

田中 祐子

[授業計画]

- 第 1 回 Course Introduction
- 第 2 回 Paragraphs: studying example paragraphs
- 第 3 回 Paragraphs: grammar for writing
- 第 4 回 Original writing
- 第 5 回 Developing ideas: studying example paragraphs
- 第 6 回 Developing ideas: grammar for writing
- 第 7 回 Original writing
- 第 8 回 Topic sentences: studying topic sentences
- 第 9 回 Topic sentences: practicing topic sentences
- 第 10 回 Original writing
- 第 11 回 Studying supporting and concluding sentences
- 第 12 回 Practicing supporting and concluding sentences 2
- 第 13 回 Original writing
- 第 14 回 Paragraph review: grammar review
- 第 15 回 Paragraph review: paragraph writing

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

This class will be conducted entirely in English. Students will work in pairs and individually. Students will receive ongoing formative feedback in grammar, style, and basic writing conventions, both in drafting and revising stages.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Because students will engage in revision and peer review every week, they are expected to complete homework assignments on time.

[科目の教育目標 (Course Description)]

この授業は、将来、英文で学術的なエッセイや文章を書くための準備として、さまざまなパラグラフの書き方の練習を通じて、自分の主張を英語的なパラグラフとして効果的に表現することを目標とします。授業では各ユニットのテーマを踏まえたパラグラフの構造を理解し、書き方を練習します。表現力を高めるために和文英訳の練習も行うので、辞書等を持参のこと。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. テキストに沿って様々なテーマのパラグラフの表現方法を学ぶ
2. パラグラフィティングの練習
3. 語彙力と表現力の強化

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Unit 1 A Paragraph as a Product (パラグラフの論理展開の基本的パタンの学習)
- 第 3 回 Unit 1 A Paragraph as a Product (パラグラフと段落の構造の違いの確認と検討)
- 第 4 回 Unit 2 Writing a Topic Sentence (主題文の学習)
- 第 5 回 Unit 2 Writing a Topic Sentence (主題文の作文と検討)
- 第 6 回 Unit 3 Writing Supporting Sentences (支持文の学習)
- 第 7 回 Unit 3 Writing Supporting Sentences (支持文の作文と検討)
- 第 8 回 Unit 4 Writing a Concluding Sentence (結論文の学習)
- 第 9 回 Unit 4 Writing a Concluding Sentence (結論文の作文と検討)
- 第 10 回 The Process of Paragraph Writing
- 第 11 回 Unit 5 Explaining Your Character (自分の性格を説明するパラグラフの作文)
- 第 12 回 Unit 5 Explaining Your Character (パラグラフの検討)
- 第 13 回 Unit 6 Describing Your Daily Life (自分の大学生活を述べるパラグラフの作文)
- 第 14 回 Unit 6 Describing Your Daily Life (パラグラフの検討とグループワーク)
- 第 15 回 Summary

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストのモデル・パラグラフの構造の把握および読解と、英作文を行っていきます。

授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜口頭でフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、前もってテキストに目を通しておくこと。気になる点を授業で確認するようにして下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度と貢献度：30%

授業内発表・小テスト・提出課題：70%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Writing Facilitator／構造から学べるパラグラフ・ライティング入門』/静哲人/松柏社/2019/9784881987513/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing I C 2013年度以降入学者

EGB1301COJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

金曜1限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In this course, students will develop the writing skills learned in high school. Students will keep a weekly writing journal, using it both in and outside class to practice simply communicating ideas via written text. Various types of creative topics will be explored such as: manga/fairytales (narratives), movie reviews/guidebook pages (persuasive), descriptive accounts such as 'my treasure' or 'my idol', and instructional topics such as 'recipes' or 'my talent'. The course will follow the format of 1) developing and organizing ideas 2) sharing with peers orally 3) studying and developing the structure, grammar, and vocabulary needed for each genre 4) submitting four written projects for assessment.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of this course, students will be able to:

- 1) have an awareness of several types of writing and the features of each
- 2) be comfortable with collaborating with peers and getting feedback

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome to Writing I
Introduction to the course, community building activities
- 第 2 回 Community building activities
Writing journal introduction
- 第 3 回 Topic 1: Descriptive writing
Developing and organizing ideas. Collaborating with peers.
- 第 4 回 Descriptive writing
Mini-lecture: genre features of descriptive writing
Poster creation
- 第 5 回 Descriptive writing
Mini-presentations
- 第 6 回 Topic 2: Giving Instructions
Developing and organizing ideas. Collaborating with peers.
- 第 7 回 Giving Instructions
Mini lecture: genre features
Poster creation
- 第 8 回 Giving instructions
Mini-presentations
- 第 9 回 Topic 3: Persuasive writing
Developing and organizing ideas. Collaborating with peers.
- 第 10 回 Persuasive writing
Mini lecture: genre features
Poster creation
- 第 11 回 Persuasive writing
Mini-presentations
- 第 12 回 Topic 4: Narratives
Developing and organizing ideas. Collaborating with peers.
- 第 13 回 Narratives
Mini lecture: genre features
Poster creation
- 第 14 回 Narratives
Mini-presentations
- 第 15 回 Final reflections on learning
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
The class will be conducted entirely in English. Students will have daily opportunities to collaborate with classmates.
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
Complete the assigned homework in order to improve your writing skill.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- Active participation: 30%
- Journal: 30%
- Other Speaking and Writing tasks: 40%
- 〔留意事項 (Other Information)〕
0
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0
〔参考URL(URL for Reference) 〕
0
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

Writing I D 2013年度以降入学者

EGB1301D0J
大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
1年次
2単位 前期
金曜1限
DP3 : 言語力
60
必修 クラス指定
Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This is a course in paragraph-writing designed to introduce the conventions of English-style prose within a variety of genres necessary for the development of overall writing skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn how to write well-organized, grammatically correct paragraphs.They will be introduced to the concepts of topic sentences and supporting sentences.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction
- 第 2 回 Paragraphs: studying example paragraphs
- 第 3 回 Paragraphs: grammar for writing
- 第 4 回 Original writing
- 第 5 回 Developing ideas: studying example paragraphs
- 第 6 回 Developing ideas: grammar for writing
- 第 7 回 Original writing
- 第 8 回 Topic sentences: studying topic sentences
- 第 9 回 Topic sentences: practicing topic sentences
- 第 10 回 Original writing
- 第 11 回 Studying supporting and concluding sentences
- 第 12 回 Practicing supporting and concluding sentences 2
- 第 13 回 Original writing
- 第 14 回 Paragraph review: grammar review
- 第 15 回 Paragraph review: paragraph writing

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will work in pairs and individually. Students will receive ongoing formative feedback in grammar, style, and basic writing conventions, both in drafting and revising stages.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will do the assigned homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

30% participation

70% written work

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing I E 2013年度以降入学者

EGB1301E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

金曜1限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This is a course in paragraph-writing designed to introduce the conventions of English-style prose within a variety of genres necessary for the development of overall writing skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn how to write well-organized, grammatically correct paragraphs. They will be introduced to the concepts of topic sentences and supporting sentences.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Writing Expectations: 1) Can write 10 WPM; 2) Can type 25 WPM; 3) Can write organized paragraphs ; 4) Can understand and use topic sentences, reasons, details, and examples in paragraphs ; 5) Can use appropriate vocabulary ; 6) Can use some connecting words	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction
- 第 2 回 Paragraphs: studying example paragraphs
- 第 3 回 Paragraphs: grammar for writing
- 第 4 回 Original writing
- 第 5 回 Developing ideas: studying example paragraphs
- 第 6 回 Developing ideas: grammar for writing
- 第 7 回 Original writing
- 第 8 回 Midterm Test
- 第 9 回 Topic sentences: practicing topic sentences
- 第 10 回 Original writing
- 第 11 回 Studying supporting and concluding sentences
- 第 12 回 Practicing supporting and concluding sentences 2
- 第 13 回 Original writing
- 第 14 回 Paragraph review: grammar review
- 第 15 回 Final Test

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will work in pairs and individually. Students will receive ongoing formative feedback in grammar, style, and basic writing conventions, both in drafting and revising stages. Students will complete a midterm test and a final test.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will do the assigned homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

30% participation

70% written work

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing II A 2013年度以降入学者

EGB1351A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This is a course in paragraph-writing designed to introduce the conventions of English-style prose within a variety of genres necessary for the development of academic writing skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn how to write well-organized, grammatically correct paragraphs. They will be introduced to the concepts of topic sentences and supporting sentences.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力1) Can write 10 WPM; 2) Can type 25 WPM; 3) Can write organized paragraphs ; 4) Can understand and use topic sentences, reasons, details, and examples in paragraphs ; 5) Can use appropriate vocabulary ; 6) Can use some connecting words	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

第 1 回 Definition paragraphs: studying paragraphs

第 2 回 Definition paragraphs: studying grammar

- 第 3 回 Original writing (Personal history style)
- 第 4 回 Process paragraphs: studying paragraphs
- 第 5 回 Process paragraphs: studying grammar
- 第 6 回 Original writing (Expository style)
- 第 7 回 Descriptive paragraphs: studying paragraphs
- 第 8 回 Descriptive paragraphs: studying grammar
- 第 9 回 Original writing (Descriptive style)
- 第 10 回 Opinion Paragraphs: studying paragraphs
- 第 11 回 Opinion Paragraphs: studying grammar
- 第 12 回 Original writing (Persuasive style)
- 第 13 回 Narrative paragraphs: studying paragraphs
- 第 14 回 Narrative paragraphs: studying grammar
- 第 15 回 Original writing (Narrative style)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This class will be conducted entirely in English. We will use both online and face to face instruction. Most materials, activities, and assignments will be conducted through MANABA. This class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback and focused writing help. Students will receive written feedback on each draft of their written work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will do the assigned homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

30% Participation and preparation

70% Written work

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing II B 2013年度以降入学者

EGB1351BOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

田中 祐子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、将来、英文で学術的なエッセイや文章を書くための準備として、さまざまなパラグラフの書き方の練習を通じて、自分の主張を英語的なパラグラフとして効果的に表現することを目標とします。授業では各ユニットのテーマを踏まえたパラグラフの構造を理解し、書き方を練習します。表現力を高めるために和文英訳の練習も行うので、辞書等を持参のこと。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストに沿って様々なテーマのパラグラフの表現方法を学ぶ
2. パラグラフライティングの練習
3. 語彙力と表現力の強化

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 前期の見直し
- 第 2 回 Unit 7 Expressing an Opinion (自分の意見を述べるパラグラフをいかに組み立てるかの学習と作文)
- 第 3 回 Unit 7 Expressing an Opinion (パラグラフの検討)
- 第 4 回 Unit 8 Giving Advice and Instructions (物事の方法や手順を説明するパラグラフの作文)
- 第 5 回 Unit 8 Giving Advice and Instructions (パラグラフの検討とグループワーク)
- 第 6 回 Unit 9 Comparing and Contrasting (物事を比較対象するパラグラフの作文)

- 第 7 回 Unit 9 Comparing and Contrasting (パラグラフの検討)
- 第 8 回 Unit 10 Explaining Japanese Culture (日本の食文化について)
- 第 9 回 Unit 10 Explaining Japanese Culture (日本の習慣について)
- 第 10 回 Unit 10 Explaining Japanese Culture (パラグラフの検討とグループワーク)
- 第 11 回 Unit 11 Describing Data Expressed in Graphs (図や表の情報を説明するパラグラフの学習)
- 第 12 回 Unit 12 Summarizing What You Have Read (要約と引用の仕方についての学習)
- 第 13 回 Unit 12 Summarizing What You Have Read (要約してパラグラフにまとめる練習)
- 第 14 回 Unit 12 Summarizing What You Have Read (パラグラフの検討)
- 第 15 回 Summary

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストのモデル・パラグラフの構造の把握および読解と、英作文を行っていきます。

授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜口頭でフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、前もってテキストに目を通しておくこと。気になる点を授業で確認するようにして下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度と貢献度：30%

授業内発表・小テスト・提出課題：70%

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Writing Facilitator／構造から学べるパラグラフ・ライティング入門』/静哲人/松柏社/2019/9784881987513/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing II C 2013年度以降入学者

EGB1351C0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜1限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In the second term, we will review the topics studied in the first term such as: paragraph/essay structure, using signal words, and how to improve text by using specific examples or interesting vocabulary and complex sentence structures. Students will also become familiar with reviewing their own/their classmates' work and giving constructive feedback. Students will learn how to write both opinion and problem-solution essays.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will be familiar with:

- 1) academic essay writing at the university level
- 2) reviewing and editing their own/ their classmates' work
- 3) giving constructive feedback to peers

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome back from summer vacation!
Course introduction and community building;
Negotiation of course format;
- 第 2 回 Opinion essay/ formatting review
- 第 3 回 Opinion essay review/ Conclusion paragraphs
- 第 4 回 Problem-solution essays (2-3 topics)
Starting with this class, the course will follow this general format:
1) Gathering and developing ideas with peers
2) Mini-presentations

- 3) Draft writing
- 4) Peer review
- 5) Revision
- 6) Final submission

****NOTE:** Gretchen will provide instruction on these topics at some point during the term:

- 1) Finding outside sources
- 2) Research ethics (plagiarism)
- 3) Summarizing, paraphrasing, quoting
- 4) Using academic language

- 第 5 回 Problem solution essays
 - 第 6 回 Problem-solution essays
 - 第 7 回 Problem-solution essays
 - 第 8 回 Problem-solution essays
 - 第 9 回 Problem-solution essays
 - 第 10 回 Problem-solution essays
 - 第 11 回 Problem-solution essays
 - 第 12 回 Problem-solution essays
 - 第 13 回 Problem-solution essays
 - 第 14 回 Problem-solution essays
 - 第 15 回 Reflections on learning / goals for next year
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

There is no final exam.

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

The course will be conducted in English. It is imperative that students complete assigned homework to prepare for classroom activities. Like the spring term, all assignments will be collected on Manaba. Depending on the needs of students, we will meet in the classroom 1-2 times a month. There will be opportunities to work individually with the instructor.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students must prepare thoroughly for class by doing all writing and homework assignments. Students who do not complete homework will have a difficult time participating during class time so it is essential that effort is made to keep up with the assignments.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Opinion essay review homework: 10%

Problem-solution mini-presentations: 30%

Problem-solution writing assignments (this includes preparation, drafts and the final submission): 50%

Review quiz 10%

[留意事項 (Other Information)]

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

There is no textbook.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

0

[参考URL(URL for Reference)]

0

[実務経験のある教員による実践的科目]

0

Writing II D 2013年度以降入学者

EGB1351DOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜 1限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

田口 茂樹

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is to provide students with basic strategies for composing well-organized essays. They include group activities, a research on logical thinking and brainstorming, and a presentation. On the basis of the research, students are expected to write 4 essays in total, one of which is evaluated for the course grade.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

In the first half of the course, students are supposed to participate in group activities. Each group works together to make 2 essays consisting of 4 or 5 paragraphs. In the second half, each student is required to make a research on logical thinking and make a presentation for how to make their essay convincing. Each student writes 2 more essays individually.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Outline and Self-Introduction
We discuss how to make an impressive self-introduction.
- 第 2 回 Review of Intra-Paragraph Organizations
Reviewing intra-paragraph organizations, we will learn their parallelism with inter-paragraph organizations
- 第 3 回 Group Activity I
Students decide on a topic and make an outline building on the topic. Then, they write an introductory paragraph. The instructor will give some comments and advice on each.
- 第 4 回 Group Activity II
Students write supporting paragraphs consisting of 2 or 3 ideas that make them convincing. The instructor will give some comments and advice on them.
- 第 5 回 Group Activity III
Students write a concluding paragraph, summarizing the whole essay. Then, they review and proof-read it. Finally they exchange and peer-review their essays.
- 第 6 回 Group Activity IV
Students are given a topic by the instructor, and make an outline building on the topic. Then, they write an introductory paragraph. The instructor will give some comments and advice on it.
- 第 7 回 Group Activity V
Students write supporting paragraphs consisting of 2 or 3 ideas that make them convincing. The instructor will give some comments and advice on them.
- 第 8 回 Group Activity VI
Students write a concluding paragraph, summarizing the whole essay. Then, they review and proof-read it. Finally they exchange and peer-review their essays. One of the essays are submitted for the final grade.
- 第 9 回 Research and Presentation on Logical Thinking and Brainstorming
In the 8th week, the instructor will ask students to make a research on logical thinking and brainstorming. On the basis of it, students present their own findings. The instructor will give some comments and advice on them.
- 第 10 回 Individual Activity I
Students are given a topic by the instructor, and make an outline building on the topic. Then, they write an introductory paragraph. The instructor will give some comments and advice on each.
- 第 11 回 Individual Activity II
Each student writes supporting paragraphs consisting of 2 or 3 ideas that make them

convincing. The instructor will give some comments and advice on them.

- 第 12 回 Individual Activity III
Each student writes a concluding paragraph, summarizing the whole essay. Then, the students review and proof-read it. Finally they exchange and peer-review their essays.
- 第 13 回 Individual Activity IV
Each student is given a topic by the instructor, and make an outline building on the topic. Then, they write an introductory paragraph. The instructor will give some comments and advice on each.
- 第 14 回 Individual Activity V
Each student writes supporting paragraphs consisting of 2 or 3 ideas that make them convincing. The instructor will give some comments and advice on them.
- 第 15 回 Individual Activity VI
Each student writes a concluding paragraph, summarizing the whole essay. Then, the students review and proof-read it. Finally they exchange and peer-review their essays. One of the individual essays are submitted for the final grade.

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

The essay submitted in 15th week will be considered for the grade.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will have to continually think about their topics and organizations for revising their essays.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Class participation and writing essays will be necessary for earning the credit.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom Performance: 30%

Assignments and Homework: 70%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing II E 2013年度以降入学者

EGB1351E0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 1年次
 2単位 後期
 金曜1限
 DP3 : 言語力
 60
 必修 クラス指定
 Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This is a course in paragraph-writing designed to introduce the conventions of English-style prose within a variety of genres necessary for the development of overall writing skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn how to write well-organized, grammatically correct paragraphs. They will be introduced to the concepts of topic sentences and supporting sentences.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Writing Expectations: 1) Can write 10 WPM; 2) Can type 25 WPM; 3) Can write organized paragraphs ; 4) Can understand and use topic sentences, reasons, details, and examples in paragraphs ; 5) Can use appropriate vocabulary ; 6) Can use some connecting words	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Definition paragraphs: studying paragraphs
- 第 2 回 Definition paragraphs: studying grammar
- 第 3 回 Original writing (Personal history style)
- 第 4 回 Process paragraphs: studying paragraphs
- 第 5 回 Process paragraphs: studying grammar
- 第 6 回 Original writing (Expository style)
- 第 7 回 Descriptive paragraphs: studying paragraphs
- 第 8 回 Midterm Test
- 第 9 回 Original writing (Descriptive style)
- 第 10 回 Opinion Paragraphs: studying paragraphs
- 第 11 回 Opinion Paragraphs: studying grammar
- 第 12 回 Original writing (Persuasive style)
- 第 13 回 Narrative paragraphs: studying paragraphs
- 第 14 回 Narrative paragraphs: studying grammar
- 第 15 回 Final Test

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will work in pairs and individually. Students will receive ongoing formative feedback in grammar, style, and basic writing conventions, both in drafting and revising stages. Students will complete a midterm test and a final test.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will do the assigned homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

40% Participation

30% Midterm Test

30% Final Test

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アメリカの社会と文化

EGL3453N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 3限

DP4：思考・解決力

60

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義では、多民族国家アメリカの国家や国民性を理解し、複眼的な視点からアメリカの文化を学び、多角的な思考力を涵養することを目的とする。昨今の不安定な国際情勢の中、アメリカは依然として世界の覇権を担い、良くも悪くも我々の生活にも多大な影響力を保持している。国際的な視野を習得するためには、アメリカ文化の源泉を理解することが必要である。そこで本講義では、Michael Denningらが追求した「アメリカンとはなにか」という問いにアプローチし、アメリカの国家性や国民性の根底にある「なにか」を理解することを本講義の目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. アメリカの社会と文化を考察することによって、多角的な思考力を涵養する。
2. アメリカの歴史について幅広い知識を習得する。
3. アメリカの社会と文化の仕組みを、様々な視点から理解する。
4. アメリカの歴史を「国家ナラティブ」としてみなし、「アメリカンとはなにか」という問いにアプローチする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション：カルチュラル・スタディーズについて
- 第 2 回 建国神話、アメリカ例外主義
- 第 3 回 アメリカとエスニシティ：原住民文化
- 第 4 回 アメリカとエスニシティ：移民文化
- 第 5 回

アメリカとエスニシティ：黒人の歴史と文化
17~18世紀

第 6 回 アメリカとエスニシティ：黒人の歴史と文化
19~20世紀

第 7 回 アメリカとエスニシティ：黒人の歴史と文化 20
世紀~現代

第 8 回 アメリカとジェンダー：フェミニズム 1 17~18世
紀

第 9 回 アメリカとジェンダー：フェミニズム 2 19~20世
紀

第 10 回 アメリカとジェンダー：フェミニズム 3 20世紀~
現代

第 11 回 ジェンダーマイノリティ：LGBT運動の萌芽と現
在

第 12 回 アメリカと音楽

第 13 回 アメリカと帝国主義、捕鯨文化を交えて

第 14 回 アメリカと銃社会

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は基本的には講義形式で、配布プリントを使い進めて
いく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

初回の授業で指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 (30%)

期末試験 (70%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

『アメリカン・カルチュラル・スタディーズ [第二版] ポス
ト 9・11 からみるアメリカ文化』/ニール・キャンベル/
アラステリア・キーン/萌書房/2012/9.784860650698E12/学内
販売予定

配布プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義中に適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ウェブデザイン I

CSA2414N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 2限

DP4：思考・解決力

60

定員24人

吉田 智子

【科目の教育目標 (Course Description)】

インターネット技術の総括的な理解から、ウェブサイトの規格や使用する言語、文字・画像などの情報の関連付けと視覚化と各種形式、さらにサイト運営における著作権問題などを学ぶ。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

毎回の授業は演習室で行うが、実習は概要を理解するための実験と位置付けているため、基本は講義となる。教科書として「改訂新版 インターネット講座」(北大路書房)を利用し、インターネットのしくみ、World Wide Webのしくみ、HTMLとCSSを利用したWebページの記述、JavaScriptを利用したWebページについてを、操作実習も交えて学ぶ。加えて、各種のファイル形式の知識を整理し、Web制作者として必要な著作権問題についても学ぶ。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
World Wide Webのしくみの理解	Webページが、世界中に分散したWebサーバーに保存されていることを知らない	WebページとWebサーバーのそれぞれはわかるが、関係は意識していない	Webページが世界中に分散したWebサーバーに保存され、流通していることを理解している	WebページがどのようなしくみでWebサーバーから届くかを、きちんと理解している
HTMLとCSSのしくみの理解	HTMLやCSSことを知らない	HTMLとCSSのそれぞれの記述を写して書けるが、関係は意識していない	HTMLが文書構造の記述、CSSがデザインの記述に利用されることを理解している	HTMLとCSSのそれぞれの役割と切り分けを、きちんと理解している

インタラクティブなWebページの記述の理解	インタラクティブなWebページの記述について知らない	JavaScriptやCGIのページのそれぞれの記述を写して書けるが、理解していない	JavaScriptやCGIがインタラクティブなページの記述に利用されることを理解している	インタラクティブなページの記述に利用されるJavaScriptやCGIのそれぞれの役割と切り分けを、きちんと理解している
-----------------------	----------------------------	--------------------------------------------	-----------------------------------------------	--------------------------------------------------------------

【授業計画】

第 1 回

ガイダンス (この授業と「ウェブデザイン実務士」資格について、大学内の各演習室で使えるアプリケーションについてなど)

第 2 回

Webデザインの仕事とは?、本学のWebサーバー環境、Web制作のための法的知識(著作権、意匠権、商標権、肖像権)

第 3 回

Webサイトの批判的閲覧とHTMLを使ったWebページの制作の基本

第 4 回

HTMLを使ったWebページの作成(画像表示・階層構造の理解)

第 5 回

HTMLとCSSを利用したWebページの制作実習(1) 導入

第 6 回

HTMLとCSSを利用したWebページの制作実習(2) 活用

第 7 回

JavaScriptを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(1) 教科書11章前半

第 8 回

JavaScriptを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(2) 教科書11章後半

第 9 回

CGIを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(1) 教科書12章前半

第 10 回

CGIを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(2) 教科書12章後半

第 11 回

HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(1) 企画

第 12 回

HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(2) サイト設計・ページデザイン

第 13 回

HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(3) ページ制作

第 14 回

HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(4) 各種ブラウザで表示確認、最終レポート提出

第 15 回

まとめ（確認テストの実施とその解説。manabaに解答例を公開）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を基本とするが、実習を伴った方が理解が促進される内容については、パソコンを利用した操作実習をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・毎回の授業に関して教科書の該当ページを示すので、事前に読んで参加すること。
- ・「Webページの批判的閲覧」に関して、一度ずつ発表する必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、最終レポートを含む提出物（20%）、確認テスト（50%）の総合点で評価。なお、授業での発表点は、授業参加度（30%）の中に含む。

〔留意事項（Other Information）〕

ウェブデザイン実務士科目群の基本となるため、他のウェブデザイン実務士科目よりも先に（特に「ウェブデザイン演習」よりも先に）に履修することが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版 インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014/978-4-7628-2830-0/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ウェブデザイン II

CSA2462NOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 1限

DP4 : 思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

様々な技術や複数のファイルから成り立つWebサイトの特性を理解し、適切なファイル（形式、データサイズ、著作権など）の取り扱い方法や、連携、管理方法などを

サイト制作に用いられる専用アプリケーションの実習を通して学び、『ウェブデザイン』の知識と技術を身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

Adobe Bracketsほか、制作ツール・ウェブサービスを活用し、演習と課題制作をとおしてウェブサイトの制作能力を身につける。

ウェブの特性を理解し、魅力的かつ効率的な情報の発信力を身につける。

1) HTML/CSSコーディングの基礎技術の習得

- ・制作ツールの活用、操作方法の習得
- ・文章構造を理解したコンテンツの制作と編集

2) ウェブサイトのデザイン、編集の知識・技術の習得

- ・高度なレイアウト技術の習得
- ・CSS応用技術の習得

3) ウェブサイト制作に関わる、応用技術の習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 (macOSの操作)	PCの起動、終了など、macOSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのmacOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用、環境設定の変更、周辺機器（プリンタ、スキャナなど）も適切に利用できる	OS、バージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える
知識・理解力 (演習用ソフトウェアの操作)	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、総合的なコンテンツを作成することができる
思考・解決力 (必要な情報の検索・収集・編集)	必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション、環境設定、使用ツールの解説

第 2 回 HTML基礎（ファイル作成、文章構造解説、コンテンツの配置と編集）

第 3 回 CSS基礎（HTML・CSS復習、CSS記述と外部ファイルへの書き出し）

- 第 4 回 カラー、画像素材等の編集に関する知識と技術の学習
- 第 5 回 セレクタを活用した要素の装飾・レイアウト方法の学習
- 第 6 回 汎用要素、セクション要素の活用したレイアウト方法の学習
- 第 7 回 ナビゲーションのレイアウト（リスト、リンク、画像のレイアウト）
- 第 8 回 Webデザイン応用技術 1（CSSレイアウト応用）
- 第 9 回 Webデザイン応用技術 2（JavaScriptの活用）
- 第 10 回 Webデザイン応用技術 3（サイト設計）
- 第 11 回 最終課題制作（制作サイト企画・設計、コンテンツ編集）
- 第 12 回 最終課題制作（演習で学んだ技術を活用したWebサイト編集・制作）
- 第 13 回 最終課題制作（演習で学んだ技術を活用したWebサイト編集・制作）、中間発表
- 第 14 回 最終課題制作（動作、編集箇所最終確認、ブラッシュアップ作業）
- 第 15 回 最終課題制作、提出

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各回、解説資料・素材データを配布し、リサーチ、演習などの課題制作を行う。

最終課題では、演習で学んだ技術を活用して、各自がコンテンツ内容を企画・編集し、Webサイトを制作する。

中間、最終課題は完成作品のプレゼンテーション、および合評を行い、ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

〔予習・復習〕

授業内で配布する資料、素材データを元に復習をしておくこと。またデザインや構造など参考になるウェブサイトを各自で調査・研究しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、授業毎の演習課題提出（30%）、最終課題の完成度（40%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

人数制限：18名

「マルチメディア演習」を履修済み、もしくは「Adobe Photoshop」が扱える事が望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『HTML5+CSS3の新しい教科書 改訂新版 基礎から覚える、深く理解できる。〈レスポンシブWebデザイン対応〉』/こも

りまさあき・原一宣・赤間公太郎/エムディエヌコーポレーション/2018/8/27/4844367838

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務経験あり。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

ウェブデザイン演習

CSA3451N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次 4年次

2単位 後期

木曜 2限

DP4：思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

ウェブデザイン関連科目で学んだ内容の集大成として、オリジナルウェブサイトの制作に取り組み、企画、情報収集、編集、デザイン、加工、コーディング、公開まで、サイト制作に関わるワークフローを体験・理解し、WEBデザイン実務士の資格に値するサイト制作の知識と技術、魅力的かつ効率的な情報の発信力を身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1) ウェブサイトの企画・編集
 - ・オリジナルサイトの企画
 - ・企画書作成（ラフスケッチ、ワイヤーフレーム、サイトマップ）
- 2) ウェブサイトのデザイン
 - ・画像編集ツール等を活用したウェブデザイン作成
 - ・素材の編集
- 3) ウェブサイトのコーディング
 - ・Adobe Bracketsほか、制作ツールを活用したHTML/CSSコーディング
- 4) 公開
 - ・プレゼンテーション

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 (macOSの操作)	PCの起動、終了など、macOSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのmacOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用や、環境設定の変更、周辺機器（プリンタ、スキャナなど）を適切に利用することができる	OS、バージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える

知識・理解力 (演習用ソフトの操作)	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、総合的なコンテンツを作成することができる
思考・解決力 (必要な情報の検索・収集・編集)	必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、ウェブサイトの制作方法の復習
- 第 2 回 ウェブサイト企画1 (アイデアリサーチなど制作準備、サイトマップ、ワイヤーフレーム制作演習、制作ツール準備、制作課題の個別目標の検討)
- 第 3 回 ウェブサイト企画2 (サイト内容、ターゲット等、企画準備、制作方法などの決定、企画書作成準備)
- 第 4 回 ウェブサイト企画3 (コンテンツ・サイト構造の整理、コンテンツ内容の編集、サイトマップ、ワイヤーフレームの作成)
- 第 5 回 ウェブサイト企画書チェック (企画書・制作内容を提出、講評、関連情報・技術のリサーチ)
- 第 6 回 ウェブサイト企画書の修正 (講評で指摘を受けた箇所の修正、素材収集、編集)
- 第 7 回 ウェブサイト作成1 (素材の編集、書き出し、HTMLのマークアップ、サイト共有部分の制作)
- 第 8 回 ウェブサイト作成2 (個別ページの制作、HTMLのマークアップ、CSSによるスタイリング)
- 第 9 回 ウェブサイト制作3 (共有部分、個別ページのCSSによるスタイリング、全体編集)
- 第 10 回 ウェブサイト制作4 (その他インタラクション、ウェブサービスとの連携の実装)
- 第 11 回 中間チェック (進行状況をプレゼンテーション、修正点の確認)
- 第 12 回 ウェブサイト制作 (中間チェックで指摘を受けた箇所の修正、各要素の見直し、テキスト、画像素材の追加)
- 第 13 回 ウェブサイト制作 (修正箇所の再チェック、ブラッシュアップ)
- 第 14 回 ウェブサイト制作 (最終調整)、公開準備
- 第 15 回 合評 (完成課題作品をプレゼンテーション)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各自、オリジナルサイトを企画・編集し、授業で得た知識、技術を活用してウェブサイトを作成し、学内ネットワーク、または外部サーバを利用して公開する。

中間チェック、最終課題は完成作品のプレゼンテーション・合評を行い、ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

〔復習〕

「マルチメディア演習」「ウェブデザインII」の履修済の者は、各授業で配布したレジュメ、配布データを元に復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

webサイトの学内公開を単位取得の条件とする。

授業参加度 (40%)、webサイトの完成度 (60%) の総合点で評価する。

なお、「ウェブデザイン実務士」の資格認定を希望するものは、70点以上の評価を受ける必要がある。

〔留意事項 (Other Information)〕

人数制限：18名

本授業を受講するにあたり、「マルチメディア演習」を履修済み (もしくはIllustratorまたはPhotoshopが扱える)、および「ウェブデザインI」「ウェブデザインII」を履修済み (もしくはまたはHTMLとCSSのコーディング経験、基礎知識を有している) ことを必須条件とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版インターネット講座』/有賀妙子・吉田智子・大谷俊郎/北大路書房/2014/978-4762828300/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『HTML5+CSS3の新しい教科書 改訂新版 基礎から覚える、深く理解できる。〈レスポンシブWebデザイン対応〉』/こもりまさあき・原一宣・赤間公太郎/エムディエヌコーポレーション/2018/8/27/4844367838

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務経験あり。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

ウェブプログラミング演習

CSA2463NOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜 3限

DP4：思考・解決力

60

定員24人

伊藤 泰子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

プログラム言語JavaScriptを利用して、プログラミングやアルゴリズムを学ぶ。

プログラミングを通して、コンピュータの働きや処理方法を理解していく。今後の様々な課題を、情報技術を活用しながら解決していけるような、論理的・創造的な思考やプログラム作成の技術を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 基本制御構造
- ・ オブジェクト指向プログラミング
- ・ フォーム部品との連携
- ・ アルゴリズム
- ・ 動的なWebコンテンツの作成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 JavaScriptとは
- 第 2 回 基本制御構造 1 (順次、反復)
- 第 3 回 基本制御構造 2 (選択)
- 第 4 回 オブジェクト指向 1 (オブジェクトとは、オブジェクトの種類)
- 第 5 回 オブジェクト指向 2 (フィールド、メソッドの利用)
- 第 6 回 オブジェクト指向 3 (メソッドの活用)
- 第 7 回 フォームタグとの連携 1 (文字列操作、デザイン変更)
- 第 8 回 フォームタグとの連携 2 (演算処理)

第 9 回 関数の定義とイベント処理

第 10 回 DOM CSSの操作 1 (JSを利用して動的にデザインを変更する)

第 11 回 DOM CSSの操作 2 (JSを利用して動的にHTMLコンテンツを変更する)

第 12 回 検索・ソートなどの代表的なアルゴリズム

第 13 回 CANVASを使って図形を描画する

第 14 回 課題作成 (JavaScriptを利用したコンテンツ設計)

第 15 回 課題作成 (JavaScriptを利用したコンテンツ作成)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習形式で行う。適宜、演習課題や小テストも課す。フィードバックとして、課題・テスト提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

積み上げ式の授業なので、特に予習をする必要はないが、復習は必ず行う。毎回宿題を出すので、自分のペースでじっくり復習しながら問題を解いていく。わからない部分は必ず質問すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50%)、課題 (30%)、テスト (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない。

適宜、必要資料を配布。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

ウェブプログラミング演習

<http://www.notredame.ac.jp/~yito/js/index.html>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

ことばとコミュニケーション

EGL2400N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜1限

DP4: 思考・解決力

60

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義では、コミュニケーションの中心となる『ことば (象徴記号)』の側面からコミュニケーションにアプローチし、そのメカニズムと現象の多様性を考察していく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 言語コミュニケーションの基本的メカニズムを考察し、様々な形態のコミュニケーションの成り立ちとダイナミズムを理解する。
2. 言語コミュニケーション成立における「ことば」の果たす役割を考察し、人が言語メッセージを理解し解釈するプロセスを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 コミュニケーションの定義
- 第 2 回 コミュニケーションの起源
- 第 3 回 コミュニケーションと記号 (1): 言語記号の性質と役割
- 第 4 回 コミュニケーションと記号 (2): 動物のコミュニケーション (比較文化論)
- 第 5 回 社会におけることばの意味の生成 (1): 象徴的相互作用論 前編
- 第 6 回 社会におけることばの意味の生成 (2): 象徴的相互作用論 後編
- 第 7 回 ことばの意味の伝達 (1): 発話行為論
- 第 8 回 ことばの意味の伝達 (2): 協調の原則と会話の含意
- 第 9 回 ことばの意味の伝達 (2): 関連性理論

- 第 10 回 ことばの意味の伝達 (4): 社会的認知 (「心の理論」) と発話理解
 - 第 11 回 メッセージの効果 (1): 構築主義コミュニケーション論と他者視点取得
 - 第 12 回 言語メッセージの効果 (2): Message Design Logic
 - 第 13 回 言語コミュニケーション現象 (1): ポライトネス
 - 第 14 回 言語コミュニケーション現象 (2): 嘘と欺瞞
 - 第 15 回 言語コミュニケーション能力について (総括)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキスト、参考文献に基づいた講義を行い、質疑応答、指定課題の理解を前提としたディスカッション等を行っていく。その他、授業内容の理解に関する試験、およびレポートの提出。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Web上に掲載する講義ノート (PowerPointスライド) をダウンロードして予習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (20%)、個別課題 (20%)、試験 (40%)、論文 (20%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

0

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『A first look at communication』 /Griffin, E./McGraw Hill/ 2006/

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

ことばと意味

EGL3458N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜1限

DP4: 思考・解決力

60

児玉 一宏

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- ・ 認知言語学の基本的な考え方を理解できるようになる。
- ・ 構文文法の考え方を理解し、「構文の意味」について理解できるようになる。
- ・ 中等英語科教育で学んだ「構文の書き換え」を取り上げ、構文の意味の違いについて理解できるようになる。
- ・ 認知意味論の基本的な概念を理解し、語彙の意味について深く考察できるようになる。
- ・ 言語習得論、コミュニケーション論の視点から、文脈の中で問われる意味について理解できるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

認知言語学の言語観に基づいて、ことばの意味、特に「構文の意味」に焦点を当て、考察を深める。テキスト14章の中から、本授業の目標と関りの深い章(テーマ)を選んで、その内容を丁寧に読み進め、内容理解に努める。「構文の意味」については、構文文法の理解に重点を置き、認知言語学が提唱する「構文」の意味とは何かという興味深い問題を探求していく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 序：
オリエンテーション〔本授業の目標・授業運営・授業への導入〕【対面】資料配布
- 第 2 回 認知言語学における「ことばと意味」(1)【対面】
テキスト第1章の講義・解説

- 第 3 回 認知言語学における「ことばと意味」(2)【オンライン】
- 第 4 回 認知言語学における「構文の意味」(1)【対面】
テキスト第12章 講義・解説
- 第 5 回 認知言語学における「構文の意味」(2)【オンライン】
- 第 6 回 構文文法【オンライン】
- 第 7 回 振り返り【オンライン】
- 第 8 回 認知言語学における「語彙の世界」(1)【対面】
テキスト第4章 講義・解説
- 第 9 回 認知言語学における「語彙の世界」(2)【オンライン】
テキスト第4章
- 第 10 回 認知言語学における「言語習得の世界」【オンライン】
テキスト第9章
- 第 11 回 認知言語学における「コミュニケーションの世界」【オンライン】
テキスト第7章
- 第 12 回 振り返り【オンライン】
- 第 13 回 認知言語学と「文法の世界」【対面】
テキスト第2章 講義・解説
- 第 14 回 認知言語学と「英語教育への活用」【対面】
資料配布
- 第 15 回 授業の総括【対面】

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない。学期末レポートの提出を求める。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

対面授業では、テキストを使用した講義を中心とする。授業内容の定着のために、必要に応じて講義資料(補助教材)を作成し配布する。オンライン授業では、提示された指示に対して、各自がテキストを活用して課題に取り組む。適宜、課題提出を求める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

対面授業の準備では、授業内容の定着を図るため、テキストの中でどの項目について学習しておいてもらうかを事前に連絡する。講義ノートを作成するなどして準備を行ってほしい。各回の予習の仕方の詳細については授業またはmanabaで指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績評価については、学期末に提出してもらうレポート(50%)、課題提出(30%)、授業への積極的な参加態度(20%)に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

コロナ禍の現状を勘案し、対面授業とmanabaを利用するオンライン授業のブレンド型の授業を実施します。対面7回、オンライン8回の予定。授業の進め方など詳細については、初回の対面授業で説明しますので、必ず出席してください。また、今後、授業運営に変更等が生じることも考えられます(対面授業をオンライン授業に変更する可能性もあります)ので、manabaを通しての授業連絡には十分注意してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキスト:

『はじめて学ぶ認知言語学』/児玉一宏・谷口一美・深田智(編)/ミネルヴァ書房/2020

ISBN: 978-4-623-08870-6 / 学内販売・有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『構文文法論—英語構文への認知的アプローチ』/A. ゴールドバーグ(河上誓作(監訳)/

研究社/2001/4327401242

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ことばと社会

EGL3455N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜3限

DP4: 思考・解決力

60

「言語学概論」又は「英語の歴史」の履修者であること

川上 伊都子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

言語は、コミュニケーションの道具としてのみ使われている訳ではありません。言語は、それぞれの社会や文化と密接な関係があり、切り離して考える事はできないのです。では、言語は社会／文化の中でどのような役割や機能をはたし、また、社会／文化からどのような影響や拘束を受けているのでしょうか。人間と言語とはどのように関係し合っているのでしょうか。これらの問いに答えるため、このコースでは、社会言語学の基礎を学びます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現実社会での言語使用の分析研究を通して、いかに社会／文化と言語との相互作用があるかを、検証していく。例えば、ことばのコミュニケーション以外の役割についてや、言語習得とは何を意味するのかや、標準語は何のためにあるのか、等普段の生活では考えたことが無い様なことばの奥深い「はたらき」について現実社会の例を沢山使って、考えていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 What is Sociolinguistics?—Orientation
What is Sociolinguistics?—Orientation
- 第 2 回 ことばの機能とは何か—実例を分析しながら
ことばの機能とは何か—実例を分析しながら考える
- 第 3 回 Communication 以外のことばの機能について
Communication 以外のことばの機能について:京都花街の言葉を観察する
Group Discussionとレポート提出
- 第 4 回 京都花街ことば、裁判官のことばの考察
前週のレポートを返して解説
裁判官のことばの考察:その特徴と機能について
- 第 5 回 言語の”symbol”としての機能について
スカンジナビア3カ国、セルビア・クロアチア、中国の例を使って考察する
- 第 6 回 言語 VS 方言
言語 VS 方言:これらの違いは何か:スカンジナビア3カ国、セルビア・クロアチア、中国の例を使って
Group Discussion とレポート提出
- 第 7 回 国家・民族の独立・自治、又は統一のsymbolとしての言語
前週のレポートを返して解説
言語又は、方言という使い分けの目的とその成立過程について考える
- 第 8 回 標準語とは何か
西ゲルマン語方言連続体を例にして、標準語とは何かを解説(主にヨーロッパの例を使って)
- 第 9 回 琉球王国の歴史と標準語
琉球王国の歴史を例にして、日本における標準語化政策を解説
標準語化政策の目的と過程、言語変種間の格差出現など
- 第 10 回 言語の機能について:まとめ
今まで見て来た言語の機能について、復習とまとめ
- 第 11 回 Sociolinguistics を研究する意味
実例を使って、Sociolinguistics を研究する意味を考察、Sociolinguistics の定義3つの解説
- 第 12 回 Chomsky の理論
Universal Grammarと言語習得
Competence VS Performance とは何か:実例を使ってChomsky の理論の解説

第 13 回 Hymes の理論

Communicative competence とは何か： 実例を使って Hymes の理論の解説
社会言語学における言語習得理論を解説

第 14 回 Speech Community とは何か

Speech Community とは何か :Communicative competence とその境界を決めるもの
実例を使って解説

第 15 回 Chomsky VS Hymes のまとめ

それぞれの理論のまとめと復習、Group Activity
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない、ただし授業最終日にまとめの筆記テストは行う予定。それ以外に、コロナ感染状況により不測の事態が起こることも想定し、各トピックごとに小テストを行う予定。小テストを数回実施した場合は、最終日の総まとめテストは実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

参考文献、重要論文などにそっての講義、質疑応答。さらに現実社会における諸問題に関してグループディスカッション、その結果をレポートにして提出。提出されたレポートは次週返却する際に、必ず詳しい解説を行い、模範例などを示すと共に、評価・採点についても説明する。

1. 参考文献：スザン ロメイン「社会のなかの言語」
2. 重要論文 (適宜配布)

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

主にグループディスカッションの前の週に課題が出される。その様な時には、しっかり準備すること。具体的には、あたえられたテーマに関して、調べたり、指定されたものをしっかり読んでくる事等である。例えば、「北欧3カ国の歴史と言語について調べてくること」という課題が出た時には、図書館やインターネットで調べた後、講義内容を踏まえて、なにが重要な情報であるか取捨選択し、口頭で要点を発表できるようにしておくことが求められる。グループディスカッションを、円滑に又、奥深いものにするための準備と捉えているので、提出することは必要なく、要点を押さえておくことと口頭で発表出来る様にしておくことが、何より大事である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15時間 (毎週、各1時間ぐらいは予習・復習に当てることが望ましい)

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、まとめテスト又は小テストの平均点 (60%)、グループレポート (提出物) の平均点 (30%)、授業への積極的取り組み度 (10%) に基づいて、総合的に行う。常に授業への積極的参加を期待する。又、グループディスカッションでは、最後にグループ内での結論などを一枚のレポートにして提出する。評価はこのレポートに対して出され、グループ内の参加者全員にこの評価が同様に与えられる。

〔留意事項 (Other Information)〕

宿題が出たときは、必ずしてくること。授業には積極的に参加すること。予習が出来てない場合、又、居眠り、私語、

スマホ等、授業への積極的参加が認められない場合は、減点の対象となる。

コロナ感染状況によっては、登校することが難しくなる場合も考えられるが、出席できないときは、manabaなどで自宅での予習・復習をしっかりとすることが望ましい。出席できない時は、特に担当教師と連絡をしっかりと取り合うことが期待される。

又、感染状況が悪化し、対面授業が困難であると判断した場合には、オンデマンド授業になることもあり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『「社会のなかの言語」』/スザン ロメイン/三省堂/1997/別途指示。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ことばのしくみ

EGL2453N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜3限

DP4 : 思考・解決力

60

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

言語を形成する規則体系について深く考察し、人間という種に固有の「言語能力」の本質に迫ることを教育目標とする。対象言語は主に英語と日本語の二言語とし、様々な言語現象を扱いながら両言語における文構築についての仕組みを明らかにする。理論的枠組みは生成文法理論を前提とし、特に統語論に焦点を当てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 言語事実 (統語現象) を観察し、一般化を導く。
2. 導いた一般化から仮説を立てる。
3. 先行研究によって提示されている理論を基に更なるデータを分析し、仮説の検証、修正をする。
4. 1-3のステップを繰り返すことにより、言語理論を学ぶと同時に議論の立て方についても学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 The Goal of Theoretical Linguistics
Architectre of Grammar: Lexicon, Syntax, Phonological Form (PF) & Logical Form (LF)
- 第 2 回 Basic Tools in Syntax #1
Phrase Structure & Movement
(Chapter 2, Section 2.1-2.2)
- 第 3 回 Basic Tools in Syntax #2
Head Movement, Verb Phrase
(Chapter 2, Section 2.3-2.4)
- 第 4 回 Constituency
Verb Phrases & Noun Phrases
- 第 5 回 Phrase Structure
X'-Theory
(Chapter 3, Section 3.3-3.4)
- 第 6 回 Sentence Structure
Negative Polarity Items (NPI)
(Chapter 3, Section 3 Section 3.5)
- 第 7 回 Structure & Meaning #1
Binding Theory
(Chapter 4, Section 4.1)
- 第 8 回 Midterm Exam, Structure & Meaning #2
Midterm Exam, Binding Theory (cont.), Thematic Roles
(Chapter 4, Section 4.2)
- 第 9 回 Types of Structure
Infinitives
(Chapter 4, Section 4.3)
- 第 10 回 Syntactic Operation (Movement) #1
NP-Movement
(Chapter 4, Section 4.4)
- 第 11 回 Syntactic Operation (Movement) #2
Wh-Movement
(Chapter 5, Section 5.1-5.2)
- 第 12 回 Movement Rules & Restrictions #1
Island Constraints & Subjacency
(Chapter 5, Section 5.3-5.4)
- 第 13 回 Movement Rules & Restrictions #2
Movement Rules & Restrictions: Strict Cyclicity & Wh-movement in Japanese
(Chapter 5, Section 5.5-5.6)
- 第 14 回 Interface Studies
Syntax-Morphology, Syntax-Semantics
- 第 15 回 Review
Review: Goals of Syntax

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書に基づいて、授業の各回で扱う言語事実の整理、観察をまず行い、一般化を導く。

次に、先行研究で提示されてきた諸規則、理論について学んだ上で、仮設の立て方、及び、検証の仕方、言語学における議論の立て方を身につける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回の授業テーマに関連する教科書の各章を必ず読み、内容を理解した上で授業に臨むこと。同時に、教科書を読んで分からなかった箇所を明らかにしてくる。

与えられた練習問題は、必ず行い復習すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Quizzes 20 %

Midterm Exam 40 %

Final Exam 40 %

〔留意事項 (Other Information)〕

言語学概論等の授業において習得した程度の理論言語学全般の知識を前提とする。特に、統語論の基礎的な知識については必須とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『生成文法』 / 渡辺 明 / 東京大学出版会 / 2009/978-4-13-082015-8/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ことばの音と形態

EGL3406N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

上野 舞斗

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

(1) 日英語の比較を通じて、英語音声学・音韻論を中心に適宜、形態論の基礎知識を学びつつ、(2) 発音・聴解の演習を通して、実際の運用能力も高めることが本科目の目標です。教師を目指す学生が英語教育への実践的応用を行えるよう配慮も行います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 音声学の基礎知識 (音声と音素, 調音器官, 音韻体系) を理解すること
2. 英語の分節素 (子音・母音) の調音方法を理解し, これを発音・聞き取りに活かせること
3. 英語の音変化 (連結・同化・脱落) の仕組みを理解し, これを発音・聞き取りに活かせること
4. 英語の超分節素 (アクセント, リズム, イントネーション) の相互関係について理解し, これを発音・聞き取りに活かせること

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
音声学の基礎知識	音声と音素, 調音器官, 音韻体系について全く理解できていない。	音声と音素, 調音器官, 音韻体系について部分的に理解している。	音声と音素, 調音器官, 音韻体系について理解している。	音声と音素, 調音器官, 音韻体系について理解しており, 運用等の実践的応用に活かしている。
英語の分節素	調音の方法を理解できておらず, 明瞭に発音できない。	調音の方法を理解しており, 意識しているが, 明瞭に発音できない。	調音の方法を理解しており, 意識しながらであれば, 子音・母音を明瞭に発音できる。	調音の方法を意識せずとも, 子音, 母音を明瞭に発音できる。
英語の音変化	音変化の仕組みを理解できておらず, 連続音声の発音・聞き取りに利用できていない。	音変化の仕組みを理解しており, 意識しているが, 連続音声の発音・聞き取りに利用できていない。	音変化の仕組みを理解しており, 意識しながらであれば, 連続音声の発音・聞き取りできる。	音変化の仕組みを意識せずとも, 連続音声の発音・聞き取りができる。
超分節素	アクセント, リズム, イントネーションについて全く理解できていない。	アクセント, リズム, イントネーションについて部分的に理解している。	アクセント, リズム, イントネーションをすべて理解し, ゆっくりと考えながらであれば運用等の実践的応用に活かせる。	アクセント, リズム, イントネーションをすべて理解し, 運用等の実践的応用に活かせる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション: 音声学, 音韻論と形態論とは

- 第 2 回 [偶] 閉鎖音について (オンデマンド) / [奇] 日英語の音声的差異 (対面)
- 第 3 回 [偶] 閉鎖音の練習 (対面) / [奇] 閉鎖音について (オンデマンド)
- 第 4 回 [偶] 鼻音, 摩擦音について (オンデマンド) / [奇] 閉鎖音の練習 (対面)
- 第 5 回 [偶] 鼻音, 摩擦音の練習 (対面) / [奇] 鼻音, 摩擦音について (オンデマンド)
- 第 6 回 [偶] 破擦音, 側音, 半母音について (オンデマンド) / [奇] 鼻音, 摩擦音の練習 (対面)
- 第 7 回 [偶] 破擦音, 側音, 半母音の練習 (対面) / [奇] 破擦音, 側音, 半母音について (オンデマンド)
- 第 8 回 [偶] 母音について (オンデマンド) / [奇] 破擦音, 側音, 半母音の練習 (対面)
- 第 9 回 [偶] 母音の練習 (対面) / [奇] 母音について (オンデマンド)
- 第 10 回 [偶] 音声変化について (オンデマンド) / [奇] 母音の練習 (対面)
- 第 11 回 [偶] 音声変化の練習 (対面) / [奇] 音声変化について (オンデマンド)
- 第 12 回 [偶] プロソディについて (オンデマンド) / [奇] 音声変化の練習 (対面)
- 第 13 回 [偶] プロソディの練習 (対面) / [奇] プロソディについて (オンデマンド)
- 第 14 回 [偶] 日英語の音声的差異 (オンデマンド) / [奇] プロソディの練習 (対面)
- 第 15 回 授業のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実技試験

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・発音の実技を伴うことを鑑み教室内の「密集」を避けるため, 学籍番号の奇数偶数を基にしたグループ分けを行った上でブレンド授業を行います。
- ・日英語の比較を通じて, 英語音声学・音韻論を中心に適宜, 形態論の基礎知識を学びます。
- ・各自のスマートフォンやタブレット端末を用いて, 発音練習を行います。
- ・英語の聞き取り教材などを通して, 聴解能力を鍛えます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・必ず授業時間外に発音の自主訓練 (毎日20分) を行うこと
- ・前回までの復習をしておくこと (毎対面授業開始時, 確認テストがあります)
- ・次回の予習をしておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内提出物 (45%), 確認テスト (15%), 実技試験 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

30分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。
遅刻3回で欠席1回分とし, 欠席が5回になった時点で単位取得を認めません。

やむを得ず欠席・遅刻する場合は、必ず担当教員に事前にメール等で知らせてください。

なお、テキストの「オリジナル教材」については、第1回目の授業で配布する予定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

教員によるオリジナル教材

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本語で覚えるネイティブの英語発音』/島岡丘(監修)・島岡良衣/ダイヤモンド社/2013/9784478024287

『ルミナス英和辞典：つづり字と発音解説』/竹林滋・斎藤弘子/研究社/2005/9784767404127

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども英語指導法（実践編）

EGR2252N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 2限

DP2：知識・理解力

60

田縁 眞弓

〔科目の教育目標（Course Description）〕

児童を対象に如何に4技能をバランスよく指導するかを実践を通して学ぶ。中でも、児童英語教育に関する基本的知識・理論・指導技術を自身の英語力の向上を図りながら身に着けることを目指す。

具体的には以下の項目を児童英語教授法とともに

毎回スパイラルに取り上げていくものである。

①必要な教室英語の聴解力

②クラスルームイングリッシュとティーチャートーク

③児童英語の専門知識とそれを英語で理解する読解力

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

児童英語で主に取り扱う音声インプットの具体的な指導法を学ぶとともに、指導者に求められる英語力の向上を図る。今後、豊富に入手できるであろうICT教材の効果的な活用法も考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

オリエンテーション 本講義の指導内容をもとに、各自どのような学習方法がふさわしいかを検討するとともに、理論の整理や本分野のでこれまでの実践内容を知る

第 2 回 言語習得論を踏まえての指導

Unit1 目的に合った活動 児童を対象とした様々な活動紹介

第 3 回 効果的なチームティーチングとは

Unit2 教室におけるティーチャートークとチームティーチング
教室英語の実際と T T の役割

第 4 回 リスニングの指導

リスニング指導の理論と指導法

第 5 回 リスニングの指導（演習）

前時の学びをもとに実習

第 6 回 スピーキングの指導

スピーキング指導の理論と指導法

第 7 回 スピーキングの指導（演習）

前時の学びをもとに実習

第 8 回 リーディングの指導

リーディング指導の理論と指導法

第 9 回 リーディングの指導（演習）

前時の学びをもとに実習

第 10 回 ライティングの指導

ライティング指導の理論と指導法

第 11 回 ライティングの指導（演習）

前時の学びをもとに実習

第 12 回 絵本を使った指導

4技能統合指導 読み聞かせの方法

第 13 回 思考判断表現力を高める英語指導

CLIL 指導 発表活動

第 14 回 児童英語と評価

英語力をどのように見取るか 学習目標と評価

第 15 回 模擬授業

学んだことを生かし模擬授業を実践

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

オールイングリッシュでの指導を身に着けることを通して、児童英語指導者としての英語運用力をあげる。

児童英語の指導のための理論をもとに自らの英語学習の自己調整力を高め、目的に沿った指導案が作成できる力を身に着ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキスト、授業時に配布するプリントの予習、復習を毎時行い授業に参加すること。

また、発表活動時には十分な準備をして発表に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 30%

小テスト 10%

発表 20%

中間 児童英語指導理論の基礎知識テスト (20%)

期末 児童英語指導のための効果的な教材作成 (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Let's have fun teaching English』/小原弥生ほか/南雲堂/2019年

『Enjoy Phonics!』吉田晴世 増進堂

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

文部科学省 Let's Try! 2 We Can! 1 2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

元文部科学省小学校外国語新教材作成委員

各都道府県教育委員会外国語アドバイザー

私立小学校英語科専科スーパーバイザー

こども英語指導法 (理論編)

EGR2202N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜2限

DP2 : 知識・理解力

60

田縁 眞弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

平成30年に早期化／教科化を控えた小学英語を視野に、こどもに英語を指導する際の指導法を、主にその理論を中心に学ぶものである。また、母語習得と第2言語習得理論を踏まえて、どのように効果的にこどもに英語を指導するかも考える。小学校英語を取り巻く具体的な状況を知り、幼児を対象にした指導や、民間の児童英語でそれを支える場合に必要とされる指導に関しても考察する。

①音韻認識を高める指導

②TPRを使った指導

①アルファベットの文字や単語などの認識、

②国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気づき、

③語順の違いなど文構造への気づき等を促す指導を行う

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英語は日本語とは違う音がたくさんある言語であるため、英語独特の音に慣れておくことで、様々な英語学習が効果的に、スムーズに進む。その土台となる音声指導法(フォニックス=「音」と「意味」と「文字」の関係を学ぶ)のルールを理解し、子供たちに指導できるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
- オリエンテーション 児童英語の現状と課題
- 第2回 音声指導と音韻認識
- Unit1 The Alphabet
- 第3回 アルファベットプリンシパルの指導
- Unit2 Phonics Alphabet 様々なジングル
- 第4回 トップダウンとボトムアップアプローチ(1)
- Unit3 Consonants 歌やチャンツを使っての指導①
- 第5回 トップダウンとボトムアップアプローチ(2)
- Unit4 Short Vowels 歌やチャンツを使っての指導②
- 第6回 絵本を使ってのリタラシー指導
- Unit5 Silent e 絵本の指導①
- 第7回 絵本を使ってのCLIL指導
- Unit6 Polite Vowels 絵本の指導②
- 第8回 指導案作成とカリキュラム
- Unit7 Consonant Digraphs 小学校の様々なカリキュラム
- 第9回 教材教具研究
- Unit8 Vowel Digraphs テキストブック ICT教材
- 第10回 教材教具研究
- Unit9 Consonant Blends ワークシート
- 第11回 アクティビティ紹介
- Unit10 Murmuring Vowels 目的に合った様々な活動
- 第12回 児童英語と評価
- さまざまな評価方法
- 第13回 模擬授業(1)

絵本の読み聞かせの模擬授業

第 14 回 模擬授業 (2)
歌やチャンツを使った模擬授業

第 15 回 模擬授業 (3)
アクティビティ実習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期テストに代えて授業内で模擬授業および教材提出などを求める

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

児童に英語を指導することを前提にそこで必要とされる英語力をつける。

第2言語習得論と母語習得論を指導実習を通して実践的に学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキスト、授業時に配布するプリントの予習、復習を毎時行い授業に参加すること。

また、発表活動時においては十分な準備をして発表に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 30%

小テスト 10%

発表 20%

中間 児童英語指導の基礎知識テスト (20%)

期末 児童英語指導のための教材作成 (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

発表活動の日程、Review 1 の日程については授業の進行状況に併せて調整する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Enjoy! Phonics 1 』/吉田晴世/受験研究社/2016年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

文部科学省 Let's Try 1 2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

元文部科学省小学校外国語新教材作成委員
各都道府県教育委員会外国語アドバイザー
私立小学校英語科専科スーパーバイザー

コミュニケーション学概論 A

EGF2202A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

必修

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、社会行動科学の1分野としてのコミュニケーション学の基礎を理解し、人間のコミュニケーション活動の過程と影響について理解を深めることを目的に、コミュニケーション学の諸分野である記号論、コミュニケーション哲学、対人コミュニケーション、関係コミュニケーション、グループコミュニケーション、社会的影響、メディアコミュニケーション(ジャーナリズム)、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション等について、その基礎理論を概観する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 社会科学の一分野としてのコミュニケーション学の理論的基盤と諸理論を概観すること。
2. 人間のコミュニケーションの成り立ち、過程、影響について理解すること。
3. 自らのコミュニケーション行動および能力を客観的に観察する能力を身につけること。
4. コミュニケーションに関する知識と理論的な理解を自らのコミュニケーション能力向上へ結びつけられるスキルを身につけること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入: コミュニケーションとは? / 社会科学としてのコミュニケーション学とは?
- 第 2 回 コミュニケーション・プロセスとコミュニケーション・モデル

- 第 3 回 コミュニケーションの起源 / 社会認知能力とコミュニケーション
- 第 4 回 言語とコミュニケーション(1): 言語記号の特質
- 第 5 回 言語とコミュニケーション(2): 意味の伝達
- 第 6 回 非言語コミュニケーション
- 第 7 回 認識とコミュニケーション
- 第 8 回 前半のReviewと中間試験
- 第 9 回 説得のコミュニケーション
- 第 10 回 対人コミュニケーション
- 第 11 回 小集団コミュニケーション
- 第 12 回 葛藤管理コミュニケーション
- 第 13 回 異文化コミュニケーション
- 第 14 回 メディアとコミュニケーション
- 第 15 回 コミュニケーション能力とは(総括)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義科目であり、指定されたトピックについて教科書を熟読し、講義を受講し、これらの活動を通して得た知識を授業内演習やディスカッションによって定着させていく方法をとる。また、講義全体を通して学習した理論的な理解を応用し、実際のコミュニケーション現象を分析することによってさらに理解を深めていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書の熟読、および、自らの理論的枠組みの構築

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、演習課題 (25%)

試験 x 2 (50%)

論文 (25%)

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『入門コミュニケーション論』/宮原哲/松柏社/2006/9.784775401156E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『コミュニケーション学への招待』/橋本良明/大修館書店/1997/9.784469212143E12

『A First Look at Communication Theory』/Em Griffith/McGraw-Hill/2011/9.780073534305E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

コミュニケーション学概論B

EGF2202B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期集中

その他

DP2: 知識・理解力

90

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、社会行動科学の1分野としてのコミュニケーション学の基礎を理解し、人間のコミュニケーション活動の過程と影響について理解を深めることを目的に、コミュニケーション学の諸分野である記号論、コミュニケーション哲学、対人コミュニケーション、関係コミュニケーション、グループコミュニケーション、社会的影響、メディアコミュニケーション(ジャーナリズム)、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション等について、その基礎理論を概観する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 社会科学の一分野としてのコミュニケーション学の理論的基盤と諸理論を概観すること。
2. 人間のコミュニケーションの成り立ち、過程、影響について理解すること。
3. 自らのコミュニケーション行動および能力を客観的に観察する能力を身につけること。
4. コミュニケーションに関する知識と理論的な理解を自らのコミュニケーション能力向上へ結びつけられるスキルを身につけること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 導入: コミュニケーションとは? / 社会科学としてのコミュニケーション学とは?

第 2 回 コミュニケーション・プロセスとコミュニケーション・モデル

第 3 回

コミュニケーションの起源 / 社会認知能力とコミュニケーション

- 第 4 回 言語とコミュニケーション (1): 言語記号の特質
- 第 5 回 言語とコミュニケーション (2): 意味の伝達
- 第 6 回 非言語コミュニケーション
- 第 7 回 認識とコミュニケーション
- 第 8 回 前半のReviewと中間試験
- 第 9 回 説得のコミュニケーション
- 第 10 回 対人コミュニケーション
- 第 11 回 小集団コミュニケーション
- 第 12 回 葛藤管理コミュニケーション
- 第 13 回 異文化コミュニケーション
- 第 14 回 メディアとコミュニケーション
- 第 15 回 コミュニケーション能力とは (総括)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義科目であり、指定されたトピックについて教科書を熟読し、講義を受講し、これらの活動を通して得た知識を授業内演習やディスカッションによって定着させていく方法をとる。また、講義全体を通して学習した理論的な理解を応用し、実際のコミュニケーション現象を分析することによってさらに理解を深めていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書の熟読、および、自らの理論的枠組みの構築

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、演習課題 (25%)

試験 x 2 (50%)

論文 (25%)

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『入門コミュニケーション論』/宮原哲/松柏社/2006/9.784775401156E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『コミュニケーション学への招待』/橋本良明/大修館書店/1997/9.784469212143E12

『A First Look at Communication Theory』/Em Griffith/McGraw-Hill/2011/9.780073534305E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

プレゼンテーション概論

CSA2305N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 3限

DP3: 言語力

60

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、実社会でのプレゼンテーションの方法論を把握し、実践へ応用するための素地を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. プレゼンテーションの型に関する基礎の習得
2. プレゼンテーションの事前準備に関する基礎の習得
3. 視覚資料作成に関する基礎の習得
4. チームでするプレゼンテーションの基礎の習得
5. 話す基礎技能の習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
プレゼンテーションに実務に関する基礎力	プレゼンテーション実務の基礎を理解していない。	プレゼンテーション実務の基礎を理解している。	プレゼンテーション実務の基礎を理解し、おこなうことができる。	プレゼンテーション実務全般を理解し、基礎的なことが十分にできる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
プレゼンテーションとは
- 第 2 回 目的と聴衆分析
身近な例での演習
- 第 3 回 企業と商品の研究
プレゼンテーションをする商品等に関する調査と報告
- 第 4 回 聴衆分析と型
プレゼンテーションの準備と報告
- 第 5 回 構成
プレゼンテーションの準備と報告
- 第 6 回 事前の準備
事前の準備の方法の把握と報告
- 第 7 回 視覚物
パワーポイント・配布資料と報告
- 第 8 回 視覚物の作成
視覚物の作成と報告
- 第 9 回 プレゼンテーションの準備
準備と報告
- 第 10 回 非言語
望ましい方法の理解と実践練習
- 第 11 回 プレゼンテーションのリハーサル①

- プレゼンテーション演習、少人数での実践と相互評価、本番に向けての準備
- 第12回 プレゼンテーションのリハーサル②
プレゼンテーション演習、少人数での実践と相互評価、最終調整
- 第13回 プレゼンテーション実践①
最終のプレゼンテーション
- 第14回 プレゼンテーション実践②
最終のプレゼンテーション
- 第15回 プレゼンテーション実践③
最終のプレゼンテーション

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実社会でのプレゼンテーションに関する準備、練習の方法を理解し、理解したことを直ちに実践することを通して、具体的な方法の把握とともにプレゼンテーション実務に関する基礎を習得する。具体的には、基本的に、毎回、講義、演習、振り返り、全体での共有（学習、調査、思考等の言語化）をする。これらを通して、実社会でのプレゼンテーションに関する知識と技能を向上させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の課題を次回までに準備しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート 30%

最終のプレゼンテーション30%

授業への参加/貢献 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・進行状況等によって、随時、内容・方法を調整していく。
- ・授業全体でプレゼンテーションを作り上げていくため、参加が重要である。

- ・ゲスト講師による授業を行うこともある。

- ・フィールドワークに出る場合がある。その場合、交通費等が必要である。

- ・全体での報告、プレゼンテーションの際に、随時、フィードバックがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ビジネスプレゼンテーション改訂版』/武田秀子編/実教出版/2011/4407322616/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ビジネスプレゼンテーション 改訂版』/武田秀子/実教出版/2011/

『Power Point スライドデザイン』宮野公樹/化学同人/2009/

『プレゼンテーション zen デザイン』/レイノルズ, G/ピアソン桐原/2010/

『ビジネス・プレゼンテーション 101の鉄則』Tim Hindle/ピアソン・エデュケーション/2002

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」 社会人に対するセミナー（プレゼンテーション）講師経験あり。

ホテルビジネス研究

EGR4500N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

90

集中

坂下 正憲

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ホテルを一企業として取り上げ、現代の企業の仕組みや取り組みを理解して、自分が携わっている仕事が他の部署や顧客にどのように関わっているか、相手の事情や環境を踏まえて自分の行動を考える力をつける。ホスピタリティとは何かを本質的に理解することが出来る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・宿泊産業の始まりから現在の課題まで時系列的に理解する。

- ・ホテル事業の基礎的な事業知識やその実態について学ぶ。

- ・ホテルビジネスがどのような構造で成り立っているかを理解する。

- ・ホテルチェーンについて理解し、日系ホテルと外資系ホテルの違いを考察する。

- ・ホテルビジネスが将来に求められているものは何かを自分で考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	毎講義後、講義内容をまとめて小レポートを提出する	理解できていない点を明確に質問出来る。	講義の流れを理解し、自分で疑問点を解消することが出来る。	学習したことを踏まえて、将来の課題やありかたを論じることが出来る。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション

講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。

第2回 宿泊産業の歴史①世界

世界のホテル歴史や発展を思い起し、日本のホテル業界が受けた影響や、現在抱えている問題点などが浮き彫りにされる視点で説明を行う。

第3回 宿泊産業の歴史②日本（奈良時代から第二次世界大戦まで）

- 日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。
- 第 4 回 宿泊産業の歴史③日本（戦後から現在まで）
前回到引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテル歴史について、様々なエピソードを交えて説明を行う。
- 第 5 回 現代の宿泊産業
日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な問題が生じており、決して楽観視出来るような環境ではない。現代の宿泊産業の課題と問題点について説明を行っていく。
- 第 6 回 ホテルビジネスの特性
ホテル事業を分かり易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他事業との相違を交えて説明を行う。
- 第 7 回 ホテルの経営方式
ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の形態も存在する。そうした形態の特徴や問題点について説明を行う。
- 第 8 回 チェーンビジネスの基本・方式
ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統轄する本部に必要な機能は、どのようなものなのかについて述べる。
- 第 9 回 世界のホテルチェーン
世界のホテルチェーンビジネスの始まりと現状について学び、世界の主要なホテルチェーンの概要を説明する。
- 第 10 回 日本のホテルチェーン
日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。
- 第 11 回 日本の宿泊産業（旅館業法と分類、評価）
日本の宿泊産業はどのような法律により規制されているのか、どのように分類されているのかを学び、様々な日本の宿泊施設の種類やその特徴などを説明する。
- 第 12 回 ホテルの収益構造
ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。
- 第 13 回 ホテルの仕事と組織①（組織の基本形と宿泊部門）
ホテルの組織は、ホテルタイプによってその内容は変わるが、それぞれの部門での種類や特徴などについての説明を行う。そして組織を理解したうえで各部門別の具体的な業務内容の説明を行う。今回は宿泊部門。
- 第 14 回 ホテルの仕事と組織②（料飲、宴会、調理、管理部門）

- 前回到続き、料飲、宴会、調理および管理部門について具体的な業務内容の説明を行う。
- 第 15 回 形成テストと全体のまとめ
全体のまとめと形成テストを行う。
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義形式で授業が実施される。
講義ごとに小レポートを提出するので、理解できたこと出来なかったことを明確にする。
小レポートについては、次の講義冒頭にフィードバックを行う。質問についても対応するので、積極的に質問する事。講義をより効果的に理化できるようビデオ等視覚材料も活用する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
最初に全講義分の資料をコピーして配布するので、毎回事前に読んでおくこと。
興味のある事や質問などをまとめておくこと効率的に理解することが出来る。
また、常にホテル・宿泊産業に関するニュースや記事に接しておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業態度（25%）、小テスト・レポート（25%）、形成テスト（50%）に基づいて、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
テキストは使用せずパワーポイントに沿って講義する。必要に応じて資料としてコピーを配布する。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『現代ホテル経営の基礎理論』/岡本伸之/柴田書店/1977/
『ホテル事業論』/作古貞義/柴田書店/2002/
『ホテル・ビジネス・ブック』/仲谷秀一・杉原淳子・森重喜三雄/中央経済社/2016/
『ホテル業界大研究』/中村正人/産学社/2016/
『よくわかるホテル業界』/土井久太郎/日本実業出版社/2009/
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
航空会社において、旅行代理店やホテルとの折衝や国内外での豊富な観光経験を有する

マルチメディア演習

CSA2415N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP4：思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

ウェブサイトや印刷物など様々な媒体で発信される視覚情報を、自らも制作・表現できる為の技術と知識を習得する。また、制作した課題の合評を行うことにより、情報発信者としての在り方と論理的なデザインの構築能力を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

演習、課題を通してデジタル画像編集ソフト Adobe Photoshopの知識と技術を習得し、Webデザインや印刷物など様々な媒体で活用できる、魅力的かつ効率的な視覚情報の発信力を身につける。

1) Adobe Photoshop基本操作

- ・画面構成
- ・レイヤーの概念

2) 外部画像の取り込みと編集

- ・保存形式
- ・色調補正
- ・トリミング

3) テキスト入力／編集

- ・文字ツール活用

4) デザイン補助機能活用

- ・ベジェ曲線

5) 中間課題：フライヤーデザイン

- ・画像解像度
- ・完成課題作品のプレゼンテーション

※印刷を目的とした画像編集を行うことにより、

web上での使用を目的とした画像編集（最終課題）との違いを明確化し、理解を深める

6) 最終課題：オリジナルWebページの企画、編集、デザイン

- ・オリジナルWebページのデザインデータを作成
- ・完成課題作品のプレゼンテーション

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力 (macOSの操作)	PCの起動、終了など、macOSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのmacOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用や、環境設定の変更、周辺機器（プリンタ、スキャナなど）を適切に利用することができる	OS、バージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える
知識・理解力 (演習用ソフトウェアの操作)	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、総合的なコンテンツを作成することができる
思考・解決力 (情報の検索・収集・編集)	演習や課題に必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、Adobe Photoshop基本操作（画面構成、レイヤーの概念）
- 第 2 回 外部画像の取り込みと編集 1（保存形式の理解を含む）
- 第 3 回 外部画像の取り込みと編集 2（色調補正、トリミング他）
- 第 4 回 外部画像の取り込みと編集 3（画像加工、編集）
- 第 5 回 テキストの入力と編集（文字ツール、文字パネル、文字編集）
- 第 6 回 デザイン補助機能の活用（ベジェ曲線の解説や、ペンツール、アンカーポイントの追加と削除など）
- 第 7 回 印刷を目的とした画像編集（画像解像度、書き出し）
- 第 8 回 中間課題制作：フライヤーデザイン（課題説明、制作）
- 第 9 回 中間課題制作：フライヤーデザイン（制作、個別サポート）
- 第 10 回 中間課題合評（完成課題作品をプレゼンテーション）
- 第 11 回 最終課題制作：オリジナルWebページの企画・デザイン（課題説明、制作）
- 第 12 回 最終課題制作：オリジナルWebページの企画、編集、デザイン（制作）
- 第 13 回

最終課題制作：オリジナルWebページの企画、編集、デザイン（制作、個別サポート）

第 14 回 最終課題制作：オリジナルWebページの企画、編集、デザイン（制作、個別サポート、合評準備）

第 15 回 最終課題合評（完成課題作品をプレゼンテーション）、講評、個別サポート

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

毎回の授業の前半60分ではAdobe Photoshopの機能を実習形式で紹介、後半30分ではその機能を活用した演習課題制作を行う。

また、中間課題ではフライヤーデザインを、最終課題ではウェブページデザインを制作することにより、印刷物とインターネットという2種類のメディアの差異を理解し、それぞれに対応した画像編集技術を身につける。

中間、最終課題は完成作品のプレゼンテーション、および合評を行い、個別質疑・ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

〔課題〕

授業毎の課題、中間課題、最終課題制作が授業時間内に完了しなかった場合は、各自で取り組むこと。

〔その他〕

日常生活で目にするデザイン物（チラシ、車内吊り広告、Webページ等）を意識して見てどこが参考になるか、逆にどこを修正すべきか、などを考えておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（15%）、授業毎の課題提出（15%）、中間課題の完成度（30%）、最終課題の完成度（40%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

人数制限：18名、Adobe Illustrator、InDesignの技術を習得する「グラフィックデザインと冊子制作」科目も併せて履修する事が望ましい

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Photoshop しっかり入門 増補改訂版【CC完全対応】[Mac & Windows 対応]/まきの ゆみ /SBクリエイティブ/2018/5/22/4797397241

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務経験あり。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

異文化間コミュニケーション

EGL3456N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜1限

DP4：思考・解決力

60

「異文化間コミュニケーション」「Intercultural Communication and Adjustment」のうち、いずれか一方の単位を修得すると、他方を履修することはできない

守崎 誠一

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本講義では、文化背景の異なる人々間のコミュニケーションについて理解を深め、より効果的な異文化間コミュニケーションに必要とされるものについて考察する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

異文化間コミュニケーション学は、欧米で創始・発展した学問であるため、それら欧米の文化・社会・歴史と日本のならびにアジア圏の文化・社会・歴史を比較・検討することで、文化・社会・歴史によって人々のコミュニケーション行動の「何が」「どのように」「どのくらい」異なっており、そのような違いが、文化・社会・歴史のどの側面によって引き起こされているのかについて学習する。また、そのような違いを克服するために、認知、情動、行動（スキル）の各側面で、何が必要とされるかについても学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	異文化に関心を持つ	異文化を理解しようとする	積極的に異文化に関わろうとする	異文化との関わり合いによって、自身をよりよく変えていく
知識・理解力	受動的に知識を獲得し、理解をおこなう	能動的に知識を獲得し、理解をおこなう	学んだ知識や理解を基にして、自主的に新たな学びや理解に挑戦する	獲得した知識・理解を応用できるようになる
言語力	もっぱら授業を聞いていだけで発言をしない	質問されたことに対しては発言をする	自ら積極的に発言をする	自ら問題を見つけて、それについて考え、独自の意見・考えを発言する
思考・解決力	与えられた情報を受け取るだけで、主体的	与えられた問題や課題に対しては	自ら主体的に問題を見つけて、それについて	自ら主体的に問題を見つけて、それについて

	な思考をおこなわない	思考をおこなう	思考をおこなう	思考し、解決していく
共生・協働する力	教員と共に学ぼうとする	友人たちとも一緒に学ぼうとする	文化背景の異なる人とも積極的に関わろうとする	文化背景の異なる人と積極的に関わりあい、創造的な活動をおこなう
創造・発信力	テストを受ける	レポートを作成できる	レポートの内容に創造性を加える	文化の多様性を理解したうえで、独自性のある情報発信ができるようになる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
異文化間コミュニケーションとは？
異文化コミュニケーション研究の歴史
- 第 2 回 言語コミュニケーション
言語とは何か？
言語と文化の関係
コミュニケーションスタイル
- 第 3 回 非言語コミュニケーション (1)
非言語コミュニケーション研究の歴史
表情研究
- 第 4 回 非言語コミュニケーション (2)
ジェスチャーとエンブレム
接触、対人距離、対人空間
時間の概念
- 第 5 回 スキーマ、ステレオタイプ、偏見、差別
帰属とステレオタイプの関係
ステレオタイプ、偏見、差別の違い
IAT
- 第 6 回 カルチャーショックと適応
カルチャーショック研究の歴史
カルチャーショックのメカニズム
カルチャーショックのプロセス: Uカーブ仮説、Wカーブ仮説
異文化適応に影響を与える要素
- 第 7 回 認知科学から見た異文化間コミュニケーション
認知科学とは？
スキーマ理論とは？
スキーマ理論から見た異文化間コミュニケーション
- 第 8 回 価値観
価値観とは？
人は、どのように価値観を形成していくか
価値観と文化の関係
- 第 9 回 しつけや教育がコミュニケーション行動に与える影響

- 受容的勤勉性vs.自主的選好性
自己主張vs.がまん
自己主張vs.自尊心
- 第 10 回 異文化集団間におけるコミュニケーション理論
社会理論とは何か？
社会理論の役割
異文化間コミュニケーション理論
伝統的な異文化間コミュニケーション理論
グループ間コミュニケーションからの異文化間コミュニケーション理論
- 第 11 回 組織内異文化間コミュニケーション
組織とは何か？
組織に対する文化の影響
欧米の組織システムvs.日本の組織システム
リーダーシップ——関係指向型リーダーvs.職務・課題指向型リーダー
リーダーシップと動機づけ
仕事に対する文化の影響 (日米比較)
企業の国際化と異文化間コミュニケーション問題
- 第 12 回 異文化間コミュニケーション学から見た下位文化間コミュニケーション (1)
異文化間コミュニケーションとしての健常者と障がい者のコミュニケーション
- 第 13 回 異文化間コミュニケーション学から見た下位文化間コミュニケーション (2)
コミュニケーションにおける性差
異文化間コミュニケーションとしての男女のコミュニケーション
- 第 14 回 異文化間コミュニケーション研修と教育 (1)
異文化間コミュニケーション研修と教育の歴史的变化
- 第 15 回 文化間コミュニケーション研修と教育 (2)
ジェーン・エリオットの差別体験授業
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
定期試験を実施する
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
各回、授業に参加する前に教科書 (一部については、事前配布のプリント) の必要部分を事前に読んでくること。
教科書に書かれていること以外についても授業では取り上げるので、それらを含めて適宜ノートを取ることを。
定期試験では、問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えを論理的・説得的に論じることを求めるので、授業で学習したことを単に暗記するのではなく、自ら主体的に考える。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
授業初日に配布する詳細なシラバスによって、各回に教科書のどの部分を学ぶのかを事前に知らせるので、当該部分を必ず授業前に読んでくること。教科書を使用しない場合は、事前にプリント等を配布するので、それについても授業前に読んでくること。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60分

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験60%、宿題・授業中の課題40%

定期試験については、問われている質問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えが論理的・説得的に論じられているかを評価の対象とします。

宿題・授業中の課題については、授業内で学習した内容を基に適切な解答が行われているかどうかを評価の対象とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内容の詳細および授業の進め方について、授業の初日に説明します。ですので、授業初日に必ず出席をしてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『異文化間コミュニケーション入門』西田ひろ子編 創元社 2000年 ISBN:4422310224 学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献については、授業初日に配布するより詳細なシラバスの中で紹介するとともに、授業内でも適宜紹介をします。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

医療サポート英語 I

EGR2300N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

水曜 2限

DP3 : 言語力

60

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本学が京都府立医科大学と提携した契機に、本学が今まで取り組んできたホスピタリティを基盤に語学力のある高度な医療サポートスタッフの養成を考えている。まずは、将来の医療現場で役立つような医学的英語の基礎力をこのクラスでは養成する。特に病院での受付を英語でできるように訓練する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 医療関係英語語彙の習得
2. 医療に使われる基本的英語フレーズの習得
3. 医療現場で役立つ実践的英語の基礎力養成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	医療英語を学べない。	医療英語を少し学べる。	簡単な医療英語を使える。	医療英語を様々な場で使える。

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 専門科と専門医の名称の英語

第 3 回 身体の部位名

第 4 回 筋骨格系部位名

第 5 回 筋肉と骨の症状、骨粗鬆症等

第 6 回 循環器系

第 7 回 呼吸器

第 8 回 高山病等

第 9 回 消化器系

第 10 回 肝臓疾患を中心に

第 11 回 症状の英語

第 12 回 受付と診察の英語

第 13 回 病状と治療の英語

第 14 回 全体のまとめと総合復習

第 15 回 病院実習のための英語

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 医療文献のリーディング
2. 語彙テスト
3. フレーズの練習
4. ロールプレイ
5. 医療英語演習
6. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 医療語彙学習
2. 予備的医療知識習得
3. CDでの練習
4. 課題準備

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度 30%、課題 30%、クイズ 10%、試験 30% で総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

学生のレベルによって中身が変わる可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Because We Care』/Inoue & Ihara/センゲージラーニング///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『講義録 医学英語 I』/清水雅子/メディカルビュー社/2011年/

『そのまま使える病院英語表現 5000』/仁木久恵等/医学書院/2009年/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

映画論

EGL3450N1J
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次 3年次 4年次
 2単位 後期
 火曜 4限
 DP4：思考・解決力
 60
 集中
 須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

まだ誕生して100年そこそこのメディアである映画をフェミニズムの視点で読みこなしてみようと思う。もともと映画は男性の規範だけで書き込まれた言説の一つであったわけだが、第2次世界大戦のときに期待できる観客が女性しかいなくなってしまう、女性が主役である「女性映画」というものが誕生することになる。かくして『風と共に去りぬ』の誕生である。「女性映画」を中心に映画とはどういうメディアなのかをしっかりと学ぶコースである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 近代史と映画という文化の理解
2. 映画というメディアの把握
3. 女性映画誕生の背景の理解
4. フェミニズム批評研究

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	観た映画について全く考えることができない。	観た映画について漠然としか考えない。	観た映画のテーマや意味を理解できる。	観た映画について自分の意見をまとめ発表することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 映画の歴史
- 第 3 回 映画の中の女性像と『ステラ・ダラス』
- 第 4 回 女性映画の中の母子もの映画
- 第 5 回 『ギルダ』とフィルム・ノワール
- 第 6 回 ファムファタールと意外な三角関係
- 第 7 回 究極のメロドラマ『忘れじの面影』
- 第 8 回 切り返しショットで回収されることのない男のまなざし
- 第 9 回 『レベッカ』と悪夢のシンデレラ物語
- 第 10 回 ヒッチコック作品における不可視な女
- 第 11 回 『風と共に去りぬ』と南北戦争
- 第 12 回 『風と共に去りぬ』の仕掛け
- 第 13 回 聖女とファムファタール
- 第 14 回 フェミニズム批評と映画
- 第 15 回 まとめとその他

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 映画観賞のあと講義形式をとる。
2. 積極的授業の参加を求める。
3. 観賞メモと、話し合いのレポート提出を求める。試験あり。
4. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

観た映画の情報を整理することと、レポート提出のために準備が必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、試験 (50%)、レポート (20%) である。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『The Desire to Desire』/Mary Ann Doane/Indiana Univ.Press/1987年/

『フェミニスト映画/性幻想と映像表現』/E.アン・カプラン/田畑書店/1985年/

『フィルム・ノワールの光と影』/編集：遠山純生/エクスクアイア・マガジン/1999年/

『A Feminist Reader in Early Cinema』/Ed. J.Bean & D. Negra/Duke Univ. Press/2002年/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語キャリア戦略

EGB1100N0J

大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 1年次
 2単位 前期
 火曜 4限
 DP1：自分を育てる力
 60
 集中
 須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースは、英語英文学科に入学してきた学生が、卒業後の夢を描いて4年間をそれぞれ充実して過ごせるように自分の可能性について考える場を提供する。教員、秘書、航空関係、ホテル、マスコミ、金融、アパレルなど将来の自分の夢を探せるように、毎回オムニバス形式でそれぞれの業界のゲストを招いて職場の話だけでなく、どういう人材

を希望しているのか、どんなことを準備してほしいのかを話してもらう。就職のための戦略を一緒に考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 講演を聴いて内容を理解できる。 2. 講演の内容を整理できる。 3. 自分の将来構想を考える。 4. 努力目標をつくれる。 5. 英語で通信及び履歴書作成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	講師のお話を聞けない。	講師のお話を十分に理解できない。	講師のお話をまとめる文章力がある。	講師のアドバイスを取り入れて行動できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 女の生き方と仕事
- 第 3 回 エアラインフロントライン
- 第 4 回 テレビデータベース作成：就職カルテを仕上げ、提出する。
- 第 5 回 テレビ等マスコミ
- 第 6 回 英語通訳及び観光ガイド
- 第 7 回 金融
- 第 8 回 観光
- 第 9 回 雑誌
- 第 10 回 新聞
- 第 11 回 通訳
- 第 12 回 エアラインセールス
- 第 13 回 ホテル
- 第 14 回 広告
- 第 15 回 総括とフィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講演をしっかりと聴く。 2. 質問を考える。 3. テーマによってグループで話し合う。 4. 課題文を仕上げる。 5. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回レポートの提出を課すので、意見をまとめる練習が要る。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度・参加度 (30%) レポート (40%) 試験 (30%) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師の都合で順番が変わる可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語の歴史

EGL2202N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜1限

DP2: 知識・理解力

60

集中

児玉 一宏

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

・英語史の基礎を学び、古英語から現代英語までの発達史について概略を論じることができる。

・現代英語の音韻・形態・文法・構文の諸相について、英語史の観点から分析できる。

・英語の外史にかかわる歴史上の出来事についての基礎的な理解ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・英語の外史(歴史上の出来事)の基本事項

・英語の語彙(「本来語」の語彙と「ラテン系」の語彙の諸特性)

・音韻・形態論(英語の音韻規則・形態規則)と英語史

・英文法と英語史

・英語構文と英語史

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 序(英語史への招待)

第 2 回 英語の歴史(英語の成立)

第 3 回 英語の歴史(古英語)

第 4 回 英語の歴史(ヴァイキング時代)

第 5 回 英語の歴史(ノルマン人の征服と中英語)

第 6 回 英語本来語の語彙とラテン系の語彙の諸特性

第 7 回 英語の歴史(中英語から近代英語へ)

第 8 回 英語の歴史(近代英語から現代英語へ)

第 9 回 英語の多様性(米語のインパクト)

第 10 回 英語の音韻・形態論

第 11 回 英語のアクセントと強勢配分規則

第 12 回 英語の語形成

第 13 回 英文法と英語史

第 14 回 英語構文と英語史

第 15 回 本講義の総括(形成テスト・まとめ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業形式は講義と演習を中心とする。授業内容の定着を図るため、適宜、確認のための小テストを行う。問題解決のためのディスカッション・グループワーク・ペアワークを実施する。授業で意識すべきことは、何よりも授業に集中し、授業内容の理解に努めること。また、復習の際に役立つようなノートのとり方を工夫することも大切。授業では、講義資料および演習用補助教材をプリントにして配布する。授業に対する質問や学習支援一般などのフィードバックについては、授業中ないしは授業後に適宜行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の講義の最後に、次回の学習内容を予告するので、その都度、指示に従って予習をしてもらいたい。講義ノートおよび講義資料を中心に、(一部参考文献も活用して) 十分な復習を行い、講義内容の定着を図ってもらいたい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、授業時の小テスト・課題 (20%)、レポート試験の成績 (50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

欠席した場合は、その日の授業内容・連絡事項を授業出席者に必ず確認し、次の授業に向けて支障がないように準備を行うこと。講義ノートを用意すること。学期中にノート提出を求めることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で講義資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『物語 英語の歴史』/P.グッデン (田口孝夫監訳) /悠書館/2011/9784903487526

『図説 英語史入門』/中尾俊夫・寺島廸子/大修館書店/1988/4469241962

授業中に適宜、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 I

EGS3500BOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目(ゼミ)は、我々が毎日当たり前のように行っているコミュニケーション活動を観察、分析するための様々な理論や方法を学び、人間のコミュニケーション過程をより深く理解し、客観的に説明できるようになることを目標とする。

上記の目標を達成するため、「コミュニケーション」を科学的、人類学的、あるいは哲学的に分析する様々な方法論の基盤を学び、自身が関心を持つコミュニケーション現象を実際に観察、分析する初歩的な技術を習得する。「研究方法論」で習得した方法論の基礎的知識をさらに深め、実践的な技術へと発展させることが最終目的となる。

また、演習を通じて、社会現象の観察眼、ことばへの繊細な感覚、異文化に対する偏見のない視点、コミュニケーションコンピテンスなどを涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

<1> 理論習得 (コミュニケーション分析のための基礎理論を概観する。)

<2> 方法論習得 (コミュニケーションを観察(データ収集)、分析するための具体的方法論を習得する):

- 言語理論による分析 (前期の主要課題となる)
- 質問紙調査(アンケート)法
- 実験デザイン
- フィールドワーク(参与者観察)法

<3> 分析演習 (上記で学習した分析方法論を用いて実際にコミュニケーション現象を分析し、これを発表する。)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to Communication Studies (概論)
- 第 2 回 方法論 1 : コミュニケーション研究方法論 概説
- 第 3 回 方法論 2 : 構成概念計測法 Revisited
- 第 4 回 方法論 3 : 質問紙調査法 (On-line Surveyを含む) Revisited
- 第 5 回 方法論 4 : 実験法 Revisited
- 第 6 回 方法論 5 : フィールドワーク法 Revisited
- 第 7 回 方法論 6 : 会話分析法 Revisited
- 第 8 回 言語理論による分析演習 1 : 発話行為論 (Speech Acts)
- 第 9 回 言語理論による分析演習 2 : 会話の含意 (Conversational Implicature)
- 第 10 回 言語理論による分析演習 3 : 表意と推意 (Explicature & Implicature)
- 第 11 回 言語理論による分析演習 4 : 比喩 (Metaphor)
- 第 12 回 言語理論による分析演習 5 : 皮肉 (Irony)
- 第 13 回 言語理論による分析演習 6 : 欺瞞 (Deception)
- 第 14 回 卒業研究Proposal中間発表 Day 1 (学籍番号順前半)
- 第 15 回 卒業研究Proposal中間発表 Day 2 (学籍番号順後半)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業: 本ゼミは、学生の発表およびディスカッションを中心とする演習形式で行われ、適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。

発表: 研究方法論およびコミュニケーションに関する学術論文についての口頭発表を行う。

卒業研究Proposal作成: 前期の間に複数のトピックを選んで簡単な分析演習を行い、後期にかけてこれを絞り込んで卒業研究のテーマを決定する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- (1) 指定されたテキスト(reading assignment)を事前に読む
- (2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。
- (3) 授業での学びを「卒業研究計画 (Proposal)」へ落とし込むため、適宜Proposalの執筆と相談を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表1 (方法論・理論のサマリー発表) 25%

発表2 (言語理論による分析演習) 25%

ディスカッションへの貢献度 20%

卒業研究 Proposal Draft 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

0

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『コミュニケーション研究法』/末田清子他/ナカニシヤ出版./2011//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『コミュニケーション学: その展望と視点』/末田清子・福田浩子/松柏社/2011/

『ことばの社会心理学』/岡本真一郎/ナカニシヤ出版/2010/

『言語理論としての語用論』/今井邦彦/開拓社/2015

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学演習 I

EGS3500COJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜 3限

DP5: 共生・協働する力

60

集中

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースは、今まで見てきた映画を、映像をメディアとした一つの芸術様式として読み直す場を提供する。その導入のために映像芸術を文学の一つの解釈として扱うことから始める。まず、小説の読解をした上で映画鑑賞をし、作品分析方法をいくつか習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 映像芸術の基本的知識の把握
2. 個別作品の深い理解
3. 映画を読む
4. 作品及び映画作家の研究方法の習得
5. 論文作成のための作品選択と資料収集

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 映画の構造
- 第 3 回 ジョイスの”The Dead”の前から 3 分の1を読む
- 第 4 回 ジョイスの”The Dead”の 3 分の 2 まで読む
- 第 5 回 ジョイスの”The Dead”の最後の 3 分の 1 を読む
- 第 6 回 ジョン・ヒューストンの『ザ・デッド』を考える
- 第 7 回 エピファニーを読む
- 第 8 回 原作と映画比較と作品分析
- 第 9 回 ヒューストン映画のアイランド的要素
- 第 10 回 ヒッチコックの『サイコ』を考える
- 第 11 回 『サイコ』の精神分析的読解
- 第 12 回 ヒッチコックの『めまい』を考える
- 第 13 回 『めまい』の深層構造
- 第 14 回 ハリウッド映画を考える
- 第 15 回 フィードバックと発表

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

- (1) 個々の作品及びスクリプトの精読
- (2) 映画観賞 (前もってクラスで観る場合と課題の場合がある。)
- (3) 個人発表
- (4) ディスカッション
- (5) 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

2. 学習方法

- (1) 授業で扱う作品は前もって配布するので、予め読んでおく。

質問に答えられるようにしておくこと。必ず作品について意見を求めるので

その準備が必要である。

- (2) 指定された映画は観なければならない。
- (3) 個々の作品についてレポートを提出する。
- (4) 発表の時間がある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

観た映画に関して、しっかりと自分の意見が言えるように準備してこなければならない。レポートの提出を求める。グループディスカッションと発表の時間がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、提出レポート60%

クラス・レスポンス40%

〔留意事項 (Other Information)〕

チームワークを考えて行動できるように、課外活動も計画あり。

定期試験はしないので、積極的授業への取り組みが不可欠である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 I

EGS3500DOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、生成文法理論に基づき、日・英語の構文分析を行います。前半は、今年度休講となった「ことばのしくみ」の要点をまとめ、生成文法理論における統語論 (いわゆる文法) の基本的な考え方と仕組みを理解します。後半は、前半で学んだ方法論を応用し、より広い範囲の文法現象を取り上げます。なぜ、そしてどのように日・英語の違いが生み出されているのかを検証していきます。最終的な目標は、学生がみずから新しいデータを発見し、それらを理論的に分析するための準備を行います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1. 生成統語論の基本的な考え方と仕組みを理解する。
- 2. 生成統語論を応用して、英語がどのように分析されてきたかを理解する。
- 3. 生成統語論を応用して、日本語がどのように分析されてきたかを理解する。
- 4. 上記を通して日・英語の共通点について考える。
- 5. 上記を通して日・英語の相違点について考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない。	先行研究をもとに観た映画について	考えた結果をゼミ生と共有し、自分の意見を	お互いの情報を交換しながら、より深い知識

		て考えようとする。	深めることができる。	を手に入れ分析能力を上げることができる。
--	--	-----------	------------	----------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 言語学のいろいろ：生成文法理論を中心に
 ・授業について説明します。
 ・言語学のさまざまな分野、生成文法の歴史と考え方を学びます。
 ・テキストの第1章を読んでおくとよいでしょう。
- 第 2 回 句の構造とXバー理論
 ・「構成素」とは何かを学びます。
 ・構成素をつくる「句」について、学校文法と比較しながら考えていきます。
 ・句を一つの形にまとめたXバー理論について説明します。
 ・テキストの第2章を読んでおきましょう。
- 第 3 回 語彙と文
 ・句の中心となる「語」について学びます。
 ・語の性質について説明します。
 ・「文」の成り立ちについて理解を深め、演習1の準備をします。
 ・テキストの第2章、第3章を読んでおきましょう。
- 第 4 回 演習1：構造
 ・さまざまな文を、「樹形図」で表す練習をします。
- 第 5 回 時制文と非時制文
 ・「定時制」をもつ文と「非時制」の違いについて考えます。
 ・時制と「名詞句」との関係の説明をします。
 ・時制と名詞句の格について説明します。
 ・テキストの第5章を読んでおきましょう。
- 第 6 回 さまざまな移動と派生
 ・文をつくり出すための「移動」、「派生」という考え方を学びます。
 ・移動の種類について簡単に説明します。
 ・名詞句の移動とその「痕跡」を中心に具体例をみていきます。
 ・テキストの第6章を読んでおきましょう。
- 第 7 回 主要部の移動
 ・文法の中でもっとも小さい単位である「主要部」の移動について学びます。
 ・主要部の移動と名詞句の移動との違いについて説明します。
 ・テキストの第7章を読んでおきましょう。
- 第 8 回 疑問文の作り方
 ・「疑問詞」の移動とその他の移動について説明します。
 ・疑問詞の移動にかかわる性質について考えます。
 ・疑問詞の移動先について説明します。
 ・さまざまな移動に関するおさらいをし、演習2

の準備をします。

・テキストの第8章を読んでおきましょう。

- 第 9 回 演習2：派生
 ・さまざまな移動を用いて、文の「派生」を図示する練習をします。
- 第 10 回 there構文
 ・いわゆる「there構文」の性質をおさらいします。
 ・there構文の性質が、文法上どのように表されるか考えます。
 ・テキストの第9章を読んでおきましょう。
- 第 11 回 代名詞の種類
 ・さまざまな名詞や「代名詞」の性質について学びます。
 ・名詞や代名詞の性質が、文法上どのように表されるか考えます。
 ・テキストの第10章を読んでおきましょう。
- 第 12 回 生成文法による日・英語の対照分析1
 ・英語と日本語の「態」と格について学びます。
 ・格と意味の解釈について説明します。
 ・教材については第11回の授業で指示します。
- 第 13 回 生成文法による日・英語の対照分析2
 ・英語と日本語の移動について学びます。
 ・移動と意味の解釈について説明します。
 ・教材については第12回の授業で指示します。
- 第 14 回 まとめとディスカッション
 ・授業の内容をまとめ、質問やディスカッションを行います。
 ・第15回に行う発表の準備をします。
- 第 15 回 研究発表
 ・自分が興味を持った文法現象について分析を行い、発表してもらいます。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
 ・レポートを提出してもらいます。
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
 ・テキストをきちんと読んで、分りにくいところはメール等で質問して下さい。
 ・一度欠席するとついて行けなくなるので、きちんと授業に参加して下さい。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 ・テキストや授業で紹介する教材をきちんと理解する必要があります。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
 ・60時間
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
 ・授業参加：20%
 ・課題：30%
 ・発表：20%
 ・レポート：30%
- 〔留意事項 (Other Information)〕
 ・e-learningによる授業が含まれます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『現代の英文法』/齋藤興雄、佐藤寧、佐藤裕美/金星堂/2007年(重版)/978-4-7647-3720-4/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・学生の進度をみて、必要に応じて指示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 I

EGS3500E0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜3限

DP5: 共生・協働する力

60

集中

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The purpose of this course is to introduce students to the major topics in sociolinguistics, the study of the relationship between language and society. Students will gain an understanding of the field of sociolinguistics and become familiar with sociolinguistic theory and methods. Students will also learn about field methods, data gathering, and analysis. In addition, students will learn how to apply sociolinguistic concepts to critical approaches to language teaching.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The course will cover a wide variety of topics in the field of sociolinguistics, which may include: regional and social language variation; language and identity, power, ethnicity, gender, sexuality, and social contexts; language attitudes, language contact, and multilingualism.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to sociolinguistics
- 第 2 回 Sociolinguistic terminology
- 第 3 回 Historical changes
- 第 4 回 Modern studies and sociolinguistic fieldwork
- 第 5 回 Variation as a symbol of regional group identity
- 第 6 回 Variation as a symbol of social class
- 第 7 回 Borrowing and language change
- 第 8 回 Attitudes toward language varieties
- 第 9 回 Social prejudice and low-status varieties
- 第 10 回 Discourse analysis
- 第 11 回 Prescriptivism and descriptivism
- 第 12 回 Language planning
- 第 13 回 Language ecology
- 第 14 回 Review and discussion
- 第 15 回 Presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

All assigned readings and classroom discussions will be in English. This is not a lecture course, and students are expected to play an active role in all classroom activities. Class activities will include discussions, presentations, and project work.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will also provide regular feedback on all written assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to do the assigned reading and prepare their answers to the discussion questions before each class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

In-class participation: 40%

Presentations: 20%

Project work: 10%

Final paper: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『An Introduction to Sociolinguistics, Seventh Edition』 / Ronald Wardhaugh and Janet M. Fuller/Wiley-Blackwell/2014/

『An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition』 /Janet Holmes/Routledge/20173/978-1138845015

『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 /John Edwards/
Oxford University Press/2013/

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語英文学演習 I

EGS3500H0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will explore the field of leadership studies with three clear outcomes in mind: 1) Students will be able to understand and explain both a general overview of leadership studies, and furthermore, discuss their own specialized area of this field; 2) Students will identify and nurture their own natural leadership abilities, while at the same time focus on and develop areas of leadership that they deem necessary for their own future; and finally, 3) Students will collaborate on developing their dissertation topic, narrow down a research question or thesis statement, propose a plan for primary research, and complete a detailed initial outline of their working plan.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

This course aims to meet the following objectives: 1) Build a learning community, 2) Create a study system using online tools for research (Evernote, Google Drive, Google Scholar, etc), 3) Start building an online annotated bibliography, and 4) Complete a detailed outline for a successful dissertation

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力 Expectations: Understand lesson contents; Identify personal interests; Choose areas to research;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

創造・発信力 Expectations: Creative Ability; Ability to brainstorm ideas; Ability to express your ideas; Ability to become a semi-expert in some area	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	------------------------------------------------------------	----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to Leadership Studies
Building a learning community
Implementing communication networks
- 第 2 回 Definitions of leadership
Looking through the literature to see what we already know
Reading, summary, discussion preparation
- 第 3 回 The Changing Nature of Leadership
- 第 4 回 Oral Presentations 1 - "What I learned abroad"
How can I identify, nurture and improve my own leadership skills?
- 第 5 回 Research on Leadership - The Relational Leader Model
- 第 6 回 Leadership Styles for Men and Women
- 第 7 回 Understanding Soft Skills of Leadership
- 第 8 回 Annotated Bibliography Oral Report
- 第 9 回 Emotional Intelligence
Social and emotional learning (SEL)
- 第 10 回 Self-awareness
Self-control
- 第 11 回 Social Awareness
Relationship Management
- 第 12 回 Global Human Resources (グローバル人材) and its relation to your future
- 第 13 回 Study Abroad Impact on Development of Skills and Changes in Beliefs
- 第 14 回 Understanding Change and Strategies for Change
- 第 15 回 Final Oral Report - "My specialization: what, why, and how"

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Seminar - Each class will be comprised of a short lecture and a discussion of the assigned readings. All members of the

learning community will take turns leading discussions. Students will complete two Oral Reports.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be prepared for discussions in two ways: 1) they must have read and understood the assigned readings, and 2) they must prepare questions and offer opinions in order to create lively and meaningful discussions.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation 40%

Annotated Bibliography Oral Report 30%

Final Oral Report 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習Ⅰ

EGS3500J0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜3限

DP5: 共生・協働する力

60

集中

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

グローバル人材育成が求められる中、学校現場においても、「自律・協同・創造」の理念のもと、生涯学び続けられる学習者を育成できるよう、教師主導型から学習者主体への転換が強く求められています。その理念のもと、主体的・対話的な深い学びを伴う学習方法が試行錯誤されています。本科目では、社会で求められている能力とその学習方法について知識・理解を深めたくて、学習者の状況や能力に応じた英語カリキュラムを提案できるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

上記目標のために以下の達成を目指します。

1. 学びについて幅広い知識を身につける
2. 社会で求められる能力 (英語力を含む) に関する情報を収集する
3. 学びに役立つ学習方法についての知識を身につける
4. 学びに役立つ学習方法について実践検証する。
5. 発表した内容をレポートとしてまとめる方法を学ぶ

6. 論文作成のための資料収集と論文作成の方法について学ぶ。

〔授業計画〕

- | | |
|--------|-------------------------------------------------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション
1章: 協同学習のすすめ |
| 第 2 回 | 協同学習の実践(1)
2章: 学生を方向付ける
3章: グループを編成する |
| 第 3 回 | 協同学習の実践(2)
4章: 学習課題を組み立てる
5章: 学生間の協力を促す |
| 第 4 回 | 協同学習の実践(3)と資料収集と検索方法
6章: 協同学習を評価する
資料収集と検索方法の紹介 |
| 第 5 回 | 協同学習の技法(1-1)
7章: 話し合いの技法について学ぶ |
| 第 6 回 | 協同学習の技法(1-2)
話し合いの技法実践 |
| 第 7 回 | 協同学習の技法(2-1)
8章: 教え合いの技法について学ぶ |
| 第 8 回 | 協同学習の技法(2-2)
教え合いの技法実践 |
| 第 9 回 | 協同学習の技法(3-1)
9章: 問題解決の技法について学ぶ |
| 第 10 回 | 協同学習の技法(3-2)
問題解決の技法実践 |
| 第 11 回 | 協同学習の技法(4-1)
10章: 図解の技法について学ぶ |
| 第 12 回 | 協同学習の技法(4-2)
図解の技法実践 |
| 第 13 回 | 協同学習の技法(5-1)
11章: 文書作成の技法について学ぶ |
| 第 14 回 | 協同学習の技法(4-2)
文書作成の技法実践 |
| 第 15 回 | 卒業研究のための中間発表とまとめ
学生によるプレゼンテーション
学習課題の組み立て方 |

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学びの質を転換するために、理論部分は反転授業形式で行い、授業では主に理論部分に関するディスカッションを行う。また、具体的な技法については、実践演習を多く取り入れる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業に臨む際には以下が求められます。

- ・授業中のディスカッションに参加できるように、必ずテキストを精読し、不明な用語は参考文献や辞書等で調べておくこと。
- ・自分の担当箇所についてはA4-2枚以上の文書にまとめること。
- ・自分の担当箇所以外については、翌週までにA4-1枚程度

に、理解できなかった箇所や自分の意見を含めてまとめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は以下を参考に総合的に評価します。

発表 30%

授業参加度 30%

レポート 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

・発表担当者の無断欠席は授業の進行の妨げとなるため、大きく減点されます。

・授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、発表担当者だけではなく、全員必ず指定された箇所の予習を行って、授業に臨んでください。

・実習や就活等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストや提出されたクラスメートのレポートを参考に、出席時と同様にレポートを提出してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

協同学習の技法 大学教育の手引き/ E. F. Barkley, K. P. Cross, C. H. Major 著. 安永悟 監訳/ ナカニシヤ出版/ 2009/ 9784779503696

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

協同学習入門 基本の理解と51の工夫/ 杉江修治/ ナカニシヤ出版/ 2011/ 9784779505737

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学演習 I

EGS3500K0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

月曜 5限

DP5: 共生・協働する力

60

集中

小山 哲春 York Weatherford 木島 菜菜子
Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語と日本語は言語距離の観点からは非常に離れた2言語であり、その意味では日本語母語話者が英語を習得することは至難の業であると言っても過言ではありません。それ故にこれまでも英語教育の現場では様々な教授法・指導法が試され、理論と実践の両面からその是非について議論されてきました。当ゼミでは、日本語を母語とする生徒たち

が英語力をつけていくにはどのような学習法を取り、教師はどう指導すべきなのかを、応用言語学の知見を生かして、考えていきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本語との対比におけるの英語に関する諸般の知識の習得及び英語力の向上
2. 英語教育現場における諸問題と現状に関する知識
3. 4技能の具体的教授法に関する知識
4. 応用言語学の知識の教育現場への応用
5. 論文作成にあたっての資料収集及び論文執筆の方法
6. 統計処理と科学的なアプローチ方法についての基礎知識

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業研究とは何か
- 第3回 問題発見の仕方・テーマの絞り込み
- 第4回 英語と日本語の言語距離にまつわる諸問題
- 第5回 母語と第2言語習得に関する問題
- 第6回 ESL環境とEFL環境の違い
- 第7回 諸英語教授法のプラス点とマイナス点
- 第8回 現在の英語教育・政策と英語教科書
- 第9回 4技能の指導・インプットとアウトプット
- 第10回 音声言語認知と文字言語認知の差異
- 第11回 早期英語教育の是非
- 第12回 文献の集め方・検索方法
- 第13回 研究の進め方・研究計画書について
- 第14回 卒業研究・プロポーザル中間発表とディスカッション Day 1 (学籍番号前半)
- 第15回 卒業研究・プロポーザル中間発表とディスカッション Day 2 (学籍番号後半)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、文献の収集方法をはじめ、論文執筆に必要な諸知識からまず学んでもらいます。

その後、応用言語学・英語教育関連の文献・学術論文など

を紹介し、輪読形式でグループごとに担当箇所を決め、内容に関してのプレゼンテーションを行った後、全員でディスカッションを行います。授業の中心は担当教員の講義と学生の発表・ディスカッションを中心とする演習形式で行われ、それに対して、教員からのフィードバックが与えられます。

個々の学習は、授業で与えられるテキスト・配布文献・学術論文の精読と内容理解、発表の準備が中心となります。前期は、テキストを中心に研究方法論について学び、後期には、種々の文献・学術論文の購読を通じて、各自の卒業研究に向けてのトピックの絞り込みを行い、卒業研究のテーマについて、プロポーザルを作成してもらいます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 指定されたテキスト・文献を事前に読み内容の理解と、疑問点の整理に努める。
2. 発表に当たっては、十分な事前準備と内容の精査を行うこと。
3. 他の学生・グループの発表に対して、積極的に質問・コメントを提示し、ディスカッションの際には、批判的な論議ができるよう、関連知識について理解を深めておくこと。
4. 理論や過去の実践から学ぶと共に、今まで自分が受けてきた英語教育と学習方法の問題点・課題を見つけること。
5. ゼミのディスカッションを通じて、それら個別の問題意識を問い直し、深めることで「卒業研究計画 (プロポーザル)」へとつなげること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表 40%、授業参加及びディスカッションへの貢献度 30%、Proposal Draft (中間発表) 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

応用言語学の授業での使用テキスト『ことばの力学—応用言語学への招待—』(白井恭弘著/岩波書店/2013/9784004314196)についても各自必ず熟読のこと

10分を超える遅刻は欠席とします

常に問題意識を持って授業に参加し、積極的に発言すること

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『言語教育学入門—応用言語学を言語教育に活かす—』/山内進(編著)/大修館書店/2003/9784469244892/学内販売有り

『よくわかる卒論の書き方・第2版』/白井利明・高橋一郎/ミネルヴァ書房/2013/9784623065721/学内販売有り

テーマごとに必要に応じてプリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ことばの力学—応用言語学への招待—』/白井恭弘/岩波書店/2013/9784004314196

『改訂版・英語教育用語辞典』/白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則/大修館書店/2011/9784469245394

『Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics』/Jack C. Richards・Richard Schmidt/Routledge/

2013/9781408204603

『社会言語学への招待』/田中春美・田中幸子/ミネルヴァ書房/1996/9784623026296

〔参考URL(URL for Reference)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

〔実務経験のある教員による実践的科目)〕

0

英語英文学演習 I

EGS3500A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

前期

水曜3限

DP5 : 共生・協働する力

90

集中

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義では19世紀中期に活躍した作家Herman Melvilleの短編を精読する。また19世紀アメリカ文化や、また先行研究に触れることによって、幅広い知識と批評的視点を身につけることを教育目標とする。

前期は毎回の予習範囲を最小限にとどめ、小範囲のテキストを一語一句意味を味わいながら読むことを目指す。

これらの目標を超え、英語を正確に読む力を養い、また文学だけではなく、世界にあふれている物事について、多角的に考える力を修得してもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストを精読する。(Close Reading)
2. 批評的視点を習得する。
3. 批評理論など、文学批評における方法論について学ぶ。
4. 先行研究を含めたコンテキストについてのリサーチ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 “The Piazza” Presentation 1 と Comments (p.1~p.2 2 段落目)
- 第 3 回 “The Piazza” Presentation 2 と Comments (~p.3 5 段落目)
- 第 4 回 “The Piazza” Presentation 3 と Comments(~p.4 3 段落目)
- 第 5 回 “The Piazza” Presentation 4 と Comments(~p.5 3 段落目)
- 第 6 回 “The Piazza” Presentation 5 と Comments(~p.6 2 段落目)
- 第 7 回 “The Piazza” Presentation 6 と Comments(~p.7 2 段落目)
- 第 8 回 “The Piazza” Presentation 7 と Comments(~p.8 3 段落目)
- 第 9 回 “The Piazza” Presentation 8 と Comments(~p.9 6 段落目)
- 第 10 回 “The Piazza” Presentation 9 と Comments (~p.10 2 段落目)
- 第 11 回 “The Piazza” Presentation 10 と Comments (~p.11 3 段落目)
- 第 12 回 “The Piazza” Presentation 11 と Comments (~p.12 1 段落目)
- 第 13 回 “The Piazza” Presentation 12 と Comments (p.12 最後まで)
- 第 14 回 “The Piazza” と個々の分析の Presentation
- 第 15 回 “The Piazza” と先行研究分析

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本講義で行うテキストの精読とは、ただ単に文章の表面をなぞりながら読むという行為ではなく、一つ一つの言葉が孕む意味を味わいながら、積極的かつ批評的視点からテキストを読むという行為を意味する。

したがって、毎回の授業で指定された範囲をあらかじめ読んだ状態で授業にのぞむことを最優先事項として受講生に求める。

授業は指定された範囲をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。プレゼンテーションでは、英語 (文法) レベルでのコメント、固有名詞などのリサーチ、英語レベルでの理解できなかった文章の指摘、そしてストーリーの内容に関するコメントを求める。

プレゼンテーションを行うグループは必ず人数分のハンドアウトを用意すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

全員が指定された範囲のテキストを精読した上で、授業に出席すること。

プレゼンテーションの発表者は、固有名詞などを資料で調査すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 30% 授業態度、ゼミへの貢献度。

課題 40% Presentation、予習

Final paper 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『The Piazza Tales』/Herman Melville/Northwestern University Press/1987/810114674/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 I

EGS3500F0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

90

集中

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

グローバル人材育成が求められる中、学校現場においても、「自律・協同・創造」の理念のもと、生涯学び続けられる学習者を育成できるよう、教師主導型から学習者主体への転換が強く求められています。その理念のもと、主体的・対話的な深い学びを伴う学習方法が試行錯誤されています。本科目では、社会で求められている能力とその学習方法について知識・理解を深めたうえで、学習者の状況や能力に応じた英語カリキュラムを提案できるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

上記目標のために以下の達成を目指します。

1. アクティブ・ラーニングの理論について基本的な知識を得る
2. 社会で求められる能力 (英語力を含む) に関する情報を収集する
3. 学びに役立つ学習方法について実践検証する
4. 発表した内容をレポートとしてまとめる方法を学ぶ

5. 論文作成のための資料収集と論文作成の方法について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	指示があっても動かない	指示された内容は実行できる	指示された内容を少し広げて実行できる	指示された内容から、自身の興味関心に結び付けて行動することができる
知識・理解力	英語教育学の分野に関する課題について何も語れない	英語教育学の分野に関する課題について読んだことがある	英語教育学の分野に関する課題についていくつか内容を知っている	幅広く、英語教育学分野の課題について知っており、それを第三者にわかりやすく説明できる
創造・発信力	英語教育学の分野について関心がない	英語教育学の分野について、第三者の指定した課題について調べることができる	英語教育学の分野について、第三者の助言を受けて、課題をみつけ、それについて調べることができる	英語教育学の分野について、自分で課題をみつけ、それについて調べることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 第 1 章 アクティブラーニングとは ①
第 1 節 アクティブラーニング研究・実践の隆盛
- 第 3 回 第 1 章 アクティブラーニングとは ②
第 2 節 アクティブラーニングの定義
- 第 4 回 第 2 章 なぜアクティブラーニングか ①
第 1 節 教授学習パラダイムの転換
- 第 5 回 第 2 章 なぜアクティブラーニングか ②
第 2 節 社会の変化に対応して
- 第 6 回 第 3 章 さまざまなアクティブラーニング型授業 ①
第 1 節 アクティブラーニング型授業の技法と戦略
- 第 7 回 第 3 章 さまざまなアクティブラーニング型授業 ②
第 2 節 アクティブラーニング型授業の実際
- 第 8 回 第 3 章 さまざまなアクティブラーニング型授業 ③
第 3 節 近接概念の相違
- 第 9 回 卒業研究のための発表 ①
関連論文の発表

第 10 回 第 4 章 アクティブラーニング型授業の質を高めるための工夫 ①

第 1 節 学習内容の深い理解を目指す

第 11 回 第 4 章 アクティブラーニング型授業の質を高めるための工夫 ②

第 3 節 逆引き設計とアセスメント

第 12 回 第 4 章 アクティブラーニング型授業の質を高めるための工夫 ③

第 5 節 反転授業をおこなう

第 13 回 第 5 章 揺れる教授学習観 ①

知識の定着とラーニングピラミッド

第 14 回 第 5 章 揺れる教授学習観 ②

プロジェクト学習

第 15 回 卒業研究のための中間発表とまとめ

学生によるプレゼンテーション

学習課題の組み立て方

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学びの質を転換するために、理論部分は反転授業形式で行い、授業では主に理論部分に関するディスカッションを行う。また、具体的な技法については、実践演習を多く取り入れる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業に臨む際には以下が求められます。

- ・授業中のディスカッションに参加できるように、必ずテキストを精読し、不明な用語は参考文献や辞書等で調べておくこと。
- ・自分の担当箇所についてはA4-2枚以上の文書にまとめること。
- ・自分の担当箇所以外については、翌週までにA4-1枚程度に、理解できなかった箇所や自分の意見を含めてまとめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は以下を参考に総合的に評価します。

発表 30%

授業参加度 30%

レポート 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

・発表担当者の無断欠席は授業の進行の妨げとなるため、大きく減点されます。

・授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、発表担当者だけではなく、全員必ず指定された箇所の予習を行って、授業に臨んでください。

・実習や就活等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストや提出されたクラスメートのレポートを参考に、出席時と同様にレポートを提出してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』/ 溝上慎一/ 東信堂/ 2014/ 9784798912462 / 学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

人間科学研究法ハンドブック / 高橋 順一 (著), 大淵 憲一 (著), 渡辺 文夫 (著) / ナカニシヤ出版 第2版 / 2011 / 978-4779504198

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学演習 II

EGS3550B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本ゼミは、我々が毎日当たり前のように行っているコミュニケーション活動を観察、分析するための様々な理論や方法を学び、人間のコミュニケーション過程をより深く理解し、客観的に説明できるようになることを目標とする。

「研究方法論」「英語英文学演習I」で習得したコミュニケーション研究方法論に基づき、自身に関心を持つコミュニケーション現象を実際に研究し、これを論文として執筆するための研究技術を習得する。

また、演習を通じて、社会現象の観察眼、ことばへの繊細な感覚、異文化に対する偏見のない視点、コミュニケーションコンピテンスなどを涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

<1> 方法論のさらなる理解 (コミュニケーションを観察(データ収集)、分析するための具体的方法論をさらに向上させる) :

- 理論的分析 (言語理論による分析)
- 質問紙調査 (アンケート) 法
- 実験デザイン
- フィールドワーク (参与者観察) 法

<2> 論文作成法習得 (演習を通じて卒業研究のテーマを模索し、これを研究論文へと発展させる方法 (文献研究、データ収集、分析、説明) について学習する。「コミュニケーション概論」「対人コミュニケーション」「異文化間コミュニケーション/Global English Lecture IC」「ことばとコミ

ュニケーション」といった関連科目で扱われたトピックの中から、自分の関心に従って具体的なコミュニケーション現象を卒業研究のテーマとして選定し、明確な研究課題を設定して研究を開始する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究計画と論文執筆概説
- 第 2 回 学術論文講読演習1 : 発話行為論
- 第 3 回 学術論文講読演習 2 : 語用論 (会話の含意)
- 第 4 回 学術論文講読演習 3 : 語用論 (一般的含意)
- 第 5 回 学術論文講読演習 4 : 語用論 (関連性理論)
- 第 6 回 学術論文講読演習 5 : Message Effect (擬似実験デザイン)
- 第 7 回 学術論文講読演習 6 : Message Effect (相互作用分析)
- 第 8 回 研究方法論1 : Proposal作成の基礎
- 第 9 回 研究方法論2 : 記述統計学
- 第 10 回 研究方法論3 : 推論統計学
- 第 11 回 研究プロジェクト演習1 : グループ発表とディスカッション (第1日 : 研究グループ1、2)
- 第 12 回 研究プロジェクト演習2 : グループ発表とディスカッション (第2日 : 研究グループ3、4)
- 第 13 回 卒業研究 Proposal 発表 Day 1 (学籍番号順 前半)
- 第 14 回 卒業研究 Proposal 発表 Day 2 (学籍番号順 後半)
- 第 15 回 Course Reviewと卒業論文執筆要領

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業 : 本ゼミは、担当教員の講義、学生の発表およびディスカッションを中心とする演習形式で行われ、適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。

発表 : 学術論文 (後期) についての発表、および、自らが選んだトピック (コミュニケーション現象) を実際に分析した結果を口頭発表する。

卒業研究Proposal作成： 前期の間に選択した複数のトピックから絞り込んで卒業研究のテーマを決定する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- (1) 指定されたテキスト(reading assignment)を事前に読む
- (2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。
- (3) 授業での学びを「卒業研究計画 (Proposal)」に反映させるため、適宜Proposalの執筆と相談を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表1 (講読演習) 25%

発表2 (グループ研究発表) 25%

ディスカッションへの貢献度 20%

Final Paper (卒業研究 Proposal) 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

(1) Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

(2) この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『コミュニケーション研究法』/末田清子他/ナカニシヤ出版./2011//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『コミュニケーション学：その展望と視点』/末田清子・福田浩子/松柏社/2011/

『ことばの社会心理学』/岡本真一郎/ナカニシヤ出版/2010/

『言語理論としての語用論』/今井邦彦/開拓社/2015

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学演習 II

EGS3550C0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5：共生・協働する力

60

集中

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースは、今まで見てきた映画を、映像をメディアとした一つの芸術様式として読み直す場を提供する。その導入のために映像芸術を文学の一つの解釈として扱うことから始める。まず、小説の読解をした上で映画観賞をし、映像芸術の読み方を学び、やがて作品分析方法をいくつか習得する。次にそこに描かれている人間、文化、世界観について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 映像芸術の基本的知識の把握
2. 個別作品の深い理解
3. 映画を読む
4. 作品及び映画作家の研究方法の習得
5. 論文作成のための作品選択と資料収集

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 卒業論文を考える

各自の卒業論文テーマの発表

第 2 回 ヴィスコンティを学ぶ①

ヴィスコンティの『ベニスに死す』と原作トーマス・マンとの比較を試みる。
また、ターナーの絵画の海等ヴィスコンティの映像美について考察する。

第 3 回 ヴィスコンティを学ぶ②

ヴィスコンティの『家族の肖像』を読む。

第 4 回 ヴィスコンティを学ぶ③

- ヴィスコンティの作品と死のイメージ
- 第 5 回 日本映画を学ぶ①
小津安二郎の『東京物語』
- 第 6 回 日本映画を学ぶ②
『東京物語』と家族のかたち
- 第 7 回 日本映画を学ぶ③
小津安二郎のヨーロッパ映画への影響力
- 第 8 回 日本映画を学ぶ④
黒澤明の『乱』を考える
- 第 9 回 日本映画を学ぶ⑤
『乱』の映像メッセージ
- 第 10 回 日本映画を学ぶ⑥
黒澤明『蜘蛛の巣城』を考える
- 第 11 回 比較論
クロサワとシェイクスピア
- 第 12 回 映画で論文を書く①
論文書き方指導
- 第 13 回 映画で論文を書く②
卒業論文テーマの個人発表
- 第 14 回 映画で論文を書く③
アウトライン作成
- 第 15 回 映画で論文を書く④
総括とその他
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

- (1) 個々の作品及びスクリプトの精読
- (2) 映画観賞 (前もってクラスで観る場合と課題の場合がある。)
- (3) 個人発表
- (4) ディスカッション
- (5) 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

2. 学習方法

- (1) 授業で扱う作品は前もって配布するので、予め読んでおく。

質問に答えられるようにしておくこと。必ず作品について意見を求めるのでその準備が必要である。

- (2) 指定された映画は観なければならない。
- (3) 個々の作品についてレポートを提出する。
- (4) 発表の時間がある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

観た映画に関して、しっかりと自分の意見が言えるように準備してこなければならない。レポートの提出を求める。グループディスカッションと発表の時間がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、クラス・レスポンス 40%

Final Paper 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文を成功させるには、いち早く自分に合ったテーマを決めることなので、多くの映画作品を提供するつもりである。また、課外活動も活発に参加してもらいたい。尚、Final Paper の提出は4年次「卒業研究」の履修条件になる。〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550DOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語英文学演習Iで学んだ内容を、より深く掘り下げて、日・英語の構文研究を行います。学生はテキストからそれぞれトピックを選び、授業で発表します。卒業論文のアウトライン及び計画書を提出することが目標であるため、後半は自分が選んだトピックに関する発表をしてもらいます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの中から興味を持ったトピックを選び、口頭発表する。
2. データの収集と一般化を行う。
3. 一般化から、帰結を導き出す。
4. 口頭発表・論文作成についての方法論について学ぶ。
5. 卒業論文の提案書を作成・提出する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない。	先行研究をもとに多少考えることができる。	他者と意見交換をし、自分の意見を深めることができる。	深めた意見をみんなでまとめ、発信することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 ミニマリストプログラムの基礎1

- ・テキスト第1章 : 1.1, 1.2
- ・担当教員が説明します。
- ・論文の読み方について説明します。

- ・口頭発表についての注意点（ハンドアウトの作り方、参考文献の提示方法など）を伝えます。
 - 第 2 回 ミニマリストプログラムの基礎2
 - ・テキスト第1章：1.3、1.4
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 3 回 束縛関係
 - ・テキスト第2章
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 4 回 かき混ぜ変形
 - ・テキスト第3章
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 5 回 使役文
 - ・テキスト第4章
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 6 回 受動文
 - ・テキスト第5章
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 7 回 主要部内在型関係節
 - ・テキスト第6章
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 8 回 主格目的語構文
 - ・テキスト第7章
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 9 回 二重目的語構文
 - ・テキスト第8章
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 10 回 主語?目的語繰り上げ構文
 - ・テキスト第9章
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 11 回 分裂文
 - ・テキスト第10章
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 12 回 二重対格制約と格
 - ・テキスト第11章
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 13 回 主格/属格交替構文
 - ・テキスト第2章
 - ・学生1名が発表します。
 - 第 14 回 学生による口頭発表1
 - ・1人30分（発表20分、質疑応答10分）
 - 第 15 回 学生による口頭発表2
 - ・1人30分（発表20分、質疑応答10分）
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
- ・卒業論文の提案書
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
- ・口頭発表とディスカッションを中心とした演習形式とします。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
- ・並行して「研究方法論」と「英語英文学演習I」の復習をしましょう。
 - ・自分の担当箇所に限らず、全ての章をきちんと読んで、質疑応答できるようにしておきましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- ・口頭発表：40%
- ・卒業論文の提案書：60%

〔留意事項（Other Information）〕

・卒業論文の提案書は4年次の授業の履修条件となります。
 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新日本語の統語構造』/三原健一、平岩健（著）/松柏社/2006年/4-7754-0124-6/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・それぞれのトピックに関する文献を授業で紹介します。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550E0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5：共生・協働する力

60

集中

York Weatherford

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The purpose of this course is to further students' understanding of the major topics in sociolinguistics. Students will gain an understanding of the field of sociolinguistics and become familiar with sociolinguistic theory and methods. Students will also learn about field methods, data gathering, and analysis. In addition, students will learn how to apply sociolinguistic concepts to critical approaches to language teaching.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

The course will cover a wide variety of topics in the field of sociolinguistics, which may include: regional and social language variation; language and identity, power, ethnicity, gender, sexuality, and social contexts; language attitudes, language contact, and multilingualism.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Review of sociolinguistics
 - 第 2 回 Dominant and minority languages
 - 第 3 回 Linguistic imperialism
 - 第 4 回 English as an international language
 - 第 5 回 Language loyalty
 - 第 6 回 Language decline
 - 第 7 回 Language maintenance and revival
 - 第 8 回 Bilingualism and multilingualism
 - 第 9 回 Cognitive effects of bilingualism
 - 第 10 回 Pidgins and creoles
 - 第 11 回 Invented languages
 - 第 12 回 Language and religion
 - 第 13 回 Language and gender
 - 第 14 回 Presentations
 - 第 15 回 Presentations; Final Paper Due
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

All assigned readings and classroom discussions will be in English. This is not a lecture course, and students are expected to play an active role in all classroom activities. Class activities will include discussions, presentations, and project work.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will also provide regular feedback on all written assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to do the assigned reading and prepare their answers to the discussion questions before each class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

In-class participation: 40%

Presentations: 20%

Project work: 10%

Final paper: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。

授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

This course will be a blended course in the fall of 2020. This means some classes will be face-to-face and some classes will be asynchronous (manaba assignments). Therefore, you must look carefully on manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『An Introduction to Sociolinguistics, Seventh Edition』 / Ronald Wardhaugh and Janet M. Fuller/Wiley-Blackwell/2014/

『An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition』 /Janet Holmes/Routledge/2017/3-978-1138845015

『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 /John Edwards/Oxford University Press/2013/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習Ⅱ

EGS3550J0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

前期に引き続き、生涯学習社会を見据えて、自分に合った英語の学びを選択できるように、人間が学ぶこと、また学び方など、学びのしくみについて考えていくこととします。後期は、より学校以外での学習に着目し、自ら英語を勉強するために提供されている様々なプログラムおよび、オンラインサイトやスマホなどで提供されているソフトやアプリを、実践的に検証します。また、演習を通じて、学びのしくみについて理解し、説明できるようになること、その結果として、目的に合った英語カリキュラムを提案できるようにすることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

上記目標のために以下の達成を目指します。

1. 学びについて幅広い知識を身につける
2. キャリアに求められる英語力に関する情報を収集する。
3. 学びに役立つ検定とその向上プログラムを実践検証する。
4. 発表した内容をレポートとしてまとめる方法を学ぶ

5. 論文作成のための資料収集と論文作成の方法について学ぶ。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
0
- 第 2 回 第1章：総論(1)
ビジネスパーソンに役立つ欧州・アジア・日本の英語教育（欧州）
- 第 3 回 第1章：総論(2)
ビジネスパーソンに役立つ欧州・アジア・日本の英語教育（アジア、日本）
- 第 4 回 第5章
国際ビジネスに必要なスキル
- 第 5 回 目的別英語学習ソフトに関する調査とディスカッション(1)
Group Aによるプレゼンテーションとディスカッション
- 第 6 回 目的別英語学習ソフトに関する調査とディスカッション(2)
Group Bによるプレゼンテーションとディスカッション
- 第 7 回 第7章
ビジネスパーソンが要望する日本の英語教育
- 第 8 回 社会で求められる英語力(1)
(海外事務・財務) ※講師招聘
- 第 9 回 社会で求められる英語力(2)
(海外営業) ※講師招聘
- 第 10 回 社会で求められる英語力(3)
(ジャーナリスト) ※講師招聘
- 第 11 回 社会で求められる英語力(4)
(航空業界 or 学校 or 英語塾) ※講師招聘
- 第 12 回 第8章
総括と提言
- 第 13 回 卒業研究概要に関する発表とディスカッション(1)
Group Aによるプレゼンテーションとディスカッション
- 第 14 回 卒業研究概要に関する発表とディスカッション(2)
Group Bによるプレゼンテーションとディスカッション
- 第 15 回 総括と卒業論文
実証的研究のまとめ方

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

生涯教育の観点から、様々な学びに関する知識を習得するとともに、発表と英語検定、および、その向上プログラムやソフトを、お互いに紹介しながら、自分の目的に合う英語学習プログラムを構築する。同時に、社会で求められる英語力と紹介した検定、およびその向上プログラムやソフトを関連づけた目的別英語カリキュラムを提案する。授業終了時に振り返りシートを記入するとともに、発表時には、

各自コメントシートを記入し、発表者へフィードバックする。

Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業に臨む際には以下が求められます。

・入手可能な英語プログラムやソフトを探し、できる限り試行しておくこと。

・授業中のディスカッションに参加できるよう、必ずテキストを精読し、不明な用語は参考文献や辞書等で調べておくこと。

・自分の担当箇所についてはA4-2枚以上の文書にまとめること。

・自分の担当箇所以外については、翌週までにA4-1枚程度に、理解できなかった箇所や自分の意見を含めてまとめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績は以下を参考に総合的に評価します。

発表 30%

授業参加度 30%

レポート 40%

〔留意事項（Other Information）〕

・発表担当者の無断欠席は授業の進行の妨げとなるため、大きく減点されます。

・授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、発表担当者だけではなく、全員必ず指定された箇所の予習を行って、授業に臨んでください。

・実習や就活等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストや提出されたクラスメートのレポートを参考に、出席時と同様にレポートを提出してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

企業が求める英語力/小池生男・高田智子・松井順子・寺内一/朝日出版社/2010/978-4255005188

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

大学英語教育学-その方向性と諸分野（英語教育学体系 第1巻）/森住衛他編/大修館書店/2010

ビジネスミーティング英語力/大学英語教育学会EBP調査研究特別委員会・国際ビジネスコミュニケーション協会/朝日出版社/2015

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学演習 II

EGS3550K0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

月曜 5限

DP5：共生・協働する力

60

集中

小山 哲春 York Weatherford 木島 菜菜子
Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語と日本語は言語距離の観点からは非常に離れた2言語であり、その意味では日本語母語話者が英語を習得することは至難の業であると言っても過言ではありません。それ故にこれまでも英語教育の現場では様々な教授法・指導法が試され、理論と実践の両面からその是非について議論されてきました。当ゼミでは、日本語を母語とする生徒たちが英語力をつけていくにはどのような学習法を取り、教師はどう指導すべきなのかを、応用言語学の知見を生かして、考えていきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本語との対比における英語に関する諸般の知識の習得及び英語力の向上
2. 英語教育現場における諸問題と現状に関する知識
3. 4技能の具体的な教授法に関する知識
4. 応用言語学の知識の教育現場への応用
5. 論文作成にあたっての資料収集及び論文執筆の方法
6. 統計処理と科学的なアプローチ方法についての基礎知識

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 研究計画と論文執筆の進め方
- 第2回 文献の引用方法
- 第3回 実際の論文の書き方
- 第4回 先行研究の読み方

- 第5回 英語による文献の読み方
- 第6回 学術論文輪読演習1 (言語習得)
- 第7回 学術論文輪読演習2 (教授法)
- 第8回 学術論文輪読演習3 (英語教材)
- 第9回 学術論文輪読演習4 (4技能)
- 第10回 学術論文輪読演習5 (音声認知)
- 第11回 グループ別プレゼンテーションとディスカッション Group A
- 第12回 グループ別プレゼンテーションとディスカッション Group B
- 第13回 卒業研究・プロポーザル発表とディスカッション Day 1 (学籍番号前半)
- 第14回 卒業研究・プロポーザル発表とディスカッション Day 2 (学籍番号後半)
- 第15回 Course Reviewと卒業論文について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、文献の収集方法をはじめ、論文執筆に必要な諸知識からまず学んでもらいます。

その後、応用言語学・英語教育関連の文献・学術論文などを紹介し、輪読形式でグループごとに担当箇所を決め、内容に関してのプレゼンテーションを行った後、全員でディスカッションを行います。授業の中心は担当教員の講義と学生の発表・ディスカッションを中心とする演習形式で行われ、それに対して、教員からのフィードバックが与えられます。

個々の学習は、授業で与えられるテキスト・配布文献・学術論文の精読と内容理解、発表の準備が中心となります。前期は、テキストを中心に研究方法論について学び、後期には、種々の文献・学術論文の購読を通じて、各自の卒業研究に向けてのトピックの絞り込みを行い、卒業研究のテーマについて、プロポーザルを作成してもらいます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 指定されたテキスト・文献を事前に読み内容の理解と、疑問点の整理に努める。
2. 発表に当たっては、十分な事前準備と内容の精査を行うこと。
3. 他の学生・グループの発表に対して、積極的に質問・コメントを提示し、ディスカッションの際には、批判的な論議ができるよう、関連知識について理解を深めておくこと。
4. 理論や過去の実践から学ぶと共に、今まで自分が受けてきた英語教育と学習方法の問題点・課題を見つけること。
5. ゼミのディスカッションを通じて、それら個別の問題意識を問い直し、深めることで「卒業研究計画 (プロポーザル)」へとつなげること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表 40%、授業参加及びディスカッションへの貢献度 30%、Final Paper (プロポーザル) 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

応用言語学の授業での使用テキスト『ことばの力学ー応用言語学への招待ー』（白井恭弘著/岩波書店/2013/9784004314196）についても各自必ず熟読のこと

10分を超える遅刻は欠席とします

常に問題意識を持って授業に参加し、積極的に発言すること
Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『言語教育学入門ー応用言語学を言語教育に活かすー』/山内進(編著)/大修館書店/2003/9784469244892/学内販売有り

『よくわかる卒論の書き方・第2版』/白井利明・高橋一郎/ミネルヴァ書房/2013/9784623065721/学内販売有り

テーマごとに必要に応じてプリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ことばの力学ー応用言語学への招待ー』/白井恭弘/岩波書店/2013/9784004314196

『改訂版・英語教育用語辞典』/白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則/大修館書店/2011/9784469245394

『Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics』/Jack C. Richards・Richard Schmidt/Routledge/2013/9781408204603

『社会言語学への招待』/田中春美・田中幸子/ミネルヴァ書房/1996/9784623026296

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学演習Ⅱ

EGS3550AJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5: 共生・協働する力

90

集中

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では19世紀中期に活躍した作家Herman Melvilleの短編を精読する。また19世紀アメリカ文化や、また先行研究に触れることによって、幅広い知識と批評的視点を身につけることを教育目標とする。

また、文学批評に関する知識を深め、独創的な観点から批評する力を養成することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストを精読する。(Close Reading)
2. 批評的視点を習得する。
3. 批評理論など、文学批評における方法論について学ぶ。
4. 先行研究を含めたコンテキストについてのリサーチをおこなう。
5. 独創的な観点から文学作品を分析する力を養成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 Introduction
- 第2回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation1 と Comments (p.13~P.16 5段落目)
- 第3回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation2 と Comments (~p. 19 2段落目)
- 第4回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation3 と Comments (~p.22 4段落目)
- 第5回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation4 と Comments (~p.25 下から3段落目)
- 第6回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation5 と Comments (~p.28 1段落目)
- 第7回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation6 と Comments (~p. 30 下から4段落目)
- 第8回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation7 と Comments (~p.33 1段落目)
- 第9回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation8 と Comments (~p.35 2段落目)
- 第10回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation9 と Comments (~p.37 3段落目)
- 第11回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation10 と Comments (~p.40 7段落目)
- 第12回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation11 と Comments (~p.43 6段落目)
- 第13回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation12 と Comments (~p.45 最後まで)
- 第14回 “Bartleby” Presentation (個々の分析)

第 15 回 “Bartleby” 先行研究分析

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目で行うテキストの精読とは、ただ単に文章の表面をなぞりながら読むという行為ではなく、一つ一つの言葉が孕む意味を味わいながら、積極的かつ批評的視点からテキストを読むという行為を意味する。

したがって、毎回の授業で指定された範囲をあらかじめ読んだ状態で授業にのぞむことを最優先事項として受講生に求める。

授業は指定された範囲をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。プレゼンテーションでは、英語 (文法) レベルでのコメント、固有名詞などのリサーチ、英語レベルでの理解できなかった文章の指摘、そしてストーリーの内容に関するコメントを求める。

プレゼンテーションを行うグループは必ず人数分のハンドアウトを用意すること。

授業の進め方と学習の方法としては前期と同様であるが、より精緻な分析と考察を求めることになるので、事前学習では十分にテキストを分析しておくこと。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

全員が指定された範囲のテキストを精読した上で、授業に出席すること。

プレゼンテーションの発表者は、固有名詞などを資料で調査すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 30% 授業態度、ゼミへの貢献度。

課題 30% Presentation、予習

レポート 30% Critical Paper about "Bartleby"

Final Paper 10% 卒業論文のProposal

〔留意事項 (Other Information)〕

Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『The Piazza Tales』/Herman Melville/Northwestern University Press/1987/810114674/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550F0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5: 共生・協働する力

90

集中

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

前期に引き続き、生涯学習社会を見据えて、自分に合った英語の学びを選択できるよう、人間が学ぶこと、また学ぶ方など、学びのしくみについて考えていくこととします。後期は、より幅広い意味での学習に着目し、自ら英語を勉強するために提供されている様々なプログラムおよび、オンラインサイトやスマホなどで提供されているソフトやアプリを、実践的に検証します。また、演習を通じて、学びのしくみについて理解し、説明できるようになること、その結果として、目的に合った英語カリキュラムを提案できるようにすることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

上記目標のために以下の達成を目指します。

1. 国内外の学びについて幅広い知識を身につける
2. キャリアに求められる英語力に関する情報を収集する。
3. 学びに役立つ検定とその向上プログラムを実践検証する。
4. 発表した内容をレポートとしてまとめる方法を学ぶ
5. 論文作成のための資料収集と論文作成の方法について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	指示があっても動かない	指示された内容は実行できる	指示された内容を少し広げて実行できる	指示された内容から、自身の興味関心に結び付けて行動することができる
知識・理解力	英語教育学の分野に関する課題について何も語れない	英語教育学の分野に関する課題について読んだことがある	英語教育学の分野に関する課題についていくつか内容を知っている	幅広く、英語教育学分野の課題について知り、それを第三者にわかりやすく説明できる
創造・発信力	英語教育学の分野	英語教育学の分野について、第三	英語教育学の分野について、第三	英語教育学の分野について、自分

	について関 心がない	者の指定し た課題につ いて調べる ことができ る	者の助言 を受けて、 課題をみつ け、それに ついて調べ ることがで きる	で課題をみ つけ、それ について調 べることが できる
--	---------------	---------------------------------------	---------------------------------------------------------	-----------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 01 The relevance of global skills
- 第 3 回 02-1 Global skills and English language teaching (ppp.10-12)
- 第 4 回 02-2 Global skills and English language teaching (pp.13-17)
- 第 5 回 03 Assessing global skills in the ELT classroom (pp.18-21)
- 第 6 回 卒業研究のための発表 ①
Group Aの学生によるプレゼンテーション
- 第 7 回 卒業研究のための発表 ②
Group Bの学生によるプレゼンテーション
- 第 8 回 04 Creating a global skills learning environment
- 第 9 回 Conclusion
- 第 10 回 Teaching activities for global skills 1
Shorter learning activities の紹介
- 第 11 回 Teaching activities for global skills 2
Longer learning activities or project work の紹介
- 第 12 回 Examples of classroom assessment
- 第 13 回 Glossary
- 第 14 回 卒業研究概要に関する発表とディスカッション (2)
Group Aによるプレゼンテーションとディスカッション
- 第 15 回 卒業研究概要に関する発表とディスカッション (2)
Group Bによるプレゼンテーションとディスカッション

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

生涯教育の観点から、様々な学びに関する知識を習得するとともに、発表と英語検定、および、その向上プログラムやソフトを、お互いに紹介しながら、自分の目的に合う英語学習プログラムを構築する。同時に、社会で求められる英語力と紹介した検定、およびその向上プログラムやソフトを関連づけた目的別英語カリキュラムを提案する。授業終了時に振り返りシートを記入するとともに、発表時には、各自コメントシートを記入し、発表者へフィードバックする。

Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業に臨む際には以下が求められます。

- ・授業中のディスカッションに参加できるよう、必ずテキ

ストを精読し、不明な用語は参考文献や辞書等で調べておくこと。

- ・自分の担当箇所についてはA4-2枚以上の文書にまとめること。
- ・自分の担当箇所以外については、翌週までにA4-1枚程度に、理解できなかった箇所や自分の意見を含めてまとめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は以下を参考に総合的に評価します。

発表 30%

授業参加度 30%

レポート 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・発表担当者の無断欠席は授業の進行の妨げとなるため、大きく減点されます。
- ・授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、発表担当者だけではなく、全員必ず指定された箇所の予習を行って、授業に臨んでください。
- ・実習や就活等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストや提出されたクラスメートのレポートを参考に、出席時と同様にレポートを提出してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Our experts advise on Global Skills: Creating Empowered 21st Century Citizens/ Oxford University Press/ 2019/
各自以下のURLからダウンロードして持参すること
file:///C:/Users/kndutg/Downloads/oup-expert-global-skills.pdf

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

大学英語教育学-その方向性と諸分野 (英語教育学体系 第1巻) / 森住衛他編/ 大修館書店/ 2010

ビジネスミーティング英語力/ 大学英語教育学会EBP調査研究特別委員会・国際ビジネスコミュニケーション協会/ 朝日出版社/ 2015

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学演習 II

EGS3550H0J
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 3年次
 2単位 後期
 水曜 3限
 DP5 : 共生・協働する力
 90
 集中
 Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course aims to continue exploring leadership in a systematic and thought-provoking way. Using an experiential approach, known in the literature as a cycle of experience, reflection, generalization, and application. Our learning community will pursue a deeper understanding of leadership, specifically within the construct of application. Students will be expected to narrow down this vast field into one specific and pertinent area that can form the basis of an original piece of either quantitative or qualitative research by the end of the course.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. We will continue to explore current issues and concepts in the field of leadership through readings, discussions and student presentations.
2. We will also focus on how to research and write a graduation thesis.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力 Expectations: Understand lesson contents; Identify personal interests; Choose areas to research;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

創造・発信力: Expectations: Creative Ability; Ability to brainstorm ideas; Ability to express your ideas; Ability to become a semi-expert in some area	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	------------------------------------------------------------	----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Leadership skills assessment
Academic Research and Writing Workshop
- 第 2 回 Seeing others perspectives
Academic Research and Writing Workshop
- 第 3 回 Gender & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 4 回 Culture & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 5 回 Communication & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 6 回 Ethics & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 7 回 Assumptions & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 8 回 Oral Report on Personal Research Topic
- 第 9 回 Decision making & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 10 回 Community & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 11 回 Community building & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 12 回 Group dynamics & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 13 回 Conflict & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 14 回 Final Oral Report I
- 第 15 回 Final Oral Report II

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will need to come to class prepared to be active learners. This means not only reading and understanding a text, but also preparing questions and opinions about the text. Students will be assigned leadership roles as facilitators, active

listeners, and group reporters. Students will do two Oral Reports on their intended graduation thesis research.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will be led through the essentials of researching and writing an academic graduation thesis. Students will need to demonstrate their understanding of concepts through peer teaching and oral presentations.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation 40%

Oral Report on Personal Research Topic 30%

Final Oral Report 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Handouts

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

To be announced in class

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550I0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5: 共生・協働する力

90

集中

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

〔授業計画〕

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学基礎演習 I A

EGF1100A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜4限

DP1: 自分を育てる力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み(単位の取得やカリキュラム)を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。

2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法(授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術)を習得する。

3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その

中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。

4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
大学レベルの学び(=学術的認識論に基づく世界理解)の基礎能力	主観に頼らない、客観的な世界認識の方法とその重要性について理解ができていない。	主観に頼らない、客観的な世界認識の方法とその重要性について、大凡の理解ができています。	大学レベルの学び(=学術的認識論に基づく世界理解方法の習得)について大凡の理解はできているが、これを実践する段階には至っていない。	大学レベルの学び(=学術的認識論に基づく世界理解方法の習得)について正しく理解し、これを実践する準備ができている。
先行文献の収集と批判的分析を行う力	社会的・学術的な課題や自らの研究目的に合致した文献・資料を収集することができない。	社会的・学術的な課題や自らの研究目的に合致した文献・資料を収集することができる。	収集した文献・資料を正しく読み、その内容について文章で正しく報告することができる。	収集した文献・資料を批判的に分析し、その貢献・問題点などについて文章で報告することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション
- 第 2 回 ノートの取り方
- 第 3 回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション
- 第 4 回 個別セッション (情報収集に基づいたディスカッション)
- 第 5 回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃
- 第 6 回 個別セッション (Report 1のPeer Review)
- 第 7 回 クリティカルシンキング/議論の立て方
- 第 8 回 個別セッション (Report 2のPeer Reviewと演習)
- 第 9 回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials
- 第 10 回 CA Final 返却+コメント / 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited
- 第 11 回 個別セッション (Final Paper DraftのPeer Reviewと演習)
- 第 12 回 個別セッション (Final Paper RevisionのPeer Reviewと演習)
- 第 13 回 Oral Presentation 1 (第1日: 学籍番号順 前半グループ)
- 第 14 回

Oral Presentation 2 (第2日: 学籍番号順 中盤グループ)

第 15 回 Oral Presentation 3 (第3日: 学籍番号順 後半グループ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 I B

EGF1100BOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜4限

DP1: 自分を育てる力

60

集中

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得すること

を目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み(単位の取得やカリキュラム)を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。
2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法(授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術)を習得する。
3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。
4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
大学レベルの学び(=学術的認識論に基づく世界理解)の基礎能力	主観に頼らない、客観的な世界認識の方法とその重要性について理解ができていない。	主観に頼らない、客観的な世界認識の方法とその重要性について、大凡の理解ができています。	大学レベルの学び(=学術的認識論に基づく世界理解)の方法の習得)について大凡の理解はできているが、これを実践する段階には至っていない。	大学レベルの学び(=学術的認識論に基づく世界理解)の方法の習得)について正しく理解し、これを実践する準備ができている。
先行文献の収集と批評的分析を行う力	社会的・学術的な課題や自らの研究目的に合致した文献・資料を収集することができない。	社会的・学術的な課題や自らの研究目的に合致した文献・資料を収集することができている。	収集した文献・資料を正しく読み、その内容について文章で正しく報告することができる。	収集した文献・資料を批判的に分析し、その貢献・問題点などについて文章で報告することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション
- 第 2 回 ノートの取り方
- 第 3 回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション
- 第 4 回 個別セッション (情報収集に基づいたディスカッション)
- 第 5 回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃

- 第 6 回 個別セッション (Report 1のPeer Review)
- 第 7 回 クリティカルシンキング/議論の立て方
- 第 8 回 個別セッション (Report 2のPeer Reviewと演習)
- 第 9 回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials
- 第 10 回 CA Final 返却 + コメント / 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited
- 第 11 回 個別セッション (Final Paper DraftのPeer Reviewと演習)
- 第 12 回 個別セッション (Final Paper RevisionのPeer Reviewと演習)
- 第 13 回 Oral Presentation 1 (第1日: 学籍番号順 前半グループ)
- 第 14 回 Oral Presentation 2 (第2日: 学籍番号順 中盤グループ)
- 第 15 回 Oral Presentation 3 (第3日: 学籍番号順 後半グループ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 I C

EGF1100C0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜4限

DPI：自分を育てる力

60

集中

杉村 美奈

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み（単位の取得やカリキュラム）を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。
2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法（授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術）を習得する。
3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。
4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
大学レベルの学び (= 学術的認識に基づく世界理解) の基礎能力	主観に頼らない、客観的な世界認識の方法とその重要性について理解ができていない。	主観に頼らない、客観的な世界認識の方法とその重要性について、大凡の理解ができています。	大学レベルの学び (= 学術的な認識に基づく世界理解方法の習得) について大凡の理解はできているが、これを実践する段階には至っていない。	大学レベルの学び (= 学術的な認識に基づく世界理解方法の習得) について正しく理解し、これを実践する準備ができている。

先行文献の収集と批評的分析を行う力	社会的・学術的な課題や自らの研究目的に合致した文献・資料を収集することができない。	社会的・学術的な課題や自らの研究目的に合致した文献・資料を収集することができる。	収集した文献・資料を正しく読み、その内容について文章で正しく報告することができる。	収集した文献・資料を批判的に分析し、その貢献・問題点などについて文章で報告することができる。
-------------------	-------------------------------------------	------------------------------------------	-------------------------------------------	------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション
- 第 2 回 ノートの取り方
- 第 3 回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション
- 第 4 回 個別セッション (情報収集に基づいたディスカッション)
- 第 5 回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃
- 第 6 回 個別セッション (Report 1のPeer Review)
- 第 7 回 クリティカルシンキング/議論の立て方
- 第 8 回 個別セッション (Report 2のPeer Reviewと演習)
- 第 9 回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials
- 第 10 回 CA Final 返却 + コメント / 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited
- 第 11 回 個別セッション (Final Paper DraftのPeer Reviewと演習)
- 第 12 回 個別セッション (Final Paper RevisionのPeer Reviewと演習)
- 第 13 回 Oral Presentation 1 (第1日: 学籍番号順 前半グループ)
- 第 14 回 Oral Presentation 2 (第2日: 学籍番号順 中盤グループ)
- 第 15 回 Oral Presentation 3 (第3日: 学籍番号順 後半グループ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) Short Paper x 5: 50%
- (2) Report x 2: 30%
- (3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 I D

EGF1100D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜 4限

DPI : 自分を育てる力

60

集中

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み(単位の取得やカリキュラム)を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。
2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法(授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術)を習得する。
3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。
4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
大学レベルの学び(=学術的認識に基づく世界理解)の基礎能力	主観に頼らない、客観的な世界認識の方法とその重要性について理解ができていない。	主観に頼らない、客観的な世界認識の方法とその重要性について、大凡の理解ができている。	大学レベルの学び(=学術的な認識論に基づく世界理解方法の習得)について大凡の理解はできているが、これを実践する段階には至っていない。	大学レベルの学び(=学術的な認識論に基づく世界理解方法の習得)について正しく理解し、これを実践する準備ができています。
先行文献の収集と批評的分析を行う力	社会的・学術的な課題や自らの研究目的に合致した文献・資料を収集することができない。	社会的・学術的な課題や自らの研究目的に合致した文献・資料を収集することができる。	収集した文献・資料を正しく読み、その内容について文章で正しく報告することができる。	収集した文献・資料を批判的に分析し、その貢献・問題点などについて文章で報告することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション
- 第 2 回 ノートの取り方
- 第 3 回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション
- 第 4 回 個別セッション (情報収集に基づいたディスカッション)
- 第 5 回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃
- 第 6 回 個別セッション (Report 1のPeer Review)
- 第 7 回 クリティカルシンキング/議論の立て方
- 第 8 回 個別セッション (Report 2のPeer Reviewと演習)
- 第 9 回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials
- 第 10 回 CA Final 返却 + コメント / 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited
- 第 11 回 個別セッション (Final Paper DraftのPeer Reviewと演習)
- 第 12 回 個別セッション (Final Paper RevisionのPeer Reviewと演習)
- 第 13 回 Oral Presentation 1 (第1日: 学籍番号順 前半グループ)
- 第 14 回 Oral Presentation 2 (第2日: 学籍番号順 中盤グループ)
- 第 15 回 Oral Presentation 3 (第3日: 学籍番号順 後半グループ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

各課題のフィードバックは、その都度、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 I E

EGF1100E0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜 4限

DPI: 自分を育てる力

90

集中

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知

識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み(単位の取得やカリキュラム)を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。

2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法(授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術)を習得する。

3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。

4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション

第2回 ノートの取り方

第3回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション

第4回 個別セッション (情報収集に基づいたディスカッション)

第5回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃

第6回 個別セッション (Report 1のPeer Review)

第7回 クリティカルシンキング/議論の立て方

第8回 個別セッション (Report 2のPeer Reviewと演習)

第9回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials

第10回 CA Final 返却 + コメント /

書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited

第11回 個別セッション (Final Paper DraftのPeer Reviewと演習)

第12回 個別セッション (Final Paper RevisionのPeer Reviewと演習)

第13回 Oral Presentation 1 (第1日: 学籍番号順 前半グループ)

第14回 Oral Presentation 2 (第2日: 学籍番号順 中盤グループ)

第15回 Oral Presentation 3 (第3日: 学籍番号順 後半グループ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

各課題のフィードバックは、その都度、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 I F

EGF1100FOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜4限

DPI: 自分を育てる力

90

集中

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み(単位の取得やカリキュラム)を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。

2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法(授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術)を習得する。

3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その

中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。

4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション

第2回 ノートの取り方

第3回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション

第4回 個別セッション (情報収集に基づいたディスカッション)

第5回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃

第6回 個別セッション (Report 1のPeer Review)

第7回 クリティカルシンキング/議論の立て方

第8回 個別セッション (Report 2のPeer Reviewと演習)

第9回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials

第10回 CA Final 返却 + コメント /

書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited

第11回 個別セッション (Final Paper DraftのPeer Reviewと演習)

第12回 個別セッション (Final Paper RevisionのPeer Reviewと演習)

第13回 Oral Presentation 1 (第1日: 学籍番号順 前半グループ)

第14回 Oral Presentation 2 (第2日: 学籍番号順 中盤グループ)

第15回 Oral Presentation 3 (第3日: 学籍番号順 後半グループ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

各課題のフィードバックは、その都度、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 I G

EGF1100G0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜 4限

DPI: 自分を育てる力

90

集中

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み(単位の取得やカリキュラム)を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。

2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法(授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術)を習得する。

3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。

4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション

第2回 ノートの取り方

第3回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション

第4回 個別セッション(情報収集に基づいたディスカッション)

第5回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃

第6回 個別セッション(Report 1のPeer Review)

第7回 クリティカルシンキング/議論の立て方

第8回 個別セッション(Report 2のPeer Reviewと演習)

第9回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials

第10回 CA Final 返却+コメント/

書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited

第11回 個別セッション(Final Paper DraftのPeer Reviewと演習)

第12回 個別セッション(Final Paper RevisionのPeer Reviewと演習)

第13回 Oral Presentation 1(第1日: 学籍番号順 前半グループ)

第14回 Oral Presentation 2(第2日: 学籍番号順 中盤グループ)

第15回 Oral Presentation 3(第3日: 学籍番号順 後半グループ)

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

各課題のフィードバックは、その都度、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 II A

EGF1150A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

月曜4限

DPI：自分を育てる力

60

集中

小山 哲春

【科目の教育目標 (Course Description)】

本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック（英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学・英語学、外国語習得・教授法、等）に関して具体的な学びに触れながら、二年度以降の専門教育の履修が円滑に進むよう準備を行う。特に論文（レポートおよびAcademic Paper）の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文（レポート・Academic Paper）の書き方を習得し、二年度以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時に相互に刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
論証を行う力	証拠に基づく議論や論理的な論証ができない。	具体的な証拠を挙げることはできるが、論理的に妥当な論証ができない。	具体的な証拠と論理的に妥当な論証に保つていて結論を述べることはできるが、議論を一般化することができない。	具体的な証拠と論理的な妥当な論証に基づいて、一般化された結論を述べることができる。

研究論文執筆の基礎能力	先行文献をまとめるだけで、これを批判的に分析することができない。	先行文献を批判的に分析することはできるが、新たな問題設定や研究課題の構築ができない。	先行文献を批判的に分析した上で、研究対象となる現象の問題点、新たな研究課題などを設定できる。	先行文献を批判的に分析した上で、研究対象となる現象の問題点、新たな研究課題などを設定し、これを適切な方法で分析（解決）できる。
-------------	----------------------------------	--------------------------------------------	------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------

【授業計画】

- 第 1 回 Orientations / Critical Thinking Revisited
 - 第 2 回 Argumentation & Debate
 - 第 3 回 領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
 - 第 4 回 領域別演習 Session 1 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
 - 第 5 回 領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
 - 第 6 回 領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review & Revision
 - 第 7 回 領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
 - 第 8 回 領域別演習 Session 2 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
 - 第 9 回 領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
 - 第 10 回 領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review & Revision
 - 第 11 回 領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
 - 第 12 回 領域別演習 Session 3 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
 - 第 13 回 領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
 - 第 14 回 領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review & Revision
 - 第 15 回 Review & Discussion
- 【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】
実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

- <1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して導入講義演習を行う。
- <2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行う。
- <3> 受講生が自らの意思で選択した1領域（あるいは複合領域）における研究論文を完成させる。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

学期を通じ、各領域（文学、言語学、コミュニケーション学）で研究論文を1本づつ完成させる。各領域の研究論文

執筆にそれぞれ4週間で費やし、4週間の中でCritical Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加 (出席、講義へのリアクション、作業、WSの提出等) 25 %

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 = 15 %

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper : 試験に相当 : 各領域で解説) 20 x 3 = 60 %

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

本科目は、5名の教員による共同開講形式で展開され、合同演習と個別演習によって構成される。個別演習期間は受講生はグループに分割され、それぞれのグループが個別演習(文学、言語学、コミュニケーション学領域)をそれぞれ順に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては授業中の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 II B

EGF1150BJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

月曜 4限

DPI : 自分を育てる力

60

集中

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック(英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学・英語学、外国語習得・教授法、等)に関して具体的な学びに触れながら、二次数以降の専門教育の履修が円滑

に進むよう準備を行う。特に論文(レポートおよびAcademic Paper)の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。

2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文(レポート・Academic Paper)の書き方を習得し、二次数以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。

3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
論証を行う力	証拠に基づく議論や論理的な論証ができない。	具体的な証拠を挙げることはできるが、論理的に妥当な論証ができない。	具体的な証拠と論理的に妥当な論証に保つていて結論を述べることはできるが、議論を一般化することができない。	具体的な証拠と論理的な妥当な論証に基づいて、一般化された結論を述べることができる。
研究論文執筆の基礎能力	先行文献をまとめるだけで、これを批判的に分析することができない。	先行文献を批判的に分析することはできるが、新たな問題設定や研究課題の構築ができない。	先行文献を批判的に分析した上で、研究対象となる現象の問題点、新たな研究課題などを設定できる。	先行文献を批判的に分析した上で、研究対象となる現象の問題点、新たな研究課題などを設定し、これを適切な方法で分析(解決)できる。

〔授業計画〕

第 1 回 Orientations / Critical Thinking Revisited

第 2 回 Argumentation & Debate

第 3 回 領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)

第 4 回 領域別演習 Session 1 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)

第 5 回 領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis (分析の行い方)

第 6 回 領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review & Revision

第 7 回 領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)

第 8 回

領域別演習 Session 2 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)

第 9 回 領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の行い方)

第 10 回 領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review & Revision

第 11 回 領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)

第 12 回 領域別演習 Session 3 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)

第 13 回 領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の行い方)

第 14 回 領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review & Revision

第 15 回 Review & Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した1領域 (あるいは複合領域) における研究論文を完成させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学期を通じ、各領域 (文学、言語学、コミュニケーション学) で研究論文を1本ずつ完成させる。各領域の研究論文執筆にそれぞれ4週間を費やし、4週間の中でCritical Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加 (出席、講義へのリアクション、作業、WSの提出等) 25 %

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 = 15 %

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper : 試験に相当 : 各領域で解説) 20 x 3 = 60 %

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、3名の教員による共同開講形式で展開され、合同演習 (第1, 2, 15週) と個別演習 (第3?14週) によって構成される。個別演習期間は受講生は3グループに分割され、それぞれのグループが3名の教員による個別演習 (文学、言語学、コミュニケーション学領域) をそれぞれ4週間づつ順に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては授業中の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference) 〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 II C

EGF1150C0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

月曜 4限

DP1 : 自分を育てる力

60

集中

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック (英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学・英語学、外国語習得・教授法、等) に関して具体的な学びに触れながら、二年度以降の専門教育の履修が円滑に進むよう準備を行う。特に論文 (レポートおよびAcademic Paper) の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文 (レポート・Academic Paper) の書き方を習得し、二年度以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
論証を行う力	証拠に基づく議論や論理的な論証ができない。	具体的な証拠を挙げることはできるが、論理的に適切な論証ができない。	具体的な証拠と論理的に妥当な論証に保つていて結論を述べることはできるが、議論を一般化することができない。	具体的な証拠と論理的な妥当な論証に基づいて、一般化された結論を述べることができる。

研究論文執筆の基礎能力	先行文献をまとめるだけで、これを批判的に分析することができない。	先行文献を批判的に分析することはできるが、新たな問題設定や研究課題の構築ができない。	先行文献を批判的に分析した上で、研究対象となる現象の問題点、新たな研究課題などを設定できる。	先行文献を批判的に分析した上で、研究対象となる現象の問題点、新たな研究課題などを設定し、これを適切な方法で分析（解決）できる。
-------------	----------------------------------	--------------------------------------------	------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientations / Critical Thinking Revisited
- 第 2 回 Argumentation & Debate
- 第 3 回 領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 4 回 領域別演習 Session 1 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 5 回 領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第 6 回 領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 7 回 領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 8 回 領域別演習 Session 2 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 9 回 領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第 10 回 領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 11 回 領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 12 回 領域別演習 Session 3 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 13 回 領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第 14 回 領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 15 回 Review & Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した1領域（あるいは複合領域）における研究論文を完成させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学期を通じ、各領域（文学、言語学、コミュニケーション学）で研究論文を1本ずつ完成させる。各領域の研究論文

執筆にそれぞれ4週間を費やし、4週間の中でCritical Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加（出席、講義へのリアクション、作業、WSの提出等）25%

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 = 15%

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper : 試験に相当 : 各領域で解説) 20 x 3 = 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、3名の教員による共同開講形式で展開され、合同演習(第1, 2, 15週)と個別演習(第3?14週)によって構成される。個別演習期間は受講生は3グループに分割され、それぞれのグループが3名の教員による個別演習(文学、言語学、コミュニケーション学領域)をそれぞれ4週間づつ順に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては授業中の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 II D

EGF1150D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

月曜 4限

DP1 : 自分を育てる力

60

集中

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック(英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学・英語学、外国語習得・教授法、等)に関して具体的な学びに触れながら、二年度以降の専門教育の履修が円滑に進むよう準備を行う。特に論文(レポートおよびAcademic Paper)の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文 (レポート・Academic Paper) の書き方を習得し、二次数以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
論証を行う力	証拠に基づく議論や論理的な論証ができない。	具体的な証拠を挙げることはできるが、論理的に妥当な論証ができない。	具体的な証拠と論理的に妥当な論証に保とづいて結論を述べることはできるが、議論を一般化することができない。	具体的な証拠と論理的な妥当な論証に基づいて、一般化された結論を述べることができる。
研究論文執筆の基礎能力	先行文献をまとめるだけで、これを批判的に分析することができない。	先行文献を批判的に分析することはできるが、新たな問題設定や研究課題の構築ができない。	先行文献を批判的に分析した上で、研究対象となる現象の問題点、新たな研究課題などを設定できる。	先行文献を批判的に分析した上で、研究対象となる現象の問題点、新たな研究課題などを設定し、これを適切な方法で分析 (解決) できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientations / Critical Thinking Revisited
- 第 2 回 Argumentation & Debate
- 第 3 回 領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 4 回 領域別演習 Session 1 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 5 回 領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第 6 回 領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 7 回 領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 8 回 領域別演習 Session 2 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 9 回 領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の行い方)

- 第 10 回 領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 11 回 領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 12 回 領域別演習 Session 3 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 13 回 領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第 14 回 領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 15 回 Review & Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- <1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して導入講義演習を行う。
 - <2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行う。
 - <3> 受講生が自らの意思で選択した1領域 (あるいは複合領域) における研究論文を完成させる。
- 各課題のフィードバックは、その都度、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学期を通じ、各領域 (文学、言語学、コミュニケーション学) で研究論文を1本ずつ完成させる。各領域の研究論文執筆にそれぞれ4週間を費やし、4週間の中でCritical Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) 授業参加 (出席、講義へのリアクション、作業、WSの提出等) 25%
- (2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 = 15%
- (3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper : 試験に相当 : 各領域で解説) 20 x 3 = 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、3名の教員による共同開講形式で展開され、合同演習 (第1, 2, 15週) と個別演習 (第3?14週) によって構成される。個別演習期間は受講生は3グループに分割され、それぞれのグループが3名の教員による個別演習 (文学、言語学、コミュニケーション学領域) をそれぞれ4週間づつ順に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては授業中の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 II E

EGF1150E0J

大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次
2単位 後期

月曜 4限

DPI：自分を育てる力

90

集中

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック（英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学・英語学、外国語習得・教授法、等）に関して具体的な学びに触れながら、二年次以降の専門教育の履修が円滑に進むよう準備を行う。特に論文（レポートおよびAcademic Paper）の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文（レポート・Academic Paper）の書き方を習得し、二年次以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientations / Critical Thinking Revisited
- 第 2 回 Argumentation & Debate
- 第 3 回 領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 4 回 領域別演習 Session 1 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 5 回 領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第 6 回 領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 7 回 領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 8 回 領域別演習 Session 2 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 9 回 領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第 10 回 領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 11 回

領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)

第 12 回 領域別演習 Session 3 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)

第 13 回 領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の行い方)

第 14 回 領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review & Revision

第 15 回 Review & Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した1領域（あるいは複合領域）における研究論文を完成させる。

各課題のフィードバックは、その都度、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学期を通じ、各領域（文学、言語学、コミュニケーション学）で研究論文を1本づつ完成させる。各領域の研究論文執筆にそれぞれ4週間を費やし、4週間の中でCritical Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加（出席、講義へのリアクション、作業、WSの提出等）25%

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 = 15%

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper : 試験に相当 : 各領域で解説) 20 x 3 = 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、3名の教員による共同開講形式で展開され、合同演習（第1, 2, 15週）と個別演習（第3?14週）によって構成される。個別演習期間は受講生は3グループに分割され、それぞれのグループが3名の教員による個別演習（文学、言語学、コミュニケーション学領域）をそれぞれ4週間づつ順に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては授業中の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 II F

EGF1150F0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

月曜4限

DPI：自分を育てる力

90

集中

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック（英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学・英語学、外国語習得・教授法、等）に関して具体的な学びに触れながら、二年次以降の専門教育の履修が円滑に進むよう準備を行う。特に論文（レポートおよびAcademic Paper）の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文（レポート・Academic Paper）の書き方を習得し、二年次以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時に相互に刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientations / Critical Thinking Revisited
- 第 2 回 Argumentation & Debate
- 第 3 回 領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 4 回 領域別演習 Session 1 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 5 回 領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第 6 回 領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 7 回 領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 8 回 領域別演習 Session 2 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 9 回 領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第 10 回 領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 11 回 領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 12 回 領域別演習 Session 3 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)

第 13 回 領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の行い方)

第 14 回 領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review & Revision

第 15 回 Review & Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した1領域（あるいは複合領域）における研究論文を完成させる。

各課題のフィードバックは、その都度、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学期を通じ、各領域（文学、言語学、コミュニケーション学）で研究論文を1本ずつ完成させる。各領域の研究論文執筆にそれぞれ4週間を費やし、4週間の中でCritical Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加（出席、講義へのリアクション、作業、WSの提出等）25%

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 = 15%

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper：試験に相当：各領域で解説) 20 x 3 = 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、3名の教員による共同開講形式で展開され、合同演習（第1, 2, 15週）と個別演習（第3?14週）によって構成される。個別演習期間は受講生は3グループに分割され、それぞれのグループが3名の教員による個別演習（文学、言語学、コミュニケーション学領域）をそれぞれ4週間づつ順に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては授業中の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語英文学基礎演習 II G

EGF1150G0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

月曜4限

DPI：自分を育てる力

90

集中

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック（英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学・英語学、外国語習得・教授法、等）に関して具体的な学びに触れながら、二年次以降の専門教育の履修が円滑に進むよう準備を行う。特に論文（レポートおよびAcademic Paper）の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文（レポート・Academic Paper）の書き方を習得し、二年次以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時に相互に刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientations / Critical Thinking Revisited
- 第 2 回 Argumentation & Debate
- 第 3 回 領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 4 回 領域別演習 Session 1 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 5 回 領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第 6 回 領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 7 回 領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 8 回 領域別演習 Session 2 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第 9 回 領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第 10 回 領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review & Revision
- 第 11 回 領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第 12 回 領域別演習 Session 3 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)

第 13 回 領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の行い方)

第 14 回 領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review & Revision

第 15 回 Review & Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した1領域（あるいは複合領域）における研究論文を完成させる。

各課題のフィードバックは、その都度、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学期を通じ、各領域（文学、言語学、コミュニケーション学）で研究論文を1本ずつ完成させる。各領域の研究論文執筆にそれぞれ4週間を費やし、4週間の中でCritical Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加（出席、講義へのリアクション、作業、WSの提出等）25%

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 = 15%

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper：試験に相当：各領域で解説) 20 x 3 = 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、3名の教員による共同開講形式で展開され、合同演習（第1, 2, 15週）と個別演習（第3?14週）によって構成される。個別演習期間は受講生は3グループに分割され、それぞれのグループが3名の教員による個別演習（文学、言語学、コミュニケーション学領域）をそれぞれ4週間づつ順に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては授業中の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

EGR2200A0J
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次
 2単位 前期
 金曜 3限
 DP2：知識・理解力
 60
 上野 舞斗

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語教員に必要な英語教育の基本理論の習得と授業実践力を身につけることを目標とします。具体的には、(1) 英語教育学の諸領域、および、学習指導要領の内容を理解し、(2) これに基づいた教材研究を行うための基礎的な知識・技能を身につけることを目指します。また、(3) 教材研究の成果を学習指導要領と関連させて、学習指導案を作成し、(4) 「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような授業を実施するための基礎力を形成することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解すること
 2. 適切な教材研究を行うための基礎的な知識・技能を習得すること
 3. 授業を実施するための学習指導案の書き方について基礎的な知識・技能を習得すること
 4. 授業実施における基礎的な知識・技能を習得すること
- 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
英語科教育に関する知識	テキストや学習指導要領を読んでいない。	英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解していない。	英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解している。	英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解しており、これを他者に説明できる。

教材研究・授業構想力	学習指導要領を把握できておらず、また教材に基づく学習指導案が作成できない。	学習指導要領を参考に、目標や評価規準を設定して、教材を基に学習指導案を作成できる。	学習指導要領を活かして、教材に基づき、目標や評価規準を設定するとともに、学習者の興味・関心に留意して学習指導案を作成できる。	学習指導要領を活かして、教材に基づき、目標や評価規準を設定するとともに、学習者の興味・関心に留意して、「主体的・対話的で深い学び」を実現できる学習指導案を作成できる。
授業実践力	学習指導案に基づいて、50分のうち実施部分について授業が通してできない。教える内容に関して大きな問題がある。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、50分のうちの分担部分について授業ができる。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、学習者の反応を見ながら、50分のうちの分担部分について授業ができる。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、学習者の反応を見ながら、50分のうちの分担部分について「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような授業ができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 英語教育の目的と歴史
- 第 3 回 世界の中の英語
- 第 4 回 学習指導要領
- 第 5 回 学習者要因
- 第 6 回 英語教師論
- 第 7 回 リスニング指導の基礎
- 第 8 回 リーディング指導の基礎
- 第 9 回 スピーキング指導の基礎
- 第 10 回 ライティング指導の基礎
- 第 11 回 教科書・教材研究の基礎
- 第 12 回 学習指導案の作成と授業運営
- 第 13 回 模擬授業(1)：受講者A群
- 第 14 回 模擬授業(2)：受講者B群
- 第 15 回 模擬授業(3)：受講者C群

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・授業実践力養成のため、講義形式の授業に加えて、個別(又はグループ)による模擬授業を実施します。
- ・毎時のコメントシートに対するフィードバックとして、授業内でこれを共有し、全体での学びとします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・テキストやハンドアウトを参照して学習内容の復習を行うこと
- ・次時に学習する範囲のテキストを精読して予習しておくこと
- ・新聞や英語教育雑誌等を通じて、英語教育に関わらず、教育全般に関する動向について、情報を入手するよう心掛けること
- ・前期末(英語科教育法Ⅰ修了時点)でTOEIC 500点を目指して、英語運用能力向上のための努力をすること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内提出物 (15%), 小テスト (25%), 模擬授業 (20%), 定期試験 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

30分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。

遅刻・早退3回で欠席1回分とし、欠席が3回になった時点で単位取得を認めません。

なお、やむを得ず欠席・遅刻する場合は、必ず担当教員に事前にメール等で知らせてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・グローバル時代の英語教育—新学習指導要領に対応した英語科教育法』/岡秀夫(編著)飯野厚・稲垣善律・金澤洋子・祁??答院恵古・小泉仁・富永裕子/成美堂出版/2020/9784791972180/学内販売予定

New Horizon English Course 1~3/笠島準一他/東京書籍/2015/9784487122912, 9784487122929, 9784487122936/学内販売予定

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』/文部科学省(編)/開隆堂出版/2018/9784304051692/学内販売予定

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編』/文部科学省(編)/開隆堂出版/2019/9784304051784/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』/望月昭彦(編著)・久保田章・磐崎弘貞・卯城祐司/大修館書店/2018/9784469246216

『日本の英語教育200年』/伊村元道/大修館書店/2003/9784469244861

『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』/江利川春雄(編著)/大修館書店/2012/9784469245738

『英語教育の危機』/鳥飼玖美子/筑摩書房/2018/9784480071095

『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』/鈴木涉(編)/大修館書店/2017/9784469246117

『現場発! 人間的な英語の授業を求めて』/池田真澄/高文研/2019/9784874986936

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語科教育法Ⅱ A

EGR2250A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

上野 舞斗

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語科教育法ⅡAに引き続き、英語教員に必要な英語教育の基本理論の習得と授業実践力を身につけることを目標とします。具体的には、(1)英語教育学の諸領域、および、学習指導要領の内容を理解し、(2)これに基づいた教材研究を行うための基礎的な知識・技能を身につけることを目指します。また、(3)教材研究の成果を学習指導要領と関連させて、学習指導案を作成し、(4)「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような授業を実施するための基礎力を形成することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解すること
 2. 適切な教材研究を行うための基礎的な知識・技能を習得すること
 3. 授業を実施するための学習指導案の書き方について基礎的な知識・技能を習得すること
 4. 授業実施における基礎的な知識・技能を習得すること
- 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
英語科教育に関する知識	テキストや学習指導要領を読んでいる。	英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解していない。	英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解している。	英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解しており、これを他者に説明できる。
教材研究・授業構想力	学習指導要領を把握できておらず、また教材に基づく	学習指導要領を参考に、目標や評価規準を設定して、	学習指導要領を活かして、教材に基づき、目標や評価規	学習指導要領を活かして、教材に基づき、目標や評価規

	学習指導案が作成できない。	教材を基に学習指導案を作成できる。	準を設定するとともに、学習者の興味・関心に留意して学習指導案を作成できる。	準を設定するとともに、学習者の興味・関心に留意して、「主体的・対話的で深い学び」を実現できる学習指導案を作成できる。
授業実践力	学習指導案に基づいて、50分のうち実施部分について授業が通してできない。教える内容に関して大きな問題がある。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、50分のうちの分担部分について授業ができる。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、学習者の反応を見ながら、50分のうちの分担部分について授業ができる。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、学習者の反応を見ながら、50分のうちの分担部分について「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように授業ができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 第二言語習得と英語教育
- 第 3 回 外国語教授法 (1) : 伝統的教授法, CLT, ナチュラル・アプローチ
- 第 4 回 外国語教授法 (2) : TBLT, CLIL, その他の教授法
- 第 5 回 小学校における外国語活動・外国語科
- 第 6 回 テストと評価
- 第 7 回 発音・文字の学習と指導
- 第 8 回 語彙の学習と指導
- 第 9 回 文法の学習と指導
- 第 10 回 ICTと英語教育
- 第 11 回 授業運営
- 第 12 回 模擬授業 (1) : 受講者A群
- 第 13 回 模擬授業 (2) : 受講者B群
- 第 14 回 模擬授業 (3) : 受講者C群
- 第 15 回 模擬授業 (4) : 受講者D群

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・授業実践力養成のため、講義形式の授業に加えて、個別 (又はグループ) による模擬授業を実施します。

・毎時のコメントシートに対するフィードバックとして、授業内でこれを共有し、全体での学びとします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・テキストやハンドアウトを参照して学習内容の復習を行うこと
- ・次時に学習する範囲のテキストを精読して予習しておくこと
- ・新聞や英語教育雑誌等を通じて、英語教育に関わらず、教育全般に関する動向について、情報を入手するよう心掛けること
- ・後期末 (英語科教育法 I IA 修了時点) で TOEIC 600 点取得を目指して、英語運用能力向上のための努力をすること

〔準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内提出物 (15%), 小テスト (25%), 模擬授業 (30%), 定期試験 (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

30分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。
遅刻・早退3回で欠席1回分とし、欠席が3回になった時点で単位取得を認めません。

なお、やむを得ず欠席・遅刻する場合は、必ず担当教員に事前にメール等で知らせてください。

〔テキスト (Textbook) (書籍名 (Title) / 著者 (Author) / 出版社 (Publisher) / 出版年 (Year Published) / ISBN / 学内販売の有無)〕

『新・グローバル時代の英語教育—新学習指導要領に対応した英語科教育法』 / 岡秀夫 (編著) 飯野厚・稲垣善律・金澤洋子・祁??答院恵古・小泉仁・富永裕子 / 成美堂出版 / 2020/9784791972180 / 学内販売予定

New Horizon English Course 1~3 / 笠島準一他 / 東京書籍 / 2015/9784487122912, 9784487122929, 9784487122936 / 学内販売予定

『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語編』 / 文部科学省 (編) / 開隆堂出版 / 2018/9784304051692 / 学内販売予定

『高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 外国語編 英語編』 / 文部科学省 (編) / 開隆堂出版 / 2019/9784304051784 / 学内販売予定

〔参考文献 (References) (書籍名 (Title) / 著者 (Author) / 出版社 (Publisher) / 出版年 (Year Published) / ISBN)〕

『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』 / 望月昭彦 (編著)・久保田章・磐崎弘貞・卯城祐司 / 大修館書店 / 2018 / 9784469246216

『日本の英語教育200年』 / 伊村元道 / 大修館書店 / 2003/9784469244861

『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』 / 江利川春雄 (編著) / 大修館書店 / 2012/9784469245738

『英語教育の危機』 / 鳥飼玖美子 / 筑摩書房 / 2018/9784480071095

『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』 / 鈴木涉 (編) / 大修館書店 / 2017/9784469246117

『現場発! 人間的な英語の授業を求めて』 / 池田真澄 / 高文研 / 2019/9784874986936

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

<実践的科目>公立小学校での外国語（英語）専科教員の経験あり。

英語圏文化

EGL3452N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 2限

DP4：思考・解決力

60

集中

木島 菜菜子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本講義は、英語圏の中でも特にイギリスに焦点をあて、その文化について複眼的に学ぶことを目的とする。「イギリス」の変化にも着目しながら、文化の理解に欠かせない歴史や宗教、政治に関する知識をも身につけると同時に、特に自分が関心を寄せる文化的事象についてより深く理解し考えることで、多角的な思考力を涵養することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 英語圏について複眼的な知識を習得する。
2. イギリスの社会と文化を考察することによって、多角的な思考力を涵養する。
3. イギリスの歴史について幅広い知識を習得する。
4. イギリスの社会と文化の仕組みを、様々な視点から理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
シラバスの説明など
- 第 2 回 第1章
イギリスとはなにか
- 第 3 回 第2章

英語と英語圏について

- 第 4 回 第3章
イギリスの地理と自然環境
- 第 5 回 第4章
イギリスの歴史と文学
- 第 6 回 第5章
イギリスの宗教と生活
- 第 7 回 第6章
イギリスの音楽
- 第 8 回 第7章
イギリスの映像文化とメディア
- 第 9 回 第8章
イギリスの美術
- 第 10 回 第9章
イギリスのスポーツ身体文化
- 第 11 回 第10章
イギリスの教育と社会階層
- 第 12 回 第11章
イギリスの王室と政治
- 第 13 回 第12章
世界の中のイギリス
- 第 14 回 補足
イギリスの外の英語圏
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は基本的には講義形式だが、演習やグループワークの形式をとることもある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

初回の授業で指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

平常点：30%

期末レポート：70%

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イギリス文化入門』/下楠昌哉他/三修社/
2010/978-4384055665/学内販売予定

配布プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英文学の歴史

EGL2200N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 3限

DP2：知識・理解力

60

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語圏の文学の中でもその源流であるイギリス文学を中心に英文学の歴史を紐解く授業である。同時にイギリス史を概観しながら、それぞれの時代を代表する文学者を取り上げ紹介する。また彼らの具体的作品を読みながらその文学手法や思想に裏付けられた豊かな英語表現を理解する。また、それぞれの作品の背景になっているその時代、国と地域の状況と文化についても理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. イギリス文学の歴史、代表する作家や作品などを理解することができる。
2. 個々の作家やその作品に触れ、その特徴やテーマを理解することができる。
3. イギリス文学のジャンル、思想について幅広く学ぶことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業が聞けない。	授業の内容を漠然としか把握できない。	授業内容を把握し、まとめることができる。	把握した知識を発展させたり、発表することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：イギリス文学史について
- 第 2 回 叙事詩の伝統とチョーサーの時代
- 第 3 回 シェイクスピアの時代
- 第 4 回 映画 Hamlet
- 第 5 回 ミルトンの時代
- 第 6 回 ドライデンとポープの時代：ジョナサン・スウィフト
- 第 7 回 ジョンソンの時代：ウィリアム・ブレイク
- 第 8 回 ワーズワースの時代：ジェーン・オースティン
- 第 9 回 映画『ある晴れた日に』
- 第 10 回 テニソンの時代：ディケンズ、サッカレイ、ルイス・キャロル
- 第 11 回 ハーディの時代：W.B. イェイツ、オズカー・ワイルド、バーナード・ショー
- 第 12 回 ジョイスの時代：ウルフ、ベケット
- 第 13 回 20世紀の文学
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ、フィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 文学史について本を読む。
2. 作品もしくはその一部を読む。
3. 文学映画を観る。
4. 文学作品について話し合う。
5. クイズもしくはレポートの作成
6. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

初回の授業で指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

クラスリスポンス (20%)、テスト (50%)、小テスト、レポート (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

作品を体験するには作品そのものを読むこと以外には途はない。しかし、映像化された作品はビデオ情報などを活用して体験可能であり、文学作品が多様な表現形式のための材料として扱われる場合がふえている。この点を念頭におき、オンライン上の情報・データはもとより映像・音楽などのメディアにも注意を怠ってはならない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『はじめて学ぶイギリス文学』/神谷妙子編所/ミネルヴァ書房///

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

English Literature by Jonathan Bate (Oxford University Press, 2010)

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英文学作品研究

EGL2450N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 2限

DP4：思考・解決力

90

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースでは、19世紀イギリス小説の中から代表的なものをいくつか取り上げ、その一部を原文で精読し、高い英語読解能力とテキスト解析能力を養うことを目標とする。また、先行研究や小説論に触れることで、文学作品を論じる

方法を学ぶ。さらに、作品や批評についての自分の考えを表現することを通して、作品の読みどころを論じる能力を涵養することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 英文学作品を原文で読むための英語力の向上
- (2) テキスト分析能力の養成
- (3) 文学批評の理解
- (4) 自分の考えの客観的・論理的表現能力の養成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力	作品を読んだ感想など自分の考えを表現することができない。	作品の感想を主観的に表現し、先行研究や作品の背景について学ぼうとする。	先行研究や作品の背景を理解し、自分の考えを深めることができる。	先行研究や作品の背景をもとに、作品についての自分の考えを客観的・論理的に表現できる。
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン (対面)
授業形態の説明、シラバスの内容の確認および取り上げる作品とその理由についての説明
- 第 2 回 「文学作品」の中の「小説」(オンライン)
-イアン・ワット『イギリス小説の勃興』(1957)・橋本宏他訳(1998)の一部を読む。
-動画の視聴とresponでのリアクションをおこなう。
- 第 3 回 Jane Austen, *Emma* (1816) (オンライン)
*Emma*の一部を精読し、Manabaのレポート課題をおこなう (Assignment 1)。
- 第 4 回 小説におけるいくつかの要素について (オンライン)
-デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』(1992)・柴田元幸他訳(1997)の一部を読む。
-動画の視聴とresponでのリアクションをおこなう。
- 第 5 回 Charles Dickens, *A Christmas Carol* (1843) (オンライン)
*A Christmas Carol*の一部を精読し、Manabaのレポート課題をおこなう (Assignment 2)。
- 第 6 回 作品と作家の伝記的背景について (オンライン)

-エドモンド・ウィルソン「ディケンズ二人のスクルージ」(1940)・佐々木徹訳(2005)の一部を読む。

-動画の視聴とresponでのリアクションをおこなう。

第 7 回 Charlotte Brontë, *Jane Eyre* (1847) (オンライン)
*Jane Eyre*の一部を精読し、Manabaのレポート課題をおこなう (Assignment 3)。

第 8 回 小説を語り直す (オンライン)
-ジーン・リース『サルガッソーの広い海』(1966)小沢瑞穂訳(2009)の一部を読む。
-動画の視聴とresponでのリアクションをおこなう。

第 9 回 小説を読み直す (オンライン)
-サンドラ・ギルバート、スーザン・グーバー『屋根裏の狂女』(1979)・山田晴子他訳(1986)の一部を読む。
-動画の視聴とresponでのリアクションをおこなう。

第 10 回 George Eliot, *Adam Bede* (1859) (オンライン)
*Adam Bede*の一部を精読し、Manabaのレポート課題をおこなう (Assignment 4)。

第 11 回 小説における「リアリズム」(オンライン)
-Ruth Bernard Yeazell, *Dutch Painting and the Realist Novel* (2008)の一部を読む。
-動画の視聴とresponでのリアクションをおこなう。

第 12 回 Henry James, *The Portrait of a Lady* (1881) (オンライン)
*The Portrait of a Lady*の一部を精読し、Manabaのレポート課題をおこなう (Assignment 5)。

第 13 回 「視点」について (オンライン)
-Dorothy Van Ghent, *The English Novel: Form and Function* (1953)の一部を読む。
-動画の視聴とresponでのリアクションをおこなう。

第 14 回 授業内容のまとめとレポート作成について (対面)
-トピックおよび作品の選定について
-ディスカッションなど

第 15 回 まとめとレポートの提出 (オンライン)
授業内容の振り返りとレポートの提出を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
本コースは対面とオンラインのブレンド型授業です。オンラインはManabaをプラットフォームとして使用します。

対面授業を行うのは、初回と第14回(授業内容のまとめとレポート作成に関する説明)のみです。

その他の授業は、Manabaでのレポート提出や、講義動画の視聴とレスポンスでの回答を中心に進めます。

<授業方法>

ManabaコースコンテンツにPDFにおいてある配布プリントの指定された箇所を読んでいる（文学作品の一部については精読している）ことを前提に、作品分析を行う。また、作品の背景や先行研究について講義する。

<学習方法>

- (1) ManabaコースコンテンツにPDFにおいてある配布プリントの指定された箇所を事前に読む。（文学作品の一部については精読する。）
- (2) 読んだプリントの内容を要約し、Manabaのレポートで提出する。
- (3) 講義動画を視聴し、レスポンスに回答する。
- (4) 授業で言及のあった作家の作品の中から興味を持った作品を読む。
- (5) 最後にレポートを作成する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

ManabaコースコンテンツにPDFにおいてある配布プリントの指定された箇所を読む。文学作品の一部については精読する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

Assignments 50%

Respon 20%

レポート 30%

〔留意事項（Other Information）〕

本科目は、対面と、Manabaを使用したオンラインのブレンド型授業です。感染拡大状況の悪化による対面授業の中止を含め、授業計画は、受講生の課題への取り組みの進捗などに応じて変更することがあります。変更点は原則として1週間前までにManabaのコースニュースで掲示しますので、毎週必ずManabaをチェックしてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

配布資料をPDFの形でManabaのコースコンテンツにおきます。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業動画内で紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英文法 I

EGB1304N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

水曜3限

DP3：言語力

60

田中 美和子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

課題となる英文法の項目を、言語学および英語学の知見を知って俯瞰する。それらにより、文法を有機的に理解して、作文や読解に生かすことができる。最終的に、英文法を効率的に説明することができるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

英文法の理解を深めると同時に、自然な発音、語彙力、表現力など実践的な力も身につけることも意識したい。

- 1. 文の構造
- 2. 英語と日本語の違い
- 3. 発音記号
- 4. 言語使用場面における表現の適切性

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 文 (Sentence)

ガイダンス： 教科書の使い方と予習の方法、そして日英語の違いという視点

テーマ：ことばというもの・主語を探す・文の種類、発音の違い

第 2 回 5文型：主語と目的語

品詞：名詞・代名詞、英語と日本語の違い

第 3 回 5文型：補語（主格と目的格）

品詞：形容詞（名詞を修飾する機能） 英語と日本語の違い

第 4 回 5文型：目的語

品詞：名詞、冠詞

第 5 回

- 7文型：場所を表す前置詞句と副詞（L）
品詞：前置詞、副詞（動詞を修飾する機能）
- 第 6 回 5文型と7文型：文の要素としての動詞
品詞：動詞（他動詞と自動詞）、動詞の活用
- 第 7 回 5文型と7文型：文の要素としての動詞
品詞：助動詞（未来、可能性、能力）と仮定法、そして表現を和らげる機能
- 第 8 回 5文型と7文型のまとめ
品詞：接続詞（等位接続詞と従位接続詞）と文の種類、副詞などの接続表現
- 第 9 回 品詞：間投詞、8品詞のまとめ
準動詞（品詞を変える）：to不定詞、分詞、動名詞
- 第 10 回 関係代名詞と関係副詞
- 第 11 回 時制：現在、過去、未来
進行形の意味
- 第 12 回 時制：現在、過去、未来
完了形の意味、時制の一致
- 第 13 回 英文法を教えてみよう①ハンドアウト
- 第 14 回 英文法を教えてみよう② ショート・レクチャー
- 第 15 回 まとめのテストと振り返り

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業方法

授業中はグループで、ディスカッションやトークをするので積極的に参加する。また、復習を必要とする小テスト、予習していることを前提とした質問も多くするので、ゆっくりとはしてられない。そして、英語の電子辞書は各自必ず持ってくる。最終的に1つの文法項目を選び、ショート・レクチャーをしてもらう。

2. 学習方法

英文法を単に暗記するものと考えず、その仕組みを学ぶ。普段から、日本語と英語の違いにも興味を持ち、語学を研究する態度を身につける。文法用語を覚えて、文法項目を整理する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1.参加者全員が、授業の予習として、事前にテキストを読み、内容をある程度理解してくる。
 - 2.参加者全員が、授業の復習をして、授業内容を思い出しておく。
 - 3.文法用語が出てきたら、その都度覚えていく。わからなければ質問をする。
 - 4.「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から、多くの英文にふれたり、実際に使うことが望ましい。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- 1.期末試験（50%）：授業で扱った文法項目
- 2.前回の授業で扱った文法項目に関する小テストの評価（20%）
- 3.ショート・レクチャー（10%）
- 4.授業への参加度（20%）

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『英文法総覧』/安井稔/開拓社/1996/4758903832

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

英和辞書を用意すること。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英文法 II

EGB1354N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

水曜 3限

DP3：言語力

60

「英文法I」履修者であること

田中 美和子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

課題となる英文法の項目を、言語学および英語学の知見をもって俯瞰する。それらにより、文法を有機的に理解して、作文や読解に生かすことができる。最終的に、英文法を効率的に説明することができるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

英文法の理解を深めると同時に、自然な発音、語彙力、表現力など実践的な力も身につけることも意識したい。

1. 文の構造
2. 英語と日本語の違い
3. 発音記号
4. 言語使用場面における表現の適切性

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 対面：オリエンテーション
ガイダンス： ?ブレンド型授業の進め方
?教科書の使い方と予習の方法
③自分なりの英語に対する切り口を持つ（日英語の違い）
テーマ：5文型と7文型、8品詞、時制と完了形(前期の総まとめ)
- 第 2 回 対面：
態：受動態と能動態（教科書 pp.299-316), 日英語の違い
- 第 3 回 対面：
仮定法：未来についての仮定と仮定法過去 (教科書 pp.317-325), 日英語の違い
- 第 4 回 対面：
話法：直接話法と間接話法 (教科書 pp.327-340), 日英語の違い
- 第 5 回 対面：
比較：形容詞と副詞 (教科書 pp.341-357), 日英語の違い
- 第 6 回 対面：
否定：さまざまな否定表現 (教科書 pp.358-370), 日英語の違い
- 第 7 回 対面：
動詞構文 (教科書 pp.371-413), 日英語の違い
- 第 8 回 オンライン授業
名詞構文 (教科書 pp.414-426), 日英語の違い
◎後期レポートライティング：テーマ決定
- 第 9 回 対面：
形容詞構文 (教科書 pp.427-437), 日英語の違い
- 第 10 回 対面：
There構文と形式主語 it（文の主題）(教科書 pp.455-468), 日英語の違い
- 第 11 回 対面：
いろいろな副詞節（時、条件、譲歩、様態など）(教科書 pp.500-527), 日英語の違い
- 第 12 回 対面：
情報構造と強調 (教科書 pp.530-559), 日英語の違い
- 第 13 回 オンライン授業：
3分間で英文法を教えてみよう①ハンドアウト作成
- 第 14 回 対面：
3分間で英文法を教えてみよう②ショート・レクチャー
- 第 15 回 対面：
3分間で英文法を教えてみよう③ ショート・レクチャー
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

英文法を単に暗記するものと考えず、その仕組みを学ぶ。普段から、日本語と英語の違いに興味を持ち、語学を研究する態度を身につける。文法用語を覚えて、文法項目を整理する。

授業では、毎回、1つの文法項目を学ぶ。そして、宿題として、その文法事項を実践的に用いてライティングをする。さらに、発音記号を学びつつ、ライティングした原稿を基に、英語で発表をしてもらう。なお、教科書を読んで予習していることを前提とした質問もする。したがって、授業中は、ゆっくりとはしてられない。

最終的に、各自1つの文法項目を選び、レポートを書く。そして、その文法項目について、教室で3分間レクチャーをしてもらう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1.参加者全員が、授業の予習として、事前にテキストを読み、内容をある程度理解してくる。
- 2.参加者全員が、宿題となるライティングをしながら、授業内容を思い出しておく。
- 3.文法用語が出てきたら、その都度覚えていく。わからなければ質問をする。
- 4.「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から、多くの英文にふれたり、実際に使うことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 1.課題 (30%)：ライティングなど
- 2.授業中発表 (20%)
- 3.授業内課題 (30%)：発表・レクチャー・レポートなど
- 4.参加度 (20%)：出席点と授業態度（遅刻3回で欠席1回に換算する）

〔留意事項 (Other Information)〕

ブレンド型授業になります。予定の変更があれば、マナバのコースニュースに流します。必ず、マナバを確認してください。教科書は、『英文法 I（前期）』と同じです。持っていない人のみ購入してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『英文法総覧』 / 安井稔 / 開拓社 / 1996 / 4758903832

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

英和・和英辞書を用意してください。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英米文学概論

EGF2200N0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 1年次
 2単位 後期
 月曜 3限
 DP2：知識・理解力
 60
 必修
 須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースでは、英語英文学の学生として知っておくべき文学作品と文学用語を学ぶ。英語圏の小説、劇、詩の具体的作品を読解し英語による表現力の理解を深める。物語の構造を理解するため、映画を鑑賞したり、原作をじっくり読みこなす。また、作品の背景になっている国や地域の文化についてもしっかり学ぶので、やがて中学や高等学校で外国語科の授業を担当した場合にその知識を生かすことができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 英語の読解力をつける。
- 2) 文学作品で使われている様々な英語表現について理解する。
- 3) 英語圏文学の背景である国や地域の文化について理解する。
- 4) 英語で書かれた代表的文学を知る。
- 5) 文学の基礎知識を得る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業をしっかり聞けない。	授業の内容を漠然としか理解できない。	授業を理解し、まとめることができる。	理解した内容を自分で発表することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 文学入門
- 第 3 回 小説の文法と表現
- 第 4 回 映画『Back to the Future』
- 第 5 回 性格描写、伏線、視点とナレーター論
- 第 6 回 ディケンズ、ジョイス、マンズフィールド、カズオ・イシグロ
- 第 7 回 それぞれの小説の時代・国・地域の文化
- 第 8 回 劇の文法と表現
- 第 9 回 映画『Romeo and Juliet』
- 第 10 回 シェイクスピアからオスカー・ワイルド、その時代・国・地域の文化
- 第 11 回 詩の文法と表現
- 第 12 回 シェイクスピア・ソネットからボブ・ディランまで
- 第 13 回 それぞれの時代・国・地域の文化
- 第 14 回 詩の考察・グループ学習

第 15 回 まとめとフィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 文学についての本を読む。
- 2) 作品を読む。
- 3) 映画鑑賞をする。
- 4) 作品の構造と表現を理解する。
- 5) 作品の背景になっている国や地域、またその時代について調査し、理解する。
- 6) 作品についてグループで話し合う。
- 7) 意見をまとめてレポート作成をする。
- 8) 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小テストのために教科書やプリントの復習が必ず必要である。課題の作品読解とレポート提出も求められるのでそれぞれ準備すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

クラスレスポンス (20%)

テスト (50%)

小テスト、レポート (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

学生のレベルによってペースや内容を変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『A Guide to Literary Study』/Leon T. Dickinson/Naundo/ 2007年//学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『English Literature』/Andrew Sanders/Oxford University Press/2004/2004978-0-19-926338-7

『English Literature』/Jonathan Bate/Oxford University Press/2010/978-0-19-956926-7

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

応用言語学

EGR3450N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 4限

DP4：思考・解決力

60

上野 舞斗

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

応用言語学は言語学の諸言語教育への応用として成立し、言語学と隣接科学の中間領域に位置付けられています。本科目では、こうした広大な応用言語学の分野のうち、第二

言語（外国語）習得理論に焦点を当て、履修者が第二言語（外国語）習得の仕組みについて基本的な内容を理解し、これを英語学習や英語教育に活かせるようになることを教育目標としています。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 第二言語習得理論の基礎を理解すること
2. 第二言語習得理論の知識・理解を基に自身の英語学習法を再考すること
3. 第二言語習得理論の知識・理解を英語教育に活かす方法について考えること

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
SLAに関する基礎知識	テキストを全く読んでいない。	SLAに関する基礎知識を理解できていない。	SLAに関する基礎知識を理解している。	SLAに関する基礎知識を理解しており、これを他者に説明できる。
SLAの英語学習・教育への応用	テキストを全く読んでおらず、SLAを英語学習・教育に応用するのに必要な知識を持っていない。	SLAに関する基礎知識を部分的に持った上で、抽象的ながらも英語学習・教育への応用方法を考えている。	SLAに関する基礎知識を持ち、これに依拠して、英語学習・教育への具体的な応用方法を考えている。	SLAに関する基礎知識を持ち、これを批判的に考察しながら、英語学習・教育への具体的な応用方法を考えている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：応用言語学とは
- 第 2 回 第二言語習得 (SLA) 研究とは何か
- 第 3 回 母語獲得：生得的言語習得と創発的言語習得
- 第 4 回 母語と第二言語：転移とリテラシー
- 第 5 回 誤用分析と中間言語
- 第 6 回 認知的アプローチ (1)：情報処理アプローチ
- 第 7 回 認知的アプローチ (2)：インプットーインタラクションーアウトプット
- 第 8 回 社会的アプローチ
- 第 9 回 SLAと外国語教授法 (1)：外国語教授法の変遷
- 第 10 回 SLAと外国語教授法 (2)：Task-Based Language Teaching
- 第 11 回 適性とパーソナリティ
- 第 12 回 動機付けと学習方略
- 第 13 回 臨界期仮説と早期英語教育
- 第 14 回 複雑系理論のアプローチ
- 第 15 回 コースのまとめ：言語学習に関する通説の検討
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・講義形式の授業に加えて、協同学習を中心とした問題演習を実施します

・毎時のコメントシートに対するフィードバックとして、授業内でこれを共有し、全体での学びとします

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

＜復習＞前時の授業内容をテキストおよび配布プリントを基に学習内容を復習してください。毎回授業開始時には、前時学習内容についての確認テストもあります。

＜予習＞次時で扱われるテキストの指定ページを必ず熟読し、自分なりの問題意識や疑問点を持った上で授業に出席してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業内提出物（30%）、確認テスト（30%）、定期試験（40%）

〔留意事項（Other Information）〕

30分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。

遅刻3回で欠席1回分とし、欠席が3回になった時点で単位取得を認めません。

なお、やむを得ず欠席・遅刻する場合は、必ず担当教員に事前にメール等で知らせてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『はじめての第二言語習得論講義』/馬場今日子・新多了/大修館書店/2016/9784469246087/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『英語教師のための第二言語習得論入門』/白井恭弘/大修館書店/2012/9784469245707

『タスク・ベースの英語指導—TBLTの理解と実践』/松村昌紀(編)/大修館書店/2017/9784469246094

Second Language Acquisition / Rod Ellis / Oxford University Press / 1997 / 9780194372121

How Languages Are Learned (4th edition) / Patsy M. Lightbown & Nina Spada / Oxford University Press / 2013 / 9780194541268

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学 I a

EGB2360N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期集中

その他

DP3：言語力

15

集中
グローバル英語コース必修

Steven Herder York Weatherford

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The university's regular study abroad system (Semester-accredited study abroad, studying abroad at a sister university)

in the United States, studying abroad in a global English course) aims to have students live and study in an English-speaking country for six months or one year, in order to develop themselves linguistically, emotionally, and intellectually.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Objectives in studying abroad include: 1) Develop real skills using English as a communication tool, 2) Gain intercultural experience with people from many countries, and 3) Develop a more global mindset and international perspective. These objectives will be enhanced by learning to observe and interact in an English-speaking country, then reflect and write in English to express lessons learned while abroad.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力 Expectations: See multiple perspectives; Ability to ask questions; Ability to solve problems; Be logical, persuasive, and organized in your thinking	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
創造・発信力 Expectations: Observational Ability; Ability to brainstorm ideas; Ability to express your ideas; Ability to see culture below the surface	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

1. Academic Reports are based on the Cultural Iceberg Theory that we studied in class. Like an iceberg, some cultural differences are very easy to see (about 1%), while many other differences are rather difficult to see (about 9%). Choose from

the topics below and address a maximum of two topics for each essay.

Report 1 - Food, Language, Holidays, Festivals, Clothing, TV, Music

Report 2 - Family roles, Manners, Self-concept, Religious beliefs, Gender roles

Report 3 - Body language, Values, Beliefs & Assumptions, Concept of cleanliness, Rules

Report 4 - Friendships, Attitudes toward age, Learning styles, Beauty ideals, Leadership styles

Report 5 - Importance of time, Competitiveness, Health & medicine, Gestures, Individuality

Report 6 - Views on raising children, Women's power, Space & Distance, Social status

2. Personal Reports provide an opportunity to keep in touch with us here on Kyoto Notre Dame Campus. Simply answer these two questions, with as many details and examples as necessary:

a) What is going well in your study abroad experience?

b) What is not going well yet?

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

Each monthly report will be worth 16 points maximum. Completing all six reports results in a 4 point bonus, leading to 100 points in total.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students are required to submit 6 monthly reports, consisting of two parts: 1) Academic report, and 2) Personal report. Reports are due by midnight on the final Sunday of each month. Write your report in your Google Drive document.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In addition to the preparation you will receive in the 海外留学事前指導 course, make an effort to study at the i-Space, get accustomed to classes conducted in English only, and actively speak in class in order to get used to life completely in English. 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Each monthly report will be worth 16 points maximum. Submission of reports will be done in Google Drive, with an expectation of at least 500 words per report. We will evaluate your essay in terms of the contents (what you write) and

delivery (how well you express it). Completing all six reports will result in a 4 point bonus, leading to 100 points in total.

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学 I b

EGB2310N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次

1単位 前期集中

その他

DP3 : 言語力

15

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度（セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等）を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学 II a

EGB2361N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期集中

その他

DP3 : 言語力

30

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度（セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等）を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学 II b

EGB2311N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次

2単位 前期集中

その他

DP3 : 言語力

30

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に

培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学Ⅲ a

EGB2362N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

4単位 後期集中

その他

DP3 : 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学Ⅲ b

EGB2312N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次

4単位 前期集中

その他

DP3 : 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体

的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学Ⅲ c

EGB2363N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

4単位 後期集中

その他

DP3: 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に

培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学Ⅲ d

EGB2313N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次

4単位 前期集中

その他

DP3 : 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学Ⅲ e

EGB2364N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

4単位 後期集中

その他

DP3 : 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体

的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学 III f

EGB2314N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次

4単位 前期集中

その他

DP3: 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に

培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学事前指導

EGE2500N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

月曜 5限

DP5 : 共生・協働する力

30

集中 全7.5コマ

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course prepares students to get the most out of their study abroad (SA) experience by understanding study abroad as a process: Before (BSA), During (DSA), and After (ASA). With enough preparation and clear goals, students can adapt to their new environment better prepared to encounter a great change in their lives.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. Students will understand study abroad as a process: BSA, DSA, and ASA
2. Students will identify clear goals and an overall purpose of their SA
3. Students will learn meaningful lessons from roleplays, feedback, and group discussions

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力 Expectations: Build a study system; Be on time; Do assignments; Make enough efforts to succeed	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
知識・理解力 Expectations: Understand lesson contents; Know personal weak points; Choose areas to improve;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力 Expectations: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Maximizing your Study Abroad Experience: Before SA, During SA, and After SA
Research Opportunities Abroad 1: Semi-structured Interviews
- 第 2 回 Research Opportunities Abroad 2: Textual Analysis
- 第 3 回 Research Opportunities Abroad 3: Surveys & Questionnaires
- 第 4 回 Research Opportunities Abroad 4: Coding & Frameworks

第 5 回 Roleplay Lessons: Inner Circle (Roommates, Host Family, Dorm Residents, Classmates, and Friends)

第 6 回 Roleplay Lessons: Outer Circle (Professors, Campus Staff, Business People, and Strangers)

第 7 回 渡航前事前準備

第 8 回 渡航前オリエンテーションの補足説明

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

There will be short introductions of basic qualitative and quantitative primary research methods. Students will brainstorm and workshop ideas, then practice these methods between classes. Furthermore, role plays and small group discussions will be used to reflect on life abroad. Students will complete two oral research method reports.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will need to prepare for classes by reading and brainstorming ideas. Students are expected to be very active in class, interacting with classmates and asking questions actively.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Research Method Projects 40%

Class participation 30%

Roleplay simulations 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

第 7 回と 8 回の授業については、合わせて第 7 回に 1.5 コマ分の授業時間を確保する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Google Search Research Method Titles, "Making Online Surveys"

For example,

<https://www.google.com/forms/about/>

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

外国語としての日本語

EGR3202N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

定員30人

三原 健一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語母語話者は、日本語を話し・聞き・理解することはできますが、日本語がどのような「仕組み」になっているかは案外知らないものです。本授業を受けることで、日本語を客観的に見る能力や、自分の頭で日本語を考える能力が身に付きます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 日本語を客観的に見る方法を学びます。(2) 意味や構造を中心に考えますが、音声、方言、言語生活などの話題も随時取り上げます。(3) みなさんが持っている(であろう)「文法」のイメージを180度転換し、文法のことを自分の頭で考えるのは「楽しい!」と思えるようになる話をします。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction

世界の中の日本語

第 2 回 社会言語学 (1)

ことばと社会

第 3 回 社会言語学 (2)

ものの言い方西東

第 4 回 社会言語学 (3)

人を指すことば

第 5 回 音韻論 (1)

日本語の音声

第 6 回 音韻論 (2)

音の作り方
 第 7 回 音韻論 (3)
 アクセント
 第 8 回 形態論 (1)
 語形成
 第 9 回 形態論 (2)
 活用形と「ら」抜きことば
 第 10 回 形態論 (3)
 語の中心部分
 第 11 回 意味論 (1)
 意味の世界
 第 12 回 意味論 (2)
 日常生活の中の比喩
 第 13 回 意味論 (3)
 心を表すことば
 第 14 回 統語論
 文の基本構造
 第 15 回 総括
 アスペクトの日英比較
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 プリントを配布し、講義形式を中心として授業を進めますが、授業中の質問やディスカッションを歓迎します。
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 各回の授業後に指示した内容について、次の授業までに考えてきて下さい。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 60
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 授業への参加・平常点 (20%) 及び、3～4 回行う小テスト (80%) を総合して評価します。学期末のテストは行いませんので、小テストを必ず受けて下さい。なお、小テストは次の週に返却し、テストの内容について解説します。
 [留意事項 (Other Information)]
 授業内容が積み重ね式なので、毎回の授業後、必ず「復習」をして下さい。
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 毎回プリントを配布します。
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 授業中に適宜紹介します。
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

研究方法論 (コミュニケーション学)

EGF2254N0J
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次
 2単位 後期
 月曜 3限
 DP2: 知識・理解力
 60
 小山 哲春

[科目の教育目標 (Course Description)]

本科目は、コミュニケーション学領域における「英語英文学演習I/II (ゼミ)」および「卒業研究」での演習・研究で必要となる研究方法論を習得することを目標とする。

上記の目標を達成するため、「コミュニケーション」を科学的、人類学的、あるいは哲学的に分析する様々な方法論の基盤を学び、自身が関心を持つコミュニケーション現象を実際に観察、分析する初歩的な技術を習得する。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

[1] 社会科学の理解

[2] 具体的研究方法論習得:

- (a) 構成概念の観測方法と質問紙調査法の習得
- (b) 実験法の習得
- (c) フィールドワーク (参与者観察) 法の習得
- (d) 言語理論による言語コミュニケーション分析法の習得

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 コミュニケーション学およびコミュニケーション研究方法論概説
- 第 2 回 方法論 1: 社会科学としてのコミュニケーション研究概説
- 第 3 回 方法論 2: 人文学としてのコミュニケーション研究概説
- 第 4 回 方法論 3: 構成概念の理解・構成概念計測法
- 第 5 回 方法論 4: 質問紙調査法 (On-line Surveyを含む)
- 第 6 回 方法論 5: 実験法
- 第 7 回 方法論 6: フィールドワーク (参与観察) 法

- 第 8 回 Review & Midterm Exam
- 第 9 回 方法論 7 : 言語理論による言語コミュニケーション分析法(言語哲学)
- 第 10 回 方法論 8 : 言語理論による言語コミュニケーション分析法(語用論)
- 第 11 回 方法論 9 : 言語理論による言語コミュニケーション分析法(会話分析)
- 第 12 回 論文講読演習 1 (質問紙調査研究 / 実験研究)
- 第 13 回 論文講読演習 1 (語用論研究 / 会話分析研究)
- 第 14 回 グループ研究プロジェクト発表 Day1 (学籍番号 前半)
- 第 15 回 グループ研究プロジェクト発表 Day 2 (学籍番号 前半)

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

授業： 本科目は、前半は主に教員による講義と演習によって構成され、後半(4週間)は学生の発表およびディスカッションを中心とする演習形式で構成される。適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。

発表： (1) 指定されたコミュニケーションに関する学術論文についての発表、および、(2) グループで選んだトピック(コミュニケーション現象)を実際に分析した結果を口頭発表する。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

- (1) 指定されたテキスト(reading assignment)を事前に読む
 - (2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。
- [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

45

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Midterm Exam 25%

発表 1 (学術論文の分析) 25%

発表 2 (実践演習：グループ研究発表) 20%

Final Paper (発表 2 の内容を論文化したもの) 20%

ディスカッションへの貢献度 10%

[留意事項 (Other Information)]

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『コミュニケーション研究法』/末田清子他/ナカニシヤ出版./2011//学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『コミュニケーション学：その展望と視点』/末田清子・福田浩子/松柏社/2011/

『コミュニケーションスタディーズ入門』/鈴木謙他/大修館書店/2011/

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

研究方法論 (英語教育学) B

EGF2255BOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

東郷 多津

[科目の教育目標 (Course Description)]

生涯学習社会を見据え、教育に関する研究を進めていく上で、必要な基礎となる考え方及びその研究方法論の基礎の習得を目指します。この領域において用いられる代表的な研究手法について、講義、演習、ディスカッションを通して、主体的・協同的に学ぶ機会を提供します。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- ・ 21世紀型英語教育について基礎的な知識を得る
- ・ 英語教育分野における研究方法について基本的な知識を得る
- ・ 卒業研究に向けて、英語教育分野における学習者自身の関心を高める
- ・ 英語教育分野に関する内容を、主体的・協同的に議論できる

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	指示があっても動かない	指示された内容は実行できる	指示された内容を少し広げて実行できる	指示された内容から、自身の興味関心に結び付けて行動することができる
知識・理解力	英語教育学に関して何も語れない	英語教育学の分野に関するテキストを読んでいる	語教育学分野に関して、テキストの範囲内容を理解している	テキストを超えて、幅広く、英語教育学分野の研究内容について調べ、理解している
共生・協働する力	誰にも相談できない。または、一緒に活動できない	強制されれば、グループで活動することができる	強制されなくても、自ら一緒に活動する仲間をみつけることができる	自分の特性を把握したうえで、課題に応じて、一緒に活動する仲間をみつけ

				ることができる。かつ、全体のバランスに配慮することができる
--	--	--	--	-------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 第1章 言語習得と環境 ①
 - 1. 言語習得に関する3つの観点
- 第 3 回 第1章 言語習得と環境 ②
 - 2. 心理言語学的観点
- 第 4 回 第1章 言語習得と環境 ③
 - 3. 社会言語学的観点
- 第 5 回 第1章 言語習得と環境 ④
 - 4. 1. 世界諸英語
 - 4. 2. 国際語としての英語
- 第 6 回 第1章 言語習得と環境 ⑤
 - 4. 4. 早期英語教育
- 第 7 回 第2章 学習のメカニズム ①
 - 1. 言語能力と言語運用
 - 2. バイリンガリズム
- 第 8 回 第2章 学習のメカニズム ②
 - 3. L2能力の発達
- 第 9 回 第3章 学習者の特性 ①
 - 1. 言語適性
- 第 10 回 第3章 学習者の特性 ②
 - 2. 動機づけ
- 第 11 回 第3章 学習者の特性 ③
 - 3. 言語学習方略
- 第 12 回 第3章 学習者の特性 ④
 - 4. 外国語不安
- 第 13 回 第4章 外国語教授法の変遷
- 第 14 回 英語教育に関する研究論文
- 第 15 回 実践のまとめとディスカッション

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主体的・協同的な授業形態を採用するため、演習を中心として授業を展開します。演習中はクラス全体が「学習する組織」として機能するよう活発な意見交換が求められます。

課題・レポートに関するフィードバックは、必要に応じて、授業内またはweb上で、個人または全体に対して行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業は反転授業形式で進めます。したがって、毎回該当する章や参考文献を読んで、お互いに議論や質問できる状態になっていること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の参加度 30%

発表 30%

まとめのレポート 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

●遅刻は授業の進行の妨げとなるため、10分以上の遅刻は欠席とします。

●授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、必ず指定された予習や課題を行って授業に臨んでください。明らかに予習不足で議論に参加できない場合、出席しているとみなしません。

●やむを得ない場合を除き、担当箇所の発表を行わなかった場合は、単位が認められません。

●実習等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストを読んで、レポートにまとめて提出してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『英語指導法 理論と実践 21世紀型英語教育の探求』/赤松信彦編著/英報堂/2018/978-4269640283/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

研究方法論 (言語学)

EGF2256N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

月曜3限

DP2: 知識・理解力

60

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、「英語英文学演習」への準備として、生成文法の基礎を学びながら、研究の方法や研究成果を分かりやすく伝える方法を身に付けます。まずは「ことば」とは何か?という素朴な疑問から始まり、ことばの研究ですべきこと、してはいけないことなどを理解します。そして、データの集め方や、それがどのように興味深いかを、自分の言葉で説明できるようにするのが目標です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. ことばのどのようなところが、そしてなぜ興味深いのか、をデータを集めながら考えていく。

2. 集めたデータをもとに、いろいろな言語に共通するところと異なっているところを考える。

3. 集めたデータから、言語全体、または異なった言語での特徴を予想する。

4. 立てた予想が正しいかどうかを考え、それがどのように重要なのかを分かりやすく説明する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 「ことば」を科学的に考える
 ・生成文法が、「ことば」を科学的に考える理由や歴史を紹介します。
 ・科学的な学問では、文章をどのように始めるとよいのかを考えます。
 ・テキストの第1章を読んでおきましょう。
- 第 2 回 「ことば」の身につけ方
 ・人間がどのように「ことば」を身につけていくかを考えます。
 ・「ことば」を身につけるにあたって、どのような興味深い点があるのか考えます。
 ・異なった考えがあるときに、それらをどのように比べるとよいのか、を話し合います。
 ・テキストの第2章を読んでおきましょう。
- 第 3 回 人間がもつ、「ことば」の共通点
 ・人間が生まれつきもっている、「ことば」に共通した性質を考えます。
 ・世界の「ことば」が異なっている理由について話し合います。
 ・さまざまな説がある中から自分が選んだ立場について、説得力のある書き方を学びます。
 ・テキストの第3章を読んでおきましょう。
- 第 4 回 「ことば」の部品
 ・「ことば」をつくっている部品を紹介していきます。
 ・意味の解釈をもとに、二つの部品に分けて紹介します。
 ・異なるタイプのものを分かりやすく比較する方法を学びます。
 ・テキストの第4章を読んでおきましょう。
- 第 5 回 「ことば」の中心：文法構造
 ・生成文法のなかで「文法」とされる考え方を学びます。
 ・「構成素」という考え方を学びます。
 ・筆者がいちばん導入したい分野を、どのように

- 紹介していくか考えます。
 ・テキストの第5章を読んでおきましょう。
- 第 6 回 句の成り立ち
 ・「句」の成り立ちを導入します。
 ・句の構造を図で表す練習をします。
 ・句の構造を、ひとつの図にまとめます。
 ・理論がどのように発展していったかを、上手に説明する方法を学びます。
 ・テキストの第6章を読んでおきましょう。
- 第 7 回 文の組み立て
 ・一つの図にまとめた文の構造について、より深く掘り下げます。
 ・文法的に「見える」と「見えない」ものについて学びます。
 ・賛成されにくい考え方を、うまく説得する方法を学びます。
 ・テキストの第7章を読んでおきましょう。
- 第 8 回 意味とは何か？
 ・生成文法の中で、「意味」はどのようにとらえられているかを説明します。
 ・「名詞」が文の中でもつ役割について考えます。
 ・数多くあるものの特徴を、手短かにまとめて説明する方法を学びます。
 ・テキストの第8章を読んでおきましょう。
- 第 9 回 能動態と受動態
 ・「能動態」から「受動態」を生み出す操作について学びます。
 ・「格」とは何かを説明します。
 ・二つのものについて、関係を分かりやすく説明していく方法を身につけます。
 ・テキストの第9章を読んでおきましょう。
- 第 10 回 いろいろな名詞
 ・数や量を表す名詞のもつ特徴を説明します。
 ・代名詞が指し示すものを、公式の形でまとめます。
 ・理論の中心となる部分を、分かりやすく導入する方法を学びます。
 ・テキストの第10章を読んでおきましょう。
- 第 11 回 目に見えない主語？
 ・目に見える主語と見えない主語があることを説明します。
 ・「コントロール」という考え方を導入します。
 ・賛成されにくい考え方を、説得力のある書き方で説明する方法を学びます。
 ・テキストの第11章を読んでおきましょう。
- 第 12 回 主語？それとも目的語？
 ・「主語」と「目的語」という分け方が、かならずしも正しいとは限らないことを説明します。
 ・今までの考えとは異なる考えを、読み手に説得する書き方を学びます。
 ・テキストの第12章を読んでおきましょう。
- 第 13 回 主語はどこからくるの？
 ・主語は動詞の中からやってくることを説明します。

- ・今では当たり前になっている考え方を、効果的に導入する方法を学びます。
 - ・テキストの第13章を読んでおきましょう。
- 第 14 回 移動するのは句だけではない
- ・句の中心となる「主要部」が移動することを説明します。
 - ・複数の言語を比較する方法を学びます。
 - ・テキストの第14章を読んでおきましょう。
- 第 15 回 疑問詞を使った疑問文の作り方、まとめ
- ・疑問詞が移動することによって、どのように疑問文が作られるかを考えます。
 - ・とくに違いがわかりやすい例を使って、読み手をどのように説得するか、を学びます。
 - ・授業のまとめをします。
 - ・テキストの第15章を読んでおきましょう。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを提出してもらいます。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業はディスカッションを中心とした演習の形で行います。「なぜ?」と思うようなデータに、日頃から気を配っておきましょう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

「言語学概論」と「ことばのしくみ」の復習をしておきましょう。テキストはちゃんと読み、分からないところメモして質問して下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・授業参加：20%
- ・課題：30%
- ・レポート：50%

〔留意事項 (Other Information)〕

テキストはとても分かりやすいです。英語英文学演習の基礎となるので、毎回の授業できちんと学習内容を身につけていって下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ベーシック生成文法』岸本秀樹 (著) /ひつじ書房/978-4-89476-426-2/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

言語学概論

EGF2201A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

火曜 3限

DP2：知識・理解力

60

必修

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人文科学の分野では比較的マイナーな言語学ですが、楽しみながら学び、興味を持ってもらうのが目標です。さまざまな分野の言語学を紹介するので、その中から自分が特に気に入ったトピックについて理解を深めていってもらうことを到達目標とします。「一般言語学」と呼ばれる、一つの理論にし縛られない方法を用いて、音、語、文の仕組みや、それが意味とどのように関わっていくかなどを分析していきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・言語学とは？
- ・音
- ・音と意味
- ・語の成り立ち
- ・文法
- ・意味
- ・言語のバリエーション

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 言語学とは？

- ・言語学とはどのような学問で、どのように発展してきたかを説明します。
- ・テキストの第1講から第4講を読んでおきましょう。

第 2 回 音声学1

- 第 3 回 音声学2
 - ・口のしくみと音の出し方を理解します。
 - ・テキストの第5講を読んでおきましょう。
- 第 4 回 音韻論1
 - ・音と意味について学びます。
 - ・テキストの第7講から第9講を読んでおきましょう。
- 第 5 回 音韻論2
 - ・音と意味について理解を深めます。
 - ・テキストの第7講から第9講を読んでおきましょう。
- 第 6 回 形態論1
 - ・「語」の種類と組み立てについて学習します。
 - ・テキストの第10講と第11講を読んでおきましょう。
- 第 7 回 形態論2
 - ・語の「派生」について学習します。
 - ・テキストの第12講と第13講を読んでおきましょう。
- 第 8 回 統語論1
 - ・「句」と「文」の組み立てについて学習します。
 - ・テキストの第14講と第15講を読んでおきましょう。
- 第 9 回 統語論2
 - ・文の派生について学びます。
 - ・「生成文法」という理論を紹介します。
 - ・テキストの第15講から第17講を読んでおきましょう。
- 第 10 回 統語論2
 - ・興味深い文法現象と、その分析を紹介します。
 - ・テキストの第15講から第17講を読んでおきましょう。
- 第 11 回 意味論1
 - ・意味とは何かを考えます。
 - ・テキストの第18講と第19講を読んでおきましょう。
- 第 12 回 意味論2
 - ・意味の分析にはさまざまな方法があることを説明します。
 - ・テキストの第20講と第21講を読んでおきましょう。
- 第 13 回 語用論
 - ・意味がどのような伝わり方をするか話し合います。
 - ・テキストの第22講と第23講を読んでおきましょう。
- 第 14 回 言語の変化
 - ・言語がどのように変化するかを歴史的に考えます。
 - ・言語のバリエーションについて説明します。
 - ・テキストの第24講と第25講を読んでおきましょう。

- 第 15 回 まとめ
 - ・今までのまとめと、期末試験で特に理解しておいてほしいところを伝えます。
 - ・期末試験に関する質問に答えます。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

・期末試験のみ実施します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・講義形式で行うので、テキストの予習をしっかりとしましょう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・小テストで理解度を確認するので、テキストや授業の予習と復習をしっかりとおきましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・授業参加：20%

・小テスト：30%

・期末試験：50%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『言語学入門』/佐久間淳一(他)/研究社/2004/9.784327401382E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門講読 (英文学) A

EGF2250A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2：知識・理解力

60

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

まず表面の英語を正しく読めるように色々な英文でトレーニングする。その読解力の基本の単語や文法力をつけられるよう演習を入れる。その上で、文学の短編を英語読解するだけでなく、テキストに折り込まれた何層もの意味を分析する能力を培う。また、作家・作品の背景となる文化、歴史、思想を学び、より深く個別作品を理解できるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 文学は高度な英語なので、その英語が読めるように英語読解能力を培う。

2. 文法の総復習をして読解力をつける。

3. 単語量を増やす。
4. テキスト分析法を学ぶ。
5. 文学研究に興味を持てるようにする。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業がしっかり聞けない。	漠然としか授業の内容を理解していない。	授業の内容を把握できてまとめることができる。	理解したことを自ら発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
20世紀初頭のアイランドの解説
- 第 2 回 "The Clever Whitewasher"リーディング演習
James Joyce's *Dubliners* "Araby" 精読
- 第 3 回 "Captured"のリーディング演習
"Araby" 精読
- 第 4 回 "Nothing Happened"のリーディング演習
"Araby" 精読
- 第 5 回 "Dead as a Dodo"のリーディング演習
"Araby" 精読
- 第 6 回 "Rex:A True Tale"のリーディング演習
"Araby" 精読
- 第 7 回 "Dr.Jekyll's Other Self"のリーディング演習
映画"Araby" 鑑賞とディスカッション
- 第 8 回 "Mr. Kling's Secret"のリーディング演習
James Joyce's "A Little Cloud"精読
- 第 9 回 My Mother's Wax Friends"のリーディング演習
"A Little Cloud" 精読
- 第 10 回 "A Little Cloud" 精読
- 第 11 回 "A Little Cloud" 精読
- 第 12 回 "A Little Cloud" の分析とディスカッション
- 第 13 回 *Dubliners*における担当作品の発表
- 第 14 回 *Dubliners*における担当作品の発表
- 第 15 回 まとめとその他

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 予習
2. 文法復習
3. 部分的に精読
4. ノート提出
5. 確認
6. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時に詳細に指示する。英文をしっかり読めるようにするために文法と単語の復習を宿題としてやってきてもらい、クラスで確認する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度40%、課題30%、テスト30%で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

英語単語・読解等のトレーニングも毎回入れる。学生のレベルによって内容を変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に個別に指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門講読 (米文学) A

EGF2251N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、アメリカ文学の短編集を読み、基礎的なreading skillを習得することと、それぞれの作品を多角的な視点で解釈することを目的とする。テキストは全て原作で構成されており、生の英語文学に触れることを通じ、英語を正確に読む力を養う。また授業で扱う短編小説群は家族にまつわるストーリーで構成されている。一見すると、起承転結のない平凡な物語に見えるが、深くテキストを掘り下げることによって、様々な解釈が生み出されるものばかりである。ただ単に英語の文章を読むのではなく、一文一文丁寧に検証することによって、様々な意味を浮き彫りにし、文学が孕む無限の解釈の可能性を探っていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 文学を正確に読むために、語と語のつながりを、前置詞に至る次元まで正確に読む。
- 2 一文一語にこだわり解釈の可能性を見出す。
3. それぞれの作品の時代背景や、作家の自伝的要素に触れ、それらがテキストにどのように影響しているかを考察する。
4. 文学作品を英語で読む楽しみを覚える。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 "Laughing Sam" (pp.7-9)
- 第 3 回 "Laughing Sam" (pp.10-12)
- 第 4 回 "Laughing Sam" (pp.13-15)
- 第 5 回 "Laughing Sam" Review & Analysis
- 第 6 回 "Locomotive 38, the Ojibway" (pp.16-19)
- 第 7 回 "Locomotive 38, the Ojibway" (pp.20-23)
- 第 8 回 "Locomotive 38, the Ojibway" (pp.24-27)
- 第 9 回 "Locomotive 38, the Ojibway" (pp.28-29), Review & Analysis
- 第 10 回 "The Pomegranate Trees" (pp.30-33)
- 第 11 回 "The Pomegranate Trees" (pp.34-37)
- 第 12 回 "The Pomegranate Trees" (pp.38-41)
- 第 13 回 "The Pomegranate Trees" (pp.42-45)
- 第 14 回 "The Pomegranate Trees" (pp.45-47)
- 第 15 回 "The Pomegranate Trees" Review & Analysis

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、一文ずつ意味をたどっていく。難しい箇所、また不可解な箇所について、時間を割き、テキストの検証を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

開講時に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 (授業への貢献度) 30%

レポート 20%

期末試験 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Best Stories of William Saroyan / William Saroyan / 成美堂 / 1982 / 4-7919-0512-1 / 学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義中に適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門講読 (英文学) B

EGF2250BJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、英語で書かれた短編小説を読み、文学を読むための英語読解能力を習得することと、それぞれの作品を多角的な視点で解釈することを目的とする。授業で扱う短編小説は近年高い評価を受けてきた作品であり、ただ単に英語の文章を読むのではなく、一文一文丁寧に検証することによって、文学が孕む無限の解釈の可能性を探っていきたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 文学作品を原書で読むための英語読解能力を培う。
2. 文法の総復習をして読解力をつける。
3. 単語量を増やす。
4. 文学作品を英語で読む楽しみを覚える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業がしっかり聞けない。	漠然としか授業の内容を理解していない。	授業の内容を把握できてまとめることができる。	理解したことを自ら発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション (対面)
授業形態の説明、シラバスの内容の確認
- 第 2 回 Katherine Mansfield, "The Garden Party" 精読(1) (対面)
pp.1-3
discussion
- 第 3 回 Katherine Mansfield, "The Garden Party" 精読(2) (オンライン)
pp.4-6
reaction and analysis
- 第 4 回 Katherine Mansfield, "The Garden Party" 精読(3) (対面)
pp.7-9
discussion

- 第 5 回 Katherine Mansfield, "The Garden Party" 精読(4) (オンライン)
pp.10-12
reaction and analysis
- 第 6 回 "The Garden Party" Review (対面)
group discussion
- 第 7 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(1) (オンライン)
pp.134-137
reaction and analysis
- 第 8 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(2) (対面)
pp.138-142
discussion
- 第 9 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(3) (オンライン)
pp.143-147
reaction and analysis
- 第 10 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(4) (対面)
pp.148-152
discussion
- 第 11 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(5) (オンライン)
pp.153-157
reaction and analysis
- 第 12 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(6) (対面)
pp.158-162
discussion
- 第 13 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(7) (オンライン)
pp.163-164
reaction and analysis
- 第 14 回 "The Withered Arm" Review (対面)
group discussion
Final Paper についての説明
- 第 15 回 まとめと Final Paper 提出 (オンライン)
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本コースは対面とオンラインのブレンド型授業です。オンラインはManabaをプラットフォームとして使用します。

〈授業方法〉

対面授業では、授業計画に沿ってテキストを精読し、内容に関するディスカッションを行います。オンライン授業では、Manabaのレポートを提出し、個別にフィードバックを受けます。

〈学習方法〉

1. 予習
2. 文法復習

3. 精読と訳文作成
 4. 対面授業でのディスカッションへの参加、Manabaでのレポート提出
 5. Final Paper作成
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
授業時に指示する。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
120
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加40%、課題40%、レポート20%で総合的に評価する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
感染拡大状況の悪化による対面授業の中止を含め、授業計画は、受講生の課題への取り組みの進捗などに応じて変更することがあります。変更点は原則として1週間前までにManabaのコースニュースで掲示しますので、毎週必ずManabaをチェックしてください。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
配布資料をPDFの形でManabaのコースコンテンツにおきます。また、印刷したものを初回の授業で配布します。
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業時に個別に紹介する。
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究 2016年度以前入学者

209011A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 集中

必修 クラス指定

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II (3年次ゼミ) で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文 (卒業論文) を執筆することである。

卒業研究は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理

3. 具体的な分析方法論の習得と実践

4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする(2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6 : 創造・発信力

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II(3年次ゼミ)で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文(卒業論文)を執筆することである。

卒業研究は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために

必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評

2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理

3. 具体的な分析方法論の習得と実践

4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする(2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600BOJ
大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
4年次
8単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II（3年次ゼミ）で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文（卒業論文）を執筆することである。

卒業研究は大学における学習／研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理
3. 具体的な分析方法論の習得と実践
4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

- [1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする（2019年10月15日締切）。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。
- [2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。
- [3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段

階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600COJ
大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
4年次
8単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II（3年次ゼミ）で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文（卒業論文）を執筆することである。

卒業研究は大学における学習／研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理
3. 具体的な分析方法論の習得と実践
4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論

理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする (2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6 : 創造・発信力

杉村 美奈

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II (3年次ゼミ) で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文 (卒業論文) を執筆することである。

卒業研究は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理
3. 具体的な分析方法論の習得と実践
4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義/創造性/新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする (2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600E0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6 : 創造・発信力

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II (3年次ゼミ) で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文 (卒業論文) を執筆することである。

卒業研究は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理

3. 具体的な分析方法論の習得と実践

4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする(2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600G0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II(3年次ゼミ)で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文(卒業論文)を執筆することである。

卒業研究は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために

必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する:

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評

2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理

3. 具体的な分析方法論の習得と実践

4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする(2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600IOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6 : 創造・発信力

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II (3年次ゼミ) で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文(卒業論文)を執筆することである。

卒業研究は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理
3. 具体的な分析方法論の習得と実践
4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義/創造性/新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする(2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

対人コミュニケーション

EGL3403N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜4限

DP4 : 思考・解決力

60

守崎 誠一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コミュニケーション学の視点から、コミュニケーション全般について理解を深める。それにより、コミュニケーションが社会においてどのような役割を果たしており、よりよくコミュニケーションするために何が必要であるのかについて学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

他者との相互作用の中でどのように私たちは自分のことを他者に伝えるのか。どのようにすれば他者の持つ自己の印象を操作することができるのか。他者の意見や行動を効果的に変えるにはどうすればいいのか。マスメディアや広告はどうように人々の態度や考え方に影響を与えるのか。インターネットをはじめとする新たなメディアは、私たちのコミュニケーションにどのような影響を与えるのか、といったことについてコミュニケーション学の視点から学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	コミュニケーションに関心を持つ	コミュニケーションを理解しようとする	積極的に他者コミュニケーションしようとする	対者とのコミュニケーションによって、自身をよりよく変えていく

知識・理解力	受動的に知識を獲得し、理解をおこなう	能動的に知識を獲得し、理解をおこなう	学んだ知識や理解を基にして、自主的に新たな学びや理解に挑戦する	獲得した知識・理解を新たな分野に応用できるようになる
言語力	もっぱら授業を聞いているだけで発言をしない	質問されたことに対しては発言する	自ら積極的に発言をする	自ら問題を見つけて、それについて考え、独自の意見・考えを発言する
思考・解決力	与えられた情報を受け取るだけで、主体的な思考をおこなわない	与えられた問題や課題に対しては思考をおこなう	自ら主体的に問題を見つけて、それについて思考をおこなう	自ら主体的に問題を見つけて、それについて思考し、解決していく
共生・協働する力	教員と共に学ぼうとする	友人たちとも一緒に学ぼうとする	友人たちとの学びの中で積極的にコミュニケーションに勤める	友人たちと積極的に関わり合い、コミュニケーションを通して創造的な活動をする
創造・発信力	テストを受ける	レポートを作成できる	レポートの内容に創造性を加える	コミュニケーション活動を通して、独自性のある情報の創造と発信ができるようになる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
コミュニケーション研究の歴史
- 第 2 回 コミュニケーション研究の概要
言語コミュニケーションとは何か
非言語コミュニケーションとは何か
- 第 3 回 ことばの使用の生物学的基盤
ことばの起源
ヒトのことばの特性
直立歩行とことばの関係
- 第 4 回 母語の獲得
子供はことばをどう獲得するのか
ヒトの言語発達
習得説vs.生得説
- 第 5 回 「わかる」とは
「わかる」というプロセス
「わかってもらう」とは

- 「わかりやすくモノを伝えられる人」はどういう人なのか
- 第 6 回 自己開示
自己開示を測る5つの次元
ジョハリ・ウインドウ
人が自己開示をおこなう理由
自己開示の効用
- 第 7 回 自己呈示
自己呈示の動機
自己呈示の方略
- 第 8 回 対人関係
対人関係の形成・発展・崩壊
親しさを表すコミュニケーション
- 第 9 回 説得
説得効果を高める要因
要請技法
- 第 10 回 集団とコミュニケーション
集団でのコミュニケーションが持つ特徴
- 第 11 回 葛藤・紛争状況におけるコミュニケーション
葛藤・紛争を解決するための方略
葛藤・紛争の解決に対する文化の影響
- 第 12 回 うわさ、流言、デマ
うわさの伝播を促進する要因
ネット社会における噂の怖さ
- 第 13 回 アサーティブネス
アサーショントレーニングの考え方と歴史
- 第 14 回 マス・コミュニケーション
マスメディア研究の歴史
マスメディアの影響をどのように捉えるか
- 第 15 回 新しいメディアとコミュニケーション
コンピュータを使ったコミュニケーションの光と影
メディアの変化と社会への影響

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各回、授業に参加する前に教科書 (一部については、事前配布のプリント) の必要部分を事前に読んでくること。教科書に書かれていること以外についても授業では取り上げるので、それらを含めて適宜ノートを取る。定期試験では、問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えを論理的・説得的に論じることを求めるので、授業で学習したことを単に暗記するのではなく、自ら主体的に考える。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業初日に配布する詳細なシラバスによって、各回に教科書のどの部分を学ぶのかを事前に知らせるので、当該部分を必ず授業前に読んでくること。教科書を使用しない場合は、事前にプリント等を配布するので、それについても授業前に読んでくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60分

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験60%、宿題・授業中の課題40%

定期試験については、問われている質問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えが論理的・説得的に論じられているかを評価の対象とします。

宿題・授業中の課題については、授業内で学習した内容を基に適切な解答が行われているかどうかを評価の対象とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内容の詳細および授業の進め方について、授業の初日に説明します。ですので、授業初日に必ず出席をしてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『インターパーソナルコミュニケーション』 深田博巳 北大路書房 1998年 978-4-7628-2103-5 学内販売あり

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献については、授業初日に配布するより詳細なシラバスの中で紹介するとともに、授業内でも適宜紹介をします。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

同時通訳入門

EGB1309N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

その他

DP3 : 言語力

90

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

〔授業計画〕

- 第 1 回
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

同時通訳法 I

EGB2308N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 4限

DP3 : 言語力

60

定員20人

嶋本 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 通訳クラスはスキルやプロとしての姿勢を学ぶための課目です。

2. しかし、本クラスでは英語力向上に焦点をあてます。

3. それには、何と言っても英語の聞き取り力が重要です。

4. このクラスでは英語の聞き取りに自信がなくても、聞き取り力を上げる技法を使います。

5. そのうえで、シャドーイングやリプロダクションなどの従来の通訳技法を取り入れます。

6. 教材はニュース英語に特化し、世界のさまざまなニュースを「英語から日本語」へと通訳の実践を行います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. なによりも大切なことは基本となる語学力向上 (英語力) です。

2. 英語の聞き取りが苦手な学生のために、リスニング強化を行います。

3. 聞き取りの速度を調整することで、英語のリスニング力を高めます。

4. テキストは『CNNリスニング』で、アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語を聞きます。

5. シャドーイングやリテンションのような具体的な技法を学びます。

6. 学生の発表を重視します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	通訳について知ろうとする。	通訳を理解しようとする。	通訳の実態を知り、練習する。	実際の英語のスピードを体得し、今後の英語への取り組みが深まる。
知識・理解力	テキストのニュースの内容を知り、単語を覚える。	テキストのニュースのフレーズを覚える。	レベル2と3を融合させることができる。	BBCなどのメディアのニュースを聞くことで、知識と理解力を深める。
言語力	ニュースの単語を覚える。	ニュースをシャドーイングできるようにする。	ニュースを聞いて、英語から日本語への逐次通訳ができるようにする。	ニュースを聞きながら、英語から日本語への同時通訳をできるようにする。
思考・解決力	ニュースの単語を覚え、正しく発音できる。	ニュースのシャドーイングを正しく行うことができる。	逐次通訳の実践の仕方を体験する。	同時通訳の実践を体験する。
共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする。	友人たちと一緒に学ぼうとする。	友人たちとともに課題を学ぼうとする。	友人とともに勉強会やその内容について討議できる。
創造・発信力	テキストのニュース英語を、かなりゆっくりと聞くことができる。	テキストのニュース英語を、ゆっくりと聞くことができる。	テキストのニュース英語を、ナチュラルスピードで聞くことができる。	テキストのニュース英語を、ナチュラルスピードよりも母俱聞くことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 通訳技法の紹介・リスニングの実践－1
オリエンテーション。通訳技法の紹介とリスニングを実践します。
リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」英語耳を養います。
- 第 2 回 リスニングの実践－2
テキストのニュースを一つ選び、リスニングとシャドーイングの実践をします。
リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」「英語耳」を養います。
- 第 3 回 シャドーイングの実践－1
テキストのニュースを一つ選び、リスニングとシャドーイングの実践をします。
シャドーイングとは、聞いたことをそのまま繰り返

- 返し言ってみる練習法で、まったく同時に話すのではなく、少しずつ言うところがポイントです。リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」英語耳を養います。
- 第 4 回 シャドーイングの実践－2
テキストのニュースを一つ選び、リスニングとシャドーイングの実践をします。
リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」英語耳を養います。
- 第 5 回 シャドーイングの実践－3
英語から日本語への通訳の実践として、リプロダクションの技法を導入します。
reproductionとは「再生、再現」ということで、シャドーイングのように後について話すのではなく、音声を止めて、聞いたことをまるごと繰り返します。聞いたことを頭の中で記憶しておかなければならず、シャドーイングよりも難しいトレーニングです。最初は一つの文を以下のように短い固まりに区切って練習します。
- 第 6 回 シャドーイングの実践－4・リプロダクション－1の導入
英語から日本語への通訳の実践として、リプロダクションの技法を導入します。
reproductionとは「再生、再現」ということで、シャドーイングのように後について話すのではなく、音声を止めて、聞いたことをまるごと繰り返します。聞いたことを頭の中で記憶しておかなければならず、シャドーイングよりも難しいトレーニングです。最初は一つの文を以下のように短い固まりに区切って練習します。
- 第 7 回 通訳の実践－アメリカ英語1・リプロダクション－2
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクションの実践をします。
- 第 8 回 通訳の実践－アメリカ英語2・リプロダクション－3
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクションの実践をします。
- 第 9 回 通訳の実践－アメリカ英語3・逐次通訳－1
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳の実践をします。
- 第 10 回 通訳の実践－イギリス英語1・逐次通訳－2
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳の実践をします。
- 第 11 回 通訳の実践－イギリス英語2・逐次通訳－3
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳の実践をします。
- 第 12 回 通訳の実践－イギリス英語3・同時通訳－1

第 13 回 CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践をします。

第 14 回 通訳の実践ーオーストラリア英語 1・同時通訳ー 2

CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践をします。

第 15 回 通訳の実践ーオーストラリア英語 2

CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践をします。

第 15 回 パフォーマンスチェック

一人ずつ実際にヘッドセットをし、通訳の実践を行うテストをします。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しませんが、第 15 回目のパフォーマンスチェックだけでなく、クラスのなかでも、実践を行います。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 英語の聞き取りを中心としたクラスです。
2. 留学前の学生に特化します。
3. 『CNNリスニング』のCDを使います。
4. 単語のチェック→シャドーイング→リプロダクションの技法の導入をします。
5. 逐次通訳→同時通訳までのプロセスを体験していただきます。
6. 復習をしっかりと行ってください。
7. 翌週にはその復習の成果を確認し、フィードバックします。
8. このクラスは実技ですので、適宜、口頭で授業中にフィードバックをします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 復習を心掛けてください。習ったところは何回も練習してください。
2. 予習をしないでください。あくまでも初見 (初めて聞いてどれだけわかるか) が重要です。
3. 音読を常にこころがけてください。ニュースに慣れるようにCNNやNHKのニュースを英語で聞くことや、映画を見ることを心がけて下さい。
4. 日頃から日本語の文章を音読してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

通訳授業参加態度 (40%)

授業中の意欲的な取組み (20%)

授業で行うプレゼンテーション (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

1. このクラスは通訳の基礎の基礎のクラスです。英語のリスニングを強化しながら、通訳技法を学ぶことです。英語や日本語を話すことを重視するクラスです。
2. 前期は留学を控えた学生とリスニングを強化したい初

心者の学生に特化します。

3. 前期の場合、リスニング力を鍛えることは、留学前の英語の強化になります。また、日頃の英会話やTOEICなどの試験対策にもなります。

4. 後期は留学経験者と前期を受講した学生に特化します。

5. 前期と後期の違いを作った理由は、留学前と後では、英語力の違いが相当あるからです。しかし、それでも受講を希望の場合は、直接講師と相談をしてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『CNNニュース・リスニング2020[春夏]』//朝日出版社/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『英語通訳への道』/日本通訳協会/大修館書店/2007/9784245295

『同時通訳者のシャドーイング』/木村裕也・工藤紘実/kADOKAWA/中経出版/2015/9784046008848

『同時通訳者の英語ノート術&学習法』/工藤紘実/kADOKAWA/中経出版/2014/9784876152193

『ウィスパリング同時通訳 実践ゼミ』/柴田バネッサ/南雲堂/2005/9784523264521

『同時通訳が頭の中で一瞬でやっている英訳術リプロセンシング』/田村智子/三修社/2010/9784384055696

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

講師は現在通訳案内業に特化していますが、以前はパーティー通訳、逐次通訳、同時通訳の一つの形態としてのウィスパリング通訳業務に携わっていました。

同時通訳法 II

EGB2358N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 4限

DP3 : 言語力

60

定員20人

嶋本 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. このクラスは前期「同時通訳法1」の継続と位置づけます。
2. 前期のクラスで学んだことをより一層実践することを目的とします。
3. 留学を終えた学生や前期の受講生に特化します。
4. しかし、後期からでも学んでみたいと望む学生は相談の上で受講を許可します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 同時通訳は、「同時」という言葉通り、話者が話すのを通訳者が同時に訳す手法です。通訳者は話者の話を聞きながら、ほぼ同時に訳出も行います。したがって、大変高度

な技術を要します。

2. 何よりも大切なことは基本の語学力向上（英語力）です。このクラスの目的は、スキルを学ぶという要素もありますが、主として英語力向上にあります。

3. それには、英語を正しく聞き取ることが重要です。そのために聞き取りのスピードを調整することで聞き取る力を伸ばします。

4. 学習テーマは社会、文化、生活に関するニュースを取り上げ、アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語を聞き、通訳の実践を行います。

5. 留学経験者を対象としたクラスですので、前期よりのレベルが高いと思います。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	通訳について知ろうとする。	通訳に必要な英語力を理解しようとする。	通訳の実態を知り、英語の練習する。	通訳者に必要な英語力を体感し、通訳への本格的な取り組みを始める。
知識・理解力	テキストのニュースの内容を知り、単語を覚える。	テキストのニュースのフレーズを覚える。	レベル1と2を融合させることができる。	BBCなどのメディアのニュースを聞くことで、英語でニュースを聞くことを始める。
言語力	テキストのニュースの単語を覚える。	テキストのニュースのフレーズを覚える。	テキストのニュースを聞いて、英語から日本語への逐次通訳を実践する。	テキストのニュースを聞きながら、英語から日本語への同時通訳を実践する。
思考・解決力	テキストのニュースの単語を覚え、正しく発音できる。	テキストのニュースのシャドーイングを正しく行うことができる。	逐次通訳や同時通訳を実践する。	レベル1, 2, 3を実践し、通訳者の道に進みたいと思うようになる。
共生・協働する力	教員と一緒に学ぶこと。	友人たちと一緒に学ぶこと。	友人たちとともに課題を学ぶこと。	友人たちとともに勉強会を開くなどの自主性が生まれる。

創造・発信力	テキストの英語ニュースを、かなりゆっくりとしスピードで聞くことができる。	テキストのニュース英語を、ゆっくりとしスピードで聞くことができる。	テキストの英語ニュースをナチュラルスピードで聞くことができる。	テキストの英語ニュースをナチュラルスピードよりも速いスピードで聞くことができる。
--------	--------------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	------------------------------------------

〔授業計画〕

第 1 回 通訳技法の紹介・リスニングー1

オリエンテーション。通訳技法の紹介とリスニングを実践します。

リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」「英語耳」を養います。

留学経験者を対象としますので、前期よりもレベルを高くします。

したがって、リスニングの速度調整はネイティブスピーカーに近い速度から始めます。

第 2 回 リスニングー2・シャドーイングー1

テキストのニュースを一つ選び、リスニングとシャドーイングの実践をします。シャドーイングとは、聞いたことをそのまま繰り返して言う練習法です。

リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」英語耳を養います。

第 3 回 シャドーイングー2

テキストのニュースを一つ選び、リスニングとシャドーイングの実践を行います。

パフォーマンスチェック。

第 4 回 リプロダクションー1

英語から日本語への通訳の実践として、リプロダクションの技法を導入します。

リプロダクションとは「再生、再現」ということで、シャドーイングのように後について話すのではなく、音声を止めて、聞いたことをまるごと繰り返します。

聞いたことを頭の中で記憶しておかなければならず、シャドーイングよりも難しいトレーニングです。最初は一つの文を短い固まりに区切って練習します。

第 5 回 リプロダクションー2・逐次通訳ー1

テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクションの実践を行います。

逐次通訳を導入します。逐次通訳とは話者と通訳者が交互に話す形式の通訳です。

第 6 回 アメリカ英語 1・逐次通訳ー2

テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳の実践を行います。

第 7 回 アメリカ英語 2・逐次通訳ー3

テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳の実践を行います。

- 第 8 回 アメリカ英語 3 ・同時通訳-1
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。同時通訳とは、「同時」という言葉通り、話者が話すのを通訳者が同時に訳す手法です。通訳者は話者の話を聞きながら、ほぼ同時に訳出も行う通訳です。
- 第 9 回 イギリス英語 1 ・同時通訳-2
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 10 回 イギリス英語 2 ・同時通訳-3
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 11 回 イギリス英語 3 ・総合練習-1
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 12 回 オーストラリア英語 1 ・総合練習-2
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 13 回 オーストラリア英語 2 ・総合練習-3
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 14 回 オーストラリア英語 3 ・総合練習-4
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 15 回 パフォーマンスチェック
一人ずつ実際にヘッドセットをし、通訳の実践を行うテストをします。

試験範囲についてはその時に発表します。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しませんが、15回目に実技テストを行います。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 留学経験者や前期受講生に特化したクラスですから、リスニングの練習よりも、通訳技法の練習に焦点をあてます。
2. 教材の英語ニュースのCDを使い、通訳技法のスキルアップをし、フィードバックします。
3. 逐次通訳や同時通訳などを今の受講生のレベルに合わせて実践してもらいます。
4. 英語から日本語 (英日) に通訳するだけでなく、時間

のある限り、日本語から英語 (日英) に通訳する練習もします。
5. このクラスは実技のクラスですので、適宜、口頭で授業内にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 復習に心掛けてください。習ったところは何回も練習してください。次の週にチェックします。
2. 予習をしないで下さい。あくまでも初見 (初めて聞いてどれだけわかるか) が重要です。
3. 日頃から「音読」を常に心がけてください。
4. 留学中の英語力を持続するように、英語ニュースや映画をよく見てください。
5. 日本語に翻訳する技術を必要ですから、日頃から日本語も音読してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 通訳授業参加態度 (40%)
2. 授業中で行うプレゼンテーション (25%)
3. 最終パフォーマンスチェック (35%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『CNNニュース・リスニング2020[秋冬]』//朝日出版社/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『英語通訳への道』/日本通訳協会/大修館書店/2017/

『同時通訳者のシャドーイング』/木村裕也・工藤紘実/KADOKAWA/中経出版/2015/

『同時通訳者の英語ノート術・学習法』/工藤紘実/KADOKAWA/中経出版/2014/

『ウィスパリング同時通訳 実践ゼミ』/柴田バネッサ/南雲堂/2005/

『同時通訳が頭の中で一瞬でやっている英語術リプロセッシング』/田村智子/三修社/2010/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

講師は現在通訳案内業に特化していますが、以前はパーティー通訳、逐次通訳、同時通訳の一つの形態としてのウィスパリング通訳に携わっていました。

米文学の歴史

EGL2201N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 3限

DP2：知識・理解力

60

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

アメリカ文学の歴史について、著名な作家と作品また時代背景を通じて、学んでいく。また、それぞれの時代に出現した作家たちの文学的手法や、思想などを理解することによって、批評的な視点から文学作品を読むスキルを習得することを目標とする。また、昨今のアメリカ合衆国が世界に及ぼす覇権的影響力に鑑みて、アメリカ文化の一翼を担う文学を学ぶことは、現代における世界情勢に対して新たな視点を習得する機会と成り得る。アメリカ文学の一連の流れを理解することによって、文学だけではなく、現代の様々な問題に対する深い思考力を養うことも、本講義の目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. アメリカ文学の特徴、歴史、また作家達の思想などを理解する。
2. 個々の作品が孕む哲学的テーマなどに触れることによって、アメリカ文学の奥行きを理解する。
3. アメリカの著名な作家とその作品についての幅広い知識を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション：アメリカ文学史について
- 第 2 回 植民地時代の文学と独立革命の文学
- 第 3 回 アメリカン・ルネッサンス（時代背景）
- 第 4 回 アメリカン・ルネッサンス（作家及び作品の紹介）
- 第 5 回 アメリカン・ルネッサンス（まとめ）

第 6 回 南北戦争後の文学（リアリズム小説）

第 7 回 自然主義文学

第 8 回 モダニズム文学（時代背景）

第 9 回 モダニズム文学（作家及び作品の紹介）

第 10 回 1920年代の文学（時代背景）

第 11 回 1920年代の文学（ロストジェネレーションの作家及び作品の紹介）

第 12 回 1920年代の文学（まとめ）

第 13 回 プロレタリア文学

第 14 回 ユダヤ人文学

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は基本的には講義形式で、テキストに基づいて進められる。主要作品の原文の一部をできるだけ多く紹介するので、その内容を理解し文体に親しむこと。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

初回の授業で指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点（30%）

期末試験（70%）

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『はじめて学ぶアメリカ文学史』/板橋好枝、高田賢一/ミネルヴァ書房/1991年/9784623021055/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義中に適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

米文学作品研究

EGL2451N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 4限

DP4：思考・解決力

90

竹井 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

多角的な解釈の例を通してアメリカ文学のテキストの面白さを知る。

文学批評の具体例に触れ、文学テキストを批判的に読む際

に必要な視点を学ぶ。

自らテキストを選び、分析的・批判的読みを実践する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・授業で扱うテキストを、テキスト内の要素（プロット、構成、語りの技法など）に留意しながら読む。

・テキストをめぐる諸要素（作家の伝記的背景や書かれた時代の社会的背景）を探る。

・テキストについての批評・解釈に触れる。

・自分でテキストを選び、分析的・批判的に読み、論じる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文学テキストの分析的読みについての理解	文学作品の分析的読みについて知ろうとしない。	文学テキスト内の諸要素（舞台・登場人物・プロットなど）を理解する。	文学テキストの語り手や語りの技法について理解する。	作品の社会的・伝記的背景と作品との関係について理解する。
批評論文を理解し評価する力	文学批評について知ろうとしない	文学批評で用いられる諸要素や用語を理解する。	特定の文学作品についての先行論文（批評）を調べ、文献リストを作成する。	先行論文（批評）を読み、要点を理解する。
文学作品を自分で解釈し発信する力	文学テキストを分析的に読まない。	文学テキストを、テキスト内の要素に力点を置いて分析的に読み、まとめる。またそれを口頭・文章で発表する。	文学テキストを、テキスト内外の要素を視野に入れて分析的に読み、まとめる。またそれを口頭・文章で発表する	他の批評と自分の解釈を比較し、自論を再考する。またそれを口頭・文章で発表する。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

・当該科目の目標・授業の進め方・成績評価についての説明

・授業で扱うテキスト（4つの短編小説）の説明
・文学批評についての概説

第 2 回 「黄色い壁紙」を読む（1）

シャーロット・パーキンス・ギルマンの短編小説「黄色い壁紙」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト内の要素について

第 3 回 「黄色い壁紙」を読む（2）

シャーロット・パーキンス・ギルマンの短編小説「黄色い壁紙」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト外の要素について（1）
・本作をめぐる批評について

第 4 回 「黄色い壁紙」を読む（3）

シャーロット・パーキンス・ギルマンの短編小説「黄色い壁紙」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト外の要素について（2）
・本作をめぐる批評について

第 5 回 「黄色い壁紙」を読む（4）

シャーロット・パーキンス・ギルマンの短編小説「黄色い壁紙」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト外の要素について（3）
・本作をめぐる批評について

第 6 回 「インディアン・キャンプ」(1)

アーネスト・ヘミングウェイの短編小説「インディアン・キャンプ」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト内の要素について
・本作をめぐる批評について

第 7 回 「インディアン・キャンプ」(2)

アーネスト・ヘミングウェイの短編小説「インディアン・キャンプ」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト外の要素について（1）
・本作をめぐる批評について

第 8 回 「インディアン・キャンプ」(3)

アーネスト・ヘミングウェイの短編小説「インディアン・キャンプ」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト外の要素について（2）
・本作をめぐる批評について

第 9 回 「教え子」(1)

ヘンリー・ジェイムズの短編小説「教え子」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト内の要素について
・本作を巡る批評について

第 10 回 「教え子」(2)

ヘンリー・ジェイムズの短編小説「教え子」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト外の要素について（1）
・本作を巡る批評について

第 11 回 「教え子」(3)

ヘンリー・ジェイムズの短編小説「教え子」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト外の要素について（2）
・本作を巡る批評について

第 12 回 「教え子」(4)

ヘンリー・ジェイムズの短編小説「教え子」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト外の要素について（3）
・本作を巡る批評について

第 13 回 ケン・リウの短編小説（1）

ケン・リウの短編小説を、以下の点を中心に説明する
・テキスト内の要素について
・テキスト外の要素について

第 14 回 ケン・リウの短編小説（2）

ケン・リウの短編小説を、以下の点を中心に説明する
・テキスト内の要素について
・テキスト外の要素について

第 15 回 ケン・リウの短編小説（3）

ケン・リウの短編小説を、以下の点を中心に説明する

- ・テキスト内の要素について
- ・テキスト外の要素について
- ・批評について

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に代わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・授業は講義を中心に進めるが、適宜グループディスカッションも行う。

・文学テキストを中心に扱いつつ、映画版や関連する他メディアのテキストも紹介する。

・提出されたレポートに対する講評・採点結果を本人に公開する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・授業までに当該テキストを読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90時間

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30%）、授業中に実施する提出課題（30%）、最終レポート（40%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

授業計画は、学生の希望や進度によって適宜変更する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業中に指示・配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『批評理論入門』 / 廣野由美子著 / 中公新書 / 2005年 / 4121017900

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床の医学・病院研修

EGR2253N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP2 : 知識・理解力

60

身近な医学

集中

須川 いずみ 木島 菜菜子 Lyle De Souza

〔科目の教育目標（Course Description）〕

京都府立医科大学との連携事業の開始の目的は、本学が今までANA総合研究所から出向教員を迎えて取り組んできたエアラインプログラムにおけるホスピタリティを基礎に、

外国人の医療サポートができる人材育成である。病院の受付を中心として、医療従事者と患者の意思疎通が少しでもスムーズになる英語の使い手を育成する。第一段階として医療現場に赴き各専門による医療の現状をこの実習で学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1.病院における専門性とその仕組みの理解
- 2.医療現場のチームアプローチの現状把握
- 3.病院における他職種連携及び地域連携の理解
- 4.医療現場における外国人患者の状況把握

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 内科総論・総合診療科

第 3 回 見学研修／現場レクチャー（病院の概要・患者相談概要：総合案内）

第 4 回 見学研修／現場レクチャー（放射線部）

第 5 回 外科

第 6 回 救急科

第 7 回 見学研修／現場レクチャー（臨床検査部）

第 8 回 見学研修／現場レクチャー（薬剤部）

第 9 回 見学研修／現場レクチャー（地域医療連携室）

第 10 回 見学研修／現場見学（整形）

第 11 回 産婦人科

第 12 回 精神科

第 13 回 心理相談室

第 14 回 外国人患者対応について

第 15 回 分かち合い、レポート作成

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

病院では、現場の医師によるレクチャーと各部門部署の見学研修を実施する。学生は、病院各科・各部門の見学研修について、事前指導を受けた後、研修先のHPなどで情報を得ておくこと。また、「医療サポート英語Ⅰ」と「医療サポート英語Ⅱ」で学んだ英語を復習した上で病院研修に臨むこと。授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 病院の仕組みの研究
2. 各部門部署の役割把握
3. 医療英語の復習

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

学外の研修であるため、全回の出席が前提となる。原則として欠席および遅刻は認めず、全回出席をもって単位認定の基本条件とする。その上で、研修に対する取り組み姿勢、振り返りレポートの内容から総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

本研修は、実際に病院に伺って研修をさせてもらうという大変貴重な経験ができるものである。そのため事前事後指導・病院研修における遅刻欠席は、社会常識をもっても許されるものではない。自分の将来を見据えて、真摯に取り組もうとする学生のみ受け入れるつもりである。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『Because We Care』/Inoue, Maki/Cengage Learning/2014/

『英語で診療』/板尾福光/金芳堂/2013/

『そのまま使える英語表現5000』/仁木久恵/医学書院/2009/

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

専門講読 (米文学) B

EGF2251B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course explores literature written by Nikkei, people of Japanese descent living abroad to prepare students for seminars in their 3rd and 4th years. With nearly 3 million Nikkei (more than the population of Osaka!) living in countries with a variety of cultures, there is a fascinating collection of literature available. We will study a small sample of these, focusing on the short stories “When Blossoms Fall” by Australian writer Masako Fukui and “A Day in Little Tokyo” by Hisaye Yamamoto. We explore these stories using various theories and concepts which help us to understand

what it means to be of Japanese ancestry outside of Japan. By starting with short, simple stories we will build up to longer, more complex novels in the future.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

This course introduces students to key issues relating to literature written by people of Japanese descent abroad. By the end of the course, students will have (1) a much better understanding of Japanese identity outside of Japan; (2) will improve their English reading and writing skills; and (3) will develop an ability to analyse literature through close reading techniques.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

- 第 1 回 **CLASSROOM**
History of the Japanese Diaspora
- 第 2 回 **ONLINE**
Japanese Diaspora Literature
- 第 3 回 **ONLINE**
Literary Theory
- 第 4 回 **ONLINE**
Race & Ethnicity
- 第 5 回 **ONLINE**
Identity & Belonging
- 第 6 回 **CLASSROOM**
Masako Fukui - “When Blossoms Fall” (pp.1-5)
- 第 7 回 **ONLINE**
Masako Fukui - “When Blossoms Fall” (pp.6-10)
- 第 8 回 **ONLINE**
Masako Fukui - “When Blossoms Fall” (pp.11-15)
- 第 9 回 **ONLINE**
Masako Fukui - “When Blossoms Fall” (pp.16-20)
- 第 10 回 **ONLINE**
Masako Fukui - “When Blossoms Fall” (pp.20-24)
- 第 11 回 **CLASSROOM**
Masako Fukui - “When Blossoms Fall” (pp.25-29)
- 第 12 回 **ONLINE**
Hisaye Yamamoto - “A Day in Little Tokyo” (pp.1-3)
- 第 13 回 **ONLINE**
Hisaye Yamamoto - “A Day in Little Tokyo” (pp.4-6)
- 第 14 回 **ONLINE**
Hisaye Yamamoto - “A Day in Little Tokyo” (pp.7-9)
- 第 15 回 **CLASSROOM**

Hisaye Yamamoto - "A Day in Little Tokyo"
(pp.10-12)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

The course uses a blended approach. Some classes are online, some classes are face to face. Please check Manaba regularly for any changes to the schedule.

Students receive regular oral feedback from the teacher on their in-class activities, assignments, and other work. Students provide each other with feedback and encouragement when appropriate during specific activities.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should prepare for each class as directed by the teacher. This will usually involve closely reading the pages that will be studied in the next class, taking notes on these pages, and writing 2-3 questions and points for discussion with the teacher and other students.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation 30%

Quizzes 30%

Assignments 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示は

manabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は

毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

お知らせが締め切り直前となりましたが、よろしくお願ひします。

The schedule is flexible, especially depending on the coronavirus situation.

The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

Students must wear a mask in class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Fukui, Masako, and Sally Breen. "When blossoms fall." Griffith Review 46 (2014): 187.

Desoto, Hisaye Yamamoto. "A Day in Little Tokyo." Amerasia Journal 13.2 (1986): 21-28.

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ウェブプログラミング演習

CSA2463N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜 3限

DP4 : 思考・解決力

60

定員24人

伊藤 泰子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

プログラム言語JavaScriptを利用して、プログラミングやアルゴリズムを学ぶ。

プログラミングを通して、コンピュータの働きや処理方法を理解していく。今後の様々な課題を、情報技術を活用しながら解決していけるような、論理的・創造的な思考やプログラム作成の技術を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・基本制御構造
- ・オブジェクト指向プログラミング
- ・フォーム部品との連携
- ・アルゴリズム
- ・動的なWebコンテンツの作成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 JavaScriptとは
 - 第 2 回 基本制御構造 1 (順次、反復)
 - 第 3 回 基本制御構造 2 (選択)
 - 第 4 回 オブジェクト指向 1 (オブジェクトとは、オブジェクトの種類)
 - 第 5 回 オブジェクト指向 2 (フィールド、メソッドの利用)
 - 第 6 回 オブジェクト指向 3 (メソッドの活用)
 - 第 7 回 フォームタグとの連携 1 (文字列操作、デザイン変更)
 - 第 8 回 フォームタグとの連携 2 (演算処理)
 - 第 9 回 関数の定義とイベント処理
 - 第 10 回 DOM CSSの操作 1 (JSを利用して動的にデザインを変更する)
 - 第 11 回 DOM CSSの操作 2 (JSを利用して動的にHTMLコンテンツを変更する)
 - 第 12 回 検索・ソートなどの代表的なアルゴリズム
 - 第 13 回 CANVASを使って図形を描画する
 - 第 14 回 課題作成 (JavaScriptを利用したコンテンツ設計)
 - 第 15 回 課題作成 (JavaScriptを利用したコンテンツ作成)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習形式で行う。適宜、演習課題や小テストも課す。フィードバックとして、課題・テスト提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

積み上げ式の授業なので、特に予習をする必要はないが、復習は必ず行う。毎回宿題を出すので、自分のペースでじっくり復習しながら問題を解いていく。わからない部分は必ず質問すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50%)、課題 (30%)、テスト (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない。

適宜、必要資料を配布。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

ウェブプログラミング演習

<http://www.notredame.ac.jp/~yito/js/index.html>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

スピーチの基礎

CSA2307N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

水曜 3限

DP3 : 言語力

60

定員30人

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

聞き手に受け入れられやすい話し方についての理解を深め、スピーチに関する基礎技法と心構えを習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・人前で話すことに慣れる。
- ・「スピーチ・チェックポイント」をグループや全体で検討し、それを毎回確認することを通して、深い理解とスピーチの改善に結びつける。
- ・スピーチのための準備・練習・本番を通して、準備の必要性や楽しさを実感する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己課題を認識していない	自己課題を認識している。	自己課題を適切に認識し、改善に努めている。	自己課題を適切に認識し、改善している。
言語力	スピーチ等をしない。	スピーチ等の改善に取り組んでいる。	スピーチ等を適切に改善している。	スピーチ等の高度な技能を獲得している。
共生・協働する力	討議等に参加しない。	討議等に参加する。	討議等に積極的に参加し貢献している。	討議等で、他者を思いやり、工夫を凝らして貢献している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 この授業のオリエンテーション
自己紹介
- 第 2 回 チェックポイントの検討①
グループで準備
- 第 3 回 チェックポイントの検討②
クラス全体で検討、スピーチ練習
- 第 4 回 発声・発音の基礎と音声表現

- スピーチ練習
- 第 5 回 プロジェクト I
ゲストインタビューの内容検討
- 第 6 回 プロジェクト I
ゲストインタビューの準備・練習
- 第 7 回 プロジェクト I
ゲストインタビューをクラス全体で準備・練習
- 第 8 回 プロジェクト I
ゲストインタビュー本番
- 第 9 回 プロジェクト I
振り返り
- 第 10 回 プロジェクト II
情報収集 (ペア)
- 第 11 回 プロジェクト II
企画、準備
- 第 12 回 プロジェクト II
リハーサル① (グループ)
- 第 13 回 プロジェクト II
リハーサル② (司会を入れて最終調整)
- 第 14 回 プロジェクト II
本番 (Aチーム)
- 第 15 回 プロジェクト II
本番 (Bチーム)

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

・スピーチに関する映像の視聴を通して、望ましい話し方についてのチェックポイントをグループやクラス全体で検討する。

・毎回、チェックポイントを確認するとともに、自己課題、学習内容、意見・感想等について記録し、知識や技能向上に努める。

- ・様々なテーマや場面によるスピーチを練習する。
- ・グループおよび受講者全員で協力して準備をし、ゲストとの授業を作り上げる。
- ・プロジェクトを、チームで準備し実施する。

*各課題について、全体に対してフィードバックを行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

- ・課題の準備や練習をする。
- ・毎日、発声練習をする。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

評価は、最終のスピーチ (30%)、授業参加度 (40%)、レポート (30%) に基づいて、総合的に行う。

[留意事項 (Other Information)]

- ・皆で作る授業です。積極的な参加を期待します。
- ・ゲストの状況次第で、土曜等に授業を実施する場合があります。
- ・実践的な授業であるため、状況にあわせて、内容・方法を調整していきます。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『パブリック・スピーキング—人を動かすコミュニケーション術—』/蔭山洋介/NTT出版/2011/4757122837

『日本語の発声レッスン』/川和孝/親水社/1981/4915165019

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

《実践的科目》 現役のアナウンサーを招いて実践的に学ぶ。

プレゼンテーション演習

CSA2457N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

定員30人

平野 美保

[科目の教育目標 (Course Description)]

効果的なプレゼンテーション技法を習得する。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

・数多く実践練習をすることを通して、望ましいプレゼンテーション技法を身につける。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
プレゼンテーション技能	テーマに適したプレゼンテーションになっていない。自己課題を認識してない。	各テーマに適したプレゼンテーションをする。自己課題を認識し、改善するよう取り組む。	聴衆にとって効果的なプレゼンテーションをすることができる。自己課題を認識し改善している。	工夫を凝らして、聴衆にとって効果的なプレゼンテーションにすることができる。自己課題を認識し、高度な技能を身につけている。

[授業計画]

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 プレゼンテーションの基礎の確認

プレゼンテーション技法に関するプレゼンテーション

第 3 回 身体表現

プレゼンテーション (1)

第 4 回 効果的なプレゼンテーションの技法

- 第 5 回 プレゼンテーション (2)
準備、練習 (イベント紹介)
- 第 6 回 プレゼンテーション (2)
発表と振り返り (イベント紹介)
- 第 7 回 プレゼンテーション (3) -①
準備、練習 (会社の説明)
- 第 8 回 プレゼンテーション (3) -①
プレゼンテーション (会社の説明)
- 第 9 回 プレゼンテーション (3) -②
準備、練習 (商品の説明)
- 第 10 回 プレゼンテーション (3) -②
社内検討会と聴衆分析
- 第 11 回 プレゼンテーション (3) -③
社外プレゼンテーションの準備
- 第 12 回 プレゼンテーション (3) -③
社外プレゼンテーションリハーサル
- 第 13 回 最終のプレゼンテーション
本番 A (実技テスト)
- 第 14 回 最終のプレゼンテーション
本番 B (実技テスト)
- 第 15 回 最終のプレゼンテーション
本番 C (実技テスト)

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

- ・口頭表現 (論理表現、音声表現) や身体表現についての基礎を学習し、数多く練習する。
- ・事前調査、聴衆分析、ストーリー作り、適切な用語の選択について実践的に行う。
- ・他者にコメントをすることを通して、自己のプレゼンテーションを振り返る。
- ・プレゼンテーションの本番の際にフィードバックがある。
- ・最終のプレゼンテーションについて報告書 (レポート) を提出する。
- ・一部、オンライン (オンデマンド) で実施することで、充実した準備・練習をする。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

- ・各課題の準備・練習をする。
- ・自己課題について、普段から改善するよう努める。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

評価は、最終のプレゼンテーション (30%)、授業参加度 (40%)、レポート (30%) に基づいて総合的に行う。

[留意事項 (Other Information)]

- ・実践的な授業のため、進行状況等により、随時、内容・方法を調整していく。
- ・人前で話すことに自信がない場合やプレゼンテーションの基礎的な方法論から学習したい場合は、「プレゼンテーション概論」を履修してから本授業を履修することが望ましい。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『ビジネスプレゼンテーション改訂版』/武田秀子編/実教出版/2011/4407322616/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『パブリックスピーキング人を動かすコミュニケーション術』/蔭山洋介/NTT出版/2011/4757122837

『シンプルプレゼン』/ガー・レイノルズ/日経ビジネスアソシエ/2011/4822230546

『スティーブ・ジョブズ驚異のプレゼン』/カマイン・ガロ/日経BP社/2010/482224816X

『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』/ジェレミー・ドノバン/新潮社/2013/4105064916

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

≪実践的科目≫ 社会人に対するセミナー (プレゼンテーション) 講師経験あり。

応用プレゼンテーション演習

CSA3900N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜 3限

ー

60

定員30人

平野 美保

[科目の教育目標 (Course Description)]

視覚資料の特性や作成上の留意点などを理解した上で資料作成を行い、プレゼンテーションに関する統合的な学習経験によって総合的思考力を高め、臨機応変の対応と効果的なプレゼンテーションができるようになる。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- ・プレゼンテーションの基礎知識をもとに、視覚資料に関する意義、種類、特徴などを理解し、聴者に効果的な視覚資料を作成できる。
- ・商品企画、事前準備、プレゼンテーション、報告など、プレゼンテーション実務を習得する。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
プレゼンテーション実務	プレゼンテーションをする。報告書を提出する。	各テーマに適した資料作成、プレゼンテーションをすることができる。質問に答えることができる。	聴衆にとって効果的な資料作成、プレゼンテーションをすることができる。質問に対して、聴衆に	各テーマに工夫を凝らして、聴衆にとって効果的な資料作成、プレゼンテーションをすることができる。

		ルールを守って、誤字脱字のない報告書が書ける。	わかりやすく説明することができる。読み手にわかりやすい報告書が書ける。	る。質問に対して、聴衆に効果的な説明等ができる。読み手に効果的な報告書を書くことができる。
--	--	-------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 ビジュアル化の意義
視覚資料のポイントと図解、プレゼンテーション (準備)
- 第 3 回 ビジュアル化の意義
図解を使ったプレゼンテーション準備、練習
- 第 4 回 ビジュアル化の意義
図解を使ったプレゼンテーション A
- 第 5 回 ビジュアル化の意義
図解を使ったプレゼンテーション B
- 第 6 回 ビジュアル化の意義
図解を使ったプレゼンテーション C
- 第 7 回 視覚資料の種類と特徴
視覚資料の理解、準備
- 第 8 回 視覚資料の種類と特徴
視覚資料を使ったプレゼンテーション 準備、練習
- 第 9 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点
視覚資料を使ったプレゼンテーション A
- 第 10 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点
視覚資料を使ったプレゼンテーション B
- 第 11 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点
視覚資料を使ったプレゼンテーション C
- 第 12 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点
提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点の理解、準備
- 第 13 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点
準備、練習
- 第 14 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点
準備 (リハーサル、相互評価)
- 第 15 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点 (まとめ)
プレゼンテーション (実技テスト)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・各課題について、学習、準備、練習、発表を行う。
- ・実施するプレゼンテーションへの質問に対応する。
- ・相互評価をする。
- ・プレゼンテーションごとに、内容、工夫点、他者の発表から得たこと、今後の課題、感想等についての報告書を提出する (3回)。
- ・プレゼンテーションおよび報告書に対して、随時フィー

ドバックがある。

- ・一部、オンライン (オンデマンド) で実施することで、充実した準備・練習をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・各テーマについて、準備・練習を行う。
- ・授業内でできなかったことは、次週までに仕上げておく。
- ・プレゼンテーション後に「報告書」を作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、最終プレゼンテーション (30%)、授業参加度 (40%)、報告書 (30%) に基づき、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ゲスト講師による授業を行うこともある。
- ・進行状況等によって、随時、内容・方法を調整していく。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ビジネスプレゼンテーション』/武田秀子編/実教出版/2011/978-4407322613/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『シンプル・プレゼン』/ガー・レイノルズ/日経ビジネスアソシエ/2011/4822230546

『プレゼンテーションZEN 第2版』/ガー・レイノルズ/ピアソン桐原/2012/462106603X

『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』/ジェレミー・ドノバン/新潮社/2013/4105064916

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 社会人に対するセミナー (プレゼンテーション) 講師経験あり。

京都資料論 2017年度以降入学者

CSA2203N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

1単位 集中

その他

DP2: 知識・理解力

30

全7.5コマ 司書に関する科目を兼ねる。

山下 ユミ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

図書館情報資源のうちの「地域資料 (郷土資料)」をとりあげ、地元である京都の情報資源について理解を深めていく。同時に、情報収集手段の一つであるWikipediaを取り上げ、その特徴と情報倫理について理解し、編集作業に関わることで、その意義と仕組みを理解する。

具体的には、京都に関するテーマに関してウィキペディア情報を調べ、出典情報が不足している項目等について、さ

まざまな京都関係資料を用いて調査を行い、修正内容の提案を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 書籍、雑誌、地域資料、古典籍や古地図、データベース、ウェブサイトなど情報資源の形態と特徴がわかる。
- 京都関係の文献目録や辞典、年表、データベース、ウェブサイトなどの参考資料、情報源を使いこなせる。
- Wikipediaの京都に関する項目の出典等が不十分な記事について、それを補うための情報を調査し、修正内容を提案することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教員の説明を理解できない	教員の説明を理解しようと努力している	教員の説明を十分に理解している	教員の説明を理解し、さらに自己の見解を付け加えようとしている
言語力	思考過程を表現できていない	思考過程を表現しようと努力している	思考過程が適切に表現されている	思考過程が適切に表現でき、かつ日本語としても整っている
共生・協働する力	グループワークにおいて他者を阻害している	グループワークにおいて十分に自分の力を発揮できていない	グループワークにおいて自分の力を十分に発揮している	グループワークにおいて他者の力を引き出せている

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の進め方
概要説明
- 第 2 回 京都に関する情報資源とは？
京都に関する情報資源の使い方、調べ方
- 第 3 回 Wikipediaとは
アカウント取得の方法
記事編集のテーマ決定
- 第 4 回 京都に関するWikipedia記事編集のための情報検索、提案内容作成
- 第 5 回 京都府立図書館に集合（1日）
図書館見学
- 第 6 回 京都に関するWikipedia記事編集のための情報検索、提案内容作成
- 第 7 回 京都に関するWikipedia記事編集提案の発表
- 第 8 回 授業全体のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

選択したテーマについて、個人で京都関連の資料を調べ、

フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

パスファインダー（特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方の案内）を作成する為に必要な資料資源を探索、収集する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提案した記事編集のための調査内容（執筆内容、難易度、資料選択の適切度など）と、授業への参加態度によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

2日目は、京都府立図書館（京都市左京区）に集合し、見学と演習を行い、最終的に京都府立図書館で解散予定
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・LRG = ライブラリー・リソース・ガイド : library resource guide 第25号(2018年秋号) (特集 ウィキペディアタウンでつながる、まちと図書館) / アカデミックリソース・ガイド / 2019
・ウィキペディア・レポリユーション : 世界最大の百科事典はいかにして生まれたか / アンドリュー・リー / 早川書房 / 2009

〔参考URL(URL for Reference) 〕

・ウィキペディアタウン東山 : 京都女子大学図書館司書課程におけるアクティブ・ラーニング実践 桂まに子 京都女子大学図書館情報学研究紀要 (005), 1-12, 2018-03-31
<https://ci.nii.ac.jp/naid/120006488032>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都府の図書館司書として20年間勤務
現在は、京都府立図書館に在職中

現代ジャーナリズム入門

CSA1252N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

1年次 2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

定員60人 (うち心理定員15人)

荻原 靖史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ニュースを通して身の回りの日常と激動する世界を知ることができます。だから「見る目」は欠かせません。18歳

から選挙権のあるいまは国政、経済、社会の仕組みを知る必要があり、社会人としての良識を養う第一歩はニュースを正しく理解することです。将来に生かせる報道の読み方とテーマ設定の初歩を、この講義で学ぶことができます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 様々なメディアのニュース報道やその解説、社論などを読み比べてみる
- 2 時事問題の基本的な意味を知り、その都度必要になるキーワードを数多く蓄える
- 3 自分たちの身近な社会に、日本という国に、広く世界に関心をもつ
- 4 わかりやすく、読みたくなる文章を心がけ、実際に書いてみる
- 5 新聞、電波媒体、雑誌、とりわけネットのニュースについてメディアリテラシーを鍛える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 この講義で何を学ぶのか
講義進行の説明とジャーナリズム、ニュース報道や各メディアの基本的なこと。
- 第 2 回 何を読むか・どう読むか
新聞、テレビ、ネット報道を読んでみる。取材から紙面化までの流れについて。
- 第 3 回 自らの考えを述べてみる
気になるニュースについて語り合う。何をテーマにするのか、何を知りたいか。
- 第 4 回 経済面を読む
ニュースの読み方 1 : 会社とは、お金とは。経済報道が映す日本と世界の動き。
- 第 5 回 国際面を読む
ニュースの読み方 2 : 国際報道で世界のいまと日本の関係を知る
- 第 6 回 政治面を読む
ニュースの読み方 3 : 国政とは、財政とは、地方自治とは、選挙とは。
- 第 7 回 社会面を読む
ニュースの読み方 4 : 事件とは何か、社会的な問題と報道内容、報道姿勢の現在

- 第 8 回 科学面とは
ニュースの読み方 5 : 科学報道で最先端の技術やその課題と未来をのぞいてみる。
- 第 9 回 文化面とは
ニュースの読み方 6 : 知的好奇心や体験につながる文化・エンタメ報道のこと。
- 第 10 回 地方面とは
ニュースの読み方 7 : 地方面などで知る地域の人の動き、身近なとりくみなど。
- 第 11 回 運動面とは
ニュースの読み方 8 : 東京五輪関連の報道を中心に、その質と量について。
- 第 12 回 社説面とは
ニュースの読み方 9 : 各紙により異なる社説やコラム、オピニオンが伝えること。
- 第 13 回 この 1 年を回顧する
復習と議論 : 今年を振り返り、ニュースを語り合い、来年への課題を探る。
- 第 14 回 伝わる文章とは
なにを、どう書くのか。校閲された表現も紹介しながら、わかりやすい文章術を。
- 第 15 回 ジャーナリズムとは
まとめと議論 : 再びジャーナリズムの未来について考える

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポート提出を課題とします。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 活字メディア、電波・ネットメディアのニュースを読む・見る
- 2 問題意識をもつ。いま気になるテーマを選んで関連資料を読む、記録する
- 3 日常を細やかに観察し、「聞く・見る・話す・書く」を常に意識する
- 4 とりわけ「書く」ことで理解が深まります。書くことを目標にしたネタ収集
- 5 1~4 については講義中での質疑応答や意見の交換、各回提出レポートに対する講義
内の講評などで確認しながら進める

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

受講者は毎回、(当日、そして最近の)新聞を読んでから(紙媒体でもネットでも)のぞんでください。ニュースを自分なりの問題意識をもって読むことが準備学習です。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は授業参加度 (30%) (※出席と発言の積極性など) と 3 回のレポート (70%) (※配点の重点は 2 回目と 3 回目) の総合評価です。1 回目はそれぞれのメディア受容の方法について、2 回目は日常に取材した文章を書き、3 回目は時事問題を短く論じていただきます。

〔留意事項 (Other Information)〕

毎年のごとくですがニュースは社会、国際情勢に対応してその都度決めていきます。従って毎回のテーマも飽くまで予定です。予測不能な「変わり続ける現代、動き続ける世界」を講義の中で実感してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは新聞各紙が中心です。加えて、テレビ、ネットなどのニュース報道や、時事問題を扱う雑誌、書物など。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

読んでおきたい図書(ジャーナリズム関連本やノンフィクションなど)や雑誌、映像メディアなどは講義の内容に合わせて紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

新聞各紙のニュースサイトが中心です。このほか各分野の時事問題を解説するニュースサイトなどは講義の中で紹介します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

新聞社(全国紙)で編集業務全般(取材記者・編集企画・デスク業務など)や、特集・コラム(編集委員)などを担当してきました。

古文書読解

CSA2258N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜4限

DP2: 知識・理解力

60

武田 美桜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

古文書に初めて接するという方がほとんどと思います。古文書を読みこなすには、それなりの時間がかかります。本講義では、まず古文書に慣れてもらうことに比重を置きつつ、古文書の基礎知識と読解の基礎技術を身に付けてもらいます。読み方のみではなく翻刻の技術も学びます。また古文書の現物にも触れてもらい、古文書の取り扱いなども学んでもらいます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

古文書に慣れてもらうことを基本とします。それに基づき中世・近世文献の読解力を高めて行きます。本講座を通じて、文化遺産としての古文書、そして古文書が歴史や地元地域史を明らかにできる価値を有する点を理解してもらいます。学芸員資格取得の方は特に学んでおいてほしいと考えます。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ND1 自分を育てる力	講義に出席する	講義の疑問・達成点を小ペーパーに記入する	講義を踏まえ、予習復習を行う	様々な古文書を見、古文書に対する理解を深める
ND2 共生・協働する力	教員の行う講義内容について学ぼうとする	友人が提出した小ペーパーの疑問や意見に対する返答を聞いて学ぼうとする	友人と文書の疑問点等について話し合う	友人とともに古文書について勉強し、それぞれの理解を深める
ND3 コミュニケーションする力	講義に出席し内容を聞く	疑問点・聞き逃した点を教員に聞く	友人と講義の内容について話し、理解を深める	古文書について主体的に勉強した成果を、友人と共有する
ND4 創造・発信する力	総括テストを受ける	自分が学んだことや学習したいと思ったことを小ペーパーに記入する	講義で学んだ古文書の知識を総括テストに記入する	講義で学んだ古文書の知識を、古文書になじみの無い人にもわかりやすい文で総括テストに記入する
ND5 思考・解決する力	講義を受け、古文書の読み方を学ぶ	くずし字辞典等を用いて古文書の文章を読解し、主語や述語を理解して現代語訳ができるようにする	講義で紹介した古文書について疑問点や課題を見つけ、自ら勉強して理解を深める	自分が興味を持った古文書について、参考文献等を用いて読解・勉強をする
ND6 主体的に行動する力	講義に出席し、ノートをとる	古文書に出てくるくずし字を辞典で確認する	実物文書の取り扱いの講義に積極的に参加したり、博物館等の展示を見る	参考文献や古文書に関する書籍を読み、古文書に対する理解を深める

〔授業計画〕

- 第 1 回 概説 古文書の取り扱いについて
- 第 2 回 現物の古文書に触れる(1) 文書の扱いを学ぶ
- 第 3 回 現物の古文書に触れる(2) 読んでみる
- 第 4 回 古文書の形を知る 縦紙・折紙・切紙
- 第 5 回 古文書を読むときの基礎知識 本紙・礼紙・封紙
- 第 6 回 古文書に慣れる (1) 書状
- 第 7 回 古文書に慣れる (2) 奉書

第 8 回 くずし字に慣れる (1) 朱印状
第 9 回 くずし字に慣れる (2) 起請文
第 10 回 くずし字に慣れる (3) 証文・手形
第 11 回 有名人の古文書 (1) 織田信長の手紙
第 12 回 有名人の古文書 (2) 武田信玄の手紙
第 13 回 有名人の古文書 (3) 豊臣秀吉の手紙
第 14 回 有名人の古文書 (4) 徳川家康の手紙
第 15 回 「古文書読解」まとめ・総括テストと解説
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式ですが、読解のため、皆さんには古文書を読んでもらう講義となります。みづから古文書にあたり、辞典などを調べる作業も行います。毎講義終了時、小ペーパーに講義への意見を記述し提出してもらいます。これは出欠確認でもあります。また読解力を確認するため、適宜授業中に課題を行う場合もあります。課題・小ペーパーでの質問項目等については次回以降の講義で解説を行います。また、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本講義は、現在あまり使われない漢字やひらがなやなど、くずし字の読みを対象とするので、語学の1つとして理解してください。したがって読み続ける努力が大事です。読む時は音読で行ってください。くずし字に慣れるには、日記など継続する文章やそこに記されるくずし字を読み続けることが、効果を上げる方法です。したがって学んだことを繰り返し反復しておいてください。先にテキストを配布するので、くずし字辞典や漢和辞典(新字源)・国語辞典(日本国語大辞典)などで、テキストの意味・文言ほかを調べ、授業前にテキストの文書を解説しておいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 評価は、総括テストまたはレポート (人数による) で行います。原則的に総括テストの点数で単位認定を行います。

2. 講義 3 分の 2 以上の出席をテスト (レポート) の参加 (提出) 資格とします。

3. 毎講義時に提出してもらった当該講義の意見の記述や課題は、特に必要と判断される場合に評価の参考とします。たとえば、病気など不可避な理由でテストを欠席した場合、評価は上記提出の意見や課題を基に行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

本講義は、現在あまり使われないくずし字や文章表現の読みを対象とするので、語学の1つとして理解してください。したがって読み続け慣れることが大事です。

授業予定については、進捗状況等に応じて順序の入れ替え等の変更を行う場合があります。

また、テキストは使用せず、プリントを適宜授業内に配布します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しません。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『古文書学入門』/佐藤進一/法政大学出版局/2003/9784588320118

『概説古文書学古代中世編』/日本歴史学会/吉川弘文館/1983/4642071911

『概説古文書学近世編』/日本歴史学会/吉川弘文館/1989/4642071911

児玉幸多編 くずし字用例辞典 東京堂出版 1993 ISBN 9784490103335

児玉幸多編 くずし字解説辞典 東京堂出版 1993 ISBN 9784490103311

小川環樹・西田太郎・赤塚忠編 角川新字源 角川書店 1994 ISBN 4040108043

小学館国語辞典編集部編集 日本国語大辞典 小学館 2006 ISBN 4095210230

〔参考URL(URL for Reference)〕

大阪市立図書館古文書を読もう

http://www.oml.city.osaka.lg.jp/?page_id=1220

同図書館が所蔵する古文書などを掲載し、読解のコツなどを紹介しています

新潟県立図書館インターネット古文書講座

<http://www.archives.pref.niigata.jp/internet-komonjo-koza/>

同図書館所蔵の古文書の画像と解説文、解説を掲載しています

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫研究所において古文書の取り扱い・読解の経験あり。

情報科学演習

CSA2453N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 2限

DP4 : 思考・解決力

60

伊藤 泰子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

いまや情報技術は、国家の社会基盤となりつつある。このような社会の中では、情報技術に関する一定の知識・技能を持つ人材が必要とされている。この科目では、国家試験である「ITパスポート試験」の技術水準をガイドラインとし、IT (information technology : 情報技術) 人材として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を習得することを目標とする。コンピュータのしくみ・基礎理論を理

解し、どのような技術があり、それをどのように活すべきかを学習していく。現在のネットワーク社会において必要不可欠なデータベース、ネットワーク、セキュリティなどの技術・知識も習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・コンピュータの基礎理論
- ・コンピュータシステムのしくみ
- ・ソフトウェアとハードウェア
- ・インターフェイスとマルチメディア
- ・データベース
- ・ネットワーク
- ・セキュリティ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 コンピュータの基礎理論
- 第 3 回 アルゴリズムとプログラム
- 第 4 回 コンピュータシステムのしくみ
- 第 5 回 ハードウェア
- 第 6 回 インターフェイス
- 第 7 回 ソフトウェア
- 第 8 回 マルチメディア
- 第 9 回 データベースの基礎知識
- 第 10 回 データベースの応用技術
- 第 11 回 ネットワークの基礎知識
- 第 12 回 ネットワークの応用技術
- 第 13 回 セキュリティ
- 第 14 回 暗号化技術
- 第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義中心で行うが、必要に応じて実習も交える。
 - ・定期的に小テストを行う。
- フィードバックとして、テスト実施後に解答の解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義対象とする教科書の内容は事前に告知するのでその部分を読んで予習しておく。さらに章ごとに小テストを実施するので、毎回きちんと復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (40%)、テスト (60%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集』/富士通エフ・オー・エム株式会社(FOM出版)/FOM出版/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

色彩デザイン論

CSA2417N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

室 千草

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

視覚のメカニズムを学ぶことによって、視認性や、色の持つ心理的なイメージなどを理解し、目的に合ったイメージを色で表現できるよう具体的な例を見ながら、色彩の基礎的な知識を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 12色相環、明度スケール、トーン一覧表
2. 色の三属性の理解、イメージと配色
3. 配色技法を用いたカラープランニング

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
主体的に学ぶ事	色彩について知ろうとする	色彩について理解しようとする	色彩の理論に基づいて理解しようとする	色彩理論を理解し、実習に生かす事が出来る。
学習指導要領の理解力	学んだ事を、要領よく	授業内容を要領よく理解できる	授業内容を理解し、自ら身の回り	授業内容を理解し、「色」について

	く理解できない		の「色」について理解しようとする	て理解し、課題に反映することができる
思考・想像する力	課題をする	課題を積極的にこなす	出来なかった課題を再度自ら復習する	理論をもとに自ら想像し、課題をより理解しようとする

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入
色とはどういうものなのか
- 第 2 回 色と光
視覚のメカニズムについて
- 第 3 回 色の記録、伝達の方法
色の名前や、それにまつわるコミュニケーションについて
- 第 4 回 様々な表色系①
色の三属性、PCCS、マンセルシステム
- 第 5 回 様々な表色系②
オストワルト、XYZ表色系、L*a*b*表色系
- 第 6 回 色の混合
加法混色、減法混色について
- 第 7 回 色彩の心理①
色の見えの効果
- 第 8 回 色彩の心理②
色のイメージ
- 第 9 回 色彩調和①
色相、明度、彩度、トーンを基準にした配色
- 第 10 回 色彩調和②
様々な効果をねらった配色
- 第 11 回 色彩調和③
イメージと配色
- 第 12 回 色彩調和論
ヨハネスイッテン、シュブルール色彩調和論など
- 第 13 回 カラーユニバーサルデザイン
視認性、バリアフリーと色について
- 第 14 回 カラープランニング①
webの配色体系と配色技法を用いたカラープランニングの考察
- 第 15 回 まとめ
webの配色体系の考察とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験内にテストを実施しないが、授業最終日にまとめとしてテスト (持ち込みアリ) を行います。選択問題と色彩カードを実際に使用する問題も含まれ、授業と日々の課題をしっかりとこなしていれば簡単に解けるように設定しています。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストの内容と画像資料を用いて理論を学び、配色カードによる確認実習作業を行う。

約 2 週間毎に簡単な小テストを実施し、色彩理論の理解度を深める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日常の身の回りにある色を注視し、グラフィックデザインやウェブページがどのような配色になっているかを観察すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内の課題60%、筆記試験 (最後のまとめテスト) 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

配色カードを用いる課題を行う際、はさみとのりが必要です。各自持参して下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『カラーコーディネーター入門 色彩』/大井義雄・川崎秀昭/日本色研事業(株)/2007年/9.784901355278E12/学内販売予定

『新配色カード199a』//日本色彩研究所///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶

色彩学などの科目について

○着物の会社において商品企画における色彩計画業務あり (現在も継続中)。

○専門分野である映像分野のカラーグレーディングを担当 (現在も継続中)。

○国立民族博物館にて行われた「日本におけるユニバーサル・ミュージアムの現状と課題」というシンポジウムに参加。研究者や作家、障害を持つ人の美術作品の鑑賞方法についての考察を研究中 (現在も継続中)

上記の実務業務の経験から、授業内において、色彩の物質と心理的要因による原理の違いを講義形式で教えることや、実践的には、光の色の原理について、実際に学生に実技実習してもらう事によって、教科書上のものだけでない理解を深めてもらおうと考えている。また色彩におけるユニバーサルデザインの知識も深めてもらえるような講義を試みたい。

図書館情報技術論

CSA2218NOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

水曜1限

DP2: 知識・理解力

60

定員46人 司書に関する科目を兼ねる。

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータとインターネットを構成する仕組みと技術について学び、それらによって流通する情報について理解する。様々な情報にアクセスするための技術およびそれらを保存提供するための技術や仕組みについて理解する。そして、現在のネットワーク社会、情報化社会における図書館の役割を果たし、図書館サービスを提供する上で必要な情報システム、機器の基礎を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. コンピュータとインターネットに関する基礎知識を得る。
2. 情報へのアクセスを整備し情報を保存、提供するための技術について理解する。
3. 図書館業務に関わる情報システム、機器についての基礎知識を得る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	テストにおいて、トピックに関する理解が十分に示されていない	テストにおいて、トピックに関する理解がある程度示されている	テストにおいて、トピックに関する理解がほぼ十分に示されている	テストにおいて、トピックに関する理解が網羅的に示されている

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の進め方の説明：情報技術と図書館 (テキスト 1)
- 第 2 回 コンピュータに関する基礎知識 (テキスト 2 : 1-2)
- 第 3 回 ネットワークに関する基礎知識 (テキスト 2 : 3)
- 第 4 回 インターネットの仕組みと基礎技術 (テキスト 3 : 1-4)
- 第 5 回 XMLマークアップ言語 (テキスト 3 : 5)
- 第 6 回 図書館システム (テキスト 5 : 1、2、4)
- 第 7 回 データベース管理システムとリレーショナルデータベース (テキスト 5 : 3)
- 第 8 回 期間中テスト
- 第 9 回 電子情報 (テキスト 4)
- 第 10 回 メタデータ (テキスト 6)
- 第 11 回 ネットワーク情報資源に関わる諸技術：RDFなど (テキスト 7 : 1-2)

第 12 回 ネットワーク情報資源に関わる諸技術：WebAPI など (テキスト 7 : 3)

第 13 回 情報セキュリティー (テキスト 8)

第 14 回 ネットワーク社会における情報サービス (テキスト 9)

第 15 回 まとめ：学習成果の確認とフィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストの内容に沿った講義と演習を中心に授業を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの該当する箇所を読んでくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (10%)・期間中の学習成果確認テスト (30%)・

期末の学習成果の確認としてのテスト (60%) 理解度確認

のテスト終了後に点数を学生本人に通知し、授業中に講評

を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社 (Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『図書館情報技術論』 / 杉本重雄 編 / 樹村房 / 2014/9784883672035/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社 (Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (大学図書館司書としての勤務経験あり)

専門演習 I

CSS3600IOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP6: 創造・発信力

60

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

＜共通目標＞ 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞ 学習や実践を通して、話しことばに関する自己の興味・関心を見つけ、卒業研究に向けての「問い」を考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 話しことばに関する基礎知識を深めるとともに、技能向上に努めることで、「話しことば」について考察し、卒業研究のテーマを検討する。

(2) 研究方法の基礎を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己課題を認識していない。	自己課題を認識している。	自己課題を適切に認識し、改善している。	自己課題を適切に認識し、高度な技能等を獲得している。
知識・理解力	放送など公的場面で話す意味を理解していない。	放送など公的場面で話す意味を理解している。	放送などで話すための、その望ましい在り方を理解している。	放送など話すことについて理解し、創意工夫に努めている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ番組の企画
- 第 2 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ①、企画
- 第 3 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ②、準備
- 第 4 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ③、準備、
資料収集
- 第 5 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ④、内容・
方法の検討
- 第 6 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ⑤、準備・
練習
- 第 7 回 話しことばに関する研究・制作
準備・練習
- 第 8 回 話しことばに関する研究・制作
リハーサル①
- 第 9 回 話しことばに関する研究・制作
リハーサル②
- 第 10 回 話しことばに関する研究・制作
実践①（フィールドワーク等）
- 第 11 回 話しことばに関する研究・制作
実践②（フィールドワーク等）
- 第 12 回 話しことばに関する研究・制作
振り返り
- 第 13 回 一斉授業
（実施回未定）
- 第 14 回 卒業研究・制作
卒業研究・制作に関する概要
- 第 15 回 卒業研究・制作

論文の書き方、各人の研究・制作の検討

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 各人のテーマに関する知識を増やし、多様な視点から考察する。

(2) 研究に必要な方法について実践的に取り組み、卒業研究に活かせるようにする。

(3) 「話しことば」に関する技能を向上させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・課題について、発表等の準備をする。

・研究に関連する文献を収集し、内容を把握する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

・ゲスト講師による授業を行うことがある。

・学外授業を行うため、交通費などが必要である。

・さらにプロジェクトを実施する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ ラジオパーソナリティの経験あり

日本語コミュニケーション II A

CSB1550A0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

金曜 2限

DP5 : 共生・協働する力

60

必修 文章表現を含む。

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

苦手意識を克服し、口頭表現に関する基礎技法を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・人前で話すことに慣れる。

・口頭表現に関する基礎技法を習得する。

・よりよいコミュニケーションについて考え、普段の生活に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自己管理ができない。	自己課題を認識し授業内で改善に努めている。	自己課題を認識し、授業内だけでなく、授業外でも活かしている。	自己課題を的確に認識し、授業外だけでなく、授業外でも高度なレベルで活かしている。
共生・協働する力	討議等で意見等を述べない。	討議等で意見等を述べる。	討議等で、傾聴や思いやり等をもって、積極的に参加しチームに貢献している。	討議等で、傾聴や思いやり等をもって、積極的に参加しチームに高度なレベルで貢献している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 日本語コミュニケーション学習の必要性
- 第 3 回 音声表現の基礎
- 第 4 回 わかりやすく話すということ
- 第 5 回 ものの言い方と心の姿勢
- 第 6 回 コンセンサス
- 第 7 回 プロジェクト
企画
- 第 8 回 プロジェクト
台本作り、視覚資料準備、練習
- 第 9 回 プロジェクト
準備、練習、リハーサル①
- 第 10 回 プロジェクト
練習、リハーサル②
- 第 11 回 プロジェクト
最終調整、リハーサル③
- 第 12 回 プロジェクト
本番と振り返り
- 第 13 回 コミュニケーション
- 第 14 回 スピーチ
準備、練習
- 第 15 回 スピーチ
本番（技能テスト）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・理解するだけでなく、練習を通して、その基礎技法を習得する。
- ・学習してきたことについてグループで討議を行い、全体で発表する。
- ・人前で話すための練習をする。
- ・毎回、一週間のコミュニケーションに関する自己の振り返り、毎回の授業の自己目標、自己課題、学習内容、意見、

感想について記述し、知識や技能の向上に努める。

- ・発表等に対して、随時フィードバックがある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・次回の課題の準備・練習をする。
- ・自己課題について、普段の生活でも改善に努める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、発表（30%）、授業参加度（40%）、ノート（30%）に基づいて、総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・ゲスト講師等を迎える可能性がある。
- ・実践的な授業のため、状況に合わせて内容・方法を変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『声のトレーニング』/福島英/岩波ジュニア新書/2005/4005005209

『テレビの日本語』/加藤昌男/岩波新書/2012/4004313783

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 司会、ナレーター、ラジオパーソナリティ、社会人に対するセミナー講師（コミュニケーション）の経験あり

日本語コミュニケーションⅡB

CSB1550B0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科（実践的科目）

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP5：共生・協働する力

60

必修 文章表現を含む。

平野 美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕

苦手意識を克服し、口頭表現に関する基礎技法を習得する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・人前で話すことに慣れる。
- ・口頭表現に関する基礎技法を習得する。
- ・よりよいコミュニケーションについて考え、普段の生活に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己管理ができない。	自己課題を認識し授業内で改善に	自己課題を認識し、授業内だけで	自己課題を的確に認識し、授業外

		努めている。	なく、授業外でも活かしている。	だけでなく、授業外でも高度なレベルで活かしている。
共生・協働する力	討議等で意見等を述べない。	討議等で意見等を述べる。	討議等で、傾聴や思いやり等をもって、積極的に参加し、チームに貢献している。	討議等で、傾聴や思いやり等をもって、積極的に参加しチームに高度なレベルで貢献している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 日本語コミュニケーション学習の必要性
- 第 3 回 音声表現の基礎
- 第 4 回 わかりやすく話すということ
- 第 5 回 ものの言い方と心の姿勢
- 第 6 回 コンセンサス
- 第 7 回 プロジェクト
企画
- 第 8 回 プロジェクト
台本作り、視覚資料準備、練習
- 第 9 回 プロジェクト
準備、練習、リハーサル①
- 第 10 回 プロジェクト
練習、リハーサル②
- 第 11 回 プロジェクト
最終調整、リハーサル③
- 第 12 回 プロジェクト
本番と振り返り
- 第 13 回 コミュニケーション
- 第 14 回 スピーチ
準備、練習
- 第 15 回 スピーチ
本番（技能テスト）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・理解するだけでなく、練習を通して、その基礎技法を習得する。
- ・学習してきたことについてグループで討議を行い、全体で発表する。
- ・人前で話すための練習をする。
- ・毎回、一週間のコミュニケーションに関する自己の振り返り、毎回の授業の自己目標、自己課題、学習内容、意見、感想について記述し、知識や技能の向上に努める。
- ・発表等に対して、随時フィードバックがある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・次回の課題の準備・練習をする。
- ・自己課題について、普段の生活でも改善に努める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、発表（30%）、授業参加度（40%）、ノート（30%）に基づいて、総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・ゲスト講師等を迎える可能性がある。
- ・実践的な授業のため、状況に合わせて内容・方法を変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『声のトレーニング』/福島英/岩波ジュニア新書/2005/4005005209

『テレビの日本語』/加藤昌男/岩波新書/2012/4004313783

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 司会、ナレーター、ラジオパーソナリティ、社会人に対するセミナー講師（コミュニケーション）の経験あり

日本語の朗読

CSA2406N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科（実践的科目）

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜 3限

DP4：思考・解決力

60

定員30人

平野 美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕

- ・発声・発音の基礎を習得し、豊かな音声表現力を身につける。
- ・朗読の難しさと楽しさを味わう。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・自己の音声表現を聞き、自己の音声表現の特徴等を知る。
- ・最初と最後の音声表現の違いから、その成長を実感する。
- ・羞恥心を克服し、豊かな音声表現を目指す。
- ・皆で協力して朗読会を成功させる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

音声表現	音読をしている。	自己課題を認識し、改善に努めている。	自己課題を認識し、常に改善に努め、最終的に自信をもって朗読をすることができる。本授業外でも音声表現を改善するよう努めている。	自己課題を認識し、常に改善に努め、最終的に自信をもって高度な朗読をすることができる。本授業外でも豊かな音声表現でプレゼンテーション等を行うことができる。
共生・協働する力	意見等を述べるできない。	意見等を述べるができる。	積極的に活動に参加し、チームに貢献することができる。	積極的に活動に参加し、他者への傾聴や思いやりをもって、高度なレベルでチームに貢献することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業のオリエンテーション
- 第 2 回 音声表現の聴き比べ
- 第 3 回 音声表現に関する知識と発声・発音の基礎
- 第 4 回 朗読会Ⅰ 発表①
試行
- 第 5 回 朗読会Ⅰ 発表②
解釈
- 第 6 回 朗読会Ⅰ 発表③
「間」の検討
- 第 7 回 朗読会Ⅰ
表現、リハーサル
- 第 8 回 朗読会Ⅰと討議
- 第 9 回 朗読会Ⅱ
作品準備
- 第 10 回 朗読会Ⅱ
解釈、発表④
- 第 11 回 朗読会Ⅱ
練習、発表⑤
- 第 12 回 朗読会Ⅱ
練習、司会の準備、リハーサル①
- 第 13 回 朗読会Ⅱ
最終調整、リハーサル②
- 第 14 回 朗読会Ⅱ
本番
- 第 15 回 まとめ
最初の録音（第 2 回の授業）とあわせて聴き比べ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・あらかじめ決められた文章で最初と最後に発話（朗読）する。それを録音しておき、聞き比べる。
- ・発声・発音の基礎を毎授業で行い、基礎技能を向上させる。
- ・朗読会の準備や実施を通して、また、協同的に取り組むことを通して、楽しさや責任感を感じながら、音声表現力（朗読）の向上を目指す。
- *朗読会Ⅰ、朗読会Ⅱ、2回目の聴き比べで、全体に対してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・課題の準備・練習をする。
- ・発音練習等の基礎練習を、各自で毎日行う。
- ・朗読作品を検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、最終の朗読（30%）、授業参加度（40%）、レポート（30%）に基づき、総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・朗読会については、教室外で実施したり、授業以外の日に設定したりする場合があります。
- ・皆で作り上げる授業です。積極的な参加を期待します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『日本語の発声レッスン 俳優編』/川和孝/新水社/1981/4915165019/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『声のトレーニング 歌える！話せる！自信がつく！』/小林由紀子/NHK出版/2004/4140881135

『NHK 日本語発音アクセント新辞典』/NHK放送文化研究所編/NHK出版/2016/4140113456

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 番組やビジネス用途のコンテンツのナレーターとしての経験あり。

日本語教育入門

CSA2304NOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP3: 言語力

60

堀 勝博

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

グローバル化とともに、日本を訪れる外国人は年々増え、日本語を学ぶ外国人は世界全体で1000万人を超えていると言われている。そのような内外の外国人学習者に日本語を教える「日本語教育」とはどのような仕事なのか。この授業は、日本語教育の現況、内容、方法、問題点等について概観し、日本語を教える人にとって必要な基礎知識を習得してもらうことをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本語教育とはどのような仕事なのか理解する
2. 日本語教育の方法について理解する
3. 日本語の学習段階N1～N5について理解する
4. 日本語教育で用いられる専門用語に習熟する
5. 日本語教育能力検定試験に関する知識を深める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	日本語能力試験の認定基準を理解していない	日本語能力試験の認定基準をある程度理解している	日本語能力試験の認定基準をよく理解している	日本語能力試験の認定基準を深く理解している
言語力	日本語検定や漢字能力検定3級レベルの資格を取得できていない	日本語検定や漢字能力検定準3級以上に合格している	日本語検定や漢字能力検定3級以上に合格している	日本語検定や漢字能力検定2級以上に合格している

〔授業計画〕

- 第1回 導入授業 ?日本語教師になるために (~p44)
- 第2回 言語習得と異文化理解 (p46~113)
- 第3回 日本語教育の教授法 (p.116~130)
- 第4回 授業計画と評価の方法 (p130~144)
- 第5回 指導案作成と教材の選定 (p144~152)
- 第6回 日本語指教育におけるコミュニケーションとリテラシー (p153~174)
- 第7回 日本語教育に必要な言語学の基本 (p176~191)
- 第8回 日本語の音声?母音、子音、半母音 (p194~208)
- 第9回 日本語の音声?特殊音、アクセント、イントネーションなど (p209~226)
- 第10回 日本語の語彙 (p228~241)

第11回 日本語の文法?品詞、文の種類、テンスとアスペクト (p242~259)

第12回 日本語の文法?ムード、ヴォイス、条件の表現、授受など (p260~276)

第13回 語用論、日本の漢字 (p278~293)

第14回 平仮名、片仮名、日本語史 (p293~306)

第15回 まとめと見極め

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テキストにもとづき講義を行う
2. 適宜課題を出し、その発表や提出を求める
3. 毎回テキストに関する小テストを実施する
4. 日本語教育能力検定試験の問題にとりくむ
5. 予習課題、授業内容に関する補足、小テストの解答などを、manabaにより指示・公開する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 事前に指示された調査課題・発表課題を準備してこること
2. 講義であつかう予定のテキスト該当箇所を読んでこること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に参加する意欲・態度の評価点40%、最終試験の成績60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

日本語教員養成課程必修科目。外国人への日本語教育や国際交流に関心をもつ人の受講を歓迎する。ただし、国際日本文化学科学学生以外は、卒業要件単位に入らない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ベーシック日本語教育』 / 佐々木泰子編/ひつじ書房/2007/978-4894762855/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本語教育事典』//大修館書店//

『講座 日本語と日本語教育』//明治書院//

『日本語教師・分野別マスターシリーズ』//アルク//

〔参考URL(URL for Reference)〕

イラスト村

<http://imagenavi.jp/contents/rf/illustmura.asp>

教材作成用イラストデータベース

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

大阪外国語大学外国人研究生日本語チューター (1983~4)

年)同志社国際高校帰国生徒クラス(1984年)大阪外国語大学留学生別科日本語科目(1985~1986年)など、留学生や帰国生徒に対する日本語教育を担当した

博物館概論

CSA1208NOJ
大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科(実践的科目)

1年次 2年次 3年次

2単位 前期

木曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

博物館に関する基礎的知識を身につける。身近にある博物館の活動内容を知り、博物館学的な観点からそれを考察できるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

博物館や学芸員の活動について、基本的な事項と実例、歴史を学ぶ。また、これらの活動の根拠となる法律や倫理規定を理解する。身近な博物館を知り、考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	博物館に関する基本的な事項をほとんど知らない	博物館に関する基本的な事項を知っている	具体的な博物館について調査し、活動内容を博物館学的観点から理解できる	博物館を訪れた際に、博物館学的に分析することが出来る
言語力	博物館に関する用語をほとんど知らない	博物館に関する用語を適切に使うことが出来る	具体的な博物館について調査し、活動内容を博物館学的観点から記述できる	博物館を訪れた際に、博物館に関する用語を使いながら説明することが出来る
共生・協働する力	博物館を利用者としての観点でしか見ていない	博物館に関わる多様な人々の視点を理解できている	博物館活動を運営する側の視点で考察できている	すべての人に開かれた社会教育施設としての博物館の意義を理解している

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨN
- 第 2 回 博物館と博物館学について
- 第 3 回 博物館の機能・学芸員の役割
- 第 4 回 博物館に関する法令(博物館法など)
- 第 5 回 諸外国の博物館史
- 第 6 回 諸外国の博物館の活動例

- 第 7 回 日本の博物館史
 - 第 8 回 日本の博物館の活動例
 - 第 9 回 博物館における「収集」
 - 第 10 回 資料の「保存」
 - 第 11 回 博物館における「展示」
 - 第 12 回 博物館における「教育普及」
 - 第 13 回 博物館における「調査研究」と情報発信
 - 第 14 回 博物館の現状と課題
 - 第 15 回 展覧会見学(実施回未定)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- レポートを実施する。
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- ・講義が中心であるが、受講者に課題発表を求めることがある。
 - ・manabaで提出されたレポートに対してコメントを本人に公開することで、フィードバックとする。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
1. テキストや資料の指示された箇所を読んでくること。
 2. 指示された課題を準備してくること。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 30
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- 講義への参加態度50%・レポート評価50%
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- 大学近隣の施設で博物館見学会を1回実施する。予定表では第15回に記載するが、実施回は未定であり、別の回に実施する可能性が高い。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- 適宜配布する
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 浜田弘明総編集『シリーズ現代博物館学1 博物館の理論と教育』朝倉書店 2014年
- そのほか適宜紹介する。
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- ≪実践的科目≫(兵庫県立美術館で学芸員として勤務経験あり)

発展演習 I

CSS2600C0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

木曜 2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 キリスト教の典礼暦を学ぶ
- 2 キリスト教の祝祭日に基づく祭りについて学ぶ
- 3 キリスト教の祝祭日の祭りの起源とその意味を学ぶ
- 4 キリスト教の祭りに用いられるアイテムや食べ物について学ぶ
- 5 キリスト教の祝祭日の祭りの祝い方と文化の関係を考察する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
キリスト教の典礼に関する知識・理解力を高める	キリスト教の典礼暦について知ろうとする	キリスト教の典礼暦を知り、祝日と祭りの関係を理解している。	キリスト教の典礼暦を知り、祝日と祭りの関係を理解し、聖書的背景や文化的背景を探求しようとする。	キリスト教の典礼暦を知り、祝日と祭りの関係を理解し、その聖書的背景や文化的背景を探求し、キリスト教の祝祭について高いレベルでの知識と理解力がある。

創造的学びと発信力	世界のキリスト教の祭りについて知り、発表する	世界のキリスト教の祭りについて、地域的特色を理解し、発表し、文章化することができる。	世界のキリスト教の祭りについて、地域的特色を理解して比較を行い、的確に要点をまとめて発表し、まとまりのあるレポートにすることができる。	世界のキリスト教の祭りについて、地域的特色を理解して比較を行い、独創的にその相異の要因を研究し、高いレベルで発表し、独創性のあるレポートにすることができる。
-----------	------------------------	--------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 キリスト教の典礼暦
- 第3回 キリスト教の祭りに関する文献調査方法
- 第4回 キリスト教の祭りに関する文献調査
- 第5回 フィールドワーク (キリスト教美術)
- 第6回 カーニバルとイースター
- 第7回 ヴァレンタイン・デーとハローウィン
- 第8回 クリスマスの起源
- 第9回 フィールドワーク (クリスマス文化)
- 第10回 クリスマスと文学
- 第11回 世界のクリスマスの祝われ方
- 第12回 キリスト教のお祭りのアイテム
- 第13回 キリスト教のお祭りのアイテム制作
- 第14回 キリスト教のお祭りの食べ物
- 第15回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 学生による研究の発表と、それに基づく討論を行い、キリスト教の祭りの理解を深める
- 2 研究内容をレポートにまとめて提出する。
- 3 授業中に発表およびレポートに関する講評を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

全員がその日の授業で扱うキリスト教の祭りについて事典や参考文献を用いて調べ、授業に臨むことを前提とする。さらに、その祭りが聖書の言葉とどのような関係があるかを調べる。祝祭日に基づく祭りが、どのように祝われるか、様々な地域について調べる。発表の担当者は、発表の準備として研究内容をレジュメにして用意する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表内容、提出課題の成績、試験の結果などを評価の基本とする (60%) が、授業参加度や課題等に取りくむ姿勢

をも重視する（40%）。ただし、欠席5回以上で、単位修得は困難となる。

【留意事項（Other Information）】

ゲスト講師による授業を行うこともある。
フィールドワークの実施回は変更の可能性がある。
【テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）】

『聖書 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/ISBN784820212713/学内販売をしない予定

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

『クリスマスの起源』/クルマン/教文館/2007/ISBN4764260239
『ローマ史のなかのクリスマス』/保坂高殿/教文館/2005/ISBN4764265877

その他の参考文献は授業中に紹介する

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

アジア文化論

CSA2274N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜4限

DP2：知識・理解力

60

横山 俊一郎

【科目の教育目標（Course Description）】

江戸後期から昭和前期にかけて大阪に存在した漢学塾・泊園書院に注目し、書院に学んだ革命家や企業家の人生の軌跡を辿ることを通して、日本・中国・韓国といった東アジアに共通する伝統教養が果たした役割を考える。また、その知的作業を通して、当時の大阪に生きた庶民の暮らしや娯楽、阪急沿線のモダンな都市文化、朝ドラ「あさが来た」のモデルとなった広岡浅子についても派生的な知識として習得する。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

- ①東アジアの伝統教養に関する知識を身につける。
- ②大阪を中心とする関西の歴史と文化を理解する。
- ③現代と伝統とのつながりを認識しつつ、外国文化との共通性と地域文化の固有性について理解を深める。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

【授業計画】

第1回 イントロダクション

第2回 天下の台所・大阪

第3回 江戸時代の大坂人の生活

第4回 漢学塾・泊園書院について

第5回 日本各地の私塾をめぐる旅

第6回 江戸時代の志士と漢学

第7回 東アジアの革命家たち

第8回 東洋のマンチェスター・大阪

第9回 日本の文明開化と漢字・漢文

第10回 女性実業家・広岡浅子について

第11回 阪急創業者・小林一三について

第12回 明治時代の企業家と漢学

第13回 東アジアの実業家たち

第14回 イノベーターたちに響いた中国古典

第15回 レポート作成

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施する

【教育・学習の方法（Course Methods）】

画像、資料、PPTを活用しながら、講義を行う。

授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

授業以外の時間に、東アジア、大阪に関する情報をインターネットや書籍、雑誌などで調べる。最終回（第15回）ではみずからの興味のあるテーマについてレポートを書いて提出する。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

受講態度（50%）、レポートの内容（50%）で評価する。

【留意事項（Other Information）】

0

【テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）】

使用しない。

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

適宜配布する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

アラブ・イスラーム文化論

CSA4217N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

水曜3限

DP2: 知識・理解力

90

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

アラブ文化とイスラーム文化についての基本的な知識を身に付け、理解を深めることを目的とする。本科目ではアラブ地域におけるイスラームとアラブ地域以外のアジア諸国や日本に関係するイスラームについても学習する。まず「アラブ」とは、「イスラーム」とは何を指すのかを学ぶ。その後、イスラームの始まりから現代の変遷に至るまでの歴史、生活、芸術、経済のさまざまな側面を切り取り、基本的な事項を把握する。またアラブ特有の文化であるアラブ文学や書道についてその歴史や代表的な作品を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. アラブ・イスラーム文化の多様性
2. 現代におけるアラブ・イスラーム文化
3. 日本におけるアラブ・イスラーム文化
4. アラビア語の簡単な挨拶

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し覚えた上で、応用につなげる
言語力	アラビア語の挨拶を聞く	アラビア語の挨拶を言う	アラビア語の挨拶を書いてみる	アラビア語の挨拶を言い、書けるようになる
思考・解決力	宿題、課題や試験に取り組む	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	できなかった課題を再度やってみる	自ら課題を考え解決する

共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやるとうとする	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす
----------	-------------------------	--------------------	----------------------------	------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第1回 アラブとイスラームの定義
- 第2回 イスラームの形成と拡大
- 第3回 聖典クルアーンと六信五行
- 第4回 アラブ文学 (詩と散文)
- 第5回 日本とイスラーム
- 第6回 ムスリム人口とモスク活動
- 第7回 イスラーム食文化とハラール飲食品
- 第8回 イスラームと芸術
- 第9回 アラビア書道
- 第10回 イスラーム金融
- 第11回 イスラーム法と近代法
- 第12回 イスラームとジェンダー
- 第13回 発表1
- 第14回 発表2
- 第15回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義と受講生の発表によって授業をすすめる。
2. 受講生は授業で決められたテーマに関する課題を事前に読むか調べる。
3. 関連テーマを定め、発表を行う。
4. 課題に対するフィードバックは授業の中で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 事前調査
3. 発表のレジュメ作成
4. 発表のパワーポイント資料作成

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (10%)、発表 (30%)、学期末試験またはレポート (60%) により評価する。

欠席5回以上で、単位修得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に使用しない。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

小杉泰編『大学生・社会人のためのイスラーム講座』ナカニシヤ出版2018

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

インターネット社会論

CSA2259N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜1限

DP2：知識・理解力

60

吉田 智子

[科目の教育目標 (Course Description)]

インターネットは1990年代以降、急速に世界中に広まった。この新しいメディアは、かつてのものとは異なる発展形態をもっているため、従来のメディア研究の常識では理解しきれない要素も多い。

この科目ではまず、LINE、twitter、facebookに代表されるSNS(Social Networking System)の発展を可能にしたテクノロジーの歴史を整理する。そして、インターネットの発展に寄与しているオープンソース・ソフトウェアに関して、ビジネスモデルやその意味と可能性の理解する。最後に、SNSがもたらすこれからの社会に関して、インターネット環境を利用したエンパワーメントというキーワードを軸に考察する。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

以下の内容を理解する。

- ・ silent majority (静かなる大衆) が手に入れたSNS
- ・ 各種SNSが作り出すネット空間
- ・ SNSの発展を可能にした各種のテクノロジー
- ・ インターネットの発展とオープンソースの関係
- ・ SNSがもたらすエンパワーメント

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
SNSの理解	SNS (Social Networking System) が何かを知らない	LINE、twitter、facebook が SNS に含まれることを知っている	SNS の発展を可能にしたテクノロジーや社会的な意味を理解している	SNS のテクノロジーを理解し、自分のエンパワーメントにどう活用できるかを考えることができる

オープンソース・ソフトウェアの理解	オープンソース・ソフトウェアについて知らない	Linux に代表されるオープンソース・ソフトウェアやオープンソース現象を知っている	インターネットの発展におけるオープンソースの役割を理解している	インターネットの発展におけるオープンソースの役割を理解し、オープンソースのコミュニティへの自分の貢献分野を模索している
-------------------	------------------------	--------------------------------------------	---------------------------------	-------------------------------------------------------------

[授業計画]

第 1 回 ガイダンス

授業概要、コンピュータとインターネットの発展 (人物に注目して考察)

第 2 回 SNSが作り出すネット空間

「第五の権力」とは? silent majority (静かなる大衆) が手にしたSNS(Social Networking System)

第 3 回 SNSの発展を可能にしたテクノロジー(1)

各種SNSが作り出すネット空間、コンピュータの小型化 (トランジスターとは?)

第 4 回 SNSの発展を可能にしたテクノロジー(2)

コンピュータ、ネットワーク環境の発展

第 5 回 SNSの発展を可能にしたテクノロジー(3)

日本の携帯電話事情 (ガラケーからスマホへ)

第 6 回 SNSの発展を可能にしたテクノロジー(4)

iPhoneとAndroidのビジネスモデル (iOSはApple社の商品、Androidはオープンソースである)

第 7 回 インターネットの発達とオープンソース(1)

オープンソース・ソフトウェアとは? オープンソース現象とは?

第 8 回 インターネットの発達とオープンソース(2)

オープンソースのネット発展への貢献

第 9 回 SNSがもたらすもの(1)

インターネットがお金を生み出すしくみ、広告とコミュニケーション

第 10 回 SNSがもたらすもの(2)

ビッグデータとデータサイエンティスト

第 11 回 SNSがもたらすもの(3)

SNSがもたらすエンパワーメント

第 12 回 ネット時代に関する考察(1)

各自のレポートのテーマ決定

第 13 回 ネット時代に関する考察(2)

各自のレポートの情報収集と構成の確認

第 14 回 ネット時代に関する考察(3)

「ネット時代に関する考察」に関するレポートの提出と情報共有

第 15 回 まとめ

確認テストの実施と解説。解答例や講評はmanabaでも公開する。

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義中心で行う。さらに、各自が作成した「ネット時代に関する考察」をテーマとしたレポートの作成、発表も行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート (35%)、まとめテスト (35%) の総合点で評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

外部講師を招いて特別授業を実施することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『SNS って面白いの?』/草野真一/講談社/2015/9.784062579261E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『図解でわかる14歳から知っておきたいAI』/インフォビジュアル研究所/太田出版/2018/

『オープンソースの逆襲』/吉田智子/出版文化社/2007/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ウェブデザイン I

CSA2414N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 2限

DP4 : 思考・解決力

60

定員24人

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インターネット技術の総括的な理解から、ウェブサイトの規格や使用する言語、文字・画像などの情報の関連付けと視覚化と各種形式、さらにサイト運営における著作権問題などを学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

毎回の授業は演習室で行うが、実習は概要を理解するための実験と位置付けているため、基本は講義となる。教科書として「改訂新版 インターネット講座」(北大路書房)を利用し、インターネットのしくみ、World Wide Webのしくみ、HTMLとCSSを利用したWebページの記述、JavaScriptを利用したWebページについてを、操作実習も交えて学ぶ。加

えて、各種のファイル形式の知識を整理し、Web制作者として必要な著作権問題についても学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
World Wide Webのしくみの理解	Webページが、世界中に分散したWebサーバーに保存されていることを知らない	WebページとWebサーバーのそれぞれはわかるが、関係は意識していない	Webページが世界中に分散したWebサーバーに保存され、流通していることを理解している	WebページがどのようなしくみでWebサーバーから届くかを、きちんと理解している
HTMLとCSSのしくみの理解	HTMLやCSSことを知らない	HTMLとCSSのそれぞれの記述を写して書けるが、関係は意識していない	HTMLが文書構造の記述、CSSがデザインの記述に利用されることを理解している	HTMLとCSSのそれぞれの役割と切り分けを、きちんと理解している
インタラクティブなWebページの記述の理解	インタラクティブなWebページの記述について知らない	JavaScriptやCGIのページのそれぞれの記述を写して書けるが、理解していない	JavaScriptやCGIがインタラクティブなページの記述に利用されることを理解している	インタラクティブなページの記述に利用されるJavaScriptやCGIのそれぞれの役割と切り分けを、きちんと理解している

〔授業計画〕

第 1 回

ガイダンス (この授業と「ウェブデザイン実務士」資格について、大学内の各演習室で使えるアプリケーションについてなど)

第 2 回

Webデザインの仕事とは?、本学のWebサーバー環境、Web制作のための法的知識 (著作権、意匠権、商標権、肖像権)

第 3 回

Webサイトの批判的閲覧とHTMLを使ったWebページの制作の基本

第 4 回

HTMLを使ったWebページの作成(画像表示・階層構造の理解)

第 5 回

HTMLとCSSを利用したWebページの制作実習 (1) 導入

第 6 回

- HTMLとCSSを利用したWebページの制作実習
(2) 活用
- 第 7 回 JavaScriptを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(1) 教科書11章前半
- 第 8 回 JavaScriptを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(2) 教科書11章後半
- 第 9 回 CGIを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(1) 教科書12章前半
- 第 10 回 CGIを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(2) 教科書12章後半
- 第 11 回 HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(1) 企画
- 第 12 回 HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(2) サイト設計・ページデザイン
- 第 13 回 HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(3) ページ制作
- 第 14 回 HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(4) 各種ブラウザで表示確認、最終レポート提出
- 第 15 回 まとめ（確認テストの実施とその解説。manabaに解答例を公開）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を基本とするが、実習を伴った方が理解が促進される内容については、パソコンを利用した操作実習をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・毎回の授業に関して教科書の該当ページを示すので、事前に読んで参加すること。

・「Webページの批判的閲覧」に関して、一度ずつ発表する必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、最終レポートを含む提出物（20%）、確認テスト（50%）の総合点で評価。なお、授業での発表点は、授業参加度（30%）の中を含む。

〔留意事項（Other Information）〕

ウェブデザイン実務士科目群の基本となるため、他のウェブデザイン実務士科目科目よりも先に（特に「ウェブデザイン演習」よりも先に）に履修することが望ましい。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『改訂新版 インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014/978-4-7628-2830-0/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ウェブデザインⅡ

CSA2462N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 1限

DP4：思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

様々な技術や複数のファイルから成り立つWebサイトの特性を理解し、適切なファイル（形式、データサイズ、著作権など）の取り扱い方法や、連携、管理方法などをサイト制作に用いられる専用アプリケーションの実習を通して学び、『ウェブデザイン』の知識と技術を身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

Adobe Bracketsほか、制作ツール・ウェブサービスを活用し、演習と課題制作をとおしてウェブサイトの制作能力を身につける。

ウェブの特性を理解し、魅力的かつ効率的な情報の発信力を身につける。

1) HTML/CSSコーディングの基礎技術の習得

・制作ツールの活用、操作方法の習得

・文章構造を理解したコンテンツの制作と編集

2) ウェブサイトのデザイン、編集の知識・技術の習得

・高度なレイアウト技術の習得

・CSS応用技術の習得

3) ウェブサイト制作に関わる、応用技術の習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 (macOSの操作)	PCの起動、終了など、macOSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのmacOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用、環境設定の変更、周辺機器（プリンタ、スキャナなど）も適切に利用できる	OS、バージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える

知識・理解力 (演習用ソフトウェアの操作)	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、総合的なコンテンツを作成することができる
思考・解決力 (必要な情報の検索・収集・編集)	必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、環境設定、使用ツールの解説
 - 第 2 回 HTML基礎 (ファイル作成、文章構造解説、コンテンツの配置と編集)
 - 第 3 回 CSS基礎 (HTML・CSS復習、CSS記述と外部ファイルへの書き出し)
 - 第 4 回 カラー、画像素材等の編集に関する知識と技術の学習
 - 第 5 回 セレクタを活用した要素の装飾・レイアウト方法の学習
 - 第 6 回 汎用要素、セクション要素の活用したレイアウト方法の学習
 - 第 7 回 ナビゲーションのレイアウト (リスト、リンク、画像のレイアウト)
 - 第 8 回 Webデザイン応用技術 1 (CSSレイアウト応用)
 - 第 9 回 Webデザイン応用技術 2 (JavaScriptの活用)
 - 第 10 回 Webデザイン応用技術 3 (サイト設計)
 - 第 11 回 最終課題制作 (制作サイト企画・設計、コンテンツ編集)
 - 第 12 回 最終課題制作 (演習で学んだ技術を活用したWebサイト編集・制作)
 - 第 13 回 最終課題制作 (演習で学んだ技術を活用したWebサイト編集・制作)、中間発表
 - 第 14 回 最終課題制作 (動作、編集箇所最終確認、ブラッシュアップ作業)
 - 第 15 回 最終課題制作、提出
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
各回、解説資料・素材データを配布し、リサーチ、演習などの課題制作を行う。
最終課題では、演習で学んだ技術を活用して、各自がコンテンツ内容を企画・編集し、Webサイトを制作する。
中間、最終課題は完成作品のプレゼンテーション、および

合評を行い、ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

〔予習・復習〕

授業内で配布する資料、素材データを元に復習をしておくこと。またデザインや構造など参考になるウェブサイトを各自で調査・研究しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、授業毎の演習課題提出 (30%)、最終課題の完成度 (40%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

人数制限：18名

「マルチメディア演習」を履修済み、もしくは「Adobe Photoshop」が扱える事が望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『HTML5+CSS3の新しい教科書 改訂新版 基礎から覚える、深く理解できる。〈レスポンシブWebデザイン対応〉』/こもりまさあき・原一宣・赤間公太郎/エムディエヌコーポレーション/2018/8/27/4844367838

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務経験あり。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

ウェブデザイン演習

CSA3451N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次 4年次

2単位 後期

木曜 2限

DP4：思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ウェブデザイン関連科目で学んだ内容の集大成として、オリジナルウェブサイトの制作に取り組み、企画、情報収集、編集、デザイン、加工、コーディング、公開まで、サイト制作に関わるワークフローを体験・理解し、WEBデザイン実務士の資格に値するサイト制作の知識と技術、魅力的かつ効率的な情報の発信力を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) ウェブサイトの企画・編集
 - ・オリジナルサイトの企画
 - ・企画書作成 (ラフスケッチ、ワイヤーフレーム、サイトマップ)
- 2) ウェブサイトのデザイン
 - ・画像編集ツール等を活用したウェブデザイン作成
 - ・素材の編集
- 3) ウェブサイトのコーディング
 - ・Adobe Bracketsほか、制作ツールを活用したHTML/CSSコーディング
- 4) 公開
 - ・プレゼンテーション

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 (macOSの操作)	PCの起動、終了など、macOSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのmacOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用や、環境設定の変更、周辺機器 (プリンタ、スキャナなど) を適切に利用することができる	OS、バージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える
知識・理解力 (演習用ソフトの操作)	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、総合的なコンテンツを作成することができる
思考・解決力 (必要な情報の検索・収集・編集)	必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、ウェブサイトの制作方法の復習
- 第 2 回 ウェブサイト企画1 (アイデアリサーチなど制作準備、サイトマップ、ワイヤーフレーム制作演習、制作ツール準備、制作課題の個別目標の検討)
- 第 3 回

- ウェブサイト企画2 (サイト内容、ターゲット等、企画準備、制作方法などの決定、企画書作成準備)
- 第 4 回 ウェブサイト企画3 (コンテンツ・サイト構造の整理、コンテンツ内容の編集、サイトマップ、ワイヤーフレームの作成)
- 第 5 回 ウェブサイト企画書チェック (企画書・制作内容を提出、講評、関連情報・技術のリサーチ)
- 第 6 回 ウェブサイト企画書の修正 (講評で指摘を受けた箇所の修正、素材収集、編集)
- 第 7 回 ウェブサイト作成1 (素材の編集、書き出し、HTMLのマークアップ、サイト共有部分の制作)
- 第 8 回 ウェブサイト作成2 (個別ページの制作、HTMLのマークアップ、CSSによるスタイリング)
- 第 9 回 ウェブサイト制作3 (共有部分、個別ページのCSSによるスタイリング、全体編集)
- 第 10 回 ウェブサイト制作4 (その他インタラクション、ウェブサービスとの連携の実装)
- 第 11 回 中間チェック (進行状況をプレゼンテーション、修正点の確認)
- 第 12 回 ウェブサイト制作 (中間チェックで指摘を受けた箇所の修正、各要素の見直し、テキスト、画像素材の追加)
- 第 13 回 ウェブサイト制作 (修正箇所の再チェック、ブラッシュアップ)
- 第 14 回 ウェブサイト制作 (最終調整)、公開準備
- 第 15 回 合評 (完成課題作品をプレゼンテーション)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各自、オリジナルサイトを企画・編集し、授業で得た知識、技術を活用してウェブサイトを作成し、学内ネットワーク、または外部サーバを利用して公開する。中間チェック、最終課題は完成作品のプレゼンテーション・合評を行い、ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

〔復習〕

「マルチメディア演習」「ウェブデザインII」の履修済の者は、各授業で配布したレジュメ、配布データを元に復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

webサイトの学内公開を単位取得の条件とする。

授業参加度 (40%)、webサイトの完成度 (60%) の総合点で評価する。

なお、「ウェブデザイン実務士」の資格認定を希望するものは、70点以上の評価を受ける必要がある。

〔留意事項 (Other Information)〕

人数制限：18名

本授業を受講するにあたり、「マルチメディア演習」を履修

済み（もしくはIllustratorまたはPhotoshopが扱える）、および「ウェブデザインI」「ウェブデザインII」を履修済み（もしくはまたはHTMLとCSSのコーディング経験、基礎知識を有している）ことを必須条件とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版インターネット講座』/有賀妙子・吉田智子・大谷俊郎/北大路書房/2014/978-4762828300/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『HTML5+CSS3の新しい教科書 改訂新版 基礎から覚える、深く理解できる。〈レスポンシブWebデザイン対応〉』/こもりまさあき・原一宣・赤間公太郎/エムディエヌコーポレーション/2018/8/27/4844367838

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務経験あり。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

キリスト教とラテン語 I

CSA2156N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次 3年次

2単位 後期

木曜3限

DPI：自分を育てる力

90

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. キリスト教の聖書や聖歌への理解を深めること
2. キリスト教とラテン語の関わりを理解すること

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 聖書や聖歌の歌詞等を理解する
2. ラテン語で書かれたキリスト教の文書についての基礎知識を得る

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

キリスト教の聖書や聖歌の歌詞を理解しようとする	キリスト教の聖書や聖歌の歌詞を概ね理解できる	キリスト教の聖書や聖歌の歌詞を的確に理解し、ラテン語の意味を正確に日本語に訳することができる	キリスト教の聖書や聖歌の歌詞やラテン語とキリスト教の関わりを詳細に理解し、ラテン語の意味を文法の分析に基づいて日本語に翻訳することができ、キリスト教の基礎的な知識を確実に持ち、理解している	
キリスト教の聖書や聖歌についての理解力	ラテン語の文字と発音を知ろうとする	ラテン語の文字と発音を理解している	ラテン語の文字と発音を理解し、文法や意味を概ね理解できる	ラテン語の文字と発音をよく理解し、文法や意味を正確に理解し、ラテン語で書かれた文書を解釈することができる
言語力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 キリスト教の歴史とラテン語
- 第 3 回 ラテン語の文字と発音・母音・子音
- 第 4 回 名詞の性・名詞の変化 1, 2,
- 第 5 回 名詞の変化 3, 4, 5
- 第 6 回 形容詞の変化 1, 2, 3
- 第 7 回 動詞の変化 現在 1, 2, 3
- 第 8 回 アヴェ・マリア、動詞の変化 現在 4, 5
- 第 9 回 レクイエム、不規則動詞 1, 2, 3
- 第 10 回 人称代名詞・指示代名詞 1, 2, 3, 4
- 第 11 回 グローリア・所有形容詞・再帰代名詞
- 第 12 回 前置詞・命令法・完了
- 第 13 回 マグニフィカト・未完了過去・未来
- 第 14 回 旧約聖書の言葉・新約聖書の言葉
- 第 15 回 確認テストとまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業では、キリスト教とラテン語の関わりや歴史および、ラテン語で書かれた聖歌の歌詞、聖書、教会の祈りなどの背景と意味を学ぶ。
- 2 ラテン語の基礎知識をテキストに基づいて学び、テキストの次の単元を宿題として予習 する。

- 3 授業で宿題の確認を行う。
 4 ラテン語に関するレポートを提出する。授業内でレポートの講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業内容の予習と復習を行ってください

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 授業中の取り組み、宿題・確認テスト (50%) とレポート (50%) に基づいて総合的に評価します。宿題と確認テストは授業中に解説します。

2. 総授業回数の2/3以上の出席が必要です

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ラテン語練習プリント』/河島思朗/小学館/2016/ISBN978-4-09-8377503/有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『Biblia Sacra Vulgata』/Robert Weber and Roger Gryson (eds.)/American Bible Society/1990/3438053039

『古典ラテン語辞典』/國原吉之助/大学書林/2005/4475001692

『はじめてのラテン語』/大西英文/講談社/2015/406149353/

『ラテン語初歩 (改訂版)』/田中利光/岩波書店/2013/4000024191

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

クールジャパン論

CSA3550N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜4限

DP5: 共生・協働する力

60

Hernandez H. Alvaro D.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

2000年代に入ると、ポケモンやハローキティなどを代表とする、海外に渡った日本大衆文化・メディア文化は「クール」(カッコいい)と評価され、マーケットを拡大し続けた。日本国内で評価を得ていなかった、または評価されていなかったいわゆる「サブカルチャー」は海外で「クール」と呼ばれた事をきっかけに注目され、国の施策の対象となるなど再評価された。その過程において、日本のコンテンツ産業を海外に発信する枠組みが発展し、「クールジャパン」という文化政策の複合が次第に形成された。こうした政策は海外における日本コンテンツのマーケット拡大を促進すると同時に、大衆文化を通して外国の市民の理解を求

める外交の一種であるパブリックディプロマシー(対市民外交)という側面もある。本講義では海外に渡って行く日本のコンテンツの具体例を見ながら「クール・ジャパン」の形成過程とその仕組みをコンテンツ産業、文化政策と消費文化といった三つの視野から考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・具体的な作品事例を見る事で、東アジア、ヨーロッパと北米における「クールジャパン」の経緯と成り立ちを理解する。

・「クールジャパン」が対象とするコンテンツ産業の仕組みとその国内外市場の基本を理解する。

・外交や国際的な視野を持った文化政策としての「クールジャパン」の仕組みと経緯の基本を理解する。

・海外における日本文化の受容(解釈、使用と変遷)の例を見る事で、コンテンツ産業と文化政策の論理の外から「クールジャパン」を考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 イントロダクション：主流サブカルチャー、『シン・ゴジラ』と『君の名は。』
- 第2回 コンテンツ産業から見たクールジャパン論
- 第3回 成長するメディアミックスと消費社会
- 第4回 『Shirobako』ークリエイティブ・クラス、知的財産とアニメ産業
- 第5回 Netflix化する日本アニメと表現のプラットフォーム化
- 第6回 コラム：バブル崩壊とベストセラー「ポストモダン・日本」
- 第7回 『桃太郎 海の神兵』から読む表現力と文化力
- 第8回 『キャプテン翼』、国際交流と文化政策
- 第9回 『おしん』と『ドラえもん』ー東アジアと文化交流
- 第10回 ジャパニメーションと日本戦後アニメの魅力ー『ルパン三世 カリオストロの城』
- 第11回 『AKIRA』とフランスにおけるジャポニズム
- 第12回 コラム：異文化理解とサブカルチャー
- 第13回 漫画大衆文化から見たサブカルチャーと周縁
- 第14回 「ポーカロイドムーブメント」と参加型文化

第 15 回 クールジャパンを考え直す

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・基本的に、海外に渡ったいくつかの特定の作品に注目しながら、その作品と関わる産業、政策と受容の特徴を分析することで、「クールジャパン」の仕組みを考察する方法を身につける。

・アクティブラーニングを促進するため、ハンドアウトをもとに、授業中にディスカッションを行う。

・レポートや毎回のコメントシートから代表的なコメント、質問や論点を授業中で取り上げることで、課題へのフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・授業で紹介する作品を参考に、必要となる文献を解説し、キー概念について考察する。

・授業で取り扱う海外の事情や、作品などについて知識を広げ、自分の関心がある点について事前に調べる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・毎回の授業に関するアンケート (30%)

・ミニレポート提出〔2回予定〕(40%)

・試験に替わるレポート (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

本講義は三つのユニットがあります。

最初の二つのユニットの最終回 (第6回、第12回) にミニレポートを書いてもらいます。

試験に替わるレポートには三つのユニットの内容を参考にして作成する必要があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『「ジャパニメーション」はなぜ敗れるか』大塚英志、大澤信亮、角川書店、2005年

『文化の対話力—ソフト・パワーとブランドナショナルを超えて』岩渕功一、日本経済新聞出版社、2007年

Soft Power Superpowers: Cultural and National Assets of Japan and the United States. Watanabe, Y., & McConnell, D. L., An East Gate Book. 2008.

The Rhetoric of Soft Power: Public Diplomacy. Hayden, C., Lexington Books, 2012.

『ソフト・パワーのメディア文化政策—国際発信力を求めて』佐藤卓己、渡辺靖、柴内康文、新曜社、2012年

Regionalizing Culture: The Political Economy of Japanese

Popular Culture in Asia. Otmazgin, N. K., Univ of Hawaii Press, 2013

『クール・ジャパンはなぜ嫌われるのか-「熱狂」と「冷笑」を超えて』三原 龍太郎、中央公論新社、2014年

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

グラフィックデザインと冊子制作

CSA2416N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 5限

DP4 : 思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Adobe Illustrator、InDesignを活用した印刷物の制作。グラフィックデザインに関する講義と3つの課題制作を通して、情報を紙媒体に落とし込む「伝える力」と情報がデザインされたものを「見る力」の両方を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

専用アプリケーションを用いた演習と課題を通して、紙の種類や製本方法など印刷媒体の知識と、それらを表現する技術とデザインに関する意識の向上と思考、情報収集能力を身につける。

課題1 : 名刺作成

- ・名刺の分析
- ・情報の整理整頓
- ・文字について
- ・Illustratorの基本操作 (テキストの操作、ガイド、整列など)
- ・プレゼンテーションと合評

課題2 : 見開きページの作成

- ・見開きページの画面構成
- ・InDesignの基本操作 (ドキュメント設定、テキスト入力、ガイド、マスターページ、画像挿入など)
- ・文字組のルール
- ・プレゼンテーションと合評

最終課題 : 小冊子の作成

- ・小冊子の分析
- ・企画、ラフスケッチ
- ・レイアウトフォーマットの作成
- ・取材、素材収集、編集
- ・Photoshopの操作 (外部画像の取り込みと編集)
- ・出力
- ・校正と仕上げ
- ・プレゼンテーションと合評

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 (macOSの操作)	PCの起動、終了など、macOSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのmacOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用や、環境設定の変更、周辺機器 (プリンタ、スキャナなど) を適切に利用することができる	OS、バージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える
知識・理解力 (演習用ソフトの操作)	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、総合的なコンテンツを作成することができる
思考・解決力 (必要な情報の検索・収集・編集)	演習や課題に必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 【オリエンテーション】 授業アウトライン、紙媒体の分類
- 第 2 回 【小課題 1】 名刺／情報の整理整頓、Illustrator基本操作 (整列、ガイド、文字パレット)
- 第 3 回 【小課題 1】 名刺／文字について
- 第 4 回 【小課題 1】 名刺／プレゼンテーションと合評
- 第 5 回 【小課題 2】 見開きページ／ページの基本構造、InDesignの基本操作 (ドキュメント設定、マスターページ)
- 第 6 回 【小課題 2】 見開きページ／文字組のルール、InDesignの基本操作 (テキスト関連ツール、外部ファイル読み込みなど)
- 第 7 回 【小課題 2】 見開きページ／視線をコントロールするレイアウト
- 第 8 回 【小課題 2】 見開きページ／プレゼンテーションと合評
- 第 9 回 【最終課題】 インタビュー冊子／小冊子の分析・企画コンセプトシートの作成
- 第 10 回 【最終課題】 インタビュー冊子／レイアウトフォーマットの設計
- 第 11 回

- 【最終課題】 インタビュー冊子／画像素材の取り扱い (Photoshopの基本操作)
- 第 12 回 【最終課題】 インタビュー冊子／中間チェック
- 第 13 回 【最終課題】 インタビュー冊子／冊子の完成度を高める工夫
- 第 14 回 【最終課題】 インタビュー冊子／校正と製本
- 第 15 回 【最終課題】 インタビュー冊子／プレゼンテーションと合評
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- Illustrator、InDesignの技術習得を目的とした演習と、グラフィックデザインについての講義、課題制作によって進行する。課題 1 では名刺作成を、課題 2 では見開きページの作成を、最終課題では小冊子を制作する。
- 小課題、最終課題は完成作品のプレゼンテーション、および合評を行い、個別質疑・ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- 〔予習・復習〕
- 最終課題「インタビュー冊子」の制作に向けて、インタビュー対象者の検討、関連情報の調査、必要な素材の収集や撮影など準備を進めておくこと。
- 〔課題〕 授業時間内に完成できなかった場合は、授業時間外に制作場所と時間を確保し完成させること。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 8
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- 授業参加度(25%)、課題 1 の完成度(15%)、課題 2 の完成度(20%)、最終課題の完成度(40%)の総合点で評価する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- 人数制限:18名、Adobe Photoshopの演習を行う「マルチメディア演習」も併せて履修する事が望ましい。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 『InDesign/Illustratorで学ぶ レイアウト&ブックデザインの教科書』 / ファー・インク / ボーン デジタル / 2015/8/24/4862462855
- なるほどデザイン <目で見て楽しむ新しいデザインの本。>
- 筒井 美希 / エムディエヌコーポレーション / 2015/7/31/4844365177
- 〔参考URL(URL for Reference) 〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- 複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務経験あり。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

プレゼンテーション概論

CSA2305N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 3限

DP3：言語力

60

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、実社会でのプレゼンテーションの方法論を把握し、実践へ応用するための素地を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. プレゼンテーションの型に関する基礎の習得
2. プレゼンテーションの事前準備に関する基礎の習得
3. 視覚資料作成に関する基礎の習得
4. チームでするプレゼンテーションの基礎の習得
5. 話す基礎技能の習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
プレゼンテーションに実務に関する基礎力	プレゼンテーション実務の基礎を理解していない。	プレゼンテーション実務の基礎を理解している。	プレゼンテーション実務の基礎を理解し、おこなうことができる。	プレゼンテーション実務全般を理解し、基礎的なことが十分にできる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
プレゼンテーションとは
- 第 2 回 目的と聴衆分析
身近な例での演習
- 第 3 回 企業と商品の研究
プレゼンテーションをする商品等に関する調査と報告
- 第 4 回 聴衆分析と型
プレゼンテーションの準備と報告
- 第 5 回 構成
プレゼンテーションの準備と報告
- 第 6 回 事前の準備
事前の準備の方法の把握と報告
- 第 7 回 視覚物
パワーポイント・配布資料と報告
- 第 8 回 視覚物の作成
視覚物の作成と報告
- 第 9 回 プレゼンテーションの準備
準備と報告
- 第 10 回 非言語
望ましい方法の理解と実践練習
- 第 11 回 プレゼンテーションのリハーサル①

プレゼンテーション演習、少人数での実践と相互評価、本番に向けての準備

- 第 12 回 プレゼンテーションのリハーサル②
プレゼンテーション演習、少人数での実践と相互評価、最終調整
- 第 13 回 プレゼンテーション実践①
最終のプレゼンテーション
- 第 14 回 プレゼンテーション実践②
最終のプレゼンテーション
- 第 15 回 プレゼンテーション実践③
最終のプレゼンテーション

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実社会でのプレゼンテーションに関する準備、練習の方法を理解し、理解したことを直ちに実践することを通して、具体的な方法の把握とともにプレゼンテーション実務に関する基礎を習得する。具体的には、基本的に、毎回、講義、演習、振り返り、全体での共有（学習、調査、思考等の言語化）をする。これらを通して、実社会でのプレゼンテーションに関する知識と技能を向上させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の課題を次回までに準備しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート 30%

最終のプレゼンテーション 30%

授業への参加/貢献 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・進行状況等によって、随時、内容・方法を調整していく。
- ・授業全体でプレゼンテーションを作り上げていくため、参加が重要である。
- ・ゲスト講師による授業を行うこともある。
- ・フィールドワークに出る場合がある。その場合、交通費等が必要である。
- ・全体での報告、プレゼンテーションの際に、随時、フィードバックがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ビジネスプレゼンテーション改訂版』/武田秀子編/実教出版/2011/4407322616/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ビジネスプレゼンテーション 改訂版』/武田秀子/実教出版/2011/

『Power Point スライドデザイン』宮野公樹/化学同人/2009/

『プレゼンテーション zen デザイン』/レイノルズ, G/ピアソン桐原/2010/

『ビジネス・プレゼンテーション 101の鉄則』Tim Hindle/ピアソン・エデュケーション/2002

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 社会人に対するセミナー（プレゼンテーション） 講師経験あり。

マルチメディア演習

CSA2415N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP4：思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

ウェブサイトや印刷物など様々な媒体で発信される視覚情報を、自らも制作・表現できる為の技術と知識を習得する。また、制作した課題の合評を行うことにより、情報発信者としての在り方と論理的なデザインの構築能力を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

演習、課題を通してデジタル画像編集ソフト Adobe Photoshopの知識と技術を習得し、Webデザインや印刷物など様々な媒体で活用できる、魅力的かつ効率的な視覚情報の発信力を身につける。

1) Adobe Photoshop基本操作

- ・画面構成
- ・レイヤーの概念

2) 外部画像の取り込みと編集

- ・保存形式
- ・色調補正
- ・トリミング

3) テキスト入力／編集

- ・文字ツール活用

4) デザイン補助機能活用

- ・ベジェ曲線

5) 中間課題：フライヤーデザイン

- ・画像解像度
- ・完成課題作品のプレゼンテーション

※印刷を目的とした画像編集を行うことにより、

web上での使用を目的とした画像編集（最終課題）との違いを明確化し、理解を深める

6) 最終課題：オリジナルWebページの企画、編集、デザイン

- ・オリジナルWebページのデザインデータを作成
- ・完成課題作品のプレゼンテーション

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力 (macOSの操作)	PCの起動、終了など、macOSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのmacOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用や、環境設定の変更、周辺機器（プリンタ、スキャナなど）を適切に利用することができる	OS、バージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える
知識・理解力 (演習用ソフトウェアの操作)	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、総合的なコンテンツを作成することができる
思考・解決力 (情報の検索・収集・編集)	演習や課題に必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、Adobe Photoshop基本操作（画面構成、レイヤーの概念）
- 第 2 回 外部画像の取り込みと編集 1（保存形式の理解を含む）
- 第 3 回 外部画像の取り込みと編集 2（色調補正、トリミング他）
- 第 4 回 外部画像の取り込みと編集 3（画像加工、編集）
- 第 5 回 テキストの入力と編集（文字ツール、文字パネル、文字編集）
- 第 6 回 デザイン補助機能の活用（ベジェ曲線の解説や、ペンツール、アンカーポイントの追加と削除など）
- 第 7 回 印刷を目的とした画像編集（画像解像度、書き出し）
- 第 8 回 中間課題制作：フライヤーデザイン（課題説明、制作）
- 第 9 回 中間課題制作：フライヤーデザイン（制作、個別サポート）
- 第 10 回 中間課題合評（完成課題作品をプレゼンテーション）
- 第 11 回 最終課題制作：オリジナルWebページの企画・デザイン（課題説明、制作）
- 第 12 回 最終課題制作：オリジナルWebページの企画、編集、デザイン（制作）
- 第 13 回

最終課題制作：オリジナルWebページの企画、編集、デザイン（制作、個別サポート）

第14回 最終課題制作：オリジナルWebページの企画、編集、デザイン（制作、個別サポート、合評準備）

第15回 最終課題合評（完成課題作品をプレゼンテーション）、講評、個別サポート

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

毎回の授業の前半60分ではAdobe Photoshopの機能を実習形式で紹介、後半30分ではその機能を活用した演習課題制作を行う。

また、中間課題ではフライヤーデザインを、最終課題ではウェブページデザインを制作することにより、印刷物とインターネットという2種類のメディアの差異を理解し、それぞれに対応した画像編集技術を身につける。

中間、最終課題は完成作品のプレゼンテーション、および合評を行い、個別質疑・ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

〔課題〕

授業毎の課題、中間課題、最終課題制作が授業時間内に完了しなかった場合は、各自で取り組むこと。

〔その他〕

日常生活で目にするデザイン物（チラシ、車内吊り広告、Webページ等）を意識して見てどこが参考になるか、逆にどこを修正すべきか、などを考えておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（15%）、授業毎の課題提出（15%）、中間課題の完成度（30%）、最終課題の完成度（40%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

人数制限：18名、Adobe Illustrator、InDesignの技術を習得する「グラフィックデザインと冊子制作」科目も併せて履修する事が望ましい

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Photoshop しっかり入門 増補改訂版【CC完全対応】[Mac & Windows 対応]/まきの ゆみ /SBクリエイティブ/2018/5/22/4797397241

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務経験あり。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

ヨーロッパ文化論

CSA3252N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次 4年次

2単位 後期

火曜 4限

DP2：知識・理解力

60

白幡 俊輔

〔科目の教育目標（Course Description）〕

ヨーロッパ特有の風景として、田園地帯の中に島のように浮き上がる都市がある。都市内外の境界がはっきりとせず、市街地が連続的に広がる日本と違い、ヨーロッパは古代より、都市とそれ以外の世界がはっきりと分断された地域だった。都市では農村部と異なる特有の生活が生まれ、都市を運営するための政治活動も盛んになった。さらにそこから芸術や思想といった、都市独自の文化が育まれたのである。

本講義では、都市に根差したヨーロッパ文化を、古代ギリシャ・ローマ時代から歴史に沿って紹介していく。都市の誕生から、建築物や街路・都市計画、ヨーロッパ人が理想とした都市イメージ、そして様々な文化活動まで、多角的に紹介する。

とくに都市における芸術・建築・文化活動が盛んになったルネサンス期の都市文化を重点的に扱う。レオナルド・ダ・ヴィンチやポティチェリの絵画芸術、ブルネレスキやアルベルティの建築物、マキアヴェッリの政治思想など、よく知られたルネサンス文化も、「都市」という切り口から分析すると、また新たな側面が見えてくるだろう。

さらに本講義の後半では、ルネサンスに登場した「理想都市」論から近代都市の誕生までを紹介し、そうした変化が社会にもたらした影響も論じる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

・ヨーロッパにおける都市の歴史的成り立ちや、その文化的特徴

・とくにルネサンス文化（建築・芸術・思想）の隆盛と、都市の関係

・古代・中世からルネサンスを経て、どのように都市は「近代化」していったか

・都市が「近代化」した結果、人々の生活や社会構造はどのように変化したか

・ヨーロッパ都市モデルの世界史的影響と、東洋の都市（とくに日本）との差異

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業を静かに聞く	配布されたプリントに授業内容についてメモをとる	授業・プリントの内容を自分なりにノートにまとめる	自ら疑問点を発見し、教員への質問や自習等で解決する

知識・理解力	授業を聞き、内容を理解する	授業内容と、自分の経験・知識を関連付けられる	レベル2に加え、そこから自分の知識の欠落部分に気づく	レベル3に加え、知識の欠落を補うべく、書籍等で自習できる
言語力	テストに回答する	テストにおいて授業内容を的確に要約できる	レベル2に加え、授業に対する自分の考えを表現できる	授業を要約し、自分の考えを表現するだけでなく、説得的に論じることができる
思考・解決力	テストに備えて復習する	疑問点を教員に質問したり、学習のアドバイスを受ける	新たに興味をもった問題について自学自習する	自学自習の成果をテストに反映させ、説得的に記述する
創造・発信力	授業を聞き、内容を理解しようと努める	授業で生じた疑問点を質問できる	疑問点を積極的に質問し、友人とも話し合ってみる	それまで質問して来た内容を反映したテスト答案を作成する

〔授業計画〕

- 第 1 回 「都市文化」とは何か
- 第 2 回 古代ギリシャ社会とポリス（都市国家）成立
- 第 3 回 全都市のモデルとしての古代ローマ
- 第 4 回 ローマ帝国の「ラテン化」と都市文化の拡散
- 第 5 回 帝国の衰退による地方の分断と、中世都市の成立
- 第 6 回 中世都市社会の政治・経済・暮らし
- 第 7 回 城壁 —都市の内外を分ける境界線の役割
- 第 8 回 都市的宗教としてのキリスト教
- 第 9 回 ルネサンス芸術と都市社会の関係
- 第 10 回 都市の理想像とルネサンスの建築家たち
- 第 11 回 都市共和国の衰退と新しい政治学の登場 —マキアヴェッリと国家理性
- 第 12 回 ルネサンス理想都市から近代計画都市へ
- 第 13 回 大航海時代と拡散する「ヨーロッパ都市」モデル
- 第 14 回 「みやこ」京都とヨーロッパの都市文化比較
- 第 15 回 現代ヨーロッパにおける歴史都市の文化的役割

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は、基本的に講義形式で行う。随時、授業のテーマに沿って関連資料をプリント配布する。また、必要に応じて映画・ドキュメンタリー等の映像も利用する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

特定の教科書は指定しない。その代わりに参考文献にあげた書籍ないし、「都市」や「都市生活」に関連する書籍（時代不問。ヨーロッパ以外の地域でも構わない）を最低一冊目を通し、都市文化や都市の歴史について考えるための知

識を予め用意しておくこと（授業中、あるいは定期試験で各自の読んだ書籍について尋ねる可能性がある）

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は定期試験（90%）、授業参加度（10%）とする。定期試験は小論文形式とし、授業で学んだ内容を的確に要約する能力、および学習で身に着けた知識をもとに、自らの考えを論理的に表現する能力を問う。授業参加度は、授業中ないし授業ごとに配布する質問票による、学生からの質問状況を主な評価基準とする。なお、定期試験では自筆ノート（コピー不可）および授業で配布したプリントのみ持ち込み可とする。

〔留意事項（Other Information）〕

携帯電話/スマートフォン等の使用は禁止する（電源は事前にOFFにすること）。どうしても電源をOFFにできない事情がある場合は、授業前に教員へ申し出ること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

①『古代ギリシアの歴史 ポリスの興隆と衰退』/伊藤貞夫/講談社学術文庫/2004/ 4061596659

②『都市—ローマ人はどのように都市を作ったか』/デビッド・マコーレイ/岩波書店/1980/ 4001105233

③『中世ヨーロッパの都市世界』/河原温/山川出版社/1996/ 4634342308

④『中世の高利貸』/ジャック・ル・ゴッフ/法政大学出版局/1989/ 4588002791

⑤『イタリア都市の諸相』/野口昌夫/刀水書房/2008/ 4887085028

⑥『ルネサンス理想都市』/中嶋和郎/講談社/1996/ 4062580772

⑦『ルッカー八三八年—古代ローマ円形闘技場遺構の再生』/黒田泰介/編集出版組織体アセテート/2006/ 490253911X

⑧『コーヒーハウス 18世紀ロンドン、都市の生活史』/小林章夫/講談社学術文庫/2000/ 4061594516

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

異界・妖怪学

CSA2451N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜2限

DP4：思考・解決力

60

南郷 晃子

【科目の教育目標 (Course Description)】

現代のポップカルチャーに不可欠になった「異界」「妖怪」という概念の背景知識を深め、異界・妖怪学を踏まえた日本文化の理解、考察を行うことができる。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ・生活圏の中にある「異界」をみつけだす。
- ・妖怪を題材にしたポップカルチャーを文化的背景とともに論じる。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

- 第 1 回 「妖怪」とはなにか
なにげなくつかっている「妖怪」という言葉について考えを深めます。
- 第 2 回 江戸時代の「妖怪」
現在の「妖怪」イメージの根幹となる江戸時代の「妖怪」について考えます。
- 第 3 回 コミュニティと「妖怪」
社会共同体と「妖怪」概念の形成・変容との関連について考えます。
- 第 4 回 社会変動と「妖怪」—怨霊信仰から
「怨霊」を中心に社会変動が「妖怪」といかに関わるのかをみていきます。
- 第 5 回 社会構造の変容と「妖怪」—女の「祟り」から
女の「幽霊」と社会の構造の変容との相関関係について考えます。
- 第 6 回 空間と伝承
空間構造が異界・妖怪伝承にいかに関連するのかを考えます。
- 第 7 回 暮らしと「異界」
暮らしの中に息づく「異界」概念と、その背景について考えます。
- 第 8 回 地獄の諸相
日本における地獄観念についての知識を深め、人々が死後の世界をどのように考えてきたのかを考えます。
- 第 9 回 「異界」としての異国・外国
異国・外国を、近世期以前の日本社会がどのように見ていたのかを資料とともに考えます。

第 10 回 漫画・アニメと「異界」「妖怪」—キャラクターから
漫画・アニメにおける「異界」「妖怪」について、「キャラクター」に焦点を当てて考えます。

第 11 回 漫画・アニメと「異界」「妖怪」—物語構造から
漫画・アニメのなかの「異界」「妖怪」の物語構造の背景と、新たに生み出される物語構造について考えます。

第 12 回 京の「異界」を探そう—エクスカッション①
学外授業として、京都における「異界」を探しに行くエクスカッションを行います。通常の授業時間を振り替えて、日曜日に行います。

第 13 回 京の「妖怪」を探そう—エクスカッション②
学外授業として、京都における「妖怪」を探しに行くエクスカッションを行います。通常の授業時間を振り替えて、日曜日に行います。

第 14 回 グループ発表—エクスカッションを踏まえて
これまでの授業内容を踏まえた上でエクスカッションの成果をグループ発表をしてもらいます。

第 15 回 まとめと展望
「異界」・「妖怪」学の総括を行うとともに、これからの展望について考えます。

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】
実施する。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】
古典を多く取り扱うため、古文の知識を復習しておいてください。

またエクスカッションを踏まえたグループ発表を行ってもらうため、その準備もお願いします。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】
事前にmanabaに資料を掲載する場合は、その資料を読んでおくこと。

グループ発表については、グループでの議論を行っておくこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】
10
【評価方法・評価基準 (Evaluation)】
評価は、グループ発表の評価を含む平常点70%、レポート30%とする。

【留意事項 (Other Information)】
予定されている学外授業二回における施設等の入館料、入場料ならびに交通費は各自実費負担とします。また学外授業は、日曜日に振り替える形で行います。

受講者の人数によっては、エクスカッション、およびグループ発表については、日程や回数などを変更する可能性があります。またそれに伴い授業計画を一部変更する場合があります。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『怪異学入門』/東アジア怪異学会/岩田書院/2012/9784872947342 C1021

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

音楽表現学

CSA2257N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜1限

DP2: 知識・理解力

60

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では歌詞(言葉)と音楽の関わりに重点を置き、日本、フランス、ドイツ歌曲の中からいくつかを選び考察する。それぞれの楽曲に込められた思い(感情)を理解し、感じ取ってほしい。なお楽譜や歌詞はプリントで配布する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 言葉と旋律 2. 音楽と感性 3. 歌詞とそのこころ
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 詩と音楽について概説
 第2回 山田耕筰「この道」
 第3回 山田耕筰「からたちの花」①導入
 第4回 山田耕筰「からたちの花」②展開
 第5回 信時潔「丹沢」
 第6回 モーツァルト「すみれ」①導入
 第7回 モーツァルト「すみれ」②展開
 第8回 モーツァルト「寂しい森で」
 第9回 シューベルト「冬の旅」より①「菩提樹」導入
 第10回 シューベルト「冬の旅」より②「菩提樹」展開
 第11回 シューベルト「冬の旅」より③「あふるる涙」導入

第12回 シューベルト「冬の旅」より④「あふるる涙」展開

第13回 フォーレ「リディア」

第14回 フォーレ「夢のあとで」

第15回 フォーレ「月の光」

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法・・・①CD等で楽曲の演奏を聴く。②歌詞の意味を調べる。③歌詞と旋律がいかに対応しているかを考える。

2. 学習方法・・・①音楽の時代様式を理解する。②国よりの相違点を調べる。③理解したことを言葉にして発表する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

外国語の歌詞の場合はあらかじめ意味を調べておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(30点)、レポート(70点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合(6回欠席)は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『賛美、それは沈黙のあふれ』/新垣壬敏/教文館/2001年/4.764271958E9

『フォーレとその歌曲』/河本喜介/音楽之友社/1990年/

『フランス歌曲とドイツ歌曲』/エヴラン・ルテール/白水社//4.560053367E9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

音楽文化概論

CSA1212N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜1限

DP2: 知識・理解力

90

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

音楽は時代の風潮や思想から大きな影響を受けている。それぞれの音楽がどのような特徴を持ち変遷していったのか、

大作曲家の生涯や作品、思想をたどりながら考えていききたいと思う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 西洋の歴史・文化に興味を持ち、理解に努める。
- 2) 音楽を静かに鑑賞し、味わう。
- 3) 学んだことや感じとったことを適切に文章化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 はじめるにあたって
- 第 2 回 J.S.バッハ①初期・中期の作品
- 第 3 回 J.S.バッハ②後期の作品
- 第 4 回 ヘンデル
- 第 5 回 モーツァルト①初期・中期の作品
- 第 6 回 モーツァルト②後期の作品
- 第 7 回 ベートーヴェン①初期の作品
- 第 8 回 ベートーヴェン②中期の作品
- 第 9 回 ベートーヴェン③後期の作品
- 第 10 回 ブルックナー
- 第 11 回 ショパン
- 第 12 回 ワーグナー
- 第 13 回 ドビュッシー
- 第 14 回 ラヴェル
- 第 15 回 メシアン

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業実施方法 講義。レポートを課すことがある。
2. 学習の方法 音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。
3. 使用教材 テキスト、プリント、CD,DVD等。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習箇所を指定するので予め読んでおいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、レポート (70点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合 (6回欠席) は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『学生のための音楽史と鑑賞』//教育芸術社/2011年/978-4-905700-39-5 C7073/学内販売予定

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新西洋音楽史 上中下』/グラウト/パリスカ/音楽之友社/1998年/4-276-11212-5 C1073

『詳説総合音楽史年表』/皆川達夫/倉田喜弘監修/教育芸術社/2003年/4-87788-212-X C3073

適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

漢文学入門

CSA2220N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

木曜 1限

DP2 : 知識・理解力

60

定員50人

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

明治時代まで日本人によく読まれていた漢文を中心に講読し、漢文の歴史的、文学的背景を細かく解説しながら授業を進めていく。日本の言語、文学、思想などは、中国から影響を受けつつ独自の発展を遂げてきたが、古代中国人と日本人が共通に享受していた漢文の古典作品を現代人の視点より再読することによって、特に言語と文学の面において日本文化と中国文化の関係について考えたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中国古典を読むことによって、現在使われている熟語の意味を出典にさかのぼり、さらに深く理解する。
2. 漢文訓読の基礎を身につける。
3. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
漢文への理解度	テキストの内容が全く理解出来ない。	テキストの内容が少し理解出来る。	テキストの内容がある程度理解出来る。	テキストの内容がほぼ理解出来る。

訓読み方の マスター	訓読み方は 全く理解出 来ていな い。	訓読み方は 少し理解出 来ている。	訓読み方は ある程度理 解出来てい る。	訓読み方は ほぼ理解出 来てる。
日本語にお ける漢文の 意味	日本語にお ける漢文の 重要性は全 く理解出来 ていない。	日本語にお ける漢文の 重要性は少 し理解し出 来ている。	日本語にお ける漢文の 重要性はあ る程度理解 できてい る。	日本語にお ける漢文の 重要性はほ ぼ理解でき ている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 割鶏焉用牛刀 『論語』 陽貨篇
- 第 2 回 五十歩百歩 『孟子』 梁恵王上
- 第 3 回 渾沌 『莊子』 庖丁解牛編
- 第 4 回 轍鮒之急 『莊子』 外物篇
- 第 5 回 朝三暮四 『列子』 黄帝篇
- 第 6 回 塞翁馬 『淮南子』 人間訓
- 第 7 回 漁夫之利 『戦国策』 燕策
- 第 8 回 牛山之木 『孟子』 告子篇上
- 第 9 回 顧而言他 『孟子』 梁恵王下
- 第 10 回 守株 『韓非子』 五蠹
- 第 11 回 愛憎之變 『韓非子』 説難
- 第 12 回 狐假虎威 『戦国策』 楚策
- 第 13 回 蛇足 『戦国策』 齊策
- 第 14 回 先従隗始 『戦国策』 燕策
- 第 15 回 テスト及びテスト問題の解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1. 時代背景、人物背景などを通して、漢文の内容を丁寧に説明する。
- 2. 漢文の読み下しを朗読する。
- 3. 最終回において、テスト問題の解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1. 課ごとに予習と復習する。
- 2. 漢和辞典の使い方、漢字の表外訓などの知識を身につける。
- 3. 漢文の基本的な語法、返り点の付け方を練習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (15%)、形成テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業ごとに資料を配布する予定。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中国古典を読むために』/頼惟勤/大修館書店//

『漢文【まとめと要点】』/森野繁夫、佐藤利行/白帝社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I P

CSB1600PJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

木曜2限

DP6: 創造・発信力

60

必修 クラス指定

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1. 大学で何をどう学ぶかについて考える
- 2. 国際日本文化学科でどんなことが学べるかを理解する
- 3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する
- 4. 学生どうし、また学生・教員間の人間関係を築く
- 5. 関心領域の本を計画的に読む

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文章読解力	文献の内容が理解できない。	文献の内容をおおいた理解できない。	批判的視点で文献を読むことができる。	文献の内容について討論できる。
情報探索力	文献探索ができない。	簡単な探索方法を身につけている。	複数の探索方法を身につけ、使い分けることができる。	適切な探索方法を使って、必要な情報を的確に見つけることができる。
基礎学力向上に取り組む力	授業以外の時間に学習しない。	宿題を必ずする。	適切な方法を選んで、自分の得手不得手を認識して、主	検定試験などを活用して、苦手な分野を降伏し、得意な

			体的に学 ぶ。	分野を向上 させる。
--	--	--	------------	---------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 一斉授業と個別クラス
オリエンテーション、学内ツアー
- 第 2 回 一斉授業
キャリアチャレンジプログラムの説明など
- 第 3 回 一斉授業と個別クラス
授業の受け方、ノートのとり方など
- 第 4 回 一斉授業（予定）
図書館活用・文献探索指導と演習（実施回は変更の可能性はある）
- 第 5 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(1) 内容把握など
- 第 6 回 個別クラス
個別面談（実施回は変更の可能性はある）
- 第 7 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(2) 要約の方法など
- 第 8 回 一斉授業（予定）
日本語検定に向けての模擬試験（予定）
- 第 9 回 一斉授業と個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 10 回 個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 11 回 一斉授業（予定）
招待講演 I（実施回は変更の可能性はある）
- 第 12 回 個別クラス
レポートの書き方
文献読解
- 第 13 回 個別クラス
レポートの書き方
- 第 14 回 個別クラス
レポート完成版提出
- 第 15 回 個別クラス
レポートの書き方(4) レポート返却、振り返り学習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- カリキュラム、勉強法、情報検索法等について学ぶ
- 日本語の学習や読解の訓練を行う
- 座学だけでなく、調査発表等の方法も取り入れる
- 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
- ノートのとり方やレポートの書き方について学ぶ
・manabaで提出されたレポートに対してコメントを本人に公開することでフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- テキストなど指示された資料をあらかじめ読んでおくこと
- 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果（70%）、学期末提出レポート（30%）によって評価する。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

〔留意事項（Other Information）〕

必要に応じてフィールドワークに出かけるため、交通費等の実費がかかることもある。

上記内容とあわせ、適宜日本語検定に関する指導も行う予定である。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

適宜配布するとともに、manabaなどで閲覧できるようにする。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I Q

CSB1600Q0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

木曜2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

石川 裕之

〔科目の教育目標（Course Description）〕

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 大学で何をどう学ぶかについて考える
- 国際日本文化学科でどんなことが学べるかを理解する
- 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する

4. 学生どうし、また学生・教員間の人間関係を築く

5. 関心領域の本を計画的に読む

〔授業計画〕

- 第 1 回 一斉授業と個別クラス
オリエンテーション、学内ツアー
- 第 2 回 一斉授業
キャリアチャレンジプログラムの説明など
- 第 3 回 一斉授業と個別クラス
授業の受け方、ノートのとり方など
- 第 4 回 一斉授業（予定）
図書館活用・文献探索指導と演習（実施回は変更の可能性はある）
- 第 5 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(1) 内容把握など
- 第 6 回 個別クラス
個別面談（実施回は変更の可能性はある）
- 第 7 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(2) 要約の方法など
- 第 8 回 一斉授業（予定）
日本語検定に向けての模擬試験（予定）
- 第 9 回 一斉授業と個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 10 回 個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 11 回 一斉授業（予定）
招待講演 I（実施回は変更の可能性はある）
- 第 12 回 個別クラス
レポートの書き方
文献読解
- 第 13 回 個別クラス
レポートの書き方
- 第 14 回 個別クラス
レポート完成版提出
- 第 15 回 個別クラス
レポートの書き方(4) レポート返却、振り返り学習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1. カリキュラム、勉強法、情報検索法等について学ぶ
- 2. 日本語の学習や読解の訓練を行う
- 3. 座学だけでなく、調査発表等の方法も取り入れる
- 4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
- 5. ノートのとり方やレポートの書き方について学ぶ
・manabaで提出されたレポートに対してコメントを本人に公開することでフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. テキストなど指示された資料をあらかじめ読んでおくこと
- 2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果（70%）、学期末提出レポート（30%）によって評価する。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

〔留意事項（Other Information）〕

必要に応じてフィールドワークに出かけるため、交通費等の実費がかかることもある。

上記内容とあわせ、適宜日本語検定に関する指導も行う予定である。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

適宜配布するとともに、manabaなどで閲覧できるようにする。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I R

CSB1600R0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

木曜2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

鎌田 均

〔科目の教育目標（Course Description）〕

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1. 大学で何をどう学ぶかについて考える
- 2. 国際日本文化学科でどんなことが学べるかを理解する
- 3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する

4. 学生どうし、また学生・教員間の人間関係を築く

5. 関心領域の本を計画的に読む

〔授業計画〕

- 第 1 回 一斉授業と個別クラス
オリエンテーション、学内ツアー
- 第 2 回 一斉授業
キャリアチャレンジプログラムの説明など
- 第 3 回 一斉授業と個別クラス
授業の受け方、ノートのとり方など
- 第 4 回 一斉授業（予定）
図書館活用・文献探索指導と演習（実施回は変更の可能性はある）
- 第 5 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(1) 内容把握など
- 第 6 回 個別クラス
個別面談（実施回は変更の可能性はある）
- 第 7 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(2) 要約の方法など
- 第 8 回 一斉授業（予定）
日本語検定に向けての模擬試験（予定）
- 第 9 回 一斉授業と個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 10 回 個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 11 回 一斉授業（予定）
招待講演 I（実施回は変更の可能性はある）
- 第 12 回 個別クラス
レポートの書き方
文献読解
- 第 13 回 個別クラス
レポートの書き方
- 第 14 回 個別クラス
レポート完成版提出
- 第 15 回 個別クラス
レポートの書き方(4) レポート返却、振り返り学習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1. カリキュラム、勉強法、情報検索法等について学ぶ
- 2. 日本語の学習や読解の訓練を行う
- 3. 座学だけでなく、調査発表等の方法も取り入れる
- 4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
- 5. ノートのとり方やレポートの書き方について学ぶ
・manabaで提出されたレポートに対してコメントを本人に公開することでフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. テキストなど指示された資料をあらかじめ読んでおくこと
- 2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果（70%）、学期末提出レポート（30%）によって評価する。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

〔留意事項（Other Information）〕

必要に応じてフィールドワークに出かけるため、交通費等の実費がかかることもある。

上記内容とあわせ、適宜日本語検定に関する指導も行う予定である。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

適宜配布するとともに、manabaなどで閲覧できるようにする。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I S

CSB1600S0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

木曜2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

堀 勝博

〔科目の教育目標（Course Description）〕

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1. 大学で何をどう学ぶかについて考える
- 2. 国際日本文化学科でどんなことが学べるかを理解する
- 3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する

4. 学生どうし、また学生・教員間の人間関係を築く
5. 関心領域の本を計画的に読む

〔授業計画〕

- 第 1 回 一斉授業と個別クラス
オリエンテーション、学内ツアー
- 第 2 回 一斉授業
キャリアチャレンジプログラムの説明など
- 第 3 回 一斉授業と個別クラス
授業の受け方、ノートのとり方など
- 第 4 回 一斉授業（予定）
図書館活用・文献探索指導と演習（実施回は変更の可能性はある）
- 第 5 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(1) 内容把握など
- 第 6 回 個別クラス
個別面談（実施回は変更の可能性はある）
- 第 7 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(2) 要約の方法など
- 第 8 回 一斉授業（予定）
日本語検定に向けての模擬試験（予定）
- 第 9 回 一斉授業と個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 10 回 個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 11 回 一斉授業（予定）
招待講演 I（実施回は変更の可能性はある）
- 第 12 回 個別クラス
レポートの書き方
文献読解
- 第 13 回 個別クラス
レポートの書き方
- 第 14 回 個別クラス
レポート完成版提出
- 第 15 回 個別クラス
レポートの書き方(4) レポート返却、振り返り学習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. カリキュラム、勉強法、情報検索法等について学ぶ
2. 日本語の学習や読解の訓練を行う
3. 座学だけでなく、調査発表等の方法も取り入れる
4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
5. ノートのとり方やレポートの書き方について学ぶ
・manabaで提出されたレポートに対してコメントを本人に公開することでフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. テキストなど指示された資料をあらかじめ読んでおくこと
2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果（70%）、学期末提出レポート（30%）によって評価する。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

〔留意事項（Other Information）〕

必要に応じてフィールドワークに出かけるため、交通費等の実費がかかることもある。

上記内容とあわせ、適宜日本語検定に関する指導も行う予定である。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

適宜配布するとともに、manabaなどで閲覧できるようにする。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I T

CSB1600T0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

木曜2限

DP6：創造・発信力

90

岩崎 れい

〔科目の教育目標（Course Description）〕

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 大学で何をどう学ぶかについて考える
2. 国際日本文化学科でどんなことが学べるかを理解する
3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する

4. 学生どうし、また学生・教員間の人間関係を築く

5. 関心領域の本を計画的に読む

〔授業計画〕

- 第 1 回 一斉授業と個別クラス
オリエンテーション、学内ツアー
- 第 2 回 一斉授業
キャリアチャレンジプログラムの説明など
- 第 3 回 一斉授業と個別クラス
授業の受け方、ノートのとり方など
- 第 4 回 一斉授業（予定）
図書館活用・文献探索指導と演習（実施回は変更の可能性はある）
- 第 5 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(1) 内容把握など
- 第 6 回 個別クラス
個別面談（実施回は変更の可能性はある）
- 第 7 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(2) 要約の方法など
- 第 8 回 一斉授業（予定）
日本語検定に向けての模擬試験（予定）
- 第 9 回 一斉授業と個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 10 回 個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 11 回 一斉授業（予定）
招待講演 I（実施回は変更の可能性はある）
- 第 12 回 個別クラス
レポートの書き方
文献読解
- 第 13 回 個別クラス
レポートの書き方
- 第 14 回 個別クラス
レポート完成版提出
- 第 15 回 個別クラス
レポートの書き方(4) レポート返却、振り返り学習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1. カリキュラム、勉強法、情報検索法等について学ぶ
- 2. 日本語の学習や読解の訓練を行う
- 3. 座学だけでなく、調査発表等の方法も取り入れる
- 4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
- 5. ノートのとり方やレポートの書き方について学ぶ
・manabaで提出されたレポートに対してコメントを本人に公開することでフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. テキストなど指示された資料をあらかじめ読んでおくこと
- 2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果（70%）、学期末提出レポート（30%）によって評価する。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

〔留意事項（Other Information）〕

必要に応じてフィールドワークに出かけるため、交通費等の実費がかかることもある。

上記内容とあわせ、適宜日本語検定に関する指導も行う予定である。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

適宜配布するとともに、manabaなどで閲覧できるようにする。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I W

CSB1600W0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

水曜3限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

久野 将健

〔科目の教育目標（Course Description）〕

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1. 大学で何をどう学ぶかについて考える
- 2. 国際日本文化学科でどんなことが学べるかを理解する
- 3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する

4. 学生どうし、また学生・教員間の人間関係を築く

5. 関心領域の本を計画的に読む

〔授業計画〕

- 第 1 回 一斉授業と個別クラス
オリエンテーション、学内ツアー
- 第 2 回 一斉授業
キャリアチャレンジプログラムの説明など
- 第 3 回 一斉授業と個別クラス
授業の受け方、ノートのとり方など
- 第 4 回 一斉授業（予定）
図書館活用・文献探索指導と演習（実施回は変更の可能性はある）
- 第 5 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(1) 内容把握など
- 第 6 回 個別クラス
個別面談（実施回は変更の可能性はある）
- 第 7 回 一斉授業と個別クラス
文献読解(2) 要約の方法など
- 第 8 回 一斉授業（予定）
日本語検定に向けての模擬試験（予定）
- 第 9 回 一斉授業と個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 10 回 個別クラス
レポートの書き方、文献読解
- 第 11 回 一斉授業（予定）
招待講演Ⅰ（実施回は変更の可能性はある）
- 第 12 回 個別クラス
レポートの書き方
文献読解
- 第 13 回 個別クラス
レポートの書き方
- 第 14 回 個別クラス
レポート完成版提出
- 第 15 回 個別クラス
レポートの書き方(4) レポート返却、振り返り学習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1. カリキュラム、勉強法、情報検索法等について学ぶ
- 2. 日本語の学習や読解の訓練を行う
- 3. 座学だけでなく、調査発表等の方法も取り入れる
- 4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
- 5. ノートのとり方やレポートの書き方について学ぶ
・manabaで提出されたレポートに対してコメントを本人に公開することでフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. テキストなど指示された資料をあらかじめ読んでおくこと
- 2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果（70%）、学期末提出レポート（30%）によって評価する。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

〔留意事項（Other Information）〕

必要に応じてフィールドワークに出かけるため、交通費等の実費がかかることもある。

上記内容とあわせ、適宜日本語検定に関する指導も行う予定である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜配布するとともに、manabaなどで閲覧できるようにする。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習ⅡP

CSB1650PJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 後期

木曜2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

中里 郁子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1. 国際日本文化学科で何をどう学ぶかについて考える
- 2. 学生同士、また学生・教員間の人間関係を築く
- 3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する

4. 関心領域の本を計画的に読む
 5. 各クラスで協働してプレゼンテーションの準備をする
 [ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文献読解力	文献の内容が理解できない。	文献の内容が一通り理解できる。	批判的思考を伴って文献を読むことができる。	文献の内容について討論できる。
情報探索力	必要な情報を見つけることができない。	簡単な探索方法を身につけている。	複数の探索方法を身につけ、使い分けることができる。	適切な探索方法を使って、必要な情報を的確に見つけることができる。
プレゼンテーションの力	プレゼンテーションの方法がわからない。	基本的なプレゼンテーションができる。	適切な方法を選んで、プレゼンテーションができる。	レベルの高いプレゼンテーションができる。
基礎学力向上に取り組む力	授業以外の時間に学習をしない。	宿題を必ずする。	自分の得意不得意を認識して、主体的に学ぶ。	検定試験などを活用して、苦手な分野を克服し、得意な分野を向上させる。

[授業計画]

- 第 1 回 基礎演習ガイダンス、個別面談、履修登録に関する指導、学習方法の指導、キャリアチャレンジプログラムの確認
 第 2 回 文献読解 (1) 内容の全体把握
 第 3 回 文献読解 (2) 論述の構成と分析
 第 4 回 文献読解 (3) 要約の演習
 第 5 回 文献読解 (4) 言い換え、書き換えの演習
 第 6 回 プレゼンテーションの準備：テーマを決める
 第 7 回 プレゼンテーションの準備：調べる
 第 8 回 招待講演 (一斉授業)
 第 9 回 来年度の演習に向けて：分属説明会
 第 10 回 プレゼンテーションの準備：スライド作成
 第 11 回 発表
 第 12 回 発表に関する議論、フィードバック
 第 13 回 レポートの書き方復習
 第 14 回 レポートの確認、添削
 第 15 回 まとめ

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. カリキュラム、勉強法、情報検索法、進路、現代諸事情等について学ぶ

2. 読解の訓練を行う
 3. 座学だけでなく、調査発表やフィールドワークといった方法も取り入れる
 4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
 5. ノートのとり方やレポートの書き方、プレゼンテーションの方法について学ぶ
 6. 授業内でレポートの添削および講評、発表についての講評を行う

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. 指示された文献をあらかじめ読んでおくこと
 2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果 (70%)、学期末提出レポート (30%) によって評価する。ただし、欠席 5 回以上で、単位取得は困難となる。

[留意事項 (Other Information)]

必要に応じてフィールドワークに出かけたりするため、交通費等の実費がかかることもある。

授業の順序は変更することがある。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

オリエンテーション時に指示する。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

基礎演習 II Q

CSB1650Q0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 後期

木曜 2限

DP6: 創造・発信力

60

必修 クラス指定

吉田 朋子

[科目の教育目標 (Course Description)]

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、

学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 国際日本文化学科で何をどう学ぶかについて考える
2. 学生同士、また学生・教員間の人間関係を築く
3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する
4. 関心領域の本を計画的に読む
5. 各クラスで協働してプレゼンテーションの準備をする

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文献読解力	文献の内容が理解できない。	文献の内容が一通り理解できる。	批判的思考を伴って文献を読むことができる。	文献の内容について討論できる。
情報探索力	必要な情報を見つけることができない。	簡単な探索方法を身につけている。	複数の探索方法を身につけ、使い分けることができる。	適切な探索方法を使って、必要な情報を的確に見つけることができる。
プレゼンテーションの力	プレゼンテーションの方法がわからない。	基本的なプレゼンテーションができる。	適切な方法を選んで、プレゼンテーションができる。	レベルの高いプレゼンテーションができる。
基礎学力向上に取り組む力	授業以外の時間に学習をしない。	宿題を必ずする。	自分の得意不得意を認識して、主体的に学ぶ。	検定試験などを活用して、苦手な分野を克服し、得意な分野を向上する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 基礎演習ガイダンス、個別面談、履修登録に関する指導、学習方法の指導、キャリアチャレンジプログラムの確認
- 第 2 回 文献読解 (1) 内容の全体把握
- 第 3 回 文献読解 (2) 論述の構成と分析
- 第 4 回 文献読解 (3) 要約の演習
- 第 5 回 文献読解 (4) 言い換え、書き換えの演習
- 第 6 回 プレゼンテーションの準備：テーマを決める
- 第 7 回 プレゼンテーションの準備：調べる
- 第 8 回 招待講演 (一斉授業)
- 第 9 回 来年度の演習に向けて：分属説明会
- 第 10 回 プレゼンテーションの準備：スライド作成
- 第 11 回 発表

第 12 回 発表に関する議論、フィードバック

第 13 回 レポートの書き方復習

第 14 回 レポートの確認、添削

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. カリキュラム、勉強法、情報検索法、進路、現代諸事情等について学ぶ
2. 読解の訓練を行う
3. 座学だけでなく、調査発表やフィールドワークといった方法も取り入れる
4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
5. ノートのとり方やレポートの書き方、プレゼンテーションの方法について学ぶ
6. 授業内でレポートの添削および講評、発表についての講評を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 指示された文献をあらかじめ読んでおくこと
2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果 (70%)、学期末提出レポート (30%) によって評価する。ただし、欠席 5 回以上で、単位取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

必要に応じてフィールドワークに出かけたりするため、交通費等の実費がかかることもある。

授業の順序は変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

オリエンテーション時に指示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 II R

CSB1650R0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 後期

木曜 2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 国際日本文化学科で何をどう学ぶかについて考える
2. 学生同士、また学生・教員間の人間関係を築く
3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する
4. 関心領域の本を計画的に読む
5. 各クラスで協働してプレゼンテーションの準備をする

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文献読解力	文献の内容が理解できない。	文献の内容が一通り理解できる。	批判的思考を伴って文献を読むことができる。	文献の内容について討論できる。
情報探索力	必要な情報を見つけることができない。	簡単な探索方法を身につけている。	複数の探索方法を身につけて、使い分けることができる。	適切な探索方法を使って、必要な情報を的確に見つけることができる。
プレゼンテーションの力	プレゼンテーションの方法がわからない。	基本的なプレゼンテーションができる。	適切な方法を選んで、プレゼンテーションができる。	レベルの高いプレゼンテーションができる。

基礎学力向上に取り組む力	授業以外の時間に学習をしない。	宿題を必ずする。	自分の得意不得意を認識して、主体的に学ぶ。	検定試験などを活用して、苦手な分野を克服し、得意な分野を向上する。
--------------	-----------------	----------	-----------------------	-----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 基礎演習ガイダンス、個別面談、履修登録に関する指導、学習方法の指導、キャリアチャレンジプログラムの確認
- 第 2 回 文献読解 (1) 内容の全体把握
- 第 3 回 文献読解 (2) 論述の構成と分析
- 第 4 回 文献読解 (3) 要約の演習
- 第 5 回 文献読解 (4) 言い換え、書き換えの演習
- 第 6 回 プレゼンテーションの準備：テーマを決める
- 第 7 回 プレゼンテーションの準備：調べる
- 第 8 回 招待講演 (一斉授業)
- 第 9 回 来年度の演習に向けて：分属説明会
- 第 10 回 プレゼンテーションの準備：スライド作成
- 第 11 回 発表
- 第 12 回 発表に関する議論、フィードバック
- 第 13 回 レポートの書き方復習
- 第 14 回 レポートの確認、添削
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. カリキュラム、勉強法、情報検索法、進路、現代諸事情等について学ぶ
2. 読解の訓練を行う
3. 座学だけでなく、調査発表やフィールドワークといった方法も取り入れる
4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
5. ノートのとり方やレポートの書き方、プレゼンテーションの方法について学ぶ
6. 授業内でレポートの添削および講評、発表についての講評を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 指示された文献をあらかじめ読んでおくこと
2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果 (70%)、学期末提出レポート (30%) によって評価する。ただし、欠席 5 回以上で、単位取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

必要に応じてフィールドワークに出かけたりするため、交通費等の実費がかかることもある。

授業の順序は変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

オリエンテーション時に指示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 II S

CSB1650S0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 後期

木曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

必修 クラス指定

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 国際日本文化学科で何をどう学ぶかについて考える
 2. 学生同士、また学生・教員間の人間関係を築く
 3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する
 4. 関心領域の本を計画的に読む
 5. 各クラスで協働してプレゼンテーションの準備をする
- 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文献読解力	文献の内容が理解できない。	文献の内容が一通り理解できる。	批判的思考を伴って文献を読むことができる。	文献の内容について討論できる。

情報探索力	必要な情報を見つけることができない。	簡単な探索方法を身につけている。	複数の探索方法を身につけ、使い分けることができる。	適切な探索方法を使って、必要な情報を的確に見つけることができる。
プレゼンテーションの力	プレゼンテーションの方法がわからない。	基本的なプレゼンテーションができる。	適切な方法を選んで、プレゼンテーションができる。	レベルの高いプレゼンテーションができる。
基礎学力向上に取り組む力	授業以外の時間に学習をしない。	宿題を必ずする。	自分の得意不得意を認識して、主体的に学ぶ。	検定試験などを活用して、苦手な分野を克服し、得意な分野を向上する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 基礎演習ガイダンス、個別面談、履修登録に関する指導、学習方法の指導、キャリアチャレンジプログラムの確認
- 第 2 回 文献読解 (1) 内容の全体把握
- 第 3 回 文献読解 (2) 論述の構成と分析
- 第 4 回 文献読解 (3) 要約の演習
- 第 5 回 文献読解 (4) 言い換え、書き換えの演習
- 第 6 回 プレゼンテーションの準備：テーマを決める
- 第 7 回 プレゼンテーションの準備：調べる
- 第 8 回 招待講演 (一斉授業)
- 第 9 回 来年度の演習に向けて：分属説明会
- 第 10 回 プレゼンテーションの準備：スライド作成
- 第 11 回 発表
- 第 12 回 発表に関する議論、フィードバック
- 第 13 回 レポートの書き方復習
- 第 14 回 レポートの確認、添削
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. カリキュラム、勉強法、情報検索法、進路、現代諸事情等について学ぶ
2. 読解の訓練を行う
3. 座学だけでなく、調査発表やフィールドワークといった方法も取り入れる
4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
5. ノートのとり方やレポートの書き方、プレゼンテーションの方法について学ぶ
6. 授業内でレポートの添削および講評、発表についての講評を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 指示された文献をあらかじめ読んでおくこと
2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果(70%)、学期末提出レポート(30%)によって評価する。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

必要に応じてフィールドワークに出かけたりするため、交通費等の実費がかかることもある。

授業の順序は変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

オリエンテーション時に指示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習Ⅱ T

CSB1650T0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 後期

木曜2限

DP6: 創造・発信力

90

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 国際日本文化学科で何をどう学ぶかについて考える
2. 学生同士、また学生・教員間の人間関係を築く
3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する

4. 関心領域の本を計画的に読む

5. 各クラスで協働してプレゼンテーションの準備をする

〔授業計画〕

第1回 基礎演習ガイダンス、個別面談、履修登録に関する指導、学習方法の指導、キャリアチャレンジプログラムの確認

第2回 文献読解(1) 内容の全体把握

第3回 文献読解(2) 論述の構成と分析

第4回 文献読解(3) 要約の演習

第5回 文献読解(4) 言い換え、書き換えの演習

第6回 プレゼンテーションの準備: テーマを決める

第7回 プレゼンテーションの準備: 調べる

第8回 招待講演(一斉授業)

第9回 来年度の演習に向けて: 分属説明会

第10回 プレゼンテーションの準備: スライド作成

第11回 発表

第12回 発表に関する議論、フィードバック

第13回 レポートの書き方復習

第14回 レポートの確認、添削

第15回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. カリキュラム、勉強法、情報検索法、進路、現代諸事情等について学ぶ

2. 読解の訓練を行う

3. 座学だけでなく、調査発表やフィールドワークといった方法も取り入れる

4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う

5. ノートのとり方やレポートの書き方、プレゼンテーションの方法について学ぶ

6. 授業内でレポートの添削および講評、発表についての講評を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 指示された文献をあらかじめ読んでおくこと

2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果(70%)、学期末提出レポート(30%)によって評価する。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

必要に応じてフィールドワークに出かけたりするため、交通費等の実費がかかることもある。

授業の順序は変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

オリエンテーション時に指示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 II W

CSB1650W0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 後期

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

60

必修 クラス指定

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 国際日本文化学科で何をどう学ぶかについて考える
2. 学生同士、また学生・教員間の人間関係を築く
3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する
4. 関心領域の本を計画的に読む
5. 各クラスで協働してプレゼンテーションの準備をする

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文献読解力	文献の内容が理解できない。	文献の内容が一通り理解できる。	批判的思考を伴って文献を読むことができる。	文献の内容について討論できる。

情報探索力	必要な情報を見つけることができない。	簡単な探索方法を身につけている。	複数の探索方法を身につけ、使い分けができる。	適切な探索方法を使って、必要な情報を的確に見つけることができる。
プレゼンテーションの力	プレゼンテーションの方法がわからない。	基本的なプレゼンテーションができる。	適切な方法を選んで、プレゼンテーションができる。	レベルの高いプレゼンテーションができる。
基礎学力向上に取り組む力	授業以外の時間に学習をしない。	宿題を必ずする。	自分の得意不得意を認識して、主体的に学ぶ。	検定試験などを活用して、苦手な分野を克服し、得意な分野を向上する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 基礎演習ガイダンス、個別面談、履修登録に関する指導、学習方法の指導、キャリアチャレンジプログラムの確認
- 第 2 回 文献読解 (1) 内容の全体把握
- 第 3 回 文献読解 (2) 論述の構成と分析
- 第 4 回 文献読解 (3) 要約の演習
- 第 5 回 文献読解 (4) 言い換え、書き換えの演習
- 第 6 回 プレゼンテーションの準備：テーマを決める
- 第 7 回 プレゼンテーションの準備：調べる
- 第 8 回 招待講演 (一斉授業)
- 第 9 回 来年度の演習に向けて：分属説明会
- 第 10 回 プレゼンテーションの準備：スライド作成
- 第 11 回 発表
- 第 12 回 発表に関する議論、フィードバック
- 第 13 回 レポートの書き方復習
- 第 14 回 レポートの確認、添削
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. カリキュラム、勉強法、情報検索法、進路、現代諸事情等について学ぶ
2. 読解の訓練を行う
3. 座学だけでなく、調査発表やフィールドワークといった方法も取り入れる
4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
5. ノートのとり方やレポートの書き方、プレゼンテーションの方法について学ぶ
6. 授業内でレポートの添削および講評、発表についての講評を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 指示された文献をあらかじめ読んでおくこと
2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果 (70%)、学期末提出レポート (30%) によって評価する。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

必要に応じてフィールドワークに出かけたりするため、交通費等の実費がかかることもある。

授業の順序は変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

オリエンテーション時に指示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

京都フィールドワーク研究

CSA2403N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜2限

DP4: 思考・解決力

60

定員25名

梅林 秀行

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

フィールドワークで現地を訪れ、史蹟、文化財、建造物などを見聞することで、京都の歴史・文化・芸能などに関する活字・文献ベースの知識を血肉化する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現地で得た情報・見聞した事物と自己の問題意識を有機的に結合させて、歴史認識や京都への理解をより深化させる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 京都フィールドワークの一步目
京都フィールドワークの総論。資料の調べ方、デジタルアーカイブの使い方を学ぶ。
- 第 2 回 京都盆地の成り立ち (1)
地質学の視点から、京都盆地の地形発達を学ぶ。
- 第 3 回 京都盆地の成り立ち (2)
フィールドワーク。「船岡山」と「西賀茂断層」を歩きながら、「地殻変動」と「断層運動」の実例を現地で学ぶ。
- 第 4 回 平安宮・内裏の変遷 (1)
古代都城「平安京」の宮殿機能「平安宮」について、古代から中世・近世・近代に至る変遷を学ぶ。
- 第 5 回 平安宮・内裏の変遷 (2)
フィールドワーク。「平安宮」の痕跡を探し求めながら、古代宮殿の時代に応じた変遷を現地で学ぶ。
- 第 6 回 清水坂 (1)
観音聖地「清水寺」の参道「清水坂」に集った中世の人々について、マイノリティ (被差別民、病者など) を中心に学ぶ。
- 第 7 回 清水坂 (2)
フィールドワーク。中世に栄えた観音聖地への参道「清水坂」(現松原通) を歩きながら、マイノリティの歴史の変遷を現地で学ぶ。
- 第 8 回 本能寺の変 (1)
織田信長が戦死した「本能寺の変」の検討を通じて、中世から近世へ移り変わった戦国時代の京都の実像を学ぶ。
- 第 9 回 本能寺の変 (2)
フィールドワーク。「本能寺の変」を現地で検討しながら、惣構 (都市を囲んだ堀・城壁) で囲まれた「戦国期京都」のスケールを体感・学習する。
- 第 10 回 御土居 (1)
近世京都を囲んだ堀・城壁の「御土居」を通じて、現代京都のスタート地点となった「豊臣政権」の京都改造を学ぶ。
- 第 11 回 御土居 (2)
フィールドワーク。「御土居」遺構が良好に残る箇所 (京都市北区) を歩いて、近世統一政権の社会構想を現地で感じながら学ぶ。
- 第 12 回 祇園 (1)
近世鴨川の沿岸再開発事業によって誕生した、花街「祇園」の成り立ちと変遷を学ぶ。
- 第 13 回 祇園 (2)
フィールドワーク。観光化したイメージ形成前の「祇園」は、どのような場所に、どのようなすがただったのか。祇園の現地を歩きながら、「花街」の制度的特徴を観察・学習する。

第 14 回 新京極 (1)

近世から近代への移行期に、振興事業として実施された「新京極」の建設を通じて、「盛り場」の近世から近代の移り変わりを学ぶ。

第 15 回 新京極 (2)

フィールドワーク。「新京極」の現地を歩きながら、「寺町」から「劇場街」「商店街」へと変遷した京都最大の盛り場を体感・学習する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する (レポート)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 座学や自己調査による、予備知識や全体像の把握。
2. フィールドワークで得た知見による掘り下げ。
3. フィールドワーク時のレポートの講評は原則として次回講義時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストや参考文献を活用した事前リサーチ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

「授業参加度：30%、フィールドワーク時のレポート：40%、定期試験：30%」とする。なお、フィールドワークへの参加はできるだけ必須とする (身体に障害がある場合など、できるだけ講師側が配慮する)。

〔留意事項 (Other Information)〕

フィールドワークの際は、歩きやすい靴・服装でお願いします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『京都の凸凹を歩く1』/梅林秀行/青幻舎/2016/9784861525391
レジュメ・参考資料等は、各回の授業にて必要に応じて配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『京都の凸凹を歩く1』/梅林秀行/青幻舎/2016/9784861525391
『京都の凸凹を歩く2』/梅林秀行/青幻舎/2017/9784861526008
授業中にも、随時、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

京都学

CSA2255N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜3限

DP2：知識・理解力

60

福井 栄一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

京都が日本文化の核であり続けていることは論を俟たない。本講義では、京都の歴史・信仰・文学・歌舞音楽・芸能・祭礼・生活習俗などを幅広く採り上げる。

それらの理解を通じて、受講生ひとり一人が京都文化の見取図を得て、さらに日本文化そのものの特質へと考察を進めてもらうことが目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 京都の精神史
2. 京都の文学史
3. 京都の芸能史
4. 京都の生活史

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
理解力・思考力	京都に関心を持つ。	京都の固有名詞(地名、寺社名、人名など)を知る。	事象の歴史的な推移に目配りする。	因果関係を見出す。
発信力	地図やガイドブック類を閲覧する。	現地へ赴く。	事前に得ていた情報と現地情報を統合して論じる。	自身の知見を論稿にまとめて可視化する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. 京と黒髪：毛髪にこもる情念と狂気
毛髪に関する言い伝え、民間療法、寺社信仰、毛髪をモチーフにした文芸作品などを概観して、毛髪にこめられた民衆の情念を学ぶ。
- 第 2 回 2. 京と陰陽道①
京は陰陽道の聖地である。陰陽道の二大原理である陰陽説と五行説を学ぶ。
- 第 3 回 3. 京と陰陽道②
陰陽道思想と、暦・方位方角との相互関係を学ぶ。
- 第 4 回 4. 京と陰陽道③
京を舞台に活躍した、平安朝最強の陰陽師 安倍晴明の事績を学ぶ。
- 第 5 回 5. 京と草花：古都を彩る植物の美

京を華麗に彩ってきた草花や樹木の生態や逸話を学ぶ。

- 第 6 回 6. 京と小野小町①
世界三大美人のひとりである小野小町。京に色濃く残る小町伝説を学ぶ。
- 第 7 回 7. 京と小野小町②
小野小町は、京を舞台にした古典芸能にもしばしば登場する。それらを概観して、「小町もの」の芸能史を学ぶ。
- 第 8 回 8. 京と在原業平：元祖「色男」の軌跡
「色男」の代名詞である在原業平の京での事績を学ぶ。
- 第 9 回 9. 京と菅原道真①
京は、菅原道真信仰（天神信仰）が篤い地である。道真の前半生と逸話を学ぶ。
- 第 10 回 10. 京と菅原道真②
道真の後半生、とりわけ藤原氏との確執、太宰府への配流などについて学ぶ。
- 第 11 回 11. 京と菅原道真③
御霊信仰、雷神信仰などが習合した天神信仰の広がりについて学ぶ。
- 第 12 回 12. 京と歌舞伎：舞姫 出雲の阿国 登場
京は歌舞伎発祥の地である。阿国歌舞伎から野郎歌舞伎への変遷を学ぶ。
- 第 13 回 13. 京と梵鐘①
京の仏教文化を語る際、梵鐘は外せないキーワードのひとつである。梵鐘の機能と社会的な意味合いを学ぶ。
- 第 14 回 14. 京と梵鐘②
京、大坂、奈良などの名刹が擁する梵鐘について、由緒来歴や逸話を学ぶ。
- 第 15 回 15. 京と梵鐘③
梵鐘をモチーフにした「京鹿子娘道成寺」をめぐる芸能史を学ぶ。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

教科書・参考図書の内容に即するほか、講義中に配付するレジュメにも言及する。

なお、フィードバックは、次回講義冒頭あるいは学内ウェブシステムにて適宜行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

シラバス記載の各講義の項目に従い、各自が教科書、参考書などを通読して、事前リサーチをしておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（60%）、定期試験（40%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『説話をつれて京都古典漫歩』（福井栄一著、京都書房、2013年）

『小野小町は舞う』（福井栄一著、東方出版、2005年）

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『にんげん百物語』（福井栄一著、技報堂出版、2007年）

『龍の100の物語』（福井栄一著、技報堂出版、2011年）

『蛇と女と鐘』（福井栄一著、技報堂出版、2012年）

『説話と奇談でめぐる奈良』（福井栄一著、朱鷺書房、2019年）

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~getsuei99>を閲覧し、

「京都学」の問題意識を担当講師と共有する一助とされた。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

芸術への誘い

CSA2210N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

金曜3限

DP2：知識・理解力

60

久野 将健 吉田 朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「現代音楽」「現代美術」と呼ばれる20世紀（とそれ以降）の芸術は、難しくて親しみにくいと言われることもある。しかし、これらの芸術は、日常に埋もれがちな感性を研ぎ澄ませる力を持っており、ぜひ体験してほしいものである。この科目では、作品鑑賞を通して、現代の芸術についての基本的な知識を得るとともに、鑑賞のポイントをつかむことを目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

音楽についてはストラヴィンスキーとメシアン、美術についてはピカソ以降の表現から選んだ作品を鑑賞し、現代の芸術表現に触れる。受講生の素直な感想を大切にしつつ、作品のしくみ、時代背景などを知ること、さらに理解を深めることを目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション <久野、吉田>
- 第 2 回 ストラヴィンスキー その生涯と作風（音楽）<久野>
- 第 3 回 バレー音楽『ペトルーシュカ』 <久野>
- 第 4 回 バレー音楽『春の祭典』 <久野>
- 第 5 回 ピカソ（美術） <吉田>
- 第 6 回 抽象絵画 <吉田>
- 第 7 回 抽象彫刻 <吉田>
- 第 8 回 シュルレアリスム <吉田>
- 第 9 回 メシアン その生涯と作風（音楽） <久野>
- 第 10 回 ピアノ曲『幼子イエスに注ぐ20のまなざし』 <久野>
- 第 11 回 オルガン曲『主の降誕』 <久野>
- 第 12 回 歌劇『アッシジの聖フランシスコ』 <久野>
- 第 13 回 ポップ・アート（美術） <吉田>
- 第 14 回 コンセプチュアル・アート <吉田>
- 第 15 回 パフォーマンス <吉田>

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義が中心であるが、受講者に感想や意見を求めることがある。また、必要に応じて課題発表を課すことがある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. テキストや資料の指示された箇所を読むこと。
2. 指示された課題があれば、準備してくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

全授業数の1/3を超えて欠席すると評価対象にならない（6回欠席で単位認定不可）。評価は授業参加度30%、期末レポート70%とする。期末レポートについては、音楽分野・美術分野の両方について提出する必要がある。

〔留意事項（Other Information）〕

この授業は1年次から履修できるが、音楽分野については「音楽文化概論」または「音楽鑑賞法」の単位認定後の方が内容を理解しやすい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント等を配布。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜、授業時に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代音楽事情

CSA3203N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜1限

DP2: 知識・理解力

60

佐野 仁美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代の音楽状況を取り巻く問題について、論じることができる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

20世紀の大衆社会における商品としてのポピュラー音楽のありようを理解する。

様々な音楽が交流し、互いに影響しあうという視点より20世紀の音楽についての知識を得る。

音楽とその他の芸術との結びつきについて考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、音楽と社会との関わり
- 第 2 回 世界音楽という考え方
- 第 3 回 19世紀末の社会と音楽
- 第 4 回 20世紀の社会と音楽
- 第 5 回 舞踊と音楽
- 第 6 回 現代音楽
- 第 7 回 日本伝統音楽と20世紀におけるその展開
- 第 8 回 複製芸術と著作権
- 第 9 回 アメリカにおける黒人音楽の影響
- 第 10 回 ジャズの歴史
- 第 11 回 ロックンロールの身振りとビートルズの登場
- 第 12 回 ビートルズの音楽的変遷
- 第 13 回 日本語のうたと音楽
- 第 14 回 日本のポピュラー音楽の変遷

第 15 回 ミュージカル

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各回に小レポートを課し、次回の授業でコメントをつけて共有する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布したプリントを事前に読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業参加度 (20%)、毎回の小レポート (40%)、最終授業における提出課題 (20%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

実際の授業の状況により、学生に周知した上で、予定の一部の順序を変更することがある。

プリントを配布する。

出席および授業への取り組みを重視する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『複製技術時代の芸術』ヴァルター・ベンヤミン (1936年) / 高木久雄・高原宏平訳 / 紀伊国屋書店 / 1965年

『大衆音楽史—ジャズ、ロックからヒップ・ホップまで—』森正人 / 中公新書 / 2008年

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代出版事情

CSA1253N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 後期

金曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本や雑誌をめぐる状況は、大きく変貌をとげている。古書でありながらそれをコンビニ感覚で販売する「新古書店」、インターネットで便利に購入できる「オンライン書店」、さまざまな形でコンテンツが入手できる「オンデマンド出版」、そして街の本屋や古本屋など。そして電子出版の新しい動きにより、出版そのものの成り立ちも今後大きく変わりうる。この授業では、こうした出版の現代的な実情と文化について、国際的な視点も取り入れつつ検討していく。その上で、マンガなどの日本独特の出版形態についても考察し、理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 出版の歴史、現状および将来の展望について理解する。
2. 出版に関わる文化について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業で扱われるトピックに関する知識・理解力	レポート課題において殆ど現れていない	レポート課題においてある程度現れている	レポート課題においてほぼ現れている	レポート課題において十分に現れている
トピックに関して現状、変化などを思考する能力	レポート課題において殆ど現れていない	レポート課題においてある程度現れている	レポート課題においてほぼ現れている	レポート課題において十分に現れている
課題について論理的かつ適切に文章で表現、説明できる能力	文章の内容が課題に全く沿っておらず、説明が適切でない	文章の内容が課題に沿っていない部分が多く、説明が不十分	文章の内容はある程度課題に沿っている。説明もほぼ適切	文章の内容が課題に十分に沿っており、説明も的確

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業内容のレビューと導入
- 第 2 回 出版流通と書店
- 第 3 回 出版メディアの歴史
- 第 4 回 書籍と雑誌について
- 第 5 回 現代の読書形態
- 第 6 回 出版社の概観、出版の企画
- 第 7 回 出版の電子化
- 第 8 回 表現の自由と出版に関する倫理 (レポート 1 提出)
- 第 9 回 著作権とそれに関わる諸問題
- 第 10 回 出版文化の国際比較
- 第 11 回 出版物から見る文化
- 第 12 回 学術情報の流通
- 第 13 回 フィールドトリップ (京都国際マンガミュージアム見学を予定 (変更の可能性あり))
- 第 14 回 マンガとその文化
- 第 15 回 まとめ: 出版の役割と今後の展望 (レポート 2 提出)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を主体とするが、グループワーク、授業内課題も行う。講義内容に沿った課題についてレポートを作成することで理解を深める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業内容を復習し、レポートの準備を進める。授業内課題について準備する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート(2回)により、講義内容の理解度を評価する(各40%)。授業への参加度(20%) manabaで提出されたレポートに対して講評、採点を本人に公開する。

〔留意事項 (Other Information)〕

京都国際マンガミュージアムへのフィールドトリップは、実施しない可能性がある。その場合は代替の講義を行う。実施する場合には現地までの交通費が実費としてかかる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『出版メディア入門(第2版)』/川井良介(編)/日本評論社/2012/9784535586161/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

言語文化概論

CSA2219N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

月曜4限

DP2: 知識・理解力

90

漢字文化史

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

漢字は中国語と日本語を記録するツールとして、世界の文明史の中でも、もっとも長く使用されてきた文字である。漢字文化史の変遷を考察することによって、漢字の誕生、発展の軌跡、日本への伝播および日本語への影響を明らかにしていく。この講義を通して、漢字に対する基本知識を身につけさせ、世界の中でもっとも歴史の古い文字を使っている誇りを持たせたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 漢字の歴史の流れを理解する。
2. 現代の日本語をとりまく漢字環境を的確に把握する。
3. コンピュータ社会において伝統的な文化遺産である漢字を扱う際の基本的な観点を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	授業の内容、或いは漢字の歴史について全く理解していない。理解しようとする気持ちはない。	授業の内容、或いは漢字の歴史について少し理解している。理解しようという気持ちがある。	授業の内容、或いは漢字の歴史についてある程度理解している。理解しようとする努力している。	授業の内容、或いは漢字の歴史についてほぼ理解している。
創造・発信力	日常生活に関わる漢字に全く興味がない。	日常生活に関わる漢字に少し興味がある。自ら漢字学習をする。	日常生活に関わる漢字に興味を示し、漢字検定試験に挑戦する。	日常生活に関わる漢字に興味を示し、漢字検定試験2級に合格する。

〔授業計画〕

第1回 イントロダクション

第2回 漢字の起源

第3回 甲骨文字と金文

第4回 文字を記録する素材

第5回 国家と文字

第6回 秦の始皇帝と小篆

第7回 紙の発明と文字文化

第8回 印刷術と文字文化

第9回 漢字の日本への伝来

第10回 戦後の漢字制限政策

第11回 常用漢字

第12回 人名漢字

第13回 コンピュータの開発と漢字環境の変化

第14回 漢字文化圏におけるさまざまな漢字問題

第15回 テスト及びテスト問題の解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義形式で行う。
2. ディスカッションを行う。
3. 漢字の歴史を紹介する映像資料を多用する。
4. 最終授業でテストの内容解説し、フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

漢字文化に関する書籍や、新聞記事を随時学生に紹介する。これらの書籍や記事を読むことを通して、授業の内容をより一層理解してもらうことが出来ると考える。また学生の授業内容の理解度を把握するために、授業内のディスカッションとワークシートを用いた練習も予定している。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業態度(30点)、試験(70点)により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲストを招く、あるいは漢字博物館を訪れるなどのスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業ごとにプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『文字の文化史』/藤枝 晃/講談社学術文庫//

『漢字文化の源流』/阿辻哲次/丸善株式会社/2010/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

国語学概論

CSA1201NOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

木曜 5限

DP2 : 知識・理解力

60

音声言語を含む。

堀 勝博

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

毎日日本語を使って生活していても、それを客観的に分析するとなるとなかなか難しいものである。「あ」と「い」は、音としてどう違うか、「生」という漢字は、中国語ではsheng一種類しか読み方がないのに、日本語ではなぜ何種類もの読み方があるのか、「花が咲く」と「花は咲く」とどう違うのか...などなど。この授業は、そういった具体的な問題から説き起こして、音韻、文字、文法、語彙、文体、国語政策、方言、言語生活、系統論など、さまざまな観点から日本語を概観し、国語学の基礎知識を習得することをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 世界の言語の中で、日本語の特徴は何か考える
2. 日本語の音声、音韻の概略を理解する
3. 日本語の文字、表記の特徴、歴史について理解する
4. 日本語の文法、文体、語彙、系統に関する基礎知識を習得する
5. 日本語の方言について学習する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	日本語の語彙の種類や漢字の音訓についてまったく理解していない	日本語の語彙の種類や漢字の音訓についてある程度理解している	日本語の語彙の種類や漢字の音訓についてよく理解している	日本語の語彙の種類や漢字の音訓について深く理解している

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入授業—日本語の特徴は何か
- 第 2 回 世界の諸言語と日本語
- 第 3 回 日本語の系統
- 第 4 回 世界の文字と日本の文字
- 第 5 回 漢字とはどのような文字か
- 第 6 回 日本語と漢字の歴史
- 第 7 回 漢字の音読みと訓読み
- 第 8 回 和語、漢語、外来語、混種語
- 第 9 回 漢字と仮名
- 第 10 回 音韻変化と仮名遣い
- 第 11 回 音声器官と発声のメカニズム
- 第 12 回 日本語の母音と子音
- 第 13 回 日本語の音節の特徴
- 第 14 回 アクセントとイントネーション
- 第 15 回 まとめと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義形式で授業を進める
2. 毎時間、身近なテーマにより、国語を分析する小テストを出題する
3. 予習課題、授業内容に関する補足、小テストの解答などを、manabaにより指示・公開する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に指示される課題やレポートについて、辞典類やインターネットで調べ、講義までに準備しておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に参加する意欲・態度の評価点 40%、最終試験の成績 60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

国語科教諭免許課程履修者および日本語教員養成課程履修者必修科目

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『国語学大辞典』/国語学会/東京堂出版//

『国語概説』/佐伯哲夫他/和泉書院//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

国際関係論

CSA1204N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2：知識・理解力

60

北澤 義之

【科目の教育目標 (Course Description)】

1. 国際関係論の基礎的な用語を理解し使うことができる。
2. 身近な問題が国際社会の動きと、どう結びついていることか理解できる。3. 自分たちの抱える問題を、どのように他の人達と（場合によっては国境を越えて）協力して解決できるか、その道筋を考えることができる。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

国際社会の発展についての基本的歴史を知ること。国際関係の基礎的な用語を使って、世界の現状について説明することができるようになること。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	国際関係について知ろうとする。	国際関係の理論を理解しようとする。	国際関係の理論をもとに国際社会を理解しようとする。	国際社会の現実と理論の相違について議論しようとする。
知識・理解力	国際情勢に関心を持とうとする。	国際情勢の背景について理解しようとする。	国際関係の理論の発展と国際社会の関係について理解する。	冷戦後の国際社会の変化を説明できるようになる。
思考・解決力	国際社会の課題を知ろうとする。	国際社会の課題の背景を理解しようとする。	国際問題への対応の事例を学ぼうとする。	国際問題への対応の事例から、自分に可能な協力について考えるようになる。
共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする。	友人たちと一緒に学ぼうとする。	課題と一緒に解決しようとする。	友人とともに国際社会とのかかわり方を考えようとする。

【授業計画】

第 1 回 授業の進め方とイントロダクション 国際社会の現状

事前学習：2020年の上半期で起きた最も重要な国際的事件を1つ探し、簡単に説明できるように情報をまとめる。

事後学習：授業の進め方とルールを確認する。他の受講者が紹介したニュースについて傾向を把握する。

第 2 回 国際社会の成立と国際関係論

事前学習：国際社会とは何か自分なりのイメージを説明できるように簡単にまとめる。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。国際社会と国際関係論の大まかな特徴を説明できるようにする。

第 3 回 国際政治の歴史（戦争を中心に）

事前学習：第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦の原因と特徴と影響について簡潔に説明できるようにする。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。それぞれの大きな戦争が国際社会の変化にどのような影響を及ぼしたか考える。

第 4 回 国際関係に対する見方（リアリズムとリベラリズム）

事前学習：国際関係におけるリアリズム（現実主義）とは何かについて、概要を調べる。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。リアリズムとリベラリズムを対比して理解する。ネオ・リベラリズム、ネオ・リアリズムの考え方の背景を確認する。

第 5 回 グローバルな問題と国際社会

事前学習：国際連盟と国際連合の類似点、相違点についてまとめる。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世界が協力しないと解決しない問題には何があるのかを確認する。その中で国際機関の役割について確認する。

第 6 回 グローバル社会の新局面

地域的統合と対立／新しい政治アクターの登場について（NGO・NPO、MNCなど）

事前学習：EU成立の背景について調べる。／国家以外で国際社会に影響のある政治主体には何があるか調べる。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世界の地域的協力と対立について基本的な特徴を確認する。／NGOやNPOの国際関係における機能について確認する。

第 7 回 現代世界と宗教 1

事前学習：世界の主要な宗教の分布を把握する。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世俗主義とは何か自分なりの考えをまとめる。

第 8 回 現代世界と宗教 2

事前学習：イスラム教の影響下にある地域を調べ、イスラム教の基本的な特徴を確認しておく。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。近年の世界的なイスラムと政治への注目の背景を確認する

- 第 9 回 安全に関する国際協力（平和・紛争解決）
事前学習：第二次大戦後、国連が介入した紛争を調べておく。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。国連軍、PKOの活動の特徴と限界について確認する。
- 第 10 回 経済に関する国際協力（開発援助）
事前学習：世界の貧困国と先進工業国家の経済力の違いの概要をまとめておく。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。貧困問題が国際社会に及ぼす影響について確認する。
- 第 11 回 経済に関する国際協力（開発援助）
事前学習：代表的な難民問題を 2 つ調べ、その実態（実数、分布、背景）をまとめておく。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。難民問題と移民問題の現状を説明できるようにする。
- 第 12 回 テロ問題
事前学習：テロリズムの定義と歴史を簡単にまとめておく。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。現代社会におけるテロの背景と現状について確認する。
- 第 13 回 環境・資源問題
事前学習：気候変動に関する京都議定書の内容と、2016年のCOPの内容と課題を整理しておく。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世界の資源問題・環境問題を具体的にあげられるか確認する。
- 第 14 回 新しい協力と対立の可能性
事前学習：これまでに学習したこと以外に、国際社会で求められる協力には何があるか考えておく。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。
- 第 15 回 まとめ
事前学習：日本の世界とのかかわり方（援助、軍事協力）で何が近年問題になっているかを考えておく。
事後学習：これまで配布された資料の内容の確認と復習をする。国際社会の現状について振り返り、日本の課題を自分なりに指摘できるようにする。

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

講師が一方的に受講生に対してレクチャーする方式ではなく、学生のグループ別のディスカッションも行う、アクティブ・ラーニングの方式をとります。課題やレポートについては授業時にコメント・解説します。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

下の具体的なテーマについて、講師による講義のあと、いくつかのグループに分かれてグループ学習をし、その成果

を発表してもらいます。この他に、毎回、コメント・質問票にを授業の終わるときに全員が提出します。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

評価の対象となるのは、(1) グループ学習のプレゼンテーション、(2) 毎回提出するコメント・質問票です。(3) レポート

点数の配分は、授業への参加度 20%、テーマに関する課題ワークシート(各人が毎回提出) 30%、レポート 50%。

【留意事項（Other Information）】

授業テーマに関する準備が前提になるので、かならず準備して授業に臨むように心がけてください。また、新聞の国際記事のタイトルだけでも、見るように習慣づけてください。最近の出来事を学習する中で、関心のあるテーマを見つけ、最終レポートとしてまとめてもらう予定です。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

全体を通じてのテキストはありません。資料のプリントを適宜配布します。

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

『新版・国際政治学をつかむ』/村田晃嗣他/有斐閣/2015/9.784641177222E12

『国際理解のために』/高橋和夫/放送大学教育振興会/2013/9.784595314261E12

全体を通じての参考書は上の2冊だけです。

個別テーマごとに、教室で紹介します。

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

国際日本文化論

CSA1254N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 後期

火曜1限

DP2 : 知識・理解力

60

河野 有時

【科目の教育目標（Course Description）】

この授業の目標は、国際的な視点から日本文化の諸相を捉えようとするものである。しかしながら、この「国際的な視点」は自他の比較によって得られるため、ある種の危うさが付きまとう。自他の文化を対比は優劣が判定するものではない。ここでは、日本文化の特徴や各国の文化との関係性を、相互に隣接し並存し得るものと見なしていく姿勢を身に付ける。また、自らと異なるものに敬意を払い尊重する態度を養うことを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 異なる文化を対比して論じる方法や態度を理解する。
- 文化表現を比較することで、日本文化の特徴を理解する。
- 文化表現の差異を、各国と日本の関係性の中で捉える。
- グループで協働し、参考文献や資料を参照しながら文化表現を読み解く。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとすることができていない。	課題に主体的に取り組んでいる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
日本文化に対する知識・理解力	日本文化に対する理解できていない。	日本文化に対する理解できている。	日本文化の特徴を他の文化表現との対比により理解できている。	日本文化の特徴を他の文化表現との対比により理解し、それぞれの文化的な背景について考察することができる。
国際的な視点から文化表現について考える力	国際的な視点から文化表現を捉えることができていない。	国際的な視点から文化表現を捉えることができる。	国際的な視点から文化表現を捉え、異なる文化表現を理解することができる。	国際的な視点から文化表現を捉え、異なる文化表現を尊重することができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回
イントロダクション
- 第 2 回
文化を語るということ—国際日本文化とは
- 第 3 回
ジャパニーズホラー (1) — 「リング」
- 第 4 回
ジャパニーズホラー (2) — 「The Ring」
- 第 5 回
ジャパニーズホラー (3) — グループ発表の企画と準備

- 第 6 回
ジャパニーズホラー (4) — グループ発表とディスカッション
- 第 7 回
ジャパニーズホラー (5) — 「着信アリ」
- 第 8 回
ジャパニーズホラー (6) — 「One Missed Call」
- 第 9 回
ジャパニーズホラー (7) — グループ発表の企画と準備
- 第 10 回
ジャパニーズホラー (8) — グループ発表とディスカッション
- 第 11 回
日本を見た外国人
- 第 12 回
外国人が見た日本
- 第 13 回
世界に日本を発信した日本人
- 第 14 回
クールジャパンとは何か
- 第 15 回
まとめと今後の課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 授業は講義とグループワークで行う。
- グループは授業中に出された課題やテーマに取り組む。
- 課題の内容についてグループでディスカッションを行い、考察を深める。
- グループで発表を行い、他のグループとディスカッションする。
- 次回の授業で前回のディスカッションで明らかになった課題について捕捉説明する。
- 最終授業では全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 課題に対して、自分の感じたことをまとめておく。
- 参考文献や資料を読み、課題に対する自分の考えをまとめておく。
- 自分の感じたことや考えたことがグループ内でどのように表現できるか、検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (40%) とレポート (60%) とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業中に紹介する。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

国文学概論

CSA1200NOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

火曜 1限

DP2 : 知識・理解力

60

国文学史を含む。

河野 有時

[科目の教育目標 (Course Description)]

国文学に対する多様な研究方法やその変遷について学び、それにより高等学校の教科書に掲載された諸作品を読みなおすことを通して、“読む”という行為について自覚的になることを目標とする。本文を校訂し、先行研究という読みの歴史を辿り、文学研究の方法を意識しながら作品を読んで、自らの“読み”を客観的に論述できることを目指していく。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 国文学研究の方法について、基礎的な知識を身につける。
2. 文学の言葉と表現を読む力を養う。
3. 文学作品を読み、自分が考えたことを論述する力を養う。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。
国文学研究に関する知識・理解	国文学研究の方法や用いられている術語について理解していない。	国文学研究の方法や用いられている術語について理解している。	国文学研究の方法や用いられている術語について自身で調べ、理解している。	国文学研究の方法や用いられている術語について理解し、他の文献や術語の調査へと発展させることができる。

文学の言葉と表現を読む力	作品を言葉と表現に即して読むことができない。	作品を言葉と表現に即して読むことができる。	作品を言葉と表現に即して読み、言葉や表現の特質を把握できる。	作品を言葉と表現に即して読み、言葉や表現の特質を分析できる。
自分の考えを論述する力	自分の考えを論述することができない。	自分の考えを論述することができる。	自分の考えを適切な言葉や手法で論述することができる。	受信者を意識しながら、自分の考えを適切な言葉や手法で論述することができる。

[授業計画]

第 1 回

イントロダクション

第 2 回 “読む”とはどういうことか

第 3 回 芥川龍之介「羅生門」を読む(1) 一本文と資料

第 4 回 芥川龍之介「羅生門」を読む(2) 一同時代評と研究史

第 5 回 芥川龍之介「羅生門」を読む(3) 一下人と老婆

第 6 回 中島敦「山月記」を読む(1) 一本文と資料

第 7 回 中島敦「山月記」を読む(2) 一同時代評と研究史

第 8 回 中島敦「山月記」を読む(3) 一李徴と袁?

第 9 回 夏目漱石「こころ」を読む(1) 一本文と資料

第 10 回 夏目漱石「こころ」を読む(2) 一同時代評と研究史

第 11 回 夏目漱石「こころ」を読む(3) 一「こころ」論争について

第 12 回 国文学研究の方法

第 13 回 文学研究とジェンダー

第 14 回 国文学史とは何か

第 15 回 まとめと今後の課題

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

レポートを実施する。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 授業は講義形式で行う。
2. プリントを配布して教材として活用する。
3. 授業の終了時に授業の内容にかかわる課題や感想、意見を提出する。
4. 課題に対しては次回の授業において、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. 作品を読んで、自分の感じたことをまとめておく。
2. 参考文献や資料を読み、自分の考えをまとめておく。
3. 自分の感じたことや考えたことがどのように表現できるか、検討する。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (40%) とレポート (60%) とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

子どもの読書とメディア

CSA2260N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜3限

DP2: 知識・理解力

90

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代の社会状況や文化的背景を踏まえて、子どもの読書やメディアをめぐる諸問題や、文化における読書・メディアの位置づけを考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

基礎知識を学ぶと共に、自分なりの問題意識を持つよう心がける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	児童書をあまり読んでいない。	多様なジャンルの児童書を読んでいる。	児童書についての社会的・歴史的背景を理解している。	子どもの読書に関する課題を理解している。

〔授業計画〕

第 1 回 1. 子どもの読書の現状

第 2 回 2. 子どもとメディアをめぐる現状

第 3 回 3. 子ども向けの作品を読む

1) アニメ作品と原作を比べてみよう:『アルプスの少女ハイジ』を題材に~アニメ作品の分析(1)

第 4 回 3. 子ども向けの作品を読む

1) アニメ作品と原作を比べてみよう:『アルプスの少女ハイジ』を題材に~原作の分析(2)

第 5 回

3. 子ども向けの作品を読む

1) アニメ作品と原作を比べてみよう:『アルプスの少女ハイジ』を題材に~アニメ作品と原作の比較(3)

第 6 回 3. 子ども向けの作品を読む

2) 絵本に込められたメッセージ

第 7 回 3. 子ども向けの作品を読む

3) 行きて帰りし物語

第 8 回 3. 子ども向けの作品を読む

4) ノンフィクションの読み方

第 9 回 4. 児童文学論と読書研究:国語科教育と読書

第 10 回 5. 子どもと現代のメディア

1) 子どもとインターネット社会

第 11 回 5. 子どもと現代のメディア

2) 子どもとゲーム

第 12 回 6. 子どもの読書・メディアをめぐる諸問題

第 13 回 7. 日本の児童文化をめぐる国際的な動向

第 14 回 8. まとめ

第 15 回 9. 内容理解確認と振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義・演習を併せて行う。

2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 子ども向けの絵本・文学・ノンフィクション・アニメ・映画などをできるだけ読んだり、観たりしておく。

2. 子どもをめぐる社会状況に日頃から関心を持つ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

筆記試験60%、授業中の課題・授業参加40%として、その合計で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

出版文化史

CSA3263N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 4限

DP2：知識・理解力

90

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

出版、書物に関する様々な事象の歴史について、江戸時代及びそれ以前の和本を中心に学習しつつ、新たな関心を引き出し、それらについての理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 出版文化の歴史の変遷についての基礎知識を得る
- 2 出版の歴史における文化的事象について発見、検証できる能力を身につける

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	基本的な歴史的事象が全く理解されていない	基本的な歴史的事象の理解が不十分	基本的な歴史的事象がある程度理解されている	基本的な歴史的事象が十分に理解されている
言語力				
思考・解決力	文化的事象についての自身による検討、分析がほとんど見られない	文化的事象についての検討、分析が十分にはなされていない	文化的事象に関するある程度の検討、分析がある	文化的事象に関する十分な検討、分析が見られる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業全般のオリエンテーションと導入
- 第 2 回 個人発表課題の説明、参考資料、情報の紹介 和本について
- 第 3 回 『源氏物語』をめぐる (千年前の書物、装訂) テキスト 1 章 1、2 節
- 第 4 回 『源氏物語』をめぐる (紙と表記) 1 章 3、4、5 節
- 第 5 回 中世の本 2 章
- 第 6 回 出版の始まり (古活字版、商業出版) 3 章 1、2 節

第 7 回 出版の始まり (本屋仲間、本屋の経営) 3 章 3、4 節

第 8 回 江戸時代の出版 4 章

第 9 回 本と読者との関わり 5 章

第 10 回 発表テーマ決定のための下調べ作業

第 11 回 準備作業 (テーマの検討と計画)

第 12 回 準備作業 (情報の収集)

第 13 回 準備作業 (発表内容、素材の作成)

第 14 回 テーマ発表

第 15 回 テーマ発表についてのディスカッション

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は、学生の主体的参加による内容を中心として進める。授業の前半はテキストの内容に沿って、江戸時代及びそれ以前の和本について学ぶ。学生は、それに関連する事項について事前に調べ、授業で発表、議論する。後半は、テキストの内容に捉われず、出版文化に関して自由にテーマを設定し、個人で調べ、発表することを通して、様々な事項について考え、能動的に学習する機会を提供する。発表についてのフィードバック、評価点数は授業期間中に本人に直接通知する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 テキストの内容を理解する。
- 2 テキストのうち担当部分の内容をまとめ、発表の準備をする。
- 3 担当する発表内容について必要な事項を調べ、プレゼンテーションの準備をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内活動への参加 20%

前半における個人発表 (1 回) 30%

後半の自由テーマの発表 30%

期末レポート (発表のスライドの完成版を提出) 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

テキストの必要箇所は授業中に配布する。シラバスの内容は受講者の人数によって多少変更される場合がある。授業期間後半のプレゼンテーション準備は図書館ラーニングコマモンズも利用する予定。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

書写研究

CSA2201N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2：知識・理解力

60

定員30人

安岡 素子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育職員免許状取得（中学校1種免許状国語科）で必要とされる「書写」の知識と技能の基本を理解し、実技を通して学習指導の方法や技術を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 漢字、平仮名、片仮名成立と特性を理解し、実技に於いては、中学校国語科書写教育指導で必要となる毛筆「楷書」、「行書」の基本用筆を習得する。
2. 中学校国語科書写教育指導で必要となる硬筆、および教育実習、就職活動に於いて求められる書写能力（ペン字）を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第1回 講義：書写教育について、実習について
- 第2回 講義：中国書道史概要、文房四宝について
- 第3回 講義：用筆法 実習：用筆法を理解して基本点画を書く
- 第4回 講義：楷書について 実習：楷書を書く
- 第5回 実習：楷書を書く（古典臨書）
- 第6回 実習：楷書を書く（古典臨書）、実習課題提出
- 第7回 実習：行書を書く
- 第8回 実習：行書を書く（古典臨書）、実習課題提出
- 第9回 講義：硬筆書写について 実習：（平仮名、片仮名を書く、ペン字）
- 第10回 講義：硬筆書写について 実習：（漢字、ペン字）
- 第11回 講義：教育実習現場における書写、ペン字 実習：教育実習簿、レポートの美しく見える書き方
- 第12回 実習：就職活動におけるペン字、履歴書、手紙の書き方
- 第13回 ペン字総合（実習課題提出）
- 第14回 講義：日本書道史（仮名成立まで）と日本の書写教育について、古筆鑑賞
- 第15回 書写教育まとめ（板書指導含む）

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実習毛筆作品提出（楷書、行書）

定期試験に替わるレポートとして、講義内容の中からの題目で考察したレポート（例 書体の変遷について）

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義は参考文献をもとに、プリントを配布して行う。講義後は実習を行う。実技では、毛筆、硬筆を中心に行い、個人添削を行う。毛筆（楷書、行書）および硬筆（ペン字）については、まとめとして実習提出物（課題作品）を提出、講義内容をもとに、指定した題目でレポートを指定した期日までに作成（学期末提出物）提出し評価を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

中国の歴史について（図書館等で）事前に調べておくこと。（楷書体が完成する）唐代まで

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

0.5時間×15回

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業内の積極性30%、実習中提出物（課題作品）30%、学期末提出物（レポート）40%により総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中学校学習指導要領解説国語編』//東洋館出版社/2008年/9.78449102309E11

『すぐわかる中国の書』//東京美術/2006年/9.784808708016E12

『すぐわかる日本の書』//東京美術/2010年/9.784808708832E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高校書道科教員経験

現在も大阪の私学高校において書道科を担当している。

実際の授業実習例を具体的に提示することができる。

京都大学人文科学研究所技術補佐員

現在も技術補佐員として、所内の拓本整理及びデータベースを作成。

京都大学人文科学研究所蔵 石刻拓本資料（拓本データベース）を

作成。（作業チームリーダーとして、研究所蔵漢代から中華民国初期の拓本

5000枚からおよそ180万文字の画像を切り出し、釈文をつける作業を8年従事）

授業においては、拓本データベース検索結果を「書体の変遷」の具体例として

提示解説している。

情報科学 A

CSA3400N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次 4年次

2単位 前期

水曜 3限

DP4：思考・解決力

60

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになってきている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなっている。

本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 情報のデジタル化によるデータ表現について学ぶ
2. コンピュータの内部でのしくみについて学ぶ
3. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	情報の扱い自体を意識できない	情報を人の扱うものとして考える	人のための情報のやり取りとはどのようなものか考える	デジタル技術を応用し、人の未来のための使い方を考える
知識・理解力	アナログとデジタルの区別がない	情報のデジタル化とその仕組みを理解し、内部構造を理解できる	情報のデジタル化の仕組みが理解でき、PCの内部構造や、その他の機器の構造を理解できる	さまざまなアルゴリズムを理解し、デジタル化された機器の長所・短所がわかる
言語力	情報機器に関する用語を理解しようとならない	プログラムを動かすための言語があることを理解する	簡単なプログラミングができる	プログラミング言語を理解し、生活の中で役立てる

思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	デジタル化の応用が生活の中にあることを考える	プログラミング的思考をする力がある	機器も含めて、人と人のコミュニケーションも生かして問題を解決しようとする
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない	先行研究をもとに、情報技術について考えようとする	考えた結果を、周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする	レベル3に加えて、情報ネットワークなども正しく用いて、考えを深める
創造・発信力	自分勝手な、情報の発信を行う	自ら、周囲の状況を踏まえて、情報の扱い方を考える	デジタル技術などを踏まえて、情報の扱い方を考える	レベル3に加えて、情報モラルも加味しながら情報の扱い方を考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の概要紹介, 情報とデータ
アナログとデジタル、コンピュータの種類
- 第 2 回 コンピュータ内部での情報の表現(1)
コンピュータと 2 進数、複数組の 2 値状態
- 第 3 回 コンピュータ内部での情報の表現(2)
2 進数と 10 進数、変換する方法
- 第 4 回 コンピュータ内部での情報の表現(3)
コンピュータ内部での文字の扱い、文字コード
- 第 5 回 コンピュータ内部での情報の表現(4)
コンピュータ画像の仕組み、RGB値
- 第 6 回 「コンピュータ内部での情報表現」のまとめ
小テスト1回目と解説
- 第 7 回 コンピュータの仕組み(1)
littleBitsを用いてコンピュータの論理回路の基礎を学ぶ
- 第 8 回 コンピュータの仕組み(2)
littleBitsを用いて足し算する回路をグループで作成する
- 第 9 回 コンピュータの仕組み(3)
プログラミング言語を通してコンピュータの動作を学ぶ
- 第 10 回 「コンピュータの仕組み」のまとめ
小テスト2回目と解説
- 第 11 回 情報モラルと情報セキュリティ(1)
ネット上の情報の信頼性と信憑性について
- 第 12 回 情報モラルと情報セキュリティ(2)
知的財産権の保護、著作権や工業所有権について
- 第 13 回 情報モラルと情報セキュリティ(3)
情報を守るセキュリティの仕組み (ファイアウォール、暗号化、SSLなど)
- 第 14 回 「情報モラルと情報セキュリティ」のまとめ

小テスト3回目と解説

第 15 回 全体のまとめ、自己評価
 これまでの授業の振り返りと自己評価
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 manabaを用いて各回の講義内容、教材を配信する予定である。
 また、responを用いて講義ごとに振り返りを行い、授業内でフォードバックを行う。
 小テストを行うことにより、学びの定着を目指すので、小テストごとに学習の振り返りをするとよい。
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 授業で扱う内容に関連するテキスト記述を、事前に読んでくる。さらに、テキストにある練習問題を宿題とした場合は、宿題をやってもらうこと。また、参考文献は図書館の指定図書のコナーに配架している。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 45
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 30点満点の小テストを3回実施し、それに10点分の授業への参加度、毎回のresponへのコメントや自己評価を加算し、100点満点で評価を行う。3回の小テストで合計点が60点に満たない場合は、追試験を実施する。
 [留意事項 (Other Information)]
 特になし
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 『情報の表現とコンピュータの仕組み[第5版]』/ムイスリ出版/2014/978-4896412307/学内販売予定
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 『ルビィのぼうけん こんにちは! プログラミング』/リンダ・リウカス/翔泳社/2016/978-4798143491
 『ルビィのぼうけん コンピューターの国のルビィ』/リンダ・リウカス/翔泳社/2017/978-4798138770
 『なるほどわかった コンピューターとプログラミング』/ロージャー・ディキンズ/ひさかたチャイルド/2017/978-4865490886
 『コンピュータを使わない情報処理、アンプラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進 監訳/イーテキスト研究所/2007/978-4904013007
 [参考URL(URL for Reference)]
 0
 [実務経験のある教員による実践的科目]

西洋思想史

CSA2223N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

松井 吉康

[科目の教育目標 (Course Description)]

ヨーロッパ古代から近代にいたる思想の歴史を学び、それがどのように現代の欧米社会の考え方の基礎となっているかを理解する。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

欧米社会の考え方が、どのような歴史の中で形成されてきたのかを学び、それを私達の社会理解とリンクさせる。私達の社会は民主主義社会であるが、それがどのような経緯で成立してきたのかを学ぶ。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 授業の目的と狙い
 講義の進め方とガイダンス。
- 第 2 回 哲学前史
 神話の時代。古代ギリシア世界とはどのようなものか。
- 第 3 回 哲学の誕生
 ソクラテス以前の哲学者達。(1)
 ミレトス学派。
- 第 4 回 哲学の誕生 (承前)
 ソクラテス以前の哲学者達 (2)
 パルメニデスとヘラクレイトス。
- 第 5 回 ソクラテス
 ソクラテスの思想革命。
 ソクラテスの問答法。「無知の知」
- 第 6 回 プラトン

- プラトンの哲学。(1)
アイデアとは何か。
- 第7回 アリストテレス
アリストテレスの方法。
現実世界へのまなざし。
- 第8回 キリスト教と哲学
キリスト教の影響。
キリスト教とはどのような宗教か。
- 第9回 神と哲学
神(啓示)と哲学。
キリスト教と哲学。
- 第10回 近代とは
近代の始まり
デカルト
- 第11回 デカルト哲学
疑いと主体性
コギトの目覚め
- 第12回 イギリス経験論
ロックとヒュームの哲学。
- 第13回 カント哲学
カントにおける「真理と現象」。
- 第14回 ドイツ観念論からニーチェへ
ヘーゲル・シェリングからニーチェへ。
- 第15回 まとめ
まとめと質問の時間。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式ではあるが、授業中に色々な質問を投げかけるので、一人一人が、その問いに回答することが求められる。発言を強制することはしないが、一人一人が問題に真剣に向き合ってもらいたい。レポートの内容評価については、manabaにて回答する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前回の授業で扱ったテーマを、日常生活の中で顧みて、普段の生活に活かすよう意識する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

100パーセント、最終レポートで評価する。レポート執筆の際は、問題を自分の問題として捉え、あくまでも自分の頭で考えることが大切である。したがって評価もまた、各人が「どれだけ自分の頭で考えたか」で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義という形式ですが、大切なことは、聴講している皆さんが自分で考えるということです。発言を強制したりはしませんが、できるだけ質疑応答が盛んに行われるような授業にしたいと思っていますので、積極的な参加を期待します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

西洋美術史 I

CSA2207N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ギリシア・ローマからルネサンス、マネリスムにいたるまでの西洋美術の基本的な流れを把握する。代表的な作品を知り、様式の変化を学ぶ。また、作品を観察して、自分なりの感想を述べられるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・時代区分について基本的な知識をおさえる。 ・代表的な作品をよく観察し、基本的な情報を知る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	西洋美術史の流れが曖昧である	西洋美術史の基本的な流れを把握している	西洋美術史の基本的な用語・有名な作者や作品の知識を持っている	作品を見たときに、自分の知識を生かして時代や地域を推測できる
言語力	美術作品を扱った文章に触れたことがない	様々な美術作品の解説文を読んでいる	講義で扱った作品について専門用語を使いながら説明できる	初見の作品を専門用語を使いながら記述できる
思考・解決力	作品をぼんやりとしか観察できない	時間をかけてじっくりと作品を観察できる	自分なりに作品の面白さや疑問点を発見できる	作品を様々な観点から検討し、問題を発見できる

〔授業計画〕

第1回 イントロダクション

第2回 ギリシア・ローマの美術

第3回 初期キリスト教美術

第4回 西欧初期中世美術

- 第 5 回 ビザンティン美術
- 第 6 回 ロマネスク美術
- 第 7 回 ゴシック美術
- 第 8 回 15世紀イタリア美術(1) マザッチョなど
- 第 9 回 15世紀イタリア美術(2) ボッティチェリなど
- 第 10 回 15世紀ネーデルラント美術
- 第 11 回 15世紀フランス・ドイツ美術
- 第 12 回 16世紀イタリア美術
- 第 13 回 16世紀ドイツ美術
- 第 14 回 16世紀ネーデルラント美術
- 第 15 回 16世紀フランス美術

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・スライド(パワーポイント)を用いた講義形式とする。
- ・試験の結果、間違えた学生が多発したポイントについて、manabaで説明を公開する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布資料の指示された箇所を読んでおくこと。不明な地域や地名について、地図やインターネットで確認すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度50%、学期末試験50%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜資料を配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新西洋美術史』/千足伸行監修/西村書店/1999/4890135839
『世界美術大全集 西洋編 全28巻・別1巻』//小学館/
1995-1997/4096010294他

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

画像検索サイト(英語) Web Gallery of Art (<https://www.wga.hu/>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

西洋美術史 II

CSA2256N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

17世紀のバロック美術からポスト印象派、19世紀末から20世紀にかけての諸動向に至る西洋美術の基本的な流れを把握する。代表的な作品を知り、様式の変化を学ぶ。また、作品を観察して、自分なりの感想を述べられるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・時代区分について基本的な知識をおさえる。
- ・代表的な作品をよく観察し、基本的な情報を知る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	西洋美術史の流れが曖昧である	西洋美術史の基本的な流れを把握している	西洋美術史の基本的な用語・有名な作者や作品の知識を持っている	作品を見たときに、自分の知識を生かして時代や地域を推測できる
言語力	美術作品を扱った文章に触れたことがない	様々な美術作品の解説文を読んでいる	講義で扱った作品について専門用語を使いながら説明できる	初見の作品を専門用語を使いながら記述できる
思考・解決力	作品をぼんやりとしか観察できない	時間をかけてじっくりと作品を観察できる	自分なりに作品の面白さや疑問点を発見できる	作品を様々な観点から検討し、問題を発見できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 17世紀美術(1) イタリア-1 カラヴァッジョなど
- 第 2 回 17世紀美術(2) イタリア-2 ベルニーニなど
- 第 3 回 17世紀美術(3) フランドル-1 ルーベンスなど
- 第 4 回 17世紀美術(4) フランドル-2 ヨルダーンなど
- 第 5 回 17世紀美術(5) オランダ-1 レンブラントなど
- 第 6 回 17世紀美術(6) オランダ-2 フェルメールなど
- 第 7 回 17世紀美術(7) スペイン
- 第 8 回 17世紀美術(8) フランス

- 第 9 回 18世紀の美術
- 第 10 回 新古典主義
- 第 11 回 ロマン主義
- 第 12 回 写実主義
- 第 13 回 印象派
- 第 14 回 ポスト印象派
- 第 15 回 近代美術の諸相

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・スライド(パワーポイント)を用いた講義形式とする。
- ・試験の結果、多くの学生が間違えたポイントについて、manabaで説明を公開することでフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布資料の指示された箇所を読んでおくこと。不明な地域や地名について、地図やインターネットで確認すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度50%、学期末試験50%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜資料を配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新西洋美術史』/千足伸行監修/西村書店/1999/4890135839
『世界美術大全集 西洋編 全28巻・別1巻』//小学館/
1995-1997/4096010294他

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

画像検索サイト (英語) Web Gallery of Art (<https://www.wga.hu/>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

西洋美術史特講

CSA2419N1J

大学
国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
2年次 3年次 4年次
2単位 後期
木曜 4限

DP4 : 思考・解決力

90

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

18世紀フランスの肖像画を通して、肖像画という芸術ジャンルならびに啓蒙時代を代表する人々の人物像を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 肖像画の歴史とジャンルとしての性格を理解し、18世紀フランスにおける多くの実例を知る。
2. 様々な人物を通して、啓蒙時代への理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	歴史上の人物の人生について考察したことがない	歴史上の人物の人生について考察し、調査したことがある	歴史上の人物の人生について、社会的な文脈の中で考察できる	歴史上の人物についての記録や伝説、肖像画を批判的考察することができる
知識・理解力	肖像画や啓蒙主義についてほとんど知識がない	啓蒙主義を代表する人物やその肖像画について基本的な知識がある	啓蒙主義を代表する人物やその肖像画について、関連知識を使いながら解説することができる	啓蒙主義や肖像画について、専門的な論文を読み、理解することができる
言語力	啓蒙主義の著作について知識がない	啓蒙主義を代表する著作にどのようなものがあるか知っている	啓蒙主義を代表する著作の一部(和訳でよい)に触れたことがある	啓蒙主義を代表する著作を複数通読したことがある

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
啓蒙時代、肖像画についての基本知識
- 第 2 回 知識人たち
ヴォルテールなど
- 第 3 回 知識人たち
ルソーなど
- 第 4 回 芸術家たちの肖像 1
アカデミーの肖像画家たち
- 第 5 回 芸術家たちの肖像 2
芸術家の自画像・家族の肖像
- 第 6 回 芸術家たちの肖像 3
音楽家たち
- 第 7 回 パトロン・愛好家たち
マリエットなど
- 第 8 回 女性たち
サロンを主催した女性など
- 第 9 回 市井の有名人たち
カフェや市の有名人たち
- 第 10 回 外国人たち
フランクリンなど
- 第 11 回 宮廷の人々 1
ルイ15世など
- 第 12 回 宮廷の人々 2

- マリー・アントワネットなど
- 第 13 回 肖像画の名手たち
カルモンテルなど
- 第 14 回 フランス革命
革命の立役者たち
- 第 15 回 まとめ
受講生の発表

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. スライド (パワーポイント)・配布資料を用いた講義形式
2. 受講生による発表 (最終回)
3. 最終回の発表内容をもとにしたレポートの執筆
4. レポートへのコメント (manaba使用を予定) をフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 配布資料の指示した箇所を読み、課題があればしておくこと。
2. 日ごろから、様々な視覚芸術に親しむこと。
3. 最終回は受講生がなんらかの肖像画 (肖像写真) を選び、人物解説・作品解説を発表することとするので、準備すること。発表内容はレポートとして提出する。また、全員の発表内容を小さな展示にする可能性もある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出課題・レポートを評価の基準とする (60%) が、取り組む姿勢も重視する (40%)。

〔留意事項 (Other Information)〕

最後にレポートを課す。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

昔話とストーリーテリング

CSA2512N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜3限

DP5 : 共生・協働する力

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本をはじめ世界中の昔話を知り、その特徴や歴史的な役割の変遷を知る。また、実践を通して、口承文化がどのように継承されてきたかを学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 昔話を数多く読み、その時代や地域による特徴や普遍性について学ぶ。
2. 昔話の生まれた文化的背景を学ぶ。
3. 子ども向けに編纂された昔話とその課題について学ぶ。
4. 昔話を実際に語ってみる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	昔話をたくさんは知らない。	多様な種類の昔話を知っている。	昔話と各地域の歴史・文化との関連性を理解している。	昔話と歴史・文化との関連性を知ったうえで、その継承の意義を理解している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 I 概論 昔話とは何か。
- 第 2 回 II 昔話を読む(1) 2、3、7、12 : 数字の持つ意味
- 第 3 回 II 昔話を読む(2) 異類婚 : 日本とヨーロッパの違い
- 第 4 回 II 昔話を読む(3) 異形のものたち : 人の心が生み出した妖しい存在
- 第 5 回 II 昔話を読む(4) 由来話 : ものの起源、ことの起こり
- 第 6 回 III 昔話の歴史的な役割の変遷と文化的背景
(1) 古代~中世
- 第 7 回 III 昔話の歴史的な役割の変遷と文化的背景
(2) 近代~現代
- 第 8 回 IV 子どもと昔話(1) グリムの登場
- 第 9 回 IV 子どもと昔話(2) 昔話絵本
- 第 10 回 IV 子どもと昔話(3) 昔話の残酷性
- 第 11 回 V 昔話を語る(1) ストーリーテリング
- 第 12 回 V 昔話を語る(2) 実践
- 第 13 回 VI 現代への継承(1) 芸術や情報技術との関わり

第 14 回 VII 現代への継承(2) 継承の意義

第 15 回 内容理解確認と振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義では、基本的な事項を把握する。
2. 演習では、昔話をさまざまな方法で実際に語ってみる。
3. 授業中の課題については、その場で口頭によってフィードバックを行う。筆記試験については、終了後manabaで講評をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 提示された昔話をあらかじめ読んでくる。
2. さまざまな工夫をこらして、昔話を語るための準備をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の課題40%、筆記試験60% (第15回に実施) で評価する。授業中の課題には、昔話を語る課題を含む。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師を招くことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600A0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハ

ンディキップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係など、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 各自が関心のあるテーマを探し、それについて学ぶと同時に、研究対象とするために明確な問題意識を持つ。
2. 卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。
 - 1) 卒業論文の作成プロセスを学ぶと共に、文献探索法を身につける。
 - 2) 各自の研究テーマに基づき、研究計画を立てる。
 - 3) 各自のテーマに沿って、調査・研究を進める中で、情報の収集だけでなく、その選択・利用の方法を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	適切な文章を書くことができない。	集めた情報と自分の意見を分けて書くことができる。	集めた情報に基づいて、自分の意見を構築して書くことができる。	論理的で、説得力のある文章を書くことができる。
思考・解決力	自らの考えを論理的に構築できない。	自らの考えを表現できる。	自らの考えを論理的に構築できる。	自らの考えを論理的に構築し、それを研究に生かすことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 論文執筆のプロセス
- 第 3 回 卒業論文テーマの探し方
- 第 4 回 卒論のための図書館利用と文献探索の基礎
- 第 5 回 テーマ探索のための解説と討議
- 第 6 回 テーマ (1) 例) 図書館における子どもへのサービス
- 第 7 回 テーマ (2) 例) 子どもの発達と遊び
- 第 8 回 テーマ (3) 例) 子どもの絵本の選び方
- 第 9 回 卒論のための図書館利用と文献探索の応用 (1)
- 第 10 回 卒論テーマ探しのプロセス発表 (ゼミ発表)
- 第 11 回 文献読解と発表
- 第 12 回 フィールドワーク (1)
- 第 13 回 文献読解と発表
- 第 14 回 研究方法の模索 (ゼミ発表)
- 第 15 回 夏休みに向けての課題 (ゼミ発表)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。
2. 子どもの文化、といっても幅が広いので、具体的な内容は受講生の関心に合わせて調整する。
3. 文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する基本的な知識や現状、他者の考え方を把握する。
4. 3をもとに、ゼミの中で討論することで、他の学生の考え方を知り、自分の考察を深めていく。
5. フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解では担当する文献を事前に読み、その要約に考察を加えたレジュメを作成する。
2. フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。
3. 卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探究するようつとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物70%、授業参加度30%とし、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。
 ゲスト講師による授業を行うこともある。
 必要に応じてフィールドワークに行くが、その場合、交通費が必要となる場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600B0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6: 創造・発信力

60

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当

分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 音楽のさまざまな諸要素を専門科目で学んできた知識を踏まえて、ゼミにおいては少人数指導の下、さらに専門的に掘り進め、卒業論文にまでつなげていくようにする。各自の主体的な研究を尊重しながら進めていきたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 音楽に関する文献を購読し、読解力を深める
2. 卒論執筆に向けて、各自のテーマに沿って準備を進める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入 (ゼミの進め方について)
- 第 2 回 クリティカル・リーディング (どうやって本を読むか?)
- 第 3 回 クリティカル・リーディング (問いを立てる)
- 第 4 回 クリティカル・リーディング (論理の構造)
- 第 5 回 クリティカル・リーディング (問いの発展)
- 第 6 回 資料検索 (その実際)
- 第 7 回 資料検索 (統計情報の種類と入手方法)
- 第 8 回 データ収集・分析 (データ分析とはどういうことか?)
- 第 9 回 データ収集・分析 (データの種類について)
- 第 10 回 データ収集・分析 (データ分析を伴う研究のポイント)
- 第 11 回 グループ学習 (そのポイントと効果)
- 第 12 回 グループ学習とIT利用
- 第 13 回 ディベート
- 第 14 回 成果発表
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ生の関心と論文作成予定のテーマによるが、音楽学の諸分野 (音楽史、

音楽文化、音楽表現等)の紹介をした上で、実技要素も取り入れながら理解を深めていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

文献購読、発表、演奏などの課題に対して、準備を入念にした上でゼミに臨んでほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、課題等 (70点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合 (6回以上の欠席) は、原則として単位を与えられないので注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『マンガで教養 CD付 はじめてのクラシック』/飯尾洋一/朝日新聞出版/2017年/402333183X/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『決定版 はじめての音楽史: 古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』/片桐功他/音楽之友社/2017年/427611019X

『詳説総合音楽史年表—音楽を世界の歴史からグローバルにとらえる』/皆川達夫/倉田喜弘監修/教育芸術社/2004年/487788212X

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600C0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決めるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

出版、活字文化、そして、それと密接に関わってきた図書館は長い歴史を経て発展してきたが、現在のインターネットを中心とした情報化社会においてそれらは大きく変わりつつある。このゼミでは、出版、図書館を含むが、それに捉われず情報、メディア全般をテーマとする。様々な情報

メディアを取り扱い、情報を探す、利用する、保存する、発信する、また提供する、といった点における諸問題や過去から現在への変遷について考える。さらに現代社会における情報にかかわる諸問題、また文化と情報との関係、文化を発信する力といった面もとりあげる。そして、書物からインターネットまで、過去から現在に至る多様なメディアを読みとって、なにかを発見したり、検証する能力を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 出版、情報メディアの歴史、諸問題について理解を深める。
2. 情報を探索し、分析、または繋げて行くことで研究テーマを見つける。
3. 調査、研究、論文、プレゼンテーション等での発表の方法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	自身の関心あるテーマについて考えたり調べたりすることがほとんどなく、それについての説明も不適切かつ不十分	自身の関心あるテーマに関する考えや調べることが十分ではなく、それについての説明も不足している	自身の関心あるテーマに関して考え、調べ、その内容について説明することができる	自身の関心あるテーマおよび関連領域に関して積極的、自発的に考え、調べ、その内容について説明することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス (ゼミの進め方、各自の興味のあるテーマについてなど)
- 第 2 回 情報をどのように理解し、利用するか
- 第 3 回 フィールドワーク
- 第 4 回 論文購読、発表の準備
- 第 5 回 発表とディスカッション (出版、インターネットなどのメディア)
- 第 6 回 発表とディスカッション (情報、メディアを扱う機関)
- 第 7 回 発表とディスカッション (情報の利用)
- 第 8 回 発表とディスカッション (情報発信)
- 第 9 回 研究テーマ探求のための情報収集
- 第 10 回 調査、研究方法
- 第 11 回 論文の構成と各項目の役割

- 第 12 回 各自の興味あるテーマについての発表
 第 13 回 各自の興味あるテーマについての発表（発表に関連するディスカッション、補足）
 第 14 回 各自の興味あるテーマについての発表（レポート作成作業）
 第 15 回 まとめ：学習内容の確認と課題についての講評
 【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】
 実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

受講者全員がその日に学ぶ部分のテキストや論文を読んできたことを前提に、ディスカッションを実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自が発表を行う。授業中に発表についてフィードバックをする。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

事前に指定された、または自身で選択した文献を読み、その内容についてまとめ、発表の準備をする。調査、情報収集が必要な課題については、図書館、インターネット等で調べてくる。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

授業内活動への参加（40%）、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価（60%）の総合点で評価する。

【留意事項（Other Information）】

関連するテーマについてゲスト講師による授業、学外見学を行うこともある。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

専門演習 I

CSS3600D0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6：創造・発信力

60

朱 鳳

【科目の教育目標（Course Description）】

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

このクラスでは二つのねらいがある。

1. 日中におけることばの共有の歴史に関する基本知識を学ぶ。

2. 卒業論文或いは卒業制作をまとめるに必要な文章力、資料調査方法を身につける。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

ゼミ生の卒業論文テーマによって、学習課題を微調整するが、主に次の課題を取り扱う。

1. 資料の探し方、論文作成に必要な文献リストの作り方。
2. 明治以降のことば研究（西洋言語からの翻訳語、日本との共有）。
3. 現代日中ことばの交流（漫画、ドラマ、貿易などによる新しいことばの共有）
4. 東西およびアジアの多文化交流（文学、民俗、言語、人物などなど）。
5. 授業の最終回において、提出されたレポートを返却し、振り返り学習をする。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	文献講読に全く興味がない。ゼミ発表も全く参加しない。	文献講読内容をあまり理解できていない。ゼミ発表も欠席がある。	文献講読内容をある程度理解できている。ゼミ発表も欠席せずに参加する。	文献講読内容をほぼ理解できている。ゼミ発表も積極的に参加し、自分の意見をしっかり述べる。
創造・発信力	卒業研究のテーマ、形式について全く考えていない。	卒業研究のテーマ、形式について少し考えている。	卒業研究のテーマ、形式についてある程度考えて、文献資料を少し用意出来ている。	卒業研究のテーマ、形式について積極的に考え、文献資料もほぼ用意できている。

【授業計画】

- 第 1 回 インTRODクシヨン
 第 2 回 各自の研究題目について議論する
 第 3 回 レジユメ及び参考文献リストの作成方法
 第 4 回 中国語と日本語の漢字語彙について
 第 5 回 近代日中ことばの交流（明治時代を中心に）に関する論文を読む（1）
 経済用語を中心に
 第 6 回 近代日中ことばの交流（明治時代を中心に）に関する論文を読む（2）
 法律用語を中心に
 第 7 回 フィールドワーク（1）
 京都の街にある漢字語彙を探そう（1）一案内標示を中心に
 第 8 回 発表（1）
 日中の共通語彙について

- 第 9 回 現代日中ことばの交流に関する論文を読む (1)
漫画用語を中心に
- 第 10 回 現代日中ことばの交流に関する論文を読む (2)
飲食用語を中心に
- 第 11 回 フィールドワーク (2)
京都の街にある漢字語彙を探そう (2) - 暖簾を
中心に
- 第 12 回 発表 (2)
京都の街にある漢字語彙について
- 第 13 回 卒業論文の資料について
図書館での研究関連資料の探し方
- 第 14 回 卒業論文について
卒業論文題目と章立てを考える、レポート提出
- 第 15 回 まとめ
レポート返却、振り返り学習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 文献、研究論文を読む。
2. それぞれの興味のあるテーマを見つける。
3. 自分のテーマに関係のある参考書を調べ、文献リストを作る。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

上記の作業を繰り返し行い、参考文献の調査方法、参考書、研究論文の読み方を覚えてもらう。また前期では2回発表を行い、レジュメの作り方、図書の調べ方なども身につけてもらう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業参加度30点、発表内容及び課題提出70点による総合評価である。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師によるスペシャル授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適時にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600E0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6: 創造・発信力

60

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

アラブと魔法の文化ゼミ (担当者: 鷲見朗子)

1. このゼミでは大きく分けて2つの異なる分野を扱い、ゼミ生はいずれの分野からテーマを選んでよい。

1つ目はアラブ・中東・イスラームの分野で、それらについての文学、歴史、宗教、政治、女性学、社会学、芸術等を調査し、明らかにする。中東の映画作品を扱ってもよい。

2つ目は魔法を含めたファンタジーの分野で、この分野は時代、地域の枠にとらわれず、幅広いファンタジー作品を対象にする。ファンタジーとは、魔法を含む超自然的、幻想的、空想的事物をテーマやストーリーの主要要素におき、それらの不可思議さに作品の魅力を求めたものを指す。

2. 各自が上の分野から卒業研究テーマを見つけるために、関心のある事柄について学術論文及び本を読む。

3. 論文を書くための基礎となる文献の探し方・読み方と論文の書き方や記述表現なども学んでいく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. アラブ・中東・イスラームの分野についての調査
2. ファンタジー分野についての調査
3. 文献調査・文献収集
4. 文献の読解・映画の分析
5. 論文の書き方

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる

知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し、覚えた上で、応用につなげる
思考・解決力	宿題、課題に取り組む	宿題、課題に積極的に取り組む	できなかった課題を再度やってみる	自ら課題を考え解決する
共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやるようとする	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 テーマの選び方
- 第 3 回 アラブ
- 第 4 回 中東
- 第 5 回 イスラーム
- 第 6 回 文献精読とパラフレーズ
- 第 7 回 ファンタジー (定義)
- 第 8 回 ファンタジー (種類)
- 第 9 回 ファンタジー (日本・西洋)
- 第 10 回 論文の書き方
- 第 11 回 文献調査法
- 第 12 回 文献収集法
- 第 13 回 発表の仕方
- 第 14 回 発表資料の作り方
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

卒業研究テーマを選ぶために、テキストを含めたさまざまな作品や文献を読む。文献読解によって、知識を深めるとともに、学生が自分自身で問題提起を行い、論理的に主張を組み立て、まとめる力を培う。また、論文を作成するのに必要な文献収集法および発表に必要な発表資料の作り方や発表の仕方などのスキルも学んでいく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 課題作品・文献や自分の興味のあるテーマに関する文献を読む。
2. 読んだ作品・文献についてほかのゼミ生と意見交換を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度50%、発表・レポート50%によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS360G0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6: 創造・発信力

60

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

＜共通目標＞ 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞ 聖書およびキリスト教関連の文献の研究を通してキリスト教の思想と文化について理解を深めることを目的とする。文献の研究や討論や発表を通して、聖書における世界観、人間観、キリスト教思想を理解し、卒業論文作成に向けてテーマを見出すことができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 各自が卒業論文のテーマを見出すために、専門分野の知識を深め、研究方法を学ぶ。
- 2 論文作成のための文献収集法を学び研究の計画を立てる。
- 3 発表の仕方を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
キリスト教に関する文献を精読し、解釈する方法を学ぶ	キリスト教関連文書を読み、理解しようとする	キリスト教関連文書を読むための基礎知識があり、おおむね解釈することができる。	キリスト教関連文書を読解するための基礎知識と批判的に理解する力があり、独創的な視点から解釈することができる。	キリスト教関連文書を読解するための基礎知識と批判的に理解する力があり、独創的な視点から解釈し、討議し、小論文にまとめることができる。
討議し、プレゼンター	グループで自分のテ	グループで自分のテ	グループで自分のテ	グループで自分のテ

シヨンする力を身につける	マについてプレゼンテーションしようとする	マについて概ね的確にプレゼンテーションすることができる	マについて的確にプレゼンテーションすることができ、さらに他者と討議することができる	マについてプレゼンテーションすることができ、さらに他者と討議して、他者との意見交換によって理解を深めることができる
--------------	----------------------	-----------------------------	-------------------------------------------	-----------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 卒業論文のテーマの選び方
- 第 3 回 論文作成の方法
- 第 4 回 研究のための図書館での文献探索
- 第 5 回 聖書釈義の方法
- 第 6 回 キリスト教関連文書の読解の基礎
- 第 7 回 フィールドワーク（キリスト教と芸術）
- 第 8 回 卒論テーマ探索に関する解説とディスカッション
- 第 9 回 文献の解説と討論（例：聖書に登場する女性）
- 第 10 回 文献の解説と討論（例：キリスト教と美術）
- 第 11 回 文献の解説と討論（例：キリスト教の祝祭）
- 第 12 回 発表資料の作成方法
- 第 13 回 フィールドワーク（キリスト教と食文化）
- 第 14 回 文献読解と発表
- 第 15 回 後期に向けて

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1 自分が掘り下げようとするテーマを発見し、卒業論文への方向付けを行う準備をする
- 2 受講生の関心に合わせて聖書やキリスト教関連の文書を選定し、その研究方法を学び、文献や資料を読んで知識を深める。
- 3 フィールドワークを実施し、聖書の背景となる文化やキリスト教に関連する芸術作品等の展示を見学して、キリスト教文化の理解を深める
- 4 上記の研究をもとに、ゼミの中で討論を行い、自分の考えを発表し、他の受講者との意見交換を行う。
- 5 自分の研究をレポートにまとめる。
- 6 授業内で、発表およびレポートの講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1 文献の読解では担当する箇所と参考文献を事前に読み、発表するためのレジュメを用意する。
- 2 フィールドワークに参加して、文献で学んだことを、異なった角度から学ぶよう努める。
- 3 卒業論文のテーマを見つけるために多様な文献に触れ、多方面からそのテーマに関する理解を深めるようつとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、発表・レポート（70%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『聖書 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/9.78820212713E11/学内販売をしない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習Ⅰ

CSS3600H0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6：創造・発信力

60

河野 有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕

＜共通目標＞ 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞テーマ作品（「秒速5センチメートル」）を対象として、各自の興味により、様々な角度や方法で作品世界を論じていく。その過程により、作品を分析する方法について自覚的になる。また、発表とディスカッションにより、コミュニケーション能力を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 自らテーマと方法を選択する。
2. 参考文献、資料を収集し整理する。
3. 口頭発表の準備をし、口頭発表を行う。
4. 「専門演習Ⅱ」のテーマについて考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとしない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられ	授業の内容や用いられ	授業の内容や用いられ	授業の内容や用いられ

	ている術語について理解できていない。	ている術語について、理解している。	ている術語について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	ている術語について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。
言語力	自分の考えを言語を用いて表現できない。	自分の考えを言語を用いて表現できる。	自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を把握することができない。	課題の問題点を把握し、解決するための手法を検討することができる。	課題の問題点を明らかにし、検討した手法により解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	議論や意見交換に参加しようとすることがない。	議論や意見交換に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加し、異なる考え方を尊重できる。
創造・発信力	自分の考えを表現できない。	自分の考えを表現することができる。	自分の考えを効果的な手段によって表現することができる。	自分の考えを効果的な手段と手法によって表現することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 アカデミック・ライティングにむけて
- 第 3 回 対象作品の論じ方（1）－物語の内容について
- 第 4 回 対象作品の論じ方（2）－物語の方法について
- 第 5 回 資料と参考文献について
- 第 6 回 研究文献を読む（1）－研究史を整理する
- 第 7 回 研究文献を読む（2）－先行研究を分析し批評する
- 第 8 回 受講生による発表とディスカッション（1）
- 第 9 回 受講生による発表とディスカッション（2）
- 第 10 回 受講生による発表とディスカッション（3）
- 第 11 回 受講生による発表とディスカッション（4）
- 第 12 回 受講生による発表とディスカッション（5）
- 第 13 回 受講生による発表とディスカッション（6）
- 第 14 回 発表とディスカッションをふり返って
- 第 15 回 専門演習Ⅱにむけて

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 担当者は自分で選択したテーマと方法に基づき資料を収集し準備する。
3. 準備した資料に即して発表し、他の受講者とディスカッションを行い、考察を深める。
4. 授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出する。
4. ディスカッションによって明らかになった課題については次回に補足説明する。
5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. テーマ作品を鑑賞して、自分の感じたことをまとめておく。
2. 参考文献や資料を読み、先行研究と自分の考えを対比させてみる。
3. 自分の考えたことがどのように表現できるか、検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（40%）と発表内容（60%）とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

ゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習Ⅰ

CSS3600K0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP6：創造・発信力

60

吉田 朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、

より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

自分の関心のあるテーマについて、情報収集し、考察を深め、発信する技術を身につける。担当教員の専門は17世紀末～19世紀初めの西洋美術史だが、卒論のテーマについてはなるべく希望に沿うように柔軟に対応する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

関心のあるテーマについて学術的に調査し、得られた情報と考察を、分かりやすく発信するパンフレットと制作意図を解説する企画書を作成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組めていない	課題に主体的に取り組んでいる	自分で進行管理しながら期限までに課題を仕上げている	目指す水準を自分で設定し、それに向けて努力できる
知識・理解力	自分の関心対象についてあいまいな知識しかない	自分の関心対象について基本的な知識がある	自分の関心対象についてどのような調査をすればよいか理解している	自分の関心対象について可能な限り情報を収集している
言語力	自分の関心対象についてうまく説明できない	自分の関心対象について基本的な情報を明確にまとめている	自分の関心対象について詳しい情報と魅力を分かりやすく伝えることが出来る	自分の関心対象について、図解や図版を巧みに併用して分かりやすく伝えられる
思考・解決力	自分の関心対象について深く考えたことがない	自分の関心対象について様々な角度から検討している	自分の関心対象について自分なりの問いを見つけている	自分なりの問いを明らかにしようとして取り組んでいる
創造・発信力	効果的な表現について考えたことがない	様々な実例を見て、効果的な表現を指摘できる	自分なりに試行錯誤して効果的な表現を目指している	状況や受け手のことを考えて表現の手法を選択できている

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
INTROクシヨン
- 第 2 回 発表
仮テーマについて
- 第 3 回 辞典・事典の活用
自分のテーマに関わる事項
- 第 4 回 図書館の活用

- 自分のテーマに関わる様々な文献資料
- 第 5 回 インターネットの活用
画像データベース・博物館ホームページなどの活用
- 第 6 回 パンフレット制作
全体の構成の計画
- 第 7 回 パンフレット制作
図版とキャプション
- 第 8 回 パンフレット制作
解説文の検討
- 第 9 回 パンフレット制作
実例（雑誌特集記事など）の研究
- 第 10 回 パンフレット制作
途中経過の発表
- 第 11 回 パンフレット制作
参考文献リスト
- 第 12 回 フィールドワーク
博物館（実施回未定）
- 第 13 回 フィールドワーク
展覧会鑑賞（実施回未定）
- 第 14 回 フィールドワーク
京都の文化財（実施回未定）
- 第 15 回 まとめの発表
制作したパンフレットの発表

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 各自の関心を持つテーマについて調査する。
 2. 調査結果を発表し、議論を通じて考察を深める。
 3. 情報と考察を発信するパンフレット・制作意図を解説する企画書を作成する。
- ・manabaで提出された企画書へのコメントを本人に公開してフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 必要な調査を行い、発表できる形にしておく。
2. パンフレットと企画書の制作に向け、必要な作業を行う。
3. 日頃から、展覧会や寺社仏閣などで美術作品に触れる機会をつくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度50%、制作物（パンフレット）と企画書の成績50%で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。フィールドワークに関して、費用負担が発生することがあり、授業講時以外への振り替えの可能性はある。フィールドワークの目的地については、変更する可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『イメージ(上)』/前田茂・要真理子/ナカニシヤ出版/2011/9784779505546

『イメージ(下)』/前田茂・要真理子/ナカニシヤ出版/2012/9784779505553

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会/専修大学出版局/2006/4881251740

そのほか、適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600LOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP6: 創造・発信力

60

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 他者に対する捉え方や理解のあり方は自らを映す鏡でもある。わが国に最も近い隣国であり、歴史的に深い関係を持ってきた韓国の社会と文化について、多様な視点から考察することを通じ、韓国という国やそこで暮らす人々についての理解を深める。さらに、韓国を合わせ鏡とすることで、日本という国や日本で暮らす人々について再考することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 卒業論文とは何かについて理解している。
- 2) 韓国の社会と文化に関する基礎的な知識を身につけている。
- 3) 他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化について考えることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
卒業論文とは何かについての理解	卒業論文とは何かについて理解していない	卒業論文とは何かについて理解している		

韓国の社会と文化に関する基礎的な知識	韓国の社会と文化に関する基礎的な知識を身につけていない	韓国の社会と文化に関する基礎的な知識を身につけている		
他国と自国の社会・文化についての比較考察	他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化について考えることができない	他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化について考えることができる		

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 卒業論文とレポートの違い
- 第 3 回 図書館の利用法と文献検索の方法
- 第 4 回 基礎文献読解①－ソウルの現在－
- 第 5 回 基礎文献読解②－朝鮮と韓国－
- 第 6 回 基礎文献読解③－日常の心得－
- 第 7 回 基礎文献読解④－街角の言語－
- 第 8 回 基礎文献読解⑤－食事に見る世界観－
- 第 9 回 基礎文献読解⑥－女たちの世界、化粧と美容整形－
- 第 10 回 基礎文献読解⑦－男たちの世界、徴兵制－
- 第 11 回 基礎文献読解⑧－映画の新しい波－
- 第 12 回 基礎文献読解⑨－日本観の変化－
- 第 13 回 基礎文献読解⑩－ソウルの食べ物日記－
- 第 14 回 基礎文献読解⑪－韓国の色彩－
- 第 15 回 基礎文献読解⑫－ウリと他者－

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・検討対象となる文献を精読し、その内容を正確に理解する。
- ・文献の内容について、その背景や関連する情報について調べ、理解をさらに深める。
- ・理解したことを参加者間で共有し、それらについてディスカッションをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に配布する文献や資料を各自しっかりと読んでくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 授業内容の理解度40%
- 授業参加度40% (ディスカッションへの貢献度など)
- レポート20%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・各回の授業テーマについて主体的・能動的に考察し、ディスカッション等に積極的に参加すること。
- ・ゲスト講師による授業をおこなうことがある。

・フィールドワークに行くことがある。その場合、交通費などの実費がかかる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

四方田犬彦『NHK人間講座 大好きな韓国』日本放送出版協会、2002年、ISBN：978-4141890676、学内販売無（絶版のため購入不可、授業内で資料を配布する）

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650A0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6：創造・発信力

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係、現代社会における子どもの遊びなど、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 各自のテーマについて明確な問題意識を持ち、そのテーマを多様な視点から考察する。
2. 卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。(専門演習Iの1)～3)から続く。)
 - 4) 研究テーマに関する知識を増やし、また、批判的思考を伴いながら、論文の目的に向かって内容を掘り下げていく。
 - 5) 論文の内容を深めると共に、引用文献一覧・参考文献一覧の書き方など、論文作成の形式についても学ぶ。
3. 卒業論文のテーマを決め、その準備を進める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	適切な文章を書くことができない。	集めた情報と自分の意見を分けて書くことができる。	集めた情報に基づいて、自分の意見を構築して書くことができる。	論理的で、説得力のある文章を書くことができる。
思考・解決力	自らの考えを論理的に構築できない。	自らの考えを表現できる。	自らの考えを論理的に構築できる。	自らの考えを論理的に構築し、それを研究に生かすことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 前期及び夏休みの成果発表 (ゼミ発表)
- 第 2 回 テーマについての合議
- 第 3 回 テーマ1についての講義・討論 例) 子どものための図書館・博物館
- 第 4 回 テーマ2についての講義・討論 例) 児童文学と子どもの発達
- 第 5 回 フィールドワーク (1)
- 第 6 回 テーマ3についての講義・討論 例) 子どものメディア利用とその課題
- 第 7 回 卒論のための図書館利用と文献探索の応用
- 第 8 回 卒論テーマの明確化と問いの探求 (ゼミ発表)
- 第 9 回 テーマ1に関する発表・討論 例) 子どものための図書館・博物館
- 第 10 回 テーマ2に関する発表・討論 例) 児童文学と子どもの発達
- 第 11 回 テーマ3に関する発表・討論 例) 子どものメディア利用とその課題
- 第 12 回 フィールドワーク (2)
- 第 13 回 ゼミ発表及び研究方法についての討論
- 第 14 回 卒業研究に向けての情報の整理と利用
- 第 15 回 4年次に向けての準備

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。
2. 各自が自分のテーマに取り組むと共に、他の受講生のテーマについても共に学び、考えていく。
3. 文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する知識を深め、それについて討論する力を育成する。
4. 3をもとに、自分の「問い」をさらに掘り下げていく。
5. フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. グループまたは個人で一つのテーマについて資料を集め、掘り下げて考察し、その結果を発表する。
2. フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。
3. 卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探究するようつとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物70%、授業参加度30%とし、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。
 テーマは学生の関心に応じて変更することもある。
 必要に応じてフィールドワークに行くが、その場合交通費等がかかることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650B0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 音楽のさまざまな諸要素を専門科目で学んできた知識を踏まえて、ゼミにおいては少人数指導の下、さらに専門的に掘り進め、卒業論文にまでつなげていくようにする。各自の主体的な研究を尊重しながら進めていきたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 音楽に関する文献を購読し、読解力を深める
2. 卒論執筆に向けて、各自のテーマに沿って準備を進める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入 (後期ゼミの進め方について)
- 第 2 回 卒業論文作成の方法 1 (はじめに)
- 第 3 回 卒業論文作成の方法 2 (テーマを決める)
- 第 4 回 卒業論文作成の方法 3 (参考文献を調べる)
- 第 5 回 卒業論文作成の方法 4 (目次を立てる)
- 第 6 回 資料検索 (その実際)
- 第 7 回 資料検索 (統計情報の種類と入手方法)
- 第 8 回 データ収集・分析 (データ分析とはどういうことか?)
- 第 9 回 データ収集・分析 (データの種類について)
- 第 10 回 データ収集・分析 (データ分析を伴う研究のポイント)
- 第 11 回 卒業論文構想 1 (内容検討)
- 第 12 回 卒業論文構想 2 (文章表現)
- 第 13 回 ディベート
- 第 14 回 成果発表
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ生の関心と論文作成予定のテーマによるが、音楽学の諸分野 (音楽史、音楽文化、音楽表現等) の紹介をした上で、実技要素も取り入れながら理解を深めていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

文献購読、発表、演奏などの課題に対して、準備を入念にした上でゼミに臨んでほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、課題等 (70点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合 (6回以上の欠席) は、原則として単位を与えられないので注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『西洋音楽史 (放送大学教材)』 /岡田暁生/放送大学教育振興会/2013年/4595314116/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650C0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜2限

DP6 : 創造・発信力

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

専門演習Iの内容に基づいて、関連する分野で自分の興味のある研究テーマを見つけ、それを研究課題として完成させ、研究計画を作成する方法、研究を進めるに必要な技術を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 発表、ディスカッションを通して、各自が関心のあるテーマから論文として完成可能な課題を見つける。
2. 論文作成の手順、技術またそれに必要な調査、研究方法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	自身の関心あるテーマについて考えたり調べたりすることがほとんどなく、それについての説明も不適切かつ不十分	自身の関心あるテーマに関する考えや調べることが十分ではなく、それについての説明も不足している	自身の関心あるテーマに関して考え、調べ、その内容について説明することができる	自身の関心あるテーマおよび関連領域に関して積極的、自発的に考え、調べ、その内容について説明することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 テーマを研究課題にする
- 第 2 回 テーマを研究課題とするための調査、情報収集
- 第 3 回 課題の設定と解決方法：必要な調査、情報の同定
- 第 4 回 課題解決までのステップ：論文アウトライン
- 第 5 回 情報の入手、分析、課題解決への利用
- 第 6 回 課題の再確認：先行研究の確認と達成可能性のチェック
- 第 7 回 情報の利用、論文作成のルール
- 第 8 回 議論、論述の方法と研究、分析の方法
- 第 9 回 実際の論文、論文報告から学ぶ
- 第 10 回 タスクマネジメント：作業、スケジュールの管理
- 第 11 回 フィールドワーク
- 第 12 回 各自の卒業研究に関する発表
- 第 13 回 各自の卒業研究に関する発表 (今後の課題の同定)
- 第 14 回 論文の序章の提出とディスカッション
- 第 15 回 まとめ (各自の卒業論文完成へのスケジュール管理についての確認)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

受講者全員が指示された事前学習を行ったことを前提に、ディスカッションを実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自が発表し、内容についてフィードバックをする。授業の内容に即した学外見学を随時行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で指示した資料を読み、また授業で提示された課題について図書館、インターネット等を利用して事前に調べてくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内活動への参加 (40%)、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価 (60%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業、学外見学、フィールドワークを行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650D0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6：創造・発信力

60

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標>

国際日本学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

このクラスでは二つのねらいがある。

1. 日中におけることばの共有の歴史に関する基本知識を学ぶ。

2. 卒業論文或いは卒業制作をまとめるに必要な文章力、資料調査方法を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

ゼミ生の卒業論文テーマによって、学習課題を微調整するが、主に次の課題を取り扱う。

1. 資料の探し方、論文作成に必要な文献リストの作り方。
2. 明治以降のことば研究 (西洋言語からの翻訳語、日本との共有)。
3. 現代日中ことばの交流 (漫画、ドラマ、貿易などによる新しいことばの共有)
4. 東西およびアジアの多文化交流 (文学、民俗、言語、人物などなど)。
5. 授業の最終回において、レポートを返却し、振り返り学習をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

思考・解決力	文献講読に全く興味がない。ゼミ発表も全く参加しない。	文献講読内容をあまり理解できていない。ゼミ発表も欠席がある。	文献講読内容をある程度理解できている。ゼミ発表も欠席せずに参加する。	文献講読内容をほぼ理解できている。ゼミ発表も積極的に参加し、自分の意見をしっかりと述べる。
創造・発信力	卒業研究のテーマ、形式について全く考えていない。	卒業研究のテーマ、形式について少し考えている。	卒業研究のテーマ、形式についてある程度考えて、文献資料を少し用意出来ている。	卒業研究のテーマ、形式について積極的に考え、文献資料もほぼ用意できている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 卒業論文と卒業制作の構成について
- 第 2 回 多文化交流 (文学 1)
小説に関する論文を読む
- 第 3 回 多文化交流 (文学 2)
詩に関する論文を読む
- 第 4 回 多文化交流 (民俗 1)
自然観に関する論文を読む
- 第 5 回 多文化交流 (民俗 2)
審美観に関する論文を読む
- 第 6 回 フィールドワーク (1)
京都の街にある多文化事象を探そう (1) 一看板を中心に
- 第 7 回 発表(1)
多文化交流について
- 第 8 回 多文化交流 (人物 1)
宣教師の文化活動に関する論文を読む
- 第 9 回 多文化交流 (人物 2)
外国訪問使節団に関する論文を読む
- 第 10 回 多文化交流 (出版物 1)
近代翻訳書に関する論文を読む
- 第 11 回 多文化交流 (出版物 2)
近代外国語学習辞書に関する論文を読む
- 第 12 回 発表 (2)
近代化における宣教師の役割について
- 第 13 回 フィールドワーク 2
京都の街にある多文化事象を探そう (2) 一建築物を中心に
- 第 14 回 卒業論文について
卒業論文、卒業制作に関するQ&A、レポート提出
- 第 15 回 まとめ
レポート返却、振り返り学習
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1.参考書及び関連論文を読み、自分のテーマに関するレポートを提出し、授業で発表する。2.クラス全員でお互い発表したテーマについて議論する。3.卒業論文のテーマを決める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

発表と議論を通して、研究論文の構成及び書き方の基本を身につけること。後半では卒業論文の章立てを構成し、4年次の卒業論文作成の基礎をつくる。前期と同様に2回の発表も予定している。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業参加度30点、発表内容及び課題提出70点による総合評価である。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適時にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650E0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜2限

DP6: 創造・発信力

60

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標>国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保

ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4

年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められ

るよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> アラブと魔法の文化ゼミ (担当者: 鷲見朗子)

「専門演習 I」で培った基本的知識と方法論を土台に、卒業研究テーマを絞っていく。アラブ・中東・イスラームの分野かファンタジーの分野から関心のある事柄について学術論文及び本を読み、その内容を報告・発表する。各発表では意見交換を行い、知識を共有することをめざす。また、

それぞれにふさわしい方法論を選択し、それらに関する見解を深めていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマの選択
2. 発表の実践
3. 引用の仕方・参考文献の書き方

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し覚えた上で、応用につなげる
思考・解決力	宿題、課題に取り組む	宿題、課題に積極的に取り組む	できなかった問題を再度やってみる	自ら課題を考え解決する
共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやろうとする	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす

〔授業計画〕

- 第 1 回 おおまかなテーマの発表
- 第 2 回 アラブ・中東分野の文献調査
- 第 3 回 アラブ・イスラーム分野の文献読解
- 第 4 回 ゼミ生による発表と討論①アラブ
- 第 5 回 ゼミ生による発表と討論②中東
- 第 6 回 ゼミ生による発表と討論③イスラーム
- 第 7 回 ファンタジー分野の文献調査
- 第 8 回 ファンタジー分野の文献読解
- 第 9 回 ゼミ生による発表と討論④魔法
- 第 10 回 ゼミ生による発表と討論⑤想像上の生き物
- 第 11 回 ゼミ生による発表と討論⑥ファンタジー映画
- 第 12 回 引用の仕方
- 第 13 回 参考文献リストの作成
- 第 14 回 テーマまたは題目の確定と発表
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では各自が選んだテーマにそって、関連文献を読み、それについて発表を行うことで、知識を深めるとともに卒業論文を書く準備を整える。論文作成に不可欠となる引用方法や参考文献の明記法もさらに実践を通して習得していく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

選んだテーマに関連する文献を読んで、発表の準備をする。その際、発表資料も作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度50%、発表・レポート50%によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650G0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 専門演習 I 参照

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 各自が卒業論文のテーマを見出すために、専門分野の知識を深め、研究方法を学ぶ。

2 論文作成のための文献収集法を学び研究の計画を立てる。

3 発表の仕方を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

聖書の研究方法を知ろうとする	聖書を読解し解釈する研究方法に関する知識がある	聖書を読解し解釈する研究方法に関する知識があり、それを応用して実践的に聖書釈義を行うことができる	聖書を読解し解釈する研究方法に関する知識があり、それを応用して実践的に聖書釈義を行う理解力があり、キリスト教に関する文書の文化的・社会的背景を概ね理解し、発展的な研究を行うことができる	
聖書を釈義するための方法に関する知識と理解力を養う				
研究的に研究し発信する力を高める	研究を発表しようとする	研究テーマに関する文献を理解し、クラスで発表することができる	研究テーマに関する文献を理解し、クラスで発表し、討議を通じて研究を進展させることができる	研究テーマに関する文献を理解し、要点を抑えて発表することができ、また高度なレベルで討議する力があり、研究を創造的に独自の視点から発展させ、深めることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 テーマの発表
- 第 3 回 論文の研究方法について
- 第 4 回 聖書学関連の文献調査
- 第 5 回 聖書に題材とした詩画についての討論
- 第 6 回 聖書を題材とした美術についての討論
- 第 7 回 キリスト教の祝祭についての討論
- 第 8 回 キリスト教の文化受肉についての討論
- 第 9 回 フィールドワーク
- 第 10 回 聖書に題材とした詩画についての発表
- 第 11 回 聖書を題材とした美術についての発表
- 第 12 回 キリスト教の祝祭についての発表
- 第 13 回 キリスト教の文化受肉についての発表
- 第 14 回 参考文献リストの作成と題目の発表
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 文化的背景を考慮しつつ聖書やを解釈するためのさまざまな方法を学んで聖書のテキストを釈義する。
- 2 福音書やキリスト教に関する書籍を読み、文化的・社会的背景を研究しつつ釈義し、発表してレポートにまとめる
- 3 フィールドワークを実施し、聖書の背景となる文化やキリスト教に関連する芸術作品等の展示を見学して、聖書の理解を深める
- 4 授業内で発表およびレポートについての講評を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自がテーマを選び、そのテーマに従って関連する論文や書籍を読んで発表を行う。専門分野の知識を深め、論文作成のための方法を実践的に学ぶ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、発表・レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009//学内販売をしない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献は授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650H0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜2限

DP6: 創造・発信力

60

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 「専門演習 I」では、テーマ作品に対する発表とディスカッションを通して、作品を論じる方法について学んできた。「専門演習 II」では、自分のテーマや作品や方法を模索し、卒業研究・卒業制作に着実に取

り組めるような準備を行う。また、発表とディスカッションにより、コミュニケーション能力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 自ら作品やテーマ、方法を選択する。
2. 作品やテーマ、方法に即した参考文献、資料を収集し整理する。
3. 口頭発表の準備をし、口頭発表を行う。
4. 卒業論文・卒業制作のテーマを考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとしない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を進展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている術語について理解できていない。	授業の内容や用いられている術語について、理解している。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。
言語力	自分の考えを言語を用いて表現できない。	自分の考えを言語を用いて表現できる。	自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を把握することができない。	課題の問題点を把握し、解決するための手法を検討することができる。	課題の問題点を明らかにし、検討した手法によち解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	議論や意見交換に参加しようとすることがない。	議論や意見交換に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加し、異なる考え方を尊重できる。
創造・発信力	自分の考えを表現できない。	自分の考えを表現することができる。	自分の考えを効果的な手段によって表現することができる。	自分の考えを効果的な手段と手法によって表現することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 卒業論文・卒業制作にむけて（1）－卒業論文・卒業制作とは何か
- 第 3 回 卒業論文・卒業制作にむけて（2）－本文と資料
- 第 4 回 卒業論文・卒業制作にむけて（3）－研究史との対話
- 第 5 回 卒業論文・卒業制作のプレ構想検討会
- 第 6 回 受講生による発表とディスカッション（1）－日本近代小説
- 第 7 回 受講生による発表とディスカッション（2）－日本現代小説
- 第 8 回 受講生による発表とディスカッション（3）－日本近代詩歌
- 第 9 回 受講生による発表とディスカッション（4）－日本現代詩歌
- 第 10 回 受講生による発表とディスカッション（5）－表象文化（漫画・アニメ・映画）
- 第 11 回 受講生による発表とディスカッション（6）－表象文化（漫画・アニメ・映画）
- 第 12 回 発表とディスカッションをふり返って
- 第 13 回 卒業論文（卒業制作）の構想発表
- 第 14 回 卒業制作（卒業論文）の構想発表
- 第 15 回 卒業論文・卒業制作の計画と準備

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 担当者は自分で選択したテーマと方法に基づき資料を収集し準備する。
3. 準備した資料に即して発表し、他の受講者とディスカッションを行い、考察を深める。
4. 授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出する。
4. ディスカッションによって明らかになった課題については次回に補足説明する。
5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 作品を読んで、自分の感じたことをまとめておく。
2. 参考文献や資料を読み、先行研究と自分の考えを対比させてみる。
3. 自分の考えたことがどのように表現できるか、検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（40%）と発表内容（60%）とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。
ゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650I0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6: 創造・発信力

60

平野 美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕

＜共通目標＞ 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞

- (1) 各自のテーマ決定に向けて、関連の内容を学習する。
- (2) 卒業論文作成のための方法を身につける。
- (3) 話しことばに関する技能向上に努めることによって、各人のテーマを深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1) 各自のテーマに関する知識を増やし、多様な視点から考察する。
- (2) 各自の興味・関心によるテーマについて発表し、討議する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己管理ができない。	自己課題等を認識している。	主体的に授業内容について準備を進めている。	主体的に高度なレベルで準備を進めている。
卒業論文・制作	卒業論文・制作の方法を理解していない。	卒業論文・制作の方法を理解し、文献を収集することができる。	卒業論文・制作の方法を理解し、文献を収集し要約等を行うことができる。	卒業論文・制作の方法を理解し、文献を収集し、論述等を行うことができる。

言語力	自己の卒業論文・制作について説明できない。	自己の論文・制作について説明できる。	自己の論文・制作とともに他者の研究等について、意見等を述べるができる。	自己の論文・制作について端的に述べることができるとともに、他者の研究についても的確に意見等を述べるができる。
-----	-----------------------	--------------------	-------------------------------------	--------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ、企画
- 第 3 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ、企画、資料収集
- 第 4 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ、台本作成
- 第 5 回 話しことばに関する研究・制作
練習、提出資料作成
- 第 6 回 話しことばに関する研究・制作
練習、提出資料修正
- 第 7 回 話しことばに関する研究・制作
キューシート作成、リハーサル
- 第 8 回 話しことばに関する研究・制作
キューシート修正、リハーサル
- 第 9 回 話しことばに関する研究・制作
本番
- 第 10 回 卒業研究
研究計画報告
- 第 11 回 卒業研究
研究計画書検討A（背景、目的、章立て、文献）
- 第 12 回 卒業研究
研究計画書検討B（背景、目的、章立て、文献）
- 第 13 回 卒業研究
修正版 卒業研究検討A
- 第 14 回 一斉授業（実施回未定）
- 第 15 回 卒業研究
修正版 卒業研究検討B

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1) 論文作成のための内容・方法の基礎を把握する。
- (2) 各自の興味・関心によるテーマについて発表し、ゼミで討議する。
- ・課題に対して、随時フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各自のテーマについて調査し、まとめ、発表の準備をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（50%）、発表（50%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・ゲスト講師による授業を行うことがある。
- ・フィールドワークに行く場合、交通費などが必要である。
- ・授業内で資料を配付する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『レポート・論文・プレゼン スキルズ』/石坂春秋/くろしお出版/2003/4874242731

『論文ワークブック』/浜尾麻里他/くろしお出版/1997/4874241271

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650K0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6：創造・発信力

60

吉田 朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

＜共通目標＞ 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞ 1. 専門演習 I で学んだ知識を実践しながら、調査研究を進める。2. 発表と討論の中で、自分の考えを明確にする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 学術的な論文の構成を理解し、実践する。2. 作品情報、参考文献の入手方法を学ぶ。3. 卒業研究に関する発表と討論を通じて、自分の目標を明確にする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組めない。	課題に主体的に取り組んでいる。	自分で課題の計画を立てて進行管理ができる。	自分で目指す目標を設定して努力ができる。

知識・理解力	学術論文の組み立てや作法を理解していない	学術論文の組み立てを理解し、自分のアウトラインを作成している	卒業論文・卒業制作の執筆を一部開始している	自分の研究を先行研究の文脈に位置づけて取り組んでいる
言語力	学術論文を読んだことがない	学術論文を読み、適切なレジюмеを作成できる	アウトラインを作成して、文章を設計できる。	論文に適した文章スタイルを用いて、論理的な文章を書くことができる。
思考・解決力	自分のテーマを明確にできていない。	自分のテーマを絞り込んでいる。	テーマへのアプローチ方法を検討し、準備を始めている。	様々なアプローチの中で、自分が選んだものの良さと限界を説明できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
仮テーマ確認と論文講読について
- 第 2 回 論文講読
西洋美術史（ルネサンス） ※変更の可能性がある
- 第 3 回 論文講読
西洋美術史（バロック） ※変更の可能性がある
- 第 4 回 論文講読
西洋美術史（18～19世紀） ※変更の可能性がある
- 第 5 回 論文講読
西洋美術史（現代） ※変更の可能性がある
- 第 6 回 論文講読
日本美術史 ※変更の可能性がある
- 第 7 回 論文の構成
学術論文の構成
- 第 8 回 文献リスト
文献リストの実例を検討する
- 第 9 回 先行研究
各自のテーマに関する先行研究
- 第 10 回 アウトライン
アウトラインとは何か
- 第 11 回 発表
仮アウトラインの発表
- 第 12 回 フィールドワーク
卒論テーマに関連する施設へのフィールドワーク（実施回未定）
- 第 13 回 フィールドワーク
美術館へのフィールドワーク（実施回未定）
- 第 14 回 フィールドワーク
資料収集のフィールドワーク（実施回未定）
- 第 15 回 まとめ
総括、卒論仮テーマに関するレポート提出

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 学術的な論文を読み、レジюмеを作成することをとおして、論文の構成を理解する。
 2. 卒業研究テーマについて、口頭発表を行い、議論する。
 3. 情報検索のしかた、参考文献の探し方について指導する。
 4. 卒業研究テーマをほぼ決定し、レポートを書いて提出する。
- ・manabaで提出されたレポートへのコメントを本人に公開してフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 講読する論文は全員が読んでくる。担当者はレジюмеを作成する。
2. 文献収集などの課題を確実にを行い、発表できる形にしてくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度50%、発表やレポートの成績50%で評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。フィールドワークに関して、費用負担が発生することがあり、授業講時以外への振り替えの可能性がある。フィールドワークの目的地については、変更する可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『はじめての美術史』/マルシア・ポイントン 木下哲夫訳/スカイドア/1995/4915879259

『A Survival Guide for Art History Students』/Christina Maranci/Prentice Hall/2004/0131401971

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650LOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

石川 裕之

〔科目の教育目標（Course Description）〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当

分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>専門演習Iでの学びをふまえ、卒業研究・卒業制作へとつながる各自の関心テーマについて関連文献・資料を探し、精読し、その内容を整理し、発表する。さらに、発表内容について全員でディスカッションをおこなう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能を身につけている。
- ・自らの問題関心を明らかにし、それを適切な方法で他者へ伝えることができる。
- ・関心テーマについて「問い」を立て、それを学術的論文の作成につなげることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能	卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能を身につけていない	卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能を身につけている		
自らの問題関心についての他者への伝達	自らの問題関心を適切な方法で他者へ伝えることができない	自らの問題関心を適切な方法で他者へ伝えることができる		
関心テーマについて「問い」と学術的論文の作成	関心テーマについて「問い」を立て、それを学術的論文の作成につなげることができない	関心テーマについて「問い」を立て、それを学術的論文の作成につなげることができる		

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 関心テーマの絞り方ーブレインストーミングとKJ法ー
- 第 3 回 リサーチクエストの立て方ー素朴な疑問を学術的「問い」へと導くー
- 第 4 回 論文の基本的な構成
- 第 5 回 研究調査の方法
- 第 6 回 論文作成に関する基本的なルールと注意点
- 第 7 回 論理的思考の仕方と論理的な文章の書き方
- 第 8 回 卒業論文の目次(仮)を立ててみる①ー何を問題とするかー
- 第 9 回 卒業論文の目次(仮)を立ててみる②ー問題を解くためにどんな情報が必要かー

- 第 10 回 卒業論文の目次(仮)を立ててみる③ーどんな手順で問題を解いていくかー
- 第 11 回 各自の関心テーマについての発表①ー例) 大学入試制度の特徴と課題ー
- 第 12 回 各自の関心テーマについての発表②ー例) 家族のあり方の変化とその背景ー
- 第 13 回 各自の関心テーマについての発表③ー例) 日韓交流の歴史と現在ー
- 第 14 回 各自の関心テーマについての発表④ー例) 食文化の日韓比較ー
- 第 15 回 各自の関心テーマについての発表⑤ー例) 韓流ドラマにみる国際政治戦略ー

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・これまであいまいな状態にあった自らの問題関心について見つめ直し、それを意識化・言語化することで、卒業研究・卒業制作へとつながる明確な「問い」を立てる。
- ・自らの関心テーマについて調べて理解したことを客観的かつ論理的なかたちで他者へ伝えるための方法と技術を学ぶ。同時に、自らの理解したことを他者へ正確に伝えることの難しさや、自らの意見や主張について他者を説得することの難しさについても学ぶ。
- ・各自が自らの関心テーマに取り組むとともに、他のメンバーの関心テーマについても学び、考え、議論していく。
- ・4年次になってスムーズに卒業研究・卒業制作をスタートできるよう準備をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

卒業研究・卒業制作の成否は、関心テーマについての「問い」の立て方のよしあしにかかっているといっても過言ではないので、しっかりと取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内容の理解度20%

発表40%

授業参加度40% (ディスカッションへの貢献度など)

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・各回の授業テーマや発表内容について主体的・能動的に考察し、ディスカッション等に積極的に参加すること。
- ・ゲスト講師による授業をおこなうことがある。
- ・フィールドワークに行くことがある。その場合、交通費などの実費がかかる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
なし。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究 2016年度以前入学者

229011A0J
大学
国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
4年次
8単位 集中
一
必修 クラス指定
(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
卒業研究のプロセス	執筆や制作のスケジュールを立てることができない。	指導教員の指示通りにプロセスを進めることができる。	自分でスケジュールを決め、作業を進めることができる。	自分で立てたスケジュールに従って、余裕を持って作業を進めることができる。
テーマに関する知識	卒業研究のテーマに関する知識があまりない。	基本的な用語や概念が理解できている。	基本的なことだけではなく、最新の動向なども把握できている。	そのテーマに関する社会的・歴史的背景など深い知識を持っている。
情報活用能力	必要な文献や情報を探索、入手することができない。	必要な文献や情報を探索し、入手できる。	入手した情報の信頼性などを鑑みながら、情報を選択できる。	入手すべき文献や情報の全体像を把握して、入手しにく情報などにもアクセスできる。

課題解決力	卒業研究のテーマにおける自分の問題意識を明示することができない。	自分の問題意識を論文や制作の「問い」として明示することができる。	自分の「問い」に沿って、卒業研究を進めることができる。	自分の「問い」の答えを明示できるような卒業論文を執筆、または卒業制作における作品を仕上げることができる。
表現力	卒業論文執筆に必要な日本語力がない。	必要なことを自分のことばで表現できる。	論理的な構成に基づいて、論文または制作の企画書を書くことができる。	論文に必要な表現を使い、論理的な構成に基づいて、読者に伝わる論文や制作の企画書を書くことができる。

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査(指導教員)および副査(1名)による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文(制作作品)、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席

も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600AOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査(指導教員)および副査(1名)による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文(制作作品)、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600BOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査(指導教員)および副査(1名)による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文(制作作品)、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600C0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査(指導教員)および副査(1名)による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文(制作作品)、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600D0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	卒業研究に取り組もうとしない。	卒業研究に取り組む意欲があるが、能動的に考えようとする。	卒業研究に自ら取り組んで、研究テーマを能動的に決める。	卒業研究に積極的に取り組んで、ユニークな研究テーマを見つける。
卒業研究の完成度	卒業研究の文献収集、文献講読に全く無関心である。卒業論文・卒業制作を完成できない。	卒業研究の文献収集、文献講読に関心があるが、卒業論文・卒業制作の完成度が低い。	卒業研究の文献収集、文献講読に取り組んで、卒業論文・卒業制作度はやや高い。	卒業研究の文献収集、文献講読に積極的に取り組んで、質の高い卒業論文・卒業制作が出来る。

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査(指導教員)および副査(1名)による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文(制作作品)、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600E0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める

4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。

研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでよく注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600F0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

堀 勝博

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。

研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600G0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6 : 創造・発信力

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600H0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6 : 創造・発信力

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600IOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600J0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6 : 創造・発信力

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

多文化理解

CSA2268N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 後期

火曜2限

DP2 : 知識・理解力

90

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、中東を舞台とする映画を通して、そこに住む人々の歴史、生活、宗教、伝統などについて学ぶことである。戦争、抵抗運動、スポーツ、恋愛・結婚等のテーマを描いたイランやアラブ映画を鑑賞するが、各映画についての背景知識も学習する。映画に登場する人々の生活や思考・行動様式は、わたしたち日本人とどのように違うのか、その違いをどのように受け止めればいいのかを考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 各映画が扱う主題の背景知識（地理、歴史、宗教など）
2. 映画の理解
3. 各主題の文化的背景の理解
4. 日本の文化との比較

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し、覚えただ上、応用につなげる
思考・解決力	宿題、課題や試験に取り組む	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	できなかった問題を再度やってみる	自ら課題を考え解決する
共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやらうとする	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 中東と中東における映画
- 第 3 回 映画「オフサイド・ガールズ」(イラン)(テーマは女子サッカー): 背景知識と映画鑑賞
- 第 4 回 映画「オフサイド・ガールズ」: 映画鑑賞とディスカッション
- 第 5 回 中東・イスラームとスポーツ
- 第 6 回 映画「シリアの花嫁」(フランス・ドイツ・イスラエル)(テーマは結婚と家族): 背景知識と映画鑑賞
- 第 7 回 映画「シリアの花嫁」: 映画鑑賞とディスカッション
- 第 8 回 中東における結婚と家族
- 第 9 回 映画「歌声にのった少年」(エジプト)(テーマはパレスチナ問題): 背景知識と映画鑑賞
- 第 10 回 映画「歌声にのった少年」(エジプト): 映画鑑賞とディスカッション
- 第 11 回 パレスチナ問題、イスラームと音楽
- 第 12 回 映画「少女は自転車に乗って」(サウジアラビア)(テーマは女性問題): 背景知識と映画鑑賞
- 第 13 回 映画「少女は自転車に乗って」(サウジアラビア): 映画鑑賞とディスカッション
- 第 14 回 中東・イスラーム地域における女性
- 第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義
2. 映画鑑賞
3. 映画のあらすじの作成
4. 作品に対する意見発表・討議
5. レポート作成

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 映画が舞台となっている国・地域に関して事前に調査する。
2. 鑑賞した映画のストーリーをまとめる。
3. 鑑賞した映画に対する意見をまとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加・課題プリント等 20%

映画を選んで、それについての発表と討議 20%

レポートまたは試験 60%

欠席5回以上で、単位修得は困難となる

〔留意事項 (Other Information)〕

とりあげる映画作品は諸事情によりほかの作品に変更されることもある。また扱う順序が変わる可能性もある。

回によってはゲスト講師を招いたり、学外フィールドワークとして映画を観に行ったりすることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要な資料は授業で配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献は適宜、授業で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

哲学とキリスト教

CSA2123N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

月曜3限

DP1: 自分を育てる力

90

松井 吉康

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

キリスト教は宗教だが、その中でもカトリックは、哲学と切っても切れない関係にある。本講義では、そうしたキリスト教と哲学の関係を、キリスト教の誕生から現代に至るまでの歴史を振り返りながら考察していく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

キリスト教の核心にあるのは信仰であるが、それが「真理」であることを主張する限り、どういう真理なのかが問われるようになる。そこで問われる真理性がどのようなものなのかを考えていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 信仰と知
- 第 2 回 信じるとはどういうことか
- 第 3 回 知るとはどういうことか
- 第 4 回 初期キリスト教と哲学
- 第 5 回 神学と哲学の間
- 第 6 回 アウグスティヌスの思想 (1)
- 第 7 回 アウグスティヌスの思想 (2)
- 第 8 回 アウグスティヌスの思想 (3)
- 第 9 回 スコラ哲学の時代
- 第 10 回 アリストテレスとキリスト教
- 第 11 回 トマス・アキナス (1)
- 第 12 回 トマス・アキナス (2)
- 第 13 回 トマス・アキナス (3)
- 第 14 回 ルネッサンスと宗教改革
- 第 15 回 ヘーゲルとキルケゴール

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 授業方法：講義、質疑応答
 - 2) 学習方法：質疑応答の中で自分の考えを磨く
- レポートの内容評価については、manaba にて回答する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義で扱った事柄を、自分の問題として、日常の中で消化していく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に出席することは、単位認定の前提である。成績評価は、100パーセント、レポートによる。レポートを執筆

する際には、問題を自分の問題として捉え、あくまでも自分の頭で考えることが大切である。したがって評価もまた、各人が「どれだけ自分の頭で考えたか」で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義という形式ですが、大切なことは、聴講している皆さんが自分で考えるということです。発言を強制したりはしませんが、できるだけ質疑応答が盛んに行われるような授業にしたいと思っていますので、積極的な参加を期待します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示する

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

典礼音楽特講

CSA4121N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜3限

DP1：自分を育てる力

60

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本のコンサートホールにも数多く設置されているパイプオルガンであるが、本来はヨーロッパを中心とした教会においてキリスト教と共に発展してきた。この授業ではパイプオルガンの歴史、構造、作品を中心に学ぶ。更にキリスト教典礼におけるオルガンの役割についても考えてみたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1. オルガンの仕組み
- 2. オルガンの歴史
- 3. 時代と国によって異なるオルガン音楽

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オルガンの構造①導入
- 第 2 回 オルガンの構造②展開
- 第 3 回 オルガンの歴史①導入
- 第 4 回 オルガンの歴史②展開
- 第 5 回 オルガン作品<中世・ルネッサンス>
- 第 6 回 オルガン作品<イタリヤバロック>
- 第 7 回 オルガン作品<オランダ>
- 第 8 回 オルガン作品<スペイン・ポルトガル>
- 第 9 回 オルガン作品<フランス古典>
- 第 10 回 オルガン作品<ドイツバロック>
- 第 11 回 オルガン作品<J.S. バッハ>
- 第 12 回 オルガン作品<ドイツロマン派>

- 第 13 回 オルガン作品<フランス近代>
- 第 14 回 オルガン作品<現代>
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法・・・①文献を読みながら理解を進める。②音楽を聴きながら、楽譜を検討する。
2. 学習方法・・・①CD, DVDによる理解。②演奏の実際を伴う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回に学ぶ箇所を指定しておくので、予習しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、リアクションペーパー・レポート (70点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合 (6回欠席) は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキスト:『オルガンの芸術—歴史・楽器・奏法—』/日本オルガニスト協会/道楽書院/2019年/978-4-8105-3002-5/学内販売有

その他、授業中にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日中近代語彙比較論

CSA2264N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2: 知識・理解力

90

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語と中国語は漢字を共有しているのみならず、共通の語彙も非常に多いとよく言われている。それは日本語が一方向的に中国語から影響を受けているという単純なものではなく、中国語の中にも日本語の語彙が少なくない。この講義では近代西洋文明が押し寄せてきた際の日中両言語の変遷と双方向性の交流過程について考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 近代以前の日本語と中国語の語彙面における交流を把握する。
- 2) 近代における日中語彙交流史の基本知識を把握する。
- 3) 現代社会における日中語彙共有に関する情報を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業内容を全く理解出来ていない。	授業内容を少し理解出来ている。	授業内容をある程度理解出来ている。	授業内容をほぼ理解出来ている。
創造・発信力	授業の議論に全く参加しない。自分の意見を持っていない。	授業の議論にあまり参加しない。自分の意見をはっきり言わない。	授業の議論に一定程度参加し、自分の意見もはっきり言う。	授業の議論に積極的に参加し、ユニークな意見を持って言う。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 古代における日本語と中国語の語彙
- 第 3 回 日本語にある漢字語彙の由来と成立
- 第 4 回 近代西洋文明を受容するための言語的背景
- 第 5 回 近代西洋知識の情報源としての英華字典漢訳西書
- 第 6 回 日本人の英華字典の利用について
- 第 7 回 英華字典と漢字翻訳語の関係
- 第 8 回 近代日本語における中国語語彙の受容
- 第 9 回 明治期の日本語語彙の変遷
- 第 10 回 中国人の日本留学と西洋知識の学習
- 第 11 回 近代中国語における日本語語彙の受容
- 第 12 回 現代社会における日中語彙の交流
- 第 13 回 両言語の双方向性交流の意義
- 第 14 回 日中語彙交流と共有の将来への展望

第 15 回 テスト及びテスト問題の解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 講義形式を取る。
- 2) ディスカッションを行うこともある。
- 3) 講義に映像情報も多用する。
- 4) 最終授業でテストの内容を解説し、フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日中語彙の共有に関する書籍や、最新情報に関する新聞記事を随時学生に紹介する。これらの書籍や、記事を読むことを通して授業の内容をより一層理解してもらうことができると考えている。また学生の授業内容の理解度を把握するため、授業内でディスカッションとワークシートを用いた練習も予定している。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業態度 (30点)、試験 (70点) により行う。欠席回数数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業毎にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』/朱鳳/白帝社//

『近代日中語彙交流史』/沈国威/笠間書院//

『近代日中新語の創出と交流 人文科学と自然科学の専門用語を中心に』/朱京偉/白帝社//

『和製漢語の形成とその展開』/陳力偉/汲古社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本古典文学講読

CSA2250N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

堀 勝博

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

和菓子に「玉椿」「錦秋」「淡雪」といった名前をつけたり、手紙に「新緑の候」「梅の花の香しい季節となりました」といった挨拶を書いたりする日本人の感性はどこから来たの

か——その起源は、日本古典文学の伝統にあるとってよい。この授業では、日本古典の代表作『源氏物語』をとりあげる。全編から印象的な一節をいくつか抄出し、講読する。また、別途テキストにより、日本文学史と変体仮名についても学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 源氏物語の書誌や受容史について学習する
2. 源氏物語の語彙や表現に習熟する
3. 源氏物語の主題について考える
4. 源氏物語本文の音読に熟達する
5. 白楽天「長恨歌」について学ぶ
6. 日本古代における男女関係、婚姻関係について理解する
7. 日本古典文学史について、大略を把握する
8. 変体仮名の読み方を学ぶ
9. 源氏物語について、発表を行う

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
古典文学への関心・知識・理解	古典文学にまったく関心がなく、知識が乏しく、テキストを読むこともできないし、内容をまったく理解することもできない	古典文学にある程度関心をもち、基本的な知識を有し、テキストを読んで、ある程度その内容を理解することができる	古典文学に関心があり、一定程度以上の知識を有し、テキストを読んで、その内容を正確に理解することができる	古典文学に強い関心があり、詳しい知識を有し、テキストを読んで、その内容を深く正確に理解することができる
変体仮名や日本文学史の知識	変体仮名や日本文学史について、まったく知識がない	変体仮名や日本文学史について、ある程度知識がある	変体仮名や日本文学史について、かなり知識がある	変体仮名や日本文学史について、深い知識がある

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入授業 — 源氏物語の魅力
- 第 2 回 源氏物語概説
- 第 3 回 桐壺巻1 源氏物語の時代設定・モデル
- 第 4 回 桐壺巻2 源氏物語の自然描写
- 第 5 回 桐壺巻3 源氏物語と和歌
- 第 6 回 桐壺巻4 源氏物語の古写本・刊本
- 第 7 回 桐壺巻5 源氏物語と古注釈
- 第 8 回 桐壺巻6 源氏物語と漢文学 —長恨歌を中心に
- 第 9 回 夕顔巻1 源氏物語と平安京
- 第 10 回 夕顔巻2 源氏物語成立論
- 第 11 回 夕顔巻3 源氏物語の巻名と人物名
- 第 12 回 若紫巻1 源氏物語の有職故実
- 第 13 回 若紫巻2 源氏物語と日本古典文学
- 第 14 回 橋姫巻 源氏物語の主題
- 第 15 回 まとめと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 源氏物語、古典文学史、変体仮名の三種の教材を毎回取り上げる
2. 源氏物語の原文を音読し、古注を参照しつつ、読解する
3. 口頭発表を求める。また毎時間小テストを実施する
4. 電子辞書ではなく、紙媒体の古語辞典を各自用意すること
5. 予習課題、授業内容に関する補足、小テストの解答などを、manabaにより指示・公開する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 事前に配布する源氏物語のテキストを音読し、所定の課題に取り組むこと
2. 毎回課される小テストに向け、変体仮名と文学史のテキストを事前に学習しておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に参加する意欲・態度の評価点30%、課題発表点20%、最終試験50%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

国語科教諭免許課程履修者必修科目

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『シグマ新日本文学史』//文英堂///学内販売予定

『仮名手引』//和泉書院///学内販売予定

源氏物語本文は、プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『源氏物語大成』/池田亀鑑/中央公論社//

『対校源氏物語新釈』/吉澤義則/平凡社//

『源氏物語湖月抄』/北村季吟/講談社//

『源氏物語評釈』/玉上琢弥/角川書店//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語コミュニケーション I

CSB1500N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

火曜4限

DP5: 共生・協働する力

60

必修 文章表現を含む。

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちは毎日、日本語によるコミュニケーションを行っているが、思いを伝える場における表情やジェスチャーの役割を考えれば、言語による伝達には知識や工夫が求められることが分かるだろう。この授業では、日本語によるコミュニケーションのための基礎知識や基本的な方法を身に付けることを目標とする。また、コミュニケーション活動を客観的に捉え、他者を理解し、互いに協力する関係をつくり上げていこうとする態度を養うことを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解する。
2. コミュニケーションの場における具体的な表現方法を習得する。
3. 相手に思いを伝える文章の表現方法を習得する。
4. 演習やグループワークを通して、協働作業を経験する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。
日本語コミュニケーションの関する知識・理解力	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解していない。	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解している。	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解しながら、コミュニケーションを行うことができる。	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解しながら、コミュニケーションを工夫することができる。

コミュニケーションの場に即した表現をする力	コミュニケーションの場に即した表現ができない。	コミュニケーションの場に即した表現をすることができる。	言葉や表現を工夫して、コミュニケーションの場に即した表現ができる。	受信者を意識した言葉や表現を工夫して、コミュニケーションの場に即した表現ができる。
共生・協働する力	グループでの作業に参加しようとするのがない。	グループでの作業に参加することができる。	グループでの作業に積極的に参加することができる。	グループでの作業に積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
- 第 3 回 日本語のコミュニケーション
- 第 4 回 対人関係の言葉（1）—謝罪・釈明の談話
- 第 5 回 対人関係の言葉（2）—謝罪・釈明の文章
- 第 6 回 対人関係の言葉（3）—依頼・勧誘の対話
- 第 7 回 対人関係の言葉（4）—依頼・勧誘の文章
- 第 8 回 対人関係の言葉（5）—応諾・断りの対話
- 第 9 回 対人関係の言葉（6）—応諾・断りの文章
- 第 10 回 対人関係の言葉（7）—感謝を表す
- 第 11 回 対人関係の言葉（8）—褒める
- 第 12 回 レトリックによる表現
- 第 13 回 敬語による表現
- 第 14 回 手紙の書き方
- 第 15 回 まとめと今後の課題

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 受講生（グループ）は授業中に与えられた課題やテーマに取り組む。
3. 課題の内容について他の受講者（グループ）とディスカッションを行い、考察を深める。
4. 授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出する。
5. 次回の授業で前回の課題に対するフィードバックを行う。
6. 最終授業では全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 気になる日本語の言葉や表現について調べてみる。
2. 日本語コミュニケーションに関する参考文献や資料を読む。
3. 前回の課題に取り組んだときに注意すべきだった点についてまとめておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（40%）とレポート（60%）とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語コミュニケーションⅢ

CSB2500NJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 前期

月曜3限

DP5：共生・協働する力

60

必修 文章表現を含む。

堀 勝博

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代日本人は、歌を忘れたカナリヤのように、対人コミュニケーションが苦手である。ケータイやパソコンは駆使できても、挨拶ができない、敬語は使えない、手紙も書けない、漢字もあやふや、ビジネス・マナーを知らない……。こんなことでよいのだろうか。この科目の最大の目的は、「徳と知」を兼備した大人にふさわしい高いコミュニケーション能力を養うことである。とくに、この「Ⅲ」の授業では、日本語検定3級、漢字検定2級程度の国語力習得を旨とするとともに、就職活動や社会に出た時にきっと役立つであろう、さまざまな文書の書き方、美しい文字を書くためのペン習字など、具体的、実践的なトレーニングを行い、国語力にいつもの磨きをかける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. コミュニケーションやマナーに関するさまざまな考え方や知識について学ぶ
2. レポート作成により、文章表現力を錬磨する
3. 漢字検定2級程度の漢字能力を養成する
4. 日本語検定準2級程度の日本語能力を養成する
5. 手紙、履歴書、ビジネス文書など、さまざまなスタイルの文章表現を演習する
6. 敬語を使えるようにする
7. ペン習字などさまざまな書写課題にとりくみ、字を書くことの楽しさを味わう
8. ゲスト・スピーカーを招き、キャリアに特化した内容の授業を行う

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コミュニケーションやビジネスマナーに関する知識・理解	コミュニケーションやビジネスマナーについて、まったく理解せず、知識をもたない	コミュニケーションやビジネスマナーについて、ある程度理解し、知識をもっている	コミュニケーションやビジネスマナーについて、かなり理解し、知識ももっている	コミュニケーションやビジネスマナーについて、よく理解し、深い知識をもっている
漢字・語彙の知識	漢字・語彙の知識が乏しく、運用能力も低い	漢字・語彙の知識がある程度あり、高卒レベルの運用能力をもつ	漢字・語彙の知識がかなりあり、運用能力も相当もっている	漢字・語彙の知識が深く、運用能力もきわめて高い
文字の書写	文字を正確に書くことができない	文字をある程度正確に書くことができる	文字をかなり正確に書くことができる	文字を正確に美しく書くことができる
文章やレポートの作成	自分で文章をまとめることができず、正しい形式に則ったレポートを書くことができない	自分である程度文章をまとめることができ、ほぼ正しい形式に従ってレポートを書くことができる	自分ですべて工夫して文章をまとめることができ、正しい形式でレポートを書くことができる	自分で構想して、きわめて独創的な文章をまとめることができ、形式面でも注や参考文献など遺漏なくレポートを書くことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入授業 ―コミュニケーションとは何か
- 第 2 回 文字を書く
- 第 3 回 漢字検定、日本語検定に合格するために
- 第 4 回 就職活動に必要なコミュニケーション力
- 第 5 回 文章表現力をつける
- 第 6 回 語彙力をつける
- 第 7 回 レポートや論文の書き方再説

- 第 8 回 添え状の書き方
- 第 9 回 履歴書の書き方
- 第 10 回 手紙の書き方
- 第 11 回 ビジネス文書の書き方 ―案内状や通知文
- 第 12 回 メールの書き方、マナー
- 第 13 回 ビジネスマナーを身につける
- 第 14 回 方言と標準語
- 第 15 回 まとめと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストにより、毎回範囲を決めて、漢字小テストを実施する。その他、日本語検定準 2 級程度の演習問題、視聴解問題、書写練習等、さまざまな学習課題に取り組む。小テストの成績は次回授業で返却し、正解について解説するとともに、書写その他の課題に関しては、実際の記入例をパワーポイント等で見せながら、解説する。manabaもフルに活用したい。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 課題テストの出題範囲を学習しておくこと
2. 事前に指示されたレポートや文章作成課題に取り組むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に取り組む意欲・態度の評価点 40%、レポート点 30%、小テストの評点 10%、最終試験 20% で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ことばの常識問題 1849』//日栄社//9784625234033/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本語検定公式 2 級過去・練習問題集』//東京書籍//

『日本語検定公式 3 級過去・練習問題集』//東京書籍//

『漢字検定過去問題集 2 級』//漢字能力検定協会//

『問題な日本語』/北原保雄編/大修館書店//

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業内で適宜紹介する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語研究

CSA2353N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 3限

DP3 : 言語力

60

安原 凜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語の音韻、文字・表記、語彙、文法・文体、および言語学について理解を深め、日本語の基礎知識を実践練習を交えて習得し、日本語を客観的に見られるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.日本語の音韻的特徴について理解する。
- 2.日本語の文字・表記に関する基本的知識を習得する。
- 3.日本語の語彙の種類や語構成について知る。
- 4.日本語の文法について、理解する。

5.言語学の概略について理解する。

6.日本語教育について知る。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	日本語表現を学ぶ努力が見られない	日本語表現への分析を学ぶ姿勢がある	与えられた課題には積極的に日本語表現の分析ができる	日々の生活から積極的に日本語表現の分析ができる
知識・理解力	授業内容を理解する努力、知識を得ようとする努力が見られない	授業で扱われた内容に関しては、わかる範囲内で理解しようとする	授業で扱われた内容に関しては、積極的に理解するように努められる	自ら積極的に書物等に当たり、知識を増やす努力が見られる。
言語力	日本語の表現力を高めようとする努力が見られない	教えられたことに関しては知識として理解はするが、自らの言語活動に生かせない	教えられたことに関しては自らの言語活動に生かすことができる	貪欲に日本語の表現力を高めようとし、学んだことを自らの言語活動に取り入れる努力が見られる
思考・解決力	思考・解決する方法が示されてもわからない	方法が示されれば、ある程度は思考・解決することができる	自ら解決法を見つけようと努力できる、あるいは、方法が示されればしっかりと思考・解決することができる	多角的に考える力があり、適切な解決方法を自ら見出すことができる
共生・協働する力	他者と意見交換をせず、他者を助ける視点がない	他者と意見交換ができるが、その成果を課題等に生かすことができない	他者と積極的に意見を交わし、助け合って課題を完成することができる	他者と積極的に意見を交わし、助け合って、完成度の高い成果が得られるよう努力することができる
創造・発信力	授業で得られた知識を生かそうとする努力が見られない	授業で得られた知識を生かそうとする努力は見られるが、十分ではない	授業で得られた知識を生かすことができる	授業で得られた知識を発展させることができる

[授業計画]

第 1 回 授業ガイダンス

0

第 2 回 音声 (1)

日本語の子音・母音、拍

第 3 回 音声 (2)

アクセント、イントネーション

第 4 回 形態素

0

第 5 回 語彙 (1)

語構成

第 6 回 語彙 (2)

日本語の語彙

第 7 回 文法 (1)

品詞

第 8 回 文法 (2)

品詞—助詞—

第 9 回 文法 (3)

動詞の活用

第 10 回 文法 (4)

文型

第 11 回 文法 (5)

テンス・アスペクト

第 12 回 文法 (6)

「は」と「が」

第 13 回 文法 (7)

敬語

第 14 回 日本語教育

0

第 15 回 授業総括

0

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施する

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1.講義を基本として授業を進めるが、小テストや課題など実践的スタイルも積極的に取り入れる。小テストや課題は授業で解説し、理解を確かめながら進める。

2.時間があれば、授業でのICTの活用方法も紹介する。

3.毎回の授業で、日本語教育能力検定試験の過去問題や模擬試験問題の聴解部分を取り扱う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

授業に出席しただけでは、日本語教育に関する知識を全て習得することはできない。授業で紹介する参考書などに自ら積極的にあたり、基礎知識を身につけておくこと。予習復習を必ずすること。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業参加度 (40%)、小テスト・課題 (30%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。

[留意事項 (Other Information)]

履修者に合わせて、授業内容を変更することがある。その場合は、別途通知する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で紹介する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業内で紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中学校、進学塾、日本語学校、大学などの機関で、留学生への日本語教育を行った経験がある。

日本語表現

CSA2306N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜1限

DP3：言語力

60

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

職業生活を中心とした社会生活において、よりよいコミュニケーションとなるための日本語表現を学習する。そのために、次の3点を目標とする。

- (1) 授業で扱った内容について、自分の考えをもつ。
- (2) 自分の伝えたいことを具体的にわかりやすく説明し、相手に正しく理解してもらうための文章表現ができる。
- (3) 正しい日本語の理解をベースに、マナーやビジネスシーンでの公的な文書の書き方まで含め、効果的な意思伝達ができるよう、その知識、技能を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 授業で扱った内容について考察する。
- ・ 正しい日本語を書けるようにする。
- ・ コミュニケーションのあり方を考える。
- ・ 公的文書の基礎技能を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文章力	正しい日本語になっていない。ビジネス文書のルールを理解せずに書く。	正しい日本語で文章を書くことができる。ビジネス文書の基本を理解し、サンプルを見ながらであれば書くことができる。	わかりやすく正しい日本語で文章を書くことができる。ビジネス文書のルールを理解し、基本的なビジネス文書が書ける。	読者に配慮した、わかりやすく正しい日本語の文章を書くことができる。ビジネス文書のルールを理解し、応用的なビジネス文書が書ける。

理解・思考力	話しことばと書き言葉の相違や敬語等を理解していない。	授業で扱う内容をおおかた理解している。	授業で扱う内容を理解し、自分の意見を持つことができる。	授業で扱う内容を理解し、様々な視点から考察し、そのうえで、自分の意見を持つことができる。
--------	----------------------------	---------------------	-----------------------------	----------------------------------------------

〔授業計画〕

第 1 回 授業のオリエンテーション

第 2 回 日本語を知ろう
日本語の特質

第 3 回 日本語を知ろう
話しことばと書きことばの違い

第 4 回 日本語を知ろう
表記

第 5 回 日本語を知ろう
敬語・敬意表現

第 6 回 ビジネス文書
ビジネス文書とは何か、「日本語を知ろう」小テスト

第 7 回 社外文書(1)
慣用表現

第 8 回 社外文書(2)
案内

第 9 回 社外文書(3)
依頼

第 10 回 社内文書(1)
社内文書(連絡)、「社外文書」小テスト

第 11 回 メール(1)
基本

第 12 回 メール(2)
依頼

第 13 回 メール(3)
返信

第 14 回 メールのおまとめ
「メール」小テスト

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ 各回の話題やテーマから、自分の意見を、正しい日本語表現になるよう留意して記述する。
- ・ 関連の内容から、知識を確認したり、意識を高めたりする。
- ・ 各回のテーマに関する練習をする。
- ・ 小テストを実施し、知識や技能の習得を確認する。
- ・ 前半の提出物や小テストに対してフィードバックがある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ 授業内でできなかった課題を次回までに進めておく。
- ・ 学習した内容について、実生活でも実践する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (45%)、レポート (25%)、小テスト (30%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

資料をmanabaにあげたり、配布したりする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『大学生のための日本語表現実践ノート 改訂版』/米田明美他/風間書房/2010/4759917772

『日本語表現法 改訂版』/沖森卓也・半沢幹一/三省堂/2007/4385345899

『ビジネス文書458文例』/田辺麻紀他/こう書房/2003/4769607989

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語文法

CSA2352N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 4限

DP3: 言語力

60

堀 勝博

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語は、世界でも難しい言語の一つとされる。助詞「が」と「は」の使い分け、「のだ」構文の用法、「なら」「たら」「と」「ば」の条件表現の区別など、その最たるものである。この授業は、そのような具体的な問題を取り上げつつ、日本語を文法的に概観することを目標とする。学校文法(口語文法)の概要を解説し、国語学や現代日本語学で用いられる術語、また日本語教育文法の考え方などもまじえて、理解を深めていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本語文法の概略について理解する
2. 伝統的文法論で用いられる術語について理解する
3. 現代日本語学で用いられる術語について理解する
4. 日本語教育文法の概略を把握し、伝統文法との違いについて理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

品詞について	品詞について理解していない	品詞の名称を把握し、用例を挙げることができる	品詞の機能と種類をおおむね理解し、用例を挙げることができる	品詞の機能と種類をよく理解し、用例を挙げ、区別することができる
動詞の活用	動詞の活用について理解していない	五段動詞と一段動詞をおおむね区別することができる	五段動詞と一段動詞を正しく区別することができる	五段動詞と一段動詞の区別ができ、活用表を正確に書くことができる
文法全体の理解	文法に関する基本的な考え方について理解できていない	文法に関する基本的な考え方をおおむね理解している	文法に関する基本的な考え方を理解し、他人にわかりやすく伝えることができる	文法に関する基本的な考え方を理解し、他人に伝えることができ、自分なりに研究することもできる

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入授業 —文法とは何か
- 第 2 回 文法論と形態論
- 第 3 回 文の定義
- 第 4 回 複合語と派生語
- 第 5 回 接頭語と接尾語
- 第 6 回 品詞を概観する
- 第 7 回 名詞のいろいろ
- 第 8 回 数詞の諸問題
- 第 9 回 指示詞、形式名詞
- 第 10 回 形容詞の諸問題
- 第 11 回 動詞の活用 —五段と一段
- 第 12 回 動詞の文法 —自動詞・他動詞、補助動詞、受身など
- 第 13 回 動詞の文法 —テンス、アスペクト、ムード
- 第 14 回 副詞の種類と機能
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義により、学校文法の概略を把握し、現代日本語学の主な述語について習熟する
2. 日本語教育において問題にされる文法的事項について、具体的に考察する
3. 予習課題、授業内容に関する補足、小テストの解答などを、manabaにより指示・公開する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指定された課題について取り組み、文法への問題意識をもって授業に臨む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に参加する意欲・態度の評価点40%、最終試験の成績60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

日本語教員養成課程履修者必修科目。国語科教諭免許課程履修者も受講することが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本文法大辞典』/佐藤喜代治編/明治書院//

『コミュニケーションのための日本語教育文法』/野田尚史編/くろしお出版//

『日本語の謎を探る』/森本順子著/ちくま新書//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本思想

CSA2273N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

松井 吉康

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本古来の宗教から現代の宗教までを概観するとともに、近代以降に成立した新たな哲学について学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現代を生きる私達の行動や考え方は、日本の歴史の中で育まれてきたものである。つまり思想の伝統を理解することは、自分自身の行動や考え方を理解することにほかならない。そういう問題意識を持って、自分達の伝統を顧みつつ、自己理解を深めていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第1回 授業の狙い。ガイダンス。

第2回 日本の伝統宗教としての神道。(1) 神社

第3回 日本の伝統宗教としての神道。(2) 祭り

第4回 日本の伝統宗教としての仏教。(1) 釈迦の宗教

第5回 日本の伝統宗教としての仏教。(2) 大乘仏教

第6回 近代化とは何か

第7回 明治維新

第8回 富国強兵と日本の近代化

第9回 国家神道

第10回 敗戦と日本社会

第11回 戦後民主主義と高度経済成長期

第12回 日本社会と戦後教育

日本近代の教育システムについて。

富国強兵政策の一環としての教育。

第13回 1970年代

第14回 現代社会の空気

第15回 私達の時代とは

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義という形式であるが、各々のトピックについて学生に問いかける授業にする。発言を強制することはないが、自分自身で問題を考える訓練をするのだと思って参加して欲しい。レポートの内容評価については、manabaにて回答する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前回の授業の内容を日常生活の中で顧みて、過去と現在のつながりを意識する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

100パーセント、最終レポートで評価する。レポートを執筆する際には、問題を自分の問題として捉え、あくまでも自分の頭で考えることが大切である。したがって評価もまた、各人が「どれだけ自分の頭で考えたか」で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義という形式ですが、大切なことは、聴講している皆さんが自分で考えるということです。発言を強制したりはしませんが、できるだけ質疑応答が盛んに行われるような授業にしたいと思っていますので、積極的な参加を期待します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業中に適宜紹介する

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

ドイツ・ミュンヘン大学(LMU)にて、専任講師として日本語教育・日本文化紹介等の授業を担当

日本伝統文化論

CSA2202N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

鳥居本 幸代

[科目の教育目標 (Course Description)]

雅楽は伝統芸能のなかで最も長い歴史を有しているが、日本古来のものではない。6世紀中葉、仏教伝来とともに中国、朝鮮、ベトナムなどから伝来した外来の音楽と舞である。大宝律令に雅楽寮を置いて育成保護に務め、平安時代には宮廷行事に不可欠な存在となり、貴族の教養科目の1つに数えられるほど愛好された。千年の時を隔てて継承された雅楽を通して、伝統文化の一端を探る。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 雅楽の歴史
2. 雅楽をとりまく環境
3. 雅楽と舞楽
4. 雅楽と装束
5. 平安朝文学作品と雅楽

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 序論 日本音楽の流れ
- 第 2 回 雅楽の定義
- 第 3 回 三韓楽と伎楽の伝来
- 第 4 回 雅楽器の演奏体験

- 第 5 回 外国音楽の消化
- 第 6 回 正倉院宝物の雅楽器
- 第 7 回 正倉院宝物の伎楽面
- 第 8 回 雅楽の日本化
- 第 9 回 舞楽の鑑賞
- 第 10 回 平安貴族の教養となった雅楽
- 第 11 回 平安朝の宮廷行事と雅楽①
- 第 12 回 平安朝の宮廷行事と雅楽②
- 第 13 回 法会と雅楽
- 第 14 回 祭礼と雅楽
- 第 15 回 雅楽の現代

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施する

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

講義形式で授業を進めるが、DVDなどを活用してテキストの内容を補足する。さらに、雅楽器を手にとって演奏の体験をし、舞楽の観賞も実施する。第2回講義から実施する小テストを次回講義のはじめに返却し、フィードバックを行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

第1回の授業以降、次回の授業内容に相応するテキストの箇所を指定し、読んでおくこと。その結果確認のため、講義の終わりに小テストを行う。

- 第2回 P3~13
- 第3回 P15~24
- 第4回 P5~12
- 第5回 P28~45
- 第6回 P51~65
- 第7回 P24~27、P66~73
- 第8回 P75~92
- 第9回 P218~250
- 第10回 P95~122
- 第11回 P92~95、P123~146
- 第12回 P163~186、P196~204
- 第13回 P46~50、P186~196
- 第14回 P147~163
- 第15回 P205~217、P251~268

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

評価は授業参加度 (30%)、小テスト (20%)、確認テスト (50%) に基づいて総合的に行う。

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『雅楽—時空を超えた遙かな調べ—』/鳥居本幸代/春秋社/2008年//学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『日本の古典芸能第2巻 『雅楽・王朝の宮廷芸能』/芸能史研究会編/平凡社/1970年/

『雅楽のデザイン・王朝装束の美意識』/多忠麿編/小学館/1990年/

『日本音楽叢書1『雅楽』』/木戸敏郎編/音楽友之社/1990年/

『雅楽・重要無形文化財』/下中記念財団編/平凡社/1990年/

『雅楽入門』/増本伎共子/音楽友之社/2000年/

『雅楽のコスモロジー』/小野真龍/法蔵館/2019年/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本年中行事論

CSA3250N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次 4年次

2単位 後期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

堀 勝博

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本には、さまざまな年中行事が今も行われているが、それぞれがどのような由来をもち、どのような意味をもつものであるのかということについては、存外知られていない。正月にしめ縄を飾るのはなぜ？ 盆踊りは、何の意味がある？ —この授業は、そのようにわれわれが忘れてしまった日本の年中行事の意味について、由来や歴史をたどりつつ考察することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本の年中行事にどのようなものがあるかを知る
2. 日本の年中行事の特徴について学ぶ
3. 日本の年中行事の由来や歴史について探求する
4. 年中行事と関わりの深い暦法の由来や概略について理解する
5. 日本の年中行事にゆかりのある名所・旧蹟に出かけ、実地で学習を深める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
日本年中行事への理解	日本年中行事への理解が薄弱で、定期試験レポートが評価に値しない。	日本年中行事への理解が一定程度あり、定期試験レポートもある程度評価できる。	日本年中行事への理解があり、定期試験レポートもかなり評価できる。	日本年中行事への深い理解があり、定期試験レポートも高く評価できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入授業 —授業の方針など
- 第 2 回 日本文化と日本年中行事
- 第 3 回 日本年中行事の種類
- 第 4 回 日本年中行事の特徴
- 第 5 回 日本年中行事の研究手法
- 第 6 回 日本年中行事の発祥と暦法

第 7 回 日本年中行事と近代化 —明治の改暦

第 8 回 日本年中行事各論—正月と年越し

第 9 回 正月行事の諸相

第 10 回 小正月、節分、事八日など

第 11 回 雛祭り、涅槃会、彼岸、七夕など

第 12 回 盂蘭盆、中秋、重陽、七五三など

第 13 回 フィールドワークまたは特別講義

第 14 回 フィールドワークまたは特別講義

第 15 回 京都の祭り —祇園祭を中心に

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 日本の主な年中行事の由来や意味について、講義形式で解説する
2. 日本年中行事を記録した画像や映像を見る
3. 京都市内の寺社へ出かけ、年中行事について実地学習を行う (下鴨神社を予定)
4. 予習課題、レポート課題、授業内容に関する補足の解答などを、manabaにより指示・公開する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 事前にテキストを読んでくること
2. 事前に指示された調査課題・発表課題を準備してくること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に参加する意欲・態度の評価点40%、定期試験の成績60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

大学コンソーシアム京都 開放科目

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『日本年中行事論講義資料集・同別冊』/堀勝博/京都ノートルダム女子大学/平成23年//学内販売をしない予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本年中行事辞典』/鈴木棠三/角川書店//

『日本民俗事典』/弘文堂/大塚民俗学会//

『年中行事大辞典』/加藤友康他/吉川弘文館//

授業中に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本美術史

CSA2212N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 2限

DP2：知識・理解力

60

山田 由希代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

古代から近代まで、日本の美術作品について概観し、作品からそれぞれの時代の文化を探る。それによって、制作された作品と社会との関係性を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1.日本美術の基礎的知識の習得

2.作り手と受け手との関係

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 日本美術とは
- 第 2 回 縄文ー土器の華麗な変遷ー
- 第 3 回 弥生ー土器から金属器へー
- 第 4 回 飛鳥ー仏教がやって来たー
- 第 5 回 奈良ー華やかな海外文化の移入ー
- 第 6 回 平安ー心機一転、新しい都へー
- 第 7 回 平安ー貴族の王朝文化とはー
- 第 8 回 平安・鎌倉ー絵巻物の隆盛ー
- 第 9 回 鎌倉ーどこまでもリアルにー
- 第 10 回 室町・桃山ー異国趣味・武将好みー
- 第 11 回 江戸ー文様の流行ー
- 第 12 回 江戸ー和のデザイン・琳派ー
- 第 13 回 江戸ー浮世絵とはー
- 第 14 回 近代ーもっと、リアルにー
- 第 15 回 期末のまとめと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心とする。その際、作品鑑賞のために情報機器を用いて、視覚によっても理解を深める。必要に応じて資料を配布する。記述された課題等については授業内で触れていくこととする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

あらかじめ、図書館などで日本美術に関する図書に目を通しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末のまとめテスト (60%) および授業参加度 (40%) をあわせて評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

日頃から、美術館や博物館などで、なるべく多くの作品に接すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本の伝統文様』/並木誠士監修/東京美術/2006/

『日本美術の歴史』/辻惟雄/東京大学出版会/2005/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

美術館学芸員として勤務するなか、美術工芸品を扱うことや作家およびその制作過程に触れる経験を有しているため、通史的な内容に加えて実際に制作される際の詳細な技術など多様な視点から授業を行う。

日本美術特講

CSA3201N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次 4年次

2単位 後期

木曜 3限

DP2：知識・理解力

60

苦名 悠

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

京都は、平安時代以来近世に至るまで、日本の政治と文化の中心地として機能してきた。そのため京都では、各時代を代表する彫刻や絵画が多く生み出され、その一部が諸神社などに現存している。これらの遺品について学ぶことは、日本美術史を理解する上で重要な意義を持つ。

本科目では、各学生が、講義を通して日本美術史に関する基礎知識と、京都市内に現存する各作例に関する近年の研究成果を学び、見学会を通して実際の作品を観察し、講義の内容を実地に検証する。

これらにより、先行研究を踏まえて作品を観察し、作品に

ついて自らの言葉で論じられるようになることが期待される。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本美術史に関する基礎知識を修得する。
2. 知識を踏まえて作品を鑑賞できる。
3. 作品について自らの言葉で論じることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
授業内容、スケジュール等の説明
- 第 2 回 仏像の基礎知識
仏像の種類、制作技法、様式の変遷などについて
- 第 3 回 広隆寺
半跏思惟像、不空罽索観音像、十二神将像等
- 第 4 回 松尾大社
三神像
- 第 5 回 千本釈迦堂
六観音像、十大弟子像
- 第 6 回 三十三間堂
千体千手観音像
- 第 7 回 智積院
長谷川等伯一門作障壁画
- 第 8 回 養源院
俵屋宗達筆杉戸絵、松図襖
- 第 9 回 まとめ
授業内容のまとめ
- 第 10 回 見学会①
11月28日(土) 見学会① 広隆寺
- 第 11 回 見学会①
11月28日(土) 見学会① 松尾大社
- 第 12 回 見学会①
11月28日(土) 見学会① 千本釈迦堂
- 第 13 回 見学会②
11月29日(日) 見学会② 三十三間堂
- 第 14 回 見学会②
11月29日(日) 見学会② 智積院
- 第 15 回 見学会②
11月29日(日) 見学会② 養源院

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は講義形式で行い、パワーポイントを用いて多くの作品の画像を提示し、適宜レジュメを配布する。講義では、受講生自らが画像を見て積極的に学び考えることを求める。見学会を2回行い、講義で取り上げた作品を実際に見に行く。見学会では、講義の内容を踏まえて作品を鑑賞し、作品に関する理解を深めることを期待する。

毎回提出してもらうコメントに対しては、次回授業時に回答・説明する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

博物館・美術館・寺社へ積極的に足を運び、文化財に関する興味や問題意識を持つこと。

見学会に向けて自主的に学習すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (50%)、期末テスト (50%) に基づいて総合的に行う。

11月28・29日(土・日)の見学会に参加することが履修条件である。二日間の見学会全日程に参加しなければ、単位を取得することはできない。

〔留意事項 (Other Information)〕

見学会の費用は、合計4500円程度(見学会①: 拝観料1700円+交通費600円、見学会②: 拝観料1600円+交通費600円)。見学先の拝観料変更等により、費用が変動する可能性もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

別途指示。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本文化論

CSA1250N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 後期

火曜2限

DP2：知識・理解力

60

岩田 真由子

【科目の教育目標 (Course Description)】

日本はどのような国なのか、知っているようで意外と説明することが難しいのではないだろうか。この授業では日本の文字、神話、地理、歴史、世界遺産、芸能など、日本についての基礎知識を定着させることができる。日本文学や日本語、伝統芸能やサブカルチャーなどの日本文化を専門的に学ぶための土台を形成できる。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ・日本文化を生きたものとして理解し、自分の生活と結びつけて考察する。
- ・日本を中心とした、文化の多様な表現や実態にふれ、その特徴を理解する。
- ・文化研究の方法を知り、現代や過去の文化の在り方を理解する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	レベル2に満たない	授業に参加し、進行を妨げない	集中して授業に取り組む	自ら興味を広げ、調べる
知識・理解力	レベル2に満たない	日本文化の基礎知識を身につける	日本文化の展開を理解する	幅広く日本文化の知識を持ち、関連づけて説明できる
言語力	レベル2に満たない	日本文化に関わる漢字・語彙をある程度身につける	日本文化に関わる漢字・語彙を全般的に身につける	国字や新語なども身につける

【授業計画】

- 第 1 回 日本の衣食住
和服、和食、日本の住居の特徴について基礎を学ぶ。
- 第 2 回 日本の文字 ことばの呪力
今なにげなく使っている漢字、ひらがな、カタカナがいつどのように使われはじめたか学ぶ。
- 第 3 回 日本の神話
世界的に見ても完成度の高い、日本の神話のストーリーを学ぶ。異界や異類についても触れる。
- 第 4 回 日本の古墳・神社

高貴な人が眠る古墳、神がいます神社について知る。

- 第 5 回 日本の世界遺産
日本の世界遺産について学ぶ。
- 第 6 回 奈良時代の文化 正倉院の宝物
正倉院の宝物をとおして、聖武天皇の時代、天平文化について学ぶ。
- 第 7 回 遣隋使・遣唐使
遣隋使・遣唐使にまつわるエピソードと、廃止にいたる歴史を学ぶ。
- 第 8 回 平安時代の文化
遣唐使廃止後の国風文化について学ぶ。
- 第 9 回 古都京都の文化財
平安時代が終わっても都であり続けた京都の文化財を学ぶ。
- 第 10 回 能学
伝統芸能の能楽の歴史と特徴について学ぶ。
- 第 11 回 狂言
伝統芸能の狂言の歴史と特徴について学ぶ。
- 第 12 回 昔話
最古の昔話と考えられる「浦島太郎」を、神話や風土記から読み解く。
- 第 13 回 茶道・華道・書道
茶道・華道・書道がどのように日本ではじまり、今に至るかを学ぶ。
- 第 14 回 現代日本文化の多様性
海外で通じる日本語、海外で流行する日本文化、新語など、最新の状況を紹介する。
- 第 15 回 まとめテストと解説

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

- ・講義形式で授業を行う。配布したプリントをとおして様々な文化表現や実態に触れ、授業をとおして日本文化に対する理解を深めることを目指す。
- ・考えをまとめ、表現する力を養うために、毎時間の終わりに、授業内容に対する感想・意見を提出してもらう。
- ・提出された感想・意見に対して次回授業でコメントし、最終授業で実施する確認テストの解答例を時間内に示すことでフィードバックを行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

- ・授業で紹介した参考文献や文学、映像作品などを実際に自分で味わってみる。
- ・紹介した参考文献以外にも読書体験を広げ、日本文化について考えをまとめる。
- ・京都を実際に自分で歩いてみる。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

60

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

評価は、授業参加度 (50%)、まとめテスト (50%) により行う。

【留意事項 (Other Information)】

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配付

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『比較生活文化事典』/金山宣夫/大修館書店/1977/

『古代日本人の生活の謎』/武光誠/大和書房/1986/

『万葉びとの生活空間』/上野誠/埴書房/2000/

『引き算思考の日本文化:物語に映ったところを読む』/橋本雅之/創元社/2014/

そのほか、授業中に指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

国際日本文化研究センター

<http://db.nichibun.ac.jp/ja/>

奈良国立博物館

<http://www.narahaku.go.jp/>

風俗博物館

<http://www.iz2.or.jp/fukushoku/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本文学特講

CSA3254N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 3限

DP2: 知識・理解力

90

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

著名な日本の近・現代の詩歌を横断的に取り上げ、詩歌において言葉や表現、形式がどのように響き合っているかに着目しながら読むことを目標とする。また、それぞれの詩歌がその時代に担った役割を日本の近・現代史の中で捉え返していくことを目指していく。さらに、詩歌を読み、感じたこと考えたことを論述できるようになる力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本の近・現代の詩歌の形式を日本文学の通時的な流れの中で理解する。

2. 日本の近・現代の詩歌の言葉と表現を読む力を養う。

3. 日本の近・現代の詩歌を読み、自分が感じたこと、考えたことを論述する力を養う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。
詩歌の形式に関する知識・理解	詩歌の形式について理解しようとすることがない。	詩歌の形式について調べることができる。	詩歌の形式について調べ、理解することができる。	詩歌の形式について理解し、他の文献の調査へと発展させることができる。
詩歌の言葉と表現を読む力	詩歌を言葉と表現に即して読むことができない。	詩歌を言葉と表現に即して読むことができる。	詩歌を言葉と表現に即して読み、言葉や表現の特質を把握できる。	詩歌を言葉と表現に即して読み、言葉や表現の特質を分析できる。
自分の考えを論述する力	自分の考えを論述することができない。	自分の考えを論述することができる。	自分の考えを適切な言葉や手法で論述することができる。	受信者を意識しながら、自分の考えを適切な言葉や手法で論述することができる。

〔授業計画〕

第 1 回	イントロダクション
第 2 回	日本近代文学と詩歌
第 3 回	与謝野晶子とその時代
第 4 回	与謝野晶子『みだれ髪』の世界
第 5 回	与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」を読む
第 6 回	石川啄木とその時代
第 7 回	石川啄木と近代短歌
第 8 回	石川啄木『一握の砂』の世界
第 9 回	文語定型詩を読む
第 10 回	散文詩を読む
第 11 回	口語自由詩を読む
第 12 回	現代短歌を読む
第 13 回	俵万智『サラダ記念日』の世界

第 14 回

現代短歌とインターネット

第 15 回

まとめと今後の課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は講義形式で行う。
2. プリントを配布して教材として活用する。
3. 授業の終了時に授業の内容にかかわる課題や感想、意見を提出する。
4. 課題に対しては次回の授業において、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 作品を読んで、自分の感じたことをまとめておく。
2. 参考文献や資料を読み、自分の考えをまとめておく。
3. 自分の感じたことや考えたことがどのように表現できるか、検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (40%) とレポート (60%) とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

博物館情報・メディア論

CSA1454N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

山下 晃平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

博物館運営と情報・メディアとの関わり、その意義を理解する。VRやAR等、メディアの発展に伴って、今日の博物館を取り巻く環境は急速に変化しつつある。そのような動向を捉え、自分なりのメディアリテラシーを身につけ、思考・活用するための基礎的な能力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・博物館の役割や活動においてどのような「情報」があるのかを理解する。

・メディアの発達と博物館運営がどのように関わっているのかを知る。

・具体的な作品あるいは表現方法とメディアとの関わりを知り、自身の専門領域において応用し得る知を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	情報やメディアの特性を理解できない	博物館における「情報」「メディア」の機能について理解できる	デジタル技術の発展と博物館運営の関わりについて理解できる	「情報・メディア」の多様さを知り、それを応用するための思考を身につける
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	情報やメディアの特性を理解し、その活用について考える	デジタル技術の発展と社会との関わりについて考えを深めようとする	現代社会とコミュニケーションの将来的な可能性について創造的に考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 プロローグ—博物館における情報・メディアの意義
- 第 2 回 情報・メディアを活用する1—展覧会におけるメディアの活用
- 第 3 回 情報・メディアを活用する2—データベースの構築
- 第 4 回 情報・メディアを活用する3—標本のデジタル化
- 第 5 回 情報・メディアを活用する4—インターネットの活用
- 第 6 回 芸術とメディア1—写真・映像
- 第 7 回 芸術とメディア2—空間・環境
- 第 8 回 芸術とメディア3—情報・デザイン
- 第 9 回 メディアの発展と博物館運営1—「アーカイブ」をめぐる今日の諸相
- 第 10 回 メディアの発展と博物館運営2—デジタル・アーカイブの現状と課題
- 第 11 回 メディアの発展と博物館運営3—バーチャルリアリティの活用
- 第 12 回 博物館運営と情報発信1—多様化するメディアの活用
- 第 13 回 博物館運営と情報発信2—体験の場としてのミュージアム
- 第 14 回 メディアコンテンツの諸問題—知的財産、著作権について
- 第 15 回 エピローグ—インタラクティブ・メディアとしての博物館

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

視聴覚機器 (プロジェクター、DVD、PPT) を用いて、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、博物館における情報とメディアとの関わりについて講義を中心に進める。また各回のコメントを参照しつつ、関連事項を取り上げたり補足を行う。本講義を導入として考え、自分なりの発想や応用を意識して授業に臨んで欲しい。

授業中の発問と中間小レポートに対しては、適宜口頭でフィードバックする。また期末課題 (レポート) に対しては、manabaを通じて講評と解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義への参加だけではなく、自ら積極的に博物館を見学またはイベントに参加し、「情報」をどのように扱っているのかを客観的に見て、分析して見ること。また本講義で紹介する参考文献、Webサイトやイベントを通して、現代社会の様々な「情報」のネットワークを知る、体験すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、授業時の課題 (20%)、課題に対するレポート (50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

内容や進行状況に応じて各回の内容は変わります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用せず、講義毎に適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『博物館情報・メディア論』/日本教育メディア学会/編ぎょうせい/2013/4324095841

『変貌するミュージアムコミュニケーション』/光岡寿郎/せりか書房/2017/4796703659

『知覚を刺激するミュージアム: 見て、触って、感じる博物館のつくりかた』/平井康之、藤智亮、野林厚志、真鍋徹、川窪伸光、三島美佐子/学芸出版社/2014/4761525681

〔参考URL(URL for Reference)〕

・六本木未来会議 (<https://6mirai.tokyo-midtown.com>) 様々な分野で活躍するクリエイターを紹介しているWebマガジン形式のサイト。思考・視点の手がかりになります。

・文化遺産オンライン (<http://bunka.nii.ac.jp/>) デジタル・アーカイブに基づく文化遺産の高品質な画像や情報を掲載するWebサイト。

・美術館・アート情報 artsacpe (<http://artscape.jp>) 今日の国内外の美術動向や批評を配信しているWebサイト。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

該当なし

発展演習 I

CSS2600A0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 前期

木曜2限

DP6: 創造・発信力

60

必修 クラス指定

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

本科目では、ファンタジーとは何かという基本的な概念を理解し、実際にファンタジー作品を読解し、それをもとにした映画を鑑賞することで、それらが伝えようとしているメッセージについて、ほかの受講者とともに考え、意見を交わし、明らかにしていく。イギリス出身の児童文学作家ロアルド・ダール (1916-1990) とロバート・ウェストール (1929-1993) の作品を扱う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. ファンタジーとは
2. 作品の読解と分析
3. 映画の鑑賞と理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し覚えた上で、応用につなげる
思考・解決力	宿題、課題や試験に解答する	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	できなかった問題を再度やってみる	自ら課題を考え解決する
共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやる	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に

			積極的に行動	うことで、他のメンバーを伸ばす
--	--	--	--------	-----------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 ロアルド・ダールについて
- 第 3 回 『マチルダは小さな大天才』 1～7 章
- 第 4 回 『マチルダは小さな大天才』 8～14 章
- 第 5 回 『マチルダは小さな大天才』 15～21 章
- 第 6 回 映画鑑賞「マチルダ」
- 第 7 回 原作と映画の比較（マチルダ）
- 第 8 回 ロバート・ウェストールと作品の背景について
- 第 9 回 『弟の戦争』 1～5 章
- 第 10 回

『弟の戦争』 6～10 章

- 第 11 回 『弟の戦争』 11～16 章
- 第 12 回 『弟の戦争』の全体像
- 第 13 回 発表
- 第 14 回 発表
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1. 課題とそれについての意見交換
- 2. 発表
- 3. レポート作成

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1. 作者の経歴と作品の背景を理解する。
- 2. 作品のなかから課された部分を読んで理解する。
- 3. 発表とレポートの構想を練る。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とする（60%）が、授業参加度や取りくむ姿勢をも重視する（40%）。ただし、欠席5回以上で、単位修得は困難となる

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『マチルダは小さな大天才』/ロアルド・ダール/評論社/2012/9.784566014251E12

『弟の戦争』/ロバート・ウェストール/徳間書店/1995

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展演習 I

CSS2600BOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 前期

木曜2限

DP6: 創造・発信力

60

必修 クラス指定

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びながら、自身の関心分野を研究し、将来深めるべき研究テーマを発見する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

ギリシア・ローマ神話とその絵画化を通じて、ヨーロッパ美術の重要な基盤の一つを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	ギリシア・ローマ神話を絵画化した作品に触れたことがない	ギリシア・ローマ神話の有名エピソードと絵画化された有名作品を知っている	自力で参考文献を探し、ギリシア・ローマ神話を主題とした絵画の解説を作成できる	ギリシア・ローマ神話を主題とした絵画について専門的な記述をある程度理解出来る
言語力	ギリシア・ローマ神話にほとんど触れたことがない	ギリシア・ローマ神話の簡単な解説書を読んだことがある	『変身物語』などの有名テキストを一部読んだことがある	複数の有名テキストを通読している
創造・発信力	自分の好きな絵画作品についてあいまいな説明しかできない	自分の好きな絵画作品について基本的な情報を分かりやすく伝えることが出来る	自分の好きな絵画作品について深く分析し、魅力を解説することが出来る	複数の絵画作品を結びつけて比較分析し、解説することが出来る

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 オリンボスの神々 ゼウスなど
- 第 3 回 オリンボスの神々 アポロンなど
- 第 4 回 オリンボスの神々 ディオニュソスなど
- 第 5 回 パンドラなど
- 第 6 回 ヘラクレスなど

- 第 7 回 オルフェウスなど
 - 第 8 回 オイディプスなど
 - 第 9 回 アキレウスなど
 - 第 10 回 オデュッセウスなど
 - 第 11 回 神話をテーマにしたオペラ（変更の可能性があ
る）
 - 第 12 回 神話をテーマにした映画（変更の可能性があ
る）
 - 第 13 回 受講生の選んだ絵画の発表
 - 第 14 回 フィールドワーク（展覧会観覧 実施回未定）
 - 第 15 回 まとめ（展覧会展示）
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポ
ート〕

レポート実施。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキスト（井出洋一郎『ギリシア神話の名画はなぜこんな
に面白いのか』中経出版 2010年）と配布資料を事前に読
み、担当者は内容解説を行う。最終的には、ひとり1～2
点のおすすめ作品を探し、自力で解説を執筆して、ミニ展
示を行う（解説はレポートとしても提出する）。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・テキストの指定範囲を読み、事項を調べる。必要に応じ
て、カラー図版を探し、よく観察する。
- ・ミニ展示に向け、関連する作品を自力で探す。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study
hours (Total)）〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

プレゼンテーションなどの授業参加度50％・レポート50％

〔留意事項（Other Information）〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。
フィールドワークに費用が発生することがあり、また授業
講時以外への振り替えの可能性がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無）〕

『ギリシア神話の名画はなぜこんなに面白いのか』/井出洋一
郎/中経出版 /2010 /4806137502 /学内販売 有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ギリシア神話を知っていますか』/阿刀田高/新潮文庫 /
1984 / 4101255040

『変身物語 上・下』/オウィディウス 中村善也訳/岩波文
庫 /1981・1984 /4003212010・4003212029

『西洋美術解説事典』/ジェイムズ・ホール/河出書房新社/
1988/4309260918

など

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展演習 I

CSS2600D0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 前期

木曜2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

朱 鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修
科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるの
が「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習
を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつ
つ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合っ
た研究テーマは何かといったことについても考えて、授業
を受けてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 日本語における漢語と和語の違いを説明する。
2. 日本語と中国語における漢語共有の歴史を把握する。
3. 四季を表現する季節感のある語彙を確認する。
4. 季節感のあるはがき、手紙を書く。
5. 授業の最終回において、提出されたレポート（はがき、
手紙）を図書館で展示し、振り返り学習をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決 力	日中両言語 にある共通 の漢字語彙 を全く理解 していな い。	日中両言語 にある共通 の漢字語彙 をすこし理 解してい る。	日中両言語 にある共通 の漢字語彙 をある程度 理解してい る。	日中両言語 にある共通 の漢字語彙 をほぼ理解 している。
創造・発信 力	はがき、手 紙の基本的 な書き方を 全く理解し ていない。	はがき、手 紙の基本的 な書き方を ある程度で きる。	季節の言葉 を使い、は がき、手紙 を型どおり に書ける。	季節の言葉 を使い、は がき、手紙 を自分らし さを表すよ うに書け る。

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 日本語にある和語と漢語について
- 第 3 回 春の美しき日本語—早春、仲春
- 第 4 回 春の美しき日本語—晩春
- 第 5 回 夏の美しき日本語—初夏、仲夏
- 第 6 回 夏の美しき日本語—晩夏
- 第 7 回 京都四季の自然巡り(1)—実地調査、京の街の四
季を撮影する
- 第 8 回 秋の美しき日本語—初秋、中秋

- 第 9 回 秋の美しき日本語—晩秋
- 第 10 回 冬の美しき日本語—初冬、仲冬
- 第 11 回 冬の美しき日本語—晩冬
- 第 12 回 正月に関することば
- 第 13 回 発展演習一斉授業
- 第 14 回 展示の準備
- 第 15 回 展示及び振り返り学習
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回教科書及び配付資料の数ページを読む。その上、語彙に関する歴史的背景を丁寧に説明する。その上、学習したことばを使って、季節の挨拶の葉書、手紙を書かせ、毎回添削して学生にフィードバックする。また京都四季折々の自然巡りも実施する。最終的に図書館で学習成果を展示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 教科書と配付資料を事前に読む。
 2. 歳時記などの資料を使って、季語に慣れる。
 3. 授業の指示に従って、京都四季折々の景色を撮影する。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (発表を含む、15%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『大切な人へ贈る手紙にそえる季節の言葉365日』/山下景子/朝日新聞出版/2015/9784023330245/貸し出しする予定

教科書以外も適宜に資料を配付する予定。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『365日季語手帖』/夏井いつき/マルコボ.コム/2017/
『美しき、季節と日本語』/夏井いつき/ワニブックス/2017/978484709390

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展演習 I

CSS2600E0J
大学
国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
2年次
2単位 前期
木曜2限
DP6: 創造・発信力
90
河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 京都に関連する小説や詩歌、映画やアニメ、歌詞等作品を調査する。
2. 作品を素材として、描かれた「京都」のイメージについて考察する。
3. 作品世界に描かれた「京都」のイメージに基づいた現地調査を行う。
4. 作品世界の「京都」を写真や絵などによって表現し、その意図について説明する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとしない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている術語について理解できていない	授業の内容や用いられている術語について、理解している。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や述語とのかわりから背景を理解できている。
言語力	自分の考えを言語を用いて表現できない。	自分の考えを言語を用いて表現できる。	自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。

思考・解決力	課題の問題点を把握することができない	課題の問題点を把握し、解決するための手法を検討することができる。	課題の問題点を明らかにし、検討した手法により解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の考えを表現できない。	自分の考えを表現することができる。	自分の考えを効果的な手段によって表現することができる。	自分の考えを効果的な手段と手法とによって表現することができる。

〔授業計画〕

第 1 回	イントロダクションー授業の位置づけ、授業の進め方、評価について
第 2 回	イメージとして「京都」
第 3 回	文学作品における「京都」
第 4 回	フィールドワーク（1）ー資料収集及び文献調査
第 5 回	グループ発表とディスカッション（1）ー担当作品のイメージを捉える
第 6 回	グループ発表とディスカッション（2）ー制作物を企画する
第 7 回	フィールドワーク（2）ー現地調査
第 8 回	グループ発表とディスカッション（3）ー制作物を作成し提示する
第 9 回	グループ発表とディスカッション（4）ー担当作品のイメージを捉える
第 10 回	グループ発表とディスカッション（5）ー制作物を企画する
第 11 回	フィールドワーク（3）ー現地調査
第 12 回	グループ発表とディスカッション（6）ー制作物を作成し提示する

第 13 回
グループ発表とディスカッション（7）ー制作物を完成させ発表する

第 14 回
グループ発表とディスカッション（8）ー全体をふり返って

第 15 回
まとめー作品の読みとイメージ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
1. 授業は主としてグループワークと発表で行によって進める。
2. グループごとに「京都」に関連する作品を選び、参考文献や資料を収集する。
3. 作品を読み、グループで参考文献や資料を参照しながら作品世界を捉える。
4. 作品が関連する場所に赴き、フィールドワークを行う。
5. 作品における「京都」のイメージを、写真や絵などで表現し、発表する。
6. 発表に対して授業の終了時に感想、意見を提出する。
7. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1. 作品を読んで、自分の感じたことをまとめておく。
2. 参考文献や資料を読み、自分の考えをまとめておく。
3. 自分の感じたことや考えたことがどのように表現できるか、検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、授業参加度（40%）と発表内容（60%）とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕
ゲスト講師による授業を行うこともある。
フィールドワークを行うが、実施する回を変更する場合があります。
テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
プリントを配付する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に紹介する。
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展演習 II

CSS2650A0J
大学
国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
2年次
2単位 後期
木曜 2限
DP6：創造・発信力
60
必修 クラス指定
平野 美保 岩崎 れい 鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・映像コンテンツ制作にかかわる知識や技能の基礎を習得する。

・主体性、時間管理、責任感を向上させる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・技能	制作について理解していない。	制作についておおかた理解し、基礎的なことができる。	制作について全体的に理解し、十分にできる。	制作について詳細に理解し、高度なことができる。
態度	時間管理、主体的、責任をもって行動できていない。	提出物等の締切等に間に合っている。	提出物の締切等に余裕をもって進めている。	創意工夫をしながら、締切等に余裕をもって積極的に進めている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーションと編集技術
・授業の概要説明、撮影、編集
・3名担当
- 第 2 回 練習用コンテンツ制作
・編集
・3名担当
- 第 3 回 著作権と企画
・著作権、企画
・3名担当
- 第 4 回 台本作成
・台本準備、資料収集
・3名担当
- 第 5 回 台本修正

- ・資料収集、台本チェック、ロケーション・ハンティング
・3名担当
- 第 6 回 台本完成、撮影
・台本チェック、撮影
・3名担当
- 第 7 回 撮影、編集
・撮影、編集
・3名担当
- 第 8 回 一斉授業（実施回未定）
・3名担当
- 第 9 回 一斉授業（実施回未定）
・3名担当
- 第 10 回 編集
・編集
・3名担当
- 第 11 回 コンテンツの仕上げ
・編集
・3名担当
- 第 12 回 コンテンツ検討会
・全体で検討会、修正
・3名担当
- 第 13 回 コンテンツの修正
・修正
・3名担当
- 第 14 回 コンテンツ完成
・コンテンツ完成
・3名担当
- 第 15 回 まとめ
・コンテンツ視聴、討議
・3名担当

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 知識、技能を高める。
- 2) 企画し、修正を繰り返しながら、映像コンテンツとしてより良いものにする。
- 3) 希望者や希望チームの中で、著作権等に問題ないコンテンツについては、インターネットにアップロードする。
- 4) プロジェクト学習を通して得たことを討議し、内容・方法について深める。

*最終回の授業でコンテンツや活動に対して講評をする。

*随時、オンラインで実施する場合がある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・関連の内容に関して、情報収集に努める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

コンテンツ50%、授業参加度30%、小レポート20%

〔留意事項 (Other Information)〕

この科目は演習的な性格をもつので、積極的に参加することが重要である。

ゲスト講師による授業を行うことがある。

フィールドワーク (取材等) に行くことがある。その場合、交通費などの実費がかかる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『映像制作ハンドブック』/ビデオサロン編集部/玄光社/2014/4768305385

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 番組制作、ナレーターの経験あり。

発展演習 II

CSS2650B0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 後期

木曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

必修 クラス指定

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

楽譜を読むことができない、或いは苦手という受講者のために初歩から教授する。

少し慣れたら、楽譜を書く練習もしてみる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 イン트로ダクション

第 2 回 楽譜の読み方①ト音記号

第 3 回 楽譜の読み方②ヘ音記号

第 4 回 楽譜の読み方③大譜表

第 5 回 課題 I

第 6 回 楽譜の書き方①ト音記号

第 7 回 楽譜の書き方②ヘ音記号

第 8 回 楽譜の書き方③大譜表

第 9 回 課題 II

第 10 回 キーボードの弾き方①右手

第 11 回 キーボードの弾き方②左手

第 12 回 課題 III

第 13 回 聴音①基礎

第 14 回 聴音②展開

第 15 回 テストとまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

楽譜の基礎知識を勉強したのち、実際に楽譜を見ながらキーボード等で弾く練習もする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、宿題を出すので五線譜を忘れないように持参すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、課題 (30点)、まとめテスト (40点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合 (6回以上の欠席) は、原則として単位を与えられないので注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

予習・復習をしっかりとしてほしい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『いちばん親切的な楽典入門 CD付』/轟千尋/新星出版社/2016年/4405071691/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展演習 II

CSS2650C0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 後期

木曜2限

DP6: 創造・発信力

60

必修 クラス指定

堀 勝博

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

4年次必修科目「卒業研究」、またその前段階である3年次のゼミ分属に向けて、2年次からは本格的に専門教育科目の履修が始まる。そして2年次専門教育の核となるのが、この「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる書物の講読を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについて考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

〈古代和歌と俳句歳時記を読む〉

1. 古代和歌を読み、和歌独特の表現を理解し、味わう
2. 任意の和歌一首を選び、古語辞典をたよりに自分なりの解釈に挑戦する
3. 歳時記を抄読して、俳句の表現の妙を味わう
4. 和歌（短歌）と俳句（俳句）の違いについて理解する
5. 和歌・俳句にちなむ場所にフィールドワークに出かける
6. 和歌や俳句を自分で作ってみる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
和歌文学への関心・理解	和歌文学への関心・理解がまったくない	和歌文学への関心・理解がある程度ある	和歌文学への関心・理解がかなりある	和歌文学への強い関心と深い理解がある
レポート作成	決められた分量・方式によるレポートが書けない	決められた分量・方式により、レポートを書くことができる	決められた分量・方式により、ある程度評価に値するレポートを書くことができる	決められた分量・方式により、きわめて質が高く独創的なレポートを書くことができる

〔授業計画〕

- 第1回 導入授業 —和歌・俳句の魅力
- 第2回 和歌・俳句の読み方、書き方
- 第3回 俳句歳時記所収俳句・俳句を読む
- 第4回 和歌・俳句の歴史
- 第5回 国歌大観所収和歌に関する発表 —万葉集
- 第6回 国歌大観所収和歌に関する発表 —古今集
- 第7回 国歌大観所収和歌に関する発表 —新古今集
- 第8回 国歌大観所収和歌に関する発表 —私家集

第9回 国歌大観所収和歌に関する発表 —中世の和歌
国歌大観所収和歌に関する発表 —江戸時代の和歌

第10回 国歌大観所収和歌に関する発表 —近世の和歌

第11回 松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶の発句

第12回 正岡子規、高浜虚子、飯田蛇笏ら近代俳人の作品

第13回 和歌・俳句を作る（実施回未定）

第14回 歌枕フィールドワーク（実施回未定）

第15回 振り返りとまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 任意に選んだ和歌の解釈・鑑賞について口頭発表を行う。
2. 歳時記から気に入った俳句を選び、解釈・鑑賞文を書いたり、絵に描いたりする。
3. 各学生の発表内容について、自分自身の感想や解釈を述べ、理解を深める
4. 歌かるたに親しむ
5. 予習課題、授業内容に関する補足、小テストの解答などを、manabaにより指示・公開する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 発表を割り当てられた和歌・俳句について、所定の形式に則って関連文献を調べ、レジユメを用意すること
2. 発表が予定されている作品について、事前に予習しておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に参加する意欲・態度の評価点40%、発表ならびに最終試験の成績60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『和歌文学選 歌人とその作品』//神野志隆光他編//和泉書院//1984年//978-4-87088-109-9//学内販売せず

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新編国歌大観』//角川書店//

『合本俳句歳時記』//角川書店//

『日本国語大辞典』//小学館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

二十一代集データベース

http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/G000150121dai

勅撰和歌集の歌句・語彙検索ができる

発展演習Ⅱ

CSS2650D0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 後期

木曜 2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

石川 裕之

〔科目の教育目標（Course Description）〕

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。本科目では、韓国の社会と文化について理解する上で適切な動画教材（映画やドラマなど）を鑑賞し、その内容について考察するとともに全員参加のディスカッションをおこなう。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・韓国の社会や文化に関する基礎的な知識を習得している。
- ・一国の社会・文化が形成される過程やそれを特徴づける諸要因について理解している。
- ・日韓比較の視点に基づいて日本の社会や文化の特徴や課題について考えることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
韓国の社会や文化に関する基礎的な知識	韓国の社会や文化に関する基礎的な知識を習得していない	韓国の社会や文化に関する基礎的な知識を習得している		
一国の社会・文化が形成される過程やそれを特徴づける諸要因についての理解	一国の社会・文化が形成される過程やそれを特徴づける諸要因について理解していない	一国の社会・文化が形成される過程やそれを特徴づける諸要因について理解している		

日韓比較の視点に基づいて日本の社会や文化の特徴や課題についての考察	日韓比較の視点に基づいて日本の社会や文化の特徴や課題について考えることができない	日韓比較の視点に基づいて日本の社会や文化の特徴や課題について考えることができる		
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション、韓国社会と教育制度の概要
- 第2回 韓国の社会と文化①－学歴主義と受験競争－
- 第3回 韓国の社会と文化②－憎悪と憧憬の的、「財閥」－
- 第4回 韓国の社会と文化③－儒教的伝統と母親の役割－
- 第5回 韓国の社会と文化④－「先生様」の国－
- 第6回 韓国の社会と文化⑤－韓国人の「平等観」－
- 第7回 韓国の社会と文化⑥－グローバル化と英語至上主義－
- 第8回 韓国の社会と文化⑦－崇文の思想と文人主義－
- 第9回 韓国の社会と文化⑧－都市部の住宅事情と人々の暮らし－
- 第10回 韓国の社会と文化⑨－「江南（カンナム）」スタイル誕生と軍事独裁政権－
- 第11回 韓国の社会と文化⑩－中高生の「恋愛事情」と女性観－
- 第12回 韓国の社会と文化⑪－結婚は夢のまた夢、三放・五放・七放世代－
- 第13回 韓国の社会と文化⑫－徴兵制と「男らしさ」－
- 第14回 韓国の社会と文化⑬－コリアン・ディアスポラ、韓国人はなぜ「外向き志向」か－
- 第15回 まとめ－韓国社会はどこへ向かおうとしているのか－

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

レポートを作成する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・韓国の社会と文化に関する動画教材を視聴する。
- ・各自が動画教材の内容に関して理解した点や疑問に思った点などを発表する。
- ・提示された疑問点等について調査し、それをもとに全員でディスカッションする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次の回のテーマに関して事前に調べ、予習してくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内容の理解度40%

授業参加度40% (ディスカッションへの貢献度など)

レポート20%

〔留意事項 (Other Information)〕

・各回の授業テーマについて主体的・能動的に考察し、ディスカッション等に積極的に参加すること。

・ゲスト講師による授業をおこなうことがある。

・フィールドワークに行くことがある。その場合、交通費などの実費がかかる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

物語舞台論

CSA3401N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜1限

DP4: 思考・解決力

60

石川 優

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現在、マンガやアニメーション、ゲーム、ライトノベルなどのポピュラー文化が表現する物語は、私たちが暮らす世界に、さまざまな形で拡散している。この授業では、ポピュラー文化の物語世界と、現実世界とのつながりを「物語舞台」というキーワードから考察する。講義とフィールドワークをつうじて、現代日本の物語文化についての理解を深めることを、授業の目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・現代の物語文化を理解するための基本概念を習得し、その概念を説明できるようになる。

・グループワークやフィールドワークをつうじて、現代の物語文化に関する自分の考えを言語化できるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：物語とは何か
授業の主題と射程、スケジュールについて
- 第 2 回 基礎理論 (1) キャラクターとは何か
キャラクターの表現構造について
- 第 3 回 基礎理論 (2) メディアミックスとは何か
メディアミックスの歴史と仕組みについて
- 第 4 回 基礎理論 (3) 聖地巡礼とは何か
聖地巡礼の歴史について
- 第 5 回 事例研究 (1) マンガの舞台
マンガにおける「物語の舞台」について
- 第 6 回 事例研究 (2) アニメーションの舞台
アニメーションにおける「物語の舞台」について
- 第 7 回 事例研究 (3) 小説の舞台
小説における「物語の舞台」について
- 第 8 回 事例研究 (4) ミュージアムとポピュラー文化
マンガミュージアムの成り立ちと特徴について
- 第 9 回 フィールドワーク (京都市内)
「物語の舞台」を探そう
- 第 10 回 第11回とともに、第9回に集約
- 第 11 回 第10回とともに、第9回に集約
- 第 12 回 物語のモビリティ (1) アマチュアによる表現
マンガ同人誌の歴史について
- 第 13 回 物語のモビリティ (2) ファン・イベント
二次創作の表現について
- 第 14 回 海外の事例研究
海外における日本のポピュラー文化の受容について
- 第 15 回 総括と補遺
これまでの授業のふり返りと補足

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・受講生は、manabaをつうじて、毎回の講義でコメントを提出する。フィードバックは、次回授業の冒頭でおこなう。

・受講生は、manabaをつうじて、毎回の講義で授業内容の理解度を問うクイズに回答する。フィードバックは、次回授業の冒頭でおこなう。

・受講生はフィールドワークに参加し、小レポートを作成する。フィードバックは、次回授業の冒頭でおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・資料をmanabaをつうじて配布することがある。教員から指示があった場合は、あらかじめ確認して、予習に役立てること。

・授業内で指示する参考文献に目をとおして、学習を深め

ること。

・日頃から、ポピュラー文化の物語世界が私たちの生活空間にどのように広がっているのかを意識してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・毎回の授業で提出するコメント (20%)
- ・フィールドワークに基づく小レポート (30%)
- ・定期試験 (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

・授業計画は暫定的なものであり、受講生の人数などに応じて変更する可能性がある。

・フィールドワークは原則として土曜日に実施する。日時は授業にて通知する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

該当しない。

ソーシャルワーク演習Ⅰ 2017年度以降入学者

SWR2300NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 通年

木曜 2限

DP3: 言語力

30

三好 明夫

【科目の教育目標 (Course Description)】

本演習では、相談援助に必要な知識と技術を理解し、それを事例的・体験的に学び、現場で活用できるよう修得することを目的とする。相談援助の知識や技術に関わる他の専門科目とも関連づけ、現場実習の事前授業として位置づける。そのため、本演習では学生は各福祉現場の現状や援助場面を想定しながら、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としての基礎的な能力を身につけることをめざす。思考力、解決力、共生、協働していくことができる。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

相談援助の意味を明確にしつつ、その相談援助に必要な実践能力を身につけることである。そのために相談援助職としての専門的な「自己覚知」「ものの見方と考え方」、「援助者の態度」、「コミュニケーションスキル」、「援助プロセスの実際」を、観察・考察の演習と事例検討を通して学習する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会福祉援助技術者を意識できない	社会福祉援助技術者を目標として考える	社会福祉援助技術者になるために必要な力量構築を考える	社会福祉援助技術者として将来、福祉の対象者への援助を行うことを考える
知識・理解力	社会福祉援助技術者が対人援助の専門職であることの理解がない	社会福祉援助技術者の役割、業務について理解できる	社会福祉援助技術者の役割が理解でき領域ごとの業務が理解できる	さまざまな場面での社会福祉援助技術者の援助方法が的確に展開される
言語力	社会福祉援助技術者としての専門用語が理解できない	社会福祉援助技術者としての専門用語とその内容について理解する	社会福祉援助技術者として簡易な事例のロールプレイが行える	社会福祉援助技術者として難解な事例のロールプレイが行える

思考・解決力	教わったこと以上は考えようとしていない	社会福祉援助技術者として日常生活での支援活動の必要に思いをはせていく	社会福祉援助技術者として日常生活での支援活動の重要に向けて実践をイメージする	社会福祉援助技術者として必要なコミュニケーション技術に磨きをかけて問題の解決を行うことができる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献を参考にしながら対人援助の重要ほ考える	考えた結果を他者と共有し、さらに自分の考えを深めていく	レベル3に加えて社会福祉援助技術で学んだ知識を技術に活用する
創造・発信力	自分で勝手に判断や想像した内容を発信する	周囲の状況をしっかりと見極めて社会福祉援助技術者として情報収集できる	幅広い社会福祉援助技術を活用しながら福祉課題の解決策を考える	レベル3に加えて関連援助技術や介護技術の知識も活用して援助を考える

【授業計画】

- 第 1 回 ソーシャルワーク演習Ⅰ
オリエンテーション、対人援助とは
- 第 2 回 対人援助技術者として必要な技術1
自己理解と自己覚知
- 第 3 回 対人援助技術者として必要な技術2
他者を理解すること
- 第 4 回 対人援助技術者として必要な技術3
自他の価値観
- 第 5 回 対人援助技術者として必要な技術4
専門職としての価値・倫理
- 第 6 回 対人援助技術者として必要な技術5
ソーシャルワーカーの使命と役割
- 第 7 回 対人援助技術者として必要な技術6
利用者への姿勢・態度・距離
- 第 8 回 対人援助技術者として必要な技術7
利用者への視線・表情・反応
- 第 9 回 対人援助技術者として必要な技術8
相談援助の基本技術① (傾聴、共感)
- 第 10 回 対人援助技術者として必要な技術9
相談援助の基本技術② (受容的態度など)
- 第 11 回 対人援助技術者として必要な技術10
面接の基本技術① (反復の方法)
- 第 12 回 対人援助技術者として必要な技術11
面接の基本技術② (質問の方法)
- 第 13 回 対人援助技術者として必要な技術12
援助のプロセス① (援助することの意味)
- 第 14 回 対人援助技術者として必要な技術13
援助のプロセス② (援助の方法)
- 第 15 回 対人援助技術者として必要な技術14
前期のまとめ、相談、面接

- 第 16 回 対人援助技術者として必要な技術15
オリエンテーション 対人援助の必要
- 第 17 回 対人援助技術者として必要な技術16
援助のプロセス① (インテーク)
- 第 18 回 対人援助技術者として必要な技術17
援助のプロセス② (アセスメント)
- 第 19 回 対人援助技術者として必要な技術18
援助のプロセス③ (計画)
- 第 20 回 対人援助技術者として必要な技術19
ケースカンファレンスの方法① (情報提供と情報共有)
- 第 21 回 対人援助技術者として必要な技術20
ケースカンファレンスの方法② (課題分析と整理)
- 第 22 回 対人援助技術者として必要な技術21
ケースカンファレンスの方法③ (援助方法の検討)
- 第 23 回 対人援助技術者として必要な技術22
援助計画の作成① (児童・高齢者の虐待事例)
- 第 24 回 対人援助技術者として必要な技術23
援助計画の作成② (障がい児・者と家族の事例)
- 第 25 回 対人援助技術者として必要な技術24
援助計画の作成③ (生活困窮家庭の事例)
- 第 26 回 対人援助技術者として必要な技術25
援助計画のまとめ、事例の振り返り
- 第 27 回 対人援助技術者として必要な技術26
観察と記録、事例の振り返り
- 第 28 回 対人援助技術者として必要な技術27
観察の視点
- 第 29 回 対人援助技術者として必要な技術28
記録の方法、事例の振り返り
- 第 30 回 ソーシャルワーク演習Ⅰのまとめ
後期のまとめ振り返り プロセス、プラン、実施、事例の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。レポートを課す

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

前期：相談援助の知識や技術に必要な講義と体験を通じた学び、個別ワークやグループワーク (ディスカッション)、事例を通じた学びを中心に、学生の主体的な参加型授業であり、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。

後期：「援助プロセスの実際」、「事例検討」をおこなう。この場合も、個別ワーク、グループワーク (ディスカッション)、発表等実践的な授業とする。

前期、後期ともに、グループ課題に取り組み、発表を行う。授業最終に全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

グループ課題が出題され場合には、各グループで協働して取り組みを進めておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加の態度(30%)、グループ課題 (20%)、レポート(50%)によって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

・演習は学生の参加を前提とし、主体的態度をもって臨むこと

・グループワークは互いに尊重し、受容的な姿勢で参加すること

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要に応じてプリント、参考資料などを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じてプリント、参考資料などを配付する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 社会福祉士として高齢者福祉施設での勤務経験あり。

ソーシャルワーク現場実習

SWR3501NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

6単位 集中

その他

DP5 : 共生・協働する力

90

集中

三好 明夫 酒井 久美子 矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ソーシャルワークに関する専門科目で学んだ理論、知識、技術を踏まえて、主として相談援助に従事する社会福祉専門職 (社会福祉士) に必要な専門知識、専門的な援助技術および関連技術を深め、援助者としての資質や能力の習得を目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 各自が実習する分野の社会福祉施設・機関の役割・機能、日常的な運営、職員配置、他の専門職との連携、地域との関係などについて理解を深める。
2. 利用者とのコミュニケーション能力を高め、利用者のニーズやさまざまな行動、態度などに対する洞察能力を養う。
3. 実習を通して援助者としての自己の気づき (自己覚知) を深める。
4. 実習現場の指導者によるスーパービジョンを受けながら、特定の利用者やケースに対する個別支援計画を立案し、援助する経験をもつ。
5. 施設のみならず、地域や在宅での援助の方法を幅広く理解し、他の職種との連携を深めて、現代的なニーズへの総合的な対応について学ぶ。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

各自の配属された現場実習先で180時間以上の実習に取り組む

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 社会福祉士受験資格取得希望者に対して指定された社会福祉士施設等での180時間 (24日) 以上の現場実習に取り組む。

2. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録、教員の実習巡回の際にスーパービジョンなどにより指導を受ける。

3. テキストは実習ハンドブック配付資料を用いる。

4. 現場実習終了後、ソーシャルワーク実習指導Ⅲにより、実習の内容を振り返り、フィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設等の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどに取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習修了者には60点、実習施設による評価 (15点)、担当教員による評価 (15点)、その他提出物、実習ノートなど (10点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実習施設・機関等の指導のもと、180時間以上の実習に取り組む。

1. ソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修し、ソーシャルワーク実習指導Ⅲを履修中であること。

2. この科目は社会福祉士受験資格取得の必修科目である。現場実習修了後、引き続きソーシャルワーク実習指導Ⅲを履修しなければならない。

3. 実習期間は施設は施設・機関側との調整で決定される

ため、8、9月以外の時期になる場合もある。

4. 実習状況によっては、実習途中であっても実習を中止することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」(現場実習指導者は、社会福祉士有資格者、相談援助の勤務経験あり。担当教員は、社会福祉士有資格者、社会福祉士実習演習教員研修受講済み)

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 2017年度以降入学者

SWR2251N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

木曜 3限 木曜 4限

DP2: 知識・理解力

30

週2コマ

酒井 久美子 三好 明夫 矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 社会福祉施設・機関、病院での現場実習を効果的に取り組むために事前学習をおこなう。

2. 1. に向けて、施設等の運営の実際、利用者、援助の内容、職員の役割等について理解を深める。

3. 実習場面を想定した事例研究や援助に関する演習などに取り組み、理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

以下の点について掘り下げ、理解を深める。

1. ソーシャルワーク現場実習の意義と目的を理解する。

2. 社会福祉施設等を総合的に理解をする。

3. 分野別の講義等で福祉現場や援助、社会福祉士の基本的姿勢について学ぶ。

4. 見学により社会福祉施設等の現状や援助の実際を学ぶ。

5. 体験学習により実習に必要な援助技術を知る。

6. チームアプローチについて理解する。

7. 各レポートは、提出後担当教員により、コメントとともに返却する。最終授業日に、学生の発表に対して総括をおこなうとともにフィードバックをおこなう。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分に	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分を	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分に	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分に

	ついて知ろうとしない	知ろうとする	り、課題に向き合おうとする	分を克服しようとする
知識・理解力	各種福祉現場の現状や課題について、理解することができない	各種福祉現場の現状や課題について、積極的に調べ、理解しようとする	各種福祉現場の現状や課題について、積極的に調べ、理解することができる	各種福祉現場の現状や課題について、理解し、現場実習について理解できる
言語力	ソーシャルワーカーとは何かについて、説明することができない	ソーシャルワーカーとは何かについて、意見交換することができる	ソーシャルワーカーとは何かについて、他者に説明することができる	ソーシャルワーカーとは何かについて、他者に説明し、質問に答えることができる
思考・解決力	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考えることができない	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考えようとすることができる	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決についてどのようによいかならばよいか想像できる	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考え、意欲を持つことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習に関するオリエンテーション（授業のねらい、実習の意義、位置づけなど）（担当：酒井）
実際のソーシャルワークの理解－講義 1（高齢者福祉分野）（担当：三好）
- 第 2 回 実習現場における現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験を含む）見学授業 1 高齢者福祉施設（担当：三好、酒井、矢島）
- 第 3 回 見学実習 1（高齢者福祉施設）の振り返り（担当：三好、酒井、矢島）
実際のソーシャルワークの理解－講義 2（児童福祉分野）（担当：三好）
- 第 4 回 実習現場における現場体験学習及び見学実習（実際の各種サービスの利用体験を含む）見学授業 2 児童福祉施設（担当：三好、酒井、矢島）
- 第 5 回 見学実習 2（児童福祉施設）の振り返り（担当：三好、酒井、矢島）
実際のソーシャルワークの理解－講義 3（障害者福祉分野）（担当：矢島）
- 第 6 回 実習現場における現場体験学習及び見学実習（実際の各種サービスの利用体験を含む）見学授業 3 障害児・者福祉施設（担当：三好、酒井、矢島）
- 第 7 回 見学実習 3（障がい児・者福祉施設）の振り返り（担当：三好、酒井、矢島）
実際のソーシャルワークの理解－講義 4（福祉機

- 関・社会福祉協議会）（担当：酒井）
実習施設選択の相談（担当：三好、酒井、矢島）
- 第 8 回 実際のソーシャルワークの理解－講義 5（医療福祉現場）（担当：小西）
実習を終えた学生による評価全体総括会（実習報告会）への参加（担当：三好、酒井、矢島）
- 第 9 回 実習現場における現場体験学習及び見学実習（実際の各種サービスの利用体験を含む）見学授業 4 医療福祉現場（担当：三好、酒井、矢島）
- 第 10 回 実際のソーシャルワークの理解－講義 6（福祉機関・地域包括支援センター）（担当：三好）
実習分野に関する個別面談（担当：三好、酒井、矢島）
- 第 11 回 見学授業 4（医療福祉現場）の振り返り（担当：三好、酒井、矢島）
地域包括支援センター講義の振り返り（担当：三好、酒井、矢島）
- 第 12 回 利用者体験学習－体験学習 1 車いす介助とブラインドウォーク（担当：三好）
- 第 13 回 利用者体験学習－体験学習 2 高齢者疑似体験（担当：三好）
- 第 14 回 総括（小クラスにより、授業全体を振り返り、現場実習に向けて必要な援助のあり方や意欲の確認などグループワークで確認する）（担当：酒井）
- 第 15 回 実習指導 I の振り返り（小クラスによる発表とディスカッション）（担当：三好、酒井、矢島）
実習指導 II、現場実習、実習指導 III に向けてのガイダンス（担当：酒井）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・実習の総合的な事前学習として、外部講師による講義の受講、見学、体験学習をおこなう。本科目は、小クラス制をとり、各クラスで対応しつつ、必要に応じて合同授業をおこなう。

・また、グループワークを取り入れ、専門職に求められるチームアプローチを体験し、その意義等について理解を深める。

・各レポートは、コメントともに返却し、授業最終日には、発表をもとにフィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各分野の講義、見学実習に備えて、事前に関係する法律、社会福祉現場の現状等について調べ、問題意識を持って参加し、質問などできるように準備をしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30点）、レポート（60点）、その他授業中の態度や参加度など平常点（10点）で総合的に評価する。

※レポートは、分野ごとに講義と見学を踏まえて、提出すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. この科目は社会福祉士受験資格の必修科目である。ソーシャルワーク論 I および現代社会と福祉 I を履修済みであることを原則とする。

2. 施設見学では大学より施設までの帰路を含む交通費は各自負担。

3. 原則として、欠席・遅刻は認めない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

ソーシャルワーク現場実習ハンドブック

社会福祉援助技術現場実習報告書

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》(社会福祉士有資格者、福祉現場での勤務経験あり)

ソーシャルワーク実習指導 II

SWR3405N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

1単位 前期

木曜 4限

DP4: 思考・解決力

15

ソーシャルワーク実習指導I

矢島 雅子 酒井 久美子 三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ソーシャルワーク現場実習に必要な知識や技術などの具体的項目について、ガイダンス、相談指導など進め、実習に取り組む姿勢や態度を理解し、円滑で効果的な現場実習への導入を図ることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 各自が実習する分野の社会福祉施設・機関や医療機関の役割・機能、日常的な運営、職員配置、他の専門職との連携、地域との関係などについて理解を深め、専門職としての自覚を促す。

2. 行動観察と記録の作成について学ぶ。

3. 介護技術の必要な学生に対して介護の知識や技術を指導する。

4. 専門職として求められる資質や技能、倫理などについて、各分野に関する講義を通して理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分について知ろうとしない	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分を知ろうとする	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分について知り、課題に向き合おうとする	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分について知ろうとする
知識・理解力	社会福祉施設・機関の現状や課題について理解することができない	社会福祉施設・機関の現状や課題について、積極的に調べ、理解しようとする	社会福祉施設・機関の現状や課題について、積極的に調べ、理解することができる	社会福祉施設・機関の現状や課題について、理解し、現場実習について理解できる
言語力	事実を正確に記述することはできず、意見を述べることはできない	事実を正確に記述することはできず、意見を述べようとする	事実を正確に記述することはできず、意見を述べることができる	これまでに学んだ内容と関連づけ、根拠に基づいて意見を明確に述べることができる
思考・解決力	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考えることができない	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考えようとする	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決についてどのようによいかならざるべきかを想像できる	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考え、意欲を持つことができる
共生・協働する力	他者に共感して寄り添うことができない	他者に共感して寄り添うことに努めている	他者に共感して寄り添い、協働することに努めている	他者に共感して寄り添い、協働して課題に取り組むことができる
創造・発信力	実習分野に関連した情報の収集・整理に取り組んでいない	実習分野に関連した情報の収集・整理に努めている	実習分野に関連した情報を収集し、学んだ内容をふまえて意見を整理している	実習分野に関連した情報を収集し、学んだ内容をふまえて意見を明確に言語化して発信することができる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション 提出書類の書き方などの説明 (矢島、三好、酒井)

第 2 回 分野別講義1 (実習生に期待する・障害者分野) (矢島)

- 第 3 回 分野別講義2 (実習生に期待する・児童分野) (矢島)
- 第 4 回 分野別講義3 (実習生に期待する・福祉機関・社会福祉協議会) (酒井)
- 第 5 回 分野別講義4 (実習生に期待する・高齢者分野) (三好)
- 第 6 回 分野別講義5 (実習生に期待する・医療機関分野) (小西)
- 第 7 回 講義「感染症について」(萩原、三好)
- 第 8 回 前年度実習修了生による評価全体総括会(実習報告会)への参加(矢島、三好、酒井)
- 第 9 回 実習に向けての直前ガイダンス(視聴覚教材を活用して、実習に向けての事前学習から現場実習までの流れや目的、実際に理解する。プライバシー保護と守秘義務などに関する理解を促す)(矢島、三好、酒井)
- 第 10 回 実習の意義、目的の理解・明確化、事前オリエンテーションに向けての指導(矢島、三好、酒井)
- 第 11 回 実習記録の目的と方法(三好)
- 第 12 回 実習記録の例とその検討 演習方式(三好)
- 第 13 回 実習記録の作成 演習方式(矢島)
- 第 14 回 実習報告会(前年度現場実習経験者を囲んで)(矢島、三好、酒井)
- 第 15 回 実習直前指導(各自の実習目標、実習に臨む態度など再確認)(矢島、三好、酒井)

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 担任教員制による小クラスでのガイダンス、個別指導、スーパービジョンや全体クラスによる講義、ガイダンスなどを行う。
2. 社会福祉施設等現場経験のある講師による講義、前年度現場実習修了生による実習報告会などを実施し、必要な知識や方向づけを行う。
3. テキストやソーシャルワーク現場実習ハンドブックや配付資料を用いる。
4. レポートは添削を行い、個別にフィードバックを行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

各実習施設に関する根拠法や現状等に関する情報の収集に努めること。

毎回の授業には、問題意識を持って臨むこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業参加度 (30%)、レポート (60%)、その他授業中の態度や参加度など平常点 (10%) で総合的に評価する。

[留意事項 (Other Information)]

1. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱおよび現代社会と福祉Ⅱを履修済みであること。
2. 原則として、老人福祉論、児童福祉論、障害者福祉論を履修済みであること。
3. 原則として、ソーシャルワーク演習Ⅰを履修済み、ソー

シャルワーク演習Ⅱを履修中であること。

4. 受講態度や適性などによっては現場実習を認めない場合もある。

5. 原則として、欠席・遅刻は認めない。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

授業内で資料を配付する。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

ソーシャルワーク現場実習ハンドブック

ソーシャルワーク現場実習報告集

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

≪実践的科目≫

分野別講義 社会福祉士として社会福祉施設や医療機関での実務経験あり。

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

SWR3601N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

30

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

集中

三好 明夫 酒井 久美子 矢島 雅子 小西 加保留

[科目の教育目標 (Course Description)]

ソーシャルワーク実習指導Ⅱを踏まえ、ソーシャルワーク現場実習に向けた直前指導として、円滑に現場実習に取り組むことができるよう、実習計画書の作成や専門職に必要な資質や技能、倫理などについて学ぶ。また、ソーシャルワーク現場実習終了後の総括、振り返りとして、実習記録をもとにしたスーパービジョンを中心に、各自の援助技術を評価し、相談援助業務に従事する社会福祉専門職として必要な専門知識や関連知識を深める。そして、援助者としての資質や能力を向上させることを目的とする。特に、実習中の具体的な事例からどのような支援が必要なのか、自身のかかわりかたを振り返りながら理解を深める。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 実習記録をもとに、利用者とのコミュニケーション、援助者としての役割のあり方、利用者のニーズやさまざまな行動、態度などに対する洞察能力を深める。
2. 実習記録をもとに、スーパービジョンを受けながら各自の援助、援助者としての役割や援助技術について再評価する。
3. 実習内容をふりかえり、自己覚知を深める。
4. 専門援助者としての次への展開のための新たな課題の認識を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習指導Ⅲについて
実習指導Ⅲについてのオリエンテーション
- 第 2 回 実習計画書作成の指導方法1
実習計画書作成の指導方法（個別指導、施設単位の指導）
実習計画書作成の意味と意義について
- 第 3 回 実習計画書作成の指導方法2
実習計画書作成の指導方法（個別指導、施設単位の指導）
実習計画書の意義を踏まえて実習全体目標を考える
- 第 4 回 実習計画書作成の指導方法3
実習計画書作成の指導方法（個別指導、施設単位の指導）
実習時の個別的な目標と達成するための方法を考える
- 第 5 回 実習計画書作成の指導方法4
実習計画書作成の指導方法（個別指導、施設単位の指導）
全体目標と個別目標、達成方法についてまとめ、修正を加える
- 第 6 回 実習計画書作成の指導方法5
実習計画書作成の指導方法（個別指導、施設単位の指導）
実習計画書の清書と事前学習の内容についての検討
- 第 7 回 実習振り返り会
実習を行った先輩たちの実習報告を聞いて動機付けを高める(各クラス担当者)
先輩たちに聞いておきたい質問を検討する
- 第 8 回 実習振り返り会
実習を行った先輩たちの実習報告の発表から必要なこと、重要なことを整理する(各クラス担当者)
- 第 9 回 実習を終えての指導1

- 実習事後指導1
実習を終えての振り返り、小クラスで意見交換と反省会(各クラス担当者)
- 第 10 回 実習を終えての指導2
実習事後指導2
実習を終えて小クラス小クラスで意見交換と反省会を終えると発表を意識した小レポートを作成する(各クラス担当者)
- 第 11 回 実習を終えての指導3
実習事後指導3
実習施設による実習評価票をもとにする前に各自の実習達成度、課題などについて自己評価票を作成してみる。(各クラス担当者)
- 第 12 回 実習を終えての指導4
実習事後指導4
実習施設による実習評価票をもとに自己評価票との相違点などについて各自の実習達成度、課題などを振り返り個別に指導する。(各クラス担当者)
- 第 13 回 実習を終えての指導5
実習事後指導5
現場実習修了後には実習内容について、その達成度を実習内容を列挙して評価しつつ、今後の課題について個別指導をおこなう。(各クラス担当者)
- 第 14 回 実習を終えての指導6
実習を終えてのフィードバックとして全てのクラスが集まり「現場実践におけるソーシャルワークとは何か」という命題について演習形式でまとめる。
(全クラス担当者)
- 第 15 回 実習を終えての指導7
実習指導Ⅲの総括、まとめとふりかえり
実習総括レポート（社会福祉実習報告集）の作成をおこなう。(各クラス担当者)
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
(共同)

児童福祉施設の実習生を主に担当し、実習計画書の作

成、現場実習の振り返りをおこなう。

(酒井 久美子)

社会福祉協議会の実習生を主に担当し、実習計画書の作成、現場実習の振り返りをおこなう。

(小西 加保留)

医療機関の実習生を主に担当し、実習計画書の作成、現場実習の振り返りをおこなう。

(三好 明夫)

高齢者施設の実習生を主に担当し、実習計画書の作成、現場実習の振り返りをおこなう。

(矢島 雅子)

障害者施設の実習生を主に担当し、実習計画書の作成、現場実習の振り返りをおこなう。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

実習計画書作りから現場実習に出掛けることへの意欲を高め、現場実習での自身の実習イメージを具体化する。実習終了後については実習報告会や実習レポートの作成において、実習内容を各自客観的に振り返り、社会福祉士という専門職者の自己覚知に努める。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

実習レポートの提出および内容 (80点)、事後指導の内容 (10点)、実習報告会、事後指導などへの参加、授業参加度 (10点) で総合的に評価する。

【留意事項 (Other Information)】

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫ 社会福祉士として施設での勤務経験あり。

ソーシャルワーク論 I

SWR1251N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

火曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

桐野 由美子

【科目の教育目標 (Course Description)】

本科目は文部科学省令・厚生労働省令が定めた社会福祉に関する基礎科目「相談援助の基盤と専門職」の前半部分に該当する。本科目の目標は、学生が①ソーシャルワーカー (社会福祉士・精神保健福祉士等) の役割と意義を理解できる、②ソーシャルワーク (相談援助) の形成過程・概念・理念を理解できる、③ソーシャルワーク (相談援助)

における権利擁護の意義を理解できる、④ソーシャルワーク (相談援助) に係る専門職の概念及び専門職倫理を理解できる、⑤総合的かつ包括的な援助 (ジェネラリスト・ソーシャルワーク) と多職種連携 (チームアプローチ) の意義と内容を理解できる、の5点である。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. ソーシャルワーカー (社会福祉士・精神保健福祉士等) の役割と意義を理解する。
2. ソーシャルワークの理念について理解する。
3. ソーシャルワークの形成過程について習得する。
4. ソーシャルワークにおける権利擁護の意義について理解する。
5. ソーシャルワーカーの専門性と倫理について習得する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ソーシャルワーカーの役割と意義	ソーシャルワーカーの役割と意義を知らない	ソーシャルワーカーの役割と意義を理解できる	ソーシャルワーカーの役割と意義を十分に理解し、それぞれの観点について事例分析の際に説明できる。	レベル3に加えて、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける役割と意義を説明できる。
ソーシャルワークの形成過程・概念・理念	ソーシャルワークの形成過程・概念と理念を知らない	ソーシャルワークの形成過程・概念と理念を理解できる	ソーシャルワークの概念と理念を十分に理解し、それぞれの観点について事例分析の際に説明できる	レベル3に加えて、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける概念と理念を説明できる
ソーシャルワークにおける権利擁護の意義	ソーシャルワークにおける権利擁護の意義を知らない	ソーシャルワークにおける権利擁護の意義を理解できる	ソーシャルワークにおける権利擁護の意義を十分に理解し、それぞれの観点について事例分析の際に説明できる	レベル3に加えて、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける権利擁護の意義を説明できる
ソーシャルワーク専門職の概念及び専門職倫理	ソーシャルワーク専門職の概念及び専門職倫理を知らない	ソーシャルワーク専門職の概念及び専門職倫理を理解できる	ソーシャルワーク専門職の概念及び専門職倫理を十分に理解し、それぞれの観点について事例分析の際に説明できる	レベル3に加えて、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク専門職の概念及び専門職倫理を説明できる

			際に説明できる	
ジェネラリスト・ソーシャルワークとチームアプローチの意義と内容	ジェネラリスト・ソーシャルワークとチームアプローチの意義と内容を知らない	ジェネラリスト・ソーシャルワークとチームアプローチの意義と内容を理解できる	ジェネラリスト・ソーシャルワークとチームアプローチの意義と内容を十分に理解し、それぞれの観点について事例分析の際に説明できる	レベル3に加えて、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるチームアプローチの意義を説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ①オリエンテーション ②ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士等）の役割と意義（第1章1節）
- 第 2 回 現代社会と地域生活におけるソーシャルワーカー（第1章2節）
- 第 3 回 ソーシャルワーク（相談援助）の定義と専門性：ソーシャルワーク（相談援助）の概念（第2章1節）
- 第 4 回 ソーシャルワーク（相談援助）の定義と専門性：ソーシャルワークの構成要素（第2章2節）
- 第 5 回 ソーシャルワーク（相談援助）の形成過程Ⅰ：ソーシャルワークの源流（第3章1節）
- 第 6 回 ソーシャルワーク（相談援助）の形成過程Ⅰ：ソーシャルワークの基礎確立期（～1930年代）（第3章2節）
- 第 7 回 ソーシャルワーク（相談援助）の形成過程Ⅱ：ソーシャルワークの発展期（1940代～50年代半ば）（第4章1節）
- 第 8 回 ソーシャルワーク（相談援助）の形成過程Ⅱ：ソーシャルワークの展開期（1950年代半ば～1960年代以降）（第4章2節）
- 第 9 回 ソーシャルワーク（相談援助）の形成過程Ⅱ：ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク（第4章3節）
- 第 10 回 ソーシャルワーク（相談援助）の理念Ⅰ：ソーシャルワーカーと価値（第5章1節）
- 第 11 回 ソーシャルワーク（相談援助）の理念Ⅰ：ソーシャルワーク実践と価値（第5章2節）
- 第 12 回 ソーシャルワーク（相談援助）の理念Ⅰ：ソーシャルワーク実践と権利擁護（第5章3節）
- 第 13 回 ソーシャルワーク（相談援助）の理念Ⅱ：クライアントの尊厳と自己決定（第6章1節）
- 第 14 回 ソーシャルワーク（相談援助）の理念Ⅱ：ノーマライゼーションとソーシャル・インクルージョン（第6章2節）
- 第 15 回 形成テスト・解説とまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストを中心に講義をすすめる。視聴覚教材を適宜使用する。毎回の講義開始時に前回の授業内容に関する復習クイズを行う。最終授業（15回目）で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。その詳細は、第1回目の授業の配布資料で提示する。また、復習クイズの準備を兼ねて前回の授業の復習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

本科目の評価は、授業参加度（30%）、授業中成果（10%）、形成テスト（60%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

実際の授業の状況に応じて、学生に周知した上で授業予定を変更する場合もある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職 第3版』/社会福祉士養成講座編集委員会・編集/中央法規/2015年/9.784805851029E12/学内販売予定

授業はテキストを中心に進めるので必ず購入すること。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『保育者のための社会福祉援助技術』/桐野由美子（編著）/樹村房/2006/4.883671127E9

授業中に適宜プリントを配布しその他の参考文献等を提示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

参考URLについて授業内で随時提示する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ソーシャルワーク論Ⅰなどの科目について

ソーシャルワーカーとして米国公的機関での勤務経験あり。

ソーシャルワーク論 II

SWR2202N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

桐野 由美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は文部科学省令・厚生労働省令が定めた社会福祉に関する基礎科目「相談援助の基盤と専門職」の後半部分に該当する。科目の教育目標は、学生が①ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士等）の役割と意義を理解できる、②ソーシャルワーク（相談援助）の概念・範囲・理念を理解できる、③ソーシャルワーク（相談援助）における権利擁護の意義と範囲を理解できる、④ソーシャルワーク（相談援助）に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理を理解できる、⑤総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容を理解できることにある。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. ソーシャルワーク（相談援助）の概念と範囲を更に深く理解する。
2. ソーシャルワーカーの専門職倫理と倫理的ジレンマを理解する。
3. 総合的かつ包括的な援助（ジェネラリスト・ソーシャルワーク）の意義と内容を更に深く理解する。
4. 多職種連携（チームアプローチ）の意義と内容を更に深く理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ソーシャルワークの概念と範囲	ソーシャルワークの概念と範囲を知らない	ソーシャルワークの概念と範囲を（ソーシャルワーク論 I と比べて）更に深く理解できる	ソーシャルワークの概念と範囲を完璧に理解し、それぞれの観点について事例検討の際に説明できる	レベル3に加えて、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの概念と範囲を更に深く説明できる

ソーシャルワーカーの専門職倫理と倫理的ジレンマ	ソーシャルワーカーの専門職倫理と倫理的ジレンマを理解できない	ソーシャルワーカーの専門職倫理と倫理的ジレンマについて（ソーシャルワーク論 I と比べて）更に深く理解できる	ソーシャルワーカーの専門職倫理と倫理的ジレンマを完璧に理解し、それぞれの観点について事例検討の際に説明できる	レベル3に加えて、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーカーの専門職倫理を応用し、倫理的ジレンマを説明できる
ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と内容	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と内容を知らない	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と内容を（ソーシャルワーク論 I と比べて）更に深く理解できる	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と内容を完璧に理解し、それぞれの観点について事例検討の際に説明できる	レベル3に加えて、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と内容を更に深く説明できる
チームアプローチの意義と内容	チームアプローチの意義と内容を知らない	チームアプローチの意義と内容を（ソーシャルワーク論 I と比べて）更に深く理解できる	チームアプローチの意義と内容を完璧に理解し、それぞれの観点について事例検討の際に説明できる	レベル3に加えて、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるチームアプローチを応用でき始める

〔授業計画〕

- 第 1 回 ①オリエンテーション ②専門職倫理と倫理的ジレンマ：専門職倫理の概念（第7章1節）
- 第 2 回 専門職倫理と倫理的ジレンマ：倫理綱領の意義と内容（第7章2節）
- 第 3 回 専門職倫理と倫理的ジレンマ：ソーシャルワーク実践と倫理的ジレンマ（第7章3節）
- 第 4 回 「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景（第8章1節）
- 第 5 回 地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座（第8章2節）
- 第 6 回 地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能（第8章3節）
- 第 7 回 ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点（第9章1節）
- 第 8 回 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質と基礎理論（第9章2節）
- 第 9 回 ソーシャルワーカー（相談援助専門職）の概念（第10章1節）
- 第 10 回 ソーシャルワーカー（相談援助専門職）の範囲（第10章2節）

- 第 11 回 諸外国におけるソーシャルワーカー（相談援助専門職）の動向（第10章3節）
- 第 12 回 「総合的かつ包括的な相談援助」の予防的機能（第11章1節）
- 第 13 回 「総合的かつ包括的な相談援助」の新しいニーズへの対応機能（第11章2節）
- 第 14 回 「総合的かつ包括的な相談援助」の総合的支援機能（第11章3節）
- 第 15 回 形成テスト・解説とまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストを中心に講義をすすめる。必要に応じVHS、DVD等を使用する。また、受講生によるロールプレイを実施する。毎回の講義開始時に前回の授業に関する復習クイズを行う。最終授業（15回目）で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。その詳細は、第1回目の授業の配布資料で提示する。また、復習クイズの準備を兼ねて前回の授業内容の復習をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

本科目の評価は、授業参加度（30%）、授業中成果（10%）、形成テスト（60%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

実際の授業の状況に応じて、学生に周知した上で授業予定を変更する場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職 第3版』/社会福祉士養成講座編集委員会・編集/中央法規/2015年/9.784805851029E12/学内販売予定

授業はテキストを中心に進めるので必ず購入すること。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜プリントを配布しその他の参考文献等を提示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

参考URLについて授業内で適宜提示する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ソーシャルワーク論Ⅱなどの科目について

ソーシャルワーカーとして米国公的機関での勤務経験あり。

ソーシャルワーク論Ⅲ

SWR2453N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP4：思考・解決力

60

桐野 由美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は文部科学省令・厚生労働省令が定めた社会福祉士必修科目「相談援助の理論と方法」の第1フェーズに該当する。本科目ではソーシャルワーク論I,IIを踏まえ、ソーシャルワークをより深く、体系的に思考し、問題解決力をつけることを目的とする。具体的達成目標は以下5項目である：
①相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について思考できる。
②相談援助の対象と様々な実践モデルについて思考できる。
③相談援助の過程とそれに係る知識と技術について思考できる。
④相談援助における事例分析の意義や方法について思考し、問題解決につながる可能性がある。
⑤相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について思考し、問題解決につながる可能性がある。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ① 人と環境の交互作用について思考する。
- ② ソーシャルワークの対象について思考する。
- ③ ソーシャルワークの過程を思考する。
- ④ ソーシャルワークにおける援助関係を思考し、問題解決につながる。
- ⑤ ソーシャルワークの面接技術を思考する。
- ⑥ アウトリーチを思考する。
- ⑦ ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発を思考し、問題解決につながる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用	ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用をイメージできない	ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用を思考し、問題解決策を提案する	ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用を思考し、問題解決策を実行する	レベル3に加えて、クライアントのフィードバックを鑑みる
ソーシャルワークの対象と過程	ソーシャルワークの対象と過程を知らない	ソーシャルワークの対象と過程を思考し、問題解決策を提案する	ソーシャルワークの対象と過程を思考し、問題解決策を実行する	レベル3に加えて、クライアントのフィードバックを鑑みる
ソーシャルワークにお	ソーシャルワークにおける援助関	ソーシャルワークにお	ソーシャルワークにお	レベル3に加えて、ク

ける援助関係	係がわからない	係を思考し、問題解決策を提案する	係を思考し、問題解決策を実行する	のフィードバックを鑑みる
ソーシャルワークの面接技法・アウトリーチ	ソーシャルワークの面接技法・アウトリーチを知らない	ソーシャルワークの面接技法・アウトリーチを思考し、問題解決策を提案する	ソーシャルワークの面接技法・アウトリーチを思考し、問題解決策を実行する	レベル3に加えて、クライアントのフィードバックを鑑みる
ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発を理解できない	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発を通して問題解決策を提案する	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発を通して問題解決策を実行する	レベル3に加えて、クライアントのフィードバックを鑑みる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ①オリエンテーション ②ソーシャルワーク（相談援助）の定義・枠組み・構成要素とその事例（第1章1～3節）
- 第 2 回 ソーシャルワーカーの職場・所属組織（第1章4～5節）
- 第 3 回 ソーシャルワーク（相談援助）の構造（第2章1節）
- 第 4 回 ソーシャルワーク（相談援助）におけるニーズとソーシャルワークの機能（第2章2～3節）
- 第 5 回 人と環境の交互作用（第3章）
- 第 6 回 援助関係の意義・援助関係の形成プロセスに影響する要因・援助構造と援助関係（第4章1～3節）
- 第 7 回 援助関係の質と自己覚知・援助関係とマイクロからマクロ実践領域（第4章4～5節）
- 第 8 回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅰ：展開過程の流れ・ケース発見（第5章1～2節）
- 第 9 回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅰ：インテーク・問題把握・ニーズ確定（第5章3～4節）
- 第 10 回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅰ：アセスメントと支援標的・目的設定（第5章5～6節）
- 第 11 回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅰ：プランニングと支援の実施（第5章7～8節）
- 第 12 回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅱ：モニタリング・再アセスメント・支援の強化（第6章1～2節）
- 第 13 回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅱ：支援の終結・効果測定・評価・アフターケア・予防的対応・サービス開発（第6章3～4節）
- 第 14 回 アウトリーチの意義・目的・方法・留意点（第7章）
- 第 15 回 形成テスト・解説とまとめ
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1) テキスト『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版Ⅰ』（中央法規出版）を中心に講義を行う。DVD-VIDEO 等を適宜使用する。
- 2) 毎回の講義開始時に前回の授業内容に関する復習クイズを行う。
- 3) 最終授業（15回目授業）で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。その詳細は、第1回目の授業の配布資料で提示する。また、復習クイズの準備を兼ねて前回の授業内容の復習をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

本科目の評価は、授業参加度（30%）、授業中成果（10%）、形成テスト（60%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- 1) この科目は社会福祉士受験資格の必修科目である。全回数出席を原則とする。
- 2) 副教材としての資料を授業内で適宜配布する。
- 3) 実際の授業の状況に応じて、学生に周知した上で授業予定を変更する場合もある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版Ⅰ』/社会福祉士養成講座編集委員会・編集/中央法規出版/2015/9.784805851036E12/学内販売予定

授業はテキストを中心に進めるので必ず購入すること。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

授業中に適宜プリントを配布し必要な参考文献等を提示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

参考URLについて授業内で随時提示する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ソーシャルワーク論Ⅲなどの科目について

ソーシャルワーカーとして米国公的機関での勤務経験あり。

ソーシャルワーク論Ⅳ

SWR3404N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜 2限

DP4：思考・解決力

60

桐野 由美子

【科目の教育目標 (Course Description)】

本科目は文部科学省令・厚生労働省令が定めた社会福祉士必修科目「相談援助の理論と方法」の第2フェイズに該当する。本科目はソーシャルワーク論Ⅰ,Ⅱ,Ⅲを踏まえ、ソーシャルワーク (相談援助) をより深く、体系的に思考し、問題解決力をつけることを目的とする。達成すべき具体的目標は以下5項目である：①相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について思考できる。②相談援助の対象と様々な実践モデルについて思考できる。③相談援助の過程とそれに係る知識と技術について思考できる。④相談援助における事例分析の意義や方法について思考し、問題解決につながるができる。⑤相談援助の実際 (権利擁護活動を含む) について思考し、問題解決につながるができる。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ① ソーシャルワークのプロセスを思考する。
- ② アセスメント・介入・モニタリング・再アセスメント・効果測定・評価を思考し、問題解決につなぐ。
- ③ ソーシャルワークの面接技術を思考し、問題解決につなぐ。
- ④ ソーシャルワークの記録の技術を思考し、問題解決につなぐ。
- ⑤ ソーシャルワークの交渉の技術を思考し、問題解決に導く。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ソーシャルワークのプロセス	ソーシャルワークのプロセスを理解できない	ソーシャルワークのプロセスを思考し、問題解決策を提案する	ソーシャルワークのプロセスを思考し、問題解決案を実行する	レベル3に加えて、クライアントのフィードバックを鑑みる

アセスメント・介入・モニタリング・再アセスメント・効果測定・評価	アセスメント・介入・モニタリング・再アセスメント・効果測定・評価を理解できない	アセスメント・介入・モニタリング・再アセスメント・効果測定・評価を思考し、問題解決策を提案する	アセスメント・介入・モニタリング・再アセスメント・効果測定・評価を思考し、問題解決案を実行する	レベル3に加えて、クライアントのフィードバックを鑑みる
ソーシャルワークの面接技術	ソーシャルワークの面接技術を知らない	ソーシャルワークの面接技術を思考し、問題解決策を提案する	ソーシャルワークの面接技術を思考し、問題解決案を実行する	レベル3に加えて、クライアントのフィードバックを鑑みる
ソーシャルワークの記録の技術	ソーシャルワークの記録の技術を知らない	ソーシャルワークの記録の技術を思考し、問題解決策作成時に活用する	記録の技術を活用しながら問題解決案を実行する	レベル3に加えて、クライアントのフィードバックを鑑みる
ソーシャルワークの交渉の技術	ソーシャルワークの交渉の技術を知らない	ソーシャルワークの交渉の技術を思考し、問題解決策を提案する	ソーシャルワークの交渉の技術を思考し、問題解決案を実行する	レベル3に加えて、クライアントのフィードバックを鑑みる

【授業計画】

- 第 1 回 ①オリエンテーション ②ソーシャルワーク (相談援助) のための契約の技術 (第8章)
- 第 2 回 ソーシャルワーク (相談援助) のためのアセスメントの特性・援助関係・面接 (第9章1節)
- 第 3 回 ソーシャルワーク (相談援助) のためのアセスメント面接で得た情報とアセスメントツール (第9章2・3節)
- 第 4 回 ソーシャルワーク (相談援助) のための介入の技術 (第10章)
- 第 5 回 ソーシャルワーク (相談援助) のためのモニタリング (第11章1節)
- 第 6 回 ソーシャルワーク (相談援助) のための再アセスメント (第11章2節)
- 第 7 回 ソーシャルワーク (相談援助) のための効果測定 (第11章3節)
- 第 8 回 ソーシャルワーク (相談援助) のための評価とサービス開発 (第11章4節)
- 第 9 回 ソーシャルワーク (相談援助) のための面接の目的と展開 (第12章1・2節)
- 第 10 回 ソーシャルワーク (相談援助) のための面接の技術と携帯 (第12章3・4節)
- 第 11 回 ソーシャルワーク (相談援助) のための記録の活用目的と種類 (第13章1・2節)
- 第 12 回

ソーシャルワーク（相談援助）のための記録の方法とIT化（第13章3節）

第 13 回 ソーシャルワーク（相談援助）のための評価とサービス開発（第11章4節）

第 14 回 ソーシャルワーク（相談援助）のための交渉の技術（第14章）

第 15 回 形成テスト・解説とまとめ
 【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

テキスト『相談援助の理論と方法I』を中心に講義を行う。ビデオなど視聴覚素材を適宜使用する。毎回の講義開始時に前回の授業に関する復習クイズを行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。その詳細は、第1回目授業の配布資料で提示する。また、復習クイズの準備を兼ねて前回の授業内容の復習をしておく。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

60

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

本科目の評価は、授業参加度（30%）、授業中成果（10%）、形成テスト（60%）に基づいて総合的に行う。

【留意事項（Other Information）】

実際の授業の状況に応じて、学生に周知した上で授業予定を変更する場合もある。

【テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）】

『相談援助の理論と方法I 第3版』//中央法規出版/2015/9.784805851036E12/学内販売予定

授業はテキストを中心に進めるので必ず購入すること。

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

授業中に適宜プリントを配布し、必要な参考文献を提示する。

【参考URL(URL for Reference)】

参考URLについて授業中に適宜提示する。

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫ソーシャルワーク論IVなどの科目について

ソーシャルワーカーとして米国公的機関での勤務経験あり。

ソーシャルワーク論V

SWR3550N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜1限

DP5：共生・協働する力

60

三好 明夫

【科目の教育目標（Course Description）】

この科目では、社会福祉援助技術Ⅲ、Ⅳを踏まえ、主に間接援助技術を中心としたより専門的なソーシャルワーク実践力を有する社会福祉士に求められる知識と理解を深める。知識、理解力を深め、思考解決力をつけることができる。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

- 1 集団援助に求められる知識と技術についてより深く理解する
- 2 ネットワーキングやケアマネジメントなどについてより深く理解する
- 3 スーパービジョンに求められる知識と技術についてより深く理解する
- 4 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会福祉援助技術を意識できない	社会福祉援助技術Ⅴの項目を考える	社会福祉援助技術Ⅴの内容理解について考える	社会福祉援助技術Ⅴの内容理解が対人援助に役立つ方法として考える
知識・理解力	社会福祉援助技術ⅣとⅤの区別が不明確である	社会福祉援助技術Ⅴの仕組みについて理解し、実施方法を理解できる	社会福祉援助技術Ⅴの仕組みについて理解し、Ⅳ等との関連方法を理解できる	社会福祉援助技術Ⅴの実施方法を理解し、それぞれの長所、短所を説明できる
言語力	社会福祉援助技術Ⅳに関係する専門用語を理解しようとしない	社会福祉援助技術Ⅳが対人援助にどのようにして有益かを理解する	社会福祉援助技術Ⅳの方法をそれぞれ簡単に説明できる	社会福祉援助技術Ⅳの方法をそれぞれ暗しく解説することができる

思考・解決力	教わったこと以外は考えていこうとしない	社会福祉援助技術Ⅳだけではなく関連技術との連携の必要を考える	社会福祉援助技術Ⅳをロールプレイできる力がある	社会福祉援助技術Ⅳの各援助を指定方法でロールプレイできる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献をもとに社会福祉援助技術Ⅳについて考えようとする	考えた結果を他者と共有し、意見交換して自身の考えを深める	レベル3に加えて社会福祉援助技術Ⅳが地域社会の福祉実践に果たす意義を考える
創造・発信力	自分で勝手に想像して発信を行う	周囲の状況にかんがみ、社会福祉援助技術Ⅳの在り方考える	社会福祉援助技術Ⅳに加えてオリジナルな援助方法を考える	レベル3に加えて社会福祉援助技術Ⅳと他の援助技術の活用で社会改良を考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 ソーシャルワークⅤについて
オリエンテーション・相談援助とは
- 第 2 回 対人援助技術としての相談1
相談援助における対象の理解 1 視点
- 第 3 回 対人援助技術としての相談2
相談援助における対象の理解 2 方法
- 第 4 回 対人援助技術としての相談3
ケアマネジメントの理論と方法 1 インテーク
- 第 5 回 対人援助技術としての相談4
ケアマネジメントの理論と方法 2 アセスメント
- 第 6 回 対人援助技術としての相談5
ケアマネジメントの理論と方法 3 ケア計画
- 第 7 回 対人援助技術としての相談6
ケアマネジメントの理論と方法 4 モニタリング・終結
- 第 8 回 対人援助技術としての相談7
グループを活用した相談援助 1 グループアプローチ
- 第 9 回 対人援助技術としての相談8
グループを活用した相談援助 2 グループミーティングの進め方 グループの力を使う工夫
- 第 10 回 対人援助技術としての相談9
グループを活用した相談援助 3 グループミーティングの進め方 問題解決技法を使って
- 第 11 回 対人援助技術としての相談10
コーディネーションとネットワークング 1 ケアコーディネーション
- 第 12 回 対人援助技術としての相談11
コーディネーションとネットワークング 2 ネットワークング
- 第 13 回 対人援助技術としての相談12

相談援助における社会資源の活用・調整

第 14 回 対人援助技術としての相談13
相談援助における社会資源の開発

第 15 回 対人援助技術としての相談の総括
ソーシャルワークⅤのまとめとふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。レポートを課す

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述した小レポートに該当するリアクションペーパーを提出することもある。
最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
テキストの該当部分を概読してくること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加度 (30%)、レポート (20点)、最終レポート (50%)
で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕
社会福祉士受験のための必須科目である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』/社会福祉士養成校協会編集/中央法規/2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫ 社会福祉士として高齢者福祉施設での勤務経験あり。

ターミナルケア論

SWR3403N1J
大学
現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)
3年次
2単位 前期
月曜 3限
DP4 : 思考・解決力
60
小西 加保留

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- ①ターミナルケアに関連する言葉の意味とその変遷について説明することができる。
- ②人生の終末期に対する考え方の動向や背景を論じることができる。
- ③死生観や当事者を取り巻く心理社会的環境について説明できる。

④終末期を支える医療・福祉の現状や課題について論じることが出来る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①課題図書や配布資料を用いて各テーマに関する自分自身の考え方について検討し、イメージをもてるようにする。

②終末期にかかわる心理・社会的問題を自分に引き寄せて、現状や課題を考察することが出来るようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力Ⅰ	ターミナルケアに関連する語彙についての知識がない	ターミナルケアに関する語彙は知っている	ターミナルケアに関する語彙の意味を説明できる	ターミナルケアに関する語彙の意味と変遷の背景について説明できる
知識・理解力Ⅱ	終末期における医療現場の状況についての知識が殆ど無い	終末期における医療現場の状況について聞いた事がある	終末期における医療現場の状況について断片的には理解している	終末期における医療現場の状況と課題について理解し、説明する事ができる
思考・解決力	ターミナルケアに関連する課題を自分事としてと考えられない	ターミナルケアに関連する課題に対し、自分事として感じることができる	ターミナルケアに関連する課題に対して自分事として思考することができる	ターミナルケアに関連する課題を思考した上で背景になる要因と共に統合して理解出来る
言語力	ターミナルケアに関連する課題について説明できない	ターミナルケアに関連する課題について断片的に話す事ができる	ターミナルケアに関連する課題のいくつかを自分の言葉で説明できる	ターミナルケアに関連する課題について総合的に説明することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ターミナルケアとはなにか
ターミナルケアの言葉の意味と概念の変遷を知ると共に、授業全体の学び方のオリエンテーション
- 第 2 回 人生の最終段階の医療への意識について
人生の最終段階の医療への意識調査を中心に、意識の変遷や学生自らの意識についても検討する
- 第 3 回 終末期を考える現代的背景
終末期を考える際に、その背景にある医療の高度化や医療費の高騰などの現代的背景を知る
- 第 4 回 死生観
死生観に関わる多様な考え方の内容や変遷などを学び、学生自らの死生観についても考察する
- 第 5 回 終末期の苦しみと支え：事例を用いて

課題図書から抽出した内容を基にして、終末期の苦しみと支えについて考察する

- 第 6 回 終末期の苦しみと支え：まとめ
事例を用いた考察を基に、終末期の苦しみと支えにかかわる課題について検討する
- 第 7 回 ホームホスピス
ホームホスピスが設立された背景と現場、課題などを知る
- 第 8 回 ナラティブホーム
ナラティブホームの実践を知り、その意義を学ぶ
- 第 9 回 救急救命の現場におけるジレンマ
救急救命の現場におけるジレンマと支援のあり方について考察する
- 第 10 回 一人で逝くということ
単身者は増えている中で、一人で逝くことにかかわる課題などについて考察する
- 第 11 回 人生の最終段階の意思決定プロセス
人生の最終段階の意思決定プロセスの実際から学ぶ
- 第 12 回 認知症に寄り添って
認知症の初期から終末期におけるケアについて学ぶ
- 第 13 回 終末期医療の現状（病院と在宅医療）
病院と在宅医療にかかわる終末期医療の現状と課題について学ぶ
- 第 14 回 人生100年時代の医療を考える
人生100年時代の医療を考えるための切り口やその内容について考察する
- 第 15 回 ターミナルケアの課題
ターミナルケアの課題についてまとめると共に、自らの考えを深める

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

履修人数により、定期試験、または定期試験に替わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義方式と演習の両方を活用する。
2. 事前に示したテーマにそってディスカッションする。
3. 授業に対するコメントを毎回提出する。
4. 提出されたコメントに対して、次の授業で解説等のフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業のテーマに関する資料について事前学習を行う。
課題図書の中に関心のあるテーマを選んで考察し、発表できるように準備して授業に臨むこと
授業時にディスカッションを行うなかでフィードバックを行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (60%) と講義内での参加度 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に無し

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ルポ 最期をどう迎えるか』共同通信生活報道部/岩波書店/2018/9784000230698(課題図書)

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関においてソーシャルワーカーとしての勤務経験あり。

リハビリテーション論

SWR2250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

月曜1限

DP2: 知識・理解力

60

越智 淳子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「リハビリ」と略され、耳にする機会も増えた「リハビリテーション」。その意味や内容を正しく理解していきます。

・リハビリテーションの概念を知るとともに、役割や位置づけを理解出来る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・リハビリテーションの概念を理解する。
- ・障害・疾病の捉え方を理解する。
- ・対象者や状況に応じたリハビリテーションを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 リハビリテーションとは (リハビリテーションの理念と目的を理解する)

第 2 回 人体の構造 (人の身体について理解する)

第 3 回 障害・疾病とは (障害の概念とその構造について理解する)

第 4 回 障害・疾病とは (疾病の捉え方について理解する)

第 5 回 チーム医療とは (関連職種について理解する)

第 6 回 リハビリテーションの手段 (理学・作業・言語聴覚)

第 7 回 疾病別の評価とリハビリテーション (中枢神経の疾患)

第 8 回 疾病別の評価とリハビリテーション (整形外科の疾患)

第 9 回 疾病別の評価とリハビリテーション (その他の疾患)

第 10 回 地域包括ケアシステムのしくみと推移

第 11 回 地域包括ケアシステムにおける医療の位置づけ

第 12 回 医療におけるリハビリテーション

第 13 回 地域におけるリハビリテーション

第 14 回 リハビリテーションにおける社会保障制度

第 15 回 実際のリハビリテーションの理解 (ゲストスピーカー)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義, グループディスカッション, 授業内小テスト, 課題 (レポート) を用いる。

・授業内小テストについては授業内で解答を学生間で確認したり, 後日採点の後, 返却する。

・レポートについては内容を確認の後, 返却あるいはコメントを返す。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎講義ごとに資料を配付します。事前に読んでおき, 理解出来ない箇所があれば, 各自で調べておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

8

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内小テスト 50%

課題 (レポートなど) 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で資料を配付します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義資料内で紹介します。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

理学療法士として病院, 老人保健施設での勤務

理学療法士養成の短期大学・大学/学科での助手・助教業務従事

レクリエーション論

SWA2401N1J

大学

現代人間学部＞福祉生活デザイン学科＞福祉生活デザイン学科（実践的科目）

2年次

2単位 前期

火曜 2限

DP4：思考・解決力

60

三好 明夫

【科目の教育目標（Course Description）】

外来語である『レクリエーション』の概念は、近年日本の様々な分野で活用されるようになってきている。医療福祉、地域の社会教育、そして個人の日常生活にいたるまで現代社会の中に浸透してきている。それぞれの分野で認識されているレクリエーション概念と実践は、その形態や意味合いに特徴がある。レクリエーションの基本的概念を学習し、様々な分野でのレクリエーション実践やその支援法を知ること目標とする。そして、それらの知識を活用し、レクリエーションプログラムの基本的な企画・運営・管理方法を体験を通して学ぶ。

コミュニケーション力、クリティカルシンキング、問題解決能力が身につく。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

1. レクリエーション発祥の歴史から基本的概念を学ぶ。
2. 様々な分野でのレクリエーション実践例を知り、レクリエーションへの認識を広げる。
3. 具体的なレクリエーション活動を体験し、その意義を理解する。
4. レクリエーションプログラムの立案方法を学ぶ。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	レクリエーションを意識できない	レクリエーションの必要について考える	レクリエーションの重要について考える	レクリエーションがもたらす効果について考える
知識・理解力	レクリエーションとアクティビティの整理ができない	レクリエーションの仕組みを理解できる	レクリエーションの仕組みを理解し、各内容を理解できる	レクリエーションの展開での問題点や新たな展開について理解できる
言語力	レクリエーションの専門用語を理解しようとしていない	レクリエーションのプログラムを理解できる	簡単なレクリエーションプログラムを実施できる	複雑なレクリエーションプログラムを実施できる

思考・解決力	教えられたこと以外は考えていこうとしない	レクリエーションの応用が生活の中にあることを理解する	レクリエーションの新たなプログラム作成意欲がある	新たなプログラムを活用して自らデモンストレーションできる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献をもとにレクリエーションの在り方を考える	考えた結果を他者と共有し自身の考えを深めていく	レベル3に加えてレクリエーションの地域社会浸透の方法を考える
創造・発信力	自分自身の考えだけで発信を行う	周囲の状況を勘案してレクリエーションの在り方を考える	新規レクリエーションの創造を踏まえて意欲的に考える	レクリエーションの創造と実践が地域社会に向けて発信できるように考える

【授業計画】

- 第 1 回 レクリエーションとは
レクリエーションの基礎理論
- 第 2 回 レクリエーションを考える
レクリエーション支援の理論
- 第 3 回 レクリエーションの実施場所1
教育現場でのレクリエーション
- 第 4 回 レクリエーションの実施場所2
地域におけるレクリエーション
- 第 5 回 レクリエーションの実施場所3
医療福祉現場のレクリエーション
- 第 6 回 新たなレクリエーション1
セラピューティックレクリエーションの概要
- 第 7 回 新たなレクリエーション2
セラピューティックレクリエーションの実際
- 第 8 回 新たなレクリエーション3
セラピューティックレクリエーションの課題
- 第 9 回 レクリエーションプログラムの実際1
室内レクリエーションの実践
- 第 10 回 レクリエーションプログラムの実際2
対象者と支援の場の想定
- 第 11 回 レクリエーションプログラムの実際3
ニーズの把握と目標設定
- 第 12 回 レクリエーションプログラムの実際4
レクリエーション財の選び方
- 第 13 回 レクリエーションプログラムの実際5
プログラム立案
- 第 14 回 レクリエーションプログラムの実際6
プログラムの実践
- 第 15 回 レクリエーションの総括
レクリエーションの課題と展望

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない。レポートを課す

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業の実施方法 1. 主に実技形式で行い、適宜資料を配布する。2. 講義の中で課題を提示し、個人もしくはグループで課題に取り組みながら解決していく。3. 具体的なレクリエーション活動を実際に体験し、そのプログラムの意図と効果を理解する。4. 実際の例からレクリエーションプログラムを構成する要素を学び、その立案に必要な知識を獲得する。学習の方法 1. 学習内容についてやグループワークの中での積極的な発言を意識する。2. 本講義で学んだものを自分の日常生活に照らし合わせ、活用できる部分は出来るように意識する。3. 課題を通して、事柄を分析する力、人に伝える力の向上を意識する。

小レポート、小テストを実施した場合には次回の授業時にフィードバック説明を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 自分の人生の中でレクリエーションに関係する要素を見つけ、振り返ってみる。2. 現代の日常生活に存在するレクリエーションに関する事柄があれば、それを紹介し共有する。3. 講義を通してレクリエーションプログラムの企画・運営に関する課題を提示する(ケーススタディやイベント企画等)。その発表を通して、レクリエーションプログラムを立案する能力と楽しさを知る。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、グループ課題達成度 (25%)、講義内の小レポート・小テスト (15%)、最終レポート (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

プログラム活動を行うことがあるので活動しやすい服装で出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリント等を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『(財)日本レクリエーション協会編「レクリエーション支援の基礎」』//日本レクリエーション協会/2007/

『レクリエーションの基礎理論』/池田勝 永吉宏英 西野仁 原田宗彦/杏林書院/1989/

『レクリエーション活動援助法』/吉田圭一 茅野宏明/ミネルヴァ書房/2007/

『楽しいをつくる やさしいレクリエーション実践』//日本レクリエーション協会/2000 /

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：福祉レクリエーションワーカーとして高齢者施設での勤務経験あり。

衣生活材料学

LDA2200N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

木曜 2限

DP2：知識・理解力

60

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日常生活における衣服の役割を認識し、衣生活を支える繊維、糸、布、服への一連の流れ、衣服の色彩、機能性、衣服の管理や加工に使われる材料、環境問題等について幅広く知見を得るとともに衣生活のあり方について概観する。また、衣生活の分野の概略を知り、衣生活の全体像を見つめる。「衣生活とはどうあるべきか」、「衣類の選択、購入、管理」を通じて現代社会の諸問題に触れ、自身の考えを明確にし、未来の衣生活をより良くする方策を考えていくための能力を修得することを目標にする。

中学校および高等学校家庭科教育の衣生活領域の基礎知識を修得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

健康で快適な衣生活を構築するための衣服に関する基礎知識を修得する。

1. 衣服材料の種類と性能
2. 衣服材料の機能加工
3. 衣服材料の管理方法

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	衣生活材料の種類や区別がない。	衣生活材料についての基礎的内容を理解している。	衣生活材料について内容を理解し、衣生活を支える材料についても知識を深めようとする。	衣生活材料を理解し、さらに衣生活を支える関連材料についても理解する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、衣服の変遷
- 第 2 回 衣服の購入と製品表示
- 第 3 回 布とは
- 第 4 回 糸とは
- 第 5 回 繊維とは1 (天然繊維)
- 第 6 回 繊維とは2 (合成繊維)
- 第 7 回 繊維とは3 (繊維の構造と性質)
- 第 8 回 機能加工
- 第 9 回 衣服の快適性
- 第 10 回 色彩と染色材料
- 第 11 回 染色加工

- 第 12 回 衣服の管理と保管1 (洗剤・洗濯)
- 第 13 回 衣服の管理と保管2 (柔軟処理・漂白・防虫)
- 第 14 回 環境問題と衣生活、講義内試験
- 第 15 回 試験解説、講義のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で行う。適宜必要資料を配布する。必要に応じて動画などを観る。

フィードバックとして理解度確認の小テストを行い、解答の解説を行う。また、レポートについては添削を行い、解説をコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

常日頃から衣料品の素材に興味を持ち、品質表示の確認をして洗濯やアイロン仕上げ、保管などの経験しておくこと。講義前は教科書や関連する参考文献を熟読しておくこと。講義中に小テストや課題を出すので、講義後は復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義内試験 (70%)、小テスト・課題(20%)、学習意欲の有無 (10%)により総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

この科目は、中・高の教員免許「家庭」の「教科に関する科目」である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『消費者視点からの衣生活概論』/菅井清美・諸岡晴美 編著/井上書院/2013/13: 978-4753023233/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『衣の科学シリーズ 衣服材料の科学 [第3版]』/島崎恒蔵 編著/建帛社/2009/978-4-7679-1049-9

『衣の科学シリーズ 衣服管理の科学』/片山倫子/建帛社/2012/978-4-7679-1048-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」(企業における工学系開発業務)

衣生活実験 I

LDA3550N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

1単位 前期前半

火曜 3限 火曜 4限

DP5 : 共生・協働する力

15

週2コマ連続 前半7.5コマ

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

衣生活に関わる実験技法を習得し、衣生活材料学、繊維材料学、染色加工学の講義で得た知識を深める。実験・観察・評価手法を用いて自身で体験することで科学的な考え方、論理的な思考を身につける。実験方法の提案や工夫など共同実験者との作業を通じて、問題解決能力や協働力を身につける。主として被服材料・物性・堅ろう性に関わる基本的性質に対する理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 衣生活に関わる科学実験技法の基本を習得する。
2. 実験・観察・評価手法を用いて科学的な考え方、論理的思考を身につける。
3. 被服材料・物性に関わる基本的性質を理解する。
4. 共同実験者と円滑かつ迅速に作業を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	実験内容を理解できない。	実験内容を適切に理解している。	実験内容を詳細に理解し、専門講義の内容と結びつけることができる。	実験内容を詳細に理解し、専門講義の内容、自身の生活や社会と結びつけることができる。
思考・解決力	実験目標、方法、結果、考察をレポートにまとめられない。	実験目標、方法、結果、考察をレポートにまとめられる。	実験目標、方法、結果、詳細な考察をレポートにまとめられる。実験の応用を考えることができる。	実験目標、方法、結果、詳細な考察をレポートにまとめられる。実験の応用、解決法、新しい提案などができる。

共生・協働する力	共同実験者と協力して実験を遂行することができない。	共同実験者と協力して安全に実験を遂行することができる。	共同実験者と協力して迅速かつ安全に実験を遂行することができる。	共同実験者と協力して迅速かつ安全に実験を遂行することができる。他の実験者へのサポートを行うことができる。
----------	---------------------------	-----------------------------	---------------------------------	------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・実験方法の説明・諸注意
- 第 2 回 技術の習得（ビーカー・ピペットの精度）
- 第 3 回 繊維の鑑別1（染色・呈色）
- 第 4 回 繊維の鑑別2（燃焼・溶解）
- 第 5 回 洗濯のしくみと布の熱収縮
- 第 6 回 布の構造
- 第 7 回 繊維・糸の構造
- 第 8 回 布の吸水性

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

実験テキスト・資料を配布する。
フィードバックとしてレポートの提出後にコメントを返し、理解を定着させるためレポートの再提出を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

事前に配布されたテキストをよく読み、実験に臨むこと。
実験の翌週にレポートを提出すること。
実験の最終には実験ノートを提出するため、丁寧に書いておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度（授業への意欲・積極性含む）(50%)、レポート・課題(50%)

実験科目のため全回出席を原則とする。

〔留意事項（Other Information）〕

衣生活実験Ⅱもあわせて受講すること。白衣を各自用意すること。

実験室の都合上、定員（8名程度）を設ける。

実験器具数の都合上、実験の順番を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『衣服材料学実験(生活科学テキストシリーズ)』/松梨久仁子, 平井郁子(編著)/朝倉書店/2018/978-4254606348

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（企業における工学系開発業務）

衣生活実験Ⅱ

LDA3551N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

1単位 前期後半

火曜 3限 火曜 4限

DP5: 共生・協働する力

15

週2コマ連続 後半7.5コマ

安川 涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

衣生活に関わる実験技法を習得し、衣生活材料学、繊維材料学、染色加工学の講義で得た知識を深める。実験・観察・評価手法を用いて自身で体験することで科学的な考え方、論理的な思考を身につける。実験方法の提案や工夫など共同実験者との作業を通じて、問題解決能力や協働力を身につける。主として被服管理・染色加工に関わる基本的性質の理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 衣生活に関わる科学実験技法の基本を習得する。
2. 実験・観察・評価手法を用いて科学的な考え方を身につける。
3. 被服管理・染色加工に関わる基本的性質を理解する。
4. 共同実験者と円滑かつ迅速に作業を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	実験内容を理解できない。	実験内容を適切に理解している。	実験内容を詳細に理解し、専門講義の内容と結びつけることができる。	実験内容を詳細に理解し、専門講義の内容、自身の生活や社会と結びつけることができる。
思考・解決力	実験目標、方法、結果、考察をレポートにまとめられない。	実験目標、方法、結果、考察をレポートにまとめられる。	実験目標、方法、結果、詳細な考察をレポートにまとめられる。実験の応用を考えることができる。	実験目標、方法、結果、詳細な考察をレポートにまとめられる。実験の応用、解決法、新しい提案などができる。
共生・協働する力	共同実験者と協力して実験を遂行することができない。	共同実験者と協力して安全に実験を遂行することができる。	共同実験者と協力して迅速かつ安全に実験を遂行することができる。	共同実験者と協力して迅速かつ安全に実験を遂行することができる。他の実

				験者へのサポートを行うことができる。
--	--	--	--	--------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 石けんの合成
- 第 2 回 人工汚染布を用いた洗浄試験
- 第 3 回 布の防しわ・剛軟性
- 第 4 回 漂白と蛍光増白
- 第 5 回 天然染料による染色
- 第 6 回 合成染料による染色
- 第 7 回 マーブル染め or 絞り染め
- 第 8 回 レポート解説・実験のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実験テキスト・資料を配布する。
フィードバックとしてレポートの提出後にコメントを返し、理解を定着するためレポートの再提出を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に配布されたテキストをよく読み、実験に臨むこと。
実験の翌週にレポートを提出する。
実験の最終には実験ノートを提出するため、丁寧に書いておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (授業への意欲・積極性含む) (50%)、レポート・課題(50%)

実験科目のため全回出席を原則とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

衣生活実験 I を受講すること。
白衣を各自用意すること。
実験室の都合上、定員 (8名程度) を設ける。
実験器具数の都合上、実験の順番を変更することがある。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『衣服材料科学実験 (生活科学テキストシリーズ)』 / 松梨 久仁子, 平井 郁子(編著) / 朝倉書店 / 2018 / 978-4254606348

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 (企業における工学系開発業務)

医療ソーシャルワーク演習 I

SWR3503N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

1単位 前期

火曜 4限

DP5 : 共生・協働する力

15

小西 加保留

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- ①医療ソーシャルワークの根幹をなす価値の課題について自分の言葉で語れるようになる。
- ②病いを得る事の意味について想像力を高め、論じる事ができるようになる。
- ③医療を取り巻く制度の概要を説明できる。
- ④医療ソーシャルワークにおけるアセスメントに基づいた支援や協働の実際について、イメージする事ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①授業で取り上げる多様なテーマについて情報を得て考察する習慣をつけ、自分自身の言葉で語るための能力を身につける。
- ②医療ソーシャルワークの実際を体験する前準備として、病いの意味やソーシャルワークの価値について、自分の中でイメージできるようになる。
- ③支援における協働の実際について多角的に考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己覚知	自分の思考や感情を認識することが難しい	自分の思考や感情を表現できる	医療ソーシャルワークの現場で起こっていることと自分の感情や思考の違いが分かる	医療ソーシャルワークの現場で起こっていることと自分の感情や思考の違いの背景にある道筋を考えることができる
知識・理解力	医療ソーシャルワークに必要な知識が分からない	医療ソーシャルワークに必要な知識の大枠が理解できる	医療ソーシャルワークに必要な知識の概要を知っている。	医療ソーシャルワークに必要な知識の概要を実際に事例に応用することができる

言語力	医療ソーシャルワークに関する知識・技術・価値について言語化することができない	援助の場面に必要な知識・技術・価値について一部であっても言葉で伝えることができる	援助の場面に必要な知識・技術・価値について表現することができる	援助の場面に必要な知識・技術・価値について、論理展開を明らかにした内容を表現することができる
思考・解決力	自分自身の思考を展開することができない	自分自身の課題として考えることができる	自分の考えと他人の考えの違いを思考することができる	自分の考えと他人の考えの違いの背景にある要素を分析することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
授業計画について、現場実習の課題となるテーマとも擦り合わせて検討し、予定を組む
- 第 2 回 医療環境に関する復習
現代の医療環境について、医療機関に影響する政策・制度について再度学習する
- 第 3 回 医療制度に関する復習
特に医療保険や関連する福祉制度についての概要を復習する
- 第 4 回 自治体のパンフレットから学ぶ
市役所などに置かれているパンフレットから学ぶ
- 第 5 回 課題図書から学ぶ 1
学生 1 が選択した課題図書の中の一章について発表し、ディスカッションする
- 第 6 回 課題図書から学ぶ 2
学生 2 が選択した課題図書の中の一章について発表し、ディスカッションする
- 第 7 回 医療に関連するニュースについて
関心のある医療に関連するニュースを取り上げ、議論する
- 第 8 回 患者の話を聴くということ 1
ソーシャルワーカーとして患者の話を聴くということの意味を体験などから考える
- 第 9 回 患者の話を聴くということ 2
ソーシャルワーカーとして患者の話を聴くということの意味を、価値と技術の面から考察する
- 第 10 回 アセスメント 1
アセスメントの定義や考え方について学ぶ
- 第 11 回 アセスメント 2
アセスメントを構成する要素について学ぶ
- 第 12 回 アセスメント 3
アセスメントの実際について事例を使って学ぶ
- 第 13 回 支援計画
支援の一連の流れと支援計画について学ぶ
- 第 14 回 医療制度の再復習
実習に向けて特に必要となる制度を再度復習する

第 15 回 全体のふりかえり

実習指導の直前指導として講義全体を振り返る

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポート提出による試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教員から提示した内容について、学生のプレゼンテーションに基づき、ディスカッションすることを中心とする。その中で教員からの発問と学生の解答に対して適宜口頭で解説などのフィードバックを行う。

またレポートのまとめ方やプレゼンテーションの仕方なども同時に学習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

課題図書に目を通し、医療ソーシャルワークに関連するテーマで関心の高い内容を選択する。

内容をまとめ、考察を加えて、プレゼンテーションの資料を作成する。

病の語りに関する論文や著書を読み、イメージーションを膨らます。

医療ソーシャルワークの実際について、保健医療ソーシャルワーク論、医療ソーシャルワーク論で学んだことに照らしながら、考えられるように準備する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に対する準備状況、当日の発表、ディスカッションの内容 (50%)

最終レポート (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

医療機関でソーシャルワーク実習を行う学生が履修することを前提としている。

人数や学生の準備状況により、内容に変更を加える場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に無し

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

①『患者とともに 寄り添うソーシャルワーク』川村博文/新潮社/2016/9784109100656

②『ルポ 最期をどう迎えるか』共同通信生活報道部/岩波書店/2018/9784000230698

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関においてソーシャルワーカーとしての勤務経験あり。

医療ソーシャルワーク演習 II

SWR3650NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

1単位 後期

火曜 4限

DP6：創造・発信力

15

小西 加保留

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

①医療機関でのソーシャルワーク実習を踏まえた問題意識に対する自分なりの振り返りを行い、言語化出来る。

②援助プロセスの内容について論じることが出来る

③内外連携や地域資源開発の実際と課題を考察し、解決の道筋をイメージすることができる。

④実践上のジレンマを構成する要素について言語化することにより、新たな解決の糸口を考察する力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

医療機関のソーシャルワーク実習において学習した点や疑問に思った点などについて、より一般化した形で医療ソーシャルワークの枠組みや概念に関するイメージを持てるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
制度の理解	MSWに関わる制度についての知識がない	MSWに関わる制度の大枠が分かる	MSWに関わる制度の概要を説明できる	MSWに関わる制度を実際に支援に活かせる
院内外連携・チーム	連携に関する知識を持っていない	連携に関わる知識の大枠のみ知っている	連携やチームに必要な知識を体系化して述べる事ができる	連携やチームに必要な知識を実際の場面と連動させて述べる事ができる
地域資源開発	地域資源開発についての方法が全く思いつかない	地域資源開発についてのいくつかの糸口を考えることができる	地域資源開発についての実際の状況に照らして考察できる	地域資源開発についての実際の状況に照らして開発できる
アセスメント	アセスメントに関する知識を持っていない	アセスメントについての断片的な知識がある	アセスメントに関わる知識・技術・価値について検討できる	アセスメントに関わる知識・技術・価値について実際の事例の中で応用できる

支援計画・実践	支援計画を立てることができない	支援計画における目標を考えることができる	支援の目標を立てて計画を作成できる	支援計画を実際の場面で展開することができる
ジレンマ・自己覚知	援助場面におけるジレンマに気が付かない	援助場面におけるジレンマへに気づき、その構造について考察できる	援助場面におけるジレンマへの対応について、いくつかの切り口を示すことができる	援助場面におけるジレンマへの対応について、解決に向けた道筋をイメージすることができる

〔授業計画〕

学生の実習後の問題意識によって授業を組み立てる。

第1回目の授業で、医療ソーシャルワーク現場実習での気づきを、より一般化した形で理解が深まる事を目指して、授業内容・方法を検討する。

例えば以下のようなテーマ(例)で、実習で学んだ事例を基に検討する。

- 1 実習での経験を分かち合う
- 2 検討したいテーマについてディスカッションし、事業計画を立てる
- 3 事例1に基づくアセスメント
- 4 事例2に基づくアセスメント
- 5 事例3に基づくアセスメント
- 6 院内連携
- 7 院外連携
- 6 地域資源の開発
- 8 支援のプロセス
- 9 事例1に基づく支援計画・実践
- 10 事例2に基づく支援計画・実践
- 12 実践における倫理的ジレンマ
- 13 学生1における自己覚知
- 14 学生2における自己覚知
- 15 全体の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートによる試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

医療ソーシャルワーク現場実習で学んだことをふまえて、さらに深く学びたいことを抽出して、学生自らが自主的に授業内容を構成できるように教員がサポートする。

テーマに沿って可能な限り効果的に学習できるような方法を探り、ディスカッションを通じて自分事への理解に繋げる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

医療ソーシャルワーク現場実習で学んだことの中からさらに深く学びたいことを抽出する。

授業の中で検討したい内容について、スケジュールに沿って各回の準備を行う。

実習日誌に書かれたことなどを土台にして準備するなど、できるだけ具体性のある内容にすることが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に対する姿勢や発表、ディスカッションの内容 (50%)
最終レポート (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

医療ソーシャルワーク現場実習の履修生の登録を前提としている。

学生の抱える課題によって内容に変更を加える場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関においてソーシャルワーカーとしての勤務経験あり。

医療ソーシャルワーク現場実習

SWR3502N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

6単位 集中

その他

DP5 : 共生・協働する力

90

集中

小西 加保留 三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

① 保健医療機関における 現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。

② 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

③ 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することができる。

④ 患者・家族の生活課題について共感し、寄り添う態度を身に付ける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

① 保健医療機関の相談援助実習を通じて、機関の役割・機能・運営、職員や他の専門職との連携、地域との基本的な関係について、実践的に理解を深める。

② 保健医療機関の相談援助に必要な知識や技術に対する具体的、実践的な理解の基に、利用者・家族理解に基づく援助関係の形成や、ニーズに沿った援助計画を立てるなど、社会福祉士としての資質、技能、倫理、自己覚知の課題把握など、総合的な対応能力を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
社会人としてのマナーや学ぶ姿勢	適切な挨拶をしたり、学ぶ姿勢を示すことができない	挨拶はできても学びに対する積極性を示すことができない	指示されたことには誠実に積極的に取り組むことができる	指示されなくても、積極的に適切な態度で学ぶことができる
実習する医療機関に関する知識	実習を行う医療機関の機能や特徴について理解していない	実習を行う医療機関の機能や特徴について知っている	実習を行う医療機関の機能や特徴について、ミクロ・メゾ・マクロレベルで理解できる	実習を行う医療機関の機能や特徴について、具体的な展開の実際や課題について述べることができる
援助のプロセス	援助のプロセスに関する知識を持っていない	援助のプロセスに関する知識を持っている	援助のプロセスに関する知識を具体的な事例を用いて説明できる	実際の事例の支援プロセスに関与することができる
ソーシャルワークの価値や権利擁護	ソーシャルワークの価値や権利擁護に関する知識がない	ソーシャルワークの価値や権利擁護に関する知識を持っているが具体的に理解できない	ソーシャルワークの価値や権利擁護に関する知識を具体的な例に基づいて考察できる	ソーシャルワークの価値や権利擁護に基づく実践を体現できる
連携・チーム	連携やチームに関する知識を持っていない	連携やチームに関する大枠の知識を持っている	連携やチームに関する実際の展開を観察し、説明することができる	連携やチームに関する実施の展開について知識に基づいて考察することができる
地域への働きかけ	医療ソーシャルワークの地域との関わりについての知識を持っていない	医療ソーシャルワークの地域との関わりについての必要性については理解している	医療ソーシャルワークの地域との関わりを実際を観察し、説明できる	医療ソーシャルワークの地域との関わりについて、その特徴や課題について、その考察することができる。

記録	医療ソーシャルワークに必要な記録について理解できない	医療ソーシャルワークに求められる記録の内容を理解できる	医療ソーシャルワークについて必要な内容や分量の記録を書くことができる	医療ソーシャルワークについて十分な内容と分量の記録を書き書くことにより考察を深めることができる
----	----------------------------	-----------------------------	------------------------------------	-------------------------------------------------

【授業計画】

以下の内容について、各自の保健医療機関の機能や、社会福祉士の業務の現状等に照らして、実習計画に基づき、学生、実習指導者、実習指導担当教員の3者の合意の上で実施する。

学生は実習指導者による指導を受ける。また実習指導担当教員は、学生ならびに実習先との連絡調整を密に行い、実習状況を把握した上で、個別指導を十分に行う。

①機関の位置づけ、経営方針、管理運営の特徴

医療法や医療政策、診療報酬上の機関の位置づけ、設置主体、機関の沿革、理念、管理運営の特徴等について理解を深める。

②地域住民との関係や広報、ボランティアの活用と運営

地域の中にある医療機関として、職員、関係者と地域住民などとの関係の経過や、広報、ボランティアの活用の実際とその運営の仕方を学ぶ

③患者・家族理解のための知識

様々な病気や障害を持った患者・家族理解のための基本的な知識を学ぶ。

④信頼関係の醸成と面接技法

信頼関係を醸成するための態度や技術の実際を学ぶ。

⑤アセスメントのための知識と技術1

カルテや面接などから得た情報収集を基に、患者・家族の置かれている状況について、身体的状況、心理的状況、人間関係、社会的状況、コーピングリソース、スレングスなどの視点からアセスメントの実際を学ぶ。

⑥アセスメントのための知識と技術2

カルテや面接などから得た情報収集を基に、患者・家族の置かれている状況について、身体的状況、心理的状況、人間関係、社会的状況、コーピングリソース、スレングスなどの視点からアセスメントを行い、学習の課題を知る。

⑦援助計画の作成

アセスメントに基づき、援助計画の作成を試みる。またその内容について、患者・家族側の視点や他専門職との合意の観点からも検討する。

⑧援助プロセスの学習1

援助記録・電子カルテの閲覧や実際の面接への同席の経験から、当該患者の援助の開始から終結までのプロセスを学ぶ。

⑨援助プロセスの学習2

援助記録・電子カルテの閲覧や実際の面接への同席の経

験から、当該患者の援助の開始から終結までのプロセスを学ぶことにより、当該医療機関の機能の観点からその意味と課題を考察する。

⑩患者の意思の尊重、意思決定支援のプロセス

患者の意思を尊重した支援が、どのような意思決定支援のプロセスにより実現することができるかについて、権利擁護の視点と支援の評価を踏まえて考察する。

⑪支援の評価とエンパワメント

支援の結果が、患者・家族にとって、また医療機関の側から、どのように評価できるかを検討する。また支援のプロセスが患者・家族のエンパワメントに寄与できたかを考察する。

⑫院内外連携システムの理解

機関内のチームアプローチの現状やシステムの実際について知る。また院内外の連携の実際、社会福祉士のチームへの関与や役割、貢献の内容を理解する。

⑬チームカンファレンスの実際と課題

院内外のスタッフや患者・家族によるカンファレンスへの同席などを通じて、その実際を知る。チームの目標や力動、社会福祉士の役割、患者・家族側の捉え方などにも注目する。

⑭社会福祉士としての職業倫理、職員としての自覚と責任

組織の一員としての社会福祉士の職業倫理の実際について学ぶ。また就業規定などに関する理解を深め、組織の一員としての機関における役割と責任の果たし方について学ぶ。

⑮地域完結型医療や地域包括ケアへの関与とネットワークングの実際

地域完結型医療や地域包括ケアに関わる組織としての地域社会への働きかけやネットワークングの実際と社会福祉士の役割を知る。社会資源の活用・開発の方法や課題について理解する。

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

①社会福祉士受験資格取得希望者に対して指定された社会福祉施設等での180時間(24日)以上の現場実習を行う。

②実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う。

③担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョンなどにより指導を行う。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

実習先の医療機関の特徴をHPなどから収集し、その概要、沿革、特徴等について理解を深める。また社会福祉関連科目などの授業で習った知識を活用しながら、学びたい内容を整理する。実習中は現場のスーパーバイザーや担当教員のアドバイスを得ながら自身の課題について振り返り、レベルアップを目指して学びを深める。また体調管理には特に留意する事。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

100

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習修了者には60点、実習機関による評価 (15点)、教員による評価(15点)、その他提出物、実習ノートなど (10点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『医療福祉総合ガイドブック2019年度版』NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会/2019/学内販売

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関においてソーシャルワーカーとしての勤務経験あり。

医療ソーシャルワーク論 2017年度以降入学者

SWA2550NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

火曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

小西 加保留

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

①保健医療ソーシャルワークの対象となる様々な領域, 例えばがん, リハビリ, 小児, 認知症等における心理社会的な生活上の課題の概要と, 支援のポイントについて論じる事ができる。

②病院機能別のソーシャルワークの業務のポイントについて, 説明できる。

③病院組織における医療ソーシャルワーカーの地域医療に対する役割について論じる事ができる。

④価値に基づく医療ソーシャルワーク実践の展開について論じる事ができる。

⑤種々の医療上の困難を抱える患者・家族の課題に共感し, 協働しながら解決方法を見出すことができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①実践上の課題におけるテーマを取り上げ, アセスメントや支援の観点からディスカッションを行う。

②授業の際に配布される参考資料に目を通し, 自分なりの考察を深めておく。

③以上を通して, 患者・家族の抱える課題を自分事として想像し共感力を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	MSWの存在の意味や意義について理解できない	MSWの存在の意味や意義について一面的には捉える事ができる	MSWの存在の意味や意義について多角的に考える事ができる	MSWの存在の意味や意義について総合的に考え説明できる
思考・解決力	疾患や障害について生活との関連で考える事ができない	疾患や障害について生活との関連で部分的にイメージ出来る	一部の疾患や障害について生活との関連を具体的に表現できる	疾患や障害について生活との関連で考えた上で, 支援に対する具体的考えを表現できる
コミュニケーション・協働する力	MSWに関連する課題についての議論の糸口を掴めない	MSWの業務についての課題や疑問などを話し合う事ができる	MSWの業務についての具体的な場面の解決策などについて議論できる	MSWの業務についての具体的な場面の課題についてその背景や解決策について具体的に議論できる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

授業の進め方やスケジュール, 授業への準備などに関するオリエンテーション

第 2 回 医療福祉の基礎

医療ソーシャルワーク実践について学ぶ上での医療福祉に関する基礎知識を概観する

第 3 回 患者理解

患者を理解するにはどのような知識や技術は求められるかについて学ぶ

第 4 回 家族理解

患者家族の置かれている立場や家族理解のために必要な知識の枠組みを学ぶ (ジェノグラム・エコマップを含む)

第 5 回 病院機能とソーシャルワーク (特定機能・急性期等)

病院の機能の理解と特定機能・急性期等における支援の実際を学ぶ

第 6 回 病院機能とソーシャルワーク (回復期リハビリテーション・療養病床等)

回復期リハビリテーション・療養病床等における支援の実際について学ぶ

第 7 回 組織内外連携と地域包括ケア

病院内外連携・チーム医療に必要な知識と, 医療ソーシャルワーカーの地域包括ケアへの関わり方を学ぶ

第 8 回 がん医療とソーシャルワーク

がん対策、就労支援、人生の最終段階の意思決定支援などについて学ぶ

- 第 9 回 小児とソーシャルワーク
子供の病気の変遷とソーシャルワークの特徴を学ぶ
- 第 10 回 リハビリテーションとソーシャルワーク・障害受容
リハビリテーション・ソーシャルワークと障害受容について学ぶ
- 第 11 回 障がい当事者からのお話
障がい当事者からのお話を伺うことで理解を深める
- 第 12 回 HIV感染症とソーシャルワーク
HIV感染症の動向とソーシャルワークの実際について学ぶ
- 第 13 回 救急医療とソーシャルワーク
救急医療におけるソーシャルワークの特徴と実際について学ぶ
- 第 14 回 権利擁護と意思決定支援
権利擁護と意思決定支援にかかわるソーシャルワーク実践のあり方を考える
- 第 15 回 講義のまとめと振り返り
全体の講義を振り返ってディスカッションを行い、学びを整理する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

講義方式およびディスカッションを行う。

授業中の発問と学生の解答に対して、適宜口頭でフィードバックする。

2. 学習方法

講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。

テーマに沿った情報を各自事前に入手し、授業に臨むこと。詳細は授業中に指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業のテーマに該当するテキストの章・節を指示しますので、予習をして下さい。

また他の社会福祉関連の授業での知識を統合して理解できるように準備して下さい。

事前に指示をしたテーマに関連する情報を可能な限り収集し考察を深める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (70%) と講義内での授業参加度 (30%) の総合評価とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

テキストは必ず購入して下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる医療福祉—保健医療ソーシャルワーク』/小西加保留・田中千枝子/ミネルヴァ書房/2010/9784623055746/学内販売

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『HIV/AIDSソーシャルワーカー実践と理論への展望』/小西加保留編著/中央法規/2017/9784805855980

『権利擁護がわかる意思決定支援』/日本福祉大学権利擁護研究センター監修/ミネルヴァ書房/2018/9784623083787

『救急患者支援 地域につながるソーシャルワーク 救急認定ソーシャルワーカー標準テキスト』救急認定ソーシャルワーカー認定機構監修/へるす出版/2017/9784892699368

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関においてソーシャルワーカーとして勤務経験あり。

栄養学

LDA2403N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

集中

山田 恵里子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人が生命を維持し、健康を保ち活動するために必須である「栄養」について理解し、栄養素やエネルギーの代謝とその生理的意義を生活している人の観点から理解するとともに、食品機能成分の働きならびに生体調節機能に関する知識も習得することを目的とする。

本科目の履修によって、習得した専門知識を自他の生活課題を解決するために活用することができる。また、生活のあり方や生活課題の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につけることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 「栄養」とは何か、「食」の意義について理解する
2. エネルギーの代謝とその生理的意義を理解する
3. 各栄養素の代謝とその生理的意義を理解する
4. 健康と栄養の関係について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 食と健康とは、栄養とは何か
- 第 2 回 何をどれだけ食べればいいのか 1～空腹と食欲のメカニズムを知る
- 第 3 回 何をどれだけ食べればいいのか 2～日本人の食事摂取基準を知る
- 第 4 回 何をどれだけ食べればいいのか 3～食生活指針と食事バランスガイドを知る
- 第 5 回 食べるしくみ・機能について
- 第 6 回 消化・吸収・代謝のしくみについて
- 第 7 回 身体にとってエネルギーとは
- 第 8 回 身体にとって炭水化物とは
- 第 9 回 身体にとって脂質とは
- 第 10 回 身体にとってたんぱく質とは
- 第 11 回 身体にとってビタミンとは
- 第 12 回 身体にとってミネラルとは
- 第 13 回 身体にとって水とは、アルコールとは
- 第 14 回 栄養状態と疾患・健康の保持・増進の関係
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。試験内容についてmanabaにて受講者全体に向けてフィードバックする。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は講義形式で、テキストを使い、板書とスライドで進行する。必要に応じて補足プリントやDVD等を使用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業内容について講義内容をまとめたノートを作成する。次回内容について教科書の内容を把握しておくこと。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

筆記試験80%およびレポート等課題20%+αで評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

私語が著しい者には退席を求める。

出席が規定回数に達しない場合は試験受験資格を失う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『栄養の基本がわかる図解事典』/中村丁次著/成美堂出版/2015年/978-4-415-32028-1/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 管理栄養士として臨床現場での勤務経験あり

介護概論

SWA2451N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

木曜1限

DP4: 思考・解決力

60

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 「介護福祉」とは何かを理解する。 2. 介護福祉の知識・技術・倫理への理解を深める。 3. 福祉・保健・医療の連携・統合の必要性を学ぶ。 4. 在宅福祉、介護機器・住宅改修の適用を学ぶ。知識、技術の習得ができ、課題認識と理解力が高まる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 介護福祉の意義や目標、機能 2. 介護福祉サービスを必要とする人間の理解 3. 介護保険制度における介護 4. 介護福祉を展開する際に必要な知識

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	介護福祉について意識できない	介護福祉の必要性を考える	介護福祉の重要性を考える	介護福祉の更なる応用構築について考える
知識・理解力	介護と介護福祉の区別がつかない	介護福祉実践の仕組みを理解できる	介護福祉実践の仕組みを理解し、その内容について説明できる	介護福祉実践の問題点、将来像について説明できる
言語力	介護福祉実践に関する用語を理解しようとしていない	介護福祉実践で用いる専門用語を理解する	介護福祉実践で用いる用語の説明、開設ができる	介護福祉実践で用いる援助内容が地域社会でどのように活かせるか説明できる
思考・解決力	教わったこと以上は考えていこうとしない	介護福祉実践の応用の必要が現代社会で必要であると考えられる	現代社会における介護実践の課題を自らまとめ、解決策	介護福祉実践の担い手の中心である介護福祉士の専門性に言及できる

			を提案できる	
共生・協働する力	他者の意見や各種先行研究を参考にしない	先行研究等を参考にし、考えようとする	考えた結果を皆で共有し、自身も考えを深めようとする	レベル3に加えて介護福祉実践が地域社会での共生に寄与することを考える
創造・発信力	自分の勝手な想像で発信してしまう	周囲の状況も勘案しながら詩文の情報発信を考える	介護福祉実践の状況を調べ、発信の正確さを検討する	レベル3に加えて介護サービスは対人援助技術の一環であることを考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 介護福祉入門
「介護福祉」とは何か
- 第 2 回 介護福祉を考える1
介護の概念と範囲
- 第 3 回 介護福祉を考える2
介護の理念と対象
- 第 4 回 介護保険制度
介護保険制度と介護予防の必要性
- 第 5 回 介護予防とは
介護予防に関する制度と状況
- 第 6 回 介護マネジメント
介護過程の概要の概要と技法
- 第 7 回 認知症ケア1
認知症ケアの基本的考え方
- 第 8 回 認知症ケア2
認知症ケアの実際
- 第 9 回 認知症ケア3
終末期ケアの基本的考え方
- 第 10 回 終末を支える介護福祉1
終末期場面における人間観と倫理
- 第 11 回 終末を支える介護福祉2
終末期場面での介護の実際
- 第 12 回 居宅での住まい環境
要介護高齢者の住環境、周辺環境
- 第 13 回 居宅での生活支援を考える
訪問介護員、介護職員の役割
- 第 14 回 介護保険制度を支える人たち
介護に関連する専門職や関係者
- 第 15 回 介護福祉の総括
高齢者介護の課題と将来展望

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

指定教科書は絶版となったので授業時に配布する資料も活用しながら講義を行う。視覚教材も使用して理解を深めてもらう。講義終了時には毎回の講義の理解度を確認する

ために指定する様式での小テストを提出する。
最終授業で全体のフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

高齢者介護福祉の現状は日々刻々と変化している。タイムリーな話題として高齢者介護福祉等に関する新聞記事などを紹介また印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求めるので日常の高齢者介護の関連問題には留意すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (20%)、定期試験 (50%) とし、その総合点を最終評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士資格の取得をめざす学生は本科目を履修しなければならない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

「8/26追記、テキストは使用せず、資料を提示するため、テキストの購入は不要」

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ケアの本質』/ミルトン・メイヤロフ 著 田村真 他訳/ゆみる出版//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 介護福祉士として施設での勤務経験あり。

介護技術

SWA2400N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜 3限

DP4 : 思考・解決力

60

定員15名

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

個々の人権意識と利用者の多様性を理解する。

そのために必要なコミュニケーション技術、介護技術を身につける。

自己研鑽への態度の増強、共感、協働する力を蓄えることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 介護技術を学ぶ意義と人権保障について習得する。
2. コミュニケーション技法、観察・技法について学習する。
3. 環境整備と福祉用具の用い方についての知識を習得する。
4. 認知症の理解。
5. 生活場面での移乗・移動介助について理解し、介助の技術を身につける。

6. 食事の介護について知識を身につけ、介助できるようにする。
7. 排泄の意義と目的を理解した上で、介助技術を習得する。
8. 着脱と整容の介護についてその意味を理解し、介助できるようにする。
9. 清潔の介護の意義を理解し、介助技術を習得する。
10. 医療との連携の必要性と意義を理解し、緊急時の対応について学習する。
11. 事例をもとに介護の実際を文章に落とし込み、実践する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	介護技術の認識ができない	介護技術の必要性を考える	介護技術の重要性を考える	介護技術実践の具体的展開を考える
知識・理解力	介護と介護福祉の区別がつかない	介護技術の仕組みと現状を理解できる	介護技術の仕組みが理解でき、具体的な支援がわかる	介護技術の理解をしたうえで介護実態での課題整理ができる
言語力	介護技術での用語の理解ができない	介護技術専用の用語について理解できる	介護技術の用語の理解ができ、説明ができる	介護技術サービスの長所、短所について理解できる
思考・解決力	教わったこと以上は学習していない	介護技術の活用は現代社会において不可欠であると考える	現代社会での介護技術の活用が結びついて考えられる	介護技術サービスが対人援助技術であることを理解できる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献から学びを広めようとする	考えた結果を他者と共有し、自身も深めようとする	レベル3に加えて介護技術と現代社会での連携を考えられる
創造・発信力	自身で勝手に想像したことを発信する	自身で周囲の状況を考え、介護技術の在り方を考える	介護技術サービスの提供実績を踏まえて援助について考える	レベル3に加えて介護保険法の理解をしながら考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 介護技術入門
介護技術を学ぶ意義 ―その基本視点―
介護技術と人権保障
- 第 2 回 介護技術での関係性
コミュニケーションの技法
- 第 3 回 介護技術での技法

- 観察・記録の技法
- 第 4 回 介護技術と環境の整備
環境整備 住環境, 寝具の整備 ユニバーサルデザイン
 - 第 5 回 介護技術と福祉用具
福祉用具の使い方
 - 第 6 回 介護技術と介助体験1
移乗・移動介助 I ―ベッドサイドの移動・移乗の介護―
 - 第 7 回 介護技術と介護体験2
移乗・移動介助 II ―歩行の介護と車いす利用時の介護―
 - 第 8 回 介護技術と認知症ケア1
認知症ケアと食事の介護
 - 第 9 回 介護技術の認知症ケア2
認知症ケアと排泄介護 I
 - 第 10 回 介護技術と認知症ケア3
認知症ケアと入浴介護
 - 第 11 回 介護技術と認知症ケア4
認知症ケアの方法 パーソンセンタードケア
 - 第 12 回 介護技術と認知症ケア5
認知症ケアの方法 ユマニチュード
 - 第 13 回 介護技術と認知症ケア6
認知症ケアの方法 バリデーション
 - 第 14 回 介護技術と医療支援
医療との連携 急変・事故の時の対応
 - 第 15 回 介護技術での総括
まとめ ―コミュニケーション技術に焦点を当てて―

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。レポートを課す

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業方法は講義・演習・小テスト・実技による。

実技を多用することがある。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 人体の構造と機能についての予備学習(プリント, DVD)
- 2 演習に入る前に講義による知識を得て, デモンストレーション・実技を実施する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

①欠席回数が3分の1を超越した場合受験資格を失う。

②授業参加度 40%

③小テスト 20%

④レポート試験 40% で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『介護技術学』/三好明夫・仲田勝美/学文社///学内販売予定別途指示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『介護福祉士初任者のための実践ガイドブック』/日本介護福祉士会・編/中央法規出版//

『障がい者自立生活センターの介助サービストラブルの実態と予防・対処への提言』/松山光生/明石書店//

別途指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

日本介護福祉士会

<http://www.jaccw.or.jp/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶ 介護業務を行う高齢者福祉施設での勤務経験あり

建築構造力学

LDR3200N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜1限

DP2: 知識・理解力

60

建築一般構造

ドイル 恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

建築は人を守るために「安全」でなければならない。安全な建築物を造るためには、柱や梁にどのような力が作用して、どのように変形するかを知るための「力学」の基礎知識が求められる。具体的には、静定構造物の応力計算に関する知識の習得を目標とする。二級建築士試験では、問題25問中に、約6-7問は構造力学から出題されるため、本講義ではそのテスト対策として演習もおこなう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

難しいと思われがちな建築構造力学の基礎は、「中学の理科レベル+α」の知識で十分に対応できる。主に次の項目に関する理解に重点を置く。

- 1.作用・反作用の知識による反力の計算
- 2.反力と外力をもとにした単純支持ばりや門形骨組の曲げモーメントとせん断力の計算

3.上記を踏まえた構造力学の基礎等

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力				
思考・解決力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス (建築構造・力学の基礎)
建築構造の概要、構造力学に必要な基礎学力 (物理・数学)について説明する。基礎学力テスト実施。
- 第 2 回 模型実習
建築構造学の必要性を理解するために、身近なものを活用し、構造物を作る模型実習を行う。
- 第 3 回 構造力学の必要性
「模型実習」の振り返りおよび「構造の働きとその美しさ」について各自が解説する (レポートおよびプレゼンテーションあり)。
- 第 4 回 部材と力学
部材の伸縮、応力度、ひずみ: 物体の中も力が働いている。これらの力学的性質を理解し、強く、変形しにくく、粘り強い材料について習得する。
- 第 5 回 力学の基礎 (力の和・分解)
物理・力学とは現象に対するイメージを正しく持つことが求められる。作用反作用の法則・ベクトル等についての力学基礎知識を習得する。
- 第 6 回 力学の基礎 (モーメント)
物理・力学とは現象に対するイメージを正しく持つことが求められる。モーメントといったねじりも含めた力学基礎知識を習得する。
- 第 7 回 建築構造のモデル化
応力とモーメントの計算法について習得し、建築構造のモデル化および反力について習得する。
- 第 8 回 部材に生じる力1
柱・梁といった部材を例に、部材に生じる力の種類(外力)と計算法を習得する。
- 第 9 回 部材に生じる力2
柱・梁といった部材を例に、部材に生じる力の種類(内力)と計算法を習得する。
- 第 10 回 静定構造の解き方 1
ラーメン構造・ヒンジのある構造を例に、部材に生じる力の種類(外力)と計算法を習得する
- 第 11 回 静定構造の解き方 2
ラーメン構造・ヒンジのある構造を例に、部材に生じる力の種類(内力)と計算法を習得する
- 第 12 回 トラス部材の解き方
トラス部材について切断法・接点法を用いて計算する。演習あり。
- 第 13 回 静定構造のまとめ

静定構造の解き方と応力について復習する。演習あり。

第 14 回 建築士2級の演習

建築士2級の構造力学分野にかかる演習を行う。

第 15 回 建築士2級試験の復習および定期試験

建築士2級の構造演習の復習を行うと共に、最終定期試験を実施する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

基本的にはテキストに基づいて、構造力学の解説、例題問題の説明、そして、類似問題の演習を行い、実践に即した講義を行う。グループワーク (演習)、プレゼンテーションまたはレポート(1回)も含む。課題へのフィードバックは講義時間内に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

(1)基本的に1時限1単元で進むので、必ずその時間の講義を理解し、わからない場合は次の講義で質問すること。復習を必ずすること。

(2)欠席すると次の時間の理解に支障が生じるので注意すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

5回程度の小テストが実施される。出席 (30点) 定期テスト (40点)、グループワークやプレゼンテーション(30点)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『図解入門図解レクチャー 構造力学 (静定・不静定構造を学ぶ)』/浅野清昭/学芸出版社/2011 /ISBN9784761525231/学内販売をしない予定

他、演習プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

構造力学向けの教科書は多数販売されているので、講義がある程度進行してから書店または図書館で手にとって確かめるのが望ましい。

考えるプロセスがわかる力のつり合いを理解する構造力学、小野里 憲一、西村 彰敏、彰国社

初めての建築構造力学、<建築のテキスト>編集委員会編、学芸出版社

わかる建築学 建築構造力学、安達 洋・丸田栄蔵編、学芸出版社

よくわかる構造力学の基本、松本慎也著、秀和システム

新・建築構造入門、西谷 章著、鹿島出版会

やさしい建築構造力学 演習問題集 浅野清昭 学芸出版社

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

1994-1998年：国内ゼネコンにて、技術研究(耐震・免振)および構造設計業務経験あり。

1998-2013年：海外にて、インフラプロジェクト立案・計画・管理経験あり。

更生保護制度

SWR3402N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

1単位 前期前半

金曜 1限

DP4：思考・解決力

30

全7.5コマ

大畑 好司

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

成人の犯罪、子どもの非行といった問題に対して、司法的な側面ばかりではなく、福祉的な側面も視野に入れ、関係機関との連携を図っていかねばならないという今日的な状況を見逃すことは出来ない。

また、ソーシャルワーカーとして取り組む相談援助活動の場面においても、更生保護制度を中心とした刑事司法・少年司法制度についての理解は不可欠な状況である。

こうした観点から、司法の枠組みの中で展開される社会福祉的機能や社会福祉的实践について、具体的な問題を中心に学ぶことを通して、更生保護制度だけではなく、社会の中での更生保護の在り方を批判的・論理的に考え、現状の問題点を解決する考え方 (思考・解決力) を身につけることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 刑事司法・少年司法制度について理解する。
- 2 更生保護制度の枠組を理解する。
- 3 更生保護制度を支える組織、専門職について理解する。
- 4 関係機関との連携のあり方について理解する。
- 5 様々な制度が社会の動きとどうつながっているかを理解し、問題点を明確化し、解決のための批判力や論理的思考力を養う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	更生保護制度に関心を持つ	更生保護制度を理解しようとする	更生保護制度の現状について、その特徴と問題点を検討する	更生保護制度に関する自分の意見を持つ
知識・理解力	講義をしっかり聞く	講義の要点をまとめる	講義内容から社会的な問題に視野を広げる	講義内容に関して自分の意見をもつ

言語力				
思考・解決力	制度の仕組みを考える	制度の問題点や課題を意識する	制度の問題点や課題の要点をまとめる	制度の問題点や課題について自分の考えを持つ
共生・協働する力	教員と一緒に学ぶ	友人と一緒に学ぶ	課題や問題と一緒に検討する	一緒に考えながら、新たな自分を意見を作る
創造・発信力	テストを受ける	質問に対して必要な知識をまとめる	解答に必要な知識をわかりやすく文章化する	自分の考えを簡潔に記載する

〔授業計画〕

- 第 1 回 更生保護の概要
更生保護制度の枠組みについて理解する。
- 第 2 回 仮釈放について
仮釈放の制度について理解する。
- 第 3 回 保護観察の概要
保護観察制度の大枠について理解する。
- 第 4 回 生活環境の調整等
保護観察に実際の仕事等を検討する。
- 第 5 回 更生保護施設について
更生保護施設の実情について理解する。
- 第 6 回 関係機関との連携
裁判所等（特に家庭裁判所）の業務との連携を検討する。
- 第 7 回 医療観察制度
医療観察制度の内容を理解する。
- 第 8 回 課題レポートの作成
論述方式の試験
試験に出た項目については、試験終了後に各項目ごとの解説文書を手渡す。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わる課題のレポートを作成させる。
試験に出た項目については、試験終了後に各項目ごとの解説文書を手渡す。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義により行う。
本科目は、社会福祉士国家試験科目であり、受験予定者は特に丹念な学習が不可欠である。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

事前にテキストの講義で取り扱う箇所を熟読しておくことが不可欠である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10時間

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度(30%)、課題レポート(70%)によって評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『「更生保護制度」』/社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規 /2017年 //学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『よくわかる更生保護』/藤本哲也ほか/ミネルブア書房/2016年/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫家庭裁判所調査官として、家庭裁判所に勤務していた。

社会福祉運営論

SWR3451N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜 5限

DP4: 思考・解決力

60

三好 明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕

社会福祉サービスに関する組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会）等について理解を深める。社会福祉のサービスの組織団体と経営に関する基礎理論の理解を深める。社会福祉サービスの経営と管理運営について理解を深める。知識、理解力をつけることができ、創造・発信力をつけることができる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 社会福祉運営管理の基礎的な概念を把握する。
2. 社会福祉の環境の中での社会福祉運営の展開方法と課題を学ぶ。
3. さまざまな社会福祉サービス展開の中で注目されている組織団体の役割と経営全般について学ぶ。
4. 社会福祉運営管理（ソーシャルアドミニストレーション）、社会福祉施設運営管理（ソーシャル・ウェルフェア・アドミニストレーション）を理解する。
5. 社会福祉基礎構造改革、特定非営利活動促進法、介護保険法など社会福祉の運営枠組み変化での社会福祉運営管理について方法や展開について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会福祉の運営管理を意識できない	社会福祉の運営と管理についてそれぞれの展開を考える	福祉施設等を健全運営するために必要なことを考える	近代化する福祉現場での運営と管理について将来を見据えて考える

知識・理解力	運営と管理の区別が十分についていない	運営管理の仕組みについて理解し内容について理解できる	運営管理の仕組みが理解でき、経営上の問題についても理解できる	さまざまな福祉現場での運営管理と経営課題について整理できている
言語力	社会福祉の運営管理での用語を理解しようとしていない	運営管理を円滑に進めるための用語と実践があることを理解する	簡単な運営管理の概要と予算決算の理解ができる	複雑な運営管理と予算決算の仕組みを理解できる
思考・解決力	教わったこと以上のことは考えようとしていない	近年の社会福祉施設動向を踏まえた運営管理を考える	新しい福祉施設経営などでの問題整理ができる	新しい福祉施設の運営管理について管理者の立場で理解できる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種の文献をもとに経営安定のための運営管理を考える	考えた結果を他者と共有し自分自身の考えを深める	レベル3に加えて地域社会の一員としての福祉施設としての警戒を考える
創造・発信力	自分で勝手に想像した内容の発信を行う	周囲の状況を鑑みて自らの運営管理について考える	新規の社会福祉施設等の運営管理の健全な経営策を考える	レベル3に加えて対人援助技術の一環として存在していることを考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 社会福祉運営管理とは
社会福祉運営管理の概念
- 第 2 回 社会福祉運営管理1
社会福祉法人制度
- 第 3 回 社会福祉運営管理2
特定非営利活動法人制度
- 第 4 回 社会福祉運営管理3
その他の組織や団体
- 第 5 回 社会福祉運営管理4
組織に関する基礎理論
- 第 6 回 社会福祉運営管理5
経営に関する基礎理論
- 第 7 回 社会福祉運営管理6
管理運営に関する基礎理論
- 第 8 回 社会福祉運営管理7
集団の力学とリーダーシップの基礎理論
- 第 9 回 社会福祉運営管理8
理事会の役割と財源
- 第 10 回 社会福祉運営管理9

- 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス
 - 第 11 回 社会福祉運営管理10
福祉サービス提供組織における人材の養成と確保
 - 第 12 回 社会福祉運営管理11
福祉サービス提供組織の経営の実際
 - 第 13 回 社会福祉運営管理12
適切なサービス提供体制の確保の方法
 - 第 14 回 社会福祉運営管理13
働きやすい労働環境の整備の実際
 - 第 15 回 社会福祉運営管理の総括
福祉サービスの管理運営の実際、課題と展望
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない。レポートを課す
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- 社会福祉サービスにおける運営と管理の具体的な内容と性格について確認していく。社会福祉行政の運営管理の方法、社会福祉施設の運営管理の方法、社会福祉協議会の運営管理の方法などを習得して課題や将来展望について考え、間接援助技術の技法のひとつとしてまとめることができるようにする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- 社会福祉の運営や管理等についての話題提供と理解を深めるために社会福祉運営管理等に関する新聞記事などを紹介また印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求めらるのでできるだけ日常の社会福祉運営管理等の関連問題には留意すること。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 20
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- 授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (20%)、最終レポート (50%) とし、その総合点を最終評価とする。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- 社会福祉士資格の取得をめざす学生は本科目を履修しておく必要がある。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- できるだけタイムリーな社会福祉の現場実践の情報を印刷物で紹介していきたい。初回授業で紹介する。
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 『社会福祉士シリーズ『福祉サービスの組織と経営』//弘文社//
- 授業時に適宜紹介する
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- 〈実践的科目〉 NPO法人理事長として法人運営管理の経験あり。

社会福祉調査法

SWR2400N1J
 大学
 現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)
 2年次
 2単位 前期
 金曜 2限
 DP4: 思考・解決力
 60
 平尾 良治

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会的現実を把握するときには、一定の理論や仮説をもちいながら、対象にアプローチし、現象を支配している何らかの法則を明らかにすることが求められます。その際に有効な技術としての「社会調査法」が必要となります。ここでは社会的現実の一つである「社会福祉」を対象として、質的調査と量的調査の具体的な方法を学びます。とくに社会福祉の対象である国民の生活問題をどのようにとらえ、どのように調査・分析すべきかについて、具体的な調査データの分析作業を通して考えます。同時に受講生とともに福祉現場の実態を明らかにする「調査票」づくりをおこないます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 社会福祉とは何か
- ・ 社会認識の方法としての社会・福祉調査
- ・ 社会調査の倫理および個人情報の保護
- ・ 社会・福祉調査の種類と内容 (質的・量的調査)
- ・ 調査票の作成
- ・ 統計法の理解 (標本・標本抽出・記述・推測)
- ・ 調査実施にあたってのIT活用法
- ・ 調査データの点検・集計・分析 (統計法の基礎)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 第 2 回 社会的現実を見る視点
 第 3 回 社会 (福祉) 調査とは何か (社会福祉士の役割と社会調査)

- 第 4 回 社会 (福祉) 調査の歴史
 第 5 回 社会調査の概要 (目的、対象、方法、統計法)
 第 6 回 量的調査の特徴と種類
 第 7 回 調査票の作成方法と留意点
 第 8 回 調査仮説と調査票づくり
 第 9 回 調査票の配布と回収・点検
 第 10 回 量的調査におけるデータ解析
 第 11 回 質的調査の特徴と種類
 第 12 回 調査設計と対象者の選定
 第 13 回 質的調査の調査手法、調査の実施、データ分析
 第 14 回 社会調査における倫理と個人情報保護
 第 15 回 社会調査におけるITの活用

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業形式は、講義を中心にしながら、小グループでの討議、作業、発表などをおこなってすすめます。テキストは『社会調査の基礎(第3版)』中央法規出版を使用します。事前にテキストの学習範囲を指定するので、参考資料も併せて可能な限り目を通してください。この授業では集計・分析方法を理解した上で、具体的な調査票作成までを目標とします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習: テキストの指定範囲を読了し、授業に臨んでください。
 復習: 授業のなかで「ミニレポート」作成、「確認ドリル」を実施します。結果については授業内で解説し返却します。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

2

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は学習状況 (態度・発表) 30%、確認ドリル・レポート 30%、期末テスト40%により総合的に行います。なお確認ドリル・レポートの結果・解説は授業内で行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者のグループをつくり、役割を決めて発表し討論をする学習形態をとるので、受講者は主体的に参加して下さい。
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『社会調査の基礎(第3版)』/社会福祉士養成講座編集委員会編著/中央法規出版/2014年/9784805837603/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『社会福祉の基礎理論』/林博幸・安井喜行編著/ミネルヴァ書房/2002年/4623035980

『社会調査の基礎』/岩永ほか編著/放送大学教育振興会/2003年/4595126875

『新・社会調査へのアプローチ (第2版)』/大谷信介ほか編著/ミネルヴァ書房/2013年/9784623066544

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

住計画演習 I

LDR3600N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

木曜 1限 木曜 2限

DP6: 創造・発信力

60

住居製図I、住居製図II

定員25人 週1.5コマ連続

岸 研一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会における個人と家族、社会との関係の考察や、情報化や環境問題の課題の検討を行いつつ、住宅の計画・設計の一連の作業を演習する。自らの考え方やアイデアを効果的に伝えるプレゼンテーション能力を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 住宅設計における計画能力の養成 2. 空間構成能力及び造形能力の養成 3. 住宅および周辺環境に対する新たな視点の獲得 4. プレゼンテーション能力の養成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・課題発表
ガイダンス
課題発表
課題建物についてレクチャー
- 第 2 回 学外学習
住宅展示場見学 (予定) 事例研究
- 第 3 回 エスキス (1)
エスキスチェック (1) (コンセプト、ゾーニング、プラン)
- 第 4 回 エスキス (2)
エスキスチェック (2) (プラン)
- 第 5 回 エスキス (3)
エスキスチェック (3) (プラン、作図 CAD)
- 第 6 回 作図 (1)

- 作図 (1) (CAD 通り芯、壁)
- 第 7 回 作図 (2)
作図 (2) (CAD 窓、出入口)
- 第 8 回 作図 (3)
作図 (3) (CAD 仕上、家具、外構、寸法等)
- 第 9 回 パース演習 (1)
内観パースの書き方について、演習
- 第 10 回 パース演習 (2)
内観パース演習 (トレース、添景)
- 第 11 回 パース演習 (3)
内観パース作成 (1) (構図確定、グリッド作成)
- 第 12 回 パース演習 (4)
内観パース作成 (2) (下描き)
- 第 13 回 パース演習 (5)
内観パース作成 (3) (仕上、着彩)
- 第 14 回 作図
提出図面まとめ (仕上、着彩、プレゼンテーション)
- 第 15 回 発表、講評
課題提出、発表、講評

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 半期 1 つの設計課題を通じて指導する。 2. 課題は、図面で表現する。CADによる作図も取り入れる。 3. 課題は作図のみならず、コンセプトワークや先行事例のレビューを充分に行ない、図面・パース・イメージ写真・文章等でプレゼンテーションの訓練も行う。 4. 計画した住宅を立体的な空間として把握し、より効果的なプレゼンテーションを行う為、パースを作成する。 5. 各課題は、計画段階で何度かエスキスチェックを行い、1人ずつ講評する。 6. 各演習課題の内容やスケジュールについては変更することもある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・課題への取り組みは、締め切りを念頭において、授業空き時間を利用し計画的に行うこと。

・先行事例のレビューや資料集め、計画案の下書き (エスキス) を十分に行った上で授業に臨むよう、計画的に準備を行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

4

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題および授業の取り組み状況 (70%) により総合的に評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

前提科目「住居製図 I、II」を受講していることが必須
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (25年)

ゼネコン勤務5年、設計事務所勤務3年、設計事務所開業18年、により実務経験あり。

住計画演習Ⅱ

LDR3650N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

木曜1限 木曜2限

DP6: 創造・発信力

60

住計画演習I

定員25人 週1.5コマ連続 ※入学年度により履修条件が異なる。

詳細は学生便覧を参照。

岸 研一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「住計画演習I」の授業をふまえ、本演習では、個々の住宅のみならず、居住地(敷地)全体を含めた住環境の計画・設計を演習する。立体的な作図手法や着彩による、効果的なプレゼンテーションを行い、自分の提案する計画を相手に伝える能力を身に付ける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 住宅設計における計画能力の養成 2. 空間構成能力及び造形能力の養成 3. 住宅に対する新たな視点の獲得 4. 基本的な寸法を理解する 5. 効果的なプレゼンテーション手法の養成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・課題発表
ガイダンス、課題発表、課題建物についてレクチャー
敷地見学
- 第 2 回 学外学習

参考事例研究

家具・インテリアショールーム見学 (予定)

- 第 3 回 エスキス (1)
敷地レポート提出
エスキスチェック (1) (コンセプト、ゾーニング、参考事例研究)
- 第 4 回 エスキス (2)
エスキスチェック (2) (プラン)
- 第 5 回 作図 (1)
作図 (1) (CAD 通り芯、壁)
- 第 6 回 作図 (2)
作図 (2) (CAD 窓、出入口)
- 第 7 回 作図 (3)
作図 (3) (CAD 仕上、家具、外構、寸法等)
- 第 8 回 パース演習 (1)
内観パース作成 (1) (アングル検討、下描き)
- 第 9 回 パース演習 (2)
内観パース作成 (2) (下描き、トレース)
- 第 10 回 パース演習 (3)
内観パース作成 (3) (着彩、仕上)
- 第 11 回 パース演習 (4)
アクソメ・俯瞰図・断面パース等演習
- 第 12 回 パース演習 (5)
アクソメ・俯瞰図・断面パース等 作成 (1) (下描き)
- 第 13 回 パース演習 (6)
アクソメ・俯瞰図・断面パース等 作成 (2) (着彩、仕上)
- 第 14 回 作図
提出図面仕上げ、着彩、プレゼンテーション
- 第 15 回 発表、講評
課題提出、発表 講評

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 半期1つの設計課題を通じて指導する。 2. 各課題は、図面で表現する。CADによる作図も取り入れる。
3. 課題は作図のみならず、コンセプトワークや先行事例のレビューを充分に行ない、図面・パース・イメージ写真・文章等でプレゼンテーションの訓練も行う。また、グループワークを行なう場合もある。 4. 計画した住宅を立体的な空間とし、効果的なプレゼンテーションを行う為、パース等を作成する。 5. 各演習課題の内容やスケジュールについては変更することもある。 6. 課題は発表後、講評を行い、提出課題に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・課題への取り組みは、締め切りを念頭において、授業空き時間を利用し計画的に行うこと。
- ・先行事例のレビューや資料集め、計画案の下書き (エスキス) を十分に行った上で授業に臨むよう、計画的に準備を行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

4

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題および授業の取り組み状況 (70%) により総合的に評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

「住計画演習Ⅰ」を住計画演習Ⅱの前段階として位置付けているので、同じ年度に両方合わせて受講することが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》(25年)

ゼネコン勤務5年、設計事務所勤務3年、設計事務所開業18年による実務経験あり。

色彩学

LDR3202N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

定員30人

室 千草

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「色」は造形活動のうえで、形、テキストチャーとともに、表現するための重要な要素ともいえる。「色」を体系的に学ぶことにより、色彩システムの基本知識を習得し、色彩表現、色彩計画において色を有効に活用できるような、色の区別、再現、配色方法に関する理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 12色相環の作成 2. 色の三属性を把握する配色演習 3. 季節感の色彩構成 4. 日本の色のブックカバーデザイン 5. 配色技法を用いたパターン制作 6. エクステリアの色彩設計 7. インテリアの色彩設計

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
主体的に学ぶ事	色彩について知ろうとする	色彩について理解しようとする	色彩の理論に基づいて、課題実習をする	色彩の理論に基づいて、課題実習に生かすことができる

学習指導要領の理解力	学んだ事を、要領よく理解できない	学んだ事を、要領よく理解できる	授業内容を理解し、色彩実習をする	授業内容を理解し、色彩実習の課題に反映する事が出来る
思考・想像する力	実習課題をする	課題を積極的にこなす事が出来る	うまくいかなかった課題を次の課題にいかす事が出来る	理論を元に自ら想像し、理解し、課題に反映する事が出来る

〔授業計画〕

第 1 回 色の本質について

色と視覚、色の分類、色知覚の三属性

第 2 回 演習課題1

12色相環の作成(目的色の出し方、混色方法)

第 3 回 色の体系

色名と日本色研配色体系、PCCS、マンセル表色系

第 4 回 演習課題2

色の三属性を把握する配色演習

第 5 回 色の見え方

対比と同化、面積効果など

第 6 回 演習課題3

季節感の色彩構成(色のイメージ表現)

第 7 回 色の心理

色のイメージと感情効果

第 8 回 演習課題4

日本の和の色を用いた、かさねの色目の実習課題

第 9 回 色の調和と配色

色彩調和と配色の理論

第 10 回 演習課題5

配色技法を用いたパターン制作

第 11 回 色彩設計

建築及びインテリアの色彩設計を考える

第 12 回 演習課題6

建築及びインテリアの色彩設計を考え、実習課題

第 13 回 色彩調和

インテリアの色彩調和の技法と名前

第 14 回 演習課題7

インテリアの色彩設計と実習課題

第 15 回 まとめ

色彩設計や実習を通じての考察とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験内にテストを実施しないが、授業最終日にまとめとしてテスト(持ち込みアリ)を行います。選択問題と色彩カードを実際に使用する問題も含まれ、授業と日々の課題をしっかりとこなしていれば簡単に解けるように設定しています。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

配付プリントと画像資料を用いて理論を学ぶ。より理解度を深める為に簡単な小テストを計4回程実施する予定。理論を学んだ次の週は、配色カードや絵の具による実技演習を行う。

理論と実習を交互に行う事により、色彩学を身体的に深く学ぶ事が出来る。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

気に入ったデザインやテキスタイルがどのような配色になっているかを観察すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業時の課題・授業参加度(60%)と最終日に行うまとめテスト(40%)の総合評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

課題で配色カードを使用する際、のりとはさみが必要になります。この他に絵具やケント紙などの画材が必要となります。※初回の授業時に、画材についての説明と申込用紙を配布

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新配色カード199a』//日本色彩研究所///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『カラーコーディネーター入門 色彩』/大井義雄・川崎秀昭/日本色研事業(株)/2007年/9.784901355278E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

色彩学などの科目について

着物の会社において商品企画における色彩計画業務あり(現在も継続中)。

専門分野である映像分野のカラーグレーディングを担当(現在も継続中)。

上記の実務業務の経験から、授業内において、色彩の物質と心理的要因による原理の違いを講義形式で教えることや、実践的には、光の色の原理について、実際に学生に実技実習してもらい、教科書上のものだけでない理解を深めてもらおうと考えている。

人体の構造と機能及び疾病

SWA2205N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

寺谷 愉利子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

近年、iPS細胞や遺伝子治療など医学・医療の進展は目覚ましく、医療機関の機能は益々複雑になりつつある。医療が疾病構造の変化や国民の意識、患者のニーズによって時代と共に変遷することはいうまでもないが、「病める人」を治療したり、ケアするという医療の本質は、いつの世も変わらないことを銘記しておく必要がある。最近の医療では、サービスの質の向上や、専門的分野の高度化により、医師だけでは完結できないことも多くなっている。今日の老化の問題を含めて、福祉医療に携わる将来のために、基礎的、かつ実践でも役立つ一般的な医学的教養を学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 人の成長・発達と老化
2. 身体構造と心身の機能
3. 国際生活機能分類 (ICF)の基本的考え方と概要
4. 健康のとらえ方
5. がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病と障害の概要
6. リハビリテーションの概要

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 第1回

オリエンテーション、第1章人の成長・発達と老化 第1節、第2節、第3節

第 2 回 第2回

第2章身体構造と心身の機能 第1節、第2節10,1～

5

- 第 3 回 第3回
第 2 章身体構造と心身の機能 第2節6～8
- 第 4 回 第4回
第 2 章身体構造と心身の機能 第2節9,11～13
- 第 5 回 第5回
第 3 章 疾病の概要第1節～第4節
- 第 6 回 第6回
第 3 章 疾病の概要 第5節～第8節
- 第 7 回 第7回
第 3 章 疾病の概要 第9節～第12節
- 第 8 回 第8回
第 3 章 疾病の概要 第13節～18節
- 第 9 回 第9回
中間テスト 第 4 章 障害の概要 第1節～第3節
- 第 10 回 第10回
中間テスト解答 第 4 章 障害の概要 第4節～第7節
- 第 11 回 第11回
第 4 章 障害の概要 第8節～第10節
- 第 12 回 第12回
第 5 章リハビリテーションの概要 第1節～第5節
- 第 13 回 第13回
第 6 章 国際生活機能分類の基本的考え方と概要 第1節～第4節、第 7 章 健康のとらえ方 第1節～第2節
- 第 14 回 第14回
第 7 章 健康のとらえ方 第3節～第7節
- 第 15 回 第15回
第 7 章 健康のとらえ方 第8節～第9節、まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

講義形式

2. 学習方法

- (1)テキストに沿って行う、プリントで内容補充。
 (2)人体模型やOHC、パワーポイントを用い、頭の中にイメージを作っていく。
 (3)毎回宿題を出すので、復習しながらやること。必ず次回提出すること。返却するときに、講義で解説する。

3. テキスト・文献など

(1)テキストは社会福祉士養成講座 『医学一般』(中央法規)を用いる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 毎回宿題をやりながら復習をして、内容を理解すること。毎時間補助プリントを配付するので、しっかり読んでおくこと。分からないところは、次の授業で必ず質問すること。
 2. テキストの大項目と太字のところを読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 成績は、中間テスト (15%)、定期テスト (70%)、授業参加度 (10%)、毎回の宿題 (5%) の総合評価とする。
 2. 3分の2以上の出席がないものは、期末試験の受験資格を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

他の受講生に迷惑となる私語、スマホによるメールの送受信、飲食は禁止。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『社会福祉士養成講座 『1 人体の構造と機能及び疾病』 - 医学一般』/社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規/2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 看護師として施設での勤務経験あり。

精神科リハビリテーション学 II

SWR3452N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

橋本 史人

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

その人の人生をどう支援していくかを、講義、視聴覚教材、演習などを通して、身体 (生物学的)・こころ (心理学的)・環境 (社会的) から見る事が出来るよう、自身を含めた身近なコトとして一緒に考えていきましょう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 障害を持つ人へのリハビリテーション技術を理解する
 2 他職種等とのチームワーク、関係機関とのネットワークの重要性を理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 精神科リハビリテーションの概念と歴史
- 第 2 回 精神科リハビリテーションの理念と現状
- 第 3 回 地域を基盤にした相談援助－受理面接
- 第 4 回 地域を基盤にした相談援助－支援の計画と終結
- 第 5 回 地域を基盤にした相談援助－家族の支援
- 第 6 回 集団療法
- 第 7 回 行動療法
- 第 8 回 面接技法 I 種類
- 第 9 回 面接技法 II ロールプレイ
- 第 10 回 ケアマネジメントの概念と歴史
- 第 11 回 ケアマネジメントの理念と現状
- 第 12 回 スーパービジョン
- 第 13 回 コンサルテーション
- 第 14 回 ネットワーキングとセルフヘルプ
- 第 15 回 これからの精神科リハビリテーションの課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義、小テスト、視聴覚教材、プリント、グループワークなど。課題はその都度講義内でフィードバックする。講義時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。試験のフィードバックは試験後に解説し行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自分や周りの人々を含めて、メンタルヘルス (精神保健) について疑問を持つ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験 (50%)、授業参加 (30%)、小テスト (20%)。出席回数 3 分の 2 に満たない者はテスト等の受験資格を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新精神保健福祉士養成講座 (4) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』//中央法規///学内販売予定

*テキストは使用しないが適宜読むこと。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 社会福祉士・精神保健福祉士として施設で勤務中。

精神疾患とその治療 I

SWR2203N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜1限

DP2: 知識・理解力

60

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神的健康の保持や増進のため、また心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援や精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神医学 I では、統合失調症、躁うつ病、不安障害 (パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害)、摂食障害、心身症など代表的な精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の成因、症状、診断方法、治療法、経過、本人や家族への支援などを体系的に理解していくことを目的とする。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者と家族の支援のあり方について説明することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統合失調症の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
2. 躁病・うつ病の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
3. 不安障害 (パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害) の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
4. 心身症について説明できる
5. 摂食障害の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
6. 向精神薬の特徴と作用について説明できる
7. 医療が必要な状態について説明できる

〔ルーブリック表〕

DP 精神障害の	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分類と診断方法について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の分類と診断方法について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の分類と診断方法について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点を

				まとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の原因と症状について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の原因について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の原因について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の薬物療法や専門的な治療について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の薬物療法や専門的な治療について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の薬物療法や専門的な治療について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の当事者や家族の支援について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の当事者や家族の支援について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の当事者や家族の支援について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
医療等が必要な状態について	精神症状の把握と対応について、知識を持っていない	精神症状の把握と対応について、理解している	精神症状の把握と対応について、講義資料等を用いて説明できる	精神症状を把握した時に、その状況を整理し、対応について優先順位をつけることができる
共生社会について	精神障がい者と家族がおかれている状況に関心がない	精神障がい者と家族がおかれている状況を理解している	得られた理解をもとに、私たちが住んでいる社会の現状と望ましい共生社会のギャップについて気づくことができる	気づいたギャップについて、学んだ知識をもとに情報を収集し、課題を見出すことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 精神医学概論（精神保健・福祉の歴史を含む）
- 第 2 回 統合失調症とは（1）概論（精神保健・福祉の歴史を含む）
- 第 3 回 統合失調症とは（2）幻覚・妄想など
- 第 4 回 統合失調症とは（3）自我障害、陰性症状など
- 第 5 回 統合失調症とは（4）治療など
- 第 6 回 躁うつ病概論・うつ病（精神保健・福祉の歴史を含む）
- 第 7 回 うつ病および躁病（1）症状・診断について
- 第 8 回 うつ病および躁病（2）治療・対応について
- 第 9 回 不安障害（1）概論
- 第 10 回 不安障害（2）パニック障害・広場恐怖などについて
- 第 11 回 不安障害（3）社交不安障害などについて
- 第 12 回 不安障害（4）強迫性障害などについて
- 第 13 回 不安障害（5）転換性障害、解離性障害などについて
心身症について
- 第 14 回 摂食障害（1）病態について
- 第 15 回 摂食障害（2）合併症・治療について
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義形式で、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する
- 毎回の講義後、配布資料およびテキスト・参考図書などにより復習をする
- 定期試験については、試験終了後に解説をmanaba等で公開する
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
該当箇所をテキストで予習する
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度・授業態度（15%）と試験（85%）により総合判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。

・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『精神疾患とその治療 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会(編集)/中央法規/2016//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『精神医学—精神疾患とその治療(改訂新版)』/日本精神保健福祉士養成精神保健福祉士養成セミナー/へるす出版//

『精神医学—精神疾患とその治療(改訂新版精神医学(MINOR TEXTBOOK))』/加藤伸勝/金芳堂//

『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

精神疾患とその治療 II

SWR2454N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

火曜1限

DP4: 思考・解決力

60

精神疾患とその治療I

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神的健康の保持や増進のため、また心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援や精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神疾患とその治療IIでは、PTSD、適応障害、パーソナリティ障害、発達障害、アルコール・薬物依存、睡眠障害、認知症、てんかんなど各種精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の成因、症状、診断方法、治療法、経過、本人や家族への支援などを体系的に理解し、また向精神薬の作用についても理解していく。さらに、医療機関との連携や地域精神保健の展開についても理解を深めていく。これらの理解のうえに、精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について分析する力をつける。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる

4. 精神障害者・家族の支援のあり方について説明することができる

5. 精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について、分析し説明することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. PTSD、適応障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

2. パーソナリティ障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

3. 発達障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

4. アルコール依存・薬物依存の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

5. 主な睡眠障害の症状・診断について説明できる

6. てんかんの症状・診断法・治療法・支援の方法について説明できる

7. 主な認知症の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

8. 地域で暮らす精神障害者の支援とその課題について具体的に述べることができる

9. 医療が必要な状態について説明できる

10. 向精神薬の特徴と作用について説明できる

11. 精神疾患とその治療 I・II で学んだ精神障害に関する知識をもとに、精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神障害の分類と診断方法について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の分類と診断方法について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の分類と診断方法について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の原因と症状について	知識を持っていない	知識を持っている	資精神障害の原因と症状について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の原因と症状について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の薬物療法や専門的治療について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の薬物療法や専門的治療について、講義資料等	精神障害の薬物療法や専門的治療について、授業内容を

			を用いて、説明できる	もとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の当事者や家族の支援について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の当事者や家族の支援について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の当事者や家族の支援について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
精神医療・精神保健福祉に関連する法律について	知識を持っていない	知識を持っている	講義資料等を用いて、説明できる	精神医療・精神保健福祉に関連する法律の課題について議論することが出来る
医療等が必要な状態について	精神症状の把握と対応について、知識を持っていない	精神症状の把握と対応について、理解している	精神症状の把握と対応について、講義資料等を用いて、説明できる	精神症状を把握した時に、その状況を整理し、対応について優先順位をつけることができる
共生社会について	精神障がい者と家族がおかれている状況に関心がない	精神障がい者と家族がおかれている状況を理解している	得られた理解をもとに、私たちが住んでいる社会の現状と望ましい共生社会のギャップについて情報を収集し、分析することができる	分析により見出した課題を整理し、解決に向けて自らの行動について優先順位をつけることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回
ストレス関連障害（1）－PTSD概論－
- 第 2 回
ストレス関連障害（2）－PTSD各論、適応障害など－
- 第 3 回
ストレス関連障害（2）－急性ストレス障害、適応障害など－

- 第 4 回
パーソナリティ障害（1）概論
- 第 5 回
パーソナリティ障害（2）各論
- 第 6 回
確認テスト／発達障害（1）概論、学習障害など
- 第 7 回
発達障害（2）ADHDなど
- 第 8 回
発達障害（3）自閉スペクトラム症
- 第 9 回
アルコール依存
- 第 10 回
薬物依存
- 第 11 回
確認テスト／睡眠障害／てんかん（1）－概論
- 第 12 回
てんかん（2）－診断・症状・治療・対応について
- 第 13 回
認知症について－概論・アルツハイマー病
- 第 14 回
その他の主な認知症について
- 第 15 回
確認テスト／精神保健福祉法、地域精神医療について
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義形式を中心とし、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する。
毎回の講義後、配布資料およびテキスト・参考図書などにより復習をする
確認試験に対するフィードバックは、試験結果の返却時に講評・解説を口頭で行う。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
テキストで、該当箇所を読んでおくこと
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
討議を含む授業参加度・授業態度（15%）、確認テスト（85%）による総合評価。
- 〔留意事項（Other Information）〕
・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『精神疾患とその治療 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会(編集)/中央法規/2016//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『精神医学—精神疾患とその治療(改訂新版)』/精神保健福祉士養成セミナー/へるす出版//

『精神医学(MINOR TEXTBOOK)』/加藤伸勝/金芳堂//

『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

精神保健学 I

SWA2204N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科(実践的科目)

2年次

2単位 前期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「こころの健康」を保持増進するための精神保健学は、精神医学・公衆衛生学・発達心理学・臨床心理学などとともに発展してきた実践的な学問です。「こころの健康」を個人・集団・環境などさまざまな観点から考え、現代社会が直面している精神保健の課題を全般的に理解し、広い視野を持ってその課題を見る視点について学びます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

「こころの健康」を自分や家族の身近なテーマとして意識することからはじめ、現代社会を生きる人々の「こころの健康」をどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

こころの健康に関する正しい知識を身につける	こころの病は特別な人になる特別な病気であると考えている。	こころの病は誰にでもなるものであり、ストレス解消や支えが必要であることが理解し説明できる。	こころの病は誰にでもなるものであり、その状態にあわせて必要な支援が理解し説明できる。	こころの病は誰にでもなるものであり、その人の状態に加え、その人の置かれている状況や資源をふまえた必要な支援が理解し説明できる。
-----------------------	------------------------------	-----------------------------------------------	--------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・わたしたちとこころの健康
本当は誰にとっても身近であるこころの健康の考え方について学びます。
- 第 2 回 精神保健の歴史と課題
遅れている日本の精神保健福祉システムの理由を理解するためにこれまでの歴史を学びます。
- 第 3 回 ライフサイクルと精神の健康 I (乳児期から思春期)
人の人生はそれぞれの時期に求められる発達課題があります。乳児期から思春期の発達課題とこころの健康について学びます。
- 第 4 回 ライフサイクルと精神の健康 II (青年期から老年期)
人の人生はそれぞれの時期に求められる発達課題があります。青年期から老年期の発達課題とこころの健康について学びます。
- 第 5 回 ストレスと精神の健康、精神保健に関する予防
ストレスとこころの健康との関連、精神保健の予防という考え方を学びます。
- 第 6 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (1) 結婚と育児
精神保健と家族の課題として、結婚と出産、育児について学びます。
- 第 7 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (2) 社会的引きこもり
精神保健と家族の課題として、思春期・青年期の社会的ひきこもりについて学びます。
- 第 8 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (3) 病気療養や介護
精神保健と家族の課題として、家族の誰かが病気や「障害」、高齢になってケアや介護が必要になった場合の「ケアラー」について学びます。
- 第 9 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (1) 現代の学校教育と生徒児童の特徴
精神保健と学校教育の課題として、不登校やいじめなど子どもたちの直面する課題について学びます。
- 第 10 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (2) 教員の精神保健

精神保健と学校教育の課題として、子どもたちに向かい合っている教員のメンタルヘルスについて学びます。

第 11 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（3） 学校における精神保健福祉士の役割
精神保健と学校教育の課題として、スクールソーシャルワーカーの活動と実際について学びます。

第 12 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（1） 現代日本の労働環境
精神保健と労働の課題として、長時間労働やストレスフルな労働環境など勤労者が直面する課題について学びます。

第 13 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（2） うつ病と過労自殺
精神保健と労働の課題として、うつ病や過労自殺について学びます。

第 14 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（3） 職場における精神保健福祉士の役割
精神保健と労働の課題として、ソーシャルワークの果たす役割について学びます。

第 15 回 理解度確認テストと解説・まとめ
これまでの授業の理解度を確認するためのテストと解説を行い、まとめを行います。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

該当する部分を教科書等で整理しておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

理解度確認テスト50点、授業参加度15点、レポート35点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項（Other Information）〕

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 精神保健の課題と支援 第2版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018/978-4-8058-5595-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健学 II

SWA2452N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

月曜 4限

DP4：思考・解決力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

精神保健学 I の基本的知識をふまえて、「こころの健康」の個別の課題に対して理解を深め、現代社会が直面している精神保健の課題に対する具体的な支援や解決方法について学びます。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

現代社会を生きる人々の「こころの健康」の個別課題についてどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
こころの健康の個別課題に関する正しい知識を身につける	こころの病の個別課題の違いについて理解できていない。	こころの病の個別課題の違いについて、理解し説明できる。	こころの病の個別課題の違いについて理解し説明できるとともに、その状態にあわせて必要な支援が理解し説明できる。?	こころの病の個別課題の違いについて理解し説明できるとともに、その人の状態に加え、その人の置かれている状況や資源をふまえた必要な支援が理解し説明できる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション・こころの健康と支援

「こころの健康」の個別の課題に対して具体的な支援や解決方法についての考え方について学びます。

第 2 回 発達障害とこころの健康

- 発達障害について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 3 回 アルコール・薬物問題とこころの健康
アルコール・薬物問題について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 4 回 うつ病・自殺対策とこころの健康
うつ病・自殺対策について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 5 回 認知症とこころの健康
認知症について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 6 回 災害とこころの健康
災害とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 7 回 DVとこころの健康
DV（夫婦間暴力）とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 8 回 貧困とこころの健康
貧困とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 9 回 ホームレス問題とこころの健康
ホームレス問題とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 10 回 LGBTとこころの健康
LGBTとこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 11 回 ターミナルケアとこころの健康
ターミナルケアとこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 12 回 WHOとこころの健康
WHO（世界保健機関）とこころの健康について理解し、全世界で取り組まれているこころの健康についての施策や取り組みについて理解します。
- 第 13 回 諸外国の精神保健活動の現状及び対策（イタリア）
イタリアにおける精神保健の現状について学び、日本の課題について振り返ります。
- 第 14 回 諸外国の精神保健活動の現状及び対策（イギリス）
イギリスにおける精神保健の現状について学び、日本の課題について振り返ります。
- 第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ
これまでの授業の理解度を確認するためのテストと解説を行い、まとめを行います。
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメ

ントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

該当する部分を教科書等で整理しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

理解度確認テスト50点、授業参加度15点、レポート35点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項（Other Information）〕

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座（2）精神保健の課題と支援 第2版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018/978-4-8058-5595-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉援助演習（基礎）

SWR3202N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

1単位 前期

金曜 1限

DP2 : 知識・理解力

15

佐藤 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

精神保健福祉士の援助に必要な対人援助の基礎を学ぶ。援助とは、相談・訪問・グループ活動などさまざまな場面で、自分という人間を通して相手に働きかける行為でもあり、自分自身を知ること、他者を理解することを基盤に、面接等における傾聴の姿勢を習得すると同時に、そこから浮かび上がるニーズを、個人にとどまらず環境（人間関係や社会資源、そして地域社会）との接点にどのように働きかけ

るかについてグループワーク、ロールプレイ等を通して演習を行う。

- (1) 支援の仕事を目指す自己の動機と目的意識を確認し、自己理解と他者理解を深める契機とする
- (2) 援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得する
- (3) 援助専門職に求められる面接技法、記録技術、コミュニティワークの基礎を習得する

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得する	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解できていない	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき説明できる	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき実行できる	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき実行できるとともにわかりやすく説明できる

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション・ソーシャルワークとは
ソーシャルワークの基本と視点を学び、これから身につけていく姿勢と技術を確認します。
- 第 2 回 自分を知ること 自己覚知
ソーシャルワークは「自分を使って」支援する職業です。自分をより知ることは良い支援に必須です。いくつかのワークで自分をより知ることを目指します。
- 第 3 回 自分を知り他者を知る 「見えている世界」の違いの理解
ソーシャルワークの重要なもう一つの視点は、クライアントやその家族の身になって考えることです。いくつかのワークを通して自分の「見えている世界」を確かめてみます。
- 第 4 回 精神保健福祉士の価値と倫理
精神保健福祉士の価値と倫理をいくつかのワークを通して身につけます。
- 第 5 回 援助の基本姿勢 バイステティックの原則の理解を通して
ソーシャルワークの基本姿勢として、バイステティックの原則を学び身につけます。
- 第 6 回 援助の基本姿勢 傾聴について学ぶ
傾聴はソーシャルワークの基本姿勢・技術として中核となるものです。傾聴のあり方についていくつかのワークを通して身につけます。
- 第 7 回 援助の基本姿勢 問うことの工夫
ソーシャルワークはクライアントとの協働が求められるため、聴くだけでは十分ではありません。どのように「問う」かをいくつかのワークで考えます。
- 第 8 回 援助の基本姿勢 望んでいない支援を届ける

表面的には支援を望んでいない人にも支援を届ける必要がある場合があります。どのような姿勢でどのようにかかわっていくのか、いくつかのワークでその関わり方の基本を身につけます。

- 第 9 回 援助の基本姿勢 グループワークとは何か
グループの力をどのように活用するのか、いくつかのワークを通してその姿勢と方法を身につけます。
 - 第 10 回 アセスメントの重要性 ニーズをとらえる
本人が口にすることだけが「ニーズ」ではありません。口にされたデマンド以外にさまざまな要素を考えて「ニーズ」を（本人とともに）見つけていかないとけません。その姿勢と基本的技術を身につけます。
 - 第 11 回 プランニングに求められること 目標を共有する協働であるソーシャルワークは、本人の願いや希望をともに考え、それを実現するための方法もともに考えるところに特徴があります。支援計画を立てていく際の基本姿勢と基本技術を身につけます。
 - 第 12 回 記録の重要性 振り返ること、支援をつなげること
記録はソーシャルワークをよりよくしていくものとして欠かせないものです。その記録の基本について学びます。
 - 第 13 回 コミュニティアセスメント ネットワークの重要性
クライアントの願いや希望は多様でひとりの人やひとつの機関だけでは完結しないものです。多くの機関や支援者とともに支援をしていくネットワークのあり方についてワークを通じて身につけていきます。
 - 第 14 回 社会資源の開発・ソーシャルアクション
ソーシャルワークの重要な特徴のひとつは、個別のニーズをいかに地域の課題と連動してとらえ、コミュニティに働きかけるソーシャルアクションです。ソーシャルアクションの基本姿勢についてワークを通して身につけます。
 - 第 15 回 事例を通して精神保健福祉士の援助に必要な対人援助の基礎を学ぶ
これまでの学びを総合的に活かし、ひとつの事例にどのようにかかわっていくかを学んでいきます。
- 【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】
実施しない。
- 【教育・学習の方法（Course Methods）】
テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。授業中に口頭で適宜フィードバックする。
- 【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】
テキストの該当する部分を概読してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (100点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (8) 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2016/978-4-8058-5313-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉援助演習 (専門) I

SWR3454N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

1単位 後期

金曜 2限

DP4: 思考・解決力

15

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉士が行う相談援助を体系的に学び、ケースワークやグループワークなどの説明できるとともに、それらの具体的な技術を用いて精神に「障害」のある人に対して適切な支援を提供できる。また、自己を客体視する力、主体的に行動する力、そして精神に「障害」のある人の生活や人生を深く理解する力を養い、より適切な支援が可能とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術として、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

	精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術	精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない	精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない	精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない	精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない

〔授業計画〕

- 第 1 回 ケースワーク技術－面接相談
- 第 2 回 ケースワーク技術－電話相談
- 第 3 回 ケースワーク技術－訪問援助
- 第 4 回 グループワーク技術－グループワーク体験
- 第 5 回 グループワーク技術－S S T
- 第 6 回 コミュニティワーク技術－社会資源の活用
- 第 7 回 コミュニティワーク技術－ネットワークキング
- 第 8 回 ケアマネジメント技術－インテークからアセスメント
- 第 9 回 ケアマネジメント技術－プランニングから終わりで
- 第 10 回 チームアプローチ
- 第 11 回 精神科医療機関における事例の検討－地域移行
- 第 12 回 相談支援事業所における事例の検討－ピアサポート
- 第 13 回 就労支援事業所における事例の検討－就労
- 第 14 回 行政機関における事例の検討－危機介入
- 第 15 回 まとめ・精神保健福祉における支援とは

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。口頭で適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの該当部分を概読してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (100点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (8) 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2016/978-4-8058-5313-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉援助技術各論 I

SWR3453N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

金曜1限

DP4: 思考・解決力

60

知名 純子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義では、精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としています。人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ということを一緒に考えていきます。(1) 地域移行支援について、(2) 精神障害者と家族について、(3) 個別支援について等を具体的事例に基づきながら理解を深めていきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 人と「向き合い」、「寄り添い」、「支援する」について
- (2) 社会的入院-地域移行・地域定着について
- (3) 家族支援について
- (4) 個人に対する援助方法 (ケースワーク)
- (5) グループを用いて援助する方法 (グループワーク)
- (6) 専門性について

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	対人援助に必要な基本的概念が理解できない	対人援助の課題を想像できる	対人援助における自身の課題に積極的に向き合う	自己覚知の必要性を理解し、積極的に受け止められる
言語力	専門用語に関して、理解が不十分である	専門用語を理解できている	自身の考えを専門用語を用いて言語化できる	課題や問いかけに対し、適切な言語化文章化ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
～自分を知らう～
- 第 2 回 自分について考える
相談援助の周辺理論 1：非言語コミュニケーション・防衛機制
- 第 3 回 私のコミュニケーション

- 相談援助の周辺理論 2：交流分析
- 第 4 回 他者を理解するために必要なこと
相談援助の周辺理論 3：ナラティブ・アプローチ
- 第 5 回 精神障害者の支援モデル
社会資源について学ぶ
- 第 6 回 ケースワーク 1
相談援助の過程①：インテーク、契約、アセスメント
- 第 7 回 ケースワーク 2
相談援助の過程②：インターベンション、モニタリング、効果測定・評価、終結とアフターケア
- 第 8 回 ケースワーク 3
面接の意味と目的
- 第 9 回 ケースワーク 4
面接技法と記録の内容
- 第 10 回 グループワーク 1
集団を活用した支援の実際と事例分析①：デイケアとグループワーク
- 第 11 回 グループワーク 2
集団を活用した支援の実際と事例分析②：SST (生活技能訓練)
- 第 12 回 グループワーク 3
集団を活用した支援の実際と事例分析③：セルフヘルプグループ
- 第 13 回 クライアントと家族の相互作用
家族支援の方法
- 第 14 回 支援者の成長と支援
スーパービジョンとコンサルテーション
- 第 15 回 試験とまとめ
試験後、試験内容と全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義はグループ演習、ディスカッション、ロールプレイなど参加型で行います。また、現場の生の声を届けられるよう、新聞記事や動画を見ながら考えたり、ゲストスピーカーを迎えるなどを行います。精神保健福祉士の実践の基礎を学べる授業を考えています。クライアントを支援するにあたり、まず押さえておくべき自身の考え方の癖や特徴を客観的に把握できるようになること、また同じ物事に直面したときの問題の捉え方の違いが人それぞれにあることを知った上で、事例や課題を検討します。最終講義日試験の説明は試験終了後に授業で行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

なぜ、あなたは精神保健福祉士を目指すのか、あなたの中の「精神保健福祉士」のイメージや理想像などについて、考えておいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間

指定するメディア情報、配付資料に目を通すこと。次回授業の最初の方で、設題に回答してもらいます。

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(40点)・試験(60点)の総合評価とします。参加型の授業スタイルのため、欠席、遅刻は他の受講生の迷惑になります。また演習に参加できないと授業で得られる成果が半減しますので、十分注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

予定は、授業の流れによって前後します。毎回、グループワークを実施し、演習テーマを設けたり、動画を観て現状について考たりした上で、自分の考えや意見を述べてもらう時間があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (新カリキュラム対応) 第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II』/日本精神保健福祉士養成協会/中央法規/2012/ 参考文献については随時、授業で紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

精神科ソーシャルワーカーとして7年、精神保健福祉士として15年の行政、医療機関での実務経験あり。

精神保健福祉援助実習 I

SWR3551NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

60

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化

し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実習施設・機関等の指導のもと、60時間以上の実習に取り組む。なお社会福祉援助技術現場実習の単位修得者は、本科目は免除となるため、履修する必要はない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習 II

SWR3552NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。

2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。

3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。

4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神保健福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神保健福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。

2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う

3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。

4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実習施設・機関等の指導のもと、60時間以上の実習に取り組む。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習Ⅲ

SWR3553N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

3単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

105

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神科病院、精神科診療所での90時間(13日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神科病院、精神科診療所での90時間(13日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

指定された精神科病院、精神科診療所での指導のもと、90時間(13日)以上の実習に取り組む。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習指導

SWR3455N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

3単位 後期

木曜 3限 木曜 4限 木曜 5限

DP4: 思考・解決力

45

週3コマ

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習の意義を理解するとともに、実習を通して精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶことができるよう、精神に「障害」のある人の現状やその生活実態と困難を理解し、精神保健福祉士として求められる資質、知識、技術等を総合的に発揮できるような能力を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。
- 2 精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の困難について理解する。
- 3 精神保健福祉援助にかかる知識と技術について具体的かつ実際に理解する。
- 4 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題などを把握し、総合的に能力を発揮できる力を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉援助実習の意義	説明できない	実習指導者等に説明できる	利用者にわかりやすく説明できる	一般市民の方にわかりやすく説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習オリエンテーション
- 第 2 回 精神科医療機関における精神保健福祉士の実際 / 精神科医療機関の見学実習
- 第 3 回 精神科診療所における精神保健福祉士の実際 / 精神科診療所の見学実習
- 第 4 回 生活支援事業所における精神保健福祉士の実際 / 生活支援事業所の見学実習
- 第 5 回 就労支援事業所における精神保健福祉士の実際 / 就労支援事業の見学実習
- 第 6 回 行政、相談機関における精神保健福祉士の実際 / 行政、相談機関における精神保健福祉士の実際
- 第 7 回 実習先施設の事前訪問・見学実習
- 第 8 回 自己覚知 1 (自分を知る)
- 第 9 回 自己覚知 2 (自分のフィルターを知る)
- 第 10 回 実習計画書の作成 (目標設定) / 本人の体験談から学ぶ

第 11 回 実習計画書の作成 (方法) / 家族の体験談から学ぶ

第 12 回 実習記録の書き方

第 13 回 支援計画の作り方 (アセスメント)

第 14 回 支援計画の作り方 (プランニング)

第 15 回 実習直前指導

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業開始時に配付する資料に基づいて講義演習実習を行う。施設見学実習も5回行う。口頭で適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前の講義で指示された準備学習をしていくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50点) とレポートなどの事前学習における評価 (50点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

3 コマ連続の授業である。見学先の都合により、曜日時間等の変更もある。見学には交通費実費 (往復500円~1,000円程度) が必要となる。授業第1回目に詳細を説明する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業時に紹介する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫佐藤純: 実務経験等あり 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

薦田未央: 実務経験あり 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉相談援助の基盤(基礎) 2017年度以降入学者

SWR1250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

月曜 5限

DP2: 知識・理解力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

さまざまな福祉課題に直面している人やその家族に対してソーシャルワーカーが行う相談援助の定義・理念・形成過程・体系・権利擁護・他の専門職種との概念と範囲、多職種

連携の基本を理解する。さらに支援のための基本的視点、必要とされる技術を学び理解を深めるとともに、ソーシャルワークの目的や価値について基本的理解を深め、その中でも特に精神保健福祉士が行うソーシャルワークの特徴や留意点について理解する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- 1) ソーシャルワーカーとは何かを説明できること
- 2) 精神保健福祉士の行うソーシャルワークの特徴を説明できること
- 3) 精神に「障害」のある人やその家族にとって必要な支援とは何か理解できていること

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ソーシャルワーカーとは何かを説明できること	ソーシャルワークとは何かを説明できない	ソーシャルワークとは何かを、社会福祉士・精神保健福祉士についての説明を添えて説明できる	ソーシャルワークとは何かを、社会福祉士・精神保健福祉士についての説明を添えて、重要な価値と理念を加えて説明できる	ソーシャルワークとは何かを、社会福祉士・精神保健福祉士についての説明を添えて、重要な価値と理念を加え、これまでの歴史的経緯を踏まえて説明できる

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーションー精神保健福祉士とは
精神保健福祉士とは何か、ソーシャルワークの観点から理解を深めます。
- 第 2 回 精神疾患と「障害」の理解
精神保健福祉士の支援の対象である、その人の精神疾患と「障害」の関係を学びます。特に「障害」の社会的モデルについて理解を深めます。
- 第 3 回 わが国の精神保健福祉の現状と課題
世界から遅れているわが国の精神保健福祉の現状と課題について学びます。
- 第 4 回 ソーシャルワークとは
ソーシャルワークとは何かについて理解を深めます。
- 第 5 回 ソーシャルワーカーの役割と意義
ソーシャルワーカーの役割と意義を個人と環境の双方から理解します。
- 第 6 回 相談援助の定義と概念
相談援助とは何か、指導や助言とどこが異なるのか。その定義と概念について理解を深めます。
- 第 7 回 相談援助の価値と理念ーウェルビーイング・社会正義・民主主義
ウェルビーイング・社会正義・民主主義といった「相談援助の価値と理念」について学びます。

- 第 8 回 相談援助の価値と理念ー人権・人間の尊厳・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション
人権・人間の尊厳・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーションといった「相談援助の価値と理念」について学びます。
- 第 9 回 相談援助の価値と理念ー権利擁護・利用者主体・自立支援
権利擁護・利用者主体・自立支援といった「相談援助の価値と理念」について学びます。
- 第 10 回 相談援助の価値と理念ーエンパワメント・レジリエンス・リカバリー
エンパワメント・レジリエンス・リカバリーといった「相談援助の価値と理念」について学びます。
- 第 11 回 ソーシャルワークの源流
貧困への支援から始まったソーシャルワークの源流について学びます。
- 第 12 回 ソーシャルワークの形成過程
ソーシャルワークがどのように形成されてきたかの歴史的過程について学びます。
- 第 13 回 相談援助における権利擁護の意義
ソーシャルワークにおけるアドボカシー（権利擁護）の重要性について学びます。
- 第 14 回 専門職倫理とジレンマ
ソーシャルワークの加害性について倫理とジレンマという観点から学びます。
- 第 15 回 理解度確認テスト・解答解説
これまでの授業の理解度を確認するためのテストと解説を行い、まとめを行います。

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

事前にテキストを読み、概要を理解しておくこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

理解度確認テスト50点、レポート35点、授業参加度15点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

【留意事項 (Other Information)】

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)』/日本精神保健福祉養成校協会編/中央法規/2015/978-4-8058-5118-0/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉相談援助の基盤(専門)

SWR2401N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科(実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜2限

DP4: 思考・解決力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉士が行う相談援助の対象及び相談援助の役割や意義、理念や権利擁護について学ぶことにより理解し、それらを体系的に説明でき、多職種とともに精神に「障害」のある人に対して適切な支援を判断できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 精神保健福祉士の役割と意義を説明できる
- 2 精神保健福祉士の相談援助の定義、理念、権利擁護について説明できる
- 3 精神保健福祉分野における相談援助の体系について説明できる
- 4 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲と総合的・包括的な援助や多職種連携について説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉士の役割と意義を説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を説明できない	精神保健福祉士の役割と意義を説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を社会的背景も踏まえて説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を社会的背景とこれまでの歴史的経過も踏まえて説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 精神保健福祉士の支援とは
- 第 2 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅰ (意義と役割)
- 第 3 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅱ (Y問題)

第 4 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅲ (精神保健福祉士法)

第 5 回 精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅰ (ソーシャルワーク)

第 6 回 精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅱ (支援技術)

第 7 回 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅰ (医療職)

第 8 回 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅱ (その他)

第 9 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅰ (偏見)

第 10 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅱ (医療)

第 11 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅲ (地域生活)

第 12 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅳ (社会生活)

第 13 回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅰ (包括的な支援)

第 14 回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅱ (ネットワーキング)

第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト (50点)、授業参加度 (15点)、レポート点 (35点) で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2015/978-4-8058-5118-0/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示す。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示す。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉論 I

SWR2201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜1限

DP2：知識・理解力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神障害者の地域での自立と社会参加を促進し、支援するために必要な相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護を含む地域での総合的・継続的なシステムづくりを可能とする知識と技術を習得し、より実践力の高い精神保健福祉士となることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 精神「障害」という言葉が指す事態を、総合的に理解し説明できること
2. 精神に「障害」のある人が置かれている現状を学び、地域で生活を支える方向性と視点を培うこと
3. 精神に「障害」のある人の生活を支える精神保健福祉士のあり方について理解し説明できること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神「障害」という言葉が指す事態を、総合的に理解し説明できること	精神「障害」を説明することができない	精神「障害」を疾患との関係で説明することが出来る	精神「障害」を疾患との関連に加え、社会との関連についても説明できる	精神「障害」を疾患との関連に加え、社会との関連、さらにはその国の文化や歴史をふまえて説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 精神障害者の概念 I 精神疾患とは
- 第 2 回 精神障害者の概念 II 精神疾患と精神障害
- 第 3 回 精神障害者の生活の実際
- 第 4 回 精神障害者の生活と人権
- 第 5 回 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援
- 第 6 回 雇用以外の就労

第 7 回 余暇活動

第 8 回 ソーシャルサポートネットワーク

第 9 回 精神障害者の居住支援

第 10 回 居住支援の実際と精神保健福祉士の役割

第 11 回 精神障害者の雇用・就業支援 I 理念と制度

第 12 回 精神障害者の雇用・就業支援 II 就労支援

第 13 回 精神障害者の雇用・就業支援 III いわゆる福祉的就労

第 14 回 行政における精神保健福祉士の役割

第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト (50点)、授業参加度 (15点)、レポート点 (35点) で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新精神保健福祉士養成講座 (7) 精神障害者の生活支援システム 第2版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018/978-4-8058-5597-3/学内販売予定

/ // //

/ / / //

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業時に紹介する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 佐藤純 精神保健福祉士として施設での勤務経験あり。

精神保健福祉論 II

SWR2452N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

水曜1限

DP4: 思考・解決力

60

「精神保健福祉論I」の履修者であること

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉法や障害者総合支援法を理解し、立ち後れている精神障害者の支援や施策について現状と課題を修得する。さらに、今後の課題に向けての精神保健福祉士の視点を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について説明できる。
- 2 精神保健福祉法や障害者総合支援法における精神保健福祉士の役割と課題について説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について説明できる。	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について説明できない	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について説明できる	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について現状と課題をふまえて説明できる。	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について現状と課題をふまえて海外との比較もかねて説明できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス
- 第 2 回 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯 I 精神衛生法成立まで
- 第 3 回 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯 II 精神衛生法の改正
- 第 4 回 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯
- 第 5 回 精神保健福祉法成立の意義とその後の展開
- 第 6 回 精神保健福祉法の構成 (1・目的と対象)
- 第 7 回 精神保健福祉法の構成 (2・入院)
- 第 8 回 精神保健福祉法の構成 (3・隔離拘束)

第 9 回 精神保健福祉法の構成 (4・保健及び福祉)

第 10 回 精神保健福祉法の構成 (5・課題)

第 11 回 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割

第 12 回 障害者基本法と精神障害者施策との関わり

第 13 回 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際

第 14 回 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業の実際

第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト (50点)、授業参加度 (15点)、レポート点 (35点) で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書を使って授業をするので必ず購入すること

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (6) 精神保健福祉に関する制度とサービス 第4版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018 //学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

染色加工学

LDA3200N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

木曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

衣服をはじめとした繊維製品の重要な付加価値機能として染色加工があげられる。染色加工の事象、染料や顔料、色彩、繊維と染料の相互作用等の科学的な観点ならびに繊維製品の品質管理、堅ろう性、機能加工等の実用的な観点の理解を深める。得られた知見を日常生活や社会に役立てられる応用力を修得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 染色加工について、染料や顔料、繊維と染料の相互作用、染色機構を理解する。
2. 染色加工、機能加工の視点から社会を支えるさまざまな科学的技術について知識を得る。
3. 繊維製品の品質管理、染色堅ろう性について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	色材の種類や区別、染色加工の理解ができていない。	色材、染色加工についての基礎的内容を理解している。	色材、染色加工の内容を詳細に理解し、繊維製品の品質管理についても知識を深める。	色材、染色加工の内容を詳細に理解し、繊維製品の品質管理、堅ろう性、機能加工などについて幅広く知識を深める。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・なぜ染めるのか
- 第 2 回 染色の歴史
- 第 3 回 天然染料と媒染
- 第 4 回 合成染料と染着機構1
(酸性染料・塩基性染料・酸化染料・分散染料等)
- 第 5 回 合成染料と染着機構2
(直接染料・反応染料・建染染料・ナフトール染料・硫化染料等)
- 第 6 回 前処理工程・染色助剤
- 第 7 回 染料拡散と繊維構造
- 第 8 回 色彩科学1 (光・色)
- 第 9 回 色彩科学2 (表色系・染着量)
- 第 10 回 工業染色
- 第 11 回 染色堅ろう度

第 12 回 品質表示・苦情事例

第 13 回 機能加工 (特殊加工・仕上げ加工)

第 14 回 工芸染色・講義内試験

第 15 回 試験解説・講義のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で行う。適宜必要資料を配布する。必要に応じて動画などを観る。

フィードバックとして理解度確認の小テストを行い、解答の解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義前は関連する参考文献、配布資料を熟読しておくこと。講義中に小テストや課題を出すので、講義後は復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義内試験 (60%)、小テスト・課題(30%)、学習意欲の有無 (10%)により総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

衣生活材料学・繊維材料学を取っておくことが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

「染色」って何? —やさしい染色の化学/上甲恭平 著/繊維社/2012/978-4990258047

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (企業における工学系開発業務)

繊維材料学 2017年度以降入学者

LDA2251N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

水曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちの生活を支える繊維材料について基礎的内容から専門的内容について理解を深める。

繊維の種類や性質、糸や布の種類や構造、性質などについて解説し、健康で快適な衣生活を目指していくための能力、解決方法を修得することを目標にする。

繊維製品品質管理士 (TES) に必要とされる繊維に関する一般知識、繊維製品の製造と品質について理解を得る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

QOL (quality of life, 生活の質) の向上を目指すために、繊維材料や繊維製品に関する専門知識を修得する。

1. 繊維材料について、繊維・糸・布の種類や構造、性質を理解する。
2. 繊維材料の視点から社会を支えるさまざまな科学的技術について知識を得る。
3. 繊維製品の製造と品質要求について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	繊維材料の区別がつかず、理解できていない。	繊維材料の基礎的内容を理解している。	繊維材料を理解し、衣生活材料以外の材料についても知識を深めようとする。	繊維材料を詳細に理解し、さらに衣生活材料以外の材料についても理解する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・衣生活と繊維材料
- 第 2 回 繊維と化学
- 第 3 回 天然繊維1 (セルロース系)
- 第 4 回 天然繊維2 (タンパク質系)
- 第 5 回 化学繊維1 (再生繊維・半合成繊維)
- 第 6 回 化学繊維2 (合成繊維・無機繊維・その他)
- 第 7 回 糸の構造と性質
- 第 8 回 布の種類と構造 (編物)
- 第 9 回 布の種類と構造 (織物)
- 第 10 回 布の種類と構造 (その他)
- 第 11 回 繊維製品の分類と新素材
- 第 12 回 繊維材料の性質1 (力学的性質)
- 第 13 回 繊維材料の性質2 (形態的性質・ほか)
- 第 14 回 ウェアラブル製品・講義内試験
- 第 15 回 試験解説・講義のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で行う。適宜必要資料を配布する。必要に応じてビデオなどを観る。

フィードバックとして理解度確認の小テストを行い、解答の解説を行う。また、レポートについては、解説をコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日頃から衣服材料に興味を持ち、品質表示の確認、洗濯やアイロン仕上げ、保管などの経験しておくこと。講義前は教科書や関連する参考文献、配布資料を熟読しておくこと。

講義中に小テストや課題を出すことがあるので、講義後は復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義内試験 (50%)、小テスト・課題(40%)、学習意欲の有無 (10%)により総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

衣生活材料学を取っておくこと。

繊維製品品質管理士 (TES) 試験を受験予定の人は受けておく方が望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『衣の科学シリーズ 衣服材料の科学 [第3版]』/島崎恒蔵編著/建邦社/2009/978-4-7679-1049-9

『新訂 (第3版) 繊維製品の基礎知識シリーズ』3分冊

※繊維製品品質管理士 (TES) 試験を受験予定の人は必須。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (企業における工学系開発業務)

地域福祉論 I

SWA3200N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちの生活基盤である地域にはさまざまな人々がさまざまな生活問題や社会福祉問題を抱えながら暮らしているのが現状である。それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安全・安心に暮らしていける地域社会を構築していくためにはどのようなことが必要なのであろうか。

このような問題を地域福祉の概念や理論の歴史的展開、社会的背景などを学ぶことを通して考え、地域の現状や課題を理解し、地域に根差した福祉とは何かを理解することをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 「地域福祉」とは何か、なぜ「地域福祉」なのか。地域福祉の理念・考え方 (概念)・歴史的背景・枠組みから学ぶ。
2. 地域福祉を推進するための課題について学ぶ。
3. 地域福祉の原理・原則を理解し、地域福祉推進のために必要な取り組み、専門機関や各種関連組織等について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分の地域や課題について、考え	自分の地域や課題について、情報	自分の地域や課題について、理解	自分の地域や課題について、理解

	ようとする ことができ ない	収集しよ うとする ことができ る	するこ とができ る	し、その ため何 ができ るかを 考える ことが できる
知識・理解 力	地域や地域 福祉につ いて、理 解する ことが できな い	地域や地域 福祉につ いて、理 解しよ うと努 力する ことが できる	地域や地域 福祉につ いて、理 解し、 大切な ことが 何かを 考える ことが できる	地域や地域 福祉につ いて、理 解し、 課題解 決に必 要なこ とを考 えるこ とができ る
言語力	地域や地域 福祉につ いて、説 明する ことが できな い	地域や地域 福祉につ いて、説 明しよ うと努 力する ことが できる	地域や地域 福祉につ いて、説 明する ことが できる	地域や地域 福祉につ いて、説 明する ことが でき、 他者 にも 伝え よう とす るこ とが でき る
思考・解決 力	地域や地域 福祉につ いて、内 容を考 え、課 題解 決する ことが できな い	地域や地域 福祉につ いて、内 容を考 え、課 題解 決する ため に何が 必要 かを考 えよう とす るこ とが でき る	地域や地域 福祉につ いて、内 容を考 え、課 題解 決に向 けて考 えるこ とが でき る	地域や地域 福祉につ いて、内 容を考 え、課 題解 決する ことが でき る
共生・協働 する力	地域や地域 福祉につ いて、他 者とも に考え よう とす るこ とが でき ない	地域や地域 福祉につ いて、他 者とも に考え よう とす るこ とが でき る	地域や地域 福祉につ いて、他 者とも に考 え、活 動し よう とす るこ とが でき る	地域や地域 福祉につ いて、他 者とも に考 え、活 動し、 解決 する こ とが でき る
創造・発信 力	地域や地域 福祉につ いて、何 が でき るか を考 える こ とが でき ない	地域や地域 福祉につ いて、何 が でき るか を考 えよ う と す る こ とが でき る	地域や地域 福祉につ いて、何 が でき るか を考 え、 他者 に取 り組 もう と 発信 する こ とが でき る	地域や地域 福祉につ いて、何 が でき るか を考 え、 他者 とも に新 たな 取 り組 み が でき る

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 地域福祉の概念 ①地域とは何か
- 第 3 回 地域福祉の概念 ②地域福祉とは何か
- 第 4 回 地域福祉の形成と歴史的展開 ①地域福祉の源流（欧米の歴史的展開）
- 第 5 回 地域福祉の形成と歴史的展開 ②戦後わが国における地域福祉の形成過程

- 第 6 回 社会福祉法における地域福祉の位置づけ
- 第 7 回 地域福祉の主体と対象
- 第 8 回 地域福祉計画と地域福祉活動計画
- 第 9 回 地域福祉の推進組織・団体 ①社会福祉協議会
- 第 10 回 地域福祉の推進組織・団体 ②民生・児童委員
- 第 11 回 地域福祉の推進組織・団体 ③NPO、ボランティア活動など
- 第 12 回 地域福祉の推進組織・団体 ④各種地域支援組織
- 第 13 回 地域福祉の人材・財源
- 第 14 回 形成テストおよび総括
- 第 15 回 地域福祉推進の課題と展望

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

資料、参考事例の紹介などによって進める。

参考文献については随時紹介する。

復習クイズは、終了直後に回答の確認をし、フィードバックをおこなう。

形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

地域福祉に関連する社会福祉法や各種制度とその変革の流れ、参考文献に挙げた報告書などを事前に確認しておくことが望ましい。

また、各自が暮らしている地域についても、どのような施策が講じられているのか、またどのような活動が展開されているのか確認し、地域福祉の具体的な取り組みを調べておくことが望ましい。

理解度を促進するため、毎回復習クイズを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと復習して臨むこと。加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を必ず各自ダウンロードし予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業態度（30%）、復習クイズ（10%）、形成テスト（60%）に基づいて総合的におこなう。欠席回数3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告 地域福祉における「新たな支え合い」を求めて—住民と行政の協働による新しい福祉—』/全国社会福祉協議会//2008/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

地域福祉論 II

SWA3450N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜 3限

DP4：思考・解決力

60

地域福祉論I

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

地域福祉を推進するためには、そこで暮らす地域住民による主体的な取り組みが重要である。地域住民の主体的な取り組みを推し進めていくためには、住民の主体形成、地域の組織化を進めていくことが必要である。そこで、住民主体の原則を再度確認し、なぜ住民が主体なのか、住民の主体的な取り組みの必要性について理解を深め、地域福祉を推進するための方法について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 住民の主体的な取り組みの必要性について考える。
2. 住民が主体的に取り組むために必要な支援について考える。
3. 特に小地域の取り組みについて検討する。
4. 復習クイズ終了直後には、回答の確認をし、フィードバックをおこなう。
5. 形成テストについては、終了後に回答の確認・解説をおこない、フィードバックをおこなう。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	地域福祉を推進するために、何ができるのかを考えようとしな	地域福祉を推進するために、自分のできることを考えようとする	地域福祉を推進するために、自分のできることをイメージすることができる	地域福祉を推進するために、イメージしたことを実践しようとする
知識・理解力	地域福祉推進に必要なことがらを理解することができない	地域福祉推進に必要なことがらを理解しようと努力する	地域福祉推進に必要なことがらを理解し、具体的な方法を考える	地域福祉推進に必要なことがらを理解し、具体的な方法を考える取り組みを行う

思考・解決力	地域福祉の課題について、考えることができない	地域福祉の課題について、考えようとすることができる	地域福祉の課題について、考え、対応を考えることができる	地域福祉の課題について、解決策を検討することができる
創造・発信力	地域福祉の課題について、できることを考え、他者に発信することができない	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに共有することができる	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに解決方法を検討することができる	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに解決に向けて取り組むことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 - 第 2 回 地域福祉と福祉教育
 - 第 3 回 福祉教育の概念・展開
 - 第 4 回 地域福祉と住民参加
 - 第 5 回 コミュニティソーシャルワークについて
 - 第 6 回 ソーシャルサポートネットワークについて
 - 第 7 回 地域の組織化
 - 第 8 回 社会資源の活用
 - 第 9 回 地域特性の把握について
 - 第 10 回 地域における生活問題、課題の把握について
 - 第 11 回 地域活動への支援体制について
 - 第 12 回 地域における連携・協働とは
 - 第 13 回 小地域における住民活動の実際
 - 第 14 回 形成テストおよび総括
 - 第 15 回 住民主体の地域福祉活動に関する課題と展望
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

資料、参考事例の紹介などによって進める。

参考文献については随時紹介する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自が暮らしている地域の住民活動について調べておくことが望ましい。

住民活動への支援体制について調べておくことが望ましい。理解度を促進するため、毎回復習クイズを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと復習をして臨むこと。加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を各自必ずダウンロードし予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (30%)、復習クイズ (10%)、形成テスト (60%) に基づいて総合的におこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士、精神保健福祉士に必要な地域福祉推進にかかわる専門的知識や技術、方法に関する内容が中心となるため、その点を十分考慮したうえで、履修登録すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画(活動計画)策定委員等の経験あり

福祉コミュニティの実践

SWA3500NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

60

集中

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

地域コミュニティには、子どもから高齢者、障がい者や生活困窮者など多様な人が暮らしている。現代社会において、人々が抱える課題やニーズは複雑、多様化し、潜在的なものも多くなっている。そこで本演習では、地域で起きている多様な課題が何かを検討し、それらを解決するために衣食住、家族、福祉の視点で何ができるかを考え、地域コミュニティを舞台に企画、立案、実践する。このような取り組みを通して、履修生各自が今後の自らの地域生活において、どのようなことに取り組むことが大切か、また生活者を支援する立場としてどのようなことが必要かを体験的に学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 地域の課題とは何かを理解し、把握する力を身につける。(情報収集、分析力)
2. 把握した課題を解決するために、何ができるかを考える力を身につける。(企画力)
3. 考えたことを実践するために、どのような協力者が必要かを考え、交渉する力を身につける。(発信力、コミュニケーション力)
4. 一人ひとりの気づきやアイデアをグループメンバーと共有する力を身につける。(協働力)
5. グループで考えた企画を実践する力を身につける。(行動力)

6. 企画、立案、実践の内容について、プレゼンテーションすることができる。(プレゼンテーション力)

7. 企画内容について、成果発表会で質疑応答等を実施する。また、その内容、授業全体を振り返り、授業最終日にフィードバックする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
情報収集力	地域の課題について情報収集することができない	地域の課題について情報収集する方法を知っている	地域の課題について情報収集することができる	地域の課題について情報収集し、整理することができる
分析力	情報収集した内容を分析することができない	情報収集した内容を分析しようとすることができる	情報収集した内容を分析し、考察することができる	情報収集した内容を分析、考察し、何が必要かを考えることができる
企画力、創造力	明確になった課題をもとに、アイデアを出すことができない	課題に応じた必要なことが何かを考察することができる	課題に応じた企画立案し、その内容を提案し、具体的に造り出すことができる	課題に応じた企画した内容を、さらに発展的に考えることができる
発信力、コミュニケーション力	企画した内容を伝えることができない	企画した内容を他者に伝え、発信することができる	企画した内容を他者に伝え、他者の意見も取り入れ、ともに取り組もうと働きかけることができる	企画した内容に応じて他者と協働した内容について振り返ることができる
協働力、行動力	企画した内容を他者と協働し、ともに実行することができない	企画した内容を他者ととともに実行することができる	企画した内容を他者ととともに実行し、計画的に取り組むことができる	企画した内容を他者ととともに実行し、課題を明確にすることができる
プレゼンテーション力	企画、立案、実行した内容について明確にプレゼンすることができない	企画、立案、実行した内容を明確にプレゼンすることができる	プレゼンした内容について、質疑応答に対応できる	プレゼンした内容を振り返り、さらによりよいプレゼン方法を考えることができる

〔授業計画〕

集中授業のため、活動等の状況に応じて進めていく。概略の授業内容は以下のとおりである。

- ①オリエンテーション: 授業の内容、スケジュール等について
- ②地域課題の把握方法: 地域課題のとらえ方について理解する
- ③情報収集: 各自で活動に必要な情報収集をおこなう
- ④情報共有: 各自が情報収集した内容について全員で共有する
- ⑤企画立案: 企画立案に向けて、グループでディスカッションする
- ⑥企画内容の検討: グループで共有した内容を基に、具体的な企画内容を検討する「企画書案の作成」
- ⑦準備(協力関係者の検討): 企画した内容を実行するために必要な協力関係者を考え、依頼する
- ⑧準備(実施に向けたスケジュールの検討): 企画した内容を進めるために、スケジュールを作成する
- ⑨準備(役割分担の決定): 役割分担を決め、準備を進める
- ⑩準備(情報共有) 役割遂行とともに情報を共有し、準備状況を確認しながら取り組む
- ⑪リハーサル: 企画した内容を実施するために、リハーサル(試作含む)をおこなう
- ⑫企画の実施: 企画、立案した内容を実行する
- ⑬成果発表の準備: 成果発表に向けて、プレゼンテーションの準備をおこなう
- ⑭成果発表: 企画、立案、実施した内容について、発表する
- ⑮総括: 全体の振り返りをおこなう

上記以外に、各自、グループで自主的に活動等行う必要がある。

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

基本的な内容に関する講義と履修生各自の主体的、積極的な学習、準備を中心とする

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

授業や活動時間帯以外に、決定したスケジュールに基づき、各自で取り組み(情報収集、企画案の検討、準備等)を進めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

60

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

情報収集力(10%)、分析力(10%)、企画・創造力(20%)、発信・コミュニケーション力(10%)、協働・行動力(30%)、プレゼンテーション力(10%)、平常点(10%)を基本とする

〔留意事項(Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画(活動計画)策定委員等の経験あり

福祉行財政と福祉計画

SWR3450N1J

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン学科>福祉生活デザイン学科(実践的科目)

3年次

2単位 後期

水曜2限

DP4: 思考・解決力

60

柴田 周二 酒井 久美子

〔科目の教育目標(Course Description)〕

福祉行財政の基礎的な知識をふまえた上で、住民自治の視点から福祉計画のあり方を学ぶ。具体的には、①福祉行政の実施体制について、国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係を学び、②国と地方双方の福祉財政の内容を理解する。その際、国の社会保障関係費及び地方自治体の民生費を詳しく把握する。次に①と②をふまえ、各種福祉計画の目的、意義、主体、方法について事例検討を通して学ぶ。また実際に地域福祉計画を参考にして、計画策定の方法について理解を深める。

(オムニバス方式 全15回)

(柴田周二/7回)

福祉行政の骨格と社会福祉の法制度、福祉財政の概略、専門職の役割などについて学ぶ。

(酒井久美子/8回)

各種福祉計画の目的、意義、主体、方法などについて解説し、実際の地域福祉計画を参考に計画策定の方法を理解する。

〔教育・学習の個別課題(Course Objectives)〕

- ①福祉の動向を理解する。
- ②福祉行政の実施体制(国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係)を理解する。
- ③国と地方の福祉財政(社会保障関係費及び地方自治体の民生費など)を理解する。
- ④福祉の相談過程と専門職の役割を理解する。
- ⑤福祉計画の目的と意義を理解する。
- ⑥福祉計画の理論と技法を理解する。
- ⑦福祉計画の実際を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

言語力				
思考・解決力	テストをうける	レポートが作成できる	自らの問題として課題に取り組む	文献などを精査しながら、自分の考えを提示する
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、社会福祉とは何か（柴田周二）
 第 2 回 福祉の法制度の展開（柴田周二）
 第 3 回 福祉計画の概要（柴田周二）
 第 4 回 福祉行政の組織（柴田周二）
 第 5 回 一般会計予算と社会保障関係費（柴田周二）
 第 6 回 地方自治体の財政と民生費（柴田周二）
 第 7 回 福祉の相談過程と専門職の役割（柴田周二）
 第 8 回 福祉計画の目的と意義（酒井久美子）
 第 9 回 福祉計画の理論と技法（酒井久美子）
 第 10 回 福祉計画における住民参加（酒井久美子）
 第 11 回 老人福祉計画・介護保険事業計画（酒井久美子）
 第 12 回 障害者計画・障害福祉計画（酒井久美子）
 第 13 回 次世代育成支援行動計画（酒井久美子）
 第 14 回 地域福祉計画（酒井久美子）
 第 15 回 まとめ（酒井久美子）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義（前半の柴田担当の1～7回はオンライン授業、後半の酒井担当の8～15回は対面授業）を中心に進めるが、適宜、視聴覚教材も取り入れる。

レポートや小テストの結果についてはmanaba等で本人に開示する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績評価は、授業への参加度（柴田14%、酒井16%）、複数のレポートないし授業中の小テスト（柴田30%、酒井40%）によって行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。授業の参加度などに関する詳しい説明は、第1回授業の配信資料で行う。

〔留意事項（Other Information）〕

講義の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・社会福祉士養成講座 10 福祉行政と福祉計画 第5版』 / 社会福祉士養成講座編集委員会 / 中央法規 / 2017/978-4-8058-5430-3/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

[酒井久美子]

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

福祉生活デザイン概論 2017年度以降入学者

SLB1202N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

金曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

必修

加藤 佐千子 中村 久美 酒井 久美子 竹原 広
 実 佐藤 純 三好 明夫 牛田 好美 矢島 雅子
 藤原 智子 青木 加奈子 安川 涼子 室田 保夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕

QOLとは何か、また、人々のQOLを向上するためには何が必要なのであろうか。本講義では衣・食・住・家族・福祉等の領域から、人々のQOLについて言及するとともに、福祉生活デザイン学科専門科目の入門として位置付ける。講義を通して現代生活に関心を持ち、課題を見出し、自身や他者の生活を質的に向上することに対する知識や理解力を身につける。これらの学びを通して、4年間の自身の成長を見据え、4年後にどのような社会人になって巣立とうとするのかを自覚し、その目標を明確にする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1) QOLを理解する
- 2) 現代社会や現代生活における課題を見出す
- 3) 自身や他者のQOL向上に必要な知識や技術について理解する
- 4) 1) から3) をベースに、4年後の成長した自分を創造し、4年後の目標を立てる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	各領域のどの内容にも関心がない	生活と福祉の内容に興味を持てる	自分の興味のある専門領域がわかる	興味のある領域を決定し、進むべき

				きコースを決定できる
知識・理解力	福祉生活デザイン概論の内容構成を理解できない	福祉生活デザイン概論の内容構成を理解できている	各論の一部を取り挙げて他者に説明ができる	身についた知識をもとに発展学習ができる
言語力	ワークシートへの記述がされていない	自分の言葉で、ワークシートに記載ができる	各担当者の求めに応じてレポートが書ける	自分の考えについて他者に話せ、適切な言語・表現で記載もきる
共生・協働する力	グループワークに参加しない	グループワークに参加し、協働しようと努力している	他者に対して自分の意見を発信し、他者の意見も傾聴できる	相手の意見を尊重し、共に協働できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義の概要、評価の仕方、超高齢社会の現状等の説明、および老年学の立場からウェルビーイングの条件と生活の質 (QOL)の考え方とその背景、生活の質に関わる4つのポイントを説明する。また、高齢者の食と生活機能、健康観、精神的健康度の関係を例に挙げて、生活の質を追求する上での食生活の重要性について概説する。(加藤佐千子)
- 第 2 回 社会福祉学の立場から、QOLの捉え方、解釈について概説する。人は、機能低下がみられても支援の活用によって生活の質 (QOL)が保たれることについて高齢者を例に挙げて説明する。(三好明夫)
- 第 3 回 生活学の立場から、生活基盤としての住まいの持つ根源的な意味を考え、生活の質 (QOL)を追求する上での居住環境の重要性について概説する。(中村久美)
- 第 4 回 家族の発達段階で直面する生活課題と、世話を必要とする子どもがいる家族にとっての生活の質 (QOL) をワークライフバランスとジェンダーの視点から考える。(青木加奈子)
- 第 5 回 子どもと若者の食と健康について、現在のみならず将来にわたってQOLの向上に資する食生活のあり方を概説する。(藤原智子)
- 第 6 回 持続可能な衣生活のために、環境に配慮した衣服材料や衣生活の現状と課題について概説する。(安川涼子)
- 第 7 回 住環境要素が人に与える影響について人間工学の観点から概説し、人の特性を組み込んだ住環境のあり方を考察する。(竹原広実)
- 第 8 回 人はなぜ服を着るのか。ファッションや装いについて心理的な観点から概説する。(牛田好美)
- 第 9 回

人の暮らしやQOLに大きな影響を与えるものの、見過ごされがちな「こころの健康」や「精神疾患・精神障害」について、正しい理解を進める。(佐藤 純)

- 第 10 回 人は誰とどんな場所でどのようなコミュニティを形成して暮らしていけばよいか、住生活基本法をとりあげながら、あるべき住生活の姿について概説する。(中村久美)
- 第 11 回 地域福祉の現状と課題について概説し、地域住民の主体的な取り組みによって地域住民のよりよい生活に向けて相互に支え合うことの重要性を説明する。(酒井久美子)
- 第 12 回 日本における福祉の歴史的展開を概説するとともに「福祉とは何か」を説明する。(室田保夫)
- 第 13 回 高齢者福祉の現状と課題について概説し、人生の最期まで生活の質を低下させずに過ごす支援方法について説明する。(三好明夫)
- 第 14 回 障害者福祉の現状と課題について概説し、障害があっても生活のしづらさを解決できることを説明する。(矢島雅子)
- 第 15 回 これまでの講義をもとに、自分と他者の生活の質についてグループで議論させ、生活の質を高めるには何が必要かを考えさせる。また、今後4年間に行うべきこと、めざす資格について自身の考えをまとめさせる。(加藤佐千子)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・授業は、講義、アクティブ・ラーニングで行う。授業内容に応じて、DVD、OHC、スライドを用いる。
- ・最終回で全体の学びをグループディスカッションにより振り返り、知識の定着を図る。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

福祉生活デザインワークブックをよく読み、疑問点を明確にして、授業に臨むこと。

日常生活に関心を持ち、新聞やニュースを見る習慣をつける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 1) 小レポート12本の提出(1本5点~9点で採点し加算する)
- 2) 小レポートの本数が8本以下の場合は、原則として1)の算定を適用できない。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・講義の順を変更することがある。
- ・「福祉生活デザインワークブック」を自分で印刷して必ず持参すること。
- ・オムニバス科目のため、授業を欠席した場合は、授業担当教員に措置を尋ねること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

manabaコンテンツに資料を掲載するのでダウンロード(印刷して)して授業に臨むこと

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

三好明夫： 社会福祉士として高齢者福祉施設での勤務経験
特定非営利活動法人理事長としてNPO法人団体経営の実務経験

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

保育学（実習及び家庭看護を含む）

LDA3652N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

水曜1限

DP6：創造・発信力

58

全16コマ

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人間の子どもは他の動物と異なり、自立のために親が長年にわたって世話をし、育てはぐくむ必要がある。子どもをしっかりと育てることは社会全体の最大の責任である。保育書を読んだり、ニュース等について考える時には、基礎となる正しい医学的・生物学的・社会的知識を身に付けている必要がある。本講義の目的は、学んだ保育の知識や技術を活用でき、家庭科教員や母親となった時の判断力を養い、必要に応じて発信やプレゼンテーション能力を身に付けている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 保育を学ぶ
2. 子どもの発達
3. 子どもを育てる
4. 子どもの育つ環境の整備
5. 子どもとふれ合う (保育園見学実習)
6. 家庭における看護

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもを育てる意味が分からない	子どもを育てる意味は分かる	自分の子どもを想像して、育てる意義を考えようとする	保育学で得た知識をもとに、自分自身で考え方を変えていくことができる

知識・理解力	保育学と育児学の違いが理解できない	保育学と育児学の違いは理解できる	保育学の中で、今まで得た知識をより一層専門的なものにしようとする	保育学の中で、今まで得た知識を他者に発表して他者にアドバイスできる
言語力	保育学で専門的な用語の意味が理解できない	保育学で用いる専門用語の意味が理解できる	保育学を中心に関連する専門用語の意味を理解しようとする	保育学に関連する専門用語を使って書類を作成できる
思考・解決力	教えられたこと以外は考えようと思わない	教えられたことを自分の生活の中で考えることができる	保育における問題提起に対して積極的な解決策を考えようとする	レベル3に加えて解決策を他者に発信できる
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない	先行研究や他者の意見を参考にしようとする	周囲の人たちに対して自分が得た知識から、意見が言えるようになる	レベル3に加えて周囲の人たちに対して積極的に働きかけて保育のサポートができる
創造・発信力	自分勝手な内容の発信を行う	自分から発信する情報の内容を吟味できる	自分から新しい情報を得るための試行錯誤をしようとする	保育学の知識に基づいて、子育てについての新しい情報を発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション, 第 1 章 保育を学ぶ, 第 2 章 子どもの A.)
育児学と保育学の違いについて述べる。
母体の健康管理と子どもの誕生について詳述する。
- 第 2 回 (第 2 章 子どもの発達 B. 子どもの心身の発育・発達 (I))
子どもの心身の発育・発達について解説する。
新生児の生活現象についても触れる。
- 第 3 回 (第 2 章 子どもの発達 B. 子どもの心身の発育・発達 (II))
子どもの心身の発達の個人差について、パーセントイルの考を用いて解説する。
- 第 4 回 (第 3 章 子どもを育てる A. B.)
A. 子どもの愛着行動の重要性について解説する。
B. 親のかかわりと人格形成について解説する。
- 第 5 回 (第 3 章 子どもを育てる C.)
C. DVDを用いて、親の保育責任について述べる (DVD 『れ！お父さん』)
基本的な生活習慣について解説する。
- 第 6 回 (第 3 章 子どもを育てる D., 第 4 章 子どもの育つ環境の整備

D. 児童虐待など、親の不適切なかかわりとその影響について解説する。	【留意事項 (Other Information)】 第16回 第5章 子どもとふれ合う (保育園見学実習 事後指導)
A. 母乳栄養と離乳の意義について解説する。 第7回 (第4章 子どもの育つ環境の整備 A. 子どもの生活と遊びの保育園見学実習を行う。その日程により、事前・事後指導の日程が決まる。)	
第8回 (第4章 子どもの育つ環境の整備 A. 子どもの生活と遊びの受講生に迷惑となる私語、携帯電話によるメールの送らる。)	子どもの遊びと文化について述べる。絵本についても譲り渡すは禁止。 【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)について
第9回 (第4章 B. 家庭保育と集団保育, C. 児童福祉, 子育て支援について詳しく述べる。)	『新保育学』/岡野雅子ほか/南山堂/2014//学内販売予定 【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】
第10回 (第6章 家庭における看護 A. 病気や事故の予防と手当て(Ⅰ)子どもの死因および感染症について詳しく述べる)	『子どもは素晴らしい』/牛尾信也ほか/金原出版/2007/
第11回 (第6章 家庭における看護 A. 病気や事故の予防と手当て(Ⅱ)子どもの悪性新生物やアレルギー疾患などに実務経験のある教員による実践的科目)	【参考URL(URL for Reference)】 「実践的科目」産婦人科医師として病院等での診療経験あり
第12回 (第6章 家庭における看護 A. 病気や事故の予防と手当て(Ⅲ)子どもの小児生活習慣病、発達障害、不慮の事故について解説する。)	【実務経験のある教員による実践的科目】 「実践的科目」産婦人科医師として病院等での診療経験あり
第13回 (第6章 家庭における看護 B. 家庭における看護) B. 家庭における事故、火傷に対する看護について述べる。 ・乳児の人工蘇生法実技演習 ・まとめ	保健医療サービス SWR2450N1J 大学 現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目) 2年次 後期 2単位 後期 水曜2限
第14回 (形成テスト) ・形成テストを行う (途中退出不可)	DP4: 思考・解決力
第15回 (形成テストの解説と評価, 第5章 子どもとふれ合う) ・形成テストの解説と評価を行う。 ・保育園見学実習の事前指導を行う。	60 集中 小西 加保留
第16回 (第5章 子どもとふれ合う (保育園見学実習 事後指導)) ・保育園に出向いて、子どもたちと実際に触れ合う。 ・終了後、振り返りをしてレポート提出。	【科目の教育目標 (Course Description)】 ①医療の変遷に関する概要を説明できる。 ②保健医療を取り巻く制度・施策、施設等に関する用語を用いて、現状の概要を説明できる。 ③医療を取り巻く各専門職の役割と業務について説明できる。 ④医療ソーシャルワークの業務の概要を説明できる。 ⑤欧米及び日本における資料ソーシャルワークの歴史的変遷の概要を論じる事できる。 ⑥保健医療サービスの連携に関わる理論と現状を理解し、連携の方法を論じる事ができる。 ⑦保健医療に関わる生活上の課題について、より良い解決方法を見出すことができる。
【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】	【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】 ①毎回の授業に関するコメント票を提出し、次回の授業でのフィードバックにより学ぶ。 ②保健医療領域の基本的な制度・施策に関する知識を習得するための小テストに備える。 ③医療ソーシャルワーク実践に必要な課題 (業務内容や連携など) についてディスカッションを行い、まとめを行う。 ④保健医療サービスの意義や発展のための課題や方法について考察する。
実施しない	
【教育・学習の方法 (Course Methods)】	
1. 授業方法 講義形式、見学実習では、現場へ出向する。 2. 学習方法 (1) テキストに沿って行う。プリント、OHC、パワーポイントで内容補充。 (2) 提起された問題点を“一緒に考える”といった態度で授業に臨んで欲しい。 ・最終授業での形成テストの解説により、全体に対するフィードバックを行う。	
【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】	
・次回の講義分のテキストを、しっかり読んでくること。	
【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】	
40	
【評価方法・評価基準 (Evaluation)】	
評価は、レポート (10%)、授業参加度 (10%)、形成テスト (80%) の総合評価とする。	

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力1	医療提供体制や制度についての知識が殆どない	医療提供体制や制度についての概要は理解している	医療提供体制や制度について、大凡の体系を理解している	医療提供体制や制度について体系的に理解し説明することができる
知識・理解力2	医療ソーシャルワーカーの業務に関する知識を殆ど持っていない	医療ソーシャルワーカーの業務に関する知識の概要を知っている	医療ソーシャルワーカーの業務に関して具体的に説明できる	医療ソーシャルワーカーの業務に関して総合的に説明できる
知識・理解力3	MSW業務に関する歴史や国際比較についての知識を持っていない	MSW業務に関する歴史や国際比較について、その経過や背景の概要を知っている	MSW業務に関する歴史や国際比較について、その概要を説明できる	MSW業務に関する歴史や国際比較から、医療とMSWに関して構造的に理解できる
思考・解決力	チームや連携についてのイメージが持てない	チームや連携についての重要性や意義について理解することができる	具体的な状況におけるチームや連携についてイメージできる	具体的な状況におけるチームや連携についてその必要性や課題を説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
授業の進め方、スケジュールを伝えると共に、医療社会福祉の基礎となる知識を学ぶ
- 第 2 回 保健医療サービス体系の概要と変遷
日本の疾病構造の変遷、保健医療サービス体系の歴史、医療提供体制などについて学ぶ
- 第 3 回 保健医療サービスの変遷（医療法・ケアシステム）
医療サービスの変遷と法体制について学ぶと共に医療法の変遷の概要を知る
- 第 4 回 医療保険制度の概要
医療保険制度の種類や給付内容、変遷の概要を学ぶ
- 第 5 回 診療報酬制度
診療報酬制度の仕組みと、社会福祉士の位置づけと意義などを学ぶ
- 第 6 回 保健医療におけるその他の福祉関連制度
医療保険を自己負担を軽減する福祉関連制度などについて学ぶ
- 第 7 回 保健医療サービスにおける専門職の業務と役割
保健医療サービスにおける専門職の資格や業務内容、役割などを知る
- 第 8 回 病院組織とチーム・連携

- 病院組織の特徴を知り、チーム・連携にかかわる知識を学ぶ
- 第 9 回 院内外連携の実際
テキストのコラムに記載されている例を考察し、課題などを共有する
- 第 10 回 保健医療ソーシャルワーカーの業務の範囲
医療ソーシャルワーカーの業務指針を基に業務の範囲を知る
- 第 11 回 保健医療ソーシャルワーカーの業務の方法
医療ソーシャルワーカーの業務指針を基に業務の方法を知る
- 第 12 回 医療ソーシャルワークの歴史1（イギリス）
イギリスの医療ソーシャルワークの歴史の概要を知る
- 第 13 回 医療ソーシャルワークの歴史2（アメリカ）
アメリカの医療ソーシャルワークの歴史の概要を知る
- 第 14 回 医療ソーシャルワークの歴史3（日本）
日本の医療ソーシャルワークの歴史の概要を知る
- 第 15 回 保健医療サービスを取り巻く動向と課題
授業のまとめとして保健医療サービスを取り巻く動向と課題について学ぶ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業方法
講義形式（一部演習形式を採用する）
2. 学習方法
 - ①講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。
 - ②毎回の講義について必ず予習・復習を行うこと。
 - ③授業における意見や質問をコメント用紙に記入し、次回の授業における教員からのコメントに基づき、理解を深める。
 - ④連携・協働のあり方や保健医療サービスの意義や発展のための課題や方法について考察し、演習形式でディスカッションを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各テーマに該当するテキストの章・節を指示します。必ず予習をして講義に臨むこと。
また、他の社会福祉士指定科目に関連する授業での知識を統合して講義を聞くこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

定期試験（70%）と講義内において実施する小テスト（20%）
授業参加度（10%）の総合評価とします。

〔留意事項（Other Information）〕

テキストを必ず購入すること
社会福祉士受験の指定科目です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保健医療サービス』/小山秀夫・笹岡真弓・堀越由起子編著/ミネルヴァ書房/2016年(最新版があれば変更)/9784623076437/学内販売

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。

またテーマに沿った参考文献について、指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関においてソーシャルワーカーとして実務経験あり。

老人福祉論

SWA2201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

木曜 1限

DP2: 知識・理解力

60

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会は階層性のある社会である。その階層性の中で低位に位置づけられる存在が安心して生活できるならば、その社会は多くの人が安心して生活できる社会である。低位に位置づけられる存在とはいわゆる社会的弱者であり、その中の最大の層が高齢者である。すなわち、高齢者が安心して生活できる社会は多くの人が安心して生活できる社会である。逆もまた真である。老人の福祉を問うことは自分自身の生活保障を問うことである。社会に階層性がある以上、老いにも階層性がある。この授業では生活困難に見舞われている高齢者の問題を中心に扱う。特に我が国における老いと高齢化、高齢者自身を巡る問題に焦点を当て、高齢者の福祉を考えていく基礎を構築する。知識、理解力、思考、問題解決力が身につく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 高齢者をめぐる福祉課題の拡大化について学ぶ 2. 高齢者福祉に関わる歴史について学ぶ 3. 高齢者福祉に関わる制度の概要と各種サービスについて学ぶ 4. 老人福祉法について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	老人福祉制度を理解できない	老人福祉法とは何かの概要を考える	老人福祉法の具体的な支援内容を考える	老人福祉法と人権の擁護について考える

知識・理解力	老人福祉法と介護保険法の区別がつかない	介護保険法の仕組みについて理解できる	介護保険法の具体的なサービス内容が理解できる	介護保険法の課題整理と展望がわかる
言語力	老人福祉法の専門用語を理解しようとしていない	老人福祉法の専門用語を理解する	老人福祉法の専門用語を説明できる	老人福祉法と介護保険法の用語を説明できる
思考・解決力	教えられたこと以上を考えようとしない	老人福祉法が現代社会に不可欠であることを考える	老人福祉法が現代社会のどの部分に関与しているか考える	老人福祉法の現場実践活用の具体策を考えられる
共生・協働する力	他者の意見、各種文献等を参考にしない	各種文献を活用し考えていこうとする	考えたことを自分の言葉でまとめて皆と共有できる。	レベル3に加えて法の理解により現在社会に寄与する方法が考えられる
創造・発信力	自分の想像だけで発信を行う	周囲の状況にも目を配り老人福祉法に実務を考える	進歩する老人福祉状況を踏まえて援助実践を考える	レベル3に加えて長寿社会実現に向けての策を創造できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 高齢者福祉入門1
高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第 2 回 高齢者福祉入門2
高齢者の福祉需要
- 第 3 回 高齢者福祉の実態
高齢者の地域移行や就労の実態
- 第 4 回 高齢者に関する制度
老人福祉法の理解
- 第 5 回 介護保険制度1
介護保険法の概要
- 第 6 回 介護保険制度2
介護保険法の理解 組織・団体
- 第 7 回 介護保険制度3
介護保険法の理解 専門職
- 第 8 回 介護保険制度4
介護保険法の理解 ネットワーク
- 第 9 回 地域の高齢者を支える
地域包括支援センター
- 第 10 回 高齢者の権利を擁護する
高齢者虐待防止法
- 第 11 回 高齢者を護る制度1
高齢者に関する法規
- 第 12 回 高齢者を護る制度2
高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律

- 第 13 回 高齢者の在宅支援1
高齢者向け優良賃貸住宅、高齢者専用賃貸住宅
- 第 14 回 高齢者の在宅支援2
高齢者居住支援センターの役割
- 第 15 回 高齢者支援の総括
高齢者福祉制度と実践の課題と将来

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書を使用しつつも授業時に配布する資料も活用しながら講義を行う。視覚教材も使用して理解を深めてもらう。講義終了時には毎回の講義の理解度を確認するために指定する様式での小テストを提出する。

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

高齢者福祉の現状は日々刻々と変化している。タイムリーな話題として高齢者福祉等に関する新聞記事などを紹介また印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求めるのでできるだけ日常の高齢者関連問題には留意すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (20%)、定期試験 (50%) とし、その総合点を最終評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士資格の取得をめざす学生は、履修しなければならない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『高齢者福祉学』/三好明夫、西尾隆司編著/学文社///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

随時紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 社会福祉士として施設での勤務経験あり。

アパレルデザイン

LDA2450N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

月曜3限

DP4: 思考・解決力

60

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人間は生活する上で快適な環境を構築するため、さまざまなモノをデザインし、造形している。生活とデザインには密接な関係があり、人間そしてその生活を中心に置いたデザインが基本的な要素として必要になる。デザインには「用」(機能性)と「美」(審美性)の2つの基本的な性能が必要であり、これらの2つを見える形として表現することがデザインである。アパレルデザインは他のさまざまなデザインと異なり、人間という動き、表情、個性など多くの要素が加わった形で表現される。人間らしく、快適で個性を尊重したアパレルデザインを追求することを目標に、衣服が企画され、製作され、販売される過程を理解し、理想的なアパレルデザインについて学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

アパレルデザインの本質を正しく理解するためのデザインの基礎、および造形美の諸原則を中心に講義する。また、ファッションデザイナーやコスチュームデザイナーに焦点を当て、各デザイナーのコンセプトがどのようにその作品に反映されているかについて知り、現在の衣服における問題点や今後のファッションの方向性などを考え、解決策を提案する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	関連知識や情報に興味・関心がみられない。	関連知識や情報を得ることに興味・関心がある。	得られた知識や情報を整理し、デザインに活用できる。	得られた知識や情報を活用でき、クリエイティブな発想でデザインができる。
創造・発信力	クリエイションに興味・関心がみられない。	クリエイションに興味・関心がある。	クリエイティブな発想に価値を置く。	クリエイティブな発想を作品にして、発信できる。

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

アパレルデザインとは何か。定義と関連する用語など。

第 2 回 ファッションの歴史①

- ファッションの変遷とその背景①－歴史をふりかえって－
- 第 3 回 ファッションの歴史②
ファッションの変遷とその背景②－現代におけるファッション－
- 第 4 回 デザインの基礎
ファッションデザインのデザインの中での位置づけと基礎
- 第 5 回 ファッションデザインの要素①
フォーム
- 第 6 回 ファッションデザインの要素②－1
カラー①－基礎－
- 第 7 回 ファッションデザインの要素②－2
カラー②－応用－
- 第 8 回 ファッションデザインの要素③
テキスタイル
- 第 9 回 デザイン演習①
ファッションイラストレーション描き方
- 第 10 回 デザイン演習②
見る人に伝える
- 第 11 回 コスチュームデザイン
特別講義「コスチュームデザイン」
- 第 12 回 デザインとイメージ①
①－日常場面において－
- 第 13 回 デザインとイメージ②
②－非日常場面において－
- 第 14 回 課題
課題提出と試験
- 第 15 回 まとめ
課題の合評と試験返却および解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

＜授業の実施方法＞

主に講義形式で授業を進めるが、必要に応じて、演習形式の時間も設ける。授業はDVDやスライドを用いてできるだけ、具体的なデザインの要素が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

＜課題のフィードバック方法＞

試験については、最終授業で返却をし解説する。演習課題については、全員の課題を張り出し合評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

できるだけ多くの衣服を見たり、触ったり、すること。また、歴史や文化に関する本を多く読むこと。映画や舞台芸術を積極的に鑑賞し、身体、衣装、身体表現 (パフォーマンス) について考え、自分の意見を持つこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、課題 (40%)、試験 (30%) を総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生数や受講生の関心、また、特別講師の都合によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アパレルデザイン演習Ⅰ 2017年度以降入学者

LDA2650N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 後期

木曜3限

DP6: 創造・発信力

15

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

デザインには、「形態」、「色彩」、「材料」という造形の3要素がある。この3要素はデザイン分野すべてに共通するものであるが、特にアパレルデザインにおいて、人間が装着して美しい形態につくりあげるには、パターンが最も重要である。イメージをシルエットやディテールにするために、パターンメイキングの基礎から応用について学ぶ。学んだ知識や技術を基に、クリエイティブなデザインを発信する力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本シルエット
2. 襟
3. 袖

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	他者と協力しようとする姿勢がみられない。	自己と他者の違いを認めることができる。	自己と他者の適切な役割分担ができる。	適切な役割分担のもと、同じ目標に向かって行動できる。
創造・発信力	基礎的な知識・技術を得ることに意欲がみられない。	基礎的な知識・技術を得ることに意欲がある。	基礎的な知識・技術が自分のものになり、作品で発表できる。	基礎的な知識・技術を身につけ、応用でき、創造的な作品として発表できる。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

- 授業の進め方について
- 第 2 回 パターンの基礎①
基本シルエット① タイトスカート
 - 第 3 回 パターンの基礎②
基本シルエット② セミタイトスカート
 - 第 4 回 パターンの基礎③
基本シルエット③ フレアスカート
 - 第 5 回 パターンの基礎④
基本シルエット④ ギャザースカート
 - 第 6 回 パターンの基礎⑤
基本シルエット⑤ 創作スカート I
 - 第 7 回 パターンの基礎⑥
基本シルエット⑥ 創作スカート II
 - 第 8 回 パターンの基礎⑦
基本シルエット⑦ 胴部原型からワンピース原型
へ展開
 - 第 9 回 パターンの基礎⑧
基本シルエット⑧ ボックスワンピース
 - 第 10 回 パターンの基礎⑨
基本シルエット⑨ Aラインワンピース
 - 第 11 回 パターンの基礎⑩
基本シルエット⑩ プリンセスラインワンピース
 - 第 12 回 デテールについて①
襟のバリエーション
 - 第 13 回 デテールについて②
袖のバリエーション
 - 第 14 回 課題
創作課題
 - 第 15 回 まとめ
課題の合評およびまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

演習形式で行う。具体的には、最初に説明をし、グループあるいは個人で実際にパターンを引き、実物を組み立てながら、知識および技術を身につける。

最終授業で課題の合評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週、授業終了後に次週の課題を発表するので、その課題に必要な情報を集めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(50%)、作品および製図ノート(50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

定員16名

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アパレルデザイン演習 II

LDA3600N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

1単位 前期

月曜 2限

DP6: 創造・発信力

15

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

デザインには、「形態」、「色彩」、「材料」という造形の3要素がある。この3要素はデザイン分野すべてに共通するものであるが、特にアパレルデザインにおいては、着装者である人間の印象に色彩が影響を与える。アパレルデザインIでフォームの基礎的知識と技術を修得した上で、イメージを自由に色で表現できるように基礎から応用について学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 色彩の基礎
2. 色のイメージ
3. 配色の効果
4. 人間と色彩

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	他者と協力する姿勢がみられない。	自己と他者の違いを認め、適切な役割分担ができる。	自己と他者の適切な役割分担のもと、作業を進めることができる。	同じ目標を持ち、作業を進め、成果をあげることができる。
創造・発信力	色・柄、素材への興味・関心がみられない。	色・柄、素材の基礎知識をもっている。	色・柄、素材の基礎知識をデザインに活用し、作品発表ができる。	色・柄、素材に関する知識や技術を応用して、創造的な作品制作ができ、発表できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス 授業の進め方について
パターンメイキングの復習
- 第 2 回 色について
素材を選び、基本パターンでスカートを制作する。
- 第 3 回 イメージと色①
自分のイメージを作品に取り入れ、スカートを制作する。
- 第 4 回 イメージと色②
2色以上の色を使用し、効果的にデザインする。
- 第 5 回 立体デザイン①

- 立体作品を企画する。
- 第 6 回 立体デザイン②
立体作品を制作する。
- 第 7 回 立体デザイン③
立体作品の演出効果を考える。
- 第 8 回 デザイン演習①
色の効果を考え、ワンピースのデザインをする。
- 第 9 回 デザイン演習②
実物制作をする①パターン作成
- 第 10 回 デザイン演習③
実物制作をする②サンプル作成
- 第 11 回 デザイン演習④
実物制作③素材決定
- 第 12 回 創作デザイン制作①
創作デザイン作品を制作する。
- 第 13 回 創作デザイン制作②
創作デザイン作品を制作する。
- 第 14 回 創作デザイン課題提出
創作デザイン作品を展示する。
- 第 15 回 まとめ
作品の合評を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

演習形式で行う。具体的には、最初に説明をし、グループあるいは個人で実際に色の効果を考えた演習課題および作品を制作する。

演習課題および作品については、最終授業で合評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週、授業終了後に次週の課題を発表するので、その課題に必要な情報を集めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(50%)、課題作品およびプレゼンテーション(50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

アパレルデザイン演習 I を修得していること。

定員16名

デザインコンテストへの参加など、積極的に作品を提案する機会をもつ。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アパレル造形学 (実習を含む)

LDA2400NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 前期

金曜 1限 金曜 2限

DP4: 思考・解決力

45

定員24人 週1.5コマ連続

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

被服構成の方法には立体構成と平面構成とがある。日本において前者は洋服、後者は和服に代表される。今年度は、浴衣を課題とし、両者の考え方の違いを理解しながら、着衣基体である人体の理解と、家庭科教員免許状に必要な基礎技術の習得をはかる。立体裁断、平面製図について、それぞれの解説を行い、理解をうながす。

日本の歴史や文化に関する関心を深め、積極的に浴衣製作に取り組む中で、人体と衣服の関係について考えながら、技術の習得および製作実習の中で起こる問題について解決する力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

アパレル造形の理論と技術を浴衣の製作を通じて理解し、実習技術を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	日本の文化や浴衣製作に興味が見られない。	歴史や文化への興味・関心はある。	歴史や文化への知識を持ちながら、浴衣製作に取り組むことができる。	得られた知識や技術を応用して制作でき、今後活かすことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業の進め方
立体構成法(洋服)と平面構成法(和服)の相違点について
- 第 2 回 採寸
採寸による人体把握
- 第 3 回 浴衣制作
浴衣製作の概要説明
- 第 4 回 材料と用具
生地と裁縫用具について
- 第 5 回 浴衣製作①
① 柄合わせ、裁断
- 第 6 回 浴衣製作②
② しるしつけ
- 第 7 回 浴衣製作③
③ 袖

- 第 8 回 浴衣製作④
 - ④ 背縫い
- 第 9 回 浴衣製作⑤
 - ⑤ 脇縫い
- 第 10 回 浴衣製作⑥
 - ⑥ おくみ付け
- 第 11 回 浴衣製作⑦
 - ⑦ えり付け
- 第 12 回 浴衣製作⑧
 - ⑧ 袖付け
- 第 13 回 仕上げ
 - 仕上げ
- 第 14 回 授業内試験
 - 授業内試験
- 第 15 回 まとめ
 - 試験返却と着付け

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

随時、プリントを配布する。

試験については、第15週に返却および解説をする。

完成した浴衣については、自分および他者への着付けができる力をつける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布資料をよく読むこと。浴衣製作においては、その授業内で仕上げられなかったことは、必ず、次週までに仕上げ、次の授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題の提出(60%)、授業参加度(15%) 試験(25%)により、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

材料費については、自己負担です。

実習を含む講義であるため、欠席した場合、次週授業までかなりの準備が必要となり負担が大きくなります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インテリア装備学

LDA3251N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 後期

金曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

定員15人

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インテリアを特徴づける構成要素について理解し、それらの構成要素の視覚的効果を把握したうえでどう選択し配置するかを考え、適切にインテリアコーディネートできることを目標とする。主体的に情報収集してインテリアに関する知識を豊富にし、イメージを具現化する方法として、CGソフトを用い表現する力、他者にプレゼンテーションする力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. インテリア構成要素(家具、照明器具、ウインドウトリートメント)の視覚効果と、それらを用いた雰囲気計画を理解する。
2. インテリアイメージに沿って適切なインテリアコーディネートが提案できる。
3. イメージソフトを用いた表現手法を修得する。
4. 主体的にインテリアに関する知識を豊富にし、実例にふれる機会を多く持つ。
5. 他者に対して課題作品をプレゼンテーションする、伝える力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力(ノート作成)	ノートを作成しない	教材や資料を単に写した程度のノートしか作成していない	要点がとらえられている。教材以外に主体的に得た情報量が多いノートを作成している	知識を再構成したノートを作成している。
知識・理解力	インテリアエレメントがわからない	基本的なインテリアエレメントやカラーコーディネートの基礎知識がある	独自の学びによる豊富な知識を備えている	豊富な知識を再構成しオリジナリティのある提案ができる

思考・解決力	インテリアコーディネートの実際がわからない	インテリアコーディネートの実際がわかる	おおむね適切なインテリアコーディネートを提案できる	条件に沿ったうえでオリジナルのインテリアコーディネートを提案できる
--------	-----------------------	---------------------	---------------------------	-----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 9/25 (対面) ガイダンス
授業方法、評価基準の説明、自由課題及び14回小テストの説明、オンライン授業のノート作成に関する説明と第2回のための予習箇所のアナウンス(テキスト第2章)、今回のノート提出の方法
- 第 2 回 10/2 (対面) インテリアデザインとは
ノートの共有
インテリアデザインの要点の確認
CGソフトの操作とインテリアコーディネートの演習(上品な、活動的な、落ち着いたの試作)
ミニットペーパーの作成と提出
- 第 3 回 10/9 (on-line) カラースキームの知識理解(テキスト第6章)
ノート作成、ノート提出
- 第 4 回 10/16 (対面) カラースキームの実践演習
ノートの共有
CGソフトによるカラーコーディネート演習(第2回試作との比較)
ミニットペーパーの作成と提出
- 第 5 回 10/30 (on-line) 照明器具とウィンドウトリートメントの知識理解(テキスト第8章)
ノート作成、ノート提出
- 第 6 回 11/6 (対面) 照明器具とウィンドウトリートメントの実践演習
ノートの共有
CGソフトによるライティング、ウィンドウトリートメントの演習
ミニットペーパーの作成と提出
- 第 7 回 11/13 (on-line) インテリアの歴史(世界編)の知識理解(テキスト第10章)
ノート作成、ノート提出
- 第 8 回 11/20 (対面) 家具、インテリアスタイルの実践演習
ノートの共有
CGソフトによるインテリアスタイルの演習
ミニットペーパーの作成と提出
- 第 9 回 11/27 (対面) 自由課題(インテリア計画と事項の整理)
インテリアの立案、条件の整理、コンセプトシートの作成
ミニットペーパーの作成と提出
- 第 10 回 12/4 (対面) 自由課題の計画発表(プラン・コンセプト)

- 自由課題のコンセプト発表・プレゼンテーション、意見交換
ミニットペーパーの作成と提出
- 第 11 回 12/11 (対面) 自由課題の作成
自由課題の作成
ミニットペーパーの作成と提出
- 第 12 回 12/18 (対面) 自由課題の中間発表(コンセプトとインテリア要素の関連づけ)
自由課題の中間発表・プレゼンテーション、意見交換
ミニットペーパーの作成と提出
- 第 13 回 1/8 (対面) 自由課題の作成
自由課題の作成
ミニットペーパーの作成と提出
- 第 14 回 1/15 (対面) 小テスト及び自由課題の作成
小テストの実施
自由課題の作成
ミニットペーパーの作成と提出
- 第 15 回 1/22 (対面) 完成した課題のプレゼンテーション
自由課題の完成発表・プレゼンテーション、意見交換
ミニットペーパーの作成と提出

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

ブレンド型授業とする。(1)オンライン授業は、インテリアに関する基礎知識を学ぶ。ノートを作成することで、単元の要点を理解し、関連情報を収集、修得した個々の知識を自分なりに再構成し自分なりの気づきやインテリア計画全体を俯瞰したノートを作成し提出する。(2)対面授業は、まず他者のノートを共有し理解を深める。知識に基づきCGソフトで実践的にインテリア計画を行う。第14回目にインテリアの基礎知識の小テストを行う。第15回目に完成した課題作品のプレゼンテーション発表、意見交換を行う。途中、計画発表と中間発表も行う。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

平日頃から意識してインテリア雑誌を読む、家具販売店やインテリア雑貨店、ショールームを訪れるなどし多くの実例に触れることでセンスを養う。世界的建築家が手掛けた家具や照明器具についてインターネットを利用するなど積極的に情報にふれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

60

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

評価は、オンライン授業のノート(20)、対面授業のミニットペーパー(27)、小テスト(30)、課題作品と発表(23)である。ノート提出は4回で毎回5点を上限とし[学習内容に不足がある(1)/内容は網羅しているが資料を単に写した程度(2)/要点をとらえてわかりやすくまとめている(3)/主体的に収集した情報量が多い(4)/知識を再構成し自分なりの解釈ができて(5)]

ミニットペーパーは9回で毎回3点を上限とし、自分なり

の気づきや内省ができていくかを評価する。
 課題発表は、計画発表(4)、中間発表(4)、課題作品(15)[完成度(5)、コンセプトと作品の合致(5)、美しさ(5)]である
 [留意事項 (Other Information)]

1. 10/9,10/30,11/13はオンライン授業とする。 2. 対面授業、オンライン授業に関わらず毎回提出物がある。 3. 本科目の受講者は住居製図Ⅱの履修者(受講経験者)、定員制(15人まで)である。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『実践につながるインテリアデザインの基本』/橋口信一郎/学芸出版社/2018//学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『モダンリビング』//婦人画報社//

『新建築』////

『インテリアコーディネータ』/町田ひろ子アカデミー/エクスマレッジ//

『やさしいインテリアコーディネート』/宮後浩/学芸出版社//978-4-7615-2436-4/

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

ソーシャルマーケティング論

LDR3253N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 後期

火曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

新村 佳史

[科目の教育目標 (Course Description)]

この科目は、従来の企業活動では見落とされがちだった社会福祉に関わる仕事の「価値」について考え、改めて仕事の意義を問い直そうというものです。福祉や保育系に進もうという人だけでなく、民間企業や公務員で働こうという人にもぜひ受けてほしい、現代社会の問題点について考えていく授業です。これからの企業は、儲かればいいだけではだめです。社会の幸福にどう貢献するか、それがソーシャルマーケティングの考え方の1つです。思いがけない就職先が見つかるかもしれませんよ。ソーシャルマーケティングという概念自体が新しいものですが、数学的な理論学習よりも、今の社会を知り、どんな課題がみなさんにかせられているのかをしっかりと考えます。海外に関心のある人にも楽しい授業ですよ。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

今の社会について知る 企業の存在意義とは何か 社会保障制度の必要性
 国や公共事業体ができること 企業ではない「法人」について知ろう

世界の社会保障制度とその歴史 日本の問題点
 社会が幸福になる企業活動とは 介護や保育に求められるマーケティングとは

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 なぜ世界に恵まれない人がいるのか？
数字の見方に慣れていこう、世界の幸福度
- 第 2 回 資本主義社会の利点と弱点
私たちが生きている「今」の世界について知ろう
- 第 3 回 企業の論理は勝者の論理
マーケティングを駆使するグローバル企業と、社会的弱者の関係
- 第 4 回 国や自治体のできること
マーケティング戦略の取れない公務の弱点
- 第 5 回 法人って、何？
国と企業の間立つ様々な法人について知ろう
- 第 6 回 公益事業の民営化って？
少子高齢化にどう対応するか
- 第 7 回 企業の社会貢献-1
利益を社会に還元する企業の在り方とは？コトラーに学ぶ
- 第 8 回 企業の社会貢献-2
消費者保護、そして環境対策
- 第 9 回 週休4日制？
オランダに学ぶ生き方・・・ソーシャルマーケティングの視点から見たワークシェア
- 第 10 回 効率の良い福祉や保育は可能か？
法人へのマーケティング技術の導入
- 第 11 回 世界のソーシャルマーケティングの実践例
アフリカを救うためにミュージシャンが行ったこと
- 第 12 回 私たちにできること-1
ここまでの学習を通してのグループディスカッション
- 第 13 回 私たちにできること-2
ディスカッションの報告
- 第 14 回 持ち込み可の試験

60分で試験を実施します。その後に簡単な解説を行います

第 15 回 未来について考えよう

試験を返却します。また、保育や介護などの仕事
がこれからどうなるか、可能性を探ります

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行いません

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

世界でおきていることを「自分の問題」として考えるのが
ソーシャルマーケティングの第1歩です。覚えるよりも考える、
発表することを重視します。発表内容については授業
時間内に講評を行います。「気づき」を高く評価します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

この分野はどんどん変化しています。まず毎日のニュース
に気を配ることを心がけてください。難民問題や医療問題
など、その時々々のニュースの解説も行います。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期間内試験 50% ディスカッションの参加・発表 2
5% 普段の授業態度

25% 社会への関心の高さを見せてください。試験に
ついては問題の狙いについて詳しく解説し、最終授業の際
に添削を加えて返却します。

〔留意事項 (Other Information)〕

毎回、プリントを配布します。そこに講義中のメモを書き
込み、自分だけのテキストを完成させてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

使用しない予定です (毎回プリントを配布します)。ただ
し、講義前に良い本が出た場合は、最初の授業で購入を指
示します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

最初の授業に指示します。またディスカッションの場合、
グループごとに参考資料を貸与します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ソーシャルワーク演習 II

SWR3500NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 通年

月曜1限

DP5: 共生・協働する力

30

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、多様な生活課題を抱える人々に寄り添い理解を
深め、生活状況やニーズを適切に把握して支援計画を策定
する能力を涵養することを目標としている。また、地域の
社会資源を活用・調整・開発し、他職種と協働しながらか
かわる支援者としての対人援助能力を身につけることを目
標としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

ソーシャルワークの意味と役割を明確にしつつ、現場の実
践に活かせる対人援助能力を身につけることである。その
ために対人援助技術の基礎的理論を確認しつつ、対人援助
専門職としての専門的な〈援助者の態度〉、〈コミュニケー
ション技術〉、〈援助プロセスの実際〉を、観察・考察する
演習と事例研究を通して学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	理論や専門用語を調べることができない。	理論や専門用語を調べることができる。	理論や専門用語を調べ、内容を理解している。	理論や専門用語の内容を理解し、どのような場面で活用できるのか説明することはできる。
思考・解決力	ニーズを把握することができない。	ニーズを把握することができる。	ニーズを把握し、解決策を考えることはできる。	ニーズを把握し、具体的な解決策を説明することができる。
表現力・考察力	ニーズの背景を考えることができない。	ニーズの背景を考えることはできる。	ニーズの背景を考え、ニーズ充足に必要な支援を考えることはできる。	ニーズの背景を考え、ニーズ充足に必要な支援を具体的に説明することができる。

コミュニケーション力	発言や傾聴をすることができない。	意見を発言することはできる。	意見を発言し、他者の話を傾聴することはできる。	意見を発言し、他者の話を傾聴し、意見の共通点や相違点を説明することができる。
------------	------------------	----------------	-------------------------	----------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ソーシャルワークとは何か
- 第 2 回 ソーシャルワークの意義と方法
- 第 3 回 インテークの実際
- 第 4 回 アセスメントの実際
- 第 5 回 プランニングの実際
- 第 6 回 支援の実際
- 第 7 回 モニタリングの実際
- 第 8 回 効果測定の実際
- 第 9 回 終結とアフターケアの実際
- 第 10 回 アウトリーチの実際
- 第 11 回 チームアプローチの実際
- 第 12 回 ネットワーキングの実際
- 第 13 回 社会資源の活用・調整・開発
- 第 14 回 ケースカンファレンスの実際
- 第 15 回 ソーシャルワーカーの専門性
- 第 16 回 対人援助の本質
- 第 17 回 事例研究の意義
- 第 18 回 事例研究の基本枠組み
- 第 19 回 事例研究の進め方
- 第 20 回 事例のまとめ方
- 第 21 回 事例の分析
- 第 22 回 事例研究 児童と家族の相談援助事例
- 第 23 回 事例研究 障害のある児童と家族の相談援助事例
- 第 24 回 事例研究 身体障害のある人の相談援助事例
- 第 25 回 事例研究 知的障害のある人の相談援助事例
- 第 26 回 事例研究 精神障害のある人の相談援助事例
- 第 27 回 事例研究 在宅要介護高齢者の相談援助事例
- 第 28 回 事例研究 施設要介護高齢者の相談援助事例
- 第 29 回 事例研究 地域包括支援センターにおける相談援助事例
- 第 30 回 事例研究の総括と振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ソーシャルワークの実際に関する資料／映像の提示
2. ソーシャルワークの視点からの講義と解説
3. ロールプレイ、カンファレンスを含んだ演習、事例研究を行う。

本演習では、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に参加し行動発言することを求める。

4. 各回課題について、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

社会福祉実践の現場は常に変化している。日頃からテレビや新聞等で社会福祉関連の話題や記事を見つけて理解を深めておく必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (50%) と演習課題レポート (50%) をもって総合評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士受験予定者は必ず受講すること。

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で資料を配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で参考文献一覧を配付する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ソーシャルワーク演習Ⅲ

SWR4600NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

1単位 前期

木曜 3限

DP6 : 創造・発信力

45

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

相談援助には、個別支援にとどまらず、さまざまな問題を総合的・包括的な視点で捉え、地域支援へと展開することが求められている。また、地域における各種の課題や問題状況を把握、分析したうえで、必要な専門職 (他職種含む) や地域住民・組織・団体等との連携・協働を視野に入れながら、解決するための方法を模索することも求められる。そこで本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士 (専門職) 取得を目指す学生が、必要な専門知識をもとに、実践的な力を習得することを目標とする。特に、地域支援や地域福祉の基盤整備と開発にかかわる実践力の習得をめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 利用者のニーズから地域課題を考える。
2. 地域の現状把握と地域における生活課題、福祉課題を考える。
3. 地域福祉を推進するための情報収集、課題の分析、計画づくりの過程について学ぶ。
4. グループ発表については、発表後に全体でフィードバックをおこなう。

5. 授業最終日に、レポート等に対するフィードバックをおこなう。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	現場実習の内容を振り返り、自分の課題を見つけることができない	現場実習の内容を振り返り、自分の課題について見つめようとすることができる	現場実習の内容を振り返り、自分の課題について克服するために何をすべきか理解できる	現場実習の内容を振り返り、自分の課題について克服しようとする努力することができる
知識・理解力	ソーシャルワークの地域展開について、理解することができない	ソーシャルワークの地域展開について、理解しようとして、課題に取り組むことができる	ソーシャルワークの地域展開の意味を理解し、地域の課題について考えることができる	ソーシャルワークの地域展開の意味を理解し、地域の課題解決に向けて提案することができる
言語力	グループワークにおいて、意見を述べることができない	グループワークにおいて、意見を述べようとする努力することができる	グループワークにおいて、他者の意見を尊重することができる	グループワークにおいて、多様な意見を尊重し、グループとしての意見集約をすることができる
思考・解決力	演習課題やグループワークで、考え、解決することができない	演習課題やグループワークで、考え、解決しようとする努力することができる	演習課題やグループワークで、考え、解決するために何を必要かを考えることができる	演習課題やグループワークで、考え、解決するために提案することができる
共生・協働する力	グループワークにおいて、互いを尊重して取り組むことができない	グループワークにおいて、互いを尊重して取り組もうとすることができる	グループワークにおいて、互いを尊重して課題解決に向けて取り組もうとすることができる	グループワークにおいて、互いを尊重して課題解決に向けてともに考えることができる

創造・発信力	演習課題やグループワークにおいて、解決策を提案することができない	演習課題やグループワークにおいて、解決策について、考えようとするができる	演習課題やグループワークにおいて、解決策について、他者に発信することができる	演習課題やグループワークにおいて、解決策について、他者に発信し、新たな考えを導き出すことができる
--------	----------------------------------	--------------------------------------	----------------------------------------	--------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 現場実習の振り返りと総括
- 第 3 回 実習の学びを事例にした演習①（地域連携の実際
- 第 4 回 実習の学びを事例にした演習②（チームアプローチの可能性）
- 第 5 回 個別支援から地域支援を考える①（ソーシャルワーカーの援助方針と視点）
- 第 6 回 個別支援から地域支援を考える②（地域住民への働きかけ）
- 第 7 回 個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開①（相談への対応）
- 第 8 回 個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開②（情報収集の方法）
- 第 9 回 個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開③（ネットワーク形成）
- 第 10 回 地域福祉計画の策定過程について
- 第 11 回 地域の情報収集について
- 第 12 回 地域の課題把握・分析について
- 第 13 回 サービス評価について
- 第 14 回 計画づくりについて
- 第 15 回 グループ発表と総括

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

現場実習で体験した内容や具体的な事例をもとに、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション等に取り組む。そのために学生は主体的に参加し、各課題に積極的に取り組む。また、提示する課題に対して、グループワークによる発表、レポート作成に取り組む。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各自の現場実習を振り返り、成果や課題を明確にしておくこと。
地域福祉にかかわる情報や社会資源について情報収集しておくこと。
グループワークによる課題への取り組みに対して、情報収集、情報共有、まとめの作業など、グループによる取り組みを進めておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (30%)、グループ課題発表 (20%)、個人レポート課題 (50%) で総合的におこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士、精神保健福祉士受験資格取得を希望する学生は、必ず受講すること。

専門職に必要な演習科目のため、受講者一人ひとりが自主的、積極的に演習に取り組むこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

各自の社会福祉援助技術現場実習記録

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (社会福祉士有資格、自治体、社会福祉協議会等における地域福祉にかかわる委員等の経験あり)

ソーシャルワーク論VI

SWR4502N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
4年次

2単位 前期

金曜2限

DP5: 共生・協働する力

90

桐野 由美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は文部科学省令・厚生労働省令が定めた社会福祉士必修科目「相談援助の理論と方法」の最終(第4)フェーズに該当する。この科目では、ソーシャルワーク論Ⅲ、Ⅳ、Ⅴを踏まえ、専門的ソーシャルワーク実践力を有する社会福祉士に求められる知識と理解を包括的に深め、社会のために多職種連携のもとにソーシャルワークを実践する準備を全うすることにあり、具体的目標は以下の通りである：
1) クライアントのウェルビーイングのためのソーシャルワーク事例分析ができる、2) ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践し、クライアントに寄り添える、3) 地域や福祉の現場で他職種と連携・協働し、クライアントの権利を擁護できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 事例検討を通して、包括的に習得したソーシャルワーク(相談援助)の様々なモデル、アプローチを現場で実践する準備を完了する。

2 ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践しクライアントに寄り添う準備を終える

3 地域や福祉の現場で他職種と連携・協働し、クライアントの権利を擁護する準備を整える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ソーシャルワーク現場実践準備にあたるソーシャルワーク諸モデルの事例検討	ソーシャルワーク現場実践準備にあたるソーシャルワーク諸モデルの事例検討ができない	ソーシャルワーク現場実践準備にあたるソーシャルワーク諸モデルの事例検討がある程度できている	ソーシャルワーク現場実践準備にあたるソーシャルワーク諸モデルの事例検討が十分にできている	レベル3に加えて、ソーシャルワークの諸モデルの実践を試みる
ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践しクライアントに寄り添う準備	ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践しクライアントに寄り添う準備ができない	ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践しクライアントに寄り添う準備がある程度できている	ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践しクライアントに寄り添う準備が十分にできている	レベル3に加えて、現場でクライアントに寄り添う技術を試みる
地域や福祉の現場で他職種との連携/協働とクライアントの権利擁護	地域や福祉の現場で他職種と連携・協働し、クライアントの権利を擁護する準備ができない	地域や福祉の現場で他職種と連携・協働し、クライアントの権利を擁護する準備がある程度できている	地域や福祉の現場で他職種と連携・協働し、クライアントの権利を擁護する準備充分にできている	レベル3に加えて、地域や福祉の現場で他職種との連携・協働を試みる

〔授業計画〕

- 第1回 ①オリエンテーション ②ソーシャルワーク(相談援助)の実践モデルとその意味(第6章1節)
- 第2回 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル(第6章2節)
- 第3回 ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル(第6章3節)
- 第4回 心理社会アプローチと機能的アプローチ(第7章1・2節)
- 第5回 問題解決アプローチと課題中心アプローチ(第7章3・4節)
- 第6回 危機介入アプローチ・行動変容アプローチ・事例考察によるアプローチ理解(第7章5・6.7節)
- 第7回 エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチ・認知アプローチなど(第8章1~3節)
- 第8回 事例考察によるアプローチ理解と課題(第8章4・5節)
- 第9回 スーパービジョンとコンサルテーション(第9章)
- 第10回 ケースカンファレンスの技術(第10章)
- 第11回 ソーシャルワーク(相談援助)における個人情報の保護(第11章)
- 第12回

ソーシャルワーク（相談援助）におけるICTの活用（第12章）

第13回 事例研究・事例分析（第13章）

第14回 ソーシャルワーク（相談援助）の実際（第14章）

第15回 形成テスト・解説とまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材を適宜活用する。毎回の講義開始時に前回の授業に関する復習クイズを行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。その詳細は、第1回目の授業の配布資料で提示する。また、復習クイズの準備を兼ねて前回の授業の復習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

本科目の評価は、授業参加度（30%）、授業中成果（10%）、形成テスト（60%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

授業内で適宜資料を配布する。

実際の授業の状況に応じて、学生に周知した上で授業予定を変更する場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』/社会福祉士養成校協会編集/中央法規/2015//学内販売予定

授業はテキストを中心に進めるので必ず購入すること

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献について授業中に資料を適宜配布する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

参考URLについて授業中に適宜提示する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ソーシャルワーク論VIなどの科目について

ソーシャルワーカーとして米国公的機関での勤務経験あり。

デザイン論 I

LDR3201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 前期

月曜2限

DP2：知識・理解力

60

西田 雅嗣

〔科目の教育目標（Course Description）〕

身の回りの建築がどんな風に出来ているのか、建築のいろいろな形にはどんな意味があって、どんな歴史がそこに隠れているのか、建築を成り立たせている様々なデザインの形をつぶさに観察し、意味と歴史を知り、そうして得た知識を身の回りの生活空間に活かす術を考える。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. デザインの理解を通して、身の回りにある建築を新たな目で見ることのできる発見を得る。
2. 建築を構成している色々な形の成り立ちや意味、そして歴史を、デザインとして学ぶ。
3. 得た発見や学んだ知識を、自分の身の回りの生活空間に活かすことを考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第1回 イントロダクション

この講義の目標や課題を説明し、講義の進め方、講義全体の構成、各回の個別内容の概略について説明する。

第2回 柱とデザイン-1

日本建築の「柱」について、デザインを通して考える。日本語での柱の意味や伊勢神宮正殿の棟持ち柱、平安貴族の寝殿の柱の空間などについて学ぶ。

第3回 柱とデザイン-2

西洋建築の「柱」について、デザインを通して考える。パルテノン神殿に由来する「オーダー」と

- 呼ばれる柱の、西洋建築意匠の歴史上での重要性について学ぶ。
- 第 4 回 柱とデザイン-3
建築のデザインにおける日本の柱と西洋の柱を比較して考えてみる。「記念柱」や「床柱」、「木割り」や「プロポーション」の考え方、柱の意味について学ぶ。
- 第 5 回 窓とデザイン-1
日本建築の「窓」について、デザインを通して考える。日本語での「窓」の意味、御所に由来する「楡形窓」、「連子窓」、茶室の「下地窓」について学ぶ。
- 第 6 回 窓とデザイン-2
西洋建築の「窓」について、デザインを通して考える。石造の壁に穿たれた穴として西洋建築の「窓」の色々なあり方を、ロマネスクの教会堂の窓のあり方や、ゴシックの大聖堂の「ステンドグラス」を例に考えてみる。
- 第 7 回 窓とデザイン-3
建築のデザインにおける日本の窓と西洋の窓を比較して考えてみる。特に、モースやタウトの西洋が見る日本の窓と、窓のあり方を根本から変えた西洋の近代建築の窓を例に考える。
- 第 8 回 建築を読む
トピックスとして、西洋中世の修道院であるルトロネの建築を読む試みを行う。シトー会の無装飾ロマネスク建築のメッセージを理解する。
- 第 9 回 壁とデザイン-1
日本建築の「壁」について、デザインを通して考える。日本語の「壁」の意味、日本家屋での壁の役割を考え、具体例として「垣」「塀」「板壁」「塗壁」を見る。
- 第 10 回 壁とデザイン-2
西洋建築の「壁」について、デザインを通して考える。欧語での「壁」という言葉の意味から始まって、古代のウィトルウィウス建築書からルネサンスや近世の建築理論書での「壁」の扱われ方から西洋での「壁」の意味を検討する。
- 第 11 回 壁とデザイン-3
建築のデザインにおける日本の壁と西洋の壁を比較して考えてみる。日本人の抱く西洋建築のイメージを代表する「下見板」と「赤煉瓦」について、日本と西洋での作り方や見方の違いを見る。
- 第 12 回 屋根とデザイン-1
日本建築の「屋根」について、デザインを通して考える。日本語での「屋根」の意味を見たのち、竪穴住居と高床住居の小屋組の検討から、日本建築の屋根の基本形式であり「寄棟造」と「切妻造」の文化的意味を探る。
- 第 13 回 屋根とデザイン-2
西洋建築の「屋根」について、デザインを通して考える。屋根を見せない正当的な古典主義建築と、「マンサール屋根」など、屋根を見せるフランスの古典主義デザイン、そしてゴシック大聖堂

- の急勾配の屋根を通して、西洋の「屋根」を学ぶ。
- 第 14 回 屋根とデザイン-3
建築のデザインにおける日本の屋根と西洋の屋根を比較して考えてみる。タウトやモースが見た日本建築の屋根を見た後、屋根をのせる日本の近代建築と、勾配屋根を嫌った西洋の近代建築を見てみる。
- 第 15 回 まとめと期末レポート
これまでの講義の内容を振り返り、期末レポートのテーマを各自考えた上で、期末レポートを授業時間中に書く。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
1. 授業方法：パワーポイントで画像資料を投影しながら、それを解説する形で講義を進める。
2. 授業参加：授業時間内で、ディスカッションや小レポート作成を行うことがある。小レポートについては、次回以降の授業時間内において、必要に応じてディスカッションのテーマとするとともに、適宜コメントをする。
3. 参考文献：必要に応じて授業中に適宜指示する。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
1. 各回の授業に該当するテキストの箇所を必ず読んで上で授業に出席する。
2. 各回の授業のテーマに関係する、興味を持てる参考図書を事前に自分で探して見るのも良い。
3. 各回の授業のテーマについて、いろいろ自分で興味を持って、身の回りの事例を事前に見学してみるのも良い。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
期末レポート (50%)、小レポート (30%)、授業参加度 (20%) を総合して評価する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
建築や街の風景をよく見て、本を色々読んでみて、色々考えを巡らして見るのが重要です。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当教員がこの授業用に作成した資料を印刷・製本してテキストとして使用する。実費にて学内で販売する。
- 〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『日本デザイン論』/伊藤ていじ著/鹿島出版会/1966/9784306050051
『間(ま)・日本建築の意匠』/神代雄一郎著/鹿島出版会/1999/978-4306052352
『空間としての建築(上)』/ブルーノ・ゼーヴィ著/鹿島出版会/1977/9784306051249
『空間としての建築(下)』/ブルーノ・ゼーヴィ著/鹿島出版会/1977/9784306051256

『建築意匠講義』/香山壽夫著/東京大学出版会/
1996/9784130622004

『テキスト建築意匠』/平尾和洋ほか著/学芸出版社/
2006/9784761531461

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

デザイン論Ⅱ

LDR3251N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 後期

月曜2限

DP2: 知識・理解力

60

西田 雅嗣

[科目の教育目標 (Course Description)]

身の回りの場所や空間がどんな風に出て来ているのか、そこに見られる様々な形にはどんな意味があって、どんな歴史がそこに隠れているのか、私たちの生活空間を成り立たせている様々な場所・空間のデザインを観察し、意味と歴史を知り、そうして得た知識を身の回りの生活空間に活かす術を考える。デザイン論Ⅰで扱ったテーマよりも場所性や空間性に重点を置いたテーマを考える。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. デザインの理解を通して、身の回りにある建築を新たな目で見ることでできる発見を得る。
2. 私たちの生活空間を構成している色々なデザインの成り立ちや意味、歴史を学ぶ。
3. 得た発見や学んだ知識を、自分の身の回りの生活空間に活かすことを考える。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

第 1 回 イントロダクション

この講義の目標や課題を説明し、講義の進め方、講義全体の構成、各回の個別内容の概略について説明する。

第 2 回 街路のデザイン -1

西洋の都市の「街路」のデザインを観察する。具体的には、西洋の都市空間構造の成り立ちのいくつかの型を、街路の観点から見て見る。近代が生んだ特殊な街路であるパリの「パッサージュ」にも言及する。

第 3 回 街路のデザイン -2

日本の都市の「街路」のデザインを観察する。具体的には、平安京以来の京都の都市空間のあり方の歴史を、京の都市空間構造と街路に着目して辿り、またその空間の日本的特質を、清水界限などを例に検討して見る。

第 4 回 街路のデザイン -3

西洋と日本の都市における「街路」デザインを比較して考えてみる。「街路」や「ファサード」、あるいは「広場」の構成や役割、あるいはそれらの意味の、西洋と日本における違いを学ぶ。

第 5 回 中庭のデザイン -1

西洋の「中庭」のデザインを考えてみる。古代ローマの住宅建築以来の長い伝統と、特に中世の修道院の回廊空間に着目して、「中庭」の西洋的な空間の意味を学ぶ。

第 6 回 中庭のデザイン -2

日本の「中庭」のデザインを考えてみる。「庭」という日本語の意味の検討の後、町家に見られる坪庭や古代貴族住宅の寝殿造の南庭、あるいは龍安寺などの方丈庭園、茶室の露地などを例に、日本の中庭空間のいろいろなあり方と意味を学ぶ。

第 7 回 中庭のデザイン -3

中庭のデザインの、日本と西洋の場合を比較して考えてみる。西洋と日本に共通する「回廊空間」を取り上げ、結界された「聖なる空間」としての庭空間を考えて見る。西洋中世修道院の回廊や回路が巡る日本の仏教寺院伽藍を検討する。

第 8 回 記憶の保存と建築

トピクスとして、建築を記憶の保存術であると捉えて、日本と西洋における建築を通しての記憶保存の対照的な二つの戦略を考える。文化財継承の伝統的な二つの形を見ることになる。

第 9 回 塔のデザイン -1

西洋建築の「塔」について、デザインを通して考える。古代オリエントのジググラトの建築からバベルの塔の図像表現、そしてフランスの片田舎の中世の教会堂の鐘塔を例に、塔の持つ象徴性や聖書的な意味の表れを考えてみる。

第 10 回 塔のデザイン -2

日本建築の「塔」について、デザインを通して考える。日本語の「塔」は「塔婆」の意味である。法隆寺の五重の塔をはじめとする日本建築における仏塔を例に、日本建築での「塔」のデザインを学ぶ。

第 11 回 塔のデザイン -3

「塔」のデザインにおける日本と西洋を比較して考えてみる。どちらにも共通する「世界軸」を象

徴するという役割を学び、場所に意味をもたらすという根本的な建築行為について考える。

第 12 回 光のデザイン - 1

西洋の建築デザインにおける「光」を考えてみる。特に、光の建築であるゴシックのサント＝シャペルを具体的に観察して、光のデザインのひとつのあり方を学ぶ。

第 13 回 光のデザイン - 2

日本の建築デザインにおける「光」を考えてみる。特に、繊細な光の扱いがデザインの要となる「茶室」空間を具体的に観察して、『陰翳礼讃』にも示される光への日本的感性を学ぶ。

第 14 回 光のデザイン - 3

「光」のデザインにおける日本と西洋を比較して考えてみる。西洋のゴシック大聖堂のような光は日本建築の果たして存在しないのか、『陰翳礼讃』のような光は果たして西洋建築ではあり得ないのか、考えてみたい。

第 15 回 まとめと期末レポート

これまでの講義の内容を振り返り、期末レポートのテーマを各自考えた上で、期末レポートを授業時間中に書く。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法：パワーポイントで画像資料を投影しながら、それを解説する形で講義を進める。
2. 授業参加：授業時間内で、ディスカッションや小レポート作成を行うことがある。小レポートについては、次回以降の授業時間内において、必要に応じてディスカッションのテーマとするとともに、適宜コメントをする。
3. 参考文献：必要に応じて授業中に適宜指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 参考文献に挙げた本、あるいはそれに類した本を自分で探し、関係箇所を探して、授業の前に読んでくる。
2. 各回の授業のテーマについて、いろいろ自分で興味を持って、身の回りの事例を事前に見学してみるのも良い。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末レポート (50%)、小レポート (30%)、授業参加度 (20%) を総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

建築や街の風景をよく見て、場所や景観が醸し出す雰囲気に敏感になって、本を色々読んで、考えを色々巡らして見るのが重要です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当教員がこの授業用に作成した資料を印刷・製本してテキストとして使用する。実費にて学内で販売する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本デザイン論』/伊藤ていじ著/鹿島出版会/1966/9784306050051

『間(ま)・日本建築の意匠』/神代雄一郎著/鹿島出版会/1999/978-4306052352

『空間としての建築(上)』/ブルーノ・ゼーヴィ著/鹿島出版会/1977/9784306051249

『空間としての建築(下)』/ブルーノ・ゼーヴィ著/鹿島出版会/1977/9784306051256

『建築意匠講義』/香山壽夫著/東京大学出版会/1996/9784130622004

『テキスト建築意匠』/平尾和洋ほか著/学芸出版社/2006/9784761531461

『空間体験 世界の都市・建築デザイン』/日本建築学会編/井上書院/1998/9784753017331

『空間演出 世界の都市・建築デザイン』/日本建築学会編/井上書院/2000/9784753017355

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ビジネスの基礎 I

LDR2201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 前期

火曜 1限

DP2 : 知識・理解力

60

新村 佳史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業の目標は、社会人として求められる一般教養、そしてコミュニケーション力を育てよう、というものです。みなさんは「自分が考えていることをきちんと人に伝える」ことができますか？ちょっと苦手、という人はぜひ選択してください。それを楽しく身につけていくために、音楽やファッション、食べものなど身近なことをまず見つけます。そこから話題を深めていきましょう。考えるための知識をまず身につけていきます。次に、自分なりの考えをまとめていく、と言う企画作りに入ります。自分の未来を考える力を育てることを目標にしています。書く、考える、話し合う、就職試験で求められる面接やグループディスカッション対策にもなる講義です。人と話すことで自分を見つめることができるようになります。この授業で、新たな友人を見つけてもらえれば幸いです。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・基礎教養の再確認 世界を広げるための基礎力チェックとその養成、ことに宗教と民族の特性について ・メディアの特質とその個性 新聞、テレビ、映画、通信、広告などの役割 ・社会参加の様々な方法を知ろう ・ビジネスにおける情報の価値を知る ・これから企業や社会はどうなるか ・コミュニケーション力とはなにか

相手を知らないとはまらない ・ 世代論の基礎 自分たち世代の強み、弱みを知ろう ・ 企画とはなにか すべては上手な目標設定から ・ 企画を実際に立ててみよう 上手に自分の考えを伝える手法
 [ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	人の話が聞けない	まず他者の意見を聞く姿勢ができる	自分が興味ないと思っていたものが面白くなる	聞くことで自分の考えを補填、整理できるようになる
知識・理解力	世界や社会に関心がない	自分の好きなものをもっと深く知りたいと思う	知りたい対象がどんどん広がる	1つのことを多面的にみられるようになる
言語力	形容詞でしか意見が言えない	相手のことを考えた表現を工夫する	自分のことを言いきれ「強い言葉」が使えるようになる	書くこと、話すことの楽しさを理解する
思考・解決力	好きだから好き、といった思考停止に陥る	ささいなことにも、「なぜ」と自問できるようになる	深く考えるための知識の重要性を認識する	理想形(理想型)を想像できる思考法をマスターする
共生・協働する力	あいさつができない	話を聞くときにきちんと話す人を見る	話すときに相手を見る余裕を持つ	自分の意見より高次なものを、人と話しながら模索できる
創造・発信力	受け身の行動しかできない	自分が好きなことを理解してほしいと思う	自分が好きなことを客観的に他と比較できるようになる	「人と違う」ことに価値を見出せるようになる

[授業計画]

- 第 1 回 メディアとの付き合い方
メディアについて知ろう 日本のメディアの特質と、広告論、聞く力の重要性
- 第 2 回 今の世界を支えているものは？
世界を知る基礎教養・1 世界のこともっと知ろう 宗教、民族の基礎
- 第 3 回 世界は楽しい
世界を知る基礎教養・2 面白い現代史 アジアと西洋をつなぐもの
- 第 4 回 インタビュアーになってみる
自分を伝える技術を持つ ・ 1 上手な話の聞き方、まとめかた
- 第 5 回 社会人レベルの文章の書き方

- 自分を伝える技術を持つ ・ 2 こう書けば、簡単に伝わる文章が書ける
- 第 6 回 聞いて、話して、まとめてみる
コミュニケーション力とは何か ディスカッションを楽しもう
- 第 7 回 世代を知ろう 今の20代を大人はどう見ているか知ろう
- 第 8 回 さまざまな人の中での自分の客観化 「私」はどこにいる
- 第 9 回 人と自分は違って当然
ターゲット、という考え方 自分と人とは似ているし、違う
- 第 10 回 相手のために何かを考えてみる
企画力をつける ・ 1 目的の立て方
- 第 11 回 企画の作り方
企画力をつける ・ 2 手順の確認と評価の仕方
- 第 12 回 楽しくアイデアをまとめてみる
企画書を作る ・ 1 グループで考える
- 第 13 回 データを見せてみよう
企画書を作る ・ 2 根拠を示すための数字の使い方
- 第 14 回 プレゼンテーションです
企画書を作る ・ 3 課題に沿って企画書を作る、そして発表する
- 第 15 回 20代の自分の企画は？
これからの時代と自分の役割について考える

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

毎回プリントを準備し、さまざまなテーマについて知り、考えるという作業を行ないます。また、企画書の作成はもちろんのこと、その回のテーマについて考えたことを多様なスタイルで「書く」ことで、自分の考え方の確認をすることともに、言葉を用いての情報発信の技術を身につけていきます。書くことがきっと、楽しくなります。プリント、作成物をまとめておくファイルを必ず準備してください。興味を持てる領域が広がり、知識を使いこなして自分の意見を形成でき、発信できる力を身につけてください。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

新聞を読む、ニュースを見るという習慣を身につけて置いてください。

また海外への関心の高い人を歓迎します。講義を通して、みなさんが旅行したくなる場所を見つけてくれれば幸いです。旅は生きるためのフォーム ・ 基礎力を育ててくれます。一人で京都の街を歩く、というのも最高の学習です。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

試験は行ないません。授業中の態度と制作物、小テストで判断します。授業態度・姿勢 30% 授業での課題(作文など) 30% 最終制作物(企画書) 40% 毎回の課題(作文、アイデア出し、ディベート) 授業内にそれぞれ

れの良い点を指摘します。授業態度の評価度合いが高いので、欠席が多いようだと単位の認定は難しくなります。注意してください。また提出物についてはすべて返却します。その際に、個々にあてた評価を添えます。特に、どの点が伸びたかについて詳しく説明します。

【留意事項 (Other Information)】

みなさんの興味によって授業内容は変わります。自分の関心あることを積極的に発言してください。聞くだけ、座っているだけという受け身の姿勢からは、何も生まれませんよ。毎時、必ずみなさんの意見を求めます。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

テキストは特に使用しません。毎回、みなさんの意見を聞きながらプリントを準備します。プリントは皆さんが各自ファイルし、毎時、持参してください。

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

世界地図

好きな雑誌

世界について書かれた好きな本

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

ビジネスの基礎 II

LDR2252N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

火曜3限

DP2 : 知識・理解力

60

ビジネスの基礎I

新村 佳史

【科目の教育目標 (Course Description)】

考える力、そのために必要な知識の組み立て方、話し方、聞き方を総合的に伸ばしていきます。「ビジネスの基礎」の授業をより深めていく(資料を読み込む、より高度な企画書作りに取り組む)授業です。そのため「ビジネスの基礎」受講修了者(過年度でも可)対象者のみの受講となります。読む力、調べる力を身につけ、生涯にわたって学び続けるという基本フォームを形成します。就職試験の対策、就職前のトレーニングとなることも目標とします。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

・コミュニケーション力のさらなる上昇 ・知的好奇心の育成
 ・資料読解力の育成 ・未来の課題の確認
 ・企画力の充実 ・個々の「幸福感」の形成

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	z			

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

【授業計画】

- 第 1 回 新聞に慣れよう
世界を知るための方法を考える まず新聞について、ネットニュースとの違いを知る
- 第 2 回 本を読むとはどういうことか
未来を考えるための方法を考える 読書の楽しさを再確認
- 第 3 回 同じものを読んでも感想は異なるもの
考えたことを話し合ってみる、意見をまとめてみる
- 第 4 回 作文ではなく、論文ばいものを
論文(報告書)を書いてみる(提出物1)
- 第 5 回 高度なディスカッションのために
自分のことを知る・対話を通して自分を確認する
- 第 6 回 他者との違いを意識して
自分カタログ作りに挑戦する・今の自分、過去の自分の確認
- 第 7 回 人に合わせる必要はありません
自分の長所、欠点を再確認し、成長目標を決める
- 第 8 回 自分を生かせる場所はどこですか
今後の目標を作り、まとめてみる(提出物2)
- 第 9 回 企画書作りを思い出しましょう
企画の作り方の再確認
- 第 10 回 違う個性が集まって新しいものを作る
チームで企画を作ることに挑戦する・何が欠けているかを確認、役割を決める
- 第 11 回 資料の探し方・スマホをフル活用
企画作りに必要な資料を分担して集め、企画書を作る
- 第 12 回 プレゼンテーション
企画書の完成と、グループでのプレゼンテーション(提出物3)
- 第 13 回 少しだけ難しそうな本を読む
これからの社会、企業、家庭がどうなるかを考える
- 第 14 回 幸福について考える
働き方と、幸福度の関係について考える
- 第 15 回 自分の成長を確認しよう
各自が自分の目標について改めて考えてみる、書いてみる、発表する(提出物4)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

短時間に資料を読む、まとめる、発表するという授業を基本に、他者とのディスカッション、共同作業を行います。また文章力の育成も重視します。書くこと、話すことの楽しさを感じてもらえるよう、みなさんに応じて工夫していきたいと思っています。期待してくださいね。提出物に関しては簡単な添削を加えてすべて返却します。また、個々の良い点について授業内で指摘します。個々の「伸び」を高く評価します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

とにかく、何にでも興味を持つこと。毎回「今の私の関心ごと」について細かく聞きます。みなさんが新しいことに挑戦することが、毎回の宿題です。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度・授業参加度 (50%)、個々の成長度 (課題の制作物の内容により判定) (50%) 全授業終了後、提出物の返却と同時に個々の評価を添えた文書をお渡しします。

〔留意事項 (Other Information)〕

毎回、何らかの課題が出ます (楽しい課題です)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に用いません。ただし、個々に応じて課題図書を貸与します。新書本を指定図書として購入する可能性もあります。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

随時指示します。新聞に目を通す習慣は作ってください。

〔参考URL(URL for Reference)〕

随時指示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フードコーディネーター論

LDA3650N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 後期

金曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

マナーを含む食文化に関する基本的な知識と、実践のための具体的方法を習得する。また、食器、食空間など食のアメニティの創造要因について知り、フードビジネスに必要な知識を身に付け、食を総合的にコーディネートすることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 食をコーディネートするための基本的知識を学ぶ。

2. 事業として食を提供する具体的方法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フードコーディネーターの知識	食環境をコーディネートするための基礎的な事柄が身に付いていない	食環境をコーディネートするための基礎的な事柄を理解している	レベル2に加えて、食産業のマネジメントに必要な基本的事項を理解している	レベル3に加えて、食の生産から消費に至るフードシステムの流れを理解している
フードコーディネーターの実践力	アメニティやホスピタリティといったフードコーディネーターの基本理念を説明できない	アメニティやホスピタリティといったフードコーディネーターの基本理念を説明できる	フードコーディネーターの基本理念に基づき、食空間のコーディネートやメニュープランニングが自在に設計できる	レベル3に加えて、環境や人に配慮した持続可能な食企画を設計できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 フードコーディネーターの基本理念
- 第 2 回 日本の食事
- 第 3 回 外国の食事
- 第 4 回 日本料理の食卓のコーディネート
- 第 5 回 外国料理の食卓のコーディネート
- 第 6 回 サービスとマナー
- 第 7 回 メニュープランニング
- 第 8 回 料理様式とメニュー開発
- 第 9 回 食空間のレイアウト
- 第 10 回 食空間の設備
- 第 11 回 フードサービスマネジメントの基本
- 第 12 回 フードサービスの起業
- 第 13 回 食企画の実践コーディネート
- 第 14 回 食企画書の作成
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で授業を行う。

授業中に小テストを実施したり、その場でのレポート作成と提出を指示する場合がある。

または授業外レポートを課す。

これらの小テスト、レポートについては採点后返却し、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバスにそって教科書の該当箇所を予習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (20%)、授業内小テストおよび授業内レポート (60%)、授業外レポート (20%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

三訂フードコーディネーター論/ (社) 日本フードスペシャリスト協会編/建帛社/2019/9784767904405/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フードスペシャリスト論

LDR2500NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

60

戸川 律子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

消費者の立場に立って豊かな食生活の重要性について考えることができる。フードスペシャリストとしての役割とその専門性を理解し、具体的な業務についての基礎知識と活用術を修得する。到達目標 1. フードスペシャリストの全体像が理解できる。2. フードスペシャリストとして具体的な業務の事例について理解できる。3. フードスペシャリストとして日本人の食生活の行方にプラスになる行動ができるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フードスペシャリストとして、食品流通と食文化を背景に、安全性・安心性を配慮した上で、どのようにして食品を仕入れ、いかに健康的かつ美味しい食事を演出するかを学ぶ。さらには、食の多方面において活躍できるよう各分野に必要な業務についての基礎知識を学ぶ。前回の講義内容について、必ず復習を行う (レポート課題に取り組む) こと。メディアで取り上げられる食に関するニュース等に関心を持ち、特に気になったものは質問をするなど、課題レポート作成のための準備をすること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 第 1 章 フードスペシャリストとは
フードスペシャリストの役割と必要性、ならびに活躍分野
- 第 2 回 第 2 章 人類と食物
人類の歩みと食品加工・保存技術
- 第 3 回 第 3 章 世界の食
食具と食作法
- 第 4 回 第 3 章 世界の食
世界各地の食事情
- 第 5 回 第 4 章 日本の食
日本の食物史
- 第 6 回 第 4 章 日本の食
食の地域差
- 第 7 回 第 5 章 現代日本の食生活
食生活 (戦後から現代) とその変化
- 第 8 回 第 5 章 現代日本の食生活
食料の供給と自給率、ならびに環境問題
- 第 9 回 第 6 章 食品産業の役割
日本のフードシステムと食品産業
- 第 10 回 第 6 章 食品産業の役割
食品卸売業・食品小売業・外食産業
- 第 11 回 第 7 章 食品の品質規格と表示
食品の品質規格とそれに関わる法律
- 第 12 回 第 7 章 食品の品質規格と表示
食品表示法による表示と規格
- 第 13 回 第 7 章 食品の品質規格と表示
食品表示制度、ならびにその他法律による表示
- 第 14 回 第 8 章 食情報と消費者保護
食情報の濫用と管理、ならびに食の安全と消費者保護制度
- 第 15 回 総復習
課題レポートの発表とディスカッション
目標到達試験の実施

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①授業方法: 講義形式

②学習方法: 適宜、授業内小テストやレポート課題を実施する。

授業内小テストは実施後に理解度の確認を行い、課題レポ

ートは総復習として授業内で各自発表後、ディスカッションを行い理解度を深める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバスにそって、教科書の該当箇所を予習する。その内容に関係する食に関するニュース等に関心を持ち、特に気になったものはレポートに書き留めるなどの予習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(20%)、小テスト(30%)、筆記試験(50%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進捗状況に応じて授業予定が変更になる場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『四訂フードスペシャリスト論第6版』 / (公社) 日本フードスペシャリスト協会編/建帛社/2020.01.15/978-4-7679-0660-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

マーケティング論

LDR3203N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 前期

火曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

新村 佳史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「映画が好き、食べることが好き、音楽が好き、彼氏も好き」・・・好き、という言葉は何にでも使えますよね?でも、「好き」の中身は微妙に異なるはず。なんとかその違いを、うまく言い表せないかな、と考えたときに、役に立つのが「数字」です。感覚的なことを、上手に数値化する、というのが現在の「マーケティング」です。数字で語ることができる、数字を読むことができる基礎を学ぶ授業です。また、数字を使うための上手な調査—アンケートの作り方については、時間をかけてじっくり学べるように考えています。正しい情報、データを見抜き、賢い消費者になれる力を育てます。数学が苦手でも、数字の面白さがわかるように進めていきます。これからの時代を上手に生きていくために必要な力を身につけてください。特に、大事なお金の使い方については丁寧に指導していきます。広告にだまされない知恵を身につけましょう。良い生活者となるための授業です。数学が苦手な人でも大丈夫ですよ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・データの読み方、集め方・企業の商品開発の進め方・集めたデータから何を取り出すか・イメージの数値化・好き、嫌いの感覚を分析する手法・自分がビジネスをするとしたら・・・ビジネスチャンスをデータから発見する・調査票を作る・・・データは取り方で変化する・調査結果を加工、報告する・これからの時代のお金の運用・・・大事なお金を減らさないために

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	数字を見るのもいや	数字が示す「意味」に関心を持つ	自分の数値化を面白くできる	自分の目標を数字を用いて具体的に構築できる
知識・理解力	データに関心がない	基本的なグラフ(正規分布)の意味を理解する	データの中で自分の位置が見つけられるようになる	組織、そして社会での一般モデルの意味を理解できる
言語力	好き、の段階的区別ができない	対立概念を言葉で表現できる	アンケートの「流れ」、作り方を意識で器用になる	結論を意識した質問票の作成を行える
思考・解決力	ふだんの購買行動に疑問を持たない	価格以外の価値についてまず考えるようになる	購買行動のための情報収集に積極的になる	自分の意見で情報の取捨ができる
共生・協働する力	他者の興味に関心を持たない	他者が「好き」な理由を肯定的に受け入れられる	新しいこと、未知のものへの関心を持てるようになる	社会の中の自分の位置を「好み」の自己分析を遠い手確立する
創造・発信力	自分に自信を持ってない	他者に認めてもらう喜びを体験する	他者に自分の好みを伝えるためにデータを活用できるようになる	今の時代の「次」について積極的に考える姿勢を持つ

〔授業計画〕

- 第 1 回 なんで私はこれが好き?
自分たちの「好み」とその形成をふりかえって好きになるって何?
- 第 2 回 みんなに買ってもらうために
企業が「好み」をつかまえる技術・・・マーケティングの考え方と流行の誕生
- 第 3 回 知るから、買うまでの段階
ニーズから行動へ 購買行動を考える・・・あなたの買い方はみんなと同じですか

- 第 4 回 流行は誰が作る
リーダーはどこにいる イノベーターという考え方
- 第 5 回 細分化されるターゲット
テレビ番組やコマーシャルのターゲットは誰でしょう・・・万人向けから、個性的なターゲットへ
マスメディアからSNSへ
- 第 6 回 アンケートで作られる「今の時代」
質問紙作成のテクニック 調査は『聞き方』で決まる
- 第 7 回 聞きたいことを聞いてみる
グループで調査計画、質問紙を作成してみよう
- 第 8 回 聞いた結果をどう見せる？
調査結果の上手な報告の仕方について
- 第 9 回 上手な発表の仕方
グループごとに調査結果を報告してみよう
- 第 10 回 あなたは買い物上手ですか？
消費者集団とはなにか 自分ははたして「普通」だろうか
- 第 11 回 これからの時代に求められるセンスとは
差別化戦略とその具体的な方法論
- 第 12 回 流行に負けないために
マーケティングはどんな業種で求められているのか、そしてみなさんをどう巻き込もうとしているのか
- 第 13 回 お金はどう使うのが良いのだろうか
これからの経済と、お金の守り方について
- 第 14 回 持ち込み可
試験（1時間）これからのマーケティングの課題
- 第 15 回 添削して返却します
試験解説、総論、まとめ、および今からの資産運用について

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

基本的には自分の好みをなんとか数字にして、データを個々に蓄積していきます。また簡単なアンケート票の作成、発表をグループ単位で実施。実践的な演習を行ないます。各自の趣味、関心について「自分がなぜそれを好きになったのか」を探りながら、現代社会における企業の戦略についても各々が「気づく」ことを意識して授業を進めます。それにより、社会や企業活動に関心が深まることを期待しています。グループでの共同作業が多くなりますので、積極的に授業にかかわってください。発表についてはその際に問題点の指摘など細かくフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

自分が好きなこと（音楽、ファッション等なんでもいいです）の理由をいつも考えておいてください。あなたはなぜ、それが好きなんですか？ペットと彼氏とスイーツの「好き」に順位をつけることはできますか？とにかく考えることを重視します。その良さを上手に他人に伝えましょう。きっと、友達が増えますよ。毎回、みなさんに質問を投げかけていきます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業に対する積極的な参加姿勢（30%）。授業内での課題への評価（30%）。授業期間内での試験（40%）。授業中の積極的な発言、課題への真剣な取り組みを高く評価します。

試験については最後の授業で詳しく解説を行うほか、添削を加えて各自に返却します。

〔留意事項（Other Information）〕

グループ作業が多い授業です、積極的に人と話すことが求められます。グループの仲間に迷惑をかけないように、きちんと出席してくださいね。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特定のテキストは使用しません。毎回、プリントを準備します。

プリントはみなさんが各自保存し、毎時、持参してください。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

衣生活概論

SLB1200NJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 前期

木曜3限

DP2: 知識・理解力

60

必修

牛田 好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

少子高齢社会が急速に進むにつれて、保護を必要とする乳幼児・高齢者・身体障がい者など社会的障がいを持つ人々だけでなく、すべての人が普通に生活できるような社会を構築できるよう支援しなければならない。そのためにはさまざまな暮らしをしている人々の衣食住に関する実践的・専門的知識が必要である。なかでも衣生活については、年齢に応じて異なる生理機能や障がいの種類などに最も影響を受けるとされる。そこで福祉の視点から、高齢者、障がい者、健常者すべての人々にもっとも適した衣服について考え、ファッションイメージを描き、それを実践する能力を養うことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 快適な衣服環境
2. 衣生活とユニバーサルデザイン

3. 衣生活とパーソナルデザイン
4. ユニバーサルファッションの実践

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	衣生活やファッションへの興味・関心がみられない。	衣生活やファッションの現状について理解ができる。	衣生活やファッションについての知識や情報を得ることに積極的である。	衣生活やファッションについて得られた知識や情報を自己や他者の生活に活かす提案ができる。

〔授業計画〕

- 第1回 衣生活と福祉
第2回 乳幼児の成長と衣生活
第3回 高齢者の生活と衣服
第4回 障がい者に適した衣服
第5回 ユニバーサルファッション（基礎）
第6回 ユニバーサルファッション（応用）
第7回 ユニフォーム（スクール）
第8回 ユニフォーム（ビジネス）
第9回 ライフサイクルと衣生活
第10回 ユニバーサルファッションの実践・評価
第11回 グループごとの発表（ユニバーサルファッション）
第12回 グループごとの発表（ユニフォーム（スクール））
第13回 グループごとの発表（ユニフォーム（ビジネス））
第14回 課題
第15回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

主に講義形式で授業を行う。授業はビデオやスライドを用いてできるだけ、具体的に快適な衣生活の実践方法が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

課題については、第15回授業において、返却および解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

日常生活の中で、被服のはたらきを意識すること、また、身体との関係を考え、より満足感を高めるための工夫をすること。あらゆる年代、障がいの方の声に耳をすませること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30%）、課題（50%）、発表（20%）を総合して判断する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

衣生活情報論

LDA3250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 後期

月曜4限

DP2: 知識・理解力

60

牛田 好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

衣服は人間の身体の一部としての機能を持つものであり、衣服を着用することは人間のみには与えられた生活行為である。そして、人間はこの行為を自己表現の手段として用いる。すなわち、人間は自分で衣服を選択し、着装して外観的な面だけではなく、内面的な人間性までも表現する。現在はほとんど既製服が着用されているので、衣服の選択は購買行動である。衣服は素材・色柄・形の三要素によって構成され、それらの表現性を利用して商品はディスプレイされる。また情報技術の進化に伴い、衣服はアパレルCADというコンピュータにより製作され、着装感や着装状態はCGによって表現されるようになった。このように衣生活には情報という要素が深く関わるようになってきている。そこで、服飾環境を形成する要素と衣生活に関わる情報技術について、理解を深め、衣生活をよりよく整え営むことができる能力を養うことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 衣服と人間
2. 衣服と社会
3. 衣生活と文化
4. 衣生活と情報

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	ファッションに興味・関心がみられない。	ファッションやファッションコーディネートに興味・関心があり、知識や情報の収集に積極的である。	ファッションに関する知識や情報を自ら収集・整理し、日常生活に活用できる。	ファッションに関する知識や情報から、現代の衣生活の問題点を見つけ、解決策を提案できる。

創造・発信力	ファッションにおける創造・発信に興味・関心がみられない。	ファッションにおける創造・発信に興味・関心がある。	ファッションにおける創造・発信に積極的である。	ファッションにおける創造・発信を行い、今後も継続する可能性が大きい。
--------	------------------------------	---------------------------	-------------------------	------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
衣生活と情報について
- 第 2 回 ファッションビジネスについて
ファッションビジネスの基礎
- 第 3 回 ファッション業界の仕事
ファッション業界の職種とその内容
- 第 4 回 ファッション雑誌の創られ方
DVDを視聴して、自分の考えをまとめる
- 第 5 回 ファッション雑誌を創る
情報を収集し、読みに届く内容を考える
- 第 6 回 ファッションマーチャンドライジング①
ファッションマーチャンドライジング演習①－ブランド企画－
- 第 7 回 ファッションマーチャンドライジング②
ファッションマーチャンドライジング演習②－ショップ企画－
- 第 8 回 ファッションマーケティング
マーケティングとは何か
- 第 9 回 ファッションコーディネイトとは
場面に応じたファッションコーディネイト
- 第 10 回 ファッションコーディネイト①
ファッションコーディネイト演習①－小物・アクセサリー－
- 第 11 回 ファッションコーディネイト②
ファッションコーディネイト演習②－色の使い方－
- 第 12 回 ファッションコーディネイト③
ファッションコーディネイト演習③－全体のバランス－
- 第 13 回 グループワーク
ネット販売について考える。
- 第 14 回 課題、授業内試験
授業内試験を行い、課題作品を提出する。
- 第 15 回 まとめ
試験返却、課題作品合評を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で授業を進める。授業はビデオやスライドを用いてできるだけ、具体的なデザインの要素や情報環境が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

第15回授業で、試験の返却および解説、課題の合評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新聞、雑誌などを読み、社会情勢に敏感になっておくこと。ファッションとは何かを意識し、市場に出回っているものを、機会あるごとに多く見ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(30%) 課題 (50%) 授業への意欲・積極性(20%)を総合して評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家族関係

LDA2406N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 前期

火曜2限

DP4 : 思考・解決力

60

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

2011年3月に起こった東日本大震災の経験は、私たちの生活が家族や地域の人々に支えられて成り立っていることを再確認させてくれた。その一方で、少子化や未婚化が進み、ひとり親世帯が増加するなかで、現代の家族が、これまでのような家族機能を果たせなくなっているのも事実である。さらに、家庭内暴力 (DV) や親族間での殺人等連日メディアをにぎわす家族をめぐる問題は、家族とは一体なにかという問いを私たちに突きつける。

この授業では、現代の家族が抱えるさまざまな問題を社会と関連させながら考えていく。夫婦関係や親子関係だけでなく、きょうだい関係や祖父母と孫関係の視点も含めて客観的・批判的に検討することを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 家族が抱える問題を社会とのかかわりから考えることができるようになる。
- 2) 家族や家族関係が普遍的なものではなく、時代や社会状況によって変化するものであることが理解できるようになる。
- 3) 個人的な家族経験を振り返りつつも、価値観の多様化が進む現代社会における家族や家族関係を、批判的・客観的に議論できるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	考えることをしない。考えることを途中で止める。	現代の家族に関するさまざまな現象を、自身の家族経験と比較しながら、理解しようとする。	現代の家族に関するさまざまな現象を、社会の変化との関係から理解する。	レベル3に加えて、批判的・客観的な議論を行う。
共生・協働する力	グループワークのときに、作業をせず人任せにする。または人の意見を受け入れられない。	グループワークのときに、メンバーと役割を決めて、課題に取り組む。	グループワークで、各自が作った成果物を持ち寄り、より良いものになるように全員で協力して課題を完成させる。	グループワークで各自の役割を全うするだけでなく、メンバーの成果物を評価し、より良いものをつくり上げることができる。
コミュニケーションする力	人から尋ねられても答えられないことがあっても誰にも尋ねない。	ほかの受講生と課題について相談できる。	より高いレベルの回答を目指して、受講生同士で課題を相談する。	より高いレベルの回答を目指して、相談した内容を互いに評価する。
創造・発信する力	課題を提出しない。提出されても、誤字や脱字が多かったり、漢字で書くべき語句をひらがなで書いている箇所が5ヶ所以上ある。	多少の誤字はあるものの、見られる／評価されることを意識して、課題に取り組む努力をする。	成果物が、見られる／評価されることを意識したものになっている。	見られる／評価されることを意識した成果物を作成するだけでなく、簡潔かつ適切な表現が使われている。
思考・解決する力	授業中の課題の設問に対して、適切な回答がなされていない。	設問に対する回答が適切になされている。	資料からの裏づけをもとに設問に答えている。	レベル3に加えて、批判的・論理的な意見が言える。

主体的に行動する力	常に教員の指示待ちである。あるいは、教員やほかの受講生が働きかけても、無視する。	教員の指示を聞きながら、自分でもやってみる。	教員の指示以外にも、関連情報を自主的に文献やインターネットから集めて、学習できる。	学修目標を理解した上で、文献やインターネットから情報を集めるだけでなく、関連する人に話を聞き、学びを深める。
-----------	------------------------------------------	------------------------	-------------------------------------------	--------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション：「個（孤）族」化する現代の家族関係
 - 第 2 回 歴史のなかの家族
 - 第 3 回 戦後の家族
 - 第 4 回 配偶者選択：結婚する？しない？
 - 第 5 回 さまざまなパートナー関係：夫婦別姓を考える（グループワーク）
 - 第 6 回 子どもを持つ選択・持たない選択
 - 第 7 回 子育ての主体は誰？
 - 第 8 回 高齢期と家族
 - 第 9 回 介護が「問題」となるとき
 - 第 10 回 「家族」という言葉が持つ重圧（プレッシャー）
 - 第 11 回 子どもの貧困を考える
 - 第 12 回 ひとり親、ステップファミリーが抱える問題
 - 第 13 回 親密な関係に潜む暴力
 - 第 14 回 確認テストおよび新しい「家族」の可能性
 - 第 15 回 確認テストのフィードバックと全体のまとめ
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

＜教育・学習の方法＞

講義が中心であるが、与えられた課題について受講生自身の考えを出してもらい機会を多く設ける。そのため、受講生には積極的な授業の参加を求める。出席しているにもかかわらず、指名しても発言がない場合は欠席とみなす。

＜課題（レポート）のフィードバック方法＞

課題（レポート）は授業中に受講生自ら発言する機会を設ける。または次回の授業で返却後、いくつかの回答については紹介し、受講生の間で共有する（場合によっては、manabaで公開する）。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

＜復習＞

授業で投影したスライドは、授業終了後の一両日中にmanabaへアップする。授業中に聞き逃したことや分からなかった所は復習をして、必要に応じて担当教員に尋ねること。

＜予習＞

- ・授業中に次回までの課題を出す。必ず完成させて授業に臨むこと。

- ・次回の受講生用レジュメは、授業の3日前までにmanabaへ

アップする。内容を確認し、分からないところは事前に調べたり、関連しそうな新聞記事やインターネットの情報に目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

確認テスト 50%、授業中の課題 40%、受講態度10%

〔留意事項 (Other Information)〕

・受講者数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合があります。

・グループディスカッションのグループは、全受講生を対象としたシャッフルで行う。

・「平常点」には出席回数は含まない。

・欠席した回の「授業中の課題」の評価は「0点」となるので注意すること。

・レジュメは授業の3日前までに「manaba」に公開する。必要あれば、プリントするなど各自で準備をすること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『21世紀家族へ[第3版]』/落合恵美子/ゆうひかく選書/2004/9784641280915

『家族のデザイン』/小長谷有紀(編)/東信堂/2008/9784887138070

『家族を超える社会学』/牟田和恵(編)/新曜社/2009/9784788511835

『〈オトコの育児〉の社会学』/工藤保則ほか(編著)/ミネルヴァ書房/2016/9784623076840

そのほか、授業中に適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家族社会学

LDA3450N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 後期

火曜3限

DP4: 思考・解決力

60

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、「家族を通して社会を考えること」である。客観的・批判的な見方を培うために、時代や世代、文化等による比較の視点を取り入れて授業を進める。扱うテーマは、ケアを中心に、家族規範(恋愛観・家族観・子ども観)や性の多様性、労働問題である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 授業で扱う家族や社会の現象は単独で発生しているのではなく、社会システムや規範の変化のなかで生じていることを理解する。

2. 時代や世代、文化等の比較を通して、日本社会が抱える問題の特異性を理解する。

3. 1と2を身につけたうえで、日本社会の持続可能性を議論する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	新しい知識や考え方がわからない。理解しようとしなない。	時代差や世代差、文化差を理解できる。	現代の家族や社会に関するさまざまな現象の特異性を、時代や世代、文化の比較から理解できる。	レベル3に加えて、批判的・客観的な議論ができる。
言語力	提出された課題に、誤字や脱字が多い。あるいは漢字で書くべき語句をひらがなで書いている箇所がある。	多少の誤字はあるものの、主語と述語がクリアで、設問に対して適切に回答している。	適切な表現を使いながら、簡潔に回答している。	レベル3に加えて、批判的・論理的に回答している..
思考・解決力	主観的な考え方しかない。新しい知識や考え方を受け入れようとしなない。	新しい知識や考え方を受け入れつつ、自分の考えを持つことができる。	レベル2に加えて、ほかの受講生の意見も取り入れながら、自分の考えを組み立てることができる。	レベル3に加えて、現在、多くの問題を抱える日本社会が、どうしたら持続可能な社会になるかという課題に取り組むことができる。
共生・協働する力	グループワークのときに、作業をせず人任せにする。または人の意見を受け入れない。	グループワークのときに、メンバーと役割を決めて、課題に取り組む。	グループワークで、各自が作った成果物を持ち寄り、より良いものになるように全員で協力して課題を完成させる。	グループワークで各自の役割を全うするだけでなく、メンバーの成果物を評価し、より良いものをつくり上げることができる。

創造・発信力	指名されても発言しない。課題を提出しない。	指名されたら、自分の意見を言う。課題を提出する	自発的に発言する。あるいは提出物が「見られる」「評価される」ことを意識して作成する。	レベル3に加えて、発言も提出物も、主観だけでなく資料からの裏づけをもとに行っている。
--------	-----------------------	-------------------------	--------------------------------------------	--------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 近代社会の恋愛観・結婚観
- 第 3 回 見える身体：「買う」性・「買われる」性
- 第 4 回 子どもを持つ「選択」①：法制度と「家族」
- 第 5 回 子どもを持つ「選択」②：生殖医療の課題と可能性
- 第 6 回 LGBT+と社会
- 第 7 回 ケアの社会学①：問題提起
- 第 8 回 ケアの社会学②：デンマークのケア事情
- 第 9 回 ケアの社会学③：グループ報告に向けた準備・ディスカッション
- 第 10 回 ケアの社会学④：グループ報告
- 第 11 回 ケアの社会学⑤：福祉レジーム論からみるケアの主体
- 第 12 回 ケアの社会学⑥：国境を越えるケア労働者
- 第 13 回 「ジェネレーションギャップ」と社会
- 第 14 回 「利便性」の追求と労働問題
- 第 15 回 授業のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する (期末レポート)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

〔教育・学習の方法〕

- ・ 教員による講義が中心であるが、頻繁に受講生に意見を求める。
- ・ 「ケアの社会学」では、小グループごとに担当の国 (地域) を決め、その国 (地域) のケア事情について調べて報告をしてもらう。

〔課題 (レポート) のフィードバック方法〕

- ・ 課題のフィードバックは、原則授業内で行う。manabaも活用し、受講生全員で共有できるようにする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業中に次回までの課題を指示する。必ず準備して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末レポート 50%、授業中の課題 35%、受講態度 15%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ 受講生の人数や関心によって、授業予定が変更になる場合がある。事前に授業内で連絡するので、しっかり聞いておくこと。

・ かなりの量の文献・資料を読んでもらう。授業までに必ず理解して、授業に臨むこと。

- ・ 作業やディスカッションでは積極的に参加すること。
- ・ 『家族関係』を受講していない者で今後も受講する予定がない者は、必ず、事前に落合恵美子 (著) 『21世紀家族へ』を読み、「近代家族」や「近代社会」について理解しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

21世紀家族へ-家族の戦後体制の見かた・超えかた [第4版]/落合恵美子 (著) /有斐閣選書/2019年/978-4641281462

※その他の文献は授業内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家庭科教育法Ⅰ (生活の自立と衣食住)

LDA2407N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 前期

水曜1限

DP4: 思考・解決力

60

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

①学習指導要領における中学校家庭分野、高等学校家庭科の目標及び主な内容 (特に生活の自立や衣食住、消費・環境) 並びに全体の構造を理解している。

②家庭分野や家庭科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

③家庭分野や家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

④基礎的知識や基礎技能を習得するとともに、「教える」と「教えられる」の違いがわかる。

⑤地域連携活動を通じてサービスラーニングを行う。

テーマ : 中学校家庭分野、高等学校家庭科の生活の自立や衣食住、消費・環境の内容について「学ぶ側」と「教える側」の違いを理解しよう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 中学校、高等学校における指導内容を理解する。
- ・ 基礎的知識、技術の習得と理解に努める。
- ・ 自主的に学習を進め、知識の習得に努める。
- ・ 京都市場の見学に参加し、商品の流通経路について関心を持つ。
- ・ 15回出席する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

知識・理解力	学習指導要領を読んでいない	学習指導要領の内容を理解しようとしている	学習指導要領の内容及びその内容に伴う衣食住・消費と環境について基礎的理解をしている	学習指導要領の内容及びその内容に伴う衣食住・消費と環境について理解し、知識が十分にある
言語力	発表や発言ができないし、記述もできない	教科の内容を適切な言語を使用し伝えることができる	教科の内容を様々な角度から記述でき、言語を駆使して表現して、他者に伝えられる	生徒の理解を深める言葉、記述方法、話し方、表現力を身につけている
思考・解決力	他者に教えるということ、教師となることについて考えない	教える立場と教えられる立場の違いを考えることができる	生徒の立場にたって、支援の方法を考え、解決しようとしている	教科の内容についてわかりやすい教え方を考え・実践へとつなげる解決能力がある
共生・協働する力	他者と一緒に活動できない	実験や演習を他者と一緒に出来る	生徒の立場から共生や協働する状況がわかり、支援できる	適切な教育方法のアプローチを自ら考え、生徒を共生・協働させるよう導くことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の進め方と評価についての説明、学習指導要領の解説1（改訂の経緯、目標）
- 第 2 回 学習指導要領の解説2（内容、指導上の留意点、小・中・高との関連）
京都第一・第二市場の見学
- 第 3 回 繊維・糸についての教授法の説明と演習とその教授法
京都第一・第二市場の見学
- 第 4 回 織・布についての教授法の講義と演習とその教授法
- 第 5 回 界面活性剤の働きと、吸水性、吸湿性についての教授法の説明と実験と教授法
- 第 6 回 和装、洋装の原型の製図とその教授法
- 第 7 回 基礎縫いの実技および和装の着用と和装キットの製作とその教授法
- 第 8 回 食品添加物の検出、だしのうま味を対比する実験とその教授法
- 第 9 回 栄養素、食品の組み合わせ、食事バランスガイドの解説と料理カードを使った演習及びその教授法
- 第 10 回

- 食品の成分（小麦粉のグルテン）の抽出、砂糖の温度変化についての解説と実験及びその教授法
- 第 11 回 住生活の自立の内容の解説と平面図とその記号を理解する演習とその教授法
- 第 12 回 学習ソフトを用いた教授法とソフトの使用法の理解（栄養価・ファッションデザイン）
- 第 13 回 消費・環境の内容と衣食住との関連及び教授法
地域連携(スクールプロジェクト) 食育活動の準備①
- 第 14 回 課題発表1（食生活の報告、プレゼンテーション）
地域連携(スクールプロジェクト) 食育活動の準備②
- 第 15 回 課題発表2（衣生活・住生活の報告、プレゼンテーション）、授業の総括
地域連携(スクールプロジェクト) 食育活動の準備③

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式、討論形式、実習、演習、実験、ロールプレイ、ビデオ視聴、発表などを取り入れながら授業を進める。見学、特別講師による授業を取り入れることもある。

提出されたレポートにはコメントをつけて返却する。また、発表に対しては、受講者との意見交換や教員からコメントを行い、学びを深める。

家庭科の内容（衣食住）にかかわる専門科目を担当する教員に助言を自ら求め、教材研究を深めるとよい。

現在受講する教育法以外の科目の授業形態（指導方法、学習環境、学習者の様子、教師から生徒へのアプローチの仕方）を観察し、整理しておくことよい。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・テキストをよく読むこと。
- ・衣・食・住と関連する専門書を読んで、知識の習得に努めること。
- ・レポートは、教える立場に立って、学習者が理解しやすいようにするにはどのように工夫すればよいかを考えながら作成するとよい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- 評価基準・・・学習指導要領を理解できたか（定期試験）
- 家庭科で取り扱う内容を理解できたか（定期試験）
- 家庭科に必要な基本的技能を習得できたか（態度・発表）
- 家庭分野や家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解したか（態度・レポート）
- 「教える」と「教えられる」の違いを客観的に理解できたか（レポート）
- 評価方法・・・試験（50%）・・・目標①②③④に対応。

レポート(30%)・・目標③④に対応。
 制作物(10%)・・目標①②③④。
 態度・発表(10%)・・目標①②③に対応。
 原則として遅刻・欠席は認めない
 10回以上の出席がなければ試験を受けるこ

とができない

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・原則として2年次前期に履修すること。
- ・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。
- ・上記に示したテキスト以外に、「家庭科教育法」のテキストおよび、中学校家庭・高等学校家庭の教科書が必要(授業の中で説明する)。
- ・受講生の理解度によって内容を変更することがある。
- ・原則として遅刻・欠席は認めない
- ・実習費用として実費(500円~1000円)が必要。
- ・サービ斯拉ーニングとして地域連携の食育活動への参加をしなければならない

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『高等学校学習指導要領解説家庭編』/文部科学省////学内販売予定

『中学校学習指導要領解説―技術・家庭編―』/文部科学省////学内販売予定

『小学校家庭科概論―生活の学びを深めるために』/加地芳子・大塚真理子/ミネルヴァ書房/2011//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校技術・家庭】』//文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター//教育出版//2011

『文部科学省検定済中学校技術・家庭教科書「家庭分野」』//東京書籍//

『文部科学省検定済高等学校家庭基礎』//東京書籍//

『中学校学習指導要領』//文部科学省//

『高等学校学習指導要領』//文部科学省//

『気になる子ども』と共に学ぶ家庭科//伊藤圭子//開隆堂//2017

〔参考URL(URL for Reference)〕

消費者庁:消費者教育のための参考資料 https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/teaching_material/

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家庭科教育法Ⅱ (家族・家庭生活と福祉)

LDA2350N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

水曜1限

DP3: 言語力

60

「家庭科教育法I (生活の自立と衣食住)」履修者であること

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- ①学習指導要領における中学校家庭分野、高等学校家庭科の目標及び主な内容(特に家族・家庭生活、福祉)並びに全体構造を理解している。
- ②家庭分野や家庭科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
- ③家庭分野や家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
- ④ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動について自ら実践して教え方を理解する。
- ⑤基礎的知識や基礎技能、教授方法を習得するとともに、「教える」と「教えられる」の違いを理解して、適切な言葉や表現を用いて他者に接することができる。
- ⑥サービ斯拉ーニングによって習得した知識や技能を地域に還元する

テーマ:

中学校家庭分野、高等学校家庭科の家族・家庭生活・福祉の内容について体験的に学び、教授法を理解しよう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・中学校、高等学校における指導内容を理解する。
- ・基礎的知識、技術の習得と理解に努める。
- ・自主的に学習を進め、知識の習得に努める。
- ・15回出席すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	家族や家庭生活の内容について取り組む態度が見られない	家族や家庭生活に関する学習指導要領の内容がわかる	学習指導の内容の理解に加えて他者に説明ができる	教えるべき内容を深め、知識の充実を自ら目指している
言語力	他者に自分の考えを伝えられない。発表をしない。	生徒に対する声かけの方法について考えられる	同じ内容を、表現を変えて伝える(教える)ことができる	他者とのコミュニケーションを積極的にとって言語力を磨くとともに、適切な発表もできる

共生・協働する力	グループでの活動ができない	スクールプロジェクトに取り組もうとしている	スクールプロジェクトの方法を他者と共に考え、計画できる	スクールプロジェクトを実践・評価し、改善できる
----------	---------------	-----------------------	-----------------------------	-------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 本講義の進め方、評価の仕方の説明、学習指導要領（目標、内容、指導上の留意点）の解説
地域連携(スクールプロジェクト) 食育活動の準備①
- 第 2 回 家族と家庭生活の歴史的変化、現代の家族の特徴の講義とその教授法
地域連携(スクールプロジェクト) 食育活動の準備②
- 第 3 回 家庭・家族の機能についての講義と教授法（視聴教材の利用）
地域連携(スクールプロジェクト) 食育活動の準備③
- 第 4 回 自立に向けた人の一生と制度を考えさせる教授法（財形ゲームの利用法）
地域連携(スクールプロジェクト) 食育活動の準備④
- 第 5 回 自立に向けた人生を考えさせる教授法（人生すごろく作成法）
SDGsの理解と授業展開法①
- 第 6 回 スクールプロジェクトの進め方と実践方法
SDGsの理解と授業展開法②
- 第 7 回 乳児の発達と保育を理解させる教授法（教材ソフトの活用）
SDGsの理解と授業展開法③
- 第 8 回 保育実習のための準備と心得の教授法（事前事後指導の方法）
SDGsの理解と授業展開法④
- 第 9 回 高齢者福祉施設の種類と内容を理解するための教授法（見学実習の方法、特別講師を招く教授法、視聴覚教材の利用法）
- 第 10 回 高齢者理解の教授法（高齢者疑似体験、ブレインド・ウォーク）
- 第 11 回 高齢者の介助と基礎介護の教授法（排泄・着脱・清拭、食事介助体験の方法と準備、設備）
- 第 12 回 消費者教育についての教授法（ロールプレイングの方法）
- 第 13 回 消費者教育についての教授法（NIEの方法、国民生活センター等の活用方法）
- 第 14 回 課題発表1（家族に関わるホームプロジェクト）プレゼンテーションの技法
- 第 15 回 課題発表2（衣・食・住に関わるホームプロジェクト）グループワークと報告の手法 授業の総括

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義形式、討論形式、実習、演習、実験、ロールプレイ、ビデオ視聴、発表などを取り入れながら授業を進める。
- ・現場や相手先の都合により授業の順番を変えたり、組み合わせで行う場合もある。
- ・見学、特別講師による授業を取り入れることもある。
- ・サービスマーケティングに参加して、得られた知識や技能を発揮する。
- ・討論、発表の際には、教員や受講者として意見交換をして、学びを深められるようにする。
- ・SDGsや消費・環境について日頃から記事や話題を集めておくことよい。
- ・提出レポートはコメントをつけて返却するので、それをもとに振り返りをするように。
- ・家庭科の内容（家族・保育・経済経営・福祉）にかかわる専門科目を担当する教員に 自ら助言を求め、教材研究を深めていくことよい。
- ・現在受講する教育法以外の科目の授業形態（指導方法、学習環境、学習者の様子、教師から生徒へのアプローチの仕方）を観察し、整理しておくことよい。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・レポート作成は、教える立場に立って、学習者にどのような方法を用いて教えると理解しやすいかを考えて作成するとよい。
- ・日頃から子供や高齢者と接する機会を持つこと。
- ・家族に関する法律や保険制度などについて日頃から興味を持ち、知識を高めるよう努力すること。
- ・ホームプロジェクトを行うために、日常生活上の問題点や課題を見つけておくことよい。
- ・専門書で、十分な知識の習得を行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価基準・学習指導要領を理解できたか（試験）

家庭科に必要な内容を理解できたか（試験）

家庭科に必要な基本的技能を習得できたか（態度・発表）

プレゼンテーションの方法を工夫し、積極的に取り組めたか（態度・発表）

評価方法・・・試験（50％）・・・目標の①②③④⑤に対応

レポート(20％)・・・目標の②③④に対応

態度・発表（30％）・・・目標の③④に対応

原則として遅刻・欠席は認めない。10回以上出席しなければ試験を受けることができない

〔留意事項（Other Information）〕

- ・原則として家庭科教育法Iを履修したものを対象とし、2年次後期で履修のこと。
- ・受講生の理解度に合わせて内容を変更することがある。
- ・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。

- ・著しく態度が悪い場合は退室させることもある。
- ・原則として遅刻・欠席は認めない。
- ・サービスマーケティングの日程により、授業計画を変更することがある

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『中学校学習指導要領解説－技術・家庭科編－』/文部科学省////学内販売予定

『高等学校学習指導要領解説家庭編』/文部科学省////学内販売予定

『小学校家庭科概論 生活の学びを深めるために』/加地芳子・大塚眞理子/ミネルヴァ書房/2011/9.784623059942E12/学内販売予定

////学内販売予定

家庭科教育法Ⅰで購入したものと同じ

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中学校学習指導要領』//文部科学省//

『高等学校学習指導要領』//文部科学省//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家庭科教育法Ⅲ (指導法と教材作成)

LDA3601N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6：創造・発信力

60

「家庭科教育法Ⅱ」履修者であること

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

・家庭分野及び家庭科の学習内容について指導上の留意点を理解している。

・家庭分野、及び家庭科の学習評価の考え方を理解している。

・発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

・中学生や高校生の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

・家庭分野及び家庭科の学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

・模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

・中学校家庭分野や高等学校家庭科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

テーマ：教材作成や学習指導の計画を立て、教授法を学ぼう

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・中学校、高等学校における指導方法を理解する。
- ・指導案の作成、評価の仕方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教師になろうという気がない	教師を目指して自分なりに努力している	教育現場で奉仕活動をし、教師としての資質を身につけようとしている	教師になるための資質を持ち、さらに高めるための行動をしている
知識・理解力	学習指導の方法に関する知識を理解しようとしていない	学習指導の方法について自ら知識を得ようとしている	学習指導の方法について知識を豊富に身につけている	指導者としての知識を身につけ、さらに努力を行っている
言語力	教授するにふさわしい話し方、記述ができないし、努力もしない	教授する内容やアプローチの方法によって表現や記載方法を工夫できる	生徒の気持ちを汲んで教師の立場からふさわしい表現ができる。適切な言語を用いて記述ができる	実際の現場で相応しい表現ができ、記述力がある
思考・解決力	指導法について関心がない	自身の指導法を顧みて解決方法を探そうとしている	自身の指導法を顧みて、よりよくする方策を考え、改善しようとしている	生徒と、教師の立場で物事を思考し、課題解決に向けて実践できる
共生・協働する力	他者と協力して授業を計画しようとしていない	他者と協力して、授業計画を立て、実践しようとして努力している	他者と協力して、授業計画案を作成、実践できる	自他ともに、成長するように、他者に対して働きかけができる
創造・発信力	教師の立場に立って考え方を自ら創造し発信ができない	教師の立場に立って考え、創造し、発信しようとして努力している	教師の立場に立って、他者の意見も取り入れ、現状を改善し発信もできる	生徒の対場を考えながら教師としての教授方法を模索、創造し、発信をしている

〔授業計画〕

第 1 回 本講義の進め方と評価の説明、家庭科教育の特質と家庭科の歴史の変遷、家庭科の目標についての解説

第 2 回 学習指導要領の解説、改訂の経緯の説明

第 3 回 学習指導要領の見方、利用の仕方、評価の観点についての解説と演習

第 4 回 小学校、中学校、高等学校の家庭科の位置づけ、他教科との関連、実践研究の動向と授業設計の解説

第 5 回 家庭科の学習指導の内容、評価の方法、教授法の種類についての解説

第 6 回 消費者教育を題材にする教育方法の説明、教材作成

第 7 回 教育機器の使用法（黒板、カード、TP、OHC、OHP）の解説と実践

第 8 回 診断的評価、形成的評価、総合的評価の指導計画上での位置づけ、施設・設備の説明

第 9 回 家庭科指導計画案の作成方法の説明

第 10 回 指導案作成の指導と発表 1（年間指導計画案・学年指導案の作成）

第 11 回 教材作成 1（テーマ：「食生活」アクティブラーニング、料理カードの利用、ワークシートの作成）

第 12 回 教材作成 2（テーマ：「保育」アクティブラーニング、赤ちゃん人形の利用、視聴覚教材の利用）

第 13 回 指導案作成の指導と発表 2（題材指導計画案作成と実践）、評価の考え方の理解

第 14 回 指導案作成の指導と発表 3（本時の指導計画）、評価の考え方の理解

第 15 回 本講義の総括

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義、発表、教材制作、模擬授業等によって授業を進める。特別講師の講義も取り入れることもある。
- ・提出レポートはコメントをして個人に返却する。発表では、受講者間での意見交換や教員のコメントをその場で行う。これらをもとに指導法や指導案について各自が学びを深める。
- ・教材研究を深めるために家庭科の内容にかかわる専門科目を担当する教員に助言を求めるとよい。
- ・現在受講する教育法以外の科目の授業形態（指導方法、学習環境、学習者の様子、教師から生徒へのアプローチの仕方）を観察し、整理しておくとうい。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・人の前で話す練習や、大きな声を出す練習をしておくとうい。
- ・板書の練習をしておくとうい。
- ・教科に関する専門書をよく読み知識の習得につとめるとよい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価基準・学習指導要領や評価の観点を理解できたか（試験・提出物）

指導案の作成方法を理解できたか（発表・提出物）

教材作成に取り組めたか（態度・発表）

授業観察の方法がわかったか（発表）

評価方法・定期試験（60%）、態度・発表（10%）、年間指導計画、題材指導計画、本時指導案の提出（30%）

特別な事情がない限り、遅刻、欠席は認めない。

著しく態度が悪く、改善の様子がうかがえない場合、教師の資質に欠けると判断し、評価の対象から外すこともある。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・原則として家庭科教育法I（生活の自立と衣食住）、家庭科教育法II（家族・家庭生活と福祉）を履修済のもの。
- ・3年次前期で履修のこと。
- ・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。
- ・教科書は一部家庭科教育法I、IIで使用したものと同一。
- ・特別な事情がない限り、遅刻、欠席は認めない。
- ・著しく態度が悪く、改善の様子がうかがえない場合、教師の資質に欠けると判断し、評価の対象から外すこともある。
- ・受講数により、模擬授業に充てる授業回数を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『中学校教科書『新しい技術・家庭分野』//東京書籍///学内販売予定

『高等学校教科書『家庭総合』//東京書籍///学内販売予定

『評価基準の作成、評価方法などの工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭科】』/国立教育政策研究所教育課程センター/教育出版//9.784316300528E12/学内販売予定

『評価基準の作成、評価方法などの工夫改善のための参考資料【高等学校共通教科「家庭」】』/国立教育政策研究所教育課程センター/教育出版//9.78316300733E11/学内販売予定

中学校家庭分野と高等学校家庭の教科書を各自準備しておくこと

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中学校学習指導要領』/文部科学省///

『高等学校学習指導要領』/文部科学省///

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家庭科教育法Ⅳ（模擬授業）

LDA3651N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 後期

水曜2限

DP6：創造・発信力

60

「家庭科教育法Ⅲ」履修者であること

加藤 佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

- ・中学校家庭分野及び高等学校家庭科の学習内容について、指導上の留意点を理解している。
- ・家庭分野及び家庭科の学習評価を理解している。
- ・発展的な学習内容について探究し、学習指導に生かすことができる。
- ・中学生や高校生の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解する。
- ・家庭分野及び家庭科の学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
- ・模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。
- ・家庭分野や家庭科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

テーマ：模擬授業を通して、授業計画の大切さを実感し、計画力、教授力、授業観察力を獲得しよう

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・実際に教壇に立ち模擬授業を行う。
- ・模擬授業や教材開発・研究を通じて指導や評価方法を体得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教えることに関心がなく、努力もしない。	教師になることを目指して努力している	より高い能力を身につけた教師になるための努力をしている	将来の教師像を描き教師になるための準備を継続している
知識・理解力	授業計画・実施方法の知識がなく、理解していない	授業計画や授業実践に役立つ知識をつけようと努力している	授業計画、実施について、学習指導要領を深く理解できている	教師として授業計画・実施に関するあらゆる知識を習得し、理解している

言語力	生徒に言語を用いて伝える事ができない	表現を工夫して、他者に伝える努力をしている	表現を工夫し、他者に伝えたり教えたりできる。指導案を適切な表現を用いて作製できる	教師として指導案の作成、教授、評価などの場面で適切な言語を使用できる
思考・解決力	学習指導案を考案できない	授業を設計し、自分なりに、実行・解決する努力をしている	授業計画・実施について十分に思考できている。また、評価、反省を通して問題点を解決する力を備えている	教師として授業計画の考案ができ、評価し、課題を解決できる能力を備えている
共生・協働する力	生徒役や他の受講者と協力・協働する姿勢がない	生徒役や他の受講者と協力・協働しようとする努力をしている	生徒役や他の受講者と協力・協働し、自ら積極的に働きかけることができる	教師として他の教師と協力して生徒の教育ができる
創造・発信力	授業づくりの発想・発信ができない	教える側の立場に立って教え、創造し、発信しようとしている	教える立場にたって、生徒を支援する方法を工夫し、発信できている	教師として生徒を教える十分な能力を持ち、創造したり発信したりできる

〔授業計画〕

- 第1回 本講義の進め方と評価についての説明、学習指導要領の解説
- 第2回 家庭科の教育評価・学習評価、評価基準、観点別評価の説明。発展的学習内容の説明。
- 第3回 学習指導案の必要性・作成方法、学習指導の方法の説明、実践研究の動向の説明
- 第4回 家庭科の施設・設備の説明、学習指導案の作成と指導1（題材指導計画）
- 第5回 学習指導案の作成と指導2（本時指導計画と評価の観点）
- 第6回 指導案の指導と修正1（指導計画、指導上の留意点、時間）
- 第7回 模擬授業実施と評価1（一斉模擬授業の実施）
- 第8回 指導案の指導と修正2（一斉模擬授業での評価をもとに行う）
- 第9回 模擬授業実施と評価2（中学校家庭分野の内容の個別模擬授業）
- 第10回 指導案の指導と修正3（教員と受講生の授業観察結果をもとに行う）
- 第11回 模擬授業実施と評価3（中学校家庭分野の内容の個別模擬授業）
- 第12回

指導案の指導と修正4（自己評価と他者評価をもとに行う）

第13回 模擬授業実施と評価4（高等学校家庭基礎の内容の個別模擬授業）

第14回 反省と評価（模擬授業収録ビデオの視聴をもとに行う）

第15回 本講義の総括と教育実習、採用試験に向けての説明

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・実際に受講生が先生役と生徒となり模擬授業を行う。
- ・他者の授業評価を行う。
- ・指導案の個別指導を時間外に行う。
- ・模擬授業実施後、学習者間での意見交換や、教員がコメントすることでさらに学びを深める。
- ・教材研究を深めるためやより良い指導案作成のために、家庭科の内容にかかわる専門科目を担当する教員にも助言を求めるとよい。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 人の前で、喋る練習をしておくことよい。
- 大きな声を出す練習をしておくことよい。
- 教科に関する専門的な知識を身につけておくことよい。
- 事前に指導を受ける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価基準・指導案の作成方法がわかったか（提出物）
模擬授業を工夫して実施できたか（模擬授業）

授業観察の方法がわかったか（授業態度）
評価方法・指導案の提出、内容、模擬授業の内容等により行う

指導案（細案）5本～6本の提出（50%）、指導案の内容20%、

模擬授業の内容25%、授業態度5%

- ・試験は行わない。
- ・特別な事情がない限り、遅刻、欠席は認めない。

・10回以上の出席がない場合は評価の対象としない。

・著しく態度が悪い場合、教師の資質に欠けると判断し評価の対象から外れる。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・模擬授業を行う2週間位前に面接による指導を受けること（予約制）。
- ・特別な事情がない限り、遅刻、欠席は認めない。
- ・著しく態度が悪く、改善の様子がうかがえない場合、教師の資質に欠けると判断し、評価の対象から外すこともある。
- ・原則として家庭科教育法I、II、IIIを履修済のもの。
- ・3年次後期で履修のこと。
- ・教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。

・教科書は家庭科教育法I、II、IIIで使用したものと同一のものが必要。

・受講生の人数により「作成した指導案の指導」は授業時間外で行うこともある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

家庭科教育法I・II・IIIで使用したものと同一。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『中学校学習指導要領』/文部科学省///

『高等学校学習指導要領』/文部科学省///

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家庭電気・機械及び情報処理

LDA1250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 後期集中

その他

DP2：知識・理解力

60

藪 哲郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

家庭には様々な家電製品やガス器具・機械・情報機器がある。

電気に関する基礎知識を身につけ、家電製品の仕組みを知ることで、これらの機器を適切に扱えるようにする。

家庭における機械・ガスについても基礎知識を身につける。

家庭科教師として身につけておくべきパソコン技術を習得する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 電気の基礎知識を学ぶ。
2. 送電、配電についての基礎知識を身につける。
3. 家電製品のしくみを理解し、適切な使用方法を知る。
4. 家庭における情報機器の基礎知識を身につける。
5. ガスについての基礎知識を学ぶ。
6. 家庭機械の基礎知識を学ぶ。
7. 家庭科教師として必要な情報技術を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 電気の基礎（電圧・電流・電力）
- 第 2 回 電気の計算
- 第 3 回 電気と磁気の基本法則
- 第 4 回 ガスについて
- 第 5 回 送電・配電
- 第 6 回 感電・漏電
- 第 7 回 白物家電（エアコン・インバータ・冷蔵庫・洗濯機）
- 第 8 回 白物家電（掃除機・電子レンジ・IH調理器）
- 第 9 回 照明
- 第 10 回 情報家電
- 第 11 回 家庭における機械
- 第 12 回 家庭情報処理（型紙の作成・ベジェ曲線1）
- 第 13 回 家庭情報処理（型紙の作成・ベジェ曲線2）
- 第 14 回 家庭情報処理（型紙の作成・ガイド1）
- 第 15 回 家庭情報処理（型紙の作成・ガイド2）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

電気・機械分野については講義を行う。復習をすること。情報分野については演習を行う。欠席せずに、課題の提出期限を守ること。授業中の質問に関しては、適宜口頭でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

指示された予習事項がある場合は、予習してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

電気・機械分野のテスト60%、電気分野のレポート10%、情報分野の課題30%の割合で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、オンライン講義となることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

オリジナルのテキストを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- 『電気のすべてがわかる本』/谷腰欣司/ナツメ社/2009/
- 『電気のことがわかる事典』/戸谷次延/西東社/2015/
- 『電気が一番わかる』/福田京平/技術評論社/2009/
- 『図解入門よくわかる最新電気の基本としくみ』/藤澤和弘/秀和システム/2012/

『電気の基本としくみがよくわかる本』/福田務/ナツメ社/2011/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

京都生活論 2017年度以降入学者

LDA2254N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

金曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

鳥居本 幸代

〔科目の教育目標（Course Description）〕

京都は平安京遷都以来、文化の発信地となり、現在に至っている。京都の気候風土にあった衣生活、食生活、住生活のルーツを探りながら変遷を知ることによって、今日の京都独自の生活文化を探究する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1.京都の衣生活としては、キモノの基礎知識から地場産業として発展した西陣織のルーツ、友禅染の発生などについて述べる。
- 2.京都の食生活としては、京料理の概要、京都で発展した魚料理、京野菜、茶の湯と京菓子などについて述べる。
- 3.京都の住生活としては、寝殿造から京町家にいたる経緯、伝統建築などについて述べるとともに、現存する建築物の紹介を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 キモノを知る
- 第 2 回 京の着倒れ
- 第 3 回 キモノの色と友禅染
- 第 4 回 キモノの模様と西陣織
- 第 5 回 キモノの付属アイテム
- 第 6 回 京料理とは
- 第 7 回 京都の魚料理

- 第 8 回 京野菜を味わう
 第 9 回 茶の湯と京菓子
 第 10 回 京都人の食へのこだわり
 第 11 回 平安京を取り巻く自然と都市計画
 第 12 回 変貌する平安の都
 第 13 回 京町家の工夫
 第 14 回 京都を逍遙する
 第 15 回 京都の伝統文化を知る
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施する

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

講義形式をとり、パワーポイントやDVDを使用して視覚的理解を促す。講義終了後に、毎回、まとめの小テストを実施する。小テストは次回の講義前に返却し、フィードバックを行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

第 1 回の授業以降、次回の授業内容に相応するテキストの箇所を指定し、読んでおくこと。その結果確認のため、講義の終わりに小テストを行う。

第1回 P66～73、P82～85

第2回 P74～81、P98～101

第3回 P90～93、P102～105

第4回 P94～97、P106～110

第5回 P110～125

第6回 P4～7、P24～27

第7回 P8～19

第8回 P28～40

第9回 P48～55

第10回 P20～23、P40～47、P56～63

第11回 P148～152、P176～179

第12回 P132～135、P140～147、P184～187

第13回 P160～167

第14回 P128～131、P136～140、P180～183

第15回 P152～159、P168～175

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

評価は授業参加度 (30%)、小テスト (20%)、確認テスト (50%) にもとずいて、総合的に行う。

[留意事項 (Other Information)]

遅刻は15分以内とする。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『京都人のたしなみ』/鳥居本幸代/春秋社/2019/学内販売

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『和食に恋して』/鳥居本 幸代/春秋社/2015年

『平安京のくらし』/鳥居本 幸代/春秋社/2014年/
978-4-393-48226-1

『平安朝のファッション文化』/鳥居本幸代/春秋社/2003年/

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

建築一般構造

LDA2201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 前期

月曜3限

DP2: 知識・理解力

60

中村 久美

[科目の教育目標 (Course Description)]

住宅や建築を学ぶうえで、骨組みとしての構造や仕上げの仕組みなどの建築一般構造への理解が大前提となる。

本授業の受講により、建築材料や施工法を含め、建築構造の種別とそれぞれの概要、およびインテリアデザインの基礎となる内部造作の仕組みについて理解し、住宅計画や住宅問題の議論に参加できる基本的な力を身につける。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 構造種別を理解する。 2. 各構法の知識を身につける。 3. インテリアとしての造作とその仕組みを理解する。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
建築構造への理解	構造、構法の種別がわからない。	構造、構法の種別は理解できているが、部材の名前はよくわからない	構造、構法や各部材の名前は大体わかるが、架構のしくみまでは理解できていない。	構造、構法や各部材の名前はわかる。加えてその架構についても大体理解できている。
主体的に学ぶこと	指示されたテキストやスライドを見る。小テストに解答する	テキストや配布資料に適宜書き込みをした。準備学習をして小テストに解答する。	自分のノートを作ったり、教員や友人に積極的に質問する。小テストの振り返りも行う。	関連図書などをすすんで読み、工事現場や身近な建築物の様子に関心を寄せる

[授業計画]

第 1 回 建築構造の種別

第 2 回 木構造の特徴と構造形式

第 3 回 軸組構法と枠組構法

第 4 回 鉄筋コンクリートの材料と力学的性質

第 5 回 鉄筋コンクリート造の架構と部材の力学

第 6 回 鉄筋コンクリート工事

第 7 回 鋼材とその接合

第 8 回 鉄骨構造

第 9 回 その他の構造

- 第 10 回 住宅被覆の仕組み
- 第 11 回 住宅内部の仕上げ
- 第 12 回 開口部と建具
- 第 13 回 和風造作
- 第 14 回 地震による被害と耐震設計
- 第 15 回 住宅構造の動向 まとめのテストおよび解説
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストの内容をパワーポイントによって補足しながら授業をすすめる。授業後はテキストと配布資料で建築の部材や構造、施工に関する用語の復習を必ず行うこと。また毎回、次回の内容とテキストの関連ページをアナウンスするので予習することが必要である。毎回の小テストは直後に答え合わせをして次週に返却するので見直すこと。まとめのテストでは直後に解説をするとともに、授業の総括をするので学びの振り返りを行うことを求める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバス、およびオリエンテーション時に配布した授業スケジュールにそってテキストを読んでおくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回授業冒頭実施する前回授業の振り返りテスト (13 回 52%)、およびまとめのテスト (48%) より評価する。なお最終回はまとめのテストとその解説を行ったうえで、住宅構造の動向を解説する。

〔留意事項 (Other Information)〕

建築、住居、インテリア分野の一番基礎となる科目で、他の住居系科目の前提科目となる。本授業で住居のしくみ、基本知識をしっかりと身に着けないと、他の住居学分野の科目の理解が困難になるのでそのつもりで受講のこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『初めての建築一般構造』/＜建築のテキスト＞編集委員会/学芸出版社//9784761525859/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『分り易く図で学ぶ 建築一般構造』/江上外人・林静雄/共立出版株式会社//

『一般構造』/青木博文監修/実教出版//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

建築材料学

LDA3201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 前期

火曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

建築一般構造

定員20人

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

建築物は人間の生活や活動を営むための容器であり、同時に街や都市をつくるひとつの単位でもある。そして建築物を形づくるのは材料であり、建築物に使用される材料はその時代の文化や文明、その土地の風土を反映するものである。また、使用する材料によって建築物の性格や品質が左右され、強くても長持ちするか、好感をもたれるか、など建築物がどのようなものになるかは材料の用い方にかかっており、建築材料に対する知識を持ち、それらを適材適所に使い分けることは重要である。授業では建築物をつくっていく上で必要な材料についての知識を深め、材料を用いる際の基本事項は何かについて考えていきたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 材料の種類や性質など知識の修得
2. 建築の用途・機能に適した材料の用い方への理解
3. 構造材と仕上材の使い分けの理解
4. 個別課題を自ら学習し、授業でプレゼンテーションする能力を高める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	資料を収集することができない	調べたものを人前で発表できる	発表内容をビジュアル資料などを交えてまとめる	わかりやすい資料を作成し、伝わりやすい発表をすることができる
知識・理解力	建築材料の種類がわからない	建築材料の種類別がわかる	それぞれの建築材料の特徴を知り理解している。	建築部位や生活状況にあった材料、空間計画への提案ができる
思考・解決力	建築における材料の位置づけがわからない	建築における材料の位置づけがわかる	身の回りにおける建築材料の適切な用い方を考えることができる	地球環境や資源保護の観点から材料に対する提言ができる

〔授業計画〕

第 1 回 建築材料とは

- 第 2 回 建築材料計画
- 第 3 回 天然材料 1 (木材:種類、使われ方、特徴)
- 第 4 回 天然材料 2 (木材:木取り、欠点)
- 第 5 回 天然材料 3 (エンジニアリングウッド)
- 第 6 回 天然材料 4 (石材、れんが)
- 第 7 回 近代建築における基幹材料 1 (コンクリート:セメント)
- 第 8 回 近代建築における基幹材料 2 (コンクリート:骨材、水、混和剤)
- 第 9 回 近代建築における基幹材料 3 (コンクリート製品、ガラス)
- 第 10 回 部位別・性能別材料 1 (床仕上げ材、壁仕上げ材、天井仕上げ材)
- 第 11 回 部位別・性能別材料 2 (防水材料、防火材料、断熱材料、防音吸音材料)
- 第 12 回 その他の材料 1 (左官材料、ボード類)
- 第 13 回 その他の材料 2 (プラスチック材料、塗料、接着剤)
- 第 14 回 確認テストとフィードバック
- 第 15 回 学外実習(積水ハウス(株)住宅総合研究所 納得工房)

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

- (1) テキストを用いる。
- (2) 小テストを複数回、実施する。(manabaを利用)
- (3) 住宅研究所において実習を行う。
- (4) 各自課題をこなし、それを人前でプレゼンテーションする。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

テキストやあらかじめ配布されたプリントを読むなどして予習をすること。また毎回前授業内容の小テストを行うので、復習が必要である。自分に与えられた課題について情報収集し、整理し、わかりやすくプレゼンテーションすること。またホームセンターなどに出向いて建材の実物や表示を確認するなど、実社会での建築材料の扱いに関心をもつこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

50

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

評価は、最終回の授業で実施する形成テスト(40)、manabaを利用した平常点(30)、課題発表(20)、授業の参加度(10)で行う。

[留意事項 (Other Information)]

全出席を原則とする。

1. 本科目の受講者は前提科目として「建築一般構造を修得済み」であること
2. 全出席を前提とする。
3. 20名の定員とする。
4. 学外実習は平日の一日を要する。(実施日は初回授業時に伝える) 現地までの交通費は自己負担
5. シラバスの順序は入れ替わることがある

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『図説やさしい建築材料』/松本進/学芸出版社//978-4-7615-2417-3/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『初学者のための建築材料入門』/樫野紀元/鹿島出版社//

『棟梁も学ぶ木材のはなし』/上村武/丸善株式会社//

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

建築施工

LDR3250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 後期

木曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

建築一般構造

岸 研一

[科目の教育目標 (Course Description)]

建築施工とは、設計図書に従って工事現場で実際に建築物をつくっていく行為であり、計画、材料、構造、法規などの広範な基礎的知識が要求される。しかし、建築施工は施工者に必須の知識であるばかりでなく、施工者の対極にある建築士やインテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーターなどをめざす人にも必須の知識でもある。講義では、建築全般に関して知識と興味を深める為、知っておくべき著名な建築家の名前や作品紹介と実作品の見学を行う。テキストを補足するためにスライドを使用して、施工法と施工管理について計画、材料、構造、法規とどのような関連があるのかということもあわせて取り上げる。各種の資格取得に際して最も取つき難い分野とされている建築施工に対する理解を深める。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

女性の社会進出のためにも、建築生産現場に対する認識を深めて貰うとともに、二級建築士等の資格試験への備えとするために、次のような点を重点的に取り上げる。

- (1) 建築に関わる法律にはどのようなものがあるか
- (2) 建築工事の施工標準にはどのようなものがあるか
- (3) 建築工事の管理はどのようにして行われているか

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス
著名建築家及び作品紹介（四大巨匠建築家）
- 第 2 回 建築紹介（1）
著名建築家及び作品紹介（海外の著名建築家、国内の著名建築家（1））
- 第 3 回 建築紹介（2）
著名建築家及び作品紹介（国内の著名建築家（2））
確認テスト（1）
- 第 4 回 学外学習
身近にある著名建築作品の見学
- 第 5 回 建築生産
建築生産のしくみ
- 第 6 回 仮設工事
準備工事・山留め工事
- 第 7 回 地業工事
杭工事・土工事
確認テスト（2）
- 第 8 回 躯体工事（1）
地下躯体工事（1）（鉄筋・型枠工事）
- 第 9 回 躯体工事（2）
地下躯体工事（2）（コンクリート工事）
確認テスト（3）
- 第 10 回 躯体工事（3）
地上躯体工事（鉄骨工事）
- 第 11 回 仕上工事（1）
確認テスト（4）
仕上工事（外装仕上工事）
- 第 12 回 仕上工事（2）
仕上工事（内装仕上工事）
- 第 13 回 設備工事
設備工事（電気・空調・給排水衛生・昇降・防災設備工事）
- 第 14 回 外構工事・その他
外構工事・竣工
維持・保全・改修工事
- 第 15 回 まとめテスト
まとめテスト、解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。まとめテスト及び解説。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストの内容を図や写真を交えたパワーポイントで視覚化するとともに、黒板への板書きを併用して講義を進める。理解度を把握するために簡単な小テストを5回程度実施する。小テスト及びまとめテストは終了後に解答解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

前回の講義内容を、テキストに書き込んだマーキングやメモ書きを見ながら復習するとともに、次回の講義の内容は何かを確認しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

25

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（20%）、確認テスト(20%)、まとめテスト(60%)の総合評価による。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『施工がわかるイラスト建築生産入門』/一般社団法人日本建設業連合会 編/彰国社/2017年11月/978-4-395-32100-1/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本建築学会 建築工事標準仕様書』////

『国交省営繕部 公共建築工事標準仕様書』////

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（25年）

ゼネコン勤務5年（施工管理）、設計事務所勤務3年、設計事務所開業18年、により実務経験あり。

建築法規

LDA2452N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

水曜 2限

DP4：思考・解決力

60

建築一般構造

中村 久美 竹原 広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕

建築基準法の単体規程、集団規程、制度規程を中心に、都市計画法、消防法、建築士法などについて学習する。建築物の計画・設計・工事管理や建築行政に関する法規の知識を習得し、法規的取り扱いや手続きのしくみを理解したうえで、実社会や生活場面で活かす。加えて建築士業務に求められる倫理的態度を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.建築関係法令の法体系を理解する
- 2.建築基準法の単体規程、集団規程の法知識を習得する
- 3.建築士の位置づけ、業務のあり方を理解する
- 4.法規の成立の背景や意図、さらには法規の遂行・順守によって発生する課題についても考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
建築法規への理解と法規上の問題への思考	建築法規の構成、および用語の理解ができていない	単体規程、集団規定に関わる用語については大理解できている	用語の理解のうえに、テキストの例題を中心に規定に沿って面積や高さなどの計算も大体できる	建築法規上の様々な実例について背景や潜在する問題を考えると同時に、法規に沿った算定もいろいろなケースに対応できる
主体的に学ぶこと	授業中の課題や小テストの取り組みがふじゅうぶんである	授業中の例題や小テストにはまずまず解答する。	授業の例題に不明な点があれば、教員や他の受講者に質問するなどして積極的に取り組む	授業外の新聞やニュースに含まれる現実の建築基準法に関する事象、事項について関心をもって調べる

〔授業計画〕

- 第 1 回 建築関連法規の体系,法令の読み方,建築士法<竹原>
- 第 2 回 単体規程 1 (建築物の用語と定義) <竹原>
- 第 3 回 単体規程 2 (防火上、設計及び工事上の用語と定義) <竹原>
- 第 4 回 単体規程 3 (面積及び高さの算定) <竹原>
- 第 5 回 単体規程 4 (単体規程総論 採光、換気) <竹原>
- 第 6 回 単体規程 5 (一般構造、天井高、階段) <竹原>
- 第 7 回 単体規程のテストと解説<竹原>
- 第 8 回 集団規程 1 (道路と敷地 用途地域) <中村>
- 第 9 回 集団規程 2 (建蔽率 容積率) <中村>
- 第 10 回 集団規程 3 (高さ制限) <中村>
- 第 11 回 集団規程 4 (まちづくり関係) <中村>
- 第 12 回 手続き規程と建築行政<中村>
- 第 13 回 消防法<中村>
- 第 14 回 都市計画法<中村>
- 第 15 回 集団規定のテストと解説 建築法規の総括<中村>

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1.テキスト、配布資料、パワーポイントにより授業をすすめる
- 2.毎回登場する法規についてその都度テキストや配布資料により復習しておくこと
- 3.法規を現実に適用する際の考え方や実務、計画基準値の計算などの実際を演習する。 4.毎回授業冒頭で実施する小テストはその場で答え合わせと解説を行い前回授業の振り返りを行う。さらに7回目と15回目に実施する確認テストはそれぞれ直後に解説し、単体規程、および集団規定の振り返りを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバスに書かれた授業予定にそってテキストを前もって読んでおくこと。また小テストのための復習は必須である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

確認試験 (50%) と授業参加状況 (20%)、授業途中で適宜行う小テスト (30%) により評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『「建築法規用教材」(最新版)』/日本建築学会////学内販売予定

『建築基準法関係法令集 2016年版[平成28年版]』/日建学院 編/建築資料研究社////学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

権利擁護と成年後見制度

SWR3401N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 前期

金曜 5限

DP4 : 思考・解決力

60

高岡 克行

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

悪徳商法被害や虐待など、講師が実際に取り扱った事件を紹介しながら、成年後見制度、民法、憲法を理解することを目標とする。基本的には法律の講義であるが、条文解釈ではなく、具体的な事例を通して相談援助活動とのかかわりを理解し、社会的実践に必要な法律知識の習得を目指す。ここで得られた法律知識と相談援助活動実践を活用し、超高齢社会を迎えた現代社会が抱える課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によってより良い方向性を見出し、解決しようとする力を身につけている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 日本国憲法の基本原理, 民法(財産法, 家族法), 行政法, 刑法
- 2 成年後見制度
- 3 日常生活自立支援事業
- 4 成年後見制度利用支援事業
- 5 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際
- 6 権利擁護活動の実際

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 権利擁護と成年後見制度を学ぶ前に
権利擁護と成年後見制度の相談援助活動において、社会福祉士がとらえる権利擁護の基盤にある人権と諸権利、権利擁護の視点と方法について概観する
- 第 2 回 日本国憲法の理解①
基本的人権の種類・内容・法的性格・調整などについて、体系的に学ぶ
- 第 3 回 日本国憲法の理解②
日本国憲法は国民の権利を護る手段として権力分離原則に基づく国家統治機構を規定しているため、国会、内閣、裁判所、地方公共団体に役割について学習する
- 第 4 回 民法の理解①
民法の物権・債権という財産権に関する領域について、当事者間に権利義務関係を生じさせる「契約」という法制度のあり方について学習する
- 第 5 回 民法の理解②
民法の物権・債権という財産権に関する領域について、当事者間に権利義務関係を生じさせる「不法行為」という法制度のあり方について学習する
- 第 6 回 民法の理解③
親族・相続の領域について、夫婦・親子等のかかわりや財産相続等の法律関係を理解する
- 第 7 回 行政法の理解
社会福祉に携わる者として、行政庁の違法・不当な処分から、利用者・要保護者の権利を護るために、「行政法」に共通するルールを学習する
- 第 8 回 成年後見制度の理解①

- 法定後見制度全体と、成年後見の対象者（成年被後見人）と成年後見人の役割について学ぶ
- 第 9 回 成年後見制度の理解②
保佐の対象者（被保佐人）、補助の対象者（被補助人）と保佐人、補助人の役割について学ぶ
- 第 10 回 任意後見制度の理解
任意後見制度は、自己の後見のあり方を自らの意思を決めておくという自己決定の尊重の理念に則した制度であることを理解する
- 第 11 回 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携
日常生活自立支援事業の概要、専門員・生活支援員の役割、日常生活自立支援事業の利用に必要な判断能力、成年後見制度との関係（活用）、福祉関係者・法律関係者との連携、最近の動向について学ぶ
- 第 12 回 成年後見制度利用支援事業の概要
成年後見制度利用支援事業の内容・特性について理解する
- 第 13 回 権利擁護にかかわる組織・団体
家庭裁判所を中心にして、法務局、市町村、社会福祉協議会、児童相談所等の役割について理解する
- 第 14 回 権利擁護にかかわる専門職の役割
成年後見制度を支える専門家集団である社会福祉士、弁護士、医師等の権利擁護をめぐる取り組みと役割を理解する
- 第 15 回 成年後見活動の実際について
権利擁護の視点から、成年後見制度によって判断能力の不十分な高齢者、障がい者等を支援する社会福祉士の活動の実際を事例から学ぶ。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に進める。教材は講師が用意したプリントを使用するが、社会的に関心の高い時事問題も取り上げる。なお、講義への積極的参加を促すためディスカッション、発表等は随時行う。なお、最終講義にて全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回に使用するプリントを配布するので、これに目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期テスト (50%) 及び授業の参加度(50%)をもとに総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・社会福祉士国家試験受験資格を取得するための科目です
- ・社会福祉専門職である社会福祉士になる人間としての自覚をもって授業に参加してください
- ・テキストや配布資料等での予習復習をして下さい

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

山口光治編『新・社会福祉士養成課程対応 権利擁護と成年後見 第3版』みらい 2017年

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

社会福祉法人大阪ボランティア教会編集『福祉小六法2017』中央法法規 2016年

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と家庭経営 2017年度以降入学者

SLB1450N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP4: 思考・解決力

60

必修

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

長引く経済の低迷や少子高齢化の進展によって、日本社会は、既存の社会システムからの大転換期を迎えている。このような混沌とした社会においては、「生きる力」を養い主体的な生活を営むための知識の習得が求められている。この授業では、生活の基本単位である家族がより良い生活を送るための家庭経営の知識を身につける。前半は、家族形態と機能が変化しつつあるなかで、現代の家族が抱える問題を学ぶ。中盤では、主体的に生きる消費者としての知識を習得してもらう。具体的には、生涯を見通した家計の管理ができるようになることと、現代の消費者問題について考える。後半は、地域社会における家族の役割や環境に配慮した家庭経営とはどのようなものかを検討する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 現代の家族が抱える問題を社会の変化と結びつけて理解することができる。
2. 家庭経済という視点から、より良い家庭生活を営んでいくうえでの課題やリスクを学び、問題解決のための方法を自ら考えることができる。
3. 生活を見直し、社会の一員として、持続可能な社会を形成していくために自分自身や家族ができることを考え行動することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

知識・理解力	家庭経営に関する知識を習得しない、理解しようとししない。	家族経営に関する最低限の知識を習得している。	家庭経営に関する基本的な知識全般を習得している。	基本的な知識の習得に加えて、応用力も身につけている。
言語力	設問に対する回答がなされていない。誤字や脱字が多い、あるいは漢字で書くべき語句をひらがなで書いている箇所が5ヶ所以上ある。	多少の誤字はあるものの、主語と述語がクリアで、設問に対して適切に回答している。	適切な表現を用いながら、簡潔に回答している。	レベル3に加えて、批判的・論理的に回答している。
思考・解決力	家庭経営で生じる生活課題を思考できない。他人任せにして自ら解決しようとししない。	家庭経営で生じる生活課題を考えてみる。解決に向けて取り組もうとする。	ほかの受講生の意見も取り入れながら、さまざまな角度から生活課題を想定し、状況に合った解決策を考えることができる。	社会の変化やライフステージに応じた生活課題を想定し、自らの生活に適した解決策を考え、行動することができる。
創造・発信力	指名されても発言しない。課題を提出しない。	指名されたら、自分の意見を言える。課題を提出する。	自発的に発言する。あるいは「見られる」「評価される」ことを意識した提出物を作成している。	レベル3に加えて、発言も提出物も、主観だけでなく資料からの裏づけをもとに行っている。

〔授業計画〕

- 第1回 (対面) 家族の発達と現代の家族をめぐる問題
- 第2回 (対面) 家族のかたち・機能の変化
- 第3回 (対面) 生活の変化
- 第4回 (オンライン) 生活時間の男女差
- 第5回 (オンライン) 家庭経済における5つの活動と家計
- 第6回 (対面) 日本の財政と税金についての講義 (ゲストスピーカー)
- 第7回 (対面) 「消費」・「浪費」・「投資」とはなにか?
- 第8回 (オンライン) 家計に影響を与える要因とお金の価値
- 第9回 (オンライン) 長期的な生活設計と家計管理
- 第10回 (オンライン) 家庭経営におけるリスクと予測の事態への備え

- 第 11 回 (対面) 賢い消費者であるために①：通信販売の利点と問題点
- 第 12 回 (オンライン) 賢い消費者であるために②：多重債務問題
- 第 13 回 (オンライン) さまざまな消費者問題と消費者政策
- 第 14 回 (オンライン) 地域社会のなかの家庭生活
- 第 15 回 (対面) まとめ：持続可能なライフスタイルをめざして

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

＜教育・学習の方法＞

講義が中心であるが、与えられた課題について受講生自身の考えを出してもらい機会を多く設ける。そのため、受講生には積極的な授業の参加を求める。出席しているにもかかわらず、指名しても発言がない場合は、欠席とみなす。

＜課題 (レポート) のフィードバック方法＞

課題 (レポート) は授業中に受講生自ら発言する機会を設ける。または次回の授業で返却後、いくつかの回答については紹介し、受講生の間で共有する (場合によっては、manabaで公開する)。

〔追記〕 2020年度は、対面とオンラインの両方で授業を進めていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

＜復習＞

対面授業：授業で投影したスライドは、授業終了後の一両日中にmanabaへアップする。授業中に聞き逃したことや分からなかった所は復習をして、必要に応じて担当教員に尋ねること。

オンライン授業：授業開始時間に合わせて音声つきスライドを公開する。期末まで公開とするので、わからない部分は何度も繰り返し視聴すること。

＜予習＞

・授業中に次回までの課題を出す。必ず完成させて授業に臨むこと。

・関連しそうな新聞記事やインターネットの情報に目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末レポート40%、授業中の課題40%、受講態度20%

〔留意事項 (Other Information)〕

・ゲストスピーカーの予定や受講者数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合があります。

・「受講態度」には出席回数は含まない。

・欠席した回の「授業中の課題」の評価は「0点」となるので注意すること。

・対面授業の場合、レジュメは授業の3日前までに「manaba」に公開する。必要であれば、プリントするなど各自で準備をすること。

〔追記〕 第1回目の授業は、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『家族生活研究』/宮本みち子・清水新二 (編著) /放送大学出版協会/2009/9784595139000

『生活経営学』/赤星礼子・奥村美代子 (編) /九州大学出版会/2013/9784798501055

『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第2版]』/伊藤純・斎藤悦子 (編著) /ミネルヴァ書房/2015/9784623073542

そのほか、授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と福祉 I

SLB1100NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 前期

月曜 3限

DP1：自分を育てる力

60

福祉生活デザイン学科必修

室田 保夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会福祉に関する基本的な考え方を学ぶ。そのために社会福祉の歴史や思想・哲学・価値といった基本的な事項を学び、現代社会にとって社会福祉の必要性を理解する。現代社会に於ける基本的な福祉課題の理解を目標とする。社会福祉の原論的な位置づけと社会福祉学についての入門的な性格ももっている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現代に於ける内外の社会福祉を理解するために、その歴史的展開を学び、今日に至った経緯を理解する。社会に於ける福祉政策やサービスが展開されていく基礎を理解する。福祉はしばしば実践といわれるが、その実践の思想や哲学を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 本講義のオリエンテーション
- 第 2 回 現代社会とは何か、社会問題と生活問題
- 第 3 回 西洋の福祉の歴史 (1) -イギリスを中心に
- 第 4 回 西洋の福祉の歴史 (2) -アメリカを中心に
- 第 5 回 福祉の思想と哲学(1) -石井十次
- 第 6 回 福祉の思想と哲学(2) -留岡幸助
- 第 7 回 福祉の思想と哲学(3) -山室軍平
- 第 8 回 福祉の思想と哲学(4) -石井筆子
- 第 9 回 福祉の思想と哲学(5) -林歌子
- 第 10 回 福祉の思想と哲学(6) -井深八重
- 第 11 回 福祉の思想と哲学(7) -岩橋武夫
- 第 12 回 ゲストスピーカーによる講演
- 第 13 回 福祉の思想と哲学(8) -糸賀一雄
- 第 14 回 まとめ -今後の社会福祉の課題
- 第 15 回 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義が中心であるが、関連する視聴覚教材をも取り入れる。ときに応じてグループ討議も行う。プリントを配付する。毎回授業中に提出してもらったコメントについて、次期の授業時に口頭にてフィードバックする。適宜授業中に参考文献については指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義の終了時に次回のことについてふれるので、それに基づき準備し臨むようにする。新聞記事や報道等を通じて、常に福祉問題について関心をもつこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、小テスト (15%)、テスト (70%) とする。「授業参加度」とは主体的に授業や課題に対して取り組んでいるかを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業ごとにプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本社会福祉の歴史 改訂版』/室田保夫・菊池正治他編/ミネルヴァ書房/2014/9784623067961

『人物でよむ社会福祉の思想と理論』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2010/9784623055159

『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2013/9784623066247

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と福祉 II

SWA1250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 後期

月曜3限

DP2: 知識・理解力

60

室田 保夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「現代社会と福祉1」で基本的な福祉と社会福祉に関する理解を踏まえて、この講義は社会福祉の主な理論や各領域での政策を学ぶ。そして福祉ニーズと資源、主な社会福祉領域についての理解、ソーシャルワークの基本的な働きや相談援助活動を学ぶ。この講義をとおして専門科目理解の基礎を確立する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

社会福祉学についての主だった理論を学ぶ、社会福祉の各領域についての政策や支援方法等について学ぶ。ソーシャルワークの基本的な役割と方法について学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 本講義のオリエンテーション

第 2 回 社会福祉学とは何か

第 3 回 社会事業理論 -生江孝之と田子一民

第 4 回 社会福祉理論 (1) -孝橋理論を中心に

- 第 5 回 社会福祉理論 (2) -岡村理論を中心に
- 第 6 回 社会福祉理論 (3) -嶋田理論と現代の主な理論を中心に
- 第 7 回 ニーズと資源
- 第 8 回 児童の福祉
- 第 9 回 高齢者の福祉
- 第 10 回 障害者の福祉
- 第 11 回 地域の福祉
- 第 12 回 ゲストスピーカーによる講演
- 第 13 回 ソーシャルワークの機能と援助活動
- 第 14 回 現代の課題-貧困問題と福祉
- 第 15 回 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義が中心であるが、関連する視聴覚教材をも取り入れる。ときに応じて、グループ学習、グループ討議を取り入れる。プリントの配付。適宜授業中に参考文献を指示する。毎回、授業中に提出するコメントに対して、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義の終わりに次回のこともふれるので、それに基づき準備し臨むようにする。新聞記事や報道等を通じて、常に福祉問題について関心をもつこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、小テスト (15%)、テスト (70%) とする。「授業参加度」とは主体的に授業や課題に対して取り組んでいるかを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義の都合上、シラバスを一部変更する場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。毎回、プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本社会福祉の歴史 改訂版』/室田保夫・菊池正治他編/ミネルヴァ書房/2014/9784623067961

『人物でよむ日本社会福祉のあゆみ』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2006/9784623045198

『人物でよむ社会福祉の思想と理論』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2010/9784623055159

『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2013/9784623066247

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公的扶助論

SWR3200N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

柴田 周二

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

公的扶助 (生活保護) 制度は人々の生存権を保障するための生活保障制度である。まずは貧困・低所得層の生活実態と政策動向について学ぶ。その上でわが国及び欧米における公的扶助制度の歴史を概観し、そして生活保護の原理及び原則について具体的事例を交えながら理解を深める。最後に生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金の概略、ホームレス支援について学び、社会保障における自立支援について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ① 貧困・低所得者の生活実態と政策動向を理解する
- ② 公的扶助制度の歴史と意義を理解する。
- ③ 生活保護制度の原理、原則、組織や専門職の役割を理解する。
- ④ 生活困窮者自立支援制度の概略を理解する。
- ⑤ 社会保障における自立支援のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	貧困問題を知ろうとする。	公的扶助制度の概要を知る。	公的扶助制度の課題を知る。	これからの公的扶助のあり方を考える。
言語力				
思考・解決力	テストをうける	レポートが作成できる	自分の問題として課題に取り組む	文献などを精査して、自分の考えを提示する
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 現代社会における貧困の諸相
- 第 3 回 公的扶助制度の歴史と社会保障
- 第 4 回 生活保護制度の実施体制
- 第 5 回 生活保護制度の基本原則

- 第 6 回 保護の内容
- 第 7 回 保護の要否判定
- 第 8 回 被保護者の権利と義務
- 第 9 回 最低生活保障水準と生活保護基準
- 第 10 回 生活保護制度の動向と財源
- 第 11 回 専門職の役割と相談援助
- 第 12 回 生活困窮者自立支援制度
- 第 13 回 生活福祉資金
- 第 14 回 ホームレス支援
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

課題 (試験またはレポート) の結果についてはmanaba等で本人に開示する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に進めるが、適宜、視聴覚教材も取り入れていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業への参加度 (15点)、授業中の課題 (25点)、定期試験 (60点) とする。欠席回数数が3分の1を超過した場合は原則として単位を認めない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保護のてびき 令和元年度版』/生活保護制度研究会/第一法規/978-4-474-06840-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

児童福祉論

SWA2203N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 前期

水曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

久保 樹里

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもを取り巻く社会環境は急激に変化しており、児童・家庭にかかわる法制度や支援体制も大きく変化している。児童家庭福祉の意義と歴史的な発展過程、子どもの権利について学んだ後、現代の児童家庭福祉にかかわる法制度と関連機関・専門職、支援サービスについて理解し、児童家庭福祉の基本的な視座を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 児童家庭福祉の歴史的な発展過程について理解する。
2. 児童・家庭問題を考えていくうえでの専門的な知識を身につける。
3. 児童家庭福祉にかかわる現代の課題を理解する。
4. 子どもの権利について理解する。
5. 近年大きく変化している児童家庭福祉の実施体制と関連法について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーションー授業の進め方について

第 2 回 子ども家庭福祉の理念と権利保障

第 3 回 現代社会における子どもと家庭

第 4 回 子ども家庭福祉の歴史的展開

第 5 回 子ども家庭福祉に関する法律

第 6 回 子ども家庭福祉の実施体制と財源

第 7 回 子ども・子育て支援と児童健全育成

第 8 回 母子の健康と母子保健・医療・福祉サービス

- 第 9 回 保育に関するサービス
- 第 10 回 養育環境に問題がある子どもと家庭の福祉
- 第 11 回 障害のある子どもの福祉
- 第 12 回 ひとり親家庭の福祉

第 13 回 心理的困難・非行問題のある子どもの福祉
 第 14 回 子ども家庭福祉サービスの担い手
 第 15 回 子ども家庭への相談援助活動と全体のまとめ
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

定期試験を実施する。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 授業方法 講義を中心に行う。より理解を深めるためビデオ等も使用する。対話を重視し、グループワークも実施する。2. テキスト・文献等 (1)テキストを用いる。
 (2)参考文献 授業中に適宜紹介する。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。子ども・家庭にかかわる福祉問題について日頃から関心を持ち、新聞や書籍、文献、マスメディアなどで学びを深めてほしい

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

約30分

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

本科目の評価の内訳は、授業参加度とミニレポート (40%) と定期試験 (60%) により総合的に判断する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

[留意事項 (Other Information)]

カードリーダーで出欠を確認するので、学生カードを必ず携行すること。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『新エッセンシャル 子ども家庭福祉論』/千葉茂明/みらい/2019

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業中に適宜紹介する。

[参考URL(URL for Reference)]

0

[実務経験のある教員による実践的科目]

福祉事務所、児童相談所の児童福祉司、高校におけるスクールソーシャルワーカーとしての経験

社会福祉特講 I

SWR4601NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

2単位 通年

火曜 5限 火曜 4限

DP6 : 創造・発信力

90

全15コマ

三好 明夫

[科目の教育目標 (Course Description)]

ソーシャルワークの演習・実習指導・現場実習で習得した専門的知識及び技術をさらに向上させることを目指す。社会福祉施設や医療機関等の相談援助においては、利用者の生活実態と取り巻く社会情勢、社会福祉制度や社会保障の動向を理解しておくことが必要とされている。特講 I では、高齢者や障害者、児童家庭福祉、公的扶助や権利擁護、更生保護等の社会福祉制度や社会保障の動向を幅広く学び、具体的なサービスの理解と支援方法の習得を目指す。事例を用いたグループ討議も行い、相談援助に係る知識と技術を実践的に習得する。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

社会福祉を支えるために必要な各種制度や法律を理解し、さまざまな領域で必要とされる専門的価値、倫理、知識、技術を総合的に理解するとともに修得した技術を実践場面で展開また応用できるようにソーシャルワークの在り方をこれまでの総括として説明することができる。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会福祉特講学習をイメージできない。	社会福祉特講学習をイメージできる	社会福祉特講学習をイメージして現実の学習に役立てる	社会福祉特講学習をイメージして主体的学習ができる
知識・理解力	社会福祉特講学習の意味が理解できない	社会福祉特講学習の意味が理解できる	社会福祉特講学習の意味が理解でき、興味がわいてくる	L3に加え特講に対する知識を広く理解しようとする
言語力	社会福祉特講学習での専門用語の意味が理解できない	社会福祉特講学習での専門用語の意味が理解できる	社会福祉特講学習での専門用語を理解し、より深く探求する。	L3に加え特講及び福祉関連の専門用語についても広く理解しようとする

思考・解決力	教えられたこと以外は考えようとしない	現状の状況に当てはめて考えようとする	社会福祉特講と福祉周辺領域の用語の意味理解ができる	L3に加え特講及び福祉関連の専門用語を駆使し解説ができる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞くことができる	考えた結果を他者と共有理解することができる	L3に加え特講で学んだ内容についてさらに深い学びを探求する
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を判断して自分の考えを発信する	新たな検討や振り返りて特講を自身のものにできる	L3に加え特講及び福祉関連の内容を理解して他所に発信する

〔授業計画〕

- 第 1 回 子ども家庭福祉とは何か、子ども家庭福祉にかかわる法制度
児童福祉について考え学ぶ
- 第 2 回 子ども家庭にかかわる福祉・保健と援助活動
児童福祉の課題と将来について考え学ぶ
- 第 3 回 高齢者の特性、少子高齢社会と高齢者
高齢者福祉、老人福祉法についての理解を深める
- 第 4 回 介護保険制度の枠組みと体系、介護の概念や対象、介護過程
介護保険法について理解を深め、介護実践についての知識を学ぶ
- 第 5 回 障害者自立支援制度
障害者のおかれている環境と法律の理解を学ぶ
- 第 6 回 組織・機関の役割、専門職の役割と実際と多職種連携・ネットワーク
障害者を守り育む支援の必要について学ぶ
- 第 7 回 生活保護制度の仕組み、最低生活保障水準と生活保護基準
生活保護法の理解について学ぶ
- 第 8 回 生活保護の動向、低所得者対策の概要と援助活動
生活保護法の課題と今後の展望について
- 第 9 回 社会保障の歴史と構造、財源と費用
社会保障制度の構造理解を学ぶ
- 第 10 回 年金保険制度や医療保険制度の各種保険制度
社会保障制度での各種保険制度をそれぞれ理解して学ぶ
- 第 11 回 地域福祉の発展過程、福祉コミュニティの考え方
地域福祉の意義、展開の必要について学ぶ
- 第 12 回 コミュニティソーシャルワークの考え方や展開
地域福祉推進の援助技術について学ぶ
- 第 13 回 福祉サービスにおける組織、団体と経営
社会福祉の運営管理について理解を深める
- 第 14 回 福祉サービスの管理運営の方法、人事、労務管理、財務管理

社会福祉現場での運営方法の実際についてさまざまな角度から考える

- 第 15 回 社会調査の対象と方法と状況
社会調査の意義、在り方、方法について理解を深める

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材や最新の関連情報の資料を活用します。各回で理解の習熟を振り返るため小テストを実施するとともに最終回では総合テストを実施し解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

当日までにテキストを概読し、授業内容を把握して出席すること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (15点)、小テスト (4点×15=60点)、総合力テスト (25点) の100点満点の合計で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

事前に購入を指示する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 相談援助職として高齢者福祉施設での勤務経験あり。

NPO理事長として非営利活動の運営管理経験あり。

社会福祉特講 II

SWR4602N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

2単位 通年

金曜 5限

DP6 : 創造・発信力

90

全15コマ

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉に対する幅広い視野と知識を身につけ、精神保健福祉士として相談援助や生活支援、リハビリテーションや就労支援、そして家族支援やケアマネジメントなど、地域における精神障害のある人に対する適切な役割を果たす

せる力を身につけるために、4年間での学んだ事項を十分理解し、相談者に理解してもらえるように説明できることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

精神保健福祉に関する歴史や現状の知識を背景に、支援に必要な専門的技術とともに制度や支援システム、そしてさまざまな支援サービスを体系的に整理して理解し説明することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉に関する歴史や現状の知識を背景に、支援に必要な専門的技術とともに制度や支援システム、そしてさまざまな支援サービスを体系的に整理して理解し説明することができる	精神保健福祉の関連施策等について理解し説明できない	精神保健福祉の関連施策等について理解し概要について説明できる	精神保健福祉の関連施策等について理解し精神に障害のある人を支援する際に必要な制度やサービスについて説明できる	さまざまな支援する対象の人にあわせて精神保健福祉の必要な制度やサービス等について説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・精神保健福祉の歴史
- 第 2 回 精神保健福祉法の理解 (定義その他)
- 第 3 回 精神保健福祉法の理解 (精神科入院形態)
- 第 4 回 精神保健福祉法の理解 (隔離拘束等)
- 第 5 回 第1回まとめテストと解説
- 第 6 回 障害者基本法の理解 (合理的配慮・障害者権利条約)
- 第 7 回 障害者総合支援法の理解 (就労支援)
- 第 8 回 障害者総合支援法の理解 (相談支援)
- 第 9 回 障害者総合支援法の理解 (生活支援)
- 第 10 回 第2回まとめテストと解説
- 第 11 回 経済的支援 (障害年金/社会手当)
- 第 12 回 経済的支援 (高額療養費/自立支援医療精神通院)
- 第 13 回 経済的支援 (生活困窮者自立支援法・生活福祉資金)
- 第 14 回 経済的支援 (生活保護)
- 第 15 回 第3回まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、全部で6回のまとめテストと30回目に総合テストを実施し解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (15点)、まとめテスト (10点×6=60点)、総合力テスト (25点) の100点満点の合計で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

事前に購入しているテキストを使用する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 精神保健福祉士として行政機関での勤務経験あり。

社会保障論 I

SWA2200N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 前期

月曜2限

DP2 : 知識・理解力

60

柴田 周二

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

20世紀以降、社会保障は人々の生活に欠かせないものとなった。本講義では現代社会における社会保障の存在意義、理念、歴史、制度の概略など社会保障の基礎を学ぶ。具体的には少子高齢化が急速に進むわが国における社会保障制度を中心に、対象や課題を確認し、欧米を含む社会保障の展開過程を学ぶ。かかる基礎知識を身につけた上で、社会保障の財源及び社会保障を構成する制度群を社会保険と社会扶助の二つに分けて理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①現代社会における社会保障制度の役割を理解する。
- ②社会保障制度の理念と歴史を理解する。
- ③社会保障の財源と費用を理解する。
- ④社会保険と社会扶助の関係を理解する。
- ⑤日本の社会保障制度の概略を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力	社会保障の動向を知ろうとする。	日本の社会保障制度の概要を理解する。	日本の社会保障制度の課題を理解する。	これからの社会保障のあり方を考える。
言語力				
思考・解決力	テストをうける	レポートが作成できる	自らの課題として取り組める	文献などを精査しながら、自分の考えを提示できる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 くらしと社会保障
- 第 3 回 西洋の社会保障の歴史
- 第 4 回 日本の社会保障の歴史
- 第 5 回 社会保障の理念
- 第 6 回 社会保障の概念と範囲
- 第 7 回 社会保障の財源と費用
- 第 8 回 社会保障の機能
- 第 9 回 現代社会における社会保障の課題
- 第 10 回 日本の社会保障制度の体系
- 第 11 回 社会保険の概念と制度
- 第 12 回 社会扶助の概念と制度
- 第 13 回 社会保険と民間保険
- 第 14 回 国民年金（制度の概略）
- 第 15 回 医療保険（制度の概略）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

課題（試験またはレポート）の結果についてはmanaba等で本人に開示する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義を中心に進めるが、適宜、視聴覚教材も取り入れている。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

新聞やテレビなどのニュースに関心をもち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、平常点（15点）、授業中の課題（25点）、定期試験（60点）とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を認めない。

〔留意事項（Other Information）〕

講義の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無〕

特になし。プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『社会保障・社会福祉』/福田素生/医学書院/9784260036894

『家族の条件—豊かさのなかの孤独—』/春日キスヨ/岩波現代文庫/9784006030186

『体験ルポ 世界の高齢者福祉』/山井和則/岩波新書/9784004301868

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会保障論 II

SWA2450N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

月曜 2限

DP4：思考・解決力

60

柴田 周二

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本講義では社会保障 I で学んだ社会保障の基礎的理解に立って、社会保障を構成する各制度を具体的に学び、これからの社会保障のあり方を考えることを目標とする。まずは複雑に分立したわが国の社会保障制度を鳥瞰しながらその全体像を把握する。そして社会保障の主柱である社会保険の原理を理解した上で、年金保険、医療保険、介護保険、雇用保険、労災保険の詳細を学ぶ。さらに公的扶助、福祉サービスを概観し、最後に欧米の社会保障と比較しながら、わが国の社会保障の特質について理解し、これからの社会保障の課題とあり方を検討する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ①年金保険と医療保険の仕組みを理解する。
- ②雇用保険、労災保険、介護保険の仕組みを理解する。
- ③生活保護制度の内容と問題を理解する。
- ④社会手当と社会福祉の概要を理解する。
- ⑤諸外国の社会保障制度の概要を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	社会保障の動向を知ろうとする。	日本の社会保障制度の概要を理解する。	日本の社会保障制度の課題を理解する。	これからの社会保障のあり方を考える。
言語力				

思考・解決力	テストをうける	レポートが作成できる	自分の問題として課題に取り組む	文献などを精査して、自分の考えを提示する
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 国民年金①（保険給付）
- 第 3 回 国民年金②（保険給付）
- 第 4 回 厚生年金①（制度の概略）
- 第 5 回 厚生年金②（保険給付）
- 第 6 回 介護保険（制度の概略と保険給付）
- 第 7 回 ジェンダーと社会保障
- 第 8 回 雇用保険（制度の概略と保険給付）
- 第 9 回 労働者災害補償保険（制度の概略と保険給付）
- 第 10 回 生活保護（制度の概略と扶助の種類）
- 第 11 回 社会手当（児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当）
- 第 12 回 社会福祉（高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉）
- 第 13 回 諸外国の社会保障制度
- 第 14 回 日本の社会保障制度の課題
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

課題（定期試験に替わるレポート）の結果についてはmanaba等で本人に開示する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義（オンライン授業）を中心に進める。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業への参加度（30点）、小テスト（20点）、定期試験に替わるレポート（50点）とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を認めない。

授業への参加度の詳しい説明は、第1回授業の配信資料で行う。

〔留意事項（Other Information）〕

授業の都合上、シラバスを一部変更することもありうる。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

特になし。プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

就労支援

SWR3400N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

1単位 集中

その他

DP4: 思考・解決力

30

全7.5コマ

柴田 周二 矢島 雅子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

地域や福祉の現場で他職種と協働しながら就労支援にかかわる支援者としての知識と技術を身につけることを目標とする。

まずは現在の雇用・就労の動向と労働施策を検討する。

その上で、民間企業等における障害者雇用の状況や、当事者への具体的な支援方法、就労サポートシステムの構築について学ぶ。

続いて低所得者の就労支援に関する制度、当事者への相談援助の方法、就労支援に係わる組織との連携について学ぶ。

（オムニバス方式 全8回）

（矢島雅子／4回）

現在の雇用・就労の動向、障害のある人の雇用・就労の現状、就労支援の方法・現状・課題について理解し、就労支援機関、障害福祉サービス事業所、民間企業等の就労サポートについて学ぶ。

（柴田周二／4回）

低所得者等の就労支援制度の概略と専門職の役割、就労支援の連携について学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ① 現在の雇用・就労の動向を理解する
- ② 相談援助活動における自立支援の観点から、障害者や低所得者に対する就労支援制度の概要について理解する。
- ③ 障害者や低所得者の就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。
- ④ 就労支援の連携と実際について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	就労支援の概要について知ろうとする。	就労支援の制度や方法について理	就労支援の制度や方法をもとに、考えを深め	就労支援に係る専門職の役割を自ら考え、連

		解しようとする。	ようとする。	携の必要性を説明することができる。
知識・理解力	現在の雇用・就労の動向を知ろうとする。	障害者や低所得者に対する就労支援制度の概要を理解している。	就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解している。	就労支援においてどのような連携が必要であるのか理解している。
言語力				
思考・解決力	テストをうける	レポートが作成できる	自らの問題として課題に取り組む	文献などを精査しながら、自分の考えを提示する
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、働くことの意味（矢島雅子）
 第 2 回 雇用・就労の動向（矢島雅子）
 第 3 回 障害者福祉施策における就労支援（矢島雅子）
 第 4 回 障害者雇用施策に係る専門職の役割（矢島雅子）
 第 5 回 低所得者等における就労支援（柴田周二）
 第 6 回 低所得者等の就労支援に係る専門職の役割（柴田周二）
 第 7 回 就労支援の連携と実際（柴田周二）
 第 8 回 まとめ（柴田周二）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義（前半の矢島担当の1～4回は対面授業、後半の柴田担当の5～8回はオンライン授業）を中心に進めるが、適宜、視聴覚教材も取り入れる。

各回授業中に小テストを実施し、理解度を把握する。

各回の小テストは次回授業で全体に対してフィードバックを行い、

レポートの結果についてはmanaba等で本人に開示する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

新聞やテレビなどのニュースに関心をもち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績評価は、授業への参加度（矢島16%、柴田16%）、複数のレポートないし授業中の小テスト（矢島34%、柴田34%）によって行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則

として単位を認めない。授業の参加度などに関する詳しい説明は、第1回授業で行う。

〔留意事項（Other Information）〕

講義の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『新・社会福祉士養成講座〈18〉就労支援サービス』/社会福祉士養成講座編集委員会（編集）/中央法規//978-4-8058-5304-7学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住環境学

LDA2252N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

火曜2限

DP2：知識・理解力

60

竹原 広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕

科学技術の進歩とともに私たちの生活環境は向上し、快適な住宅に暮らしていると考えられている。しかし、毎年続く異常気象や高気密高断熱住宅の課題など、新たな課題も発生している。本科目は環境工学（音、光、熱、空気環境）の基礎知識を習得し、環境要素の制御の仕方を理解する。そして健康、安全、快適な住まいに対する深い理解と実生活への積極的な応用、また近年の新たな課題について環境工学の見地から解を考える。他者のノートやミニッツペーパーの共有を通して自己の理解の客観視と内省を促し学習を深化させる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 建築環境工学を理解する。
2. 各環境要素の基礎的専門用語、指標を習得する。
3. 各環境要素の住生活への影響を理解する。
4. 環境要素を複合的にとらえ、解のない問題を考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力（ノート作成）	ノートを作成しない	資料を写した程度のノートしか作成しない	要点がとらえられている。自発的に収集した情報量が多いノートである	自分なりの気づきや疑問を記述し、知識を再構成したノートを作成している。

知識・理解力	建築環境工学に関する基本的な専門用語の理解ができていない	建築環境工学に関する専門用語や指標を理解している	建築環境の各要素のコントロール方法に関する知識を理解している。	住環境に関する知識を自分なりに統合、再構成し、適切な空間計画のあり方を理解している。
思考・解決力	環境要素と住生活との関連がわからない	音、光、熱、空気と住生活の関連や問題に気づくことができる	音、光、熱、空気の環境要素の物理的特性がそれぞれ人に与える影響や課題、解決への提案ができる	複数の環境要素を複合的にとらえ、総合的な環境評価(解のない問題)を論じることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 9/29 (対面) ガイダンス
授業の方法、評価基準の説明、
第 2 回のための予習の資料説明とノート作成、ノート提出の方法の説明
住環境工学という学問の説明
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 2 回 10/6 (対面) 音環境の基礎
事前知識の確認テスト
ノートの共有
音の 3 要素の確認
音の基礎に関する補足
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 3 回 10/13 (on-line) 静かな環境をつくる、音響計画の基本
ノート作成、ノートの提出
- 第 4 回 10/20 (対面) 音環境のコントロールと計画の総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有
騒音対策、音響計画の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 5 回 10/27 (on-line) 伝熱の基礎、住まいの保温性(保冷性)の基本
ノート作成、ノートの提出
- 第 6 回 11/10 (対面) 熱環境のコントロールと計画の総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有
断熱、熱計画の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 7 回 11/17 (on-line) 結露現象のメカニズム
ノート作成、ノートの提出
- 第 8 回 11/24 (対面) 結露のコントロールと総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有

- 結露のメカニズムとコントロール、湿り空気線図の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 9 回 12/1 (on-line) 体感温度の基礎
ノート作成、ノートの提出
- 第 10 回 12/15 (対面) 体感温度のコントロールと総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有
体感温度指標、標準新有効温度の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 11 回 12/22 (on-line) 安全な空気環境の基本
ノート作成、ノートの提出
- 第 12 回 1/5 (対面) 空気環境の計画と総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有
シックハウス症候群、換気の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 13 回 1/12 (on-line) 光環境、照明計画の基本
ノート作成、ノートの提出
- 第 14 回 1/19 (対面) 光環境の計画と総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有
人工光、昼光の照明計画の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
レポートの提出期限の確認
- 第 15 回 1/26 (対面) 住環境学の総括
レポートの共有
複合的に環境要素をとらえる
ミニッツペーパーの作成と提出、共有

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ブレンド型授業とする。オンライン授業と対面授業を交互に行う。

オンライン授業は、教材に加えて主体的に収集した情報を活用して学びを深めノートを作成する。ノートは評価の対象であり、ルーブリックを参考にする。(要点の把握と情報量、疑問に対して自分なりの解を考える、知識を再構成し気づいたことや自分なりの解釈を加える。)

対面授業は、授業冒頭に知識の確認テストを行う。他者のノートを共有することで理解を深める。主たる授業内容はオンライン授業で習得した知識を自分なりに再構成し、ミニッツペーパーを作成することで正解のない問題に取り組む。第15回(最終回)は最終レポートを共有し、環境工学の視点から住宅の在り方を考える。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

基礎知識の習得においては、学術的な単位や記号、式、評価基準に関しては正しく理解するよう努力すること。また日常の生活体験を通して環境工学を理解し、身の回りにある課題に気づき関心を持つ。疑問をもったことは主体的に調べるなどして情報を得ておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価の方法は、オンライン授業のノート(28)、対面授業の知識の確認テスト(30)、ミニットペーパー(27)、最終レポート(15)である。

ノートは毎回3点を上限とし[資料を写した程度(1点)/要点をとらえ、自発的に収集した情報量が多い(2点)/気づきや疑問を記述し知識を再構築している(3点)]とする。ミニットペーパーは知識の応用化をみる。最終レポートの課題は社会における新たな課題について自分なりの解を見つけるものとする。

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業はブレンド型である。ひとつの単元はオンライン授業1週と対面授業1週を組み合わせる。オンライン授業は基礎知識の習得、対面授業は演習問題や解の無い問題に取り組む。対面授業ではオンライン授業の内容を重複して行うことはない。そのため、オンライン授業でしっかりと知識を習得しておくことが肝要である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『基礎からわかる建築環境工学』/楨究/彰国社//978-4-395-32009-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『生活環境学』/岩田利枝/井上書院/2008/

『建築環境工学』/加藤信介/彰国社/2002/

『やさしい建築環境』/辻原万規彦/学芸出版社/2009/

『図解住居学5 住まいの環境』/図解住居学編集委員会編/彰国社//

『初学者の建築講座 建築環境工学 (第2版)』//市ヶ谷出版社//

表題に環境工学、建築環境工学、建築環境 と銘打った書籍であれば参考になる

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住居学概論 2017年度以降入学者

SLB1201N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

必修

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

・高齢者や障がいを持つ人を含め、個人や家族がライフスタイルを尊重し、環境と共生しつつ、災害にも備えて住ま

いや地域社会でいかに暮らすか自分の考えをもつ(住まいと生活)

・住まいのかたちの変遷や風土との関係を知り、居住者にとって安全で優しい住まいの形をつくるためのデザインを考え表現できる(住まいのかたち)

・健康的で安全、快適な住まいと室内環境を維持していくうえでの住まいや生活の管理の重要性を理解して実践でき、快適性を演出する工夫ができる(住まいの管理と快適性)

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・日本の住宅、および住生活の現状を理解する

・現代日本の住生活の課題と住宅政策について理解する

・実生活の中で住まいと住み方に関する問題を発見する。

・暮らしの基盤としての住生活の重要性を理解し、住居への関心を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
住居学に対する理解	住居学が包含する諸単元についてほとんど認識していない	住居学を構成する諸単元については大体認識している	住居学を構成する諸単元の詳細について理解しているものもあればわからないものもある	住居学を構成する諸単元すべてについて大体理解している。
主体的に学ぶこと	指示されたテキストや資料は見ようとしない。	資料やノートにメモしながら授業を聴く	ノートをとるだけでなく、不明な点は教員や友人に質問する	周囲に質問するだけでなく、他の文献やネットで関連事項を追究する
思考、解決する力	テストやレポート、アンケートにたまにしか参加しない	テキストや授業資料からまとめる形式のテストやレポート、アンケートなら大体まとめられる	自分の意見を求められるアンケートやレポートに対しては、書けたり書けなかったり	常に自分の意見や考えをレポートやアンケートに書ける
創造・発信力	授業中意見を求められなかったり、グループディスカッションの際、自分のことばで話せない	授業中意見を求められなかったりグループディスカッションの際、自分のことばで発信できたりできなかったり。	授業中意見を求められなかったりグループディスカッションの際、自分のことばで話ができる	意見を求められる場面できちっと自分のことばで話すだけでなく、相手や周りの意見を求めたり、意見を集約しようとしたりできる

〔授業計画〕

第1回 サステナブル社会の住まい

- 第 2 回 住まいを取り巻く環境
- 第 3 回 住生活のあり方と変遷
- 第 4 回 住生活のための人間工学
- 第 5 回 住まいの環境調整
- 第 6 回 住まいの空気
- 第 7 回 住まいをつくる材料、構造、構法
- 第 8 回 住まいの安心、安全
- 第 9 回 インテリアデザインと心理効果
- 第 10 回 高齢者と住まい
- 第 11 回 住まいの設備
- 第 12 回 住まいの法律
- 第 13 回 製図（設計図の見方と描き方）
- 第 14 回 ユニバーサルデザイン・エクステリアデザイン
- 第 15 回 まとめ・地球にやさしいエコ住宅

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

住まいと住生活に関するキーワードを予習したうえで講義に臨むことを求める。授業冒頭に実施する確認テストを行い前回授業を振り返って要点を確認することで、学びを深める。

まとめのテストについても直後に解説を行い、授業全体の振り返りを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時に次回のキーワードを伝える。各自次回授業のテキスト関連ページに目を通したり、書籍、ネット情報など収集して予習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

前回授業の確認テスト（13回 65%）とまとめのテスト（25%）、および授業参加状況（参加態度や発言等 10%）により評価する。なお、最終回はまとめのテストとその解説を行うとともに、住まいと地域をめぐる最近の問題について解説する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

私たちの住居学(第2版): サステナブル社会の住まいと暮らし/中根芳一/オーム社//2019/4274223485/学内販売

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住居史

LDA2253N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

木曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

木谷 康子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

①先史から近代にいたる、日本の住居の空間構成や意匠の歴史の変容を、そこで展開される生活のあり様を含め、理解し、自己の見識とする。そのうえで②歴史的に醸成された日本の住まいの特徴と現在の住環境を歴史的視点から評価し、住宅建築の将来の発展について自分なりに考えることができるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 各時代の様式を、そこで展開される生活も含めて理解する 2. 住宅平面や意匠における変容を理解する 3. 支配階級の住宅と庶民住宅それぞれの発展の過程を把握する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
日本の住まいの発展過程と特徴への理解	住まいの歴史の大まかな流れもよくわからない。	日本の住まいの変遷は大体わかる。	住まいの変遷と結果としての日本の住まいの特徴は理解できている。	各時代の住まいの細部まで理解したうえで、近代につながる日本の住まいの変遷や特徴を説明し、将来のあり方を考える。
主体的に学ぶこと	指示されたテキストや配付資料、スライドは見る。	授業中のアンケートには大体参加する。	アンケートには必ず参加するとともに、授業で推奨された建築の見学に行く。	複数建築の見学に行くと同時に、関連文献で自主的に調べたりする。

〔授業計画〕

第 1 回 住居史の視点

第 2 回 竪穴住居の復元

第 3 回 高床住居と平地住居 および原始集落

第 4 回 神社と住宅 古代初期の貴族の邸宅

第 5 回 古代の都市と宮殿

第 6 回 寝殿造 1 敷地と建物構成

第 7 回 寝殿造 2 空間構成としつらえ

第 8 回 平安末期の寝殿造

第 9 回 中世武士の住宅

- 第 10 回 書院造の成立
 - 第 11 回 数奇屋風書院造
 - 第 12 回 庶民住宅の流れ
 - 第 13 回 明治の洋館 上流階級の住まいの近代化
 - 第 14 回 中流層の住宅
 - 第 15 回 和風住居の建築特性 まとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストとパワーポイントにより授業をすすめる。 毎回授業冒頭で前回の振り返りをするので、配付資料やテキストによる復習を行うこと。授業中、受講者の意見を問うアンケートとそれをふまえたディスカッションを行う。なお、実際に授業で取り上げた建築の見学を強く奨励する。最終回のまとめのテストについてはその場で解説し授業全体の振り返りを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバス、およびオリエンテーション時に配付した授業スケジュールにそってテキストを読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度として授業中のmanabaによるアンケートへの参加や毎時間の終わりに提出する受講カードへの記述内容 (25%)、まとめのテスト (60%)、見学記録 (15%) で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『日本建築史図集 新訂第三版』/日本建築学会編/彰国社//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『図説日本住宅史』/太田博太郎/彰国社//

『日本建築史』/藤田勝也 古賀秀策/昭和堂//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住居製図 I

LDA2600N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 前期

火曜 3限

DP6 : 創造・発信力

15

定員20人

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

住宅の計画、設計に欠かせない建築設計製図の基礎知識の理解と製図技法の習得を目指すものである。基本図法を学んだ上で、各種図面の作図、表現方法を演習する。同時に様々な住宅図面を読み取り空間感覚を養うこと、空間に配置される多様なもののスケールへの認識を深めることも合わせて行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

製図法の基礎知識の理解 各種図面の理解と製図技法の習得
〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	製図記号や線種の理解ができていない	平面図において中心線から始まり、壁を描くことができる。	開口部記号や設備記号などを理解し、正しく描くことができる	勾配定規を用いて屋根勾配を正しく描くことができる
創造・発信力	直線になっていない線の強弱や濃淡が適切でない 仕上がりで紙面が汚れている	平面図において製図記号や線種などをについて理解し表現できている	立面図、断面図を正しく美しく表現することができる。	図面に基づいて正しく、美しく立体模型を作成できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 図面の種類、図面記号、図面の描き方
- 第 2 回 木造住宅配置図 トレース課題演習 1 (下書き線)
- 第 3 回 木造住宅平面図 トレース課題演習 2 (壁、柱の下書)
- 第 4 回 木造住宅平面図 トレース課題演習 3 (壁、柱の完成)
- 第 5 回 木造住宅平面図 トレース課題演習 4 (建具、設備)
- 第 6 回 木造住宅平面図 トレース課題演習 5 (文字)
- 第 7 回 木造住宅平面図 トレース課題演習 6 (寸法線)
- 第 8 回 住宅立面図トレース課題演習 1 (下書き線)
- 第 9 回 住宅立面図トレース課題演習 2 (屋根勾配線)
- 第 10 回 住宅立面図トレース課題演習 3 (寸法線)

- 第 11 回 住宅展開図トレース課題演習 1 (屋根勾配線)
 第 12 回 住宅展開図トレース課題演習 2 (設備、部屋名、寸法線、記号)
 第 13 回 住宅模型課題演習 1 (図面とパーツの準備)
 第 14 回 住宅模型課題演習 2 (組み立て)
 第 15 回 まとめ (作成した図面の講評と、図面の種類、製図記号など基礎知識の確認)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

課題の演習を基本とする

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日常目に触れる広告などの図面に興味をもつこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出課題の評価(90)と、授業への参加度(10)などを加味して総合評価する。指定された期限内に課題を提出することが必須条件である。

〔留意事項 (Other Information)〕

科目の性格上、全出席が原則である。初回から必ずテキストを用意すること (テキストの図面をトレースするため)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『建築デザイン製図』/政木哲也/学芸出版社//2018/ /学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新しい建築の製図』/編集委員会編/学芸出版社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住居製図 II

LDA2651N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 後期

火曜 3限 火曜 4限

DP6 : 創造・発信力

15

定員20人 隔週

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

CADによる製図の技法を学ぶ。実習課題 (トレース) を通し、住宅の計画、設計に欠かせない建築設計製図の基礎知識や、各種スペース・設備等のスケール感を養う。CAD操作の仕方を身につけたうえで、自己の設計計画案をCADで描くことができることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 製図法の基礎知識の理解
2. 各種図面の理解と製図技法の習得
3. CAD基本操作の習得
4. 主体的に習得する姿勢、応用的に自ら作図法を構築する姿勢

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
CADによる製図の理解	CAD操作の本質への理解がふじゅうぶん不十分で、わからないコマンドがある	基本的なコマンドの操作は身につけている	印刷や文字、寸法線などの設定についても理解している	教えられた方法だけを鵜呑みにするのではなく自分なりに効率のよい方法を構築する。
主体的に学ぶこと	製図課題が提出できない。	不明な点はその都度教員の指導を受けながら、課題をクリアする	自分でできるだけ試行錯誤しながら課題をこなす	エクストラ課題にも積極的に取り組む

〔授業計画〕

- 第 1 回 9/29 ガイダンス
授業のすすめ方、評価基準の説明、教材の紹介
平面図の理解の確認
- 第 2 回 10/6 CADの基本操作の習得
画層の作成と設定
基準線の作成
- 第 3 回 10/6 CADの基本操作の習得
ブロックの作成
寸法の記入
- 第 4 回 10/20 CADの基本操作の習得
躯体の作成
- 第 5 回 10/20 CADの基本操作の習得
階段、収納の作図 (階段矢印ブロックの作成)
開口部の作成
- 第 6 回 11/10 CADの基本操作の習得
建具の作成
建具の配置
- 第 7 回 11/10 CADの基本操作の習得
家具ブロックの配置
ハッチング
部屋名の記入
- 第 8 回 11/24 CADの基本操作の習得
図面枠ブロックの作成
- 第 9 回 11/24 CADの基本操作の習得
ページ設定の作成
印刷
テンプレートの作成
- 第 10 回 12/15 エクストラ課題の作成

第 11 回 12/15エクストラ課題の作成

第 12 回 1/5エクストラ課題の作成

第 13 回 1/5エクストラ課題の作成

第 14 回 1/19エクストラ課題の作成

第 15 回 1/26エクストラ課題の作成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1.課題の演習を基本とする。
- 2.個々の進捗状況によって、授業外時間を利用し課題の作成を各自すすめておく。
- 3.教員や他の受講者とのコミュニケーションから、積極的にCAD技術を習得する
- 4.自分の習得レベルに応じて各種検定試験に挑戦するなど、能動的に学修する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業についていけるよう事前準備が必要である。事前準備とは、作図に遅れが生じている場合は授業外時間を利用して着実に進めておくことである。授業を欠席した場合も、次回授業までに各自、課題を進めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、CAD操作の基本(64)とエクストラ課題(32)とする。評価のチェック項目は①壁②包絡③建具④設備部品⑤雑線⑥寸法⑦文字⑧図面全体のイメージである。チェックするポイントは作図の正しさで4段階で評価する。

CAD操作の基本(64)は各チェック項目を8点を上限に、エクストラ課題(32)は4点を上限に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業は2コマ連続で隔週とする。(授業日は9/26,10/6,10/20,11/10,11/24,12/15,1/5,1/19,1/26を予定) 初回授業時に授業日の確認をする。

CADの操作演習の授業であるので、毎回の出席が肝要となる。欠席した場合はその分を次回までに授業の空き時間を利用して作業を進めておくこと。また授業時間内に目標まで到達しない場合も同様に次回までに作業を進めておく。コンピュータの操作を指導する授業のため、遅刻、欠席に対する個別対応はできない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

。〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

基礎から学ぶ建CAD～基本操作から作図まで～/テラハウスCAD研究会/彰国社/2016

〔参考URL(URL for Reference)〕

AUTODESKサイト、初心者向けAUTOCADの使い方
<https://www.autodesk.co.jp/solutions/autocad-tutorials>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住生活学

LDA2404N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

木曜4限

DP4: 思考・解決力

60

木谷 康子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

居住面にあらわれる生活様式である「住様式」を主対象とし、その種々相について問題を論じる。近代以降の住宅平面の発展とそれに伴う住様式の変化を理解したうえで、家族の変化や地球環境問題、地域問題や集住などの視点から、今日的な住生活の問題を考察する。最終的に歴史的、社会的背景を認識したうえで住生活のあり方を深く掘り下げて考え、これからの発展すべき方向を主体的に探求していくことを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 住生活、住様式概念とその視点の重要性への理解
2. 住様式の問題に関する過去の研究成果の理解
3. 平面の発展と機能分化過程の把握
4. 以上の知識の上に身の回りの住生活の問題を見極め、より良い方向を考える力を身につける

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
住生活への理解および思考	住生活を考える意義や日本の住様式、日本人の住居観という概念がわからない。	住様式や住居観という概念を理解して、日本の住宅や住生活の近代化の過程が大体理解できている。	住様式、住居観の変遷や日本の住宅や住生活の近代化の過程を把握したうえで、現代の住生活の問題について、ある程度は理解し、それについて自分でも考えられる。	日本の住生活、住宅の近代化への過程をふまえて、現代における住生活の諸課題を理解・思考したうえで、今後の動向についても考え、意見を持つ。
主体的に学ぶこと	指示されたテキストやスライドを見る。復習レポートは書かないこともある。	ノートをとったり配付資料に書き込みをしながら受講する。復習レポートも大体欠かさず書く。	復習レポートは必ず書き、友人のレポートや翌週の講評を参考に、よりよいものに修正する。	毎回の復習レポートの作成と適宜の修正はもとより、テレビや新聞、Webなどから住まいや住生活

				に関わる情報に関心を寄せる。
--	--	--	--	----------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 住まいの意味と住居観 生活様式と住様式
- 第 2 回 住宅平面の分化と住様式の変化
- 第 3 回 公私分離とリビングルーム
- 第 4 回 起居様式の洋式化と和室の動向
- 第 5 回 入浴様式と浴室
- 第 6 回 食生活、衣生活と住まい
- 第 7 回 家族と住生活 家族関係と住生活の問題
- 第 8 回 家族と住生活 ライフサイクルと住まい
- 第 9 回 家族と住生活 世帯の変化と新しい居住のあり方
- 第 10 回 地球環境問題と住まい 自然との応答性ある住まいと住み方
- 第 11 回 地球環境問題と住まい 住まいの寿命と住宅管理
- 第 12 回 地球環境問題と住まい モノの保有と生活財管理
- 第 13 回 住環境と地域生活 地域生活とコミュニティ
- 第 14 回 住環境と地域生活 集合住宅と住生活
- 第 15 回 住環境と地域生活 住民参加とまちづくり まとめのテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

今回の授業内容に関連するテキストページをアナウンスするので、必ず目を通し予習すること。復習として、毎回授業要点をまとめるレポートを作成し、自己のポートフォリオに積み重ねていく。本レポートについては、次週の授業冒頭で提出分を通覧すると同時に、前回授業の要点を振り返る。さらに最終回のまとめのテストでは、直後に解説を行い、授業全体の振り返りを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバスをみて次回授業のテーマを確認しておくこと。そのうえで上記の要領で予習すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

manabaによる前回授業の要点レポート (manabaのポートフォリオとして収録) の作成と毎時間の終わりに提出する受講カードの記述内容 (40%)、まとめのテスト (60%) により評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『住環境の計画1 住まいを考える』//彰国社///学内販売予定あわせて適宜資料を配付する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『住まいを語る—体験記述による日本住居現代史』/鈴木成文/建築資料研究社/2002/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

女性起業論

LDR4202N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

2単位 後期

その他

DP2: 知識・理解力

90

木原 麻子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代の女性を取り巻く社会的変化や、雇用に寄らない働き方の一つとしての起業についての理解を深めるとともに、自ら情報収集、分析、考察をし、将来企業等に就職した場合であっても、正解のない課題に取り組める実践的な力の涵養を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. ライフスタイルや雇用環境など女性を取り巻く社会的変化を理解する
2. 女性による商品やサービス開発の事例を元にその特徴を把握する
3. 新聞や雑誌、文献等からの情報収集と情報整理手法を学ぶ
4. ビジネスプランを作成する
5. 効果的なプレゼンテーションを行う

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

2020年10月10日 (土)

- 第1回 講義オリエンテーション—授業の目的と計画—
- 第2回 女性を取り巻く起業の現状と基礎知識
- 第3回 身近なビジネスアイデアの探索
- 第4回 ビジネスアイデアの検討とディスカッション

2020年11月7日 (土)

- 第5回 女性起業家ゲストによるケーススタディ

- 第6回 女性の視点を活かした商品開発（1）
- 第7回 女性の視点を活かした商品開発（2）
- 第8回 女性の視点を活かした商品開発（3）

2020年12月12日（土）

- 第9回 ビジネスプラン作成の基礎
- 第10回 ビジネスプランの作成（1）
- 第11回 ビジネスプランの作成（2）
- 第12回 中間発表とフィードバック

2021年1月9日（土）

- 第13回 プレゼンテーションとフィードバック（1）
- 第14回 プレゼンテーションとフィードバック（2）
- 第15回 ディスカッションとまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義による解説のほか、小グループのディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなど、受講生の主体的な参加による学習を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

受講生は、日ごろから新聞や雑誌、文献、インターネット等を通じた社会的ニーズや起業に関する情報収集を行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（50%）、授業中に指示する課題の取組み（50%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・本授業は集中講義である。
- ・全日程学内で実施する。
- ・授業予定回を変更して行う場合がある。
- ・本授業では起業に関わる情報収集やプレゼンテーション資料の作成も行うため、受講生は可能な範囲で構わないので、ノートパソコンやタブレット端末を持参すること。少なくともスマートフォンは必携。
- ・授業内で資料を配付する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考となる文献や資料については、授業中適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

民間のベンチャーインキュベーション企業での勤務経験及び女性起業家セミナーのコーディネート経験あり

消費者教育

LDA3400N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 前期

水曜1限

DP4：思考・解決力

60

鬼頭 弥生

〔科目の教育目標（Course Description）〕

私たちの生活は商品やサービスを消費することで成り立っている。2004年の消費者基本法では、消費者の権利を尊重すると共に、消費者の自立を支援することが定められている。しかしその後も、消費者被害は後を絶たない。消費者を取り巻く環境は大きく変化しており、消費者被害の対象は広範囲に及び、問題の内容も複雑化・多様化している。また、社会問題や環境問題の深化から、消費者の責任がますます求められるようになっていく。

本講義では、こうした社会背景をとらえ、情報の理解力や、適切な「選ぶ目、決める力」を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・消費者問題の歴史と消費者を取り巻く新たな環境
- ・製品や取引をめぐる様々な消費者被害の実態
- ・消費者行政の仕組み
- ・消費者の意思決定プロセス
- ・消費行動が社会にもたらす影響
- ・消費者に求められる行動

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自身や周囲の人の消費行動について疑問をもたない	自身や周囲の人の消費行動を客観的にとらえてみようとする	自身や周囲の人の消費行動を客観的にとらえ、その特徴や問題点を見出そうとする	自身や周囲の人の消費行動を分析的にとらえ、そのあり方や教育について考える
知識・理解力	消費行動や消費者問題について関心がない	消費行動や消費者問題の概要について理解する	消費行動や消費者問題について、理論と具体例を関連付けて理解する	消費行動や消費者問題について深く理解し、授業の内容をもとに、自身のことばで説明できる

言語力	消費行動や消費者問題について説明ができない	消費行動や消費者問題のキーワードについて、授業の内容に即して説明ができる	消費行動や消費者問題について、授業の内容に即して説明ができる	消費行動や消費者問題について、自身のことばで説明できる
思考・解決力	「消費者」について興味がない	「消費者」や「消費」について客観的に考えようとする	「消費者問題」や「消費行動の影響」について積極的に考える	自ら「消費者問題」や「消費行動の影響」に関する課題を見出し、その対策や教育方法について積極的に考える
共生・協働する力	他者（友人など）の考えに関心がない	他者（友人など）の考えに関心をもち、意見をきこうとする	意見の交換を積極的に行い、他者（友人など）の考えを踏まえて考えようとする	意見の交換を積極的に行い、他者（友人など）の考えと自身の考えを統合しながら議論する
創造・発信力	自身の考えに自信がもてず、自身の考えを示すことができない	レポート課題などにおいて、自身の意見を整理して示すことができる	レポート課題などにおいて、他者の考えと区別しながら、自身の考えを示すことができる	レポート課題などにおいて、他者の考えと区別しながら、自身の創造性に富んだ考えを示すことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
消費者問題とは何か、消費者教育がなぜ必要かについて解説する。
- 第 2 回 消費者を知る：消費者の認知プロセス
消費者がものごとを認知する際のバイアスや、情報処理の特徴を学ぶ。
- 第 3 回 消費者を知る：消費者の意思決定プロセス
商品・サービスを購入する際に、どのように情報を処理し、決定しているのかについて説明する。
- 第 4 回 消費者問題の歴史
戦後から現在に至るまで、日本ではどのような消費者被害が発生し、問題はどのように変わってきたのかについて説明する。
- 第 5 回 消費者被害の実際：悪質商法による被害
様々な悪質商法による被害の実際とその対策について概説する。
- 第 6 回 消費者被害の実際：生活用品に関する被害

- 生活用品に関する消費者被害の実際とその対策について概説する。
 - 第 7 回 消費者被害の実際：インターネット普及に伴う問題
インターネットの普及に伴う消費者心理の変化と、インターネット普及を背景に生み出された新たな消費者問題の実際とその対策について概説する。
 - 第 8 回 消費者被害の実際：個人情報をめぐる問題
情報化社会のなかで生み出された新たな消費者問題として、個人情報保護の問題とその対策について概説する。
 - 第 9 回 消費者行政・制度
消費者行政の仕組みや法律、消費者被害の救済制度について概説する。
 - 第 10 回 食品安全確保のための制度
消費者の健康保護のための制度として、食品の安全確保の国際レベル・国レベル・企業レベルの仕組みや考え方を説明する。
 - 第 11 回 消費行動の影響：倫理的消費
私たちの消費行動が社会にどのような影響を与えているか、具体的な事例をもとに考える。人や社会、環境に配慮した「倫理的消費」や公正な貿易のしくみである「フェアトレード」についてとりあげる。
 - 第 12 回 消費行動の影響：どのような働きかけが必要か
私たちの消費行動が社会にどのような影響を与えているか、具体的な事例を踏まえて考える。映像教材も交えながら、よりよい社会を生み出すためには私たちはどのように行動すべきか、消費者に対してどのような働きかけが必要かを考える。
 - 第 13 回 企業と消費者の倫理と社会的責任
私たちの消費行動だけでなく、企業の経営行動が社会にもたらす影響を考慮し、その倫理と社会的責任について考える。
 - 第 14 回 消費行動のあり方を考えるワークショップ
消費者個人の行動が社会にもたらす影響を考え、よりよい行動につなげるにあたっては、どのような方法をとることが有効なのか、「ゲームストーミング」という手法を用いたグループワークを通して考える。
 - 第 15 回 消費者に必要とされること
これまでの内容を踏まえて、これから消費者に必要とされること、身につけておくべきことは何かを考える。
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
テキストは使用せず、毎回資料を配布する。スライドや映像教材を活用する。
授業時に提出してもらった感想や、授業時に提出してもらった課題（小レポート）に対しては、授業内で適宜、口頭または配布資料でフィードバックを行う。

また、定期試験の内容の復習を促すため、定期試験終了後に、解答のポイントについてmanabaにおいて講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日常的に消費者問題に関心を持ち、新聞やニュース等で情報を収集しておくこと。授業後に課題を提示するので、次の授業時に提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度と授業態度、課題 (40%)、試験 (60%) で評価する。毎回、授業後に感想を提出してもらう。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内で資料を配布する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新版 生涯消費者教育論—地域消費者力を育むために—』/谷村賢治・小川直樹編/晃洋書房/2007/9784771018570

『新しい消費者教育』/神山久美・中村年春・細川幸一編著/慶應義塾大学出版会/2016/9784766423075

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

障害者福祉論

SWA2250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

金曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現在、国民の約7.6%は何らかの障害を有しているといわれている。障害のある人が日常生活や社会生活を送る上でどのような支援を必要としているのか学び、理解を深める。そして、生活のしづらさを解決する障害者福祉の法制度・サービス体系・支援方法を学び、どうすれば生活上の困難を解決することができるのか解決策を提示できるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 国際障害分類と国際生活機能分類の違いを学び、障害を構造的に理解する。
2. 障害のある人の基本的人権、ノーマライゼーション、リハビリテーションと自立生活運動、エンパワーメント等の理念を学び、理念を学ぶ意義を説明することができる。
3. 戦前から今日に至るまでの障害者福祉制度の発展過程を説明することができる。
4. 障害のある人の生活ニーズについて理解を深め、生活困難を解決する支援方法を提示することができる。
5. 障害者総合支

援法における専門職の役割と多職種との連携について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
障害概念の理解力	国際生活機能分類のことを知らない。	国際生活機能分類が発表されたことは知っている。	国際生活機能分類の成立経緯を説明することができる。	国際生活機能分類の成立経緯と特徴を説明することができる。
理念の理解力	障害者福祉の理念があることを知らない。	障害者福祉の理念があることは知っているが、理念の内容を説明することはできない。	障害者福祉の理念の特徴について説明することができる。	障害者福祉の理念の特徴を説明ことができ、理念の必要性を理解している。
制度の理解力	障害者福祉制度があることを知らない。	障害者福祉制度があることは知っているが、制度の内容を説明することはできない。	障害者福祉制度の経緯と制度の内容を説明することができる。	障害者福祉制度の経緯と制度の内容を説明ことができ、制度の必要性を理解している。
支援方法の考察力	障害のある人のニーズを把握していない。	障害のある人のニーズを把握することができる。	障害のある人のニーズ充足に必要な社会資源を説明することができる。	障害のある人のニーズ充足に必要な社会資源と具体的な支援方法を提示することができる。
専門職の役割の理解力	どのような専門職が支援しているのか知らない。	専門職の法律の位置づけを説明することができる。	専門職の法律の位置づけと業務内容を説明することができる。	専門職それぞれの法律の位置づけや業務内容、役割について説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 障害とは — 国際障害分類と国際生活機能分類 —
- 第 2 回 障害のある人の生活実態 — ゲストスピーカーによる講義 —
- 第 3 回 障害のある人の権利保障 — 障害者権利条約と差別解消法 —
- 第 4 回 障害者福祉の理念 — ノーマライゼーションと自立生活運動 —
- 第 5 回

- 障害者福祉法制度の発展過程 ー戦前の障害者福祉ー
- 第 6 回 障害者福祉法制度の発展過程 ー戦後の障害者福祉ー
- 第 7 回 障害のある人にかかわる法体系① ー障害者基本法ー
- 第 8 回 障害のある人にかかわる法体系② ーその他の法体系ー
- 第 9 回 障害者総合支援法の概要 ー自立支援給付ー
- 第 10 回 障害者総合支援法の概要 ー地域生活支援事業ー
- 第 11 回 障害児に対する支援
- 第 12 回 組織・機関の役割
- 第 13 回 専門職の役割と実際
- 第 14 回 多職種連携・ネットワーク ー多職種連携の事例を通してー
- 第 15 回 今後の障害者福祉の展望

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

パワーポイントと配布資料に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。ワークシートとレポートの課題は個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・各回ワークシートを配付する。
- ・次回の授業までにワークシート (復習と予習の課題) に取り組み、提出する。
- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (50%)、レポート (20%)、授業参加度 (15%)、ワークシート (15%) によって総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第6版』/社会福祉士養成講座編集委員会編/中央法規/2019/9784805851074/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『よくわかる障害者福祉』/小澤温/ミネルヴァ書房/2016/9784623076444

『共生社会を切り開くー障害者福祉改革の羅針盤ー』/佐藤久夫/有斐閣/2015/9784641174092

『新・基礎からの社会福祉④ 障害者福祉』/竹端寛・山下幸子・尾崎剛志他編/ミネルヴァ書房/2014/9784623069675

授業内で参考文献一覧を配付する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食生活概論

SLB1250NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 後期

金曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

必修

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「食べる」ということは、人が生きるために欠かすことのできない行為である。そこで、本授業では、「人はどのように考えて食物を選択するか」について知識や理解力を高める。特に、超高齢社会でより良く生きるために、食生活にかかわる諸問題や各発達段階で選択すべき食物や食生活のあり方について、講義や視聴覚教材を用いながら概観する。また、グループワークやプレゼンテーションによって他者と意見交換しながら、「食生活とはどうあるべきか、食物の選択をどのように考え、実行していくべきか」について自身の考えを明確にし、未来の食生活をより良くする方策を考えていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・超高齢社会と食生活の諸問題、各発達段階における健康と食との関連を理解し、望ましい食物選択について考えることができる
- ・現状の食生活の問題・課題を発見し、解決策を考え、未来の生活に生かすことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	食生活の大切さを理解できない。	わが国の食生活の変化や、食事の大切さがわかる。	自身の食生活を講義で得た知識をもとに評価できる。	食生活改善に必要な内容がわかり、さらに専門書を用いて知識の習得を継続している。
言語力	発言を求められても黙っている。発表をしない。	質問や課題についての発言ができる。	取得した知識を他者に伝えたり、プレゼンテーションすることができる。	自ら説得できる資料を記述し、専門用語を駆使して自分の意見を発信できる。
思考・解決力	与えられた課題に向き合わない。	現代の食生活について考え、評価できる。また、解決策を考えるこ	様々な発達段階の人々の健康維持や食事改善について、専門書をも	実際に生活や将来の生活に目を向け、人々の健康維持や食生活課題

		とができ る。	とに思考 し、課題を 解決する力 を身につけ ている。	を考え、解 決できる能 力がある
--	--	------------	-----------------------------------------	------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・第1章 食生活とは①
：対面授業形式（9月25日）
本講義の進め方、評価の説明、授業の進め方の説明、食生活の概念、食生活と社会の変化
- 第 2 回 第1章 食生活とは②
：対面授業形式（10月2日）
食生活と社会の変化、食生活にかかわる諸問題
- 第 3 回 第2章 日本の食文化とのもとの変遷①
：オンデマンド形式（10月9日）
（食文化・食習慣の概念、食文化と自然環境・異文化の融合、行事・儀礼食と食事形式行事・儀礼食と食事形式、日常食とその変遷、食の地域差と郷土食）
- 第 4 回 第2章 日本の食文化とのもとの変遷②
：対面授業形式（10月16日）
フィードバックとディスカッション
- 第 5 回 第3章 食環境と食生活①
：オンデマンド形式（10月30日）
（食料自給率の変遷と食生活の変化、社会・家庭環境の変化と国際化、食品産業の発展と食生活）
- 第 6 回 第3章 食環境と食生活②
：対面授業形式（11月6日）
（フィードバックとディスカッション）
- 第 7 回 第6章 ライフステージの健康と食生活①
：オンデマンド形式（11月13日）
（乳児期、幼児期、児童期、思春期、壮年期、老年期）
- 第 8 回 第6章 ライフステージの健康と食生活②
：対面授業形式（11月20日）
（フィードバックとディスカッション、妊娠期、授乳期）
- 第 9 回 個人発表とディスカッション①
：対面授業形式（11月27日）
一週間の食事と自己評価の発表①
- 第 10 回 個人発表とディスカッション②
：対面授業形式（12月4日）
一週間の食事と自己評価の発表②
- 第 11 回 個人発表とディスカッション③
：対面授業形式（12月11日）
一週間の食事と自己評価の発表③
- 第 12 回 第4章 ライフスタイルと食生活①
：オンデマンド形式（12月18日）
日本人の生活時間と食生活、生活に伴う情報機器の変化、価値観と食生活
- 第 13 回 第4章 ライフスタイルと食生活②

- ：対面授業形式（1月8日）
フィードバックとディスカッション
- 第 14 回 第5章 日本型食生活①
：オンデマンド形式（1月15日）
日本型食生活の特徴、食習慣と健康のかかわり、食事作法
- 第 15 回 第5章 日本型食生活②・形成テスト
：対面授業形式（1月22日）
フィードバックと本講義の総括及び形成テスト
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
＜教育方法＞
講義形式、オンデマンド形式、個人の発表、グループディスカッション、グループワーク、グループ発表などを取り入れながら授業を進める。
提出レポートは教員がチェックして個々に返却する。発表は他の受講者からコメントをもらい学習成果を振り返る。
＜事前の学習方法＞
・manabaのコンテンツに各種資料をアップする。
・個人発表は、PowerPointを用いたプレゼンテーションを行う。他の受講者に適切に伝わるよう準備する。
・家庭での調べ学習や資料収集など、主体的学習を行うこと。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
・対面授業の際に、全体に向けてコメントする。それをもとに振り返りをするとよい。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・テキストを事前によく読み、疑問点を明確にしておくこと
・ディスカッションやプレゼンテーションでは自発的な学習や情報収集が必要のため、日頃から新聞やニュース、関連のホームページから食生活に関連する情報を得ておくこと
・自分や家族の食事を記録して問題点を見出すこと
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
＜評価基準＞
・食生活の現状や諸問題、各発達段階における健康と食との関係を理解できたか（形成テスト）
・望ましい食物選択について考えることができたか（提出物）
・ディスカッションやプレゼンテーションに積極的に取り組めたか（発表・態度）
＜評価方法＞
・形成テスト（35%）、提出物（35%）、発表（20%）、態度（10%）
- 〔留意事項（Other Information）〕
・この授業はブレンド型授業である。オンデマンド授業のコンテンツは授業日から6日間公開する。それ以降は閲覧することができない。
・この科目は、中高の教員免許「家庭」の「教科に関する科目」である。
・対面授業中の私語、居眠り、飲食など著しく態度が悪い

場合、他の受講者の迷惑となる場合は、退出してもらふこともある。

- ・課題の提出および個人発表を必ず行うこと。
- ・対面授業日の遅刻は授業開始15分までを認める。(交通機関の遅延についてはその限りではない)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『食生活論』/岡崎光子/光生館/2015/978-4-332-04058/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『応用栄養学ライフステージからみた人間栄養学第9版』/森基子ら/医歯薬出版//

『小学校家庭科概論－生活の学びを深めるために』/加地芳子・大塚真理子/ミネルヴァ書房/2011/978-4-623-05994-2

『初めて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ6 応用栄養学 第2版 適切な食生活を実践するための基礎』/奥田あかり・他/化学同人/2015/978-4-7598-1451-4

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食品安全性学

LDR2250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

月曜1限

DP2: 知識・理解力

60

市川 雅美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

食品の流通や加工技術がめざましい発展を遂げ、世界中の食品が輸入・消費される今日において、食品の安全性を関ること、つまり食品による健康障害を起こさないよう、予防対策を講じることは必要不可欠である。食生活の安全を確保するためには、生産者や製造・加工・流通・販売に関わる者、行政だけでなく、消費者も正しい知識を持ち、的確に選択、保存、調理、消費することが必要である。これらの観点から、食品の安全性を高めるための基本的知識を身につけることを本講義の目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 食品の安全を脅かす因子と発生原因を知る。
2. 食品の安全性を高めるための方策を学び、それを食生活に生かす方法を考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	食品の安全性について知ろうとする	食品の安全性を、理論的に理解しようとする	食品の安全性について、理論的に考えを深めようとする	食品の安全性の仕組みを理解する
知識・理解力	食品の安全性の知識を得ようとする	レベル1の知識の曖昧さや欠落に気づく	食品の安全性について正しく知り、理解する	知識を関連づけて統合する
言語力	読む、書く、聞く、話す	事実を書く、話す等の言語表現法を身につける	個別的、具体的な事象から一般的、抽象的な概念に基づいて説明する	根拠や論理に基づき、筋道を立てて考えを説明する
思考・解決力	形成テストに解答する	形成テストを積極的に受け、できなかった問題を再度やってみる	自ら課題を考え、自ら解決していく	文献などを精査しながら、自分の考えを思考する
共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする	友人たちとも一緒に学ぼうとする	課題を一緒に解決しようとする	友人たちと勉強会をする
創造・発信力	形成テストをうける	疑問に思ったこと、興味をもったことを明らかにする	レベル2を課題として、情報の収集・分析を行い、まとめる	レベル3に加えて、思考を整理しながら、論理的に説明する

〔授業計画〕

- 第 1 回 食品の安全性
- 第 2 回 食品の腐敗・変敗とその防止
- 第 3 回 食中毒（食中毒の分類と発生状況、微生物性食中毒）
- 第 4 回 食中毒（微生物性食中毒）
- 第 5 回 食中毒（自然毒食中毒、化学性食中毒、経口的寄生虫疾患）
形成テスト（食中毒まとめ）
- 第 6 回 食品の安全性の確保（食肉・食肉加工品、生鮮魚介類、水産加工品、野菜・果実類、牛乳・乳製品）
- 第 7 回 食品の安全性の確保（鶏卵、惣菜類、弁当・にぎり飯・米飯・調理パン、食用油脂および油脂を多く含む食品、冷凍食品）
- 第 8 回 家庭における食品の安全保持
- 第 9 回 環境汚染と食品
- 第 10 回 器具および容器包装
- 第 11 回 水の衛生
- 第 12 回 食品の安全流通と表示（食品の表示、食品添加物）
- 第 13 回

食品の安全流通と表示（輸入食品、遺伝子組換え食品、食品とアレルギー、発がん物質）

第 14 回 食品の安全管理
形成テスト

第 15 回 形成テスト結果による理解度の確認、まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業方法は講義形式で、スライド、テキストを使用して行い、配布資料で補足する。また、授業中の発問や2度の形成テストの解答に対しては、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 予習

・事前に授業予定部分のテキストを読む。また日頃から食の安全性に関する話題に留意し、食の安全性の現状と問題点を把握しておく。

2. 復習

・受講した内容を復習して知識を定着させるとともに、不明な点を明らかにして質問できるようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30%）、授業態度（20%）、形成テスト（50%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

授業予定回を変更して行う場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『三訂食品の安全性』/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社/2016/9784767905747/学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『食品安全学』/中村好志・西島基弘 編著/同文書院/2005/4810313143077

〔参考URL(URL for Reference)〕

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/attach/1399643.htm

<https://globe.asahi.com/article/12238585>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

食品加工学（実験を含む）

LDA2550N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

3単位 後期

火曜 3限 火曜 4限

DP5：共生・協働する力

75

定員24人 週2コマ連続

加藤 佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は、食品加工の目的、食品成分の化学的変化、食品の物理的性質、製造工程や加工の原理を演習や実験・実習を通して学ぶことを目的とする。さらに、食品の加工方法、包装方法、保存方法についての学びを生かして、日常生活の中で、加工食品を適切に利用できる態度を養い、食品加工に関する基礎知識と技術を身につけることを目指す。実習レポートの作成を通して加工食品についての情報収集力や記述力を磨き、グループ活動を通して協働力を身につけ、相手の立場に立って行動できる態度を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 化学実験の基礎技術（器具装置の扱い方、試料の調整法、試薬の扱い方、データの処理の仕方）を身につける。
2. 定量実験・定性実験の手法・原理を理解する。
3. 食品成分の化学変化、物理的性質を理解する。
4. 食品加工の製造過程、原理を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	食品の加工に興味を持ってない	食品加工のプロセス・原理を理解している	食品加工の科学的、物理的原理を理解し、専門書によって深い知識を身につけている	将来に生かせるように、知識の習得や、食品加工の理解を深める努力継続している
言語力	食品加工について言語で表現しようとしな	専門用語を使用して話せる	専門用語を使用して、加工の原理について記述したり、他者に説明できる	加工の理論や原理を一般の人にも説明ができ、自ら記述した資料で発信できる

思考・解決力	食品加工について、考えないし、課題を解決しようとしていない	加工のメカニズムについて考え、課題解決に向き合っている	食品加工や実験を振り返り、原理や失敗の原因について考え、専門書を用いて解決を試みている	学びをもとに市販食品の加工の原理を考慮することができる。また、自ら食品の加工に取り組み、失敗のない方策を考えられる
共生・協働する力	グループで作業ができない	グループでの協働ができる	他者と協力して、加工食品の製造ができる	リーダーとしてグループをまとめ、活動の困難な他者に働きかけて支援できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、器具・簡単な装置の扱い方
A・Bグループ：対面授業 オリエンテーション 器具の取り扱い方
- 第 2 回 食品のpH、塩分、糖分の測定A/穀類の加工B
Aグループ：対面授業 食品、飲料のpHの測定、食品の塩分と糖度の測定
Bグループ：オンデマンド 穀類の加工
- 第 3 回 食品のpH、塩分、糖分の測定B/穀類の加工A
Aグループ：オンデマンド 穀類の加工
Bグループ：対面授業 食品、飲料のpHの測定、食品の塩分と糖度の測定
- 第 4 回 滴定A/野菜の加工B
Aグループ：対面授業 有機酸の定量・ヨーグルトの酸度の定量
Bグループ：オンデマンド 野菜の加工
- 第 5 回 滴定B/野菜の加工A
Aグループ：オンデマンド 野菜の加工
Bグループ：対面授業 有機酸の定量・ヨーグルトの酸度の定量
- 第 6 回 豆の加工(味噌)A/豆の加工(餡)B
Aグループ：対面授業 豆の加工(味噌の製造)
Bグループ：オンデマンド 豆の加工(餡の製造)
- 第 7 回 豆の加工(味噌)B/卵の加工(餡)A
Aグループ：オンデマンド 豆の加工(餡の製造)
Bグループ：対面授業 豆の加工(味噌の製造)
- 第 8 回 豆の加工(豆腐、湯葉)A/卵の加工B
Aグループ：対面授業 豆の加工(豆腐、湯葉の製造)
Bグループ：オンデマンド 卵の加工(マヨネーズの製造)
- 第 9 回 卵の加工A/豆の加工(豆腐、湯葉)B

- Aグループ：オンデマンド 卵の加工(マヨネーズの製造)
Bグループ：対面授業 豆の加工(豆腐、湯葉の製造)
- 第 10 回 芋の加工A/海藻の加工B
Aグループ：対面授業 いもの加工(こんにゃくの製造)
Bグループ：オンデマンド 海藻の加工(昆布の佃煮)
- 第 11 回 芋の加工B/海藻の加工A
Aグループ：オンデマンド 海藻の加工(昆布の佃煮)
Bグループ：対面授業 いもの加工(こんにゃくの製造)
- 第 12 回 果物の加工A/乳の加工(バター)B
Aグループ：対面授業 果物の加工(マーマレード、林檎ジャムの製造、糖度の測定、瓶詰め)
Bグループ：オンデマンド 乳の加工(カッテージチーズの製造)
- 第 13 回 果物の加工B/乳の加工(バター)A
Aグループ：オンデマンド 乳の加工(カッテージチーズの製造)
Bグループ：対面授業 果物の加工(マーマレード、林檎ジャムの製造、糖度の測定、瓶詰め)
- 第 14 回 乳の加工AB
A・Bグループ：対面授業
乳の加工(ヨーグルト、バターの製造)
- 第 15 回 形成テスト・総括
A・Bグループ：対面授業 形成テスト 授業のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 2~4人のグループで実習する。
- 実験法・操作法の講義と実験または実習で授業を構成する。
- 原則として、所定の授業時間内に完了する内容とするが、必要に応じて時間割上の時間以外にも出席して実験する必要もある。
- 事前に予習をし、実習前のレポートにする。
- 実習後のレポートは結果と考察を記載して提出を行う。
- 積極的に参加し、必ず自分の手で操作する。
- 提出レポートは、コメントをつけて返却するので、それをもとに復習するとよい。
- コロナウイルス感染を避けるために、受講生を半分に分けて対面授業とオンデマンド授業をミックスしたブレンド型授業とする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 教科書、配布冊子を熟読する(授業の内容と関連する教科書のページは以下の通り)。
- レポート作成では、教科書や配布冊子以外に専門書や文献を用いて理解を深めて記述するとよい。
- 食品成分表や食事摂取基準のデータを元に、実験で用

いた食品や加工実験で製造した食品について調べて記述するとよい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価基準・・・レポートの提出ができたか。各実験の原理や食品加工の基礎を理解できたか。意欲的に取り組んでいたか。

評価方法・・・レポート提出52(4点×13) %、レポート内容18%、形成テスト10%、平常点(実験への参加態度・協働)20%。

〔留意事項 (Other Information)〕

・今年度はCOVID-19感染防止のため、少人数での授業を実施するためにブレンド型授業とする。対面授業とオンデマンド授業の日程が学生によって異なるので、間違えないようにすること。

・実験中は、種々の危険が伴うので、安全に気をつけるとともに、私語は慎むこと。

・実験試料・試薬費用、食品加工材料・道具費などの費用を徴収する(実費5000円位)。

・受講生が極端に少ない場合は、実費費用を追加徴収することがある。

・白衣を着用のこと。

・対面授業のレポート提出の期限は、翌週の授業開始前とする。

・材料入手の都合により、予定日を変更する場合がある。

・レポート作成上のルールを守ること。剽窃が認められた場合、当該レポートは不可となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『食品加工学実験書』/森 孝夫/化学同人/2008/9.784759809299E12/学内販売予定

必要に応じて資料を配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『基礎からの食品・栄養学実験』/村上俊男/建帛社/1998/4.767902177E9

『食品加工実習・実験書』/吉田企世子/医歯薬出版/2003/4.263703073E9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食品学

LDA2401N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 前期

月曜2限

DP4: 思考・解決力

60

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

食品中に含有される主要な成分の化学的性質と特徴について学び、多種多様な食品の特性を科学的に説明することができる。また食品の貯蔵・加工・調理の過程で起こる食品成分の変化、さらに成分間での相互作用について理解し、日常生活のなかで食品を適切に選択することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 食品学を学ぶために必要な化学の基礎知識を身につける。
2. 食品をみた時に、その中に含まれる主要成分や特徴的な成分を挙げることができる。
3. 食品中の主要成分や特徴的な成分の働きを説明できる。
4. 貯蔵・調理・加工中に、食品に含まれる成分間で起こる化学反応を説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
食品に対する化学的 理解	食品中の物質の特性を示す化学式(分子式)が理解できない	食品中の物質の特性を示す化学式(分子式)が理解できる	化学式(分子式・構造式)から食品中の物質の特性を理解できる	化学式(分子式・構造式)から食品中の物質の反応性について理解できる
科学的思考	それぞれの食品成分への理解が不十分で、その特徴が正確に説明できない	それぞれの食品成分の特徴が的確に説明できる	食品成分間の相互作用について理論的に説明できる	食品成分間の反応機序について科学的根拠を示して説明できる

〔授業計画〕

- 第1回 水分
- 第2回 炭水化物(単糖類・少糖類・消化性多糖類)
- 第3回 炭水化物(難消化性多糖類)
- 第4回 脂質(脂肪酸)
- 第5回 脂質(酸化)
- 第6回 タンパク質(アミノ酸)
- 第7回 タンパク質(変性)
- 第8回 ビタミンの構造
- 第9回 ミネラルの種類
- 第10回 嗜好成分(色素)
- 第11回 嗜好成分(褐変)

第 12 回 嗜好成分（香り）

第 13 回 嗜好成分（味）

第 14 回 食品のコロイド特性

第 15 回 食品成分の相互作用

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式で授業を行うが、意見や質問など積極的な発言を求めていく。

授業中に実施する小テストについては採点后に解説を行い、定期試験において再度理解度を確認する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

シラバスにそって教科書の該当箇所を予習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

イラスト 食品学総論 / 種村 安子 他 / 東京 教学社 / 2017/9.784808260583E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録/数研出版編集部/数研出版/2014/

9784410273834 C7037

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食品官能評価演習（実験を含む）

LDA2500NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 前期

火曜4限

DP5：共生・協働する力

15

「食品官能評価論」を同年度に履修すること

加藤 佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

望ましい生活を支えるために、市場に出回る多くの個別食品を適切に鑑別できる知識と能力を身につけることを目的とする。加工食品の品種、銘柄、特徴、分類方法、製造方法、保存方法などについての理解を深める。また、個別食品の種類と特徴、品質と取り扱い方法については、事前学習と学習者主導の発表や意見交換を通して知識の定着を

図る。学習者の主体的な市場調査を通して、より身近な食品の鑑別について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

①食品の科学的評価法、物理的評価法を理解する。

②食品の官能評価の方法を実際に体験して理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	食品の官能評価や鑑別に取り組む意欲がみられず、学習によって自身を高めようという意欲がない	食品の官能評価や鑑別に取り組む意欲があり、興味をもって学ぼうとしている	食品の官能評価や鑑別に意欲を持って取り組み、さらに自身を高めようと努力している	将来の職業に学びを生かせるよう、発展的な学習に積極的に取り組み自身の能力を高めようとしている
知識・理解力	食品の官能評価や鑑別について興味がない	官能評価の基本、食品の鑑別について理解しようとしている	官能評価や食品の鑑別について深く理解し、発展的な知識を自らつける努力をしている	官能評価や食品の鑑別に知識を自身の生活や卒論に生かすよう、さらに知識の習得を継続している
言語力	食品の官能評価や鑑別の内容を記述したり、他者に言葉で伝えたりしていない	食品の官能評価や鑑別の内容や演習の結果を専門用語を使用して記述でき、発言できる	食品の官能評価や鑑別の内容や演習の結果を専門用語を用いて他者にわかりやすく説明ができる	適切な表現を用いて学びを卒業研究や将来の職業に生かせるように努力を続けている
思考・解決力	食品の官能評価や鑑別の内容・方法・結果に興味がなく、思考しようとしていない	食品の官能評価や鑑別の内容・方法・結果に興味を持ち、思考しようとしている	食品の官能評価や鑑別の内容・方法・結果について、専門書を用いて原因や理由を考え、解決しようとしている	専門書を用いて、実験結果の理由や根拠を追求し、発展的な内容に踏み込んで考え、考察をしている
共生・協働する力	グループでの活動ができない。一部のものを排除しようとする態度がみられる。	他者と協力して演習や実験に臨んでいる	他者と協力して活動し、他者を援助できる	リーダーとなって、グループ活動を円滑に運べ、理解困難な隣人に働きかけて援助できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 本講義の進め方・評価の方法、実験室・器具の
使い方の説明
食品の品質、食品の官能評価の概要
- 第 2 回 食品官能評価演習 1 (5味の識別)
- 第 3 回 分析方法の解説
食品官能評価演習 2 (2点識別試験法を用いた
分析、閾値の測定1)
- 第 4 回 分析方法の解説
食品官能評価演習 3 (2点嗜好試験法を用いた
分析、閾値の測定2)
- 第 5 回 分析方法の解説
食品官能評価演習 4 (3点識別試験法、閾値の
測定3・4)
- 第 6 回 分析方法の解説
食品官能評価演習 5 (順位法1; スピアマンの
順位相関係数)
- 第 7 回 分析方法の解説
食品官能評価演習 6 (順位法2; Newwell &
MacFarlane)、(順位法3; ケンドールの一致性の
係数)
- 第 8 回 食品の鑑別演習と実験 1 卵の鮮度・調理性の
実験 (ハウユニット測定法)
- 第 9 回 物理的評価法の解説と実験 2 (色・粘度の測定)
測色色差計、音叉式粘度計による食品の色、粘
度の測定
- 第 10 回 物理的評価法の解説と実験 3 (レオロジー・テ
クスチャー測定)
カードメーターを用いた硬さの測定
- 第 11 回 科学的評価法の解説と実験 4 (酵素的褐変: リ
ンゴ、じゃがいも)
- 第 12 回 科学的評価法の解説と実験 5 (非酵素的褐変)
アミノ酸と糖類を用いた褐変実験
- 第 13 回 科学的評価法の解説と実験 6 (糖度・酸度) 滴
定による酸度の測定と糖度計による糖度の測定、
糖酸度の比較
- 第 14 回 分析方法の解説
官能評価法演習 7 (評点法・SD法) マドレーヌ
グループによる食品官能評価の計画
- 第 15 回 官能評価法演習 8 (各グループが立案した食品
官能評価の実践)
まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポ
ート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

<教育の方法>

- ・ 3~4人のグループで実験・演習を行う
- ・ 主に実験、演習を組み合わせた授業を構成する。
- ・ 事前に予習をするとよい。
- ・ 食品官能評価論 (3講時) において理論を理解するとともに、実際に実験や、体験による授業を展開する。

<学習の方法>

- ・ 事前に教科書や専門書で理論をし理解しておく。

- ・ 実験・演習後にレポートを提出する。
- ・ 実験・演習に積極的に参加し、必ず自分で評価してみる。
<課題に対するフィードバックの方法>

・ 提出されたレポートはコメントを入れて返却する。また、
授業内で取り上げて、解説する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ 教科書をよく読むこと。
- ・ 専門書を利用して、さらに深く学習して、授業に臨むこと。
- ・ レポートは、理論、統計手法、結果の考察を学習して記
載するとよい。
- ・ 「食品官能評価論」(火曜日3講時)で行った解説をもとに
実験を行うので、3講時の授業をよく聞いておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価基準・・・レポートの提出ができたか
各評価の方法を理解できたか
統計分析の方法が理解できたか
評価方法・・・レポート提出52%・・・目標①②に対応
レポート内容33%・・・目標①②に対応 授
業への参加度15%目標②に対応

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ 実験・演習中は、種々の危険が伴うので、安全に気をつ
けること。
- ・ 実験・演習中は、白衣を着用すること。
- ・ 実験・演習中、官能評価中は私語を慎むこと。
- ・ 1クラス定員24人とする。
- ・ レポート提出は、翌週の授業開始前とする。
- ・ 授業で使用する試料・試薬代等(実費1000円位)を徴収する。
- ・ 受講生が定員に満たない場合は、実費の追加請求を行う
ことがある。
- ・ 食品官能評価の試料の調達都合で日程を変更すること
がある。

・ 3講時開講の「食品官能評価論」を同時(同じ年度)に登
録しなければ履修できない。

・ レポート作成上のルールを守ること。剽窃が認められた
場合、当該レポートは不可となるので注意されたい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

『新版 食品官能評価・鑑別演習第3版』/日本フードスペシ
ヤリスト協会編/建帛社///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『おいしさを測る食品官能評価の実際』/古川秀子/幸書房//

『調理科学実験』/大羽和子, 川端明子/学研書院//

『官能評価士テキスト』/日本官能評価学会/建帛社//

『調理と食品の官能評価』/松元仲子/建帛社//

2012/9.784767904504E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食品官能評価論

LDA2402N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 前期

火曜3限

DP4：思考・解決力

30

定員24人 「食品官能評価演習（実験を含む）」を同年度に履修すること

加藤 佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

望ましい生活を支えるために、市場に出回る多くの個別食品を適切に鑑別できる知識と能力を身につけることを目的とする。加工食品の品種、銘柄、特徴、分類方法、製造方法、保存方法などについての理解を深める。また、個別食品の種類と特徴、品質と取り扱い方法については、事前学習と学習者主導の発表や意見交換を通して知識の定着を図る。学習者の主体的な市場調査を通して、より身近な食品の鑑別について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ①食品の科学的評価法、物理的評価法を理解する。
- ②食品の官能評価の方法を理解する。
- ③個々の食品に関する知識を身につけ、食品の鑑別に役立てることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	食品の鑑別や自分の生活改善に興味がない。個別課題に取り組まない。	課題に一生懸命取り組み、自身の能力を高めようとしている。	課題をやり遂げ、成長したことを実感し、さらに次の段階を目指そうとしている。	学びを将来の職業に生かせるよう発展的な内容にも取り組み、自身の能力を高めようとしている。
知識・理解力	官能評価や食品鑑別の理論について興味がなく、理解しようとしていない。	官能評価や食品の鑑別について基礎理解ができています。	割当られた食品鑑別の知識に加えて、他者の発表内容も十分に理解している。	食品の鑑別や官能評価の知識を日常生活や卒業研究などに生かすことができる。

言語力	課題の提出をレポートやワークシート等に言語化することができないし、口頭での表現もできない。	官能評価や食品の鑑別に関する専門用語を使用して、記載したり発表したりできる。	官能評価や食品の鑑別について、専門用語を用いて他者に説明ができる。	学びを受講生以外の人たちにわかりやすく解説することができる。
思考・解決力	食品の鑑別や官能評価の方法の理論に興味がない。	食品の鑑別や官能評価について出された課題を解決する方策を思考している。	食品の鑑別や官能評価の課題を自分で思考し、解決できる力がある。	専門書を用いて、さらに発展的な内容にまで踏み込んで思考し、解決することができる。
共生・協働する力	グループでの活動ができない。	他者と協力して課題解決に向けた話し合いに臨める。	他者を助け、活動を円滑に進めることができる。	リーダーとしてグループをまとめたり、理解困難な隣人に働きかけて援助できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 本講義の進め方・評価の方法の説明
食品の品質、食品の官能評価の概要
- 第 2 回 食品官能評価の基本・実施法の講義とDVD視聴
5味の識別の方法
- 第 3 回 分析方法の解説
閾値について 閾値測定法の解説
- 第 4 回 分析方法の解説
食品官能評価演習（2点嗜好試験法、閾値の測定2）方法の解説
食品の鑑別理論 1（米・小麦粉製品）
- 第 5 回 分析方法の解説
食品官能評価演習（3点識別試験法、閾値の測定3・4）の解説
食品の鑑別理論 2（そば・イモ類）
- 第 6 回 分析方法の解説
食品官能評価演習（順位法1；スピアマンの順位相関係数）の解説
食品の鑑別理論 3（豆類・種実類、海藻類）
- 第 7 回 分析方法の解説
食品官能評価演習 6（順位法2；Newwell & MacFarlane）、（順位法3；ケンドールの一致性の係数）の解説
食品の鑑別理論 4（肉類）
- 第 8 回 食品の鑑別演習について 卵の鮮度・調理性の実験(ハウユニット測定法)の解説
食品の鑑別理論 5（卵とその加工品）
- 第 9 回 物理的評価法の解説(色・粘度の測定)
食品の鑑別理論6（野菜類・キノコ類・果実）

- 第 10 回 物理的評価法の解説 (レオロジー・テクスチャー測定)
食品の鑑別理論 7 (乳と乳製品)
- 第 11 回 科学的評価法の解説(酵素的褐変)
食品の鑑別理論8 (魚介類とその加工品・油脂)
- 第 12 回 科学的評価法の解説(非酵素的褐変)
食品の鑑別理論 9 (果実類・醸造食品・調味料)
- 第 13 回 科学的評価法の解説(糖度・酸度)
食品の鑑別理論10 (コーヒー・ココア、茶類、清涼飲料)
- 第 14 回 分析方法の解説
官能評価法演習 (評点法・SD法)
グループによる食品官能評価の計画
食品の鑑別理論11 (菓子類インスタント食品・弁当・惣菜)
- 第 15 回 食品の鑑別理論の形成テストと解説
全体のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

<教育の方法>

- ・講義と演習を組み合わせた授業を構成する。
- ・学習者の自立学習を主とする。学習者が主体となった授業を展開する。

<学習の方法>

- ・事前に予習をする。
- ・ワークシートを作成しその問題を解くとともに解説できるよう準備する。
- ・積極的に参加する。

<課題に対するフィードバックの方法>

- ・形成テストは、テスト終了後、正解を配布し、適宜解説する。
- ・ワークシートへの記入は、教科書を熟読することで達成できる。未回答の箇所があった場合には、個別にコメントをしたり、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・教科書を事前によく読むこと
- ・個別食品鑑別についてのワークシートを分担して作成し、それをを用いて予習・復習をすること。
- ・専門書を利用して、さらに深く学習するとよい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価基準・・・ワークシートの作成及びその提出ができたか
個別食品の鑑別に関する知識が身についたか

評価方法・・・問題ワークシートの提出40%・・・目標の①②に対応

解答したワークシート(回答付き)の提出
30%・・・目標①③に対応

形成テスト30%・・・目標①②③に対応

〔留意事項 (Other Information)〕

・本科目(火曜日3講時前期)は、「食品官能評価演習(実験を含む)」(火曜日4講時前期)と同じ年度に履修しなければならない(2つの科目をそれぞれ違う学年で履修することはできない)。

・1クラス定員24人とする。

・教科書の内容を分担して問題作成(ワークシート)を行い、その提出をしなければならない

・指示されたワークシートに回答を記入して提出をしなければならない。

・食品の鑑別理論は学習者主体の授業形式により進めるので、事前学習が必要である。

・提出期日に遅れた場合は、特別の理由のある場合を除き、「未提出」となる。

・私語、居眠りをしている人はその都度教室内で注意をする。改善がみられない場合は面接指導を行う。

・レポート作成上のルールを守ること。剽窃が認められた場合、当該レポートは不可となるので注意されたい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新版 食品官能評価・鑑別演習第3版』/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『おいしさを測る食品官能評価の実際』/古川秀子/幸書房//

『調理科学実験』/大羽和子, 川端明子/学研書院//

『官能評価士テキスト』/日本官能評価学会/建帛社//

『調理と食品の官能評価』/松元伸子/建帛社/
2012/9.784767904504E12

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食品流通論

LDR2251N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

金曜5限

DP2: 知識・理解力

60

山野 薫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

食品は生きるうえで不可欠なものであり、かつ身近なものである一方、その背後にある生産・流通のシステムは複雑化・多様化しており、私たち消費者からは見えにくい。本講義では、食生活の変化、食品が農場から食卓に至るまでの仕組み、生産・加工・流通にかかわる事業主体の行動や各段階の特徴についての知識を習得し、理解することを目標とする。食についての現状を把握し、私たちが直面している食をめぐる問題や課題について考えられるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・食生活の変化とその背景
- ・フードビジネス (小売業、卸売業、外食産業、中食産業)の行動や特徴
- ・主要食品の流通
- ・現在の食品消費の課題

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	食について興味を持つ	食品をとりまく状況を理解しようとする	食品について考えを深められる	食をめぐる状況を理解し、自分の考えを述べることができる
思考・理解力	講義を聞く	講義を聞き、課題やレポートを作成する	講義内容を理解し、自らの考えを反映させた課題やレポートを作成することができる	講義内容を理解し、現代の社会状況や自らの考えを踏まえた課題やレポートを作成することができる
創造・行動力	講義を聞く	日常生活のなかで、講義に登場したキーワードを思い出すことができる	日常生活のなかで、講義で得た知識を活用できる	講義で得た知識を活用し、自分に合ったライフスタイルを構築できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
食生活や食品生産・流通の仕組みを理解する意義について、フードシステムという概念をもとに説明する。
- 第 2 回 食生活の変化
現在の私たちの食生活の特徴について理解する。食生活形態の変化や、変化の要因について説明する。
- 第 3 回 品目別食品消費の変化
コメ、野菜、畜産物などの品目別消費量の変化や、食の変化を示すキーワードについて学ぶ。
- 第 4 回 卸売市場
生鮮品の流通に大きな役割を果たしている卸売市場について説明する。
- 第 5 回 卸売流通
加工食品を扱う食品問屋 (食品卸) について、その役割と近年の動向を説明する。
- 第 6 回 小売流通
食品小売業について学ぶ。スーパーマーケットなどを取り上げ、その運営の仕組みや商品政策について説明する。
- 第 7 回 外食産業

チェーンレストランなどを取り上げ、その運営の仕組みや食材供給システムについて解説する。

- 第 8 回 中食産業
主にコンビニエンスストアを取り上げ、その運営の仕組みや今後の動向などについて説明する。
- 第 9 回 主要食品の流通 (1)
主要食品を取り上げ、その流通の仕組みと消費特性を学ぶ。米、小麦粉製品、野菜・果物、魚介類および食肉の流通について取り扱う。
- 第 10 回 主要食品の流通 (2)
主要食品を取り上げ、その流通の仕組みと消費特性を学ぶ。乳製品、大豆加工品、惣菜食品、飲料などについて取り扱う。
- 第 11 回 フードマーケティング
フードビジネスによるマーケティングを理解する。マーケティングの基礎的な用語を理解する。
- 第 12 回 環境問題と食
食にかかわる環境問題、また環境保全のための国や企業の取り組みについて解説する。さらに食品廃棄・ロスの現状についても説明する。
- 第 13 回 食品の安全確保
食品の安全確保のための考え方や、そのための仕組みを解説する。リスクアナリシスの仕組みと、企業における食品安全管理システム (HACCP など) を学ぶ。
- 第 14 回 食料生産と消費者
現代の食品や農産物の認証制度、販売と消費の傾向などを解説し、それに向き合う消費者の役割について考える。
- 第 15 回 食品の表示と認証制度
食品に添付される様々な表示と認証制度について説明し、その役割を学ぶ。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを用いて、講義形式で授業を行う。必要に応じて、レジュメや資料を配布する。
授業時には適宜、感想や課題 (小レポート) を提出してもらい、復習を兼ねた小テストを実施する。提出物に対しては、授業内で口頭または配布資料などでフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日ごろから食に関することに興味を持ち、新聞・ニュース等を通じて情報を収集すること。事前にテキスト (授業予定分) を読んでおくこと。授業終了時に課題を提示することがあるので、次回の授業時に提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度 (20%)、提出課題・小テスト (20%)、定期試験 (60%) で評価する。毎回講義後に、感想を提出してもらう。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『三訂 食品の消費と流通』/日本フードスペシャリスト協会/建帛社/2016/9784767905389/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『食料経済ーフードシステムからみた食料問題ー』/高橋正朗・清水みゆき編著/オーム社/2016/9784274219221

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

農林水産関係の企業勤務経験を活かし、現場で実際に起きていることや、最先端の情報・話題をわかりやすく紹介します。

精神科リハビリテーション学 I

SWR3201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 前期

火曜4限

DP2 : 知識・理解力

60

勇川 昌史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 精神保健福祉を取り巻く状況の変化に対応し、関連する歴史や制度を体系的に理解する
2. 精神保健福祉士が拠り所にする理念を理解し、実践へ向けた基礎を築く
3. 精神保健福祉の向上を目的に、社会的な課題を発見し社会との接点に介入する力を養う

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 精神医療の特性と精神障害者に対する支援の基本的考え方を理解する
2. 精神科リハビリテーションの構成と精神保健福祉士の役割について理解する
3. 精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術の活用方法について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 精神障害とはー精神疾患と障害の理解
- 第 2 回 精神障害者に対する支援の基本的な考え方
- 第 3 回 諸外国の精神保健医療福祉の歴史と動向
- 第 4 回 日本の精神保健医療福祉の歴史と動向
- 第 5 回 精神科リハビリテーションとはーその理念、意義
- 第 6 回 精神科リハビリテーションとはー構成と展開
- 第 7 回 日本における精神科リハビリテーションの現状ー諸外国との比較
- 第 8 回 精神科リハビリテーションのプロセスー回復と支援プロセス
- 第 9 回 精神科リハビリテーションのプロセスーライフサイクルと支援プロセス
- 第 10 回 精神保健福祉士の役割
- 第 11 回 医療的リハビリテーションー専門療法
- 第 12 回 医療的リハビリテーションー家族教育プログラム・デイケア
- 第 13 回 医療的リハビリテーションーアウトリーチ・チーム医療
- 第 14 回 精神障害者支援の実践モデル
- 第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

基本はテキストに沿った事業を展開するが、現在の精神保健福祉を取り巻く状況をおさえ、精神保健福祉士として現場で使える知識を獲得する。国家試験受験への意欲向上と実力養成を図る。講義、視聴覚教材、プリントなど。講義時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。最終講義日に試験を実施し、その場で答え合わせを実施し、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

能動的な学習態度で履修して下さい。

まずは様々なことに疑問を持ち、自ら調べ、文献を読み、質問をすること等で、知識を深めていって下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験 (70%)、授業参加 (30%)。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新精神保健福祉士養成講座 (4) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』//中央法規///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり 現在精神保健福祉士として障害福祉サービス事業所での就労支援業務、相談支援業務、また社会福祉法人の理事長として施設運営を行う。

精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ

SWR4503N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

1単位 前期

木曜2限

DP5：共生・協働する力

45

佐藤 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

精神保健福祉士としての専門的な支援が可能となるよう、ケースワーク、グループワーク等や事例検討などによって体験的に学ぶことによって体得し、それらを体系的に説明できるとともに、精神に「障害」のある人に対して適切な支援が提供できる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術として、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。また、実習の振り返りから自己覚知を進め、実践力を強める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉援助実習を終え修得した精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術	精神保健福祉援助における精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できない	精神保健福祉援助における精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる	精神保健福祉援助における精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を状況や場面にあわせて実践できる	精神保健福祉援助における精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を地域の実情をふまえて実践できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習の振り返り－自己覚知 個別
- 第 2 回 実習の振り返り－自己覚知 グループ
- 第 3 回 実習事例の検討<医療機関の事例>
- 第 4 回 実習事例の検討<福祉施設>
- 第 5 回 実習事例の検討<総合的な観点からの検討>
- 第 6 回 精神保健福祉士の倫理の実践
- 第 7 回 精神保健福祉士の倫理とジレンマ
- 第 8 回 事例演習－医療に結びつける援助

第 9 回 事例演習－危機的状況における援助

第 10 回 事例演習－児童虐待・DV

第 11 回 事例演習－地域ネットワーク

第 12 回 事例演習－社会資源の開発

第 13 回 セルフヘルプへの支援技術

第 14 回 セルフヘルプへの支援技術－事例に基づいて

第 15 回 まとめ－精神保健福祉士の専門的援助技術とは何か

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。授業中に適宜口頭でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストの該当部分を概読してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（100点）で評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座（8）精神保健福祉援助演習（基礎・専門）第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2016 /978-4-8058-5313-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示す。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示す。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

SWR4501N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

2単位 前期

金曜1限

DP5：共生・協働する力

90

知名 純子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本講義では、精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としています。人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ことについて考えます。（1）地域生活支

援について、(2) 精神障害者ケアマネジメントについて、
(3) 障害者が地域で生活すること等について、「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ」での学びをさらに展開させ、生活者支援の視点から具体的事例に基づき理解を深めていきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークの応用
 - (2) 精神障害者支援のためのチームアプローチ
 - (3) 個別支援に必要なコミュニティの構築について
- 〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション～精神保健医療福祉の歴史と動向～
- 第 2 回 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識
- 第 3 回 精神科リハビリテーションの概念と構成
- 第 4 回 精神科リハビリテーションのプロセス
- 第 5 回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開
- 第 6 回 精神障害者のケアマネジメント
- 第 7 回 精神障害者支援の実践モデル
- 第 8 回 地域を基盤にした相談援助活動の意義と展開
- 第 9 回 地域において主体的に生活すること
- 第 10 回 地域に根ざした包括的な支援活動
- 第 11 回 地域における資源の動員とネットワーキングの実際
- 第 12 回 地域における支援の具体的事例検討
- 第 13 回 多職種の専門性
- 第 14 回 精神保健福祉士と多職種との連携
- 第 15 回 試験、内容と全体のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループディスカッション、ロールプレイ、発表など参加型の授業を行いたいと思います。将来的に精神保健福祉士としての実践の基盤となる理論や技術の応用力の習得を目指します。

各課題、テーマについて、「自分はどう考えるのか」、そし

て「周囲の他の学生はどんな意見を持っているのか」に着目して授業を受けてください。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの該当箇所を事前に読んで概要をつかんでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間 (指定する資料やメディアに目を通しておくこと)

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (60点)・試験 (40点) の総合評価とする。参加型の授業スタイルのため、欠席、遅刻は他の受講生の迷惑になりますし、授業で得られる成果も不十分なものになります。十分留意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

各回において、グループワークを基に、事例や現状の課題について一緒に考えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (新カリキュラム対応) 第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』/日本精神保健福祉士養成協会/中央法規/2012/
参考文献は随時、紹介していきます。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

精神保健福祉論Ⅲ

SWR4500N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

2単位 前期

木曜1限

DP5 : 共生・協働する力

90

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神障害者の支援においてかかわる関連の法や施策について学ぶことにより理解し、それらを体系的に説明でき、対象者に応じた適切な制度の説明や活用を可能にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 精神保健福祉の関連施策について理解し説明できる。
- 2) 更生保護制度と医療観察法について理解し説明できる
- 3) 社会資源開発にかかる社会調査の概要と活用について理解し説明できる

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉の関連施策について	精神保健福祉の関連施策について	精神保健福祉の関連施策について	精神保健福祉の関連施策について	さまざまな支援する対象の人にあ

理解し説明 できない	理解し説明 できる	理解し概要 について説明 できる	理解し精神 に障害のあ る人を支援 する際に必 要な制度や サービスに ついて説明 できる	わせて必要 な制度やサ ービスにつ いて説明で きる
---------------	--------------	------------------------	--------------------------------------------------------------------	----------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 精神障害者と社会保障制度
- 第 2 回 社会保障制度と社会福祉制度
- 第 3 回 医療保険制度
- 第 4 回 介護保険制度
- 第 5 回 生活保護制度
- 第 6 回 年金保険制度
- 第 7 回 社会手当・雇用保険など
- 第 8 回 相談援助に係わる行政組織と民間組織
- 第 9 回 福祉サービス提供施設・機関の役割
- 第 10 回 刑事司法と更生保護制度（1）司法の仕組み
- 第 11 回 刑事司法と更生保護制度（2）更生保護
- 第 12 回 医療観察法の意義と内容（1）目的と対象
- 第 13 回 医療観察法の意義と内容（2）制度と課題
- 第 14 回 社会調査の意義と目的
- 第 15 回 量的調査法と質的調査法の違いと活用における留意点

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。授業最初に毎回行う小テストで理解を確認します。小テストは終了後自ら採点し、答え合わせをしながら解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（50点）、授業の最初に毎回行う小テスト（50点）で評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

教科書を使って授業をするので必ず購入すること。なおこの教科書は精神保健福祉論Ⅱ（2年次配当）と同じであるので、その教科書でよい。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『新・精神保健福祉士養成講座（6）精神保健福祉に関する制度とサービス 第4版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2018/978-4-8058-5596-6/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 佐藤 純 精神保健福祉士として行政機関での勤務経験あり。

卒業研究

SLS4600A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

青木 加奈子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）

(2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）

(3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。
- ・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。
- ・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。
- ・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》実務経験等：

- 竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり
- 三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり
- 佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり
- 酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり
- 安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600B0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）
 - (2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）
 - (3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）
- 詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。
- ・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。
- ・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。
- ・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》実務経験等：

- 竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり
- 三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり
- 佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり
- 酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり
- 安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600C0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

加藤 佐千子

【科目の教育目標 (Course Description)】

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

【授業計画】

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

60

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

以下の点を総合的に評価する。

(1)卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）

(2)卒業論文要旨（体裁、構成力）

(3)口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

【留意事項 (Other Information)】

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600D0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

酒井 久美子

【科目の教育目標 (Course Description)】

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある

主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組むが、自ら問題解決することができない	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼン内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼン内容が明確である	口頭試問において、プレゼン内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンテーションをすることができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者として高度な専門性を有している

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
 実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）
- (2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）
- (3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。
- ・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。
- ・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。
- ・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

- 竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり
- 三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり
- 佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり
- 酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり
- 安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600E0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

佐藤 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文 (論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等)

(2) 卒業論文要旨 (体裁、構成力)

(3) 口頭試問結果 (プレゼンテーション、質疑応答)

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600F0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

竹原 広美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人

間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文 (論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等)

(2) 卒業論文要旨 (体裁、構成力)

(3) 口頭試問結果 (プレゼンテーション、質疑応答)

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の

経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600G0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

藤原 智子

【科目の教育目標（Course Description）】

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

【授業計画】

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

60

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

以下の点を総合的に評価する。

(1)卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）

(2)卒業論文要旨（体裁、構成力）

(3)口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

【留意事項（Other Information）】

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、

発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600H0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

三好 明夫

【科目の教育目標（Course Description）】

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

【授業計画】

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文 (論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等)

(2) 卒業論文要旨 (体裁、構成力)

(3) 口頭試問結果 (プレゼンテーション、質疑応答)

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600IOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を

解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文 (論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等)

(2) 卒業論文要旨 (体裁、構成力)

(3) 口頭試問結果 (プレゼンテーション、質疑応答)

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600J0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

4年次

8単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

安川 涼子

【科目の教育目標（Course Description）】

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

【授業計画】

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

60

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）

(2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）

(3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

【留意事項（Other Information）】

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削

指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

【テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）】

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

調理学

LDA2451N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

月曜2限

DP4：思考・解決力

60

藤原 智子

【科目の教育目標（Course Description）】

食生活における調理の意義を、基本的な調理操作や調理による食品成分の変化を学ぶことにより理解し、各々の食品素材に起こる調理過程の諸現象について科学的に説明でき、必要かつ適切な調理操作が判断できる。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

1. おいしさの要因を多角的に理解する。
2. 各種調理操作の物理化学的メカニズムを理解する。
3. 食品成分の調理過程における変化を学び、それぞれの調理特性を理解する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
調理の意義に対する理解	基本的な調理操作のそれぞれの特徴を理解できない	基本的な調理操作のそれぞれの特徴を理解できる	基本的な調理操作の特徴を化学的、物理学的視点で理解できる	レベル3に加えて、調理操作によって「食品」が「食べ物」になることの意義を科

				学的に捉えることができる
科学的思考	調理による食品成分の変化について、基本的な内容を説明できない	調理による食品成分の変化について、基本的な内容を説明できる	調理による食品成分の変化について、基本的な内容を化学的、物理学的観点から説明できる	レベル3に加えて、的確な科学的根拠を示して、調理による食品成分の変化を予測できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 おいしさの化学的要因
- 第 2 回 おいしさの物理的要因
- 第 3 回 調理操作 (湿式加熱)
- 第 4 回 調理操作 (乾式加熱)
- 第 5 回 調理操作 (誘電加熱・誘導加熱・非加熱)
- 第 6 回 調味
- 第 7 回 米の調理
- 第 8 回 小麦粉の調理
- 第 9 回 いも類・豆類の調理
- 第 10 回 野菜・果物の調理
- 第 11 回 肉・魚の調理
- 第 12 回 卵・牛乳の調理
- 第 13 回 砂糖・油脂の調理
- 第 14 回 ゲル化剤の調理
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で授業を行うが、意見や質問など積極的な発言を求めていく。

授業中に実施する小テストについては採点后に解説を行い、定期試験において再度理解度を確認する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバスにそって教科書の該当箇所を予習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (20%)、小テスト (30%)、定期試験 (50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

栄養科学シリーズNEXT基礎調理学/大谷貴美子・松井元子編/講談社サイエンティフィック/2017/9784061553941/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

NEW調理と理論/山崎清子他/同文書院/2014/9784810313956

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

調理学実習

LDA3500N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 前期

木曜 3限 木曜 4限

DP5 : 共生・協働する力

60

週2コマ連続 定員24人

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

実践を通して、基本的な調理操作と食品素材の調理特性について理解し、調理技術の基礎を修得することにより、自他の食生活を健全で豊かなものとするために必要な力を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 科学的な調理理論に基づいた調理操作を理解する。
2. 基礎的な調理技術を身につける。
3. 基本的な食事マナーやサーブの仕方を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識	調理学・食品学・栄養学等で学んだ知識を調理操作に利用できない	調理学・食品学・栄養学等で学んだ知識を調理操作に利用できる	調理学・食品学・栄養学等で学んだ知識を体系的に整理したうえで、調理理論として調理操作に横断的に利用できる	レベル3に加えて、自ら科学的な根拠に基づいて判断し、必要な調理操作を選択できる
思考・解決力	食品の特徴や調理過程で起こる変化について、自ら考察することなしに調理操作を行う	食品の特徴や調理過程で起こる変化について、自ら考察しながら調理操作を行うことができる	食品の特徴や調理過程で起こる変化について、自ら考察しながら調理操作を行い、知識と関連づけて技能を高めることができる	レベル3に加えて、科学的根拠に基づいた創造的な工夫を思考し、発展的な技術・技能を自ら開発することができる
共生・協働する力	グループで協力体制を構築することができない	グループで協働して、課題に取り組むことができる	グループ内で、自分の役割を積極的に見つけ、よりよい成果を	レベル3に加えて、クラス全体の動線にも留意し、それぞれの課題

			げるために 協働できる	の遂行が円 滑に行える よう配慮が できる
--	--	--	----------------	--------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・実習の進め方について
- 第 2 回 調理の基本操作①はかる (製菓)
- 第 3 回 調理の基本操作②浸出 (だしを取る)・炊く (日本料理製作)
- 第 4 回 調理の基本操作③切る・ゆでる (西洋料理製作)
- 第 5 回 調理の基本操作④炒める (中国料理製作)
- 第 6 回 調理の基本操作⑤煮る・味をつける (日本料理製作)
- 第 7 回 調理の基本操作⑥焼く (西洋料理製作)
- 第 8 回 調理の基本操作⑦天火焼 (製菓)
- 第 9 回 調理の基本操作⑧蒸す (中国料理・点心製作)
- 第 10 回 調理の基本操作⑨揚げる (日本料理製作)
- 第 11 回 調理の基本操作⑩寄せる (製菓)
- 第 12 回 調理の基本操作⑪混合 (西洋料理製作)
- 第 13 回 調理の基本操作⑫魚をさばく (日本料理製作)
- 第 14 回 調理の基本操作⑬電子レンジ調理 (西洋料理製作)

第 15 回 まとめテストと解説、実習室の清掃

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習内容についての説明 (資料配付) の後、グループごとに調理、試食を行う。

片付け、掃除を終え、担当者の確認を得るまでが授業である。また、毎回提出を求めるレポート課題については、コメントを添えて次週に返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、課題レポートを作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業参加度 (30%)、課題レポート (50%)、まとめテスト (20%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回到食材費、その他諸費として12,000円を徴収し、最終回に残金を返却する。

授業内で資料配付を行う。

実習時には白衣を着用する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

新版トータルクッキング健康のための調理実習/大喜多祥子・濱口郁枝編著/講談社/2017/9784061398436C3077/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

NEW調理と理論/山崎清子他/同文書院/2014/9784810313956
日本食品標準成分表2020

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展調理学実習

LDA3552N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

2単位 後期

木曜 3限 木曜 4限

DP5 : 共生・協働する力

60

調理学実習

週2コマ連続 定員24人

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

各国の料理や日本の行事食などの製作を通して、献立から調理、テーブルコーディネートに至るまでに必要不可欠な要素を理解し、食文化に関する様々な場面に対応できる力を身につける。さらにグローバルな視点で豊かな食生活環境を自ら構築していく姿勢を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 様々な場面における献立の組み方と調理操作の流れを理解する。
2. 食卓の整え方を学び、食文化について造詣を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	世界の食文化や食事マナーについて理解することができない	世界の食文化や食事マナーについて理解することができる	世界の食文化や食事マナーについて、社会情勢によるその変容も含めて理解することができる	レベル3に加えて、分子ガストロノミーなど革新的料理様式についても理解することができる
思考・解決力	それぞれの背景となる風土(自然と歴史)をふまえて日本各地あるいは世界の食文化について考察することができない	それぞれの背景となる風土(自然と歴史)をふまえて、日本各地あるいは世界の食文化について考察することができる	レベル2に加えて、時代の流れの中で変容していく食文化をいかに継承していくべきか問題意識を持つことができる	レベル3に加えて、時代の流れの中で変容していく食文化をいかに継承していくか、根拠に基づいた自らの考えを示すことができる

共生・協働する力	日本各地あるいは世界の食文化を尊重することができない、あるいは積極的に体験しようとしていない	日本各地あるいは世界の食文化を尊重し、積極的に理解して授業の中で体験しようとする姿勢をもつ	レベル2に加えて、日本各地あるいは世界の食文化について、書物や文献を通して深く学び、知り得た情報を授業の中で積極的に共有することができる	レベル3に加えて、年齢や出身地の違う人々と積極的に食に関する交流の機会をもち、そこで得た情報を授業の中で適切に共有することができる
----------	------------------------------------------------	-----------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・テーブルマナー
- 第 2 回 日本料理の特徴
- 第 3 回 西洋料理の特徴
- 第 4 回 中国料理の特徴
- 第 5 回 エスニック料理の特徴
- 第 6 回 ベジタブルカービング① 大根のマーガレット・人参の麦穂
- 第 7 回 ベジタブルカービング② 西瓜のバラ
- 第 8 回 酵母食品（製パン）
- 第 9 回 日本の飲み物と製菓
- 第 10 回 行事食① クリスマス料理
- 第 11 回 行事食② 正月料理
- 第 12 回 外国の飲み物と製菓
- 第 13 回 保存食品
- 第 14 回 行事食③ 雛祭り料理
- 第 15 回 まとめテストと解説、実習室の清掃

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

実習内容についての説明（資料配付）の後、グループごとに調理、試食を行う。

片付け、掃除を終え、担当者の確認を得るまでが授業である。また、毎回提出を求めるレポート課題については、コメントを添えて次週に返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回、課題レポートを作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30%）、課題レポート（50%）、まとめテスト（20%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

初回到に食材費、その他諸費として12,000円を徴収し、最終回に残金を返却する。

授業内で資料配付を行う。

実習時には白衣を着用する。

前提科目として調理学実習を受講しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

新版トータルクッキング健康のための調理実習/大喜多祥子・濱口郁枝編著/講談社/2017/9784061398436C3077/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

NEW調理と理論/山崎清子他/同文書院/2014/9784810313956
日本食品標準成分表2020

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

服飾心理学 2017年度以降入学者

LDA2250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 後期

木曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

牛田 好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

被服の社会・心理的機能には3つあるとされる。第1は「自己の確認・強化・変容」機能、第2は「情報伝達機能」、第3は「社会的相互作用の促進・抑制」機能である。それらの機能を理解し、日常生活をよりよく営める能力を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

次の3つの社会・心理的機能に着目し、被服に関する人間の行動を解明する。

1. 自己の確認・強化・変容機能
2. 情報伝達機能
3. 社会的相互作用の促進・抑制機能

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業での発言	・発言しない	・好き嫌いでの意見や単なる感想にとどまる。	・他者の意見への賛成や反対を表明し、自分の意見を発言する。	・根拠を示して説得的な意見を述べたり、新たな。
レポートおよびプレゼンテーション課題選択・設定	・選択・設定されない	・特に理由なく選択・設定する。	・単なる興味・関心の中から選択・設定にとどまる。	・課題と自己との関係を説明・課題と社会との関係を説明できる。
引用した資料や文献の理解度	・コピー・アンド・ペースト	・不適切な引用や誤読・引用と	・内容の一部のみ説明・恣意的な引用と説	・引用した資料や文献の枠組みに沿って、客

		意見の混在している。	明がみられる。	観的に記述が説明されている。
自分自身の意見	・コピー・アンド・ペースト	・好き嫌いでの意見や単なる感想にとどまる。	・引用した資料や文献と関係のない意見・第三者の意見の引用がみられる。	・根拠を示して、論理的に資料や文献の内容に対する意見が述べられている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
授業の進め方の説明、被服や身体装飾への社会心理学アプローチについて
- 第 2 回 被服と自己意識(1)
(1) ボディイメージとは
- 第 3 回 被服と自己意識(2)
(2) 社会で形成されるボディイメージ
- 第 4 回 被対と服人認知(1)
(1) 印象管理
- 第 5 回 被服と対人認知(2)
(2) 自己管理、自己呈示、役割理論
- 第 6 回 被服と非言語コミュニケーション
被服が伝えるもの
- 第 7 回 被服と対人行動
被服が他者に与える影響
- 第 8 回 被服と集合行動
制服について考える
- 第 9 回 被服とジェンダー
ジェンダーと被服行動
- 第 10 回 流行
流行の普及と採用
- 第 11 回 グループディスカッション
興味のあるテーマについて、話し合う
- 第 12 回 個人発表(第1グループ)
各自テーマを設定し、プレゼンテーション
- 第 13 回 個人発表(第2グループ)
各自テーマを設定し、プレゼンテーション
- 第 14 回 課題、授業内試験
授業の質疑応答および試験、レポート提出
- 第 15 回 まとめ
レポート課題、試験返却および解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に、講義形式で行うが、DVD視聴、グループディスカッション、個人発表などを取り入れながら授業を進める。

課題および授業内試験については、第15週授業で返却し、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ほぼ、毎回の授業で小課題をだすので、普段から新聞や雑誌などを読み、社会情勢に敏感になっておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(30%)、試験(30%)、レポートおよび発表 (40%) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『21世紀の社会心理学シリーズ8 被服構想の社会心理学』/高木修(監修) /北大路書房/1999/4-7628-2161-6

『被服と化粧の社会心理学』/高木修(監修) /北大路書房/1996/4-7628-2058-X

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉住環境デザイン

LDA2405N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

2単位 前期

火曜 2限

DP4 : 思考・解決力

60

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

科学技術の進歩は住宅においても目覚ましいものがあり、こういった技術を導入するべく住まいの造りは変わり、新しい設備器具などが次々と開発されている。一方、人間の営みは長い年月の間に営々と築きあげられてきたものである。そのため、時には人がモノと均衡がとれない事態も生じ、この場合多くは人側に障害が表れ安全性が脅かされる。本来人間が持つ機能や特性を活かした住宅のあり方が求められる。講義では特に建築的側面からの人間工学について、人間の身体的、動作的、心理的、生理的特性に沿った住宅環境や設備のあり方について理解すること、日常生活における課題に気づき、解決する能力を養うことを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 生活空間における建築・住宅意匠のあり方
2. 空間感覚の体得
3. 建築・住宅設備の基礎的デザインへの理解
4. 公共空間の建築計画の基礎知識の修得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	空間スケールについて理解していない	空間スケールについて理解する	人間工学に基づいた空間デザインを理解する	人間工学に基づいた空間デザインを計画することができる
思考・解決力	身の回りのスケール感について理解できない	適切なスケールについて理解でき、不適切な箇所がわかる。	不適切な場合に適切になるよう解決できる。	空間的にも、心理的にも人間にとって快適な空間計画ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 人間工学とは
- 第 2 回 人体寸法を利用した建築・住宅各部位設計寸法
- 第 3 回 作業域
- 第 4 回 作業域を考慮した住宅設備環境のあり方
- 第 5 回 動作寸法
- 第 6 回 動作寸法と動作空間
- 第 7 回 単位空間の考え方（生活行為と動線からみた住宅計画）
- 第 8 回 行動・動作特性を考慮した空間・設備計画
- 第 9 回 心理特性を考慮した空間計画
- 第 10 回 公共空間の建築計画 1（図書館、美術館、劇場）
- 第 11 回 公共空間の建築計画 2（オフィスビル、病院、サイン計画）
- 第 12 回 高齢化に伴う身体機能の変化
- 第 13 回 高齢者のための建築環境のあり方 1（段差・階段）
- 第 14 回 高齢者のための建築環境のあり方 2（浴室）
- 第 15 回 形成テストとまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストを使った講義が中心であり、適宜配布するプリントで欠を補う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストに目を通し、関連ある事項については自ら調べるなどして授業にのぞむこと。また人間工学的配慮が日常生活のどのような場面で活かされているか、関心をもつこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、形成テスト(90)と平常点(10)である。これにレポート課題が加わる場合は形成テスト(75)、レポート(15)、授業の参加度(10)となる。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『建築計画の基礎』/西出和彦/数理工学社//978-4-901683-64-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『空間デザインの原点』/岡田光正著/理工学社//

『インテリアの計画と設計』/小原二郎編/彰国社//

『人間の空間』/R.ソマー著/鹿島出版会//

『人間工学入門』/人間工学研究会編/日刊工業新聞社//

『建築計画(改訂版)』/長澤泰/市ヶ谷出版社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅠA

SLF1300A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 前期

金曜 3限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

竹原 広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、本学での学習に必要な基礎的技能を修得するとともに、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を身につけることを目的とする。また、本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは福祉生活デザイン基礎演習Ⅱの評価に加える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

本を読んで要約する力	要約することができない	本を読んで指定された箇所を要約できる	著者の意図を踏まえて適切に要約できる	本全体における指定された章の位置づけを把握しながら著者の意図を踏まえて適切に要約できる
ディスカッションをする力	資料を準備してディスカッションに参加できない	資料を準備してディスカッションに参加する	メンバーの議論を踏まえてさらにディスカッションを深めることができる	メンバーの議論を踏まえてディスカッションをする中で新しい見方や考え方を創造できる
要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成する力	レポートを作成できない	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえて、さらに文献を調べ内容を深めたレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成し、素地の中で新しい見方や考え方を深めた考察を入れられる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
キャリア自己形成システムの確認
- 第 2 回 ノートのとり方
- 第 3 回 テキストの読み方
- 第 4 回 テキスト 1 : 「要約」
要約の仕方
- 第 5 回 テキスト 1 : 「意見」
意見の書き方
- 第 6 回 テキスト 1 : 「ディスカッション」
ディスカッション、議事録の書き方
- 第 7 回 テキスト 1 : 「レポート」
レポートの書き方
- 第 8 回 テキスト 2 : 「要約」
- 第 9 回 テキスト 2 : 「意見」
- 第 10 回 テキスト 2 : 「ディスカッション」
- 第 11 回 テキスト 2 : 「レポート」
- 第 12 回 テキスト 3 : 「要約、意見」
- 第 13 回 テキスト 3 : 「ディスカッション」
- 第 14 回 テキスト 3 : 「レポート」
- 第 15 回 全体の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、福祉生

活デザイン基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。

- 2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。
- 3) 毎週出される課題は必ず行うこと。
- 4) 課題は、教員に提出する前に受講生同士でまわし読みを行う。ほかの受講生の成果物を参考に、言葉の選び方や表現の仕方等を学ぶこと。また翌週には教員が添削をして返却するので、指摘された箇所を次の課題では修正できるように復習に努めること。

- 5) テキスト：別途購入を指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第 1 回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ 改訂版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2016/4874246508/学内販売予定

その他は別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅠB

SLF1300B0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 前期

金曜 3限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、本学での学習に必要な基礎的技能を修得するとともに、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、

歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を身につけることを目的とする。また、本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは福祉生活デザイン基礎演習Ⅱの評価に加える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
本を読んで要約する力	要約することができない	本を読んで指定された箇所を要約できる	著者の意図を踏まえて適切に要約できる	本全体における指定された章の位置づけを把握しながら著者の意図を踏まえて適切に要約できる
ディスカッションをする力	資料を準備してディスカッションに参加できない	資料を準備してディスカッションに参加する	メンバーの議論を踏まえてさらにディスカッションを深めることができる	メンバーの議論を踏まえてディスカッションをする中で新しい見方や考え方を創造できる
要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成する力	レポートを作成できない	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえて、さらに文献を調べ内容を深めたレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成し、その中で新しい見方や考え方を深めた考察を入れられる

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
キャリア自己形成システムの確認
- 第2回 ノートのとり方
- 第3回 テキストの読み方
- 第4回 テキスト1:「要約」
要約の仕方
- 第5回 テキスト1:「意見」
意見の書き方
- 第6回 テキスト1:「ディスカッション」

ディスカッション、議事録の書き方

- 第7回 テキスト1:「レポート」
レポートの書き方
- 第8回 テキスト2:「要約」
- 第9回 テキスト2:「意見」
- 第10回 テキスト2:「ディスカッション」
- 第11回 テキスト2:「レポート」
- 第12回 テキスト3:「要約、意見」
- 第13回 テキスト3:「ディスカッション」
- 第14回 テキスト3:「レポート」
- 第15回 全体の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。
- 2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。
- 3) 毎週出される課題は必ず行うこと。
- 4) 課題は、教員に提出する前に受講生同士でまわし読みを行う。ほかの受講生の成果物を参考に、言葉の選び方や表現の仕方等を学ぶこと。また翌週には教員が添削をして返却するので、指摘された箇所を次の課題では修正できるように復習に努めること。
- 5) テキスト: 別途購入を指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第1回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ 改訂版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2016/4874246508/学内販売予定

その他は別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅠC

SLF1300C0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 前期

金曜3限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、本学での学習に必要な基礎的技能を修得するとともに、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を身につけることを目的とする。また、本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは福祉生活デザイン基礎演習Ⅱの評価に加える。

〔授業計画〕

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス
キャリア自己形成システムの確認 |
| 第2回 | ノートのとり方 |
| 第3回 | テキストの読み方 |
| 第4回 | テキスト1：「要約」
要約の仕方 |
| 第5回 | テキスト1：「意見」
意見の書き方 |
| 第6回 | テキスト1：「ディスカッション」
ディスカッション、議事録の書き方 |
| 第7回 | テキスト1：「レポート」
レポートの書き方 |
| 第8回 | テキスト2：「要約」 |
| 第9回 | テキスト2：「意見」 |
| 第10回 | テキスト2：「ディスカッション」 |
| 第11回 | テキスト2：「レポート」 |
| 第12回 | テキスト3：「要約、意見」 |
| 第13回 | テキスト3：「ディスカッション」 |
| 第14回 | テキスト3：「レポート」 |
| 第15回 | 全体の振り返り |

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。
- 2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。
- 3) 毎週出される課題は必ず行うこと。
- 4) 課題は、教員に提出する前に受講生同士でまわし読みを行う。ほかの受講生の成果物を参考に、言葉の選び方や表現の仕方等を学ぶこと。また翌週には教員が添削をして返却するので、指摘された箇所を次の課題では修正できるように復習に努めること。
- 5) テキスト：別途購入を指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第1回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ 改訂版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2016/4874246508/学内販売予定

その他は別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅠD

SLF1300D0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 前期

金曜 3限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、本学での学習に必要な基礎的技能を修得するとともに、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を身につけることを目的とする。また、本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは福祉生活デザイン基礎演習Ⅱの評価に加える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
本を読んで要約する力	要約することができない	本を読んで指定された箇所を要約できる	著者の意図を踏まえて適切に要約できる	本全体における指定された章の位置づけを把握しながら著者の意図を踏まえて適切に要約できる
ディスカッションをする力	資料を準備してディスカッションに参加できない	資料を準備してディスカッションに参加する	メンバーの議論を踏まえてさらにディスカッションを深めることができる	メンバーの議論を踏まえてディスカッションをする中で新しい見方や考え方を創造できる

要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成する力	レポートを作成できない	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえて、さらに文献を調べたレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成し、素地の中で新しい見方や考え方を深めた考察を入れられる
----------------------------	-------------	----------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
キャリア自己形成システムの確認
- 第2回 ノートのとり方
- 第3回 テキストの読み方
- 第4回 テキスト1：「要約」
要約の仕方
- 第5回 テキスト1：「意見」
意見の書き方
- 第6回 テキスト1：「ディスカッション」
ディスカッション、議事録の書き方
- 第7回 テキスト1：「レポート」
レポートの書き方
- 第8回 テキスト2：「要約」
- 第9回 テキスト2：「意見」
- 第10回 テキスト2：「ディスカッション」
- 第11回 テキスト2：「レポート」
- 第12回 テキスト3：「要約、意見」
- 第13回 テキスト3：「ディスカッション」
- 第14回 テキスト3：「レポート」
- 第15回 全体の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。
- 2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。
- 3) 毎週出される課題は必ず行うこと。
- 4) 課題は、教員に提出する前に受講生同士でまわし読みを行う。ほかの受講生の成果物を参考に、言葉の選び方や表現の仕方等を学ぶこと。また翌週には教員が添削をして返却するので、指摘された箇所を次の課題では修正できるように復習に努めること。
- 5) テキスト：別途購入を指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第1回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ 改訂版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2016/4874246508/学内販売予定

その他は別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅠE

SLF1300E0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 前期

金曜 3限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、本学での学習に必要な基礎的技能を修得するとともに、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を身につけることを目的とする。また、本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは福祉生活デザイン基礎演習Ⅱの評価に加える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
本を読んで要約する力	要約することができない	本を読んで指定された箇所を要約できる	著者の意図を踏まえて適切に要約できる	本全体における指定された章の位置づけを把握しながら著者の意図を踏まえて適切に要約できる
ディスカッションをする力	資料を準備してディスカッションに参加できない	資料を準備してディスカッションに参加する	メンバーの議論を踏まえてさらにディスカッションを深めることができる	メンバーの議論を踏まえてディスカッションをする中で新しい見方や考え方を創造できる
要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成する力	レポートを作成できない	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえて、さらに文献を調べたレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成し、素地の中で新しい見方や考え方を深めた考察を入れられる

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
キャリア自己形成システムの確認
- 第2回 ノートのとり方
- 第3回 テキストの読み方
- 第4回 テキスト1:「要約」
要約の仕方
- 第5回 テキスト1:「意見」
意見の書き方
- 第6回 テキスト1:「ディスカッション」
ディスカッション、議事録の書き方
- 第7回 テキスト1:「レポート」
レポートの書き方
- 第8回 テキスト2:「要約」
- 第9回 テキスト2:「意見」
- 第10回 テキスト2:「ディスカッション」
- 第11回 テキスト2:「レポート」
- 第12回 テキスト3:「要約、意見」
- 第13回 テキスト3:「ディスカッション」
- 第14回 テキスト3:「レポート」
- 第15回 全体の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。

2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。

3) 毎週出される課題は必ず行うこと。

4) 課題は、教員に提出する前に受講生同士でまわし読みを行う。ほかの受講生の成果物を参考に、言葉の選び方や表現の仕方等を学ぶこと。また翌週には教員が添削をして返却するので、指摘された箇所を次の課題では修正できるように復習に努めること。

5) テキスト：別途購入を指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第1回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ 改訂版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2016/4874246508/学内販売予定

その他は別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ A

SLF1250A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2：知識・理解力

60

必修 クラス指定

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

4つのテーマワークでの体験から広く福祉生活デザインの基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につける	生活と福祉に関わる知識を説明できない	生活と福祉に関わる複数領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる3つ以上の領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる知識を広く総合的に説明できる

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス

キャリア形成カルテの確認

第2回 テーマワーク①-1「食べる」

(日常の食事)

第3回 テーマワーク①-2「食べる」

(ティータイムのもてなし)

第4回 テーマワーク②-1「装う」

(衣服素材の理解)

第5回 テーマワーク②-2「装う」

(身体形態の理解とデザイン実習)

第6回 テーマワーク①②のふりかえり・学びの共有

(基礎演習Ⅱのクラス別授業)

第7回 テーマワーク③-1「住まう」

(光について学ぶ)

第8回 テーマワーク③-2「住まう」

(スケール感覚を養う)

第9回 テーマワーク④-1「支える」

- (傾聴)
- 第10回 テーマワーク④-2「支える」
(マネープランニング)
- 第11回 テーマワーク⑤-1「支える」
(車いす体験)
- 第12回 テーマワーク⑤-2「支える」
(要介護者の食事と援助方法)
- 第13回 テーマワーク③④⑤のふりかえり・学びの共有
(基礎演習Ⅱのクラス別授業)
- 第14回 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳと合同授業
- 第15回 全体のふりかえり
キャリア形成カルテの確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。この各クラス内で2~3人程度の小グループを構成し、小グループごとに4つのテーマワークに取り組む。
- 2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。
- 3) 4つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活と福祉の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。
- 4) 各担当教員へ提出された課題は、担任を通して返却される。指摘されている部分は復習をし、次の課題を作成するさいに修正できるように努めること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%

(2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

〔留意事項 (Other Information)〕

「食べる」「装う」「住まう」「支える」の各テーマワークを小グループごとに2回ずつ体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。

テーマワークの担当者 (予定)

「食べる」: 加藤佐千子、藤原智子

「装う」: 牛田好美、安川涼子

「住まう」: 中村久美、竹原広実

「支える」: 三好明夫、酒井久美子、青木加奈子

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途案内する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅡB

SLF1250BOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 後期

金曜3限

DP2: 知識・理解力

60

必修 クラス指定

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

4つのテーマワークでの体験から広く福祉生活デザインの基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につける	生活と福祉に関わる知識を説明できない	生活と福祉に関わる複数領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる3つ以上の領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる知識を広く総合的に説明できる

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
キャリア形成カルテの確認
- 第2回 テーマワーク①-1「食べる」
(日常の食事)
- 第3回 テーマワーク①-2「食べる」
(ティータイムのもてなし)
- 第4回 テーマワーク②-1「装う」
(衣服素材の理解)
- 第5回 テーマワーク②-2「装う」
(身体形態の理解とデザイン実習)
- 第6回 テーマワーク③④のふりかえり・学びの共有
(基礎演習Ⅱのクラス別授業)
- 第7回 テーマワーク③-1「住まう」
(光について学ぶ)
- 第8回 テーマワーク③-2「住まう」
(スケール感覚を養う)
- 第9回 テーマワーク④-1「支える」

- (傾聴)
- 第10回 テーマワーク④-2「支える」
(マネープランニング)
- 第11回 テーマワーク⑤-1「支える」
(車いす体験)
- 第12回 テーマワーク⑤-2「支える」
(要介護者の食事と援助方法)
- 第13回 テーマワーク③④⑤のふりかえり・学びの共有
(基礎演習Ⅱのクラス別授業)
- 第14回 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳと合同授業
- 第15回 全体のふりかえり
キャリア形成カルテの確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。この各クラス内で2~3人程度の小グループを構成し、小グループごとに4つのテーマワークに取り組む。
- 2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。
- 3) 4つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活と福祉の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。
- 4) 各担当教員へ提出された課題は、担任を通して返却される。指摘されている部分は復習をし、次の課題を作成するさいに修正できるように努めること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%

(2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

〔留意事項 (Other Information)〕

「食べる」「装う」「住まう」「支える」の各テーマワークを小グループごとに2回ずつ体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。

テーマワークの担当者 (予定)

「食べる」: 加藤佐千子、藤原智子

「装う」: 牛田好美、安川涼子

「住まう」: 中村久美、竹原広実

「支える」: 三好明夫、酒井久美子、青木加奈子

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途案内する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅡC

SLF1250C0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

必修 クラス指定

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

4つのテーマワークでの体験から広く福祉生活デザインの基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につける	生活と福祉に関わる知識を説明できない	生活と福祉に関わる複数領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる3つ以上の領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる知識を広く総合的に説明できる

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
キャリア形成カルテの確認
- 第2回 テーマワーク①-1「食べる」
(日常の食事)
- 第3回 テーマワーク①-2「食べる」
(ティータイムのもてなし)
- 第4回 テーマワーク②-1「装う」
(衣服素材の理解)
- 第5回 テーマワーク②-2「装う」
(身体形態の理解とデザイン実習)
- 第6回 テーマワーク①②のふりかえり・学びの共有
(基礎演習Ⅱのクラス別授業)
- 第7回 テーマワーク③-1「住まう」
(光について学ぶ)
- 第8回 テーマワーク③-2「住まう」
(スケール感覚を養う)
- 第9回 テーマワーク④-1「支える」

- (傾聴)
- 第10回 テーマワーク④-2「支える」
(マネープランニング)
- 第11回 テーマワーク⑤-1「支える」
(車いす体験)
- 第12回 テーマワーク⑤-2「支える」
(要介護者の食事と援助方法)
- 第13回 テーマワーク③④⑤のふりかえり・学びの共有
(基礎演習Ⅱのクラス別授業)
- 第14回 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳと合同授業
- 第15回 全体のふりかえり
キャリア形成カルテの確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。この各クラス内で2~3人程度の小グループを構成し、小グループごとに4つのテーマワークに取り組む。
- 2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。
- 3) 4つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活と福祉の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。
- 4) 各担当教員へ提出された課題は、担任を通して返却される。指摘されている部分は復習をし、次の課題を作成するさいに修正できるように努めること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%

(2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

〔留意事項 (Other Information)〕

「食べる」「装う」「住まう」「支える」の各テーマワークを小グループごとに2回ずつ体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。

テーマワークの担当者 (予定)

「食べる」: 加藤佐千子、藤原智子

「装う」: 牛田好美、安川涼子

「住まう」: 中村久美、竹原広実

「支える」: 三好明夫、酒井久美子、青木加奈子

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途案内する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅡD

SLF1250DOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

必修 クラス指定

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

4つのテーマワークでの体験から広く福祉生活デザインの基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につける	生活と福祉に関わる知識を説明できない	生活と福祉に関わる複数領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる3つ以上の領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる知識を広く総合的に説明できる

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
キャリア形成カルテの確認
- 第2回 テーマワーク①-1「食べる」
(日常の食事)
- 第3回 テーマワーク①-2「食べる」
(ティータイムのもてなし)
- 第4回 テーマワーク②-1「装う」
(衣服素材の理解)
- 第5回 テーマワーク②-2「装う」
(身体形態の理解とデザイン実習)
- 第6回 テーマワーク①②のふりかえり・学びの共有
(基礎演習Ⅱのクラス別授業)
- 第7回 テーマワーク③-1「住まう」
(光について学ぶ)
- 第8回 テーマワーク③-2「住まう」
(スケール感覚を養う)
- 第9回 テーマワーク④-1「支える」

- (傾聴)
- 第10回 テーマワーク④-2「支える」
(マネープランニング)
- 第11回 テーマワーク⑤-1「支える」
(車いす体験)
- 第12回 テーマワーク⑤-2「支える」
(要介護者の食事と援助方法)
- 第13回 テーマワーク③④⑤のふりかえり・学びの共有
(基礎演習Ⅱのクラス別授業)
- 第14回 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳと合同授業
- 第15回 全体のふりかえり
キャリア形成カルテの確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。この各クラス内で2~3人程度の小グループを構成し、小グループごとに4つのテーマワークに取り組む。
- 2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。
- 3) 4つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活と福祉の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。
- 4) 各担当教員へ提出された課題は、担任を通して返却される。指摘されている部分は復習をし、次の課題を作成するさいに修正できるように努めること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%
- (2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

〔留意事項 (Other Information)〕

「食べる」「装う」「住まう」「支える」の各テーマワークを小グループごとに2回ずつ体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。

テーマワークの担当者 (予定)

「食べる」: 加藤佐千子、藤原智子

「装う」: 牛田好美、安川涼子

「住まう」: 中村久美、竹原広実

「支える」: 三好明夫、酒井久美子、青木加奈子

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途案内する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ E

SLF1250E0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

必修 クラス指定

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

4つのテーマワークでの体験から広く福祉生活デザインの基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につける	生活と福祉に関わる知識を説明できない	生活と福祉に関わる複数領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる3つ以上の領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる知識を広く総合的に説明できる

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
授業概要・評価の説明
- 第2回 テーマワーク①-1「食べる」
(日常の食事)
- 第3回 テーマワーク①-2「食べる」
(ティータイムのもてなし)
- 第4回 テーマワーク②-1「装う」
(衣服素材の理解)
- 第5回 テーマワーク②-2「装う」
(身体形態の理解とデザイン実習)
- 第6回 テーマワーク③④のふりかえり・学びの共有
(基礎演習Ⅱのクラス別授業)
- 第7回 テーマワーク③-1「住まう」
(光について学ぶ)
- 第8回 テーマワーク③-2「住まう」
(スケール感覚を養う)
- 第9回 テーマワーク④-1「支える」

- (傾聴)
- 第10回 テーマワーク④-2「支える」
(マネープランニング)
- 第11回 テーマワーク⑤-1「支える」
(車いす体験)
- 第12回 テーマワーク⑤-2「支える」
(要介護者の食事と援助方法)
- 第13回 テーマワーク③④⑤のふりかえり・学びの共有
(基礎演習Ⅱのクラス別授業)
- 第14回 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳと合同授業
基礎演習Ⅳの成果発表会に参加
- 第15回 全体のふりかえり
キャリア形成カルテの確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。この各クラス内で2~3人程度の小グループを構成し、小グループごとに4つのテーマワークに取り組む。
- 2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。
- 3) 4つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活と福祉の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。
- 4) 各担当教員へ提出された課題は、担任を通して返却される。指摘されている部分は復習をし、次の課題を作成するさいに修正できるように努めること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%
- (2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

〔留意事項 (Other Information)〕

「食べる」「装う」「住まう」「支える」の各テーマワークを小グループごとに2回ずつ体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。

テーマワークの担当者 (予定)

「食べる」: 加藤佐千子、藤原智子

「装う」: 牛田好美、安川涼子

「住まう」: 中村久美、竹原広実

「支える」: 三好明夫、酒井久美子、青木加奈子

〔追記〕 授業予定や成績評価等が一部変更になっている。第1回目 (9/25) の授業で説明するので、出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途案内する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ A

SLF2100A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 前期

金曜 3限 金曜 4限

DP1: 自分を育てる力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「装う」「食べる」「住まう」「支える」という4つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。これらのフィールドワークを通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線 (の現状) への理解を深めるとともに、研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。

これらの体験学習を通して、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学といった実践の場に身を置く体験をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フィールドワークのための準備と課題設定	?? 訪問先について事前に認知していないし、参加もしていない	? 「事前学習」で説明された情報を理解して参加している	?? 自らフィールド先の情報を集め、理解を深めて参加している	? フィールド先での体験を生かして、社会で働くことへの関心と就労へのイメージをもつことができる
フィールドワークでの学び	? フィールドワークでの学びがない	? フィールドワークの中で何かしらの学びを実感できている	?? フィールドワークの学びを生かして課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる	?? レベル3に加えて、フィールドワークの現場で新たな課題を見つけ、取り組むことができる

体験を言語化すること	??フィールドワークの体験を言語化していない	??フィールドワークを通して得た知識を基に、レポート作成ができる	??フィールドワークでの学びに加えて、文献を用いて学びを深め、言語化できる	??レベル3に加えて、自らのキャリア形成についても言及できる
------------	------------------------	----------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：授業のすすめ方の説明、フィールドワーク先の提示
- 第 2 回 フィールドワーク1「装う」「食べる」「住まう」の事前学習：課題意識の醸成
- 第 3 回 フィールドワーク1の実施①：実践現場の理解
- 第 4 回 フィールドワーク1の実施②：実習実施
- 第 5 回 フィールドワーク2「支える」の事前学習：課題意識の醸成
- 第 6 回 フィールドワーク2の実施①：実践現場の理解
- 第 7 回 フィールドワーク2の実施②：実習実施
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 2回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。
- (2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。
- (3) レポート課題に関して教員のコメントを記したレポートを返却し、学生にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

実習先に関する情報を収集するなどして、その施設の社会的意義や役割、活動内容を把握するといった事前学習をしていくことが必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) 授業参加度：50%
- (2) フィールドワークレポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

- (1) 学生によってフィールドワーク1と2の順序が入れ替わる場合がある。まだ第3回と第4回、第5回と第6回は同日の3講時、4講時の連続授業である。具体的な開講日程は別途周知する。
 - (2) フィールドワークの内容と順番は、受講生の希望により異なる。
 - (3) 学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。見学に必要な交通費は自己負担とする。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

福祉生活デザイン基礎演習ⅢB

SLF2100B0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 前期

金曜3限 金曜4限

DP1：自分を育てる力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「装う」「食べる」「住まう」「支える」という4つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。これらのフィールドワークを通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線（の現状）への理解を深めるとともに、研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。

これらの体験学習を通して、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学といった実践の場に身を置く体験をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フィールドワークのための準備と課題設定	訪問先について事前に認知していないし、参加もしていない	「事前学習」で説明された情報を理解して参加している	「事前学習」に加え、自らフィールド先の情報を集め、理解を深めて参加している	フィールド先での体験を生かして、社会で働くことへの関心と就労へのイメージをもつことができる
フィールドワークでの学び	フィールドワークでの学びがない	フィールドワークの中で学びを得てそれを活かすことができる	フィールドワークの学びを生かして課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる	レベル3に加えて、フィールドワークの現場で新たな課題を見つけ、取り組むことができる

体験を言語化すること	フィールドワークの体験を言語化できない	フィールドワークを通して得た知識を基に、レポート作成ができる	フィールドワークでの学びに加えて、文献を用いて学びを深め、言語化できる	レベル3に加えて、自らのキャリア形成についても言及できる
------------	---------------------	--------------------------------	-------------------------------------	------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：授業のすすめ方の説明、フィールドワーク先の提示
- 第 2 回 フィールドワーク1「装う」「食べる」「住まう」の事前学習：課題意識の醸成
- 第 3 回 フィールドワーク1の実施①：実践現場の理解
- 第 4 回 フィールドワーク1の実施②：実習実施
- 第 5 回 フィールドワーク2「支える」の事前学習：課題意識の醸成
- 第 6 回 フィールドワーク2の実施①：実践現場の理解
- 第 7 回 フィールドワーク2の実施②：実習実施
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 2回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。
- (2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。
- (3) レポート課題に関して教員のコメントを記したレポートを返却し、学生にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

実習先に関する情報を収集するなどして、その施設の社会的意義や役割、活動内容を把握するといった事前学習をしていくことが必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) 授業参加度：50%
- (2) フィールドワークレポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

- (1) 学生によってフィールドワーク1と2の順序が入れ替わる場合がある。まだ第3回と第4回、第5回と第6回は同日の3講時、4講時の連続授業である。具体的な開講日程は別途周知する。
- (2) フィールドワークの内容と順番は、受講生の希望により異なる。
- (3) 学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。見学に必要な交通費は自己負担とする。〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

福祉生活デザイン基礎演習ⅢC

SLF2100C0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 前期

金曜3限 金曜4限

DP1：自分を育てる力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「装う」「食べる」「住まう」「支える」という4つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。これらのフィールドワークを通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線（の現状）への理解を深めるとともに、研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。

これらの体験学習を通して、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学といった実践の場に身を置く体験をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フィールドワークのための準備と課題設定	?? 訪問先について事前に認知していないし、参加もしていない	? 「事前学習」で説明された情報を理解して参加している	?? 自らフィールド先の情報を集め、理解を深めて参加している	? フィールド先での体験を生かして、社会で働くことへの関心と就労へのイメージをもつことができる
フィールドワークでの学び	? フィールドワークでの学びがない	? フィールドワークの中で何かしらの学びを実感できている	?? フィールドワークの学びを生かして課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる	?? レベル3に加えて、フィールドワークの現場で新たな課題を見つけ、取り組むことができる

体験を言語化すること	?? フィールドワークの体験を言語化していない	?? フィールドワークを通して得た知識を基に、レポート作成ができる	?? フィールドでの学びに加えて、文献を用いて学びを深め、言語化できる	?? レベル3に加えて、自らのキャリア形成についても言及できる
------------	-------------------------	-----------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：授業のすすめ方の説明、フィールドワーク先の提示
- 第 2 回 フィールドワーク1「装う」「食べる」「住まう」の事前学習：課題意識の醸成
- 第 3 回 フィールドワーク1の実施①：実践現場の理解
- 第 4 回 フィールドワーク1の実施②：実習実施
- 第 5 回 フィールドワーク2「支える」の事前学習：課題意識の醸成
- 第 6 回 フィールドワーク2の実施①：実践現場の理解
- 第 7 回 フィールドワーク2の実施②：実習実施
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 2回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。
- (2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。
- (3) レポート課題に関して教員のコメントを記したレポートを返却し、学生にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

実習先に関する情報を収集するなどして、その施設の社会的意義や役割、活動内容を把握するといった事前学習をしていくことが必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) 授業参加度：50%
- (2) フィールドワークレポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

- (1) 学生によってフィールドワーク1と2の順序が入れ替わる場合がある。まだ第3回と第4回、第5回と第6回は同日の3講時、4講時の連続授業である。具体的な開講日程は別途周知する。
 - (2) フィールドワークの内容と順番は、受講生の希望により異なる。
 - (3) 学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。見学に必要な交通費は自己負担とする。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

福祉生活デザイン基礎演習ⅢD

SLF2100DOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 前期

金曜3限 金曜4限

DP1：自分を育てる力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「装う」「食べる」「住まう」「支える」という4つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。これらのフィールドワークを通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線（の現状）への理解を深めるとともに、研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。

これらの体験学習を通して、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学といった実践の場に身を置く体験をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フィールドワークのための準備と課題設定	?? 訪問先について事前に認知していないし、参加もしていない	? 「事前学習」で説明された情報を理解して参加している	?? 自らフィールド先の情報を集め、理解を深めて参加している	? フィールド先での体験を生かして、社会で働くことへの関心と就労へのイメージをもつことができる
フィールドワークでの学び	? フィールドワークでの学びがない	? フィールドワークの中で何かしらの学びを実感できている	?? フィールドワークの学びを生かして課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる	?? レベル3に加えて、フィールドワークの現場で新たな課題を見つけ、取り組むことができる

体験を言語化すること	??フィールドワークの体験を言語化していない	??フィールドワークを通して得た知識を基に、レポート作成ができる	??フィールドワークでの学びに加えて、文献を用いて学びを深め、言語化できる	??レベル3に加えて、自らのキャリア形成についても言及できる
------------	------------------------	----------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：授業のすすめ方の説明、フィールドワーク先の提示
- 第 2 回 フィールドワーク1「装う」「食べる」「住まう」の事前学習：課題意識の醸成
- 第 3 回 フィールドワーク1の実施①：実践現場の理解
- 第 4 回 フィールドワーク1の実施②：実習実施
- 第 5 回 フィールドワーク2「支える」の事前学習：課題意識の醸成
- 第 6 回 フィールドワーク2の実施①：実践現場の理解
- 第 7 回 フィールドワーク2の実施②：実習実施
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 2回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。
- (2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。
- (3) レポート課題に関して教員のコメントを記したレポートを返却し、学生にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

実習先に関する情報を収集するなどして、その施設の社会的意義や役割、活動内容を把握するといった事前学習をしていくことが必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) 授業参加度：50%
- (2) フィールドワークレポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

- (1) 学生によってフィールドワーク1と2の順序が入れ替わる場合がある。まだ第3回と第4回、第5回と第6回は同日の3講時、4講時の連続授業である。具体的な開講日程は別途周知する。
 - (2) フィールドワークの内容と順番は、受講生の希望により異なる。
 - (3) 学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。見学に必要な交通費は自己負担とする。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

福祉生活デザイン基礎演習ⅢE

SLF2100E0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 前期

金曜3限 金曜4限

DP1：自分を育てる力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「装う」「食べる」「住まう」「支える」という4つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。これらのフィールドワークを通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線（の現状）への理解を深めるとともに、研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。

これらの体験学習を通して、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学といった実践の場に身を置く体験をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フィールドワークのための準備と課題設定	訪問先について事前に認知していないし、参加もしていない	「事前学習」で説明された情報を理解して参加している	自らフィールドワーク先の情報を集め、理解を深めて参加している	フィールド先での体験を生かして、社会で働くことへの関心と就労へのイメージをもつことができる
フィールドワークでの学び	フィールドワークでの学びがない	フィールドワークの中で何かしらの学びを実感できている	フィールドワークの学びを生かして課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる	レベル3に加えて、フィールドワークの現場で新たな課題を見つけ、取り組むことができる

体験を言語化すること	フィールドワークの体験を言語化していない	フィールドワークを通して得た知識を基に、レポート作成ができる	フィールドワークでの学びに加えて、文献を用いて学びを深め、言語化できる	レベル3に加えて、自らのキャリア形成についても言及できる
------------	----------------------	--------------------------------	-------------------------------------	------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：授業のすすめ方の説明、フィールドワーク先の提示
- 第 2 回 フィールドワーク1「装う」「食べる」「住まう」の事前学習：課題意識の醸成
- 第 3 回 フィールドワーク1の実施①：実践現場の理解
- 第 4 回 フィールドワーク1の実施②：実習実施
- 第 5 回 フィールドワーク2「支える」の事前学習：課題意識の醸成
- 第 6 回 フィールドワーク2の実施①：実践現場の理解
- 第 7 回 フィールドワーク2の実施②：実習実施
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 2回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。
- (2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。
- (3) レポート課題に関して教員のコメントを記したレポートを返却し、学生にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

実習先に関する情報を収集するなどして、その施設の社会的意義や役割、活動内容を把握するといった事前学習をしていくことが必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) 授業参加度：50%
- (2) フィールドワークレポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

- (1) 学生によってフィールドワーク1と2の順序が入れ替わる場合がある。まだ第3回と第4回、第5回と第6回は同日の3講時、4講時の連続授業である。具体的な開講日程は別途周知する。
- (2) フィールドワークの内容と順番は、受講生の希望により異なる。
- (3) 学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。見学に必要な交通費は自己負担とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

福祉生活デザイン基礎演習ⅣA

SLF2650A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 後期

金曜3限

DP6：創造・発信力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢを通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏付けによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢまでの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。
- 2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。
- 3) グループワークを通して協調性を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
解決力・考察力	解決もできないし、考えようもしない	書く・読む・要約する技能を生かして自分の考えを発信しようとしている	課題解決に向けて、他者と意見を交わし、自らも努力しようとしている	新たな課題を見つけ自ら深く考え、解決することができる
協調性	グループワークに参加しない	自分の意見と他者の意見の違いが分かり、協力しようとしている	自らアイデアや意見を出すなど、積極的にグループワークに参加している	他者と協力・協働ができ新たな課題に取り組んでいる
プレゼンテーション能力	プレゼンテーションの	最低限必要な情報を入れたプレゼンテーション	適宜、イラストやアニメーションを入れなが	レベル3に加えて、オーディエンスの反応を

	作成に参加していない	ンを作成することができ	らプレゼンすることができ	見ながら、元気に、はっきりとした声でプレゼンができる
--	------------	-------------	--------------	----------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 研究課題の設定①：課題決定のための情報収集などの準備
- 第 3 回 研究課題の設定②：課題決定
- 第 4 回 研究課題への取り組み①：発表内容の整理、グループディスカッション
- 第 5 回 研究課題への取り組み②：発表レジュメの作成
- 第 6 回 研究課題への取り組み③：プレゼンテーション内容の確認
- 第 7 回 プレゼンテーション
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 基礎演習 I から III と同一のクラス編成のなかで、2グループに分かれて作業を進めていく。
- 2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。
- 3) プレゼン、レポート課題に対し、学生相互、教員からのフィードバックを随時行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自ら取り組む課題について、文献その他の資料の収集など、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。また、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

第 7 回目のプレゼンテーションは 1 年次生の基礎演習 II と合同授業とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ』/学習技術出版会編/くろしお出版///学内販売をしない予定

基礎演習 I で使用したテキストを随時使う。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

福祉生活デザイン基礎演習ⅣB

SLF2650BOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 後期

金曜 3限

DP6：創造・発信力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザイン基礎演習 I から III を通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏付けによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習 I から III までの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。
- 2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。
- 3) グループワークを通して協調性を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
解決力・考察力	書く・読む・要約する技能を生かして自分の考えを発信することができない	書く・読む・要約する技能を生かして自分の考えを発信しようとしている	課題解決に向けて、他者と意見を交わし、自らも努力しようとしている	新たな課題を見つけ自ら深く考え、解決することができる
協調性	グループの取り組みに協力できない	自分の意見と他者の意見の違いが分かり、協力しようとしている	自らアイデアや意見を出すなど、積極的にグループワークに参加している	他者と協力・協働ができ新たな課題に取り組んでいる
プレゼンテーション能力	プレゼンテーションの	最低限必要な情報を入れたプレゼンテーション	適宜、イラストやアニメーションを入れなが	レベル3に加えて、オーディエンスの反応を

	作成を分担していない	ンを作成することができ	らプレゼンすることができる	見ながら、元気に、はっきりとした声でプレゼンができる
--	------------	-------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 研究課題の設定①：課題決定のための情報収集などの準備
- 第 3 回 研究課題の設定②：課題決定
- 第 4 回 研究課題への取り組み①：発表内容の整理、グループディスカッション
- 第 5 回 研究課題への取り組み②：発表レジュメの作成
- 第 6 回 研究課題への取り組み③：プレゼンテーション内容の確認
- 第 7 回 プレゼンテーション
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 基礎演習 I から III と同一のクラス編成のなかで、2 グループに分かれて作業を進めていく。
- 2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。
- 3) プレゼン、レポート課題に対し、学生相互、教員からのフィードバックを随時行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自ら取り組む課題について、文献その他の資料の収集など、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。また、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

第 7 回目のプレゼンテーションは 1 年次生の基礎演習 II と合同授業とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ』/学習技術出版会編/くろしお出版///学内販売をしない予定

基礎演習 I で使用したテキストを随時使う。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考 URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

福祉生活デザイン基礎演習 IV C

SLF2650C0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2 年次

1 単位 後期

金曜 3 限

DP6：創造・発信力

30

必修 クラス指定 全 7.5 コマ

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザイン基礎演習 I から III を通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏付けによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習 I から III までの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。
- 2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。
- 3) グループワークを通して協調性を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
解決力・考察力	解決もできないし、考えようもしない	書く・読む・要約する技能を生かして自分の考えを発信しようとしている	課題解決に向けて、他者と意見を交わし、自らも努力しようとしている	新たな課題を見つけ自ら深く考え、解決することができる
協調性	グループワークに参加しない	自分の意見と他者の意見の違いが分かり、協力しようとしている	自らアイデアや意見を出すなど、積極的にグループワークに参加している	他者と協力・協働ができ新たな課題に取り組んでいる
プレゼンテーション能力	プレゼンテーションの	最低限必要な情報を入れたプレゼンテーション	適宜、イラストやアニメーションを入れなが	レベル 3 に加えて、オーディエンスの反応を

	作成に参加していない	ンを作成することができ	らプレゼンすることができる	見ながら、元気に、はっきりとした声でプレゼンができる
--	------------	-------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 研究課題の設定①：課題決定のための情報収集などの準備
- 第 3 回 研究課題の設定②：課題決定
- 第 4 回 研究課題への取り組み①：発表内容の整理、グループディスカッション
- 第 5 回 研究課題への取り組み②：発表レジュメの作成
- 第 6 回 研究課題への取り組み③：プレゼンテーション内容の確認
- 第 7 回 プレゼンテーション
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 基礎演習 I から III と同一のクラス編成のなかで、2グループに分かれて作業を進めていく。
- 2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。
- 3) プレゼン、レポート課題に対し、学生相互、教員からのフィードバックを随時行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自ら取り組む課題について、文献その他の資料の収集など、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。また、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

第 7 回目のプレゼンテーションは 1 年次生の基礎演習 II と合同授業とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ』/学習技術出版会編/くろしお出版///学内販売をしない予定

基礎演習 I で使用したテキストを随時使う。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

福祉生活デザイン基礎演習ⅣD

SLF2650D0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2年次

1単位 後期

金曜 3限

DP6：創造・発信力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザイン基礎演習 I から III を通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏付けによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習 I から III までの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。
- 2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。
- 3) グループワークを通して協調性を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
解決力・考察力	解決もできないし、考えようもない	書く・読む・要約する技能を生かして自分の考えを発信しようとしている	課題解決に向けて、他者と意見を交わし、自らも努力しようとしている	新たな課題を見つけ自ら深く考え、解決することができる
協調性	グループワークに参加しない	自分の意見と他者の意見の違いが分かり、協力しようとしている	自らアイデアや意見を出すなど、積極的にグループワークに参加している	他者と協力・協働ができ新たな課題に取り組んでいる
プレゼンテーション能力	プレゼンテーションの	最低限必要な情報を入れたプレゼンテーション	適宜、イラストやアニメーションを入れなが	レベル3に加えて、オーディエンスの反応を

	作成に参加していない	ンを作成することができ	らプレゼンすることができる	見ながら、元気に、はっきりとした声でプレゼンができる
--	------------	-------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 研究課題の設定①：課題決定のための情報収集などの準備
- 第 3 回 研究課題の設定②：課題決定
- 第 4 回 研究課題への取り組み①：発表内容の整理、グループディスカッション
- 第 5 回 研究課題への取り組み②：発表レジュメの作成
- 第 6 回 研究課題への取り組み③：プレゼンテーション内容の確認
- 第 7 回 プレゼンテーション
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 基礎演習 I から III と同一のクラス編成のなかで、2 グループに分かれて作業を進めていく。
- 2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。
- 3) プレゼン、レポート課題に対し、学生相互、教員からのフィードバックを随時行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自ら取り組む課題について、文献その他の資料の収集など、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。また、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

第 7 回目のプレゼンテーションは 1 年次生の基礎演習 II と合同授業とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ』/学習技術出版会編/くろしお出版///学内販売をしない予定

基礎演習 I で使用したテキストを随時使う。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考 URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ E

SLF2650E0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

2 年次

1 単位 後期

金曜 3 限

DP6：創造・発信力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザイン基礎演習 I から III を通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏付けによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習 I から III までの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。
- 2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。
- 3) グループワークを通して協調性を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
解決力・考察力	解決もできないし、考えようもしない	書く・読む・要約する技能を生かして自分の考えを発信しようとしている	課題解決に向けて、他者と意見を交わし、自らも努力しようとしている	新たな課題を見つけ自ら深く考え、解決することができる
協調性	グループワークに参加しない	自分の意見と他者の意見の違いが分かり、協力しようとしている	自らアイデアや意見を出すなど、積極的にグループワークに参加している	他者と協力・協働ができ新たな課題に取り組んでいる
プレゼンテーション能力	プレゼンテーションの	最低限必要な情報を入れたプレゼンテーション	適宜、イラストやアニメーションを入れなが	レベル3に加えて、オーディエンスの反応を

	作成に参加していない	ンを作成することができ	らプレゼンすることができる	見ながら、元気に、はっきりとした声でプレゼンができる
--	------------	-------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 研究課題の設定①：課題決定のための情報収集などの準備
- 第 3 回 研究課題の設定②：課題決定
- 第 4 回 研究課題への取り組み①：発表内容の整理、グループディスカッション
- 第 5 回 研究課題への取り組み②：発表レジュメの作成
- 第 6 回 研究課題への取り組み③：プレゼンテーション内容の確認
- 第 7 回 プレゼンテーション
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 基礎演習 I から III と同一のクラス編成のなかで、2グループに分かれて作業を進めていく。
- 2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。
- 3) プレゼン、レポート課題に対し、学生相互、教員からのフィードバックを随時行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自ら取り組む課題について、文献その他の資料の収集など、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。また、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

第7回目のプレゼンテーションは1年次生の基礎演習Ⅱと合同授業とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ』/学習技術出版会編/くろしお出版///学内販売をしない予定

基礎演習 I で使用したテキストを随時使う。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

福祉生活デザイン特論

SLS3400A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP4：思考・解決力

120

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる

研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができる	量的研究について理解できる	質的研究について理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる
-----------------	-----------------------	---------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400BOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

牛田 好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1)各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2)各専門分野における研究動向を理解する。
- (3)各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4)(1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる

研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができない	量的研究について理解できる	質的研究について理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる
----------	------------------------	---------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400C0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

加藤 佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1)各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2)各専門分野における研究動向を理解する。
- (3)各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4)(1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる

研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができる	量的研究について理解できる	質的研究について理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる
----------	-----------------------	---------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400DOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

酒井 久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1)各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2)各専門分野における研究動向を理解する。
- (3)各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4)(1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる

研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができない	多様な研究方法について一定の理解ができる	量的研究、質的研究の違いについて理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる
----------	------------------------	----------------------	-----------------------	----------------------------

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400E0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

佐藤 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1)各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2)各専門分野における研究動向を理解する。
- (3)各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4)(1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる

研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができる	量的研究について理解できる	質的研究について理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる
----------	-----------------------	---------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400F0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

竹原 広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1)各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2)各専門分野における研究動向を理解する。
- (3)各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4)(1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる

研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができる	量的研究について理解できる	質的研究について理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる
----------	-----------------------	---------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400H0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP4：思考・解決力

120

藤原 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1)各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2)各専門分野における研究動向を理解する。
- (3)各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4)(1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる

研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができる	量的研究について理解できる	質的研究について理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる
----------	-----------------------	---------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400IOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

三好 明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1)各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2)各専門分野における研究動向を理解する。
- (3)各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4)(1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる

研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができない	量的研究について理解できる	質的研究について理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる
----------	------------------------	---------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400J0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

矢島 雅子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1)各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2)各専門分野における研究動向を理解する。
- (3)各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4)(1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる

研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができる	量的研究について理解できる	質的研究について理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる
----------	-----------------------	---------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400K0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

安川 涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1)各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2)各専門分野における研究動向を理解する。
- (3)各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4)(1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる

研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができない	量的研究について理解できる	質的研究について理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる
----------	------------------------	---------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

スクールカウンセリング論（教育・学校心理学）

PSA3502N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次 4年次

2単位 前期

火曜4限

DP5：共生・協働する力

60

佐藤 睦子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

学校臨床には、幅広い領域に関する知識が必要とされる。また、対象となるクライアントも、児童生徒・教員・保護者と多岐にわたる。本講義では、初めにすべての心理学に共通な学校臨床心理の基本的概念を学んだ後、学校における実践例を提示しながら、さまざまな症状を訴える児童生徒に対するカウンセリング、教員・保護者に対するコンサルテーションのありかたについて、実践例を交えて考察し、学んでいく。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 学校臨床における基礎的知識について学んだ上で、学校臨床の特色や、スクールカウンセラーとはどのような仕事をするのかを学ぶ。
2. 学校で相談活動を行なう上でのクライアントとスクールカウンセラーとの関係性・責任・倫理について学ぶ。
3. スクールカウンセラーが学校に存在する意味について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 学校臨床における近年の課題について
- 第 2 回 学校臨床における連携について
- 第 3 回 学校現場における事例の提示とディスカッション（不登校生母親の事例）
- 第 4 回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第 5 回 学校現場における事例の提示とディスカッション（神経症の生徒の事例）
- 第 6 回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説

- 第 7 回 学校現場における事例の提示と個人課題（非行の事例）
- 第 8 回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第 9 回 学校現場における事例の提示とディスカッション（虐待が疑われる事例）
- 第 10 回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第 11 回 学校現場における事例の提示とディスカッション（発達障害の事例）
- 第 12 回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第 13 回 これまでの事例に関する振り返りとまとめ
- 第 14 回 到達度確認の課題
- 第 15 回 到達度確認課題結果の振り返りとまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は講義とディスカッションを中心に行なう。学校臨床について基礎的知識について講義を行った後、ディスカッションに入る。ディスカッションは、クライアントに対するアプローチについて検討し、クライアントの病理について解説する講義を2回に分けて行ない、時間をかけて考察することとなる。各自のディスカッションへの積極的な参加姿勢を期待している。また、実践例の授業が終了するごとにレポートを課す。

これらの体験の中から、学校臨床とは何か、スクールカウンセラーの役割とは何かを考え理解することを目標として学習を進める。

授業を受けたいと思う学生のうち、ディスカッションが苦手な者は遠慮なく申し出ること。個別に相談して、学びたい意欲に応じていきたいと思っています。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回の振り返りを行い、結果をレポートとしてmanabaより提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業内で課されるレポートの提出回数が約30%と期末に行なわれる課題が50%、その他、授業参加度（ディスカッションに積極的に参加しているかどうか）を20%として評価を行う。また、授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜口頭でフィードバックする。

〔留意事項（Other Information）〕

ディスカッションのグループは、前半と後半で組み替える。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 臨床心理士として医療機関・教育機関での経験あり

感情・人格心理学

PSA2207N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

2年次 3年次

2単位 後期

水曜1限

DP2：知識・理解力

60

向山 泰代

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目では、知的および情意的側面から人格について理解し、その形成や変化に影響する要因を学習する。特に人格の情意的側面であるパーソナリティについては、代表的アプローチである精神分析学、現象学、特性論、学習理論、認知理論等を理解し、各理論が基礎とする人間観について学ぶ。また、測定や査定についての基礎知識を習得するため、代表的な検査や測定法を紹介し、各方法の特徴や倫理の問題について論じる。さらに本科目では、パーソナリティとも関連の深い感情について学ぶ。代表的な感情理論への理解を深め、感情喚起のメカニズムや感情が行動に及ぼす影響等について、具体的かつ日常的な例を通して学習する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. パーソナリティの形成や変化の要因について考える。
2. パーソナリティに関する代表的アプローチについて学ぶ。
3. パーソナリティの測定法およびその特徴について学ぶ。
4. 価値や道徳による評価とは異なる立場から、個人差を捉える視点を持つ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
感情や人格に関する基礎的な心理学専門用語の知識と理解	専門用語やその意味を知らない。	特定の専門用語やその意味のみを理解している。	幾つかの専門用語やその意味を理解している。	専門用語やその意味を理解している。
感情や人格に関する主要な理論とその背景にある人間観についての知識と理解	理論や理論の背景にある人間観を知らない。	特定の理論や理論の背景にある人間観のみを理解している。	幾つかの理論や理論の背景にある人間観を理解している。	主要な理論や理論の背景にある人間観を理解している。
感情や人格の心理学的測定法や留意点についての知識と理解	心理学的測定法や留意点を知らない。	特定の測定法や留意点についてのみ理解している。	幾つかの測定法や留意点について理解している。	測定法や留意点について理解している。

主体的に学ぶこと	授業内・授業外での課題に取り組もうとしない。課題を提出しない。	授業内・授業外での課題に取り組む。課題を提出する。	授業内・授業外での課題について、独自の視点を加えて取り組み、提出する。	授業内・授業外での課題について、複数の独創的な視点にもとづいて課題を作成し、自らの考えを深め、その結果を提出する。
----------	---------------------------------	---------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 パーソナリティとは
- 第 2 回 パーソナリティ研究の歴史
- 第 3 回 パーソナリティ形成と変化の要因：遺伝と環境
- 第 4 回 パーソナリティの理論（1）：類型論と特性論
- 第 5 回 パーソナリティの理論（2）：精神分析理論からみたパーソナリティ
- 第 6 回 パーソナリティの理論（3）：行動理論からみたパーソナリティ
- 第 7 回 パーソナリティの理論（4）：認知理論からみたパーソナリティ
- 第 8 回 パーソナリティ測定法：質問紙法
- 第 9 回 パーソナリティ測定法：作業検査法・投影法
- 第 10 回 パーソナリティ測定法：観察法・実験法・面接法
- 第 11 回 測定・査定における留意点と倫理
- 第 12 回 パーソナリティと感情
- 第 13 回 感情の理論
- 第 14 回 感情が行動に及ぼす影響
- 第 15 回 到達度確認テストと解説・まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業中にプリントを配布するので、各自で整理して学習に活用すること。また、毎回の講義で「前回の講義内容の復習」の時間を設けるので、この時間を活用して各自が講義内容の繋がりを理解し、知識の定着に努めること。ワークシート等の課題は、授業期間中に返却し、受講生へのフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストは使用しない。講義の中で紹介する参考資料や書籍を各自が読み込み、学んだことを理解したり、深めたりすること。「心理学概論」「心理テスト入門」「心理テスト実習」等の講義で学んだ性格や性格検査に関連する事項について復習し、この授業においても適宜参照できるようにしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業中に実施する到達度確認テスト（70%）、課題・提出物・授業への取り組み態度（30%）で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業中に講義内容に関連した簡単な教材に反応を求めたり、作業を課したりすることがある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『パーソナリティ心理学』/小塩真司(著)/サイエンス社/2014/
『パーソナリティと感情の心理学』/島義弘(著)/サイエンス社/2017/

『性格心理学の技法』/杉山憲司・堀毛一也(編著)/福村出版/1999/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 臨床心理士として教育機関等の相談室での勤務経験あり。

関係行政論

PSA3255N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次

2単位 集中

その他

DP2：知識・理解力

60

大畑 好司

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現在、心理臨床家は、教育、医療、福祉、司法、産業などのさまざまな領域や職場で働いている。そこでは心理アセスメントや心理療法の技法を駆使して業務を遂行している。心理臨床場面で必要となる法の概要を理解し、どのような問題が法や職業倫理に結びついているかを理解する。また、法を理解することが心理臨床を進めるうえでどのように必要になるかを論じることができる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 心理臨床家としての倫理の理解
2. 心理臨床家が働く領域、関連する職種の理解
3. 各領域と関連する法律等の知識の習得
4. 各領域の心理臨床実務の理解
5. 各臨床場面での具体的事例を通じた現場実務への理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 法と倫理
インフォ-ムドコンセントや守秘義務等
- 第 2 回 心理臨床に関係する法律全般
婚外子の問題等を含む
- 第 3 回 医療領域に関する関連法規

- 医療観察法を含む
- 第 4 回 JGBTについて
LGBT等をめぐる諸問題
- 第 5 回 夫婦・家族の心理臨床と関連法規
離婚等の諸問題
- 第 6 回 親子の心理臨床と関連法規
親権等の諸問題
- 第 7 回 刑事法に関する問題
犯罪被害者等の諸問題を含む
- 第 8 回 自死の問題
安楽死の問題等を含む
- 第 9 回 少年法に関する問題
非行に関する理解とその対処
- 第 10 回 学校教育と法律
インクルーシブ教育等の理解
- 第 11 回 学校現場での問題と法律
いじめ等の問題を中にして
- 第 12 回 社会福祉関係に関する法律
障害者の権利条約等を中心にして
- 第 13 回 児童福祉に関する法律と問題
里親等の問題を含む
- 第 14 回 児童虐待に関する法律と問題
児童虐待の現状とその問題点
- 第 15 回 労働災害に関する法律と問題
過労死等の問題を中にして

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出させる。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

新聞記事やパワーポイントなどの視聴覚教材を利用した講義形式が中心となる。また、実務での具体的な問題場面や社会事象を提示し、班別討議しながら理解を深め、さまざまな意見があることを学ぶ。授業で学んだ社会事象への法的な理解に関するレポートを課す。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新聞やテレビ、インターネット等で、医療、保健、福祉、教育、司法等々に関する様々な社会的事象に触れ、その行政的、法的側面についての問題意識を明確にして授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度 (30%)、レポート課題等 (70%) にて評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心の専門家が会おう法律 第3版～臨床実践のために～』/佐藤監修、津川・元永編/誠信書房/2009/

『ケースブック心理臨床の倫理と法』/松田・江口・正木編/

知泉書房/2009/

『社会福祉小六法2019』/ミネルヴァ書房編/ミネルヴァ書房/2019/

『カウンセラーのための法律相談～心理援助をささえる実践的Q & A～』/＜心理臨床と法＞研究会編/新曜社/2009/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫家庭裁判所調査官として、家庭裁判所に勤務していた。

スクールカウンセラー (臨床心理士) として中学校に勤務している。

高齢者の心理学

PSA3201N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 前期

水曜 1限

DP2: 知識・理解力

60

伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

高齢化社会の到来とともに、発達心理学においても高齢期をも含めた生涯発達の観点から理論が再構築されつつある。この講義では、個人差が拡大する成人期から高齢期について、心理・社会学的データを背景に、生涯発達の観点から生理・認知・パーソナリティ・対人関係・病理などの特徴や変化について学ぶことで、高齢期の心理と課題を理解できる。さらに、心理臨床現場で必要となる高齢者に対する心理的な検査・治療・援助などの方法論についても学び、心理的な支援につなげて理解できる。また、異世代が共存する社会の中で若年層の果たす役割と、老いゆく存在として必要になるエイジング・エデュケーションにも触れ、老いゆく存在として自他理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 成人期から中年期、高齢期へと向かう過程での、心理・社会的な変化について学ぶ。
2. 現代の高齢者の心理社会的な位置付けと心理的諸側面を発達および臨床の両面から学ぶ。
3. 実践の場で必要になるテストや援助のスキルを学ぶ。
4. 老若の関係性と若年層へのエイジング・エデュケーションについて、実践を通して学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	高齢者や高齢について関心を持つ	授業で得た知識を自分や身近な人の理解につなげる	授業で得た知識から自身や周囲の人々の将来展望につなげる	授業で得た知識を自他への貢献に結びつける

知識・理解・言語力	基本的な用語や理論を言える	基本的な用語や理論を説明できる	基本的な用語や理論を説明でき、体系的に理解できる	体系的な理解のもとに、実社会と結びつけて応用的批判的に考察できる
思考・解決・創造力	授業内容について興味関心をもつ	授業内容を地域社会や他者の問題と結びつける	授業内容を社会や自他の問題解決に活用する	授業内容に自学習の知識や考察を加え、新たな社会や自他の問題解決に役立てる
共生・協働する力	集団授業のマナーを守り、他の受講生や教員と協力して学ぶ	授業内容からよりよい社会や周囲の人々のかかわり考える	授業内容から社会や周囲の人々のかかわりに活かし実践する	人の幸福やよりよい社会づくりに向けて考察し実践する

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 ライフサイクルの諸理論 (1) 縦断的視点
- 第 3 回 ライフサイクルの諸理論 (2) 横断的視点
- 第 4 回 青年期から成人前期へ
- 第 5 回 中年期の心理社会的特徴
- 第 6 回 老化・加齢・高齢期に関する概念および理論
- 第 7 回 高齢期の知能
- 第 8 回 高齢期の認知機能
- 第 9 回 高齢期のパーソナリティと適応
- 第 10 回 高齢期の対人関係と社会生活
- 第 11 回 高齢期の精神疾患
- 第 12 回 終末期について
- 第 13 回 高齢者に対する心理テストと心理療法
- 第 14 回 異世代間の交流とエイジング・エデュケーション
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

指定テキストはなし。適宜資料を配布、テキストの紹介をする。

講義を中心に、映像やワークなど実際に体験できるような課題も行い、それらを素材にmanabaなどを使用しながら、共有・ディスカッションも行いたい。

授業中の発問やワークシートについては、個別あるいは講義の中で適宜口頭でフィードバックする。期末レポートについては、授業終了後に返却機会を設け、評価とコメントをフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

* 授業中に呈示された資料、テキストなどを積極的に参照し、持ち帰りとなるワークについては、自らの経験と学んだ知識とを関連付けて自主的に学ぶ。

* 新聞・テレビ・インターネット等メディアで取り上げられる「若い」や「高齢者」の問題について、トピックを拾っておく。

* 身近な人々の年代、発達課題などを考えるべく、さまざまな年代の方と接点を持つように心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度と授業内のワークプリント (50%)、期末レポート試験 (50%) に基づき、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

期末試験に代わる期末レポート試験を実施する。欠席が3分の1を超えた場合には、原則として期末レポートの提出ができない。

なお、授業内容や順番は、受講生の関心や理解に応じて変更する可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業中にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『老年心理学』/下仲順子(編)/培風館/1997/9784563057541

『老いることの意味』/南・山田(編)/金子書房/1995/9784760892150

『高齢期の心理と臨床心理学』/下仲順子(編)/培風館/2007/9784563057060

『エピソードでつかむ老年心理学』/大川・宇都宮・日下・奥村・土田(著)/ミネルヴァ書房/2011/9784623058952

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫/ 臨床心理士として医療機関での勤務経験あり。

司法・犯罪心理学

PSA3256N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 後期

木曜1限

DP2: 知識・理解力

60

藤川 洋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

2009年5月から裁判員制度が始まり、国民すべてが、犯罪を裁く立場になる可能性が生じた。誰にとっても犯罪が身近になった現在、重大事件を前に、私たちは何をどのように整理して考える必要があるのか。法の仕組みを理解しながら、被害者支援の在り方、加害者を更生させる手法を学ぶ。また、冤罪防止のために、司法面接(事実を明らかにする面接)のテクニックに対する需要が高まっており、子ども

など弱者に対する誘導を排した面接のスキルを学び、治療的面接との違いを理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

一般の学生にとっては、犯罪や処遇機関は縁遠い存在であると思われることから、DVDなど視聴覚教材を利用して、冤罪の成り立ちや犯罪者処遇のイメージを持ってもらう。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 わが国の司法制度と犯罪心理学が明らかにできること
- 第 2 回 犯罪と犯罪捜査の現況—プロファイリングとは
- 第 3 回 加害者と被害者の理解—ジェノグラムを描こう
- 第 4 回 少年法の理念と処遇の流れ
- 第 5 回 刑法・刑事訴訟法の理念と処遇の流れ
- 第 6 回 中間テストと振り返り
- 第 7 回 DVD視聴—発達障害を踏まえた少年院、地域生活定着支援センターの活動を知る
- 第 8 回 司法面接のスキルは何故必要か—DVD「誘導尋問」の視聴を通じて、司法面接の重要性を理解する
- 第 9 回 冤罪が起きる心理的背景—DVD「誘導尋問」の論点を整理し、問題点を抽出する
- 第 10 回 事実を明らかにする面接テクニック—司法面接の実際①面接場面の設定
- 第 11 回 事実を明らかにする面接テクニック—司法面接の実際②面接のポイント
- 第 12 回 事実を明らかにする面接テクニック—司法面接の実際③治療面接との相違を中心に)
- 第 13 回 犯罪心理学の最前線Ⅰ—犯罪の現況と心理鑑定
- 第 14 回 犯罪心理学の最前線Ⅱ—障害への注目と更生への道筋
- 第 15 回 確認テストと振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

パワーポイント、DVDを用いた講義形式が中心であるが、随時、小レポートや意見発表を挿入する。

中間試験、レポートの後、誤答や誤解について、その後の授業のなかで取り上げ

て解説する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

犯罪報道に接する機会は多いが、臨床心理学的視点から分析するような心構えが必要である。テキストを熟読することによって、司法面接のスキルが犯罪のみならず、いじめなどの解明にも寄与することを理解する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義とテキストの理解を試験によって評価する。授業参加度40%、レポート10%、試験(中間・期末)50%。

〔留意事項 (Other Information)〕

0

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『発達障害と少年非行』/藤川洋子/金剛出版/2008/978-4-7724-1030-4C3011

『触法発達障害者への複合的支援』/藤川洋子、井出浩(編著)/福村出版/2011/978-4-571-42040-5

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

家庭裁判所調査官として、5000件に及ぶ少年事件の調査実務に携わり、退職後は、教員のかたわら、精神障害あるいは発達障害が疑われる犯罪につき、臨床心理士として精神鑑定に従事した。

社会・集団・家族心理学Ⅱ (家族)

PSA2551N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 後期

金曜3限

DP5: 共生・協働する力

60

福山 幸子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちは誰もが家族としての体験をもっており、それぞれの家族観をもっている。しかし、その限定された体験のみでは現代社会の家族の問題や現象を読み解くことはできない。私たちは家族についてのより広い視野を持ち、問題の背景を考えるべきではないだろうか。家族心理学は比較的歴史の浅い分野であるが、そのような理解を手助けしてくれる学問である。

本科目では、社会の最小単位として家族が成立し、家族

関係が変化していく様子を改めて見直していく。その過程で現代の家族が直面している課題を様々な側面からとらえ、理解を深めるとともに、心理的援助の実際を学んでいく。さらには、家族をはじめとする様々なシステムが個人に及ぼす心理的影響についても検討する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 家族心理学の枠組みを理解する
2. 家族とは何かということ問い直す
3. 家族への心理的援助の実際を学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 家族心理学
オリエンテーション：家族心理学とは
- 第 2 回 家族心理学
家族とは何だろう①：家族システム理論
- 第 3 回 家族心理学
家族とは何だろう②：家族ライフサイクル
- 第 4 回 家族心理学
家族づくりの前の時期
- 第 5 回 家族心理学
家族の成立期
- 第 6 回 家族心理学
乳幼児を育てる時期
- 第 7 回 家族心理学
子育ての時期
- 第 8 回 家族心理学
若者世代とその家族
- 第 9 回 家族心理学
老年期の家族
- 第 10 回 家族心理学
家族の中のコミュニケーション
- 第 11 回 家族心理学
家族とジェンダー
- 第 12 回 家族心理学
家族への心理的援助の実際①：子育て支援
- 第 13 回 家族心理学
家族への心理的援助の実際②：夫婦関係の危機
- 第 14 回 家族心理学

家族への心理的援助の実際③：家族心理教育
第 15 回 家族心理学

まとめとふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

期末レポートを課す。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主として講義形式で行う。授業時にミニレポートを課し、学んだことを基に自分で考え、表現する力を養う。ミニレポートに関しては、次回授業時に全体的に講評する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前回までの講義資料を見直し、疑問点を明らかにしたうえで授業に臨むこと。興味をもった分野については図書館で文献を探し、自主的にさらに深く学ぶこと。また、メディアで取り上げられている家族心理学関連の情報を積極的に取り入れること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度および授業時のミニレポート(50%)、期末レポート及び提出課題(50%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特定のテキストは使用しない。資料は適宜配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業のテーマに沿ったものを授業時間内に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

臨床心理士・公認心理師として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

障害者・障害児心理学

PSA2502N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 前期

月曜 3限

DP5：共生・協働する力

60

薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「障害」という言葉の持つ意味は多様であり、その定義や概念も複雑である。また障害のある人の状態は多様である。それらの障害の内容と特徴を理解する。具体的には、障害の要因やその生理的・身体的、精神的問題について考え、行動特徴や精神機能、心理的特徴の理解を深めていく。更に、障害者・児の親(家族)の心理、社会的資源を含めた

環境の問題、また、生涯発達過程における心理社会的課題にも気づき、考えることができるようになる。特に、身体・知的・精神障害者の支援に関して、学校教育における特別支援や就労や地域生活の課題についても現状を知り、理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 障害とは何かを理解する。
2. 障害の生理的基盤を理解する。
3. 各障害の定義や種類と実際の状態について考える。
4. 障害による心理的特徴を理解する。
5. 障害者・障害児がおかれる環境と発達過程における心理社会的問題について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
主な障害種別についての知識を身につけ、理解を深める	身体・知的・発達・精神障害の違いについて基本的な理解ができていない、または知らない。	身体・知的・発達・精神障害の違いや定義について、資料を見ながら説明したり、レポートにまとめることができる。	身体・知的・発達・精神障害の違いや定義について、簡単な説明ができた。問いに答えられる。	身体・知的・発達・精神障害の違いや定義について、わかりやすい詳細な説明ができ、また問いに対して正確に答えられる。
障害が生じる要因、またその状態の背景にある要因についての基本的知識を身につけ、理解を深める	障害の種類によって、誰にでも生じうる状態であることを理解できない。	障害が生じる要因やその状態にある背景要因について多面的に考える必要があることを理解し、資料に基づき説明できる。	障害が生じる要因やその状態にある背景要因について多面的に考えることができ、簡単に説明できる。	障害が生じる要因やその状態にある背景要因について多面的に考えることができ、正確に説明できる。
共生・協働する力:現代社会における障害児・者やその家族がおかれている状況や課題を知る。	現代社会において障害児・者が抱える困難や課題をイメージすることが難しく、説明できない。	現代社会において障害児・者やその家族が抱える困難や課題についてイメージできる。	現代社会において障害児・者やその家族が抱える困難や課題についてイメージでき、簡単な説明ができる。	現代社会において障害児・者やその家族が抱える困難や課題について、一般の人にもわかりやすく詳細に説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 「障害」の概念と定義
- 第 2 回 障害者・障害児に関する施策の歴史と現状
- 第 3 回 障害の要因 (身体のメカニズムとその発達および精神機能との関連)

- 第 4 回 障害の要因 (遺伝的要因と環境要因)
- 第 5 回 障害の分類 (1) 知的障害
- 第 6 回 障害の分類 (2) 運動障害と重複障害
- 第 7 回 障害の分類 (3) 発達性の協調運動障害
- 第 8 回 障害の分類 (4) 視覚障害・聴覚障害
- 第 9 回 障害の分類 (5) 学習障害 (限局性学習障害)
- 第 10 回 障害の分類 (6) 注意欠如・多動性障害
- 第 11 回 障害の分類 (7) 自閉症スペクトラム障害
- 第 12 回 障害の分類 (8) 精神障害
- 第 13 回 障害者・障害児の発達過程における心理社会的問題

第 14 回 障害者・障害児の家族の心理について

第 15 回 障害者・障害児の支援に関する課題とまとめ
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で行う。講義内容によって個別に小課題(ワーク等)を実施することがある。授業中に行った小課題については、課題日以降の授業中にコメントや評価を返却する。また、期末テストについては、manaba上で受講者全体に向けてのコメント等でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 授業中に紹介する文献やテキストを参考に、障害や疾病についての理解を深めておくこと。
2. 授業で提示された課題、レジュメ資料を参考に、復習をしておくこと。
3. 多様な障害について考えるため、日ごろから地域活動やマスコミで取り上げられる障害や疾病にまつわる情報には関心をもって調べておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中に行う小課題 (20%)、学期末に実施する試験 (80%) により総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

予定されている授業内容は、順序が入れ替わることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『障害臨床学ハンドブック【第二版】』/中村義行・大石史博(編)/ナカニシヤ出版/2013/

『発達障害の子どもの心と行動がわかる本』/田中康雄/西東社/2014/

『発達障害とその周辺の問題』/宮本信也 他/中山書店/2008/

『精神障害者の生活支援システム 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会/中央法規/2014/

その他、授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士として学校現場、医療・保健機関等での支援業務の経験あり。

心理カウンセリングフィールド研修 2017年度以降入学者

PSA3600NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

60

薦田 未央 向山 泰代 高井 直美 三好 智子 佐藤 睦子 空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学を基礎とする対人援助の実践現場は、保健医療、福祉、教育、司法、産業など様々な分野に広がっている。本研修では、そのような実践現場の施設見学を通して、心理学が対人援助の現場でどのように役に立っているのかを学ぶことを目標とする。様々な分野における心理学の貢献の実際に広く触れることで、対人援助職の専門性を高めるための基礎とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

受講生は、保健医療、福祉、教育、司法など、心理学を基礎とする対人援助の実践現場における研修を必須とする。また、事前事後指導を受け、施設研修の意義を深める。事後指導においては、研修によって得た知識や課題についてレポートを作成し、それをもとに報告会とグループディスカッションを行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
対人援助の現場について基本的知識を学び、社会におけるその仕事の意味を理解する	事前事後指導で課された課題を提出しない。	研修で訪問する現場の仕事について基本的な用語を知り、資料に基づいた説明がレポートできる。	研修で訪問する現場の仕事について、資料や研修で学んだ知識を踏まえ、自身の理解に基づきレポートできる。	研修で訪問する現場の仕事について、資料や研修で学んだ知識を踏まえ、その社会的意味や課題についても考察しレポートできる。

研修先の仕事内容や援助を受けている対象者に関する知識の理解	事前事後指導、および現場研修の学習に参加せず、基本的な用語が理解できていない。	事前事後指導で、および研修先で基本情報について自ら調べたり、基本用語を理解し、その資料を集めることができる。	事前事後指導、および研修先で事前に学習した資料に基づき、他者に説明したり、みづから疑問や質問を考えることができる。	事前事後指導、および研修先で調べた知識と疑問について質問を行い、理解を深め、そのことを他者にわかりやすく説明できる。
-------------------------------	-----------------------------------------	--------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (薦田)
- 第 2 回 事前指導1：研修の概要や心構え (薦田)
- 第 3 回 事前指導2：保健医療分野・司法分野 (高井)
- 第 4 回 事前指導3：教育分野・福祉分野 (向山)
- 第 5 回 保健医療分野・司法分野における研修1 (高井・向山・空間)
- 第 6 回 保健医療分野・司法分野における研修2 (高井・向山・空間)
- 第 7 回 保健医療分野・司法分野における研修3 (高井・向山・空間)
- 第 8 回 保健医療分野・司法分野における研修4 (高井・向山・空間)
- 第 9 回 教育分野・福祉分野における研修1 (佐藤・三好・薦田)
- 第 10 回 教育分野・福祉分野における研修2 (佐藤・三好・薦田)
- 第 11 回 教育分野・福祉分野における研修3 (佐藤・三好・薦田)
- 第 12 回 教育分野・福祉分野における研修4 (佐藤・三好・薦田)
- 第 13 回 事後指導1：保健医療分野・司法分野のまとめと報告会 (空間)
- 第 14 回 事後指導2：教育分野・福祉分野のまとめと報告会 (佐藤)
- 第 15 回 事後指導3：研修全体のまとめと振り返り (三好)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

受講者を複数のグループに分け、合同でのオリエンテーションと、ディスカッションを中心とした事前事後指導を行う。心理学の知識や技能を用いて対人援助を行っている機関や施設を訪れ、現場での実践について学ぶ。研修ごとの振り返りレポートをもとに講評を行い、学習成果の定着を図る。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

心理学が、保健医療、福祉、教育、司法などの分野において、どのように活用されているのかを文献を通じて熟知した上で、事前指導に臨んでほしい。充実した施設研修とするためには、幅広い視点から、自分なりの問題意識を明確にして持っておくことが重要である。現場に関する基礎知

識が不足した状態で研修を行うことは、研修先に対して失礼となりうることも知っておくべきである。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

学外研修を含む内容であるため、原則として、全回出席が単位認定の基本条件となる。その上で、研修に取り組む態度、事後指導における学習とディスカッション、および、振り返りレポート内容から総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

本研修は、実際に対象者を受け入れている施設内の見学・研修を含むものである。そのため、事前事後指導、施設内の見学・研修における遅刻や欠席は、社会的常識として許されるものではない。自分の将来を見据えて、真摯に取り組もうとする姿勢が特に必要となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

研修分野ごとに、必要に応じて文献等を紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 本科目担当教員は、臨床心理士・臨床発達心理士として医療機関や教育機関等の施設での勤務経験あり。心理学の知識や技能を用いて対人援助を行っている機関や施設を訪れ、現場での実践活動について学ぶ。

心理カウンセリング概論

PSA1500N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

火曜 2限

DP5 : 共生・協働する力

60

定員150人

三好 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

カウンセリング・心理療法には、様々な理論や技法があり、そのもととなる考え方や背景にある人間観もまた様々である。他方、どんな理論や技法にも共通する、基本的な考え方、姿勢、話を聴くスキルなども存在する。本科目の教育目標は次の通りである。①専門的学習への基礎作りとして、カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについて理解し、説明することができる。②カウンセリング・心理療法の基本的な流れを理解し、ポイントとなる事柄について説明することができる。③代表的な理論や技法について理解し、概要を説明することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. カウンセリング・心理療法の基本的な考え方、姿勢、話を聴くスキルについて、具体的に学ぶ。

2. カウンセリング・心理療法の基本的な流れ、ポイントとなる事柄について学ぶ。

3. カウンセリング・心理療法における代表的な理論や技法、背景にある人間観について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについて理解し説明すること	カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについて理解していない。	カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについてある程度理解し、説明することができる。	カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについておおむね理解し、説明することができる。	カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについてよく理解し、説明することができる。
カウンセリング・心理療法の基本的な流れを理解し、ポイントとなる事柄について説明すること	カウンセリング・心理療法の基本的な流れを理解していない。	カウンセリング・心理療法の基本的な流れをある程度理解し、ポイントとなる事柄について説明することができる。	カウンセリング・心理療法の基本的な流れをおおむね理解し、ポイントとなる事柄について説明することができる。	カウンセリング・心理療法の基本的な流れをよく理解し、ポイントとなる事柄について説明することができる。
代表的な理論や技法について理解し、概要を説明すること	代表的な理論や技法について理解していない。	代表的な理論や技法についてある程度理解し、概要を説明することができる。	代表的な理論や技法についておおむね理解し、概要を説明することができる。	代表的な理論や技法についてよく理解し、概要を説明することができる。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション・カウンセリングとは

第2回 カウンセラーの姿勢 (聴く)

第3回 カウンセラーの姿勢 (応える・伝える)

第4回 カウンセリングの過程 (インテーク面接)

第5回 カウンセリングの過程 (見立て—病態水準、発達特性)

第6回 カウンセリングの過程 (見立て—その他)

第7回 カウンセリングの過程でおこってくること

第8回 カウンセリングの枠組み・方法

第9回 カウンセリングの理論と技法 (精神分析的な心理療法)

第10回 カウンセリングの理論と技法 (分析的な心理療法)

第11回 カウンセリングの理論と技法 (クライアント中心療法)

第12回 カウンセリングの理論と技法 (行動療法・認知療法)

第13回 カウンセリングの理論と技法（イメージを用いた技法）

第14回 カウンセリングにおける倫理

第15回 まとめテストとフィードバック

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義形式で行う。基本的には毎回レジュメを配布し、それに基づき授業を進める。

2. 体験的内容の授業の際には、小レポートの提出を求める。

3. 小レポート、まとめテストについては、実施後、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・ 毎回、授業内容について、復習を行うこと。

・ 資料を配布する場合には、指示に従って目を通しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、授業時間内に行う小レポート（30%）、まとめテスト（40%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

受講状況等によって授業内容に変更が生じることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時間内に適宜、配布・紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 心理専門職として施設での勤務経験あり。

心理カウンセリング実践（面接技法）

PSB3601N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次

2単位 前期

金曜 3限

DP6：創造・発信力

60

佐藤 睦子 鶴田 薫 福山 幸子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理カウンセリングにおける技法を体験的に学ぶ。具体的には、受講者は、カウンセリング、集団療法、プレイセラピーの3演習を順に体験する。実際に体験することを通して、各技法の特徴を体験的に理解するとともに、各技法を用いる上でどのような事柄に留意する必要があるのか、留意点や危険性についても学んでいく。各技法を体験した後

は、グループでの振り返りや演習終了後のレポート課題において、体験を言葉にしたり、学んだ事柄を整理していくことで、さらに学びを深めていく。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 心理カウンセリングにおける技法を体験的に学ぶ。

2. 各技法を用いる上での留意点や危険性について、体験的に学ぶ。

3. グループでの振り返りやレポート課題において、体験を言葉にしていくことを通して、学びを深めていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション（佐藤・鶴田・福山）

第2回 カウンセリング（学生相談）（鶴田）

第3回 カウンセリング（”聴かない”実習）（鶴田）

第4回 カウンセリング（医療機関）（鶴田）

第5回 カウンセリング（教育相談）（鶴田）

第6回 集団療法（第一印象）（福山）

第7回 集団療法（情報を伝える/わかちあう）（福山）

第8回 全体演習（佐藤・鶴田・福山）

第9回 集団療法（情報を共有する）（福山）

第10回 集団療法（共感する）（福山）

第11回 プレイセラピー（プレイセラピーとは）（佐藤）

第12回 プレイセラピー（制限と枠）（佐藤）

第13回 プレイセラピー（ロールプレイ①：実際に遊ぶ）（佐藤）

第14回 プレイセラピー（ロールプレイ②：セラピーを受ける）（佐藤）

第15回 まとめ（佐藤・鶴田・福山）

※グループごとに3つの演習を順に行っていくため、演習の順序はグループによって異なる。上記は1グループを例にとったものである。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

演習形式。1つの演習は4回かけて行う。#1のオリエンテーションのち、受講生は4グループに分かれ、3つの演習を順に行っていく。#8は全体演習、#15はまとめの

授業を行う。各演習終了後は、演習ごとにレポート課題を課し、それに対して担当教員がコメントをつけて返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各演習前に、その演習のテーマに関して復習や下調べをしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習形式の授業のため、全回の出席が前提である。原則として欠席および遅刻は認めず、全回出席をもって単位認定の基本条件とする。その上で、演習での取り組みの姿勢(50%)、グループごとに課されるレポートの内容(50%)から、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 体験的な学びの場であるため、自分自身、そして他の受講生の体験を尊重し、大切に扱う心構えで臨むこと。

2. 各演習の担当者は、カウンセリングが鶴田薫、集団療法が福山幸子、プレイセラピーが佐藤睦子である。

3. 心理カウンセリングの技法を実際に体験するため、場合によっては、個人の問題に直面するなどして、精神的な負担が生じることも考えられる。演習に臨む上で特に心配な事柄がある場合、また、万が一、そのような状況に陥った場合には、担当教員に相談してほしい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 全担当教員について、心理専門職として施設での勤務経験あり。

心理テスト論

PSA1450NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

月曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

心理カウンセリングコース必修

伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、心理テストの成り立ちと有効に活用するための基礎知識を習得する。そのための素地作りとして、心理テストのプレ体験を通してその組み立てを批判的に捉えつつ、指標の意味を理解し、テスト実施の扱いの基本について学ぶ。

以降で履修する「心理テスト演習」「心理的アセスメント」といった、心理アセスメントに関する科目群の入門編であ

り、心の「個人差」を捉えようとしてきた心理学の歴史をたどりつつ、知能テスト・発達検査・パーソナリティ検査・神経心理学的検査などから代表的なものについて、その特徴や理論的背景を学ぶ。そのうえで、テストに必要な信頼性と妥当性、標準化テストとそうでないテストのちがいを理解する。

さらに、心理テストを使用する際の倫理的配慮についても学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理テストの成り立ちと歴史を学ぶ。
2. 心理テストの利用目的を知る。
3. 代表的な心理テストの理論と特徴を知り、体験を通してその組み立てを学びつつ、指標の処理等についてもスキルを習得する。
4. 心理テストが備えておくべき条件を学び、その効用と限界を学ぶ。
5. テストの実施、結果の利用にあたっての倫理を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業内容に関心を持つ	授業内容と自身の体験を関連づける	授業内容を自己理解につなげる	授業内容により自己理解を深め、将来展望に活かす
知識・理解力	ノートやレジュメを用いて学ぶ	知識を自分なりに整理してまとめる	知識を応用して疑問や理解につなげる	自ら文献を読むなどして知識を広げ、深めて、批判的に考察する
言語力・思考力	基本的用語を言うことができる	基本的な用語や理論を説明できる	基本的な用語や理論を体験と結びつけて説明できる	基本的な用語や理論を関連づけ、体系的に説明できる
共生・協働する力	集団授業のマナーを守ることができる	他の受講者や教員とともに学ぶとする	自身を他の受講者や教員との学びに活かそうとする	本科目での学びを社会でどのように生かせるか考察できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション…人の「人となり」はどうかやったら測れるのか？
- 第 2 回 心理テストのなりたちと利用の目的
- 第 3 回 心理テストの歴史
- 第 4 回 知能の理論
- 第 5 回 知能テスト (1) ビネーの知能テスト
- 第 6 回 知能テスト (2) ウェクスラーの知能テスト
- 第 7 回 子どもの発達検査
- 第 8 回 パーソナリティ検査 (1) 質問紙法・作業検査法
- 第 9 回 パーソナリティ検査 (2) 投影法

- 第 10 回 そのほかの心理テスト（神経心理学的検査、適性検査など）
- 第 11 回 心理テストの信頼性と妥当性・・・測りたいものがかちゃんと測れているのか？
- 第 12 回 心理テストの標準化・・・まっとうな心理テストにするために
- 第 13 回 テスト・バッテリーと現場での心理テスト
- 第 14 回 心理テストを利用する際の倫理的配慮
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

スライドと配布プリントによる講義形式。ワークプリントで、心理テストの模擬体験なども行う。その中で、心理テストの組み立てや心理テストが備えるべき条件を理解する。また、さまざまな側面から個人差を捉えることの難しさと興味深さを学ぶ。

授業中の発問やワークプリントについては、適宜口頭や記述コメントによってフィードバックを行う。期末試験については、解答例と解説を配布し、個別質問等に対応する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

* 授業中に実施したプリントワークなどの内容について、必要に応じて教員に尋ねる、上記の参考図書で学ぶなど、自主的に学習すること。

* 日ごろから一般向けの雑誌やネットなどで紹介されている「心理テスト的なもの」のものにも興味を持つ。そして、どんな内容が多いのか、人々がどのように関心を向けているのか、それにどのような問題点があるのかについて考えておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度と授業時間中のプリント課題（40%）、期末定期試験（60%）の提出に基づき、総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

職業倫理的に守秘性のある内容に触れる場合もあるため、担当教員の許可なく録音やスライドの撮影などをしないこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業中にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心理検査法入門』/渡辺洋（編著）/福村出版/1993/9784571240294

『心理尺度のつくり方』/村上宜寛/北大路出版/2006/9784762825231

『心理テスト法入門（第4版）』/松原達哉（編著）/日本文化科学社/2002/9784821063604

『臨床心理アセスメントハンドブック』/村上宜寛・村上千恵子/北大路出版/2004/9784762824029

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫／臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

心理学的支援法

PSA3503NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次 4年次

2単位 前期

火曜2限

DP5：共生・協働する力

60

村松 朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理療法には様々な技法があり、理論、アプローチの仕方、何を重要と考えるかなどの点で異なっている。その一方で共通点も多く、異なる技法を組み合わせる使う折衷派・統合派のセラピストも多い。本科目ではそうした異なる技法の主要なものについて学び、その特徴を理解するとともに、心理療法全般に共通する点、普遍的に重要である点についても理解することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

心理療法の総論およびそれぞれの各論のコンセプトを理解し、さらには実際の心理療法の現場感覚についてある程度のイメージを持てることとし、以下の個別課題を設定する。

(1)代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界

(2)訪問による支援や地域支援の意義

(3)良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法

(4)プライバシーへの配慮

(5)心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援

(6)心の健康教育を学び、支援者として心理学的観点を培うこと

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己への気づきが全くない	自分についてこれまで気づいていたことに結びつけて考えることができる	自分について何となく気づいていたことについて理解を深めることができる	これまで気づいていなかった自分の気づきが得られ、内省することができる
知識・理解力	心理療法の総論、各論の理解ができていない	部分的に理解できている	各論について、それぞれ説明できる	複数の心理療法のアプローチの違いと共通点を説明できる

言語力	講義で理解したことを言葉で説明できない	講義で理解したことを部分的に言葉で説明できる	講義で理解したことを概ね言葉で表現できる	講義で理解したことを他の人に理解を促進するよう説明できる
-----	---------------------	------------------------	----------------------	------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
心理学的支援を行う者の役割と責任
- 第 2 回 心理療法の広がり：歴史と概観
- 第 3 回 精神分析的な心理療法
- 第 4 回 分析心理学（ユング心理学の基礎理論）
- 第 5 回 来談者中心療法
- 第 6 回 行動療法
- 第 7 回 認知行動療法
- 第 8 回 日本で生まれた心理療法（森田療法・内観療法）
- 第 9 回 箱庭療法・遊戯療法・表現療法
- 第 10 回 家族療法
- 第 11 回 訪問による支援や地域支援；アウトリーチ、コンサルテーション、リエゾンなど
- 第 12 回 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
- 第 13 回 関係者に対する支援と心の心理教育
- 第 14 回 プライバシーへの配慮
守秘義務と説明責任について
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 主として講義形式で行う。教科書は使用せず、毎回レジュメを配布してそれに応じた内容で進める。
2. 視聴覚教材などを取り入れ、体験的理解を促す。
3. 質問や意見を頻繁に聞いていくので、積極的な発言を求める。それによって、一方通行の講義ではなく、皆で考えながら学べる講義を目指す。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。
心理療法を行うには、長期の専門的訓練が必要となる。本科目は将来そうした訓練を受けることを希望する学生が受講することを想定している。参考文献を紹介するので、自ら意欲を持って学習することを期待する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

まとめの試験と平常成績（授業参加度や授業態度、授業中の発言）、授業中に行うミニレポートで総合評価する。

＜平常成績とミニレポート（50%）、まとめの試験（50%）＞
ミニレポートについて、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

まとめの試験の後に、解説とまとめの説明を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

この講義では、授業中も発言したり、考えたりと積極的な態度を求めます。ですから、他の受講生の妨げになるような私語や携帯電話の使用は認めません。遅刻/早退や欠席も極力控えて下さい。

進行上の都合により、内容が変更となる場合があります。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無〕〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『臨床心理学入門 多様なアプローチを越境する』/岩壁茂/有斐閣アルマ/2013/9.784641220034E12

その他、必要に応じて授業時間内に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

臨床心理士として、医療機関・教育機関での勤務経験あり。

心理的アセスメント

PSA2451NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

2年次

2単位 後期

金曜 2限

DP4：思考・解決力

60

心理テスト演習

三好 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理的アセスメントは、心理的支援の対象者の状態や特性についての情報を、心理面接・心理テスト・行動観察といった専門的手法により生物、心理、社会的観点から収集し、問題状況を総合的に把握・評価して適切な支援の方向性を見極めることを目的として行われる。また、心理的アセスメントは、個人や集団の問題に深く立ち入る必要にも迫られる営みであるため、心理的アセスメントを学ぶ者は、それに伴う倫理についても十分に学んでおく必要がある。

①心理的アセスメントの目的と倫理

心理的アセスメントの目的、および、守秘義務、プライバシーの尊重、対象者の人格・人権の尊重等の心理専門職の倫理について、講義を通して学ぶ。

②心理的アセスメントの方法と展開

心理面接・心理テスト・行動観察といった心理的アセスメントの具体的な方法、およびこれらの実践的展開について、模擬体験および講義を通して学ぶ。

③心理的アセスメントの記録と報告

アセスメント内容の適切な記録、収集した情報に基づく支援方法の検討、対象者・関係者等への報告、関係機関との連携について、模擬体験および講義を通して学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①心理的アセスメントの目的と倫理について学ぶ。
- ②心理的アセスメントの方法と展開について学ぶ。
- ③心理的アセスメントの記録と報告について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理的アセスメントの目的と倫理の理解	心理的アセスメントの目的と倫理について理解していない。	心理的アセスメントの目的と倫理についてある程度理解している。	心理的アセスメントの目的と倫理についておおむね理解している。	心理的アセスメントの目的と倫理についてよく理解している。
心理的アセスメントの方法と展開の理解	心理的アセスメントの方法と展開について理解していない。	心理的アセスメントの方法と展開についてある程度理解している。	心理的アセスメントの方法と展開についておおむね理解している。	心理的アセスメントの方法と展開についてよく理解している。
心理的アセスメントの記録と報告の仕方の理解	心理的アセスメントの記録と報告の仕方について理解していない。	心理的アセスメントの記録と報告の仕方についてある程度理解している。	心理的アセスメントの記録と報告の仕方についておおむね理解している。	心理的アセスメントの記録と報告の仕方についてよく理解している。

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 心理的アセスメントの目的と倫理
- 第3回 心理的アセスメントの方法と展開①：心理的アセスメントの方法
- 第4回 心理的アセスメントの方法と展開②：心理面接（インテーク面接）の技法と収集すべき基本的情報
- 第5回 心理的アセスメントの方法と展開③：心理面接（インテーク面接）に関する模擬体験
- 第6回 心理的アセスメントの方法と展開④：心理テストの概要
- 第7回 心理的アセスメントの方法と展開⑤：心理テストの模擬体験（SCT）
- 第8回 心理的アセスメントの方法と展開⑥：心理テストの模擬体験（ロールシャッハテスト）
- 第9回 心理的アセスメントの方法と展開⑦：心理テストの模擬体験（描画法）
- 第10回 心理的アセスメントの方法と展開⑧：心理テストの模擬体験（神経心理学検査）
- 第11回 心理的アセスメントの方法と展開⑨：行動観察の概要
- 第12回 心理的アセスメントの方法と展開⑩：行動観察に関する模擬体験
- 第13回 心理的アセスメントの記録と報告①：記録の仕方、対象者等への報告の概要
- 第14回 心理的アセスメントの記録と報告②：記録と報告

に関する模擬体験

第15回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポート課題を出す。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義および模擬体験を通して学ぶ。テキストは指定せず、資料を配布する。受講生へのフィードバックは、manaba上で行う予定である。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

これまで受講した心理検査関連の授業、および、毎回の授業内容の復習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、受講参加度20%、模擬体験の感想レポート40%、期末レポート40%をもとに、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

平成29年度以後入学者は「心理テスト演習」、平成25年度以後入学者は「心理テスト実習」、平成24年度以前入学者は「心理検査法実習」を履修していること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業中に資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理専門職として施設での勤務経験あり。

神経・生理心理学

PSA3258N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 後期

火曜 3限

DP2：知識・理解力

60

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

話す、理解する、記憶する、想像する、道具を使うなど日常生活のさまざまな行為を可能にしているメカニズムや、喜び、驚き、恐れ、怒り、嫌悪、悲しみなどの情動反応の機序を脳の働きから理解する。すなわち、「脳神経系の主な構造と機能を専門用語を用いて説明することができる」「人間の心理・行動を脳のメカニズムから説明することができる」「高次脳機能障害や発達障害に関連する症状を脳のメカニズムから説明することができる」ことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 脳神経系の主な構造、そして大脳皮質（葉、回など）と機能局在、大脳辺縁系や基底核とその働きについて説明できる。
2. ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語について説明できる。
3. 失行について理解し、観念運動失行などのメカニズムについて説明できる。
4. 失認について理解し、各種視覚失認の違いを述べることができる。
5. 純粋失読のメカニズムについて説明できる。
6. 記憶障害のメカニズムについて説明できる。
7. ブレインイメージングを用いた実験から顔認知や表情認知、情動反応などのメカニズムを説明できる。
8. ブレインイメージングを用いた実験からワーキングメモリー、心の理論、遂行機能などのメカニズムを説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
脳神経系の主な構造とその働きについて	大脳皮質（葉、回など）と機能局在、大脳辺縁系や基底核とその働きについての知識をもっていない	大脳皮質（葉、回など）と機能局在、大脳辺縁系や基底核とその働きについて、理解している	大脳皮質（葉、回など）と機能局在、大脳辺縁系や基底核とその働きについて、講義資料等を用いて、説明できる	大脳皮質（葉、回など）と機能局在、大脳辺縁系や基底核とその働きについて、自ら図示し、説明できる
失語について	ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語についての知識をもっていない	失語の定義、そして、ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語についての責任領域や特徴などを、理解している	失語の定義、そして、ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語についての責任領域や特徴などを、講義資料等を用いて、説明できる	失語の定義、そして、ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語についての責任領域や特徴などを、自ら図示し、説明できる
失行について	失行の定義、代表的な失行についての知識をもっていない	失行の定義、代表的な失行についての責任領域や特徴などを、理解している	失行の定義、代表的な失行についての責任領域や特徴などを、講義資料等を用いて、説明できる	失行の定義、代表的な失行についての責任領域や特徴などを、自ら図示し、説明できる

失認について	失認の定義、代表的な視覚失認についての知識をもっていない	失認の定義、代表的な失認についての責任領域や特徴などを、理解している	失認の定義、代表的な失認についての責任領域や特徴などを、講義資料等を用いて、説明できる	失認の定義、代表的な失認についての責任領域や特徴などを、自ら図示し、説明できる
記憶障害について	記憶の種類とメカニズム、記憶障害の責任領域についての知識をもっていない	記憶の種類とメカニズム、記憶障害の責任領域について、理解している	記憶の種類とメカニズム、記憶障害の責任領域について、講義資料等を用いて、説明できる	記憶の種類とメカニズム、記憶障害の責任領域について、自ら図示し、説明できる
高次脳機能のブレインイメージングについて	ブレインイメージングについての知識をもっていない	高次脳機能のブレインイメージングについて、理解することができる	高次脳機能のブレインイメージングについて、講義資料等を用いて、説明できる	高次脳機能のブレインイメージングについて、議論することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 神経心理学とは。脳の構造について－ヒトの脳の特徴とは－
- 第 2 回 失語症（1） ブローカ失語について
- 第 3 回 失語症（2） ウェルニッケ失語、伝導失語などについて
- 第 4 回 確認テスト／失行について（各種失行の理解と観念運動失行）
- 第 5 回 失行について（観念運動失行）／失認について（1） 純粋失読など
- 第 6 回 失認について（2） 物体失認、相貌失認、街並失認、無視症候群など
- 第 7 回 確認テスト／顔の記憶と表情の理解（概論）
- 第 8 回 顔の記憶と表情の理解（各論）
- 第 9 回 確認テスト／記憶のメカニズムと記憶障害（概論）
- 第 10 回 記憶のメカニズムと記憶障害（各論）
- 第 11 回

ワーキングメモリーについて

第 12 回 確認テスト／心の理論と脳（概論）

第 13 回 心の理論と脳（各論）

第 14 回 確認テスト／情動と脳（概論）

第 15 回 情動と脳（各論）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. プリントを配布する。プリントには必要な基礎事項を掲載する。
2. 講義にはスライドや視聴覚教材も用いる。スライドでは、図を多く用いて理解の助けとする。
3. ブレインイメージングを用いた人間の感情や行動に関する最新の研究を紹介し、高次脳機能に関連する脳のメカニズムを理解する。
4. 確認試験に対するフィードバックは、試験結果の返却時に講評・解説を口頭で行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・参考図書などで該当箇所を予習する
- ・授業後は配布プリントを用いて必ず復習をし、次の授業へとつなげる

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（15％）と確認試験（まとめ）（85％）により総合判断する。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
- ・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『脳のふしぎ-神経心理学の臨床から』/山鳥 重/そうろん社/2003/

『神経心理学入門』/山鳥 重/医学書院/1985/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

人体の構造と機能及び疾病

SWA2205N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

2年次

2単位 前期

水曜 4限

DP2：知識・理解力

60

寺谷 愉利子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

近年、iPS細胞や遺伝子治療など医学・医療の進展は目覚ましく、医療機関の機能は益々複雑になりつつある。医療が疾病構造の変化や国民の意識、患者のニーズによって時代と共に変遷することはいうまでもないが、「病める人」を治療したり、ケアするという医療の本質は、いつの世も変わらないことを銘記しておく必要がある。最近の医療では、サービスの質の向上や、専門的分野の高度化により、医師だけでは完結できないことも多くなっている。今日の老化の問題を含めて、福祉医療に携わる将来のために、基礎的、かつ実践でも役立つ一般的な医学的教養を学習する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 人の成長・発達と老化
2. 身体構造と心身の機能
3. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要
4. 健康のとらえ方
5. がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病と障害の概要
6. リハビリテーションの概要

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 第1回

オリエンテーション、第 1 章人の成長・発達と老化 第1節、第2節、第3節

第 2 回 第2回

第 2 章身体構造と心身の機能 第1節、第2節10,1～

5

- 第 3 回 第3回
第 2 章身体構造と心身の機能 第2節6～8
- 第 4 回 第4回
第 2 章身体構造と心身の機能 第2節9,11～13
- 第 5 回 第5回
第 3 章 疾病の概要第1節～第4節
- 第 6 回 第6回
第 3 章 疾病の概要 第5節～第8節
- 第 7 回 第7回
第 3 章 疾病の概要 第9節～第12節
- 第 8 回 第8回
第 3 章 疾病の概要 第13節～18節
- 第 9 回 第9回
中間テスト 第 4 章 障害の概要 第1節～第3節
- 第 10 回 第10回
中間テスト解答 第 4 章 障害の概要 第4節～第7節
- 第 11 回 第11回
第 4 章 障害の概要 第8節～第10節
- 第 12 回 第12回
第 5 章リハビリテーションの概要 第1節～第5節
- 第 13 回 第13回
第 6 章 国際生活機能分類の基本的考え方と概要 第1節～第4節、第 7 章 健康のとらえ方 第1節～第2節
- 第 14 回 第14回
第 7 章 健康のとらえ方 第3節～第7節
- 第 15 回 第15回
第 7 章 健康のとらえ方 第8節～第9節、まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

講義形式

2. 学習方法

- (1)テキストに沿って行う、プリントで内容補充。
 (2)人体模型やOHC、パワーポイントを用い、頭の中にイメージを作っていく。
 (3)毎回宿題を出すので、復習しながらやること。必ず次回提出すること。返却するときに、講義で解説する。

3. テキスト・文献など

(1)テキストは社会福祉士養成講座『医学一般』(中央法規)を用いる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 毎回宿題をやりながら復習をして、内容を理解すること。毎時間補助プリントを配付するので、しっかり読んでおくこと。分からないところは、次の授業で必ず質問すること。
 2. テキストの大項目と太字のところを読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 成績は、中間テスト (15%)、定期テスト (70%)、授業参加度 (10%)、毎回の宿題 (5%) の総合評価とする。
 2. 3分の2以上の出席がないものは、期末試験の受験資格を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

他の受講生に迷惑となる私語、スマホによるメールの送受信、飲食は禁止。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『社会福祉士養成講座 『1 人体の構造と機能及び疾病』 - 医学一般』/社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規/2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 看護師として施設での勤務経験あり。

精神科リハビリテーション学 II

SWR3452N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

橋本 史人

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

その人の人生をどう支援していくかを、講義、視聴覚教材、演習などを通して、身体 (生物学的)・こころ (心理学的)・環境 (社会的) から見る事が出来るよう、自身を含めた身近なコトとして一緒に考えていきましょう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 障害を持つ人へのリハビリテーション技術を理解する
 2 他職種等とのチームワーク、関係機関とのネットワークの重要性を理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 精神科リハビリテーションの概念と歴史
- 第 2 回 精神科リハビリテーションの理念と現状
- 第 3 回 地域を基盤にした相談援助－受理面接
- 第 4 回 地域を基盤にした相談援助－支援の計画と終結
- 第 5 回 地域を基盤にした相談援助－家族の支援
- 第 6 回 集団療法
- 第 7 回 行動療法
- 第 8 回 面接技法 I 種類
- 第 9 回 面接技法 II ロールプレイ
- 第 10 回 ケアマネジメントの概念と歴史
- 第 11 回 ケアマネジメントの理念と現状
- 第 12 回 スーパービジョン
- 第 13 回 コンサルテーション
- 第 14 回 ネットワーキングとセルフヘルプ
- 第 15 回 これからの精神科リハビリテーションの課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義、小テスト、視聴覚教材、プリント、グループワークなど。課題はその都度講義内でフィードバックする。講義時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。試験のフィードバックは試験後に解説し行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自分や周りの人々を含めて、メンタルヘルス (精神保健) について疑問を持つ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験 (50%)、授業参加 (30%)、小テスト (20%)。出席回数 3 分の 2 に満たない者はテスト等の受験資格を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新精神保健福祉士養成講座 (4) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』//中央法規///学内販売予定

*テキストは使用しないが適宜読むこと。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 社会福祉士・精神保健福祉士として施設で勤務中。

精神疾患とその治療 I

SWR2203N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜1限

DP2: 知識・理解力

60

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神的健康の保持や増進のため、また心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援や精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神医学 I では、統合失調症、躁うつ病、不安障害 (パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害)、摂食障害、心身症など代表的な精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の成因、症状、診断方法、治療法、経過、本人や家族への支援などを体系的に理解していくことを目的とする。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者と家族の支援のあり方について説明することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統合失調症の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
2. 躁病・うつ病の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
3. 不安障害 (パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害) の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
4. 心身症について説明できる
5. 摂食障害の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
6. 向精神薬の特徴と作用について説明できる
7. 医療が必要な状態について説明できる

〔ルーブリック表〕

DP 精神障害の	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分類と診断方法について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の分類と診断方法について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の分類と診断方法について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点を

				まとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の原因と症状について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の原因について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の原因について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の薬物療法や専門的な治療について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の薬物療法や専門的な治療について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の薬物療法や専門的な治療について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の当事者や家族の支援について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の当事者や家族の支援について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の当事者や家族の支援について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
医療等が必要な状態について	精神症状の把握と対応について、知識を持っていない	精神症状の把握と対応について、理解している	精神症状の把握と対応について、講義資料等を用いて説明できる	精神症状を把握した時に、その状況を整理し、対応について優先順位をつけることができる
共生社会について	精神障がい者と家族がおかれている状況に関心がない	精神障がい者と家族がおかれている状況を理解している	得られた理解をもとに、私たちが住んでいる社会の現状と望ましい共生社会のギャップについて気づくことができる	気づいたギャップについて、学んだ知識をもとに情報を収集し、課題を見出すことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 精神医学概論（精神保健・福祉の歴史を含む）
- 第 2 回 統合失調症とは（1）概論（精神保健・福祉の歴史を含む）
- 第 3 回 統合失調症とは（2）幻覚・妄想など
- 第 4 回 統合失調症とは（3）自我障害、陰性症状など
- 第 5 回 統合失調症とは（4）治療など
- 第 6 回 躁うつ病概論・うつ病（精神保健・福祉の歴史を含む）
- 第 7 回 うつ病および躁病（1）症状・診断について
- 第 8 回 うつ病および躁病（2）治療・対応について
- 第 9 回 不安障害（1）概論
- 第 10 回 不安障害（2）パニック障害・広場恐怖などについて
- 第 11 回 不安障害（3）社交不安障害などについて
- 第 12 回 不安障害（4）強迫性障害などについて
- 第 13 回 不安障害（5）転換性障害、解離性障害などについて
心身症について
- 第 14 回 摂食障害（1）病態について
- 第 15 回 摂食障害（2）合併症・治療について
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義形式で、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する
- 毎回の講義後、配布資料およびテキスト・参考図書などにより復習をする
- 定期試験については、試験終了後に解説をmanaba等で公開する
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
該当箇所をテキストで予習する
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度・授業態度（15%）と試験（85%）により総合判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。

・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『精神疾患とその治療 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会(編集)/中央法規/2016//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『精神医学—精神疾患とその治療(改訂新版)』/日本精神保健福祉士養成精神保健福祉士養成セミナー/へるす出版//

『精神医学—精神疾患とその治療 (改訂新版精神医学(MINOR TEXTBOOK))』/加藤伸勝/金芳堂//

『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

精神疾患とその治療 II

SWR2454N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

火曜1限

DP4: 思考・解決力

60

精神疾患とその治療I

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神的健康の保持や増進のため、また心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援や精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神疾患とその治療IIでは、PTSD、適応障害、パーソナリティ障害、発達障害、アルコール・薬物依存、睡眠障害、認知症、てんかんなど各種精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の成因、症状、診断方法、治療法、経過、本人や家族への支援などを体系的に理解し、また向精神薬の作用についても理解していく。さらに、医療機関との連携や地域精神保健の展開についても理解を深めていく。これらの理解のうえに、精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について分析する力をつける。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる

4. 精神障害者・家族の支援のあり方について説明することができる

5. 精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について、分析し説明することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. PTSD、適応障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

2. パーソナリティ障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

3. 発達障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

4. アルコール依存・薬物依存の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

5. 主な睡眠障害の症状・診断について説明できる

6. てんかんの症状・診断法・治療法・支援の方法について説明できる

7. 主な認知症の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

8. 地域で暮らす精神障害者の支援とその課題について具体的に述べることができる

9. 医療が必要な状態について説明できる

10. 向精神薬の特徴と作用について説明できる

11. 精神疾患とその治療 I・II で学んだ精神障害に関する知識をもとに、精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神障害の分類と診断方法について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の分類と診断方法について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の分類と診断方法について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の原因と症状について	知識を持っていない	知識を持っている	資精神障害の原因と症状について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の原因と症状について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の薬物療法や専門的治療について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の薬物療法や専門的治療について、講義資料等	精神障害の薬物療法や専門的治療について、授業内容を

			を用いて、説明できる	もとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の当事者や家族の支援について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の当事者や家族の支援について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の当事者や家族の支援について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
精神医療・精神保健福祉に関する法律について	知識を持っていない	知識を持っている	講義資料等を用いて、説明できる	精神医療・精神保健福祉に関する法律の課題について議論することが出来る
医療等が必要な状態について	精神症状の把握と対応について、知識を持っていない	精神症状の把握と対応について、理解している	精神症状の把握と対応について、講義資料等を用いて、説明できる	精神症状を把握した時に、その状況を整理し、対応について優先順位をつけることができる
共生社会について	精神障がい者と家族がおかれている状況に関心がない	精神障がい者と家族がおかれている状況を理解している	得られた理解をもとに、私たちが住んでいる社会の現状と望ましい共生社会のギャップについて情報を収集し、分析することができる	分析により見出した課題を整理し、解決に向けて自らの行動について優先順位をつけることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回
ストレス関連障害（1）－PTSD概論－
- 第 2 回
ストレス関連障害（2）－PTSD各論、適応障害など－
- 第 3 回
ストレス関連障害（2）－急性ストレス障害、適応障害など－

- 第 4 回
パーソナリティ障害（1）概論
- 第 5 回
パーソナリティ障害（2）各論
- 第 6 回
確認テスト／発達障害（1）概論、学習障害など
- 第 7 回
発達障害（2）ADHDなど
- 第 8 回
発達障害（3）自閉スペクトラム症
- 第 9 回
アルコール依存
- 第 10 回
薬物依存
- 第 11 回
確認テスト／睡眠障害／てんかん（1）－概論
- 第 12 回
てんかん（2）－診断・症状・治療・対応について
- 第 13 回
認知症について－概論・アルツハイマー病
- 第 14 回
その他の主な認知症について
- 第 15 回
確認テスト／精神保健福祉法、地域精神医療について

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を中心とし、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する。

毎回の講義後、配布資料およびテキスト・参考図書などにより復習をする

確認試験に対するフィードバックは、試験結果の返却時に講評・解説を口頭で行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストで、該当箇所を読んでおくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

討議を含む授業参加度・授業態度（15%）、確認テスト（85%）による総合評価。

〔留意事項（Other Information）〕

・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。

・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『精神疾患とその治療 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会(編集)/中央法規/2016//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『精神医学—精神疾患とその治療(改訂新版)』/精神保健福祉士養成セミナー/へるす出版//

『精神医学(MINOR TEXTBOOK)』/加藤伸勝/金芳堂//

『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

精神保健学 I

SWA2204N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科(実践的科目)

2年次

2単位 前期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「こころの健康」を保持増進するための精神保健学は、精神医学・公衆衛生学・発達心理学・臨床心理学などとともに発展してきた実践的な学問です。「こころの健康」を個人・集団・環境などさまざまな観点から考え、現代社会が直面している精神保健の課題を全般的に理解し、広い視野を持ってその課題を見る視点について学びます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

「こころの健康」を自分や家族の身近なテーマとして意識することからはじめ、現代社会を生きる人々の「こころの健康」をどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

こころの健康に関する正しい知識を身につける	こころの病は特別な人になる特別な病気であると考えている。	こころの病は誰にでもなるものであり、ストレス解消や支えが必要であることが理解し説明できる。	こころの病は誰にでもなるものであり、その状態にあわせて必要な支援が理解し説明できる。	こころの病は誰にでもなるものであり、その人の状態に加え、その人の置かれている状況や資源をふまえた必要な支援が理解し説明できる。
-----------------------	------------------------------	-----------------------------------------------	--------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・わたしたちとこころの健康
本当は誰にとっても身近であるこころの健康の考え方について学びます。
- 第 2 回 精神保健の歴史と課題
遅れている日本の精神保健福祉システムの理由を理解するためにこれまでの歴史を学びます。
- 第 3 回 ライフサイクルと精神の健康 I (乳児期から思春期)
人の人生はそれぞれの時期に求められる発達課題があります。乳児期から思春期の発達課題とこころの健康について学びます。
- 第 4 回 ライフサイクルと精神の健康 II (青年期から老年期)
人の人生はそれぞれの時期に求められる発達課題があります。青年期から老年期の発達課題とこころの健康について学びます。
- 第 5 回 ストレスと精神の健康、精神保健に関する予防
ストレスとこころの健康との関連、精神保健の予防という考え方を学びます。
- 第 6 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (1) 結婚と育児
精神保健と家族の課題として、結婚と出産、育児について学びます。
- 第 7 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (2) 社会的引きこもり
精神保健と家族の課題として、思春期・青年期の社会的ひきこもりについて学びます。
- 第 8 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (3) 病気療養や介護
精神保健と家族の課題として、家族の誰かが病気や「障害」、高齢になってケアや介護が必要になった場合の「ケアラー」について学びます。
- 第 9 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (1) 現代の学校教育と生徒児童の特徴
精神保健と学校教育の課題として、不登校やいじめなど子どもたちの直面する課題について学びます。
- 第 10 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (2) 教員の精神保健

精神保健と学校教育の課題として、子どもたちに向かい合っている教員のメンタルヘルスについて学びます。

- 第 11 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（3） 学校における精神保健福祉士の役割
精神保健と学校教育の課題として、スクールソーシャルワーカーの活動と実際について学びます。
- 第 12 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（1） 現代日本の労働環境
精神保健と労働の課題として、長時間労働やストレスフルな労働環境など勤労者が直面する課題について学びます。
- 第 13 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（2） うつ病と過労自殺
精神保健と労働の課題として、うつ病や過労自殺について学びます。
- 第 14 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（3） 職場における精神保健福祉士の役割
精神保健と労働の課題として、ソーシャルワークの果たす役割について学びます。
- 第 15 回 理解度確認テストと解説・まとめ
これまでの授業の理解度を確認するためのテストと解説を行い、まとめを行います。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

該当する部分を教科書等で整理しておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

理解度確認テスト50点、授業参加度15点、レポート35点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項（Other Information）〕

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 精神保健の課題と支援 第2版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018/978-4-8058-5595-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健学 II

SWA2452N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

月曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

精神保健学 I の基本的知識をふまえて、「こころの健康」の個別の課題に対して理解を深め、現代社会が直面している精神保健の課題に対する具体的な支援や解決方法について学びます。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

現代社会を生きる人々の「こころの健康」の個別課題についてどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
こころの健康の個別課題に関する正しい知識を身につける	こころの病の個別課題の違いについて理解できていない。	こころの病の個別課題の違いについて、理解し説明できる。	こころの病の個別課題の違いについて理解し説明できるとともに、その状態にあわせて必要な支援が理解し説明できる。?	こころの病の個別課題の違いについて理解し説明できるとともに、その人の状態に加え、その人の置かれている状況や資源をふまえた必要な支援が理解し説明できる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション・こころの健康と支援
「こころの健康」の個別の課題に対して具体的な支援や解決方法についての考え方について学びます。

第 2 回 発達障害とこころの健康

- 発達障害について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 3 回 アルコール・薬物問題とこころの健康
アルコール・薬物問題について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 4 回 うつ病・自殺対策とこころの健康
うつ病・自殺対策について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 5 回 認知症とこころの健康
認知症について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 6 回 災害とこころの健康
災害とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 7 回 DVとこころの健康
DV（夫婦間暴力）とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 8 回 貧困とこころの健康
貧困とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 9 回 ホームレス問題とこころの健康
ホームレス問題とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 10 回 LGBTとこころの健康
LGBTとこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 11 回 ターミナルケアとこころの健康
ターミナルケアとこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 12 回 WHOとこころの健康
WHO（世界保健機関）とこころの健康について理解し、全世界で取り組まれているこころの健康についての施策や取り組みについて理解します。
- 第 13 回 諸外国の精神保健活動の現状及び対策（イタリア）
イタリアにおける精神保健の現状について学び、日本の課題について振り返ります。
- 第 14 回 諸外国の精神保健活動の現状及び対策（イギリス）
イギリスにおける精神保健の現状について学び、日本の課題について振り返ります。
- 第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ
これまでの授業の理解度を確認するためのテストと解説を行い、まとめを行います。
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメ

ントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
該当する部分を教科書等で整理しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
理解度確認テスト50点、授業参加度15点、レポート35点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。
〔留意事項（Other Information）〕
教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『新・精神保健福祉士養成講座（2）精神保健の課題と支援 第2版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018/978-4-8058-5595-9/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に示します。
〔参考URL(URL for Reference)〕
授業中に示します。
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫ 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉援助演習（基礎）

SWR3202N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次

1単位 前期

金曜 1限

DP2：知識・理解力

15

佐藤 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

精神保健福祉士の援助に必要な対人援助の基礎を学ぶ。援助とは、相談・訪問・グループ活動などさまざまな場面で、自分という人間を通して相手に働きかける行為でもあり、自分自身を知ること、他者を理解することを基盤に、面接等における傾聴の姿勢を習得すると同時に、そこから浮かび上がるニーズを、個人にとどまらず環境（人間関係や社会資源、そして地域社会）との接点にどのように働きかけ

るかについてグループワーク、ロールプレイ等を通して演習を行う。

- (1) 支援の仕事を目指す自己の動機と目的意識を確認し、自己理解と他者理解を深める契機とする
- (2) 援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得する
- (3) 援助専門職に求められる面接技法、記録技術、コミュニティワークの基礎を習得する

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得する	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解できていない	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき説明できる	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき実行できる	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき実行できるとともにわかりやすく説明できる

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション・ソーシャルワークとは
ソーシャルワークの基本と視点を学び、これから身につけていく姿勢と技術を確認します。
- 第 2 回 自分を知ること 自己覚知
ソーシャルワークは「自分を使って」支援する職業です。自分をより知ることは良い支援に必須です。いくつかのワークで自分をより知ることを目指します。
- 第 3 回 自分を知り他者を知る 「見えている世界」の違いの理解
ソーシャルワークの重要なもう一つの視点は、クライアントやその家族の身になって考えることです。いくつかのワークを通して自分の「見えている世界」を確かめてみます。
- 第 4 回 精神保健福祉士の価値と倫理
精神保健福祉士の価値と倫理をいくつかのワークを通して身につけます。
- 第 5 回 援助の基本姿勢 バイステティックの原則の理解を通して
ソーシャルワークの基本姿勢として、バイステティックの原則を学び身につけます。
- 第 6 回 援助の基本姿勢 傾聴について学ぶ
傾聴はソーシャルワークの基本姿勢・技術として中核となるものです。傾聴のあり方についていくつかのワークを通して身につけます。
- 第 7 回 援助の基本姿勢 問うことの工夫
ソーシャルワークはクライアントとの協働が求められるため、聴くだけでは十分ではありません。どのように「問う」かをいくつかのワークで考えます。
- 第 8 回 援助の基本姿勢 望んでいない支援を届ける

表面的には支援を望んでいない人にも支援を届ける必要がある場合があります。どのような姿勢でどのようにかかわっていくのか、いくつかのワークでその関わり方の基本を身につけます。

- 第 9 回 援助の基本姿勢 グループワークとは何か
グループの力をどのように活用するのか、いくつかのワークを通してその姿勢と方法を身につけます。
 - 第 10 回 アセスメントの重要性 ニーズをとらえる
本人が口にすることだけが「ニーズ」ではありません。口にされたデマンド以外にさまざまな要素を考えて「ニーズ」を（本人とともに）見つけていかないとけません。その姿勢と基本的技術を身につけます。
 - 第 11 回 プランニングに求められること 目標を共有する協働であるソーシャルワークは、本人の願いや希望をともに考え、それを実現するための方法もともに考えるところに特徴があります。支援計画を立てていく際の基本姿勢と基本技術を身につけます。
 - 第 12 回 記録の重要性 振り返ること、支援をつなげること
記録はソーシャルワークをよりよくしていくものとして欠かさないものです。その記録の基本について学びます。
 - 第 13 回 コミュニティアセスメント ネットワークの重要性
クライアントの願いや希望は多様でひとりの人やひとつの機関だけでは完結しないものです。多くの機関や支援者とともに支援をしていくネットワークのあり方についてワークを通じて身につけていきます。
 - 第 14 回 社会資源の開発・ソーシャルアクション
ソーシャルワークの重要な特徴のひとつは、個別のニーズをいかに地域の課題と連動してとらえ、コミュニティに働きかけるソーシャルアクションです。ソーシャルアクションの基本姿勢についてワークを通して身につけます。
 - 第 15 回 事例を通して精神保健福祉士の援助に必要な対人援助の基礎を学ぶ
これまでの学びを総合的に活かし、ひとつの事例にどのようにかかわっていくかを学んでいきます。
- 【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】
実施しない。
- 【教育・学習の方法（Course Methods）】
テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。授業中に口頭で適宜フィードバックする。
- 【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】
テキストの該当する部分を概読してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (100点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (8) 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2016/978-4-8058-5313-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉援助演習 (専門) I

SWR3454N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

1単位 後期

金曜 2限

DP4: 思考・解決力

15

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉士が行う相談援助を体系的に学び、ケースワークやグループワークなどの説明できるとともに、それらの具体的な技術を用いて精神に「障害」のある人に対して適切な支援を提供できる。また、自己を客体視する力、主体的に行動する力、そして精神に「障害」のある人の生活や人生を深く理解する力を養い、より適切な支援が可能とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術として、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

	精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術	精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない	精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない	精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない	精神保健福祉援助演習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない

〔授業計画〕

- 第 1 回 ケースワーク技術－面接相談
- 第 2 回 ケースワーク技術－電話相談
- 第 3 回 ケースワーク技術－訪問援助
- 第 4 回 グループワーク技術－グループワーク体験
- 第 5 回 グループワーク技術－S S T
- 第 6 回 コミュニティワーク技術－社会資源の活用
- 第 7 回 コミュニティワーク技術－ネットワークキング
- 第 8 回 ケアマネジメント技術－インテークからアセスメント
- 第 9 回 ケアマネジメント技術－プランニングから終わりで
- 第 10 回 チームアプローチ
- 第 11 回 精神科医療機関における事例の検討－地域移行
- 第 12 回 相談支援事業所における事例の検討－ピアサポート
- 第 13 回 就労支援事業所における事例の検討－就労
- 第 14 回 行政機関における事例の検討－危機介入
- 第 15 回 まとめ・精神保健福祉における支援とは

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。口頭で適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの該当部分を概読してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (100点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (8) 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2016/978-4-8058-5313-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉援助技術各論 I

SWR3453N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

金曜1限

DP4: 思考・解決力

60

知名 純子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義では、精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としています。人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ということを一緒に考えていきます。(1) 地域移行支援について、(2) 精神障害者と家族について、(3) 個別支援について等を具体的事例に基づきながら理解を深めていきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 人と「向き合い」、「寄り添い」、「支援する」について
- (2) 社会的入院-地域移行・地域定着について
- (3) 家族支援について
- (4) 個人に対する援助方法 (ケースワーク)
- (5) グループを用いて援助する方法 (グループワーク)
- (6) 専門性について

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	対人援助に必要な基本的概念が理解できない	対人援助の課題を想像できる	対人援助における自身の課題に積極的に向き合う	自己覚知の必要性を理解し、積極的に受け止められる
言語力	専門用語に関して、理解が不十分である	専門用語を理解できている	自身の考えを専門用語を用いて言語化できる	課題や問いかけに対し、適切な言語化文章化ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
～自分を知らう～
- 第 2 回 自分について考える
相談援助の周辺理論 1：非言語コミュニケーション・防衛機制
- 第 3 回 私のコミュニケーション

- 相談援助の周辺理論 2：交流分析
- 第 4 回 他者を理解するために必要なこと
相談援助の周辺理論 3：ナラティブ・アプローチ
- 第 5 回 精神障害者の支援モデル
社会資源について学ぶ
- 第 6 回 ケースワーク 1
相談援助の過程①：インテーク、契約、アセスメント
- 第 7 回 ケースワーク 2
相談援助の過程②：インターベンション、モニタリング、効果測定・評価、終結とアフターケア
- 第 8 回 ケースワーク 3
面接の意味と目的
- 第 9 回 ケースワーク 4
面接技法と記録の内容
- 第 10 回 グループワーク 1
集団を活用した支援の実際と事例分析①：デイケアとグループワーク
- 第 11 回 グループワーク 2
集団を活用した支援の実際と事例分析②：SST (生活技能訓練)
- 第 12 回 グループワーク 3
集団を活用した支援の実際と事例分析③：セルフヘルプグループ
- 第 13 回 クライアントと家族の相互作用
家族支援の方法
- 第 14 回 支援者の成長と支援
スーパービジョンとコンサルテーション
- 第 15 回 試験とまとめ
試験後、試験内容と全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義はグループ演習、ディスカッション、ロールプレイなど参加型で行います。また、現場の生の声を届けられるよう、新聞記事や動画を見ながら考えたり、ゲストスピーカーを迎えるなどを行います。精神保健福祉士の実践の基礎を学べる授業を考えています。クライアントを支援するにあたり、まず押さえておくべき自身の考え方の癖や特徴を客観的に把握できるようになること、また同じ物事に直面したときの問題の捉え方の違いが人それぞれにあることを知った上で、事例や課題を検討します。最終講義日試験の説明は試験終了後に授業で行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

なぜ、あなたは精神保健福祉士を目指すのか、あなたの中の「精神保健福祉士」のイメージや理想像などについて、考えておいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間

指定するメディア情報、配付資料に目を通すこと。次回授業の最初の方で、設題に回答してもらいます。

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(40点)・試験(60点)の総合評価とします。参加型の授業スタイルのため、欠席、遅刻は他の受講生の迷惑になります。また演習に参加できないと授業で得られる成果が半減しますので、十分注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

予定は、授業の流れによって前後します。毎回、グループワークを実施し、演習テーマを設けたり、動画を観て現状について考たりした上で、自分の考えや意見を述べてもらう時間があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新・精神保健福祉士養成講座(新カリキュラム対応)第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II』/日本精神保健福祉士養成協会/中央法規/2012/参考文献については随時、授業で紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

精神科ソーシャルワーカーとして7年、精神保健福祉士として15年の行政、医療機関での実務経験あり。

精神保健福祉援助実習 I

SWR3551NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

60

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化

し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実習施設・機関等の指導のもと、60時間以上の実習に取り組む。なお社会福祉援助技術現場実習の単位修得者は、本科目は免除となるため、履修する必要はない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習 II

SWR3552NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。

2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。

3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。

4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神保健福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神保健福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。

2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う

3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。

4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実習施設・機関等の指導のもと、60時間以上の実習に取り組む。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習Ⅲ

SWR3553N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

3単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

105

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神科病院、精神科診療所での90時間(13日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神科病院、精神科診療所での90時間(13日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

指定された精神科病院、精神科診療所での指導のもと、90時間(13日)以上の実習に取り組む。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習指導

SWR3455N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

3単位 後期

木曜 3限 木曜 4限 木曜 5限

DP4: 思考・解決力

45

週3コマ

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習の意義を理解するとともに、実習を通して精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶことができるよう、精神に「障害」のある人の現状やその生活実態と困難を理解し、精神保健福祉士として求められる資質、知識、技術等を総合的に発揮できるような能力を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。
- 2 精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の困難について理解する。
- 3 精神保健福祉援助にかかる知識と技術について具体的かつ実際に理解する。
- 4 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題などを把握し、総合的に能力を発揮できる力を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉援助実習の意義	説明できない	実習指導者等に説明できる	利用者にわかりやすく説明できる	一般市民の方にわかりやすく説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習オリエンテーション
- 第 2 回 精神科医療機関における精神保健福祉士の実際 / 精神科医療機関の見学実習
- 第 3 回 精神科診療所における精神保健福祉士の実際 / 精神科診療所の見学実習
- 第 4 回 生活支援事業所における精神保健福祉士の実際 / 生活支援事業所の見学実習
- 第 5 回 就労支援事業所における精神保健福祉士の実際 / 就労支援事業の見学実習
- 第 6 回 行政、相談機関における精神保健福祉士の実際 / 行政、相談機関における精神保健福祉士の実際
- 第 7 回 実習先施設の事前訪問・見学実習
- 第 8 回 自己覚知 1 (自分を知る)
- 第 9 回 自己覚知 2 (自分のフィルターを知る)
- 第 10 回 実習計画書の作成 (目標設定) / 本人の体験談から学ぶ

第 11 回 実習計画書の作成 (方法) / 家族の体験談から学ぶ

第 12 回 実習記録の書き方

第 13 回 支援計画の作り方 (アセスメント)

第 14 回 支援計画の作り方 (プランニング)

第 15 回 実習直前指導

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業開始時に配付する資料に基づいて講義演習実習を行う。施設見学実習も5回行う。口頭で適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前の講義で指示された準備学習をしていくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50点) とレポートなどの事前学習における評価 (50点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

3 コマ連続の授業である。見学先の都合により、曜日時間等の変更もある。見学には交通費実費 (往復500円~1,000円程度) が必要となる。授業第1回目に詳細を説明する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業時に紹介する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫佐藤純:実務経験等あり 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

薦田未央:実務経験あり 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉相談援助の基盤(基礎) 2017年度以降入学者

SWR1250N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

月曜 5限

DP2: 知識・理解力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

さまざまな福祉課題に直面している人やその家族に対してソーシャルワーカーが行う相談援助の定義・理念・形成過程・体系・権利擁護・他の専門職種概念と範囲、多職種

連携の基本を理解する。さらに支援のための基本的視点、必要とされる技術を学び理解を深めるとともに、ソーシャルワークの目的や価値について基本的理解を深め、その中でも特に精神保健福祉士が行うソーシャルワークの特徴や留意点について理解する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- 1) ソーシャルワーカーとは何かを説明できること
- 2) 精神保健福祉士の行うソーシャルワークの特徴を説明できること
- 3) 精神に「障害」のある人やその家族にとって必要な支援とは何か理解できていること

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ソーシャルワーカーとは何かを説明できること	ソーシャルワークとは何かを説明できない	ソーシャルワークとは何かを、社会福祉士・精神保健福祉士についての説明を添えて説明できる	ソーシャルワークとは何かを、社会福祉士・精神保健福祉士についての説明を添えて、重要な価値と理念を加えて説明できる	ソーシャルワークとは何かを、社会福祉士・精神保健福祉士についての説明を添えて、重要な価値と理念を加え、これまでの歴史的経緯を踏まえて説明できる

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーションー精神保健福祉士とは
精神保健福祉士とは何か、ソーシャルワークの観点から理解を深めます。
- 第 2 回 精神疾患と「障害」の理解
精神保健福祉士の支援の対象である、その人の精神疾患と「障害」の関係を学びます。特に「障害」の社会的モデルについて理解を深めます。
- 第 3 回 わが国の精神保健福祉の現状と課題
世界から遅れているわが国の精神保健福祉の現状と課題について学びます。
- 第 4 回 ソーシャルワークとは
ソーシャルワークとは何かについて理解を深めます。
- 第 5 回 ソーシャルワーカーの役割と意義
ソーシャルワーカーの役割と意義を個人と環境の双方から理解します。
- 第 6 回 相談援助の定義と概念
相談援助とは何か、指導や助言とどこが異なるのか。その定義と概念について理解を深めます。
- 第 7 回 相談援助の価値と理念ーウェルビーイング・社会正義・民主主義
ウェルビーイング・社会正義・民主主義といった「相談援助の価値と理念」について学びます。

- 第 8 回 相談援助の価値と理念ー人権・人間の尊厳・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション
人権・人間の尊厳・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーションといった「相談援助の価値と理念」について学びます。
- 第 9 回 相談援助の価値と理念ー権利擁護・利用者主体・自立支援
権利擁護・利用者主体・自立支援といった「相談援助の価値と理念」について学びます。
- 第 10 回 相談援助の価値と理念ーエンパワメント・レジリエンス・リカバリー
エンパワメント・レジリエンス・リカバリーといった「相談援助の価値と理念」について学びます。
- 第 11 回 ソーシャルワークの源流
貧困への支援から始まったソーシャルワークの源流について学びます。
- 第 12 回 ソーシャルワークの形成過程
ソーシャルワークがどのように形成されてきたかの歴史的過程について学びます。
- 第 13 回 相談援助における権利擁護の意義
ソーシャルワークにおけるアドボカシー（権利擁護）の重要性について学びます。
- 第 14 回 専門職倫理とジレンマ
ソーシャルワークの加害性について倫理とジレンマという観点から学びます。
- 第 15 回 理解度確認テスト・解答解説
これまでの授業の理解度を確認するためのテストと解説を行い、まとめを行います。

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

事前にテキストを読み、概要を理解しておくこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

理解度確認テスト50点、レポート35点、授業参加度15点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

【留意事項 (Other Information)】

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)』/日本精神保健福祉養成校協会編/中央法規/2015/978-4-8058-5118-0/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉相談援助の基盤(専門)

SWR2401N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科(実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜2限

DP4: 思考・解決力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉士が行う相談援助の対象及び相談援助の役割や意義、理念や権利擁護について学ぶことにより理解し、それらを体系的に説明でき、多職種とともに精神に「障害」のある人に対して適切な支援を判断できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 精神保健福祉士の役割と意義を説明できる
- 2 精神保健福祉士の相談援助の定義、理念、権利擁護について説明できる
- 3 精神保健福祉分野における相談援助の体系について説明できる
- 4 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲と総合的・包括的な援助や多職種連携について説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉士の役割と意義を説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を説明できない	精神保健福祉士の役割と意義を説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を社会的背景も踏まえて説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を社会的背景とこれまでの歴史的経過も踏まえて説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 精神保健福祉士の支援とは
- 第 2 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅰ (意義と役割)
- 第 3 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅱ (Y問題)

第 4 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅲ (精神保健福祉士法)

第 5 回 精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅰ (ソーシャルワーク)

第 6 回 精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅱ (支援技術)

第 7 回 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅰ (医療職)

第 8 回 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅱ (その他)

第 9 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅰ (偏見)

第 10 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅱ (医療)

第 11 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅲ (地域生活)

第 12 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅳ (社会生活)

第 13 回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅰ (包括的な支援)

第 14 回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅱ (ネットワーキング)

第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト (50点)、授業参加度 (15点)、レポート点 (35点) で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2015/978-4-8058-5118-0/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示す。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示す。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉論 I

SWR2201N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜1限

DP2：知識・理解力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神障害者の地域での自立と社会参加を促進し、支援するために必要な相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護を含む地域での総合的・継続的なシステムづくりを可能とする知識と技術を習得し、より実践力の高い精神保健福祉士となることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 精神「障害」という言葉が指す事態を、総合的に理解し説明できること
2. 精神に「障害」のある人が置かれている現状を学び、地域で生活を支える方向性と視点を培うこと
3. 精神に「障害」のある人の生活を支える精神保健福祉士のあり方について理解し説明できること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神「障害」という言葉が指す事態を、総合的に理解し説明できること	精神「障害」を説明することができない	精神「障害」を疾患との関係で説明することが出来る	精神「障害」を疾患との関連に加え、社会との関連についても説明できる	精神「障害」を疾患との関連に加え、社会との関連、さらにはその国の文化や歴史をふまえて説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 精神障害者の概念 I 精神疾患とは
- 第 2 回 精神障害者の概念 II 精神疾患と精神障害
- 第 3 回 精神障害者の生活の実際
- 第 4 回 精神障害者の生活と人権
- 第 5 回 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援
- 第 6 回 雇用以外の就労

第 7 回 余暇活動

第 8 回 ソーシャルサポートネットワーク

第 9 回 精神障害者の居住支援

第 10 回 居住支援の実際と精神保健福祉士の役割

第 11 回 精神障害者の雇用・就業支援 I 理念と制度

第 12 回 精神障害者の雇用・就業支援 II 就労支援

第 13 回 精神障害者の雇用・就業支援 III いわゆる福祉的就労

第 14 回 行政における精神保健福祉士の役割

第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト (50点)、授業参加度 (15点)、レポート点 (35点) で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新精神保健福祉士養成講座 (7) 精神障害者の生活支援システム 第2版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018/978-4-8058-5597-3/学内販売予定

/ // //

/ / / //

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業時に紹介する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 佐藤純 精神保健福祉士として施設での勤務経験あり。

精神保健福祉論 II

SWR2452N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

水曜1限

DP4: 思考・解決力

60

「精神保健福祉論I」の履修者であること

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉法や障害者総合支援法を理解し、立ち後れている精神障害者の支援や施策について現状と課題を修得する。さらに、今後の課題に向けての精神保健福祉士の視点を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について説明できる。
- 2 精神保健福祉法や障害者総合支援法における精神保健福祉士の役割と課題について説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について説明できる。	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について説明できない	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について説明できる	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について現状と課題をふまえて説明できる。	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院等の手続きにおける権利擁護の手段と方法について現状と課題をふまえて海外との比較もかねて説明できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス
- 第 2 回 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯 I 精神衛生法成立まで
- 第 3 回 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯 II 精神衛生法の改正
- 第 4 回 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯
- 第 5 回 精神保健福祉法成立の意義とその後の展開
- 第 6 回 精神保健福祉法の構成 (1・目的と対象)
- 第 7 回 精神保健福祉法の構成 (2・入院)
- 第 8 回 精神保健福祉法の構成 (3・隔離拘束)

第 9 回 精神保健福祉法の構成 (4・保健及び福祉)

第 10 回 精神保健福祉法の構成 (5・課題)

第 11 回 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割

第 12 回 障害者基本法と精神障害者施策との関わり

第 13 回 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際

第 14 回 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業の実際

第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト (50点)、授業参加度 (15点)、レポート点 (35点) で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書を使って授業をするので必ず購入すること

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (6) 精神保健福祉に関する制度とサービス 第4版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018 //学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

地域福祉論 I

SWA3200N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

酒井 久美子

【科目の教育目標 (Course Description)】

私たちの生活基盤である地域にはさまざまな人々がさまざまな生活問題や社会福祉問題を抱えながら暮らしているのが現状である。それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安全・安心に暮らしていける地域社会を構築していくためにはどのようなことが必要なのであろうか。

このような問題を地域福祉の概念や理論の歴史的展開、社会的背景などを学ぶことを通して考え、地域の現状や課題を理解し、地域に根差した福祉とは何かを理解することをねらいとする。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 「地域福祉」とは何か、なぜ「地域福祉」なのか。地域福祉の理念・考え方 (概念)・歴史的背景・枠組みから学ぶ。
2. 地域福祉を推進するための課題について学ぶ。
3. 地域福祉の原理・原則を理解し、地域福祉推進のために必要な取り組み、専門機関や各種関連組織等について学ぶ。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分の地域や課題について、考えようとすることができない	自分の地域や課題について、情報収集しようとすることができる	自分の地域や課題について、理解することができる	自分の地域や課題について、理解し、そのために何ができるかを考えることができる
知識・理解力	地域や地域福祉について、理解することができない	地域や地域福祉について、理解しようとする努力することができる	地域や地域福祉について、理解し、大切なことが何かをすることができる	地域や地域福祉について、理解し、課題解決に必要なことを考えることができる
言語力	地域や地域福祉について、説明することができない	地域や地域福祉について、説明しようとする努力することができる	地域や地域福祉について、説明することができる	地域や地域福祉について、説明ことができ、他者にも伝えようとするすることができる

思考・解決力	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができない	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決するために何が必要かを考えようとするることができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決に向けて考えることができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができる
共生・協働する力	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとすることができない	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとすることができる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動しようとすることができる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動し、解決することができる
創造・発信力	地域や地域福祉について、何ができるかを考えることができない	地域や地域福祉について、何ができるかを考えようとすることができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者に取組もうと発信することができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者とともに新たな取組みができる

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 地域福祉の概念 ①地域とは何か
- 第 3 回 地域福祉の概念 ②地域福祉とは何か
- 第 4 回 地域福祉の形成と歴史的展開 ①地域福祉の源流 (欧米の歴史的展開)
- 第 5 回 地域福祉の形成と歴史的展開 ②戦後わが国における地域福祉の形成過程
- 第 6 回 社会福祉法における地域福祉の位置づけ
- 第 7 回 地域福祉の主体と対象
- 第 8 回 地域福祉計画と地域福祉活動計画
- 第 9 回 地域福祉の推進組織・団体 ①社会福祉協議会
- 第 10 回 地域福祉の推進組織・団体 ②民生・児童委員
- 第 11 回 地域福祉の推進組織・団体 ③NPO、ボランティア活動など
- 第 12 回 地域福祉の推進組織・団体 ④各種地域支援組織
- 第 13 回 地域福祉の人材・財源
- 第 14 回 形成テストおよび総括
- 第 15 回 地域福祉推進の課題と展望

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

資料、参考事例の紹介などによって進める。

参考文献については随時紹介する。

復習クイズは、終了直後に回答の確認をし、フィードバックをおこなう。

形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

地域福祉に関連する社会福祉法や各種制度とその変革の流れ、参考文献に挙げた報告書などを事前に確認しておくことが望ましい。

また、各自が暮らしている地域についても、どのような施策が講じられているのか、またどのような活動が展開されているのか確認し、地域福祉の具体的な取り組みを調べておくことが望ましい。

理解度を促進するため、毎回復習クイズを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと復習して臨むこと。加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を必ず各自ダウンロードし予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (30%)、復習クイズ (10%)、形成テスト (60%) に基づいて総合的におこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告 地域福祉における「新たな支え合い」を求めて—住民と行政の協働による新しい福祉—』/全国社会福祉協議会//2008/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画 (活動計画) 策定委員等の経験あり

地域福祉論 II

SWA3450N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜 3限

DP4 : 思考・解決力

60

地域福祉論I

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

地域福祉を推進するためには、そこで暮らす地域住民による主体的な取り組みが重要である。地域住民の主体的な取り組みを推し進めていくためには、住民の主体形成、地域の組織化を進めていくことが必要である。そこで、住民主体の原則を再度確認し、なぜ住民が主体なのか、住民の主体的な取り組みの必要性について理解を深め、地域福祉を推進するための方法について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 住民の主体的な取り組みの必要性について考える。
2. 住民が主体的に取り組むために必要な支援について考える。
3. 特に小地域の取り組みについて検討する。
4. 復習クイズ終了直後には、回答の確認をし、フィードバックをおこなう。
5. 形成テストについては、終了後に回答の確認・解説をおこない、フィードバックをおこなう。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	地域福祉を推進するために、何ができるのかを考えようとしない	地域福祉を推進するために、自分のことを考えようとする	地域福祉を推進するために、自分のことをイメージすることができる	地域福祉を推進するために、イメージしたことを実践しようとする
知識・理解力	地域福祉推進に必要なことがらを理解することができない	地域福祉推進に必要なことがらを理解しようと努力する	地域福祉推進に必要なことがらを理解し、具体的な方法を考える	地域福祉推進に必要なことがらを理解し、具体的な方法を考える取り組みを行う
思考・解決力	地域福祉の課題について、考えることができない	地域福祉の課題について、考えようとすることができる	地域福祉の課題について、考え、対応を考えることができる	地域福祉の課題について、解決策を検討することができる

創造・発信力	地域福祉の課題について、できることを考え、他者に発信することができない	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに共有することができる	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに解決方法を検討することができる	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに解決に向けて取り組むことができる
--------	-------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------------	---------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 - 第 2 回 地域福祉と福祉教育
 - 第 3 回 福祉教育の概念・展開
 - 第 4 回 地域福祉と住民参加
 - 第 5 回 コミュニティソーシャルワークについて
 - 第 6 回 ソーシャルサポートネットワークについて
 - 第 7 回 地域の組織化
 - 第 8 回 社会資源の活用
 - 第 9 回 地域特性の把握について
 - 第 10 回 地域における生活問題、課題の把握について
 - 第 11 回 地域活動への支援体制について
 - 第 12 回 地域における連携・協働とは
 - 第 13 回 小地域における住民活動の実際
 - 第 14 回 形成テストおよび総括
 - 第 15 回 住民主体の地域福祉活動に関する課題と展望
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

資料、参考事例の紹介などによって進める。
参考文献については随時紹介する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自が暮らしている地域の住民活動について調べておくことが望ましい。

住民活動への支援体制について調べておくことが望ましい。理解度を促進するため、毎回復習クイズを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと復習をして臨むこと。加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を各自必ずダウンロードし予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (30%)、復習クイズ (10%)、形成テスト (60%) に基づいて総合的におこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士、精神保健福祉士に必要な地域福祉推進にかかわる専門的知識や技術、方法に関する内容が中心となるため、その点を十分考慮したうえで、履修登録すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画 (活動計画) 策定委員等の経験あり

発達心理学概論

PSA2201N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 前期

月曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもの心の発達過程を学ぶことは、人間のさまざまな精神的機能の発生のメカニズムを理解することにもつながる。子どもの心理を理解することを通して、人間の精神活動の仕組みに関する基礎知識を身につけることを第1の目標とする。そして、その知識をもとにして、子どもと関わったり、子どもを教育するための素養を身につけることを第2の目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 児童期を中心として、さまざまな発達段階の特徴について学ぶ。
2. 対人活動の発達・認知発達・言語発達等について、おおまかな発達のプロセスを理解する。
3. 発達を規定する要因として、個人的要因、子どもを取り巻く学校・社会・文化といった環境的役割について理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	発達心理学の基礎知識が不足している	発達心理学の基礎知識をおおむね理解している	発達心理学の知識をおおむね理解している	発達心理学の知識を深く、幅広く理解している

〔授業計画〕

第 1 回 発達の要因

発達の要因および発達段階の考え方

第 2 回 初期経験

- 初期経験はその後の発達にどの程度影響を及ぼすのか？
- 第 3 回 社会性の芽生え
感情・社会性の発達①（親子関係を中心に）
- 第 4 回 社会性の発達
感情・社会性の発達②（友達との遊びを中心に）
- 第 5 回 ピアジェの発達の理論
乳児の認知発達と感覚運動的段階
- 第 6 回 幼児期と児童期の認知世界とピアジェ理論
幼児・児童の認知発達とピアジェの発達段階説の理解
- 第 7 回 発達と教育
認知発達（青年期も含む）と学校教育
- 第 8 回 言語発達の生物学的要因①
系統発生と個体発生
- 第 9 回 言語発達の生物学的要因②
脳神経の発達
- 第 10 回 思考の発達とヴィゴツキー理論
表象機能と遊び・想像性の発達
- 第 11 回 自己と他者の関係の在り方と心理的発達
自分と他者の認知の発達および心の理論の発達
- 第 12 回 誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達
エリクソンの理論と生涯を通したパーソナリティの形成
- 第 13 回 高齢者の心理
高齢者の認知機能とパーソナリティの変容
- 第 14 回 発達障害等非定型発達についての基本的な知識及び考え方
障害児の発達と支援の具体例、これまでの授業課題のフィードバック
- 第 15 回 振り返りとまとめ
振り返りとまとめのテスト

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は講義を中心に配布プリントを用いて行う。授業内筆記課題も随時行うが、提出された課題は返却し、14回目の授業でフィードバックを行う。フィードバックでは、返却課題についての講評を行い、特に課題の成果が不十分であった点については、解説を行うこととする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

日常生活において、子どもを観察したり、子どもと関わることを通じて、子どもの心理に触れて、さまざまな問題意識を持ってほしい。高齢者が身近にいる人は、しっかりと関わって、相手の気持ちを理解することに努めてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業態度を加味した授業内筆記課題（30%）とまとめのテスト（70%）。

〔留意事項（Other Information）〕

授業の順番は変わることがある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

使用しない。プリントを配布。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『児童心理』/岡本夏木/岩波書店/1991/など

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫臨床発達心理士として、障害児の発達アセスメントの経験あり。

福祉行財政と福祉計画

SWR3450N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP4：思考・解決力

60

柴田 周二 酒井 久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉行財政の基礎的な知識をふまえた上で、住民自治の視点から福祉計画のあり方を学ぶ。具体的には、①福祉行政の実施体制について、国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係を学び、②国と地方双方の福祉財政の内容を理解する。その際、国の社会保障関係費及び地方自治体の民生費を詳しく把握する。次に①と②をふまえ、各種福祉計画の目的、意義、主体、方法について事例検討を通して学ぶ。また実際に地域福祉計画を参考にして、計画策定の方法について理解を深める。

（オムニバス方式 全15回）

（柴田周二／7回）

福祉行政の骨格と社会福祉の法制度、福祉財政の概略、専門職の役割などについて学ぶ。

（酒井久美子／8回）

各種福祉計画の目的、意義、主体、方法などについて解説し、実際の地域福祉計画を参考に計画策定の方法を理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ①福祉の動向を理解する。
- ②福祉行政の実施体制（国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係）を理解する。
- ③国と地方の福祉財政（社会保障関係費及び地方自治体の民生費など）を理解する。
- ④福祉の相談過程と専門職の役割を理解する。
- ⑤福祉計画の目的と意義を理解する。
- ⑥福祉計画の理論と技法を理解する。
- ⑦福祉計画の実際を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力	テストをうける	レポートが作成できる	自らの問題として課題に取り組む	文献などを精査しながら、自分の考えを提示する
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、社会福祉とは何か（柴田周二）
- 第 2 回 福祉の法制度の展開（柴田周二）
- 第 3 回 福祉計画の概要（柴田周二）
- 第 4 回 福祉行政の組織（柴田周二）
- 第 5 回 一般会計予算と社会保障関係費（柴田周二）
- 第 6 回 地方自治体の財政と民生費（柴田周二）
- 第 7 回 福祉の相談過程と専門職の役割（柴田周二）
- 第 8 回 福祉計画の目的と意義（酒井久美子）
- 第 9 回 福祉計画の理論と技法（酒井久美子）
- 第 10 回 福祉計画における住民参加（酒井久美子）
- 第 11 回 老人福祉計画・介護保険事業計画（酒井久美子）
- 第 12 回 障害者計画・障害福祉計画（酒井久美子）
- 第 13 回 次世代育成支援行動計画（酒井久美子）
- 第 14 回 地域福祉計画（酒井久美子）
- 第 15 回 まとめ（酒井久美子）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義（前半の柴田担当の1～7回はオンライン授業、後半の酒井担当の8～15回は対面授業）を中心に進めるが、適宜、視聴覚教材も取り入れる。

レポートや小テストの結果についてはmanaba等で本人に開示する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

新聞やテレビなどのニュースに関心をもち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績評価は、授業への参加度（柴田14%、酒井16%）、複数のレポートないし授業中の小テスト（柴田30%、酒井40%）によって行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。授業の参加度などに関する詳しい説明は、第1回授業の配信資料で行う。

〔留意事項（Other Information）〕

講義の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画 第5版』 / 社会福祉士養成講座編集委員会 / 中央法規 / 2017/978-4-8058-5430-3/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

[酒井久美子]

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

保健医療サービス

SWR2450N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

2年次

2単位 後期

水曜2限

DP4：思考・解決力

60

集中

小西 加保留

〔科目の教育目標（Course Description）〕

- ①医療の変遷に関する概要を説明できる。
- ②保健医療を取り巻く制度・施策、施設等に関する用語を用いて、現状の概要を説明できる。
- ③医療を取り巻く各専門職の役割と業務について説明できる。
- ④医療ソーシャルワークの業務の概要を説明できる。
- ⑤欧米及び日本における資料ソーシャルワークの歴史の変遷の概要を論じる事できる。
- ⑥保健医療サービスの連携に関わる理論と現状を理解し、連携の方法を論じる事ができる。
- ⑦保健医療に関わる生活上の課題について、より良い解決方法を見出すことができる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ①毎回の授業に関するコメント票を提出し、次回の授業でのフィードバックにより学ぶ。
- ②保健医療領域の基本的な制度・施策に関する知識を習得

するための小テストに備える。

- ③医療ソーシャルワーク実践に必要な課題（業務内容や連携など）についてディスカッションを行い、まとめを行う。
- ④保健医療サービスの意義や発展のための課題や方法について考察する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力1	医療提供体制や制度についての知識が殆どない	医療提供体制や制度についての概要は理解している	医療提供体制や制度について、大凡の体系を理解している	医療提供体制や制度について体系的に理解し説明することができる
知識・理解力2	医療ソーシャルワーカーの業務に関する知識を殆ど持っていない	医療ソーシャルワーカーの業務に関する知識の概要を知っている	医療ソーシャルワーカーの業務に関して具体的に説明できる	医療ソーシャルワーカーの業務に関して総合的に説明できる
知識・理解力3	MSW業務に関する歴史や国際比較についての知識を持っていない	MSW業務に関する歴史や国際比較について、その経過や背景の概要を知っている	MSW業務に関する歴史や国際比較について、その概要を説明できる	MSW業務に関する歴史や国際比較から、医療とMSWに関して構造的に理解できる
思考・解決力	チームや連携についてのイメージが持てない	チームや連携についての重要性や意義について理解することができる	具体的な状況におけるチームや連携についてイメージできる	具体的な状況におけるチームや連携についてその必要性や課題を説明できる

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
授業の進め方、スケジュールを伝えると共に、医療社会福祉の基礎となる知識を学ぶ
- 第 2 回 保健医療サービス体系の概要と変遷
日本の疾病構造の変遷、保健医療サービス体系の歴史、医療提供体制などについて学ぶ
- 第 3 回 保健医療サービスの変遷（医療法・ケアシステム）
医療サービスの変遷と法体制について学ぶと共に医療法の変遷の概要を知る
- 第 4 回 医療保険制度の概要
医療保険制度の種類や給付内容、変遷の概要を学ぶ
- 第 5 回 診療報酬制度
診療報酬制度の仕組みと、社会福祉士の位置づけと意義などを学ぶ
- 第 6 回 保健医療におけるその他の福祉関連制度

医療保険を自己負担を軽減する福祉関連制度などについて学ぶ

- 第 7 回 保健医療サービスにおける専門職の業務と役割
保健医療サービスにおける専門職の資格や業務内容、役割などを知る
- 第 8 回 病院組織とチーム・連携
病院組織の特徴を知り、チーム・連携にかかわる知識を学ぶ
- 第 9 回 院内外連携の実際
テキストのコラムに記載されている例を考察し、課題などを共有する
- 第 10 回 保健医療ソーシャルワーカーの業務の範囲
医療ソーシャルワーカーの業務指針を基に業務の範囲を知る
- 第 11 回 保健医療ソーシャルワーカーの業務の方法
医療ソーシャルワーカーの業務指針を基に業務の方法を知る
- 第 12 回 医療ソーシャルワークの歴史1（イギリス）
イギリスの医療ソーシャルワークの歴史の概要を知る
- 第 13 回 医療ソーシャルワークの歴史2（アメリカ）
アメリカの医療ソーシャルワークの歴史の概要を知る
- 第 14 回 医療ソーシャルワークの歴史3（日本）
日本の医療ソーシャルワークの歴史の概要を知る
- 第 15 回 保健医療サービスを取り巻く動向と課題
授業のまとめとして保健医療サービスを取り巻く動向と課題について学ぶ

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施する

【教育・学習の方法（Course Methods）】

- 1. 授業方法
講義形式（一部演習形式を採用する）
- 2. 学習方法

- ①講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。
- ②毎回の講義について必ず予習・復習を行うこと。

- ③授業における意見や質問をコメント用紙に記入し、次回の授業における教員からのコメントに基づき、理解を深める。
- ④連携・協働のあり方や保健医療サービスの意義や発展のための課題や方法について考察し、演習形式でディスカッションを行う。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

各テーマに該当するテキストの章・節を指示します。必ず予習をして講義に臨むこと。

また、他の社会福祉士指定科目に関連する授業での知識を統合して講義を聞くこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

定期試験（70%）と講義内において実施する小テスト（20%）授業参加度（10%）の総合評価とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

テキストを必ず購入すること

社会福祉士受験の指定科目です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保健医療サービス』/小山秀夫・笹岡真弓・堀越由起子編著/ミネルヴァ書房/2016年(最新版があれば変更)/9784623076437/学内販売

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。またテーマに沿った参考文献について、指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

医療機関においてソーシャルワーカーとして実務経験あり。

無意識の心理学

PSA2253N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 後期

金曜1限

DP2: 知識・理解力

60

集中

茅野 綾子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

普段の生活の中で、私たちは、「自分には、そんなつもりはないのに、思わぬ失敗をしてしまった」というような経験をするのが、よくある。例えば、毎日顔を合わせている友達の名前を急に「度忘れ」したり、「いい間違え」たりするなどである。

また、別に怖い夢を見たいと思って眠る訳ではないのに、悪夢にうなされて目覚めたり、行ったこともない場所や見知らぬ人が夢の中に出てくるといったことも、多くの人が経験していることであろう。

私たちは、自分の「心」を、自分の意志する通りにコントロールしたいと思っている。しかし、上にあげた例のように、他でもない自分自身の「心」であるにも拘らず、感情・態度・夢の内容を思うようにコントロールできないのも事実である。

Freud,Sは、このような、日常の何気ない「言い間違い」、「度忘れ」、「訳のわからない感情」「夢」などは、私たちの意志とは異なる原理、原則に則って機能する、普段は意識されていない心の働きによるものではないかと考え、これを「無意識」と呼んだ。そして、様々な心理的問題の背景にも、この「無意識」が関与していると主張したのである。現代においても、「無意識」という概念は、精神分析的な方向性を持つ心理療法の基本的前提となる概念である。この講義では、フロイトの精神分析理論を中心に無意識を扱う

重要な理論を概説し、無意識の基本的な機能、構造、性質を概観することによって、より深い人間理解の眼を養うことを目標とする。加えて、痛みなど身体と無意識との関係についても触れる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 精神分析における「無意識」発見の歴史について学び、「無意識」という心的領域の存在を想定するに到る過程を理解する。
2. 「無意識」が抽象的、思弁的な概念ではなく、私達の日常生活にも大きな影響を与えている現実的、経験的な現象であることを理解する。
3. 精神疾患や身体疾患と「無意識」との関係について考察する。
4. 自由連想、夢分析など、「無意識」を理解するための方法についても言及する。
5. 無意識を扱う上での倫理的な問題について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 無意識の重要性
「無意識」概念の臨床心理学における重要性について (臨床心理学の歴史から)
- 第 2 回 フロイトの精神分析理論 (1)
精神分析の誕生と無意識の発見の過程①
- 第 3 回 フロイトの精神分析理論 (2)
精神分析の誕生と無意識の発見の過程②
- 第 4 回 こころの諸領域
局所論
- 第 5 回 こころの構造
構造論と力動論
- 第 6 回 自我の防衛機制
- 第 7 回 精神分析の実際 (1)
- 第 8 回 精神分析の実際 (2)
- 第 9 回 フロイトとは別の深層心理学 (1)
フロイトとの出会いと離反ーユングとアドラー
- 第 10 回 フロイトとは別の深層心理学 (2)
ユングの分析心理学①
- 第 11 回 フロイトとは別の深層心理学 (3)
ユングの分析心理学②

第 12 回 精神分析理論の発展（1）
フロイトから発展した精神分析理論の紹介

第 13 回 精神分析理論の発展（2）
フロイトから発展した精神分析理論の現在

第 14 回 身体と無意識

第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
定期試験に替わるレポートを実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
授業は、基本的に講義形式で行う。適宜、DVD等の視聴覚教材を用いる。受講生の理解度を確認しながら、すすめていく。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業の内容をノートやレジюмеなどで復習し、理解できていない所があれば、授業時に質問できるようにしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は出席状況と受講態度50%、レポート50%とする。

〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
必要に応じて教員が準備する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に、適宜、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕
0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
《実践的科目》（詳しい勤務経験等）

臨床心理士として、医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理学概論

PSA2204N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

2年次

2単位 前期

木曜 2限

DP2：知識・理解力

60

心理カウンセリングコース必修

向山 泰代

〔科目の教育目標（Course Description）〕

臨床心理学は心理学の一つの研究分野であると共に、こころに問題や悩みを抱えた人々を理解し、支援するという実践的な活動を行う際の基礎となる学問でもある。本科目は、臨床心理学を初めて学ぶ受講生を対象に、臨床心理学の代表的な理論・研究法・臨床心理学史などについて学び、臨

床心理学による支援の実際について、知識や関心を広げることを目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1.臨床心理学の基礎用語を理解すること。
- 2.臨床心理学の代表的な理論と背景となる人間観を理解すること。
- 3.臨床心理学における諸種の研究が、どのような科学性を保つ工夫の上になされているのかを理解すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
臨床心理学に関連した時事問題に興味・関心をもつこと	臨床心理学に関連した時事問題に興味・関心がない。	臨床心理学に関連した時事問題に興味・関心を持つ。	臨床心理学に関連した時事問題に興味・関心を持ち、関連する資料などを探索する。	臨床心理学に関連した時事問題に興味・関心を持ち、関連する資料などを探索して、課題などで自らの意見を表明する。
臨床心理学に関する基礎的な心理学専門用語の知識と理解	専門用語やその意味を知らない。	特定の専門用語やその意味のみを理解している。	幾つかの専門用語やその意味を理解している。	専門用語やその意味を理解している。
臨床心理学に関する主要な理論とその背景となる人間観についての知識と理解	理論や理論の背景にある人間観を知らない。	特定の理論や理論の背景にある人間観のみを理解している。	幾つかの理論や理論の背景にある人間観を理解している。	主要な理論や理論の背景にある人間観を理解している。
主体的に学ぶこと	授業内・授業外での課題に取り組もうとしない。課題を提出しない。	授業内・授業外での課題に取り組む。課題を提出する。	授業内・授業外での課題について、独自の視点を加えて取り組み、提出する。	授業内・授業外での課題について、複数の独創的な視点にもとづいて課題を作成し、自らの考えを深め、その結果を提出する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 臨床心理学とは
- 第 2 回 臨床心理学における基礎用語
- 第 3 回 臨床心理学の歴史と成り立ち
- 第 4 回 理論と臨床の実際：精神力動アプローチ1（フロイトの生涯と業績）
- 第 5 回 理論と臨床の実際：精神力動アプローチ2（フロイト以降）

- 第 6 回 理論と臨床の実際：行動主義的アプローチ
- 第 7 回 理論と臨床の実際：認知主義的アプローチ
- 第 8 回 理論と臨床の実際：人間性心理学アプローチ
- 第 9 回 理論と臨床の実際：生理学的精神医学的アプローチ
- 第 10 回 理論と臨床の実際：折衷的アプローチ
- 第 11 回 臨床心理学的アセスメント1：観察・面接
- 第 12 回 臨床心理学的アセスメント2：心理検査
- 第 13 回 臨床心理学領域での仕事・訓練・成長・倫理
- 第 14 回 臨床心理学の課題
- 第 15 回 到達度確認テストと解説・まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義に沿ったプリントを準備するので、各自で整理して学習に活用すること。また、毎回の講義で「前回の講義内容の復習」の時間を設けるので、この時間を活用して、各自が講義内容の繋がりを理解し、知識の定着に努めること。ワークシート等の課題は授業期間内に返却し、受講生へのフィードバックを行う。期末に実施する到達度確認テストは、授業時間内に各問に対する考え方や正答をフィードバックすることで受講生の学びを深め、本科目のまとめとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストを使用する場合は、事前に掲示にて指定する。テキストが指定された場合には、開講までに各自で購入し、通読しておくこと。臨床心理学に関連する講義や実習で学んだ事項について復習し、この授業においても適宜参照できるようにしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末に実施するテスト (70%)、課題・提出物・授業への取り組み態度 (30%) で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業中に講義内容に関連した簡単な教材に反応を求めたり、作業を課したりすることがある。受講生の理解度に応じて、授業計画の内容について順序を入れ替えることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

開講前に掲示にて指示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『よくわかる臨床心理学』/下山晴彦(編)/ミネルヴァ書房/2009/

『臨床心理学入門』/岩壁茂ほか/有斐閣/2013/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 臨床心理士として教育機関等の相談室での勤務経験あり。

いのちのリレー講座 I

CNS2402N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

1単位 前期

木曜 6限

DP4：思考・解決力

30

全7.5コマ

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現在、日本および京都府の若者の死亡原因の第1位は自死で、癌や事故を上回っている。また、アメリカ、イギリス、ドイツなどと比較して日本の若者の自殺死亡率（人口10万人当たりの自殺者数）は高く、若者の自死対策は重要な課題となっている。そこで、京都府内では、行政や精神科医だけではなく、弁護士、僧侶、教員、NPO法人、社会福祉法人など様々な立場の方々が、それぞれの専門性を活かして自死を防ぎ、いのちを守る活動を先進的に取り組んでいる。

本講座では、自死対策の最前線で活動している方々を毎回1人ゲストスピーカーとして招き、自死対策で目指していることや活動の内容などを講義いただくことにより、自死の現状、いのちの大切さ等について学ぶ。また、本講座では、悩みを抱えている方への接し方や話の聴き方など、今後の人生においても役立つライフ・スキルの習得をも目標として設定する。

なお、いのちのリレー講座IIも合わせて受講することにより、自死対策についての理解がさらに深まる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 我が国における自死・自殺の現状と自死・自殺の要因を説明できる。
2. 我が国の自死・自殺対策に関する課題を説明できる。
3. 自死・自殺につながるサインや状況および適切な対応(接し方や話の聴き方、相談・支援機関へのつなげ方など)について説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
我が国における自死・自殺の現状と要因について	現状と要因について、知識を持っていない	現状と要因について、理解をしている	現状と要因について、資料を用いて説明ができる	現状と要因の理解から、課題を挙げることができる
我が国の自死・自殺対策に関する課題について	自死・自殺対策に関する課題を正しく理解できない	自死・自殺対策に関する課題を正しく理解できている	自死・自殺対策に関する課題について、資料を用いて説明ができる	自死・自殺対策に関する課題の理解から、解決に導く方法を挙げるができる

自死・自殺につながるサインや状況の把握と対応について	サインや状況について、知識を持っていない	サインや状況の把握と対応について、理解している	サインや状況の把握と対応について、資料を用いて説明できる	サインや状況の把握した時に、その事象を整理し、対応について優先順位をつけることができる
----------------------------	----------------------	-------------------------	------------------------------	---------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 自殺の現状～若年層の自殺を中心として～
- 第 2 回 自殺で親を亡くした子どもを支える (外部講師)
- 第 3 回 臨床心理士による自殺対策～学生相談を中心に～ (外部講師)
- 第 4 回 司法書士による自殺予防、自死遺族支援の取組み (外部講師)
- 第 5 回 電話でつながる子どもの心の居場所 (外部講師)
- 第 6 回 企業におけるメンタルヘルス対策 (外部講師)
- 第 7 回 京都府における自殺対策 (外部講師)
- 第 8 回 精神科医療と自殺対策 I

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・自死・自殺対策の最前線を知るために、京都府内で自死・自殺対策に携わっている精神科医、心理専門家、自死遺族支援団体、NPO法人、社会福祉法人、法律家、宗教者、行政関係者などを外部講師として招く。
- ・独自に作成したプリントを配布し、講義形式とグループでのワークなどを組み合わせて行う。
- ・毎回の授業で課題 (レポート) を指示する。レポートについてのフィードバックは、授業中に適宜口頭により行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

初回の講義で、第2回目以降の外部講師等の説明を行う。そこで、各講師が所属している団体の活動について、ホームページなどにより確認する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(20%)と、授業にて指示するレポート(80%)に基づいて総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・いのちのリレー講座 I と II は内容がすべて異なり、自死対策を広く深く学ぶために I と II を合わせて受講することを勧める。
- ・講義は月2回程度を予定している。日程は決まり次第公表する。
- ・外部講師の都合により、予定の変更があり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 担当教員・外部講師はいずれも自死対策に関する団体・相談機関・保健医療機関・行政機関等での実務経験あり。

いのちのリレー講座 II

CNS2452N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

1単位 後期

木曜 6限

DP4: 思考・解決力

30

全7.5コマ

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現在、日本および京都府の若者の死亡原因の第1位は自死で、癌や事故を上回っている。また、アメリカ、イギリス、ドイツなどと比較して日本の若者の自殺死亡率 (人口10万人当たりの自殺者数) は高く、若者の自死対策は重要な課題となっている。そこで、京都府内では、行政や精神科医だけではなく、弁護士、僧侶、教員、NPO法人、社会福祉法人など様々な立場の方々が、それぞれの専門性を活かして自死を防ぎ、いのちを守る活動を先進的に取り組んでいる。

本講座では、自死対策の最前線で活動している方々を毎回1人ゲストスピーカーとして招き、自死対策で目指していることや活動の内容などを講義いただくことにより、自死の現状、いのちの大切さ等について学ぶ。また、本講座では、悩みを抱えている方への接し方や話の聴き方など、今後の人生においても役立つライフ・スキルの習得をも目標として設定する。

なお、いのちのリレー講座 I も合わせて受講することにより、自死対策についての理解がさらに深まる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 我が国における自死・自殺の現状と自死・自殺の要因を説明できる。
2. 我が国の自死・自殺対策に関する課題を説明できる。
3. 自死・自殺につながるサインや状況および適切な対応 (接し方や話の聴き方、相談・支援機関へのつなげ方など) について説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
我が国における自死・自殺の現状と要因について	現状と要因について、知識を持っていない	現状と要因について、理解をしている	現状と要因について、資料を用いて説明ができる	現状と要因の理解から、課題を挙げることができる
我が国の自死・自殺対策	自死・自殺対策に関する	自死・自殺対策に関する	自死・自殺対策に関する	自死・自殺対策に関する

策に関する課題について	る課題を、正しく理解できない	る課題を、正しく理解できている	る課題について、資料を用いて説明ができる	る課題の理解から、解決に導く方法を挙げるができる
自死・自殺につながるサインや状況および適切な対応について	サインや状況について、知識を持っていない	サインや状況の把握と対応について、理解している	サインや状況の把握と対応について、資料を用いて説明できる	サインや状況を把握した時に、その事象を理解し、対応について優先順位をつけることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 精神科医療と自殺対策Ⅱ
- 第 2 回 自死予防・自死遺児支援に係る宗教者の役割（外部講師）
- 第 3 回 自死・自殺に本気で向き合う～悩みを抱えた若者の居場所～（外部講師）
- 第 4 回 自死遺族に寄り添う（外部講師）
- 第 5 回 自死に関わる法律上の諸問題と弁護士による支援（外部講師）
- 第 6 回 自殺予防といのちの電話（外部講師）
- 第 7 回 ゲートキーパー研修（外部講師）
- 第 8 回 自死予防について共に考える（外部講師）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・自死・自殺対策の最前線を知るために、京都府内で自死・自殺対策に携わっている精神科医、心理専門家、自死遺族支援団体、NPO法人、社会福祉法人、法律家、宗教者、行政関係者などを外部講師として招く。

・独自に作成したプリントを配布し、講義形式とグループでのワークなどを組み合わせて行う。

・毎回の授業で課題（レポート）を指示する。レポートについてのフィードバックは、授業中に適宜口頭により行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

初回の講義で、第2回目以降の外部講師等の説明を行う。そこで、各講師が所属している団体の活動について、ホームページなどにより確認する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度(20%)と、授業にて指示するレポート(80%)に基づいて総合的に判断する。

〔留意事項（Other Information）〕

・いのちのリレー講座ⅠとⅡは内容がすべて異なり、自殺対策を広く深く学ぶためにⅠとⅡを合わせて受講することを勧める。

・講義は月2回程度を予定している。日程は決まり次第公表

する。

・外部講師の都合により、予定の変更があり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 担当教員・外部講師はいずれも自死対策に関する団体・相談機関・保健医療機関・行政機関等での実務経験あり。

学習・言語心理学

PSA2254N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 後期

木曜 3限

DP2：知識・理解力

60

廣瀬 直哉

〔科目の教育目標（Course Description）〕

人間は経験を通して学ぶ。経験とその結果としての行動の変化に関する規則性を明らかにしようとするのが、学習理論である。本科目ではまず、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習などについて学び、学習成立の基礎過程を理解する。次に、記憶、概念、思考などの認知過程における学習について学ぶ。さらに、人間がコミュニケーションに使用する記号システムである言語について、その特徴や構造を学び、言語習得のメカニズムについて理解する。これらの講義を通して、学習のしくみを理解し、身体的・認知的技能や言語の習得について考察することを目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 学習の基礎的なメカニズムの理解
2. 概念や思考の学習、および人間の知識獲得の理解
3. 言語獲得のメカニズムについての理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学習・言語獲得に関する基礎的概念・知識を理解し、説明することができない。	学習・言語獲得に関する基礎的概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して問題解決をすることができる。

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 レスポンド条件づけ

- 第 3 回 オペラント条件づけ
- 第 4 回 条件づけの応用
- 第 5 回 条件づけの制約
- 第 6 回 社会的学習
- 第 7 回 技能学習
- 第 8 回 記憶
- 第 9 回 知識と学習
- 第 10 回 問題解決と学習
- 第 11 回 学習理論の展開
- 第 12 回 言語
- 第 13 回 言語獲得
- 第 14 回 リテラシーの獲得
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主としてPowerPointや映像資料を使った講義形式で行う。テキストは使用せず、必要な授業資料等はmanabaから入手する。また、課題の提出やそれに対するフィードバックもmanabaから行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業資料を読んでおく。出された課題をmanabaから提出する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期テストは行わず、複数回の小テスト・中テスト(100%)に基づき評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『学習心理学への招待—学習・記憶のしくみを探る』/篠原彰一/サイエンス社/2008/4781912044

『言語心理学入門—言語力を育てる』/福田由紀/培風館/2012/9784563052317

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育心理学概論 2017年度以降入学者

PSA1250N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次 2年次

2単位 後期

金曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育過程における人間の心の働きや、学校教育現場における課題について、心理学的な知識、方法、視点から理解することを目指す。特に幼児、児童、生徒の心身の発達、学習の過程、知的・情意的側面の測定・評価を中心に学び、教育心理学の基本用語の習得を目指す。また、障害をもつ幼児、児童および生徒の心身の発達、学習過程について概説し、各障害についての理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの身体的、心理的諸側面の発達とその特徴を理解し、年齢・発達に応じた教育について考察する。
2. 効果的な学習を援助する教授法や認知の働きを学ぶ。
3. 知能や学力、性格における個人差の評価を学ぶ。
4. 障害をもつ幼児、児童、生徒の心身の発達の特徴と学習過程、その関連事項について理解する。
5. 学級集団における児童・生徒について学ぶ。
6. 現代の学校教育の現状や問題点を心理学の立場から考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	教育心理学の知識や方法に関する知識が身についていない。	ある程度、教育心理学の知識や方法に関する知識を身につけている。	おおむね教育心理学の知識や研究方法に関する知識を身につけている。	教育心理学の知識や研究方法に関する知識を十分身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身についている。

思考・解決力	教育の諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が身につけていない。	ある程度、教育の諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が身につけている。	おおむね教育の諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が身につけている。	教育の諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を身につけている。	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育心理学とは
- 第 2 回 教育心理学の研究法
- 第 3 回 教育と発達
- 第 4 回 学習への意欲と動機づけⅠ（古典的な動機づけ理論）
- 第 5 回 学習への意欲と動機づけⅡ（近年の動機づけ理論）
- 第 6 回 原因帰属と動機づけ
- 第 7 回 学習を阻害する要因
- 第 8 回 知識の獲得方法（行動主義の観点から）
- 第 9 回 知識の獲得方法（認知主義の観点から）
- 第 10 回 学級集団
- 第 11 回 学級環境が子どもに及ぼす影響
- 第 12 回 教師のリーダーシップと管理主義
- 第 13 回 教育評価の目的
- 第 14 回 教育評価の方法
- 第 15 回 まとめと振り返り

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・ 講義形式で進める。
- ・ 授業前にmanabaを利用して教員採用試験や保育士試験より小テストを行う。
- ・ 毎回授業後に、授業内容のコメントを求める。
- ・ 講義内容をただ覚えるだけではなく、自分の身のまわり

から実例を探したり、これまで自身が学校教育で経験してきたことと関連づけるなど、受け身的ではなく、積極的に講義に臨むことを期待したい。

・ 課題（テスト）については、授業内に解説を行うことでフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回、次回の授業で行うキーワードを提示するので、予め自分なりの考えをまとめた上で授業に臨むこと。その際、本やインターネットの丸写し等、機械的な予習にならないように注意すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

持ち込みなしの期末テスト（70%）、毎回の予習・振り返り・小テスト（30%）により総合的に判断する。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、原則として期末テストは受けられない。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心理学事典』/中島義明ら（編）/有斐閣//

『教育心理学キーワード』/森敏昭・秋田喜代美（編）/有斐閣//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

健康・医療心理学

PSA2255N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 後期

金曜 4限

DP2：知識・理解力

60

鶴田 薫

〔科目の教育目標（Course Description）〕

健康・医療心理学は、心理学がいかに関わりの健康で幸福な生活に貢献できるか、その可能性を究める実践的な学問である。

そこで本科目では、まず心身の健康と大きな関わりをもつストレスについての理解を深める。次に、健康・医療心理学を実践する医療や保健活動の現場が直面している課題を、心理社会的な側面からとらえ、それに対する支援を学ぶ。また、災害時のメンタルヘルスと必要な心理的支援についても学習する。

さらに、これらの支援は通常、チーム医療や多職種連携の

もとで行われている。そのシステムを学ぶとともに、そのシステムにおける心理職の役割と課題についても検討する。
〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①ストレスと心身の疾病の関係を理解する
 - ②医療現場における心理社会的課題および必要な支援を学ぶ
 - ③保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援を学ぶ
 - ④災害時などに必要な心理に関する支援を学ぶ
- 〔ルーブリック表〕**

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
ストレスとは？
- 第 2 回 ストレスが心身の健康に与える影響、ストレスへの対処
- 第 3 回 医療現場における心理職の業務・役割
- 第 4 回 保健活動について
- 第 5 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援①
気分障害
- 第 6 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援②
発達障害
- 第 7 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援③
依存症
- 第 8 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援④
緩和ケア
- 第 9 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援⑤
自殺とその対策
- 第 10 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援⑥
ひきこもりとその支援
- 第 11 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援⑦
認知症高齢者

- 第 12 回 チーム医療と多職種連携
- 第 13 回 災害時に必要な心理に関する支援
- 第 14 回 被災者の心のケア
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で行う

- ・授業中の学生の発問に対して、適宜口頭でフィードバックを行う
- ・授業全体に対しては、最終回に授業内容をふりかえりフィードバックを行う
- ・課題(レポート等)に対しては、授業やmanabaを通してフィードバックを行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前回までに配布された講義資料を見直し、理解を深めたくうえで授業に臨むこと。

疑問や興味を感じた点については、文献を検索するなどして、自主的な学習を行うこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、出席状況と参加態度(30%)、提出課題および期末レポートの内容(70%)に基づいて総合的に行う

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内で資料を配布する

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特定のテキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『健康・医療心理学』/宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫/医歯薬出版/2018/9784263265772

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理士・公認心理師として医療機関での勤務経験あり

権利擁護と成年後見制度

SWR3401N1J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 2単位 前期
 金曜 5限
 DP4：思考・解決力
 60
 高岡 克行

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

悪徳商法被害や虐待など、講師が実際に取り扱った事件を紹介しながら、成年後見制度、民法、憲法を理解することを目標とする。基本的には法律の講義であるが、条文解釈ではなく、具体的な事例を通して相談援助活動とのかかわりを理解し、社会的実践に必要な法律知識の習得を目指す。ここで得られた法律知識と相談援助活動実践を活用し、超高齢社会を迎えた現代社会が抱える課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によってより良い方向性を見出し、解決しようとする力を身につけている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 日本国憲法の基本原理, 民法(財産法, 家族法), 行政法, 刑法
- 2 成年後見制度
- 3 日常生活自立支援事業
- 4 成年後見制度利用支援事業
- 5 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際
- 6 権利擁護活動の実際

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 権利擁護と成年後見制度を学ぶ前に
 権利擁護と成年後見制度の相談援助活動において、社会福祉士がとらえる権利擁護の基盤にある人権と諸権利、権利擁護の視点と方法について概観する
- 第 2 回 日本国憲法の理解①
 基本的人権の種類・内容・法的性格・調整などについて、体系的に学ぶ

- 第 3 回 日本国憲法の理解②
 日本国憲法は国民の権利を護る手段として権力分離原則に基づく国家統治機構を規定しているため、国会、内閣、裁判所、地方公共団体に役割について学習する
- 第 4 回 民法の理解①
 民法の物権・債権という財産権に関する領域について、当事者間に権利義務関係を生じさせる「契約」という法制度のあり方について学習する
- 第 5 回 民法の理解②
 民法の物権・債権という財産権に関する領域について、当事者間に権利義務関係を生じさせる「不法行為」という法制度のあり方について学習する
- 第 6 回 民法の理解③
 親族・相続の領域について、夫婦・親子等のかかわりや財産相続等の法律関係を理解する
- 第 7 回 行政法の理解
 社会福祉に携わる者として、行政庁の違法・不当な処分から、利用者・要保護者の権利を護るために、「行政法」に共通するルールを学習する
- 第 8 回 成年後見制度の理解①
 法定後見制度全体と、成年後見の対象者（成年被後見人）と成年後見人の役割について学ぶ
- 第 9 回 成年後見制度の理解②
 保佐の対象者（被保佐人）、補助の対象者（被補助人）と保佐人、補助人の役割について学ぶ
- 第 10 回 任意後見制度の理解
 任意後見制度は、自己の後見のあり方を自らの意思を決めておくという自己決定の尊重の理念に則した制度であることを理解する
- 第 11 回 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携
 日常生活自立支援事業の概要、専門員・生活支援員の役割、日常生活自立支援事業の利用に必要な判断能力、成年後見制度との関係（活用）、福祉関係者・法律関係者との連携、最近の動向について学ぶ
- 第 12 回 成年後見制度利用支援事業の概要
 成年後見制度利用支援事業の内容・特性について理解する
- 第 13 回 権利擁護にかかわる組織・団体
 家庭裁判所を中心にして、法務局、市町村、社会福祉協議会、児童相談所等の役割について理解する
- 第 14 回 権利擁護にかかわる専門職の役割
 成年後見制度を支える専門家集団である社会福祉士、弁護士、医師等の権利擁護をめぐる取り組みと役割を理解する
- 第 15 回 成年後見活動の実際について
 権利擁護の視点から、成年後見制度によって判断能力の不十分な高齢者、障がい者等を支援する社会福祉士の活動の実際を事例から学ぶ。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に進める。教材は講師が用意したプリントを使用するが、社会的に関心の高い時事問題も取り上げる。なお、講義への積極的参加を促すためディスカッション、発表等は随時行う。なお、最終講義にて全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回に使用するプリントを配布するので、これに目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期テスト (50%) 及び授業の参加度(50%)をもとに総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・社会福祉士国家試験受験資格を取得するための科目です
- ・社会福祉専門職である社会福祉士になる人間としての自覚をもって授業に参加してください
- ・テキストや配布資料等での予習復習をして下さい

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

山口光治編『新・社会福祉士養成課程対応 権利擁護と成年後見 第3版』みらい 2017年

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

社会福祉法人大阪ボランティア教会編集『福祉小六法2017』中央法法規 2016年

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と福祉 I

SLB1100NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 前期

月曜 3限

DPI: 自分を育てる力

60

福祉生活デザイン学科必修

室田 保夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会福祉に関する基本的な考え方を学ぶ。そのために社会福祉の歴史や思想・哲学・価値といった基本的な事項を学び、現代社会にとって社会福祉の必要性を理解する。

現代社会に於ける基本的な福祉課題の理解を目標とする。社会福祉の原論的な位置づけと社会福祉学についての入門的な性格ももっている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現代に於ける内外の社会福祉を理解するために、その歴史的展開を学び、今日に至った経緯を理解する。社会に於ける福祉政策やサービスが展開されていく基礎を理解する。福祉はしばしば実践といわれるが、その実践の思想や哲学を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 本講義のオリエンテーション
- 第 2 回 現代社会とは何か、社会問題と生活問題
- 第 3 回 西洋の福祉の歴史 (1) -イギリスを中心に
- 第 4 回 西洋の福祉の歴史 (2) -アメリカを中心に
- 第 5 回 福祉の思想と哲学(1) -石井十次
- 第 6 回 福祉の思想と哲学(2) -留岡幸助
- 第 7 回 福祉の思想と哲学(3) -山室軍平
- 第 8 回 福祉の思想と哲学(4) -石井筆子
- 第 9 回 福祉の思想と哲学(5) -林歌子
- 第 10 回 福祉の思想と哲学(6) -井深八重
- 第 11 回 福祉の思想と哲学(7) -岩橋武夫
- 第 12 回 ゲストスピーカーによる講演
- 第 13 回 福祉の思想と哲学(8) -糸賀一雄
- 第 14 回 まとめ -今後の社会福祉の課題
- 第 15 回 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義が中心であるが、関連する視聴覚教材をも取り入れる。ときに応じてグループ討議も行う。プリントを配付する。毎回授業中に提出してもらうコメントについて、次期の授業時に口頭にてフィードバックする。適宜授業中に参考文献については指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義の終了時に次回のことについてふれるので、それに基づき準備し臨むようにする。新聞記事や報道等を通じて、常に福祉問題について関心をもつこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、小テスト (15%)、テスト (70%) とする。「授業参加度」とは主体的に授業や課題に対して取り組んでいるかを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業ごとにプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本社会福祉の歴史 改訂版』/室田保夫・菊池正治他編/ミネルヴァ書房/2014/9784623067961

『人物でよむ社会福祉の思想と理論』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2010/9784623055159

『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2013/9784623066247

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と福祉Ⅱ

SWA1250N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

月曜3限

DP2: 知識・理解力

60

室田 保夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「現代社会と福祉1」で基本的な福祉と社会福祉に関する理解を踏まえて、この講義は社会福祉の主な理論や各領域での政策を学ぶ。そして福祉ニーズと資源、主な社会福祉領域についての理解、ソーシャルワークの基本的な働きや相談援助活動を学ぶ。この講義をとおして専門科目理解の基礎を確立する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

社会福祉学についての主だった理論を学ぶ、社会福祉の各領域についての政策や支援方法等について学ぶ。ソーシャルワークの基本的な役割と方法について学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 本講義のオリエンテーション

第 2 回 社会福祉学とは何か

第 3 回 社会事業理論 ー生江孝之と田子一民

第 4 回 社会福祉理論 (1) ー孝橋理論を中心に

第 5 回 社会福祉理論 (2) ー岡村理論を中心に

第 6 回 社会福祉理論 (3) ー嶋田理論と現代の主な理論を中心に

第 7 回 ニーズと資源

第 8 回 児童の福祉

第 9 回 高齢者の福祉

第 10 回 障害者の福祉

第 11 回 地域の福祉

第 12 回 ゲストスピーカーによる講演

第 13 回 ソーシャルワークの機能と援助活動

第 14 回 現代の課題ー貧困問題と福祉

第 15 回 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義が中心であるが、関連する視聴覚教材をも取り入れる。ときに応じて、グループ学習、グループ討議を取り入れる。プリントの配付。適宜授業中に参考文献を指示する。毎回、授業中に提出するコメントに対して、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義の終わりに次回のこともふれるので、それに基づき準備し臨むようにする。新聞記事や報道等を通じて、常に福祉問題について関心をもつこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、小テスト (15%)、テスト (70%) とする。「授業参加度」とは主体的に授業や課題に対して取り組んでいるかを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義の都合上、シラバスを一部変更する場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。毎回、プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本社会福祉の歴史 改訂版』/室田保夫・菊池正治他編/ミネルヴァ書房/2014/9784623067961

『人物でよむ日本社会福祉のあゆみ』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2006/9784623045198

『人物でよむ社会福祉の思想と理論』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2010/9784623055159

『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2013/9784623066247

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会調査入門

PSB1401N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 前期

金曜 3限

DP4 : 思考・解決力

60

定員150人 社会・ビジネス心理コース必修

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会調査は、学術的な関心によって行われるだけではなく、官公庁やマスメディア、一般企業におけるマーケティング(市場調査)、実態調査など幅広い領域で利用される方法である。本講義では、社会調査の目的、意義、倫理、量的調査や質的調査の方法を中心に説明を進める。さらに、新聞やテレビ等のマスメディアで取り上げられる様々な調査について、実例を挙げ、適切な社会調査の実施や結果の見方を学ぶことを目的とする。そして、調査データを正しく読み取る力、リサーチ・リテラシーを身につけることを目指したい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・社会調査の目的と調査の種類を修得する。
- ・社会調査の過程(調査内容、調査対象の決定、実施方法、分析方法)を修得する。
- ・社会調査結果の見方や問題点を捉える力を修得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。

知識・理解力	社会調査や社会調査の方法に関する知識を身につけていない。	ある程度、社会調査や社会調査の方法に関する知識を身につけている。	おおむね社会調査や社会調査の方法に関する知識を身につけている。	社会調査や社会調査の方法に関する知識を十分身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	社会の問題をどの様に調査し、問題解決していくか、について力が身につけていない。	ある程度、社会の問題をどの様に調査し、問題解決していくか、について力が身につけている。	おおむね社会の問題をどの様に調査し、問題解決していくか、について力が身につけている。	社会の問題をどの様に調査し、問題解決していくか、について十分力が身につけている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を身につけている。	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション 社会調査とは
- 第 2 回 社会調査の歴史
- 第 3 回 社会調査の目的
- 第 4 回 社会調査の方法 1 (課題の設定)
- 第 5 回 社会調査の方法 2 (調査の積み上げと活用)
- 第 6 回 社会調査の倫理
- 第 7 回 量的調査(方法)
- 第 8 回 量的調査(事例)
- 第 9 回 質的調査(方法)
- 第 10 回 質的調査(事例)
- 第 11 回 世論調査・マーケティングリサーチ
- 第 12 回 国勢調査と官庁統計

第 13 回 質問紙調査法の基礎

第 14 回 フィールドワーク

第 15 回 インターネット調査

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ 講義形式で進める。
- ・ 毎回授業後に、授業内容のコメントを求める。
- ・ 社会調査の実例を探したり、問題点を見つける等、受け身的ではなく、積極的に講義に臨むことを期待したい。
- ・ manabaを使用して授業中に受講生から意見を求めたり、復習問題を行う。解答は授業中にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、次回の授業で行うキーワードを提示するので、予め自分なりの考えをまとめた上で授業に臨むこと。その際、本やインターネットの丸写し等機械的な予習にならないように気をつけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

持ち込みなしの期末テスト (約70%)、毎回の予習・振り返り (約30%) により総合的に判断する。欠席が授業回数数の 1 / 3 を超えた場合、原則として期末テストは受けられない。期末テストは試験後に振り返りを行いフィードバックする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代青年の心理学

PSA2251N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次 3年次

2単位 後期

木曜4限

DP2 : 知識・理解力

60

尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

青年期とは、人生の発達段階の一ステージである。この時期は、子どもから大人への移行期であるが、第二の誕生と言われるように、心身ともに重要な変容の段階でもある。青年にまつわる問題は古くから存在するが、同時に青年の行動や思考とは、時代を如実に反映するものであり、常に新しい問題を含んでいる。この授業では、青年期がどのよ

うにとらえられてきたかに始まり、青年期に特有な身体と心の問題、自己意識、対人関係 (友人関係、親子関係、恋愛関係)、進路決定等の観点から、現代青年の心理について理解を深めることを目標とする。また、受講生の多くが青年期にあることから、受講生自身の自己理解に結びつくような作業や実習等も取り入れながら授業を進めていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 従来の諸学説を学び、青年期がどのようにとらえられてきたかを理解する。
2. さまざまなデータや現象記述を通して、現代青年の心理について多面的に考察する。
3. 体験的学習をもとに、自分自身への理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	青年心理学の基礎的な知識が身についていない	ある程度、青年心理学の基礎的な知識が身についている	おおむね青年心理学の基礎的な知識が身についている	青年心理学の基礎的な知識が十分身についている
言語力	学習した内容について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、学習した内容について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね学習した内容について、自分の言葉で言語化する力が身についている	学習した内容について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている
思考・解決力	青年期の心理について多面的に考察し、問題解決する力が身についていない	ある程度、青年期の心理について多面的に考察し、問題解決する力が身についている	おおむね青年期の心理について多面的に考察し、問題解決する力が身についている	青年期の心理について多面的に考察し、問題解決する力が十分身についている
共生・協働する力	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についていない	ある程度、他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	おおむね他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が十分身についている
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用したりできる力	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活で応用したりできる力	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活で応用したりできる力	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用したりできる力

	が身につ ていない	りできる力 が身につ ている	きる力が身 についてい る	が十分身に ついている
--	--------------	----------------------	---------------------	----------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 青年期とは
- 第 2 回 青年期のとらえ方
- 第 3 回 青年期の身体と心
- 第 4 回 現代青年の身体と心をめぐる問題
- 第 5 回 青年期の自己意識
- 第 6 回 青年期におけるアイデンティティ
- 第 7 回 現代青年の自己・アイデンティティをめぐる問題
- 第 8 回 青年期の親子関係
- 第 9 回 現代青年の親子関係
- 第 10 回 青年期の友人関係
- 第 11 回 現代青年の友人関係
- 第 12 回 青年期の異性関係
- 第 13 回 青年期の進路決定
- 第 14 回 現代青年の進路をめぐる問題
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
2. 講義を中心に進めていくが、適宜、受講者の自己理解に結びつくような体験的学習も取り入れる。
3. 講義内容を受身的に覚えるのではなく、自分自身の体験や周囲の人たちと関連づけて考える主体的な受講態度が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に前回の授業内容を復習しておくこと。興味をもったテーマに関しては、図書館で文献を探すなどして、自主的に学びを深めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

小テストについては、テスト終了後に解説を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

進行状況によって、授業内容に変更が生じることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公的扶助論

SWR3200N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

柴田 周二

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

公的扶助 (生活保護) 制度は人々の生存権を保障するための生活保障制度である。まずは貧困・低所得層の生活実態と政策動向について学ぶ。その上でわが国及び欧米における公的扶助制度の歴史を概観し、そして生活保護の原理及び原則について具体的事例を交えながら理解を深める。最後に生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金の概略、ホームレス支援について学び、社会保障における自立支援について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ① 貧困・低所得者の生活実態と政策動向を理解する
- ② 公的扶助制度の歴史と意義を理解する。
- ③ 生活保護制度の原理、原則、組織や専門職の役割を理解する。
- ④ 生活困窮者自立支援制度の概略を理解する。
- ⑤ 社会保障における自立支援のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	貧困問題を知らうとする。	公的扶助制度の概要を知る。	公的扶助制度の課題を知る。	これからの公的扶助のあり方を考える。
言語力				
思考・解決力	テストをうける	レポートが作成できる	自分の問題として課題に取り組む	文献などを精査して、自分の考えを提示する
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 現代社会における貧困の諸相
- 第 3 回 公的扶助制度の歴史と社会保障
- 第 4 回 生活保護制度の実施体制
- 第 5 回 生活保護制度の基本原則

- 第 6 回 保護の内容
- 第 7 回 保護の要否判定
- 第 8 回 被保護者の権利と義務
- 第 9 回 最低生活保障水準と生活保護基準
- 第 10 回 生活保護制度の動向と財源
- 第 11 回 専門職の役割と相談援助
- 第 12 回 生活困窮者自立支援制度
- 第 13 回 生活福祉資金
- 第 14 回 ホームレス支援
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

課題 (試験またはレポート) の結果についてはmanaba等で本人に開示する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に進めるが、適宜、視聴覚教材も取り入れている。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新聞やテレビなどのニュースに関心をもち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業への参加度 (15点)、授業中の課題 (25点)、定期試験 (60点) とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を認めない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保護のてびき 令和元年度版』/生活保護制度研究会/第一法規/978-4-474-06840-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

行動科学概論

PSB1250NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

木曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

行動科学とは、人間や動物の行動を科学的に分析し、行動の諸現象を理解し、行動の諸問題を解決することを目指した科学である。本科目は、人間および動物の行動についての (心理学を含む) 様々な分野の研究を紹介し、行動の基礎にある原理の科学的な理解を深めることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 人や動物は、環境からどのような影響を受けているか。
2. 人や動物は、どのように行動を変化させるのか。
3. 人や動物は、その行動をみればすべて理解できるのか。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力・思考・解決力	行動科学の諸概念について理解していない	行動科学の諸概念について理解している	行動科学の諸概念についての知識を利用して論文を読める	行動科学の諸概念についての知識を利用して行動変容のための介入・実験を考案できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 知覚
- 第 3 回 認知
- 第 4 回 記憶
- 第 5 回 動機と行動
- 第 6 回 学習
- 第 7 回 社会性動物
- 第 8 回 比較行動学
- 第 9 回 言語
- 第 10 回 非言語行動
- 第 11 回 対人行動
- 第 12 回 うそと見破り
- 第 13 回 心的・発達障害
- 第 14 回 消費行動
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

PowerPointや映像資料を使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。学生からの積極的な発言、質問を求める。ミニテストの内容について講義を行い、特に間違えの多かった問題に関しては詳しくフィードバックを行う。最終回の授業で間違えの多かった問題を中心に復習テストを行う。またわからない所があればオフィスアワーなどを利用して解決できるように積極的に学習に取り組むこと。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の資料をよく読み込み、ミニテストに備える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回の授業の最初にレスポンスによるミニテストを実施する。その結果によって成績評価を行う。ミニテストは各回1～2個、各ミニテストは4問から5問。全部で20～25個のミニテストを行う。出題された問題数を100%として、そのうち何%答えられたかによって成績を判定する。ただし、学生の理解度に応じて授業を進めるので、ミニテストの数は前後する可能性がある。なお復習テストは補修課題として実施するため、ミニテストの正答率にプラスした点数が最終成績となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

産業・組織心理学

PSA3254N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 後期

火曜 5限

DP2: 知識・理解力

60

石田 正浩

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

組織と関わる中で生じる心理・行動上の問題を、心理学の概念を用いて理解し、対処が考えられるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ワークモチベーションの高低が生じる仕組みを理解する。
- ・組織・キャリアへコミットすることの意義を理解する。
- ・集団生産性・リーダーシップの有効性を規定する要因を理解し、集団作業を効率的に進める際の対処の視点を獲得

する。

・組織ストレスの特徴を理解し、その対処法を考えられるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入：産業心理学とは
- 第 2 回 ワークモチベーション1 基本概念、欲求階層説
- 第 3 回 ワークモチベーション2 内容理論
- 第 4 回 ワークモチベーション3 過程理論
- 第 5 回 ワークモチベーション4 理論と実践 目標と職務設計
- 第 6 回 応用行動分析
- 第 7 回 組織とキャリアへのコミットメント
- 第 8 回 集団生産性1 基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
- 第 9 回 集団生産性2 シュタイナーの課題分類とパフォーマンス
- 第 10 回 集団生産性3 集団意思決定
- 第 11 回 リーダーシップ1 リーダーシップとは、特性論、行動論
- 第 12 回 リーダーシップ2 条件即応理論
- 第 13 回 リーダーシップ3 リーダーシップ研究の展開
- 第 14 回 組織ストレス1 基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
- 第 15 回 組織ストレス2 バーンアウト、ストレス管理総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

基本は講義形式だが、毎回、授業時間の最後に授業内容の振り返りの課題を課す。また、質問・コメントを書く。次の授業のはじめに、前回の復習を兼ねて、課題の回答に対するフィードバックを行う。また、質問・コメント内容を紹介し授業内容の理解を確かなものとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎時間、授業の最後に次回につながる小課題を出す。それを考えることで、次回の授業の予習とする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、基本概念、理論の正しい理解とそれらの応用力を問う試験(60%)と毎授業時間の最後に行う小課題 (質問・コメントを含む) (40%)に基づいて、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内容は、授業時間までに新たに学習すべき内容が発生することがあるので、柔軟に変更していく。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『産業・組織心理学エッセンシャルズ第4版』/外島裕監修・田中堅一郎編/ナカニシヤ出版/2019/9784779513855

『新版 組織行動のマネジメント』/スティーブンP. ロビンズ/ダイヤモンド社/2009/9784478004593

他、授業時間中に適宜、紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

質問紙調査法

PSB2404NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 前期

火曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

心理カウンセリングコース必修

尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

あらかじめ定めた質問項目に対する回答をもとに、個人の内面を幅広くとらえる質問紙調査法は、用途が広く実施も比較的容易であることから、人間の内面に迫る心理学の研究分野では欠かせない方法である。しかし、質問紙によるデータを有効に活用するためには、質問項目の作成や調査対象者の選出をはじめとする、専門的な知識・技術と入念な準備が必要である。講義では、質問紙調査法の基礎から質問紙の作成、データ処理や結果の表現法、調査の倫理などについて卒業研究での活用を視野に入れて解説する。また講義の後半では、質問紙調査では見落とされがちなデータの質的側面を捉える方法として、インタビューや観察などの質的研究法についても解説する。講義に加え、データ処理や図表の作成などの課題を通して実践的な知識と技術の習得を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 質問紙調査法の特徴、利点と限界について学ぶ。
2. 質問紙の作成に関する知識や技術を習得する。
3. 調査の計画や実施の際に考慮すべき事柄を知る。
4. 集計やデータ処理に関する基礎的知識を習得する。
5. 結果の表現法や調査の倫理について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	質問紙作成や調査法に関する基礎的な知識が身についていない	ある程度、質問紙作成や調査法に関する基礎的な知識が身についている	おおむね質問紙作成や調査法に関する基礎的な知識が身についている	質問紙作成や調査法に関する基礎的な知識が十分身についている
言語力	質問紙調査法の利点や限界点、調査実施の際に留意すべき事柄について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、質問紙調査法の利点や限界点、調査実施の際に留意すべき事柄について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね質問紙調査法の利点や限界点、調査実施の際に留意すべき事柄について、自分の言葉で言語化する力が身についている	質問紙調査法の利点や限界点、調査実施の際に留意すべき事柄について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身についている
共生・協働する力	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についていない	ある程度、他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	おおむね他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が十分身についている
創造・発信力	自分自身で質問紙を作成する力が身についていない	ある程度、自分自身で質問紙を作成する力が身についている	おおむね自分自身で質問紙を作成する力が身についている	自分自身で質問紙を作成する力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 データの種類：質的データと量的データ
- 第 2 回 仮説と変数の設定、測定と尺度
- 第 3 回 データ収集の方法
- 第 4 回 調査対象者の選出：全数調査と標本調査
- 第 5 回 研究のデザインと調査の方法
- 第 6 回 質問項目の作成（1）：質問と回答の種類
- 第 7 回 質問項目の作成（2）：質問項目の収集と作成
- 第 8 回 調査票や質問紙の作成

第 9 回 調査における信頼性と妥当性
 第 10 回 調査データの整理 (1) : 基礎整理
 第 11 回 調査データの整理 (2) : データ処理
 第 12 回 データにおける質的側面
 第 13 回 質的研究法
 第 14 回 結果の表現法
 第 15 回 まとめ
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

授業では、必要に応じてプリントを配布するので、各自で整理して学習に活用すること。講義期間の半ばに中間テストを行う。また、適宜、講義内容に関連した課題や提出物を課す。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

講義の中では「心理統計法」「推測統計学」「心理学研究法」での学習内容が参照されることがあるため、これらの科目との対応ができるように、各自で資料等を整えておくこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

40

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

期末に実施するテスト (70%)、中間テスト (15%)、課題・提出物・授業への取り組み態度 (15%) により評価する。

テストについては、テスト終了後に解説を行う。

[留意事項 (Other Information)]

進行状況によって、授業内容に変更が生じることがある。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『あなたもできるデータの処理と解析』/岩淵千明/福村出版/1997//学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『質問紙調査の手順』/小塩真司ほか/ナカニシヤ出版/2007/
 『質問紙調査と心理測定尺度』/宮本聡介ほか/サイエンス社/2014/

『改訂新版 心理学論文の書き方』/松井豊/河出書房新社/2010/

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

社会・ビジネス心理フィールド 研修

PSA2600NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

60

定員30人 集中

松島 るみ 尾崎 仁美 廣瀬 直哉 後藤 伸彦

[科目の教育目標 (Course Description)]

社会調査に関する知識を背景に、企業や店舗が行うマーケティング・リサーチや商品企画開発に関する一連の調査過程について体験することを目標とする。企業や店舗の現状を把握した上で、課題設定・調査・分析を行い、最終的には協力企業や店舗に対して、分析結果を踏まえた具体的な提案を行うという一連の過程を学ぶ。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

①社会調査の一連の過程 (問題の設定・調査の実施及び分析・結果の解釈) を学ぶ。

②マーケティング・リサーチの基礎を学ぶ。

③分析結果について発信する力を身につける。

④日頃から消費者心理や消費者行動に関心を持ち、課題を設定したり、問題解決する能力を養う。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	問題解決するための力と自律的な学習態度が身につけていない。	ある程度、問題解決するための力と自律的な学習態度を身につけている。	おおむね主体的に問題解決するための力と自律的で積極的な学習態度を身につけている。	主体的に問題解決するための十分な力と自律的で積極的な学習態度を身につけている。
知識・理解力	調査や統計、研究法に関する力が身につけていない。	ある程度、調査や統計、研究法に関する十分な力を身につけている。	おおむね調査や統計、研究法に関する十分な力を身につけている。	調査や統計に関する十分な力を身につけている。
言語力	分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする言語力が身につけていない。	ある程度、分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする言語力を身につけている。	おおむね分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする言語力を身につけている。	分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする十分な言語力を身につけている。

思考・解決力	与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する力が身につけていない。	ある程度、与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する力を身につけている。	おおむね与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する力を身につけている。	与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する十分な力を身につけている。
共生・協働する力	他者と共生・協働し問題解決する力が身につけていない。	ある程度、他者と共生・協働し問題解決する力を身につけている。	おおむね他者と共生・協働し問題解決する力を身につけている。	他者と共生・協働し問題解決する力を十分身につけている。
創造・発信力	自らの成果をまとめ、創造的に発信する十分な力が身につけていない。	ある程度、自らの成果をまとめ、創造的に発信する力を身につけている。	おおむね自らの成果をまとめ、創造的に発信する力を身につけている。	自らの成果をまとめ、創造的に発信する十分な力を身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーションと心構え (全員)
- 第 2 回 協力企業または協力店舗担当者との打ち合わせ (全員)
- 第 3 回 課題解決に向けての情報収集 (全員)
- 第 4 回 仮説の検討 (全員)
- 第 5 回 調査項目に関する情報収集 (全員)
- 第 6 回 調査項目の検討 (全員)
- 第 7 回 調査用紙の作成 (全員)
- 第 8 回 調査データの入力 (全員)
- 第 9 回 調査データの分析 (基礎的統計) (全員)
- 第 10 回 調査データの分析 (統計的検定) (全員)
- 第 11 回 調査結果の考察 (全員)
- 第 12 回 調査結果を協力企業や店舗でどの様に役立てるかの検討 (全員)
- 第 13 回 プレゼンテーション資料の作成 (全員)
- 第 14 回 プレゼンテーションの練習 (全員)
- 第 15 回 最終報告会 (全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ①事前指導として、社会調査やマーケティング・リサーチの基礎を学ぶ。
- ②協力企業や協力店舗に関する情報の共有及び課題の設定を行う。
- ③調査内容の検討と調査実施、データ分析と結果のまとめを行う。
- ④協力企業や協力店舗への結果報告会を実施し、調査結果をどの様に活用出来るかの提案を行う。

⑤授業中、ディスカッションを通して、学生の意見や考えに対して適宜フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」や「現代社会調査入門」を受講していることが望ましい。授業前に出された課題や作業は必ず次の授業までに完成させておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度・他者との協働 (50%)、結果の分析・プレゼンテーション (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

時には、授業の時間外にもデータ分析や報告書の作成等を行うことがあるが、本研修では学外の企業や店舗に協力して頂くため、決められた期間内に受講生が協力して作業を行うことが求められる。責任感を持って、最後までやり遂げられる学生の受講を求める。

授業日時は不定期となるため、登録前に日程を必ず確認し、登録後は全ての授業・実習に参加すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会・集団・家族心理学Ⅰ (社会・集団)

PSA1551N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

木曜2限

DP5: 共生・協働する力

60

後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会で生きていく上で、他者と上手に付き合ったり、仲良くなることは重要なことです。しかし世の中にはさまざまな物の見方 (バイアスや偏見) が存在し、それらが他者との関係に悪く影響することはしばしばあります。ではどのような文脈の時に、そういったバイアスや偏見が人の感情や認知や態度、判断や行動に影響するのでしょうか。

本科目では、人が様々なバイアスや文脈 (社会) からの影響を受けて考え、悩み、ときに間違え、判断し、行動しているかを理解することを目指します。更にそういった人の判断や行動が個人内で完結せず他者や社会に影響を与えていることを理解することを目指します。それによってさまざまな人々と共生・協働する力を身につけることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.人の「癖」(認知過程)や「間違い」(バイアスや推論)が態度や対人関係に与える影響を理解する
- 2.集団間関係(差別やヘイトスピーチ等)について現実の問題に即して考える
- 3.自己の多層性(個人としての自分、友人といるときの自分、日本人としての自分等)について理解する
- 4.文化と心理の関係を理解し、異文化のヒトとの共生・協働について考える
- 5.社会心理学の応用可能性について考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	社会・集団心理学の諸概念について知識がある	社会・集団心理学の諸概念について知識が少しある	社会・集団心理学の諸概念について知識がある	社会・集団心理学の諸概念について知識があり、自らの言葉で説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 自己認知：自分の心を理解する
- 第 2 回 対人認知：人の心は読めるのか
- 第 3 回 社会的推論とバイアス
- 第 4 回 帰属過程
- 第 5 回 ステレオタイプ・差別行動
- 第 6 回 態度
- 第 7 回 社会的自己の幅広い影響
- 第 8 回 中間テスト
各自が自身の学習熟度を理解するために実施する。中間テストで出題された問題から期末テストにも出題される
- 第 9 回 感情
- 第 10 回 組織
- 第 11 回 集団過程
- 第 12 回 モチベーション
- 第 13 回 健康・幸福
- 第 14 回 文化の違いとその影響
- 第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
2. 積極的に質問したり、自身の意見を述べること。
3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。
4. 適宜、レスポンス等を通じて質問できる機会を作り、それに対するフィードバックを口頭で行う。
5. 中間テストの答えについては授業内で、期末テストの答えは授業内、またはオンライン上で一定期間公開する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。わからないところがあれば、質問できるように準備しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

中間テスト (30%) と期末テスト (70%) によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

図書館に「社会心理学」と名前のつく本が複数有るので適宜参照すること

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

認知、感情、態度などに関わる社会心理学の実験を実施し、複数の国際学術誌に掲載している。

消費者行動の心理学 2017年度以降入学者

PSA2203N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次 3年次

2単位 前期

木曜1限

DP2：知識・理解力

60

後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

モノであれ、コト(サービス)であれ、消費行動は我々人間がほぼ毎日、頻繁に行っている行動である。にも関わらず、その行動の理由については、自覚的であるとは限らない。本科目では自分の好きなモノや世間で流行っている事柄について心理学的考察を深め、それらが消費される理由について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 人の持つ基本的な欲求について説明できる
2. 世間で受け入れられているものについて、心理学の用語を用いて自分なりに説明できる
3. 心理学の知識を用いて商品の販促が出来る

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	消費者行動の心理学についての知識が少し身	消費者行動の心理学についての知識が少し身	消費者行動の心理学についての知識が十分身	消費者行動の心理学についての知識を自分の

	識が身につ いていない	についてい る	についてい る	言葉で説明 できる
創造・思 考・言語 力・発信力	自分の好き なものや事 柄について 説明できな い	自分の好き なものや事 柄について 説明できる	消費者行動 の心理学の 知識を用い てTVCMや 広告を解釈 することが できる	消費者行動 の心理学の 知識を用い て自分の好 きなものや 事柄をプレ ゼンするこ とができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：「消費」について
- 第 2 回 消費と幸／不幸について（1）食の消費
- 第 3 回 大学の選択という消費／選ばれる大学と選ばれない大学
- 第 4 回 知覚と注意
- 第 5 回 記憶・学習
- 第 6 回 動機／欲求
- 第 7 回 自己・アイデンティティー
- 第 8 回 態度
- 第 9 回 中間プレゼンテーション発表
- 第 10 回 広告
- 第 11 回 期末プレゼンテーション発表準備
- 第 12 回 アンビエント（空間・音楽）
- 第 13 回 消費と神経科学
- 第 14 回 期末プレゼンテーション発表
- 第 15 回 まとめとテスト

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

演習形式で、講義、学生の発表、ディスカッションにそれぞれ同程度の時間を割いて行う。

中間プレゼンテーションや期末プレゼンテーション、期末テストに対して授業内で口頭でフィードバックをする。また教員からのフィードバックを待たず、学生から積極的に発言、質問する態度が求められる

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 授業の中でさまざまな商品や芸能人についてディスカッションを行うので、自分の好きなモノやヒトについて話ができるように準備しておく
2. 講義の内容をよく復習し、ディスカッションや発表で使えるように理解を深める

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業内発表（20%）x2、授業参加(20%)、期末テスト(40%)

〔留意事項（Other Information）〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

本授業では学生自身の考えについて発表してもらう機会が数多くあります。自分や人の行動について「なぜか」を考え、その考えを発表する機会を通じて学びを深めていく授

業であり、教員の講義を聴くだけの授業とは違いますので、注意してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

消費者の行動に関する認知神経科学的研究を実施、複数の国際学術誌に掲載している。

障害者福祉論

SWA2250N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 後期

金曜 4限

DP2：知識・理解力

60

矢島 雅子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現在、国民の約7.6%は何らかの障害を有しているといわれている。障害のある人が日常生活や社会生活を送る上でどのような支援を必要としているのか学び、理解を深める。そして、生活のしづらさを解決する障害者福祉の法制度・サービス体系・支援方法を学び、どうすれば生活上の困難を解決することができるのか解決策を提示できるようにする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 国際障害分類と国際生活機能分類の違いを学び、障害を構造的に理解する。
2. 障害のある人の基本的人権、ノーマライゼーション、リハビリテーションと自立生活運動、エンパワーメント等の理念を学び、理念を学ぶ意義を説明することができる。
3. 戦前から今日に至るまでの障害者福祉制度の発展過程を説明することができる。
4. 障害のある人の生活ニーズについて理解を深め、生活困難を解決する支援方法を提示することができる。
5. 障害者総合支援法における専門職の役割と多職種との連携について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
障害概念の理解力	国際生活機能分類のことを知らない。	国際生活機能分類が発表されたことは知っている。	国際生活機能分類の成立経緯を説明することができる。	国際生活機能分類の成立経緯と特徴を説明することができる。
理念の理解力	障害者福祉の理念がある	障害者福祉の理念があることは知	障害者福祉の理念の特徴について	障害者福祉の理念の特徴を説明す

	ることを知らない。	っているが、理念の内容を説明することはできない。	説明することができ	ることができ、理念の必要性を理解している。
制度の理解力	障害者福祉制度があることを知らない。	障害者福祉制度があることは知っているが、制度の内容を説明することはできない。	障害者福祉制度の経緯と制度の内容を説明することができる。	障害者福祉制度の経緯と制度の内容を説明することができ、制度の必要性を理解している。
支援方法の考察力	障害のある人のニーズを把握していない。	障害のある人のニーズを把握することができる。	障害のある人のニーズ充足に必要な社会資源を説明することができる。	障害のある人のニーズ充足に必要な社会資源と具体的な支援方法を提示することができる。
専門職の役割の理解力	どのような専門職が支援しているのかわからない。	専門職の法律の位置づけを説明することができる。	専門職の法律の位置づけと業務内容を説明することができる。	専門職それぞれの法律の位置づけや業務内容、役割について説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 障害とは ー国際障害分類と国際生活機能分類ー
- 第 2 回 障害のある人の生活実態 ーゲストスピーカーによる講義ー
- 第 3 回 障害のある人の権利保障 ー障害者権利条約と差別解消法ー
- 第 4 回 障害者福祉の理念 ーノーマライゼーションと自立生活運動ー
- 第 5 回 障害者福祉法制度の発展過程 ー戦前の障害者福祉ー
- 第 6 回 障害者福祉法制度の発展過程 ー戦後の障害者福祉ー
- 第 7 回 障害のある人にかかわる法体系① ー障害者基本法ー
- 第 8 回 障害のある人にかかわる法体系② ーその他の法体系ー
- 第 9 回 障害者総合支援法の概要 ー自立支援給付ー
- 第 10 回 障害者総合支援法の概要 ー地域生活支援事業ー
- 第 11 回 障害児に対する支援
- 第 12 回 組織・機関の役割
- 第 13 回 専門職の役割と実際
- 第 14 回

多職種連携・ネットワーク ー多職種連携の事例を通してー

第 15 回 今後の障害者福祉の展望

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

パワーポイントと配布資料に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。ワークシートとレポートの課題は個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・各回ワークシートを配付する。
- ・次回の授業までにワークシート (復習と予習の課題) に取り組み、提出する。

- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (50%)、レポート (20%)、授業参加度 (15%)、ワークシート (15%) によって総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第6版』/社会福祉士養成講座編集委員会編 / 中央法規 / 2019/9784805851074/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『よくわかる障害者福祉』/小澤温/ミネルヴァ書房/2016/9784623076444

『共生社会を切り開くー障害者福祉改革の羅針盤ー』/佐藤久夫/有斐閣/2015/9784641174092

『新・基礎からの社会福祉④ 障害者福祉』/竹端寛・山下幸子・尾崎剛志他編/ミネルヴァ書房/2014/9784623069675

授業内で参考文献一覧を配付する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

上級実験演習

PSB3600N1J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 2単位 前期
 木曜 3限
 DP6: 創造・発信力
 60
 心理学実験演習I又は心理学実験演習II
 廣瀬 直哉 後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学実験演習等で学んだ心理学実験に関する基礎知識をもとに、実験・観察・調査の企画から実施、データ分析、発表・レポートの作成までの一連の研究プロセスを体験的に学習する。受講生はいくつかのグループに分かれ、各グループで研究テーマを設定して、実験計画や刺激素材の作成、実験・観察の設定、質問紙の作成などを主体的に行い、実験法・観察法・調査法によりデータを収集し、分析を行い仮説を検証する。これらの過程を通じて、卒業研究・卒業論文において自ら研究が行えるだけの研究の基礎能力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関連する文献を収集し、内容を整理する
2. 目的・仮説に沿って、研究計画を立てる
3. 実験・観察・調査を実施し、データを収集する
4. データ分析を行い、考察としてまとめる
5. 研究発表を行う
6. レポートを執筆する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したりすることができない。	主体的に研究計画を立てて実行することができる。	レベル2に加えて、研究成果をまとめて発信することができる。	卒業研究と同等の研究計画の立案・実施・成果発表を行うことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 2 回 グループ分けと研究の進め方
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 3 回 研究テーマの選定
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 4 回 関連文献の収集と整理
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 5 回 研究計画と仮説の立案
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 6 回 実験・観察・調査の準備
担当 (廣瀬・後藤)

- 第 7 回 中間報告
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 8 回 実験・観察・調査の実施
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 9 回 データ入力
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 10 回 基礎集計
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 11 回 検定と多変量解析
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 12 回 結果の解釈と考察
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 13 回 研究発表の準備
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 14 回 研究発表
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 15 回 レポートの作成
担当 (廣瀬・後藤)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

演習室において、グループに分かれて実習・演習形式で行う。グループでの作業が中心となるため、積極的な関与が求められる。

課題等のフィードバックは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示を行う他、各グループで決めた課題を期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (20%)、成果発表 (50%)、レポート (30%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

1,2回目の授業には必ず出席をすること。連絡なく欠席した場合は研究グループに所属できず、単位の取得ができない場合があるので注意すること。

グループでの活動を行うため、**毎回の出席が必須**である。どうしても欠席せざるを得ない場合は必ず連絡すること。必須の履修要件ではないが、推測統計学 I・II を習得済みであることが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理テスト演習

PSB2403N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 前期

金曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

心理カウンセリングコース必修

村松 朋子 茅野 綾子 鶴田 薫 福山 幸子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、臨床心理の実践現場で用いられている心理テストを被検者として実際に受検することを通して、心理テストについて体験的に学ぶ。体験後はレポートを作成し、被検者として感じた事柄を言葉にし文章としてまとめていくことで、心理テストについて理解を深めていく。一部の実習では、受講生ペアが検査者および被検者となり、ロールプレイ形式で実習を行うことがある。こうした体験学習を通して、検査者の役割や姿勢についても理解するとともに、心理テストに関する倫理感覚の基礎を養っていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

質問紙法、作業検査法、投映法の中から、性格、認知の特性、対人関係のあり方をはかる心理テストの実習を行う。各テストの目的を理解するとともに、実施方法、結果の整理の仕方、分析・解釈の方法について学ぶ。また、検査者の役割や姿勢、心理テストを行う上で注意すべき点についても、体験を通して学んでほしい。

検査結果を自己理解を深める形での考察を試みること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
レポートの体裁	心理テスト演習のレポートの基本的な構成がなされていない	レポートの基本的な構成で正しく書かれている	構成の正確さだけでなく、表現方法が適切である	構成の正確さ、表現方法だけでなく、レイアウトまで完成されている
結果に関する記述	結果に関する記述がない	記入漏れの結果がある	記述すべき結果が多向け記入されている	結果の説明があり、考察につながっている
考察に関する記述	心理検査の感想にとどまっている	結果を繰り返して述べているだけである	解釈が概ねされているが、主観的推論がほとんどである	結果の解釈について、先行研究や文献にも触れ総合的に書かれている

文献に関する記述	引用・参考文献が書かれていない	文献の記載はあるが、表記方法が適切ではない	レポートに含まれる文献を不足なく記述している	引用方法、引用箇所との対応、表記方法が適切である
----------	-----------------	-----------------------	------------------------	--------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (村松)
授業の進め方とグループ分けについて
- 第 2 回 質問紙法による心理テスト① (茅野)
YG性格検査
- 第 3 回 質問紙法による心理テスト② (茅野)
TEG
- 第 4 回 質問紙法による心理テスト③ (茅野)
質問紙レポートの書き方
- 第 5 回 作業検査法による心理テスト① (村松)
ベンダーゲシュタルト・テスト
- 第 6 回 作業検査法による心理テスト② (村松)
内田クレペリン精神作業検査
- 第 7 回 作業検査法による心理テスト③ (村松)
作業検査法レポートの書き方
- 第 8 回 投映法による心理テストA① (鶴田)
PFスタディ 検査体験
- 第 9 回 投映法による心理テストA② (鶴田)
PFスタディ スコアリング
- 第 10 回 投映法による心理テストA③ (鶴田)
PFスタディ レポートの書き方
- 第 11 回 投映法による心理テストB① (福山)
描画法 バウムテストの施行法
- 第 12 回 投映法による心理テストB② (福山)
描画法 バウムテストの解釈
- 第 13 回 投映法による心理テストB③ (福山)
描画法 バウムテストのレポートの書き方
- 第 14 回 合同講義
その他の投映法の紹介
心理検査の実践におけると守秘義務、インフォームドコンセントについて (村松)
- 第 15 回 まとめ (村松)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 受講生はグループに分かれて、合計4つの実習を行う。実習ごとに担当教員が交代し、それぞれの指導を受ける。1つの実習は、3週間連続して行う。
2. 遅刻、欠席は実習の妨げになるため、厳禁である。欠席すると、その実習レポートの評価を受ける資格がなくなるので、注意すること。
3. 各実習終了後は、レポートが課される。担当教員の指示に従って、所定の期日までに学事課に提出するかmanabaで提出すること。
4. 配布された資料や返却されたレポートは、次年度以降も参考にできるようにきちんとファイリングして、保存しておくこと。

5. テキストは使用しない。教材・資料は、実習ごとに適宜、配布や貸し出しを行う。参考文献についても、実習ごとに適宜、指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 各心理テストについて、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 1年次前期「心理テスト論」の受講者は、その授業内容を復習しつつ授業に臨むこと。
3. 返却されたレポートを見直し、文章やレポートの書き方を習得しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各実習のレポート得点を総合して評価を行う (各実習の評価25点満点x4)。ただし、オリエンテーション、合同講義、および、各実習における欠席・遅刻は、指導の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

・1回目のオリエンテーションと14回・15回目の合同講義・まとめの授業は、全員で行う。グループ分けや各実習の教室等については、1回目のオリエンテーションの際に伝達する。

・複数のグループに分かれて実習を行うことから、実習の順序は上記と入れ替わることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理演習 (心理支援の実際)

PSA3651N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 後期

金曜 4限

DP6 : 創造・発信力

90

福山 幸子 三好 智子 空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理支援に関する基本的な知識および技能を修得する。保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野における具体的な場面を想定した役割演技 (ロールプレイング)、および、事例検討を通して、心理支援の実際について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理支援における①コミュニケーション②心理検査③心理面接④地域支援等の基本的な知識および技能を修得する。
2. 役割演技や事例検討を通して、心理に関する支援を要する者等を理解し、ニーズを把握する技能を習得した上で、

支援計画を作成する。

3. 事例検討を通して、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携および地域連携の現状と課題を理解する。

4. 役割演技や事例検討を通して、公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理支援における基本的知識の修得	心理支援における基本的知識を修得していない。	心理支援における基本的知識について説明できる。	心理支援における基本的知識について、複数の事例を挙げて説明できる。	心理支援における基本的知識について、役割演技や他の複数の事例に基づき、課題を明確に説明できる。
心理支援における基本的技法の実践	心理支援における基本的な技法を実践しない。	心理支援における基本的な技法を実践し、修得する。	心理支援における基本的な技法を修得し、その体験に基づいて、各技法の留意点や危険性を明確に説明できる。	授業で実践した技法が用いられた事例論文と、授業での体験とを比較し、技法の適用と限界について明確に説明できる。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション

第2回 保健医療分野における心理支援 (役割演技)

第3回 保健医療分野における心理支援 (事例検討)

第4回 福祉分野における心理支援 (役割演技)

第5回 福祉分野における心理支援 (事例検討)

第6回 教育分野における心理支援 (役割演技)

第7回 教育分野における心理支援 (事例検討)

第8回 司法・犯罪分野における心理支援 (役割演技)

第9回 司法・犯罪分野における心理支援 (事例検討)

第10回 産業・労働分野における心理支援 (役割演技)

第11回 産業・労働分野における心理支援 (事例検討)

第12回 支援計画の作成

第13回 チームアプローチ、多職種連携、地域連携

第14回 公認心理師としての職業倫理および法的義務

第15回 まとめと振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

第1回のオリエンテーションの後、受講生は3グループに分かれて演習を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各演習前に、その演習のテーマに関して復習や下調べをしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習形式の授業のため、全回の出席が前提である。原則として欠席および遅刻は認めず、全回出席をもって単位認定の基本条件とする。授業態度 (50%)、小テストおよびレポート (50%) をもとに総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

役割演技等の実践の時間を多く含むことから、自分自身や他の受講生の体験を尊重して演習に臨むこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 全担当教員について、心理専門職として施設での勤務経験あり。

心理学英文講読 (応用)

PSB3350NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 前期

火曜 3限

DP3: 言語力

60

中村 千珠

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、心理学演習や実験、卒業論文の準備などをする際に必要となる、心理学の英語文献を自力で読めるようになるため、心理学の主要分野からいくつかトピックを選び読解することで、専門用語、基本的概念を英語により確認し、習得することを目的とする。さらに、英語の論文を通じて、最新の心理学の知見に触れる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1、心理学の専門用語や基本的概念を英語により確認し、意味を理解する。

2、心理学の英語の文献や論文の内容を理解できるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための専門的知識が身についていない	ある程度、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための専門的知識が身についている	おおむね心理学の英語文献を自力で読めるようになるための専門的知識が身についている	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための専門的知識が十分身についている
言語力	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身についていない	ある程度、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身についている	おおむね、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身についている	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が十分身についている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 文献読解 発達心理学 1
(児童期の認知発達;ピアジェの理論)
- 第 3 回 文献読解 発達心理学 2
(児童期の認知発達)
- 第 4 回 文献読解 学習心理学 1
(古典的条件付け)
- 第 5 回 文献読解 学習心理学 2
(道具的条件付け)
- 第 6 回 文献読解 認知心理学 1
(記憶について;記憶に関する実験など)
- 第 7 回 文献読解 認知心理学 2
(記憶について)
- 第 8 回 文献読解 人格心理学 1
(防衛機制;抑圧など)
- 第 9 回 文献読解 人格心理学 2
(防衛機制;否認など)
- 第 10 回 文献読解 臨床心理学 1
(精神症状;恐怖症など)
- 第 11 回 文献読解 臨床心理学 2
(精神症状;強迫性障害など)
- 第 12 回 文献読解 臨床心理学 3
(行動療法)

- 第 13 回 文献読解 臨床心理学 4
(認知療法)
- 第 14 回 文献読解 臨床心理学 4
論文紹介
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1、各自が、適宜配布した文献を丁寧に和訳して授業に臨む。
- 2、授業による読解を通して、各自の理解度をチェックする。
- 3、授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に配布した文献を予習することを基本とする。理解できない用語は各自調べておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表など授業への参加状況 70%、まとめの課題 30% で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

事前予習が不可欠である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

心理学の文献を適宜配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学英文講読 (基礎)

PSB2350NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 後期

火曜 4限

DP3: 言語力

60

中村 千珠

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

最新の心理学の知見に触れるためには、英語の文献にあたること大事である。そこで、この授業では、心理学演習や実験、卒業論文の準備などをする際に必要となる、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための基礎的な訓練をおこなう。そのために、心理学の入門書を通して、主要分野から、いくつかトピックを選び、そこでの専門用語、基本的概念を英語により確認し、習得することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1、英語の文献を読むことに慣れる。
- 2、心理学の専門用語や基本的概念を英語により確認し、意味を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための知識が身についていない	ある程度、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための知識が身についている	おおむね心理学の英語文献を自力で読めるようになるための知識が身についている	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための知識が十分身についている
言語力	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身についていない	ある程度、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身についている	おおむね心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身についている	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が十分身についている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 文献読解 発達心理学 1
(児童期の認知発達)
- 第 3 回 文献読解 発達心理学 2
(児童期の認知発達)
- 第 4 回 文献読解 学習心理学 1
(古典的条件付け)
- 第 5 回 文献読解 学習心理学 2
(道具的条件付け)
- 第 6 回 文献読解 認知心理学 1
(記憶について; 記憶の種類)
- 第 7 回 文献読解 認知心理学 2
(記憶について; 記憶のプロセス)
- 第 8 回 文献読解 人格心理学 1
(人格の発達; フロイトの視点から)
- 第 9 回 文献読解 人格心理学 2
(人格の発達)

- 第 10 回 文献読解 臨床心理学 1
(精神症状；全般性不安障害など)
- 第 11 回 文献読解 臨床心理学 2
(精神症状；うつ病など)
- 第 12 回 文献読解 臨床心理学 3
(精神分析；夢分析、自由連想法について)
- 第 13 回 文献読解 臨床心理学 4
(精神分析；転移と逆転移)
- 第 14 回 文献読解
論文紹介など
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1、各自が、適宜配布した文献を丁寧に和訳して授業に臨む。
- 2、授業による読解を通して、各自の理解度をチェックする。
- 3、授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に配布した文献を予習することを基本とする。理解できない用語は各自調べておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表など授業への参加状況 70%、まとめの課題 30% で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

事前予習が不可欠である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

心理学の文献を適宜配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600A0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6：創造・発信力

120

伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 質問紙作成に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する
6. データ分析の力を身につける。
7. データにもとづき、報告書にまとめる力を身につける。
8. 分析結果を他者に伝える力を身につける。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション

第2回 調査の企画

第3回 テーマの設定①小テーマ候補の考案

第4回 テーマの設定②小テーマの決定

第5回 先行研究・文献の収集、整理

第6回 仮説の構成

第7回 質問項目・尺度の資料収集

第8回 質問項目・尺度の検討

第9回 質問紙の作成

第10回 質問紙の完成

第11回 調査の実施に向けて

第12回 調査の実施

第13回 データ入力

第14回 エディティング

第15回 中間のまとめ

第16回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出

第17回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈

第18回 相関係数①分析の実施

第19回 相関係数②結果の図表作成と解釈

第20回 t検定①分析の実施

第21回 t検定②結果の図表作成と解釈

第22回 分散分析①分析の実施

- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 3 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。
4. グループでの協働作業が中心となるため、積極的な授業参加を心がけること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業中に指示するが、「質問紙調査法」「現代社会調査入門」「心理学統計法 I・II」「推測統計学 I・II」で学んだ内容を復習しながら授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600DOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6: 創造・発信力

120

尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにあたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。「大学生の心理に関する調査」「女性の生き方に関する調査」「企業や店舗等と連携して行う調査」いずれかについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の作成を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
9. 結果を解釈し、表現する力を身に着ける。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的で積極的な学習態度が身についている	おおむね自律的で積極的な学習態度が身についている	自律的で積極的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	心理学の研究法や統計の知識が身についていない	ある程度、心理学の研究法や統計の知識が身についている	おおむね心理学の研究法や統計の知識が身についている	心理学の研究法や統計の知識が十分身についている
言語力	研究結果を言語化したり、人に説明する力が身についていない	ある程度、研究結果を言語化したり、人に説明する力が身についている	おおむね研究結果を言語化したり、人に説明する力が身についている	研究結果を言語化したり、人に説明する力が十分身についている

思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身についていない	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身についている	おおむね心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身についている	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が十分身についている
共生・協働する力	学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が身についていない	ある程度、学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が身についている	おおむね学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が身についている	学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が十分身についている
創造・発信力	研究成果を他者に発信する力が身についていない	ある程度、研究成果を他者に発信する力が身についている	おおむね研究成果を他者に発信する力が身についている	研究成果を他者に発信する力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目の資料収集
- 第 8 回 質問項目の検討
- 第 9 回 予備調査の実施
- 第 10 回 予備調査の検討
- 第 11 回 本調査の実施に向けて
- 第 12 回 本調査の実施
- 第 13 回 コーディング
- 第 14 回 エディティング
- 第 15 回 中間まとめ
- 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第 18 回 相関係数①分析の実施
- 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第 20 回 t検定①分析の実施
- 第 21 回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第 22 回 分散分析①分析の実施
- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 30 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. グループでの演習形式、実習形式で行う。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示を行う。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600E0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6: 創造・発信力

120

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 2 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 3 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 4 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 5 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 6 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 7 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 8 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 9 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 10 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 11 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 12 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 13 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 14 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 15 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 16 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 17 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 18 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 19 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 20 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 21 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 22 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 23 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 24 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 25 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 26 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 27 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 28 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 29 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 30 回 各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
- 2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
- 3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1. 発表者は十分な準備をする。
- 2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜日 3 講時、出席必須

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

心理学演習

PSS3600HOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

120

薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

- 1. 研究テーマを設定することができる
- 2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
- 3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
- 2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
- 3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
- 4. 各自の研究計画を組み立てる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 2 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 3 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 4 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 5 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 6 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 7 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 8 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 9 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 10 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 11 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 12 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 13 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 14 回 各担当教員から個別に指示する。

- 第 15 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 16 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 17 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 18 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 19 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 20 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 21 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 22 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 23 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 24 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 25 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 26 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 27 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 28 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 29 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 30 回 各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜日 3 講時、出席必須

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

心理学演習

PSS3600J0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6: 創造・発信力

120

佐藤 睦子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 2 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 3 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 4 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 5 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 6 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 7 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 8 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 9 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 10 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 11 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 12 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 13 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 14 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 15 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 16 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 17 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 18 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 19 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 20 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 21 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 22 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 23 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 24 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 25 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 26 回 各担当教員から個別に指示する。

第 27 回 各担当教員から個別に指示する。
第 28 回 各担当教員から個別に指示する。
第 29 回 各担当教員から個別に指示する。
第 30 回 各担当教員から個別に指示する。
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜日 3 講時、出席必須

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

心理学演習

PSS3600LOJ
大学
現代人間学部 > 心理学科
3年次
4単位 通年
水曜 3限
DP6 : 創造・発信力
120
空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、

卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 各担当教員から個別に指示する。
第 2 回 各担当教員から個別に指示する。
第 3 回 各担当教員から個別に指示する。
第 4 回 各担当教員から個別に指示する。
第 5 回 各担当教員から個別に指示する。
第 6 回 各担当教員から個別に指示する。
第 7 回 各担当教員から個別に指示する。
第 8 回 各担当教員から個別に指示する。
第 9 回 各担当教員から個別に指示する。
第 10 回 各担当教員から個別に指示する。
第 11 回 各担当教員から個別に指示する。
第 12 回 各担当教員から個別に指示する。
第 13 回 各担当教員から個別に指示する。
第 14 回 各担当教員から個別に指示する。
第 15 回 各担当教員から個別に指示する。
第 16 回 各担当教員から個別に指示する。
第 17 回 各担当教員から個別に指示する。
第 18 回 各担当教員から個別に指示する。
第 19 回 各担当教員から個別に指示する。
第 20 回 各担当教員から個別に指示する。
第 21 回 各担当教員から個別に指示する。
第 22 回 各担当教員から個別に指示する。
第 23 回 各担当教員から個別に指示する。
第 24 回 各担当教員から個別に指示する。
第 25 回 各担当教員から個別に指示する。
第 26 回 各担当教員から個別に指示する。
第 27 回 各担当教員から個別に指示する。
第 28 回 各担当教員から個別に指示する。
第 29 回 各担当教員から個別に指示する。
第 30 回 各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜日 3 講時、出席必須

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

心理学演習

PSS3600MOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

120

高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

〔授業計画〕

第 1 回 各担当教員から個別に指示する。

第 2 回 各担当教員から個別に指示する。

第 3 回 各担当教員から個別に指示する。

第 4 回 各担当教員から個別に指示する。

第 5 回 各担当教員から個別に指示する。

第 6 回 各担当教員から個別に指示する。

第 7 回 各担当教員から個別に指示する。

第 8 回 各担当教員から個別に指示する。

第 9 回 各担当教員から個別に指示する。

第 10 回 各担当教員から個別に指示する。

第 11 回 各担当教員から個別に指示する。

第 12 回 各担当教員から個別に指示する。

第 13 回 各担当教員から個別に指示する。

第 14 回 各担当教員から個別に指示する。

第 15 回 各担当教員から個別に指示する。

第 16 回 各担当教員から個別に指示する。

第 17 回 各担当教員から個別に指示する。

第 18 回 各担当教員から個別に指示する。

第 19 回 各担当教員から個別に指示する。

第 20 回 各担当教員から個別に指示する。

第 21 回 各担当教員から個別に指示する。

第 22 回 各担当教員から個別に指示する。

第 23 回 各担当教員から個別に指示する。

第 24 回 各担当教員から個別に指示する。

第 25 回 各担当教員から個別に指示する。

第 26 回 各担当教員から個別に指示する。

第 27 回 各担当教員から個別に指示する。

第 28 回 各担当教員から個別に指示する。

第 29 回 各担当教員から個別に指示する。

第 30 回 各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜日 3 講時、出席必須

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

心理学演習

PSS3600NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP6: 創造・発信力

120

田中 誉樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 2 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 3 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 4 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 5 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 6 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 7 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 8 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 9 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 10 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 11 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 12 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 13 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 14 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 15 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 16 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 17 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 18 回 各担当教員から個別に指示する。

第 19 回 各担当教員から個別に指示する。

第 20 回 各担当教員から個別に指示する。

第 21 回 各担当教員から個別に指示する。

第 22 回 各担当教員から個別に指示する。

第 23 回 各担当教員から個別に指示する。

第 24 回 各担当教員から個別に指示する。

第 25 回 各担当教員から個別に指示する。

第 26 回 各担当教員から個別に指示する。

第 27 回 各担当教員から個別に指示する。

第 28 回 各担当教員から個別に指示する。

第 29 回 各担当教員から個別に指示する。

第 30 回 各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜日3講時、出席必須

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

心理学演習

PSS3600PJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 4単位 通年
 水曜 3限
 DP6：創造・発信力
 120
 廣瀬 直哉

【科目の教育目標 (Course Description)】

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までに行わたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。「消費者行動」に関わるテーマについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の設定を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
10. 結果を解釈し、表現する力を身に着ける。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したり、分析したりすることができない。	主体的に研究計画を立て、実行し、分析することができ	レベル2に加えて、研究成果をわかりやすく発信することができる。	研究計画の立案・実行・分析・成果発表のすべてが卓越している。

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目の資料収集
- 第 8 回 質問項目の検討
- 第 9 回 予備調査の実施
- 第 10 回 予備調査の検討

- 第 11 回 本調査の実施に向けて
- 第 12 回 本調査の実施
- 第 13 回 コーディング
- 第 14 回 エディティング
- 第 15 回 中間まとめ
- 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第 18 回 相関係数①分析の実施
- 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第 20 回 t検定①分析の実施
- 第 21 回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第 22 回 分散分析①分析の実施
- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 30 回 報告書の完成

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

なし

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
 2. グループで演習形式、実習形式で行う。
 3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。
- なお、課題等のフィードバックはmanabaもしくは授業時に行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

120

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

【留意事項 (Other Information)】

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

心理学演習

PSS3600Q0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 4単位 通年
 水曜 3限
 DP6：創造・発信力
 120
 松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に専門分野の研究法を習得する。具体的には、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる調査研究の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。

テーマは、①現代社会の諸問題に関する意識調査、②大学生の心理を分析する調査、③一般企業・店舗や組織と連携して進める調査、のいずれかを受講生と相談しながら決定し、一年を通して課題に取り組んでいく。前期は主に、小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の作成を行う。後期は主に、データ分析や考察、報告書の作成を行う。

3年次で身につけた力を4年次の卒業研究や卒業論文で活かすことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 質問紙作成に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する
6. データ分析の力を身につける。
7. データにもとづき、報告書にまとめる力を身につける。
8. 分析結果を他者に伝える力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な態度が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	心理学の研究法や統計の知識を身につけていない。	ある程度、心理学の研究法や統計の知識を身につけている。	おおむね心理学の研究法や統計の知識を身につけている。	心理学の研究法や統計の知識を十分身につけている。

言語力	研究結果を言語化したり、人に説明する力が身につけていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、人に説明する力が身につけている。	おおむね研究結果を言語化したり、人に説明する力が身につけている。	研究結果を言語化したり、人に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身につけていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身につけている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身につけている。	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究成果を他者に発信する力が身につけていない。	ある程度、研究成果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究成果を他者に発信する力を身につけている。	研究成果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 調査の企画
- 第3回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第4回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第5回 先行研究・文献の収集、整理
- 第6回 仮説の構成
- 第7回 質問項目・尺度の資料収集
- 第8回 質問項目・尺度の検討
- 第9回 質問紙の作成
- 第10回 質問紙の完成
- 第11回 調査の実施に向けて
- 第12回 調査の実施
- 第13回 データ入力
- 第14回 エディティング
- 第15回 中間のまとめ
- 第16回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第17回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第18回 相関係数①分析の実施
- 第19回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第20回 t検定①分析の実施
- 第21回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第22回 分散分析①分析の実施
- 第23回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第24回 χ^2 検定①分析の実施

- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 3 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。
4. グループでの協働作業が中心となるため、積極的な授業参加を心がけること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業中に指示するが、「質問紙調査法」「現代社会調査入門」「心理学統計法 I・II」「推測統計学 I・II」で学んだ内容を復習しながら授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600R0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6: 創造・発信力

120

三好 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 2 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 3 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 4 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 5 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 6 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 7 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 8 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 9 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 10 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 11 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 12 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 13 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 14 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 15 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 16 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 17 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 18 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 19 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 20 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 21 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 22 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 23 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 24 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 25 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 26 回 各担当教員から個別に指示する。

第 27 回 各担当教員から個別に指示する。
第 28 回 各担当教員から個別に指示する。
第 29 回 各担当教員から個別に指示する。
第 30 回 各担当教員から個別に指示する。
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜日 3 講時、出席必須

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

心理学演習

PSS3600S0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
3年次
4単位 通年
水曜 3限
DP6 : 創造・発信力
120
向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、

卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 各担当教員から個別に指示する。
第 2 回 各担当教員から個別に指示する。
第 3 回 各担当教員から個別に指示する。
第 4 回 各担当教員から個別に指示する。
第 5 回 各担当教員から個別に指示する。
第 6 回 各担当教員から個別に指示する。
第 7 回 各担当教員から個別に指示する。
第 8 回 各担当教員から個別に指示する。
第 9 回 各担当教員から個別に指示する。
第 10 回 各担当教員から個別に指示する。
第 11 回 各担当教員から個別に指示する。
第 12 回 各担当教員から個別に指示する。
第 13 回 各担当教員から個別に指示する。
第 14 回 各担当教員から個別に指示する。
第 15 回 各担当教員から個別に指示する。
第 16 回 各担当教員から個別に指示する。
第 17 回 各担当教員から個別に指示する。
第 18 回 各担当教員から個別に指示する。
第 19 回 各担当教員から個別に指示する。
第 20 回 各担当教員から個別に指示する。
第 21 回 各担当教員から個別に指示する。
第 22 回 各担当教員から個別に指示する。
第 23 回 各担当教員から個別に指示する。
第 24 回 各担当教員から個別に指示する。
第 25 回 各担当教員から個別に指示する。
第 26 回 各担当教員から個別に指示する。
第 27 回 各担当教員から個別に指示する。
第 28 回 各担当教員から個別に指示する。
第 29 回 各担当教員から個別に指示する。
第 30 回 各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜日 3 講時、出席必須

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

心理学演習

PSS3600TOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 4単位 通年
 水曜 3限
 DP6 : 創造・発信力
 120
 村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 2 回 各担当教員から個別に指示する。

- 第 3 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 4 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 5 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 6 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 7 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 8 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 9 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 10 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 11 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 12 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 13 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 14 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 15 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 16 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 17 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 18 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 19 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 20 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 21 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 22 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 23 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 24 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 25 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 26 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 27 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 28 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 29 回 各担当教員から個別に指示する。
- 第 30 回 各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜日 3 講時、出席必須

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

心理学概論

PSB1200NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 前期

月曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

必修

廣瀬 直哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学の対象は、我々が日常生活で経験している行動である。本科目では、人間のさまざまな行動をよりよく理解し、その精神活動の内面をうかがい知るために、人間の心理や行動の基礎にある原理について概説する。特に、知覚、学習、記憶、発達、個人差、社会行動について、そのしくみを概観し、心理学の基本的な考え方を学ぶ。これらの講義を通して、人の心の基本的な仕組み及び働きを理解すること、および心理学の基礎用語や知識を習得することを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学とは何か、その成り立ちを理解する。
2. 知覚、記憶、学習などのメカニズムを理解する。
3. 人間の発達の過程を理解する。
4. 心理学において人間の個性をどのように捉えるのかを学ぶ。
5. 他者との関わりの中で生じる認知や行動のしくみを考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	心理学の基礎的概念・知識を理解し、説明することができない。	心理学の基礎的概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して問題解決をすることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 心理学の成り立ち
- 第 3 回 脳と心
- 第 4 回 発達
- 第 5 回 知覚

第 6 回 学習

第 7 回 記憶

第 8 回 コミュニケーション

第 9 回 思考

第 10 回 動機づけ

第 11 回 個人差

第 12 回 対人行動

第 13 回 集団

第 14 回 消費行動

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主にPowerPointや映像資料を使った講義形式で行う。テキストは使用せず、必要な授業資料等はmanabaから入手する。また、課題の提出やそれに対するフィードバックも原則manabaから行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に授業資料を読んでおく。出された課題をmanabaから提出する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期テストは行わず、複数回の小テスト・中テスト(100%)に基づき評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心理学 第5版』/鹿取廣人ほか/東京大学出版会/2015/413012109X

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学基礎演習Ⅰ 2017年度以降入学者

PSB1300NOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 1年次
 2単位 前期
 火曜4限
 DP3：言語力
 60
 必修
 伊藤 一美 村松 朋子 空間 美智子 高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

共に学ぶ友人や心理学科教員との関わりを通して、大学での学びの基盤を形成する。そして、日本語の文章や数字で表されるデータについて、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に磨きをかける。また、心理学を活かしたキャリアについてゲストスピーカーや上級生との交流を通して学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①アカデミックリテラシーの習得 (大学教育に必要な基礎的日本語能力やデータ活用の基礎を学ぶ)
- ②人間関係の構築 (学生同士および担任を核とする心理学科教員との関わり)
- ③社会の中での心理学の役割や職種についての知識習得 (専門教育に向けて動機づけを行い社会的視野を広げる)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	心理学の学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理学の学習を通して、自分を育てる動機をある程度持っている	心理学の学習を通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理学の学習を通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がかなりある
言語力	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について、考えることが難しい	与えられた課題について、考えることができる程度である	与えられた課題について、考えることがおおむねできる	与えられた課題について、考えることができる

共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	ある程度グループ活動を他者と協力して行うことができる	グループ活動を他者と協力して行うことができる	グループ活動を他者と協力して行う力がかなりある
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がかなりある

〔授業計画〕

- 第 1 回 全体オリエンテーション
*教員全員担当
- 第 2 回 テーマA (大学というフィールドを知ろう—情報収集)
*半数のグループは、テーマBに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 3 回 テーマA (大学というフィールドを知ろう—発展)
*半数のグループは、テーマBに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 4 回 全体会Ⅰ (キャリア・資格について)
*教員全員担当
- 第 5 回 テーマB (確率と仲良くなる—サイコロでパターンの数を理解しよう)
*半数のグループは、テーマAに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 6 回 テーマB (確率と仲良くなる—プロフィールを当てよう)
*半数のグループは、テーマAに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 7 回 全体会Ⅱ (心理学科のコースについて)
*教員全員担当
- 第 8 回 中間オリエンテーション (前半の振り返り)
*各グループごとに、担当教員とともに振り返りを行う。
- 第 9 回 テーマC (レポートを作成しよう—レポート作成の基礎)
*半数のグループは、テーマDに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 10 回 テーマC (レポートを作成しよう—短いレポートの作成)
*半数のグループは、テーマDに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 11 回 テーマC (レポートを作成しよう—相互評価)
*半数のグループは、テーマDに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 12 回 テーマD (商品試験をしてみよう—商品の評価ポイントを考える)
*半数のグループは、テーマCに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

- 第 13 回 テーマD (商品試験をしてみよう—実験)
*半数のグループは、テーマCに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 14 回 テーマD (商品試験をしてみよう—発展)
*半数のグループは、テーマCに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 15 回 まとめ
*各グループごとに、担当教員とともに振り返りとまとめを行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループに分かれて、ローテーション方式で行う。内容は、
①教員によるオリエンテーション ②グループでの作業
③討論 ④発表 ⑤小レポート ⑥その他、上級生やOGの
体験報告会の聴講、本学でのコースでの学びの紹介など
を行う予定。

また、高校までの学習内容のリマインドのため、各回にウ
ォーミングアップクイズを行う。

課題に対するフィードバックは、授業中またはmanabaで行
う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小学校～高校での国語・数学の学習や総合的な学習の時間
での発表学習をふり返る。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度70%、発表・レポート30%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体
験する。そのため、グループによってテーマA・B・C・
Dの実施順は異なる。回によって教室が異なるので、オリ
エンテーション時の資料に従い、その都度気を付けること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学基礎演習Ⅰ (19以前)

PSB1300W0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 前期

木曜 5限

DP3: 言語力

60

必修

廣瀬 直哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学での学びの基盤を形成する。そして、日本語の文章や
数字で表されるデータについて、「読むこと」「理解するこ
と」「書くこと」「伝えること」の力に磨きをかける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①アカデミックリテラシーの習得 (大学教育に必要な基礎
的日本語能力やデータ活用の基礎を学ぶ)

②心理学の基礎知識に親しむ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	心理学の基 礎的文献を 読んで理解 することが できない。	心理学の基 礎的文献を 読んで理解 することが できる。	心理学の基 礎的文献を 読んで理解 した内容を 自分の言葉 で表現でき る。	レベル3に 加えて、文 献について の自分や他 者の意見な どを批判的 にまとめて 発信するこ とができ る。

〔授業計画〕

第 1 回 全体オリエンテーション

第 2 回 新聞記事 (あるいは雑誌記事) の中で、心理学に
関係する記事を読み、意見交換する。

第 3 回 新聞記事 (あるいは雑誌記事) について、小レポ
ートを作成。

第 4 回 心理学の基礎的文献①を読んで、意見交換する。

第 5 回 心理学の基礎的文献①について、小レポートを作
成。

第 6 回 心理学の基礎的文献②を読んで、意見交換する。

第 7 回 心理学の基礎的文献②について、小レポートを作
成。

第 8 回 中間オリエンテーション

第 9 回 心理学の基礎的文献③を読んで、意見交換する。

第 10 回 心理学の基礎的文献③について、小レポートを作
成。

第 11 回 青年を扱う心理学の文献を読んで、意見交換す
る。

第 12 回 青年を扱う心理学の文献について、小レポートを
作成。

第 13 回 子どもを対象とした心理学の文献を読んで、意見交換する。

第 14 回 子どもを対象とした心理学の文献についての小レポートを作成。

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①教員によるオリエンテーション ②心理学の基礎知識に関係する文献を読んで意見交換 ③小レポートにまとめる ④課題へのフィードバックとして、小レポートにはコメントをつけて各自に返却を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小学校～高校での国語・数学の学習や総合的な学習の時間での発表学習を繰り返す。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50%)、小レポート (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

再履修生のためのクラスとなる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学基礎演習Ⅱ 2017年度以降入学者

PSB1350NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

火曜 4限

DP3: 言語力

60

必修

尾崎 仁美 三好 智子 向山 泰代 松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

友人や心理学科教員との関わりを深め、心理学科の専門科目を学ぶ基盤を形成する。そして、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に、さらなる磨きをかける。また、心理学を活かしたキャリアについてゲストスピーカーや上級生との交流を通して学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1.アカデミックリテラシーの構築 (読むこと、理解すること、文章や図・表にまとめること、発表すること等)

2.人間関係の構築 (学生同士および担任を核とする心理学科教員との関わりを深める)

3.専門教育への導入 (心理学科の専門教育を受けるための基盤形成)

4.社会の中での心理学の役割や職種についての知識習得 (専門教育に向けて動機づけを行い社会的視野を広げる)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をある程度持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がかなりある
言語力	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について、考えることが難しい	与えられた課題について、考えることができる程度できる	与えられた課題について、考えることがおおむねできる	与えられた課題について、考えることができる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	グループ活動を他者と協力して行うことができる程度できる	グループ活動を他者と協力して行うことがおおむねできる	グループ活動を他者と協力して行うことができる
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある

〔授業計画〕

第 1 回 全体オリエンテーション

*教員全員担当

第 2 回 テーマA (新聞から社会を覗いてみようーグループ課題)

*半数のグループは、テーマBに取り組む。

*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 3 回 テーマA (新聞から社会を覗いてみようー投稿記事の作成)

*半数のグループは、テーマBに取り組む。

*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 4 回 テーマB (グラフを読み取ろうー身近なグラフ探し)

- *半数のグループは、テーマAに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第5回 テーマB（グラフを読み取るうーグラフの読み取り）
*半数のグループは、テーマAに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第6回 全体会I（フィールド研修・インターンシップについて）
*教員全員担当
- 第7回 テーマC（心理学の文献を読もうー文献購読とディスカッション）
*半数のグループは、テーマDに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第8回 テーマC（心理学の文献を読もうー発表資料の作成）
*半数のグループは、テーマDに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第9回 テーマC（心理学の文献を読もうー発表と振り返り）
*半数のグループは、テーマDに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第10回 中間オリエンテーション（前半の振り返り）
*各グループごとに、担当教員とともに振り返りを行う
- 第11回 テーマD（データ集計を体験しようー質問紙調査のプレ体験）
*半数のグループは、テーマCに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第12回 テーマD（データ集計を体験しようー発表資料作成）
*半数のグループは、テーマCに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第13回 テーマD（データ集計を体験しようーグループ発表）
*半数のグループは、テーマCに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第14回 全体会II（就職内定者報告、資格・コース選択説明）
*教員全員担当
- 第15回 まとめ
*各グループごとに、担当教員とともに振り返りとまとめを行う。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

AからDの各テーマをグループに分かれてローテーション方式で学ぶほか、全体会やグループに分かれての振り返りを行う。具体的な内容としては、

①教員によるオリエンテーション ②グループでの作業 ③討論 ④発表 ⑤小レポート ⑥その他、上級生やOGの体験報告会の聴講などを行う予定。

課題に対するフィードバックは、授業中またはmanabaで行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

心理学基礎演習Iでの学習内容をふり返る。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度70%、発表・レポート30%とする。

〔留意事項（Other Information）〕

グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体験する。そのため、グループによってテーマA・B・C・Dの実施順は異なり、回によって教室が異なるので、気を付けること。テーマAおよびCは三好・松島、テーマBおよびDは尾崎・向山が担当する。

全体会の内容は、変更される場合もある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学基礎演習II（19以前）

PSB1350W0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

木曜 5限

DP3：言語力

60

必修

廣瀬 直哉

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学科教員との関わりを深め、心理学科の専門科目を学ぶ基盤を形成する。そして、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に、さらなる磨きをかける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1.アカデミックリテラシーの構築（読むこと、理解すること、文章や図・表にまとめること、発表すること等）

2.心理学科の専門教育の導入

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力	心理学の基礎的文献を読んで理解することができない。	心理学の基礎的文献を読んで理解することができる。	心理学の基礎的文献を読んで理解した内容を自分の言葉で表現できる。	レベル3に加えて、文献についての自分や他者の意見などを批判的にまとめて発信することができる。
-----	---------------------------	--------------------------	----------------------------------	------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 全体オリエンテーション
- 第 2 回 認知心理学に関する基礎知識を学ぶ
- 第 3 回 認知心理学に関する基礎文献を読んで、意見交換する
- 第 4 回 認知心理学について小レポートにまとめる
- 第 5 回 発達心理学に関する基礎知識を学ぶ
- 第 6 回 発達心理学に関する基礎文献を読んで、意見交換
- 第 7 回 発達心理学について小レポートにまとめる
- 第 8 回 中間オリエンテーション（前半の振り返り）
- 第 9 回 社会心理学に関する基礎知識を学ぶ
- 第 10 回 社会心理学に関する基礎文献を読んで、意見交換
- 第 11 回 社会心理学に関する小レポートにまとめる
- 第 12 回 臨床心理学に関する基礎知識を学ぶ
- 第 13 回 臨床心理学に関する基礎文献を読んで、意見交換
- 第 14 回 臨床心理学について小レポートにまとめる
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ①教員によるオリエンテーション ②さまざまな心理学の基礎的文献を読んで、意見交換 ③小レポートにまとめる
- ④課題へのフィードバックとして、小レポートにはコメントをつけて各自に返却する

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

心理学基礎演習Ⅰでの学習内容をふり返る。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加態度50%、小レポート50%

〔留意事項（Other Information）〕

再履修生のためのクラスとなる

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学研究法

PSB2401N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 前期

火曜3限

DP4：思考・解決力

60

必修

向山 泰代

〔科目の教育目標（Course Description）〕

この科目では、心理現象という実体のない、直接観察できないものを、科学的に研究するために、心理学がこれまでどのような方法を発展させてきたのかを学ぶ。心理学における代表的な研究法の特徴について知識を得るとともに、研究に伴う倫理についても学習する。受講生自らが研究に携わることを想定し、テーマの設定や研究計画の作成等、研究に関する実践的な知識や技術についても講義し、データにもとづく実証科学としての心理学への興味や関心を拡充することを目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・心理学における研究法の重要性について理解する。
- ・調査、実験、検査、観察、面接といった代表的な研究方法の特徴について学ぶ。
- ・研究に伴う倫理について学ぶ。
- ・研究計画から結果の公表までの研究の展開について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理学研究法に関する基礎的な専門用語の知識と理解	専門用語やその意味を知らない。	特定の専門用語やその意味のみを理解している。	幾つかの専門用語やその意味を理解している。	専門用語やその意味を理解している。
心理学における研究法の特徴と研究倫理に関する知識と理解	心理学における研究法の特徴や研究倫理について知らない。	特定の研究法の特徴や研究倫理のみを理解している。	幾つかの研究法の特徴や研究倫理について理解している。	研究法の特徴と研究倫理を理解している。
日常の出来事や経験を研究と関連づけて考えること	日常の出来事や経験を研究と関連づけて考えない。	日常の出来事や経験を研究と関連づけて考える。	日常の出来事や経験を研究と関連づけて考え、資料などを探索する。	日常の出来事や経験を研究と関連づけて、資料などを探索し、課題などでその成果を示す。
主体的に学ぶこと	授業内・授業外での課題に取り組	授業内・授業外での課題に取り組	授業内・授業外での課題につい	授業内・授業外での課題について

もうとしない。課題を提出しない。	む。課題を提出する。	て、独自の視点を加えて取り組み、提出する。	複数の独創的な視点にもとづいて課題を作成し、自らの考えを深め、その結果を提出する。
------------------	------------	-----------------------	-------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義概要と留意点
- 第 2 回 心理学の研究の特徴、量的研究と質的研究
- 第 3 回 調査法1 (調査法概説)
- 第 4 回 調査法2 (調査法における留意点)
- 第 5 回 実験法1 (実験法概説)
- 第 6 回 実験法2 (実験法における留意点)
- 第 7 回 中間テスト
- 第 8 回 検査法1 (検査法概説)
- 第 9 回 検査法2 (検査法における留意点)
- 第 10 回 面接法1 (面接法概説)
- 第 11 回 面接法2 (面接法における留意点)
- 第 12 回 観察法1 (観察法概説)
- 第 13 回 観察法2 (観察法における留意点)
- 第 14 回 その他の研究法、研究における倫理
- 第 15 回 到達度確認テストと解説・まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義に沿った資料を準備するので、各自で整理して学習に活用すること。また、毎回の講義で「前回の講義内容の復習」の時間を設けるので、この時間を活用して、各自が講義内容の繋がりを理解し、知識の定着に努めること。ワークシート等の課題は授業期間内に返却し、受講生へのフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指定のテキストを各自で購入し、授業開始までに目を通しておくこと。図書館を積極的に活用して講義に関連する書籍や文献を自ら探索し、準備学習を進めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中に実施する到達度確認テスト (70%)、中間テスト (15%)、課題・提出物・授業への取り組み態度 (15%) で評価する。2/3以上の出席を求める。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生の知識や理解度に応じて、授業予定の順序等を調整することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

心理学研究法入門/南風原朝和ほか/東京大学出版会/2001/ISBN4-13-012035-2/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心理学の卒業研究ワークブック』/小塩真司ほか/金子書房/2015/

『心理学研究法』/高野陽太郎ほか/有斐閣/2004/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学実験演習 I

PSB1455N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

火曜 2限

DP4 : 思考・解決力

60

必修

尾崎 仁美 高井 直美 後藤 伸彦 中村 千珠

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法(仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく)に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
2. 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
3. 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのか、実験の計画・立案の方法を習得する。
4. 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
5. 刺激と反応の関係を理解する。
6. 実験条件、たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。
7. 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用を知る。
8. 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。
9. 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数(試行数)の記載方法を習得し、統計に関する基礎的知識を習得する。
10. 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理解する。
11. 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。
12. 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている
知識・理解力	実験方法や背景にある理論的知識が身についていない	ある程度、実験方法や背景にある理論的知識を身につけている	おおむね実験方法や背景にある理論的知識を身につけている	実験方法や背景にある理論的知識を十分身につけている
言語力	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についている	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている
思考・解決力	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力が身についていない	ある程度、実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている	おおむね実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を十分身につけている
共生・協働する力	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についていない	ある程度、学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についている	おおむね学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についている	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が十分身についている
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についていない	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についている	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についている	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (尾崎)
- 第 2 回 社会的認知 (実験) (後藤)
- 第 3 回 社会的認知 (分析) (後藤)
- 第 4 回 社会的認知 (執筆) (後藤)
- 第 5 回 錯視 (実験) (高井)
- 第 6 回 錯視 (分析) (高井)

- 第 7 回 錯視 (執筆) (高井)
- 第 8 回 語の記銘 (実験) (尾崎)
- 第 9 回 語の記銘 (分析) (尾崎)
- 第 10 回 語の記銘 (執筆) (尾崎)
- 第 11 回 鏡映描写 (実験) (中村)
- 第 12 回 鏡映描写 (分析) (中村)
- 第 13 回 鏡映描写 (執筆) (中村)
- 第 14 回 合同講義 (尾崎)
- 第 15 回 まとめと振り返り (尾崎)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 4 課題の実験を実施する。
2. 課題ごとの実験演習は 3 週にわたって行うため、担当者や実験場所が変わるので注意する。
3. レポートは、実験終了後、所定の期日までに学事課に提出する。
4. 各レポートは授業期間内に添削をしてフィードバックする

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各実験課題の演習参加度とレポート (25%) × 4 課題分を総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

・授業は実験演習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するので、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。やむを得ず欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。

・第1回、第14回、第15回は尾崎が担当する。

・第2回～第13回については、社会的認知は後藤、錯視は高井、語の記銘は尾崎、鏡映描写は中村が担当する。実験の順番はグループによって入れ替わる。

・「初級実験実習Ⅱ (16以前)」履修者は、一部別実験を行う可能性がある。

*一部授業はオンラインで実施する場合があります。オンラインで実施する授業については初回授業時に指示をします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学実験演習 II

PSB2405N0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 2年次
 2単位 前期
 火曜 2限
 DP4: 思考・解決力
 60
 松島 るみ 高井 直美 後藤 伸彦 中村 千珠

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法（仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく）に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
2. 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
3. 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのか、実験の計画・立案の方法を習得する。
4. 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
5. 刺激と反応の関係を理解する。
6. 実験条件、たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。
7. 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用を知る。
8. 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。
9. 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数（試行数）の記載方法を習得し、統計に関する基礎的知識を習得する。
10. 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理解する。
11. 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。
12. 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	実験方法や背景にある理論的知識が身につけていない。	ある程度、実験方法や背景にある理論的知識を身につけている。	おおむね実験方法や背景にある理論的知識を身につけている。	実験方法や背景にある理論的知識を十分な身につけている。
言語力	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身につけていない。	ある程度、実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身につけている。	おおむね実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身につけている。	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が十分身につけている。
思考・解決力	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力が身につけていない。	ある程度、実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている。	おおむね実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている。	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身につけている。	おおむね学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身につけている。	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身につけている。	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (松島)
- 第 2 回 遠近知覚と錯視 (実験) (高井)
- 第 3 回 遠近知覚と錯視 (分析) (高井)
- 第 4 回 遠近知覚と錯視 (執筆) (高井)
- 第 5 回 重さの弁別閾 (実験) (松島)
- 第 6 回 重さの弁別閾 (分析) (松島)
- 第 7 回 重さの弁別閾 (執筆) (松島)

- 第 8 回 潜在的連合テスト (IAT) (実験) (後藤)
 第 9 回 潜在的連合テスト (IAT) (分析) (後藤)
 第 10 回 潜在的連合テスト (IAT) (執筆) (後藤)
 第 11 回 大きさの恒常性 (実験) (中村)
 第 12 回 大きさの恒常性 (分析) (中村)
 第 13 回 大きさの恒常性 (執筆) (中村)
 第 14 回 合同講義 (補足実験) (松島)
 第 15 回 まとめと振り返り (松島)
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 4課題の実験を実施する。
2. 課題ごとの実験実習は3週にわたって行うため、担当者と実験場所が変わるので注意する。
3. レポートは、実験終了後、所定の期日までに学事課に提出する。
4. 各レポートは授業期間内に添削をしてフィードバックする。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

各実験のレポート (25%) x4回分を総合して評価を行う。

[留意事項 (Other Information)]

・授業は実験演習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するので、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。

・第1回、第14回、第15回は松島が担当する。

・第2回～第13回については、遠近知覚と錯視は高井、重さの弁別閾は松島、潜在的連合テストは後藤、大きさの恒常性は中村が担当する。実験の順番はグループによって入れ替わる。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『教材心理学』/木下富雄他 (編)/ナカニシヤ出版/1990/4888480125/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

心理学情報処理

PSB3400NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 後期

月曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

推測統計学I、推測統計学II

松島 るみ

[科目の教育目標 (Course Description)]

情報処理とは入力されたデータに何らかの加工を施して情報をあらわにすることである。したがって、この科目では、心理学の実験・調査において得られた数量的・非数量的なデータを、コンピュータを利用して解析することによって、心理学的事実を見つけ出す技法に習熟することを目的とする。

統計学の基礎的な知識の上に、統計解析に関わる知識の獲得と統計解析プログラムソフトの活用技法について習得しなければならない。あわせて、データをコンピュータ処理する場合のさまざまな問題点(データ入力でのエラー、処理プログラムの適用エラーなど)について認識を深めることが期待される。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- 1) 測定及び記述統計学の基礎知識を獲得していること。
- 2) Excel, SPSSの基本操作に習熟すること。
- 3) 統計的検定の基本概念を理解すること。
- 4) 分散分析の概念を理解すること。
- 5) 多変量解析の概要を理解すること。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度を身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	統計的知識や分析方法に関するスキルが身につけていない。	ある程度、統計的知識や分析方法に関するスキルを身につけている。	おおむね統計的知識や分析方法に関するスキルを身につけている。	統計的知識や分析方法について十分なスキルを身につけている。
言語力	分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が身につけていない。	ある程度、分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が身につけている。	おおむね分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が身につけている。	分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が十分身につけている。

思考・解決力	適切な統計的手法を使用して分析を行う力が身につかない。	ある程度、適切な統計的手法を使用して分析を行う力が身についている。	おおむね適切な統計的手法を使用して分析を行う力が身についている。	適切な統計的手法を使用して分析を行う十分な力が身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が身につけている。	学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 統計学基礎知識の復習
 - 第 2 回 統計的検定の考え方の復習
 - 第 3 回 ExcelとSPSSの基礎操作の確認
 - 第 4 回 相関係数の算出と結果の記述
 - 第 5 回 t 検定の概要と解説
 - 第 6 回 t 検定の実行と結果の記述
 - 第 7 回 分散分析の概要と解説
 - 第 8 回 1 要因分散分析（被験者間要因）の実行と結果の記述
 - 第 9 回 1 要因分散分析（被験者内要因）の実行と結果の記述
 - 第 10 回 2 要因分散分析の実行と結果の記述 1（2 要因被験者間）
 - 第 11 回 2 要因分散分析の実行と結果の記述 2（2 要因被験者内）
 - 第 12 回 2 要因分散分析の実行と結果の記述 3（2 要因混合計画）
 - 第 13 回 多変量解析の概要と解説、因子分析の概要の解説
 - 第 14 回 因子分析の実行と結果の記述
 - 第 15 回 重回帰分析の概念の解説と実行および結果の記述
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・授業は演習室での実習・演習形式で行う。
- ・統計解析について考え方を理解することと適用方法を具体的に把握するために、各自でコンピュータ操作をしなければならない。時には授業時間以外の時間帯にコンピュー

タ操作が必要となることがある。

・授業中の課題は添削して返却することでフィードバックする。

・最終課題は、manabaを通してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」「推測統計学Ⅰ・Ⅱ」の授業内容を常に復習しつつ授業に臨むこと。

各分析ごとの課題は、添削して返却するので、添削された内容をよく読み直しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

各分析ごとの課題提出（各分析法の解説の後、その分析プログラムを実行し、得られた結果をもとに文章化する）（50%）と最終課題の内容（30%）および授業参加度（20%）により評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

受講者の進捗状況によって、授業内容が入れ替わることがあったり、時間的制約のためにある種のプログラムの実行が省略されることがなくはないが、予定している項目は上記の通りである

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学統計法Ⅰ

PSB1402N0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 1年次
 2単位 前期
 木曜 4限
 DP4 : 思考・解決力
 60
 必修
 高井 直美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学の研究を科学的、実証的に進めていくためには、研究目的に適合した研究計画を立てること、そしてその計画のもとに実証的データを収集し、統計的分析を行うことが必要となる。

そのために習得しておかなければならない統計的方法に関する基礎知識と基礎的な方法を学ぶ。

そして、この科目は、推測統計学、心理学情報処理など、2年次生以上に配当されている、より高度な心理統計に関する科目を学ぶための重要な基盤を形成するものとして位置付けられている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

前期に配当されるこの科目では、まず統計的な考え方になじむため、日常的な具体例などで、心理統計の基礎的な考え方の理解を促していく。そして、記述統計に関する重要な基礎知識を具体例を通して理解し、統計的手法を実践的に身に付けていくことを課題とする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	心理統計の基礎が、理解できていない	心理統計の基礎について、最低限の理解ができていない	心理統計の基礎について、十分な理解ができていない	心理統計の基礎についての理解は、申し分ない
思考・解決力	心理統計の基礎的な問題を解くための学習が、不十分である	心理統計の基礎的な問題を解く力がある	心理統計の基礎的な問題を解く力を、十分身につけている	心理統計の基礎的な問題に対して、高度な思考力を持つ

〔授業計画〕

- 第 1 回 心理学と数字 (心理統計の基本的な考え方)
- 第 2 回 心理統計の実際 (一般的な統計資料の収集方法)
- 第 3 回 変数と尺度水準
- 第 4 回 データの図表化① (既存統計資料の読み方)
- 第 5 回 データの図表化② (ヒストグラムと棒グラフの作成)
- 第 6 回 データの代表値 (平均、中央値、最頻値など)
- 第 7 回 データの散らばり (分散と標準偏差)
- 第 8 回 既存統計資料における標準偏差の読み方
- 第 9 回 データの標準化 (z得点と偏差値)
- 第 10 回 散布図と共分散
- 第 11 回 既存統計資料の散布図の読み方
- 第 12 回 相関係数が示す相関関係
- 第 13 回 クロス集計とφ係数 (連関)
- 第 14 回 理解度を測るテスト
- 第 15 回 因果関係と相関関係の違い 14回目に行ったテストの返却と解説を行い、自分の理解度について振り返るように促す。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と各自で行うプリント教材等によるワークを組み合わせ、授業を進めていく。復習のための課題も適宜出していく。15回目に、テストの返却と解説を行い、自分の理解度について振り返るように促す。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新聞、雑誌、TV、インターネットなどのメディアで公表された各種統計データに日頃から関心をもっておいてもらいたい。また図表を作成したり、熟練された表計算をする

ためには、情報関係の授業や休み時間を利用して、Excelの使用になじんでおくことも重要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則として、授業期間中に行うまとめのテストによって評価するが、毎回の課題の提出状況についても評価の参考にする。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生の理解度を見ながら進めていくので、授業予定で示した順番や内容が、多少変わることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる心理統計』/山田剛史、村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学統計法 II

PSB1452N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

木曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

必修

高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学の研究を科学的、実証的に進めていくためには、研究目的に適合した研究計画を立てること、そしてその計画のもとに実証的データを収集し、統計的分析を行うことが必要となる。

そのために習得しておかなければならない統計的方法に関する基礎知識と基礎的な方法を学ぶ。

そして、この科目は、推測統計学、心理学情報処理など、2年次生以上に配当されている、より高度な心理統計に関する科目を学ぶための重要な基盤を形成するものとして位置付けられている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

後期に配当されているこの科目では、記述統計学と推測統計学を区別し、統計的仮説検定の基本的な考え方について学び、基本的な検定の初歩的な方法を身に付けることを課題とする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	統計的仮説検定の基礎が、まったく理解できていない	記述統計と推測統計の違いを理解している	推測統計の基礎的な知識を身に付けている	推測統計の基礎的な知識を十分身に付けている
思考・解決力	統計的仮説検定の基礎的な問題が、まったく解決できない	統計的仮説検定の基礎的な問題を解く力をつける	統計的仮説検定の基礎的な問題を解く力が十分ある	統計的仮説検定の基礎的な問題を解く力は、大変優れている

〔授業計画〕

- 第 1 回 記述統計と推測統計
- 第 2 回 母集団と標本
- 第 3 回 正規分布とは
- 第 4 回 標準正規分布表
- 第 5 回 標本分布
- 第 6 回 「統計的仮説検定」の考え方
- 第 7 回 「統計的仮説検定」の実例
- 第 8 回 復習のための小テスト
- 第 9 回 有意水準とは
- 第 10 回 両側検定と片側検定
- 第 11 回 「基礎的な統計的仮説検定」の実例
- 第 12 回 「基礎的な統計的仮説検定」の練習問題
- 第 13 回 「基礎的な統計的仮説検定」の応用問題
- 第 14 回 理解度を測るまとめのテスト
- 第 15 回 まとめ 14回目に行ったテストの返却と解説を行い、自分の理解度について振り返るように促す。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

心理統計法 I と同様に、講義と各自で行うプリント教材等によるワークを組み合わせ、授業を進めていく。復習のための課題も適宜出していく。15回目に、テストの返却と解説を行い、自分の理解度について振り返るように促す。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

心理統計法 I で学んだことをテキストおよびプリント教材で復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則として、授業期間中に行うまとめのテストによって評価するが、毎回の課題の提出状況についても評価の参考にする。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の内容や順番は変わることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる心理統計』/山田剛史、村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

推測統計学 I A

PSB2402A0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 前期

金曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

社会・ビジネス心理コース必修 クラス指定

尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

簡単に電卓やコンピュータプログラムで統計的検定が機械的におこなうことが可能な時代になってきているが、その意味を理解できる(できている)者はあまりみられないのが実情である。

本講義ではやさしい言葉と豊富な実例を提示することによって、授業をすすめたい。なお、1年次の「心理統計法」を十分理解した上で、この科目と取り組んで頂きたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統計的検定の意味をよく理解すること。
2. 統計的検定で何がわかり、何がわからないかを頭に入れておくこと。誤用に特に注意すること。
3. 根本的には確率的な考え方から成立っていることを理解していくこと。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	統計的検定の基礎的な知識が身についていない	ある程度、統計的検定の基礎的な知識が身についている	おおむね統計的検定の基礎的な知識が身についている	統計的検定の基礎的な知識が十分身についている

言語力	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身につけていない	ある程度、統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身につけている	おおむね統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身につけている	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が十分身につけている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身につけていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身につけている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身につけている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身につけている
共生・協働する力	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身につけていない	ある程度、他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身につけている	おおむね他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身につけている	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が十分身につけている
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身につけていない	ある程度、学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身につけている	おおむね学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身につけている	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が十分身につけている

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 記述統計の復習①（代表値）
- 第 3 回 記述統計の復習②（散布度）
- 第 4 回 統計的検定の考え方①（統計的検定とは何か）
- 第 5 回 統計的検定の考え方②（標本と母集団，標本抽出）
- 第 6 回 統計的検定の考え方③（統計的検定・帰無仮説）
- 第 7 回 統計的検定の考え方④（有意水準，検定結果の報告）
- 第 8 回 統計的検定の考え方⑤（統計的検定における 2 種類の誤り）
- 第 9 回 統計的検定の考え方⑥（両側検定・片側検定）
- 第 10 回 χ^2 検定①（ χ^2 検定の前提条件）
- 第 11 回 χ^2 検定②（ χ^2 検定：一標本の検定）
- 第 12 回 χ^2 検定③（ χ^2 検定：2×2 分割表の検定）
- 第 13 回 χ^2 検定④（ χ^2 検定：m×n 分割表の検定）
- 第 14 回 χ^2 検定⑤（ χ^2 検定：イエーツの修正）
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は演習室において、講義と演習を並行して行う予定である。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1 年次の必修科目である「心理統計法」を復習しつつ授業に出ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

持込みなしの筆記テスト（90%）、小テスト・授業参加度（10%）を併せて総合的に評価を行う。

テストについては、テスト終了後に解説を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

進行状況によって、授業内容に変更が生じることがある。

日常生活の中で、つねに実験条件等を考え、実際にデータを取ったりして、統計の手法を具体的に学習するようにしてほしい。特にExcelの操作方法は、自己学習をしながら向上させていくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる心理統計』/山田剛史・村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004//学内販売をしない予定

クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『初歩の心理教育統計法』/住田幸次郎/ミネルヴァ書房/1988/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

推測統計学 I B

PSB2402B0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 前期

火曜 5限

DP4 : 思考・解決力

60

社会・ビジネス心理コース必修 クラス指定

中村 千珠

〔科目の教育目標（Course Description）〕

簡単に電卓やコンピュータプログラムで統計的検定が機械的におこなうことが可能な時代になってきているが、その意味を理解できる（できている）者はあまりみられないのが実情である。

本講義ではやさしい言葉と豊富な実例を提示することによ

って、授業をすすめたい。なお、1年次の「心理統計法」を十分理解した上で、この科目と取り組んで頂きたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統計的検定の意味をよく理解すること。
2. 統計的検定で何がわかり、何がわからないかを頭に入れておくこと。誤用に特に注意すること。
3. 根本的には確率的な考え方から成立していることを理解していくこと。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	統計的検定の基礎的な知識が身についていない	ある程度、統計的検定の基礎的な知識が身についている	おおむね統計的検定の基礎的な知識が身についている	統計的検定の基礎的な知識が十分身についている
言語力	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身についている
共生・協働する力	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についていない	ある程度、他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	おおむね他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が十分身についている
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についていない	ある程度、学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についている	おおむね学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についている	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 記述統計の復習① (代表値)
- 第 3 回 記述統計の復習② (散布度)
- 第 4 回 統計的検定の考え方① (統計的検定とは何か)
- 第 5 回 統計的検定の考え方② (標本と母集団, 標本抽出)
- 第 6 回 統計的検定の考え方③ (統計的検定・帰無仮説)
- 第 7 回 統計的検定の考え方④ (有意水準, 検定結果の報告)
- 第 8 回 統計的検定の考え方⑤ (統計的検定における 2 種類の誤り)
- 第 9 回 統計的検定の考え方⑥ (両側検定・片側検定)
- 第 10 回 χ^2 検定① (χ^2 検定の前提条件)
- 第 11 回 χ^2 検定② (χ^2 検定: 一標本の検定)
- 第 12 回 χ^2 検定③ (χ^2 検定: 2×2 分割表の検定)
- 第 13 回 χ^2 検定④ (χ^2 検定: $m \times n$ 分割表の検定)
- 第 14 回 χ^2 検定⑤ (χ^2 検定: イェーツの修正)
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は演習室において、講義と演習を並行して行う予定である。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1年次の必修科目である「心理統計法」を復習しつつ授業に出ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

持込みなしの筆記テスト (90%)、小テスト・授業参加度 (10%) を併せて総合的に評価を行う。

テストについては、テスト終了後に解説を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

進行状況によって、授業内容に変更が生じることがある。

日常生活の中で、つねに実験条件等を考え、実際にデータを取ったりして、統計の手法を具体的に学習するようにしてほしい。特にExcelの操作方法は、自己学習をしながら向上させていくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる心理統計』/山田剛史・村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004//学内販売をしない予定

クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『初歩の心理教育統計法』/住田幸次郎/ミネルヴァ書房/1988/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

PSB2450A0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 2年次
 2単位 後期
 金曜 4限
 DP4: 思考・解決力
 60
 社会・ビジネス心理コース必修 クラス指定
 尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

簡単に電卓やコンピュータプログラムで統計的検定が機械的におこなうことが可能な時代になってきているが、その意味を理解できる（できている）者はあまりみられないのが実情である。

本講義ではやさしい言葉と豊富な実例を提示することによって、授業をすすめたい。なお、1年次の「心理統計法」を十分理解した上で、この科目と取り組んで頂きたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統計的検定の意味をよく理解すること。
2. 統計的検定で何がわかり、何がわからないかを頭に入れておくこと。誤用に特に注意すること。
3. 根本的には確率的な考え方から成立っていることを理解していくこと。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	統計的検定の基礎的な知識が身についていない	ある程度、統計的検定の基礎的な知識が身についている	おおむね統計的検定の基礎的な知識が身についている	統計的検定の基礎的な知識が十分身についている
言語力	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている

思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身についている
共生・協働する力	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についていない	ある程度、他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	おおむね他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が十分身についている
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についていない	ある程度、学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についている	おおむね学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についている	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 前期の復習
- 第 2 回 相関係数① (ピアソンの相関係数)
- 第 3 回 相関係数② (順位相関係数)
- 第 4 回 相関係数③ (偏相関)
- 第 5 回 t 検定① (独立 2 平均の t 検定)
- 第 6 回 t 検定② (連関する 2 平均の t 検定)
- 第 7 回 分散分析とは
- 第 8 回 一要因分散分析① (被験者間要因)
- 第 9 回 一要因分散分析② (被験者内要因)
- 第 10 回 二要因分散分析① (被験者間要因)
- 第 11 回 二要因分散分析② (被験者内要因)
- 第 12 回 二要因分散分析③ (混合計画)
- 第 13 回 二要因分散分析④ (交互作用)
- 第 14 回 二要因分散分析⑤ (多重比較)
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は演習室において、講義と演習を並行して行う予定である。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1 年次の必修科目である「心理統計法」を復習しつつ授業に出ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

持込みなしの筆記テスト (90%)、小テスト・授業参加度 (10%) を併せて総合的に評価を行う。
 テストについては、テスト終了後に解説を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

進行状況によって、授業内容に変更が生じることがある。
 日常生活の中で、つねに実験条件等を考え、実際にデータを取ったりして、統計の手法を具体的に学習するようにしてほしい。特にExcelの操作方法は、自己学習をしながら向上させていくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる心理統計』/山田剛史・村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004//学内販売をしない予定
 クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『初歩の心理教育統計法』/住田幸次郎/ナカニシヤ/1988/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

推測統計学 II B

PSB2450B0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 後期

火曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

社会・ビジネス心理コース必修 クラス指定

中村 千珠

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

簡単に電卓やコンピュータプログラムで統計的検定が機械的におこなうことが可能な時代になってきているが、その意味を理解できる (できている) 者はあまりみられないのが実情である。

本講義ではやさしい言葉と豊富な実例を提示することによって、授業をすすめたい。なお、1年次の「心理統計法」を十分理解した上で、この科目と取り組んで頂きたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統計的検定の意味をよく理解すること。
2. 統計的検定で何がわかり、何がわからないかを頭に入れておくこと。誤用に特に注意すること。
3. 根本的には確率的な考え方から成立っていることを理解していくこと。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	統計的検定の基礎的な知識が身についていない	ある程度、統計的検定の基礎的な知識が身についている	おおむね統計的検定の基礎的な知識が身についている	統計的検定の基礎的な知識が十分身についている
言語力	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身についている
共生・協働する力	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についていない	ある程度、他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	おおむね他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が十分身についている
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についていない	ある程度、学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についている	おおむね学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についている	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 前期の復習 (1)
- 第 2 回 相関係数① (ピアソンの相関係数)
- 第 3 回 相関係数② (順位相関係数)
- 第 4 回 相関係数③ (偏相関)
- 第 5 回 t 検定① (独立 2 平均の t 検定)
- 第 6 回 t 検定② (連関する 2 平均の t 検定)
- 第 7 回 分散分析とは
- 第 8 回 一要因分散分析① (被験者間要因)
- 第 9 回 一要因分散分析② (被験者内要因)
- 第 10 回 二要因分散分析① (被験者間要因)

- 第 11 回 二要因分散分析② (被験者内要因)
- 第 12 回 二要因分散分析③ (混合計画)
- 第 13 回 二要因分散分析④ (交互作用)
- 第 14 回 二要因分散分析⑤ (多重比較)
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は演習室において、講義と演習を並行して行う予定である。一部授業はオンラインで実施する場合があります。オンラインで実施する授業については授業時に指示をします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1 年次の必修科目である「心理統計法」を復習しつつ授業に出ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

持込みなしの筆記テスト (80%)、小テスト・授業参加度 (20%) を併せて総合的に評価を行う。

テストについては、テスト終了後に解説を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

進行状況によって、授業内容に変更が生じることがある。日常生活の中で、つねに実験条件等を考え、実際にデータを取ったりして、統計の手法を具体的に学習するようにしてほしい。特にExcelの操作方法は、自己学習をしながら向上させていくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる心理統計』/山田剛史・村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004//学内販売をしない予定

クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『初歩の心理教育統計法』/住田幸次郎/ナカニシヤ/1988/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生活環境の心理学

PSA2202N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次 3年次

2単位 前期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

廣瀬 直哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人間の行動は、すべて人間の内的過程 (脳における情報処理など) によって規定されるわけではなく、外部の様々な要因による影響を受ける。本科目では、私たちが生活している環境が私たちの行動にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目指す。具体的には、環境心理学・生態心理学の観点から、環境における知覚・認知・行為などについて研究を紹介し、人間と環境の関わりについて考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 環境の知覚・認知についての理解
2. 自然・都市環境の心理的影響についての理解
3. ギブソンの生態学的視覚論についての理解
4. 環境のアフォーダンスについての理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	環境・生態心理学の基礎的概念・知識を理解し、説明することができない。	環境・生態心理学の基礎的概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して問題解決をすることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 環境心理学とは
- 第 3 回 環境の認知
- 第 4 回 環境の評価
- 第 5 回 自然環境における行動
- 第 6 回 都市環境における行動
- 第 7 回 物理的痕跡
- 第 8 回 対人環境
- 第 9 回 学校・教室環境
- 第 10 回 環境ストレス
- 第 11 回 アフォーダンスの知覚
- 第 12 回 デザインとアフォーダンス
- 第 13 回 環境行動の観察
- 第 14 回 身体と環境の関係
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

PowerPointや映像資料を使った講義形式とグループワークや演習などを組み合わせて行う。テキストは使用せず、必要な授業資料等はmanabaから入手する。また、課題の提出やそれに対するフィードバックもmanabaから行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業資料を読んでおく。出された課題をmanabaから提出する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期テストは行わず、課題提出(100%)に基づき評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新版 アフォーダンス』/佐々木正人/岩波書店/2015/4000296345

『環境心理学—人間と環境の調和のために』/羽生和紀/サイエンス社/2008/4781911943

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

精神科リハビリテーション学 I

SWR3201N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 前期

火曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

勇川 昌史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 精神保健福祉を取り巻く状況の変化に対応し、関連する歴史や制度を体系的に理解する

2. 精神保健福祉士が拠り所にする理念を理解し、実践へ向けた基礎を築く

3. 精神保健福祉の向上を目的に、社会的な課題を発見し社会との接点に介入する力を養う

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 精神医療の特性と精神障害者に対する支援の基本的考え方を理解する

2. 精神科リハビリテーションの構成と精神保健福祉士の役割について理解する

3. 精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術の活用方法について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 精神障害とは—精神疾患と障害の理解

第 2 回 精神障害者に対する支援の基本的な考え方

第 3 回 諸外国の精神保健医療福祉の歴史と動向

第 4 回 日本の精神保健医療福祉の歴史と動向

第 5 回 精神科リハビリテーションとは—その理念、意義

第 6 回 精神科リハビリテーションとは—構成と展開

第 7 回 日本における精神科リハビリテーションの現状—諸外国との比較

第 8 回 精神科リハビリテーションのプロセス—回復と支援プロセス

第 9 回 精神科リハビリテーションのプロセス—ライフサイクルと支援プロセス

第 10 回 精神保健福祉士の役割

第 11 回 医療的リハビリテーション—専門療法

第 12 回 医療的リハビリテーション—家族教育プログラム・デイケア

第 13 回 医療的リハビリテーション—アウトリーチ・チーム医療

第 14 回 精神障害者支援の実践モデル

第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

基本はテキストに沿った事業を展開するが、現在の精神保健福祉を取り巻く状況をおさえ、精神保健福祉士として現場で使える知識を獲得する。国家試験受験への意欲向上と実力養成を図る。講義、視聴覚教材、プリントなど。講義時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。最終講義日に試験を実施し、その場で答え合わせを実施し、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

能動的な学習態度で履修して下さい。

まずは様々なことに疑問を持ち、自ら調べ、文献を読み、質問をすること等で、知識を深めていって下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験 (70%)、授業参加 (30%)。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新精神保健福祉士養成講座 (4) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』//中央法規///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり 現在精神保健福祉士として障害福祉サービス事業所での就労支援業務、相談支援業務、また社会福祉法人の理事長として施設運営を行う。

卒業研究

PSS4600A0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600B0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600C0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を行い、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600DOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応し

ているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600EOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

佐藤 睦子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600F0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する

5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600G0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる

3. 研究結果を適切に考察することができる
 4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる
- 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕
1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
 2. 関連文献を精読する
 3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
 4. 得られたデータを適切に分析する
 5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
 6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600H0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

田中 誉樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を行い、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600IOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 通年
 その他
 DP6：創造・発信力
 廣瀬 直哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

問題・目的 (独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。
方法 (研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果 (研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察 (論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。

成果発表 (研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論も積極的出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的出来る。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600J0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 通年

その他

DP6: 創造・発信力

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、

他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600K0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
三好 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600L0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600MOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 通年

その他

DP6 : 創造・発信力

村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601A0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように

表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601B0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601C0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 通年

その他

DP6 : 創造・発信力

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601D0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように

表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601E0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
佐藤 睦子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601F0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601G0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように

表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601I0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
廣瀬 直哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

問題・目的 (独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。
方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか。)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。

成果発表 (口頭試問では、質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が全くと出来ない。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が全くと出来ない。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究が遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究が遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究が遂行出来たか。)	スケジュールに沿って研究が遂行出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。

[授業計画]

各ゼミで指導を受けること。

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

口頭試問を行う。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

各ゼミ別に個別指導を行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

授業時間以外の学習が重要である。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

120

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

- 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
- 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

[留意事項 (Other Information)]

- 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
- 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601J0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601K0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
三好 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。

- 倫理的問題に適切に対処することができる。
- 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
- 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
- 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
- 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

- 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
- 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
- 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601LOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 通年

その他

DP6：創造・発信力

向山 泰代

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

- 研究テーマの妥当性について説明できる
- 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
- 研究結果を適切に考察することができる
- 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

- 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
- 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
- 倫理的問題に適切に対処することができる。
- 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
- 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
- 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
- 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように

表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601M0J
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
4単位 通年
その他
DP6 : 創造・発信力
村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

対人関係論

PSA2500N1J
大学
現代人間学部 > 心理学科
2年次 3年次
2単位 前期
木曜 4限
DP5 : 共生・協働する力
60
定員150人
後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、対人関係、特に自己と他者との二者関係において生じる諸事象を、社会心理学の立場から論じる。

家族、恋愛、友人関係など、様々な対人関係における事象や研究事例を学び、その背後にあるメカニズムについて考察する。具体的には、なぜ人は他者を愛したり、助けたり、傷つけたりするのかについての社会心理学的、進化的

理学的説明を学び、二者関係における対人行動のメカニズムを理解することを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 社会的相互作用における対人認知と対人行動のメカニズムを理解する。
2. 親子関係、恋愛関係、友人関係の違いについて理解する。
3. 自己に対する認知と評価のあり方について考える。
4. 人を批判したりゆるしたりする心理について理解する。
5. 他者から援助を受けたり他者に援助を与える際に伴う困難さについて理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	対人関係論の諸概念について理解していない	対人関係論の諸概念について少し理解している	対人関係論の諸概念について十分理解している	対人関係論の諸概念について理解し、世の中の問題や、社会・集団心理学で学んだ概念と関連付けられる

〔授業計画〕

- 第 1 回 対人関係と人間関係
- 第 2 回 対人認知 (1) 印象形成
- 第 3 回 対人認知 (2) 対人情報処理
- 第 4 回 対人魅力
- 第 5 回 対人コミュニケーション
- 第 6 回 親子関係
- 第 7 回 友人関係
- 第 8 回 恋愛関係
- 第 9 回 原因帰属と感情
- 第 10 回 加害と謝罪
- 第 11 回 対人関係における自己 (1) 自己とは、自己概念
- 第 12 回 対人関係における自己 (2) 自己評価
- 第 13 回 援助行動
- 第 14 回 対人ストレス
- 第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
2. 積極的な発言、質問を求める。
3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。
4. 適宜、レスポンスなどを通じて質問できる機会を作り、口頭で質問に回答する。またオフィスアワーなどを利用してわからない所があれば解決できるように積極的に学習に励むこと。

5. 期末テストの答えは授業内、またはオンライン上で一定期間公開する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験 (100%) によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

知覚・認知心理学

PSA2205N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次 3年次

2単位 集中

その他

DP2 : 知識・理解力

60

森下 正修

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「知覚」「認知」とは、人が世界を認識し、そこから知識を獲得し、それをもとに世界にはたらきかけるための心の情報処理を意味します。人が日常でおこなう様々な活動が、認知心理学の研究対象に含まれます。

外界の情報を見たり聞いたりすること。顔や表情を認識すること。心の中に物体のイメージや、ある空間の地図を思い浮かべること。何かに注意を向けたり記憶したりすること。推理をしたり判断をしたりすること。それらを感情との関わりで理解すること。

学生は、こうした人の認知に関する基礎的な理論を身につけるとともに、自分の日常生活の中のさまざまな行動を、心理学や脳科学的な視点から説明できるようになります。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 上記のような人の知覚・認知に関わる心理学理論を理解すること
2. 知覚・認知的な実験課題やデモに触れ、理論に対する具体的なイメージをもつこと
3. 日常の行動と、知覚・認知心理学的な説明を対応づけること
4. 脳研究や症例研究をもとに、人の知覚・認知の機序と障害について理解すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

感覚・知覚への理解	人の感覚や知覚の機能についてよくわからない	感覚や知覚がどういった機能であるかある程度知っている	感覚や知覚に関する心理学的な研究をよく理解している	感覚や知覚に関する研究の知見を現実場面に当てはめられる
認知への理解	人の認知の機能についてよくわからない	認知がどういった機能であるかある程度知っている	認知に関する心理学的な研究をよく理解している	認知に関する研究の知見を現実場面に当てはめられる
コミュニケーションの基礎となる人間への理解	コミュニケーションに関わる、人の知覚・認知の特徴がわからない	コミュニケーションに関わる、人の知覚・認知についてある程度知っている	知覚・認知についての研究知見をコミュニケーションと結びつけて考えられる	自己や他者の知覚・認知の特徴を理解し、適切なコミュニケーションができる
現実問題への思考・解決力	現実に起こる諸問題に関わる、人の知覚・認知の特徴がわからない	現実の諸問題に関わる、人の知覚・認知についてある程度知っている	知覚・認知についての研究知見を現実の問題と結びつけて考えられる	知覚・認知の特性を踏まえて、現実の諸問題の解決に取り組むことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、イントロダクション
本講義の進め方、評価方法と、知覚・認知とな何かについて説明します
- 第 2 回 感覚、知覚の一般的特性
関や順応、経験・先天的障害の影響など、感覚・知覚一般にみられる特性について説明します
- 第 3 回 明るさの知覚、形の知覚①
知覚における明暗の知覚と、形の知覚の基礎について説明します
- 第 4 回 形の知覚②
錯覚などをまじえて、形の知覚の不思議な特性を取り上げます
- 第 5 回 奥行き知覚
三次元世界を見るための奥行きの手がかりについて説明します
- 第 6 回 運動の知覚
動きのある世界を見るための知覚の特徴について説明します
- 第 7 回 色の知覚
カラーの世界を見るための知覚の仕組みについて説明します。
- 第 8 回 顔、物体の知覚
人の顔やそれ以外の物体の知覚処理の特徴について説明します
- 第 9 回 注意① 選択的注意
外界を見聞きするとき重要な役割を果たす「注意」について、その機能と障害について説明します

- 第 10 回 注意② 注意資源、アクションスリップ
人が行動する際に必要となる心的資源としての「注意」と、それに関連する行動のし間違いについて説明します
- 第 11 回 記憶① 記憶の意味、3つの記憶
なぜ記憶はあるのか、記憶はどのように分類されそれぞれどういった特徴をもつのかについて、記憶障害と関連させて説明します
- 第 12 回 記憶② 日常記憶
日常生活に密接に関わる記憶についての研究を取り上げます
- 第 13 回 問題解決、推論
さまざまな問題について解決を探ったり、今ある情報をもとに推論をはたらかせたりする心の機能を解説します
- 第 14 回 認知地図
われわれが心の中に形成する地図の特性について説明します
- 第 15 回 認知と感情
認知が感情に与える影響と、感情が認知に与える影響について説明します

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

集中講義の最終日、第15回の講義の後で実施します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・授業の実施方法：独自に作成したプリントを配布し、PowerPointによるスライドで講義を進めます。予習として、上記の知覚・認知活動が日常のどのような行動に当てはまるかを事前に考えてもらいます。

・試験に対するフィードバック：試験終了後に解説を配布しますので、参考にしてください

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

参考文献に挙げた認知心理学の概論書を読んだり、人の心・行動に関する科学ニュースをチェックしたりしておく、講義が理解しやすくなると思います。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%) と最終テスト (70%) により総合的に評価します。

授業参加度は、講義中に出されるさまざまな質問に対し回答用紙に記入された内容をもとに判断します。

最終テストは、授業で配布した資料のみ持ち込み可で記述式の問題に答えてもらいます。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『感覚知覚心理学』/菊池正/朝倉書店/2008/9784254526660

『知覚と感性の心理学』/三浦佳世/岩波書店/

2007/9784000281119

『対話で学ぶ認知心理学』/塩見邦雄/ナカニシヤ出版/2006/9784888488762

『日常認知の心理学』/井上毅・佐藤浩一/北大路書房/2002/9784762822426

『認知心理学』/箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋/有斐閣/2010/9784641053748

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

認知行動療法概論

PSA3550NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 後期

木曜 2限

DP5：共生・協働する力

60

空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、まず、認知行動療法の基礎的な理論と技法について学んだ上で、それらが保健・医療、教育、福祉、司法・犯罪等の臨床現場において、どのように活かされるのかについて学ぶ。臨床現場における事例を考察することに加え、受講生自身の身の周りの事象に対して、認知行動療法に基づく介入を体験することにより、認知行動療法の理論と技法、および、今後の課題について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 認知行動療法の基礎的な理論、特に、行動の諸法則が、実際の臨床活動にどのように活かされているのか理解する。
- (2) 認知行動療法の基本的技法を理解し、具体例を示して説明できる。
- (3) 日常場面での諸事象に対し、機能的アセスメントに基づく介入計画を立て、行動の変化を測定した上で、介入の効果および今後の課題について説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
認知行動療法の基礎的な理論の理解	基本的な専門用語について正確に説明できない。	専門用語の説明はできるが、日常場面での具体例として正確に説明できない。	専門用語を用いて日常場面での具体例を正確に説明できる。	複数の異なる理論の立場から、専門用語を用いて日常場面での具体例を正確に説明した上で、課題を明確に提示できる。

機能的アセスメントの理解	機能的アセスメントについて正確に説明できない。	日常場面での具体例や事例を通して、機能的アセスメントについて正確に説明できる。	日常場面での具体例や事例について、機能的アセスメントを正確に実践できる。	複数の事例をもとに、機能的アセスメントの適用における課題を明確に説明できる。
認知行動療法の技法の実践	認知行動療法の技法を実践できない。	認知行動療法の技法を自分自身に対して実践し、その課題を明確に説明できる。	認知行動療法の技法を他者に対して実践し、その課題を明確に説明できる。	複数の事例に対し、適切な認知行動療法の具体的な技法について、根拠を示して説明できる。

〔授業計画〕

第 1 回

オリエンテーション

第 2 回 認知行動療法とは

第 3 回 認知行動療法の理論 (レスポナント条件づけの原理とその応用)

第 4 回 認知行動療法の理論 (オペラント条件づけの原理とその応用)

第 5 回 認知行動療法の理論 (応用行動分析の基本的技法)

第 6 回 認知行動療法の理論 (社会的学習理論)

第 7 回 認知行動療法の理論 (認知療法の理論)

第 8 回 認知行動療法の技法と実際 (保健・医療領域における認知行動療法)

第 9 回 認知行動療法の技法と実際 (教育領域における認知行動療法)

第 10 回 認知行動療法の技法と実際 (福祉領域における認知行動療法)

第 11 回 認知行動療法の技法と実際 (司法・犯罪領域における認知行動療法)

第 12 回 実習・グループ活動①：機能的アセスメント

第 13 回 実習・グループ活動②：介入の実施と効果の査定

第 14 回 認知行動療法の新しい展開

第 15 回 まとめと振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

基本的には講義形式で進めるが、短時間の実習やグループでの議論を行うこともある。小テストやレポートはmanabaを通じて全体にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

オリエンテーションで指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト (20%)、講義末試験 (50%)、および、授業への参加度 (授業内での質疑応答、manabaへの課題の提出と内容) (30%) で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義内で扱う内容についての理解を深めるため、短時間の実習やグループでの議論を行う予定である。受講生はこれらに積極的に参加してほしい。また、自分自身が臨床活動を行う際の課題について考えながら受講してほしい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉心理学

PSA3300NOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 2単位 前期
 金曜 4限
 DP3 : 言語力
 90
 桐野 由美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は国家資格である公認心理師の養成に必要な25科目の1つである。本科目では①福祉領域で生じる問題及びその背景を理解すること、②福祉現場での心理社会的課題と、それらに必要な心理支援の理論とスキルを学ぶこと、③虐待および認知症等についての基本的知識を習得することを教育目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.社会福祉の理念・法律・制度について説明することができる。
- 2.社会福祉の各分野における活動及び心理社会的諸問題について説明することができる。
- 3.各福祉現場における心理学的支援について説明することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ①オリエンテーション ②社会福祉の歴史・制度 (第1章)
- 第 2 回 社会福祉の理念と職種 (第1章)
- 第 3 回 生活を支える心理支援 (第2章)
- 第 4 回 暴力被害者への心理支援 (第3章)
- 第 5 回 高齢者への心理支援 (第4章)
- 第 6 回 障害・疾病のある人への心理支援 (第5章)
- 第 7 回 生活困窮・貧困者への心理支援 (第6章)
- 第 8 回 児童虐待への心理支援の実際 (第7章)
- 第 9 回 子どもと親への心理支援の実際 (第8章)
- 第 10 回 認知症高齢者の心理支援の実際 (第9章)
- 第 11 回 ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際 (第10章)
- 第 12 回 精神障害者への心理支援の実際 (第11章)
- 第 13 回 家族・職員への心理支援の実際 (第12章)
- 第 14 回 福祉・介護分野での多職種協働 (IPW)と心理職の位置づけ (第13・第14章)
- 第 15 回 形成テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は行わない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを中心に講義をすすめる。視聴覚教材を適宜使用する。毎回の講義開始時に前回の授業内容に関する復習クイズを行う。最終授業 (15回目) で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を通読しておく。その詳細は、第1回目の授業の配布資料で提示する。また、復習クイズの準備を兼ねて前回の授業の復習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

本科目の評価は、授業参加度 (30%)、授業中成果 (10%)、形成テスト (60%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- 1.参考文献等の配布資料は授業内で適宜配布する。参考URLについて授業内で随時提示する。
- 2.実際の授業の状況に応じて、学生に周知した上で授業予定を変更する場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『公認心理師の基礎と実践 第17巻 福祉心理学』/中島健一編/遠見書房/2018/ISBN978-4-86616-067-2/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

L D等教育総論

EDD3251N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

月曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

江川 正一 相澤 雅文

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

通常学級にいる言語障害、LD、ADHD、自閉スペクトラム等の発達障害についての基礎的な病理、生理、心理について理解し、それぞれの障害特性に応じた指導法について考える。

重度重複障害のある子どもについて理解するとともに、その育ちを支える方法について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 発達障害等のある子どもの特性について理解し、その困りについて捉えることができる。
2. 発達障害のある子どもの指導、支援の方法がわかる。
3. 重度重複障害のある子どもの課題をとらえ、その支援の方法について考えることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 支援の必要な子どもたち
教室にいる特別な支援の必要な子どもたち (江川)
- 第 2 回 発達障害等の子どもたちを支える 1
発達障害等の子どもたちを支えるシステム (江川)
- 第 3 回 言語障害、聴覚障害
言語障害、聴覚障害の理解と指導 (江川)
- 第 4 回 学習障害 (LD) 1
学習障害 (LD) の理解 (相澤)
- 第 5 回 学習障害 (LD) 2
学習障害 (LD) の指導 (相澤)
- 第 6 回 注意欠如多動性障害 (ADHD) 1
注意欠如多動性障害 (ADHD) の理解 (相澤)
- 第 7 回 注意欠如多動性障害 (ADHD) 2
注意欠如多動性障害 (ADHD) の指導 (相澤)
- 第 8 回 自閉スペクトラム (ASD)
自閉スペクトラム (ASD) の理解 (相澤)
- 第 9 回 自閉スペクトラム (ASD)
自閉スペクトラム (ASD) の指導 (相澤)
- 第 10 回 発達障害の二次障害
発達障害の二次障害の現れ方、引き起こす原因について (相澤)

- 第 11 回 発達障害等の子どもたちを支える 2
学習のユニバーサルデザイン (江川)
- 第 12 回 重度重複障害 1
重度重複障害の子どもの理解 (江川)
- 第 13 回 重度重複障害 2
重度重複障害の子どもの指導 (江川)
- 第 14 回 重度重複障害 3
重度重複障害の子どもを支える医療と福祉 (江川)
- 第 15 回 まとめ
発達障害、重度重複障害についての基礎的な事柄
についてまとめるとともに確認する (江川)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義、疑似体験等を通して子どもの困りを身近のものとしてとらえ、障害特性に応じた支援の方法を理解する。課題については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

発達障害については、社会の関心も高く関連する書物も多く出されている。図書館を活用し、関連する書物を積極的に読むようにする。

また新聞、テレビ等で取り上げられることも多く、それらに関心を持って視聴するようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート (30%) 及びテスト (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』/国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/2015/9784863712973/学内販売なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市立小学校教員 12年 (内 難聴学級担任10年)

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱)

19年

京都市立特別支援学校校長 2年

アクティブラーニングの指導法

EDP3451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

小学校におけるアクティブラーニングの実際を知り、主体的に参加したメンバーが協働体験を通じて学習し創造を生み出す場を作るために提案された様々な手法を実際に体験し、どの場面ではどの手法を用いることが有効なのか理解する。考えをより多く出す場合、多くの異なる考えの中から合意を形成する場合等、実体験の中からそれぞれの手法の特徴を知る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・小学校におけるアクティブラーニングの歴史と実践
- ・アクティブラーニングに用いることの出来る手法
- ・小学校におけるアクティブラーニングの課題設定
- ・アクティブラーニングを組み込んだ学習指導案の作成と授業実践

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	小学校学習指導要領の各教科の目標を理解できず、本講義のテーマに沿った学習指導案の作成や模擬授業を実施できない。	小学校学習指導要領の各教科の目標は理解しているものの、本講義のテーマに沿った学習指導案の作成や模擬授業を実施できない。	小学校学習指導要領の各教科の目標を理解し、本講義のテーマに沿った学習指導案を作成しているものの、模擬授業が実施できていない。	小学校学習指導要領の各教科の目標を理解し、本講義のテーマに沿った学習指導案を作成し、適切な模擬授業が実施できている。
思考・解決力	学習者が主体となる授業実践について考えることができない。	学習者が主体となる授業実践について考えることは出来る。	学習者が主体となる授業実践について考え、実践を開発することができる。	学習者が主体となる授業実践について考え、実践を開発し、実際に行うことができる。

〔授業計画〕

第 1 回 アクティブラーニングとは何か (対面)

第 2 回 アクティブラーニングの視点から見た日本教育史 (対面)

第 3 回 アクティブラーニングへの移行 (対面)

- 第 4 回 先人の実践に学ぶ (対面)
- 第 5 回 アクティブラーニングの視点をふまえた教材研究
「国語・社会・算数・理科・生活」(対面)
- 第 6 回 アクティブラーニングの視点をふまえた実践開発
「国語・社会・算数・理科・生活」(オンライン)
- 第 7 回 アクティブラーニングの視点をふまえた学習指導
案の作成「国語・社会・算数・理科・生活」(オ
ンライン)
- 第 8 回 アクティブラーニングの視点をふまえた模擬授業
「国語・算数」(対面)
- 第 9 回 アクティブラーニングの視点をふまえた模擬授業
「社会・理科・生活」(対面)
- 第 10 回 模擬授業のリフレクション (対面)
- 第 11 回 アクティブラーニングの視点をふまえた教材研究
「体育・音楽・図工・道徳・特別活動」(対面)
- 第 12 回 アクティブラーニングの視点をふまえた実践開発
「体育・音楽・図工・道徳・特別活動」(オンライ
ン)
- 第 13 回 アクティブラーニングの視点をふまえた学習指導
案の作成「体育・音楽・図工・道徳・特別活動」
(オンライン)
- 第 14 回 アクティブラーニングの視点をふまえた模擬授業
「体育・音楽・図工」(対面)
- 第 15 回 アクティブラーニングの視点をふまえた模擬授業
「道徳・特別活動」(対面)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポ
ート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と模擬授業などの演習を並行して行う。

* 提出されたレポートは添削し返却したり、講義での討議
の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学習指導案の作成、模擬授業の準備に授業時間外の学習を
求める。教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求
めることもある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

模擬授業の際のリフレクションカード (30%)、学習指導案
(40%)、模擬授業 (30%) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特に指定しない。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教職に関わる科目について
/ 小学校教員としての勤務経験あり

こどもの保健 I

EDI2250N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生命の保持と情緒の安定を図る保育において、子どもの健
康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を
理解する。また、子どもの発育・発達状況を把握し、発
育の中心となる食生活や栄養の意義を学習する。また、心
の発達にも注目し、精神発達の過程を学ぶ。最終的に、学
生が子どもの心身の健康維持に関する知識を有することが
できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの保健の基本について理解する
2. 子どもの身体発育・精神発達を理解する
3. 子どもの生理・運動機能を理解する
4. 子どもの食生活や栄養について理解する
5. 子どもの生活について理解する
6. 保育現場での保健の実践について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育て る力	こどもの発 育・発達を イメージで できない	こどもの発 育・発達の イメージが できる	こどもの発 育・発達に 関する事柄 に広く興味 が持てる	レベル3に 加えて実際 のこどもの 未来に対し てイメージ を繋げて行 ける
知識・理解 力	こどもの発 育・発達が 理解できな い	こどもの発 育・発達が 理解できる	より深くこ どもの発 育・発達を 理解できる	レベル3に 加えて実際 の子どもに 応用して考 えることが できる
言語力	こどもの発 育・発達に 関して使用 される言葉 が理解でき ない	こどもの発 育・発達に 関して使用 される言葉 が理解でき る	こどもの発 育・発達に 関する言葉 を理解して 使用できる	こどもの発 育・発達に 関する言葉 や周辺で必 要となる言 葉など幅広 く理解して 使用できる

思考・解決力	教えられたこと以外は考えようとしない	現実の状況に当てはめて考えようとする	発生する課題を解決しようとする	現実から発展させて考えて、起こりうる問題を解決しようとする
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて参考にする	考えた結果を周囲の人たちと共有する	考えた結果を周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	自分の考えを発信できる	自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発信できる	レベル3に加えて、情報モラルも加味しながら、自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション、第 1 章 子どもと保健、第 2 章 子どもの成長と発達)
子どもの身体発育について詳述する。
- 第 2 回 (第 2 章 子どもの成長と発達Ⅱ)
出産のDVDを供覧し、新生児から子どもの発達・発育について詳述する。
- 第 3 回 (第 2 章 子どもの成長と発達Ⅲ)
子どもの生理機能と運動機能の発達について詳述する。
- 第 4 回 (第 2 章 子どもの成長と発達Ⅳ)
子どもの精神機能の特徴について詳述する。
- 第 5 回 (第 3 章 子どもの精神保健Ⅰ)
子どもの精神保健の概略と、精神分析の歴史と発達について詳述する。
- 第 6 回 (第 3 章 子どもの精神保健Ⅱ)
子どもの心の発達を理解するための理論を詳述する。また、不登校についてとりあげる。
- 第 7 回 (第 4 章 子どもの生活と保健Ⅰ)
保育環境の整備と、衛生管理について詳述する。
- 第 8 回 (第 4 章 子どもの生活と保健Ⅱ)
保育現場の事故防止および危機管理、安全対策とSIDSについて詳述する。
- 第 9 回 (第 5 章 子どもの食Ⅰ)
子どもの食の特徴および、栄養生理と食事摂取基準について詳述する。
- 第 10 回 (第 5 章 子どもの食Ⅱ)
乳児期の食と母乳について詳述する。
- 第 11 回 (第 5 章 子どもの食Ⅲ)
育児用ミルクと混合栄養、離乳について詳述する。また、幼児期と学齢期の食に触れ、食育について学ぶ。
- 第 12 回 (第 6 章 保育現場での保健の実際Ⅰ)

- 保育現場で遭遇する事柄として、排泄のメカニズムおよび、衣服の意義と清潔について詳述する。
- 第 13 回 (第 6 章 保育現場での保健の実際Ⅱ)
保育現場で遭遇する事柄として、歯磨き、抱っこ、おんぶと、ベビーカーの種類などについて詳述する。形成テストに向けて、講義内容のまとめをする。
- 第 14 回 (形成テスト)
形成テストを行う。途中退出は不可とする。
- 第 15 回 (形成テストの解説と評価)
採点後の形成テストを返却し、解答とここに問題を解説し、全体を評価する。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
1. 授業方法
講義形式
 2. 学習方法
 - (1) テキストに沿って行う、プリントで内容補充
 - (2) パワーポイント、DVD を用い、頭の中にイメージを作っていく。
 - (3) 授業の始めに設問を与え、授業中に解答する。授業終了時回収し、次回返却。
 - (4) 授業の終わりに理解度と質問事項の調査を行い、次回の講義で解説する。
3. テキスト・参考文献
- (1) テキストは「子どもの保健」(同文書院)
 - (2) 参考文献 子どもの保健(診断と治療社)
・各回の小テストについて、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
1. テキストの次回講義範囲をしっかりと読んでおくこと。
 2. 分からないところは、直接尋ねるかあるいはFD用紙を使ってかならず解決しておくこと。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
1. 評価は、小テスト (10%)、授業参加度 (10%)、形成テスト (80%) に基づいて総合的に行う。
 2. 出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
他の受講生に迷惑となる私語、携帯電話によるメールの送受信、居眠り、摂食は禁止。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『子どもの保健-理論と実際-』/岸井勇雄ほか/同文書院/2015//学内販売予定
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『子どもの保健』/巻野悟郎編/診断と治療社/2011/
〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
 ≪実践的科目≫、医師として病院等での診療経験あり

こどもの保健Ⅱ

EDI3201N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜2限

DP2: 知識・理解力

60

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもの病気の特徴を理解し、特に感染症と予防接種について詳しく述べる。また、事故と安全対策については、その実態を学ぶとともに、救急処置を含む対処法および、事故を未然に防ぐ方策について述べる。さらに、保育所と家庭との連携を通じた保健の重要性を理解させ、母子保健の実際を学ぶ。

これより、子どもの感染症の知識を持ち、救急処置ができる。また、母子保健について現状を理解できている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの病気の特徴、特に感染症と予防接種について理解する。
2. 事故と応急処置について理解する。
3. 母子保健の現状について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	こどもの病気をイメージできない	こどもの病気をイメージできる	こどもの病気を広く興味を持って学ぼうとする	レベル3に加えて周囲の人たちと意見を交流させる
知識・理解力	こどもの病気について理解できない	こどもの病気について理解しようとする	こどもの病気についての知識を深めて発展させようとする	レベル3に加えて周囲の人たちに知識を広めて指導する
言語力	こどもの病気に関する言葉が分からない	こどもの病気に関する言葉を分かるようとする	こどもの病気に関する高度な知識を持って必要な言葉を理解する	レベル3に加えて現状を踏まえてより詳しい言語を自由に使える
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしない	こどもの病気について現状にあてはめて考えようとする	こどもの病気について現状から判断して発生した問題を解決できる	レベル3に加えてより高度な医学的知識を駆使できる

共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて考える	周囲の人たちと知識を共有し、さらに高度な知識を得ようとする	レベル3に加えて周囲の人たちにより高度な知識を広めようとする
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を考えながら自分の意見を発信できる	こどもの病気について自分自身で考案した意見や考えを発信できる	レベル3に加えて情報モラルも加味しながら自分自身の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション、第 7 章 子どもの病気と保育 I)
子どもの健康状態の把握について詳述する。
- 第 2 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 II)
子どものおもな症状の見方と対応について詳述する。
- 第 3 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 III)
アレルギー疾患についてメカニズムから詳述する。
- 第 4 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 IV 感染症①)
子どもの感染症について詳述する。(総論、各論 1)
- 第 5 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 V 感染症②)
子どもの感染症について詳述する。(各論 2、食中毒)
- 第 6 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 VI)
予防接種について詳述する。
- 第 7 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 VII)
子どもの病気で、循環器、血液、消化器、腎臓の病気について詳述する。
- 第 8 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 VIII)
子どもの病気で、呼吸器、内分泌、代謝、皮膚の病気について詳述する。
- 第 9 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 IX)
障害のある子どもたちの実際について説明する。また、発達障害について詳述する。
- 第 10 回 (第 8 章 救急処置について)
救急処置について詳述する。
- 第 11 回 (第 9 章 保育所と家庭の連携 I)
保育所と家庭の連携で、子どもの生活リズム、食事、睡眠の連携について詳述する。また、健康教育についても触れる。
- 第 12 回 (第 9 章 保育所と家庭の連携 II、第 10 章 母と子どもの保健 I)
保育所と家庭の連携で睡眠の発達について詳述する。母子保健の歴史について述べる。
- 第 13 回 (第 10 章 母と子どもの保健 II)
保育の現状と対策について詳述する。また、児童虐待について述べる。

第 14 回 (形成テスト)

形成テストを実施する。(途中退出不可)

第 15 回 (形成テストの解説と評価)

採点を済ませた形成テストを返却し、解説と評価を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

講義形式

2. 学習方法

(1) テキストに沿って行く、プリントで内容補充

(2) パワーポイント、DVD を用い、頭の中にイメージを作っていく。

(3) 授業の始めに設問を与え、授業中に解答する。授業終了時回収し、次回返却。

(4) 授業の終わりに理解度と質問事項の調査を行い、次回の講義で解説する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの次回講義範囲をしっかりと読んでおくこと。

2. 分からないところは、直接質問するか、あるいはFD用紙を使ってかならず解決しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 評価は、設問への記入 (10%)、授業参加度 (10%)、形成テスト (80%) の総合評価とする。

2. 3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

〔留意事項 (Other Information)〕

他の受講生に迷惑となる私語、携帯電話によるメールの送受信、摂食は禁止。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『子どもの保健-理論と実際-』/岸井勇雄ほか/同文書院/2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『最新子ども保健』/澤田淳・細井創・日本小児医事出版社/2017/978-4-88924-255-3

『子どもの保健』/巷野悟郎編/診断と治療社/2011/

『子どもの保健』/渡辺 博/中山書店/2012/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目> 医師として病院等での診療経験あり。

こどもの保健演習

EDI3251N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期集中

その他

DP2: 知識・理解力

15

集中

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもが安心して過ごすためには、環境の安全が必須条件となる。そのために保育現場での衛生管理を徹底する必要がある。また、事故防止と安全対策について学ぶことは、安心できる環境整備のために不可欠である。災害への備えと危機管理についても学習する必要がある。さらに、子どもの体調不良などへの実際の対応についても、学ぶことが重要である。

以上には、現場を想定した学習が必要で、そのために乳児モデルを用いて、乳幼児の養護や沐浴について、各自が実際に演習する。また、救急事態に対しては、現場を再現し実際の人形を用いた救急蘇生法の実技を学ぶ。最終的に学生は、子どもの保育実践に際し、子どもの健康と安全について現場における対応を理解できている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 保育における健康と安全管理の実際を理解する
2. 応急処置・救急処置・救急蘇生法を理解する
3. 感染症の予防と対策を理解する
4. 養護・沐浴などの3歳未満児への対応を理解する
5. 個別な対応を必要とする子どもへの対応を理解する
6. 障がいがある子どもへの対応を理解する
7. 母子に関する法律を理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもの健康と安全についてイメージできない	子どもの健康と安全についてイメージできる	子どもの健康と安全について興味を持って取り組める	レベル3に加えてさらに学んだことを発信することができる
知識・理解力	子どもの健康と安全について内容を理解できない	子どもの健康と安全について内容を理解できる	子どもの健康と安全についての内容を更に発展させることができる	レベル3に加えて発展させた内容を周囲に広めることができる

言語力	子どもの健康と安全について使用される言語が理解できない	子どもの健康と安全について使用される言語が理解できる	子どもの健康と安全のより高度な内容で使用される言語が理解できる	レベル3に加えて周囲へ演習の知識を言語を駆使して広めることができる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようと思わない	子どもの健康と安全についての内容を考えることができる	子どもの健康と安全についての内容の展開を考えることができる	レベル3に加えて現実には当てはめた内容を周囲に広く発表することができる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて考えることができる	考えた結果を周囲の人たちと共有できる	考えた結果を周囲の人たちと共有しさらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発信できる	自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発展させた後発信できる	レベル3に加えて情報モラルを加味しながら自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション、第 5 章 保育所における保健的対応 13歳未満児への対応(1))
 ・講義全体の進め方などのオリエンテーションを行う。
 ・抱っこ、おむつ替え、ミルクの飲ませ方を実物大の赤ちゃんモデル人形を用いて、演習する。
 ・手洗い指導について実習する。
- 第 2 回 (第 5 章 保育所における保健的対応 13歳未満児への対応(2))
 ・沐浴について実物大の赤ちゃんモデル人形を用いて、演習する。
- 第 3 回 (第 2 章 保育における健康安全管理の実際 2 事故防止と安全対策 3 災害への備えと危機管理)
 ・室内/屋外での起こりやすい事故についてビデオを用いて詳述する。
 ・災害対策計画の整備と避難行動マニュアルの作成と訓練について述べる。
 ・子どもや保護者への安全教育について述べる。
 ・発熱、けいれん、脱水について詳述する。
 ・頭部外傷、傷、熱傷、骨折固定について詳述する。
 ・包帯の巻き方について述べる。
- 第 4 回 (第 3 章 子どもの体調不良などへの対応 2 応急処置について(2) 3 救急処置および救急蘇生法)

- ・熱中症、鼻出血、窒息について述べる。
 - ・救急蘇生法の実際について詳述する。
- 第 5 回 (第 1 章 保育環境 1 望ましい保育環境とは 2 子どもの健康と安全管理、第 2 章 保育における健康安全管理の実際 1 保育現場での衛生管理)
 ・保育の年齢低下と保育時間の長時間化について述べる。
 ・職員の衛生について述べる。
 ・室内・室外の衛生管理述べる。
 ・子どもへの衛生指導述べる。
- 第 6 回 (第 3 章 子どもの体調不良などへの対応 1 子どもの主な症状への対応 2 応急処置(1))
 ・発熱、けいれん、脱水について、原因や対応の方法について述べる。
 ・応急処置については、打撲や様々な傷、熱傷、骨折固定、包帯の巻き方について 述べる。
- 第 7 回 (第 3 章 子どもの体調不良などへの対応 4 子どもと薬 第 4 章 感染症の予防と対策 1 感染症の集団発生の予防 2 感染症対策)
 ・乳幼児が使用する薬の種類と上手な飲ませ方について述べる。
 ・感染症に関する基本的な知識について述べる。
 ・感染源対策、感染経路対策、感受性対策について詳述する。
- 第 8 回 (第 5 章 保育所における保健的対応 2 個別な配慮を必要とする子どもへの対応(1))
 ・アレルギー疾患について詳述する。
- 第 9 回 (第 5 章 保育所における保健的対応 2 個別な配慮を必要とする子どもへの対応(2))
 ・循環器疾患、腎疾患、てんかん、代謝性疾患について詳述する。
- 第 10 回 (第 5 章 保育所における保健的対応 3 障がいがある子どもへの対応(1))
 ・身体障害、知的障害、発達障害、重症心身障害児について詳述する。
 ・医療ケアを必要とする児について詳述する。
- 第 11 回 (第 6 章 健康、安全への取り組み 1 職員の連携と組織的取り組み 2 子どもの健康づくりへの取り組み)
 ・職員間の連携、他職種との連携について述べる。
 ・地域との連携で「障害や発達上の課題が見られる子どもの場合」、「虐待が疑われる場合」について詳述する。
 ・子どもの保健活動の年間スケジュールについて述べる。
- 第 12 回 (第 7 章 母子に関する法律 1 母子保健法 2 児童福祉法 3 児童虐待の防止に関する法律)
 ・母子保健法と児童福祉法について詳述する。
 ・児童虐待について詳述する。
- 第 13 回 (第 8 章 法律に関する事業の実際 1 母子保健福祉事業の実際 2 21世紀の母子保健福祉 3 児童虐待防止法の実際 第 9 章 子育て支援のためのネットワーク)

- ・妊娠届、母子健康手帳の交付について詳述する。
- ・妊産婦、乳幼児の保健指導について詳述する。
- ・B型肝炎母子感染防止対策、新生児のスクリーニングについて詳述する。

第 14 回 (形成テスト)

- ・形成テストを行う。

第 15 回 (形成テストの解説と評価)

- ・実施した形成テストについて、解説と評価を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法 第一日目は対面授業として、グループに分かれて演習を行う。それ以外はオンライン授業とする。

2. 学習方法

(1) 対面授業 (講義形態と演習形態) とオンライン授業による。

(2) 実物大のモデル人形を用いて実際の実技を学ぶ。

(3) DVDやビデオによりイメージを作っていく。

※ 最終授業での形成テストの解説において、全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの次回講義範囲を読んでおくこと。

2. 分からないところは質問して、必ず解決しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 評価は、毎回アンケートからの課題提出 (20%)、授業参加度 (30%)、形成テスト

(50%) の総合評価とする。

(2) 3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

〔留意事項 (Other Information)〕

・第一日目はグループで学習する。

・赤ちゃんの人形を使った実技を行う。

・他の受講生に迷惑となる私語、携帯電話によるメールの送受信、居眠り、摂食は禁止。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保育者のためのわかりやすい子どもの保健』/飯島一誠監修/日本小児医事出版社/2018/978-4-88924-264-5/学内販売有(「子どもの保健」とテキストは同じもの)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『子どもの保健演習ガイド』/高内正子編著/建帛社/2015/978-4-7679-5028-0

『子どもの保健～健康と安全～』/大澤眞木子監修/日本小児医事出版社/2018/978-4-88924-261-4

『重大事故を防ぐ園づくり』猪熊弘子、新保庄三、寺町東子著/ひとなる書房/2019/978-4-89464-262-1

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫、医師として病院等での診療経験あり

こども教育フィールド研修

EDB1500N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 前期

木曜 2限

DP5 : 共生・協働する力

15

必修

藤本 陽三 畠山 寛 石井 浩子 萩原 暢子 河
佐 英俊 田中 裕喜 古庵 晶子 神月 紀輔 江
川 正一 小川 博士 太田 容次 大西 慎也 高
田 佳孝 東道 伸二郎 植田 恵理子 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の観察実習を行い、自身のコース選択の視点を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①保育・教育現場での子どもや教師の姿を丁寧に観察することができる。

②保育・教育現場での観察実習に相応しい態度、服装などを理解し、実践できる。

③保育・教育現場での観察実習を通して、教職を目指すことの責任を理解し、その後のコース選択、講義等に活かすことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学びに向かう力	これから自分自身にどういった学びや経験が必要か、説明できない。	これから自分自身にどういった学びや経験が必要か、おおまかに説明できる。	これからどういった学びや経験が必要か明確に説明することができる。	自身のキャリアを見据え、これからどういった学びや経験が必要か明確に説明することができる。
キャリア選択	自らの考えでコース選択をすることができない。	観察実習を踏まえて、自らの考えでコース選択をすることができる。	観察実習を踏まえたり将来のキャリアを見据えたりして、自らの考えで納得したコース選択をすることができる。	
観察実習に関わる社会人基礎力	観察実習に相応しい態度、服装を	観察実習に相応しい態度、服装などについて	観察実習に相応しい態度、服装などを十分に	

	実践できない。	て、教員からの助言に基づいて実践できる。	理解し、自ら実践できる。	
協働する力	グループで共有したり話し合ったりすることができない。	グループで共有したり話し合ったりするなど、他者と関わるができる。	グループで共有したり話し合ったりする良さを理解し、積極的に他者と関わるができる。	レベル3に加え、協働によって、最適解を検討することができる。
知識・理解力（保育・教育現場の観察）	保育・教育現場での子どもや教師の姿について、観察した結果を適切に記録することができない。	保育・教育現場での子どもや教師の姿を観察し、ある程度、記録することができる	保育・教育現場での子どもや教師の姿を観察し、事実と考えを区別して適切に記録することができる	保育・教育現場での子どもや教師の姿を丁寧に観察し、事実と考えを区別して詳細に記録することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション（全員）
- 第 2 回 観察実習の取り組み方（藤本、全員）
- 第 3 回 幼稚園・小学校観察実習事前指導（全員）
- 第 4 回 小学校観察実習（子どもの学びの様子を観察する）（全員）
- 第 5 回 小学校観察実習（教師の指導の様子を観察する）（全員）
- 第 6 回 幼稚園観察実習（園児の様子を観察する）（全員）
- 第 7 回 幼稚園観察実習（幼稚園教諭の園児への支援の様子を観察する）（全員）
- 第 8 回 幼稚園・小学校観察実習事後指導（全員）
- 第 9 回 保育所・特別支援学校観察実習事前指導（全員）
- 第 10 回 特別支援学校観察実習（子どもの学びの様子を観察する）（全員）
- 第 11 回 特別支援学校観察実習（教師の指導の様子を観察する）（全員）
- 第 12 回 保育所観察実習（園児の様子を観察する）（全員）
- 第 13 回 保育所観察実習（保育士の園児への支援の様子を観察する）（全員）
- 第 14 回 保育所・特別支援学校観察実習事後指導（全員）
- 第 15 回 ディスカッション及びコース選択についての説明（全員）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ①教員によるオリエンテーション・事前指導
- ②保育・教育現場の見学
- ③見学後の振り返り、レポート作成

なお、レポートについては、教員が添削しフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

自分の子どもの頃の学習の記録・学習の作品類を見直し、幼稚園・小学校などのそれぞれの教育現場で、子どもの姿はどのようなものなのか、指導者の言動はどのようなものかなどの観察の観点を整理しておく。また、観察実習する者としての、態度・服装なども充分考えておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

出席状況・参加態度80％，レポート20％

保育・教育現場での観察実習が中心のため、原則、すべて出席すること

〔留意事項（Other Information）〕

- ・訪問する保育・教育現場の事情により、シラバス通りとまらない可能性があるため、担当教員のアナウンスを聞き、留意すること。
- ・保育・教育現場での観察実習であることから、TPOを踏まえた態度、服装を心掛けること。
- ・実習先までの交通費は自己負担なので、留意すること。
- ・こども教育基礎演習と連携しながら演習を進める。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無〕〕

必要に応じて、資料等を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫有資格者として勤務経験あり（石井）

教員として学校勤務経験あり（藤本，河佐，江川，渡邊，太田，大西，小川，神月）

医師として病院等での診療経験あり（萩原，東道）

こども教育基礎演習

EDB1200NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 前期

木曜1限

DP2: 知識・理解力

15

必修

藤本 陽三 畠山 寛 石井 浩子 萩原 暢子 河
佐 英俊 田中 裕喜 古庵 晶子 神月 紀輔 江
川 正一 小川 博士 太田 容次 大西 慎也 高
田 佳孝 東道 伸二郎 植田 恵理子 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育士及び幼稚園・小学校教諭・特別支援学校教諭の仕事を正しく理解するとともに、4年間の大学生活に必要な基礎知識を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

保育士および幼稚園・小学校教諭・特別支援学校教諭になるための基礎的な学習課題を見つけ、今後の学習を進めることができるようにする。大学生としての学び方を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教育・保育に興味を持っていない。	教員としての力をつけようとする。	自主的に文献を読み、理想の教員の姿を創造できる	積極的に研究会やボランティアに参加し、そのことを生かして、目指すキャリアに近づこうとする。
知識・理解力	教育に関する情報から知識を得ようとしていない。	学習指導要領などを理解し、学校や保育園の現状や実情を知識として持っている。	文部科学省や厚生労働省のWebページなどから最新の情報を得ようとする。	自ら得た情報に加え、教員や文献を用い、自主的に知識を得ようとする。
言語力	文章表現力に乏しく、外国語に関しても興味がない。	大学生としてのレポート等の書き方がおおむね理解できる。	様々な人とのコミュニケーションをとるために、自主的に言語の学習をしている。	卒業論文程度の文章力を持ち、また、外国語に関してもコミュニケーションの手段として積極的に活用し、外国語の文献を理解しようとする。

思考・解決力	問題の解決を人にゆだねてしまっている。	これまでの学習を生かし、自ら問題を解決しようとする。	これまでの学習や経験を活かし、自ら問題解決を探り、他の学生や教員などとも一緒に解決の道を探る。	先行研究などを生かし、問題に関して熟考し、筋道を立てて問題を解決しようとすることができる。
共生・協働する力	他の学生とのディスカッションを行わない。	他の学生とのディスカッションにより学ぼうとする	学生だけでなく、教員や現職教員からも学ぼうとする。	自らがリーダーになって、積極的にディスカッションを働きかけ、自分以外の学生の学びも考える。
創造・発信力	自分の考えを、人にわかる言葉で表現できない。	自分の考えを、序論・本論・結論の形でまとめることができる。	他者の意見を参考にしながら、自分の意見をまとめ、レポートや論述としてまとめることができる。	国内外の事例なども参考にしながら、広い視野で自分の考えをまとめ、プレゼンテーションやWebページなどに発信できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (神月, 全員)
- 第 2 回 保育士と保育の現状 (石井, 畠山)
- 第 3 回 保育に関するディスカッション (石井, 畠山)
- 第 4 回 小児医療から見た特別支援教育 (萩原, 東道)
- 第 5 回 特別支援教育とその現状 (太田, 江川)
- 第 6 回 特別支援教育に関するディスカッション (太田, 江川)
- 第 7 回 幼稚園教諭と幼稚園・認定こども園の現状 (田中, 植田, 古庵)
- 第 8 回 幼児教育に関するディスカッション (田中, 植田, 古庵)
- 第 9 回 小学校教諭と小学校や学校教育の現状 (藤本, 河佐, 大西, 小川)
- 第 10 回 学校教育に関するディスカッション (大西, 小川)
- 第 11 回 保育・学校見学に関する注意事項 (石井, 藤本)
- 第 12 回 保育・学校見学後のディスカッション (全員)
- 第 13 回 これからの保育・幼児教育 (田中, 神月)
- 第 14 回 これからの学校教育 (小川, 大西, 神月)
- 第 15 回 まとめとコース選択 (大西, 神月, 全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループディスカッションや自学自習を基本とし、経験のある教員からの話を基に、自分の知識を磨いていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

出席できるように体調を整えること。

新聞・テレビ・インターネットなどの情報を活用し、保育・教育に対して、積極的に情報を収集しておく。

学びに対して、わからないところを事前に調べたり、教員に質問したりして、自ら積極的に取り組める準備をしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加意欲・態度 (70%) : 将来を見据え、積極的に授業に参加しようとする態度と、知識を得ようとする態度を評価する。毎回の授業後に振り返りシートを配布し記入していく。

レポート (30%) : 講義による学校園の現状把握と、見学後のまとめレポートを課す。

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は、こども教育フィールド研修と連動して行い、学校園への見学が入ることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

指定しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に指示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

有資格者として勤務経験あり (石井, 植田)

教員として学校勤務経験あり (藤本, 河佐, 江川, 渡邊, 太田, 大西, 小川, 神月)

医師として病院等での診療経験あり (萩原, 東道)

こども情報リテラシー

EDP1200N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

月曜3限

DP2 : 知識・理解力

60

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

近年のこどもの情報機器の扱い方から、情報モラルの在り方や、大人の役割、こどもを指導する教師としての知識

などを学び、こどもが情報機器や巷にあふれる情報を学びのために活用できるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

まず学生自身が情報機器を使えるようになること。

ソフトウェアなどの活用をできること。

情報に関する知識を蓄積すること。

危機管理能力を発揮できるようになること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	情報を鵜呑みにする	情報を主体的に活用しようとする	苦手な分野でも挑戦しようとする	ルールやマナーを守って情報を扱うようにする
知識・理解力	主体的に学習できない	レポートの書式を理解する	情報の基礎知識を理科する	教員としての情報の活用ができるように知識をつける
言語力	自分から用語を理解しようとしていない	大学における授業での用語を理解する	英語での情報の理解の仕方を考える	自分の使う言語に関する知識を増やそうとする
思考・解決力	人に頼って、自分で解決策を考えない	ソフトを使った問題解決に取り組む	インターネットの簡単な仕組みを理解し、問題解決に役立てる	データベースなどをうまく活用し、情報を整理できる
共生・協働する力	人との協力を行わない	友人と協力して問題を解決しようとする	先輩や後輩の意見も聞き、望ましい問題解決方法を考える	教員からも知識を得、自らがチームリーダーとなって、チームで問題の解決に取り組む

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 調査と処理の方法、尺度と質問紙の作成

第 3 回 平均、標準偏差と簡単な記述統計

第 4 回 統計処理と検定

第 5 回 情報活用能力の育成と学習指導要領

第 6 回 情報活用の実践力を育てる教材とその活用

第 7 回 幼稚園小中学校現場における情報活用の実践力の育成

第 8 回 アクティブラーニングと情報活用能力

第 9 回 自らの情報活用力を自己評価

第 10 回 情報社会に参画する態度

第 11 回 ソーシャルメディアによる問題点、スマートフォンとゲーム依存

- 第 12 回 消費者教育からの問題点 (外部講師を予定)
 - 第 13 回 これからの高度情報化社会
 - 第 14 回 理想の情報社会と保護者や教師の役割
 - 第 15 回 まとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学習の方法

テキストに沿いながら自学自習で学んでいくことが多くなる。また、疑問点などはグループで解決することが望まれる。主体的に学ぼうとする態度が望まれる。

フィードバック

毎回の授業ではresponを使用し、感想・質問・コメントを教員が読み次の時間にフィードバックする。

個別には、オフィスアワーなどで課題等の質問を受け、その場でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストを読む。期日までに課題は仕上げておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加意欲・態度 (40%), 課題やレポートに対する自己評価・相互評価 (30%), 期末レポート (30%) を自己評価に重点を置き評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『情報活用力』/Noa出版/Noa出版/2014/9784990242046/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小学校学習指導要領』/文部科学省/文部科学省//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 教員として公立学校で経験あり

ピアノ実技 A

EDC1400A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 前期

火曜 3限

DP4 : 思考・解決力

15

植田 恵理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「聴く・歌う・演奏する・表現する」をテーマに、実践の場に必要な童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、

現場に必要なピアノ技術、歌唱技能及び、その伴奏法の基礎を修得し、教育・保育現場で必要な音楽理論を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)音楽の基礎的知識...コードを理解する。読譜やリズム打ちに必要な基礎知識を学ぶ。

(2)聴く...様々なジャンルの曲を聴き、感性を磨く。

(3)歌う・演奏する...発声法や、童謡・手遊びうたを中心としたピアノ演奏法を知る。

(4)表現する...簡単なアンサンブル・合奏を経験し、演奏技術や表現力を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ピアノ課題に対し消極的である。	ピアノ課題に取り組もうとする。	ピアノ課題に対し、積極的に取り組み、習得しようとする。	ピアノ課題に積極的に取り組み、レパートリーを増やすことに意欲的である。
知識・理解力	音楽の基礎的な知識を理解しようとしなない。	音楽の基礎的な知識を少しでも理解しようとする。	基礎的な知識について深め、子どもの表現活動に活用しようとする。	知識を更に深め、子どもの表現活動に応じた活用方法を考える。
言語力	保育・教育現場で必要な子どもの音楽についての発表ができない。	子どもの音楽についての発表しようとする。	子どもの音楽についての工夫などを発表できる。	発表を更に工夫し、保育現場で通用するレベルまで高めようとする。
思考・解決力	ピアノ演奏法について、練習方法を考えようとしなない。	ピアノ演奏法について、練習方法を考えようとする。	練習方法を工夫し、自分にあった方法を見つけようとする。	自分に合った練習方法を重ね、基礎のピアノ演奏技術を身に付ける。
共生・協働する力	グループワークに消極的である。	簡単なアンサンブルや合奏に取り組む。	アンサンブル・合奏における演奏を、グループで工夫する。	アンサンブル・合奏の演奏技術や表現力を高める。
創造・発信力	様々なジャンルに対し、興味を示さない。	様々なジャンルの曲を見つけ、課題として提案する。	提案した曲を聴き、子どもの表現活動にどのように活かすか考える。	レベル3に加え、活用方法について友だちと情報交換する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 弾き歌いの基礎 1 姿勢
- 第 2 回 弾き歌いの基礎 2 奏法
- 第 3 回 弾き歌いの基礎 3 発声
- 第 4 回 リズム遊び 1 (四分音符、二分音符)
- 第 5 回 リズム遊び 2 (八分音符、休符)
- 第 6 回 コードの基礎 (ハ長調)
- 第 7 回 コードの展開 (ハ長調)
- 第 8 回 カデンツ 1 基本形と転回形
- 第 9 回 カデンツ 2 色々なカデンツの形
- 第 10 回 音階 (ハ長調・ト長調)
- 第 11 回 調と調号 1 (ハ長調)
- 第 12 回 調と調号 2 (ハ長調・ト長調)
- 第 13 回 身体表現を取り入れた弾き歌い
- 第 14 回 伴奏法
- 第 15 回 ピアノ実技テスト 講評 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループレッスンで童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組み、課題の取り組みに対し、授業内発表を行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

読譜する、鍵盤楽器に触れる機会を増やし、楽譜や鍵盤に慣れておくこと。歌いながら弾くこと、音楽を聴きながらリズムを刻むなど、日常生活の中で意識して音楽に触れ、経験値を上げること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回授業から五線ノートを持参すること。(指定なし)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼児の四季 春夏の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940379

『幼児の四季 秋冬の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940386

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 音楽講師、音楽指導員として、保育園・幼稚園・こども園での合唱、合奏、鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を経営(指導、教材開発)

ピアノ実技 B

EDC1400B0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 前期

金曜 4限

DP4: 思考・解決力

15

古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「聴く・歌う・演奏する・表現する」をテーマに、実践の場で必要な童謡・小学校歌唱共通教材を中心とした課題に取り組み、現場に必要なピアノ技術、歌唱技能及び、その伴奏法の基礎を修得し、教育・保育現場に必要な音楽理論を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)音楽の基礎的知識...コードを理解する。読譜やリズム打ちに必要な基礎知識を学ぶ。

(2)聴く...様々なジャンルの曲を聴き、感性を磨く。

(3)歌う・演奏する...発声法や、童謡、小学校歌唱共通教材を中心としたピアノ演奏法を知る。

(4)表現する...簡単なアンサンブルを経験し、演奏技術や表現力を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出来ないことへの克服のために、面倒に思っている練習を後回しにして、頑張ることができない。	最低限の課題をこなそうと取り組むものの、もう少し努力すべきだと自覚している。	ピアノや弾き歌い課題について、求められているレベルまでこなすことが出来、更なる努力をしている。	提示された課題だけでなく、音楽技能について自身に未だ不足している力を自覚し、努力を続ける。
知識・理解力	小・中学時代の音楽の授業で習得した知識を殆ど忘れている。	楽譜にある音符や記号などの情報を読み取る力が少し弱い。	教育現場で求められる音楽技能を理解しており、未知のことに対しては貪欲に取り組む。	幼・小・特のそれぞれ違う教育現場で、自身の持っている音楽技能を生かす方法を、探求している。

言語力	音楽記号や音楽用語を覚えようとする。	最低限の音楽記号や音楽用語を理解し、歌唱教材の歌詞の持つ良さを理解している。	音楽記号や音楽用語の理解に特に不自由することはなく、歌唱教材の歌詞の内容とメロディーの構成の関係を理解している。	教育現場でそれぞれの歌唱教材を扱うことをイメージ出来ており、楽譜の知識を伝える言葉の使い方を考えることが出来る。
思考・解決力	課せられた課題ができないと、教育現場で何に困ることになるか考えることを回避している。	技能習得において、身に付いていないことがあることを、自覚しており、そのために努力している。	主要三和音を覚え、コードネームを見た瞬時に音構成を把握しながら弾くことが出来る。	主要三和音以外のコードにも興味を持ち、楽譜に表記されていない個所に、コードを当てはめて弾くことが出来る。
共生・協働する力	グループでのアンサンブルに必要な練習を怠る。	アンサンブルを楽しむ気持ちを持って練習することが出来る。	アンサンブルにおいて、他のパートとの音のバランスをよく聴き、演奏を良いものにしていくという意欲がある。	より良い表現のために、ブロックコードだけでなく、自主的にリズムを変えて、演奏効果をねらっている。
創造・発信力	課題を人前で弾く練習の必要性を感じていない。	保育者・教育者として技能習得の必要性を理解し、常にその意識をもって課題に取り組める。	他の表現系の授業において、本授業で得た知識と技能を十分に生かすことが出来る。	保育・教育現場における音楽の重要性を理解し、ボランティアなどの場で、自分の知識と技能を生かす方法を実践したり模索したりする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 弾き歌いの基礎 1 姿勢
- 第 2 回 弾き歌いの基礎 2 奏法
- 第 3 回 弾き歌いの基礎 3 発声
- 第 4 回 リズム遊び 1 (四分音符、二分音符)
- 第 5 回 リズム遊び 2 (八分音符、休符)
- 第 6 回 コードの基礎 (ハ長調)
- 第 7 回 コードの展開 (ハ長調)
- 第 8 回 カデンツ 1 基本形

- 第 9 回 カデンツ 2 転回形
 - 第 10 回 音階 (ハ長調・ヘ長調)
 - 第 11 回 調と調号 1 (ハ長調)
 - 第 12 回 調と調号 2 (ヘ長調)
 - 第 13 回 弾き歌いと身体表現
 - 第 14 回 伴奏の工夫
 - 第 15 回 ピアノ実技テスト 講評 まとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
グループレッスンで童謡・小学校歌唱共通教材を中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組む。最終週に課題曲のテストを行い、終了後に講評を行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
参考文献などで、読譜したり鍵盤楽器に触れる機会を増やし、楽譜や鍵盤に慣れておくこと。歌いながら弾くこと、音楽を聴きながらリズムを刻むなど、日常生活の中で意識して音楽に触れ、経験値を上げること。課外でも構わないので積極的な質問を期待する。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。爪が伸びている場合と、授業の目的以外で携帯電話等を使用した場合は減点する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
ピアノ演奏に支障をきたすという点はもちろんのこと、教育者になることを自覚し、子どもへの安全に配慮するという意識を強く持って、爪を伸ばして受講しないこと。普段から様々なジャンルの音楽に触れておくこと。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
適宜プリントを配布する
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『なるほど! バイエル 1』/古庵晶子他/サーベル社/2009/9.784883715145E12
早川四郎編曲・編纂: 幼児の四季 春夏の歌 (エー・ティ・エヌ)
- 〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫音楽講師として、幼稚園での鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を運営 (指導、教材開発)

ピアノ実技C

EDC1400C0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

前期

火曜 2限

DP4 : 思考・解決力

15

植田 恵理子

【科目の教育目標 (Course Description)】

「聴く・歌う・演奏する・表現する」をテーマに、実践の場で必要な童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、現場に必要なピアノ技術、歌唱技能及び、その伴奏法の基礎を修得し、教育・保育現場に必要な音楽理論を理解する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- (1)音楽の基礎的知識...コードを理解する。読譜やリズム打ちに必要な基礎知識を学ぶ。
- (2)聴く...様々なジャンルの曲を聴き、感性を磨く。
- (3)歌う・演奏する...発声法や、童謡・手遊びうたを中心としたピアノ演奏法を知る。
- (4)表現する...簡単なアンサンブル・合奏を経験し、演奏技術や表現力を高める。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ピアノ課題に対し消極的である。	ピアノ課題に取り組もうとする。	ピアノ課題に対し、積極的に取り組み、習得しようとする。	ピアノ課題に積極的に取り組み、レパートリーを増やすことに意欲的である。
知識・理解力	音楽の基礎的な知識を理解しようとしなない。	音楽の基礎的な知識を少しでも理解しようとする。	基礎的な知識について深め、子どもの表現活動に活用しようとする。	知識を更に深め、子どもの表現活動に応じた活用方法を考える。
言語力	保育・教育現場に必要な子どもの音楽についての発表ができない。	子どもの音楽についての発表をしようとする。	子どもの音楽についての工夫などを発表できる。	発表を更に工夫し、保育現場で通用するレベルまで高めようとする。

思考・解決力	ピアノ演奏法について、練習方法を考えようとしなない。	ピアノ演奏法について、練習方法を考えようとする。	練習方法を工夫し、自分にあった方法を見つけようとする。	自分に合った練習方法を重ね、基礎のピアノ演奏技術を身に着ける。
共生・協働する力	グループワークに消極的である。	簡単なアンサンブルや合奏に取り組む。	アンサンブル・合奏における演奏を、グループで工夫する。	アンサンブル・合奏の演奏技術や表現力を高める。
創造・発信力	様々なジャンルに対し、興味を示さない。	様々なジャンルの曲を見つけ、課題として提案する。	提案した曲を聴き、子どもの表現活動にどのように活かすか考える。	レベル3に加え、活用方法について友だちと情報交換する。

【授業計画】

- 第 1 回 弾き歌いの基礎 1 姿勢
- 第 2 回 弾き歌いの基礎 2 奏法
- 第 3 回 弾き歌いの基礎 3 発声
- 第 4 回 リズム遊び 1 (四分音符、二分音符)
- 第 5 回 リズム遊び 2 (八分音符、休符)
- 第 6 回 コードの基礎 (ハ長調)
- 第 7 回 コードの展開 (ハ長調)
- 第 8 回 カデンツ 1 基本形と転回形
- 第 9 回 カデンツ 2 色々なカデンツの形
- 第 10 回 音階 (ハ長調・ト長調)
- 第 11 回 調と調号 1 (ハ長調)
- 第 12 回 調と調号 2 (ハ長調・ト長調)
- 第 13 回 身体表現を取り入れた弾き歌い
- 第 14 回 伴奏法
- 第 15 回 ピアノ実技テスト 講評 まとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

グループレッスンで童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組む。課題の取り組みに対し、授業内発表を行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

読譜する、鍵盤楽器に触れる機会を増やし、楽譜や鍵盤に慣れておくこと。歌いながら弾くこと、音楽を聴きながらリズムを刻むなど、日常生活の中で意識して音楽に触れ、経験値を上げること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回授業から五線ノートを持参すること。(指定なし)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼児の四季 春夏の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940379

『幼児の四季 秋冬の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940386

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 音楽講師、音楽指導員として、保育園・幼稚園・こども園での合唱、合奏、鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を経営(指導、教材開発)

音楽ⅠA

EDC1450A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)

1年次

1単位 後期

月曜3限

DP4: 思考・解決力

15

植田 恵理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ピアノ実技で習得した技術をもとに、保育・教育現場に必要なピアノ技術と、子どもの音楽についての知識を更に習得できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1ピアノ課題をこなし、弾き歌いのレパートリーを増やす。

2教材を様々な角度から分析したり、自ら教材を作成したりするための、音楽理論を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題をこなさず、レパートリーを増やそうとしない。	課題に対し、理解しようとする。	課題に積極的に取り組み、レパートリーを増やすことに意欲的である。	課題をアレンジしたり、自ら新しい曲に挑戦しようとする。

知識・理解力	音楽理論について、理解しようとする。	音楽理論について、理解しようとする。	子どもの音楽活動の中で、どのように音楽理論を活かすか考えようとする。	レベル3に加え、実践する際に必要な知識を習得する。
言語力	保育・教育現場に必要な子どもの音楽についての発表ができない。	子どもの音楽についての発表しようとする。	子どもの音楽についての工夫や、導入などを発表できる。	発表を更に工夫し、保育現場で通用するレベルまで高める。
思考・解決力	保育・教育現場に必要なピアノ技術について考えようとする。	現場に必要なピアノ技術に対し、少しでも考えようとする。	子どもの表現活動に必要なピアノ技術について考察し、習得方法を考える。	レベル3に加え、自分に合った、技術の習得方法について工夫を重ねる。
共生・協働する力	保育・教育現場に必要なピアノ技術を、協働で考えようとする。	保育・教育現場に必要なピアノ技術を、グループワークを通して考えようとする。	ピアノ技術の習得を、グループ全体で目指そうとする。	アンサンブルに積極的に取り組み、グループ単位で演奏力を身に着ける。
創造・発信力	教材を子どもの表現活動の中でどのように活かすか考えない。	子どもの表現活動の中で有効な教材について考えようとする。	子どもの表現活動に有効な教材を自ら作成しようとする。	子どもの表現活動に有効な教材作りに積極的に取り組み、友だちと情報交換する。

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション 弾き歌いの姿勢
- 第2回 弾き歌いの留意点
- 第3回 弾き歌いの目線と発声
- 第4回 童謡 発声
- 第5回 童謡の表現方法
- 第6回 わらべうた 発声
- 第7回 わらべうたの表現方法
- 第8回 様々なリズムと表記方法 1 4分音符 2分音符
- 第9回 様々なリズムと表記方法 2 8分音符 16分音符
- 第10回 新しい拍子と付点のリズム
- 第11回 リズムアンサンブル
- 第12回 季節の歌の表現方法
- 第13回 行事の歌の表現方法
- 第14回 その他の歌の表現方法
- 第15回 ピアノ実技テスト 講評 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループレッスンで童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組む。課題の取り組みに対し、授業内発表を行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ピアノを自宅でよく練習しておくこと
- ・常日頃、様々なジャンルの音楽に触れておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回授業から五線ノートを持参すること。(指定なし)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼児の四季 秋冬の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940386

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」

音楽講師、音楽指導員として、保育園・幼稚園・こども園での合唱、合奏、鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を経営(指導、教材開発)

音楽 I B

EDC1450B0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 後期

金曜 4限

DP4: 思考・解決力

15

古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「ピアノ実技」で習得した技術をもとに、子どもに音楽の楽しさと、表現する喜びを伝えるために必要なピアノ技術・歌唱の技術を習得できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. ピアノ課題をこなし、弾き歌いのレパートリーを増やす。
2. 教材を様々な角度から分析したり、自ら教材を作成したりするための、音楽理論を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出来ないことの克服のために、面倒に思っている練習を後回しにして、頑張ることができない。	最低限の課題をこなそうと取り組む者の、もう少し努力すべきだと自覚している。	ピアノや弾き歌い課題について、求められているレベルまでこなすことが出来、更なる努力をしている。	提示された課題だけでなく、音楽技能について自身に未だ不足している力を自覚し、努力を続ける。
知識・理解力	小・中学校時代の音楽の授業で習得した知識を殆ど忘れていている。	楽譜にある音符や記号などの情報を読み取る力が少し弱い。	教育現場で求められる音楽技能を理解しており、未知のことに対しては貪欲に取り組む。	幼稚園・小学校・特別支援学校のそれぞれ違う教育現場で、地震の持っている音楽技能を生かす方法を、模索している。
言語力	音楽記号や音楽用語を覚えようとしない。	最低限の音楽記号や音楽用語を理解し、歌唱教材の歌詞の持つ良さを理解している。	音楽記号や音楽用語の理解に特に不自由することはなく、歌唱教材の歌詞の内容とメロディー構成の関係を理解している。	教育現場でそれぞれの歌唱教材を扱うことをイメージで着ており、楽譜の知識を伝える言葉の使い方を考えることが出来る。
思考・解決力	課せられた課題が出来ないと、教育現場で何に困ることになるか考えることを回避している。	技能習得において、身に付いていないことがあることを、自覚しており、そのために努力している。	主要三和音を覚え、コードネームを見た瞬時に音構成を把握しながら弾くことが出来る。	主要三和音以外のコードにも興味を持ち、楽譜に表記されていない個所に、コードを当てはめて弾くことが出来る。
共生・協働する力	グループでのアンサンブル演奏に必要な練習を怠る。	アンサンブル演奏を楽しむ気持ちを持って練習している。	アンサンブル演奏において、他のパートとの音のバランス	より良い表現のために、ブロックコードだけでなく、

		習することが出来る。	スをよく聴き、演奏を良いものにしていこうとする意欲がある。	自主的にリズムを変えて、演奏効果をねらっている。
創造・発信力	課題を人前で弾く練習の必要性を感じていない。	保育者・教育者として技能習得の必要性を理解し、常にその意識をもって課題に取り組める。	他の表現系の授業において、本授業で得た知識と技能を十分に生かすことが出来る。	保育・教育現場における音楽の重要性を理解し、ボランティアなどの場で、自分の知識と技能を生かす方法を実践したり模索したりする。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション 弾き歌いの姿勢

全回オンデマンドで受講予定者と全回対面授業で受講予定者の確認を行います。

第 2 回 弾き歌いの留意点

部分的にオンデマンドあり

第 3 回 弾き歌いの目線と発声

部分的にオンデマンドあり

第 4 回 童謡 発声

部分的にオンデマンドあり

第 5 回 童謡の表現方法

部分的にオンデマンドあり

第 6 回 わらべうた 発声

部分的にオンデマンドあり

第 7 回 わらべうたの表現方法

部分的にオンデマンドあり

第 8 回 様々なリズムと表記方法 1 4分音符 2分音符

部分的にオンデマンドあり

第 9 回 様々なリズムと表記方法 2 8分音符 16分音符

部分的にオンデマンドあり

第 10 回 新しい拍子と付点のリズム

部分的にオンデマンドあり

第 11 回

リズムアンサンブル

部分的にオンデマンドあり

第 12 回 季節の歌の表現方法

部分的にオンデマンドあり

第 13 回 行事の歌の表現方法

部分的にオンデマンドあり

第 14 回 その他の歌の表現方法

部分的にオンデマンドあり

第 15 回 ピアノ実技テスト 講評 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループレッスンで童謡・小学校歌唱共通教材を中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組む。課題の取り組みに対し、授業内発表を行う。授業内において部分的にオンデマンドで行う場合、前日に manaba でその旨連絡をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ピアノを自宅でよく練習しておくこと
常日頃、様々なジャンルの音楽に触れておくこと
課外でも構わないので積極的な質問を期待する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。爪が伸びていた場合と、授業中の携帯電話使用等、授業に集中していない態度が見られた場合は減点の対象とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

可能な限り様々なジャンルの音楽に触れておくこと。ピアノ演奏に支障が出ることに加え、将来教育者になることを自覚し、子どもへの安全の意識を持って爪を伸ばさないこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

①「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡140年のあゆみ」全国大学音楽教育学会編 音楽之友社

②「幼児の四季 秋冬の歌」早川四郎編曲・編纂 エー・ティ・エヌ

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 音楽講師として、幼稚園での鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を経営(指導、教材開発)

音楽 I C

EDC1450C0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 後期

月曜 4限

DP4 : 思考・解決力

15

植田 恵理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ピアノ実技で習得した技術をもとに、保育・教育現場に必要なピアノ技術と、子どもの音楽についての知識を更に習得できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1ピアノ課題をこなし、弾き歌いのレパートリーを増やす。
2教材を様々な角度から分析したり、自ら教材を作成したりするための、音楽理論を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題をこなさず、レパートリーを増やそうとしない。	課題に対し、理解しようとする。	課題に積極的に取り組み、レパートリーを増やすことに意欲的である。	課題をアレンジしたり、自ら新しい曲に挑戦しようとする。
知識・理解力	音楽理論について、理解しようとしていない。	音楽理論について、理解しようとする。	子どもの音楽活動の中で、どのように音楽理論を活かすか考えようとする。	レベル3に加え、実践する際に必要な知識を習得する。
言語力	保育・教育現場に必要な子どもの音楽についての発表ができない。	子どもの音楽についての発表しようとする。	子どもの音楽についての工夫や、導入などを発表できる。	発表を更に工夫し、保育現場で通用するレベルまで高める。
思考・解決力	保育・教育現場に必要なピアノ技術について考えようとしていない。	現場に必要なピアノ技術に対し、少しでも考えようとする。	子どもの表現活動に必要なピアノ技術について考察し、習得方法を考える。	レベル3に加え、自分に合った、技術の習得方法について工夫を重ねる。

共生・協働する力	保育・教育現場に必要なピアノ技術を、協同で考えようとしなない。	保育・教育現場に必要なピアノ技術を、グループワークを通して考えようとする。	ピアノ技術の習得を、グループ全体で目指そうとする。	アンサンブルに積極的に取り組み、グループ単位で演奏力を身に着ける。
創造・発信力	教材を子どもの表現活動の中でどのように活かすか考えない。	子どもの表現活動の中で有効な教材について考えようとする。	子どもの表現活動に有効な教材を自ら作成しようとする。	子どもの表現活動に有効な教材作りに積極的に取り組み、友だちと情報交換する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 弾き歌いの姿勢
- 第 2 回 弾き歌いの留意点
- 第 3 回 弾き歌いの目線と発声
- 第 4 回 童謡 発声
- 第 5 回 童謡の表現方法
- 第 6 回 わらべうた 発声
- 第 7 回 わらべうたの表現方法
- 第 8 回 様々なリズムと表記方法 1 4分音符 2分音符
- 第 9 回 様々なリズムと表記方法 2 8分音符 16分音符
- 第 10 回 新しい拍子と付点のリズム
- 第 11 回 リズムアンサンブル
- 第 12 回 季節の歌の表現方法
- 第 13 回 行事の歌の表現方法
- 第 14 回 その他の歌の表現方法
- 第 15 回 ピアノ実技テスト 講評 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループレッスンで童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組む。課題の取り組みに対し、授業内発表を行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ピアノを自宅でよく練習しておくこと
- ・平日頃、様々なジャンルの音楽に触れておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回授業から五線ノートを持参すること。(指定なし)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼児の四季 秋冬の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940386

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

音楽講師、音楽指導員として、保育園・幼稚園・こども園での合唱、合奏、鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を経営(指導、教材開発)

音楽ⅡA

EDC2200A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

木曜4限

DP2: 知識・理解力

15

植田 恵理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ピアノ技術の基礎及び応用を図り、弾き歌いのレパートリーを増やす。教育・保育現場における複数の鍵盤楽器や、他の楽器を使用したアンサンブルの必要性を理解し、他者とともに演奏する喜びを感じ取る。物語を音楽で演出するなどの方法で、表現の幅を広げ、楽しい音楽活動をプロデュースできる保育者・教育者を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの歌の歌唱を通して音楽理論を身につける。
2. ピアノ譜の読譜の前段階として、子どもの歌の基礎的なコード奏を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ピアノ技術の基礎及び応用に対し消極的である。	ピアノ技術の基礎及び応用に対し、取り組もうとする。	応用する方法について具体的に考えようとする。	レベル3に加え、子どもの表現活動に活用する方法を身につける。

知識・理解力	コードについて、理解しようとする。	コードについて、理解しようとする。	新しいコードを習得し、転回形について理解しようとする。	曲の中で転回形を使いこなせるようにする。
言語力	弾きながら語ることに興味を示さない。	弾きながら語ることに挑戦しようとする。	演奏しながら、場面に応じた語りを考え、実践する。	その場面に必要な声かけ、語り、演奏について考え、実践力として身に着ける。
思考・解決力	音楽理論の習得に対し、消極的である。	音楽理論の習得に取り組もうとする。	子どもの歌唱活動の中で音楽理論を学ぼうとする。	子どもの歌唱活動の中で必要な音楽理論を身につける。
共生・協働する力	アンサンブルの必要性に対し理解しない。	アンサンブルの必要性を理解できる。	複数の鍵盤楽器やアンサンブルに対し、積極的に取り組もうとする。	他者とともに演奏する楽しさを感じ取る。
創造・発信力	物語を音楽で演出する方法に興味を示さない。	物語に効果音を取り入れる経験をする。	物語に適した効果音を考え、実践しようとする。	レベル3をグループで行い、子どもにとって楽しい音楽活動をプロデュースする力を身につける。

〔授業計画〕

- 第1回 臨時記号
- 第2回 五度圏
- 第3回 長調の音階と楽曲
- 第4回 短調の音階と楽曲
- 第5回 キーボードのアンサンブル
- 第6回 シンコペーションのリズム
- 第7回 キーボードと他楽器によるアンサンブル
- 第8回 転調の方法
- 第9回 装飾音の弾き方
- 第10回 付点のリズム
- 第11回 半音階
- 第12回 効果音と挿入方法
- 第13回 物語をベースにしたアンサンブル
- 第14回 課題発表会
- 第15回 ピアノ実技テスト・講評・まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グルーブレッスンと個別レッスンを交互に行い、リズム活動・アンサンブルの経験を重ねる。音楽活動の企画を練り、物語に効果音を挿入して音楽作品に仕上げる体験を行う。音楽理論の理解を確実にするために小テストを行い、最終授業でピアノ実技テスト・講評・まとめを行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ピアノや弾き歌いの実技は毎日の積み重ねが不可欠なため、自宅での練習を怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%

〔留意事項 (Other Information)〕

音楽ノートを毎回持参のこと。可能な限り様々なジャンルの音楽に触れておくこと。積極的な自習と質問を期待する。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『どこから始めてもOK なるほど! バイエル1』/古庵晶子 他/サーベル社/2009/2009 978-4-88371-514-5

早川四郎編曲・編纂: 幼児の四季 秋冬の歌 (エー・ティ・エヌ)

早川四郎編曲・編纂: 幼児の四季 春夏の歌 (エー・ティ・エヌ)

全国大学音楽教育学会編 音楽之友社「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡140年のあゆみ」

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

音楽講師、音楽指導員として、保育園・幼稚園・こども園での合唱、合奏、鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を経営(指導、教材開発)

音楽 II B

EDC2200B0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

火曜 4限

DP2: 知識・理解力

15

古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ピアノ技術の基礎及び応用を図り、弾き歌いのレパートリーを増やす。教育・保育現場における複数の鍵盤楽器や、他の楽器を使用したアンサンブルの必要性を理解し、他者とともに演奏する喜びを感じ取る。イメージを音楽で演出するなどの方法で、表現の幅を広げ、楽しい音楽活動をプロデュースできる保育者・教育者をを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 歌唱共通教材の歌唱を通して音楽理論を身につける。
2. ピアノ譜の読譜の前段階として、子どもの歌の基礎的なコード奏を更に習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出来ないことの克服のために、面倒に思っている練習を後回しにして、頑張ることができない。	最低限の課題をこなそうと取り組む者の、もう少し努力すべきだと自覚している。	ピアノや弾き歌い課題について、求められているレベルまでこなすことが出来る、更なる努力をしている。	提示された課題だけでなく、音楽技能について自身に未だ不足している力を自覚し、努力を続ける。
知識・理解力	小・中学校時代の音楽の授業で習得した知識を殆ど忘れていている。	楽譜にある音符や記号などの情報を読み取る力が少し弱い。	教育現場で求められる音楽技能を理解しており、未知のことに対しては貪欲に取り組む。	幼稚園・小学校・特別支援学校のそれぞれ違う教育現場で、地震の持っている音楽技能を生かす方法を、模索している。

言語力	音楽記号や音楽用語を覚えようとしない。	最低限の音楽記号や音楽用語を理解し、歌唱教材の歌詞の持つ良さを理解している。	音楽記号や音楽用語の理解に特に不自由することはなく、歌唱教材の歌詞の内容とメロディー構成の関係を理解している。	教育現場でそれぞれの歌唱教材を扱うことをイメージで着ており、楽譜の知識を伝える言葉の使い方を考えることが出来る。
思考・解決力	課せられた課題が出来ないと、教育現場で何に困ることになるか考えることを回避している。	技能習得において、身に付いていないことがあることを、自覚しており、そのために努力している。	主要三和音を覚え、コードネームを見た瞬時に音構成を把握しながら弾くことが出来る。	主要三和音以外のコードにも興味を持ち、楽譜に表記されていない個所に、コードを当てはめて弾くことが出来る。
共生・協働する力	グループでのアンサンブル演奏に必要な練習を怠る。	アンサンブル演奏を楽しむ気持ちを持って練習することが出来る。	アンサンブル演奏において、他のパートとの音のバランスをよく聴き、演奏を良いものにしていく意欲がある。	より良い表現のために、ブロックコードだけでなく、自主的にリズムを変えて、演奏効果をねらっている。
創造・発信力	課題を人前で弾く練習の必要性を感じていない。	保育者・教育者として技能習得の必要性を理解し、常にその意識をもって課題に取り組める。	他の表現系の授業において、本授業で得た知識と技能を十分に生かすことが出来る。	保育・教育現場における音楽の重要性を理解し、ボランティアなどの場で、自分の知識と技能を生かす方法を実践したり模索したりする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 臨時記号
- 第 2 回 五度圏
- 第 3 回 長調の音階と楽曲
- 第 4 回 短調の音階と楽曲
- 第 5 回 キーボードどうしのアンサンブル
- 第 6 回 シンコーションのリズム
- 第 7 回 キーボードと他楽器によるアンサンブル
- 第 8 回 転調の方法

- 第 9 回 装飾音の弾き方
 - 第 10 回 付点のリズム
 - 第 11 回 半音階
 - 第 12 回 効果音と挿入方法
 - 第 13 回 物語をベースにしたアンサンブル
 - 第 14 回 課題発表会
 - 第 15 回 ピアノ実技テスト・講評・まとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業はすべてグループレッスンで行う。音楽理論の学習内容に沿って楽曲の内容を理解し、歌唱実践を行う。コード奏の基本を習熟するためにコード奏課題を個別に確認する。毎回授業の初めに、前回の内容についての確認小テストを行い、最終的には筆記試験として音楽理論、実技試験としてコード奏のテストを行う。実技テスト終了後はコード奏の講評を行い、筆記試験終了後は解答の解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ピアノ課題は毎日30分以上練習し、仕上げてくること。「音楽Ⅰ」を履修していなくても受講は出来るが、「音楽Ⅰ」で習得した演奏力と知識の上に成り立つ内容であり、後期開講の「音楽科指導法」では「ピアノ実技」と「音楽Ⅰ」と本授業で習得した読譜力と演奏力を要するため、「音楽Ⅰ」を履修していない者は別途配布する資料を自習し、出来るだけ早いうちに習得しておかないと、習得が難しい場合がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 確認小テスト20% コード奏テスト30% 音楽理論のテスト40%とし、総合的に評価する。爪を伸ばしている場合と、授業と関連のない目的での携帯電話使用等、授業外の行為が見られた場合は減点の対象とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

ピアノ演奏に支障が出ることに加え、将来教育者になることを自覚し、子どもへの安全の意識を強く持って、爪を伸ばさないこと。可能な限り様々なジャンルの音楽に触れておくこと。積極的な自習と質問を期待する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

早川四郎編曲・編纂：幼児の四季 秋冬の歌 (エー・ティ・エヌ)

早川四郎編曲・編纂：幼児の四季 春夏の歌 (エー・ティ・エヌ)

全国大学音楽教育学会編 音楽之友社「明日へ歌い継ぐ日本の子ども歌 唱歌童謡140年のあゆみ」

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 音楽講師として、幼稚園での鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を経営（指導、教材開発）

音楽Ⅲ A

EDC2250A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 後期

木曜 4限

DP2: 知識・理解力

15

植田 恵理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「音楽が子どもの成長・発達において果たす役割を知る」をテーマに、子どもの発達段階を理解し、教育・保育現場で必要な歌唱技術やピアノの伴奏方法を習得し、深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの歌の歌唱を通して音楽理論を身につける。
2. 子どもの歌伴奏に必要なコード奏とその応用を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	音楽が子どもの成長・発達において果たす役割について、興味を示さない。	音楽が子どもの成長・発達において果たす役割について、理解しようとする。	子どもの発達段階を踏まえ、それぞれの年齢に必要な歌唱技術、ピアノ伴奏法を習得しようとする。	教育・保育現場で必要な歌唱技術やピアノ伴奏法について、更に深めようとする。
知識・理解力	音楽理論に対し、興味を示さない。	音楽理論に対し、理解しようとする。	子どもの歌唱活動を通して、音楽理論を身につけようとする。	レベル3に加え、現場で実践する際に必要な知識を習得する。
言語力	保育・教育現場で必要な子どもの音楽についての発表ができない。	子どもの音楽についての発表しようとする。	子どもの音楽についての工夫や、導入などについて発表できる。	子どもの音楽についての活動の流れを組み立て、発表する力を身につける。
思考・解決力	子どもの歌伴奏に必要なコードとその応用について考えようとしなない。	コードの応用について考えてみようとする。	子どもの歌活動に必要なコードの応用に具体的に考え、実践してみる。	様々な調の中で、コードの応用について考え、実践力として身につける。

共生・協働する力	リズムアンサンブル、合奏に対して消極的である。	リズムアンサンブル、合奏に挑戦しようとする。	アンサンブルにおける役割、担当等についてグループで考えることができる。	グループでアンサンブルの演奏技術を高めることができる。
創造・発信力	イントロ、エンディング作りについて消極的である。	イントロ、エンディング作りについて取り組もうとする。	アレンジを積極的に行う。	グループでアレンジを工夫し、発表する力を身につける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 手遊び歌 1 姿勢・奏法
- 第 2 回 手遊び歌 2 イントロとエンディング
- 第 3 回 手遊び歌 3 身体表現を取り入れた伴奏法
- 第 4 回 コードワーク 1 グループワークによる編曲
- 第 5 回 コードワーク 2 グループワークによるイントロ作り
- 第 6 回 カデンツ 1 子どもの歌の伴奏を工夫する (基本形)
- 第 7 回 カデンツ 2 子どもの歌の伴奏を工夫する (展開形)
- 第 8 回 移調 子どもの声域を考える
- 第 9 回 転調
- 第 10 回 アンサンブル 1 編成・記譜の方法
- 第 11 回 アンサンブル 2 鍵盤楽器・打楽器の記譜方法
- 第 12 回 アンサンブル 3 課題発表
- 第 13 回 リハーサル ピアノソロ・弾き歌い
- 第 14 回 課題発表会
- 第 15 回 ピアノ実技テスト・講評・まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

童謡・手遊びうたを、保育の様々な場面で演奏することを想定し、子どもの成長段階を踏まえた演奏方法を考える課題に取り組み、それに必要な歌唱・伴奏技術を習得する。また、弾き歌い、合奏、キーボードアンサンブルに取り組み、授業内発表を行う。最終授業でピアノ実技テスト・講評・まとめを行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ピアノや弾き歌いの実技は毎日の積み重ねが不可欠なため、自宅での練習を怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%とし、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

音楽ノートを各自準備し、毎回持参すること。可能な限り様々なジャンルの音楽に触れておくこと。積極的な自習と質問を期待する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

早川四郎編曲・編纂：幼児の四季 秋冬の歌（エー・ティ・エヌ）

早川四郎編曲・編纂：幼児の四季 春夏の歌（エー・ティ・エヌ）

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 音楽講師、音楽指導員として、保育園・幼稚園・こども園での合唱、合奏、鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を経営（指導、教材開発）

音楽III B

EDC2250BJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 後期

火曜 4限

DP2：知識・理解力

15

古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「音楽が子どもの成長発達において果たす役割を知る」をテーマに、子どもの成長段階を理解し、教育・保育現場で必要な歌唱技術やピアノの伴奏方法を習得し、深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの歌の歌唱を通して音楽理論を身につける。
2. ピアノ譜の読譜の前段階として、子どもの歌の基礎的なコード奏を更に習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出来ないことの克服のために、面倒に思っている練習を後回しにして、頑張ることができない。	最低限の課題をこなそうと取り組む者の、もう少し努力すべきだと自覚している。	ピアノや弾き歌い課題について、求められているレベルまでこなすことが出来、更なる努力をしている。	小学校音楽科の教科書や学習指導要領をよく読み、教員採用試験の準備を少しずつ行う。

知識・理解力	楽譜にある音符や記号などの情報を読み取る力が少し弱い。	教育現場で求められる音楽技能を理解しており、未知のことに対しては貪欲に取り組む。	幼稚園・小学校・特別支援学校のそれぞれ違う教育現場で、知識と技能をどのように生かすか模索している。	既成の弾き歌い楽譜とコード奏それぞれの利点を生かすことが出来る。
言語力	音楽記号や音楽用語を覚えようとしない。	最低限の音楽記号や音楽用語を理解し、歌唱教材の歌詞の持つ良さを理解している。	音楽記号や音楽用語の理解に特に不自由することはなく、歌唱教材の歌詞の内容とメロディー構成の関係を理解している。	教育現場でそれぞれの歌唱教材を扱うことをイメージで着ており、楽譜の知識を伝える言葉の使い方を考えることが出来る。
思考・解決力	課せられた課題が出来ないと、教育現場で何に困ることになるかを実感できない。	主要三和音を覚え、コードネームを見た瞬時に音構成を把握しながら弾くことが出来る。	既成の弾き歌い楽譜を演奏する力があり、習得したコード奏の知識と技能を既成楽譜にリンクさせることができる。	楽曲の魅力をわかりやすく語ると同時に、声や楽器の音をどのように出せばよいか伝えることが出来る。
共生・協働する力	グループでのアンサンブル演奏に必要な練習を怠る。	アンサンブル演奏を楽しむ気持ちを持って練習することが出来る。	アンサンブル演奏において、他のパートとの音のバランスをよく聴き、演奏を良いものにしていこうとする意欲がある。	より良い表現のために、ブロックコードだけでなく、自主的にリズムを変えて、演奏効果をねらっている。
創造・発信力	課題を人前で弾く練習の必要性を感じていない。	保育者・教育者として技能習得の必要性を理解し、常にその意識をもって課題に取り組める。	他の表現系の授業において、本授業で得た知識と技能を十分に生かすことが出来る。	保育・教育現場における音楽の重要性を理解し、ボランティアなどの場で、自分の知識と技能を生かす方法を実践したり模索したりする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 姿勢・奏法
- 第 2 回 イントロとエンディング
- 第 3 回 身体表現と伴奏法
- 第 4 回 コードワーク1 グループワークによる編曲
- 第 5 回 コードワーク2 グループワークによるイントロ作り
- 第 6 回 カデンツ1 教科書の伴奏を工夫する（基本形）
- 第 7 回 カデンツ2 教科書の伴奏を工夫する（展開形）
- 第 8 回 移調 子どもの声域を考える
- 第 9 回 転調
- 第 10 回 アンサンブル1 編成・記譜の方法
- 第 11 回 アンサンブル2 鍵盤楽器・打楽器の記譜方法
- 第 12 回 アンサンブル3 課題発表
- 第 13 回 リハーサル ピアノソロ・弾き歌い
- 第 14 回 課題発表会
- 第 15 回 ピアノ実技テスト・講評・まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業はすべてグループレッスンで行う。音楽理論の学習内容に沿って楽曲の内容を理解し、歌唱実践を行う。コード奏の基本と応用を身に付けるためにコード奏課題を個別に確認する。教採の過去問にチャレンジする。前回の内容についての確認小テストを行う。最終的にはコード奏と弾き歌いのテストを行い、終了後に講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

ピアノは毎日の積み重ねが不可欠なため、自宅での練習を怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度10% 確認小テスト20% コード奏テスト30% 音楽理論のテスト40%とし、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

可能な限り様々なジャンルの音楽に触れておくこと。積極的な自習と質問を期待する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

早川四郎編曲・編纂：幼児の四季 秋冬の歌（エー・ティ・エヌ）

早川四郎編曲・編纂：幼児の四季 春夏の歌（エー・ティ・エヌ）

全国大学音楽教育学会編 音楽之友社「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡140年のあゆみ」

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 音楽講師として、鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を経営（指導、教材開発）

家庭

EDP2200NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

2年次

2単位 前期集中

その他

DP2：知識・理解力

60

平野 江美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

家庭科教育の意義、目標、特質、歴史など基礎的事項の理解と家庭科の授業実践に関する内容を習得し、家庭科教育の課題と展望について考察する。

小学校における家庭科教育について理解を深めるため、家庭生活に視点をあて、食生活・衣生活を中心とする基礎的事項と各領域の研究動向等を理解する。さらに、自分の生活を見直し、充実した家庭生活を営むために応用・発展できる力、自信を持って教育実習に臨める知識と技能を身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・家庭科教育の特質と小学校家庭科が果たす役割について理解する。

- ・具体的な学習指導内容を通して、実践的能力を養う。

- ・家族との関わりを考えながら、家庭生活に必要な知識と技能を身につける。

- ・家族の一員としての自覚と生活を工夫できる実践的な態度を養うにはどうすればよいか探究する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	家庭の生活をふり返らない。	家族の一員として家庭生活を送る。	家庭や地域社会の一員であることを意識して家庭生活を送る。	家庭や地域社会の一員として家庭生活を創り出せる。
知識・理解力	家庭科の教科の内容を知らない。	小学校の家庭科の内容を理解している。	小学校の家庭科の内容を理解し、自身の生活と関連づけて考える。	小学校及び中学校・高等学校の家庭科の学習内容を理解している。

言語力	自身の生活に起こっていることが説明できない。	自身の生活で起こっていることを説明することができる。	自身の生活における事象について、学習したことをつかって説明できる。	自身の生活において起こっている事象について専門的な用語も交えて説明できる。
思考・解決力	自身の生活と学びを結びつけない。	学習したことを自身の生活に取り入れる。	学習したことを自身の生活に取り入れ、よりよい生活を築こうとする。	学習したことをさらに工夫して自身の生活に取り入れ、生活を創造する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 家庭科の構成（家庭科の3つの領域）、学習計画について
- 第 2 回 A 家族・家庭生活（1）家族のあり方、自分の成長と家族
- 第 3 回 A 家族・家庭生活（2）生活時間、家族や地域社会とのかかわり方
- 第 4 回 B 衣食住の生活〈食生活〉（1）食事の意味、五大栄養素
- 第 5 回 B 衣食住の生活〈食生活〉（2）調理実習について、食品の調理特性
- 第 6 回 B 衣食住の生活〈食生活〉（3）調理の基礎（用具の扱い）
- 第 7 回 B 衣食住の生活〈食生活〉（4）食品の衛生と安全、1食分の献立の作成
- 第 8 回 B 衣食住の生活〈衣生活〉（1）衣服の役わり、快適な衣生活
- 第 9 回 B 衣食住の生活〈衣生活〉（2）繊維製品の取り扱い、基礎的な技能（手縫い）
- 第 10 回 B 衣食住の生活〈住生活〉（1）住まいと健康
- 第 11 回 B 衣食住の生活〈住生活〉（2）快適な住まい方
- 第 12 回 C 消費生活・環境（1）環境に配慮した生活
- 第 13 回 C 消費生活・環境（2）よりよい商品の購入
- 第 14 回 C 消費生活・環境（3）消費者をまもるしくみ
- 第 15 回 学習のまとめ 「家庭科を学ぶ」ことについてグループ討論を行う

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義
- ・実習（調理・小物製作）
- ・レポート（家庭での実践記録や学びを教育にどう生かすか）
- ・発表

☆ 作品やレポート等に対しては、小学校教員として基礎的な知識技能の習得や見方考え方ができているかどうかを評価の上、返却する。

☆ 授業における発表等に対しては、その場で小学校教員としての視点から評価を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

自分自身の生活を見直してみましょう。
まず、自分が生活の主体者となることが大切です。
毎日何気なくやっていることにも理由があります。「なぜ」と立ち止まってみてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

課題レポート・提出物（40%）、小テスト・作品（30%）、まとめのレポート（30%）

〔留意事項（Other Information）〕

調理や小物製作など講義の中で実習を行う。その際には、小学校の授業で使用する程度の準備物が必要となる。詳しくは、授業で指示を行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説 家庭編』//東洋館出版社/2018/978-4-491-03466-9/学内販売予定

『初等家庭科教育法』/原清治・春日井敏之・篠原正典・森田真樹監修、三沢徳枝・勝田映子編著/ミネルヴァ書房/2019/978-4-6230-8204-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

小学校用教科書（これまでに出版されたものが大学図書館等にある。）

令和2年度から使用開始の教科書については、講義で示す。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

小学校及び小中一貫校において教員経験がある。

現在は、小学校教員である。

家庭科指導法

EDP2452N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

2年次

2単位 後期集中

その他

DP4：思考・解決力

60

幼小・小特必修

平野 江美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

今日の家庭科教育の特徴と小学校家庭科が果たす役割について知るとともに、児童の実態をふまえた家庭科学習のあり方を、具体的な学習指導計画の作成を通じて実践的に検討し提案することができるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・小学校家庭科の内容とねらいについて理解を深める。
- ・授業設計について理解し、模擬授業を通して実践的な指導力を身につける。
- ・模擬授業を評価することで授業の改善点・改善方法を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学習指導要領解説(家庭編)を知らない。	学習指導要領解説(家庭編)を理解している。	学習指導要領解説(家庭編)を理解し、授業の構想に使うことができる。	学習指導要領解説(家庭編)を完全に理解し、授業の構想に自由に活用できる。
言語力	教科書に書かれていることが理解できない。	教科書に書かれていることについて児童に説明できる。	教科書に書かれていることについて、児童にわかりやすい例を用いて説明できる。	児童の思考を考えながらことばを選んで授業を作ることができる。
思考・解決力	授業を構想することができない。	授業を構想し、模擬授業を実施することができる。	目標を立てて授業を構想し、目標を達成するための授業を構想する。	目標を意識しながら主体的な課題解決に向けた授業の構想をする。
共生・協働する力	自分中心に授業を構想する。	指導者グループで話しあって授業を構想する。	児童生徒を意識して授業を構想する。	児童生徒の学びや成長を意識しながら授業を構想する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
小学校家庭科の役わりと育てたい力小学校学習指導要領の目標と内容、小・中・高のつながり、他教科・領域との関連
- 第 2 回 A「家族・家庭生活」
A「家族・家庭生活」の内容について理解する
- 第 3 回 B「衣食住の生活」
B「衣食住の生活」の内容について理解する
- 第 4 回 C「消費生活・環境」
C「消費生活・環境」の内容について理解する
- 第 5 回 授業の構想・運営
授業の準備と予備実験、用具の管理
- 第 6 回 学習指導について
学習指導案の読み方と作成の方法、指導と評価
- 第 7 回 教材研究
教材のとらえ方や指導計画の立て方について

- 第 8 回 本時案の作成
本時案の作成の方法について、本時案の作成
- 第 9 回 授業の準備
様々な授業について、家庭での体験を学習に生かすこと(家庭との連携)、実習・実験と安全の確保、模擬授業のあり方
- 第 10 回 家族・家庭生活の授業
家族・家庭生活にかかわる指導案の検討と模擬授業
- 第 11 回 衣生活・住生活の授業
衣生活・住生活にかかわる指導案の検討と模擬授業
- 第 12 回 食生活の授業
食生活にかかわる指導案の検討と模擬授業
- 第 13 回 消費生活の授業
消費生活にかかわる指導案の検討と模擬授業
- 第 14 回 環境の授業
環境にかかわる指導案の検討と模擬授業
- 第 15 回 まとめ
模擬授業後の修正学習指導案の作成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義と演習・実習を併用する。・学習指導案の作成にむけた教材研究を大切にする。
- ・学習指導案の作成と模擬授業・・・授業者は、授業づくりを大切にする。児童役は、児童の目線で授業を分析する。
- ・レポート...自身の生活と照らし合わせながら、子どもたちにどのような力をつけたいのか考えながら作成する。
- ☆ 指導案やレポートについては、小学校教員として子どもたちに教育を行うという観点で作成ができていのかどうかを評価して返却する。
- ☆ 模擬授業については、学習指導要領の内容と児童の実態などを関連づけて構成されたものであるかどうかを評価して返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 小学校学習指導要領解説家庭を熟読する。テキストに採用する児童用教科書を熟読する。
食生活・衣生活等の実習項目を実際に家庭で実践する。
詳細は授業時に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 毎時間の小レポート (20%)、学習指導案作成力 (30%)、模擬授業実践力 (30%)、授業評価分析 (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

- 受講者数の多寡により模擬授業と授業計画時数の変更あり
模擬授業の内容により、小学校家庭科で使用する程度の準備物が必要な場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新しい家庭5・6』/浜島京子・岡陽子他/東京書籍/2020/978-4-487-10590-8 (令和2年度より使用開始予定のため、変更の場合がある)

『小学校学習指導要領解説 家庭編』/東洋館出版社/2018/978-4-491-03466-9/学内販売予定

『初等家庭科教育』(MINERVAはじめて学ぶ教科教育8)/河村美穂/ミネルヴァ書房/2020/9784623087815/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

これまでに発行された教科書が大学図書館等にある。(使用期間外のため購入することはできない)

『新編新しい家庭5・6』/渡邊彩子他/東京書籍/2015/9784487104901

『わたしたちの家庭科』/内野紀子他/開隆堂/2015/9784304080647

『初等家庭科教育法』/原清治・春日井敏之・篠原正典・森田真樹監修、三沢徳枝・勝田映子編著/ミネルヴァ書房/2019/978-4-6230-8204-9/学内販売予定〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」

小学校及び小中一貫校において教員経験がある。

現在は、小学校教員である。

介護等体験 A

EDR3600A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次 3年次

1単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

15

集中

太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援学校や社会福祉施設における介護等の体験を通じて、学生自らが個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図ることを目的としている。また、障害のある児童生徒や、支援を必要としている人とのふれあいを通して、お互いを尊重し、思いやりの心を育み、共に生きる社会の原動力になれることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 介護等体験の制度とその趣旨について理解し、手続きを適切に行う。

(2) 体験にあたっての心構えや体験先でのマナーについて社会人基礎力の観点も踏まえて理解する。

(3) 特別支援学校における介護等体験の実際について理解する。

(4) 社会福祉施設における介護等体験の実際について理解する。

(5) 特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、**介護等の体験を行う。**

(6) **体験を振り返り、教職を目指す者としての自覚を深める。**
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	教職について自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	教職に就くにあたり目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	将来教職に就く者として、何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしにくい。	教職に関して学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのか分かる。	教職に関して学ぶべき知識の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席しているだけで、教職に就く者として、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	教職に関する自分の学びを振り返り、考えることができる。	教職に関して新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、教職に関する協働の活動等に積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換し	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現する	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信

		たりでき る。	ことができ る。	することが できる。
--	--	------------	-------------	---------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 事前指導：介護等体験の制度と趣旨、申込手続きについて
- 第 2 回 事前指導：介護等体験にあたっての心構え（上級生の体験発表）
- 第 3 回 事前指導：アイマスクを使った体験、車椅子の介助方法
- 第 4 回 事前指導：体験日誌の記入について
- 第 5 回 事前指導：特別支援学校における介護等体験
- 第 6 回 事前指導：社会福祉施設における介護等体験（ゲストスピーカーによる講義）
- 第 7 回 事前指導のまとめ
- 第 8 回 特別支援学校における介護等体験～1日目
- 第 9 回 特別支援学校における介護等体験～2日目
- 第 10 回 社会福祉施設における介護等体験～1日目
- 第 11 回 社会福祉施設における介護等体験～2日目
- 第 12 回 社会福祉施設における介護等体験～3日目
- 第 13 回 社会福祉施設における介護等体験～4日目
- 第 14 回 社会福祉施設における介護等体験～5日目
- 第 15 回 事後指導：体験の振り返り
各自の体験レポートを小グループで発表し合い、学んだことを共有する。その後、全グループの体験概要を共有することで、教職を目指す者としての自覚を深める。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 事前指導は講義を中心とするが、適宜演習等も取り入れる。
- 事後指導ではグループ討議等を行う。
- 毎講義後レポート提出を義務づけている。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 事前指導までにテキストを必ず読んで予習しておくこと。
- 教育現場で必要と思われるルールやマナーを、学生としてではなく将来教職に就く者として、日頃から守るよう心がけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

学生としてではなく、社会人基礎力を身につけた、将来教職に就く者として、ルーブリックに示す項目から総合的に評価する。

毎回のレポート 40% 個別課題(1)(2)(3)(4)に対応
日誌 20%、報告書 20% 個別課題(3)(4)(5)に対応
グループワークへの参画や発表をルーブリックに示す視点から総合的に評価 20% 個別課題(3)(4)(6)に対応

〔留意事項（Other Information）〕

- 学生便覧の**教育職員免許状取得に関するページ**（「はじめに」は必読）を熟読しておくこと。
 - 正当な理由なく欠席することは認めない。また、ルーブリックに示したように、出席していても、受講態度等が欠席等と同様と考えられる場合（例：出席しているが席で寝ていて講義・演習等に参加していない。教員の指示がない場面でスマホ等を操作している。離席が多い等）は、欠席等とみなす場合がある。
 - 学生便覧に書かれている通り、卒業後、**教職に就くことを希望する者が教育職員免許状を取得**するのが原則である。そのことを理解していることを前提に、事前指導において申込書・誓約書の提出を求める。
 - 4年次生は、体験時期が2月以降になった場合、単位認定できないことがある。
 - 特別支援学校と社会福祉施設の目的や事業内容について事前学習を行い、体験に向けて目標を設定すること。
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
- 『介護等体験ガイドブック フィリア [新学習指導要領（平成29年公示）版』/全国特殊学校長会編/ジアース教育新社/2018/978-4-86371-447-2/学内販売予定
- 『第5版 よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック』/増田雅暢/社会福祉法人全国社会福祉協議会/2018/978-4-7935-1277-3/学内販売予定
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 『介護等体験マニュアルノート』/東京都社会福祉協議会/東京都社会福祉協議会/2012/4863530447
- 『介護等体験の手引き』/徳田克己、名川勝編/協同出版/2002/4319110269
- 『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』/現代教師養成研究会編/東京大修館書店/2008/9784469266702
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 社会人基礎力 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- 《実践的科目》 特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱虚弱）において教員として勤務経験あり。

環境教育

EDC3450N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜4限

DP4: 思考・解決力

60

定員30人

小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

環境問題は、現在人類共通の最重要課題の1つとなっている。それに応じて、環境教育は世界的視野から見て、ますますその必要性が高まっている。本科目の目標は、環境問題の認識や環境教育の目的、指導法について理解することである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・「環境」「環境問題」について説明することができる。
- ・環境教育の背景や目的、指導法について理解している。
- ・環境教育の重要性を認識することができる。
- ・学校における環境教育の現状や課題について考察することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	地球規模の環境問題について、説明することができない。	地球規模の環境問題について、ある程度説明することができる。	地球規模の環境問題について、説明することができる。	
思考・解決力	環境教育の目的やESD、SDGsの理解が不十分であり、環境教育実践にどうつながるか考察できない。	環境教育の目的やESD、SDGsについて理解し、それらが環境教育実践にどうつながるか、ある程度考察することができる。	環境教育の目的やESD、SDGsについて十分に理解し、それらが環境教育実践にどうつながるか、考察することができる。	レベル3に加えて、環境教育の目的やESD、SDGsの考え方を組み込んだ授業づくりを行うことができる。

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 環境問題の顕在化
- 第3回 調べ学習 (環境問題レポートの作成・発表準備)
- 第4回 レポート発表
- 第5回 環境教育の系譜、目的、ESD
- 第6回 環境教育と学校教育 (理科とのかかわりを中心に)
- 第7回 エコバスツアー (外部機関との連携について)

第8回 エコバスツアー (見学)

第9回 エコバスツアー (京都市のごみ処理・減量化の取り組み)

第10回 エコバスツアー (振り返り・グループディスカッション)

第11回 エネルギー教育・防災教育

第12回 自然体験教育

第13回 ごみの分別・減量化の取り組み

第14回 総括レポートの作成

第15回 レポート発表とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・講義に加え、学外学習や調べ学習・発表等、参加・体験型の授業を行う。

・提出されたレポートについては、コメントしたり、全体に対してフィードバックしたりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示するが、今日話題となっている環境問題に目を向け、その問題や課題について自分なりに考えてみる事が大切である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題レポート60%、授業内小レポート20%、授業参加度 (responによる授業の振り返りコメント等) 20% で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の実態や教材の準備状況によって学習内容を変更することがある。

第7～10回は、授業日以外の6月の土曜日に学外学習として連続して実施する予定なので留意すること。詳細は、初回のオリエンテーションで伝える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし

授業の資料は、適宜提示する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』/国立教育政策研究所 教育課程研究センター/東洋館出版社/2014/978-4491030630

『私たちと環境』/太田和子 他/東京教学社/2015/978-4808250164

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 小学校教員として公立小学校での勤務経験あり。

教育の方法と技術

EDN2251N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

必修

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

幼稚園、小学校の各発達段階において、望ましい教育方法を探求し、その実践を行えるようにする。具体的には、主体的な学びの創造、情報活用能力の育成、アクティブラーニング、社会的構成主義学習理論に基づくコミュニケーションを生かした教育方法等である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

下記の3項目について、理解した上で、その実践的指導を学校教育の指導の中で行えるようにする。

- ・ 思考力、想像力を育む児童生徒の主体的な学習活動
- ・ 情報活用の実践力を育む授業実践方法
- ・ 社会的構成主義学習理論に基づく、コミュニケーションを生かした授業づくり

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学習指導要領の理解	学習指導要領や幼稚園教育要領を知らない。	学習指導要領や幼稚園教育要領を理解している	学習指導要領や幼稚園教育要領を完全に理解し、観点ごとの評価に生かそうとする。	学習指導要領や幼稚園教育要領を理解し、授業や保育に生かすとともに、授業案を創造できる
主体的に学ぶこと	先生主導の教育のみを行っている	子供の状況に配慮しつつ、先生主導の教育を行い、一部子供の自主性を促す	子供のための教材を提供でき、その周辺の知識に詳しく、学習の動機づけをすることができ、自己評価に繋げることができる。	レベル3に加えて子供同士が相互作用を用いながら学ぶ教材を提供でき、授業外でもその学びを子供たちが生かすことができる。

情報機器の活用	情報機器を使うことに抵抗がある。	先生が情報機器を使って授業ができる。	教員が情報機器の特性を理解し、子供が無理なく情報機器を学習のために使えるように、ツールとして提供できる。	レベル3に加えて子供が情報機器の特性を知らながら、子供の自らの学びのために機器を活用するように指導できる。
コミュニケーションを生かした授業	子供の考え方を聞かず、教師の考えだけで授業を進める。	子供の発言を用いた授業を考えることができる	子供の発言や議論を促すためにどのように子供に接するか等の方法を知り、それを生かした授業をしようとする。	レベル3に加えて、子供同士の相互作用を促し、子供が自ら学ぶためにコミュニケーションを活性化しようとする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション (対面)
- 第 2 回 教育とは (オンライン)
- 第 3 回 学習理論とは (オンライン)
- 第 4 回 主体的な学び、アクティブラーニングとは (オンライン)
- 第 5 回 主体的な学びを促進する授業の設計 (グループディスカッション, 対面)
- 第 6 回 主体的な学びを促進する授業の相互評価 (グループディスカッション, 対面)
- 第 7 回 主体的な学びを促進する教師の役割 (パネル発表, 対面)
- 第 8 回 教育評価 (オンライン)
- 第 9 回 情報教育の目標と情報活用能力 (オンライン)
- 第 10 回 情報活用能力の育成 (オンライン)
- 第 11 回 情報活用の実践力を育てる授業設計1 (対面)
- 第 12 回 情報活用の実践力を育てる授業設計2 (対面)
- 第 13 回 情報活用の実践力を育てる授業の相互評価 (パネル発表, 対面)
- 第 14 回 オンライン授業とその評価 (オンライン)
- 第 15 回 まとめ 理想の教育方法とは (オンライン)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ 対面とオンラインを組み合わせたブレンド型学習を行う
- ・ 自律型の学習を主とする。
- ・ 積極的にグループディスカッションに参加し、学習を深めることを期待する。
- ・ オンライン学習ではインターネットを介したe-Learningによる授業とする。
- ・ 評価は自己評価を含む形で行う。

・学習を進めるために、responによるコメントの提出を求め、次の回にフィードバックする。

・課題に関してはmanaba courseによる提出を行い、その中でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業内で話し合う機会が多いので、教員が提示する各トピックに対して準備を行う必要がある。

これまでのGPAによる準備学習方法

(下記のGPAはあくまでも参考で、自分のレベルにあった準備をしてください)

GPA<1.5の場合 保育内容または各教科の指導法の内容を復習しておいてください

GPAが1.5から3までの場合 上記に加えて、身の回りにある情報機器に興味を持ち、保育・教育の場面での利用を考えておきましょう。

GPA>3.0の場合 上記に加えて、「こどもの教育心理学」の授業から「学習」に関する復習をし、理解しておきましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

基本的には下記の項目について、自己評価を取り入れる。

授業に参加する態度 (40%) 各個人の状況に応じて、出席したかどうかでなく、授業中の態度も含めて、最終授業時に40点満点で自己採点を行う。

課題 (40%) 3回提出の予定である。その都度、教員からレポート内容についての評価項目を示すので、それに従って自己評価を行う。

グループへの参加態度 (20%) 最終授業時に行うグループ内相互評価をもとに、教員の示す評価基準で自己採点を行う。

上記の自己採点を基本とし、教員が総合的に判断し、評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

自ら進んで学ぶ態度が必要になります。今すぐに役立つ内容でない部分もありますが、今後のために積極的に学習に参加しましょう。

オンライン学習は、動画配信による授業とResponによるコメント収集(オンデマンド型)で行います。manabaコースの指示に従って進めてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607/学内販売有

※ この中に幼稚園教育要領が含まれています。

(注意)すでに他の授業で購入している場合は、再度購入の必要はありません。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中にその都度提示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

文部科学省 学習指導要領 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm

文部科学省 教育の情報化に関する手引き http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 教員として公立学校での勤務経験あり。

教育経営論

EDB2250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

火曜1限

DP2: 知識・理解力

60

選択必修

河佐 英俊

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

今日的な教育課題に適切に対応する学校経営の在り方、また教育目標を達成するための教育の在り方など、教育の本質的な理解を基盤として、これからの教育経営について、自分の考えが明確に論じられるよう認識を深めていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.公教育制度の歴史と基本的な原理について理解する。
- 2.日本の教育行政・学校教育の変遷と特徴を理解する。
- 3.学校経営における諸問題について理解し、その解決方法を見出せるようにする。
- 4.学校と地域との連携等これからの学校教育のあり方を考察していく。
- 5.危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしれない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方や方法を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：教育経営の全体像
- 第 2 回 社会の変化と教育 「学校を巡る近年の様々な状況の変化」
- 第 3 回 子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題
- 第 4 回 近年の教育政策の動向 「学習指導要領改訂の動向」
- 第 5 回 公教育制度の基本原則及び公教育制度を構成している教育関係法規
- 第 6 回 教育制度を支える教育行政の理念と仕組み
- 第 7 回 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿
- 第 8 回 学校評価と学校改善 「学校における教育活動の年間の流れと学校評価（PDCAサイクル）の重要性」
- 第 9 回 学級経営と学校経営 「学級経営の仕組みと効果的な方法」
- 第 10 回 学校組織マネジメントの重要性 「学校経営と予算財務」
- 第 11 回 開かれた学校経営 「市民ぐるみ・地域ぐるみの教育」
- 第 12 回 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯
- 第 13 回

学校の危機管理（クライシスマネジメント・リスクマネジメント）の必要性

第 14 回 学校をとりまく安全上の課題と安全対策「具体的な事例から」

第 15 回 望ましい教育経営とは 「教師に求められるリーダーシップと組織対応」

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

学校教育に関わる制度、行政、経営の基本的な原理についての理解を深め、最新の教育経営をめぐる諸問題について具体事例を基に考察していく。パワーポイント等を活用しながら、現在の学校教育経営に関するテーマについてディスカッションを行うなど問題解決的な学習を重視する。レポートについては、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

日常のニュース等に関心を持ち、教育に関する今日の課題を見つけておく。A4版のノートまたはファイルを準備し、学習のまとめをする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度(20%)、小レポート(30%)、定期試験(50%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『教育学の探求－教師の専門的思索のために』/佐藤博志編著 /川島書店/2013年/9.784761008932E12

『新しい時代の教育方法』/橋本美保他/有斐閣/2012年/978464112479E12

『小学校学習指導要領』解説/文部科学省/東洋館出版/平成29年/9784491034614

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 25年（内、教頭6年）

京都市立小学校校長 6年

教育実習事前事後指導

EDN3600NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

1単位 通年

火曜 5限

DP6: 創造・発信力

15

集中

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 古庵 晶子 神

月 紀輔 江川 正一 小川 博士 太田 容次 大

西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

【科目の教育目標 (Course Description)】

教育実習を有効かつ円滑に行い、実りあるものにするため、事前指導においては、実習に際して必要不可欠な基礎的・基本的な事柄や、心構えを確実に身につけることをめざす。さらに事後指導においては、実習を通して学んだ成果や反省をもとに、今後の自己の学習の方向づけを援助することをめざす。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

実習の意義をよく理解すること。教育に関する知識や技能を教育の場で再構成できるよう準備すること。実習体験を、今後の自己の教育に活かすよう心掛けること。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教員としての自覚が持てない	教員になる心構えを持つ	これまでの学習を生かし、教員としての最初の一步を踏み出そうとする	さまざまな学習を前向きにとらえ、自分のものにしようとする
知識・理解力	教員に対する知識を持っていない。	学習指導要領や教育要領を理解する	学校現場の実情や、現状を理解し、個人情報や学校情報の扱いも理解している。	自ら、ボランティアや学校園見学で知識を増やそうとする
言語力	実習ノートをまとめることができない	教育用語を理解し、ディスカッションできる言語力を持つ	その日にあったことを図示などしながらレポートとしてわかりやすくまとめることができる。	外国語を理解し、日本語のわからない子供たちにも積極的にコミュニケーションを取ろうとする

思考・解決力	常に指示を待ち、自ら思考できない。	順序だてて、整理して物事を考えることができる	これまでの学習を生かし、臨機応変にその場の問題を解決しようとする。	1つ1つの出来事を内省し、次のステップに行くために、何をすべきか設計できる。
共生・協働する力	人の学びに興味がなく、一緒に問題を解決しようとしれない。	他の学生や先輩後輩とも共に学ぶために円滑な人間関係を構築できる	教員からの助言を適切に受けることができ、他の学生とチームで問題解決にあたることができる	地域の方々や、教員以外の人のリソースも活用した教育を考えることができ、また自らも地域社会に貢献しようとする。
創造・発信力	自分で授業の組み立てができない	授業を創造できる	指導案という形で、授業の概要を示すことができる	研究協議などを主宰することができ、その成果を個人情報に配慮しながらWeb等で発信できる。

【授業計画】

- 第 1 回 教育実習オリエンテーション・教育実習の意義、内容、目的、実習手続、評価の観点 (担当: 神月, 藤本, 河佐, 渡邊, 田中, 大西, 小川)
- 第 2 回 教育実習の具体的な内容と心構え, 教育実習担当教員との打ち合わせ (担当: 神月, 藤本, 河佐, 渡邊, 田中, 大西, 小川)
- 第 3 回 授業参観から学ぶこと (担当: 大西)
教育実習ノートの書き方 (担当: 藤本)
- 第 4 回 人権教育 (道徳教育) (担当: 河佐)
- 第 5 回 人権教育 (情報モラル) (担当: 神月)
- 第 6 回 特別支援教育 (担当: 太田, 江川)
- 第 7 回 幼稚園での実習について (生活指導・指導案作成指導含む) (担当: 特別講師, 田中, 住本)
- 第 8 回 小学校での実習について (生活指導・指導案作成指導含む) (担当: 藤本, 河佐)
- 第 9 回 模擬授業指導案作成・模擬授業教材開発・教材教具の活用 (担当: 小川, 大西, 住本, 田中, 神月)
- 第 10 回 模擬授業 (担当: 小川, 大西, 田中, 神月)
- 第 11 回 模擬授業を踏まえてのリフレクション (担当: 小川, 大西, 田中, 神月)
- 第 12 回 実習中のリフレクションの方法について (担当: 小川, 大西, 田中, 神月)
- 第 13 回 最終確認及び心構え等 (担当: 神月, 藤本, 田中)
- 第 14 回

教育実習事後指導：実習後のリフレクション、実習で学んだことをグループで話し合う（担当：神月、藤本、河佐、渡邊、田中、大西、小川）

第 15 回 教育実習事後指導：実習における問題点の整理、討論（担当：神月、藤本、河佐、渡邊、田中、大西、小川）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 事前事後指導 事前指導にあつては、教育実習に当たつて必要な事柄を理解し、教育実習の心構え等を学ぶ。事後指導においては、教育実習の報告反省会、レポート提出等を行い、教育実習のフィードバックを行う。

2. 文献、参考資料等はその都度配布する。

3. レポート・課題は、できるだけ黒ボールペン・ペンを使用し、修正には修正テープ等は使用しないこと。課題等は全て担当教員が添削の上、返却するので、教育実習に生かすこと。また、内容の不備や文字の修正等は再提出を求めることがある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各教科・保育の指導法で学んだ内容を復習しておくこと。事前に配布された資料には目を通しておき、わからない言葉などは辞書やこれまでの使用したテキストなどを用いて、明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 教育実習、事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。

2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

※日程は、原則として、教育実習開始前までに13回目まで終了する。事後指導は11月に行い実習報告会がある。3月の教職課程オリエンテーションで日程は確認すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》実務経験等：神月、藤本、河佐、渡邊、大西、小川、太田、江川 教員として学校に勤務経験あり

教育相談の理論と方法

EDN3400N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

水曜1限

DP4：思考・解決力

60

薦田 未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕

学校現場における教育相談の意義や役割を理解し、基礎知識を習得する。また、幼児・児童・生徒の発達課題を理解し、心身の発達状態を把握する視点と方法を学ぶ。さらに、幼児・児童・生徒およびその保護者や教師が抱える悩みや問題についても理解を深め、カウンセリングの基礎理論や教育相談における支援方法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 学校における教育相談に関する基礎知識と理論、および相談の意義を理解する。

2. 幼児・児童・生徒を理解する発達の視点と個別の問題を把握する方法を学ぶ。

3. 幼児・児童・生徒自身が発達課題を乗り越えられるような予防・開発的教育、相談支援について理解する。

3. カウンセリングの理論と技法を学び、カウンセリングマインドの必要性を理解する。

3. 不登校、いじめ、非行、虐待、貧困等の家庭背景に派生する問題等について理解し、子どもの発達に応じた相談支援について理解する。

4. 幼児・児童・生徒、またその保護者の支援について、校内組織の在り方や、相談支援の進め方を理解する。

5. 学校と地域外部専門機関との連携について、その意義と必要性を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教育相談に関する基礎知識の理解	学校における教育相談の対象者について説明できない。	学校における教育相談の対象者、生じている問題についての知識を備え、簡単な説明ができる。	学校における教育相談の対象者、生じている問題、支援者・組織についての知識を備え、簡単な説明ができる。	学校における教育相談の対象者、生じている問題、支援者・組織についての知識を備え、正確かつ詳

				細に説明できる。
教育相談の機能についての理解	教育相談にはいくつかの機能があることを理解しておらず説明できない。	教育相談の主な3つの機能を言える。	教育相談の主な3つの機能を理解し、その内容をそれぞれ簡単に説明できる。	教育相談の主な3つの機能を理解し、その支援内容や方法について正確に説明できる。
幼児・児童・生徒の発達課題を踏まえた支援方法の理解	子どもの発達段階による発達課題について説明できない。	子どもの発達段階により発達課題は異なることを理解し、説明できる。	子どもの発達段階により発達課題は異なり、またそれに対する支援方法も異なることが説明できる。	子どもの発達段階により発達課題は異なり、またそれに対する支援方法についても多様なアプローチがあることを理解し、詳細な説明ができる。
相談支援機関における連携の意義についての理解	相談支援において多機関、多職種で連携することがあることを理解していない。	相談支援において校内で協働、連携する人の役割や職種について説明できる。	相談支援において校外で協働、連携する人の役割や職種について説明できる。	相談支援において多職種、多機関での連携の必要性やその意義について理解し、説明できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育相談の基本概念とその意義
 第 2 回 幼児・児童・生徒の発達課題（認知・精神の発達）
 第 3 回 幼児・児童・生徒の発達課題（社会性・道徳性の発達）
 第 4 回 学級経営と教育相談（予防的・開発的教育）
 第 5 回 予防的・開発的教育の実際
 第 6 回 幼児・児童・生徒の理解とその方法
 第 7 回 カウンセリング理論とカウンセリングマインド
 第 8 回 問題行動の理解と支援①不登校（児童期）
 第 9 回 問題行動の理解と支援②不登校（思春期・青年期）
 第 10 回 問題行動の理解と支援③いじめ
 第 11 回 問題行動の理解と支援④非行
 第 12 回 問題行動の理解と予防・支援⑤発達障害・二次障害・精神医学的問題など
 第 13 回 保護者・教師の心理と支援
 第 14 回 教育相談における校内連携
 第 15 回 専門家・専門機関との連携、まとめ
 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
 実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストは用いず、適宜資料を配布する。講義が中心の授業であるが、授業時間中に小課題を課すことがある。授業中に行った小課題については、課題日以降の授業中にコメントや評価を返却する。また、期末テストについては、manaba上で受講者全体に向けてのコメント等で フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

学校における諸問題や現代の子どもたちの発達における諸問題について、日常生活の中でも意識的に関心に向けて新聞やニュース、文献などを通して情報を収集し、考える機会を持つておくこと。また、自分の考えや意見を表現できるように準備しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業中に行う小課題（20%）、学期末に実施する試験（80%）により総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

講義の内容は、上記の順序が入れ替わることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『よくわかる教育相談』/春日井敏之・伊藤美奈子（編）/ミネルヴァ書房/2011/9.784623058785E12

『事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談（小学校編）』/長谷川啓三・佐藤宏平・花田里欧子（編）/遠見書房/2014/9.784904536711E12

『世界の学校予防教育』/山崎勝之・戸田有一・渡辺弥生（編著）/金子書房/2013/9.784760888016E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 臨床心理士として学校現場、医療・保健機関等での支援業務の経験あり。

教育評価

EDN3250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）
3年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2：知識・理解力

60

大西 慎也

〔科目の教育目標（Course Description）〕

具体的な教育評価の事例にふれながら、教育評価のありかたや技法について習得する。さらに、目標と指導と評価の一体化を具現した教育評価の意義について理解する。そして、これからの教育評価のあり方について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 教育評価の意義とあり方について理解する。
2. 学習評価の具体例について理解する。
3. 目標と指導と評価のあり方について理解する。
4. これからの教育評価のあり方について考えることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	目標準拠評価、形成的評価について理解していない。	目標準拠評価、形成的評価の意味については、理解している。	目標準拠評価、形成的評価の重要性について理解しており、それらを組み込んだ実践案を開発できる。	目標準拠評価、形成的評価の重要性について理解しており、それらを組み込むだけでなく、評価をふまえた改善実践案を開発できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育評価とは何か
教育評価の意義、教育実践における教育評価の位置づけ
- 第 2 回 「テスト」をどう扱うか
「テスト」による評価体験、「テスト」の目的
- 第 3 回 「テスト」に基づく評価のあり方
相対評価と到達度評価、「テスト」の考え方
- 第 4 回 真正の評価にどう取り組むか
パフォーマンス評価とルーブリック
- 第 5 回 真正の評価のありかた
ポートフォリオ評価、ポートフォリオを使った相互評価
- 第 6 回 何を評価するのか
診断的評価・形成的評価・総合的評価
- 第 7 回 幼児・児童理解に基づいた評価の意義
よりよい保育・教育のために
- 第 8 回 幼児・児童理解に基づいた評価の基本的な考え方
よりよい指導につながる記録の活かし方
- 第 9 回 幼児・児童理解に基づいた評価
幼児指導要録と児童指導要録
- 第 10 回 幼児理解に基づいた評価の実際
幼稚園における評価の事例に学ぶ
- 第 11 回 児童理解に基づいた評価の実際
小学校における評価の事例に学ぶ
- 第 12 回 学習指導要領を踏まえた学習評価
目標と指導と評価の一体化
- 第 13 回 学習評価の基本的な流れ
評価規準の作成及び評価の実施
- 第 14 回 児童作品の評価
モデレーション
- 第 15 回 評価にこめる願い

子どもを育むための評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義
2. 討論
3. 発表
4. 小レポート

* 提出されたレポートは添削し返却したり、講義での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布した資料を熟読してくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎時間のリフレクションが45%、レポートが55%。

以上により総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

必要な資料は、講義で配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『はじめて学ぶ教育評価』/佐倉英明/ジアース教育新社/2015/

『新しい教育評価入門』/西岡加名恵・石井英真・田中耕治/有斐閣/2015/

『教育評価との付き合い方』/関田一彦・渡辺貴裕・仲道雅輝/さくら社/2016/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教職に関わる科目について

／ 小学校教員としての勤務経験あり

教職専門ゼミナール

EDN3603N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜1限

DP6: 創造・発信力

60

藤本 陽三

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義は文献の講読を通して、教員として必要な資質や知識を身につけることを目標とする。教育現場において教員は教育に関わる法規に則り、その職責の遂行に努めなければならない。また、保育園、幼稚園、小学校、中学校等、

他校種間での連携、家庭・地域との連携のあり方等を始めとする様々な教育の今日的課題について理解し、日々実践することが求められる。そこで本講義では、教育法規に関する知識、及び教育の今日的課題についての知識を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・教育六法をはじめとする教育法規の通読と考察
- ・西洋教育史、日本教育史についての理解と考察
- ・教育の今日的課題に関する考察と小論文作成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教育法規の概要についての理解が不十分で、説明することができない。	教育法規についてその概要を理解し、ある程度説明することができる。	教育法規の概要を理解し、教育に関わる事例との関連について説明することができる。	教育に関わるさまざまな事例について、関連する法規を引用して説明することができる。
思考・解決力	教育の今日的課題について、課題解決についての自らの考えを論述することができない。	教育の今日的課題について、課題解決についての自らの考えを論述することができる。	教育の今日的課題について、課題解決についての自らの考えを論述を示しつつ述べるができる。	教育の今日的課題について、課題解決に向けての取組についての自らの考えを論述を明確にしつつ述べる
学びに向かう力	教員として必要な知識及び思考・解決力について自らの学習課題について説明することができない。	教員として必要な知識及び思考・解決力について自らの学習課題についてある程度説明することができる。	教員として必要な知識及び思考・解決力について自らの学習課題について説明することができる。	教員として必要な知識及び思考・解決力について自らの学習課題と具体的な解決策について説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 教職に必要な教養とは何か
- 第 2 回 日本国憲法と教育基本法についての理解
- 第 3 回 学校教育法および学校教育法施行令、学校教育法施行規則についての理解
- 第 4 回 教育公務員特例法,教育職員免許法,学校保健法および学校図書館法についての理解
- 第 5 回 教育行政、教育福祉および人権に関する法規等についての理解
- 第 6 回 西洋教育史についての理解
- 第 7 回 日本教育史についての理解
- 第 8 回 教育の今日的課題についての考察(1) 他校種間、家庭・地域との連携

- 第 9 回 教育の今日的課題についての考察(2) 人権教育
- 第 10 回 教育の今日的課題についての考察(3) 特別支援教育他
- 第 11 回 教育の今日的課題についての考察(4) キャリア教育他
- 第 12 回 小論文 (教育の今日的課題について...他校種間、家庭・地域との連携) 作成
- 第 13 回 小論文 (教育の今日的課題について...人権教育) 作成
- 第 14 回 小論文 (教育の今日的課題について...特別支援教育・キャリア教育他) 作成
- 第 15 回 ふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを用いて講義を行う。小グループでの討論も必要に応じて行う。後半では教育の今日的課題についての考察をもとに小論文を作成、知識の定着をはかる。

*提出されたレポートについては添削の後、返却したり、授業での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に配布する文献資料を精読し、理解を深めておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は授業参加度 (30%)、小論文 (40%)、最終レポート (30%) によって総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することもあり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業で資料プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業において指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫／ 教員として学校に勤務経験あり

教職論

EDB1100N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

水曜3限

DPI：自分を育てる力

60

必修

河佐 英俊

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1.我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解
学校教育の現状と課題を理解する。

2.教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解
教員の職務や求められる教員の資質を理解する。

3.教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。

4.学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 公教育の目的と教職を考えることの意義
- 第 2 回 教職の職業的特徴と進路選択
- 第 3 回 教職への進路 「教員養成と教員免許制度」
- 第 4 回 今日の教員に求められる役割
- 第 5 回 教員に求められる基礎的な資質・能力
- 第 6 回 教員の職務の全体像
- 第 7 回 教育公務員としての教師①「服務上・身分上の義務及び身分保障」
- 第 8 回 教育公務員としての教師② 「規範意識の確立とコンプライアンス」
- 第 9 回 教員研修の意義と制度上の位置づけ
- 第 10 回 学び続ける教師
- 第 11 回 学校運営への対応 「学校内外の専門家等との連携」
- 第 12 回 学校、家庭、地域の連携と教員のかかわり
- 第 13 回 チーム学校としての組織的な対応
- 第 14 回 変わりゆく社会の中での学校と教師
- 第 15 回 理想としての教師像と自己の課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業形態は講義を基本としながら適宜プレゼンテーション、グループディスカッション等を取り入れる。提出されたレポートは最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回で配布したプリント(資料)は、ノート(A4版)やファイルに閉じ、その日の講義でわかったことや考えたことを次回講義までにまとめておく。必要に応じて予習課題を出す。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(20%)、小レポート (30%)、定期試験(50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

本授業は、教師をめざす上での登竜門である。その重要性を受け止めて授業に参加してほしい。教師としての基礎的資質を醸成してくれることを期待する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説 総則編』/文部科学省/東洋館出版社/平成29年/9784491034614/学内販売予定

授業において適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『現代教育概論』/佐藤晴雄/学陽書房/2011年/9784313611382E12

『求められる教師像と教員養成』/山崎英則他/ミネルヴァ書房/2008年/4623034461

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 25年(内、教頭6年)

京都市立小学校校長 6年

国語

EDN1250NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

水曜3限

DP2: 知識・理解力

60

渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

小学校国語科の授業内容に基づき、教材研究の方法を学ぶとともに、話すこと・聞くこと、読むこと、書くことに関する力を高め、授業実践力の基礎を身に付けられるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 「国語」学習指導の意義を理解する。
2. 国語科の各領域を指導するための基礎を学ぶ。
3. 国語科授業実践力の基礎を身に付ける。
4. 言語能力向上のために新聞記事の読解と意見の記述を課す。また、朗読を行う。
5. 学習の記録をポートフォリオにまとめる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	講義を理解しようとする姿勢が乏しい。受講生の相互交流においても消極的で、学びの姿勢が乏しい。テキストから学ぼうとする意欲が乏しい。	講義を聞き理解しようとする。受講生との相互交流に参加しようとする。他者を理解し、学ぼうとする。与えられたテキストから学ぼうとする。	理解の深化を心がけている。講義を聴き、疑問点を質問したり、新たな課題を見出したりする。相互交流に積極的に参加し、発言し、他者を理解し、他者から学ぼうとする。テキストのみならず、関連参考書からも学ぼうとする。自らの学びを振り返ろうとする。	理解の深化を求めて意識的に調べ、講義を関連知識と結びつけて理解し、自ら課題を見出し、追求しようとする。受講生の相互交流において他者を理解し、新たに創造的な知見を提供しようとする。テキスト、参考書類からも学び、関連知識を増やそうとしている。自ら学びを振り返り、新たな学びを展開しようとする。
音読・朗読する力	文字を語句で認識し、スムーズに読むことができない。	技能を意識し、語句で認識し、朗読できる。	技能を意識し、語句・文で認識し、解釈を表現に込めて、語りかけるように音読・朗読できる。	技能を意識し、語句・文で認識し、自らの解釈を表現に込めて、創造的に語りかけるように音読・朗読できる。
教材研究(読む力)	ジャンルに応じた教材研究ができず、教材に教育的価値を見出すこ	ジャンルに応じた教材研究を行い、教材に教育的価値を見出すこ	ジャンルに応じ、教材の教育的価値を、知識・技能、思考・判	ジャンルに応じ、教材の教育的価値を、知識・技能、思考・判

	とができない。	とができる。	断・表現の面を意識して見出すことができる。	断・表現の面から多角的、創造的に見出すことができる。
書く力	課題・自主課題について論点、論旨、構成、表現等が不十分である。	課題、自主課題に応じて、論点を見出し、引用・事例等を用い、構成を整え、適切な言葉を使用し、論旨のわかる文章を書くことができる。	課題、自主課題に応じて、論点に基づき、引用・事例等を用い、構成を整え、適切な言葉を使用し、論旨の一貫した、説得力のある文章を書くことができる。	課題、自主課題に応じて、論点を明確にし、適切な引用・事例等を生かすとともに、緊密に構成し、適切な言葉を使用して説得力のある、論旨の明快な文章を書くことができる。
話す・聞く力	話し聞くことを通した学びを成立させることができない。	要点をとらえて理解し、疑問点を尋ねたり、意見を述べたりして、話を展開することができる。	要点をとらえて理解し、話を吟味しつつ聞くとともに、疑問点を尋ねたり、意見を述べたりして、話を創造的に展開することができる。	要点をとらえて、話し手の真意を理解し、話を吟味しつつ聞くとともに、疑問点を尋ねたり、意見を述べたり、価値ある話題を提供したりし、話を創造的に展開し、話す・聞くことの価値を実感することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
オリエンテーション 講義：国語科を担当するために
- 第 2 回 「国語」科の必要性
開講スピーチ：私の教師を目指すきっかけ 講義：「国語」科はなぜ必要か
- 第 3 回 小学校国語科教材の音読・朗読
小学校国語科教材の音読・朗読・群読（群読課題の提示）
- 第 4 回 朗読発表
小学校国語科教材の音読・朗読の発表
- 第 5 回 文学作品の教材研究方法

- 文学作品の教材研究の方法と研究の実際
- 第 6 回 文学教材研究方法の応用
文学作品の教材研究方法の応用
- 第 7 回 説明文教材の研究手法
説明的文章教材の研究の方法と研究の実際
- 第 8 回 説明文教材の研究手法の応用
説明的文章教材研究方法の応用
- 第 9 回 書くことの学習指導
書くことの学習指導
- 第 10 回 書くことの実際（情報収集と発信）
書くことの学習・情報の収集と発信
- 第 11 回 学習指導案の書き方理解
学習指導案の書き方
学習指導要領と学習指導案
- 第 12 回 学習指導案作成の基本の理解
学習指導案の作成（グループによる作成）
- 第 13 回 学習指導案作成の応用
学習指導案の作成（個別作成）
- 第 14 回 群読発表
群読発表
グループごとに発表
- 第 15 回 国語科指導法の学びの振り返り
閉講スピーチ：「国語」の授業で学んだこと・レポート提出
授業者による総括（成果と課題）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義式
2. 討議
3. 発表
4. レポート
5. 自主課題
6. フィードバック

「3. 発表」については、講評を行う。「4・レポート」・「自主課題」については、全体的に講評を行うとともに、個別にコメントを付して返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 教科書教材を中心に、音読・朗読できるように準備する。
 2. 群読課題に応じて、グループで群読ができるように準備する。
 3. 文学的文章教材・説明的文章教材の教材研究の方法を理解し、教科書教材の教材研究を行う。
 4. 情報を収集し、意見文を書けるようにする。
 5. テーマに基づき、ディベートができるように準備する。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

話し合い参加と小レポート等提出（40%）。スピーチ・群読とパフォーマンスの発表（30%）。まとめのレポート・ポートフォリオ（30%）。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数他の理由によって、授業予定を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントして配布。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『国語教育の新常識』/森山卓郎・達富洋二/明治図書/2010/9784183011152

『国語科教育総論』/浜本純逸/溪水社/2011/9784863271296

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」

私立・公立高等学校において24年間国語科教員として勤務した経験がある。本科目「国語」は小学校国語科の内容が講義内容の中心ではあるが、高等学校の国語科に発展的に繋がっているところも多い。高等学校における実務経験を、学生の教材研究力、話すこと・聞くこと、読むこと、書くことに関する力を高め、授業実践力の基礎を身に付ける指導に生かすことが可能である。

国語科指導法

EDP2400N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

金曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

幼小・小特必修

渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

テーマ：国語科授業実践力の育成

1. 小学校国語科教員として求められる実践力（①学習者把握力・②教材把握力・③授業構想力・④授業実践力・⑤授業評価力）を身に付ける。

2. 学習指導案作成の方法を理解し、指導案が作成できるようにする。

3. 各領域に関する学習指導法を理解する。

4. 模擬授業を通して、授業実践の方法を理解する。

5. 言語能力を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学習指導要領の基本理念と領域に関する目標、指導事項を理解する。

2. 教材と学習指導要領に基づき、学習指導案を作成する。

3. 各領域の具体的な指導方法を理解する。

4. 国語科の評価の方法を理解する。

5. 言語能力の育成のために新聞記事の読解と意見の記述他を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己教育力	講義を理解しようとする姿勢が乏しい。受講生の相互交流においても消極的で、学びの姿勢が乏しい。テキストから学ぼうとする意欲が乏しい。	講義を聞き理解しようとする。受講生との相互交流に参加しようとする。他者を理解し、学ぼうとする。与えられた教材から学ぼうとする。	言語力の向上を心がけている。講義を聴き、疑問点を質問したり、新たな課題を見出したりする。相互交流に積極的に参加し、発言し、他者を理解し、他者から学ぼうとする。教材のみならず、関連参考書からも学ぼうとする。自らの学びを振り返ろうとする。	言語力の向上を求めて生活の中でも常時意識的に実践しようとする。講義を関連知識と結びつけて理解し自ら課題を見出し、追求しようとする。受講生の相互交流において他者を理解するとともに、新たに創造的な知見を提供しようとする。教材、参考書類から学ぼうとし、関連知識を増やそうとしている。自ら学びを振り返り、新たな学びを展開する。
教材把握力	教材の種類に応じた教材研究の方法が分からず、教材研究ができない。	教材の種類に応じた教材研究を、受講者や教員からの助言を得て行うことができる。	教材の種類に応じた教材研究を行い、教育的価値を見出し、学習者の側からも教材を検討することができる。	教材の種類に応じた教材研究を行い、教育的価値を創造的に見出し、学習者の側からも教材を検討することによって、教材の価値を評価することができている。
授業構想力(学習指導案作成)	学習指導要領の基本理念、目標、指導事項が把握できず、教材に基づく学習	学習指導要領の基本理念、目標、指導事項を把握し、目標と評価規	学習指導要領の基本理念、目標、指導事項を生かし、教材に基づき、目標と	学習指導要領の基本理念、目標、指導事項を生かし、教材に基づき、目標と

	指導案が作成できない。	て、教材を基に学習指導案を作成できる。	評価規準を明確に設定し、学習者の興味や関心に留意し、学習指導案を作成できる。	評価規準を明確に設定し、学習者の興味や関心に留意し、言語活動を取り入れ、導入・展開・まとめの指導過程が明確な学習指導案を作成できる。
授業実践力 (模擬授業)	学習指導案に基づいて、45分のうち分担部分について授業が通してできない。大きな間違いがある。	学習指導案に基づき、声の大きさ、話す速さに留意し、指示・説明・発問・板書等を通して、45分のうちの分担部分について指導ができる。	学習指導案に基づき、声の大きさ、話す速さに留意し、指示・説明・発問・板書等を通して、授業をコントロールし、45分のうちの分担部分について指導ができる。	学習指導案に基づき、声の大きさ、話す速さに留意し、指示・説明・発問・板書等を通して、授業をコントロールし、学習者の反応を生かし、45分のうちの分担部分について指導ができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
オリエンテーション 講義：国語科授業の活性化（主体的・対話的で深い学び）
- 第 2 回 国語科授業の創造
開講スピーチ：私の求める国語科教師像 講義：国語科授業の創造
- 第 3 回 国語の知識と技能
知識及び技能—ことばの特徴と機能・情報の扱い方・言語と文化
- 第 4 回 読むことの学習指導の方法
思考・判断・表現力—読むことの学習指導の方法
- 第 5 回 書くことの学習指導の方法
思考・判断・表現力—書くことの学習指導の方法
- 第 6 回 話すこと・聞くことの学習指導の方法
思考・判断・表現力—話すこと・聞くことの学習指導の方法
(情報機器の有効活用を含む)
- 第 7 回 学習指導要領の書き方 1（基本）
学習指導要領と国語科学習指導案の書き方 1（基本）
- 第 8 回 学習指導要領の書き方 2（応用）
学習指導要領と国語科指導案の書き方 2（応用）
- 第 9 回 模擬授業 1

- 模擬授業 1：読むこと（物語・読書指導）
 - 第 10 回 模擬授業 2
模擬授業 2：読むこと（説明的文章・読書指導）
 - 第 11 回 模擬授業 3
模擬授業 3：書くことの学習指導
 - 第 12 回 模擬授業 4
模擬授業 4：話すこと・聞くことの学習指導
 - 第 13 回 模擬授業 5
模擬授業 5：漢字・ことばの学習指導
 - 第 14 回 模擬授業 6
模擬授業 6：言語文化の学習指導（書写を含む）
 - 第 15 回 国語科指導法の学びの振り返り
閉講スピーチ：国語科指導法で学んだこと 授業者の総括
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
1. 講義
 2. 討議
 3. 発表
 4. 模擬授業
 5. レポート
 6. フィードバック
- 「3. 発表」については、講評を行う。「4・模擬授業」においては、研究協議をおこなうとともに、指導者から講評を行う。また、「5. レポート」については、全体的に講評を行い、併せて個別にコメントを付して返却する。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1. 国語科に関する学習指導要領を理解する。
 2. 教材研究を行い、学習指導要領を理解して学習指導案を作成する。
 3. 模擬授業を行う（グループ協働学習）
 4. 模擬授業の成果と課題をレポートにまとめる。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 40
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
- 授業参加と小レポート提出（40%）。発表（40%）。まとめのレポート（20%）
- 〔留意事項（Other Information）〕
- シラバスは、受講者の人数によって、授業予定を変えることがある。
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
- 『新編 新しい国語 6』/小森茂他/東京書籍/2017//学内販売予定
- 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（文部科学省）

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『国語科教育総論』/浜本純逸/溪水社/2011/9784863271296
『「伝統的な言語文化」の言語活動アイデアBOOK』/渡辺春美/明治図書/2012/9784180523535

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

私立・公立高等学校に24年間勤めた経験があり、本科目「国語科指導法」は小学校中心ではあるが、教材研究・カリキュラム・授業方法論の他、学習指導案作成、模擬授業指導などで共通して学生の指導に生かせるところも多い。

算数

EDN1251N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

木曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

高等学校までに学習してきた算数・数学の内容を、関連性と発展性の立場から改めて見直し、小学校で学習する算数の各領域の内容がどのように関連しているか、また、中学校・高等学校の数学にどのように発展していくのかという道筋を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

テキストに沿って、学び方を習得したのち、「数・代数」、「立体・空間・変換」、「量・関数・解析」、「確率・統計」、「集合・論理」の各分野について、関連性と発展性を理解できるようにグループワークなどを取り入れながら進め、算数科指導法につなげる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	算数に関して興味関心を持つとせず、あきらめている。	算数の各領域の内容が理解できない。	算数の各領域の問題を概ね解くことができる。	自ら課題を考え、子供向けに指導をするための教材を作ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション (対面)
- 第 2 回 算数・数学を学ぶ意義 (オンライン)
- 第 3 回 数の概念 (オンライン)
- 第 4 回 計算 (オンライン)
- 第 5 回 文字を使った式 (オンライン)
- 第 6 回 立体図形 (対面)
- 第 7 回 アフィン変換と射影変換 (対面)

第 8 回 量と割合 (オンライン)

第 9 回 関数 (オンライン)

第 10 回 微分・積分と極限 (対面)

第 11 回 確率 (オンライン)

第 12 回 統計 (オンライン)

第 13 回 集合の考え、命題と推論 (オンライン)

第 14 回 算数とプログラミング (対面)

第 15 回 まとめと自己評価 (対面)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・基本的にはグループ学習による自学自習で自律的に学習する。
- ・グループ間での発表活動を数回行い、相互評価を行う。
- ・オンライン学習の場合は、インターネットを利用したe-Learningで行う。
- ・学習を進めるために、responによるコメントの提出を求め、次の回にフィードバックする。
- ・課題に関してはmanaba courseによる提出を行い、その中でフィードバックを行う。
- ・評価に関しては、自己評価を取り入れる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

評価方法にあるように、この授業は自己評価が中心となるので、自分の学習の進捗状況を自分で毎回とらえる必要がある。そのため、毎回提出する授業コメントは授業内にて紹介し、他の学習者がどの程度の学習を行っているかを常に把握しておく必要がある。教育制度は改革期を向かえ、テキストの内容だけを学習しては追いつかなくなっている。自ら、新聞・テレビ・インターネットなどの情報源を駆使して、教育改革についての情報を集めておく姿勢が必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

この授業は、算数・数学を関連性・発展性から理解し、授業内で得た知識や自分での学習を総合して、自ら下記項目によって評価を行う。

- ・授業における態度 (40%) 単に出席したかどうかでなく、授業に主体的に取り組んだか、グループ活動への参加意欲はどうか、算数への理解を自ら行おうとしたか、などを最終授業において教員の提示する項目に数値による自己評価を行う。
- ・小テスト (40%) 期間中5回程度出題される小テストについて、教員からの評価規準に基づき、自己採点を行う。
- ・レポート (20%) 期間中数回行われるグループ活動において、グループ間相互評価の内容とグループ内の構成員からの相互評価をもとにレポートを作成し自己評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・この授業は、対面授業とオンライン学習を組み合わせたブレンド型で行います。
- ・オンライン学習では、動画による配信とresponによるコメント収集を中心としたオンデマンド型の授業を行います。

・講師・他の学習者を含め、他者からの学びを重視し、様々な角度から算数について考える姿勢で臨むこと。
 ・常に自分の学習の進捗を意識し、足りないところは友達との意見交換や、講師への質問を行うなど、自ら解決しようとする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説 算数編』/文部科学省/日本文教出版/2018/978-4536590105/学内販売予定

『数学教育の基礎』/黒田恭史/ミネルヴァ書房/2011/9.784623059959E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『公式集 (モノグラム)』/矢野健太郎/科学新興新社/1998/9.784894281639E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：教員として公立学校に勤務経験あり

算数科指導法

EDP2402N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜 3限

DP4：思考・解決力

60

幼小・小特必修

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

算数で学んだ算数科の基礎をもとに、実践的指導力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

2～3回のマイクロティーチングにより、自らの指導力の向上を目指すとともに、子どもの立場から算数科指導のあり方を見直し、相互評価できるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業を行うことが難しい	算数の授業を積極的に進めようとする	多少の失敗も前向きにとらえ、次への反省材料とする	他者の授業をみて、自分の中にある問題点に気づき、改善しようとする

知識・理解力	算数に関する知識を持ち合わせていない	算数に関する基礎知識を持っている	算数・数学に関する知識を増やそうとしている	算数・数学の問題を解くことができ、生活の中で活用する手段を理解している
言語力	算数に関する用語の理解が不足している	算数に関する用語を理解している	算数に関する、記号や式の意味を理解し、説明に使うことができる。	子供だけでなく、様々な人に、算数・数学の用語・式・記号などを使って分かりやすく説明ができる
思考・解決力	算数の授業をすることが難しい	授業の構成を考え、わかりやすい授業を作ろうとする	子供が操作的に数学的活動をできるように考えることができる。	生活の中にある、算数・数学を発達年齢や学習指導要領に合わせて取り上げ、子供が主体的に考える授業をすることができる
共生・協働する力	他者の意見に耳を貸さない	わからないところを他の学生や教員に相談できる	授業後のディスカッションなど積極的に参加し、意見を述べ、受け手の気持ちや考えを考えた助言ができる。チームティーチングをすることもできる	相互評価をすることができ、自分の意見を言うだけでなく、人の意見を前向きにとらえることができる。
創造・発信力	指導書に頼った授業になる	教科書から授業を創造できる	教科書や指導書なしでも授業を創造できる。	オリジナルのある授業を創造でき、実践することができる

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション, グループ編成

第 2 回 トピック1による学習指導略案の作成

第 3 回 作成した指導案のグループでの検討

第 4 回 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング

第 5 回 5分間のマイクロティーチング (全員が行う)

- 第 6 回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
- 第 7 回 トピック2による学習指導略案の作成
- 第 8 回 作成した指導案のグループでの検討
- 第 9 回 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
- 第 10 回 5分間のマイクロティーチング（全員が行う）
- 第 11 回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
- 第 12 回 ICT機器を活用した学習指導略案の作成
- 第 13 回 作成した指導案のグループでの検討およびプレ・マイクロティーチング
- 第 14 回 5分間のマイクロティーチング（全員が行う）
- 第 15 回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

2～3回、定められたテーマについて1時間（45分）分の指導計画を考え、そのうちの5分間をマイクロティーチングとして行う。3回目は複数指導（ティームティーチング）またはICT（情報機器）活用を取り入れた授業設計をする。単に授業演習をするだけでなく、他の学習者の授業に参加し、相互評価する中で、仲間としてともに成長するようにディスカッションを多く取り入れる。マイクロティーチングは、ビデオ撮影し、自分の反省の材料とする。また、事後にはグループによる反省会を設ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

できるだけたくさんの資料を図書館やインターネットを用いて閲覧し、広い視野から指導法を考えるようにしておきたい。授業内では、他の学習者と多くディスカッションを行い、指導法についてさまざまな方法を模索するので、事前に自分の考え方を整理しておきたい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

2～3回のマイクロティーチングについての自己評価（40％）他の学習者からの指導法についての相互評価（30％）グループ学習への参加態度（30％）以上を総合的に判断し評価を行う。定期テストは行わない。

〔留意事項（Other Information）〕

文部科学省検定小学校教科書は貸し出しをします。マイクロティーチングだけが重要なのではなく、総合的に実践力を上げることが目的です。そのためには他者の授業から学び、相互評価できるようにしましょう。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

小学校学習指導要領解説 算数編/文部科学省/日本文教出版/2018/978-4536590105/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『初等算数科教育法』/黒田恭史/ミネルヴァ書房/2010/9.784623057634E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 教員として公立学校に勤務経験あり

肢体不自由者の心理・生理・病理

EDD2501N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

2年次

2単位 前期

水曜 4限 その他

DP5：共生・協働する力

60

東道 伸二郎 廣田 陽代 丹羽 登

〔科目の教育目標（Course Description）〕

特別支援学校に在籍する肢体に不自由のある子供の実態として、重度知的障害と運動障害を併せ有する重度・重複化が進んでいる。肢体不自由の原因となる疾患・筋骨格系の構造や仕組み（生理・病理）や運動、情動、認知、言語等の発達に関する知識（心理）について学び、指導・支援に関わる基礎的理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

肢体不自由に関する心理・生理・病理の基礎的知識を得る。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス、肢体不自由教育の歴史（東道、丹羽）

第 2 回 肢体不自由の定義及び起因疾患（東道）

第 3 回 神経系、運動機能の仕組みと発達（廣田）

第 4 回 脳性麻痺について（廣田）

第 5 回 筋ジストロフィーについて（廣田）

第 6 回 脊椎損傷・二分脊椎について（東道）

第 7 回 重度・重複障害について（東道）

第 8 回 病院見学による肢体不自由者の理解（廣田）

第 9 回 生理・病理に応じた個別対応（丹羽）

第 10 回 病理を踏まえた自立活動の実際（丹羽）

第 11 回 アシスティブテクノロジーの活用（丹羽）

第 12 回 肢体不自由者のキャリア発達と自立（丹羽）

第 13 回 学習への支援（丹羽）

第 14 回 肢体不自由者をめぐる最新の状況（東道）

第 15 回 講義のまとめとレポート発表（東道、丹羽）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義内容に関する最新の研究レポート等の概要をまとめて発表する。授業者による解説と学生の討議を行う。講義の最終回には、講義内容の理解に関するレポートを提出し、その報告を行う。小テスト・レポート等の実施後、その講評や解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 最新の知見や実践事例から、肢体に不自由のある子供の行動やその背景について考える。
 最新の研究のレポート報告や討議を通して、主体的に学ぶ。
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参画50%, レポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

講義中、病院現場への見学が含まれる。教職を目指す者として、相応の態度で臨むこと。その際の交通費は自己負担である。

一部の授業は集中講義で行うので、日程等留意すること。
 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

必要な資料は適宜配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』/独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 / ジアーズ教育新社 / 2015/978-4863712973

〔参考URL(URL for Reference)〕

病気の子どもの理解のために

http://www.zentoku.jp/dantai/jyaku/index_book.html

全国特別支援学校病弱教育校長会作成

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

肢体不自由者教育論 I

EDD2451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

木曜 2限

DP4 : 思考・解決力

60

太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援教育における肢体不自由のある幼児、児童及び生徒 (以下、こどもと記す) に対する教育の基本的な考え方と特別支援学校における教育課程の編成とその基本的構造を理解する。肢体不自由教育における教育課程の特徴、指導及び実践の基本を理解することで、特別な教育的ニ-

ズに応じた教育課程の編成力と実践力の基盤を養うことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)特別支援学校(肢体不自由)における教育課程の編成とその基本的な構造について理解する。

(2)特別支援教育体制の中で、特別支援学校が地域で担う役割と、肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。

(3)学んだ内容を知識として理解するだけでなく、学んだことを実際に生かすために、演習などを通して社会人基礎力を主体的に向上させる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	肢体不自由教育で何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	肢体不自由教育で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	肢体不自由教育に関する知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに関連させて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	肢体不自由教育に関して自分の学びを振り返り、考えることができる。	肢体不自由教育に関する新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意	肢体不自由教育に関し	肢体不自由教育に関し	自ら目的意識を持ち、

	見をそのまま発信する。	て学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	て学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	肢体不自由教育に関して学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。
--	-------------	---------------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス（授業の概要・評価について）障害児教育の歴史
- 第 2 回 肢体不自由の基礎知識と実態把握
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 3 回 特別支援教育の理念と基本的な考え方、学習指導要領による教育課程の編成、配慮事項
特別支援学校(肢体不自由)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 4 回 肢体不自由児に対応した教育課程の考え方と編成、教科書
特別支援学校(肢体不自由)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 5 回 障害の重度・重複化と今日的課題
～医療的ケア等
- 第 6 回 特別支援学校における自立活動の6区分と指導
～健康の保持、身体の動きを中心に
- 第 7 回 特別支援学校における自立活動の6区分と指導
～コミュニケーション、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握を中心に
- 第 8 回 個別の教育支援計画と個別の指導計画による指導・支援
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 9 回 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成演習
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 10 回 情報機器等の活用とその授業の実際
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 11 回 社会的・職業的自立をめざした進路指導、職業教育とキャリア教育
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 12 回 個別の指導計画をもとにした指導案作成と教材研究
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 13 回 授業改善につなげるための授業研究
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 14 回 授業の振り返りとレポート提出
- 第 15 回 レポート発表と評価

作成したレポートを基にまとめた内容をプレゼンテーションする。発表内容を受講者間で相互評価し、評価内容を教員も含めてフィードバックすることで、今後の学びに生かせるようにする。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない。学修した内容を総合的に考察するレポートを課す。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義及び学んだことに対する意見の発表、ディスカッションなどの演習を行う。毎回、学習内容を振り返り、整理するためにミニコメントシートを作成し、manaba等で提出する。また、講義の中で、前回出された意見の紹介や説明を行い、出された疑問をテーマにディスカッションする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストを熟読しておくこと。

肢体不自由のあるこどもを教育する小学校特別支援学級や特別支援学校でボランティア活動等を定期的に行い、特別支援教育の現場を体験していることが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

肢体不自由教育に関する学習指導要領や教育課程編成について、授業で扱った基礎的な内容を理解できるように、最終の個別レポートだけで評価するのではなく、ルーブリックに示す項目を基に、下記の点から総合的に評価する。

個別レポート 50% 個別課題(1)(2)に対応

毎回のミニコメントシート 30% 個別課題(1)(2)(3)に対応
グループワークや発表をルーブリックから総合的に評価

20% 個別課題(3)に対応

〔留意事項（Other Information）〕

本科目と知的障害者教育論Iで扱う内容を考慮し、授業予定を調整して行う場合がある。その際は、事前に予告し、事前学習できるようにする。

学習指導案作成や授業の実際などについて、大学での学びを実際のなものとするために、近隣の特別支援学校に協力をお願いし、学外授業により授業参観と授業研究の演習を行う予定である。（交通費等は実費必要）

特別支援学校教員として最低限必要な基礎・基本を実践的に学ぶため、全回出席し学修することを原則とする。何らかの理由で欠席した場合は、後日補習等を実施する。

今期は、新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアル【改定版】 (https://www.notredame.ac.jp/pdf/cms/0816_manual.pdf)に基づく配慮の上で、対面授業を原則とする。感染の疑いがある場合や発熱などの症状がある場合などは、マニュアルを参照し必要な対応をとること。また、健康不安等の場合はZoomによる授業参加も可能な場合がある。接続方法も含めて事前に申し出ること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』改定版発売予定(2020.3) 学内販売予定

他の障害種の教育論でもテキストとして使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領/文部科学省/海文堂出版/2018/978-4-303-12424-3

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/ 2018/9784304042294

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) / 文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042300

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/ 2018/9784304042317

〔参考URL(URL for Reference)〕

特別支援学校学習指導要領解説 文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>)

社会人基礎力 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》特別支援教育の専門教育科目について

特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱虚弱)において教員として勤務経験あり。

肢体不自由者教育論 II

EDD3401N0J
大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)
3年次
2単位 前期
木曜 3限
DP4: 思考・解決力
60
太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

肢体不自由のある幼児、児童及び生徒(以下、こどもと記す)の特別な教育的ニーズに応じた個別の教育支援計画と個別の指導計画を活用したコミュニケーション指導のための教材・教具の作成演習や様々な授業実践事例を通して、指導・支援の理論と方法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)肢体不自由のあるこどもへの**指導・支援に必要な知識と技能**を習得する。

(2)個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**教材・教具の作成演習**と、授業計画に基づく**学習指導案の作成と模擬授業**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。

(3)学んだ内容を知識として理解するだけでなく、学んだこ

とを実際に生かすために、**演習などを通して社会人基礎力を主体的に向上させる。**

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	肢体不自由教育において、何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしな	肢体不自由教育において、学ぶことの中で、何が最も重要な事柄なのか	肢体不自由教育における知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに関連させて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、肢体不自由教育について、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	肢体不自由教育について、自分の学びを振り返り、考えることができる。	肢体不自由教育について、新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	肢体不自由教育について、仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	肢体不自由教育について、グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	肢体不自由教育について、学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	肢体不自由教育について、自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、肢体不自由教育に関して学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス（授業の概要・評価について）
- 第 2 回 特別支援学校(肢体不自由)の教育課程
肢体不自由のあるこどもへの**指導・支援に必要な知識と技能**を習得する。
- 第 3 回 個別の指導計画の作成による授業計画
肢体不自由のあるこどもへの**指導・支援に必要な知識と技能**を習得する。
- 第 4 回 コミュニケーションの発達と拡大・代替コミュニケーション（AAC）の活用
肢体不自由のあるこどもへの**指導・支援に必要な知識と技能**を習得する。
- 第 5 回 コミュニケーションの障害とAAC（知的障害、自閉スペクトラム症、肢体不自由）
肢体不自由のあるこどもへの**指導・支援に必要な知識と技能**を習得する。
- 第 6 回 教材・教具の作成準備
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**教材・教具の作成演習**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 7 回 教材・教具の作成
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**教材・教具の作成演習**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 8 回 教材・教具の発表と相互評価
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**教材・教具の作成演習**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 9 回 授業計画と学習指導案の作成：講義・演習
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した授業計画に基づく**学習指導案の作成と模擬授業**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 10 回 授業実践例から考える
～準ずる課程の教科、総合的な学習
- 第 11 回 授業実践例から考える
～知的障害を併せ有するこどもの各教科を中心とした教育課程
- 第 12 回 授業実践例から考える
～自立活動を中心とした教育課程
- 第 13 回 医療的ケアの必要なこどもに対する保護者と連携した指導や支援
- 第 14 回 授業研究の方法と授業改善の演習
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した授業計画に基づく**学習指導案の作成と模擬授業**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 15 回 レポート発表と相互評価
作成したレポートを基にまとめた内容をプレゼンテーションする。発表内容を受講者間で相互評価

し、評価内容を教員も含めてフィードバックすることで、今後の学びに生かせるようにする。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない。学修した内容を総合的に考察するレポートを課す。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

近年、特別支援学校の教員等から「**介護等体験や教育実習に来て特別支援学校の現場の実際を体験するのではなく、学生の段階で特別支援学校の体験と、体験に基づく大学の学修を進めてほしい。**」といった要望を聞く。これは、中教審答申（参考URL参照）にも述べられている事である。

そのため、4年次に特別支援教育実習を控えていることを前提に、講義及び学んだことに対する意見の発表やディスカッション、模擬授業などの演習を行う。

毎回、学習内容を振り返り、整理するためにミニコメントシートを作成し、manaba等で提出する。また、講義の中で、前回出された意見の紹介や補足説明を行い、出された疑問をテーマにディスカッションする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次年度に控えた特別支援教育実習に対応できる学修とするため、肢体不自由のあるこどもを教育する特別支援学校でボランティア活動等を定期的に行っていることが望ましい。本科目では、特別支援学校での定期的なボランティア等を行なっていることを前提として講義や演習を進めたい。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

肢体不自由教育に関する基礎的な内容の理解を基に、教材・教具の作成や実際の授業について実践力につながる基盤を身に付けるために、最終の個別レポートだけで評価するのではなく、ルーブリックに示す項目を基に、下記の点から総合的に評価する。

個別レポート 50% 個別課題(1)(2)に対応

毎回のミニコメントシート 30% 個別課題(1)(2)(3)に対応
グループワークや発表をルーブリックから総合的に評価

20% 個別課題(3)に対応

〔留意事項（Other Information）〕

4年次での**特別支援教育実習に必須の実践力となる知識や技能などを学ぶ**。そのために、**全回出席し学ぶことが大前提で、主体的に学ぶこと**を期待する。何らかの理由で欠席した場合は、後日補習等を実施する。

本科目と知的障害者教育論Ⅱで扱う内容を考慮し、授業予定を調整して行う場合がある。その際は、事前に予告し、事前学習できるようにする。

次年度の特別支援教育実習に向けて、こどもの実態・課題に応じた学習指導案作成や授業実践に関する学びを实际的なものとするために、近隣の特別支援学校に協力をお願いし、学外授業により授業参観と授業研究の演習を行う予定である。（交通費等は実費必要）

また、医療的ケアの必要なこどもへの指導は保護者との

連携が欠かせないため、第13回では保護者の体験談を聴く予定である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』改定版発売予定(2020.3) 学内販売予定

他の障害種の教育論でもテキストとして使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領/文部科学省/海文堂出版/2018/978-4-303-12424-3

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/ 2018/9784304042294

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) / 文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042300

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/ 2018/9784304042317

〔参考URL(URL for Reference)〕

特別支援学校学習指導要領解説 文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>)

中央教育審議会答申 平成27年12月21日 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365665.htm)

社会人基礎力 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》特別支援教育の専門教育科目について

特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱虚弱)において教員として勤務経験あり。

社会

EDP1250NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)

1年次

2単位 後期

金曜3限

DP2: 知識・理解力

60

大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

小学校社会科で扱う内容である「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」に関する社会諸科学の最新の研究成果についての知識を習得する。また、社会認識が空間軸・時間軸に応じて形成されることを、それぞれの分野の講義において事象を探究することをおして理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1、小学校社会科の授業を開発、実践するために必要な知識を習得する。

2、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」に関する最

新の知識を習得する。

3、社会事象について探究したり、フィールドワークを行ったりする。

4、空間軸・時間軸による社会認識形成の過程において働く「思考」「判断」について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	小学校社会科の内容が理解できていない。(59%以下)	小学校社会科の内容が十分に理解できていない。(60%~79%)	小学校社会科の内容が理解できている。(80%~89%)	小学校社会科の内容はもちろん、それ以上の内容を理解できている。(90%~)
学びに向かう力	小学校社会科の内容を理解するための予習・復習を全く行わない。	小学校社会科の内容を理解するための予習・復習を十分に行わない。	小学校社会科の内容を理解するための予習・復習を行っている。	小学校社会科の内容を理解するための予習・復習はもちろん、自ら興味関心をもった内容を積極的に学ぼうとしている。

〔授業計画〕

第1回 社会科とは

小学校社会科の内容が社会諸科学に基づいていること、社会科学の研究方法について(対面)

第2回 学習指導要領の変遷とその背景

社会科の誕生と変遷(対面)

第3回 日本の産業構造

日本の農業、水産業、工業などのしくみ(対面)

第4回 日本の諸地域と地理的環境

日本各地の気候や自然環境や地誌について(対面)

第5回 地図の利用

地図の作成や主題図、一般図について(対面)

第6回 フィールドワーク

第3回~第5回の学習を活かして、フィールドワークを行う(対面:個別学習)

第7回 歴史を学ぶ意味

歴史の見方・考え方、歴史認識について(対面)

第8回 日本列島の歴史

日本の文化とその背景(対面)

第9回 歴史上の人物と文化財

京都を舞台に活躍した人物や京都の文化財について(対面)

第10回 国内時事問題

政治・経済を中心に時事問題について(対面)

第11回 海外時事問題

政治・経済を中心に時事問題について(対面)

- 第 12 回 学習指導案について
学習指導案について (オンライン)
- 第 13 回 学習指導案の作成
学習指導案作成方法 (オンライン)
- 第 14 回 学習指導案検討会
提出された学習指導案について (対面)
- 第 15 回 社会事象を探究する社会科
社会科授業とは (対面)、講義内試験
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
講義形式で行う。しかし、内容によりグループでの討議など演習も交えながら進める。
* 提出されたレポートは添削し返却したり、講義での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートにまとめておく。毎時間、予習課題を出す。自力で分からない予習課題は、図書館の資料などを活用して自力解決することが基本になる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
毎時間のリフレクションを30%、学習指導案を20%、最終試験を50%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕
シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
特に指定しない。講義の中で適時紹介する。また、資料を講義の中で配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『社会科教育のルネサンス』/原田智仁編著/保育出版社/2016/9.784905493228E12

〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
«実践的科目»教職に関わる科目について
/ 小学校教員としての勤務経験あり

社会科指導法

EDP2401N0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)
2年次
2単位 前期
金曜 2限
DP4: 思考・解決力
60
幼小・小特必修
大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕
先人が行ってきた授業事例に学びながら、教材研究、単元づくりを行い、社会科の授業づくりと学習指導案の作成方法を理解する。模擬授業を実践し、授業内容と共に発問、板書についても理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕
1.教材研究、単元づくりの進め方を理解する。
2.学習指導案の作成方法を理解する。
3.授業の展開方法や発問、板書の方法を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解	小学校学習指導要領における社会科の目標は理解できているもの、学習指導案の作成、模擬授業の実施が困難である。	小学校学習指導要領における社会科の目標を理解し、学習指導案を作成できるもの、模擬授業を実施できない。	小学校学習指導要領における社会科の目標を理解し、学習指導案を作成でき、模擬授業が実施できる。	小学校学習指導要領における社会科の目標を踏まえつつ、より発展的な学習内容を考え、学習指導案を作成し、模擬授業を実施できる。
思考・判断・表現	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に活かすことが全くできない。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に十分に活かすことができない。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に十分に活かすことができる。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に活かすのはもちろん、さらなる改善に努めている。

〔授業計画〕
第 1 回 社会科の授業事例の紹介と分析① (第3・4学年内容)
第 2 回 社会科の授業事例の紹介と分析② (第5・6学年内容)
第 3 回 模擬授業の在り方と意義
第 4 回 学習指導案の作成方法
第 5 回 学習指導案の作成① (個人)

- 第 6 回 学習指導案の作成② (グループ)
- 第 7 回 教材の開発
- 第 8 回 学習指導案の分析
- 第 9 回 模擬授業の実施と検討① (第3・4学年「地域の産業、消費生活、生活環境、安全の学習」)
- 第 10 回 模擬授業の実施と検討② (第3・4学年「地域の地理的環境、先人の働きの学習」)
- 第 11 回 模擬授業の実施と検討③ (第5学年「国土と環境の学習」)
- 第 12 回 模擬授業の実施と検討④ (第5学年「産業の学習」)
- 第 13 回 模擬授業の実施と検討⑤ (第6学年「歴史的分野の学習」)
- 第 14 回 模擬授業の実施と検討⑥ (第6学年「公民的分野の学習」)
- 第 15 回 模擬授業の総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と模擬授業などの演習を並行して行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学習指導案の作成、模擬授業の準備に授業時間外の学習を求める。教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めることもある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、模擬授業時のリフレクションカード (30%)、学習指導案 (50%)、模擬授業 (20%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説社会編』/文部科学省/日本文教出版/2018/978-4536590099/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『社会科固有の授業理論30の提言』/岩田一彦/明治図書/2001/9.784184543138E12

『「習得・活用・探究」の社会科授業&評価問題プラン 小学校編』/米田豊/明治図書/2011/9.784180222285E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教職に関わる科目について

／ 小学校教員としての勤務経験あり

初等教育実習 I a

EDN3601N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

60

別に定める

集中

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 神月 紀輔 小川 博士 大西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身につけた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。

これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

大学で学んだ教育・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	実習を私的な理由で欠席する、子供の問いかけなどに反応できない、責任ある行動がとれないなど、教育実習に対して積極的な取り組み姿勢がない。	実習校園の指導に従い、社会人としての責任も持って教育実習を進めることができる。	実習校園の指導に従い実習を進め、子どもの指導を、自らも工夫して行おうとする。	実習校園の指導に従い実習を進め、大学の授業で学んだことを十分に生かして、子どもの学びのために指導の挑戦をしようとする。

〔授業計画〕

協力いただける小学校において、教育実習を4週間行う。

教育実習の方法は、各小学校と打ち合わせること。

必要な情報は、教育実習事前指導で指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校および実習指導教員の指導により、授業・保育とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

実習ノートは返却をし、その内容に関しては教員からフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート、教育実習先からの評価、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 教育実習と事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。

2. 上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

小学校学習指導要領/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607/学内販売あり

※すでに持っている場合は、新たに購入する必要はない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

神月(藤本, 河佐, 大西, 小川, 住本) 教員として公立学校の勤務経験あり

初等教育実習 I b

EDN3602N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

60

別に定める

集中

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 神月 紀輔 小川 博士 大西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修し続けてきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいえるべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておかなければならない。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

別途提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。フィードバックは、実習中の授業反省会の内容を踏まえて教育実習事後指導内で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 教育実習、事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。(4月当初より開講)

2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 教員として公立学校に勤務経験あり(神月, 渡邊, 藤本, 河佐, 大西, 小川)

初等教育実習 II a

EDN4600NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

60

別に定める

集中

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 神月 紀輔 小川 博士 大西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。

これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われ

ることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

大学で学んだ教育・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	実習を私的な理由で欠席する、子供の問いかけなどに反応できない、責任ある行動がとれないなど、教育実習に対して積極的な取り組み姿勢がない。	実習校園の指導に従い、社会人としての責任も持って教育実習を進めることができる。	実習校園の指導に従い実習を進め、子どもの指導を、自らも工夫して行おうとする。	実習校園の指導に従い実習を進め、大学の授業で学んだことを十分に生かして、子どもの学びのために指導の挑戦をしようとする。

〔授業計画〕

協力いただける小学校において、教育実習を4週間行う。

教育実習の方法は、各小学校と打ち合わせる。

必要な情報は、教育実習事前指導で指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校および実習指導教員の指導により、授業・保育とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

実習ノートは返却をし、その内容に関しては教員からフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート、教育実習先からの評価、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 教育実習と事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてく

れる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということから自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。

2. 上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

小学校学習指導要領/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607/学内販売あり

※すでに持っている場合は、新たに購入する必要はない。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

《実践的科目》実務経験等：

神月、藤本、河佐、大西、小川、住本 教員として公立学校の勤務経験あり

初等教育実習Ⅱ b

EDN4601NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

60

別に定める

集中

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 神月 紀輔 小川 博士 大西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

[科目の教育目標 (Course Description)]

0

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

0

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

レポート、教育実習先からの評価、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

[留意事項 (Other Information)]

1. 教育実習と事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということから自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。

2. 上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

小学校学習指導要領/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607/学内販売あり

※すでに持っている場合は、新たに購入する必要はない。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

《実践的科目》実務経験等：

神月、渡邊、藤本、河佐、大西、小川 教員として公立学校の勤務経験あり

障害者教育課程論

EDD3250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

木曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

江川 正一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援教育の対象は、特別支援学校が対象とする障害種別である視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害、病弱虚弱だけではない。特別支援教育は、小・中学校の特別支援学級における指導や通常の学級に在籍している子供に対する指導など、障害に基づく学習上又は生活上の困難の改善・克服に必要な特別の指導を、全ての学校で行うこととしている。

本授業では、特別な教育的ニーズのある子供の理解を深め、その評価・指導・支援に関する基本的な知識と技能を習得することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 我が国の特別支援教育に関わる教育制度、教育法規等について理解する。
2. 特別支援教育における教育課程編成の方法を理解する。
3. 特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の指導のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 障害のある子どもの教育課程 1
教育課程に関する法制、教育課程の意義
- 第 2 回 障害のある子どもの教育課程 2
学校における教育課程編成について
- 第 3 回 障害のある子どもの教育課程 3
教育課程編成上の一般方針、内容等の取り扱いの共通事項
- 第 4 回 特別支援学校の教育課程 1
特別支援学校幼稚部、小学部、中学部、高等部の特徴
- 第 5 回 特別支援学校の教育課程 2
個別の指導計画、個別の教育支援計画
- 第 6 回 特別支援学校の教育課程 3
自立活動の目標と指導内容、指導計画作成
- 第 7 回 特別支援学校の教育課程 4
キャリア教育の視点から見た教育課程のあり方
- 第 8 回 特別支援学校の教育課程 5
視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者、病弱者に対する特別支援学校の教育課程の特徴
- 第 9 回 特別支援学校の教育課程 6
知的障害者に対する特別支援学校の教育課程の特徴
- 第 10 回 特別支援学校の教育課程 7

- 重複障害、訪問教育の教育課程
- 第 11 回 特別支援学校の教育課程 8
交流・共同学習の推進
- 第 12 回 学習指導要領
学習指導要領改訂のポイントについて
- 第 13 回 地域における特別支援学校の役割
特別支援教育コーディネーターと特別支援学校の
センター的機能について
- 第 14 回 小中学校における特別支援教育 1
特別支援学級の教育課程について
- 第 15 回 小中学校における特別支援教育 2
通級指導の教育課程について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心として、講義内容に基づくテーマについてディスカッションを適時行い、特別支援教育の教育システム、教育課程の編成等について理解をする。

レポートについて、次回授業の中で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前にテキストの関係する箇所を熟読しておく。

特別支援学校等のホームページを閲覧し、実際の指導の様子を把握しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート (30%) 及びテスト (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領』／文部科学省／海文堂出版／ 2018／978430312424243／学内販売なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編 (幼稚部・小学部・中学部)』／文部科学省／開隆堂／2018／9784304042294

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説各教科等編 (小学部・中学部)』／文部科学省／開隆堂／2018／9784304042300

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部)』／文部科学省／開隆堂／2018／9784304042317

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 12年 (内 難聴学級担任10年)

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱) 19年

京都市立特別支援学校校長 2年

情報教育

EDC3400N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

月曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

情報教育の目標である「情報活用能力の育成」について理解し、今後の生活に役立てるとともに、地域で指導できる人材の育成を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

情報活用能力の3つの構成要素、

- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的理解
- ・情報社会に参画する態度の育成

に関して正しく理解し、社会で生かせるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	情報教育の目標を理解できない	情報活用能力を理解している	各観点における、教育や問題点を理解している	各教科や保育での除法教育の在り方が完全に理解でき、人に教えることができる。
言語力	情報教育における用語を理解できない	情報教育に関する用語を理解できる	情報教育に関する外国語の用語の意味を理解できる	ディスカッションで、用語を確実に使うことができ、英語などを用いて自分の考えを話すことができる
思考・解決力	様々な情報を問題解決に活用しない	情報を活用した、問題解決を考慮することができる	なぜその情報はそこにあるのか熟考し、活用を考慮する	子供の実態に応じた、情報の活用を考慮ことができ、発達年齢に

			とができ る。	配慮しながら、情報活用の力をつけようとする
共生・協働する力	自分の考えでのみ動いてしまう	人と話し合い、問題を解決しようとする	教員で話し合い、チームとして子供の指導に当たることができる	Webやネットの特性も理解したうえで、遠隔会議やe-Learningにも積極的に参加し、他者と協働して成果を上げようとする
創造・発信力	情報教育の目標に合う授業を考えることができない	情報活用の実践力を育てる授業を創造できる	情報活用能力全般を育てる授業を常に意識して考えることができる。	自らの授業内容を学級通信などを通して、正確に保護者にも伝えることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義オリエンテーション
- 第 2 回 情報教育の目標および情報活用能力について
- 第 3 回 情報教育の重要性と課題
- 第 4 回 情報活用の実践力の現状と課題
- 第 5 回 情報活用の実践力を育む教材
- 第 6 回 学校現場における情報活用の実践力
- 第 7 回 子供たちが情報活用能力を養うためのポイント
- 第 8 回 小学校におけるプログラミング教育
- 第 9 回 プログラミング教育の実践演習
- 第 10 回 情報社会に参画する態度
- 第 11 回 スマートフォンとゲーム依存およびソーシャルメディアによる問題点
- 第 12 回 行政サイドから見た問題点 (外部講師)
- 第 13 回 これからの高度情報化社会
- 第 14 回 理想の情報活用能力とは
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義による解説と受講者の小グループによるディスカッションを適時、導入し、受講生が主体的に講義に参加できる学習方法を取り入れて行う。

また、e-learningを行うことがある。

内容は、小学校・幼稚園での情報教育の方法について考えることになる。

課題に関しては、授業中に相互評価を行ったうえで、教員からコメントを述べる形でフィードバックを行う。また、個別にオフィスアワーなどで質問を受け、指導する。

毎回の講義に関しては、responを使用したコメントを収集し、その内容に関しては次の講義で紹介をし、質問項目などは全体の場でフィードバックを行う。

プログラミング教育実践演習では、タブレットを用いたプログラミングの体験を基に小学生への指導方法をディスカッションで考え、教員の助言も参考に授業の組み立てができるようにする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前回までの復習をしておくこと。

学習指導要領や教育要領をよくみておくこと。

自分が授業をするというイメージをもって授業に臨むこと。

グループでの活動に積極的に参加すること

GPAによる個別学習方法

(ここでのGPAはあくまでも目安です)

GPA<1.5の場合

「教育の方法と技術」の復習を確実にしておくこと

※上記科目未履修の場合は、新しい学習指導要領をみておく。

GPAが1.5から3の場合

上記に加えて、最近の情報教育に関する情報をWeb等で確認しておく

GPA>3.0の場合

上記に加えて、情報機器の活用および小学校プログラミング教育の現状把握を文献やWebで行っておく

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加意欲・態度 (30%)

課題やレポートに対する自己評価・相互評価 (40%)

期末レポート (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は教員 (幼稚園も含む) を志望する学生向けの実践的科目として設定しており、教員志望者以外は、その旨理解して参加することが必要である。教員志望者以外への配慮は特別に行わないので注意すること。

教育実践について小グループによるディスカッションを行うので、講義に主体的に参加することが重要である。

外部講師を招いての授業の可能性もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小学校学習指導要領』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607

『高等学校学習指導要領解説情報編』/文部科学省/開隆館出版販売/2010/9.784304041655E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

文部科学省 教育の情報化に関する手引き http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 教員として公立学校に勤務経験あり

食と健康の教育

EDC3451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

月曜1限

DP4: 思考・解決力

60

住本 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

食生活は健康の基盤となるだけでなく、我々の生活を豊かにするうえでも重要な役割を果たしている。本授業では、健康の維持・増進のために知っておきたい栄養素の働きやバランスの良い食事について理解することに加えて、様々な視点から食について考え、自身の食生活を振り返ることなどを通じて、「食」に対する興味・関心を深めることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・栄養素の基礎やバランスの良い食事について理解する。
- ・我々の生活における食の役割について理解する。
- ・自分自身の食生活について振り返り、健全な食生活とは何か考える。
- ・食教育について知り、簡単な教育計画が提案できるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
現代の食に関する諸問題
- 第 2 回 食の概念と大切さ
- 第 3 回 食に関する基本的知識
- 第 4 回 食育について
- 第 5 回 PBLの進め方について
- 第 6 回 調査・発表資料作成① (各自テーマを決める)
- 第 7 回 調査・発表資料作成② (何をどう調査していくのか)

- 第 8 回 調査・発表資料作成③ (調査結果と分析)
- 第 9 回 調査・発表資料作成④ (結果の考察と資料作成)
- 第 10 回 調査・発表資料作成⑤ (資料作成と発表の工夫)
- 第 11 回 発表① (例: 食の大量廃棄について)
- 第 12 回 発表② (例: 幼稚園での食育実践例)
- 第 13 回 発表③ (例: 食の好み・大人と子どもの比較から)
- 第 14 回 発表④ (例: 食物アレルギーの実態)
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義を中心とした形式で進め、演習やDVD鑑賞も適宜取り入れる。
- ・テーマにもとづいて、各自 (またはグループ) でまとめ (発表) を行うことにより理解を深める。
- ・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
- ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

食に対して興味・関心を持ち、普段から食に関する内容について情報を収集する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表、発表資料 (60%)、授業内における活動 (20%)、小レポート (20%) に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要に応じて資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『栄養の基本がわかる図解事典』/中村丁次監修/成美堂出版//
『食と健康の科学』/稲山貴代・大森玲子編著/建帛社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (小学校教員として、給食指導、家庭科授業を通じた食育に取り組んだ経験あり)

図工 I

EDC2201N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

月曜 2限

DP2: 知識・理解力

15

藤本 陽三

【科目の教育目標 (Course Description)】

図画工作科が担うべき役割とその目指すところ、内容構成の考え方や、各領域の内容の概要について、小学校学習指導要領、教科書等から理解する。そして、その目標を具現化するための方法を、美術と教育の本質から考える。そのために、各領域の題材についての教材研究や学校教育現場での実践例等を通して、子どもたちが、感性を働かせながら「つくりだす喜び」を味わい、一人一人のよさを発揮しながら自己実現を図るための図画工作科教育のあるべき姿を考察する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ・ 図画工作科の性格と目標について理解する。
- ・ 図画工作科教育の変遷と今日的課題について理解する。
- ・ 図画工作科の内容構成について理解する。
- ・ 図画工作科の指導内容について、各領域の題材についての教材研究を通して把握する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	図画工作科の目標・内容の理解が不十分で、説明することができない。	図画工作科の目標・内容を理解し、ある程度説明することができる。	図画工作科の目標・内容を理解し、説明することができる。	図画工作科の目標・内容を理解し、授業づくりの視点とともに説明することができる。
技能・表現力	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等の習得が不十分で、使うことができない。	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等がある程度習得し、使うことができる。	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等を習得し、活用することができる。	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等を習得し、状況に応じて選んだり組み合わせたりして活用することができる。

学びに向かう力	図画工作科の指導における自らの学習課題について説明することができない。	図画工作科の指導における自らの学習課題についてある程度説明することができる。	図画工作科の指導における自らの学習課題について説明することができる。	図画工作科の指導における自らの学習課題と課題解決の具体策について説明することができる。
---------	-------------------------------------	----------------------------------------	------------------------------------	---------------------------------------------

【授業計画】

- 第 1 回 図画工作科の担うべき役割と目指すもの
- 第 2 回 図画工作科教育の変遷
- 第 3 回 小学校学習指導要領の変遷と今日的課題
- 第 4 回 図画工作科の性格と目標
- 第 5 回 図画工作科の内容構成
- 第 6 回 造形遊び① (指導内容についての理論研究)
- 第 7 回 造形遊び② (演習)
- 第 8 回 絵や立体に表す① (指導内容についての理論研究)
- 第 9 回 絵や立体に表す② (演習)
- 第 10 回 工作に表す① (指導内容についての理論研究)
- 第 11 回 工作に表す② (演習)
- 第 12 回 鑑賞① (指導内容についての理論研究)
- 第 13 回 鑑賞② (演習)
- 第 14 回 図画工作科の指導と評価
- 第 15 回 指導計画の作成及び各教科・領域等との関連、まとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

講義、討論、実習、演習を中心に進める。具体的な題材に関する実習も必要に応じて行う。
* 提出された課題等については添削の後、返却したり、授業での討議の課題として活用したりする。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

毎回の学習内容と対応する教科書の章を読んでおくこと (第1回「図画工作科の担うべき役割と目指すもの」は第1部第1章「美術教育の目標」、第2回以降は講義の中で指示する)

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

評価は、授業参加度 (30%)、小レポート[作品等の提出課題も含む] (40%)、試験に替えてのレポート (30%) により行う。

【留意事項 (Other Information)】

シラバスは、実態に応じて変更することもあり得る。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

『美術教育概論 (新訂版)』/大橋 功/日本文教出版/2018.10/9784536601030/学内販売予定

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』/
文部科学省/日本文教出版/2018.2/9784536590112/学内販売
予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫/教員として学校に勤務経験あり

図工 II

EDC2202N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

水曜1限

DP2：知識・理解力

15

藤本 陽三

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「保育所保育指針」に示された「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」の具現化を図るため、幼児教育における造形の指導を行ううえで必要となる基礎的・基本的な知識や技能を習得するとともに、受講者自身が造形の楽しさや喜びを体験し、感性を豊かにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 造形活動に必要な材料・用具についての基礎的・基本的な知識・技能を習得する。

(2) さまざまな表現方法を体験し、「かくこと」「つくること」の楽しさや喜びを味わいつつ、感性を豊かにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等についての理解が不十分で、説明できない。	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等について理解し、ある程度説明することができる。	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等について理解し、説明することができる。	より豊かな造形活動の具現化に向け、材料・用具及び技法を選んだり、組み合わせたりして活用することについて説明することができる。

技能・表現力	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等を使って活動(表現)することができない。	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等を使って活動(表現)することができる。	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等を活用して活動(表現)することができる。	幼児の活動をより豊かなものにするという視点から、材料・用具及び技法等の使い方を工夫したり、組み合わせたりして活用することができる。
学びに向かう力	幼児の造形活動の指導における自らの学習課題について説明することができない。	幼児の造形活動の指導における自らの学習課題についてある程度説明することができる。	幼児の造形活動の指導における自らの学習課題について説明することができる。	幼児の造形活動の指導における自らの学習課題について説明するとともに課題解決の具体策について説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 造形遊び①(材料・素材遊び...並べる・積む)
- 第 3 回 造形遊び②(材料・素材遊び...組み合わせる)
- 第 4 回 造形遊び③(技法・道具遊び)
- 第 5 回 絵や立体に表す①(材料・用具の使い方...パス・クレヨン他)
- 第 6 回 絵や立体に表す②(材料・用具の使い方...絵具他)
- 第 7 回 絵や立体に表す③(観察からの表現)
- 第 8 回 絵や立体に表す④(経験からの表現)
- 第 9 回 絵や立体に表す⑤(お話・空想からの表現)
- 第 10 回 絵や立体に表す⑥(まとめ...心象表現)
- 第 11 回 遊んだり・使ったりするものをつくる①(用途を考えた表現...「使う」)
- 第 12 回 遊んだり・使ったりするものをつくる②(用途を考えた表現...「飾る」)
- 第 13 回 遊んだり・使ったりするものをつくる③(機能を考えた表現...「動く」)
- 第 14 回 遊んだり・使ったりするものをつくる④(機能を考えた表現...「音が出る」)
- 第 15 回 遊んだり・使ったりするものをつくる⑤(まとめ...適用表現)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習、演習を中心に、講義も交えて進める。具体的な題材の指導に関する演習も必要に応じて行う。

*提出された課題（作品等）についてはコメントを添付して返却したり、授業での討議の課題として活用したりする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次回の学習内容について、提示する資料等により予習するとともに、必要に応じて材料等を準備する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30%）、作品等の提出課題〔小レポートも含む〕（70%）

〔留意事項（Other Information）〕

シラバスは、実態に応じて変更することもあり得る。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『美術教育概論（新訂版）』/大橋 功/日本文教出版/2018.10/9784536601030/学内販売予定

『保育所保育指針解説』/厚生労働省/フレーベル館/2018.3/9784577814482/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫／ 教員として学校に勤務経験あり

図工科指導法

EDP2451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

2年次

2単位 後期

水曜1限

DP4：思考・解決力

60

幼小・小特必修

藤本 陽三

〔科目の教育目標（Course Description）〕

子どもたちが表現や鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら「つくりだす喜び」を味わい、一人一人のよさを発揮しながら自己実現を図るための図画工作科の実践的な指導力を習得する。そのために、小学校学習指導要領の内容や教科の特質を踏まえつつ、各領域の題材についての教材研究、学習指導案の作成、模擬授業とその分析等を通して、授業づくりの基礎を身につけ、具体的な指導法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

・ 図画工作科の性格、目標、内容について、小学校学習指導要領、教科書等を通して理解する。

・ 指導計画及び学習指導案の作成方法を理解する。

・ 各領域の題材についての教材研究を通して、その内容と指導法を理解する。

・ 学習指導案を作成し、模擬授業とその分析を通して、授

業づくりの基礎を身につける。

・ 材料・用具の使い方や安全面での配慮について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	図画工作科の目標・内容の理解が不十分であり、説明することができない。	図画工作科の目標・内容を理解し、ある程度説明することができる。	図画工作科の目標・内容を理解し、説明することができる。	図画工作科の目標・内容を理解し、授業づくりの視点とともに説明することができる。
思考・解決力	学習指導の基本的事項が身に付いておらず、学習指導計画が立案できない。	学習指導の基本的事項を身に付け、学習指導計画が立案できる。	学習指導の基本的事項を身に付けるとともに、学びの過程での資質・能力の働きを明確にし、その実現に向けて学習指導計画が立案できる。	教科書等の題材をもとに、状況に合わせて新たな題材を考案・開発できる。
学びに向かう力	より良い学習指導の実現に向けての自らの学習課題について説明することができない。	より良い学習指導の実現に向けて、自らの学習課題についてある程度説明することができる。	より良い学習指導の実現に向けて、自らの学習課題について説明することができる。	より良い学習指導の実現に向けて、自らの学習課題と課題解決の具体策について説明することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 図画工作科の性格、目標について

第 2 回 図画工作科の授業づくりについて、教科書、学校教育現場における授業実践等から学ぶ

第 3 回 指導計画と評価、学習指導案の作成方法について

第 4 回 「造形遊び」の題材の指導について

第 5 回 「造形遊び」の題材の指導案作成

第 6 回 「絵や立体に表す」の題材の指導について

第 7 回 「絵や立体に表す」の題材の指導案作成

第 8 回 「工作」の題材の指導について

第 9 回 「工作」の指導案作成

第 10 回 「鑑賞」の題材の指導について

第 11 回 「鑑賞」の題材の指導案作成

第 12 回 模擬授業（前半）

第 13 回 模擬授業（後半）

第 14 回 模擬授業の分析、考察（各班ごと）

第 15 回 模擬授業の分析、考察（全体）、まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義、討論、演習及び実習を中心に進める。

*提出されたレポート(学習指導案等)については添削の後、返却したり、授業での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第1回から第4回及び第6回、第8回、第10回の受講に際しては、毎回の学習内容と対応する教科書の章を読む。第5回、第7回、第9回、第11回の受講に際しては、配布した資料をもとにして、学習指導案の指定された項目について、各自立案する。第12回、第13回については、模擬授業の準備を行い、あわせて児童の反応を予想してまとめる。第14回、第15回については各自で授業についての分析・考察を行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(20%)、学習指導案及び模擬授業(40%)、試験(40%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することもあり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『美術教育概論(新訂版)』/大橋 功/日本文教出版/2018.10/9784536601030/学内販売予定

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』/文部科学省/日本文教出版/2018.2/9784536590112/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫/ 教員として学校に勤務経験あり

生活

EDN1252N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)

1年次

2単位 後期

火曜3限

DP2: 知識・理解力

60

小川 博士 大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活科の目標・内容について、生活科に関わるさまざまな領域の事例や演習を通して、理解する。また、他教科、総合的な学習の時間との関連についても理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 生活科の目標・内容について、学習指導要領や具体的な活動や体験を通して理解することができる。

2. 生活科と総合的な学習の時間とのつながりや、他教科との関連について理解することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	小学校生活科の内容構成の理解が不十分であり、それについて説明することができない。	小学校生活科の内容構成を理解し、それについてある程度、説明することができる。	小学校生活科の内容構成を理解し、それについて説明することができる。	小学校生活科の内容構成を理解し、それについて授業づくりの視点とともに説明することができる。
学びに向かう力	小学校生活科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、説明できない。	小学校生活科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、ある程度説明できる。	小学校生活科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、明確に説明できる。	小学校生活科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、授業づくりと関連させて説明できる。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション<対面>

第2回 学習指導要領の変遷とその背景、生活科の目標(担当:大西)<対面>

第3回 生活科の内容構成①(主として自然との関わり)と大学探検(担当:小川)<対面>

第4回 植物の栽培(担当:小川)<対面>

第5回 身近な自然との触れ合い(担当:小川)<対面>

第6回 生活科と理科との関連(担当:小川)<対面>

第7回 自然や物を使った遊び(担当:小川)<個別学習>

第8回 遊び発表会(担当:小川)<オンライン>

第9回 授業内試験及びディスカッション①(主として自然との関わりについて)(担当:小川)<対面>

第10回 生活科の内容構成とその意義(担当:大西)<対面>

第11回 生活科授業デザインのための理論&プラン(担当:大西)<対面>

第12回 町探検(担当:大西)<オンライン>

第13回 地域マップづくり(担当:大西)<オンライン>

第14回 生活科の評価及び他教科・領域との関連(担当:大西)<対面>

第15回 授業内試験及びディスカッション②(担当:大西)<対面>

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ 講義を主とする。ただし、内容により、フィールドワークやグループでの討議など演習も交えながら進める。
- ・ 一部、オンライン授業を行うので、シラバスや授業時のアナウンスに留意すること。
- ・ 授業内試験やレポートは、全体に対してフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

必要に応じて予習課題を出す。
本講義の中で、小学校生活科のすべての内容を扱うことは難しい。扱えなかった内容については、講義の内容をもとに各自で学習することが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各担当者が50%ずつ評価する。授業参加度 (10%×2=20%)、授業内試験 (40%×2=80%)

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ 受講者の人数やニーズにより、授業内容を変更することがある。
- ・ 教材づくりに関わる費用の一部を負担してもらう場合があるので、留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説生活編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034645/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 大西、小川：小学校教員として公立小学校での勤務経験あり。

生活科指導法

EDP2404N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜2限

DP4: 思考・解決力

60

幼小・小特必修

大西 慎也 小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

履修済みの「生活」で学習した内容を活用して、生活科の具体的な指導方法を習得する。単元づくり、学習指導案の

作成方法を理解する。実際に体験的な活動を行いながら、社会、自然、自分との関わり的重要性を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.生活科設立の趣旨である社会と自然と自分との関わりについて理解する。
- 2.学習指導案の作成方法を理解する。
- 3.体験的な学習の指導方法を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解	小学校学習指導要領における生活科の目標を理解できず、学習指導案の作成、模擬授業の実施が困難である。	小学校学習指導要領における生活科の目標を理解できるものの、学習指導案の作成、模擬授業の実施が困難である。	小学校学習指導要領における生活科の目標を理解し、学習指導案を作成できるものの、模擬授業を実施できない。	小学校学習指導要領における生活科の目標を理解し、学習指導案を作成することができ、模擬授業が実施できる。
思考・判断・表現	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に活かすことが全くできない。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に十分に活かすことができない。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に十分に活かすことができる。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に活かすのはもちろん、さらなる改善に努めている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 生活科の授業事例と分析 (大西・小川)
- 第 2 回 体験的な活動 (小川)
- 第 3 回 模擬授業の在り方と意義 (小川)
- 第 4 回 学習指導案の作成方法 (小川)
- 第 5 回 学習指導案の作成① (個人) (大西)
- 第 6 回 学習指導案の作成② (グループ) (大西)
- 第 7 回 教材の開発 (大西)
- 第 8 回 学習指導案の検討 (大西)
- 第 9 回 模擬授業の実施と検討①・・・社会との関わり (社会との関わり「地域のよさ」) (大西)
- 第 10 回 模擬授業の実施と検討②・・・自然との関わり (自然との関わり「自然のすばらしさ」) (小川)
- 第 11 回 模擬授業の実施と検討③・・・自分との関わり (自分との関わり「家族とのかかわり」) (大西)
- 第 12 回 模擬授業の実施と検討④・・・社会との関わり (社会との関わり「集団や社会の一員として」) (大西)
- 第 13 回 模擬授業の実施と検討⑤・・・自然との関わり (自然との関わり「自然を活かした遊びや生活の工夫」) (小川)
- 第 14 回 模擬授業の実施と検討⑥・・・自分との関わり (自分との関わり「自分の良さや可能性」) (小川)
- 第 15 回 模擬授業の総括 (小川)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と模擬授業などの演習を並行して行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学習指導案の作成、模擬授業の準備にあたって、文献調査や実地調査など、授業時間外の学習を求める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、模擬授業後のリフレクションカード (30%)、学習指導案 (50%)、模擬授業 (20%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説生活編』/文部科学省/東洋館出版/2018/978-4491034645/学内販売をしない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『気付きの質を高める生活科指導法』/原田信之、須本良夫、友田靖雄/東洋館出版/2011/9.7844910268E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教職に関わる科目について

／ 担当者2名とも小学校教員としての勤務経験あり

生徒指導・進路指導

EDP3202N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

金曜4限

DP2: 知識・理解力

60

河佐 英俊

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもたち自身が社会の中で、自己実現できるように指導・援助する方法を身に付ける。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導・進路指導を進めていくために必要な知識・技能を身に付ける。また、実際の事例を通し、学校の教育目標と生徒指導・進路指導の関連を学習指導要領上の位置づけの中で理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。

2. すべての児童及び生徒を対象とした生徒指導・進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。

3. 児童及び生徒が抱える生徒指導・進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方とあり方を理解する。

4. 養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携を含めた対応の在り方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとする。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育課程における生徒指導の位置付け及び生徒指導体制と教育相談体制
- 第 2 回 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性
- 第 3 回 集団指導・個別指導の方法原理
- 第 4 回 年間学習計画に基づいた組織的な取組の重要性
- 第 5 回 基礎的な生活習慣の確立と規範意識の醸成における生徒指導の在り方
- 第 6 回 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令等
- 第 7 回 暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点
- 第 8 回 今日的な生徒指導上の課題と専門家や関係機関等の連携の在り方
「児童・生徒の自己有用感の高まりと意図的な場づくり」
- 第 9 回 教育課程における進路指導・キャリア教育の視点と指導の在り方
- 第 10 回 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方
- 第 11 回 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携
- 第 12 回 キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義
- 第 13 回 ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義
- 第 14 回 キャリア形成の視点に立った自己評価の意義
「ポートフォリオの活用の在り方」
- 第 15 回 キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1. 講義形式
- 2. 討論
- 3. 発表
- 4. 小レポート

5. レポートについては、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小学校、中学校、高校での自分自身や友達に関わるトラブルをどのようにに解決してきたかを振り返る。

これまでの自らの進路選択について、その意思決定の経過を振り返る。

新聞、テレビ等での子どもや学校に関わる報道に関心をもつ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(20%)、小レポート (30%)、定期試験 (50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『生徒指導提要』/文部科学省/教育図書/2010/9784877302740/学内販売予定

授業中に適時資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『生徒指導・進路指導の理論と実際』/河村茂雄編著/図書文化/2011/978481001582

『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』/庄司一子監修/ナカニシヤ出版/2010/9784779509650

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 25年 (内、教頭6年)

京都市立小学校校長 6年

総合的な学習の指導法

EDP3450N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

金曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「総合的な学習の時間」導入の背景、ねらいについて、学習指導要領の変遷に基づいて理解する。先人の開発したカリキュラムに学びながら、「総合的な学習の時間」のカリキュラムについて理解する。さらに、学習指導案の作成方法、評価の在り方に理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1、「総合的な学習の時間」導入の背景、ねらいについて理解する

2、「総合的な学習の時間」のカリキュラム作成について理解する。

3、「総合的な学習の時間」の指導案を作成できる。

4、「総合的な学習の時間」の評価方法について理解できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解	総合的な学習の時間の目標が理解できていない。	総合的な学習の時間の目標が理解できている。	総合的な学習の時間の目標を理解しており、カリキュラムの重要性も理解できている。	総合的な学習の時間の目標を理解しており、カリキュラムの重要性を理解し、実践の開発に活かすことができる。
技能・実践力	本講義のテーマに沿った学習指導案の作成や模擬授業を実施できない。	本講義のテーマに沿った学習指導案を作成できるものの、模擬授業を実施できない。	本講義のテーマに沿った学習指導案を作成し、模擬授業を実施できる。	本講義のテーマに沿っているだけでなく、先人の知見から学んだことを活かしながら学習指導案を作成し、且つ模擬授業を辞しできる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 「総合的な学習の時間」とは何か（対面）
- 第 2 回 学習指導要領の変遷と「総合的な学習の時間」のねらい（対面）
- 第 3 回 戦前の「総合的な学習の時間」の理論と歴史（対面）
- 第 4 回 戦後の「総合的な学習の時間」の理論と歴史（対面）
- 第 5 回 大正自由教育期と戦後新教育運動期の明石附小における取組（対面）
- 第 6 回 コアカリキュラムとは（対面）
- 第 7 回 コアカリキュラムの視点をふまえた教材研究（対面）
- 第 8 回 「総合的な学習の時間」実践開発のためのフィールドワークのあり方（対面）
- 第 9 回 「総合的な学習の時間」実践開発のためのフィールドワークの実際（対面）
- 第 10 回 「総合的な学習の時間」実践開発のためのフィールドワークのまとめ（対面）
- 第 11 回 コアカリキュラムの視点をふまえた実践開発（オンライン）

第 12 回 コアカリキュラムの視点をふまえたカリキュラム開発（オンライン）

第 13 回 コアカリキュラムの視点をふまえた学習指導案の作成（オンライン）

第 14 回 模擬授業（対面）

第 15 回 「総合的な学習の時間」とは何か・まとめ（対面）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式で行う。しかし、内容によりグループでの討議など演習も交えながら進める。

*提出されたレポートは添削し返却したり、講義での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

実践を開発するため、文献調査や実地調査を行う必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

毎時間のリフレクションカード30%、開発した実践の内容70%

〔留意事項（Other Information）〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編/文部科学省/東洋館出版/2018/978-4491034683/学内販売有

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教職に関わる科目について

／ 小学校教員としての勤務経験あり

体育 I

EDC2203N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

15

高田 佳孝

〔科目の教育目標（Course Description）〕

体育・スポーツのもつ教育的可能性、体育科の基礎知識（体育科の基本的性格や内容論）等を理解する。体育科教育・スポーツ教育を取り巻く基礎的・制度的条件について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・生涯スポーツと学校体育について考察する。
- ・体育科の特性と役割について学習指導要領から理解する。
- ・実践を通して、各運動領域の特性とねらいについて理解する。
- ・体育授業の指導者になるという意識を持ち、授業に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学習指導要領の理解	学習指導要領を知らない	学習指導要領の各領域について理解している	学習指導要領の各領域について理解し、その特徴を捉えている	
積極性：主体性	消極的態度であり、実技に参加しない	積極的態度で授業に臨むことができる	他の学生に配慮しながら、相互作用行動がとることができる。	
思考・解決力	与えられたテーマについて思考しない	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考することができる	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考し、他者の意見を取り入れることができる	

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 スポーツ、体育の歴史
- 第 3 回 学校体育が抱える諸問題
- 第 4 回 体育科教育・スポーツ教育における日本の動きと国際的な動向
- 第 5 回 欧米諸国で提案されているスポーツ教育論
- 第 6 回 文化としてのスポーツ・体育の意義や多様性
- 第 7 回 体育科を通じた教師の成長と必要な資質
- 第 8 回 小学校体育科の基本的性格と目的
- 第 9 回 学習者としての児童の発育発達
- 第 10 回 教科内容論 (系統性を踏まえた運動領域編成)
- 第 11 回 体育科の教材づくり論
- 第 12 回 各運動領域の構造 (体づくり運動、表現運動)
- 第 13 回 各運動領域の構造 (器械運動、陸上運動)
- 第 14 回 各運動領域の構造 (ゲーム・ボール運動)
- 第 15 回 まとめ (フィードバックと解説)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションおよび実技を中心に展開する。
- ・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
- ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・関連性を持って、講義を進行していくので、前回の授業内容について復習する。
- ・次回の授業内容について、学習指導要領や参考文献で確認しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、授業態度 (30%)、小レポート (20%)、テスト (50%) として総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

実技時は、運動できる服装 (ジャージ等) に更衣し、体育館シューズを履くこと。
安全確保のために、適宜、持ち物等の指示を行う。
講義内容について前後する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『体育授業を観察・評価する』/高橋建夫編著/明和出版//
『新版 体育科教育学入門』/高橋建夫ほか編著/大修館書店//
『小学校学習指導要領解説 体育編』/文部科学省/東洋館出版社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (小学校教員として、体育授業研究に取り組んだ経験)

体育 II

EDC2204N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

木曜 5限

DP2: 知識・理解力

15

高田 佳孝

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

幼児期における運動遊びのねらいと内容について理解する。
心と体の健康維持・増進を重点におき、発達段階や安全に配慮した運動遊びに必要な基礎的技能を習得する。子ども

たちの自主性・主体性を核とした運動支援方法の知識を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・運動遊び実践において必要な知識と技能を習得する。
- ・運動遊びにおける安全管理を理解する。
- ・幼児の運動遊びや伝承遊びを自ら理解し、遊びを工夫する。
- ・幼児の表現力を引き出すための題材、環境、構成、援助について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 第1回 オリエンテーション 今年の子どものからだの異変とその対策
- 第 2 回 実技①体育あそびの実際 からだを使ったあそび
- 第 3 回 実技②体育あそびの実際 用具を使ったあそび ボール運動
- 第 4 回 実技③体育あそびの実際 フープ、なわを使ったあそび
- 第 5 回 実技④体育あそびの実際 マット、とび箱
- 第 6 回 実技⑤体育あそびの実際 リズム運動
- 第 7 回 実技⑥体育あそびの実際 組体操、チームゲーム
- 第 8 回 実技⑦体育あそびの実際 コーナーあそびの設定のしかた、行い方からサーキット遊びへの発展
- 第 9 回 実技⑧体育あそびの実際 運動会種目（競技種目、表現・リズム種目、レクリエーション種目）
- 第 10 回 実技⑨体育あそびの実際 幼児の体力測定の実際を学ぶ
- 第 11 回 理論①子どもの生活と運動
- 第 12 回 理論②運動発現のメカニズム 体力測定評価
- 第 13 回 理論③幼児体育の意義と役割、創意工夫をした遊びを考える
- 第 14 回 理論④幼児体育指導上の留意事項、運動遊びの発表
- 第 15 回 運動遊びの発表、まとめ、フィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションおよび実技を中心に展開する。
- ・実習を中心とするので、積極的に自らが運動遊びを楽しむ。
- ・実践者、幼児役それぞれの観点からの議論を行う。
- ・グループ学習によって、相互理解を深める活動を行う。
- ・資料は適宜配布する。
- ・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
- ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・関連性を持って、講義を進行していくので、前回の授業内容について復習する。
- ・ニュースや新聞の記事を注視し、幼児の運動についての問題点や疑問点を常に持つように心がけること。
- ・文部科学省『幼児期運動指針』を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、授業態度 (50%)、提出物・小レポート (30%)、実技に関する課題 (20%) とし、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実技時は、運動できる服装 (ジャージ等) に更衣し、体育館シューズを履くこと。
安全確保のために、適宜、持ち物等の指示を行う。
講義内容について前後する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼児体育－理論と実践－第5版』/日本幼児体育学会/大学教育出版/2016/

〔参考URL(URL for Reference) 〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (小学校教員として、体育授業研究に取り組んだ経験)

体育科指導法

EDP2453N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

金曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

幼小・小特必修

高田 佳孝

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

体育科の目標、学習内容、運動の特性などに関する基本的な知識について理解する。小学校において児童が熱中して運動に取り組む体育授業を実践する能力(教材の工夫・指導方法・授業計画)を養うことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・教科の内容、各運動領域の特性とねらいについて理解を深める。
- ・学習指導案の作成、学習カードの作成、発問の仕方等について理解する。
- ・運動の苦手な児童に対する支援や助言の仕方について理解する。
- ・指導案を作成し、模擬授業を通して実践的な指導力を身につける。
- ・模擬授業を評価することで授業の改善点に気づき、改善方法を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 小学校体育科の目標、教科内容
- 第 3 回 運動の特性を理解した授業の組み立て
- 第 4 回 効果的な運動の学習指導方法
- 第 5 回 各運動領域の内容、特性、教材づくり①(体づくり運動、陸上運動系)
- 第 6 回 各運動領域の内容、特性、教材づくり②(器械運動系、水泳系)

- 第 7 回 各運動領域の内容、特性、教材づくり③(ボール運動系、表現運動系)
- 第 8 回 模擬授業に向けた準備①(指導案の書き方)
- 第 9 回 模擬授業に向けた準備②(授業観察法について)
- 第 10 回 模擬授業①(陸上運動)
- 第 11 回 模擬授業②(体づくり運動)
- 第 12 回 模擬授業③(器械運動)
- 第 13 回 模擬授業④(ボール運動)
- 第 14 回 模擬授業⑤(表現運動)
- 第 15 回 まとめ:体育授業づくりと指導のフィードバック
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義と演習(教材作成、発表、模擬授業、グループ別活動等)を中心に行う。
- ・資料については適宜配布する。
- ・レポート課題・模擬授業については、授業時にフィードバックを行う。
- ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小学校学習指導要領解説体育編を熟読した上で参加すること。
インターネットを活用し、多様な体育科学習指導案に触れること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、授業態度 (30%)、指導案 (20%)、模擬授業 (30%)、小テスト・小レポート (20%)として総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

模擬授業は、実技を伴う。
実技時は運動できる服装(ジャージ等)に更衣し、体育館シューズを履くこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新版 体育科教育学入門』/高橋健夫ほか/大修館書店//
『小学校学習指導要領解説 体育編』/文部科学省/東洋館出版社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫(小学校教員として、体育授業研究に取り組んだ経験)

知的障害者の心理・生理・病理

EDD2500N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜 3限 その他

DP5: 共生・協働する力

60

東道 伸二郎 丹羽 登

【科目の教育目標 (Course Description)】

知的障害のある子供の脳の構造と機能を学び、そこから知的障害児を理解するために、引き起こされる具体的な原因疾患について言及する。また、代表的な疾患に加えて、知的障害の定義と分類を概説する。知的障害児の発達は全般的な知的発達の遅れだけでなく、身体・運動、知覚、学習、情緒、言語コミュニケーションなどあらゆる領域において、生活上、学習上の困難がみられることから、その特性を概説し、指導や支援を考えるための基礎的な理解を深める。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

知的障害に関する心理・生理・病理の基礎的知識を得る。

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス,知的障害教育の歴史と現状 (東道,丹羽)
- 第 2 回 脳の基本的な構造と機能 (東道)
- 第 3 回 脳の生理学, 大脳皮質の機能区分 (東道)
- 第 4 回 遺伝要因および先天的な成因 (メンデル遺伝病, 常染色体遺伝病など) (東道)
- 第 5 回 先天的な成因 (代謝異常症, ダウン症候群, 内分泌疾患) (東道)
- 第 6 回 周産期の成因1 (重症黄疸, 分娩仮死状態など) (東道)
- 第 7 回 周産期の成因2 (脳性麻痺) (東道)
- 第 8 回 乳幼児期の成因1 (高熱, 脳炎の後遺症, てんかんなど) (東道)
- 第 9 回 乳幼児期の成因2 (限局性学習障害, 自閉スペクトラム症) (東道)
- 第 10 回 知的障害のある子供の実態把握 (丹羽)
- 第 11 回 知的障害児の心理的特性について (丹羽)
- 第 12 回 知的障害児の心理的援助について (丹羽)
- 第 13 回 知的障害児の心理をふまえた教科・自立活動の指導 (丹羽)
- 第 14 回 知的障害児の人間関係の形成や社会性の発達に関する行動理解と支援 (丹羽)
- 第 15 回 講義のまとめとレポート発表 (東道, 丹羽)

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

指示する回の内容に関する最新の研究レポート等について、その概要をまとめて発表する。発表に対して授業者が解説を行い、学生との討議を行う。講義の最終回には講義内容

の理解に関するレポートを提出し、その報告を行う。小テスト・レポート等の実施後、その講評や解説を行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

最新の知見や実践事例から、知的障害のある子供の行動やその背景について考える。

最新の研究のレポート報告や討議を通して、主体的に学ぶ。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

授業への参画50%, レポート50%

【留意事項 (Other Information)】

必要な資料は適宜配布する。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

0

【参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

『発達障害児の医療・療育・教育』/松本昭子/金芳社/2014/978-4765315999

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』/独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/2015/978-4863712973

【参考URL(URL for Reference)】

0

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫

知的障害者教育論 I

EDD2450N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

金曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

太田 容次

【科目の教育目標 (Course Description)】

特別支援教育における知的障害のある幼児、児童及び生徒(以下、こどもと記す)に対する教育の基本的な考え方と特別支援学校における教育課程の編成とその基本的構造を理解する。知的障害教育における教育課程の特徴、指導及び実践の基本を理解することで、こども一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成力と実践力の基盤を養うことを目標とする。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

(1)特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。

(2)特別支援教育体制の中で、**特別支援学校が地域で担う役割と、知的障害のあるこどもの教育を実践するための基礎**

的な知識を習得する。

(3)学んだ内容を知識として理解するだけでなく、学んだことを実際に生かすために、**演習などを通して社会人基礎力を主体的に向上させる。**

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	知的障害教育で何が重要な学びのか理解しようとしな	知的障害教育の中で、何が最も重要な事柄なのか	知的障害教育で必要な知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに関連させて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	知的障害教育に関する自分の学びを振り返り、考えることができる。	知的障害教育に関する新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方や方法を尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	知的障害教育に関して学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	知的障害教育に関して自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	知的障害教育に関して自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス (授業の概要・評価について) 障害児教育の歴史
- 第 2 回 知的障害の基礎知識と実態把握 (主な検査の種類と方法)
- 第 3 回 特別支援教育の理念と知的障害のあるこどもに応じた教育課程編成
特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 4 回 自立活動の6区分と相互に関連づけた指導
特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 5 回 知的障害教育の授業の形態 (教科別、各教科等を合わせた指導)
特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 6 回 遊びの指導、日常生活の指導、生活単元学習の授業
特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 7 回 作業学習の授業
特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 8 回 個別の教育支援計画と個別の指導計画
特別支援教育体制の中で、**特別支援学校が地域で担う役割と、知的障害のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識**を習得する。
- 第 9 回 交流及び共同学習とインクルーシブ教育システムの構築
特別支援教育体制の中で、**特別支援学校が地域で担う役割と、知的障害のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識**を習得する。
- 第 10 回 情報機器等の活用とその実際
特別支援教育体制の中で、**特別支援学校が地域で担う役割と、知的障害のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識**を習得する。
- 第 11 回 社会的・職業的自立をめざした進路指導、職業教育とキャリア教育
特別支援教育体制の中で、**特別支援学校が地域で担う役割と、知的障害のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識**を習得する。
- 第 12 回 各教科等を合わせた指導の授業
各教科、道徳、特別活動及び自立活動の全部又は一部を合わせた指導 (各教科等を合わせた指導)の授業 (特別支援学校の授業参観)
- 第 13 回 各教科等を合わせた指導の授業研究
- 第 14 回 授業の振り返りとレポート提出
- 第 15 回 レポート発表と評価
作成したレポートを基にまとめた内容をプレゼンテーションする。発表内容を受講者間で相互評価し、評価内容を教員も含めてフィードバックすることで、今後の学びに生かせるようにする。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない。学修した内容を総合的に考察するレポートを課す。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義及び学んだことに対する意見の発表、ディスカッションなどの演習を行う。毎回、学習内容を振り返り整理するために、ミニコメントシートを作成し、manaba等で提出する。また、講義の中で、前回出された意見の紹介や補足説明を行い、出された疑問をテーマにディスカッションする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストを事前に熟読しておくこと。

知的障害のあるこどもを教育する小学校の特別支援学級や特別支援学校でボランティア活動等を定期的に行い、特別支援教育の現場を体験していることが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

知的障害教育に関する学習指導要領や教育課程編成について、授業で扱った基礎的な内容を理解できるように、最終の個別レポートだけで評価するのではなく、ルーブリックに示す項目を基に、下記の点から総合的に評価する。

個別レポート 50% 個別課題(1)(2)に対応
毎回のミニコメントシート 30% 個別課題(1)(2)(3)に対応
グループワークや発表をルーブリックから総合的に評価
20% 個別課題(3)に対応

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目と肢体不自由者教育論 I で扱う内容を考慮し、授業予定を調整して行う場合がある。その際は、事前に予告し、事前学習できるようにする。

学習指導案作成や授業の実際などについて、大学での学びを実際のなものとするために、近隣の特別支援学校に協力をお願いし、学外授業により授業参観と授業研究の演習を行う予定である。(交通費等は実費必要)

特別支援学校教員として最低限必要な基礎・基本を実践的に学ぶため、全回出席し学修することを原則とする。何らかの理由で欠席した場合は、後日補習等を実施する。

今期は、新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアル【改定版】(https://www.notredame.ac.jp/pdf/cms/0816_manual.pdf)に基づく配慮の上で、対面授業を原則とする。感染の疑いがある場合や発熱などの症状がある場合などは、マニュアルを参照し必要な対応をとること。また、健康不安等の場合はZoomによる授業参加も可能な場合がある。接続方法も含めて事前に申し出ること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』改定版発売予定(2020.3) 学内販売予定

他の障害種の教育論でもテキストとして使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領/文部科学省/海文堂出版/2018/978-4-303-12424-3

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/ 2018/9784304042294

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) / 文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042300

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/ 2018/9784304042317

〔参考URL(URL for Reference) 〕

特別支援学校学習指導要領解説 文部科学省 (http://www.mext.go.jp/)

社会人基礎力 経済産業省 (http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫特別支援教育の専門教育科目について

特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱虚弱)において教員として勤務経験あり

知的障害者教育論 II

EDD3400NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

金曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

知的障害のある幼児、児童及び生徒(以下、こどもと記す)の特別な教育的ニーズに応じた個別的教育支援計画と個別の指導計画を活用したコミュニケーション指導のための教材・教具の作成演習や、学習指導案作成から模擬授業の演習を通して、授業実践の実際について学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)知的障害のあるこどもへの指導・支援に必要な知識と技能を習得する。

(2)個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した教材・教具の作成演習と、授業計画に基づく学習指導案の作成と模擬授業を、グループでの演習により行い、指導・支援のための理論と方法を学ぶ。

(3)学んだ内容を知識として理解するだけでなく、学んだことを実際に生かすために、演習などを通して社会人基礎力を主体的に向上させる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働	仲間や教員の働きかけ	自ら目的意識を持ち、	目的意識を持ち主体的

	きっかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	で学ぼうとする。	学ぶことができる。	に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	知的障害教育について何が重要な学べき知識なのか理解しようとする。	知的障害教育について学ぶことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	知的障害教育について学ぶ知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに関連させて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	知的障害教育について、自分の学びを振り返り、考えることができる。	知的障害教育について新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方や方法を尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	知的障害教育について学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	知的障害教育について学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	知的障害教育について自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	知的障害教育に関して自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス (授業の概要・評価について)
- 第 2 回 特別支援学校(知的障害)の教育課程
知的障害のあるこどもへの指導・支援に必要な知識と技能を習得する。
- 第 3 回 知的障害児へのアセスメント
行動観察法・チェックリスト法・標準化された検査法を知る。

- 第 4 回 特別支援教育センター的機能と特別支援教育コーディネーター
知的障害のあるこどもへの指導・支援に必要な知識と技能を習得する。
- 第 5 回 ふさわしい学びの場への就学と卒業後の社会的・職業的自立
知的障害のあるこどもへの指導・支援に必要な知識と技能を習得する。
- 第 6 回 特別な教育的ニーズに応じた教材・教具
～アシスティブテクノロジーを活用した教材・教具の活用について学ぶ。
- 第 7 回 教材・教具の作成～演習
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**教材・教具の作成演習を、グループでの演習**により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 8 回 教材・教具の作成～発表と相互評価
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**教材・教具の作成演習を、グループでの演習**により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 9 回 授業計画と学習指導案の作成：講義・演習
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 10 回 授業計画と学習指導案の作成：模擬授業の準備
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 11 回 模擬授業 1：知的障害のある児童・生徒の学級
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 12 回 模擬授業 2：知的障害及び自閉スペクトラム症のある児童・生徒の学級
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 13 回 授業研究の方法と授業改善の演習
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 14 回 個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づく学習計画、学習指導の総合的な活用演習
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 15 回 レポート発表と相互評価

作成したレポートを基にまとめた内容をプレゼンテーションする。発表内容を受講者間で相互評価し、評価内容を教員も含めてフィードバックすることで、今後の学びに生かせるようにする。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない。学修した内容を総合的に考察するレポートを課す。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

近年、特別支援学校の教員等から「**介護等体験や教育実習に来て特別支援学校の現場の実際を体験するのではなく、学生の段階で特別支援学校の体験と、体験に基づく大学での学修を進めてほしい。**」といった要望を聞く。これは、中教審答申(参考URL参照)にも述べられている事である。

そのため、4年次に特別支援教育実習を控えていることを前提に、講義及び学んだことに対する意見の発表やディスカッション、模擬授業などの演習を行う。

毎回、学習内容を振り返り、整理するためにミニコメントシートを作成し、manaba等で提出する。また、講義の中で、前回出された意見の紹介や補足説明を行い、出された疑問をテーマにディスカッションする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

特別支援教育実習に対応できる学修とするため、知的障害のあるこどもを教育する特別支援学校でボランティア活動を定期的に行っていることが望ましい。本科目では、特別支援学校等での定期的なボランティア等を行なっていることを前提として講義や演習を進めたい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

知的障害教育に関する基礎的な内容の理解を基に、教材・教具の作成や実際の授業について実践力につながる基盤を身に付けるために、最終の個別レポートだけで評価するのではなく、ルーブリックに示す項目を基に、下記の点から総合的に評価する。

個別レポート 50% 個別課題(1)(2)に対応

毎回のミニコメントシート 30% 個別課題(1)(2)(3)に対応
グループワークや発表をルーブリックから総合的に評価

20% 個別課題(3)に対応

〔留意事項 (Other Information)〕

4年次での**特別支援教育実習に必須の実践力となる知識や技能などを学ぶ**。そのために、**全回出席し学ぶことが大前提で、主体的に学ぶこと**を期待する。何らかの理由で欠席した場合は、後日補習等を実施する。

本科目と肢体不自由者教育論Ⅱで扱う内容を考慮し、授業予定を調整して行う場合がある。その際は、事前に予告し、事前学習できるようにする。

次年度の特別支援教育実習に向けて、こどもの実態・課題に応じた学習指導案作成や授業実践に関する学びを実際のなものとするために、近隣の特別支援学校に協力をお願いし、学外授業により授業参観と授業研究の演習を行う予定である。(交通費等は実費必要)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』改定版発売予定(2020.3)学内販売予定

他の障害種の教育論でもテキストとして使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領/文部科学省/海文堂出版/2018/978-4-303-12424-3

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/ 2018/9784304042294

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) / 文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042300

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/ 2018/9784304042317

〔参考URL(URL for Reference)〕

特別支援学校学習指導要領解説 文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>)

中央教育審議会答申 平成27年12月21日 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365665.htm)

社会人基礎力 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫特別支援教育の専門教育科目について

特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱虚弱)において教員として勤務経験あり。

地域福祉論 I

SWA3200N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜3限

DP2: 知識・理解力

60

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちの生活基盤である地域にはさまざまな人々がさまざまな生活問題や社会福祉問題を抱えながら暮らしているのが現状である。それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安全・安心に暮らしていける地域社会を構築していくためにはどのようなことが必要なのであろうか。

このような問題を地域福祉の概念や理論の歴史的展開、社会的背景などを学ぶことを通して考え、地域の現状や課題を理解し、地域に根差した福祉とは何かを理解することをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 「地域福祉」とは何か、なぜ「地域福祉」なのか。地域福祉の理念・考え方(概念)・歴史的背景・枠組みから学ぶ。
2. 地域福祉を推進するための課題について学ぶ。
3. 地域福祉の原理・原則を理解し、地域福祉推進のために必要な取り組み、専門機関や各種関連組織等について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分の地域や課題について、考えようとすることができない	自分の地域や課題について、情報収集しようとすることができる	自分の地域や課題について、理解することができる	自分の地域や課題について、理解し、そのため何ができるかを考えることができる
知識・理解力	地域や地域福祉について、理解することができない	地域や地域福祉について、理解しようとするができる	地域や地域福祉について、理解し、大切なことが何かをえることができる	地域や地域福祉について、理解し、課題解決に必要なことを考えることができる
言語力	地域や地域福祉について、説明することができない	地域や地域福祉について、説明しようとするができる	地域や地域福祉について、説明することができる	地域や地域福祉について、説明ことができ、他者にも伝えようとするができる
思考・解決力	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができない	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決のために何が必要かを考えようとすることができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決に向けて考えることができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができる
共生・協働する力	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとするができない	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとするができる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動しようとするができる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動し、解決することができる

創造・発信力	地域や地域福祉について、何ができるかを考えることができない	地域や地域福祉について、何ができるかを考えようとするができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者に取り組もうと発信することができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者とともに新たな取り組みができる
--------	-------------------------------	--------------------------------	-------------------------------------------	-----------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 地域福祉の概念 ①地域とは何か
- 第 3 回 地域福祉の概念 ②地域福祉とは何か
- 第 4 回 地域福祉の形成と歴史的展開 ①地域福祉の源流(欧米の歴史的展開)
- 第 5 回 地域福祉の形成と歴史的展開 ②戦後わが国における地域福祉の形成過程
- 第 6 回 社会福祉法における地域福祉の位置づけ
- 第 7 回 地域福祉の主体と対象
- 第 8 回 地域福祉計画と地域福祉活動計画
- 第 9 回 地域福祉の推進組織・団体 ①社会福祉協議会
- 第 10 回 地域福祉の推進組織・団体 ②民生・児童委員
- 第 11 回 地域福祉の推進組織・団体 ③NPO、ボランティア活動など
- 第 12 回 地域福祉の推進組織・団体 ④各種地域支援組織
- 第 13 回 地域福祉の人材・財源
- 第 14 回 形成テストおよび総括
- 第 15 回 地域福祉推進の課題と展望

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

資料、参考事例の紹介などによって進める。
 参考文献については随時紹介する。
 復習クイズは、終了直後に回答の確認をし、フィードバックをおこなう。
 形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

地域福祉に関連する社会福祉法や各種制度とその変革の流れ、参考文献に挙げた報告書などを事前に確認しておくことが望ましい。

また、各自が暮らしている地域についても、どのような施策が講じられているのか、またどのような活動が展開されているのか確認し、地域福祉の具体的な取り組みを調べておくことが望ましい。

理解度を促進するため、毎回復習クイズを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと復習して臨むこと。加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を必ず各自ダウンロードし予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (30%)、復習クイズ (10%)、形成テスト (60%) に基づいて総合的におこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告 地域福祉における「新たな支え合い」を求めて—住民と行政の協働による新しい福祉—』/全国社会福祉協議会//2008/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画 (活動計画) 策定委員等の経験あり

聴覚障害者の心理・生理・病理

EDD2550N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 後期前半

水曜3限

DP5: 共生・協働する力

30

全7.5コマ

江川 正一 東道 伸二郎

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

聴覚障害の心理、生理、病理についての基礎的な理解をもとに、聴覚障害が及ぼす影響について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 聞こえに関わる生理及び病理の基本的な事項について理解する。
2. 聴力の測定の方法や、結果が表す意味について理解する。
3. 聞こえにくさが及ぼす影響について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。

知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしめない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかがわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方などを尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 聴覚障害者の心理 1
コミュニケーションについて考える (江川)
- 第 2 回 聴覚障害者の心理 2
聞こえないということ (江川)
- 第 3 回 聴覚障害の病理、生理 1
聴こえの仕組み、聴覚障害について (東道)
- 第 4 回 聴覚障害の病理、生理 2
聴覚の程度を測る (聴力検査) (東道)
- 第 5 回 聴覚障害の病理、生理 3
聴覚補償について (補聴器、人工内耳等) (東道)
- 第 6 回 聴覚障害者の心理 3
聞こえにくさが及ぼす影響 1 (コミュニケーション、言語) (江川)

第 7 回 聴覚障害者の心理 4
聞こえにくさが及ぼす影響 2 (心理、学習) (江川)

第 8 回 まとめ
聴覚障害にかかわる基礎的な内容についてまとめる (江川)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心として、講義内容についての討議やミニテストを行う。

聴覚障害についての疑似体験を行い、その体験をレポートにまとめる。

レポート等については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

聴器の構造について調べておく。

生活の様々な場面で、「音が聞こえなかったら」どのような不都合があるかについて考える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート (30%) 及びミニテスト (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業時に適時資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

聴覚障害教育これまでとこれから 脇中起余子 北大路書房 2009/9784762826900

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 12年 (内 難聴学級担任10年)

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱) 19年

京都市立特別支援学校校長 2年

聴覚障害者教育論

EDD2452N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 後期後半

月曜 3限 その他

DP4: 思考・解決力

30

全7.5コマ

江川 正一 中瀬 浩一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

聴覚障害は学習上、社会生活、心理など子どもに大きく影響を及ぼす。それらに対して適切な指導・支援の方法について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 聴覚障害のある子どもの生活や学習上の課題やその指導について理解する。

2. 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して実践的な指導の方法を身に付ける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、	仲間と協働で意見交換したり、作	グループでの協働の際に、ルール	仲間と協働する際に、多様な考え

	積極的な参加が見られない。	業したりできる。	や責任などを考えて学ぶことができる。	方などを尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
聴覚障害児の教育システム（特別支援学校、難聴学級、きこえの教室）（江川）
- 第 2 回 聴覚障害のある子どもへの指導 1
指導法の変遷、現在の教育課程について（中瀬）
- 第 3 回 聴覚障害のある子どもへの指導 2
聴覚の活用と発音について（中瀬）
- 第 4 回 聴覚障害のある子どもへの指導 3
手話とは？（中瀬）
- 第 5 回 聴覚障害のある子どもへの指導 4
手話の活用と読み書きの指導について（中瀬）
- 第 6 回 教室の中の子ども
通常学級での配慮について（中瀬）
- 第 7 回 学習指導案の作成
学習指導案を作成する（江川）
- 第 8 回 模擬授業
作成した学習指導案に基づき模擬授業を行う（江川）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義を中心として、討議及び小レポートを行う。
学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
レポートについては、次回授業時においてフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

参考文献等聴覚障害教育に関わる文献に読んでおく。
聾学校（聴覚特別支援学校）のホームページを閲覧する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、レポート（30%）及び学習指導案・模擬授業（40%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』改定版発売予定(2020.3) 学内販売予定

他の障害種の教育論でもテキストとして使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『聴覚障害教育の基本と実際』/中野善達 松本匡文/田研出版/2008/9784860890186

『聴覚障害教育これまでとこれから』/脇中起余子/北大路書房/2009/9784762826900

『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』/文部科学省/教育出版/2009/9784316300160

『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)』/文部科学省/海文堂出版/2009/9784303124328

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 12年（内 難聴学級担任10年）

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱) 19年

京都市立特別支援学校校長 2年

道徳の指導法

EDP3200N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

河佐 英俊

〔科目の教育目標（Course Description）〕

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1.教育課程における道徳の位置づけと、その目標、内容、方法について理解する。
- 2.学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解する。
- 3.授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成する。
- 4.道徳科の特質を生かした多様な指導法を身に付ける。
- 5.道徳科の特質を踏まえた学習評価の在り方を考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしれない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方などを尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 道徳教育の意義(本授業のガイダンスを含む) 年間スケジュール及びこの授業での到達目標の確認

- 第 2 回 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題 (いじめ・情報モラル等)
- 第 3 回 子供の心の成長と道徳性の発達
- 第 4 回 学校における道徳教育 (1) - 教育課程上の位置づけとその目標 -
- 第 5 回 学校における道徳教育 (2) - 道徳の内容 -
- 第 6 回 学校における道徳教育 (3) - 道徳の時間の年間指導計画 -
- 第 7 回 道徳科の特質を生かした多様な指導方法
- 第 8 回 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方
- 第 9 回 学習指導案の内容と作成手順 道徳の学習指導案に盛り込むべき内容と作成手順について
- 第 10 回 資料分析と授業構想(一部グループワークも取り入れる) 各自、何点かの読み物資料より選択したものを活用した授業を構想する演習を行う。
- 第 11 回 学習指導案の作成① 基本構想 学習指導案を作成する演習を行う。
- 第 12 回 学習指導案の作成② 導入・展開・終末段階 学習指導案を作成する演習を行う。(導入・展開・終末各段階の構想)
- 第 13 回 模擬授業① 前回作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施し、批評し合う。
- 第 14 回 模擬授業② 及びまとめ 前回と異なる授業者による模擬授業を実施し、批評し合う。これまでの学習について振り返り、まとめを提出する。
- 第 15 回 我が国の道徳教育の課題 今日的な課題をもとに道徳教育の重要性についてディスカッションする。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学習指導要領の理解や魅力ある授業づくりについての講義、及び、指導案の作成や発問・板書を検討した模擬授業とその評価による指導力の養成、学生による道徳教育についてのプレゼンテーション演習等を行う。

課題については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示するが、学習指導要領及び解説を意識してよく読むこと。子どもたちの心を育てる授業づくりと自分自身がよりよく生きることに對して、常にアンテナを高くして関心と問題意識を持っておくこと。各種メディアにおける道徳教育に関する内容にも目を向けておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は、小レポート(20%)、模擬授業・学習指導案作成(30%)、定期試験 (50%)の総合評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

平成30年度 (小学校) より「特別の教科 道徳」が、全面实施されている。そのような中、日々新しい情報が発信されている。様々な動向に注視してほしい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』/文部科学省/廣済堂あかつき/平成29年/9784908255359

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小学校学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編』/永田繁雄/明治図書/平成28年/9784182711237E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市立小学校教員 25年(内、教頭6年)

京都市立小学校校長 6年

特別活動の指導法

EDP3201N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜2限

DP2:知識・理解力

60

河佐 英俊

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学校教育における特別活動の位置づけとその意義
2. 子ども達の現状と特別活動の特質
3. 特別活動の変遷と今日的意義
4. 特別活動の内容とその具体的な活動内容
5. 特別活動の指導計画
6. 特別活動と他の教育活動との関連
7. 特別活動の評価

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。

知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしめない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかをわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

第 1 回

学校教育における特別活動の位置づけとその意義

第 2 回

学習指導要領における特別活動の目標と内容

第 3 回

特別活動と道徳・生徒指導との関連(いじめ・不登校等)

第 4 回

特別活動と教科横断的なカリキュラム・マネジメント

第 5 回

学級活動の目標と内容・特質

第 6 回

学級会の指導案作成と発表「よりよい人間関係を築くために」

第 7 回

児童会・クラブ活動の目標と内容・特質

第 8 回

学校行事の目標と内容・特質

第 9 回

教育課程全体で取り組む特別活動

第 10 回

特別活動における取組の評価・改善活動の重要性

第 11 回

クラスの人間関係形成の目的・方法

第 12 回

学級会における話し合いの方法

第 13 回

小1 プロブレムと中1 ギャップ

第 14 回

特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携

第 15 回

これからの学校教育と特別活動

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

発表や討論、ロール・プレイング等の活動を織り交ぜながら、特別活動の大切さを共に追及していく。

課題については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

クラス作り、人間関係作り等に関わる教育ニュースに目を向け、収集しコメントをつける等、興味と問題意識を持つ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (20%)、小レポート (30%)、定期試験(50%)の総合評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説 特別活動編』/文部科学省/東洋館出版社/2017年/9784491031903/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小学校特別活動指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」』/文部科学省国立教育政策研究所/文溪堂/2016年/9784799900987

『よりよい人間関係を築く特別活動』/杉田 洋/図書文化社/2009年/9784810095463

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 25年 (内、教頭6年)

京都市立小学校校長 6年

特別支援教育基礎理論

EDD1250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

火曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

必修

江川 正一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援教育の動向について、障害についてのとらえ方の変遷を踏まえた歴史的な視点を捉える。それをもとに特別支援教育の理念と思想について理解を深め、特別支援教育を担う教員に必要な特別支援教育制度、指導法、最近の動向についての基礎的な知識と理解を得る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 障害のある子どもの教育の歴史的な変遷を理解する。
- 2 特別支援教育の対象となる子どもを理解する。
- 3 特別支援教育の教育課程、指導について理解する。
- 4 特別支援学校での教育の実際について理解する。
- 5 小中学校における障害のある子どもの教育について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学び

	見られない。		掛かりに考えることができる。	を高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方などを尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 特別支援教育の理念とその思想
特殊教育から特別支援教育への過程と特別支援教育の理念について
- 第 2 回 インクルーシブ教育システム
障害についてのとらえ方の変遷
インクルーシブ教育システムについての国際的な動向とともに、日本の状況について
- 第 3 回 特別支援学校の教育 1
特別支援学校の教育課程の特徴について
- 第 4 回 特別支援学校の教育 2
障害のある児童生徒の実態把握の方法、自立活動の取り組みについて
- 第 5 回 特別支援学校の教育 3
個別の教育支援計画と個別の指導計画について
- 第 6 回 障害の応じた指導 1
知的障害のある児童生徒の指導について
- 第 7 回 障害の応じた指導 2
肢体不自由のある児童生徒の指導について
- 第 8 回 障害の応じた指導 3
発達障害のある児童生徒の指導について
- 第 9 回 障害の応じた指導 4
聴覚障害、言語障害のある児童生徒の指導について
- 第 10 回 障害に応じた指導 5
視覚障害、病弱のある児童生徒の指導について
- 第 11 回 障害に応じた指導 6
重度重複障害児の課題と指導、医療的ケアについて

- 第 12 回 特別支援学校の取組
特別支援学校のセンター的機能、地域、社会と結びついた動きについて
 - 第 13 回 小中学校での特別支援教育 1
特別支援学級、通級指導教室について
 - 第 14 回 小中学校での特別支援教育 2
特別支援教育を支える学校組織、ユニバーサルデザインについて
 - 第 15 回 まとめ
障害のある児童生徒の就学について
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施する
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
講義を中心として講義容に基づくテーマについてのディスカッションを適時行う。
適時授業内容に即した課題についてレポートを作成する。
課題については、最終授業で全体にフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
これまで学校教育を受けてきた経験の中で障害のある子どもへの指導について思い起こすとともに、自分なら障害のある子どもたちへの指導をどのようにするかを考えておく。
特別支援学校のホームページを閲覧するなどして、特別支援学校等で行われている教育の情報を得ようとする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加度 (30%) レポート (30%) 及びテスト (40%) に基づいて総合的に行う。
〔留意事項 (Other Information)〕
授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』/国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/2015/9784863712973/学内販売有
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
国立特別支援教育総合研究所
<http://www.nise.go.jp/cms/>
特別支援教育に関わる情報がある
京都市立総合支援学校
<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/#shien>
京都市立の各総合支援学校のホームページにリンクする。
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
京都市立小学校教員 12年 (内 難聴学級担任10年)
京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱)

特別支援教育論（初等）

EDC1200N0J
大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）
1年次
2単位 前期
金曜1限
DP2：知識・理解力
60
太田 容次

【科目の教育目標（Course Description）】

幼稚園や保育園、認定こども園、小学校の通常学級・特別支援学級、特別支援学校等に、発達障害や知的障害をはじめとする障害や、障害はないが特別の教育的ニーズがある特別な支援が必要な幼児、児童及び生徒（以下、こどもと記す）が在籍している。教員や保育士は、こども一人一人が実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、学習上または生活上の困難を理解することが必要である。また、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関等と連携しながら組織的に指導・支援していくことも求められる。この科目では、専門職として将来働くために必要な特別支援教育に関する最低限の知識や支援方法の基礎・基本を理解し、実際の場面で生かすことを目標とする。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

- (1) 特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
- (2) 特別の支援を必要とするこどもの**教育課程及び支援の方法**を理解する。
- (3) **障害はないが特別な教育的ニーズのあるこどもの学習上又は生活上の困難とその対応**を理解する。
- (4) 将来**教員や保育者として求められる社会人基礎力**を、講義を聴くだけでなく、**演習などを通して主体的に向上**させる。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。

知識・理解力	特別支援教育の中で、何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしめない。	特別支援教育について学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	特別支援教育について学ぶべき知識等の中で、最も重要なことをいくつか認識するため、ツールを適切に活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに関連させて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	特別支援教育について自分の学びを振り返り、考えることができる。	特別支援教育について新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働学修の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方などを尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	特別支援教育について学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	特別支援教育について自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、特別支援教育について学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

【授業計画】

- 第 1 回 特別支援教育について
講義全体の概要と特別支援教育の制度の理念や仕組みについて
- 第 2 回 心身の発達、心理的特性及び学習の過程について
発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とするこどもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程について
- 第 3 回 視覚障害のあるこどもの学習上又は生活上の困難について
特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。

- 第 4 回 聴覚障害のあるこどもの学習上又は生活上の困難について
特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
- 第 5 回 知的障害のあるこどもの学習上又は生活上の困難について
特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
- 第 6 回 肢体不自由のあるこどもの学習上又は生活上の困難について
特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
- 第 7 回 病弱等のあるこどもの学習上又は生活上の困難について
特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
- 第 8 回 発達障害や軽度知的障害について
特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
- 第 9 回 「通級による指導」及び「自立活動」について
「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容について
- 第 10 回 個別の指導計画及び個別の教育支援計画について
特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について
- 第 11 回 特別支援教育体制について
特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性について
- 第 12 回 障害以外の特別の教育的ニーズについて
母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのあるこどもの学習上または生活上の困難や組織的な対応について
- 第 13 回 障害の心理的疑似体験
障害のあるこどもの心理的疑似体験
- 第 14 回 個別レポート作成とテーマ別グループワーク
心理的疑似体験を基にした指導や支援方法に関する個別レポート作成とテーマ別グループワーク
- 第 15 回 グループワークの発表
グループワークの発表（マイクロプレゼンテーション）、相互評価とフィードバック
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
定期試験は実施しない。学修した内容を総合的に考察するレポートを課す。
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義を中心に、演習も必要に応じて行う。授業後に学修したことを振り返るために、manabaでミニコメントシートを提出する。その中で共有すべき情報や課題、疑問については、次回の授業で全体にフィードバックを行う。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
特別な教育的ニーズのあるこどもへの教育や保育に関する基礎的・基盤的な知識や技能の習得は、卒業後にこども

に関わる専門職として必須である。そのため、テキストを事前に読み込み、あらかじめ疑問点や注目点を自分なりに考えて、積極的に授業に参画できるように準備学習を行った上で授業に望むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
毎回の授業の学びを振り返り整理するために、manabaによりミニコメントシートを提出する。
卒業後、教育や保育に携わる専門職として求められる社会人基礎力の考え方を理解し、将来発揮できるように、最終の個別レポートだけで評価するのではなく、ルーブリックに示す項目を基に、下記の点から総合的に評価する。
個別レポート 40% 個別課題(1)(2)(3)に対応
毎回のミニコメントシート 40% 個別課題(1)(2)(3)(4)に対応
グループワークや発表をルーブリックから総合的に評価
20% 個別課題(4)に対応
〔留意事項 (Other Information)〕
学修状況を考慮して授業予定を変更して行う場合がある。その際は、事前に予告し事前学習できるようにする。
欠席等は、学生便覧（学生手帳）の授業・試験の欠席の取扱いに従って対応することとし、15回の講義のうち2/3以上の出席者を、ルーブリックに従って評価の対象とする。また、遅刻(15分)は複数回(3回)で欠席1回とみなす。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト：
気付き、工夫して、つなげる。/小林倫代編・著；藤井茂樹、廣瀬由美子、星祐子著/学研教育みらい/2018/9784058008904/
学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』/独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/
2015/9784863712973
特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領/文部科学省/海文堂出版/2018/978-4-303-12424-3
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）/文部科学省/開隆堂出版/
2018/9784304042294
特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）/文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042300
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）/文部科学省/開隆堂出版/
2018/9784304042317
〔参考URL(URL for Reference)〕
特別支援学校学習指導要領解説 文部科学省（<http://www.mext.go.jp/>）
社会人基礎力 経済産業省（<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>）

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱虚弱）において教員として勤務経験あり

乳児保育

EDI3250NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

3年次

2単位 後期

火曜3限

DP2：知識・理解力

60

石井 浩子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。

保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。広く乳児期（3歳未満児）の発達と保育について学びながら、そこに関わる大人の役割について、事例をもとに具体的に理解する。乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を討議しながら考え、問題解決の方法を理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 乳幼児保育を取り巻く様々な問題について学ぶ。
2. 乳幼児の発達の理解とともに、その保育環境や実際の援助について学ぶ。
3. 保育所と家庭や他機関・地域との連携について考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	乳児の発育・発達に興味がない	乳児の発育・発達に興味をもち、イメージができる	乳児の発育・発達に関する内容に広く興味をもち、イメージができる	レベル3に加え、将来の乳児への関わりについて、具体的なイメージをもつ
知識・理解力	乳児の発達や必要な援助が理解できない	乳児の発達や必要な援助について、ある程度理解できる	より深く、乳児の発達や必要な援助について理解できる	レベル3に加え、実際の乳児に対する具体的な援助を考えることができる

言語力	乳児の発達や取り巻く環境、援助に関する言葉が理解できない	乳児の発達や取り巻く環境、援助に関して使用されている言葉が理解できる	乳児の発達や取り巻く環境、援助に関する言葉を理解し、自分で使用できる	レベル3に加え、乳児を保育する上で必要な専門的な言葉を理解し、使用できる
思考・理解力	教えられたことが理解できない	教えられたことを理解し、実際の経験したことに当てはめて考えようとする	基本的な内容を理解し、応用的な課題に対して解決しようとする	レベル3に加え、実際の経験に当てはめ、起こり得る問題を予測し、対応を検討しようとする
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見を受け止め、参考にする	考えたことや意見を周囲の人たちと共有する	レベル3に加え、自分の考えを深めようとする
創造・発信力	乳児の発達や必要な援助について、自分の勝手な考えを発信する	乳児の発達や必要な援助について、根拠に基づいた自分の考えを発信できる	乳児の発達や必要な援助について、自ら周囲の状況を踏まえて、自分の考えを発信できる	レベル3に加え、情報モラルを加味しながら、自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 乳児保育の意義
 (1)乳児・乳児保育の概念
 (2)保育ニーズと乳児保育の考え方の基本
- 第 2 回 乳児保育の発展の経緯と現状
 (1)乳児に対する保育感の変遷
 (2)乳児保育の一般化への過程
- 第 3 回 乳児保育の発展の経緯と現状
 (3)保育所・乳児院の役割と乳児保育の位置づけ
- 第 4 回 乳児の発達と保育
 (1)0歳児の発達と保育（新生時期、0歳児前期、0歳児後期）
- 第 5 回 乳児の発達と保育
 (2)1才児の発達と保育
- 第 6 回 乳児の発達と保育
 (3)2歳児の発達と保育
- 第 7 回 乳児の発達と保育
 (4)乳児の発達と保育（援助の基本的視点の獲得）
- 第 8 回

乳児の保育

(1)乳児保育の計画（保育課程、指導計画）

第 9 回 乳児の保育

(2)保育形態と保育の環境構成

第 10 回 乳児の保育

(3)職員の協力体制

第 11 回 乳児の保育

(4)家庭・他機関・地域との連携

第 12 回 保育の計画と記録・評価

(1)記録・評価

第 13 回 保育の計画と記録・評価

(2)保育者の専門性

第 14 回 今後の課題

第 15 回 形成テストとフィードバック

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義形式で授業を進めるが、適宜演習を取り入れる。
- ・教科書と資料の内容に沿って進め、適宜DVD視聴により具体的内容を確認しながら学ぶ。
- ・最終授業で形成テスト及び、授業全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・事前に指定教科書の「乳幼児期の心身の発達」を読んで、おおまかな子どもの発達について理解しておくこと。
- ・授業後、教科書や配布資料を見直して、次回までに内容を確認すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度(10%)、授業時の課題や課題提出(20%)、形成テスト(70%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

健やかな育ちを支える 乳児保育Ⅰ・Ⅱ/高内正子・豊田和子・梶 美保編著/石井浩子・柏 まり・後藤由美・笹瀬ひと美・高井芳江・土谷長子・長倉里香・深澤悦子・森 知子共著/建帛社/2019/9784767951126

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『乳児の生活と保育』/松本園子編著/ななみ書房/2015年/9784903355252E12

『やさしい 乳児保育』/伊藤輝子・天野珠路 編著/青踏社/2012年/9784902636178E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 有資格者として保育園での勤務経験あり。

病弱者の心理・生理・病理

EDD2502N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜4限

DP5: 共生・協働する力

60

萩原 暢子 東道 伸二郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

子どもは日々、友達とのやり取りや達成感などで成長する。病気のときも同様で、治療が必要なところは医療に任せて、子どもたちの日常を取り戻すための手助けをすることは大切なことである。「できること」、「楽しいこと」、「挑戦すること」がある学校生活は子どもの成長の糧となる。

病弱教育は、実際は8～9割の子どもたちが、一般の小中学校で学んでいる。そのため、病弱教育こそが通常学級や支援学級を担任する教師が、内容について理解する必要がある。最終的に、学生は、病弱者の心理・生理・病理に基づいた共生・協働する力について十分理解できている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1.子どもの身体的および精神的発達について理解する。
- 2.発達障害について理解する。
- 3.代表的な疾患の特徴と病弱児への対応や支援方法について理解する。
- 4.病気や障害を持つ子どもの心理－生理的理解と発達段階から見た心理社会的問題について理解する。
- 5.病弱児に対する教育・医療・保健・福祉の連携と支援および法制度について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	こどもの病気と対処法のイメージができない	こどもの病気と対処法をイメージできる	こどもの病気と対処法をより深く学ぼうとする	レベル3に加えてより広い知識を駆使できる
知識・理解力	こどもの病気と対処法の意味が分からない	こどもの病気と対処法の意味が理解できる	こどもの病気と対処法について広く興味を持って理解しようとする	レベル3に加えてより発展した知識について理解できる
言語力	こどもの病気と対処法で使われる用語の意味が分からない	こどもの病気と対処法で使われる用語の意味が理解できる	こどもの病気と対処法での使用言語を自由に使える。	レベル3に加えて、周辺で必要となる用語をも理解し使える
思考・解決力	教えられたこと以上は	こどもの病気と対処法について自	こどもの病気と対処法について現	レベル3に加えてより発展した知

	考えようとしない	分なりに考えようとする	実に当てはめ解決しようとする	識を駆使して
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて考える	こどもの病気と対処法について知識を周囲の人たちと共有し、現実には当てはめようとする	レベル3に加えてさらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を踏まえて自分の意見を発信しようとする	新たな知見を取り入れて独自の発想を発信できる	レベル3に加えて情報モラルを加味しながら自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション、第 I 部 子どもの発達と発達障害 I)
第1章 子どもの発達—精神面・運動面の発達
第2章 発達障害の考え方と広汎性発達障害・注意欠陥多動性障害 (担当：東道)
- 第 2 回 (第 I 部 子どもの発達と発達障害 II)
第3章 知的障害を伴わない発達障害と二次障害 (担当：東道)
- 第 3 回 (第 II 部 子どもの病気 I)
第4章 循環器疾患の理解と支援 (担当：東道)
- 第 4 回 (第 II 部 子どもの病気 II)
第5章 呼吸器疾患の理解と支援 (担当：萩原)
- 第 5 回 (第 II 部 子どもの病気 III)
第7章 腎・泌尿器疾患の理解と支援 (担当：萩原)
- 第 6 回 (第 II 部 子どもの病気 IV)
第8章 成長障害、内分泌疾患の理解と支援 (担当：萩原)
- 第 7 回 (第 II 部 子どもの病気 V)
第9章 消化器・肝臓・栄養疾患の理解と支援 (担当：東道)
- 第 8 回 (第 II 部 子どもの病気 VI)
第10章 神経系疾患の理解と支援 (1) (てんかん、脳性まひ、ダウン症、神経皮膚症候群) (担当：東道)
- 第 9 回 (第 II 部 子どもの病気 VII)
第11章 神経系疾患の理解と支援 (2) (知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー、水頭症) (担当：東道)
- 第 10 回 (第 II 部 子どもの病気 VIII)
第6章 悪性腫瘍の理解と支援 (担当：東道)
- 第 11 回 (第 III 部 病気、障害の子どもを守る I)
第12章 病気、障害の受容とセルフケア (担当：東道)
- 第 12 回 (第 III 部 病気、障害の子どもを守る II)

- 第13章 病気、障害の子どもの心理的特性 (担当：東道)
- 第 13 回 (第 III 部 病気、障害の子どもを守る III)
第14章 教育・医療・保健・福祉の連携と支援
第15章 病気、障害のある子どもを支える法制度 (担当：東道)
- 第 14 回 (形成テスト)
形成テストを実施する。(担当：萩原)
- 第 15 回 (形成テストの解説と評価)
採点済の形成テストを返却し、解説と評価を行う。(萩原)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義形式
2. テキストに沿って進めるが、プリントなどで内容を補足する。
3. パワーポイントやOHCを用いて、実際の画像によって理解を深める。
4. 各回授業の終了時にFD用紙に感想や質問などを記入し、次回の授業で解説する。
5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストに沿って進めるので、次回の内容に目を通しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%) と形成テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

他の学生に迷惑となるような飲食や、スマホを触ったり、私語は厳禁とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『病弱児の生理・病理・心理』/小野次朗ほか/ミネルヴァ書房/2015/978-4-623-06153-2/

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『病弱・虚弱児の医療・療育・教育』/宮本信也、土橋圭子/金芳堂/2017/978-4-7653-1627-9

『特別支援教育の基礎・基本』/独立行政法人国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/2017/978-4-86371-297-3

『病気の子どものガイドブック』/全国特別支援学校病弱教育校長会/ジアース教育新社/2016/978-4-86371-180-8

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 医師として病院等での診療経験あり

病弱者教育論 I

EDD3402N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

江川 正一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

医療の進歩と社会の構造的な変化等によって、病弱者教育の対象となる子ども達も多様化してきている。そのため、教育的ニーズに基づく病弱者教育の教育制度や教育環境も時代と共に大きく変化し、教育方法や学びの場も多様化してきている。この現状を踏まえ、病弱者・身体虚弱児の課題をどのように解決していくか、その教育システムについて理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 病弱者教育の意義と病気の子どもについて理解する。
2. 病気の子どもの家族が抱える課題を理解する。
3. 病気の子どもを取り巻く状況と、病弱者教育の課題を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。

共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 病弱者教育とは
病弱者教育の歴史、病気の子どもの教育の場について
- 第 2 回 病弱者教育の対象 1
病弱者教育の対象とする子どもの現状について
- 第 3 回 病弱者教育の対象 2
病弱者の子どもが抱える課題について
- 第 4 回 病弱者教育 1
病弱者の子どもの就学システムについて
- 第 5 回 病弱者教育 2
病弱者教育における教育課程編成について
- 第 6 回 病弱者教育 3
病弱者教育における教科学習について
- 第 7 回 病弱者教育 4
病弱者教育における自立活動について
- 第 8 回 連携のあり方 1
病院関係者との連携
- 第 9 回 連携のあり方 2
前籍校との連携
- 第 10 回 家族支援 1
病気の子どもの保護者を支える
- 第 11 回 家族支援 2
病気の子どもの兄弟姉妹を支える
- 第 12 回 病弱者教育のフォローアップ 1
退院後の支援について
- 第 13 回 病弱者教育のフォローアップ 2
キャリアオーバー (成人になった病弱者) について
- 第 14 回 病弱者教育の課題
現在の病弱者教育の課題について
- 第 15 回 まとめ
病弱者教育に関する基本的な事柄についてまとめる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義のテーマに即したディスカッションを通して、病気やその治療のために様々な制限がある中で学習保障や病理解、心理的なケアなどの支援を行う教育システムについて考える。

課題については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

病弱特別支援学校のホームページを随時閲覧し、教育方針や実際の指導の様子について把握しておく。

自分自身が病気と向き合う立場に立つ可能性を持ちながら、講義のテーマを考える姿勢を持つようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート (30%) 及びテスト (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』改定版発売予定(2020.3) 学内販売予定

他の障害種の教育論でもテキストとして使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『15メートルの通学路』／山本純士／角川書店／2007／9784043861019

『標準「病弱児の教育」テキスト』／日本育療学会編集／ジアース教育新社／2019／9784863714939

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市立小学校教員 12年 (内 難聴学級担任10年)

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱) 19年

京都市立特別支援学校校長 2年

病弱者教育論 II

EDD3450N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

水曜2限

DP4: 思考・解決力

60

江川 正一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

病弱・身体虚弱児は、病気や身体虚弱のために長期にわたり医療や生活上の様々な規制を必要としている。このことからくる子どもたちの課題を解決していくための指導方法を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 病気の子どもの疾患、病状、治療、教育環境に応じた指導方法や支援の在り方について理解する、
2. 子どもの死に関わることへの対応について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとする。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。

共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方や方法を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 病気の子どもの指導 1
入院直後の指導
- 第 2 回 病気の子どもの指導 2
教科指導の実際 1（指導内容の精選）
- 第 3 回 病気の子どもの指導 3
教科指導の実際 2（病院の環境に応じて）
- 第 4 回 病気の子どもの指導 4
自立活動の指導 1（病気の理解等）
- 第 5 回 病気の子どもの指導 5
自立活動の指導 2（心の病に焦点を当てて）
- 第 6 回 病気の子どもの指導 6
病弱教育におけるICTの活用
- 第 7 回 病気の子どもの指導 7
院内学級（分教室）での指導
- 第 8 回 病気の子どもの指導 8
訪問教育での指導
- 第 9 回 病気の子どもの指導 9
退院（退学）にむけての指導
- 第 10 回 学習指導案作成
学習指導案を作成する
- 第 11 回 模擬授業
作成した学習指導案に基づき模擬授業を行う
- 第 12 回 子どもへの死に向き合う 1
ターミナル期の子どもの指導
- 第 13 回 子どもへの死に向き合う 2
子どもの死をとらえる（子どもたちへの指導）
- 第 14 回 子どもへの死に向き合う 3
子どもの死をとらえる（指導者への支援）
- 第 15 回 まとめ
病弱教育における指導のあり方についてまとめる

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義とディスカッションを通して、病気やその治療のために様々な制限がある中で学習保障や病気理解、心理的なケアなど教育の立場からどのような支援を行うことができるかについて考えていく。

学習指導案を作成し、模擬授業を行う。学習指導案については、模擬授業実施時にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

随時病弱の特別支援学校のホームページを閲覧し、実際の指導の様子を掴んでおく。

病気の子どもに関係する事柄に、関心を持って、新聞、テレビ等の報道等に注意を払っておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、レポート（30%）及び学習指導案（40%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』改定版発売予定(2020.3) 学内販売予定

他の障害種の教育論でもテキストとして使用

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『あかはなそえじ先生のひとりじゃないよ』／副島賢和／学研教育みらい／2015／9784054062962

〔参考URL(URL for Reference)〕

全国特別支援学校病弱教育校長会「病気の子どもの理解のために」http://www.zentoku.jp/dantai/jyaku/index_book.html

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 12年（内 難聴学級担任10年）

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱)

19年

京都市立特別支援学校校長 2年

保育原理

EDI1250NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

金曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現在の子どもを取り巻く環境は、社会の変化に影響を受け、大きく変化している。また、社会の変化により、保育所に求められる役割も多様化している。このような中で、健全な子どもたちの育ちを担うため、保育者として、まず、保育の意義や目的、関係法令と制度、保育の思想と歴史の変遷について理解する。また、保育所保育指針における保育の基本として、子どもの発達とその過程に応じた保育の内容、保育所保育の計画、保育の現状と課題について学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1)子どもを取り巻く環境や保育の現状について理解する。
- (2)保育の目的、保育実践の内容や方法を学ぶ。
- (3)子どもの発達や幼児理解、カリキュラムについて理解する。
- (4)保育者の資質について考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	保育の原理について学ぶ意識がない	保育の原理に興味をもち、学ぶ意欲がある	保育の原理に関する内容に広く興味をもって学び、イメージができる	保育の原理に関する内容に広く興味をもち、具体的なイメージをもって知識を深めていく
知識・理解力	保育の目的、保育実践の内容や方法について理解できない	保育の目的、保育実践の内容や方法の基本について、理解できる	より深く、保育の目的、保育実践の内容や方法について理解できる	レベル3に加え、実際の保育の目的や保育の実践の内容や方法について考えることができる
言語力	保育用語について理解ができない	基本的な保育用語を理解できる	保育用語の内容を理解し、使用する	レベル3に加え、さらに専門的な保育用語を理解し、使用できる

思考・解決力	子どもを取り巻く環境や保育の現状について理解できない	子どもを取り巻く環境や保育の現状について理解できる	子どもを取り巻く環境や保育の現状を考察することができる	子どもを取り巻く環境や保育の現状を考察、起こりうる問題を予測し、対策を検討しようとする
共生・協働する力	保育の歴史や制度、他人の意見を参考にしない	保育の歴史や制度に基づいて、保育の原理について理解を深めようとする	保育の歴史や制度に基づいて、保育の原理の内容について周囲の人たちと共有することができる	レベル3に加え、保育の原理の内容を周囲の人と共有したことから、自分の意見を深めることができる
創造・発信力	保育の原理について、自分なりの偏った考えを発信する	保育の原理について、保育の歴史や制度に基づいた自分の考えを発信できる	保育の原理について、保育の歴史や制度に基づいた自分の考えと、周囲の状況を踏まえた発信ができる	レベル3に加え、情報モラルを加味しながら、自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育の本質
 - (1)保育の意義とその思想
 - (2)保育の目標
- 第 2 回 保育の本質
 - (3)子どもの発達特性
 - (4)保育の原理
- 第 3 回 保育の制度と現状
- 第 4 回 保育の歴史と現状
 - (1)西 欧 における 保育 施設 の 誕生 と 発展
- 第 5 回 保育の歴史と現状
 - (2)日 本 における 保育 施設 の 誕生 と 発展
- 第 6 回 保育所保育の原理
 - (1)保育の特性
 - (2)保育の目標
- 第 7 回 保育所保育の原理
 - (3)保育の方法
- 第 8 回 保育所保育の原理
 - (4)保育の環境
- 第 9 回 保育所保育の内容
 - (1)保育の内容構成の基本方針
- 第 10 回 保育所保育の内容
 - (2)ねらい、内容、領域

- 第 11 回 保育所保育の内容
 (3)遊びと生活
 (4)保育形態と保育方法
- 第 12 回 保育所保育の計画
 (1)保育の計画作成上の基本的視点
- 第 13 回 保育所保育の計画
 (2)保育計画と指導計画
 (3)保育の計画作成上の留意事項
- 第 14 回 保育士の資質と任務
 (1)資格制度と専門性 (2)子ども、保護者との
 かかわり (3)保育者間の連携

第 15 回 日本の保育の現状と課題
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施する

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

- ・講義形式で、教科書に沿って授業を進める。
- ・適宜、プリントやパワーポイントによる資料提示をする。また、ディスカッション、レポート課題、確認テストを実施する。
- ・3～5回に1度、確認プリントを配布し、それに対するフィードバックを行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

- ・教科書「第15講 日本の保育の現状と課題」について読んで把握しておくこと。
- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を授業で取り上げた際は、その詳細を教科書で確認すること。
- ・授業前後に教科書と資料を読んで、「保育」の理解に努めること。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業参加度(10%)、授業時の課題と課題の提出(20%)、定期試験(70%)に基づいて、総合的に評価する。

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『新しい保育講座①保育原理』/渡邊秀則・高島景子・大豆生田啓友編著/ミネルヴァ書房/2018年/9784623080274/

『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』/民秋 言編/萌文書林/2017年/9784893472540/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『最新保育講座①保育原理 [第3版]』/森上史朗・小林紀子・若月芳浩/ミネルヴァ書房/2015年/9784623073511E12

『保育原理の基礎と演習』/柴崎正行 編著/わかば書房/2016年/9784907270179

『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』/汐見稔幸 監修/汐見稔幸 監修/2017年/9784623080984

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

≪実践的科目≫ 有資格者として保育園での勤務経験あり。

保育実習 I - 1

EDI2601N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

10

集中

石井 浩子 萩原 暢子 畠山 寛 植田 恵理子 古庵 晶子 太田 容次 田中 裕喜

[科目の教育目標 (Course Description)]

保育所において乳幼児と生活をともにし、乳幼児の理解を深めるとともに、保育士の仕事に助手的に携わることを通して、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。また、乳幼児をとりまく現代の家庭や社会についての考えを深め、保育士を志す者としての自覚を高める。

そして、これまでに学んだ知識・技術・考え方等と実践の統合を図り、さらに新しい学習課題を見出す契機とする。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- (1)保育所の概要を把握し、保育の一日の流れや乳幼児の発達の特性などをつかむ。
- (2)保育者の助手的な役割をしながら、保育の実践について学ぶ。
- (3)保育の指導案作成や準備を行ってから、実際に責任をもって保育をし、反省・評価して次への課題を見出す。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
実習園の理解	事前訪問で話された実習園の概要を理解していない	事前訪問で話された実習園の概要について、実習での観察や体験を通して理解しようとする	事前訪問で話された実習園の概要を再認識し、実習中に、観察したり体験したりして、理解しようとする	前訪問で話された実習園の概要を把握し、実習中に体験したり、積極的に質問したりして理解を深めようとする
実習態度	保育者の指導や助言を改善しようとしめない	言われた作業や保育の援助を行う	保育者からの指導や助言を受け止め、自分で作業を探するなど、積極的に行動する	保育者の動きを注意深く観察し、研究的な視点から自分の行動を変化させるなどして、積極的に行動する

子どもへの 関わり	自分から子どもに関わろうとしない	自分から子どもに積極的に関わり、コミュニケーションをとることができる	子どもの年齢とその日の様子から判断して、個々に応じた関わり方ができる	乳幼児の発達の特性をつかみ、個々の気持ちや思いを考えた上で、状況に応じた適切な関わりができる
保育者との 関わり	自分から挨拶をしたり、質問や相談をしない	分からないことなど質問や相談を積極的にして行動する	質問や相談をしながら、これからの活動について予測をして行動しようとする	保育者の子どもとの関りに注目し、保育者の意図を考察したり、保育の中で自分も実践したりする

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習施設について理解する。
保育における一日の生活の流れの全体的理解をして参加する。
- 第 2 回 子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。
- 第 3 回 保育計画や指導計画を理解する。
- 第 4 回 生活指導の態度およびその技術、遊びの展開とその関わり方について学ぶ。
- 第 5 回 人的・物的条件の理解、乳幼児の集団行動・個別行動の観察を行う。
- 第 6 回 生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を習得する。
- 第 7 回 保育士の職務内容と役割、他の職員とのチームワークなどを学ぶ。
- 第 8 回 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭や地域社会について理解する。
- 第 9 回 子どもの最善の利益を具体的に具体化する方法について学ぶ。
- 第 10 回 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ。
- 第 11 回 乳幼児の健康・安全に対する配慮、疾病予防への配慮などについて理解する。
- 第 12 回 実習の段階と内容
①観察実習
- 第 13 回 ②参加実習
- 第 14 回 ③部分実習
保育士の指導のもと、指導案を作成して保育を行う。
- 第 15 回 ④実習のふりかえり
省察・評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1)実習園として決定した保育所において、おおむね10日間の現場実習を行う。
- (2)実習では、所(園)長や実習担当の保育士から指導を受ける。
- (3)実習中に、大学の実習担当教員が実習園に訪問し、実習生への指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・これまで履修した講義や演習について、保育での実践に役立つようまとめておく。
- ・保育所実習に必要な事柄を教科書や配布資料を基に再度確認しておく。
- ・実習時における具体的な自己課題を明確にしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・「保育実習指導 I - 1」(前期授業)を履修済みでなければ、実習をすることはできない。また、履修済みであっても、その授業態度及び保育士資格関係科目の単位の履修・取得状況により、履修を許可しないこともあるので注意すること。
- ・事前準備として(学内)健康診断受け、実習前に細菌(検便)検査をし、結果を実習施設に提出しなければならない。実習初日に提出できない場合は、原則として、実習を中止とする。

・各実習園でかかる費用(給食費など)については、各自で直接支払う。

・「保育実習指導 I - 1」と「保育実習 I - 1」は一体となって「保育実習」を遂行するため、一方が不合格の場合は、両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『健康福祉シリーズ4 新・実習指導概説 保育・教育・施設実習』/前橋 明・石井浩子編著/ふくろう出版/2019年/9784861867606

『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』/民秋 言/萌文書林/2017年/9784893472540

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

石井：有資格者として保育園での勤務経験あり。

植田：保育助手・講師として、幼稚園での実務経験あり。

保育実習Ⅰ－２

EDI2602N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

10

集中

島山 寛 萩原 暢子 石井 浩子 植田 恵理子 古
庵 晶子 太田 容次 田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

居住型の乳児院や児童養護施設、障害児施設などの生活の場に参加し、施設の役割と機能、施設における保育士の職務、養護内容、乳幼児や利用者に対する理解を深めるとともに、施設と学校との連携や地域に果たす役割などを学ぶ。また、取得した知識・技能を基礎とし、それらを総合的に実践する応用力を養う。実習課題を個々が明確にし、保育士を志す者としての自覚を高めることをめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 福祉施設の意義・機能などを実践の場で観察・体験を通して理解する。

(2) 親元を離れ、福祉施設で生活する子どもの現状から、その最善の利益の具現化について学ぶ。

(3) 施設で働く保育士としての職務内容、子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を実体験する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
実習を通して、施設の役割や機能について理解する。	実習を通して、施設の役割や機能についてやや理解できる。	実習を通して、施設の役割や機能について理解できる。	実習を通して、施設の役割や機能についてよく理解できる。	実習を通して、施設の役割や機能について非常によく理解できる。
実習を通して、利用者を理解する。	実習を通して、利用者理解がややできる。	実習を通して、利用者理解ができる。	実習を通して、利用者理解がよくできる。	実習を通して、利用者理解が非常によくできる。
実習を通して、施設で働く保育士の役割について理解する。	実習を通して、施設で働く保育士の役割についてやや理解できる。	実習を通して、施設で働く保育士の役割について理解できる。	実習を通して、施設で働く保育士の役割についてよく理解できる。	実習を通して、施設で働く保育士の役割について非常によくできる。

実習を通して、保育士以外の他職種との連携等の在り方について理解する。	実習を通して、保育士以外の他職種との連携等の在り方についてやや理解できる。	実習を通して、保育士以外の他職種との連携等の在り方について理解できる。	実習を通して、保育士以外の他職種との連携等の在り方についてよく理解できる。	実習を通して、保育士以外の他職種との連携等の在り方について非常によく理解できる。
------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習施設の沿革と職員構成、各職種の職務分担、勤務形態、勤務時間について理解する。
- 第 2 回 実習施設の保育士の職務内容と役割、施設の地理的条件、設備等について理解する。
- 第 3 回 施設の定員、在籍数、年齢、性別居室構成、措置理由、在所期間、心身の発達状況、障害の程度などについて個別に理解する。
- 第 4 回 子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。
- 第 5 回 心身の発達や障害の程度を考慮して居室が配置・構成されている状況を学ぶ。
- 第 6 回 養護の一日の流れを理解し、参加する。(子どもの日常生活がどのように確保され、指導されているのかを学ぶ。)
- 第 7 回 援助計画を理解し、子どもの日常生活における基本的な生活習慣の形成や生活技術の習得、移動・食事・排泄などの援助の一部を担当する。
- 第 8 回 援助計画を理解し、保育士の養護活動や援助技術、異職種との協力体制について体験を通じて習得する。
- 第 9 回 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
- 第 10 回 記録や利用者とのコミュニケーション、施設職員からのなどを通して、施設と家庭や地域社会との連携の実態について理解する。
- 第 11 回 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
- 第 12 回 保育士としての職業倫理(守秘義務の)を具体的に学ぶ。
- 第 13 回 安全及び、疾病予防への配慮について理解する。
- 第 14 回 見学・観察実習(実習施設の役割や機能などを知り、施設や施設養護の特質について理解を深めるとともに、保育士や指導員の助手として手伝いながら、子どもの年齢や性別、入所理由、入所期間、心身の発達の状況、障害の程度、生活居室の運営と職員の活動状況、職員の構成と勤務の状況、一日の生活など、子どもの状況と施設養護の実際を観察・理解する)
- 第 15 回 参加・助手実習(子どもの生活集団の構成員の一人として加わり、子どもの身の世話を生活上の指導に補助的に関わりながら、子どもの個性や個人差などに応じた関わり方や生活面の指導の仕方などを学ぶ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習生は、実習施設の職員に準じて勤務実習する。指導には、施設長及び、施設長が任命する実習指導担当者が当たる。実習巡回時に、実習担当教員により指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・実習までに履修した講義や演習を実習での実践に役立つようまとめておく。
- ・施設実習に必要な事柄を教科書や配布資料を基に再度確認しておく。
- ・実習時における具体的な自己課題を明確にしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・保育士資格関係科目の単位取得状況、履修状況によっては履修を許可しないことがあるので注意すること。
- ・必要に応じて説明会、事後指導等を行うので必ず出席すること。
- ・事前準備として、健康診断と実習前に細菌（検便）検査〔赤痢菌、サルモネラ菌、O-157、虫卵〕をし、結果を実習施設に提出しなければならない。インフルエンザ予防接種も行うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『保育士養成課程 四訂 福祉施設実習ハンドブック』/岡本邦彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎/みらい/2013年/9.78486015309E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

保育実習Ⅱ

EDI3655A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

60

保育原理、保育者論、保育実習I-1・I-2、保育実習指導I-1・I-2

集中

石井 浩子 萩原 暢子 畠山 寛 植田 恵理子 古庵 晶子 田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育所の役割を踏まえ、実際に体験することで保育士としての資質・能力・機能などを学ぶ。子どもの最善の利益を保障することの意義、各関係機関との連携、保護者との連携、家庭への援助、地域とのかかわりや地域の在宅親子への支援など、保育所の担っている社会的役割への理解を深める。また、実習I-1からの反省や課題を明確化し、自己課題への取り組みを積極的に行い、指導案の立案、実施をする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1)保育所の目的・役割、意義や機能など、保育現場での体験を通して理解を深める。
- (2)保育所保育指針に基づき、子どもの発達過程を理解し、子どもの一人ひとりへの援助や集団としての保育を捉え、保育の指導案を立案して実践する。
- (3)実習I-1を振り返ることにより、自己課題を明確化し、課題への取り組みを積極的に行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
実習施設の理解	実習訪問で話された実習園の概要を理解できない	実習訪問で話された実習園の概要をふりかえり、実習での観察を通して理解しようとする	実習訪問で話された実習園の概要をふりかえり、実習中に観察したり、体験したりすることで理解しようとする	実習訪問で話された実習園の概要を再認識し、実習中に観察や体験をしたり、質問を積極的にすることで理解を深めようとする

実習態度	保育者の指導や助言を改善しようとしな	保育者に指示された作業や保育の援助を行う	保育者からの指示や助言を受け止め、さらに、状況を判断して自分がすべきことを考えて行動できる	保育者の動きを注意深く観察し、指導されたことを踏まえて、自分の行動を変化させて、積極的に行動する
子どもとの関り	自分から子どもに関わろうとしな	自分から子どもに積極的に関わり、コミュニケーションをとることができる	子どもの年齢とその日の様子から判断して、個々に応じた関わりができる	乳幼児の発育発達の特徴をつかみ、個々の気持ちや思いを考慮し、状況に応じた適正な関りができる
保育者との関わり	自分から挨拶をしたり、質問や相談をしない	分からないことなど、質問や相談を積極的にして行動する	質問や相談をしながら、いれからの活動について予測して、行動しようとする	保育者の子どもの関りに注目し、保育者の意図を考察したり、保育の中で自分でも実践したりする
自己課題	自己課題と行動がともなわない	自己課題を意識して行動し、最後にふりかえり、達成度を検討することができる	自己課題を意識して行動し、保育者の指導を受けて課題を修正し、実行ができる	自己課題を意識して行動し、実習の状況から自ら判断して課題を修正し、実行・評価ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育所の目的と役割、その機能の理解
・保育所の社会的役割と責任
- 第 2 回 乳幼児の発達と生活全体の流れや展開の把握
- 第 3 回 子どもの最善の利益を保障することの配慮についての理解
- 第 4 回 観察に基づく保育理解
(1)子どもの心身の状態や活動の観察
- 第 5 回 観察に基づく保育理解
(2)保育士等の動きや実践の観察
- 第 6 回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(1)環境を通して行う保育や生活、遊びを通して総合的に行う保育の理解
- 第 7 回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携

- (2)入所児の保護者支援及び地域の子育て家庭への支援
 - 第 8 回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(3)各関係機関との連携
 - 第 9 回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(4)地域社会との連携
 - 第 10 回 安全危機管理、衛生危機管理などの理解
 - 第 11 回 指導計画の作成と実践、観察、記録、評価
(1)保育過程に基づく指導計画の作成と実践、省察、評価と保育過程の理解
 - 第 12 回 指導計画の作成と実践、観察、記録、評価
(2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価
 - 第 13 回 保育士の業務と職業倫理
(1)多様な保育の展開と保育士の業務
 - 第 14 回 保育士の業務と職業倫理
(2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理
 - 第 15 回 自己課題の明確化
・保育士に求められる資質、能力、技術など
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- ・実習生は、実習施設の職員に準じて勤務実習する。
 - ・実習では、園長や実習担当の保育士から指導を受ける。
 - ・実習中に、大学の実習担当教員が訪問し、指導を行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- ・実習 I-1 で学んだことを振り返り、実習記録や指導案を見直す。
 - ・指導案作成や教材研究、教材準備をしておくこと。
 - ・関係授業の復習をしておく。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 10
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- 原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- ・「保育実習Ⅱ」の履修登録時には、「保育実習指導Ⅱ」も履修登録すること。
 - ・保育士資格関係科目の単位取得状況や履修状況によっては、実習を許可しないことがあるので注意すること。
 - ・事前準備として、(学内)健康診断を受け、実習前に細菌検査をし、それらの結果を実習施設に提出する。実習初日に提出できなかった場合は、原則として、実習中止とする。
 - ・各実習園でかかる費用(給食費など)については、各自で直接支払う。
 - ・事後指導には、必ず出席すること。
 - ・「保育実習指導Ⅱ」と「保育実習Ⅱ」は一体となって「保育実習」を遂行するため、一方が不合格の場合は、両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『健康福祉シリーズ4 新・実習指導概説 保育・教育・施設実習』/前橋 明・石井浩子 編著/ふくろう出版/2019年/9784861867606

『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』/民秋 言 編/萌文書林/2017年/9784893472540

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

石井：有資格者として保育園での勤務経験あり。

植田：保育助手・講師として、幼稚園での実務経験あり。

保育実習指導 I - 1

EDI2600N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

火曜 2限

DP6：創造・発信力

15

集中

石井 浩子 萩原 暢子 畠山 寛 植田 恵理子 古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育所における実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を実りあるものにするを目標とする。具体的には、保育所の制度、役割、機能、子どもの発達、観察と援助の仕方、指導計画の立て方、記録の方法などの基礎的な項目について学び、保育実習への理解を深めるとともに、実習の心構えを身につける。

事後指導では、実習を通して学んだことや反省などから、今後の自己の学習内容や課題を探る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)実習の目的や内容、方法、留意事項などを具体的に理解する。

(2)保育観察の方法や「実習記録」の記入の仕方、指導計画の作成方法、基礎的な保育技能・技法を身につける。

(3)実習を評価・反省し、実習後の学習課題を明確にする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

実習に関する知識・理解・意欲・態度	実習への意欲がみられない	実習への意欲があり、実習生としての態度が身につけている	実習への意欲があり、礼儀や言葉づかい、服装など、実習生として必要な態度を身につけている	レベル3に加え、他の学生の模範となる行動がとれる
創造・発信力	実習に必要な書類や授業課題の提出ができなかったり遅れたりする	実習に必要な書類や授業課題を決められた期間内に提出できる	実習に必要な書類や授業課題の内容を理解し、決められた提出締め切り日までに提出できる	実習に必要な書類を丁寧に作成して提出したり、課題の内容を正しく理解し、参考図書を活用しながらまとめ、提出締め切り日までに提出することができる
思考・表現力	日誌や指導案の書き方を理解できない	日誌や指導案の基本的な書き方を理解できる	日誌や指導案の書き方を理解し、設定した子どもの年齢や遊びに合わせて書くことができる	子どもの発達や特長を考慮して、日誌の配慮事項や部分実習指導案の作成ができる
自分を育てる力(課題)	実習後の自己課題が見いだせず、ふりかえりレポートが提出できない	今後の課題を見出すため、実習評価や実習担当者からのアドバイスを加味してレポートを作成して提出ができる	実習評価や実習担当者からのアドバイスを今後の課題を見出し、レポートを作詞して提出ができる	実習評価や実習担当者からのアドバイス、自己評価を基に、今後の課題を見出し、レポートを作詞して提出ができる

〔授業計画〕

第 1 回 保育実習オリエンテーション (全員)

保育実習の意義と目的の理解、実習の流れ

第 2 回 実習の内容と方法の理解 (石井・畠山)

第 3 回 保育所の行事や一日の流れの理解 (植田・古庵)

第 4 回 乳幼児の生活と保育・生活環境 (萩原・石井)

第 5 回 乳幼児の発達と保育、乳幼児の活動と保育者の関わり (畠山・植田)

第 6 回 保育園での具体的な援助と指導実践の基礎理解 (古庵・萩原)

第 7 回 実習記録の意義・方法の理解 (石井・畠山)

実習記録の書き方の実際と注意事項

第 8 回 保育所見学 (全員)

- 第 9 回 保育所見学のふりかえり (全員)
グループワーク
- 第 10 回 保育計画・指導計画の理解 (植田・古庵)
- 第 11 回 指導案の作成と模擬保育 (討議) (萩原・石井)
児童文化財を使った実技を含む模擬保育指導
計画の立て方
- 第 12 回 実習課題の明確化 (畠山・植田)
- 第 13 回 実習に際しての留意事項(古庵・萩原)
(1)子どもの人権と最善の利益の考慮
(2)プライバシー保護と守秘義務 (3)実習
の心構え
- 第 14 回 学内オリエンテーション (全員)
実習施設への事前訪問
- 第 15 回 実習終了後
事後指導 [実習報告、成績開示、個別指導] (全
員)

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

- ・講義や演習によって、実習に必要な事柄を理解するとともに、心構えについて学ぶ。また、実習施設への見学や保育に参加することにより、事前に現場の状況を理解する。
- ・実習に必要な保育技術や知識について、レポートを課す。
- ・実習中に、施設の実習担当者との連携のもと、実習生への指導を行う。
- ・事後指導は、実習終了後に行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

これまで履修した講義から、保育所や施設の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて再確認しておくこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業参加度 (50%)、確認テスト・課題・事前事後指導での発表状況など (50%) に基づいて、総合的に評価する。

なお、原則として遅刻・欠席は認められない。提出物の期限は厳守すること。

[留意事項 (Other Information)]

- ・この授業を履修しなければ、「保育実習 I-1」の実習はできない。
- ・出席状況や資格取得に必要な科目の履修状況から、履修や実習を中止することもあるので注意すること
- ・「保育実習指導 I-1」と「保育実習 I-1」は一体となって「保育実習」を遂行うすため、一方が不合格の場合は、両方が不合格となる。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『健康福祉シリーズ3 実習指導概説 保育・教育・施設実習』/前橋 明・石井浩子編著/ふくろう出版/2012年/9784861865138/学内販売をしない予定
教科書購入については、授業の初回に説明する。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』/民秋 言/萌文書林/2017年/9784893472540

『やさしく学べる保育実践ポートフォリオ』/植原邦子/ミネルヴァ書房/2005年/4623044483E9

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

≪実践的科目≫

石井：有資格者として保育園での勤務経験あり。

植田：保育助手・講師として、幼稚園での実務経験あり。

保育実習指導 I - 2

EDI2650N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 後期

金曜2限

DP6：創造・発信力

15

集中

畠山 寛 萩原 暢子 石井 浩子 植田 恵理子 古庵 晶子

[科目の教育目標 (Course Description)]

施設における実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を実りあるものにするを目標とする。具体的には、保育所と施設の制度、役割、機能、子どもの発達、観察の仕方、援助の仕方、指導計画の立て方、記録の方法など、基礎的な項目について学ぶことにより、保育実習への理解を深めるとともに、実習の心構えを身につけることをめざす。

事後指導では、実習を通して学んだことや反省などから、今後の自己の学習内容や課題を探ることをめざす。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 保育所を除く児童福祉施設の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

[ルーブリック表]

DP 実習の意	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
義・目的の理解	実習の意義・目的が理解できていない。	実習の意義・目的が理解できている。	実習の意義・目的がよく理解できている。	実習の意義・目的の理解が非常によく理解

				できている。
実習の課題の明確化	実習課題が明確になっていない。	実習課題が持てる。	実習課題が明確になっている。	実習課題が、実習の目的等と関連づけて考えられている。
子どもの人権やプライバシー保護の理解	子どもの人権やプライバシー保護について理解できていない。	子どもの人権やプライバシー保護について理解できる。	子どもの人権やプライバシー保護についてよく理解できる。	子どもの人権やプライバシー保護について非常によく理解できる。
実習の方法や内容	実習の方法や内容について理解できていない。	実習の方法や内容について理解できる。	実習の方法や内容についてよく理解できる。	実習の方法や内容について非常によく理解できる。
実習の総括と自己評価	実習の総括や自己評価ができていない。	実習の総括や自己評価ができる。	実習の総括や自己評価が、実習の目的や課題と関連付けて考えられる。	実習の総括や自己評価が、実習の目的や課題と関連付けられており、今後の事故課題が明確になっている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育実習 I -2とは何か①：保育実習 I -1を振り返りから考える。
- 第 2 回 保育実習 I -2とは何か②：施設実習の意義・目的の理解
- 第 3 回 保育実習 I -2とは何か③：施設、利用者、施設保育士等の理解
- 第 4 回 実習に必要な事前学習と実習の段階的取り組み
- 第 5 回 実習記録の書き方及び実習計画書の書き方について
- 第 6 回 施設種別指導①
- 第 7 回 施設種別指導②
- 第 8 回 個人票・誓約書の作成
- 第 9 回 施設種別指導③
- 第 10 回 施設種別指導④
- 第 11 回 実習計画書の作成
- 第 12 回 事前オリエンテーション
- 第 13 回 実習中の取り組み
- 第 14 回 実習後の取り組み
- 第 15 回 事後指導

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義・演習によって、実習に必要な事柄を理解するとともに、心構えについて学ぶ。
2. 施設への見学やに参加することにより、事前に現場の状況を理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

これまで履修した授業から、施設の制度や役割、機能、また、施設保育士の役割などについて再確認しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50%)、確認テスト・課題・事前事後指導での発表状況など (50%) に基づいて、総合的に評価する。

なお、原則として欠席は認められない。提出物の期限は厳守すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

・出席状況や資格取得に必要な科目の履修状況から、履修や実習を中止することもあるので注意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保育士養成課程 四訂 福祉施設実習ハンドブック』/岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎/みらい/2013年/9784860153090/学内販売予定

教科書購入については、授業の初回に説明する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育実習指導 II

EDI3651A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

1単位 後期

金曜1限

DP6：創造・発信力

15

集中

石井 浩子 萩原 暢子 畠山 寛 植田 恵理子 古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は、保育実習 II(保育所実習)の事前学習と事後指導を行うものである。保育実習 IIの意義と目的、その内容について理解を深め、保育について総合的に学ぶ。よって、これまで履修した科目の内容や「保育実習 I」での学び、また、新たな自己課題を踏まえ、総合的に実践する応用能力を培うことをめざす。

事後指導では、自己評価やグループディスカッションを通して、実習総括を行うとともに、今後の自己の課題を明確にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・保育実習Ⅱでは、前回の実習からさらに進んだ実習の目的と内容であることを理解する。
- ・前回の実習の経験を生かし、保育や子どもたちの観察、子どもたちの関わり、実習記録への記入、指導計画の作成、保育技能・技法などの習得を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
実習に関する知識・理解・意欲・態度	実習への意欲がみられない	保育の知識や技術の習得に意欲的に取り組む	保育の知識や技術の基本を踏まえた計画と模擬保育の実践ができる	保育の知識や技術を活かした模擬授業の計画と実践ができる
創造・発信力	実習に必要な書類や授業内課題の提出ができなかったり遅れたりする	実習に必要な書類や授業課題を決められた提出締切日までに提出ができる	実習に必要な書類や授業課題の内容を理解し、決められた提出締切日までに質問したり調べたりしたことをまとめ、提出ができる	実習に必要な書類を丁寧に悪性して提出したり、課題の内容を理解し、参考図書を活用しながらまとめ、提出締切日までに提出ができる
思考・表現力	日誌や指導案の書き方の基本を理解できない	日誌や指導案の書き方の基本を理解でき作成することができる	設定した年齢や遊びに適した、日誌を書いたり指導案を作成することができる	子どもの発達や特長を考慮して、日誌の配慮事項や部分実習指導案の作成ができる
自分を育てる力(課題)	実習から自分の今後の課題を見出すことができない	実習評価や実習担当者からの助言を加味して、今後の課題を見出し、レポートにまとめて提出ができる	実習評価や実習担当者からの助言を受け止め、今後の課題を見出してレポートを作成し、提出ができる	実習評価や実習担当者からの助言を受け止め、さらに自己評価を基にして今後の課題を見出し、レポート作成をして提出ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育実習Ⅱ (保育所実習) の意義と目的 (全員)
- 第 2 回 実習記録の意義と方法の理解 (全員)
- 第 3 回 実習の流れや手続きなど (全員)
実習に必要な書類作成、課題設定など
- 第 4 回 実習記録の理解① (全員)
実習日誌の意義と書き方

- 第 5 回 実習記録の理解② (全員)
実習日誌を振り返る (I-1)
- 第 6 回 指導計画の理解① (全員)
指導実習について (部分実習)
- 第 7 回 指導計画の理解② (全員)
ねらいと内容
- 第 8 回 指導計画の理解③ (全員)
環境構成と保育者の援助
- 第 9 回 指導計画の理解④ (全員)
部分実習指導案作成
- 第 10 回 指導計画の理解⑤ (全員)
指導実習について (半日実習・一日実習)
- 第 11 回 指導計画の理解⑥ (全員)
半日実習・一日実習指導案作成
- 第 12 回 実習の心構え (全員)
実習課題の明確化
- 第 13 回 学内オリエンテーション (全員)
- 第 14 回 事後指導① (全員)
実習報告
- 第 15 回 事後指導② (全員)
まとめ、実習記録および成績票による個別面接指導

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義と演習によって、保育実習Ⅱに必要な事柄を理解するとともに、心構えについても学ぶ。
- ・実習前後に、課題を出す。
- ・事後指導は、実習終了後に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・保育実習Ⅰの実習内容をふりかえり、自己課題を明確にしておくこと。
- ・これまで履修した科目から、保育所の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて、再確認をすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50%)、授業時提出物 (20%)、実習事前課題 (30%) に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・春期休暇期間に実施する実習の事前授業として実施する。
- ・この授業を履修しなければ、「保育実習Ⅱ」は履修できない。
- ・原則として遅刻・欠席は認められない。提出物の期限は厳守すること。
- ・「保育実習指導Ⅱ」と「保育実習Ⅱ」は一体となって「保育実習」を遂行するため、一方が不合格の場合は、両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『健康福祉シリーズ④ 新・実習指導概説 保育・教育・施設実習』/前橋 明・石井浩子編著/植田恵理子・古庵晶子・畠山 寛・萩原暢子他7名, ふくろう出版/2019年/9784861867606

『やさしく学べる保育実践ポートフォリオ』/植原邦子/ミネルヴァ書房/2005年/4623044483E9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

石井：有資格者として保育園での勤務経験あり。

植田：保育助手・講師として、幼稚園での実務経験あり。

保育内容（環境）

EDI2402N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

2年次

2単位 前期集中

その他

DP4：思考・解決力

60

田中 文昭

〔科目の教育目標（Course Description）〕

領域「環境」の意義や基本的な考え方を知り、幼児における環境の意味を学び、環境をどのように構成していくことが、子どもの育ちにとって必要であるかを理解する。また領域「環境」と他の領域との関連についても理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 保育現場で必要とされている環境構成についての概要を学び、実践例を通して学びを深めることで保育者としての視座を理解できるようになる。

2. 保育における環境領域についての基本を理解し、人的環境として大切な保育者の役割を理解することで、自分自身が目標とする保育者像がイメージできるようになる。

3. 演習を通して仲間と相談し、意見や考え方の多様性を知ること、自らの学びを深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	保育における環境の意味を理解できていない	保育における環境の意味が理解できる	保育における環境を理解し、適切に環境を構成できる	他の保育者に対して環境の視点から助言ができる

共生・協働する力	自分の思いだけで保育を行う	同僚との協調の大切さを考えようとする	同僚と協働することができる	保育者の中心となって他の保育者と協働することができる
----------	---------------	--------------------	---------------	----------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・環境領域の概要説明
オリエンテーション（これからの学びに必要な姿勢と考え方及び評価方法について）、環境領域の概要説明
- 第 2 回 講義
幼児における環境とは
- 第 3 回 講義
幼児を取り巻く環境の現状
- 第 4 回 講義
物的な環境としての遊具や園具
- 第 5 回 講義
人的な環境としての保育者の役割
- 第 6 回 演習
これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施予定：課題は授業内で発表）
課題に対するフィードバックは、課題の要点を中心に次回の授業で説明します。
- 第 7 回 講義
自然事象への関心
- 第 8 回 講義
生き物との関り
- 第 9 回 講義
身近な素材の活用
- 第 10 回 講義
地域との交流
- 第 11 回 講義
子どもを守る安全な環境
- 第 12 回 演習
これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施予定：課題は授業内で発表）
課題に対するフィードバックは、課題の要点を中心に次回の授業で説明します。
- 第 13 回 講義および演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える（1）
異年齢との関りの中で育つ環境について学ぶ
- 第 14 回 講義および演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える（2）
身近な素材を使った環境について学ぶ
- 第 15 回 講義および演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える（3）
保育内容環境領域のまとめと実践への示唆
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しません（演習内で小テストを実施します。）

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心にしながら演習も行います。演習の内容については授業内で発表します。演習を欠席すると小テストの配点がなくなりますので注意してください。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 新幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「環境」領域について読んでください。
2. 授業前に予習として教科書の該当箇所を読んでおいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内課題：小テスト 2回 (60% : 小テスト各30%配点)、授業態度・授業参加度 (40%) に基づいて総合的に評価します。小テストについては翌週に課題内容の解答をフィードバックします。

授業態度の悪い者 (私語、居眠り等) については単位を与えないので、注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 授業内課題に欠席の場合は、その課題は0点とします。特別な事情がない限り、レポート等による代替えは行わないので、休まないようにしてください。
2. 座席の指定をします。初回の授業で座席位置を知らせします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保育内容「環境」第2版』/秋田喜代美・増田時枝・安見克夫 編/(株)みらい/2009年/9784860151515/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』/文部科学省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社/2017年/9784805402580

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》(詳しい勤務経験等)

幼稚園教諭専修免許状、保育士資格、臨床発達心理士資格保持。

私立幼稚園園長を経て、幼保連携型認定こども園園長(現職)。園運営にかかる教育・保育内容の策定。

保育内容 (健康)

EDI2400NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

金曜1限

DP4 : 思考・解決力

60

集中

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育内容「健康」の意義・ねらい・内容の概要を理解し、他領域との関連性について理解を深めたうえで、保育者として乳幼児の健康に関する課題について対応できる力を習得していく。

乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養えるよう、乳幼児の心身の成長・発達や基本的な生活習慣、運動遊びの意義、安全管理について理解し、その援助方法を考えていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 乳幼児の心身の発育・発達について理解する。
2. 乳幼児の基本的な生活習慣について理解し、その援助について考える。
3. 領域「健康」のねらい及び内容を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	乳幼児の健康について興味がない	乳幼児の健康に関する基礎知識を学ぶ自覚がある	乳幼児の健康に関する知識を学び、理解しようとする	乳幼児の健康に関する知識を学び、具体的な指導方法を考えることができる
知識・理解力	乳幼児の発育・発達や基本的な生活習慣やその援助について理解ができない	乳幼児の発育・発達や基本的な生活習慣とその必要な援助について、ある程度理解ができる	乳幼児の発育・発達や基本的な生活習慣とその必要な援助について、より深く理解できる	レベル3に加え、実際の乳幼児に対する具体的な援助をイメージして考えることができる
言語力	乳幼児の健康に関する専門用語を理解できない	乳幼児の健康に関する専門用語を理解できる	乳幼児の健康に関する専門用語を理解し、レポートなどに用いて表現できる	レベル3に加え、乳幼児を保育する上で必要な専門用語を理解し、レポートなどに用いて表現できる

思考・解決力	子どもの心と体に関する問題点を理解できない	子どもの心と体に関する問題点を理解できる	子どもの心と体に関する問題点を理解し、その原因を調べ、検討する	子どもの心と体に関する問題点を理解し、その原因を調べ、対応策を検討することができる
共生・協働する力	グループワークに対して消極的である	グループワークで自分の意見を発言したり、他の人の意見を聞いたることができる	グループワークで自分の意見を発言したり、他の人の意見を受け入れ、グループの考えをまとめることができる	レベル3に加え、他の人の意見を聞き、考えを共有することにより、自分の考えを整理し、まとめる力がある
創造・発信力	領域「健康」のねらい及び内容が理解できず、説明ができない	領域「健康」のねらい及び内容を理解し、実際の保育のイメージを想像できる	領域「健康」のねらい及び内容を理解した上で、模擬授業の立案ができる	領域「健康」のねらい及び内容を理解した上で、具体的なこどもの姿をイメージして模擬授業の計画・実践ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育内容「健康」の意義
 - 第 2 回 領域「健康」と他領域との関連性
 - 第 3 回 乳幼児の心身の発達と運動発達
 - 第 4 回 遊びを通じた指導
 - 第 5 回 遊び環境と運動遊びの指導
 - 第 6 回 指導計画（1）教材研究
 - 第 7 回 指導計画（2）指導案作成
 - 第 8 回 指導計画（3）模擬授業
 - 第 9 回 指導計画（4）指導計画の評価
 - 第 10 回 基本的生活習慣とその指導
 - 第 11 回 食生活と食育
 - 第 12 回 保育者の役割
 - 第 13 回 安全環境と安全教育
 - 第 14 回 疾病と救急対応
 - 第 15 回 形成テストとフィードバック
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
- ・教科書及びパワーポイントや配布資料により進めていき、適宜、演習を取り入れる。
 - ・最終授業で、形成テストと授業全体に対するフィードバックを行う。

ックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・事前に、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでおくこと。
- ・授業終了後には、教科書及び配布資料などを見て、復習をしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・学習態度（10%）、課題（20%）、形成テスト（70%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

講義内容が前後する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『乳幼児の健康第3版』/前橋 明 編著/大学教育出版/2018年/9784864294980/学内販売予定

『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』/民秋 言編/萌文書林/2017年/9784893472540/学内販売をしない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『保育内容 健康』/杉原隆・湯川秀樹 編/光生館/2010年/9784332701330

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 有資格者として保育園での勤務経験あり。

保育内容（言葉）

EDI2450N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

2年次

2単位 前期集中

その他

DP4：思考・解決力

60

田中 文昭

〔科目の教育目標（Course Description）〕

領域「言葉」の意義や基本的な考え方を知り、どのように保育者として子どもに関わることで子どもの言葉を豊かにできるのかを学ぶ。実践事例を通して学ぶことにより、領域「言葉」と他の領域との関連についても理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 領域「言葉」に関する基本的なことを知り、理解することができるようになる。
2. 言葉を豊かに育む保育の指導方法を実践事例を通して学ぶ。
3. 演習を通して仲間と相談し、意見や考え方の多様性を知ることで自らの学びを深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	言葉の領域の意味を理解できない	言葉の領域の意味を理解できる	言葉の領域の意味を理解し、適切に子どもと関わるができる	言葉の領域に関して、他の保育者に助言ができる
共生・協働する力	自分の思いや考えだけで保育をする	同僚との協調の大切さを考えようとする	同僚と協働して保育をすることができる	保育者の中心となって他の保育者と協働して保育をすることができる
思考・解決力	自分で考えることができない	自分で考えようと試みるが解決しない	自分で考え・解決しようとして試み解決できる	他の保育者の疑問や問題点に関して解決の援助をすることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・言葉領域の概要説明
オリエンテーション（これからの学びに必要な姿勢と考え方及び評価方法について）、言葉領域の概要説明
- 第 2 回 講義
子どもの育ちと言葉
- 第 3 回 講義
コミュニケーションとしての言葉
- 第 4 回 講義
領域「言葉」について
領域「言葉」の意図するところ、言葉の指導の領域、領域「言葉」と他の領域との関係
- 第 5 回 講義
言葉の発達プロセス
- 第 6 回 演習
これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施予定：課題は授業内で発表）
課題に対するフィードバックは、課題の要点を中心に次回の授業で説明します。
- 第 7 回 講義
言葉を育てる保育環境
- 第 8 回 講義
言葉を育てる教具・教材
- 第 9 回 講義
絵本の読み聞かせの実際
- 第 10 回 講義
仲間と共に育つ言葉
- 第 11 回 講義
地域社会と言葉
- 第 12 回 演習

- これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施予定：課題は授業内で発表）
課題に対するフィードバックは、課題の要点を中心に次回の授業で説明します。
- 第 13 回 講義および演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える 子どもの言葉の発達を支える保育者の関わり（1）
文字指導と領域「言葉」、子どもの育ちと言葉の暗唱
 - 第 14 回 講義および演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える 子どもの言葉の発達を支える保育者の関わり（2）当番活動、歌の指導などを題材にして
 - 第 15 回 講義および演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える 領域「言葉」を意識した保育実践（3）発表会を例にして
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しません。（演習内で小テストを実施します。）小テストについては翌週に課題内容の解答をフィードバックします。
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義を中心としながらも演習を行います。
演習の内容については授業内で発表します。
毎回の授業で、手遊びの練習を行います。必ず参加してください。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1. 授業前の学習としては指定教科書の該当箇所を読んでおいてください。
 2. 言葉の領域について、幼稚園教育要領などを事前読んでおいてください。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業内課題：小テスト2回（60%：小テスト各30%配点）、授業態度・授業参加度（40%）に基づいて総合的に評価します。手遊び等の授業内での練習には積極的な態度で参加してください。評価の対象とします。
授業態度の悪い者（私語、居眠り等）については単位を与えません。注意してください。
- 〔留意事項（Other Information）〕
1. 授業内課題に欠席の場合は、その課題を0点とします。特別な事情がない限り、レポート等による代替えは行わないので休まないようにしてください。
 2. 座席の指定をします。初回の授業で座席位置をお知らせします。
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『保育内容「言葉」』/小田豊・芦田宏 編著/北大路書房/2011年/9784762826313/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』/文部科学省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社/2017年/9784805402580

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫(詳しい勤務経験等)

幼稚園教諭専修免許状、保育士資格、臨床発達心理士資格保持。

私立幼稚園園長を経て、幼保連携型認定こども園園長(現職)。園運営にかかる教育・保育内容の策定。

保育内容(表現)

EDI2451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)

2年次

2単位 後期

月曜2限

DP4: 思考・解決力

60

集中

植田 恵理子 藤本 陽三

〔科目の教育目標(Course Description)〕

保育所・幼稚園において、保育の目標を達成するために展開されている保育内容の「表現」の領域について学ぶ。「学びにつながる遊びの活動」をテーマに、子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動を引き出すために必要な環境、援助を考え、具体的な指導方法を習得する。

〔教育・学習の個別課題(Course Objectives)〕

1. 「幼稚園教育要領」の領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。

2. 造形、音楽、劇(ごっこ)、身体、言葉といった表現媒体についてそれぞれ理解を深めるとともに、それらが未分化な形として表(現)れる幼児への具体的な指導方法を体験的に学ぶ。

3. 幼児の豊かな表現を引き出す基盤として自らの発想を拡げ、仲間とともに感性を磨く。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	「幼稚園教育要領」の領域「表現」のねらいと内容の理解について消極的である。	領域「表現」のねらいと内容を理解しようとする。	ねらいを踏まえ、幼児への具体的な指導方法を考える。	具体的な指導方法を考え、実践し、身に着ける。

知識・理解力	「学びにつながる遊びの活動」の知識習得に対し、消極的である。	「学びにつながる遊びの活動」を実践してみようとする。	実践を通して、考えたことをまとめる力を身に着ける。	レベル3を踏まえ、実習指導案を作成する力を身に着ける。
言語力	表現媒体を活用した発表について消極的である。	表現媒体を活用した発表をしてみようとする。	発表を基に、模擬授業を組み立てる力を身に着ける。	保育現場を想定した模擬授業を工夫し、深める。
思考・解決力	子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動の工夫に対し、消極的である。	子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動を工夫してみようとする。	様々な表現活動を、導入、展開、まとめの流れで組み立てることができる。	表現活動を子ども主体にするために、必要な工夫について考え、実践力として身に着ける。
共生・協働する力	グループワークに対して消極的である。	グループで課題に取り組む。	課題を工夫し、実践時の留意点について考える。	支援が必要な子どもも含め、課題の留意点、配慮などを考えて実践する。
創造・発信力	子どもの表現を引き出す方法を考えることに消極的である。	子どもの表現を引き出す方法について取り組む。	子どもの表現を引き出す方法を実施する際の留意点について考える。	方法を工夫し、留意点、配慮をまとめ、実践する力を身に着ける。

〔授業計画〕

- 第1回 保育内容「表現」の意義(担当: 植田恵理子)
- 第2回 遊びから表現活動へ(担当: 植田恵理子)
- 第3回 生活の中から生まれる音楽表現・造形表現(担当: 植田恵理子、藤本陽三)
- 第4回 子どもの育ちからみる身体表現と音楽表現(担当: 植田恵理子)
- 第5回 演劇要素を取り入れた表現1 ~わらべうたを活用して~(担当: 植田恵理子)
- 第6回 演劇要素を取り入れた表現2 ~身体表現活動~(担当: 植田恵理子)
- 第7回 演劇要素を取り入れた表現3 ~子どもの表現と他者との関わり~(担当: 植田恵理子)
- 第8回 素材を生かした表現活動1 ~音楽・造形表現からのアプローチ~(担当: 植田恵理子、藤本陽三)
- 第9回 素材を生かした表現活動2 ~音楽・身体表現からのアプローチ~(担当: 植田恵理子)
- 第10回

総合的な表現活動 ～造形・音楽・身体表現を総合的に取り入れるために～
(担当：植田恵理子、藤本陽三)

- 第 11 回 指導計画 (1) 教材研究 (担当：植田恵理子、藤本陽三)
- 第 12 回 指導計画 (2) 指導案作成 (担当：植田恵理子、藤本陽三)
- 第 13 回 指導計画 (3) 模擬授業 指導計画の評価 (担当：植田恵理子、藤本陽三)
- 第 14 回 表現活動の企画 まとめとグループ発表準備 (担当：植田恵理子)
- 第 15 回 授業内発表 (確認テスト) 質疑応答 (担当：植田恵理子)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・講義形式とアクティブラーニング型の演習を組み合わせで行う。

・幼児の表現を引き出す、具体的な活動方法を個人、グループで企画し、実践して学ぶことにより、表現活動における保育者の役割・援助について理解を深めるとともに、子どもの表現を引き出すための、様々なアプローチ方法、具体的な活動を企画できる力を身に付ける。授業内発表 (確認テスト) 終了後に、学生の表現活動に対して講評を行い、模範例を実演する方法で、フィードバックを行う。指導案については、個別にコメントして返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 「幼稚園教育要領」のねらい及び内容の「表現」について目を通しておくこと。
2. 心と体の調子を整え、優しく受容的な気持ちで、かつアクティブな姿勢を携えて授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (10%)、提出物 (30%)、確認テスト (60%) に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

動きやすい服装で授業に参加すること

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『子供の世界 子供の造形』/松岡宏明/三元社/2017//学内販売をしない予定

『コンパクト版 保育内容シリーズ』音楽表現』/渡辺厚美・植田恵理子他/一藝社/2017//学内販売をしない予定

授業内で販売します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『美術教育概論 (改訂版)』/松岡宏明他編著/日本文教出版/2009/9784536600217

『保育をひらく 造形表現』/榎英子/萌文書林/2008/9784893471314

『保育の表現技術実践ワーク-かんじる・かんがえる・つくる・つたえる-』/今井真理・植田恵理子他/保育出版社/2016/その他、授業内でプリント等を配布します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 講師として、幼稚園、保育園、こども園における、表現指導 (園児・保育者・教員対象) の実務経験あり。

保育内容総論

EDI1450N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

木曜1限

DP4: 思考・解決力

60

集中

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育内容とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解する。そして、領域 (健康、人間関係、環境、言葉、表現) 別の教科の学びとともに、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。

また、保育士として、子ども、保護者、保育所を取り巻く環境・社会情勢についての理解や発達過程に即した子どもの理解、そして、総合的に指導、援助が行えるよう、実践的な力を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 5 領域を視野に入れた、子どもと保育内容について理解する。

(2) 幼児理解や指導計画、援助方法、保育の評価と反省など、保育の流れを概観しながらそれぞれについて具体的に検討、考察する。

(3) 保育内容の諸項目概観し、乳幼児期にどのような保育が必要かを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	5 領域を視野に入れた保育内容について興味がない	5 領域を視野に入れた保育内容について興味をもち、内容を理解しようとする	5 領域を視野に入れた保育内容について理解できる	5 領域を視野に入れた保育内容について理解し、具体的な保育のイメージをもつ
知識・理解力	幼児理解や援助方法、保育評価な	幼児理解や援助方法、保育評価な	幼児理解や援助方法、保育評価な	幼児理解や援助方法、保育評価な

	どを理解できない	どの基礎的な内容を理解できる	どの具体的な内容を理解できる	どの具体的な内容を理解し、課題について考えることができる
言語力	保育内容に関する専門用語について理解できない	保育内容に関する専門用語について、内容をある程度理解できる	保育内容に関する専門用語について、内容を理解して使用できる	保育内容に関する専門用語について、内容を理解し、説明したり、使用したりできる
思考・解決力	幼児理解を踏まえた指導計画を理解できない	幼児理解を踏まえて、指導案作成の基礎事項に合わせて書くことができる	指導計画を立案するために、幼児理解、環境構成、保育者の援助の基本を理解し、指導案を作成できる	幼児理解からねらいを立て、活動の展開や環境構成、保育者の援助を検討し、指導案作成ができる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見を受け止め、参考にする	考えたことや意見を周囲の人と共有する	レベル3に加え、文献により、自分の考えを深める
創造・発信力	自分の意見を話さない	保育の多様な展開について、自分の意見を発言することができる	保育の多様な展開について、自分の考えをまとめたり発言したりすることができる	レベル3に加え、保育の多様な展開について、具体的な保育場面をイメージして、意見をまとめたり、発言することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育内容とは、保育の一日と保育内容
- 第 2 回 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」と保育内容
- 第 3 回 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」と保育内容
- 第 4 回 保育内容 5 領域と「育みたい資質・能力」
- 第 5 回 保育内容と子ども理解(1)子どもの発達の特性と保育内容
- 第 6 回 保育内容と子ども理解(2)個と集団の発達と保育内容
- 第 7 回 保育内容の展開(1)養護と教育が一体的に展開する保育
- 第 8 回 保育内容の展開(2)環境を通して行う保育(3)遊びによる総合的な保育

- 第 9 回 保育内容の展開(4)生活や発達の連続性に考慮した保育
 - 第 10 回 保育内容の展開(5)家庭・地域・小学校との連携を踏まえた保育
 - 第 11 回 指導計画：教材研究と指導案作成
 - 第 12 回 指導計画：模擬授業と評価
 - 第 13 回 保育内容の歴史の変遷
 - 第 14 回 保育の多様な展開(1)乳児保育 (2)長時間の保育 (3)特別な支援を必要とする子どもの保育 (4)多文化共生の保育
 - 第 15 回 形成テストとまとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- ・講義形式で進めていくが、適宜、演習を取り入れる。
 - ・資料配布やパワーポイントによる資料提示で進める。
 - ・最終授業で形成テストを実施するとともに、授業全体のフィードバックを行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- ・事前に、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでおくこと。
 - ・授業終了後、次回授業前には、前回資料を基に復習をすること。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 30
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- 授業参加度(10%)、授業時の課題と課題提出(20%)、形成テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- 『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』/民秋 言編/萌文書林/2017年/9784893472540/
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 『保育内容総論』/谷田貝公昭・石橋哲成 監修/一藝社/2017年/978-4-86359-117-2
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- ≪実践的科目≫ 有資格者として保育園での勤務経験あり。

保育表現演習Ⅰ

EDI3600NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

1単位 前期

木曜 3限

DP6: 創造・発信力

15

集中

植田 恵理子 萩原 暢子 畠山 寛 石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「子どもにとって必要な表現活動の在り方を探る」をテーマに、保育現場で必要な表現技術を培うとともに、様々な立場の子どもにとって、無理なく行える表現活動の企画立案、内容、方法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの表現活動と意義について学ぶ
2. 造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について理解を深め、活動を企画する力を身につける。
3. 表現活動の中で、子どもの興味関心を引き出す具体的な方法について、企画の実践を通じ、体験的に学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもにとって必要な表現活動と意義について理解しようとしな	子どもにとって必要な表現活動と意義について理解しようとする。	子どもにとって必要な表現活動の具体例を企画し、まとめようとする。	グループワークの中で、個々の企画をまとめ、よりよい表現活動の立案を行う。
知識・理解力	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について理解していない。	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について調べ、理解しようとする。	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について具体案をまとめる。	グループワークの中で、総合的な表現活動をまとめ、企画できる力を身につける。
言語力	表現活動の中で、子どもの興味関心を引き出す具体的な方法を発表することに消極的である。	子どもの興味関心を引き出す具体的な方法に対し、自分なりの意見を発表できる。	具体的な方法をまとめ、活動内で展開し、それを発表する力を身につける。	グループワークの中で、具体的な方法をまとめ、それを基に実践を企画・発表する力を身につける。

思考・解決力	ねらいを基に、表現活動内で子どもが体得する学びについて理解できていない。	ねらいを基に、表現活動内で子どもが体得する学びについて理解しようとする。	子どもの学びにつながるための具体的な表現活動の方法をまとめる。	グループワークの中で、子どもの学びを意識した表現活動を考え、実践する力を身につける。
共生・協働する力	他者との話し合いを通して、表現活動の企画を練り上げることに消極的である。	他者との話し合いを経て、それぞれの意見を活動に取り入れようとする。	グループダイナミクスを理解し、積極的に、活動の質を高める。	他グループの良いところを取り入れて、更に活動の質を高める。
創造・発信力	オリジナルの活動を創造する気持ちが高まっていない。	オリジナルの活動を創造しようとする。	子ども主体の活動になるように、活発に意見交換、意見発表を行う。	子ども主体のオリジナル活動を創り、他グループ前で発表し、活動の質を高める。

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育現場における表現活動の意味 (担当: 植田)
- 第 2 回 保育現場における表現活動の目標と内容 (担当: 石井)
- 第 3 回 表現活動の企画 1 (企画と内容を考える) (担当: 萩原)
- 第 4 回 表現活動の企画 2 (季節の行事等) (担当: 畠山)
- 第 5 回 表現活動の企画 3 (生活発表会・音楽活動) (担当: 植田)
- 第 6 回 表現活動の企画 4 (参加型読み聞かせ) (担当: 石井)
- 第 7 回 表現活動の企画と実践 1 グループ活動 (担当: 萩原)
- 第 8 回 表現活動の企画と実践 2 全体活動 (担当: 畠山)
- 第 9 回 表現活動の企画と実践 3 役割分担 (担当: 植田)
- 第 10 回 表現活動の企画と実践 4 道具制作・環境構成 (担当: 萩原)
- 第 11 回 リハーサル 1 子どもが無理なく参加できる工夫について (担当: 石井)
- 第 12 回 リハーサル 2 様々な立場の子どもが参加できる工夫について (担当: 畠山)
- 第 13 回 公演準備 (担当: 全員)
- 第 14 回 公演 (担当: 全員)
- 第 15 回 まとめとふりかえり (担当: 全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループ活動で、季節の行事、生活発表会、参加型読み聞かせ等、保育現場の表現活動を企画、実践する課題に取り組み、そのために必要な技術（道具製作、音楽作り等）も習得する。必要に応じて、学外発表を行う。授業内の表現活動発表後に、学生の表現活動に対して講評を行い、模範例を実演する方法で、フィードバックを行う。学外発表については、発表後に講評、ふりかえりを行う方法でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

歌、手あそび等を発展させ、表現活動につなげるための方法、簡単な素材から子どもの興味関心を引き出し、造形活動に発展するための援助・配慮等について、日常生活の中で意識し、経験値を上げること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度30% レポート20% 表現実技50%

〔留意事項 (Other Information)〕

学外発表を行う際は、交通費が発生する可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

大豆生田啓友：「子ども主体の協同的な学び」が生まれる保育（学研）

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

講師として、幼稚園、保育園、こども園における、表現指導（園児・保育者・教員対象）の実務経験あり。

保育表現演習Ⅱ

EDI3650N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

3年次

1単位 後期

木曜 3限

DP6：創造・発信力

15

集中

植田 恵理子 萩原 暢子 畠山 寛 石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「子どもにとって必要な表現活動の在り方を探る」をテーマに、保育現場で必要な表現技術を培うとともに、様々な立場の子どもにとって、無理なく行える表現活動の企画立案、内容、方法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの表現活動と意義について学ぶ
2. 造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について理解を深め、活動を企画する力を身につける。
3. 表現活動の中で、子どもの興味関心を引き出す具体的な方法について、企画の実践を通じ、体験的に学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもにとって必要な表現活動と意義について理解しようとしな	子どもにとって必要な表現活動と意義について理解しようとする。	子どもにとって必要な表現活動の具体例を企画し、まとめようとする。	グループワークの中で、個々の企画をまとめ、よりよい表現活動の立案を行う。
知識・理解力	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について理解していない。	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について調べ、理解しようとする。	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について具体案をまとめる。	グループワークの中で、総合的な表現活動をまとめ、企画できる力を身につける。
言語力	表現活動の中で、子どもの興味関心を引き出す具体的な方法を発表することに消極的である。	子どもの興味関心を引き出す具体的な方法に対し、自分なりの意見を発表できる。	具体的な方法をまとめ、活動内で展開し、それを発表する力を身につける。	グループワークの中で、具体的な方法をまとめ、それを基に実践を企画・発表する力を身につける。
思考・解決力	ねらいを基に、表現活動内で子どもが体得する学びについて理解できていない。	ねらいを基に、表現活動内で子どもが体得する学びについて理解しようとする。	子どもの学びにつなげるための具体的な表現活動の方法をまとめる。	グループワークの中で、子どもの学びを意識した表現活動を考え、実践する力を身につける。
共生・協働する力	他者との話し合いを通して、表現活動の企画を練り上げることに消極的である。	他者との話し合いを経て、それぞれの意見を活動に取り入れようとする。	グループダイナミクスを理解し、積極的に、活動の質を高める。	他グループの良いところを取り入れて、更に活動の質を高める。
創造・発信力	オリジナルの活動を創造する気持	オリジナルの活動を創	子ども主体の活動になるように、	子ども主体のオリジナル活動を創

	ちが高まっ ていない。	造しようと する。	活発に意見 交換、意見 発表を行 う。	り、他グル ープ、他学 年、地域の 教育施設等 で発表し、 活動の質を 高める。
--	----------------	--------------	------------------------------	------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 季節の行事（秋）の企画 1（企画と内容を考える）（担当：植田）
- 第 2 回 季節の行事（秋）の企画 2（役割分担）（担当：石井）
- 第 3 回 季節の行事（秋）の企画 3（道具制作・環境構成）（担当：萩原）
- 第 4 回 季節の行事（秋）の企画 4（リハーサル）（担当：畠山）
- 第 5 回 季節の行事（秋）公演（担当：植田）
- 第 6 回 季節の行事（冬）の企画 1（企画と内容を考える）（担当：石井）
- 第 7 回 季節の行事（冬）の企画 2（役割分担）（担当：萩原）
- 第 8 回 季節の行事（冬）の企画 3（道具制作・環境構成）（担当：畠山）
- 第 9 回 季節の行事（冬）の企画 4（リハーサル）（担当：植田）
- 第 10 回 季節の行事（冬）（担当：萩原）
- 第 11 回 表現活動の企画 1（企画と内容を考える）（担当：石井）
- 第 12 回 表現活動の企画 2（役割分担）（担当：畠山）
- 第 13 回 表現活動の企画 3（道具制作・環境構成）（担当：全員）
- 第 14 回 表現活動の企画 4（リハーサル）（担当：全員）
- 第 15 回 表現活動の公演 まとめとふりかえり（担当：全員）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

グループ活動で、季節の行事を中心に、保育現場の表現活動を企画、実践する課題に取り組み、そのために必要な技術（道具製作、音楽作り等）も習得する。必要に応じて、学外発表を行う。授業内の表現活動発表後に、学生の表現活動に対して講評を行い、模範例を実演する方法で、フィードバックを行う。学外発表については、発表後に、講評、ふりかえりを行う方法でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

歌、手あそび等を発展させ、表現活動につなげるための方法、簡単な素材から子どもの興味関心を引き出し、造形活動に発展するための援助等について、日常生活の中で意識し、経験値を上げること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度30% レポート20% 表現実技50%

〔留意事項（Other Information）〕

学外発表を行う際は、交通費が発生する場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

適宜プリントを配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

大豆生田啓友：「子ども主体の協同的な学び」が生まれる保育（学研）

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

講師として、幼稚園、保育園、こども園における、表現指導（園児・保育者・教員対象）の実務経験あり。

幼児理解の理論と方法

EDI1451NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP4：思考・解決力

60

集中

石井 浩子 薦田 未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕

乳幼児の健やかな心身の成長のためには、乳幼児に適した保育の計画を立て実践していくことが不可欠であり、そのためには、乳幼児の発達や生活実態をより正確に、また、客観的に把握することが必要であることを学ぶ。

また、自分の保育観や幼児観などと向き合いながら、幼児の言動の捉え方や意味を理解しようとする事、また、幼児の内面を評価し、共感的に理解することなど、幼児理解のために必要な具体的方法とその評価や援助のあり方について考える。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 幼児理解のために必要な発育・発達の理論を学ぶ。
2. 幼児理解のための基本と方法、その評価について学ぶ。
3. 幼児の家庭状況や生活状況の把握、その支援について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	幼児理解の意味と意義を理解できない	幼児理解の意味と意義について、概要を説明できる	幼児理解の意味と意義の概要について理解し、説明できる	幼児理解の意味と意義について、具体的な内容を説明できる

知識・理解力	幼児の発育・発達を理解できない	幼児の発育・発達について、ある程度理解できる	幼児の発育・発達について、理解できる	レベル3に加え、具体的な幼児の発育・発達について、具体的にイメージして考えることができる
言語力	幼児理解やその方法に関する必要な専門用語がわからない	幼児理解やその方法に必要な専門用語を調べ、理解しようとする	幼児理解やその方法に必要な専門用語について調べ、具体的なイメージをもって理解できる	レベル3に加え、現状を踏まえて高度な専門用語の内容を理解し、それを使用した表現ができる
思考・解決力	幼児理解のための基本と方法、その評価について理解できない	幼児理解のための基本と方法、その評価について理解しようとする	幼児理解のための基本と方法、その評価についてまなんだことを用いて、理解できる	幼児理解のための基本と方法、その評価について具体的な内容をイメージして、理解できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて、考えようとする	周囲の人たちと知識や考えを共有し、自分の意見を再構成する	レベル3に加え、自分の意見や考えを周囲の人たち表現することができる
創造・発信力	自分勝手な考えを発言する	学んだことを適切にまとめ、自分の意見を発信できる	幼児理解に関して、学んだことから自分自身で考えた意見や考えを発信できる	レベル3に加え、情報モラルも加味し、自分の意見や考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育における幼児理解とは(1)幼児を見る視点(薦田)
- 第 2 回 保育における幼児理解とは(2)幼児理解を基盤としてのカウンセリングマインド(薦田)
- 第 3 回 幼児の発達理解(1)誕生から乳児期の心身の発達及び運動発達(薦田)
- 第 4 回 幼児の発達理解(2)幼児期の心身の発達及び運動発達(薦田)
- 第 5 回 幼児の発達理解(3)検査種類とその方法(薦田)
- 第 6 回 幼児の生活状況(生活習慣)と遊び(薦田)
- 第 7 回 幼児理解と援助(薦田)
- 第 8 回 子ども理解を深める観察・記録(1)観察について(石井)

- 第 9 回 子ども理解を深める観察・記録(2)記録について(石井)
- 第 10 回 保育の計画及び実践、幼児理解に対する省察・評価(石井)
- 第 11 回 子ども理解を深める保育カンファレンス(石井)
- 第 12 回 家庭支援・家庭連携(1)子ども・家庭支援の必要性(石井)
- 第 13 回 家庭支援・家庭連携(2)保護者の育児不安と育児ストレス(石井)
- 第 14 回 地域の子育て支援 家庭との連携(石井)
- 第 15 回 テスト まとめ(石井)

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

- ・2名によるオムニバス形式で前半と後半とで講義を行う。
- ・授業中に適宜、資料を配布する。
- ・(第1～7回)各回小テストを実施し、次回授業でフィードバックを行う。
- ・(第8～15回)15回目にテスト及び、担当授業全体のフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

- ・授業中に提示する参考文献を中心に、乳幼児期を中心とした子どもの発達について勉強しておくこと。
- ・積極的に子どもと接する機会をもつことや、日常生活の中で見かける子どもの姿を観察をして、授業内容の理解を深めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

30

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

評価は、以下の通り、担当教員2名の評価に基づき、総合的に行う。

(第1～7回)授業中に毎行われる小テスト(47%)

(第8～15回)15回目にテスト(53%)

〔留意事項(Other Information)〕

予定された授業は、順序が入れ替わることがある。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『よくわかる乳幼児心理学』/内田伸子(編)/ミネルヴァ書房/2008/978462305E12

『乳幼児の心理』/麻生武/サイエンス社/2002/4781910114E9

『発達心理学Ⅰ』/無藤隆・子安増生(編著)/東京大学出版会/2011/9784130121002E12

『発達科学入門(2)胎児期～児童期』/高橋恵子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子(編)/東京大学出版会/2012/9784130151429E12

『子ども理解と援助』/高嶋景子, 砂上史子, 森上史朗/ミネルヴァ書房/2011/9784623059621

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

《実践的科目》

石井：有資格者として保育園での勤務経験あり。

薦田：臨床発達心理士として保育現場での発達支援業務の経験あり。

理科

EDP1251NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

木曜2限

DP2：知識・理解力

60

集中

小川 博士

【科目の教育目標 (Course Description)】

小学校理科の学習内容は、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4領域から構成されている。本講義では、その学習内容についての基礎知識や教材・教具についての理解を深めることを目的とする。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ・小学校理科の学習内容についての基礎を身に付ける。
- ・小学校で使用する教材や教具を知り、実際に扱うことができる。
- ・理科における観察・実験技能を知り、実際に操作することができる。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学びに向かう力	小学校理科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、説明できない。	小学校理科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、おおまかに説明できる。	小学校理科の内容について、これから自分自身が何を学習する必要があるか、明確に説明できる。	小学校理科の内容について、これから自分自身が何を学習する必要があるか、授業づくりと関連させて説明できる。

知識・理解力1(基礎的な知識)	小学校理科の内容構成の理解が不十分であり、エネルギー・粒子・生命・地球の各領域の科学的知識について、説明できない。	小学校理科の内容構成を理解し、エネルギー・粒子・生命・地球の各領域の科学的知識について、ある程度、説明できる。	小学校理科の内容構成を理解し、エネルギー・粒子・生命・地球の各領域の科学的知識について、説明できる。	小学校理科の内容構成を理解し、エネルギー・粒子・生命・地球の各領域の科学的知識について、授業づくりの視点とともに説明できる。
知識・理解力2(基本的な技能)	基本的な実験器具の操作を行うことができない。	基本的な実験器具の操作の一部を行うことができる。	基本的な実験器具の操作を行うことができる。	基本的な実験器具の操作を行うとともに、指導上のポイントを説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション<対面>
- 第2回 小学校理科の目標と内容<オンライン>
- 第3回 日本の理科教育の課題(全国学力学習状況調査から)<対面>
- 第4回 生命①-1(身近な自然)<対面>
- 第5回 生命①-2(身近な自然・教材づくり)<個別学習・オンライン>
- 第6回 生命②(植物の発芽・成長・養分)<対面>
- 第7回 地球①(気象・天体)<対面>
- 第8回 地球②(流水のはたらき・地層)<対面>
- 第9回 粒子①(危険防止と安全指導・水溶液)<対面>
- 第10回 粒子②(燃焼)<対面>
- 第11回 エネルギー①(振り子)<対面>
- 第12回 エネルギー②(てこ・つり合い)<対面>
- 第13回 エネルギー③(音)<対面>
- 第14回 自由研究レポートの作成<個別学習>
- 第15回 自由研究レポートの発表・総括<対面>

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施する

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

- ・講義と実験を主とする。
- ・一部、オンライン型の授業を行うので、シラバスや授業時におけるアナウンスに留意すること。
- ・具体的な教材を扱いながら実感を伴う理解ができるように進める。また、理科の自由研究に取り組み、発表する時間を設ける。
- ・自由研究レポートについては、教員や受講生がコメントすることで、フィードバックする。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

本講義の中で、小学校理科のすべての内容を扱うことは難しい。扱えなかった内容については、講義の内容をもとに各自で学習することが望ましい。

自由研究については発表当日に向けて、各自、こつこつと取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験50%, 自由研究レポート30%, 授業参加度 (responによる授業の振り返り) 20% で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の実態や教材の準備状況によって学習内容を変更することがあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説理科編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034638/学内販売有

その他、必要な資料がある場合は授業時に適宜提示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

小学校理科の教科書

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶ 小学校教員として公立小学校での勤務経験あり。

理科指導法

EDP2403NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

木曜 3限

DP4 : 思考・解決力

60

集中

小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

前半は、理科の教授・学習論、学習評価の方法、具体的な実践事例を通して、小学校理科の指導方法を理解する。また、基礎理論を踏まえ、学習指導案の作成及び模擬授業を行い、理科授業を構想することができるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・小学校における理科の目標及び内容、教授・評価方法について理解することができる。

・学習指導を実践していく上で必要とされる具体的な技能や方法を知り、学習指導案を作成することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

省察する力	模擬授業の省察が不十分であり、良かった点や改善点を見いだすことができない。	模擬授業を省察し、良かった点や改善点がある程度見いだすことができる。	模擬授業について、仲間や教員との対話を通じた省察によって、良かった点や改善点を見いだすことができる。	模擬授業について、個人による省察や仲間や教員との対話を通じた省察によって、良かった点や改善点を見いだすことができる。
思考・解決力 (主に理科授業を構想する力)	学習指導要領の目標や内容を踏まえた理科授業を構想することができない。	教員からの助言に基づいて、学習指導要領の目標や内容、教材研究を踏まえた理科授業を構想することができる。	学習指導要領の目標や内容、教材研究を踏まえた理科授業を構想することができる。	児童の実態に加えて、学習指導要領の目標や内容、教材研究を踏まえた理科授業を構想することができる。
協働する力	学習指導案作成や授業づくりについて、仲間と協力して取り組むことができない。	学習指導案作成や授業づくりについて、与えられた役割に取組むことができる。	学習指導案作成や授業づくりについて、自分の役割を理解し、仲間と協力して取り組むことができる。	学習指導案作成や授業づくりについて、自分の役割を理解し、仲間と協力して取り組むとともに、よりよいものにするための建設的な意見を言うことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 小学校理科授業のつくり方
- 第 3 回 学習指導案の作成方法
- 第 4 回 理科学習の評価の方法
- 第 5 回 学習指導案の作成
- 第 6 回 指導案個別検討と教材研究
- 第 7 回 模擬授業① (小学校3年の内容: A区分)
- 第 8 回 模擬授業② (小学校3年の内容: B区分)
- 第 9 回 模擬授業③ (小学校4年の内容: A区分)
- 第 10 回 模擬授業④ (小学校4年の内容: B区分)
- 第 11 回 模擬授業⑤ (小学校5年の内容: A区分)
- 第 12 回 模擬授業⑥ (小学校5年の内容: B区分)
- 第 13 回 模擬授業⑦ (小学校6年の内容: A区分)
- 第 14 回 模擬授業⑧ (小学校6年の内容: B区分)
- 第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・講義及び演習 (学習指導案作り及び模擬授業) を併用しながら展開する。

・学習指導案や模擬授業コメントについては、授業内に全体に対してフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・小学校理科の教科書を詳細に見ておくこと

・可能であれば、小学校の研究発表会等へ参加し、理科授業を参観しておくイメージがもちやすいと思います。講義中に、研究発表会の案内についてもアナウンスしたいと思います。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

作成した学習指導案30%, 模擬授業コメント30%, 改善指導案30%, 授業参加度10% で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生の人数や教材の準備状況によっては、授業内容を変更する場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・『初等理科教育』/山下芳樹・平田豊誠編/ミネルヴァ書房/2018/978-4623082001/学内販売有

・『小学校学習指導要領解説理科編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034638/学内販売無

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

小学校理科の教科書

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 小学校教員として公立小学校での勤務経験あり。

こどもの教育心理学

EDB1400NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

1年次

2単位 前期

火曜4限

DP4: 思考・解決力

60

必修

島山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育活動における心理学的理解は重要である。教授方法や学習理論、あるいは、教育の対象である児童・生徒の理解がなければ、適切で効果的な教育活動は行えない。この科目では、学習心理学、発達心理学、社会心理学の基礎的な知見の紹介にとどまらず、教育に活かす方法について講義することによって、適切で効果的な教育活動について理解することを目標にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学習に関する心理学的な理解
2. 児童・生徒の心身の発達、及び、障害に対する理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学習に関する心理学的理解	学習に関する心理学的な理解ができていない。	学習に関する心理学的な理解が、一部できている。	学習に関する心理学的な理解が、十分にできている。	レベル3に加え、実践できる。
児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解ができていない。	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解が、一部できている。	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解が、十分にできている。	レベル3に加え、発達や障害に見合ったかわりが考えられる。

〔授業計画〕

第 1 回 教育における児童・生徒の発達理解、学習理解の重要性

第 2 回 学習①: 行動主義の学習理論

第 3 回 学習②: 認知主義の学習理論

第 4 回 学習③: メタ認知、学習方略

第 5 回 記憶: 記憶のメカニズムと効果的な記憶法

第 6 回 動機づけ: やる気の引き出し方

第 7 回 発達①: 発達に関する基礎的理解

第 8 回 発達②: 乳幼児期の発達

第 9 回 発達③: 児童期・青年期の発達

第 10 回 個人差: 知能、性格特性の把握

第 11 回 障害の理解①: 知的障害、自閉症

第 12 回 障害の理解②: ADHD、学習障害

第 13 回 学級集団: 教師のあり方と生徒間関係

第 14 回 教育評価の考え方

第 15 回 形成テストとテストの解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は講義形式・演習形式で行う。
2. 適宜必要なプリントなどを配布する。
3. 必要に応じてパワーポイント、ビデオなどを使用する。
4. 形成テスト実施後にテスト解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は、形成テスト (50%)、レポート課題 (50%) を総合したものから、授業中のスマホ利用等で減点した点数とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 授業で配布する資料の予備は保管しません。
2. 携帯電話、スマートフォンの電源を切り、鞆の中にしてしまうこと。
3. 水、お茶以外の飲食については禁止します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Next 教科書シリーズ 発達と学習』/内藤佳津雄・北村世都・市川優一郎 編/ 弘文堂/2016/9.784335002212E12/学内販売予定

内藤・北村・市川編 (2016) Next 教科書シリーズ 発達と学習. 弘文堂

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こどもの食と栄養

EDI3202NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

2単位 前期

月曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

石見 恵子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 健康な生活の基本としての食生活の重要性を理解し、栄養に関する基本的知識を持っている。
2. 子供の発育・発達と食生活の関連について理解し、発

達段階に応じた食生活への対応力を持っている。

3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を、地域社会・文化との関わりの中で理解している。

4. 家庭・児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解している。

5. 特別な配慮を要する子供の食と栄養について理解している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 自分自身の食生活の問題点を見つけて改善していく。
2. 食品について深く知る。食品表示にも注目し、食品選択力を身につける。
3. 母乳育児を支援するために必要な取り組みを調べる。
4. 離乳期の食育の意義を考え、実践方法を検討する。
5. 食事バランスガイドを活用する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 子供の健康と食生活の意義
子どもの心身の健康と食生活
子どもの食生活の現状と課題
- 第 2 回 栄養と食品に関する基礎的知識 I
栄養の基本的概念と栄養素 (炭水化物、たんぱく質、脂質) の働き
- 第 3 回 栄養と食品に関する基礎的知識 II
栄養の基本的概念と栄養素 (ミネラル、ビタミン、水) の働き
- 第 4 回 栄養と食品に関する基礎的知識 III
日本人の食事摂取基準
食品の基礎知識
- 第 5 回 栄養と食品に関する基礎的知識 IV
献立作成と調理の基本
健全な食生活のための指標
- 第 6 回 子どもの発育・発達と栄養生理
- 第 7 回 子どもの発育・発達と食生活 I
授乳期の意義と食生活—母乳栄養
- 第 8 回 子どもの発育・発達と食生活 I
授乳期の意義と食生活—人工栄養、混合栄養

- 第 9 回 子どもの発育・発達と食生活 I
離乳期の意義と食生活
- 第 10 回 子どもの発育・発達と食生活 I
幼児期の心身の発達と食生活
- 第 11 回 子どもの発育・発達と食生活 II
学童期・思春期の心身の発達と食生活
- 第 12 回 子どもの発育・発達と食生活 II
妊娠期の心身の発達と食生活
- 第 13 回 食育の基本と内容
- 第 14 回 家族や児童福祉施設における食事と栄養
- 第 15 回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書を中心に、配布プリントで補いながら講義する。また、必要に応じて書画カメラなどの映像を利用する。テーマによってはグループ学習を行う。

提出されたレポートに対しては講評・採点を本人に公開する。定期試験については、試験終了後正解を掲示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の講義に相当する箇所の教科書を熟読する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60 時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (80%)

レポート作成 (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進捗状況に応じて、授業予定が変更になる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

子どもの食と栄養演習/ 小川雄二 編著/ 建帛社/ 2019 年/ ISBN978-4-7679-5075-4/ 学内販売 有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こどもの発達心理学

EDB1450N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

1 年次

2 単位 後期

火曜 4 限

DP4: 思考・解決力

60

島山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 保育実践に関わる心理学の知識を習得する。
2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
3. 人との相互的な関わりを通じた発達について理解する。
4. 生涯発達の観点から発達の過程や初期経験の重要性を理解し、保育との関連を考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理的知識を踏まえた、発達理解	発達を捉える視点が理解できていない。	心理学的知識を踏まえた発達を捉える視点の理解が、一部できる。	心理学的知識を踏まえた、発達を捉える視点の理解が、十分にできる。	レベル3に加え、発達を捉える視点を使って理解できる。
こども理解	援助の対象となるこども理解ができていない。	援助の対象となるこども理解が、一部できる。	援助の対象となるこども理解が、十分にできる。	レベル3に加え、子どもの発達に即した援助への理解が深められている。
保育における人との関わり、環境の意義	保育における人との関わり、環境の意義について理解できていない。	保育における人との関わり、環境の意義の理解が、一部できている。	保育における人との関わり、環境の意義の理解が十分にできる。	レベル3に加え、関りや環境構成への理解が深められている。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス：こどもの発達心理学

第 2 回 こどもの発達を理解することの意義

- 第 3 回 発達理論とこども観・保育観
- 第 4 回 社会性の発達①：愛着形成
- 第 5 回 社会性の発達②：仲間・友人関係の発達
- 第 6 回 自我・自己の発達
- 第 7 回 性格形成
- 第 8 回 情動発達
- 第 9 回 認知発達
- 第 10 回 身体・運動発達
- 第 11 回 言語発達
- 第 12 回 乳幼児期の学びに関わる理論
- 第 13 回 乳幼児期の学びの過程と特性
- 第 14 回 形成テスト
- 第 15 回 形成テストの解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ 講義形式で行う。適宜、プリント等を配布する。
- ・ 必要に応じて視聴覚教材を利用する。
- ・ 形成テストのフィードバックは15回目の授業で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回の授業終了時に、次週に向けての課題・指示を与える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は、形成テスト (50%)、レポート (50%) で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. プリントの残部は、廃棄します。
2. 水、お茶以外の飲食は禁止します。
3. スマートフォン、携帯電話は電源をきり、鞆の中に入れてしまうこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『保育の心理学 I』/杉村・白川・志水編/中央法規/2015/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こどもの保健

EDI2252N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2: 知識・理解力

90

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生命の保持と情緒の安定を図る保育において、子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。また、子どもの発育・発達状況を把握し、子どもの健康状態の把握について熟知する。さらに、子どもの病気の予防と対応について学ぶ。最終的に、学生が子どもの心身の健康維持に関する知識を有することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの健康と保健の意義について理解する
2. 子どもの身体発育・発達を理解する
3. 子どもの生理・運動機能を理解する
4. 子どもの健康状態の把握について理解する
5. 子どもの病気の予防と適切な対応について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	こどもの発育・発達をイメージできない	こどもの発育・発達のイメージができる	こどもの発育・発達に関する事柄に広く興味が持てる	レベル3に加えて実際のこどもの未来に対してイメージを繋げて行ける
知識・理解力	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について理解できない	こどもの発育・発達や病気の予防と対応についてある程度理解できる	より深くこどもの発育・発達や病気の予防と対応について理解できる	レベル3に加えて実際の子どもに応用して考えることができる
言語力	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関して使用される言葉が理解できない	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関して使用される言葉が理解できる	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関する言葉を理解して自分で使用できる	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関する言葉や周辺で必要となる言葉など、幅広く理解して使用できる

思考・解決力	教えられたこと以外は考えようとしな	現実の状況に当てはめて考えようとする	発生する課題を解決しようとする	現実から発展させて考えて、起こりうる問題を解決しようとする
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて参考に	考えた結果を周囲の人たちと共有する	考えた結果を周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について、自分勝手な考えを発信する	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について、自分の考えを発信できる	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について、自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発信できる	レベル3に加えて、情報モラルも加味しながら、自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション、第 1 章 子どもの健康と保健の意義 1 子どもの健康と子どもを取り巻く環境 2 健康と健康指標(1))
 ・子どもの健康と環境について詳述する。
 ・出生動向、健康指標としての死亡率について述べる。
- 第 2 回 (第 1 章 子どもの健康と保健の意義 2 健康と健康指標(2) 3 子どもを取り巻く環境)
 ・子どもの死亡原因について詳述する。
 ・少子社会と育児について述べる。
 ・保育所・幼稚園・認定こども園について詳述する。
- 第 3 回 (第 1 章 子どもの健康と保健の意義 4 地域社会と保育所 第 2 章 子どもの発育と発達 1 身体の発育(1))
 ・家族構成の変化について述べる。
 ・児童虐待の現状について詳述する。
 ・発育期の区分、発育の原則について詳述する。
- 第 4 回 (第 2 章 子どもの発育と発達 1 身体の発育(2) 2 子どもの発達(1))
 ・体型について述べる。
 ・運動機能の発達について詳述する。
 ・精神機能の発達について詳述する。
- 第 5 回 (第 2 章 子どもの発育と発達 2 子どもの発達(2) 3 生理機能の特徴(1))
 ・感覚器の発達について詳述する。
 ・臓器の発育、水分代謝について詳述する。
 ・呼吸について詳述する。
- 第 6 回 (第 2 章 子どもの発育と発達 3 生理機能の特徴(2))

- ・循環について詳述する。
 ・体温、睡眠について詳述する。
 ・消化、口腔について詳述する。
- 第 7 回 (第 3 章 子どもの健康状態の把握 1 子どもの健康状態のみかた)
 ・一般状態の観察について詳述する。
 ・体温測定、食事、呼吸、脈拍、睡眠、排尿、排便の状況について詳述する。
 ・鼻水と咳について述べる。
 ・皮膚の状況について述べる。
- 第 8 回 (第 3 章 子どもの健康状態の把握 2 体調の良くない子どもへの対応 3 発育と発達の評価とその診断基準(1))
 ・発熱、咳喘鳴、発疹、けいれん、腹痛について詳述する。
 ・身体測定法、発育の評価について詳述する。
- 第 9 回 (第 3 章 子どもの健康状態の把握 3 発育と発達の評価とその診断基準(2) 4 保護者との情報共有とその方法 第 4 章 子どもの病気の予防と適切な対応 1 主な病気の特徴と対応、予防について(1))
 ・発達の評価について詳述する。
 ・通園手帳の活用、保育所だよりの活用について述べる。
 ・福祉機関との連携、地域との連携について述べる。
 ・一般的な子どもの病気(急性上気道炎、急性気管支炎、肺炎など)について述べる。
- 第 10 回 (第 4 章 子どもの病気の予防と適切な対応 1 主な病気の特徴と対応、予防について(2))
 ・一般的な子どもの病気(ウイルス性腸炎、腸重積症、脱水症、熱性けいれんなど)について述べる。
 ・アレルギー性疾患について詳述する。
- 第 11 回 (第 4 章 子どもの病気の予防と適切な対応 2 保育所によく見かける病気(1))
 ・呼吸器関連、耳鼻科関連、眼科関連、皮膚科関連、泌尿器科関連、整形外科関連について述べる。
 ・感染症の総論とインフルエンザについて詳述する。
- 第 12 回 (第 4 章 子どもの病気の予防と適切な対応 2 保育所によく見かける病気(2))
 ・感染症の各論として、子どもに多いウイルス感染症と細菌感染症について詳述する。
- 第 13 回 (第 4 章 子どもの病気の予防と適切な対応 3 予防できる疾患に対する対策)
 ・予防接種について詳述する。
 ・新生児のマス・スクリーニングについて述べる。
- 第 14 回 (形成テスト)
 形成テストを行う。途中退出は不可とする。
- 第 15 回 (形成テストの解説と評価)
 採点後の形成テストを返却し、問題の解答と解説を行って、全体を評価する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

講義形式

2. 学習方法

(1) テキストに沿って行う、プリントで内容補充

(2) パワーポイント、DVD を用い、頭の中にイメージを作っていく。

(3) 授業の始めに設問 (小テスト形式) を与え、授業中に解答する。授業終了時回収し、次回返却。

(4) 授業の終わりに理解度と質問事項の調査を行い、次回の講義で解説する。

3. 各回の小テストについて、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの次回講義範囲をしっかりと読んでおくこと。

2. 分からないところは、直接尋ねるかあるいはFD用紙を使ってかならず解決しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 評価は、小テスト (10%)、授業参加度 (10%)、形成テスト (80%) に基づいて総合的に行う。

2. 出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

他の受講生に迷惑となる私語、携帯電話によるメールの送受信、居眠り、摂食は禁止。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保育者のためのわかりやすい子どもの保健』/飯島一誠監修/日本小児医事出版社/2018/978-4-88924-264-5/学内販売有
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『子どもの保健-理論と実際-』/岸井勇雄ほか/同文書院/2015/978-4-8103-1398-7

『子どもの保健~健康と安全~』/大澤真木子監修/日本小児医事出版社/2018/978-4-88924-261-4

『子どもの保健』/遠藤郁夫編集学建書院//2018/978-4-7624-0889-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫、医師として病院等での診療経験あり

こども家庭支援の心理学

EDI2253N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

木曜1限

DP2: 知識・理解力

60

島山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。

2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。

3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。

4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。

2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。

3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。

4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
生涯発達に関する心理学的知識	生涯発達に関する心理学的知識が習得できていない。	生涯発達に関する心理学的知識の一部が習得できている。	生涯発達に関する心理学的知識が十分に習得されている。	レベル3に加え、初期経験の重要性や発達課題の内容にちて深く理解している。
家庭の意義や機能	家庭の意義や機能について理解できていない。	家庭の意義や機能について一部理解できている。	家庭の意義や機能について十分に理解できている。	レベル3に加え、子どもとその過程を捉えるしてんが習得されている。
家庭をめぐる現代の社会状況	家庭をめぐる現代の社会状況について理解できていない。	家庭をめぐる現代の社会状況について、一部理解できている。	家庭をめぐる現代の社会状況について、十分に理解できている。	レベル3に加え、課題解決の方法等について理解を深める。

子どもの精神保健	子どもの精神保健について理解できてい相。	子どもの精神保健について一部理解できている。	子どもの精神保健について十分に理解できている。	レベル3に加え、精神保健を保つための援助について理解を深める。
----------	----------------------	------------------------	-------------------------	---------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス：子ども家庭支援の心理学の概要
- 第 2 回 乳幼児期の発達
- 第 3 回 児童期の発達
- 第 4 回 青年期の発達
- 第 5 回 成人期・老年期の発達
- 第 6 回 家族・家庭の機能
- 第 7 回 親子関係・家族関係の理解
- 第 8 回 子育て経験と親としての育ち
- 第 9 回 子育てを取り巻く社会的状況
- 第 10 回 ライフコースと仕事・子育て
- 第 11 回 多様な家庭とその理解
- 第 12 回 特別な配慮を要する家庭
- 第 13 回 子どもの生活・生活環境と心の健康
- 第 14 回 形成テスト
- 第 15 回 形成テストの解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ 講義，演習形式で行う。
- ・ 適宜，プリントを配布する。
- ・ 形成テストのフィードバックは15回目の授業で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ 毎回到授業終わりに，指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・ 評価は形成テスト (50%)，レポート (50%)，出席態度で行う。
- ・ 出席態度は授業中の私語，スマホ利用等であり，減点対象である。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ 授業中のスマートフォン利用は原則禁止とする。
- ・ 飲食については，水，お茶以外は認めない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP6：創造・発信力

150

田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができていない。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てることができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立て、取り組んでいる。
創造・発信力	自らが選んだ分野の研究法を理解することができていない。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができている。	自らが選んだ分野の研究法を理解できおり、それを用いて研究している。	自らが選んだ分野の研究法を理解できおり、それを用いて研究に着手している。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに所属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
各担当教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
120
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。
〔留意事項 (Other Information)〕
水曜3限、出席必須。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600BJ
大学
現代人間学部 > こども教育学科
3年次
4単位 通年
水曜3限
DP6 : 創造・発信力
150
萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕
少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。
〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕
各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。
〔授業計画〕
それぞれのゼミにおいて示される。
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。
各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。
課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
120
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。
〔留意事項 (Other Information)〕
水曜3限、出席必須。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600CJ
大学
現代人間学部 > こども教育学科
3年次
4単位 通年
水曜3限
DP6 : 創造・発信力
150
神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕
少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。
〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕
各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。
〔授業計画〕
それぞれのゼミにおいて示される。
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。
各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。
課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
各担当教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600D0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP6 : 創造・発信力

150

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに所属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600K0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4単位 通年

水曜3限

DP6 : 創造・発信力

150

高田 佳孝

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに所属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600E0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

150

畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに所属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600F0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

150

植田 恵理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに所属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600G0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
3年次
4単位 通年
水曜3限
DP6：創造・発信力
150
古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600H0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
3年次
4単位 通年
水曜3限
DP6：創造・発信力
150
大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600I0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
3年次
4単位 通年
水曜3限
DP6：創造・発信力
150
小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600J0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
3年次
4単位 通年
水曜3限
DP6：創造・発信力
150
太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600K0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
3年次
4単位 通年
水曜 3限
DP6：創造・発信力
150
高田 佳孝

【科目の教育目標 (Course Description)】

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

【授業計画】

それぞれのゼミにおいて示される。

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

ゼミに所属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

各担当教員の指示に従うこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

120

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

【留意事項 (Other Information)】

水曜3限、出席必須。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

音楽科指導法

EDP2450N0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
2年次
2単位 後期
水曜 2限
DP4：思考・解決力
60
幼小・小特必修
古庵 晶子

【科目の教育目標 (Course Description)】

小学校音楽科の理念と目標を踏まえつつ、隣接校種の連携(幼小および小中)を考慮し、音楽教育を幅広く捉えることができる。表現・音楽づくり・鑑賞の各領域の授業プランを構想することができる。既製楽譜での共通教材の弾き歌いができる。バロック式リコーダーの利点を理解し、演奏できるようになる。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- 1.学習指導要領について理解する。
- 2.学習指導案を作成し、ピアノ伴奏を取り入れた模擬授業をする。
- 3.バロック式リコーダーに対する苦手意識を払しょくする。
- 4.手作り楽器製作を行い、幼小連携および小中連携に音楽科が貢献できる内容を模索する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教員を目指す者としての考えからかけ離れている。	子どもに音楽を伝えるために、自ら音楽の楽しさを感じるため、日々様々な音楽に親しんでいる。	自力での伴奏とCD音源の、それぞれの良さを理解し、指導案で適切な使い方を計画できる。	音楽教育が人格形成に必要なことの重要性を理解し、音楽的なものの考え方ができている。
知識・理解力	小学校音楽科の教科書の内容を理解できない。	低学年の教育内容が理解でき、子どもへの伝え方について、考えることができる。	高学年の教材における情報の知識が既にあり、学習指導要領の狙いと内容が理解できる。	学習指導要領を良く読み込み、それぞれの教材にどう響かせるかを理解できている。

言語力	リズム、拍子、音程、和音など、基本的な用語が理解できていない。	最低限の音楽用語を理解し、調性や曲想から、曲のイメージについて説明することが出来る。	楽曲の構成を説明でき、イメージを適切な言葉で伝えることが出来る。	各時代の作曲家の作品に、日々親しみ、教科書教材の鑑賞曲の説明に生かすことが出来る。
思考・解決力	小学校音楽科の教材曲を、譜読みのレベルで終わらせている。	学習指導案の構成が、子どもたちが音を出して譜をなぞる程度までとなっている。	合唱や合奏において、どのような点について指導すべきかを理解し、授業計画を立てることができる。	高学年のレベルの楽曲はもちろん、低学年のシンプルな楽譜でも、指導において重要な点は何かを、読み取る力を持っている。
共生・協働する力	鑑賞や音楽づくりでのグループワークに非協力的である。	合奏演習のための個人練習に集中して取り組み、グループワークに支障をきたさない。	合奏演習に際して、お互いに意見を出し合い、良いものに作り上げようとする姿勢がある。	ただ合奏を楽しむだけでなく、指導計画を立てる際に、合奏演習で得たものを生かせるように、常に意識して取り組む。
創造・発信力	音楽づくりの必要性を理解しない。	音やリズムの重なりや組み合わせを楽しいものとして受け止め、取り組むことが出来る。	音程から離れた音の組み合わせや、休符の効果、楽器ではないものから発せられる音の面白さを自分のものとして取り入れることができる。	創造的音楽学習など音楽づくりの理念や歴史を学習し、指導計画に役立てることが出来る。

〔授業計画〕

- 第 1 回 音楽教育の歴史と小学校学習指導要領（音楽）の概説 リコーダーの種類とバロック式リコーダー
- 第 2 回 歌唱指導の研究と演習 手づくり楽器の教育的意義
- 第 3 回 鑑賞指導の研究と指揮法の実際
- 第 4 回 音楽教育の今日的課題と特別活動における音楽科
- 第 5 回 学習指導案と評価の方法 リコーダー演習①導入教材の研究
- 第 6 回

- 学習指導案の作成 リコーダー演習②サミングと高音
- 第 7 回 手づくり楽器の製作 リコーダー演習③スタッカーとスラー
- 第 8 回 模擬授業（歌唱）
- 第 9 回 模擬授業（リコーダー）
- 第 10 回 模擬授業（鑑賞）
- 第 11 回 模擬授業についてのディスカッション リコーダー演習④ファのポジション
- 第 12 回 音楽会の運営と器楽合奏 リコーダー演習⑤教科書教材曲のアンサンブル
- 第 13 回 音楽づくりの概念 リコーダー演習⑥副教材のアンサンブル
- 第 14 回 リコーダーのテストと音楽づくり演習
- 第 15 回 総合演習
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
- 演習と講義を織り交ぜて授業を行う。学習指導案を作成し、模擬授業を行う。リコーダー演習を行うほか手作り楽器を製作して活用法を考えることで、グループによる音楽づくりに関連させる。音楽づくりの発表会を授業内で行うことで、お互いの評価をしあい、音楽会の計画・運営を学ぶ。リコーダーの実技試験後は、総合的に評価を行い、アンサンブルとして演奏しなおすことで、自らの音への振り返りを行う。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
- 手作り楽器製作のため、廃材の準備をしておくこと。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 15
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
- 授業参加度10% 模擬授業と音楽づくり30% 学習指導案20% リコーダーのテスト20% ピアノ伴奏20% 授業に関連のない目的での携帯電話使用等は減点の対象とする。
- 〔留意事項（Other Information）〕
- 「音楽Ⅰ・Ⅱ」の授業内容を復習しておくこと。手作り楽器製作にあたり1回あたり150円程度の材料費がかかる場合がある。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- 『小学校学習指導要領解説 音楽編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034652/学内販売予定
- 『はじめて学ぶ教科教育「初等音楽科」』/吉田武男監修/ミネルヴァ書房/2018/978-4-623-08160-8/学内販売予定
- 適宜プリント配布
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家族援助論

EDI3500NOJ
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 3年次
 2単位 前期
 月曜2限
 DP5：共生・協働する力
 60
 矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育士として、子どもの育ちを支える基盤ともいえる家族について、家族自体の動向、さらには家族をめぐる社会的状況を適切にとらえた上で、家庭支援の理論と方法を理解することができることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
- (2) 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
- (3) 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
- (4) 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	家庭支援の理論と方法を調べることができない。	家庭支援の理論と方法を調べることができる。	家庭支援の理論と方法を調べ、内容を理解している。	家庭支援の理論と方法を具体的に説明することができる。
表現力・考察力	家族をめぐる社会的状況を調べることができない。	家族をめぐる社会的状況を調べることができる。	家族をめぐる社会的状況を調べ、必要な支援を考えることはできる。	家族をめぐる社会的状況を調べ、必要な支援を具体的に説明することができる。
思考・解決力	ニーズに応じた支援の展開と必要な支援体制を考えることができない。	ニーズに応じた支援の展開を考えることはできる。	ニーズに応じた支援の展開と必要な支援体制を考えることはできる。	ニーズに応じた支援の展開と必要な支援体制を提案し、支援の意義を説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 子ども家庭支援の意義と必要性
- 第 2 回 子ども家庭支援の目的と機能
- 第 3 回 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義

- 第 4 回 子どもの育ちの喜びの共有
- 第 5 回 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の支持
- 第 6 回 保育士に求められる基本的態度
- 第 7 回 家庭の状況に応じた支援
- 第 8 回 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
- 第 9 回 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
- 第 10 回 子ども家庭支援の内容と対象
- 第 11 回 保育所等を利用する子育て家庭への支援
- 第 12 回 地域の子育て家庭への支援
- 第 13 回 要保護児童及びその家庭に対する支援
- 第 14 回 形成テストの実施と解説
- 第 15 回 授業の総括：子ども家庭支援に関する現状と課題
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

上記の課題について、配付資料をもとに、講義を進めていく。

各回授業終了時に、授業で学んだことをまとめたワークシートを作成することで学習の定着を図る。各回のワークシートは次回授業で個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で取り上げる内容について、事前にテキストを熟読しておく他、新聞などで取り上げられる家族に関わる記事を読むなどして、現代社会と家族との関わりについて知識を日々深めておくことが求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(15%)、ワークシート (20%)、形成テスト(65%) により総合判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『最新保育士養成講座第10巻子ども家庭支援—家庭支援と子育て支援』最新保育士養成講座総括編纂委員会編/社会福祉法人全国社会福祉協議会/2019/9784793513138/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で参考文献一覧を配付する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

外国語（英語）

EDP2201N0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 2年次
 2単位 前期
 月曜1限
 DP2：知識・理解力
 90
 田縁 眞弓

〔科目の教育目標（Course Description）〕

平成30年より早期化／教科化する小学英語において、小学校教員が身に着けるべき英語の背景的な知識を学ぶとともに授業実践に必要な英語運用力などを身に着けることを目指し
 以下の力を構築する。

- ①小学校で英語を指導するものが知っておくべき英語の背景的知識
- ②授業実践に必要な具体的な英語運用力
- ③複数の授業実践を視聴し望ましい授業を判断する力
- ④学習課題をこなし発表を行う力

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

新学習指導要領の3つの目標は、小学校外国語の中ではどの部分に当たるのか
 4技能5領域のマトリックスの中での理解を深め、そこに向かうための授業案が具体的に立案できることを目指すものである。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 オリエンテーション 小学校外国語活動、外国語の役割と方向
 グローバル時代における英語教育と小学校英語教育の目標
- 第 2 回 聞くことと話すこと
 小学校外国語活動、外国語科における聞くことと話すことの指導
 その具体的な方法
- 第 3 回 読むことと書くこと
 小学校外国語活動、外国語科における読むことと書くことの指導
 その具体的な方法
- 第 4 回 4技能統合型の指導
 技能を統合した指導の実際とその評価
- 第 5 回 外国語学習と第2言語習得理論の基礎

- 年齢と外国語学習
- 第 2 言語習得理論入門
- 第 6 回 コミュニケーション能力とその指導
 コミュニケーション能力とは
 コミュニケーション能力を高めるための小学校での指導の実際
- 第 7 回 音声の指導
 プロソディ アクセント リズム イントネーションの各指導
- 第 8 回 語彙の指導
 語彙指導の進め方
 語彙サイズについて
- 第 9 回 音と文字の指導
 フォニックスの基礎
- 第 10 回 文字、単語、文の書き方の指導
 ローマ字とアルファベットの指導について
 世界の言語と文字
- 第 11 回 文と文構造、文法の指導
 文法指導実践例
 品詞理解と小学校外国語
- 第 12 回 ライム、歌、絵本
 ライム、歌、絵本の指導法
- 第 13 回 模擬授業（1）
 教材研究 評価
- 第 14 回 模擬授業（2）
 国際理解
- 第 15 回 模擬授業（3）
 デジタル教材

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期テストに代えて授業内で模擬授業および教材提出などを求める

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

小学校における英語指導を前提に必要なとされる英語力を身に着ける。
 第2言語習得論と母語習得論を指導実習を通して実践的に学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキスト、授業時に配布するプリントの予習、復習を毎時行い授業に参加すること。
 また、発表活動時においては十分な準備をして発表に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- 授業参加度 30%
- 小テスト 10%
- 発表 20%
- 中間 基礎知識テスト（20%）
- 期末 児童英語指導のための教材作成（20%）

〔留意事項（Other Information）〕

発表活動の日程については授業の進行状況に併せて調整する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

小学校英語内容論 樋口忠彦ほか(2019) 研究社
 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

文部科学省 Let's Try 1 2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

元文部科学省小学校外国語新教材作成委員
 各都道府県教育委員会外国語アドバイザー
 私立小学校英語科専科スーパーバイザー

外国語(英語)指導法

EDP2454N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

月曜1限

DP4: 思考・解決力

90

田縁 眞弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

将来的に小学校で英語教育に携わるものに向け、その指導に必要な基礎知識と具体的な指導方法を網羅するものである。

現在世界のほとんどの国において指導されている小学校の外国語教育においては、異言語や異文化を理解し、それらを持つ人々とともに生きていく資質能力や、英語を通して自らの思いを伝えたり、相手を理解しようとするコミュニケーション能力を育成することが求められている。

本講義においては、知識と指導力の基礎を模擬授業などの実践や教材や評価チャートの作成などの実習をもとに学ぶものとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

小学校英語のねらいを理解し、それを出口の姿としたバックワードデザインで指導案を立案し、授業を行い、その授業を児童も教師も振り返ることのできる評価の方法も考えられる力を身に付けたい。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション
 オリエンテーション 本講義の指導内容をもとに、各自どのような学習方法がふさわしいかを検討するとともに、ひろく小学校外国語教育の目的と目標を考察する。

- 第 2 回 関連分野からみる外国語教育の意義と方向性
 母語習得と第 2 言語習得
 コミュニケーション能力および国際理解教育
- 第 3 回 指導者の役割、資質と研修
 ティーチャートークとティームティーチング
 教室英語の実際および T T の役割
- 第 4 回 教材の構成と内容
 様々なシラバス
 検定教科書閲覧
- 第 5 回 指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方
 指導計画立案に関して必要なこと
- 第 6 回 言語材料と 4 技能の指導「
 聞くこと・話すこと(発表・やりとり)読むこと、書くこと
- 第 7 回 教材研究①
 望ましい活動 開発の視点
- 第 8 回 教材研究②
 自己表現活動 国際理解活動
- 第 9 回 指導方法と指導技術
 基本的な外国語指導法紹介
- 第 10 回 色々な教材教具の活用
 これからの教材の位置づけ
- 第 11 回 評価のあり方、進め方
 パフォーマンス評価
 振り返り評価
 行動観察 ペーパーテスト ほか
- 第 12 回 学習指導案の書き方
 留意点(事前・中学校・そのご)
- 第 13 回 模擬授業①
 C L I L 指導 発表活動
 学んだことを生かし模擬授業を実践
- 第 14 回 模擬授業②
 学習目標と評価
- 第 15 回 模擬授業③
 自己評価および他者評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

オールイングリッシュでの指導を身に付ける
 外国語指導のための理論をもとに自らの英語学習の自己調整力を高め、最終的には目的に沿った指導案が作成できる力を身に付ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキスト、授業時に配布するプリントの予習、復習を毎時行い授業に参加すること。

また、発表活動時においては十分な準備をして発表に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 30%

小テスト 10%

発表 20%

中間 児童英語指導理論の基礎知識テスト (20%)

期末 児童英語指導のための効果的な教材作成 (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

新編 小学校英語教育入門 研究社 (2017) 樋口忠彦編著

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

文部科学省 Let's Try1 2

小学校外国語検定教科書

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

元文部科学省小学校外国語新教材作成委員

各都道府県教育委員会外国語アドバイザー

私立小学校英語科専科スーパーバイザー

学習デザイン論

EDP4400N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

2単位 前期

金曜3限

DP4: 思考・解決力

90

大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学習者が協働体験を通して学習し創造を生み出す場を作るために、いかにチームを作り、プログラムを作り、ファシリテーターを設定するのかを学ぶ。様々な手法の中から適切な方法を用い、より楽しくて全員参加の学習活動のデザインの方法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 個別学習と協働学習の意義
- ・ 小学校における個別学習と協働学習の課題設定
- ・ 小学校における学習者のチーム作り
- ・ 小学校における個別学習と協働学習の学習活動のデザイン
- ・ 小学校のグループワークにおける合意形成
- ・ ワークショップ・デザインの効果の測定

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

共生・協働する力	学習をデザインするために、他の受講生とともに学び合うことが困難である。	学習をデザインするために、他の受講生とともに学び合うことはできている。	学習をデザインするために、他の受講生の意見を踏まえつつ、自分の意見も表明し、学び合うことができる。	学習をデザインするために、他の受講生の意見を踏まえ、自分の意見を変化させながら、学び合うことができる。
----------	-------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------------------	-----------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 アクティブラーニングをデザインする意義
- 第 2 回 各教科における言語活動
- 第 3 回 各教科に共通に役立つ言語活動
- 第 4 回 アクティブラーニングにおける課題設定
- 第 5 回 アクティブラーニングにおけるチーム作り
- 第 6 回 ワールド・カフェの方法を中心にしたワークショップ・デザインの構想
- 第 7 回 ワールド・カフェの方法を中心にしたワークショップ・デザインの実践
- 第 8 回 ファシリテーション・グラフィックの方法を中心にしたワークショップ・デザインの構想
- 第 9 回 ファシリテーション・グラフィックの方法を中心にしたワークショップ・デザインの実践
- 第 10 回 ポスターセッションの方法を中心にしたワークショップ・デザインの構想
- 第 11 回 ポスターセッションの方法を中心にしたワークショップ・デザインの実践
- 第 12 回 様々な手法を用いたワークショップ・デザインの構想
- 第 13 回 様々な手法を用いたワークショップ・デザインの実践
- 第 14 回 ワークショップ・デザインの効果の測定
- 第 15 回 自己評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と演習を並行して行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めることもある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回の授業参加と小レポート提出 (50%)

発表 (20%)

討論・レポート提出 (30%)。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

ワークショップデザインー知をつむぐ対話の場づくり 堀公俊・加藤 彰 日本経済新聞出版社 2008
978-4532314033

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

小学校教員として実務経験あり

教育と社会

EDB2550N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP5 : 共生・協働する力

60

選択必修

田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校教育のさまざまな自明性を問い直し、学校教育の課題について考察する力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・教育事象を社会的に捉える。
- ・学校教育と社会のつながりを理解する。
- ・学校教育の現代的課題について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	学校教育のさまざまな自明性について省察することができない。	学校教育のさまざまな自明性について、自分の経験を振り返り、それらと結びつけて省察することができる。	学校教育のさまざまな自明性について、自分の経験を振り返り、それらと結びつけて省察することができる。ともに、学校教育の課題について考えることができる。	学校教育のさまざまな自明性について、自分の経験を振り返り、それらと結びつけて省察することができる。ともに、学校教育と社会とのつながりを認識しながら、学校教育の課題について考えることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 学校の社会学的考察
- 第 2 回 学校文化
- 第 3 回 知識基盤社会と学校
- 第 4 回 多文化社会と学校
- 第 5 回 子どもと情報化社会
- 第 6 回 子どもの貧困
- 第 7 回 いじめ
- 第 8 回 子どもと親子関係
- 第 9 回 日本の教育改革の動向
- 第 10 回 海外の教育改革の動向
- 第 11 回 学校と地域との連携
- 第 12 回 地域に開かれた学校づくり
- 第 13 回 子どもをめぐる事件と学校の取り組み
- 第 14 回 学校安全の課題
- 第 15 回 これからの社会と学校

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に行う。話を聴きながら、社会のあり方と学校教育のあり方とを結びつけて考えることに努めてほしい。毎回書いてもらうミニレポートは、次回の授業の中でコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・新聞を読む習慣をつけること。教育に関する記事を切り抜くとなおよい。
- ・授業の中でよく考えてみてほしいと言った事がらについて、自分の問いとして引き受け、授業後に深く考えてみてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ミニレポートの内容 (50%) と定期試験に替わるレポート (50%) にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『学校って何だろう』/荻谷剛彦/ちくま文庫/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育課程論

EDN2250N0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 2年次
 2単位 後期
 木曜 3限
 DP2：知識・理解力
 60
 幼小・小特必修
 田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教師が授業を行う際に必要となる教育課程の意義と編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・教育課程の意義を理解する。
- ・教育課程の編成の方法を理解する。
- ・カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教育課程の意義や編成の方法について理解できていない。	教育課程の意義や編成の方法について理解できている。	教育課程の意義や編成の方法について、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解できている。	教育課程の意義や編成の方法について、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解できるとともに、教育の今日的課題について深く思考できている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業をつくる
- 第 2 回 教育課程とは何か
- 第 3 回 教育課程の編成
- 第 4 回 単元の構成
- 第 5 回 学習指導要領の変遷
- 第 6 回 現行の学習指導要領の特徴
- 第 7 回 教育課程の社会的機能
- 第 8 回 「主体的・対話的で深い学び」とは何か
- 第 9 回 児童の発達への支援と教育課程
- 第 10 回 教科横断的な教育課程
- 第 11 回 ロングスパンの教育課程
- 第 12 回 学校段階間の接続と教育課程
- 第 13 回 カリキュラム・マネジメントの意義
- 第 14 回 カリキュラム・マネジメントと学校運営

第 15 回 カリキュラムの評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に行う。自分の小学校時代の授業について丁寧に振り返ることが重要である。しかし、それとともに、当時とは違って、今日の学校教育において課題となっていることについて理解することが重要である。毎回書いてもらうミニレポートは、次回の授業の中でコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

現在は教育課程のあり方が大きく変わろうとしている時期である。常日頃から新聞を読んで、教育課程改革の動向について把握するように努めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ミニレポートの内容 (50%) と定期試験 (50%) にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小学校学習指導要領』/文部科学省/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育原理

EDB1201N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

1年次

2単位 前期

火曜 2限

DP2：知識・理解力

60

必修

田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育の理念、教育に関する歴史や思想を理解するとともに、21世紀の変動する社会において教育に携わる者に必要となる物事の見方や課題意識を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・教育の基盤にある哲学や思想について学ぶ。
- ・学校教育の歴史について学ぶ。
- ・教育の現代的課題について学ぶ。
- ・自分自身の学校観、授業観、教師観を編み直す。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教育の原理や歴史について理解していない。	教育の原理や歴史について、おおよそ理解している。	教育の原理や歴史について、自分の経験を振り返り、それらに結びつけて理解している。	教育の原理や歴史について、自分の経験を振り返り、それらに結びつけて理解するとともに、現代の教育の課題について深く思考することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育とは何のために
- 第 2 回 子どもへのまなざしの変化と教育学のはじまり
- 第 3 回 子どもとはどんな存在か
- 第 4 回 教師とはどんな存在か
- 第 5 回 家庭生活の意味と課題
- 第 6 回 学校生活の意味と課題
- 第 7 回 社会教育の歴史
- 第 8 回 欧米の学校教育の歴史
- 第 9 回 日本の学校教育の歴史
- 第 10 回 家庭教育の思想
- 第 11 回 近代の学校教育の思想
- 第 12 回 現代の学校教育の思想
- 第 13 回 変動する社会と教育の課題
- 第 14 回 生涯学習と社会教育
- 第 15 回 教師の専門的成長

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に行う。話を聴くことに並行して、自分がこれまでに受けてきた教育とそこでの自分自身のあり方について丁寧に振り返り、それに結びつけることで内容を理解しようとしてほしい。毎回書いてもらうミニレポートは、次の授業の中でコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を中心とする。授業の中でよく考えてほしいと言った事がらについて、自分の問いとして引き受け、授業後に深く考えてみてほしい。できることならば、一緒に授業を受けた仲間と対話しながら考えてほしい。また、授業の中で参考文献を紹介するので、手に取って読んでみてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ミニレポートの内容(50%)と定期試験(50%)にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『教育思想史』/今井康雄/有斐閣/2009/9784641123847

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育史

EDB3250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

2単位 後期

火曜1限

DP2: 知識・理解力

60

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、教職課程「教育の基礎的理解に関する科目」として、教育を支える理念、教育の歴史および思想について学ぶことを目的としており、特に歴史的事項を重点的に扱う。「歴史は現代への問いである」という言葉が示すように、教育史を学ぶ第一の意義は歴史を通じて現代の教育をより深く認識することにある。本授業では、西洋と日本における教育の歴史の変遷およびその背景に関する基礎的知識を身につけ、歴史的な視座から教育の基本概念について理解できるようにする。また、古来より家族や社会において営まれてきた教育と学校教育との歴史的関係性について学ぶことを通じ、教育という営みに対する視野を広げることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 東西の教育史に関する基礎的な知識を獲得している。
- (2) 現代の教育の歴史的な位置づけについて理解している。

〔ループリック表〕

東西の教育史に関する	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
基礎的な知識についての理解	東西の教育史に関する基礎的な知識について理解できていない	東西の教育史に関する基礎的な知識について理解できている	東西の教育史に関する基礎的な知識について深く理解できている	東西の教育史に関する基礎的な知識について深く理解できている、身の回りの具体的な教育事象をその中に位置づけて考え

				ることが できる
現代の教育の歴史的な位置づけについての理解	現代の教育の歴史的な位置づけについて理解できていない	現代の教育の歴史的な位置づけについて理解できている	現代の教育の歴史的な位置づけについて深く理解できている	現代の教育の歴史的な位置づけについて深く理解できおり、身の回りの具体的な教育事象をその中に位置づけて考えることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育のはじまり (1) - 人類の誕生と教育 -
- 第 2 回 教育のはじまり (2) - 教育の起源 -
- 第 3 回 教育のはじまり (3) - 中世の教育 -
- 第 4 回 第 4 回 教育のはじまり (4) - 近代公教育の誕生 -
- 第 5 回 西洋教育史 (1) - コメニウスの教育思想 -
- 第 6 回 西洋教育史 (2) - ロックの教育思想 -
- 第 7 回 西洋教育史 (3) - ルソーの教育思想 -
- 第 8 回 西洋教育史 (4) - ペスタロッチ・フレーベルの教育思想 -
- 第 9 回 西洋教育史 (5) - デューイの教育思想 -
- 第 10 回 西洋教育史 (6) - 経験主義と教育実践の歴史 -
- 第 11 回 日本教育史 (1) - 近世の子どもと教育 -
- 第 12 回 日本教育史 (2) - 近代公教育の導入と日本的特徴 -
- 第 13 回 日本教育史 (3) - 近代の教員養成制度の導入と展開 -
- 第 14 回 日本教育史 (4) - 歴史から見る「ゆとり」と「つめこみ」 -
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は講義を中心とするが、教員と学生および学生同士の双方向的なコミュニケーションを通じた深い学びを追求する。適宜、質疑応答やディスカッションをおこなうので、積極的に参加すること。毎回授業の最後に提出させるコメントシートはチェックしたのち次の回に返却するので、授業内容に対する理解度の確認や復習に活用すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本講義を理解するには、高校卒業レベルの公民 (現代社会・倫理・政治・経済) および歴史 (西洋史・日本史) に関する知識が必要となる。これらに関して自分の知識が不足していると思う場合は、授業外での予習・復習を欠かさないこと。その他、必要な予習・復習の内容については授業中に指示する。しっかりと準備をおこない毎回の授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) 定期試験：60% (授業で学習した内容全体を出題範囲とする)
- (2) 提出物：20% (毎回授業の最後に理解度を問うコメントシートを提出させる)
- (3) 授業態度：20% (授業中の質問や応答、学生同士のディスカッションなど授業への参加度と貢献度を評価する)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定せず、授業中に配布するプリントを使用する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教職実践演習 (幼・小)

EDN4650N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

2単位 後期

木曜 5限

DP6 : 創造・発信力

60

別に定める

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 神月 紀輔 江川 正一 小川 博士 太田 容次 大西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

将来教員になる上で必要な知識・技能等に関して、自己の課題を自覚するとともに、必要に応じて不足している点を補うなどし、その定着を図る。授業は、「教育・学習の個別課題」で示された4つの項目の領域を中心に、主として、各テーマに沿った講義を踏まえて、討論やロールプレイングなどの演習を行い、各人の教師の資質に関わる課題について、問題解決を図ることを目標とする。最終段階の授業では、各教科等における課題を各自が取り上げ、それを深化、研究し、その成果を模擬授業や授業研究を行うことにより、課題の共有化を図る。授業を通し、教師としての生きる意思を再確認し、自己の教職への使命を認識することを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

これまでに学んだ教職および教科に関する知識と、教育実習体験を通して得られた実践的指導力との統合を図りながら、主に以下の4つの事項についての講義・演習を通して学び、教師としての資質の向上を図る。

- ①現代社会において教師に求められる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項

- ②教職に必要な社会性や対人関係能力に関する事項
 - ③幼児・児童の心理発達および集団としての生徒理解に関する事項
 - ④教科等の指導力に関する事項
- [ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教員に求められる資質・能力と習得すべき知識についての理解が不十分で、説明することができない。	教員に求められる資質・能力と習得すべき知識についてある程度理解し、説明することができる。	教員に求められる資質・能力と習得すべき知識について理解し、説明することができる。	教員に求められる資質・能力と習得すべき知識について理解し、自らの教育現場での経験をもとに説明することができる。
思考・解決力	これまでに学んだことを生かせず、教材研究及び学習指導計画の立案ができない。	これまでに学んだことをもとに、教材研究及び学習指導計画の立案ができる。	これまでに学んだことをもとに、教材研究及び学習指導計画の立案と模擬授業を通してその改善を図ることができる。	これまでに学んだことをもとに、教材研究及び学習指導計画の立案と模擬授業を通して、目標・指導・評価の一体化の視点から改善をはかることができる。
学びに向かう力	教員に求められる資質・能力についての自らの課題について説明することができない。	教員に求められる資質・能力についての自らの課題についてある程度説明することができる。	教員に求められる資質・能力についての自らの課題について説明することができる。	教員に求められる資質・能力についての自らの課題と改善策について説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション（授業のねらい・授業計画・履修履歴の確認等）
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一
- 第 2 回 これまでの教職に関する学習の振り返り
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一

- 第 3 回 教職人生を実現させる意味についての講義（京都市内小学校校長・本学OGによる講話）
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一
- 第 4 回 子どもに対する責任等についてのグループ討議・ロールプレイング
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一
- 第 5 回 地域と連携した取組についての講義（京都市内小学校校長講話）
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一
- 第 6 回 学校現場の見学・調査についての事前指導
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一
- 第 7 回 学校現場の見学・調査（京都市内学校）
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一
- 第 8 回 実習及び見学から学んだことについてのグループ討議
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一
- 第 9 回 学級通信を通じた自己実現についての講義、作成演習
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一
- 第 10 回 模擬授業と授業研究（Ⅰ）教材研究
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一
- 第 11 回 模擬授業と授業研究（Ⅱ）指導案作成
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一
- 第 12 回 模擬授業と授業研究（Ⅲ）模擬授業
- 担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春美、太田 容次、江川 正一

川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春
美、太田 容次、江川 正一

第 13 回 模擬授業と授業研究 (IV) 分析・考察

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小
川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春
美、太田 容次、江川 正一

第 14 回 学級経営案についての講義と作成演習

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小
川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春
美、太田 容次、江川 正一

第 15 回 総括 (教職に就いたときの自己の課題についての
討議)

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小
川 博士、田中 裕喜、河佐 英俊、渡邊 春
美、太田 容次、江川 正一

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と演習 (グループ討議・ロールプレイング・学級通信
及び学級経営案の作成・模擬授業と授業研究) 及び学校教
育現場の見学・調査を中心に行う。

* 提出されたレポートについては添削の後、返却したり、
授業での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第1回・第2回: これまでの教職に関する学習を振り返り、
成果と課題をまとめる。

第3回・第4回: 資料「教職生活の全体を通じた教員の資質
能力の総合的な向上方策について (答申)」を熟読する。

第5回: 資料「21世紀を展望した我が国の教育の在り方につ
いて (答申)」第2部第4章「学校・家庭・地域社会の連携」
を熟読する。

第6回・第7回: 資料「授業の観察と記録の方法」を読む。

第8回: 作成した授業記録をもとに学んだことをまとめる。

第9回: 資料「学級・学年通信」を読むとともに、学級・学
年通信作成 (演習) に向けて準備する。

第10回~第13回: 指導案作成に向けて、教科等及び単元 (題
材) を決め、資料等を準備する。

第14回: 資料「学級経営案」を読むとともに、学級経営案
作成 (演習) に向けて準備する。

第15回: これまでの教職に関する学習を振り返り、成果と
教職についた時の自己の課題をまとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実技指導、グループ討議、補完授業、模擬授業、総括レポ
ートの結果などを踏まえ、教員としての資質能力が身に付
いているかを総合的に判断するとともに授業参加度も加味
して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは実態に応じて変更することもあり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

テキストは特に指定しない。必要に応じて担当教員が資料
等を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》実務経験等: 神月, 藤本, 大西, 小川, 住本
教員として学校に勤務経験あり

国際理解教育

EDC4500N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

2単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

90

渡辺 智美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

国際理解教育の中で取りあげる人権・多文化・自文化など
の内容を、子どもとの関わりから捉える。そして、国際社
会の中で多様な価値観があり、それらを認識することを通
して、国際理解教育への関心を高め、国際社会の中で共生・
協働するための基礎的な素地を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・多文化社会における文化理解と共生
- ・グローバル社会におけるつながりと相互依存
- ・地球的課題における人権・環境・平和

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育て る力	国際理解教 育とは何か について知 ろうとする	国際理解教 育の背景や 意義につ いて理解し ようとする	国際理解教 育の理論を もとに、考 えを深める	国際理解教 育と現代社 会の結びつ きを理解す る
知識・理解 力	課題の内容 を知る	基礎的な知 識を身につ ける	基礎知識を もとに、さ らに新しい 事柄を理解 しようとし る	自ら積極的 に探究し理 解を深める
言語力	人の意見や 考えを聞く	自分自身の 考えや意見 を発表する	意見を交流 しあう	交流した内 容をさらに 議論で深め る

思考・解決力	問いを知る	積極的に問いに向き合う	他の人の考えや意見も参考にしながら、多角的に考える	自ら問いや課題を考え、自ら解決していく
共生・協働する力	相手の意見や考えを知ろうとする	相手の意見や考えを理解しようとする	自分と異なる意見であっても、議論を重ねていくことができる	議論を重ねる中で、新しい方向性を見出せる
創造・発信力	課題に対して取り組む	課題に対して、わかりやすく述べる	自らの経験と照らし合ったり、根拠を示したりしながら述べる	適切な情報を用いながら、創意工夫のある発信を行う

〔授業計画〕

- 第 1 回 国際理解教育の意義
国際理解教育の歩みについて
- 第 2 回 日本の伝統・文化
日本の伝統・文化について
- 第 3 回 国際人としての自己の確立
国際人とは
- 第 4 回 異文化やそれをもつ人々との交流と受容
世界の中の多様な文化について
- 第 5 回 多文化の中での共生の意義
多文化共生とは
- 第 6 回 帰国児童と多国籍の児童の教育
外国にルーツをもつ児童の教育について
- 第 7 回 小学校における国際理解教育の実践
学校現場での実践について
- 第 8 回 アメリカの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育
アメリカの取り組みについて
- 第 9 回 イギリスの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育
イギリスの取り組みについて
- 第 10 回 フランスの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育
フランスの取り組みについて
- 第 11 回 ドイツの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育
ドイツの取り組みについて
- 第 12 回 中国の乳幼児教育・初等教育と国際理解教育
中国の取り組みについて
- 第 13 回 ユネスコの国際理解教育
ユネスコを中心とした国際理解教育について
- 第 14 回 国際理解教育と学習モデル
国際理解教育の学習モデルについて
- 第 15 回 これからの国際理解教育・まとめ
国際理解教育の可能性と展望について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義とワークショップ形式の演習を取り入れた授業を行う。課題に対しては、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストを読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (50%)、授業時の課題 (50%) に基づいて

総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『国際理解教育ハンドブック ―グローバル・シティズンシップを育む―』/日本国際理解教育学会/ 明石書店 /

2015年 / 9784750342054 / 学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教諭として学校教育現場での勤務経験あり。

子供のネット安全教育の理論と実践

CNS2601N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次 3年次 4年次

2単位 通年

木曜 6限

DP6 : 創造・発信力

60

自由科目

神月 紀輔 東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子供たちのネット利用において、詐欺にあう、ネットいじめ、個人情報流出など様々な問題が起きている。本科目では、京都府消費生活安全センターと協力し、特に消費者教育の観点から、子供自らが考えて安心してネットを利用できるように、小学校等での啓発プログラムを開発し、実践することを目標としている。

なお現状から当面は、小学校4~6年生程度を対象としたプログラムの開発を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・現在起きているネットの安全使用に関する問題を知る。
- ・子供たちにとって危険な状況を知る。
- ・学校現場など状況に合わせた啓発プログラムを開発する。
- ・開発したプログラムを実践する。
- ・プログラムの実施に対してその評価を行い改善をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解	広い範囲から、子供のネット利用に関する情報を収集できず、理解できない。	現在の子供の情報環境やネットの使用状況を理解している。	子供にとっての望ましい情報機器の利用を理解している。	子供のネット利用に関する基礎知識を持ち、行政や教育がどのようにしようとしているか理解している。
実習に対する参加態度	実習に参加できない	子供の現状を踏まえ、実習に参加する	講座の趣旨を理解し、リーダーとして子供の前に立つ	講座の趣旨を理解し、子供を指導し、その評価をし、さらに啓発に努める
協働する力	他の大学生と協力できない。ディスカッションに参加しない。	積極的にディスカッションに参加する。	子供の指導に対して、意見の交換を行い、啓発に役立てる	問題点や改善点を積極的に提言し、次の啓発に生かそうとする

〔授業計画〕

- 第 1 回 43643
本講義を始めるにあたって (神月・東郷・堀出)
- 第 2 回 43650
教育社会学から見た子供のネット利用 (堀出)
- 第 3 回 43657
京都府消費生活安全センターにおける子ども啓発 (外部講師)
- 第 4 回 43664
子供のへの模擬指導と評価 (東郷・堀出・神月)
- 第 5 回 8・9月中 (日時未定)
小学校における子供への指導実習 (堀出・東郷・神月)
- 第 6 回 8・9月中 (日時未定)
児童館における子供への指導実習 (堀出・東郷・神月)
- 第 7 回 8・9月中 (日時未定)
こどもイベントでの指導実習 (堀出・東郷・神月)
- 第 8 回 43741
小学校児童館等における実習の評価、振り返り (堀出・東郷・神月)
- 第 9 回 43748
学校における情報モラル指導 (神月)
- 第 10 回 43755
京都府消費生活安全センターへの相談の現状 (外部講師)
- 第 11 回 43762

他の自治体での取り組み (外部講師)

第 12 回 43769
保護者も含めた指導方法の開発 (神月)

第 13 回 43776
専門家による評価 (堀出・外部講師)

第 14 回 43783
今後の問題点討議 (神月・東郷・堀出)

第 15 回 43790
まとめと自己評価 (神月・東郷・堀出)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

現状の把握や学習理論については、講師やゲストスピーカーから講義を聞き、そこで得た知見をもとに、演習により、子ども向け啓発プログラムを開発する。その際にはグループによるディスカッションなどコミュニケーションが必要である。さらに実際に子どもの前に立ち、実践を行い、実践から得たデータなどをもとに、啓発プログラムの自己評価を行い、議論の中からフィードバックを行う。また改善点を見出し、さらにプログラムをよいものに仕上げ、再生可能なものにする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新聞やインターネットなどで情報の収集をする。毎回の授業に対して復習を行い、次時への目標を立てる。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(50%)、毎時間のコメント(20%)、指導実習内容(30%)により総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

この科目はコンソーシアム科目であり、本学ではなくキャンパスプラザ京都で開講する。また履修登録もコンソーシアム京都からも行う必要があり、講義期間もキャンパスプラザ京都の日程に従うので注意すること。

実習を伴うこともあるので、就職活動中の学生は単位取得が難しくなることがあることを留意されたい。

講義のうち2回程度は、講義時間以外の8月から9月に、京都府内の小学校または児童館などに出かけて実習を行う。この際の交通費は自己負担となる。

さらにこの取り組みにかかわりたい場合は、2、3月や次年度に自主的に啓発活動に取り組むことが可能である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

指定しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

プリントやネットワークを通じて資料を配布する。

[参考URL(URL for Reference)]

e京都 (いーこと) ラーニングシステム

https://el.consortium.or.jp/login.php

公益財団法人 大学コンソーシアム京都の単位互換履修生及び京(みやこ)カレッジ生の履修登録・学修支援システムです。

大学コンソーシアム京都 単位互換制度

http://www.consortium.or.jp/project/tg/details

出願手続き等の説明はこちらから

[実務経験のある教員による実践的科目]

◀実践的科目▶ 外部講師は行政機関勤務経験あり

視覚障害者の心理・生理・病理

EDD3550N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

1単位 後期集中

その他

DP5: 共生・協働する力

30

全7.5コマ

田中 良広

[科目の教育目標 (Course Description)]

視覚障害者の見えにくさ、見えないことによる心理特性、視覚器官の構造と視機能、視覚の障害の起因とその症状(見え方等)について講義と体験を通して理解する。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

見えにくさ、見えないことによる問題や影響を理解するとともに、視覚障害の幼児児童生徒の学習を効果的に行うため、どのような点に留意する必要があるかについて取りまとめること。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

第1回:ものが「見える」ということと視覚障害になるということ(視覚障害とその影響)

第2回:視覚障害幼児の発達と行動

第3回:弱視児の視知覚と盲児の触知覚

第4回:中途失明者の心理

第5回:視覚検査法(広D-K式視覚障害児発達診断検査・フロスティッグ視知覚発達検査)

第6回:視覚系の構造と視機能の理解

第7回:代表的な眼疾患の見え方と配慮点①:未熟児網膜症・網膜色素変性症・視神経萎縮等

第8回:代表的な眼疾患の見え方と配慮点②:緑内障・白内障・中枢性視覚障害等

[定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート]

既習事項に関するレポート課題を課す。テーマ、書式、字数等については別途授業時間内に周知する。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

授業は講義形式で実施するが、小グループや個別に実技や演習を行う場合がある。授業の最後に「履修カルテ」に学習内容、感想、質問事項を記入し、振り返りを行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

初回に配布する講義資料を事前に読み込みみんでおくとともに、既習事項について必ず復習を行い、内容に関する質問を考えておくこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours (Total))]

資料の読み込みと復習:各30分程度

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業への参加態度(20%)、履修カルテへの記入状況(10%)レポート課題の内容(70%)を総合的に判断する。

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

自作資料を配付する

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

視覚障害者教育論

EDD3451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

1単位 後期集中

その他

DP4: 思考・解決力

30

全7.5コマ

田中 良広

[科目の教育目標 (Course Description)]

視覚障害に関して、その教育方法、教育内容等について講義と体験を通して理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

視覚障害教育における教育課程と学習指導要領、発達段階に応じた指導上の留意事項、自立活動（歩行、点字、視覚補助具等）の指導、キャリア教育等に関する知識や技能等について理解を深めること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回：視覚障害児の教育の場と教育課程
- 第2回：幼稚部・小学部段階の指導と配慮点
- 第3回：中学部・高等部段階の指導と配慮点
- 第4回：自立活動①：点字の初期指導と歩行指導
- 第5回：自立活動②：視覚補助具の活用
- 第6回：自立活動③：ICT機器の活用
- 第7回：視覚障害者に対するキャリア教育
- 第8回：まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

既習事項に関するレポート課題を課す。テーマ、書式、字数等については別途授業時間内に周知する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は講義形式で実施するが、小グループや個別に実技や演習を行う場合がある。授業の最後に「履修カルテ」に学習内容、感想、質問事項を記入し、振り返りを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

初回に配布する講義資料を事前に読み込みんでおくとともに、既習事項について必ず復習を行い、内容に関する質問を考えておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

資料の読み込みと復習：各30分程度

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加態度（20%）、履修カルテへの記入状況（10%）レポート課題の内容（70%）を総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

自作資料を配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会的養護

EDI2550N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

火曜4限

DP5：共生・協働する力

60

芹澤 出

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

何らかの事情で保護者のない子どもや、保護者に監護させることが適当で無い場合、公的責任によりそうした子どもたちを養育するるとともに、困難を抱える親への支援等を主たる業務とする子どもたちの生活の場が社会的養護である。本科目では、社会的養護の目的と機能を理解し、児童の正常な成長・発達を保証するために必要な知識、技術について学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

家庭養育優先と社会的養護について理解すると共に、代替養育における家庭的養育の重要性を学び、子どもの権利擁護と最善の利益の保障のための支援の在り方について理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもの福祉について課題意識が低い	子どもの福祉について理解する姿勢がある	子どもの福祉について理解することが出来る	子どもの福祉について理解し課題意識がある
知識・理解力	授業の内容について考察し理解を深める姿勢が無い	授業の内容について考察し理解を深めようとしている	授業の内容について理解し考察を深めている	授業の内容について理解し実践的な考察が出来る
言語力	子どもとのコミュニケーションを理解する姿勢が無い	子どもとのコミュニケーションの重要性を理解している	コミュニケーションスキルの基本が理解出来る	コミュニケーションスキルの活用が出来る
思考・解決力	子どもの課題について	子どもの課題について考察し背景	子どもの課題について支援方法を	子どもの自立支援計画

	考察が出来ない	や要因について考察することが出来る	考察することが出来る	について理解している
共生・協働する力	寄り添う型支援の必要性について理解していない	寄り添い型支援の必要性について理解している	寄り添い型支援とエンパワメントについて理解している	寄り添い型支援とエンパワメントについて理解し実践できる
創造・発信力	課題解決の手法を創造することが出来ない	課題解決の手法を自分なりに創造出来る	課題解決の手法を創造し発信することが出来る	創造し発信した手法についての振り返りが出来ている

〔授業計画〕

- 第 1 回 社会の変革と社会的養育
社会の変化と社会的養育の変革について学ぶ
- 第 2 回 社会的養育と家庭養育支援
社会的養育と家庭養育支援の現状について学ぶ
- 第 3 回 社会的養育と社会的養護
社会的養育と社会的養護の現状について学ぶ
- 第 4 回 児童の権利条約
児童の権利に関する条約について学ぶ
- 第 5 回 児童福祉法と児童虐待の防止等に関する法律
児童福祉法と児童虐待の防止等に関する法律の理解
- 第 6 回 児童相談所と福祉事務所
児童相談所機能の理解と市区町村差の連携について学ぶ
- 第 7 回 社会的養護の実施体系
社会的養護の対象と実施体系の理解
- 第 8 回 社会的養護における家庭養育と施設養護
家庭養育（里親）と家庭的養護（施設）について学ぶ
- 第 9 回 社会的養護の内容
社会的養護における子どもの理解
- 第 10 回 社会的養護における自立支援
日常生活支援と治療的支援の理解
- 第 11 回 社会的養護とソーシャルワーク①
社会的養護におけるアセスメントと自立支援計画
- 第 12 回 社会的養護とソーシャルワーク②
ファミリーソーシャルワーカーと里親支援専門員の役割について学ぶ
- 第 13 回 社会的養護の地域における支援
社会的養護におけるアフターケアと地域支援の理解
- 第 14 回 社会的養護のまとめ
授業の振り返りとまとめ
- 第 15 回 学習理解の確認
テストと解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

授業最終日に理解度を確認するためのテストを実施します
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は教科書を中心に進めますが、事例やビデオを取り入れて知識を深めるとともに、実感としての理解を大切にします。

授業の振り返りでは練習問題を解いてもらい、解答と解説を実施します。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

児童福祉施設でのボランティアやアルバイト、施設見学などを通して、児童福祉施設についての理解を深める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績評価は、発表内容(10%)、小レポート(10%)、テスト(80%)により判断する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業において発言や意見を求めることがあります。グループディスカッションを行い、考えを整理して発表してもらいます。積極的に授業に参加する姿勢で受講して下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『最新 保育士養成講座 第5巻 社会的養護と障害児保育』/最新 保育士養成講座 総括編纂委員会//社会福祉法人全国社会福祉協議会///学内販売予定

授業開始までに購入しておいて下さい。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

児童の権利に関する条約

児童福祉法

児童虐待の防止等に関する法律

〔参考URL(URL for Reference)〕

社会的養護の課題と将来像 https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/syakaiteki_yougo/dl/08.pdf

新しい社会的養育ビジョン <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000173888.pdf>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》社会的養護施設（母子生活支援施設）において30年以上勤務（現施設長）

社会的養護内容

EDI2551N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

1単位 後期

火曜 2限

DP5：共生・協働する力

60

徳岡 博巳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解する。
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。
3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に理解する。
4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術を習得する。
5. 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

児童福祉施設の現状 子どもの生活と支援 虐待の理解及びその対応 ソーシャルワーク 自己決定支援 権利擁護

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (グループ作り、事例検討の予備知識)
- 第 2 回 事例1-1：社会的養護とは何かを学ぶ
- 第 3 回 事例1-2：日常生活支援を考える 1 (子どもの行動の意味の理解)
- 第 4 回 事例2-1：社会的養護の歴史を学ぶ
- 第 5 回 事例2-2：日常生活支援を考える 2 (ためし行為への対応)
- 第 6 回 事例3-1：社会的養護の基本原則を学ぶ
- 第 7 回 事例3-2：治療的支援を考える 1 (子ども同士の関係)
- 第 8 回 事例4-1：虐待とは何かを学ぶ
- 第 9 回 事例4-2：治療的支援を考える 2 (怒ると叱るの理解)
- 第 10 回 事例5-1：保育士の専門性にかかわる知識・技術を学ぶ
- 第 11 回 事例5-2：自立支援を考える (多問題を抱える児童への援助)
- 第 12 回 事例6-1：ソーシャルワークにかかわる知識・技術を学ぶ (家族支援 1)
- 第 13 回 事例6-2：ソーシャルワークにかかわる知識・技術の応用 (家族支援 2)

第 14 回 事例6-3：ソーシャルワークにかかわる知識・技術の応用 (ネットワークの理解)

第 15 回 授業のふり返りとまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

児童養護施設における実習生と子どもの場面事例を通して、施設養護や他の社会的養護についての理解を深める。また、具体的な養護の実践に接し援助の方法や技術を学ぶ。実際の事例をグループで検討することで、個々の児童に応じた日常生活支援、治療的支援、自立支援等の内容を学ぶ。各事例毎に「レポートの書き方」に沿って、レポートを提出し、提出後の授業で評価及び振り返りを行なう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

グループでディスカッションしながら、子どもへの関わりを検討するため、授業内容について予習しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(40%)及びレポート (60%) により総合判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

グループワークを中心に授業を行いますので、遅刻は厳禁です。欠席する場合は事前に連絡すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業で使う資料等はこちらで用意します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

初等教材開発論

EDP4200N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

2単位 前期

木曜 3限

DP2：知識・理解力

60

大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育における教材の意味、教材開発のありかたを、戦後新教育のコア・カリキュラムにおける子どもの生活に根差した教材開発例を参考に、理解する。さらに、小学校教育においては、地域素材が重要であり、地域素材を活かした教材開発をフィールドワークに基づき行う。その上で、地域素材を活かした、子どもの生活に根差した教材開発の重要性を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・教材開発の先行実践例から、教材の意味、教材開発のありかたを理解する。
- ・小学校教育において、地域素材を活かした教材の重要性を理解する。
- ・現行学習指導要領、学習内容、カリキュラムに沿った地域素材を活かした教材開発ができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	小学校において実践する授業の教材研究を行うことができない。	小学校において実践する授業の教材研究を行うことができる。	小学校において実践する授業の教材研究を地域の実態に応じて行うことができる。	小学校において実践する授業の教材研究を地域の実態に応じ、各教科の目標を意識して行うことができる。
共生・協働する力	自分も持っている知識だけで教材研究を行うとする。	自分だけでなく他の受講者と協力して教材研究を行うことができる。	他の受講者と協力することはもちろん、地域の人々や情報を活かして教材研究を行うことができる。	他の受講者と協力し、地域の人々や情報を活かすだけでなく、専門家と連携して教材研究を行うことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育において教材とは何か
- 第 2 回 教材開発の理論
- 第 3 回 戦後新教育、コア・カリキュラムにおける実践例
- 第 4 回 戦後新教育、コア・カリキュラムにおける教材開発
- 第 5 回 現行学習指導要領と学習内容
- 第 6 回 教材開発のありかた
- 第 7 回 地域素材をどのように活かすか
- 第 8 回 地域素材を活かすためのフィールドワークの在り方
- 第 9 回 地域素材を活かすためのフィールドワークの実際
- 第 10 回 地域素材を活かすためのフィールドワークによる教材開発
- 第 11 回 地域素材を活かし開発した教材についての交流
- 第 12 回 地域素材を活かした教材開発「生活科、社会科、総合的な学習の時間」
- 第 13 回 地域素材を活かした教材開発「その他の教科」
- 第 14 回 地域素材を活かした教材開発「道徳、特別活動」
- 第 15 回 教材開発についての総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と教材開発などの演習を並行して行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めるともある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・ノートの記述 (毎時間のまとめ) が30%
- ・実際に行う教材開発が40%
- ・最終試験が30%

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

講義の際に資料を配布する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特に指定しない。

講義の際に資料を配布する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

小学校教員としての勤務経験あり

書写

EDP2250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

1単位 後期

金曜 2限

DP2 : 知識・理解力

15

丸山 果織

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育職員免許状取得 (小学校国語) で必要とされる「書写」の知識と技能の基本を理解し、高い実技能力をもって指導することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 国語科における書写に関する知識と理解を深める。
2. 場面に応じた用具の使い方、書き方を理解し、高い実技能力を身につける。
3. 評価する能力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義：教育職員免許状取得（小学校国語）で必要とされる「書写」について
- 第 2 回 講義：実際に教育現場で使われている教科書をもとにした「書写」の実技内容
- 第 3 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」鉛筆書き 平仮名・片仮名を中心に
- 第 4 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」鉛筆書き 漢字
- 第 5 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」毛筆 道具の説明及び基本点画
- 第 6 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」毛筆 基本点画
- 第 7 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」毛筆 平仮名・片仮名を中心に
- 第 8 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」毛筆 教科書例をもとに
- 第 9 回 書写実技：小学校高学年「書写」硬筆 平仮名・片仮名を中心に
- 第 10 回 書写実技：小学校高学年「書写」硬筆 漢字
- 第 11 回 書写実技：小学校高学年「書写」毛筆 漢字仮名交じり文
- 第 12 回 書写実技：小学校高学年「書写」毛筆 教科書例をもとに
- 第 13 回 書写実技：小学校高学年「書写」毛筆 清書
- 第 14 回 書写実技：板書 基本事例
- 第 15 回 書写実技：板書 教科書文をもとに発展的事例

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業は講義と実技形式で行う。
2. 授業中に補助プリント配布と視聴覚教材の活用、書写指導力の理解を深めるために模擬授業（板書を中心に）を実施する。
3. 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
①筆記テスト...解答の配布 ②実技テスト...評価項目を示す

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

詳細は授業中に指示する。まざまな課題に、しっかり取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業内の積極性（30%）、提出課題・作品（50%）、小テスト・レポート等（20%）により総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

実技を中心とする授業で、毎時の提出物が大きな成績となるため、欠席はしないよう注意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『しよしゃ』1年生//光村図書///

『書写』3年生//光村図書///

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

小学校表現活動論

EDP460N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

2単位 前期

水曜2限

DP6：創造・発信力

90

藤本 陽三 古庵 晶子 高田 佳孝 植田 恵理子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

子どもの様々な表現活動における援助・教師の役割を実践的に学ぶ。造形活動・音楽活動・身体表現などの企画・立案を行い、劇遊びやプロジェクト活動等を用い、総合的に表現する活動の方法を習得する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

教育に関する今日的課題を踏まえ、支援に必要な児童も含めて、協同して表現することに重点をおき、児童の主體的な表現活動を支えるための方法について学ぶ。プロジェクト活動を念頭に置き、児童が自ら探究する力、活動のために必要な課題を解決する力を高めるための方法を学習する。授業は、グループディスカッションを適宜取り入れ、グループワーク中心に行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもの様々な表現活動における援助・教師の役割に対し、理解ができていない。	子どもの様々な表現活動における援助・教師の役割に対し、理解しようとする。	グループ内で、よりよい、援助と役割についてディスカッションする。	レベル3を踏まえ、具体的な援助方法について、体験的に学び、教師の役割をまとめる。

知識・理解力	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動の方法について理解していない。	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動の方法について理解しようとする。	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動の方法について具体案をまとめる。	グループワークの中で、総合的な表現活動の方法をまとめ、企画できる力を身に着ける。
言語力	表現活動の中で、児童の興味関心を引き出す具体的な方法を発表することに消極的である。	児童の興味関心を引き出す具体的な方法に対し、自分なりの意見を発表できる。	具体的な方法をまとめ、活動内で展開し、それを発表する力を身に着ける。	グループワークの中で、具体的な方法をまとめ、それを基に実践を発表する力を身に着ける。
思考・解決力	児童が自ら探究する力、活動のために必要な課題を解決する力を高めるための活動方法を考えることができない。	児童が自ら探究する力、活動のために必要な課題を解決する力を高めるための活動方法を考えようとする。	具体的な方法をグループでまとめ、よりよい方法についてディスカッションする。	活動方法を発表し、他グループと意見交換し合い、よりよい方法について、ディスカッションを重ねる。
共生・協働する力	他者との話し合いを通して、表現活動の企画を練り上げることに消極的である。	他者との話し合いを経て、それぞれの意見を活動に取り入れようとする。	企画、立案の際、グループダイナミクスを理解し、よりよい企画になるよう、グループメンバーと積極的にかかわる。	他グループの良いところを取り入れて、更に活動の質を高める。
創造・発信力	オリジナルの活動方法を考える気持ちは高まっていない。	オリジナルの活動方法を考えようとする。	児童主体の活動になるための方法について、他グループと意見交換を行う。	児童主体になるように、活動の方法を練り、他グループの前で発表し、活動の質を高める。

〔授業計画〕

- 第 1 回 表現活動における教師の役割 (担当: 全員)
- 第 2 回 プロジェクト活動 1 協同するための環境 (担当: 植田)
- 第 3 回 プロジェクト活動 2 協同するための人間関係 (担当: 藤本)
- 第 4 回

- 音楽を中心とした活動の企画・立案 (担当: 植田)
- 第 5 回 音楽活動の実践 教師の役割と留意点 (担当: 古庵)
- 第 6 回 造形を中心とした活動の企画・立案 (担当: 藤本)
- 第 7 回 造形活動の実践 教師の役割と留意点 (担当: 藤本)
- 第 8 回 身体表現を中心とした活動の企画・立案 (担当: 高田)
- 第 9 回 身体表現活動の実践 教師の役割 (担当: 高田)
- 第 10 回 表現活動を組み合わせる 1 音楽活動を中心に (担当: 古庵)
- 第 11 回 表現活動を組み合わせる 2 造形活動を中心に (担当: 藤本)
- 第 12 回 表現活動を組み合わせる 3 身体表現活動を中心に (担当: 高田)
- 第 13 回 総合的な表現活動 1 劇遊びの企画・立案 (担当: 植田)
- 第 14 回 総合的な表現活動 2 実践と留意点 (担当: 古庵)
- 第 15 回 まとめとふりかえり 確認テスト (担当: 植田・古庵・高田)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループ活動で、児童の表現活動を企画、実践する課題に取り組み、そのために必要な技術 (道具製作、音楽作り等) も習得する。授業内の表現活動発表 (確認テスト含む) 後には、グループディスカッションによる振り返りと、担当教員による、学生の表現活動に対しての講評を行い、模範例を実演する方法で、フィードバックを行う。小テスト・プリントについては模範例を示し、全体でふりかえりを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

劇遊びやプロジェクト活動の中で、児童の主体的な表現活動を支えるための学習方法等について、日常生活の中で意識し、経験値を上げること。〔準備学習に必要な標準時間数(合計)

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度30% 小テスト・プリント40% 確認テスト30%

〔留意事項 (Other Information)〕

動きやすい服装で参加してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

講師として、幼稚園、保育園、こども園、また、市や教育委員会との共催で、児童の教育イベントにおける、表現指導の実務経験あり。

障害児保育

EDI3550N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

2単位 後期

火曜1限

DP5：共生・協働する力

60

畠山 寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕

障害児保育の理念や多様な障害について理解するとともに、障害を持つ子どものニーズに基づいた保育の方法等について学ぶ。また、家族への支援や関係機関、地域との連携のありかたについても学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 障害児保育の理念の理解
2. 保育の現状や専門機関との連携の理解
3. 個別の障害理解と保育支援の理解
4. 家庭に対する支援の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
障害児保育の理念の理解	障害児保育の理念について理解できていない。	障害児保育の理念の理解が、一部出来ている。	障害児保育の理念の理解が、十分にできている。	レベル3に加え、理念の歴史的背景についても理解できている。
障害と支援の理解	障害と支援の理解ができていない。	障害と支援の理解が、一部できている。	障害と支援の理解が、十分にできている。	レベル3に加え、障害特性に見合った支援について理解が深められている。
家族に対する支援の理解	障害のある子どもがいる家族に対する支援について理解できていない。	障害のある子どもがいる家族に対する支援の理解が、一部できている。	障害のある子どもがいる家族に対する支援の理解が、十分にできている。	レベル3に加え、支援方法についても理解が深められている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 障害児保育とは？－障害児保育の理念－
- 第 2 回 障害児保育の歴史
- 第 3 回 障害児保育の現状

第 4 回 障害の理解と保育：知的障害

第 5 回 障害の理解と保育：自閉症

第 6 回 障害の理解と保育：ADHD・LD

第 7 回 障害の理解と保育：視覚障害

第 8 回 障害の理解と保育：聴覚障害

第 9 回 障害の理解と保育：肢体不自由

第 10 回 障害の理解と保育：言語障害

第 11 回 障害児の家族への支援：保護者支援

第 12 回 障害児の家族への支援：きょうだい支援

第 13 回 個別の支援計画

第 14 回 専門機関や地域との連携

第 15 回 形成テストと解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義と演習の両方を用いる。
2. 適宜、プリント等を配布する。
3. 必要に応じて視聴覚教材の利用を行う。
4. 形成テスト後に解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績は形成テスト（50%）、提出物（50%）で総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

1. スマートフォンは、鞆の中にしまうこと。
2. 机上には、テキスト、筆記用具以外は置かないこと。
3. 飲み物は、水、又は、お茶のみ許可する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・障害のある子どもの保育 [第3版]』/伊藤健次 編/みらい/2011/978-4860153854/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

相談援助演習

EDI2500NOJ
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 2年次
 1単位 前期
 月曜2限
 DP5：共生・協働する力
 15
 矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、様々な生活上の困難を抱えている人々に寄り添い理解を深め、支援することができる力を身につけることを目標としている。すなわち、人々の感情、思考、行動、その背景を共感的に理解し、ニーズ充足に向けてどのような支援が必要とされているのか自ら考え、実践できることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

社会福祉対人援助の意味を明確にしつつ、その対人援助実践能力を身につける。そのために対人援助職としての専門的な〈ものの見え方と考え方〉、〈援助者の態度〉、〈コミュニケーションスキル〉、〈援助プロセスの実際〉、〈事例研究〉を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	理論や専門用語を調べることができない。	理論や専門用語を調べることができる。	理論や専門用語を調べ、内容を理解している。	理論や専門用語の内容を理解し、どのような場面で活用できるのか説明することができる。
思考・解決力	ニーズを把握することができない。	ニーズを把握することができる。	ニーズを把握し、解決策を考えることはできる。	ニーズを把握し、具体的な解決策を説明することができる。
表現力・考察力	ニーズの背景を考慮することができない。	ニーズの背景を考慮することができる。	ニーズの背景を考え、ニーズ充足に必要な支援を考慮することはできる。	ニーズの背景を考え、ニーズ充足に必要な支援を具体的に説明することができる。

コミュニケーション力	発言や傾聴をすることができない。	意見を発言することはできる。	意見を発言し、他者の話を傾聴することはできる。	意見を発言し、他者の話を傾聴し、意見の共通点や相違点を説明することができる。
------------	------------------	----------------	-------------------------	----------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 自己理解と自己覚知
- 第 2 回 自己開示と他者理解
- 第 3 回 専門職の価値・倫理
- 第 4 回 事例研究 インテークの実際
- 第 5 回 事例研究 アセスメントの実際
- 第 6 回 事例研究 プランニングの実際
- 第 7 回 事例研究 支援の実際、モニタリングの実際
- 第 8 回 事例研究 効果測定、評価、アフターケアの実際
- 第 9 回 相談援助におけるコミュニケーション
- 第 10 回 相談援助における面接技術
- 第 11 回 記録の作成
- 第 12 回 関係機関との協働、多職種との連携
- 第 13 回 アウトリーチの実際
- 第 14 回 地域におけるネットワークング
- 第 15 回 社会資源の活用・調整・開発

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1.各回ワークシートを配付し、小グループで課題に取り組む。
- 2.個人ワーク、ペアワーク、グループワークを中心とした参加型授業である。
- 3.自ら考えたことを発言し、また他者の意見に耳を傾け、意見の共通点や相違点を学ぶ。
- 4.ワークシートは、次回授業で個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ワークシート (予習、復習の課題) に取り組み、提出する。
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加の態度 (30%)、レポート (50%)、ワークシート (20%) によって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・演習は学生の参加を前提とし、主体的態度をもって臨むこと。
- ・グループワークは互いに尊重し、受容的な姿勢で参加すること。
- ・授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で資料を配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『相談援助 基本保育シリーズ⑤』/松原康雄・村田典子・南野奈津子/中央法規/2015/978-4-8058-5205-7

『保育・社会福祉学生のための相談援助演習入門』/中冨洋・園川緑/萌文書林/2015/978-4-89347-228-1

『保育者だからできるソーシャルワーク 子どもと家族に寄り添うための22のアプローチ』/川村隆彦・倉内恵里子/中央法規/2017/978-4-8058-5480-8

『子ども家庭福祉のフロンティア』/伊藤良高・永野典詞・三好明夫他/晃洋書房/2015/978-4-7710-2611-7

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600AJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができる。	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができる。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、論文の構成、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているか、などである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600BJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、論文の構成、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切

に行われているか、などである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600C0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、論文の構成、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているか、などである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600D0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、論文の構成、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているか、などである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600E0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
4年次
4単位 集中
その他
DP6 : 創造・発信力
畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、論文の構成、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているか、などである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600F0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
4年次
4単位 集中
その他
DP6 : 創造・発信力
植田 恵理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、論文の構成、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているか、などである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600G0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
4年次
4単位 集中
その他
DP6：創造・発信力
古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、論文の構成、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているか、などである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600H0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
4年次
4単位 集中
その他
DP6：創造・発信力
大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、論文の構成、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているか、などである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600I0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
4年次
4単位 集中
その他
DP6: 創造・発信力
小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、論文の構成、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているか、などである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600J0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
4年次
4単位 集中
その他
DP6: 創造・発信力
太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、論文の構成、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているか、などである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600K0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 高田 佳孝

【科目の教育目標 (Course Description)】

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、卒業論文を作成する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

【授業計画】

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

行わない。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

各ゼミで個別に指導を行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

各ゼミで個別に指導を行う。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

—

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

論文の評価のポイントは、論文の構成、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているか、などである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

【留意事項 (Other Information)】

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

特別支援教育実習

EDD4601N0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 4年次
 2単位 前期
 その他
 DP6：創造・発信力
 90
 江川 正一 太田 容次

【科目の教育目標 (Course Description)】

この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。

これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

大学で学んだ教育・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	実習を私的な理由で欠席する、子供の問いかけなどに反応できない、責任ある行動がとれないなど、教育実習に対して積極的な取り組み姿勢がない。	実習校園の指導に従い、社会人としての責任も持って教育実習を進めることができる。	実習校園の指導に従い実習を進め、子どもの指導を、自らも工夫して行おうとする。	実習校園の指導に従い実習を進め、大学の授業で学んだことを十分に生かして、子どもの学びのために指導の挑戦をしようとする。

【授業計画】

教育実習に協力いただける特別支援学校において、教育実習を2週間行う。

教育実習の方法は、各特別支援学校と打ち合わせる。必要な情報は、特別支援教育実習事前指導で指示する。

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および児童・生徒の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

実習ノートは返却をし、その内容に関しては教員からフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート、教育実習先からの評価、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 特別支援教育実習と特別支援教育実習事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。

2. 上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)/文部科学省/開隆堂出版/2018/978-4304042294/学内販売あり

※すでに持っている場合は、新たに購入する必要はない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)/文部科学省/開隆堂出版/2018/978-4304042317

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)/文部科学省/開隆堂出版/2018/978-4304042300

テキストとともに購入することが望ましい。

〔参考URL(URL for Reference)〕

特別支援学校学習指導要領等(平成29年4月公示・平成31年2月公示)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》実務経験等：太田，江川 教員として特別支援学校の勤務経験あり

特別支援教育実習事前事後指導

EDD4600N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

1単位 前期

その他

DP6：創造・発信力

45

集中

江川 正一 太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育実習を有効かつ円滑に行い、実りあるものにするため、事前指導においては、実習に際して必要不可欠な基礎的・基本的な事柄や、心構えを確実に身につけることをめざす。さらに事後指導においては、実習を通して学んだ成果や反省をもとに、今後の自己の学習の方向づけを援助することをめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

教育実習の意義をよく理解すること。教育に関する知識や技能を教育の場で再構成できるよう準備すること。実習体験を、今後の自己の教育に活かすよう心掛けること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教員としての自覚が持てない。	教員になる心構えを持つ。	これまでの学習を生かし、教員としての最初の一步を踏み出そうとする。	さまざまな学習を前向きにとらえ、自分のものにしようとする。
知識・理解力	学校教育に対する知識を持っていない。	学習指導要領の内容を理解する。	学校現場の実情や、現状を理解し、個人情報や学校情報の扱いも理解している。	自ら、ボランティアや学校園見学で知識を増やそうとする。
言語力	実習ノートをまとめることができない。	教育用語を理解し、ディスカッションでできる言語力を持つ。	その日にあったことを図示などしながらレポートとしてわかりやすくまとめることができる。	多様な教育的ニーズのある子供と様々な方法で積極的にコミュニケーションを取ろうとする。
思考・解決力	常に指示を待ち、自ら思考できない。	順序だてて、整理して物事を考えることができる。	これまでの学習を生かし、臨機応変にその場の問題を解	1つ1つの出来事を内省し、次のステップに行くために、

			決しようとする。	何をするべきか設計できる。
共生・協働する力	人の学びに興味がなく、一緒に問題を解決しようとする。	他の学生や先輩後輩とも共に学ぶために円滑な人間関係を構築できる。	教員からの助言を適切に受け取ることができ、他の学生とチームで問題解決にあたることができる。	地域の方々や、教員以外の人のリソースも活用した教育を考えることができ、また自らも地域社会に貢献しようとする。
創造・発信力	自分で授業の組み立てができない。	児童生徒の実態を理解し、授業を創造できる。	教育課程や指導計画をふまえ、児童生徒の課題にあわせた指導案を作成し、授業の概要を示すことができる。	研究協議などで、教育実習の成果を個人情報に配慮しながら発信できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
教育実習オリエンテーション・教育実習の意義、内容、目的、実習手続、評価の観点（担当：太田，江川，特別講師）
- 第 2 回 実習生として大事なこと
教育実習の具体的な内容と心構え，教育実習担当教員との打ち合わせ（担当：江川）
- 第 3 回 特別支援学校の授業①
個別の指導計画，評価（担当：太田）
- 第 4 回 特別支援学校の授業②
チームティーチング，校外指導（担当：江川）
- 第 5 回 特別支援学校の授業③
児童・生徒の観察等による実態把握と記録（担当：太田）
- 第 6 回 実習校についての把握
実習校の特色，教育方針，教育課程，児童生徒など（担当：江川）
- 第 7 回 模擬授業指導案作成
実習先の特別支援学校（知的・肢体・病弱）の授業を想定した指導案作成（担当：太田，江川）
- 第 8 回 模擬授業指導案の検討
実習先の特別支援学校（知的・肢体・病弱）の授業を想定した指導案作成と検討（担当：太田，江川）
- 第 9 回 教材・教具の作成演習
実習先の特別支援学校（知的・肢体・病弱）の授業を想定した教材・教具の作成演習（担当：太田，江川）
- 第 10 回 模擬授業 1

- 特別支援学校（知的・肢体・病弱）でのチームティーチングによる指導を想定したマイクロティーチングと相互評価（担当：太田，江川）
- 第 11 回 模擬授業 2
特別支援学校（知的・肢体・病弱）でのチームティーチングによる指導を想定したマイクロティーチングと相互評価（担当：太田，江川）
- 第 12 回 特別支援学校での目標設定や実習ノートの活用
特別支援学校での教育実習における目標設定や，児童生徒の観察記録などを含む実習ノートの活用について（担当：太田）
- 第 13 回 教育実習前の最終確認
最終確認及び心構え等（担当：江川，太田）
- 第 14 回 実習後のリフレクション
教育実習事後指導：実習後のリフレクション，実習で学んだことをグループで話し合う（担当：太田，江川）
- 第 15 回 教育実習報告会
教育実習事後指導：特別支援教育実習の成果と問題点の整理，発表，討論（下級生の参観による教育実習報告会）（担当：太田，江川）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 特別支援教育実習事前事後指導 事前指導にあつては，教育実習に当たって必要な事柄を理解し，教育実習の心構え等を学ぶ。事後指導においては，教育実習の報告反省会，レポート提出等を行い，教育実習のフィードバックを行う。
2. 文献，参考資料等はその都度配布する。
3. レポート・課題は，できるだけ黒ボールペン・ペンを使用し，修正には修正テープ等は使用しないこと。課題等は全て担当教員が添削の上，返却するので，教育実習に生かすこと。また，内容の不備や文字の修正等は再提出を求めることがある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

特別支援学校教諭免許状の基礎となる免許状である小学校の各教科の指導法や障害に関する教育論等で学んだ内容を復習しておくこと。

事前に配布された資料には目を通しておき，わからない言葉などは辞書やこれまでの使用したテキストなどを用いて，明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

レポート，日常の意欲，態度，成果によって評価する。なお，原則として欠席は認めないので，注意すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 特別支援教育実習，特別支援教育実習事前事後指導の両科目の授業内容は，教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば，実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。

実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。

2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

※日程は、原則として、教育実習開始前までに13回目まで終了する。事後指導は11月に行い実習報告会がある。3月の教職課程オリエンテーションで日程は確認すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶実務経験等：太田，江川 教員として特別支援学校に勤務経験あり

保育・教職実践演習

EDI4650NOJ
大学
現代人間学部 > こども教育学科
4年次
2単位 後期集中
その他
DP6：創造・発信力
90
畠山 寛 石井 浩子 植田 恵理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育実習・教育実習を通しての学びを踏まえ、保育士・幼稚園教諭としての資質能力を高めることをテーマに、現場で求められる、社会性、対人関係能力、保育内容の指導力など、保育に関わる能力の向上と同時に、以下の4つの事項を中心に、保育に関する現代的課題に対し、積極的に取り組む姿勢の育成、教師としての資質の向上を目標とする。

- ①使命感や責任感、教育的愛情などに関する事項
- ②社会性や対人関係能力に関する事項
- ③子ども理解や学級経営に関する事項
- ④教科・保育内容などの指導力に関する事項

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

子どもの保育に関わる立場の人材として、保育に関する現代的課題について考察し、テーマを定めてグループ研究に取り組み、検討を行う。また、課題についての援助・教育の方法、技術等について、実践的に学ぶことにより、自らの学びを振り返り、保育士・幼稚園教諭として必要な知識・技術を習得したことを確認する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	保育に関する現代的課題について理解していない。	保育に関する現代的課題について理解しようとする。	保育に関する現代的課題について考察し、テーマに沿って積極的に意見交換する。	レベル3を含み、グループ討議の結果を基に、現代的課題について、グループ内でまとめ、確認する。
知識・理解力	保育士・幼稚園教諭に必要な知識等の確認を行おうとしない。	保育士・幼稚園教諭に必要な知識等の確認を行おうとする。	保育士・幼稚園教諭に必要な知識等について、グループ討議の中で積極的に意見交換し、理解を深める。	グループ討議で得た知見に対し、個々にまとめ、保育士・幼稚園教諭として必要な知識・技術を習得したことを確認する。
言語力	これまでの学びに対し、自分なりにまとめ、説明することができない。	これまでの学びに対し、自分なりにまとめ、説明しようとする。	グループ討議や、活動の中で、これまでの学びについて発言しようとする。	これまでの学びに対し、グループ内の意見調整、まとめにつながる発言ができる。
思考・解決力	これまでの学びを基にした、援助・教育の方法、技術等について考えようとする。	これまでの学びを基にした、援助・教育の方法、技術等について考えようとする。	レベル2を踏まえ、保育計画の立案、その改善を図ることができ。	保育計画の立案、その改善について考えたことを、模擬保育等で活かすことができる。
共生・協働する力	グループ演習において、これまでの学びを活かすことができない。	グループ演習において、これまでの学びを活かそうとする。	これまでの学びを、連携を取って活かすための方法について、グループ演習で提案する。	レベル3を踏まえ、課題に協働して取り組むことにつながる行動ができる。
創造・発信力	保育者、教員としての資質向上に対し、これまでの学びを基に、考えたり、提	資質向上に対し、これまでの学びを基に、自分なりの提案をするこ	レベル2で提案したことを、実現するための方法について、課題の中で提案す	提案したことを、演習の中で確認、修正し、保育者、教員としての資質向上に

案したりすることに消極的である。	とができる。	ることができる。	対し、新たな提案をすることができる。
------------------	--------	----------	--------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 「保育・教職実践演習」のねらいと内容 これまでの教職に関する学習のふりかえり (担当: 植田・石井)
- 第 2 回 事例研究 1 保育士・幼稚園教諭の意義や役割 (担当: 石井)
- 第 3 回 事例研究 2 子どもとのかかわり (担当: 植田)
- 第 4 回 事例研究 3 気になる子ども (担当: 畠山)
- 第 5 回 事例研究 4 保護者対応 (担当: 畠山)
- 第 6 回 テーマとディスカッション 保育に関する現代的課題 (担当: 石井)
- 第 7 回 子ども支援を行う現場見学と調査 (担当: 畠山)
- 第 8 回 ロールプレイング 1 幼児の心理と保育者の関わり (担当: 畠山)
- 第 9 回 ロールプレイング 2 子どもとのかかわり 子どもの気づき (担当: 植田)
- 第 10 回 教材研究と保育内容 1 音楽活動を中心に (担当: 植田)
- 第 11 回 教材研究と保育内容 2 造形活動を中心に (担当: 石井)
- 第 12 回 教材研究と保育内容 3 絵本の読み聞かせを中心に (担当: 植田)
- 第 13 回 模擬保育 1 内容・指導案の検討 (担当: 石井)
- 第 14 回 模擬保育 2 実施 (担当: 畠山)
- 第 15 回 まとめとふりかえり (担当: 全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は、グループ活動 (グループディスカッション・ロールプレイング) を基本とし、連携することを学びながら、課題に対して協同的に取り組み、成果を発表し、レポートを作成すること等を中心に展開する。必要に応じ、現場を訪問したり、外部講師を招いて、講演を聴くことがある。学生の模擬授業や発表に対しては講評を行い、模範例を実演する方法で、フィードバックを行う。演習での成果物 (レポート) については、模範例を示し、全体でふりかえりを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時に、次回の内容に関する課題を発表するので、その課題に積極的に取り組み、授業に臨むようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度30% レポート、演習での成果物 30% 模擬授業や発表の評価40%

〔留意事項 (Other Information)〕

保育現場を訪問する際は、交通費が発生する場合がある。演習が多いため、動きやすい服装で参加すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。必要に応じて、担当教員が資料等を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・田中卓也・植田恵理子他：保育・教育実践演習テキスト ノート-保育士幼稚園教諭・小学校教諭をめざす私の“学び”のあしあと>-ふくろう出版

・小櫃智子著・編集：保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み―幼稚園・保育所編 わかば社

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

石井浩子 保育士として、保育所に勤務経験あり。植田恵理子 認定指導員として複数の幼稚園に勤務経験あり。

保育課程論

EDI3200N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

2単位 前期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

幼稚園・保育所・認定こども園における幼児教育・保育課程の意義と編成の方法についての基礎的事項を学ぶとともに、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

幼児教育・保育課程と指導計画の意義や編成の方法について理解する。

幼児教育・保育課程と指導計画の評価や改善の方法について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	幼児教育・保育課程と指導計画の意義や編成の方法について理解していない。	幼児教育・保育課程と指導計画の意義や編成の方法について理解している。	幼児教育・保育課程と指導計画の意義や編成の方法について理解するとともに、その評	幼児教育・保育課程と指導計画の意義や編成の方法について理解するとともに、その評

			価や改善の方法についてを理解している。	価や改善の方法についても理解しており、幼児教育・保育の現代的課題について主体的に学ぶことができている。
--	--	--	---------------------	-----------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 幼児教育・保育の基本
- 第 2 回 幼児教育・保育において育みたい資質・能力
- 第 3 回 幼児教育・保育課程の役割
- 第 4 回 幼児教育・保育課程の編成
- 第 5 回 幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷
- 第 6 回 現行の幼稚園教育要領・保育所保育指針の特徴
- 第 7 回 教育・保育課程の社会的機能
- 第 8 回 指導計画の考え方
- 第 9 回 短期指導計画とは
- 第 10 回 領域横断的な指導計画
- 第 11 回 長期指導計画とは
- 第 12 回 小学校教育との接続と幼児教育・保育課程
- 第 13 回 カリキュラム・マネジメントの意義
- 第 14 回 カリキュラム・マネジメントと園の運営
- 第 15 回 幼児理解に基づいた評価の実施

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と演習を中心に行う。ミニレポートは次回の授業の中でコメントする。課題は添削して返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を中心とする。自分が保育者となったら、どのような保育をつくっていくのかを考えることが重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験に替わるレポート(50%)、ミニレポート・指導計画など(50%)にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』/文部科学省・厚生労働省・内閣府/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育者論

EDI1251N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

1年次

2単位 後期

金曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

集中

田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代の社会における保育者の仕事と役割、それを遂行するための専門性について理解し、保育者になるための見通しや課題意識を持つ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 保育者の専門性について学ぶ。
- ・ 保育者に必要となる基本的資質について学ぶ。
- ・ 保育の今日的課題について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	保育者の専門性について理解することができていない。	保育者の専門性について理解することができている。	保育者の専門性について理解することができ、保育者になるための課題意識を持つことができている。	保育者の専門性について理解することができ、保育者になるための課題意識を持つことができるとともに、保育の現代的な課題について考察することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育者になるための学び
- 第 2 回 保育者の仕事と役割・幼稚園
- 第 3 回 保育者の仕事と役割・保育所
- 第 4 回 養護と教育
- 第 5 回 保育者に求められる基本的資質
- 第 6 回 保育者に求められる知識と技術
- 第 7 回 データから見る日本の保育者
- 第 8 回 日本の保育者のあゆみ
- 第 9 回 保育者の専門性
- 第 10 回 保育の省察
- 第 11 回 子育て支援
- 第 12 回 保育者の協働
- 第 13 回 専門機関との連携

第 14 回 小学校との連携

第 15 回 保育者の専門性を高めるために

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に行う。話を聴くことに並行して、これまでの自分自身のあり方を丁寧に振り返り、それを問い直すことで、子どもの保育に貢献できる心もちを養ってほしい。つまり、保育を担うためには、自分がどのように変わっていかなければならないのかを考え実行することが必要である。毎回書いてもらうミニレポートは、次回の授業の中でコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を中心とする。授業の中でよく考えてほしいと言った事がらについて、自分の問いとして引き受け、授業後に深く考えてみてほしい。できることならば、一緒に授業を受けた仲間と対話しながら考えてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ミニレポートの内容(50%)と定期試験に替わるレポート(50%)にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『今に生きる保育者論』/秋田喜代美/みらい/2007/9784860151003

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育心理学演習

EDI2403N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

1単位 前期

水曜 2限

DP4: 思考・解決力

15

集中

畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。

3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。

4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
保育実践における子ども理解の意義	保育実践における子ども理解の意義がわからない。	保育実践における子ども理解の意義が、一部理解できる。	保育実践における子ども理解の意義が、十分に理解できる。	レベル3に加え、こどもの心身の発達や学びの過程について理解できている。
こども理解の具体的な方法	こども理解の具体的な方法について理解できていない。	こども理解の具体的な方法が一部理解できている。	こども理解の具体的な方法が十分にできている。	レベル3に加え、具体的な方法をつかって理解できる。
保育士の援助や態度	保育士の援助や態度について理解できていない。	保育士の援助や態度について一部理解できている。	保育士の援助や態度について十分に理解できている。	レベル3に加え、その態度を持ち子どもの援助法を習得しようとする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育における子ども理解の意義
- 第 2 回 こども理解に基づく養護及び教育の一体的展開
- 第 3 回 こどもに対する共感的理解とこどもとの関り
- 第 4 回 子どもの生活と遊び
- 第 5 回 保育における人的環境とこどもの発達
- 第 6 回 集団における経験と育ち
- 第 7 回 葛藤やつまづき、環境移行
- 第 8 回 基本的な生活習慣の獲得と発達援助
- 第 9 回 こども理解の方法①: 観察
- 第 10 回 こども理解の方法②: 記録
- 第 11 回 こども理解の方法③: 省察・評価
- 第 12 回 こども理解の方法④: 職員間連携
- 第 13 回 こども理解の方法④: 保護者との情報共有
- 第 14 回 発達の課題や特別な配慮に合わせた援助
- 第 15 回 形成テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義・演習形式で行う。適宜、プリント等を配布する。また、視聴覚教材を用いる。

形成テスト終了後、テストの解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は形成テストが50%。演習の取り組み状況が50%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育相談支援

EDI3551N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

1単位 後期

火曜4限

DP5 : 共生・協働する力

15

集中

高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもの保育の専門性を有する保育士として、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上を目指して、保護者に対する支援を行っていくことが求められている。

本科目では、保護者に対する支援を行っていくための実践力の基礎を体得していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	実践力のある保育相談の技術を身につけたいという動機を持っていない。	実践力のある保育相談の技術を身につけたいという動機を少し持っている。	実践力のある保育相談の技術を身につけたいという動機を持っている。	実践力のある保育相談の技術を身につけたいという動機をかなり持っている。
知識・理解力	こどもの発達についての知識がない。	こどもの発達についての知識を少し持っている。	こどもの発達についての知識を持っている。	こどもの発達についての知識をかなり持っている。
言語力	自分の考えをまとめて、文章や言葉で表現できない。	自分の考えをまとめて、文章や言葉で、少し表現できる。	自分の考えをまとめて、文章や言葉で、表現できる。	自分の考えをまとめて、文章や言葉で、かなり上手く表現できる。
思考・解決力	支援現場での問題について、解決方法を模索できない。	支援現場での問題について、解決方法を少し模索できる。	支援現場での問題について、解決方法を模索できる。	支援現場での問題について、解決方法を考えることができる。
共生・協働する力	ロールプレイでの協働作業ができない。	ロールプレイに何とか参加できる。	ロールプレイで自分の役割を果たす。	ロールプレイで、リーダーシップを取ることができる。
創造・発信力	問題に応じた保育相談支援の方法を理解できない。	問題に応じた保育相談支援の方法を理解できる。	問題に応じた保育相談支援の方法を新たに開発しようとする。	問題に応じた保育相談支援の方法を創造的に開発する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
保育相談支援をめぐる現代の課題
- 第 2 回 保育相談支援とは
こどもの発達と支援の実際を学ぶ
- 第 3 回 こどもの発達の見方 (乳児期)
乳児期のこどもの発達
- 第 4 回 こどもの発達の見方 (幼児期)
幼児期のこどもの発達
- 第 5 回 支援が必要な家庭①
事例を基に考える
- 第 6 回 支援が必要な家庭②
ロールプレイで考える
- 第 7 回 保育現場でのこどものアセスメント
支援のための心理アセスメントと支援計画の立案
- 第 8 回 保育相談支援の計画と記録
保育相談支援の実際①
- 第 9 回 保育相談支援の展開場面と評価

- 保育相談支援の実際②
- 第 10 回 研究論文にみられる事例研究①
事例研究を読む
- 第 11 回 研究論文にみられる事例研究②
事例研究について、ディスカッション
- 第 12 回 障害児の発達と支援①
発達相談を行うケースを理解する
- 第 13 回 障害児の発達と支援②
さまざまな障害児を理解した親支援
- 第 14 回 障害児の発達と支援③
支援方法の実際について理解する
- 第 15 回 まとめ
全体を振り返る 小レポートを返却し解説を行う

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ロールプレイングやグループ討議、事例研究などの方法を多く取り入れながら授業を行う。15回目には、小レポートの返却を行い、評価に関するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

現代の子育て支援の実際について、新聞記事やインターネットで情報を集めておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(40%)、複数回の小レポート(60%)に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の順番は変わることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床発達心理士として、保育所巡回指導相談員の経験あり。

保育内容 (人間関係)

EDI2401N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

火曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

集中

田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

幼児期における人間関係の発達の特徴と課題、その発達の援助に携わる教師の役割と方法を理解して、幼児の自立心と人とかかわる力を養えるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・領域「人間関係」のねらいや内容について学ぶ。
- ・領域「人間関係」にかかわる指導計画を作成して模擬保育をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解できていない。	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解できている。	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解し、深く洞察することができる。	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解し、深く洞察するとともに、それらについての自分自身の課題意識を持つことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 領域「人間関係」とは
- 第 2 回 保護者との愛着形成
- 第 3 回 言葉の獲得と人間関係
- 第 4 回 教師との信頼関係
- 第 5 回 友達とのかかわりのはじまり
- 第 6 回 葛藤関係と道徳性の芽生え
- 第 7 回 地域社会とのかかわり
- 第 8 回 規範意識の芽生え
- 第 9 回 協同性の育ち
- 第 10 回 協同性を育む教師の役割
- 第 11 回 幼小接続期の課題
- 第 12 回 領域「人間関係」にかかわる教材研究
- 第 13 回 領域「人間関係」にかかわる指導計画の作成

第 14 回 模擬保育

第 15 回 領域「人間関係」の今日的課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と演習を中心に行う。幼児期における人間関係の発達の特徴、教師に求められる援助の視点や方法を理解する。毎回書いてもらうミニレポートは、次回の授業の中でコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を中心とする。自分自身が他者とのような関係を紡いできたかを省察してほしい。また、現代の社会における人と人のかかわりのあり方について普段から意識して考察してほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験に替わるレポート (50%)、ミニレポート・指導案・模擬保育等 (50%) にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』/文部科学省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社/2017/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と高齢者

CHS1500N0J

大学

現代人間学部 > 現代人間学部共通科目 > 現代人間学部共通科目 (実践的科目)

1年次

1単位 前期前半

火曜1限

DP5: 共生・協働する力

30

全7.5コマ 選択必修

伊藤 一美 加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

超高齢社会において人々がより良く生きるには、高齢者を正しく理解し、高齢者と上手にかかわることができるとともに、高齢者を支援できる人材が豊富であることであろう。本講義では、生活学や老年学および心理学の視点から現代社会における高齢者についての知識を身に着け、理解を深める。

また、他者としての高齢者を学ぶだけでなく、受講者自身も老いゆく存在として自分のライフコースとも関連付けて学ぶ。

それにより、人生の先輩として高齢者から学ぶと同時に、共に社会を支える同時代人として、多様性の中で共生・協働する力を得ることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・第1部 (前半) は、超高齢社会の現状を概観し、生活学や老年学の視点から、高齢者の健康、老化、コミュニケーション、生活、社会交流などについて講義や討論によって理解を深める。また、高齢者を正しく理解し、高齢者を支え、高齢者とともに生きるための基礎知識を学ぶ。

・第2部 (後半) は、生涯発達心理学における高齢期の位置づけと、現代の多様な老いのプロセスや発達課題について、受講者自身のライフコースや時間的展望と関連付けながら学ぶ。また、高齢者における認知、パーソナリティ、家族を含む対人関係の特徴などについて、心理学的な理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自身が関与するテーマとして捉えられない。	自身の問題に引き寄せて考えようとしている。	身近な人や自分の成長に活かそうとしている。	積極的に自己や社会全体のために活かす方法を考えている。
知識・理解力	高齢期の特徴についての知識が理解できない。	高齢期の特徴について個々の知識を覚えることができる。	高齢期の特徴や現状について授業以外でも積極的に情報収集できる。	高齢期について得た知識を実生活の中で活用・応用できる。
共生・協働する力	異世代との共生について、関心をもち想像することができない。	異世代間での共生・協働について考えようとしている。	さまざまな世代が共生し社会や地域を豊かにすることに、想像力を働かせている。	さまざまな世代が共生し社会や地域を豊かにできるよう、実際に行動しようとしている。

〔授業計画〕

第 1 回 第1部 オリエンテーション：高齢社会の現状、老化と健康 (担当：加藤)

第 2 回 第1部 高齢者の生活 (衣食住) (担当：加藤)

第 3 回 第1部 高齢者を正しく理解する (ディスカッション) (担当：加藤)

第 4 回 第1部 発表とまとめ/第2部 オリエンテーション：ライフサイクル

- (担当：加藤) ...前半の65分
 (担当：伊藤) ...後半の25分
 第 5 回 第2部 高齢者と子どもの関わり
 (担当：伊藤)
 第 6 回 第2部 高齢者の認知とパーソナリティ
 (担当：伊藤)
 第 7 回 第2部 認知症と家族
 (担当：伊藤)
 第 8 回 第2部 発表とまとめ
 (担当：伊藤) ...前半の45分
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

主に講義を中心とするが、ビデオ素材への感想やワーク課題を通して、ディスカッション、発表なども行う。テキストは用いず、プリント資料を配布する。学生からの発表や発問、ワーク課題に対しては、適宜記述や口頭でのフィードバックを行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

- ・日頃から高齢者に関わるニュースやトピックに目を向けておく。
- ・身近な高齢者との接点を積極的に持ったり、観察の機会を増やす。
- ・高齢者に対する自身の考えや意見を書き留めておく。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

20

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

- 第 1 部 (加藤) : コメントシート15%、最終レポート25%、授業参加度10%。
 第 2 部 (伊藤) : ワークシート30%、最終レポート10%、授業参加度10%。

※第 1 部と第 2 部の評価を加算して最終評価とする。

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

≪実践的科目≫ / 臨床心理士として医療施設での勤務経験あり (伊藤)

現代社会と病者・障がい者

CHS1501N0J

大学

現代人間学部 > 現代人間学部共通科目 > 現代人間学部共通科目 (実践的科目)

1年次

1単位 前期後半

木曜 5限

DP5 : 共生・協働する力

30

全7.5コマ 選択必修

三好 明夫 酒井 久美子 河瀬 雅紀 江川 正一

[科目の教育目標 (Course Description)]

現代社会における病を抱えた人、障がいのある成人や子どもの生活様態や生活困難性を理解するとともに、それへの支援に向けた教育や社会制度の課題について、主として社会福祉学、教育学、心理学の観点から、様々な事例を交えながら学びます。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

現代社会に生きる人たちは自身や家族の問題や環境による問題なども抱えながら生活しています。さまざまな事例を学び、それぞれの課題を理解し、どのような支援が考えられるのかを検討しながらボランティア活動などでも活かせるようになることをめざします。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	病者、障がい者を意識できない	病者、障がい者の理科を考える	病者、障がい者を支援する力量を構築する	病者、障がい者を支援する専門職としての自身を検討する
知識・理解力	病者、障がい者に対する知識理解ができない	病者、障がい者に対する支援内容について理解できる	病者、障がい者の状況、領域ごとの支援が理解できる	さまざまな病者、障がい者の個別支援方法が理解できる
言語力	病者、障がい者の専門分野の用語が理解できない	病者、障がい者の専門用語と内容について理解する	病者、障がい者の簡易な事例の対応が言語化できる	病者、障がい者の複雑な事例の対応が言語化できる
思考・解決力	教わったこと以上は考えようとしていない	病者、障がい者の日常生活での支援に思いをはせる	病者、障がい者の日常生活支援の重要を具体的にイメージする	病者、障がい者に必要なコミュニケーション技術の展開を考える

共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献を参考にしながら病者、障がい者の支援共生を考える	考えた結果を他者と共有しさらに自分の考えを深めていく	レベル3に加えて病者、障がい者支援での学びを活用する
創造・発信力	自分で勝手に判断したり想像した内容を発信する	周囲の状況を見極めて病者、障がい者に必要な情報収集する	幅広い学びの知識を集約して病者、障がい者の問題解決を考える	レベル3に加えて病者、障がい者との共生実現への支援策を検討する

〔授業計画〕

- 第 1 回 現代社会と病者・障がい者について
本科目、講義の進め方の説明、概説（三好）
- 第 2 回 災害福祉 復興と再開
東日本大震災での被災者支援活動の実際（三好）
- 第 3 回 地域福祉 地域生活と社会進出
障がい者の地域生活移行と社会進出の現状と課題（酒井）
- 第 4 回 教育福祉 発達障害
発達障がいのある子どもと教育（江川）
- 第 5 回 教育福祉 病気療養
病気治療中・療養中の子どもの教育（江川）
- 第 6 回 疾患「感染症」と社会の理解
主要疾患「感染症」について、社会が抱える問題の理解と支援（河瀬）
- 第 7 回 疾患「精神障がい」と社会の理解
主要疾患「精神障がい」について、社会が抱える問題の理解と支援（河瀬）
- 第 8 回 疾患「がん」と社会の理解
主要疾患「がん」について、社会が抱える問題の理解と支援（河瀬）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。各担当教員からレポートの指示がある。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式で社会福祉学、教育学、心理学の各担当教員が事例も示しながらすすめる。必要に応じてDVDやOHCなどを使用する。

レポートの課題については各教員から説明を行い、レポートの内容についてのフィードバックも担当教員により実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

受講希望者は新聞やネットニュースなどから病者、障がい者に関する記事を読んでみてもらいたい。病者、障がい者への関心や問題意識を持って臨むことが準備となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績は授業参加度（40%）と4回のレポート（60%）の総合評価。欠席日数は7.5回のうち2回が評価対象とします。各担当教員からレポート課題が出される。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業で適宜、資料等の印刷物を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて授業中に指示をします。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験あり、精神科医、教員、社会福祉士として専門機関で実務を行った。

病児の発達と支援

CHS1552N0J

大学

現代人間学部 > 現代人間学部共通科目 > 現代人間学部共通科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期集中

その他

DP5 : 共生・協働する力

60

定員40人 集中

萩原 暢子 伊藤 一美 岩崎 れい 河瀬 雅紀 薦 田 未央 畠山 寛 石井 浩子 植田 恵理子 太 田 容次 江川 正一

〔科目の教育目標（Course Description）〕

病気を抱える子どもたちの苦しみを理解し、発達を支援する方法を学ぶ。すなわち、小児科病棟でのボランティア活動をモデルに、病気の子どものサポートのあり方を理解していく。そこで、小児科病棟が求めるボランティアについて、医師や看護師などの立場から概説する。次に、子どもたちが直面する疾患の基本的な知識や心のケアについて学ぶ。また、子どもたちをサポートするための発達に沿った遊びの役割や、手技などの実践を学習する。この際、グループ単位の演習形式を取り入れ、それぞれの意見を取り入れながら、一つのを完成させることで、協働について学ぶ。院内学級での支援についても、現場を見学し、院内学級を担当している講師からその実際を学ぶ。さらに、ボランティアをする学生自身のケアについても学ぶ。最終的に、学生が小児医療ボランティアに精通し、実践できるようになる。(オムニバス式/全15回)

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 小児科病棟が求めるボランティアについて、医師や看護師の立場から学ぶ。
2. 小児の疾患について、基礎的な知識や心のケアを学ぶ。
3. 子どもたちの発達に沿った遊びについて学ぶ。その際、グループ作業によって、協働する力を養う。
4. 院内学級での学び支援について学ぶ。
5. ボランティアをする学生自身のケアについて学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	小児に対するボランティア活動の意義が分からない	小児に対するボランティア活動の意義を理解できる	小児に対するボランティア活動の意義をより深く理解できる	小児に対するボランティア活動の意義を周囲の人たちにも理解してもらえるように働きかける
知識・理解力	小児医療ボランティア活動の意味が理解できない	小児医療ボランティア活動の意味が理解できる	小児医療ボランティア活動の意味をより深く追求する	小児医療ボランティア活動をより子どもたちに喜ばれるように内容を深めて追求する
言語力	小児医療ボランティアで使われる言葉の意味が分からない	小児医療ボランティアで使われる言葉の意味が理解できる	小児医療ボランティアのより高度な内容について使用言語を理解できる	小児医療ボランティアのより高度な内容に関して周りの人たちへも言語の意味を指導できる
思考・解決力	小児医療ボランティアについて教えられたこと以外は考えようとしていない	小児医療ボランティアでの課題を解決しようとする	小児医療ボランティアにおける課題を解決できる。	小児医療ボランティアにおける課題を解決でき次のステップに進める
共生・協働する力	小児医療ボランティアに関して他者の意見を参考にしない	小児医療ボランティアについて他者の意見をしっかりと聞いて考える	小児医療ボランティアにおける課題を他者と協働して解決できる。	レベル3に加えて考えた結果を周囲の人たちと共有しさらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	小児医療ボランティアについて自分の勝手な考えを発信する	小児医療ボランティアについて自ら周りの状況を踏まえて自分の考えを発信する	小児医療ボランティアについてより高度な内容を自ら考えだして周囲の状況を踏まえて発信できる	レベル3に加えてさらに情報モラルも加味しながら自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

第 1 回 (オリエンテーション)

講座の説明と府立医大小児医療センター見学を行う。(担当:全員)(府立医大での学習)

第 2 回 (ボランティア1)

ボランティアへの期待について、府立医大の小児科医と看護師長からの講義を聞く。(担当:小児科医師、センター看護師長、萩原、河瀬)(府立医大での学習)

第 3 回 (グリーフの理解)

小児医療ボランティアに当たり、病気の子ども達との関わり方について緩和ケアの看護師長から講義を聞く。(担当:府立医大看護師長、萩原、河瀬)(府立医大での学習)

第 4 回 (小児医療概論1 子どもの病気について①)

子どもの健康状態のみかたと、主に感染症について述べる。(担当:萩原)(府立医大での学習)

第 5 回 (ボランティア2)

小児ボランティアの必要性和その難しさについて、YMCAより講師を招いてボランティアの実際の状況について学ぶ。(担当:YMCAより派遣講師)

第 6 回 (小児医療概論2 子どもの病気について②)

子どもがかかりやすい病気や、府立医大に入院している子どもたちがかかるような病気について、症状や原因、治療について述べる。(担当:萩原)

第 7 回 (小児医療概論3 子どもの病気とこころ)

病気の子どものこころの状態について、物語を通して学ぶ。(担当:河瀬)

第 8 回 (子どもの発達と遊び1)

子どもの年齢段階による発達の特徴とそれに沿った遊びやかかわり、ボランティアの意義、その上で入院児における遊びの留意点を学ぶ。(担当:畠山、薦田、伊藤)

第 9 回 (子どもの発達と遊び2)

絵本の読み聞かせについて、さまざまな絵本の種類と年齢や入院生活を考慮した選書について学び、演習を交えて基本的なスキルを学ぶ。(担当:岩崎、石井、植田、畠山、薦田、伊藤)

第 10 回 (子どもの発達と遊び3)

小児医療現場での遊びを想定し、また、実際のボランティア活動「NDシアター」の活動内容へのつながりを考え、プレイルームでの手遊びやペープサートなど、交流を含めた遊びを紹介する。(担当:石井、植田、畠山、薦田、伊藤)

第 11 回 (子どもの発達と遊び4)

絵本の読み聞かせで取り上げた作品を素材に、グループごとにペープサートの演習を行う。(担当:石井、植田、畠山、薦田、伊藤)

第 12 回 (子どもの学び1)

桃陽総合支援学校府立医大分教室での取り組みについて詳述する。(担当:江川、太田)

第 13 回 (子どもの学び2)

長期入院・短期入院の児童生徒の学習の実態と問題点について学ぶ。(担当:江川、太田)(桃陽総合支援学校での見学実習①)

第14回 (子どもの学び3)

桃陽総合支援学校の取り組みなどについて学ぶ。(担当:江川、太田)(桃陽総合支援学校での見学実習②)

第15回 (総括)

各自で講座全体の振り返りを行い、グループで話し合ったことを発表する。(担当:全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方式

講義形式を中心に、グループに分かれて演習形式や、現場への見学実習が含まれる。

2. 学習方法

(1) プリントに沿って行う。

(2) パワーポイントを用いて、イメージを作っていく。

(3) グループに分かれた演習はディスカッションや、「子どもの遊び」ではロールプレイ、や共同制作などの方法で行う。

(4) 見学実習では、現場での説明を行う。

3. テキスト・参考文献

(1) テキストは用いない。

(2) 参考文献は、「その日のまえに」(文春文庫)

・最終授業の総括で全体の振り返りをして、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・「ボランティア活動」について、自分で学習し、イメージを作っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 評価は、授業参加度 (30%)、最終レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

2. 欠席については、詳細を留意事項で示す。

〔留意事項 (Other Information)〕

1) 2月中の集中講義となる。京都府立医科大学で実施される授業の日程は、授業の中で説明があるので、集合時間と場所を確認すること。

2) 講義の順番は、府立医大の都合で多少前後することがあるので、配布される授業スケジュールで確認すること。

3) 全授業出席することが、合格の条件となる。ただし、指定の授業以外で4回以内の欠席であれば、当該授業のDVD視聴とレポートにより、担当教員の承認が得られれば出席扱いとなる。

4) 指定の授業 (第1回～第3回、第5回、第9回～第11回、第13回、第14回) を1回でも欠席すると、不合格となる。

5) この科目は、府立医科大学附属病院小児医療センターでの実践講座に引き継がれる。実践講座に参加するためには、この科目の修了が必須条件となっている。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『その日のまえに』/重松 清/文春文庫/2012/授業用に貸し出す。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医師として病院等での診療経験、教員として特別支援学校・養護学校(知的障害・肢体不自由・病弱虚弱)、小学校(難聴学級担任)での勤務経験、特別支援学校校長としての勤務経験、臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験、有資格者として、学校園での実務経験を有する教員がオムニバスで担当する科目。

情報科学 B

CHS3400N0J

大学

現代人間学部 > 現代人間学部共通科目

3年次

2単位 後期

月曜 5限

DP4: 思考・解決力

60

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになってきている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなってきている。

本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. コンピュータの構造について学ぶ

2. 情報のデジタル化とアルゴリズムについて学ぶ

3. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	情報の扱い自体を意識できない。	情報を人の扱うものとして考える	人のための情報のやり取りとはどのようなものか考える	デジタル技術を応用し、人の未来のための使い方を考える
知識・理解力	アナログとデジタルの	情報のデジタル化につ	情報のデジタル化の仕	さまざまなアルゴリズム

	区別がついていない	いてその仕組みを理解し、内部構造を理解できる。	組みが理解でき、PCの内部構造や、その他の機器の構造を理解できる	ムを理解し、デジタル化された機器の長所・短所がわかる。
言語力	情報機器に関する用語を理解しようとする。	プログラムを動かすための言語があることを理解する。	簡単なプログラミングができる。	プログラミング言語を理解し、生活の中で役立てる。
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	デジタル化の応用が生活の中にあることを考える	プログラミング的思考をする力がある	機器も含めて、人と人のコミュニケーションも生かして問題を解決しようとする
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない	先行研究をもとに、情報技術について考えようとする	考えた結果を、周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする。	レベル4に加えて、情報ネットワークなども正しく用いて、考えを深める。
創造・発信力	自分勝手な、情報の発信を行う。	自ら、周囲の状況を踏まえて、情報の扱い方を考える	デジタル技術などを踏まえて、情報の扱い方を考える。	レベル4に加えて、情報モラルも加味しながら情報の扱い方を考える

【授業計画】

- 第 1 回 授業の概要紹介
- 第 2 回 情報理論とデジタル・アナログ
- 第 3 回 ハードウェアとソフトウェア
- 第 4 回 コンピュータの仕組みとOS
- 第 5 回 コンピュータの誕生とその背景
- 第 6 回 コンピュータの発展 小テスト1回目と解説
- 第 7 回 情報のデジタル化 数・文字
- 第 8 回 情報のデジタル化 音声・画像
- 第 9 回 問題解決とアルゴリズム
- 第 10 回 プログラミング 小テスト2回目と解説
- 第 11 回 情報の信頼性と信憑性
- 第 12 回 知的財産権の保護
- 第 13 回 情報を守るセキュリティの仕組み
- 第 14 回 情報モラルの考え方 小テスト3回目と解説
- 第 15 回 全体のまとめ、自己評価

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

この講義は、全講義をオンライン学習によって行う。
manabaコースを用いて講義前に授業資料・教材を配信する。

講義の流れ

- 1 manabaコースのコースニュースに予定を配信する
- 2 授業時間開始時に、manabaコースのコンテンツに教材を配信する。
- 3 コンテンツの指示に従って学習を進める
- 4 responで毎回のコメントを提出し、自分の理解度を把握しておく
- 5 1に戻る
- 6 月に1回のペースで小テストを行い、自分で学習の進捗を確かめる

responを用いて講義ごとの振り返りを行い、授業への質問・感想などの記入を求め、授業内でフィードバックを行う。小テストを行うことにより、学びの定着を目指すので、小テストごとに学習の振り返りをするとうい。

コンテンツの資料は全講義が終了するまで、復習や抜けた講義のために、いつでも閲覧できるようにしておく。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

新たなトピックに入る前にキーワードや参考文献を提示するので学習を進めておくこと。なお、参考文献は図書館の指定図書のコナーに配架する予定である。

これまでのGPAによる準備学習方法

(下記のGPAはあくまでも参考で、自分のレベルにあった準備をしてください)

GPA<1.5の場合 情報演習Ⅰの内容を復習しておいてください

GPAが1.5から3までの場合 上記に加えて、身の回りにある情報機器に興味を持ってください。

GPA>3.0の場合 上記に加えて、高等学校での教科情報の復習を行い、身近なデジタル技術について情報を収集しておいてください。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

45

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

30点満点の小テストを3回実施し、授業への参加度 (ディスカッションを含む)・毎回のresponへの授業コメントおよび自己評価を加えた10点を加算し100点満点で評価を行う。

3回の小テストで合計点が60点に満たない場合は、補講期間に追試を実施する。

【留意事項 (Other Information)】

オンラインによる学習のため、動画をみたり、responの提出ができるように、PCやスマホの準備をしておく。

質問はmanabaコースのスレッドで受け付ける。

初回に受講の仕方を説明する。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

配布資料を中心に解説するので教科書は指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報とコンピューティング』/河村一樹/オーム社/2011/9.78427421086E12

『コンピュータを使わない情報教育アンプラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進/イーテキスト研究所/2007/9.784904013007E12

『アルゴリズムの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2003/9.784798104522E12

『パソコンの仕組みの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2010/9.784798122526E12

『OSの仕組みの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2011/9.784798124629E12

上記の参考文献は配布プリントに引用する予定である。

また、これらの参考文献以外も講義時に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会とこども

CHS1200NOJ

大学

現代人間学部

1年次

1単位 前期前半

木曜 5限

DP2 : 知識・理解力

30

全7.5コマ 選択必修

高井 直美 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会における、こどもの生活世界の現状と課題について、こども教育の観点とこどもの発達心理学の観点からのより広い知識から理解し、「今」を生きるこどもとそれを取り巻く人々や社会の在り方について考えることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 小学校就学前のこどもたちの保育・教育状況
2. 小学校就学後のこどもたちの教育状況
3. 新学習指導要領におけるこどもたちの位置づけ
4. 現代社会を生きるこどもの遊び
5. こどもに対する虐待
6. 現代社会の子育て事情

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に真面目に出席し、自分を育てようとする動機づけがみられない	授業に真面目に出席し、自分を育てようとする動機づけがある程度みられる	授業に真面目な態度で出席し、自分を育てようとする動機づけがみられる	授業に真面目な態度で出席し、自分を育てようとする動機づけが、しっかりとみられる

知識・理解力	現代社会とこどもに関する知識・理解力が不十分である	現代社会とこどもに関する知識・理解力がある程度みられる	現代社会とこどもに関する知識・理解力がおおよそみられる	現代社会とこどもに関する知識・理解力が十分にあり
言語力	文章を読む力、自分の考えを書く力がみられない	文章を読む力、自分の考えを書く力がある程度ある	文章を読む力、自分の考えを書く力がおおよそある	文章を読む力、自分の考えを書く力がかなりある
思考・解決力	現代社会とこどもに関する諸問題について、思考できない	現代社会とこどもに関する諸問題について、ある程度は思考する	現代社会とこどもに関する諸問題について、思考する	現代社会とこどもに関する諸問題について、しっかりと思考する
共生・協働する力	現代社会の問題について、真剣に考えようとしない	自分も社会の一員として、現代社会の問題について、考えようとしている	自分も社会の一員として、現代社会の問題について、真面目に考えている	現代社会の問題について、真面目に考えて、社会に貢献する大人になろうという動機づけを持っている
創造・発信力	自分の考えを創造・発信しようとする動機づけがない	自分の考えを創造・発信しようとする動機づけがある程度ある	自分の考えを創造・発信しようとする動機づけがおおよそみられる	自分の考えを創造・発信しようとする動機づけが、かなりの程度みられる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
こどもの遊びの今昔・小レポート課題提示 担当教員：高井
- 第 2 回 親子関係とこどもの発達
なぜ児童虐待は起こるのか？・小レポート提出 担当教員：高井
- 第 3 回 早期教育とこどもの発達
早期教育・英才教育の今昔・小レポート提出 担当教員：高井
- 第 4 回 こどもの発達・まとめ
現代社会のこどもの発達（まとめ） レポート提出 担当教員：高井
- 第 5 回 こどもを巡る環境と教育
こどもとしつけ・小レポート提出 担当教員：渡邊
- 第 6 回 こどもを巡る環境と教育
こどもといじめ・小レポート提出 担当教員：渡邊
- 第 7 回 こどもを巡る環境と教育

こどもとネット依存・小レポート提出 担当教員：渡邊

第 8 回 こどもを巡る環境と教育

まとめ・レポート提出（45分授業） 担当教員：渡邊

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義形式
2. 討論
3. 小レポートの作成
4. フィードバック方法 小レポートに関しては、次時にコメントを付して返却し、全体に向けて講評を行う。レポートについては、コメントを付して返却。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

現代社会におけるこどもの状況に関するニュースに目を向け、収集し、コメントをつける等、興味と問題意識を持つ。興味深い話題は授業でも情報を共有する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

毎回の授業参加態度（20％）と小レポート・レポート提出（80％）。

〔留意事項（Other Information）〕

前半と後半で担当教員が交代する。前半は、心理学の立場から、後半は、教育学の立場から、講義を行う。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

授業ごとに資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて資料を配布する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

私立・公立高等学校に24年間勤務した経験があり、こどもを取り囲む現代社会における教育環境とさまざまな影響を受ける学習者の把握を行ってきた。この経験を、本科目の講義にも生かすことができる。

現代社会と女性・家族

CHS1100NOJ

大学

現代人間学部

1年次

1単位 前期後半

火曜1限

DP1：自分を育てる力

30

全7.5コマ 選択必修

向山 泰代 青木 加奈子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

性別や性差、性役割などの性をめぐるトピックについて、現代社会における女性、現代社会における家族の在り方や課題を関連づけながら講義する。講義の前半は家族関係学や女性学の観点から、後半は心理学の観点から性や家族に関して、オムニバス方式で講義を行い、この問題に関する受講生の興味・関心・知識を拡充し、現代を生きる女性として、自分を育てる力の陶冶を目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

・現代の日本女性を取り巻く環境を歴史的な／グローバルな視点から理解すること。

・私たちが「家族」に求めるものを、新しいかたちの「家族」との比較をとおして考えること。

・性差や性役割について、自身の考えや感情に気づくこと。

・生物学的・心理学的・社会的な視点から、性について理解すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に取り組もうとしない	課題に取り組む	課題もとに自らの考えを深める	課題をもとに自らの考えを深め表現する
知識・理解力	準備学習をしない	準備学習をする	準備学習を積極的にする	準備学習を積極的に行い、授業で発信する
言語力	自分の考えを表現しない	自分の考えを表現する	自分の考えが他者に伝わるように効果的に表現する	自分の考えが他者に伝わるように効果的に表現し、他者からの意見に適切に応答する
思考・解決力	課題を提出しない	課題を提出する	独自の視点を加えて課題を作成し、提出する	複数の独創的な視点にもとづいて課題を作成し、提出する

共生・協働する力	グループに参加しない	グループに参加する	グループに参加し、ワークをする	グループワークに積極的に参加する
創造・発信力	指名しても発言しない	指名されたら発言する	適切な状況で自ら発言する	適切な状況で積極的かつ創造的に発言する

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション (青木)
- 第 2 回 女性が社会的地位を獲得するまで (青木)
- 第 3 回 世界における日本女性の位置 (青木)
- 第 4 回 「家族」って何だろう? (青木)
- 第 5 回 自分らしさ: 青年期の課題と暮らし (向山)
- 第 6 回 働くこと: 職業選択、仕事 (向山)
- 第 7 回 愛すること: 性、恋愛、家族 (向山)
- 第 8 回 まとめ (向山)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義が中心であるが、グループワークや個人ワークをとおして、与えられた課題について受講生自身の考えを出してもらい機会も設ける。そのため、受講生には積極的な授業の参加を求める。出席しているにもかかわらず、指名しても発言がない場合は欠席とみなすことがある。

課題は、授業期間内に返却をし、受講生へフィードバックを行う。授業期間終了後の返却となる場合は、manabaを通じて行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業中に次回までの課題が出された場合は、必ず完成させて授業に臨むこと。授業外での学習には、図書館を積極的に活用すること。その際、図書だけでなく、新聞や雑誌で取り上げられている女性や家族に関する記事を読んだり、文献を検索したりして新しい知識・情報に触れ、現代の女性が置かれている状況について日頃から興味を深めておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

受講態度20%、授業期間内に課すレポート80%。2/3以上の出席がなければ、単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

オムニバス形式の科目のため、前期後半 (第8回目の45分経過後) に「イントロダクション」の授業を行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内容や進行状況に沿って、文献等を適宜紹介する。

卒業研究

249011E0J
 大学
 生活福祉文化学部
 4年次
 集中
 必修 クラス指定
 加藤 佐千子

【科目の教育目標 (Course Description)】

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要だと考えられる。

そこで、これまで基礎科目や専門科目、3年次の生活福祉文化特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、自主的に進めることができる	積極的に取り組み、自ら問題解決することができる	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼン内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼン内容が明確である	口頭試問において、プレゼン内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している

【授業計画】

各クラス (ゼミ) の担当教員の指示によること

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

(1) 各専門分野別のクラス (ゼミ) に分かれて学習する。

(2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文 (論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等)

(2) 卒業論文要旨 (体裁、構成力)

(3) 口頭試問結果 (プレゼンテーション、質疑応答)

詳細は手引きを参照すること。

【留意事項 (Other Information)】

前年度生活福祉文化特論のクラスで継続して履修する。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

卒業研究 2016年度以前入学者

249011A0J
 大学
 生活福祉文化学部
 4年次
 8単位 集中
 その他
 ー
 必修 クラス指定
 (未定)

【科目の教育目標 (Course Description)】

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要だと考えられる。

そこで、これまで基礎科目や専門科目、3年次の生活福祉文化特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組むが、自ら問題解決することができない	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼンの内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼンの内容が明確である	口頭試問において、プレゼンの内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンをことができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者として高度な専門性を有している

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）
 - (2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）
 - (3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）
- 詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

前年度生活福祉文化特論のクラスで継続して履修する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

音楽科教育 A 2016年度以前入学者

268035A0J

大学

心理学部 > 心理学部 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

月曜 3限

ー

60

植田 恵理子

【科目の教育目標 (Course Description)】

ピアノ実技で習得した技術をもとに、保育・教育現場に必要なピアノ技術と、子どもの音楽についての知識を更に習得できる。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1ピアノ課題をこなし、弾き歌いのレパートリーを増やす。
2教材を様々な角度から分析したり、自ら教材を作成したりするための、音楽理論を身につける。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題をこなさず、レパートリーを増やそうとしない。	課題に対し、理解しようとする。	課題に積極的に取り組み、レパートリーを増やすことに意欲的である。	課題をアレンジしたり、自ら新しい曲に挑戦しようとする。
知識・理解力	音楽理論について、理解しようとする。	音楽理論について、理解しようとする。	子どもの音楽活動の中で、どのように音楽理論を活かすか考えようとする。	レベル3に加え、実践する際に必要な知識を習得する。
言語力	保育・教育現場に必要な子どもの音楽についての発表ができない。	子どもの音楽についての発表しようとする。	子どもの音楽についての工夫や、導入などを発表できる。	発表を更に工夫し、保育現場で通用するレベルまで高める。
思考・解決力	保育・教育現場に必要なピアノ技術について考えようとする。	現場に必要なピアノ技術に対し、少しでも考えようとする。	子どもの表現活動に必要なピアノ技術について考察し、習得方法を考える。	レベル3に加え、自分に合った、技術の習得方法について工夫を重ねる。

共生・協働する力	保育・教育現場に必要なピアノ技術を、協同で考えようとする。	保育・教育現場に必要なピアノ技術を、グループワークを通して考えようとする。	ピアノ技術の習得を、グループ全体で目指そうとする。	アンサンブルに積極的に取り組み、グループ単位で演奏力を身に着ける。
創造・発信力	教材を子どもの表現活動の中でどのように活かすかを考えない。	子どもの表現活動の中で有効な教材について考えようとする。	子どもの表現活動に有効な教材を自ら作成しようとする。	子どもの表現活動に有効な教材作りに積極的に取り組み、友だちと情報交換する。

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション 弾き歌いの姿勢
- 第 2 回 弾き歌いの留意点
- 第 3 回 弾き歌いの目線と発声
- 第 4 回 童謡 発声
- 第 5 回 童謡の表現方法
- 第 6 回 わらべうた 発声
- 第 7 回 わらべうたの表現方法
- 第 8 回 様々なリズムと表記方法 1 4分音符 2分音符
- 第 9 回 様々なリズムと表記方法 2 8分音符 16分音符
- 第 10 回 新しい拍子と付点のリズム
- 第 11 回 リズムアンサンブル
- 第 12 回 季節の歌の表現方法
- 第 13 回 行事の歌の表現方法
- 第 14 回 その他の歌の表現方法
- 第 15 回 ピアノ実技テスト 講評 まとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

グループレッスンで童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組む。課題の取り組みに対し、授業内発表を行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

- ・ピアノを自宅でよく練習しておくこと
- ・平日頃、様々なジャンルの音楽に触れておくこと

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

45

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

初回授業から五線ノートを持参すること。(指定なし)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼児の四季』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940386

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 音楽講師、音楽指導員として、保育園・幼稚園・こども園での合唱、合奏、鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を経営(指導、教材開発)

心理・教育フィールド研修d 2016年度以前入学者

265213NOJ

大学

心理学部 > 心理学部 (実践的科目)

2年次

1単位 集中

その他

ー

15

河瀬 雅紀 伊藤 一美 村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

医療分野で心理に関する支援をする者は、支援を要する者が置かれている状況を知り、他職種との連携、地域連携の現状を知る必要がある。そこで、本研修では、医療現場に赴き、各専門家より日本の医療の現状について学び、一人一人の患者を支える病院内各部門の機能を理解する。本学科では、以下のことを目的とする。

1. 医療現場のチームアプローチについて説明できる
2. 多職種連携および地域連携について説明できる
3. 心理に関する支援を要する者について、1および2と関連づけて説明できる
4. 医療者の職業倫理について説明できる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

受講生は、病院研修に関する事前事後の指導を受け、研修の意義やその振りかえりによって、病院研修で得た知見を心理に関する支援を要する者と関連づけて理解できるようにする。事後指導においては、研修によって感じたことをレポートとして提出し、それをもとにグループディスカッションを行う。

1. 総合診療部や内科・外科など主な診療科での今日的テーマについて説明できる。
2. 病院内各部門の特徴をチームアプローチ・多職種連携と関連づけて説明できる。
3. 心理に関する支援を要する患者のチームアプローチや多職種連携、地域連携について説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
診療科での今日的テーマについて	知識を持っていない	理解している	講義資料等を用いて、説明できる	授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
病院内各部門の特徴について	知識を持っていない	理解している	講義資料等を用いて、説明できる	チームアプローチ・多職種連携と関連づけて説明できる
医療分野で心理に関する支援を要する者が置かれている状況について	知識を持っていない	理解している	講義資料等を用いて、説明できる	チームアプローチや多職種連携、地域連携と関連づけて説明できる

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション(事前指導)(河瀬・伊藤・村松)
- 第2回 【見学研修/現場レクチャー】内科総論・検査・治療(外部講師)
- 第3回 【見学研修/現場レクチャー】総合診療科(外部講師)
- 第4回 【見学研修/現場レクチャー】患者相談概要など(外部講師)
- 第5回 【見学研修/現場レクチャー】放射線部など(外部講師)
- 第6回 【見学研修/現場レクチャー】外科(外部講師)
- 第7回 【見学研修/現場レクチャー】救急科(外部講師)
- 第8回 【見学研修/現場レクチャー】臨床検査部・薬剤部など(外部講師)
- 第9回 【見学研修/現場レクチャー】内科・外科病棟など(外部講師)
- 第10回 【見学研修/現場レクチャー】産婦人科(外部講師)
- 第11回 【見学研修/現場レクチャー】精神科(外部講師)
- 第12回 【見学研修/現場レクチャー】緩和ケア病棟・小児医療センターなど(外部講師)
- 第13回 【見学研修/現場レクチャー】地域連携室など(外部講師)
- 第14回 中間・事後指導・振り返りシート作成(河瀬・伊藤・村松)
- 第15回 事後指導・ディスカッション(河瀬・伊藤・村松)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

授業終了後に、まとめレポートを課す。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・病院研修についてのオリエンテーション (事前指導) を実施する
- ・病院研修では、現場の医師によるレクチャーを受け、各部門の見学研修を実施する
- ・適宜、中間指導を実施する
- ・授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする
- ・中間指導、事後指導では振り返りを行い、作成した振り返りシートをもとに、グループで討論するとともに、討論の内容について適宜口頭でフィードバックする

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

医療分野で心理に関する支援を要する者には、精神科・心療内科の治療を受けている者、身体疾患により心理的不適応を生じている者、治療やケアに携わっている医療者・家族等が含まれる。そこで、精神医学Ⅰ・Ⅱ、障害児心理学、家族心理学など既に習得した科目を復習した上で、事前指導に臨んでほしい。

また、病院の各科・各部門の見学研修について、事前指導後、研修先のHPなどで情報を得て見学研修に臨む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

学外研修であるため、全回の出席が前提となる。原則として欠席および遅刻は認めず、全回出席をもって単位認定の基本条件とする。その上で、研修中の取り組みの姿勢と振り返りシート (70%)、まとめレポートの内容(30%)に基づいて総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

本研修は、実際に対象者を受け入れている病院に伺って研修させてもらうと言う大変貴重な経験ができるものである。そのため、事前事後指導・病院研修における遅刻欠席は、社会的常識をもってしても許されるものではない。自分の将来を見据えて、真摯に取り組もうとする学生の参加を待っている。

なお、見学研修／現場レクチャーの内容は、外部講師の都合あるいは実施施設の状況により、変更があり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 担当教員は、精神科医・臨床心理士として医療機関等での勤務経験あり。また、外部講師はいずれも医療機関での実務経験あり。

図工科教育 2016年度以前入学者

268036N0J

大学

心理学部 > 心理学部 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

月曜1限

ー

60

藤本 陽三

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

図画工作科が担うべき役割とその目指すところ、内容構成の考え方や、各領域の内容の概要について、小学校学習指導要領、教科書等から理解する。そして、その目標を具現化するための方法を、美術と教育の本質から考える。そのために、各領域の題材についての教材研究や学校教育現場での実践例等を通して、子どもたちが、感性を働かせながら「つくりだす喜び」を味わい、一人一人のよさを発揮しながら自己実現を図るための図画工作科教育のあるべき姿を考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 図画工作科の性格と目標について理解する。
- ・ 図画工作科教育の変遷と今日的課題について理解する。
- ・ 図画工作科の内容構成について理解する。
- ・ 図画工作科の指導内容について、各領域の題材についての教材研究を通して把握する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	図画工作科の目標・内容の理解が不十分であり、説明することができない。	図画工作科の目標・内容を理解し、ある程度説明することができる。	図画工作科の目標・内容を理解し、説明することができる。	図画工作科の目標・内容を理解し、授業づくりの視点とともに説明することができる。
技能・表現力	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等の習得が不十分で、使うことができない。	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等のある程度習得し、使うことができる。	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等を習得し、活用することができる。	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等を習得し、状況に応じて選んだり組み合わせたりして活用することができる。
学びに向かう力	図画工作科の指導における自らの学習課題について説明	図画工作科の指導における自らの学習課題についてある程度説明す	図画工作科の指導における自らの学習課題について説明	図画工作科の指導における自らの学習課題について説明するとともに

	することができない。	ることができ。	することができ。	に課題解決の具体策について説明することができる。
--	------------	---------	----------	--------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 図画工作科の担うべき役割と目指すもの
- 第 2 回 図画工作科教育の変遷
- 第 3 回 小学校学習指導要領の変遷と今日的課題
- 第 4 回 図画工作科の性格と目標
- 第 5 回 図画工作科の内容構成
- 第 6 回 造形遊び①（指導内容についての理論研究）
- 第 7 回 造形遊び②（演習）
- 第 8 回 絵や立体に表す①（指導内容についての理論研究）
- 第 9 回 絵や立体に表す②（演習）
- 第 10 回 工作に表す①（指導内容についての理論研究）
- 第 11 回 工作に表す②（演習）
- 第 12 回 鑑賞①（指導内容についての理論研究）
- 第 13 回 鑑賞②（演習）
- 第 14 回 図画工作科の指導と評価
- 第 15 回 指導計画の作成及び各教科・領域等との関連、まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義、討論、実習、演習を中心に進める。具体的な題材に関する実習も必要に応じて行う。

* 提出された課題（作品、レポート等）については添削の後、返却したり、授業での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回の学習内容と対応する教科書の章を読んでおくこと（第1回「図画工作科の担うべき役割と目指すもの」は第1部第1章「美術教育の目標」、第2回以降は講義の中で指示する）

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30%）、小レポート[作品等の提出課題も含む]（40%）、試験に替えてのレポート（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

シラバスは、実態に応じて変更することもあり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『美術教育概論（新訂版）』/大橋 功/日本文教出版/2018.10/9784536601030/学内販売予定

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』/

文部科学省/日本文教出版/2018.2/9784536590112/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 教員として学校に勤務経験あり

体育科教育 2016年度以前入学者

268038NOJ

大学

心理学部 > 心理学部（実践的科目）

2年次

2単位 前期

金曜 3限

ー

60

高田 佳孝

〔科目の教育目標（Course Description）〕

体育・スポーツのもつ教育的可能性、体育科の基礎知識（体育科の基本的性格や内容論）等を理解する。体育科教育・スポーツ教育を取り巻く基礎的・制度的条件について理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・生涯スポーツと学校体育について考察する。
- ・体育科の特性と役割について学習指導要領から理解する。
- ・実践を通して、各運動領域の特性とねらいについて理解する。
- ・体育授業の指導者になるという意識を持ち、授業に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 スポーツ、体育の歴史
- 第 3 回 学校体育が抱える諸問題
- 第 4 回 体育科教育・スポーツ教育における日本の動きと国際的な動向

- 第 5 回 欧米諸国で提案されているスポーツ教育論
- 第 6 回 文化としてのスポーツ・体育の意義や多様性
- 第 7 回 体育科を通じた教師の成長と必要な資質
- 第 8 回 小学校体育科の基本的性格と目的
- 第 9 回 学習者としての児童の発育発達
- 第 10 回 教科内容論（系統性を踏まえた運動領域編成）
- 第 11 回 体育科の教材づくり論
- 第 12 回 各運動領域の構造（体づくり運動、表現運動）
- 第 13 回 各運動領域の構造（器械運動、陸上運動）
- 第 14 回 各運動領域の構造（ゲーム・ボール運動）
- 第 15 回 まとめ（フィードバックと解説）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションおよび実技を中心に展開する。
- ・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
- ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・関連性を持って、講義を進行していくので、前回の授業内容について復習する。
- ・次回の授業内容について、学習指導要領や参考文献で確認しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度、授業態度（30%）、小レポート（20%）、テスト（50%）として総合的に評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

実技時は、運動できる服装（ジャージ等）に更衣し、体育館シューズを履くこと。

安全確保のために、適宜、持ち物等の指示を行う。

講義内容について前後する場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

0

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

- 『体育授業を観察・評価する』/高橋建夫編著/明和出版//
- 『新版 体育科教育学入門』/高橋建夫ほか編著/大修館書店//
- 『小学校学習指導要領解説 体育編』/文部科学省/東洋館出版社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》（小学校教員として、体育授業研究に取り組んだ経験）

保育内容指導法（環境） 2016年度以前入学者

268050NOJ

大学

心理学部 > 心理学部（実践的科目）

2年次

2単位 前期集中

その他

—

60

田中 文昭

〔科目の教育目標（Course Description）〕

領域「環境」の意義や基本的な考え方を知り、幼児における環境の意味を学び、環境をどのように構成していくことが、子どもの育ちにとって必要であるかを理解する。また領域「環境」と他の領域との関連についても理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 保育現場で必要とされている環境構成についての概要を学び、実践例を通して学びを深めることで保育者としての視座を理解できるようになる。
2. 保育における環境領域についての基本を理解し、人的環境として大切な保育者の役割を理解することで、自分自身が目標とする保育者像がイメージできるようになる。
3. 演習を通して仲間と相談し、意見や考え方の多様性を知ることで、自らの学びを深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	保育における環境の意味を理解できていない	保育における環境の意味が理解できる	保育における環境を理解し、適切に環境を構成できる	他の保育者に対して環境の視点から助言ができる
共生・協働する力	自分の思いだけで保育を行う	同僚との協調の大切さを考えようとする	同僚と協働することができる	保育者の中心となって他の保育者と協働することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・環境領域の概要説明
オリエンテーション（これからの学びに必要な姿勢と考え方及び評価方法について）、環境領域の概要説明
- 第 2 回 講義
幼児における環境とは
- 第 3 回 講義
幼児を取り巻く環境の現状
- 第 4 回 講義
物的な環境としての遊具や園具
- 第 5 回 講義
人的な環境としての保育者の役割
- 第 6 回 演習

これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施
予定：課題は授業内で発表）
課題に対するフィードバックは、課題の要点を中
心に次回の授業で説明します。

- 第 7 回 講義
自然事象への関心
- 第 8 回 講義
生き物との関り
- 第 9 回 講義
身近な素材の活用
- 第 10 回 講義
地域との交流
- 第 11 回 講義
子どもを守る安全な環境
- 第 12 回 演習
これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施
予定：課題は授業内で発表）
課題に対するフィードバックは、課題の要点を中
心に次回の授業で説明します。
- 第 13 回 講義よび演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える（1）
異年齢との関りの中で育つ環境について学ぶ
- 第 14 回 講義よび演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える（2）
身近な素材を使った環境について学ぶ
- 第 15 回 講義よび演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える（3）
保育内容環境領域のまとめと実践への示唆

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポ
ート〕

実施しません。（演習内で小テストを実施します。）
小テストについては翌週に課題内容の解答をフィードバ
ックします。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を中心にしながら演習も行います。
演習の内容については授業内で発表します。演習を欠席す
ると小テストの配点がなくなりますので注意してくださ
い。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 新幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定
こども園教育・保育要領の「環境」領域について読んでお
いてください。
2. 授業前に予習として教科書の該当箇所を読んでおいて
ください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業内課題：小テスト 2 回（60%：小テスト各 30% 配
点）、授業態度・授業参加度（40%）に基づいて総合的に
評価します。

授業態度の悪い者（私語、居眠り等）については単位を与
えないので、注意してください。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 授業内課題に欠席の場合は、その課題は 0 点とします。
特別な事情がない限り、レポート等による代替えは行わな
いので、休まないようにしてください。
2. 座席の指定をします。初回の授業で座席位置を知らせ
します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

『保育内容「環境」第2版』/秋田喜代美・増田時枝・安見克
夫 編/(株)みらい/2009年/9784860151515/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼
保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』/文部科学
省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社/2017年/
9784805402580

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（詳しい勤務経験等）

幼稚園教諭専修免許状、保育士資格、臨床発達心理士資格
保持。

私立幼稚園園長を経て、幼保連携型認定こども園園長（現
職）。園運営にかかる教育・保育内容の策定。

保育内容指導法（言葉） 2016年度以前入学者

268051N0J

大学

心理学部 > 心理学部（実践的科目）

2年次

2単位 前期集中

その他

ー

60

田中 文昭

〔科目の教育目標（Course Description）〕

領域「言葉」の意義や基本的な考え方を知り、どのように
保育者として子どもに関わることで子どもの言葉を豊かに
できるのかを学ぶ。実践事例を通して学ぶことにより、領
域「言葉」と他の領域との関連についても理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 領域「言葉」に関する基本的なことを知り、理解する
ことができるようになる。
2. 言葉を豊かに育む保育の指導方法を実践事例を通して
学ぶ。
3. 演習を通して仲間と相談し、意見や考え方の多様性を
知ることで自らの学びを深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解 力	言葉の領域 の意味を理 解できない	言葉の領域 の意味を理 解できる	言葉の領域 の意味を理 解し、適切	言葉の領域 に関して、 他の保育者

			に子どもと関わる事ができる	に助言ができる
共生・協働する力	自分の思いや考えだけで保育をする	同僚との協調の大切さを考えようとする	同僚と協働して保育をすることができる	保育者の中心となって他の保育者と協働して保育をすることができる
思考・解決力	自分で考えることができない	自分で考えようと試みるが解決できない	自分で考え、解決することができる	同僚の問題点や課題について考え、解決を援助することができる

〔授業計画〕

第 1 回	オリエンテーション・言葉領域の概要説明 オリエンテーション（これからの学びに必要な姿勢と考え方及び評価方法について）、言葉領域の概要説明
第 2 回	講義 子どもの育ちと言葉
第 3 回	講義 コミュニケーションとしての言葉
第 4 回	講義 領域「言葉」について 領域「言葉」の意図するところ、言葉の指導の領域、領域「言葉」と他の領域との関係
第 5 回	講義 言葉の発達プロセス
第 6 回	演習 これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施 予定：課題は授業内で発表） 課題に対するフィードバックは、課題の要点を中心に次回の授業で説明します。
第 7 回	講義 言葉を育てる保育環境
第 8 回	講義 言葉を育てる教具・教材
第 9 回	講義 絵本の読み聞かせの実際
第 10 回	講義 仲間と共に育つ言葉
第 11 回	講義 地域社会と言葉
第 12 回	演習 これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施 予定：課題は授業内で発表） 課題に対するフィードバックは、課題の要点を中心に次回の授業で説明します。
第 13 回	講義および演習（保育実践事例） 保育実践事例から考える 子どもの言葉の発達を支える保育者の関わり（1）

文字指導と領域「言葉」、子どもの育ちと言葉の暗唱

第 14 回 講義および演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える 子どもの言葉の発達を支える保育者の関わり（2）当番活動、歌の指導などを題材にして

第 15 回 講義および演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える 領域「言葉」を意識した保育実践（3）発表会を例にして

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しません。（演習内で小テストを実施します。）
小テストについては翌週に課題内容の解答をフィードバックします。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義を中心としながらも演習を行います。
演習の内容については授業内で発表します。
毎回の授業で、手遊びの練習を行います。必ず参加してください。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 授業前の学習としては指定教科書の該当箇所を読んでおいてください。
2. 言葉の領域について、幼稚園教育要領などを事前に読んでおいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業内課題：小テスト2回（60%：各テスト30%配点）、授業態度・授業参加度（40%）に基づいて総合的に評価します。授業内での手遊びの練習には積極的な態度で参加してください。評価の対象とします。

授業態度の悪い者（私語、居眠り等）については単位を与えません。注意してください。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 授業内課題に欠席の場合は、その課題を0点とします。特別な事情がない限り、レポート等による代替えは行わないので休まないようにしてください。

2. 座席の指定をします。初回の授業で座席位置をお知らせします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保育内容「言葉」』/小田豊・芦田宏 編著/北大路書房/2011年/9784762826313/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』/文部科学省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社/2017年/9784805402580

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》（詳しい勤務経験等）

幼稚園教諭専修免許状、保育士資格、臨床発達心理士資格保持。

私立幼稚園園長を経て、幼保連携型認定こども園園長（現職）。園運営にかかる教育・保育内容の策定。

保育内容指導法（表現） 2016年度以前入学者

268052N0J

大学

心理学部 > 心理学部（実践的科目）

2年次

2単位 後期

月曜2限

ー

60

集中

植田 恵理子 藤本 陽三

〔科目の教育目標（Course Description）〕

保育所・幼稚園において、保育の目標を達成するために展開されている保育内容の「表現」の領域について学ぶ。「学びにつながる遊びの活動」をテーマに、子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動を引き出すために必要な環境、援助を考え、具体的な指導方法を習得する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 「幼稚園教育要領」の領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。
2. 造形、音楽、劇（ごっこ）、身体、言葉といった表現媒体についてそれぞれ理解を深めるとともに、それらが未分化な形として表（現）れる幼児への具体的な指導方法を体験的に学ぶ。
3. 幼児の豊かな表現を引き出す基盤として自らの発想を拡げ、仲間とともに感性を磨く。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	「幼稚園教育要領」の領域「表現」のねらいと内容の理解について消極的である。	領域「表現」のねらいと内容を理解しようとする。	ねらいを踏まえ、幼児への具体的な指導方法を考える。	具体的な指導方法を考え、実践し、身に付ける。
知識・理解力	「学びにつながる遊びの活動」の知識習得に対し、消極的である。	「学びにつながる遊びの活動」を実践してみようとする。	実践を通して、考えたことをまとめる力を身に付ける。	レベル3を踏まえ、実習指導案を作成する力を身に付ける。

言語力	表現媒体を活用した発表について消極的である。	表現媒体を活用した発表をしてみようとする。	発表を基に、模擬授業を組み立てる力を身に付ける。	保育現場を想定した模擬授業を工夫し、深める。
思考・解決力	子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動の工夫に対し、消極的である。	子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動を工夫してみようとする。	様々な表現活動を、導入、展開、まとめの流れで組み立てることができる。	表現活動を子ども主体にするために、必要な工夫について考え、実践力として身に付ける。
共生・協働する力	グループワークに対して消極的である。	グループで課題に取り組む。	課題を工夫し、実践時の留意点について考える。	支援が必要な子どもも含め、課題の留意点、配慮などを考えて実践する。
創造・発信力	子どもの表現を引き出す方法を考えることに消極的である。	子どもの表現を引き出す方法について取り組む。	子どもの表現を引き出す方法を実施する際の留意点について考える。	方法を工夫し、留意点、配慮をまとめ、実践する力を身に付ける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育内容「表現」の意義（担当：植田恵理子）
- 第 2 回 遊びから表現活動へ（担当：植田恵理子）
- 第 3 回 生活の中から生まれる音楽表現・造形表現（担当：植田恵理子、藤本陽三）
- 第 4 回 子どもの育ちからみる身体表現と音楽表現（担当：植田恵理子）
- 第 5 回 演劇要素を取り入れた表現 1 ～わらべうたを活用して～（担当：植田恵理子）
- 第 6 回 演劇要素を取り入れた表現 2 ～身体表現活動～（担当：植田恵理子）
- 第 7 回 演劇要素を取り入れた表現 3 ～子どもの表現と他者との関わり～（担当：植田恵理子）
- 第 8 回 素材を生かした表現活動 1 ～音楽・造形表現からのアプローチ～（担当：植田恵理子、藤本陽三）
- 第 9 回 素材を生かした表現活動 2 ～音楽・身体表現からのアプローチ～（担当：植田恵理子）
- 第 10 回 総合的な表現活動 ～造形・音楽・身体表現を総合的に取り入れるために～（担当：植田恵理子、藤本陽三）
- 第 11 回 指導計画（1）教材研究（担当：植田恵理子、藤本陽三）
- 第 12 回 指導計画（2）指導案作成（担当：植田恵理子、藤本陽三）
- 第 13 回

指導計画（3）模擬授業 指導計画の評価（担当：植田恵理子、藤本陽三）

第14回 表現活動の企画 まとめとグループ発表準備（担当：植田恵理子）

第15回 授業内発表（確認テスト）質疑応答（担当：植田恵理子）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・講義形式とアクティブラーニング型の演習を組み合わせで行う。

・幼児の表現を引き出す、具体的な活動方法を個人、グループで企画し、実践して学ぶことにより、表現活動における保育者の役割・援助について理解を深めるとともに、子どもの表現を引き出すための、様々なアプローチ方法、具体的な活動を企画できる力を身に付ける。授業内発表（確認テスト）終了後に、学生の表現活動に対して講評を行い、模範例を実演する方法で、フィードバックを行う。指導案については、個別にコメントして返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 「幼稚園教育要領」のねらい及び内容の「表現」について目を通しておくこと。

2. 心と体の調子を整え、優しく受容的な気持ちで、かつアクティブな姿勢を携えて授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（10%）、提出物（30%）、確認テスト（60%）に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

動きやすい服装で授業に参加すること

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『コンパクト版 保育内容シリーズ 音楽表現』/渡辺厚美・植田恵理子他/一藝社/2017//学内販売をしない予定
////学内販売をしない予定

授業内で販売します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『保育の表現技術実践ワーク-かんじる・かんがえる・つくる・つたえる-』/今井真理・植田恵理子他/保育出版社/2016/その他、授業内でプリント等を配布します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

講師として、幼稚園、保育園、こども園における、表現指導（園児・保育者・教員対象）の実務経験あり。

音楽科教育 B 2016年度以前入学者

268035BOJ

大学

心理学部

2年次

2単位 後期

金曜4限

ー

60

古庵 晶子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

子どもたちの音楽体験が、生涯にわたり音楽を愛好する心や活動に継続するきっかけとなるよう導くための知識や技術を習得できる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 歌唱共通教材の歌唱を通して音楽理論を身につける。
2. ピアノ譜の読譜の前段階として、子どもの歌の基礎的なコード奏を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出来ないことの克服のために、面倒に思っている練習を後回しにして、頑張ることができない。	最低限の課題をこなそうと取り組む者の、もう少し努力すべきだと自覚している。	ピアノや弾き歌い課題について、求められているレベルまでこなすことが出来、更なる努力をしている。	提示された課題だけでなく、音楽技能について自身に未だ不足している力を自覚し、努力を続ける。
知識・理解力	小・中学校時代の音楽の授業で習得した知識を殆ど忘れていている。	楽譜にある音符や記号などの情報を読み取る力が少し弱い。	教育現場で求められる音楽技能を理解しており、未知のことに対しては貪欲に取り組む。	幼稚園・小学校・特別支援学校のそれぞれ違う教育現場で、地震の持っている音楽技能を生かす方法を、模索している。
言語力	音楽記号や音楽用語を覚えようとしない。	最低限の音楽記号や音楽用語を理解し、歌唱教材の歌詞の持つ良さを理解している。	音楽記号や音楽用語の理解に特に不自由することはなく、歌唱教材の歌詞の内容とメロディー構成の関係を理解している。	教育現場でそれぞれの歌唱教材を扱うことをイメージで着ており、楽譜の知識を伝える言葉の使い方を考えることが出来る。

思考・解決力	課せられた課題が出来ないと、教育現場で何に困ることになるか考えることを回避している。	技能習得において、身に付いていないことがあることを、自覚しており、そのために努力している。	主要三和音を覚え、コードネームを見た瞬時に音構成を把握しながら弾くことが出来る。	主要三和音以外のコードにも興味を持ち、楽譜に表記されていない個所に、コードを当てはめて弾くことが出来る。
共生・協働する力	グループでのアンサンブル演奏に必要な練習を怠る。	アンサンブル演奏を楽しむ気持ちを持って練習することが出来る。	アンサンブル演奏において、他のパートとの音のバランスをよく聴き、演奏を良い	より良い表現のために、ブロックコードだけでなく、自主的にリズムを変えて、演奏
創造・発信力	課題を人前で弾く練習の必要性を感じていない。	保育者・教育者として技能習得の必要性を理解し、常にその意識をもって課題に取り組める。	他の表現系の授業において、本授業で得た知識と技能を十分に生かすことが出来る。	保育・教育現場における音楽の重要性を理解し、ボランティアなどの場で、自分の知識と技能を生かす方法を実践したり模索したりする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 楽譜の基礎
- 第 2 回 ハ長調の音階と主要三和音
- 第 3 回 ヘ長調の音階と主要三和音
- 第 4 回 長音程と短音程
- 第 5 回 イ短調の音階と主要三和音
- 第 6 回 完全音程と増和音と減三和音
- 第 7 回 ト長調の音階と主要三和音
- 第 8 回 三和音の種類
- 第 9 回 ニ長調の音階と主要三和音
- 第 10 回 近親調
- 第 11 回 変ホ長調とハ短調の主要三和音
- 第 12 回 ホ短調と変ロ長調の主要三和音
- 第 13 回 コードアレンジと記譜法
- 第 14 回 コード奏のテストと講評
- 第 15 回 ピアノ曲演奏のテストと講評

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業はすべてグループレッスンで行う。音楽理論の学習内容に沿って楽曲の内容を理解し、歌唱実践を行う。コード奏の基本を身に付けるためにコード奏課題を個別に確認す

る。毎回授業の初めに、前回の内容についての確認小テストを行い、最終的にはコード奏と音楽理論のテストを行う。テスト終了後に全体の講評を行い、音楽理論のテストは解答の解説をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ピアノは毎日の積み重ねが不可欠なため、自宅での練習を怠らないこと。「音楽科指導法」の授業や教育実習では、本授業で習得する以上の読譜力と演奏力を要するので、課題をひとつひとつ丁寧にこなすこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 音楽理論確認小テスト20% 楽譜浄書20% コード奏テスト50%とし、総合的に評価する。爪を伸ばしている場合と、授業と関連のない目的での携帯電話使用等、授業に集中していない行為が見られた場合は減点の対象とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

ピアノ演奏に支障が出ることに加え、将来教育者になることを自覚し、子どもへの安全の意識を強く持って、爪を伸ばさないこと。可能な限り様々なジャンルの音楽に触れておくこと。積極的な自習と質問を期待する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

早川四郎編曲・編纂：幼児の四季 秋冬の歌 (エー・ティ・エヌ)

早川四郎編曲・編纂：幼児の四季 春夏の歌 (エー・ティ・エヌ)

全国大学音楽教育学会編 音楽之友社「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡140年のあゆみ」

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》音楽講師として、幼稚園での鍵盤指導の実務経験あり。ピアノ教室を運営(指導、教材開発)

初級実験実習Ⅰ（16以前）

263028NOJ
大学
心理学部
2年次
1単位 前期
火曜2限
ー
15

※現代心理専攻必修、学校心理専攻・臨床心理専攻選択必修
松島 るみ 高井 直美 後藤 伸彦 中村 千珠

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法（仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく）に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
2. 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
3. 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのか、実験の計画・立案の方法を習得する。
4. 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
5. 刺激と反応の関係を理解する。
6. 実験条件、たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。
7. 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用を知る。
8. 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。
9. 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数（試行数）の記載方法を習得し、統計に関する基礎的知識を習得する。
10. 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理解する。
11. 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。
12. 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
0
第 2 回 信号検出（実験）
0
第 3 回 信号検出（分析）
0
第 4 回 信号検出（執筆）

- 0
第 5 回 重さの弁別閾（実験）
0
第 6 回 重さの弁別閾（分析）
0
第 7 回 重さの弁別閾（執筆）
0
第 8 回 潜在的連合テスト（IAT）（実験）
0
第 9 回 潜在的連合テスト（IAT）（分析）
0
第 10 回 潜在的連合テスト（IAT）（執筆）
0
第 11 回 大きさの恒常性（実験）
0
第 12 回 大きさの恒常性（分析）
0
第 13 回 大きさの恒常性（執筆）
0
第 14 回 合同講義（補足実験）
0
第 15 回 まとめと振り返り
0

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 4課題の実験を実施する。
2. 課題ごとの実験実習は3週にわたって行うため、担当者の実験場所が変わるので注意する。
3. レポートは、実験終了後、所定の期日までに学事課に提出する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

各実験のレポート（25%）×4回分を総合して評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・授業は実験演習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するので、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。
- ・第1回、第14回、第15回は松島が担当する。
- ・第2回～第13回については、信号検出は高井、重さの弁別閾は松島、潜在的連合テストは後藤、大きさの恒常性は中村が担当する。実験の順番はグループによって入れ替わる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『教材心理学』/木下富雄他(編)/ナカニシヤ出版/1990/4888480125/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

初級実験実習Ⅱ(16以前)

263029N0J

大学

心理学部

2年次

1単位 後期

火曜2限

ー

15

※現代心理専攻必修、学校心理専攻・臨床心理専攻選択必修
尾崎 仁美 高井 直美 後藤 伸彦 中村 千珠

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法(仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく)に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
2. 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
3. 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのか、実験の計画・立案の方法を習得する。
4. 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
5. 刺激と反応の関係を理解する。
6. 実験条件、たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。
7. 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用を知る。
8. 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。
9. 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数(試行数)の記載方法を習得し、統計に関する基礎的知識を習得する。
10. 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理

解する。

11. 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。

12. 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション

0

第2回 社会的認知(実験)

0

第3回 社会的認知(分析)

0

第4回 社会的認知(執筆)

0

第5回 錯視(実験)

0

第6回 錯視(分析)

0

第7回 錯視(執筆)

0

第8回 語の記銘(実験)

0

第9回 語の記銘(分析)

0

第10回 語の記銘(執筆)

0

第11回 鏡映描写(実験)

0

第12回 鏡映描写(分析)

0

第13回 鏡映描写(執筆)

0

第14回 合同講義

0

第15回 まとめ

0

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 4課題の実験を実施する。
2. 課題ごとの実験演習は3週にわたって行うため、担当者や実験場所が変わるので注意する。
3. レポートは、実験終了後、所定の期日までに学事課に提出する。
4. 提出されたレポートは全て添削し返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各実験課題の演習参加度とレポート (25%) × 4 課題分を総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

・授業は実験演習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するので、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。やむを得ず欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。

・第1回、第14回、第15回は尾崎が担当する。
 ・第2回～第13回については、社会的認知は後藤、錯視は高井、語の記銘は尾崎、鏡映描写は中村が担当する。実験の順番はグループによって入れ替わる。
 ・「初級実験実習Ⅱ (16以前)」履修者は、一部別実験を行う可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

心理・教育フィールド研修 a 2016年度以前入学者

265210NOJ

大学

心理学部

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期

月曜 5限

ー

15

高井 直美 薦田 未央 小川 博士 藤本 陽三

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

地域の子どもや家族と大学生が、自然素材を活用し、野外や屋内で交流する。年2回実施予定の「自然と遊ぼう！」プログラムに企画段階から関わることを通して、地域社会への能動的発信力や対人関係スキルを身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①自然科学の面白さ・不思議さを子どもに伝える力・感性を身につける ②新たな遊びを考案する創造力を養う ③他者と共同作業を行う際の協調性を身につける ④幼児・児童の心理や関わり方を実践的に学ぶ ⑤イベント情報を発信するためのスキルと作法を学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自分を成長させようとする動機づけがみられない	自分で企画を考える動機づけがある程度みられる	自分で企画を考える動機づけがおおよそみられる	自分で企画を考える動機づけがかなりみられ、積極的に行動する
知識・理解力	子どもに伝える自然科学の知識を習得しようとしな	子どもに伝える自然科学の知識をある程度持っている	子どもに伝える自然科学の知識をおおよそ持っている	子どもに伝える自然科学の知識をかなり持っている
言語力	自分の考えを文章にまとめる言語力がみられない	自分の考えを文章にまとめる言語力をある程度持っている	自分の考えを文章にまとめる言語力をおおよそ持っている	自分の考えを文章にまとめる言語力をかなり持っている
思考・解決力	企画を実現する方法を考えようとしな	企画を実現する方法をある程度考えることができる	企画を実現する方法をおおよそ考えることができる	企画を実現する方法をかなり考えることができる
共生・協働する力	グループで協力する姿がみられない	グループで協力して企画を準備することがある程度できる	グループで協力して企画を準備することがおおよそできる	グループで協力して企画を準備する際にリーダーとなる
創造・発信力	イベントの際に、自分の役割を果たすことができない	イベントの際に、自分の役割を果たす程度は果たす	イベントの際に、自分の役割をおおよそ果たす	イベントの際に、リーダーとして活躍する

〔授業計画〕

- 第 1 回 幼児と小学生の自然との関わりについて
 これまでの「自然と遊ぼう！」で行ってきたことを振り返る。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 2 回 こどもの好奇心を引き出す遊びについて
 自然科学を遊びで体験する方法を学ぶ。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 3 回 今年度のテーマについて
 テーマに応じた「自然と遊ぼう！①」の企画のイメージ作り。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 4 回 グループで企画を立てる
 グループで「自然と遊ぼう！①」の企画・実施案を検討する。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 5 回 企画の実施方法を検討
 各グループで「自然と遊ぼう！①」で企画内容の実施方法を考える。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 6 回 企画の試行1回目
 各グループで「自然と遊ぼう！①」で行う企画を試行する。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 7 回 企画の修正

- 各グループで「自然と遊ぼう！①」で行う企画を修正しながら、完成に近づける。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 8 回 企画の決定
各グループで行う、「自然と遊ぼう！①」で行う企画内容が十分か検討し、固める。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 9 回 企画の準備
各グループで「自然と遊ぼう！①」で行う企画の準備を行う。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 10 回 イベント全体の準備
他のグループの企画にも参加し、イベント全体の準備を行う。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 11 回 「自然と遊ぼう！」当日準備前半
「自然と遊ぼう！①」当日の準備（前半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 12 回 「自然と遊ぼう！」当日準備後半
「自然と遊ぼう！①」当日の準備（後半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 13 回 「自然と遊ぼう！」実施（前半）
「自然と遊ぼう！①」の実施（前半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 14 回 「自然と遊ぼう！」実施（後半）
「自然と遊ぼう！①」の実施（後半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 15 回 今後の活動に向けて反省と課題
「自然と遊ぼう！①」の振り返りと「自然と遊ぼう！②」の企画を行う。担当教員：高井・小川・藤本・薦田

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

①教員によるオリエンテーション ②グループでの自然科学体験（観察や実験など）および遊びの企画 ③参加者募集のチラシ作成 ④実施の準備 ⑤「自然と遊ぼう！」の実施 振り返りとショートレポート（授業参加態度の評価について、最終週にフィードバックを行う）

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

身近な自然（草木花、木の実、昆虫、自然現象など）に興味を持ち、観察や実験を行う。

自然物や身近なものを使った造形遊びやゲームのアイデアを広げる。

身近にいる子どもに関心を持ち、どのくらいの年齢の子どもがどのような行動をするか、何に興味を示すのか、しっかりと観察する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度80%、ショートレポート20%

〔留意事項（Other Information）〕

「自然と遊ぼう！」イベントは、地域のこどもたちに大学に来てもらって行う。ある一日（7月頃を予定）の日曜日で4

コマを充てる（その分、通常の授業時間が4コマ休講となる）。1回目の授業や掲示で、日曜日の実施日を確認したうえで、登録を確定すること。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

小川・藤本：教員として学校に勤務経験あり。

心理テスト実習

263018N0J

大学

心理学部

1年次

1単位 前期

金曜 2限

ー

15

臨床心理専攻必修

村松 朋子 茅野 綾子 鶴田 薫 福山 幸子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目では、臨床心理の実践現場で用いられている心理テストを被検者として実際に受検することを通して、心理テストについて体験的に学ぶ。体験後はレポートを作成し、被検者として感じた事柄を言葉にし文章としてまとめていくことで、心理テストについて理解を深めていく。一部の実習では、受講生ペアが検査者および被検者となり、ロールプレイ形式で実習を行うことがある。こうした体験学習を通して、検査者の役割や姿勢についても理解するとともに、心理テストに関する倫理感覚の基礎を養っていく。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

質問紙法、作業検査法、投映法の中から、性格、認知の特性、対人関係のあり方をはかる心理テストの実習を行う。各テストの目的を理解するとともに、実施方法、結果の整理の仕方、分析・解釈の方法について学ぶ。また、検査者の役割や姿勢、心理テストを行う上で注意すべき点についても、体験を通して学んでほしい。

検査結果を自己理解を深める形での考察を試みること。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
レポートの体裁	心理テスト演習のレポートの基本的な構成がなされていない	レポートの基本的な構成で正しく書かれている	構成の正確さだけでなく、表現方法が適切である	構成の正確さ、表現方法だけでなく、レイアウトまで完成されている

結果に関する記述	結果に関する記述がない	記入漏れの結果があり	記述すべき結果が多向け記入されている	結果の説明があり、考察につながっている
考察に関する記述	心理検査の感想にとどまっている	結果を繰り返し述べているだけである	解釈が概ねされているが、主観的推論がほとんどである	結果の解釈について、先行研究や文献にも触れ総合的に書かれている
文献に関する記述	引用・参考文献が書かれていない	文献の記載はあるが、表記方法が適切ではない	レポートに含まれる文献を不足なく記述している	引用方法、引用箇所との対応、表記方法が適切である

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (村松)
授業の進め方とグループ分けについて
- 第 2 回 質問紙法による心理テスト① (茅野)
YG性格検査
- 第 3 回 質問紙法による心理テスト② (茅野)
TEG
- 第 4 回 質問紙法による心理テスト③ (茅野)
質問紙レポートの書き方
- 第 5 回 作業検査法による心理テスト① (村松)
ベンダーゲシュタルト・テスト
- 第 6 回 作業検査法による心理テスト② (村松)
内田クレペリン精神作業検査
- 第 7 回 作業検査法による心理テスト③ (村松)
作業検査法レポートの書き方
- 第 8 回 投映法による心理テストA① (鶴田)
PFスタディ 検査体験
- 第 9 回 投映法による心理テストA② (鶴田)
PFスタディ スコアリング
- 第 10 回 投映法による心理テストA③ (鶴田)
PFスタディ解釈とレポートの書き方
- 第 11 回 投映法による心理テストB① (福山)
描画法 バウムテストの施行法
- 第 12 回 投映法による心理テストB② (福山)
描画法 バウムテストの解釈
- 第 13 回 投映法による心理テストB③ (福山)
描画法 バウムテストのレポートの書き方
- 第 14 回 合同講義
その他の投映法の紹介
心理検査の実践におけると守秘義務、インフォームドコンセントについて (村松)
- 第 15 回 まとめ (村松)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 受講生はグループに分かれて、合計4つの実習を行う。実習ごとに担当教員が交代し、それぞれの指導を受ける。1つの実習は、3週間連続して行う。
2. 遅刻、欠席は実習の妨げになるため、厳禁である。欠席すると、その実習レポートの評価を受ける資格がなくなるので、注意すること。
3. 各実習終了後は、レポートが課される。担当教員の指示に従って、所定の期日までに学事課に提出する。
4. 配布された資料や返却されたレポートは、次年度以降も参考にできるようにきちんとファイリングして、保存しておくこと。
5. テキストは使用しない。教材・資料は、実習ごとに適宜、配布や貸し出しを行う。参考文献についても、実習ごとに適宜、指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 各心理テストについて、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 1年次前期「心理テスト入門」の受講者は、その授業内容を復習しつつ授業に臨むこと。
3. 返却されたレポートを見直し、文章やレポートの書き方を習得しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各実習のレポート得点を総合して評価を行う (各実習の評価25点満点×4)。ただし、オリエンテーション、合同講義、および、各実習における欠席・遅刻は、指導の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

・1回目のオリエンテーションと14回・15回目の合同講義・まとめの授業は、全員で行う。グループ分けや各実習の教室等については、1回目のオリエンテーションの際に伝達する。

・複数のグループに分かれて実習を行うことから、実習の順序は上記と入れ替わることがある。

・本授業は実習科目なので、実習である授業に参加することが大前提となっている。ゆえに、教育実習や就職活動などで、欠席する場合は、担当教員にその旨申し出て、実習の代替策を担当教員と相談し、各自が責任を持って対応すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習Ⅱ 2016年度以前入学者

269015A0J
大学
心理学部
4年次
4単位 集中
その他
ー
60
(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習Ⅰで学習した内容を踏まえ、卒業論文の作成に取り組む。基礎文献の探索と理解及びまとめ、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習と実施、収集したデータの分析と考察など、その分野の特徴を活かした個別指導により、卒業論文の完成を目指す。

1. 適切に研究を遂行することができる
2. 卒業論文を執筆することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、卒業研究に取り組む熱意や態度を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

0

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

卒業研究

269013A0J
大学
心理学部
4年次
8単位 集中
その他
ー
必修 クラス指定
(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学部における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業研究として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

0

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように

表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

中級実験実習

263032NOJ

大学

心理学部

3年次

1単位 前期

木曜 3限

ー

15

初級実験実習Iまたは初級実験実習II※平成25年度以後入学者に適用

臨床心理専攻選択必修

廣瀬 直哉 後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

初級実験実習等で学んだ心理学実験に関する基礎知識をもとに、実験・観察・調査の企画から実施、データ分析、発表・レポートの作成までの一連の研究プロセスを体験的に学習する。受講生はいくつかのグループに分かれ、各グループで研究テーマを設定して、実験計画や刺激素材の作成、実験・観察の設定、質問紙の作成などを主体的に行い、実験法・観察法・調査法によりデータを収集し、分析を行い仮説を検証する。これらの過程を通じて、卒業研究・卒業論文において自ら研究が行えるだけの研究の基礎能力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関連する文献を収集し、内容を整理する
2. 目的・仮説に沿って、研究計画を立てる
3. 実験・観察・調査を実施し、データを収集する
4. データ分析を行い、考察としてまとめる
5. 研究発表を行う
6. レポートを執筆する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したりすることができない。	主体的に研究計画を立てて実行することができる。	レベル2に加えて、研究成果をまとめて発信することができる。	卒業研究と同等の研究計画の立案・実施・成果発表を行うことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 2 回 グループ分けと研究の進め方
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 3 回 研究テーマの選定
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 4 回 関連文献の収集と整理
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 5 回 研究計画と仮説の立案
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 6 回 実験・観察・調査の準備
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 7 回 中間報告
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 8 回 実験・観察・調査の実施
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 9 回 データ入力
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 10 回 基礎集計
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 11 回 検定と多変量解析
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 12 回 結果の解釈と考察
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 13 回 研究発表の準備
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 14 回 研究発表
担当 (廣瀬・後藤)
- 第 15 回 レポートの作成
担当 (廣瀬・後藤)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

演習室において、グループに分かれて実習・演習形式で行う。グループでの作業が中心となるため、積極的な関与が求められる。

課題等のフィードバックは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示を行う他、各グループで決めた課題を期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (20%)、成果発表 (50%)、レポート (30%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

1,2回目の授業には必ず出席をすること。連絡なく欠席した場合は研究グループに所属できず、単位の取得ができない場合があるので注意すること。

グループでの活動を行うため、**毎回の出席が必須**である。どうしても欠席せざるを得ない場合は必ず連絡すること。必須の履修要件ではないが、推測統計学Ⅰ・Ⅱを習得済みであることが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育概論

265031NOJ
大学
心理学部
2単位 後期
木曜 2限
ー
90
石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少子化、親の子育てのあり方、社会状況等、現在の幼児を取り巻く現状は大きく変化しつつある。そこで、わが国における保育の変遷と幼稚園や保育所、家庭の状況を確認しながら、幼稚園や保育所の果たすべき役割や保育を担当する保育者としての役割について理解する。具体的には、幼稚園・保育所の教育・保育の基本や役割、乳幼児期の発達特性、幼児理解、教育課程・保育課程と指導計画、指導・援助、保育内容の変遷などについて学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 幼稚園や保育所の教育・保育の基本と役割等について学ぶ。
2. 乳幼児期の発達特性、幼児理解、教育課程・保育課程と指導計画、指導・援助などについて学ぶ。
3. 乳幼児教育の重要性を認識するとともに考察をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	5領域を視野に入れた保育内容について興味がない	5領域を視野に入れた保育内容について興味をもち、内容を理解しようとする	5領域を視野に入れた保育内容について理解できる	5領域を視野に入れた保育内容について理解し、具体的な保育のイメージをもつ
知識・理解力	幼児理解や援助方法、保育評価などを理解できない	幼児理解や援助方法、保育評価などの基礎的な内容を理解できる	幼児理解や援助方法、保育評価などの具体的な内容を理解できる	幼児理解や援助方法、保育評価などの具体的な内容を理解し、課題について考えることができる
言語力	保育内容に関する専門用語について理解できない	保育内容に関する専門用語について、内容をある程度理解できる	保育内容に関する専門用語について、内容を理解して使用できる	保育内容に関する専門用語について、内容を理解し、説明したり、使用したりできる
思考・解決力	幼児理解を踏まえた指導計画を理解できない	幼児理解を踏まえて、指導案作成の基礎事項に合わせて書くことができる	指導計画を立案するために、幼児理解、環境構成、保育者の援助の基本を理解し、指導案を作成できる	幼児理解からねらいを立て、活動の展開や環境構成、保育者の援助を検討し、指導案作成ができる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	妙矢野意見を受け入れ、参考にする	考えたことや意見を周囲の人と共有する	レベル3に加え、文献により、自分の考えを深める
創造・発信力	自分の意見を話さない	保育の多様な展開について、自分の意見を発言することができる	保育の多様な展開について、自分の考えをまとめたり発言したりすることができる	レベル3に加え、保育の多様な展開について、具体的な保育場面をイメージして、意見をまとめたり、発言したりすることができる

〔授業計画〕

第 1 回 保育内容とは、保育の一日と保育内容

第 2 回 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」と保育内容

第 3 回

	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」と保育内容
第 4 回	保育内容 5 領域と「育みたい資質・能力」
第 5 回	保育内容と子ども理解(1)子どもの発達の特性と保育内容
第 6 回	保育内容と子ども理解(2)個と集団の発達と保育内容
第 7 回	保育内容の展開(1)養護と教育が一体的に展開する保育
第 8 回	保育内容の展開(2)環境を通して行う保育(3)遊びによる総合的な保育
第 9 回	保育内容の展開(4)生活や発達の連続性に考慮した保育
第 10 回	保育内容の展開(5)家庭・地域・小学校との連携を踏まえた保育
第 11 回	指導計画：教材研究と指導案作成
第 12 回	指導計画：模擬授業と評価
第 13 回	保育内容の歴史的変遷
第 14 回	保育の多様な展開(1)乳児保育 (2)長時間の保育 (3)特別な支援を必要とする子どもの保育 (4)多文化共生の保育
第 15 回	形成テストとまとめ
	〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
	実施しない
	〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
	・講義形式で進めていくが、適宜、演習を取り入れる。
	・資料配布やパワーポイントによる資料提示を進める。
	・最終授業で形成テストを実施するとともに、授業全体のフィードバックを行う。
	〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
	・事前に、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでおくこと。
	・授業終了後、次回授業前には、前回資料を基に復習をすること。
	〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
	30
	〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
	授業参加度(10%)、授業時の課題と課題提出(20%)、形成テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。
	〔留意事項 (Other Information)〕
	〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』/民秋 言編/萌文書林/2017 年/9784893472540/学内販売をしない予定
	〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
	『保育内容総論』/谷田貝公昭・石橋哲成 監修/一藝社/2017 年 /9784863591172
	〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
 ≪実践的科目≫ 有資格者として保育園での勤務経験あり。

保育内容指導法 (健康) 2016年度以前入学者

268048N0J
 大学
 心理学部
 3年次
 2単位 前期
 金曜 1限
 ー
 60
 石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

領域「健康」に関する内容をとおして子どもの心身の健康について理解し、保育実践の場で配慮すべき事柄について学習する。そのために、心身の発育や発達、運動遊びの意義、安全管理、基本的生活習慣の形成など、健康に関する基礎的事項について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの心身の発育・発達についての基礎理論・知識について学ぶ。
2. 子どもの健康問題や事件・事故について学び、予防をするための知識を深める。
3. 運動遊について学び、安全に配慮した計画・運営ができるようになる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (身体と健康)
- 第 2 回 領域「健康」がめざすもの
- 第 3 回 乳幼児の健康
- 第 4 回 乳幼児の発達理解
- 第 5 回 乳幼児の心身の発育・発達
- 第 6 回 乳幼児のあそびの発達と健康
- 第 7 回 乳幼児の体格・運動能力の現状と問題
- 第 8 回 乳幼児の生活スタイル
- 第 9 回 安全教育と安全管理、応急処置
- 第 10 回 乳幼児の運動機能の発達と運動遊びの意義
- 第 11 回 運動遊びの計画と準備
- 第 12 回 運動遊びの実践 (道具を使用しない遊び)
- 第 13 回 運動遊びの実践 (道具を使用する遊び)
- 第 14 回 実践の省察と体育的行事
- 第 15 回 本授業での学びの振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 子どもの身体能力・運動能力の様子が分かる映像等を用いて授業を進める。
2. 保育実践力を培うため、運動遊びの計画・実践を行う。
3. 資料等は、授業中に適宜配布する。
4. 講義、ディスカッション、実技など、様々な方法で授業を進める。
5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 日頃から「子どもの健康」や「子どもを取り巻く事件・事故」といったキーワードに関心を持ち、新聞・テレビ等で情報収集しておくこと。
 テキストを使用するので、次の講義内容について熟読すること。
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
 15
 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
 成績評価は、授業参加度・授業態度 (30%)、ノート (30%)、小テスト (40%)
 〔留意事項 (Other Information)〕
 運動遊びの実践は、運動できる服装 (ジャージ、体育館シューズ等) で参加すること。
 講義内容が前後する場合がある。
 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
 0
 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
 『幼稚園教育要領解説』//フレーベル館//
 『保育所保育指針解説書』//フレーベル館//
 『保育内容 健康<新版>』/民秋言・穂丸武臣編著/北大路書房//
 〔参考URL(URL for Reference) 〕
 0
 〔実務経験のある教員による実践的科目)〕
 0

保育内容指導法 (人間関係) 2016年度以前入学者

268049N0J
 大学
 心理学部
 3年次
 2単位 後期
 火曜3限
 ー
 60
 集中
 田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕
 幼児期における人間関係の発達の特徴と課題、その発達の援助に携わる教師の役割と方法を理解して、幼児の自立心と人とのかかわる力を養えるようになる。
 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕
 ・領域「人間関係」のねらいや内容について学ぶ。
 ・領域「人間関係」にかかわる指導計画を作成して模擬保育をする。
 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

思考・解決力	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解できていない。	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解できてい	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解し、深く洞察することができている。	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解し、深く洞察することができているとともに、それらについての自分自身の課題意識を持つことができている。

〔授業計画〕
 第 1 回 領域「人間関係」とは
 第 2 回 保護者との愛着形成
 第 3 回 言葉の獲得と人間関係
 第 4 回 教師との信頼関係
 第 5 回 友達とのかかわりのはじまり
 第 6 回 葛藤関係と道徳性の芽生え
 第 7 回 地域社会とのかかわり
 第 8 回 規範意識の芽生え
 第 9 回 協同性の育ち
 第 10 回 協同性を育む教師の役割
 第 11 回 幼小接続期の課題
 第 12 回 領域「人間関係」にかかわる教材研究
 第 13 回 領域「人間関係」にかかわる指導計画の作成
 第 14 回 模擬保育
 第 15 回 領域「人間関係」の今日的課題
 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート)〕
 定期試験に替わるレポートを提出。
 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
 講義と演習を中心に行う。幼児期における人間関係の発達の特徴、教師に求められる援助の視点や方法を理解する。毎回書いてもらうミニレポートは、次回の授業の中でコメントする。
 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 復習を中心とする。自分自身が他者どのような関係を紡いできたかを省察してほしい。また、現代の社会における人と人とのかかわりのあり方について普段から意識して考察してほしい。
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
 30
 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
 定期試験に替わるレポート (50%)、ミニレポート・指導案・模擬保育等 (50%) にもとづいて評価する。
 〔留意事項 (Other Information)〕
 授業の状況に応じて、授業予定の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』/文部科学省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社/2017/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床相談実習

265096N0J

大学

心理学部

2単位 前期

金曜 3限 その他

ー

30

鶴田 薫 福山 幸子 佐藤 睦子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理カウンセリングにおける技法を体験的に学ぶ。具体的には、受講者は、カウンセリング、集団療法、プレイセラピーの3演習を順に体験する。実際に体験することを通して、各技法の特徴を体験的に理解するとともに、各技法を用いる上でどのような事柄に留意する必要があるのか、留意点や危険性についても学んでいく。各技法を体験した後は、グループでの振り返りや演習終了後のレポート課題において、体験を言葉にしたり、学んだ事柄を整理していくことで、さらに学びを深めていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理カウンセリングにおける技法を体験的に学ぶ。
2. 各技法を用いる上で留意点や危険性について、体験的に学ぶ。
3. グループでの振り返りやレポート課題において、体験を言葉にしていくことを通して、学びを深めていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション (佐藤・鶴田・福山)
 - 第2回 カウンセリング (学生相談) (鶴田)
 - 第3回 カウンセリング (“聴かない”実習) (鶴田)
 - 第4回 カウンセリング (医療機関) (鶴田)
 - 第5回 カウンセリング (教育相談) (鶴田)
 - 第6回 集団療法 (第一印象) (福山)
 - 第7回 集団療法 (情報を伝える/わかちあう) (福山)
 - 第8回 全体演習 (佐藤・鶴田・福山)
 - 第9回 集団療法 (情報を共有する) (福山)
 - 第10回 集団療法 (共感する) (福山)
 - 第11回 プレイセラピー (プレイセラピーとは) (佐藤)
 - 第12回 プレイセラピー (制限と枠) (佐藤)
 - 第13回 プレイセラピー (ロールプレイ①:実際に遊ぶ) (佐藤)
 - 第14回 プレイセラピー (ロールプレイ②:セラピーを受ける) (佐藤)
 - 第15回 まとめ (佐藤・鶴田・福山)
- ※グループごとに3つの演習を順に行っていくため、演習の順序はグループによって異なる。上記は1グループを例にとったものである。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

演習形式。1つの演習は3回かけて行う。#1のオリエンテーションのち、受講生は4グループに分かれ、3つの演習を順に行っていく。#8は全体演習、#15はまとめの授業を行う。各演習終了後は、演習ごとにレポート課題を課し、それに対して担当教員がコメントをつけて返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各演習前に、その演習のテーマに関して復習や下調べをしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習形式の授業のため、全回の出席が前提である。原則として欠席および遅刻は認めず、全回出席をもって単位認定の基本条件とする。その上で、演習での取り組みの姿勢(50%)、グループごとに課されるレポートの内容(50%)から、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 体験的な学びの場であるため、自分自身、そして他の受講生の体験を尊重し、大切に扱う心構えで臨むこと。
2. 各演習の担当者は、カウンセリングが鶴田薫、集団療法が福山幸子、プレイセラピーが佐藤睦子である。
3. 心理カウンセリングの技法を実際に体験するため、場合によっては、個人の問題に直面するなどして、精神的な負担が生じることも考えられる。演習に臨む上で特に心配な事柄がある場合、また、万が一、そのような状況に陥った場合には、担当教員に相談してほしい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 全担当教員について、心理専門職として施設での勤務経験あり。

介護等体験 B

TEA2861N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次

1単位 集中

その他

15

集中 中学校免許取得者に必要

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援学校や社会福祉施設における介護等の体験を通じて、学生自らが個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図ることを目的としている。また、障害のある児童生徒や、支援を必要としている人とのふれあいを通して、お互いを尊重し、思いやりの心を育み、共に生きる社会の原動力になれることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 介護等体験の制度とその趣旨について理解し、手続きを適切に行う。
- (2) 体験にあたっての心構えや体験先でのマナーについて社会人基礎力の観点も踏まえて理解する。
- (3) 特別支援学校における介護等体験の実際について理解する。
- (4) 社会福祉施設における介護等体験の実際について理解する。
- (5) 特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、介護等の体験を行う。
- (6) 体験を振り返り、教職を目指す者としての自覚を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	教職について自らの目的意識を持ち、学ぶことができる。	教職に就くにあたり目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	将来教職に就く者として、何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしな	教職に関して学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのか	教職に関して学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席しているだけで、教職に就く者として、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	教職に関する自分の学びを振り返り、考えることができる。	教職に関して新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、教職に関する協働の活動等に積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 事前指導：介護等体験の制度と趣旨、申込手続きについて
- 第 2 回 事前指導：介護等体験にあたっての心構え (上級生の体験発表)
- 第 3 回 事前指導：アイマスクを使った体験、車椅子の介助方法
- 第 4 回 事前指導：体験日誌の記入について
- 第 5 回 事前指導：特別支援学校における介護等体験
- 第 6 回 事前指導：社会福祉施設における介護等体験 (ゲストスピーカーによる講義)
- 第 7 回 事前指導のまとめ
- 第 8 回 特別支援学校における介護等体験 1日目
- 第 9 回 特別支援学校における介護等体験 2日目
- 第 10 回 社会福祉施設における介護等体験 1日目
- 第 11 回 社会福祉施設における介護等体験 2日目
- 第 12 回 社会福祉施設における介護等体験 3日目
- 第 13 回 社会福祉施設における介護等体験 4日目
- 第 14 回 社会福祉施設における介護等体験 5日目
- 第 15 回 事後指導：体験の振り返り
各自の体験レポートを小グループで発表し合い、学んだことを共有する。その後、全グループの体験概要を共有することで、教職を目指す者としての自覚を深める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1.事前指導は講義を中心とするが、適宜演習等も取り入れる。
- 2.事後指導ではグループ討議等を行う。
- 3.毎講義後レポート提出を義務づけている。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・事前指導までにテキストを必ず読んで予習しておくこと。
- ・教育現場で必要と思われるルールやマナーを、学生としてではなく、将来教職に就く者として、日頃から守るよう心がけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

学生としてではなく、社会人基礎力を身につけた、将来教職に就く者として、ルーブリックに示す項目から総合的に評価する。

毎回のレポート40% 個別課題(1)(2)(3)(4)に対応
 日誌20%、報告書20% 個別課題(3)(4)(5)に対応
 グループワークへの参画や発表をルーブリックに示す視点から総合的に評価20% 個別課題(3)(4)(6)に対応

〔留意事項 (Other Information)〕

- 1.学生便覧の教育職員免許状取得に関するページ(「はじめに」は必読)を熟読しておくこと。
- 2.正当な理由なく欠席することは認めない。また、ルーブリックに示したように、出席していても、受講態度等が欠席等と同様と考えられる場合(例:出席しているが席で寝ていて講義等に参加していない。教員の指示がない場面で長時間スマホ等を操作している。離席が多い等)は欠席等とみなす場合がある。
- 3.学生便覧に書かれている通り、卒業後、教職に就くことを希望する者が教育職員免許状を取得するのが原則である。そのことを理解していることを前提に、事前指導において申込書・誓約書の提出を求める。
- 4.4年次生は、体験時期が2月以降になった場合、単位認定できないことがある。
- 5.特別支援学校と社会福祉施設の目的や事業内容について事前学習を行い、体験に向けて目標を設定すること。
- 6.提出物の期限を守ること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『介護等体験ガイドブック フィリア [新学習指導要領(平成29年公示)版]』/全国特殊学校長会編/ジアース教育新社/2018/9784863714472/学内販売予定

『第5班 よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック』/増田雅暢・浦野正男・櫛田匠他/社会福祉法人全国社会福祉協議会/2018/9784793512773/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『介護等体験マニュアルノート』/東京都社会福祉協議会/東京都社会福祉協議会/2012/4863530447

『介護等体験の手引き』/徳田克己、名川勝編/協同出版/2002/4319110269

『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』/現代教師養成研究会編/東京大修館書店/2008/9784469266702

〔参考URL(URL for Reference)〕

社会人基礎力 経済産業省

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

学校経営と学校図書館

TLI2800N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 1限

ー

60

西尾 純子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校図書館の教育的意義や経営、その現状について総合的に学習する。

また、学校図書館の管理・運営にあたる司書教諭の任務と役割について、学校司書や公共図書館、地域との連携についても触れる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学校図書館の意義と役割
2. 学校図書館の機能
3. 司書教諭の使命

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、学校図書館の現状
- 第 2 回 学校図書館の歴史
- 第 3 回 教育行政・教育課程と学校図書館
- 第 4 回 学校図書館の制度・法規・基準
- 第 5 回 学校経営と学校図書館
- 第 6 回 メディアセンターとしての学校図書館
- 第 7 回 学校司書
- 第 8 回 学校図書館メディアの構成
- 第 9 回 学校図書館メディアの管理
- 第 10 回 学校図書館の施設・設備
- 第 11 回 学校図書館活動の対象と領域
- 第 12 回 学校図書館活動の内容と方法
- 第 13 回 地域と学校図書館の連携
- 第 14 回 学校図書館の評価と改善
- 第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しませんが、原則として2/3以上出席し、授業内で出した課題をすべて提出した学生を評価の対象とします。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

履修する学生の理解度などを見て、授業計画を変更する場合があります。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

科目理解のために、参考文献を活用してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度(30%)、発表(20%)、小テスト・レポート(50%)
小テスト・レポートでは、授業で習得した知識・技術などを評価の対象とします。次回授業で、全体に対してフィードバックを行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

教職課程履修者に限る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『学校経営と学校図書館、その展望 改訂版』/北克一/青弓社/2009/9784787200433

『学校経営と学校図書館 (シリーズ学校図書館学 1巻)』/全国学校図書館協議会編/全国学校図書館協議会/2011/9784793322426

『学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』/全国学校図書館協議会編/全国学校図書館協議会/2012/9784793300875

『学校経営と学校図書館』/野口武悟 他/放送大学教育振興会/2013/9784595314513

『学校経営と学校図書館(司書教諭テキストシリーズII)』/中村百合子 他/樹村房/2015/9784883672516

『学校図書館への研究アプローチ (わかる! 図書館情報学シリーズ 4)』/日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版/2017/9784585205043

発展的な学習のために、参考文献を手元に置いて勉強してください。

その他、授業の進度にそって適宜紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》図書館司書として専門図書館での勤務経験あり。

学校図書館メディアの構成

TLI2850N0J
大学
教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)
2年次 3年次 4年次
2単位 後期
火曜 4限
—
60
米谷 優子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校図書館が、「学習センター」「情報センター」「読書センター」として、その機能を発揮していくには、教育課程の展開や読書活動に必要な情報資源 (学校図書館メディア) が具備され、それらが児童生徒ならびに教職員等の利用者にわかりやすく提供される必要がある。本科目では、学校図書館の情報資源の種類と特性ならびにその選択・収集・管理について基本的内容を学習するとともに、学校図書館メディアを利用しやすくするための工程である組織化についての理解を深め、実践力を養成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 学校図書館に備えるべき情報資源・資料について、その種別・特性ならびに、選択・収集・管理の基本的な内容を学習する
- 2) 学校図書館メディアの組織化の意義を理解したうえで、分類・件名の付与及び目録作成の作業を実習する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション／学校図書館の機能と司書教諭の役割
- 第 2 回 学校図書館と情報メディア
- 第 3 回 学校図書館メディアの種別とその特性
- 第 4 回 学校図書館メディアの蔵書構築
- 第 5 回 学校図書館メディアの収集・選択
- 第 6 回 学校図書館メディアの組織化
- 第 7 回 主題索引法の基礎 (分類法・件名法)
- 第 8 回 日本十進分類法

- 第 9 回 分類の実際
 - 第 10 回 件名法とsoの実際
 - 第 11 回 分類・件名演習
 - 第 12 回 目録の意義と目録規則
 - 第 13 回 目録作成の実際
 - 第 14 回 学校図書館メディアの管理・運用
 - 第 15 回 理解度確認試験とまとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に、組織化に関しては演習も適宜設定する。授業外課題を課すこともある。課題は個別に添削して返却、または全体に解説、のいずれかの方法でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

図書館を利用し、図書館資料やその提供の仕方等をよく観察しておくこと。

参考文献には積極的に目を通して、学校図書館を総合的・立体的に理解するよう努めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験70% 課題提出20% 授業参加度10%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は、理解度その他の理由により、変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『学校図書館メディアの構成 改訂新版』/北克一/平井尊士/放送大学教育振興会/2016/9784595316517/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫(中学校司書教員)

実務経験を活かして、学校・学校図書館の現場に沿った、学校図書館のテクニカルサービスについて解説する

学習指導と学校図書館

TLI2801N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜 3限

ー

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校図書館は、学校における教育・学習の重要な支援機関である。具体的には、どのような支援を行うのか、また、情報の溢れる現代社会の中で新たにどのような役割が求められるようになるのかを学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学校教育・子どもの学習において学校図書館が果たす役割を学ぶ。
2. 現代社会において求められる情報リテラシーの獲得に、学校図書館がどのような支援を行うことができるかを米国の学校図書館基準などをもとに考察する。
3. 学校図書館を活用する教科学習の具体案を作成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学校図書館に関する知識・理解	学校図書館の機能について知らない。	学校図書館の基本的な機能について理解している。	学校図書館が学習支援にどのような役割を果たすか知っている。	学校図書館が学習情報センターとして機能するための具体的な方法を知っている。
学校教育に関する知識・理解	学校教育について基本的な知識がない。	学習指導要領や学校教育におけるカリキュラムについて知っている。	レベル2に加え、学習理論や情報探索プロセスモデルについて基本的なことを理解している。	レベル2・3に加え、学校図書館が学習支援を行うための具体的な方法を知っている。
レファレンスサービスに関する力	情報探索において、どの資料を使えばよいかわからない。	クイックレファレンスをする力がある。	適切で十分な資料を使って、情報探索を行うことができる。	情報探索の方法を児童生徒に指導する方法を知っている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. 学校教育の支援機関としての学校図書館
- 第 2 回 2. 『学習指導要領』にみる学校図書館
- 第 3 回 3. 探求的な学習の理論と図書館の情報資源
- 第 4 回 4. 学習指導における問題の設定

- 第 5 回 5. 情報リテラシーと探求的な学習(1)
探求的な学習のモデルと情報探索法の指導
- 第 6 回 5. 情報リテラシーと探求的な学習(2)
探求的な学習成果の評価と図書館資料の活用
- 第 7 回 6. レファレンスサービスによる学習支援(1)
(演習) 基本問題
- 第 8 回 6. レファレンスサービスによる学習支援(2)
(演習) 応用問題
- 第 9 回 7. パスファインダーの作成(1) (演習) 解説・作成
- 第 10 回 7. パスファインダーの作成(2) (演習) 作成・発表
- 第 11 回 8. 教職員のための学校図書館活用へのアプローチ
- 第 12 回 9. 学校図書館を活用する教科学習の具体案
(課題の作成・発表を含む)
- 第 13 回 10. 討論やディベートの準備における図書館情報資源の活用 (演習)
- 第 14 回 11. 探求的な学習成果の評価と図書館の情報資源の活用
- 第 15 回 12. 内容理解確認と振り返り

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 講義・課題発表を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。
3. 学校図書館の具体的な活用方法を考え、実際に計画を立ててみる。
4. テキスト・プリント・ビデオ等を利用する。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. テキストや提示する教材にあらかじめ目を通してくる。
2. 教科学習と学校図書館との関わりについて自分の考えを構築する。
3. 各学習項目についての具体的な準備学習の方法は授業中に提示する。
4. 授業中の課題については、その場で口頭によるフィードバックをする。筆記試験については終了後manabaで講評を行う。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

筆記試験60% (第15回に実施)、授業中の課題及び提出物40%とし、その合計で評価する。

[留意事項 (Other Information)]

ゲスト講師による授業を行うこともある。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『学習指導と学校図書館』/齋藤泰則/樹村房/2016//学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

上記以外は授業中に紹介

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

≪実践的科目≫

非常勤調査員として国立国会図書館における勤務経験あり。国際図書館連盟学校図書館部会常任委員として、学校図書館の国際ガイドライン改訂等に従事。

教育相談の理論及び方法

TEA2851N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 前期集中

その他

—

60

カウンセリングに関する基礎的な知識を含む

山本 健治

[科目の教育目標 (Course Description)]

不登校、いじめ問題等、学校教育現場には児童生徒が抱える様々な課題が山積している。そこであらためて教育相談の重要性を認識し、その理論や技法を学ぶことを通してこれらの問題行動や抱える発達課題についての理解を深めることを目指す。また、児童生徒への関わり方はもとより、保護者やスクールカウンセラー等との連携の在り方について学ぶことをねらいとする。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 教育相談の基礎 (意味と意義) を知る。
2. カウンセリングの理論・技法を知る。
3. 様々な問題行動の理解と対応を学ぶ。
4. ロールプレイング等の体験を通しての実践力を身につける。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

[授業計画]

- 第 1 回 学校における教育相談とは
学校における教育相談に関する基本的事項について
- 第 2 回 カウンセリングとは
教育相談のベースとなるカウンセリングの基本的な考え方について
- 第 3 回 来談者中心療法の考え方
来談者中心療法の考え方について
- 第 4 回 精神分析的カウンセリングの考え方
精神分析的カウンセリングの考え方について
- 第 5 回 行動療法の考え方
行動療法の考え方について

- 第 6 回 ロールプレイング I (聴き方)
児童生徒及び保護者等への聴き方に関するロールプレイングについて
- 第 7 回 紙上応答訓練 (事例)
具体的相談事例に対する紙上応答訓練について
- 第 8 回 不登校の理解と対応
不登校の理解と対応について
- 第 9 回 家庭内暴力の理解とその対応について
家庭内暴力の理解とその対応
- 第 10 回 神経症的な問題の理解とその対応
自傷行為等神経症的な問題の理解とその対応について
- 第 11 回 いじめ問題の理解とその対応
いじめ問題の理解とその対応について
- 第 12 回 反社会的な行動の理解とその対応
非行等反社会的な行動の理解とその対応について
- 第 13 回 発達障害の理解とその支援
自閉症スペクトラム障害等の発達障害の理解とその支援について
- 第 14 回 教員とスクールカウンセラーとの連携
児童生徒の問題行動に対する教員とスクールカウンセラーとの連携について
- 第 15 回 保護者支援と関係機関との連携・総括
保護者支援と関係機関との連携・総括について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義には適宜、資料、VTR等の活用を取り入れることにより視覚を通した学びを提供する。またロールプレイングや紙上応答訓練等の演習を取り入れ、より実践的な学びができるように工夫する。あわせて適宜、ミニレポートの課題を課し、その授業時間で学んだ事がらについて自らの考えをまとめる機会も設ける。

ロールプレイングや紙上応答訓練の課題では、受講者間のシェアリングや全体へのフィードバックも行う。また、ミニレポートの課題についても、個々の受講者へのフィードバックとあわせて全体に対してもフィードバックを行い、学びを共有するようにする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義に際し、具体的な事例を扱うが、その際には事前に事例と事例考察記入用紙を配付するので、事例を熟読し考察記入用紙に自らの考えを記入した上で、授業時に持参すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験にかわるレポート (50%)、授業の参加度 (30%) 及び平常評価 (20%) で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『よくわかる教育相談』/春日井敏之・伊藤美奈子編/ミネルヴァ書房/2011/9.784623058785E12

『学校カウンセリングの考え方・進め方』/樺澤徹二/金子書房/2003/476082314X

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

臨床心理士として教育相談機関で教育相談及びコンサルテーションに従事した経験有り。

臨床心理士養成大学院大学院生及びいのちの電話相談員へのスーパーバイザー経験有り。

大学院でWISCIV及びK-ABCIIなどの心理検査科目の担当経験有り。

国語科教育法 I

TEA2810NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜 3限

ー

60

国語科必修

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

中等教育における国語科教育の目標及び内容について学習指導要領を理解し、国語科の授業を担当するための知識や教材研究の方法、学習指導の方法を習得することを目標とする。また、授業の構成や評価を意識した模擬授業を実践する力を養い、教職に必要な職業意識や態度を身につけることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中学校・高等学校国語科学習指導要領について理解する。
2. 教材研究の方法について理解する。
3. 学習指導案の作成についての基本的な知識や方法を理解する。
4. 模擬授業を行い、学習指導や評価の方法について基本的な知識や方法を理解する。
5. 国語科教員に求められる基本事項を学び、教職に必要な職業意識や態度を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つ	授業に主体的に臨み、課題を進展

			けることができる。	的に考察することができる。
学習指導要領に対する理解力	学習指導要領について理解できていない。	学習指導要領について理解できている。	学習指導要領について理解し、国語科の目標及び内容を把握できている。	学習指導要領について理解し、国語科各科目の目標及び内容を把握できている。
教材を研究する力	教材を研究することができていない。	教材を研究できている。	学習指導要領における国語科の目標及び内容を意識した教材研究ができる。	学習指導要領における国語科各科目の性格、目標、内容を意識した教材研究ができる。
学習指導案を作成する力	学習指導案を作成することができない。	学習指導案を作成することができる。	学習指導要領と教材研究に基づいた学習指導案を作成することができる。	学習指導要領と教材研究に基づき、指導過程が明確な学習指導案を作成することができる。
模擬授業を実践する力	模擬授業を行うことができない。	模擬授業を行うことができる。	学習指導案に基づいた模擬授業を行うことができる。	学習指導案に基づき、学習者を意識した模擬授業を行うことができる。
国語科教員に求められる基本的な能力	国語科教員に求められる基本的な能力を習得できていない。	国語科教員に求められる基本的な能力を習得できている。	国語科教員に求められる基本的な能力と職業意識を身につけている。	国語科教員に求められる基本的な能力と職業意識を身につけ、今後求められる課題について意識的である。

〔授業計画〕

- 第 1 回 国語教育の現在地
- 第 2 回 中学校学習指導要領について
- 第 3 回 高等学校学習指導要領について
- 第 4 回 教材研究（1）－論理的な文章
- 第 5 回

- 教材研究（2）－近代以降の文章
 - 第 6 回 教材研究（3）－古典
 - 第 7 回 学習指導案について
 - 第 8 回 学習指導案作成（1）－説明的な文章
 - 第 9 回 学習指導案作成（2）－文学的な文章
 - 第 10 回 学習指導案作成（3）－古典
 - 第 11 回 20分の模擬授業（1）－説明的な文章
 - 第 12 回 20分の模擬授業（2）－文学的な文章
 - 第 13 回 20分の模擬授業（3）－古典
 - 第 14 回 評価について
 - 第 15 回 まとめと今後の課題
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
1. 授業は講義とグループワーク及び発表とで行う。
 2. 受講生はグループで教材研究を行い、学習指導案を作成して模擬授業に臨む。
 3. 教材研究や学習指導案作成においてはグループでディスカッションを行い進めていく。
 4. 模擬授業を行い、グループ及び受講生で相互に批評し合うことによって学びを深める。
 - 4 グループワークにより提出された課題に対しては、次の授業でフィードバックを行う。
 6. 最終授業では全体に対するフィードバックを行う。
 7. 教材研究、指導案の作成を通して、語彙力をつけ、書く力を育成する。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1. 学習指導要領を読み、内容を把握しておく。
 2. 学習指導要領を意識しながら教材を読む。
 3. 模擬授業を意識しながら、学習指導案の論点を整理しておく。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 30
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
- 評価は、授業参加度（20%）と教材研究、学習指導案（50%）及び模擬授業（30%）に基づいて総合的に行う。
- 〔留意事項（Other Information）〕
- ・国語科教諭免許課程履修者には必修科目である。
 - ・受講者数等の状況に応じて、シラバスを変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』/文部科学省/東洋館出版社/2019/978-4491036403/学内販売予定

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034706/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『教育実習生のための学習指導案作成教本 国語科』/教育実習を考える会/蒼丘書林/2012

『中学校・高等学校 国語科指導法』/益地 憲一/建帛社/2009

〔参考URL(URL for Reference)〕
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm
 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高等学校における非常勤講師や高等専門学校1?3学年において検定教科書を用いた授業を経験しており、本科目では、教材研究・学習指導案の作成・模擬授業に対する学生への助言に活かすことができる。

国語科教育法 II

TEA2860N0J
 大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次
 2単位 後期
 水曜3限

60
 国語科必修 「国語科教育法I」履修済みであること
 河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は国語科教育法 I での学びを受け、学習指導要領への理解を深めて、教材研究と学習指導案に基づくより実践的な模擬授業を中心として展開する。模擬授業とその準備は受講生がそれぞれに行い、その過程において実際に授業を運営できる力を養うことを目標とする。また、プリントや補助教材の作成法や情報機器を活用する力をつけることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中学校・高等学校国語科学習指導要領の理念と各科目の性格と目標、内容を理解する。
2. 学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成ができる。
3. 学習指導案に基づき模擬授業を行うことができる。
4. 学習者の反応を把握しながら授業を運営することができる。
5. プリントや補助教材、情報機器を活用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。
学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成する力	学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成ができない。	学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成ができる。	学習指導要領の理念を理解し、教材研究と学習指導案の作成ができる。	学習指導要領の理念と各科目の性格と目標、内容を理解し、教材研究と学習指導案の作成ができる。
学習指導案に基づき模擬授業を行う力	学習指導案に基づき模擬授業を行うことができない。	学習指導案に基づき模擬授業を行うことができる。	学習指導案に基づき、指導法に留意しながら模擬授業を行うことができる。	学習指導案に基づき、適切な指導法で模擬授業を行うことができる。
学習者の反応を把握しながら授業を運営する力	学習者の反応を把握しながら授業を運営できていない。	学習者の反応を把握しながら授業を運営できている。	説明や板書に対する学習者の反応を把握しながら授業を運営することができる。	説明や板書に対する学習者の反応を発問により確認しながら授業を運営することができる。
プリントや補助教材、情報機器を活用する力	プリントや補助教材、情報機器を活用できない。	プリントや補助教材、情報機器を活用できる。	プリントや補助教材、情報機器を適切に活用できる。	プリントや補助教材、情報機器を学習者の理解度を意識しながら適切に活用できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 国語教育の課題
- 第 2 回 学習指導要領の理念
- 第 3 回 教材研究と学習指導案作成 (1) —説明的な文章
- 第 4 回 教材研究と学習指導案作成 (2) —文学的な文章
- 第 5 回 教材研究と学習指導案作成 (3) —国語表現
- 第 6 回

- 教材研究と学習指導案作成（４）—古典
- 第 7 回 20 分の模擬授業（１）—説明的な文章
- 第 8 回 20 分の模擬授業（２）—文学的な文章
- 第 9 回 20 分の模擬授業（３）—国語表現
- 第 10 回 20 分の模擬授業（４）—古典
- 第 11 回 50 分の模擬授業（１）—説明的な文章
- 第 12 回 50 分の模擬授業（２）—文学的な文章
- 第 13 回 50 分の模擬授業（３）—国語表現
- 第 14 回 50 分の模擬授業（４）—古典
- 第 15 回
- まとめと今後の課題

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業は受講者による模擬授業を中心に行う。
2. 受講生は教材研究を行い、学習指導案を作成して模擬授業に臨む。
3. 教材研究や学習指導案作成は相互に批評して進めていく。
4. 模擬授業に対して、相互に感想や意見をだし合うことによって学びを深める。
5. 明らかになった課題に対しては、次回の授業でフィードバックを行う。
6. 最終授業では全体に対するフィードバックを行う。
7. 模擬授業にプリントや補助教材、情報機器を活用することができるか検討する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 学習指導要領を意識しながら教材を読み、学習指導案について検討する。
2. 模擬授業の展開の仕方や、指示、板書、発問などを考えてみる。
3. どのようなプリントや補助教材が必要か、情報機器を活用できるか検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（20％）と教材研究、学習指導案（30％）及び模擬授業（50％）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・国語科教諭免許課程履修者は必修科目である。
- ・受講者数等の状況に応じて、シラバスを変更することがある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』/文部科学省/東洋館出版社/2019/978-4491036403/学内販売予定

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034706/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『教育実習生のための学習指導案作成教本 国語科』/教育実習を考える会/蒼丘書林/2012

『中学校・高等学校 国語科指導法』/益地 憲一/建帛社/2009
〔参考URL(URL for Reference)〕

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高等学校における非常勤講師や高等専門学校1?3学年において検定教科書を用いた授業を経験しており、本科目では、教材研究・学習指導案の作成・模擬授業に対する学生への助言に活かすことができる。

国語科教育法Ⅲ

TEA3810N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格（実践的科目）

3年次

2単位 前期

月曜1限

—

60

堀 勝博

〔科目の教育目標（Course Description）〕

国語科の教育実践に必要なさまざまな知識や心得について学び、教壇の即戦力となれるような伎倆を身につける。講義をまじえつつ、学習指導案の作成や模擬授業実施など、実践的学習を多くとり入れる。また、補助教材により、古典文法、有職故実、漢文、古典単語などについても学習する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 国語科の教育実践に必要なさまざまなノウハウを習得する
2. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する
3. 観点別評価について理解する
4. 補助教材により、古典文法、古文単語、漢文について学習する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
漢字	漢字能力検定3級試験不合格レベル	漢字能力検定3級試験70%正解	漢字能力検定3級試験80%正解	漢字能力検定3級試験90%正解

模擬授業	指導案にもとづいた授業が実施できず、適正な教室運営ができない	指導案(細案)を事前に準備し、それにもとづいた授業を何とか行うことができる	教材研究をじゅうぶん行い、指導案や発問・板書計画を準備し、おおむね計画通りに授業を進行することができる	深い教材研究にもとづき、周到的な指導計画を準備し、発問や指示にもぶれがなく、活発で有効な教室活動を展開することができる
-------------	--------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入授業 —授業の概要と方針
- 第 2 回 教育をめぐる最新事情
- 第 3 回 観点別評価とは
- 第 4 回 教材研究の方法
- 第 5 回 文学的文章(散文)の授業研究
- 第 6 回 文学的文章(韻文)の授業研究
- 第 7 回 説明的文章の授業研究
- 第 8 回 古文の授業研究
- 第 9 回 漢文の授業研究
- 第 10 回 模擬授業実施(中学校 説明的文章の授業)
- 第 11 回 模擬授業実施(中学校 文学的文章の授業)
- 第 12 回 模擬授業実施(高校 小説の授業)
- 第 13 回 模擬授業実施(高校 古文の授業)
- 第 14 回 模擬授業実施(高校 漢文の授業)
- 第 15 回 まとめと解説

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

1. 高校の教科書を用いて、指導案を作成し、模擬授業を実施する。各受講者、数回の模擬授業実施をめざす。学期末には、公開研究授業を実施する
2. 古文単語に関する小テストを実施する
3. 古典文法への理解を深めるため、小テストを実施する
4. 漢文テキストを夏休みの独習テキストとする
5. 予習課題、授業内容に関する補足、小テストの解答などを、manabaにより指示・公開する

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

事前に指示されるさまざまな課題について取り組むこと。毎時間課される小テストの勉強を怠らぬこと。また、模擬授業実施のための学習指導案作成は、時間をかけて準備すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

60

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

授業に参加する意欲・態度の評価点20%、小テストの評価点10%、模擬授業の内容30%、定期試験の成績40%で評価する。また、常用漢字の読み書き能力試験の成績が70点未満の者は、単位認定対象外とする。

〔留意事項(Other Information)〕

国語科教諭免許課程履修者必修科目。この科目が履修できるのは、国語科教育法Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者に限る。
〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『精選国語総合』(2東書 国総333) // 東京書籍 // 学内販売予定
『体系古典文法』 // 数研出版 // 学内販売予定
『パスワード古文単語』 // 浜島書店 // 学内販売予定
『発展30日完成漢文高校初級用』 // 日栄社 // 学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中学校学習指導要領解説 国語編』 // 文部科学省 //

『高等学校学習指導要領解説 国語編』 // 文部科学省 //

『精選国語総合』(2東書 国総333) 教師用指導書 // 東京書籍 //

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

兵庫県内公立高校3校で専任教員(国語科担当)として勤務した(1978年~1991年)。

国語科教育法Ⅳ

TEA3860NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格(実践的科目)

3年次

2単位 後期

月曜1限

ー

60

堀 勝博

〔科目の教育目標(Course Description)〕

国語科の教育実践に必要なさまざまな知識や心得について学び、教壇の即戦力となるような伎倆を身につける。講義をまじえつつ、学習指導案の作成や模擬授業実施など、実践的学習を多くとり入れる。また、補助教材により、古典の音読、古典文法、有職故実、漢文、古典単語などについても学習する。

〔教育・学習の個別課題(Course Objectives)〕

1. 国語科の教育実践に必要なさまざまなノウハウを習得する
2. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する
3. 観点別評価について理解する
4. 補助教材により、古典の音読、古典文法、古文単語、漢文について学習する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
漢字力	漢字能力検定試験 2級不合格レベル	漢字能力検定試験 2級合格レベル	漢字能力検定試験 2級得点率 85%以上	漢字能力検定試験 2級得点率 95%以上

模擬授業	模擬授業を適正に行うことができない	模擬授業をおおむね適正に行うことができる	発問・指示、板書も的確で、適正に模擬授業を行うことができる	深い教材研究にもとづき、発問や板書も的確で、ユニークで創意に満ちた授業を行うことができる
古典文法への理解	古典文法の基礎を理解していない	古典文法の基礎をある程度理解している	古典文法の基礎をよく理解している	古典文法を深く理解し、その知識を授業計画や教室活動に活用することができる
漢文への理解	返り点、訓読、語法等、漢文の基礎を理解していない	返り点、訓読、語法等、漢文の基礎をある程度理解している	返り点、訓読、語法等、漢文の基礎をよく理解している	返り点、訓読、語法等、漢文の基礎を深く理解し、その知識を授業計画や教室活動に活用することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入授業 —授業の方針
- 第 2 回 教育の最新事情
- 第 3 回 学習指導要領について
- 第 4 回 PISA型読解力とは
- 第 5 回 指導計画の作り方
- 第 6 回 模擬授業実施（中学校 説明的文章の授業）
- 第 7 回 模擬授業実施（中学校 詩の授業）
- 第 8 回 模擬授業実施（中学校 小説の授業）
- 第 9 回 模擬授業実施（中学校 古典の授業）
- 第 10 回 模擬授業実施（高校 評論の授業）
- 第 11 回 模擬授業実施（高校 小説の授業）
- 第 12 回 模擬授業実施（高校 詩・短歌・俳句の授業）
- 第 13 回 模擬授業実施（高校 古文の授業）
- 第 14 回 模擬授業実施（高校 漢文の授業）
- 第 15 回 まとめと解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 教育実習を念頭において各自任意の教材をとりあげ、指導案を作成し、模擬授業を実施する。各受講者、数回の模擬授業実施をめざす。学期末には、公開研究授業を実施する
2. 古典の文章の音読に習熟する
3. 古文単語に関する小テストを実施する
4. 古典文法への理解を深めるため、小テストを実施する

5. 漢文テキストを独習テキストとし、漢文読解力の見きわめ試験を行う

6. 予習課題、授業内容に関する補足、小テストの解答などを、manabaにより指示・公開する

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

事前に指示されるさまざまな課題について取り組むこと。毎時間課される小テストの勉強を怠らぬこと。また、模擬授業実施のための学習指導案作成は、時間をかけて準備すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業に取り組む意欲・態度の評価点 20%、平常点 10%、模擬授業の内容 30%、定期試験の成績 40% で評価する。また、常用漢字の書き取り試験の成績が 80 点未満の者、古典文法の試験、漢文読解力試験いずれも成績が 60 点未満の者、模擬授業の評点が合格点に達しない者は、単位認定対象外とする。

〔留意事項（Other Information）〕

国語科教諭免許課程履修者必修科目。この科目が履修できるのは、国語科教育法Ⅰ～Ⅲの単位を修得した者に限る。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『精選国語総合』（2東書 国総333）//東京書籍///学内販売予定

『体系古典文法』//数研出版///学内販売予定

『パスワード古文単語』//浜島書店///学内販売予定

『発展 30 日完成漢文高校初級用』//日栄社///学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『中学校学習指導要領解説 国語編』//文部科学省//

『高等学校学習指導要領解説 国語編』//文部科学省//

『精選国語総合』（2東書 国総333）教師用指導書 //東京書籍//

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

兵庫県内公立高校 3 校で専任教員（国語科担当）として勤務した（1978年～1991年）。

児童サービス論

LIB3800NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 前期

木曜1限

ー

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

児童サービスの基本を知識として身につけるだけでなく、実践的に学んで雰囲気をつかむこと、読書や情報サービスに関わる社会的問題にも広く目を向けることをめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 児童サービスの理念及び基本的事項をしっかりと把握する。
 2. 児童サービスに深く関連する子どもの心理、子どもの読書、子ども観の移り変わり、児童書などについても併せて学ぶ。
 3. ブックトークやストーリーテリングなどの読書プログラムについて、基本的な事項を把握した上で実践的に学ぶ。
- 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
児童サービスに関する理解	児童サービスの全体像を知らない。	児童サービスの全体像を説明できる。	児童サービスの個々の機能について説明できる。	理念に照らして、児童サービスの全体像及び各機能を説明できる。
おはなし会に関する知識・技術・企画力	図書館におけるおはなし会の意義や概要を知らない。	図書館におけるおはなし会の意義と概要を知っている。	おはなし会に利用できるブックトークや読書へのアニメーションに関する知識と技術がある。	複数のプログラムを組み合わせておはなし会を企画することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 I 児童サービス概論
- 第 2 回 II 子どものための読書プログラム (実習を含む)
1) お話会に利用できるさまざまな方法
2) 読み聞かせ
- 第 3 回 II 子どものための読書プログラム (実習を含む)
3) 紙芝居 4) ストーリーテリング
- 第 4 回 II 子どものための読書プログラム (実習を含む)
5) 読書へのアニメーション
- 第 5 回 II 子どものための読書プログラム (実習を含む)
6) ブックトーク (定義・方法)
- 第 6 回

II 子どものための読書プログラム (実習を含む)

6) ブックトーク (選書・ブックトークストーリーの構築)

- 第 7 回 III 児童サービスの歴史
※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第 8 回 IV 乳幼児サービス
※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第 9 回 V ヤングアダルトサービス
※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第 10 回 VI 児童資料論(1) 絵本・物語
※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第 11 回 VI 児童資料論(2) ノンフィクション
※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第 12 回 VII 児童書選択とコレクション構築(1) 選択理論
※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第 13 回 VII 児童書選択とコレクション構築(2) 現状と課題
※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第 14 回 VIII 子どもと読書・情報をめぐる諸問題
- 第 15 回 IX 内容理解確認と振り返り
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
1. 講義・実習を併せて行う。
 2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。
 3. ブックトーク・ストーリーテリングなどの読書プログラム実習を行う。
 4. 授業中の課題については、その場で口頭によるフィードバックをする。筆記試験については終了後manabaで講評を行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
1. 公共図書館の児童サービスコーナーを見る機会をできるだけ多く持つ。
 2. 児童書をできるだけたくさん読んでおく。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
筆記試験60% (第15回に実施)、読書プログラム実習を含む授業中の課題40%とし、その合計で評価する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
前提として、児童書に関する知識も必要です。できるだけ多くの児童書を読む機会を持ってください。
ゲスト講師をお呼びすることもあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『児童サービス論』/鈴木佳苗編/樹村房/2012//学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

非常勤調査員として国立国会図書館における勤務経験あり。京都市、福知山市、大阪府などの自治体において、委員長または委員として、子ども読書活動推進計画の策定に携わっている。

情報サービス演習Ⅰ

LIB2850N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜1限

ー

60

定員46人

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

情報の氾濫する状況のもとで情報検索を行う場合には、何が検索の主題であるかを明確にし、それを各種データベースなどの情報探索ツールで効果的、効率的に検索できる技術が必要となる。それは、情報へのニーズを理解し、それを検索語に適切に変換し、情報探索ツールと必要とする情報のそれぞれの特性を理解して適切な検索ができる能力である。本演習では実習を通して、効果的な情報検索を行うことができる能力を習得するとともに、それに必要な、情報へのニーズを認識し、評価・選択し、利用する能力も身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. データベース検索インターフェイスの利用に習熟する。
2. 論理演算等の情報検索の基礎的事項を学ぶ。 3. 探索事項と検索語の関係を分析できるようにする。 4. 利用するデータベースの性質を理解し効果的な検索が行えるようになる。 5. 情報の入手、評価・選択、利用の方法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
適切な検索語、検索式を策定できる能力	基本的理解が十分でない	基本的理解はあるが、十分に応用できていない	実際の検索にある程度適切に応用できる	様々な検索条件において効果的に応用できる

情報資源、資料の種類、内容を理解、評価できる能力	理解、評価がなされていない	理解、評価が不十分	ある程度の理解、評価がなされている	理解、評価とも十分に なされている
検索結果を情報ニーズと照らして適切に検討できる能力	検索結果の検討が殆どなされていない	検討はなされているが不十分	検討にある程度の適切 が見られる	十分な検討が常に見られる
情報ニーズ(どのような情報が必要か)を適切に理解できる能力	ニーズを理解する試みがなされていない	ニーズの内容について十分に検討していない	ニーズの内容をある程度検討して理解している	ニーズの内容について深く検討し理解している

〔授業計画〕

- 第 1 回 演習方法の説明、情報機器とネットワークの基礎事項に関する講義
- 第 2 回 データベースと情報サービス
- 第 3 回 情報検索の理論と基礎技術
- 第 4 回 書誌データベース検索の基礎：本学図書館OPACの検索 (演習課題1)
- 第 5 回 図書資料の検索：国立国会図書館オンライン (演習課題2)
- 第 6 回 図書資料の検索：CiNii Books (演習課題3)
- 第 7 回 雑誌記事、論文の検索：雑誌記事索引 (演習課題4)
- 第 8 回 雑誌記事、論文の検索：CiNii Articles (演習課題5)
- 第 9 回 雑誌記事、論文の検索：引用文献データベースなど、その他のデータベース (演習課題6)
- 第 10 回 新聞記事の検索：朝日新聞 (演習課題7)
- 第 11 回 新聞記事の検索：読売新聞 (演習課題8)
- 第 12 回 法律情報、行政情報、知的財産情報などのデータベースの検索 (演習課題9)
- 第 13 回 外国文献の検索 (演習課題10)
- 第 14 回 インターネットの基礎とインターネット情報の検索
- 第 15 回 総合演習問題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

対面の授業とオンライン両方で行う。第3回目までは対面で行う。第4回以降の講義及び課題の全般的な解説はオンラインで配信する。基本事項についての講義をふまえて、実際のデータベースを利用して情報を検索し、毎回与えられる課題をオンラインで提出する。課題についての質疑応答、個人へのフィードバックはオンラインまたは対面で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

この演習においては課題についての授業中の説明を理解し、提示された課題に取り組むことが重要となる。授業時間内に完了できなかった課題は次回授業までに完了させる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習課題の提出80% (演習課題1~10で各8%)、総合演習問題 (理解度確認のテスト) 20%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

演習室利用のため、人数制限がある。

新聞記事データベースの検索は学内で行う必要がある。(VPN接続を利用して学外からでも利用できるが、設定は各自で行うこと。)

取り扱う内容の順番は入れ替わる可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『検索スキルをみがく：検索技術者検定3級 公式テキスト/吉井隆明、森美由紀/情報科学技術協会/2018/9784883673087

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (大学図書館司書としての勤務経験あり)

情報サービス演習 II

LIB2851N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜1限

ー

60

定員40人 「情報サービス論」履修者であること

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

レファレンス・サービスは、多様な利用者の質問に対して情報を提供する図書館の重要な業務のひとつである。利用者の情報要求を正確に把握し、適切な資料を使って、適切なプロセスで情報を得ることができるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 調べる事柄によって、利用する情報源を使い分けることを知り、それぞれの資料についての知識を得、情報探索のプロセスを体験しながら習得する。

2. 未知の事柄について知識を得る楽しさを知る。

3. 参考図書を使いこなせるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

参考図書に関する知識・理解	基本的な参考図書知らない。	基本的な参考図書知っている。	さまざまな種類の参考図書を知っており、それぞれの特徴を理解している。	さまざまな参考図書の特徴を知って、必要に応じて使いこなすことができる。
レファレンス課題を解く力	レファレンス課題を解くことができない。	簡単な課題に関して、参考図書を選んで、答えを探ることができる。	課題からヒントを見つけ出し、OPACなどを活用して必要な参考図書を見つけ、それを使って答えを探ることができる。	課題を見て、適切な参考図書を選び、十分に活用して、答えを探ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 演習方法説明、情報源解説、参考図書ができるまで
- 第 2 回 演習課題発表 (3章：事物・事象情報の探索)
- 第 3 回 演習課題発表 (2章：言語・文字情報の探索)
- 第 4 回 演習課題発表 (5章：地理・地名情報の探索)
- 第 5 回 小テスト (3章・2章)
演習課題発表 (4章：歴史・日時情報の探索)
- 第 6 回 パスファインダーの作成演習(1) 解説・作成
- 第 7 回 パスファインダーの作成演習(2) 作成・展示
- 第 8 回 小テスト (5章・4章)
演習課題発表 (6章：人物・団体情報の探索)
- 第 9 回 演習課題発表 (7章：図書・叢書情報の探索)
- 第 10 回 演習課題発表 (8章：新聞・雑誌情報の探索)
- 第 11 回 小テスト (6章・7章)
演習課題発表 (1章：参考図書・データベース情報の探索)
- 第 12 回 演習課題発表 (応用問題) (1) 参考図書の解説
目録・書誌の書誌
- 第 13 回 演習課題発表 (応用問題) (2) 各章からの応用問題
- 第 14 回 小テスト (8章・1章)
演習課題発表 (応用問題) (3) 事例からの応用問題
- 第 15 回 内容理解確認と振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1. テキストを中心にレファレンス・サービスのための参考図書についての知識や利用方法を把握する。(「情報サービス論」で学習したことを各自復習する。)
- 2. 図書館で各自課題をこなし、授業中に発表する。
- 3. パスファインダーの作成演習を授業中に行う。
- 4. 授業中の課題については、その場で口頭によるフィー

ドバックをする。小テストについては終了後manabaで講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 〈情報サービス概説〉の授業内容を踏まえて演習を実施するため、復習しておく。

2. 前の週までに各回の課題を配布するので、各自割り当てられた課題をこなし、所定の様式でレジュメを作成し、manabaで提出する

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

筆記試験40% (第15回に実施)、演習課題の発表及び提出60%とし、その合計で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〈情報サービス論〉を先に履修すること。その内容を学んでいることを前提に演習を進める。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『レファレンスブックス 選びかた・使いかた』/長澤雅男 石黒祐子共著/日本図書館協会/2016/9.784820416142E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて、授業中に紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

非常勤調査員として国立国会図書館における勤務経験あり。

情報サービス論

LIB2803N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜 4限

ー

60

飯尾 健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 図書館における情報サービスの意義を理解し、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービスがどのように行われるかを理解する。

2. 参考図書・データベース等の情報源に関する基礎知識とその利用方法を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 情報サービスの意義と様々な情報サービスについて理解する。

2. 情報サービスを行うために図書館および図書館員に求められる役割を理解する。

3. さまざまな情報源の特徴・利用方法について基本的な知識を得る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

自己紹介・授業の概要および受講の際しての注意事項を説明する

第 2 回 情報サービスの概要

図書館における情報サービスとは何か、なぜ図書館が情報サービスを行うのかを理解する

第 3 回 情報サービスの基礎

情報サービスにはどのようなものがあるのかを理解する

第 4 回 情報サービスの展開

より発展させた情報サービスについて理解する

第 5 回 多様な情報サービス

現在の社会や地域の特質に合わせた情報サービスについて理解する

第 6 回 デジタルレファレンスサービス

デジタル環境やデジタル機器を利用したレファレンスサービスについて理解する

第 7 回 情報源整備の実際

レファレンスサービスに必要な情報源をどのように整備するかについて理解する

第 8 回 利用者の情報利用に対する理解

レファレンスサービスを円滑に行うために必要な、利用者の情報探索・利用の行動について理解する

第 9 回 レファレンス質問への対応

レファレンスサービスにおける質問対応やインタビューの重要性とその方法について理解する

第 10 回 情報の検索と回答

レファレンスサービスにおいて、利用者の必要とする情報をどのように検索し回答するかについて理解する

第 11 回 情報検索のしくみ

冊子体のレファレンスツールやデータベース等の仕組みや、利用して検索する際の注意事項について理解する

第12回 情報サービスの管理
情報サービスを進めていくうえで必要なサービスの運営・管理、スキルアップ等について理解する

第13回 情報源の特質
それぞれのレファレンスツールには、種類によってどのような特徴があるかを理解する

第14回 事実情報の検索の実際
出来事や物事について調べる際に使うレファレンスツールや、その使い方について理解する

第15回 文献情報の検索の実際
図書や論文などの資料の情報を調べる際に使うレファレンスツールや、その使い方について理解する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

成績評価はレポート課題によって行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 基本的な事項については、講義を通して学ぶ。
2. 講義で学んだことの理解を深めるため、適宜自分の考えや理解について発表する機会を設ける。
3. 最終授業で成績評価用のレポート課題を課す。提出された課題にはmanaba上で個別のフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 身の回りの図書館のレファレンスサービスを利用してみる。
2. 授業前に、テキストを読んで予習する。
3. 実際にレファレンスブックスやデータベースを実際に利用してみる。
4. 授業時間外に行う課題を提示する場合があるので、その際は必ず行い、締め切りまでに提出する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート課題 (60%)、授業態度および授業時間外の課題 (40%) を総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. この科目は〈情報サービス演習〉の前提科目であるので、履修を予定している場合は必ずこの授業を履修すること。
2. 授業内容や授業時間外の課題は、授業の進行や理解度に応じて変更することがある。
3. 授業は配布するスライドに沿って行うが、内容は下記のテキストに準拠しているため、予習の際はテキストを読んで理解しておくこと。なお、初回はテキストを持参する必要はない。
4. その他参照すべき資料がある場合は、適宜授業中に指示する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『情報サービス論』/小田光宏編著/日本図書館協会/2012/9784820412113/学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

レファレンス共同データベース

<https://crd.ndl.go.jp/reference/>

(調べ物のためのデータベース)

CiNii

<http://ci.nii.ac.jp/>

(代表的な書誌データベース)

京都ノートルダム女子大学図書館

<https://nais.notredame.ac.jp/lib/>

(身近なネットワーク情報源)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 大学図書館での勤務・実務経験あり。

情報メディアの活用

TLI2802NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 2限

ー

60

定員44人

西尾 純子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

司書教諭は、学校図書館においてキーパーソンとなることが求められている。本科目では学校図書館における情報メディア活用能力を身につけ、さらに児童生徒を指導する能力を獲得することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 司書教諭として必要な各種メディアの現状、特性、活用等について学習する。
- (2) 関連法規、情報倫理等について学習する。
- (3) 課題に沿って自ら企画し、調べた結果を発表する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第1回 ガイダンスおよび情報メディアに関する基礎知識

第2回 知識基盤社会と学校図書館(1) 情報メディアとは何か、歴史、知識基盤社会、生涯学習

第3回 知識基盤社会と学校図書館(2) 学校教育における情報メディアの意義と活用

第4回

情報メディアの特性と選択 (1) 情報メディアの種類、特性

第 5 回 情報メディアの特性と選択 (2) 情報メディアの選択、機器や設備の管理

第 6 回 情報メディアの教育利用 (1) コンピュータ、ソフトウェア、周辺機器

第 7 回 情報メディアの教育利用 (2) 情報検索のしくみ、データベース検索、インターネット

第 8 回 情報メディアの活用事例 (1) 授業におけるコンテンツの活用

第 9 回 情報メディアの活用事例 (2) 授業における ICT の活用

第 10 回 情報メディアの活用事例 (3) 学校図書館 Web サイトの活用

第 11 回 情報メディアの活用事例 (4) 特別な支援を要する児童生徒への活用

第 12 回 情報メディアと児童生徒の保護・支援 (1) 情報メディアの活用と知的財産権

第 13 回 情報メディアと児童生徒の保護・支援 (2) 情報モラルと個人情報保護

第 14 回 情報メディアと児童生徒の保護・支援 (3) 情報メディアに関連するトラブルと対策

第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しませんが、原則として 2/3 以上出席し、授業内で出した課題をすべて提出した学生を評価の対象とします。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は講義だけでなく、演習も行います。

履修する学生の理解度などを見て、授業計画を変更する場合があります。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

科目理解のために、発展的学習として参考文献を活用してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度(30%)、発表(20%)、小テスト・レポート(50%)

小テスト・レポートでは理論だけでなく、実際に演習で習得した知識・技術などを評価の対象とします。次回授業で、全体に対してフィードバックを行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

教職課程履修者に限る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報メディアの活用』/シリーズ学校図書館学編集委員会編/全国学校図書館協議会/2010/9784793322464

『学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』/全国学校図書館協議会編/全国学校図書館協議会/2012/9784793300875

『情報メディアの活用』/山本順一 他/放送大学教育振興会/2016/9784595316494

『学校図書館への研究アプローチ (わかる! 図書館情報学シリーズ 4)』/日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版/2017/9784585205043

その他、授業の進度にそって適宜紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫図書館司書として専門図書館での勤務経験あり。

情報資源組織論

LIB2804N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 3限

ー

60

「図書館概論」履修者であること

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

図書館において情報を収集、整理、保存し、情報へのアクセスを整備する上で必要となる、資料・情報の組織化について、その意義と方法論を理解し、実践的知識を習得する。また、関連する情報組織、情報管理についての技術、動向について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

図書館における情報資源組織の意義と考え方を理解する。

目録法の基礎知識を獲得する。

分類法の基礎知識を獲得する。

情報資源組織に関連する技術、仕組み、動向を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	授業で扱った内容についての理解がほとんど見られない	授業で扱った内容についての理解が不十分である	授業で扱った内容についての理解がある程度見られる	授業で扱った内容についての理解が十分に見られる
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業内容の概略と授業の進め方の説明
- 第 2 回 情報資源組織の目的と意義
テキスト 1 章
- 第 3 回 目録の意義、歴史と基本的な考え方
テキスト 2 章：1、2、6
- 第 4 回 目録法
テキスト 2 章：3
- 第 5 回 記述と標目
テキスト 2 章：4、5
- 第 6 回 日本目録規則と最近の動向
テキスト 2 章：7、8
- 第 7 回 主題組織法
テキスト 4 章
- 第 8 回 期間中の理解度確認テストと解説
- 第 9 回 分類の原理と分類法の意義、役割、種類
テキスト 5 章：1、2、3
- 第 10 回 主要な分類表と日本十進分類法
テキスト 5 章：4、5
- 第 11 回 分類規定と分類作業
テキスト 5 章：6、7、8
- 第 12 回 語による主題組織
テキスト 6 章
- 第 13 回 情報組織と情報技術：オンライン目録と書誌ユーティリティ
テキスト 3 章：1、2、テキスト 7 章
- 第 14 回 ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
テキスト 3 章：3、4、5
- 第 15 回 最終まとめと理解度確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストに従った講義を中心に行い、関連する課題を課す。提出された課題について授業中に解説する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

『日本目録規則1987年版改訂3版』、『基本件名表目録第4版』、『日本十進分類法第9版』を随時参照すること。毎回テキストの該当する箇所を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題提出 30%、中間テスト 30%、期末テスト 30%、授業参加度 10%

試験の結果は manaba で本人に公開し、授業中に解説する。課題については提出後、授業中に解説する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂・情報資源組織論』/田窪直規編著/樹村房/2016/9784883672592/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (大学図書館司書としての勤務経験あり)

図書館サービス概論

LIB2802NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 2限

ー

60

「図書館概論」履修者であること

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

市民社会において、生涯学習の環境が整っていることは不可欠であり、図書館はそのための必須の施設である。高度情報社会においてその重要性はさらに増している。その中で、日常生活や学習環境を豊かにするために、利用者の立場に立って、利用者のニーズを充たすのが図書館サービスであることを基礎とし、図書館サービスの専門的意義を知り、サービスの種類と特質について深く理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 図書館が一つのサービス機関であることを理解する。特に、すべての人に図書館のサービスを受ける権利があることを学ぶ。
2. 図書館サービスに対するニーズを充たすためには、どのような業務が必要であるかを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 I 図書館サービスの理念、関連法・条例
- 第 2 回 II 日本の図書館サービスの発達史
- 第 3 回 III 公共図書館の社会的機能
- 第 4 回 IV 学術情報基盤としての大学図書館の機能

- 第 5 回 V 図書館サービスと著作権
- 第 6 回 VI 図書館施設の計画と利用
- 第 7 回 VII 対象者の理解と利用対象別サービスの意義
(1) 高齢者サービス・障がい者サービス
- 第 8 回 VII 対象者の理解と利用対象別サービスの意義
(2) 病院患者サービス・刑務所等へのサービス
- 第 9 回 VII 対象者の理解と利用対象別サービスの意義
(3) 多文化サービス
- 第 10 回 VII 対象者の理解と利用対象別サービスの意義
(3) まとめ
- 第 11 回 VIII 図書館サービスの連携・協力(1) 他の館種・他機関との連携
- 第 12 回 VIII 図書館サービスの連携・協力(2) 連携・協力の意義
- 第 13 回 IX 今後の公共図書館サービスのありかた(1) 演習
- 第 14 回 IX 今後の公共図書館サービスのありかた(2) 演習
- 第 15 回 内容理解確認と振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義・演習を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。
3. テキスト・プリント・ビデオ等を利用する。
4. 授業中の課題については、その場で口頭によるフィードバックをする。筆記試験については終了後manabaで講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 事前に予習する個所を提示するので、教科書を読んで、割り当てられた個所については要約し、コメントをつけてくる。
2. 図書館の現状について自分で調べてくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

筆記試験70% (第15回に実施)、実習を含む授業中の課題30%とし、その合計で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. <図書館概論>を履修していることを前提とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『現代図書館情報学シリーズ 4 改訂 図書館サービス概論』/高山正也・村上篤太郎 編著

青柳英治・逸村裕・松本直樹・宮原志津子 著/樹村房/2019年/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

非常勤調査員として国立国会図書館における勤務経験あり。

図書館サービス特論

LIB2860NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

ー

60

定員25人

襟川 茂

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

視覚障害者等の情報環境と情報支援・障害者サービスの概要とその方法を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 視覚障害者等の情報環境と情報支援・情報サービスの現状と課題を理解する。
2. 公共図書館での障害者サービスの方法を理解する。
3. 視覚障害者情報提供施設における事業内容と利用者サービスの現状について、見学実習を通して理解する。
4. ネットワークを活用した障害者サービスの方法を理解する。
5. 点字での情報伝達の知識と方法を、点字の読み書き学習を基に理解する。
6. 音声での情報伝達の知識と方法を、音訳やデジターの学習を基に理解する。
7. 様々な暮らしの場面での情報入手の工夫とボランティア活動の意義について理解する。
8. 情報保障を支援する法制度について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	障害者・障害者サービスに興味がない	障害者の現状を理解し、そのための支援方法に興味を示す	障害者のためのサービスとはどのようなものか考える	障害者への総合的な情報支援の方法を考える
知識・理解力	障害者・障害者サービスの方法を知らない	公共図書館での窓口サービスの基本を理解できる	ネットワークを利用したサービスを実践できる	窓口対応だけでなく資料製作の方法も理解できる

言語力	障害者とのコミュニケーション方法がわからない	音訳・点訳・手引きの基礎を理解できる。	音声・点字・手引きで障害者との基本的なコミュニケーションができる	音訳・点訳・手引きの知識を生活の中で役立てる
思考・解決力	教えられた以上は考えようとしていない	身近な生活の中にも情報格差があることを知る	合理的配慮を自ら考える力がある	障害者とのコミュニケーションを生かして問題を解決しようとする
共生・協働する力	公共図書等の実践例を参考にしない	公共図書館等の実践例をもとに、障害者サービスを考えようとする	考えた結果を周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする	レベル3に加えて、インターネット等も正しく用いて考えを深める
創造・発信力	獲得した知識を生活や社会の中で実践しようとしていない	どんな時に障害者にバリアができるのかを考える	すすんで障害者とのコミュニケーションを取ろうとする	身近に障害者がいるときに、その人とともに支援方法を考えることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 視覚障害者等の情報環境と障害者サービス
資料や情報を利用できない人のこと、またそれを利用できるようにするにはどうすればいいのかを理解する。
- 第 2 回 視覚障害者情報提供施設のサービス
視覚障害者情報提供施設における事業内容と利用者サービスの実際について理解する。
- 第 3 回 見学事前学習—視覚障害児・者福祉施設の役割と事業内容について
社会福祉法人京都ライトハウスとはどのような施設かを理解する。
- 第 4 回 社会福祉法人京都ライトハウス見学
課題をもって社会福祉法人京都ライトハウスを見学する。
- 第 5 回 見学担当職員（視覚障害者）に説明してもらう。
京都ライトハウス情報ステーション見学実習
情報ステーションの職員に次のような内容を説明してもらう。
 - ・サービスカウンターでの日常的な事業運営の見聞
 - ・所蔵資料の分類・配架状況の閲覧
 - ・点訳・音訳等の資料製作から貸出までのプロセスの学習
 - ・ボランティア活動の見聞
 - ・対面読書、読み書きサービス等の利用者との直接サービスの見聞

- 第 6 回 合理的配慮と公共図書館での障害者サービス
・公共図書館に視覚障害者が来館した際のサービスカウンタースタッフの対応の方法を理解する。
・公共図書館での合理的配慮と基礎的環境整備を理解する。
- 第 7 回 ネットワークによる障害者サービスの方法
・「サピエ図書館」と「国立国会図書館サーチ／障害者向け資料検索」の活用方法を実際のサイトを見ながら理解する。
・地域ネットワークを理解する。
- 第 8 回 点字の基礎を学ぶ
・日本点字が発明される以前の文字情報の学習方法を考える。
・点字の特徴とその構造を点字エディタを使いながら理解する。
- 第 9 回 点字の読み書きを体験する
「本文の書き方」「見出しの書き方」「詩歌などの書き方」等を通して、点字の書き方の形式を理解し点字エディタで体験してみる。
- 第 10 回 指点字で情報を伝える
・盲ろう者のコミュニケーション手段を理解する。
・指点字でのコミュニケーションを体験する。
- 第 11 回 音訳とは何か 音声で情報を伝える
・音声で情報を伝えるために必要な技術を理解する。
・図・写真・表・グラフ等、音声化しにくいものを音訳する際の工夫・配慮の基本を理解する
- 第 12 回 Daisyとは何か 音声とテキストで情報を伝える
・テープ資料からデージー資料への変遷を理解する。
・デージー資料の製作方法の基礎を理解する。
- 第 13 回 点字サインと音サイン・音声案内
・どのような場所に点字サイン、音サイン、音声案内があるか考える。
・様々な暮らしの場面での情報入手の工夫と課題について解説する。
- 第 14 回 点字・音声・手引きでボランティア体験
・視覚障害者等へのボランティア活動について理解する。
・誰でもできるお手伝い、手引きを体験する。
- 第 15 回 障害者サービス関連法規・規則の学習と講義のまとめ
公共図書館や視覚障害者情報提供施設での障害者サービスの根拠となる法律を理解する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義は資料配付を原則とする。
2. 点字・録音資料の紹介や映像でのプレゼンテーションを多用し、受講者が課題を容易に理解できるよう工夫する。
3. 小单元ごとの小テストを行い、知識の定着を図る。
4. 演習を行う。
 - A. サピエ図書館等での資料検索実習

- B. 点字体験学習(点字の読み方・書き方実習、指点字実習)
- C. 音訳者養成講座体験実習
- D. 手引き体験実習
- E. 視覚障害者情報提供施設の見学実習

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 街中での点字や音声案内等の事例に着目しておくこと。
2. 近くの公共図書館等で障害者サービスの具体例を確認してくること。
3. 「見えない、見えにくい」シミュレーションの体験があれば、そのことを通じて視覚閉鎖の状況についての考えを整理しておくこと。
4. 障害者サービスに関係する各種サイトを閲覧しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

16

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・成績は、小単元終了後の小テスト (50%)、最終講義での小論文課題 (20%) と、授業への参加態度 (30%) の総合評価とする。
- ・基準は、100点満点で60点以上が合格、59点以下が不合格。
- ・その他の確認事項として
 - ・出欠確認は、各授業ごとに受講者名簿に基づいて口頭で行うことを原則とする。
 - ・遅刻、またはやむを得ない事態が発生した時は、速やかに連絡する。

〔留意事項 (Other Information)〕

＜施設見学先＞

施設名：社会福祉法人京都ライトハウス

所在地：京都市北区千本北大路西側下る50メートル（市バス「京都ライトハウス前」）

住所：〒603-8302 京都市北区紫野花ノ坊町11 京都ライトハウス

電話： ライトハウス事務所 075-462-4400
情報ステーション 075-462-4579

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

自作プリント、点字読み教材ほか別途指示

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『図書館利用に障害のある人々へのサービス [上巻]』/日本図書館協会障害者サービス委員会/日本図書館協会/2018/978-4-8204-1802-3

『図書館利用に障害のある人々へのサービス [下巻]』/日本図書館協会障害者サービス委員会/日本図書館協会/2018/978-4-8204-1803-0

『見えない・見えにくい人も「読める」図書館』/公共図書館で働く視覚障害職員の会/読書工房（販売）/2009/978-4-902666-22-9

『1からわかる図書館の障害者サービス』/佐藤聖一/学文社/2015/9/978-4-76202521-1

『点訳のてびき 第4版』/全国視覚障害者情報提供施設協会/

読書工房

(販) /2019/978-4-907272-23-4

『音訳テキスト【音訳入門編】』/全国視覚障害者情報提供施設協会録音委員会音訳テキスト【音訳入門編】製作プロジェクト/読書工房（販売）/2013/978-4-907272-20-3

『音訳テキスト【デイジー編集入門編】』/全国視覚障害者情報提供施設協会録音委員会音訳テキスト【デイジー編集入門編】製作プロジェクト委員会/読書工房（販売）/2012/978-4-860556-65-5

適宜資料配布

〔参考URL(URL for Reference)〕

サピエ

<https://www.sapie.or.jp/cgi-bin/CN1WWW>

厚生労働省補助事業「視覚障害者情報提供ネットワークシステム整備事業」

特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会

<http://www.naiiv.net/>

全国の視覚障害者等に対し、視覚障害者情報提供施設やボランティア団体等が提携し、よりよい情報ネットワークを構築して、視覚障害者への情報支援に関する事業を行い、視覚障害者等の生活自立と社会参加並びに生活・文化の向上に寄与すること、ならびに一般社会に向けて視覚障害者福祉の啓発を行うことを目的とする。(定款より)

社会福祉法人京都ライトハウス

<http://www.kyoto-lighthouse.or.jp/>

視覚障害者総合福祉施設

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫司書資格ならびに点訳・音訳指導資格の保有者として視覚障害者情報提供施設での勤務経験あり。

図書館概論

LIB1800N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

木曜 3限

—

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

図書館情報学の基礎を学ぶ。司書課程を履修する前提として、図書館についての基本事項を理解し、さらに図書・雑誌から電子出版物にいたる多種多様な情報資源と、それらを扱う図書館の役割と機能を理解する。また、これら情報と利用者をつなげる様々なサービス、試みについて学び、情報ネットワークの時代における図書館の責任や役割について認識を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 図書館の役割、背景、社会的位置づけを理解し、最近の動向について学ぶ。

2. 情報資源と図書館との関係、図書館サービスの基礎を学ぶ。

3. 図書館の機能と仕組みについて理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業で扱う内容に関する知識・理解力	レポート、課題において殆ど示されていない、もしくは不正確	ある程度示されているが、理解の範囲が不十分、もしくは不正確な箇所がある	ほぼ十分かつ正確に示されている	十分かつ正確であることに加えて、より深い考察が示されている
言語力	レポート、課題における文章による説明が全体的に不明瞭	文章による説明に不明瞭な箇所が多い	文章による説明がほぼ全体的に明瞭	文章による説明が全体において明瞭

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の進め方と課題の説明
- 第 2 回 図書館の意義と役割 (テキスト 1 章)
- 第 3 回 図書館の歴史 (テキスト 2 章)
- 第 4 回 図書館の機能と種類 (テキスト 3 章)
- 第 5 回 図書館のサービス (テキスト 4 章)
- 第 6 回 情報・資料の流通と図書館 (テキスト 5 章)
- 第 7 回 情報の組織と情報へのアクセス (テキスト 6 章)
- 第 8 回 情報ネットワークと電子資料 (テキスト 8 章)
- 第 9 回 情報リテラシーと利用者教育 (テキスト 9 章)
- 第 10 回 図書館経営 (テキスト 10 章)
- 第 11 回 図書館司書とは (テキスト 11 章)
- 第 12 回 知的自由と図書館の自由 (テキスト 12 章)
- 第 13 回 海外の図書館とサービス、図書館ネットワーク (テキスト 7 章)
- 第 14 回 越境する図書館：図書館以外の分野、機関との関係
図書館情報学
- 第 15 回 図書館をめぐる諸課題 (この回もしくは別の回にゲスト講師による講義を予定)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テキストの内容、講義を通して図書館の基本的事項を学ぶ。
2. 与えられた課題についてレポートを作成することで講義内容、テキストの内容の理解を深める。
3. 授業内での課題を通して、図書館について考え、実践的に学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回講義までにテキストの該当する章を事前に読み、理解しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業での諸活動への参加、授業中課題 (40%)

期末レポート (60%) : レポートの点数は manaba で閲覧可能にし、講評する。

〔留意事項 (Other Information)〕

1 年次生に履修するのが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新しい時代の図書館情報学』補訂版/山本順一 (編) /有斐閣/2016/9784641220836/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (大学図書館司書としての勤務経験あり)

図書館制度・経営論

LIB3850N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 後期

金曜 2限

ー

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

図書館という組織を経営することの意味を理解し、図書館を有機的に機能、発展させるための図書館経営、および図書館関係の法律、政策に関する知識を習得する。図書館司書に求められる基礎知識、図書館経営に必要な基礎事項について講義しつつ、国内外の図書館経営の実例、最近の動向等を紹介し、検討することにより、図書館経営について多角的視点をもって考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 図書館経営、及び図書館関係法律、政策の基礎知識を得る
- 2 図書館経営に応用できるマネジメント技術を理解する
- 3 図書館経営に関する幅広い視野、柔軟な思考力を身につける

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業で扱うトピックについての知識・理解力	授業内容の理解が殆ど示されていない	授業内容の理解がある程度示されているが十分ではない	授業内容の理解がほぼ十分に示されている	授業内容の理解が高く示されている

課題の内容を文章で適切に説明できる能力	内容、文章ともに全く適切でなく、かつ不十分	内容、文章が全体的に不十分もしくは不適切な箇所が多い	内容、文章がある程度適切	内容、文章ともに適切かつ十分
授業で学んだ内容を応用できる思考力	内容が殆ど課題に反映されていない	課題において内容がある程度反映された思考が見られるが、不十分な箇所もある	内容がある程度十分に反映されている	内容の応用が十分かつ適切にできている

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義内容及び課題のプレビュー
 - 第 2 回 図書館の目的、図書館経営概観
テキスト 2、3 章
 - 第 3 回 図書館の法的、組織的、政策的位置づけ
テキスト 1、12 章
 - 第 4 回 図書館のミッションとビジョン：運営目的の設定
テキスト 11 章
 - 第 5 回 運営戦略（ストラテジックプラン）：戦略の意義と策定
テキスト 9、10 章
 - 第 6 回 図書館評価：評価の方法と実践
 - 第 7 回 図書館内組織：組織構成例と比較
テキスト 4 章、期間レポート（1）提出
 - 第 8 回 期間レポート（1）講評：図書館情報システムに関する課題
 - 第 9 回 予算編成と管理：物品の調達と管理、費用対効果
テキスト 5、6 章
 - 第 10 回 人的資源管理：人材の確保、配置、育成
 - 第 11 回 図書館設備、場所としての図書館
テキスト 7 章
 - 第 12 回 業務プロセス、サービス提供、PRとマーケティング
テキスト 8 章
 - 第 13 回 新規サービス、業務の開発（プロジェクトマネジメント）
 - 第 14 回 図書館経営と図書館環境の変化
期間レポート（2）提出
 - 第 15 回 全体のまとめと期間レポート（2）講評
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義を中心とするが、授業外でテキストを読み、内容を理解することを踏まえる。授業では講義に加えてケーススタディーなどを通して、図書館経営の理念から図書館経営に応用できるマネジメント技術などを能動的に学習する。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
毎回、テキストの指定された章を読み、内容を理解すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

2 回の期間レポート（各 35%）から、授業で取り上げた内容の理解度と応用力を評価し、期末レポート（15%）で科目全般の総合的理解度を判定する。さらに、授業への参加を平常点として評価する（15%）。期間レポートの点数は manaba で学生本人に公開し、授業中にレポートについて講評する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『図書館制度・経営論』第 2 版/柳 与志夫/学文社/2019/9784762028724/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（大学図書館司書としての勤務経験あり）

中等教育課程論

TEA2802NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格（実践的科目）

2年次 3年次

2単位 前期

金曜 2限

—

60

渡邊 春美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

テーマ：カリキュラムマネジメントの基礎力の育成

1. 教育課程の編成に関する基本的な概念・原理・意義の理解
2. 学習指導要領を中心とする教育課程の歴史の変遷とその背景の理解
3. 各学校の教育課題に合わせた教育課程とカリキュラムマネジメントの理解
4. 教育課程と評価の理解
5. 以上をとおして、学習指導要領を基準とし、各学校の実情に合わせて編成される教育課程の意義や編成方法を理解し、カリキュラムマネジメントの基礎力を身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 教育課程の編成に関する基本的な概念・原理・意義の理解を深める。
2. 学習指導要領を中心に教育課程の歴史の変遷とその背景を理解する。
3. 教育課程と学習指導の在り方について考え、カリキュラムマネジメントの意義を理解する。
4. 教育課程と評価の理念、および具体的な評価の在り方を考える。

5. 教育課程の課題をとらえ、求めるべき教育課程を考える。

【ループリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	講義を理解しようとする姿勢が乏しい。受講生の相互交流においても消極的で、学びの姿勢が乏しい。テキストから学ぶ意欲が乏しい。	講義を聞き理解しようとする。受講生との相互交流に参加しようとする。他者を理解し、学ぼうとする。与えられたテキストから学ぼうとする。	理解の深化を心がけている。講義を聴き、疑問点を質問したり、新たな課題を見出したりする。相互交流に積極的に参加し、発言し、他者を理解し、他者から学ぼうとする。テキストのみならず、関連参考書からも学ぼうとする。自らの学びを振り返ろうとする。	理解の深化を求めて意識的に調べようとする。講義を関連知識と結びつけて理解し自ら課題を見出し、追求しようとする。受講生の相互交流において他者を理解するとともに、新たに創造的な知見を提供しようとする。テキスト、参考書類から学ぼうとし、関連知識を増やそうとしている。自ら学びを振り返り、新たな学びを展開しようとする。
教育課程の基本原則・概念	教育課程の基本原則・概念の理解に乏しく、理解する努力を欠いている。	教育課程の基本原則・概念を理解することができる。	教育課程の基本原則・概念を理解し、それを基に、過去や現在の教育課程を考察し理解することができる。	教育課程の基本原則・概念を理解し、それを基に、過去や現在の教育課程を考察し理解するとともに、課題を見出し、求められる教育課程の創造に役立てることができる。

教育課程の歴史と背景の理解	教育課程の歴史の概要がとらえられず、関連する史的背景と結びつけることができない。	教育課程の歴史と各時代の背景的要素の概要をとらえることができる。	教育課程の歴史を、各時代の背景的要素と関連させて理解することができる。	教育課程の歴史を、各時代の背景的要素と関連させて理解し、現在の教育課程を史的に位置することができる。
カリキュラムマネジメント	時代・社会の要請が理解できず、教育課程を構想できない。	時代・社会の要請と学校教育の課題をとらえ、教育課程を構想できる。	時代・社会の要請と学校教育の課題をとらえ、基本原理・概念を生かし、歴史的背景に考慮し、教育課程を構想できる。	時代・社会の要請と学校教育の課題をとらえ、基本原理・概念を生かし、歴史的背景に考慮し、新たに特色のある教育課程を構想し、さらに変化に応じて柔軟に対応できる。
教育課程と評価の理解	教育課程に応じた評価計画が作成できない。	教育課程に応じた基本的な評価計画を作成できる。	教育課程の特色をとらえ、特色に配慮した評価計画を作成できる。	教育課程の特色を理解し、自らの学力観に基づき、教育課程の実施に生きる教育評価計画を作成できる。

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
オリエンテーション・講義：私の受けてきた教育課程
- 第 2 回 学校教育の課題：教育課程編成の動向と背景
開講スピーチ：中・高等学校教育の課題 講義：新たな教育課程編成の動向と背景
- 第 3 回 教育課程の意義
教育課程の意義—現代的課題と教育課程
- 第 4 回 教育課程の背景としての学力観
学力観と教育課程
ゆとり教育と教育課程
- 第 5 回 総合的な学習の教育課程
教育課程編成の新しい動き—総合的な学習グループ発表
- 第 6 回 新たな外国語学習の教育課程
教育課程編成の新しい動き—外国語（英語）
- 第 7 回 言語文化の学習の教育課程
教育課程編成の新しい動き—言語文化

- 第 8 回 道徳の教育課程
教育課程編成の新しい動き—道徳
- 第 9 回 キャリア教育の教育課程
教育課程編成の新しい動き—キャリア教育
- 第 10 回 メディアリテラシーの学習の教育課程
教育課程編成の新しい動き—メディアリテラシーの教育
- 第 11 回 教育課程編成の原則と評価
教育課程編成の原則と評価
- 第 12 回 学習指導要領の歴史 1
学習指導要領の歴史：経験主義から系統主義へ
- 第 13 回 学習指導要領の歴史 2
学習指導要領の歴史：系統主義から言語活動主義へ
- 第 14 回 教育課程の構造
教育課程の構造の理解
- 第 15 回 中等教育課程論の授業の振り返り
閉講スピーチ：私の求める教育課程 まとめ：教育課程の意義と創造

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義
2. 討議
3. グループ学習・発表資料作成
4. レポート作成
5. フィードバック

「3. グループ学習・発表資料作成」については、グループごとの発表資料に基づく発表後に全体に対して講評を行う。「4・レポート作成」においては、全体的に講評を行い、併せて個別にコメントを付して返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストおよび参考資料を読み、配布プリントに基づいて、自分の考えを持つようにする。
2. 課題に基づいて調べ、整理し、グループ討議に備える。
3. グループで発表資料を作成できるようにする。
4. レポートの作成に備えて調べ、考えをまとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回の授業参加と小レポート提出 (40%)。発表 (40%)。まとめのレポート (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数他の理由によって、授業予定を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新しい時代の教育課程 第4版』/田中耕治他/有斐閣/2018年/9.784641124318E12/学内販売予定

授業では、テキストおよび配布プリントを使用する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『現代中等教育課程入門』/吉富芳正/明星大学出版部/2014/9784895491921

『中学校学習指導要領』文部科学省・『高等学校学習指導要領』文部科学省

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

私立・公立高等学校に24年間勤めた経験があり、国語科担当ではあったが、本科目「中等教育課程論」における、学習指導要領の史的展開、教材編成・カリキュラム・カリキュラムマネジメントなどで学生の指導に生かせるところも多い。

読書と豊かな人間性

TLI2851N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 3限

—

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもが成長していく過程において読書がどのような意義を持つかを考察する。また、子どもが読書の楽しさを知るために、学校図書館はどのような役割を果たすことができるかを、実習を交えながら学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの読書能力と読書興味の発達段階を学ぶ。
2. 子ども観の移り変わりの中で、子どもの読書の意義についての考え方がどのように変わってきたかを把握する。
3. ブックトークやストーリーテリングなど読書に関する学校図書館の重要なサービスについて、基本的な事項を把握した上で実践的に学ぶ。
4. 読書に関する日・英・米の行政施策や民間の取り組みについて学ぶ。
5. 子どもの読書や文化を取り巻く問題点について考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
読書センター機能についての理解	学校図書館が読書支援のためにどのような機能を持っているか知らない。	学校図書館が読書支援のためにどのような機能を持っているか理解している。	読書センターとして学校図書館が機能するための具体的なサービス方法を知っている。	読書支援をするにあたっての現代的な課題を理解している。

おはなし会 についての 知識・技術	図書館にお けるおはな し会の意義 や概要を知 らない。	図書館にお けるおはな し会の意義 と概要を知 っている。	おはなし会 に利用でき るブックト ークや読書 へのアニメ ーションに関 する知識と 技術があ る。	複数のプロ グラムを組 み合わせて おはなし会 を企画する ことができ る。
-------------------------	------------------------------------------	-------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 序 「読む」とは
- 第 2 回 1. 読書能力・読書興味の発達段階
- 第 3 回 2. 子どものための読書プログラム（演習を含む）
1) お話会プログラムに利用できる技術 2) 紙芝居
- 第 4 回 2. 子どものための読書プログラム（演習を含む）
3) 読み聞かせ 4) ストーリーテリング
- 第 5 回 2. 子どものための読書プログラム（演習を含む）
5) 読書へのアニメーション
- 第 6 回 2. 子どものための読書プログラム（演習を含む）
6) ブックトーク
- 第 7 回 2. 子どものための読書プログラム（演習を含む）
6) ブックトーク（続き） 7) ビブリオバトル
- 第 8 回 3. 児童資料論(1) 絵本・物語
- 第 9 回 3. 児童資料論(2) ノンフィクション
- 第 10 回 4. 子ども観の変遷
- 第 11 回 5. 子どもへの読書支援
1) 日本の行政施策と民間の取り組み
- 第 12 回 5. 子どもへの読書支援
2) 海外の行政施策と民間の取り組み
- 第 13 回 6. 子どもと読書・情報をめぐる諸問題
- 第 14 回 7. 子どもにとっての読書の意義
- 第 15 回 8. 内容理解確認と振り返り

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1. 講義・実習を併せて行う。
- 2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。（ワークシートを利用した学習、方法論習得のための作業を伴う学習など）
- 3. ブックトーク・ストーリーテリングなどの読書プログラム演習を行う。
- 4. プリント・ビデオ等を利用する。
- 5. 授業中の課題については、その場で口頭によるフィードバックをする。筆記試験については終了後manabaで講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. 講義に関しては、各学習項目ごとに、事前学習や作業の方法を指示する。
- 2. 読書プログラム演習に関しては、準備方法を授業中に

指示する。

3. ある程度児童文学や絵本を読んでいることが学習効果を高めるので、各自積極的に読んでおくことが望ましい。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

筆記試験60%（第15回に実施）、読書プログラム実習を含む授業中の課題40%とし、その合計で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

演習実施日程の調整のため、授業の順番は前後することがある。

ゲスト講師を招くことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『読書と豊かな人間性』（放送大学 2020）

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

非常勤調査員として国立国会図書館における勤務経験あり。国際図書館連盟学校図書館部会常任委員として、学校図書館の国際ガイドライン改訂等に従事。

京都市、福知山市、大阪府などの自治体において、委員長または委員として、子ども読書活動推進計画の策定に携わっている。

日本語教育実習 I

JLT3800NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格（実践的科目）

3年次

2単位 前期

金曜 2限 金曜 3限

ー

30

日本語教育入門

週2コマ

稲垣 顕子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

模擬授業を通して、日本語を教えるための技術を身につける。どのような学習者にでも対応できるよう、初級、中級、上級というレベルに応じた指導法はもちろん、文法、会話、読解、作文といった科目別の具体的な指導方法も学ぶ。実践を通して、日本語教育入門で学んだ知識を日本語教師として必要な技術に結びつける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・日本語教育における日本語文法を学ぶ。
- ・レベル別、科目別の模擬授業を通して、指導法の基礎を身につける。

- ・どのような授業を行うか、自ら考え、工夫して教案を作る。
- ・さまざまな教材の特徴を学び、効果的な使用法を考える。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	学習者の困難点が把握できない	学習者の困難点を理解しようとする	学習者の困難点を理解して授業に取り入れられる	学習者の困難点全般を理解し、あらゆる質問にも対応できるように態勢を整えて授業に臨める
知識・理解力	日本語教育の基礎が身についていない	日本語教育の基礎は理解しているが、授業に取り入れられない	日本語教育の基礎を理解して、ある程度授業に生かすことができる	日本語教育の基礎を理解し、応用できる。
言語力	現代日本語文法、表現の基礎知識がない	現代日本語文法、表現の知識はあるが、学習者への対応にそれを生かすことができない	学習者のレベルを把握し、ある程度表現を使い分けられる。	学習者のレベルに応じて表現を使い分けられる。
思考・解決力	授業運営上の問題(学習者からの質問、学習者が理解できていないなど)に学習者から意思表示があっても対応できない	授業運営上の問題(学習者からの質問、学習者が理解できていないなど)に学習者から意思表示があれば対応するが、十分ではない	授業運営上の問題(学習者からの質問、学習者が理解できていないなど)に学習者から意思表示があれば対応できる	授業運営上の問題(学習者からの質問、学習者が理解できていないなど)に、学習者からの意思表示がなくても気がつき、対応することができる
共生・協働する力	授業に学習者の視点が欠けている	学習者のことを考えて授業を組み立てる努力はできる	学習者が楽しんで授業を受けられることを考えて授業が組み立てられる	学習者が楽しんで授業を受けられるように授業を組み立てるだけでなく、その場に応じて対応できる
創造・発信力	学習者の発言等に反応ができない	学習者の発言等へ形式的にしか反応できない	学習者の発言等へ適切な反応ができる	学習者の意欲を駆り立てるような発言が場に応じて行える

〔授業計画〕

- 第 1 回 はじめに (オリエンテーション)
0
- 第 2 回 初級授業概論
0
- 第 3 回 初級模擬授業準備
0
- 第 4 回 初級模擬授業 (1)
こ・そ・あ、名詞文、動詞文の模擬授業
- 第 5 回 初級模擬授業 (2)
授受表現、形容詞文、存在文の模擬授業
- 第 6 回 初級模擬授業 (3)
ほしい・たい、て形を使った文型、ない形を使った文型、辞書形を使った文型の模擬授業
- 第 7 回 初級模擬授業 (4)
条件文、そうです、ようすの模擬授業
- 第 8 回 初級模擬授業 (5)
受身文、使役文、敬語の模擬授業
- 第 9 回 中上級授業概論
0
- 第 10 回 中上級授業 (1)
文法の授業
- 第 11 回 中上級授業 (2)
会話、読解の授業
- 第 12 回 実習 (1)
京都工芸繊維大学での実習 (予定)
テーマ: 自己紹介、日常生活
- 第 13 回 実習 (2)
京都工芸繊維大学での実習 (予定)
テーマ: 買い物、私の町
- 第 14 回 実習 (3)
京都工芸繊維大学での実習 (予定)
テーマ: 食べ物、誘う
- 第 15 回 まとめ
模擬授業、実習の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・教授法を確認しながら、グループ、あるいは個人で模擬授業の準備、実践を行う。自らの実践だけでなく、他学生の模擬授業から指導項目の要点、教え方のポイントも学ぶ。積極的に授業に参加すること。

- ・模擬授業はクラス全体でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・日本語文法や教授法はさまざまな書物にあたり、自ら積極的に学ぶこと。

- ・模擬授業の前には必ず教案を提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度: 40%、課題・実習: 60%

出席が3分の2以上に満たない者は評価しない (不合格)。

遅刻は教師の資質にかかわる問題であるため、場合によっては特別課題を課す。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の人数等により、授業内容に変更される場合がある。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

ハンドアウト配布。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中、適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験あり

留学生への日本語教育を行っている

日本語教育実習 II

JLT3850N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 後期集中

その他

ー

60

日本語教育実習I

集中

田中 貴子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 教育実習

本科目は1,2,3年で学習した日本語教員養成科目の総仕上げとして、実際に外国人学習者に日本語教育の授業実践を行なうことにより、日本語教師としての知識、技能、考え方などを身につけることを目標とする。実習において円滑な実践が行なわれるよう、充分な課題準備が求められる。既に実施している教室実習とは異なり、多様な学習者に対応した指導技術、問題解決能力、コミュニケーション力などが求められる。グローバル社会において、自ら考え実践できる日本語教師の育成を目指す。

2. 事前事後授業

実習を実りあるものにするため、事前授業では基本的な授業技能や心構えを身につけ、自主的に様々な準備を行う。事後指導においては、実習体験が今後の自立学習に活かされるように意識付けを行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本語教育実習に対する教師としての心構えを身につける。
2. 学習者に応じたコースデザイン・指導内容を考える。
3. 実習のオリエンテーション、プレースメントテスト、シラバスなどの作成を行う。
4. さまざまな教授法をふまえて、指導案作成・教材準備を行う。

5. 実践を通して、効果的な指導技能、教室活動を学ぶ。

6. 日本語学習者との相互理解を深める。

7. 実習を総括し、レポートにまとめる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	日本語教育能力を向上する努力をしない	日本語教育能力の向上を大切に考える	日本語教育能力の向上のために自ら積極的に学ぶ	日本語教育能力をどのように活用できるかを考え、実践できる
知識・理解力	基礎的な日本語教育能力に関する知識がない	基礎的な日本語教育能力に関する知識を有する	専門的な日本語教育能力に関する知識を有する	専門的な日本語教育能力や関連する分野の知識を有する
言語力	基礎的な日本語教育に関する表現が理解できない	基礎的な日本語教育に関する表現が理解できる	専門的な日本語教育に関する表現が理解できる	専門的な日本語教育や関連する分野の表現が理解でき、実践できる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	日本語教育に関する問題を考え、実践しようとする	日本語教育に関する問題を考え、自ら解決して実践する努力をする	日本語教育に関する問題を自ら見つけ出し、考えて実践できる
共生・協働する力	授業で学んだ知識や他者の意見を参考にしない	授業で学んだ知識や他者の情報を踏まえて、自ら実践しようとする	自ら実践した知識を、他者と共有し、自分の知識を深めようとする	広範囲の情報や知識を共有し、自分の実践に活かして知識を深める
創造・発信力	自分勝手な情報発信をする	自らの知識を踏まえて、日本語教育の実践について考える	自らの実践や、他者の情報を総合的に判断し、日本語教育の実践に関する知識を深める	広範囲の情報や知識を踏まえて、自ら日本語教育実践について発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 事前指導1. コースオリエンテーション、教育実習の意義及び心構え、学習者の多様性と異文化コミュニケーション、ポスター作成
- 第 2 回 事前指導2. コースデザイン、プレースメントテスト作成、実習オリエンテーション準備
- 第 3 回 事前指導3. 教材研究、指導案作成、教材および教具作成 (初級)
- 第 4 回 事前指導4. 教材研究、指導案作成、教材および教具作成 (初中級および中級)
- 第 5 回

- 実習1. 実習オリエンテーション、プレースメントテスト実施、クラス分け
- 第 6 回 実習2. 初級授業実践（ひらがな、挨拶、自己紹介、こそあど、数字）
- 第 7 回 実習3. 初級授業実践（ひらがな、基本的な動詞・形容詞、存在の表現）
- 第 8 回 実習4. 初級授業実践（カタカナ、希望の表現、授受表現）
- 第 9 回 実習5. 初級授業実践（カタカナ、比較の表現、過去の表現）
- 第 10 回 実習6. 初中級授業実践（動詞「辞書形」「て形」「た形」の文型）
- 第 11 回 実習7. 初中級授業実践（動詞「ない形」「普通形」の文型）
- 第 12 回 実習8. 初中級授業実践（可能の表現、時の表現、自動詞・他動詞）
- 第 13 回 実習9. 中級授業実践（日本文化に関する読解）
- 第 14 回 実習10. 中級授業実践（日本文化に関する会話）
- 第 15 回 事後指導1. 振り返り、実習日誌・レポート・最終指導案提出、総括、今後の自己学習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

実習の事前事後に、講義による授業を行なう。実習先では授業を実践し、その後フィードバックを行なう。授業実践の前には指導案の提出が求められる。学生は授業実践および授業見学を通して共に日本語教育における技能を深める。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

事前授業では、さまざまな学習者に対するコースデザインを行う。また、日本語教材の比較・分析を通して授業実践の準備を行う。

実習中は、指導内容の研究が不可欠で、授業に対する適切で効果的な指導法や教材・教具などを考えて指導案を作成することが求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は授業参加度、指導案提出、教育実習、課題提出により総合的に行う。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』//スリーエーネットワーク//9784883196036

『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』//スリーエーネットワーク//

『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』//スリーエーネットワーク//9784883191550

『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』//ス

リーエーネットワーク//9784883192014

『日本語文型辞典』//くろしお出版//4874241549

『日本語初級大地1』スリーエーネットワーク

『日本語初級大地2』スリーエーネットワーク

『トピックによる日本語総合演習中級前期』スリーエーネットワーク

『トピックによる日本語総合演習中級後期』スリーエーネットワーク

『J.Bridgeジェイ・ブリッジ Vol.1 Vol.2』凡人社

『くらべてわかる日本語表現文型辞典』Jリサーチ

『日本語初級大地 文型説明と翻訳 英語版』スリーエーネットワーク

『日本語初級大地 教師用ガイド 教え方と文型説明』スリーエーネットワーク

『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』アルク

『生きた例文で学ぶ日本語表現文型辞典』アスク

『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ 書いて覚える文型練習帳』スリーエーネットワーク

『おたすけタスク』くろしお出版

『コミュニケーション・ゲーム』凡人社

『コミュニケーションのためのクラス活動40』スリーエーネットワーク

『絵で導入・絵で練習』凡人社

『クラス活動集101』スリーエーネットワーク

『続クラス活動集131』スリーエーネットワーク

『日本語かな入門』凡人社

『くらべてわかる日本語表現文型辞典』Jリサーチ

『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク

『中級日本語文法要点整理ポイント20』スリーエーネットワーク

『語学留学生のための日本語Ⅰ』『フォローアップ問題集』凡人社

『語学留学生のための日本語Ⅱ』『フォローアップ問題集』凡人社

『絵とタスクで学ぶにほんご』凡人社

『絵でマスター日本語基本文型85』凡人社

『初級日本語げんき[改訂版]』ジャパントイムス

『まるごと 日本のことばと文化』三修社

『中級へ行こう』スリーエーネットワーク

日本語初級・初中級・中級テキスト

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

日本語学校、インターナショナルスクールにおいて留学生に対して、豊中市国際交流協会、神戸市国際交流協会において在留外国人に対する日本語教育を担当

日本語教授法

JLT2850N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 前期

火曜 3限

ー

60

田中 貴子

【科目の教育目標 (Course Description)】

本科目は、前期「日本語教育入門」での学習をふまえた上で、実際の授業を行うために必要な知識やスキル、考え方を身につけることを目標とする。日本語教育を行う上で必要な第二言語習得理論や、教授法の変遷、日本語の言語的な特徴、教室運営スキルなどを学ぶ。現在、日本語学習者の増加に伴い、その背景や学習動機などは実に多様化しており、授業の実践方法もさまざまである。日本国内、国外を問わず、様々な状況に応じて、学習者のために自ら考え、実践できる教師の育成を目指す。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

国内外の日本語教育の現状およびその背景を知る。
 さまざまな教授法を学び、その特徴や問題点を考える。
 外国語としてとらえた日本語に関する知識を学ぶ。
 外国語教育の技能を学ぶ。
 教材や教室活動、授業の組み立て方を学び、実践を行う。
 教師としての資質を身につける。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	日本語教育能力を向上する努力をしない	日本語教育能力の向上を大切に考える	日本語教育能力を向上するために自ら積極的に学ぶ	日本語教育能力を活用するために、自ら考え実践できる
知識・理解力	基礎的な日本語教育に関する知識がない	基礎的な日本語教育に関する知識を有する	専門的な日本語教育に関する知識を有する	広範囲にわたる日本語教育および関連する知識を有する
言語力	基礎的な日本語教育に関する表現が理解できない	基礎的な日本語教育に関する表現が理解できる	専門的な日本語教育に関する表現が理解できる	専門的な日本語教育や関連する分野の表現が理解できる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしない	日本語教育に関する問題点を考えようとする	日本語教育に関する問題点を考え、自ら解決しようとする	日本語教育に関する問題点を考え、様々な知識を踏まえて自ら解決できる

共生・協働する力	授業で学んだ知識や他者の意見を参考にしない	授業で学んだ知識や他者の意見を参考に、日本語教育能力を考えようとする	自ら得た知識を他者と共有し、日本語教育能力を深めようとする	日本語教育に関する広範囲の情報を共有し、自らも考えを深められる
創造・発信力	自分勝手な情報発信をする	周りの状況を踏まえて、日本語教育の実践を考える	自らの考えや他者の考えを総合的に判断して日本語教育の実践を考える	広範囲の情報を踏まえて、日本語教育の実践やあり方を考える

【授業計画】

- 第 1 回 国内外の日本語教育の現状
 - 第 2 回 コースデザイン、シラバス
 - 第 3 回 教授法の歴史と言語学習理論 1 (構造言語学に基づいた教授法まで)
 - 第 4 回 教授法の歴史と言語学習理論 2 (コミュニカティブな教授法から現代にいたるまで)
 - 第 5 回 教室活動の種類と目的 1 (教室環境や教師のインターアクションなど)
 - 第 6 回 教室活動の種類と目的 2 (授業の組み立て、クラスの活動)
 - 第 7 回 日本語の音声
 - 第 8 回 授業の実際 1 会話教育と教材分析
 - 第 9 回 授業の実際 2 聴解教育と教材分析
 - 第 10 回 授業の実際 3 読解教育と教材分析
 - 第 11 回 授業の実際 4 作文教育、日本語の語彙
 - 第 12 回 評価論、教科書分析、授業案作成
 - 第 13 回 授業の実践 1 (教材研究・模擬授業 初級 1)
 - 第 14 回 授業の実践 2 (教材研究・模擬授業 初級 2)
 - 第 15 回 授業の実践 3 (教材研究・模擬授業 初級 3)
- 今までのまとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施する

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

ハンドアウトに沿って講義を行う。
 外国語としての観点から、日本語を分析する。
 さまざまな教授法を学び、各自あるいはグループで教案作成や教材分析を行う。課題に対するレポートが求められる。
 次回授業でレポートのフィードバックを行う。
 教室内実習を行う。実習後、全体に対してフィードバックを行う。
 授業への積極的な参加が求められる。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

事前に資料を読んでおくこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題・実習 (40%)、試験 (30%) の総合評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

毎回、ハンドアウトを配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本語教授法を理解する本 歴史と理論編』/西口光一/バベルプレス/1995/

『日本語教授法を理解する本 実践編』/三牧陽子/バベルプレス/1996/

『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』/川口義一&横溝紳一郎/ひつじ書房/2005/

『日本語教授法』/石田敏子/大修館書店/1995/

『日本語教育ハンドブック』/林大他/大修館書店/1990/

初級を教える人のための日本語文法ハンドブック スリーエーネットワーク

中上級を教える人のために日本語文法ハンドブック スリーエーネットワーク

国際交流基金日本語教授法シリーズ 第1巻~14巻 凡人社

日本語教育演習シリーズ①②教えるためのことばの整理①~② 凡人社

日本語教育演習シリーズ③④さまざまな表現 凡人社

日本語教育演習シリーズ⑤教え方の基本 凡人社

日本語教育演習シリーズ⑥授業の組み立て 凡人社

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶

日本語学校、インターナショナルスクールにおいて留学生に対して、豊中市国際交流協会、神戸市国際交流協会において在留外国人に対する日本語教育を担当

博物館教育論

MUS1852N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜1限

ー

60

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会教育施設としての博物館の特性を理解する。博物館の教育は双方向的なものであり、すべての人に開かれなければならないことを理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

博物館での教育活動の基礎となる理論や知識、方法論を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	博物館の教育普及について基礎的な用語を知らない	博物館の教育普及について基礎的な用語を知っている	博物館の教育普及について実際の活動例がある程度知っている	博物館の教育普及について全体的・個別的に説明できる
言語力				
思考・解決力	博物館の教育普及活動に参加したことがない	博物館の教育普及活動の企画の方法を知っている	教育普及活動の企画を作成することが出来る	教育普及活動の企画をし、準備して実施することが出来る
共生・協働する力	博物館の教育普及の意義を知らない	博物館の教育普及には多様な人々が関わることを理解している	博物館の教育は双方向的なコミュニケーションを目指すものであることを理解している	すべての人に開かれた社会教育施設としての博物館の意義を理解している
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 博物館における教育とはなにか
- 第 2 回 博物館教育の歴史
- 第 3 回 博物館の利用実態と様々な学びの形態
- 第 4 回 博物館教育の双方向性について
- 第 5 回 教育的観点からみた展示・解説
- 第 6 回 学校教育と博物館
- 第 7 回 生涯学習と博物館
- 第 8 回 地域と博物館
- 第 9 回 ユニヴァーサルな博物館を目指して
- 第 10 回 博物館教育活動の様々な手法について
- 第 11 回 博物館教育活動の企画と実施の実務について
- 第 12 回 ワークショップの企画のための見学 (陶板名画の庭を予定。実施回未定)
- 第 13 回 ワークショップの準備
- 第 14 回 ワークショップの実施
- 第 15 回 博物館教育の評価について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式、ディスカッション、ワークショップ。適宜、課題を提示する。課題とレポートの成果は発表などを通してクラスで共有する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指示された課題に取り組むこと。また、機会があれば、美術館や博物館で行われているワークショップや解説会などを体験すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

参加態度50%、レポート(制作物の場合もある)の成績50%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生によりなんらかのワークショップを実施する際、状況によって企画準備などの進行の実施時期を適宜調整する。情報に注意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『博物館教育論』/小笠原喜康ほか/ぎょうせい/2012/9784324092460

適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫(兵庫県立美術館で学芸員として勤務)

博物館経営論

MUS1850N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格(実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 2限

ー

60

明珍 健二

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

博物館の経営における形態面および活動面における適切な管理・運営手法について理解し、ミュージアムマネジメントに関する基礎的能力を養成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

博物館の経営基盤に関し、職員と組織がスムーズに連動するために財務・行財政システム・施設と設備がいかようにあるべきかを理解し、博物館の使命とは何か、その評価とは何かを考えるものとする。また博物館における行動規範を理解し、危機管理対応も理解する。さらに博物館の連携体制について、市民参画に必要な体制作りが友の会・ボランティアにとどまらず他館との連携あるいは産官学の連携までを含み、その結果、地域社会と博物館の連携が地域活性化する原動力となることを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力			博物館の実態を把握し、どのような業務があるかを知る	
知識・理解力			専門的知識をいかにして獲得するか、その実情を知る	
言語力			博物館における専門用語や博物館資料名称を深く習得する	
思考・解決力			博物館運営にかかる専門的業務内容をどのように展開するかを学ぶ	
共生・協働する力			学芸員としての研究素質を習得し、展覧会等を開催する能力を獲得する	
創造・発信力			博物館新規事業の開発および博物館を活性化させる方策を探ることを考える	

〔授業計画〕

- 第 1 回 ミュージアムマネジメントとは何か
- 第 2 回 公立・私立博物館の行財政制度
- 第 3 回 博物館活動における財務とは何か
- 第 4 回 博物館施設および設備はどのようにあるべきか
- 第 5 回 博物館施設の在り方(諸法例との関連)
- 第 6 回 博物館設備の在り方(諸法令との関連)
- 第 7 回 博物館の組織および職員体制
- 第 8 回 博物館の使命、事業計画、博物館評価とは
- 第 9 回 博物館倫理(行動規範)とは何か
- 第 10 回 博物館における危機管理とは何か
- 第 11 回 友の会、ボランティア、支援組織と市民参画の在り方
- 第 12 回 博物館のネットワーク化・他館との連携

第 13 回 行政、大学、研究機関等との連携

第 14 回 地域社会との連携・活性化をはかる博物館とは

第 15 回 まとめ（博物館経営基盤とは）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は行わないが、レポート提出より評価する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式とするが、テーマによっては討論を行うことがある。レポート提出後、その内容・キーワードおよび文章構成について批評する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

詳細は授業時に指示するが、多くの博物館を見学することを望む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（本講義は、授業参加度 70%以上をもって評価する。）およびレポートによる評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

博物館は、知的装置をたくさん備えています。それを知ることが、博物館の楽しさを理解する役に立ちます。ぜひ議論しましょう。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜、レジュメおよびテキストを示す。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》公立博物館勤務。博物館 2 館の立ち上げおよび運営に携わる。博物館経営を理解するために学芸員の勤務実績をもとに、博物館運営の基軸となる学芸員の仕事を博物館資料の収集と調査研究・展覧会の開催等について、予算立ての歳入・歳出について具体的に紹介する。

博物館資料保存論

MUS2850N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格（実践的科目）

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 5限

ー

60

上羽 真弓

〔科目の教育目標（Course Description）〕

博物館における資料の保存及び展示・収蔵環境を科学的に捉え、資料保存を良好な状態でおこなって行くための必要な知識を習得することを通じて、資料保存に関する基礎的能力を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

資料保存の歴史・意義を学び、その重要性を知る。

資料保存のための環境管理について学ぶ。

資料の種類ごとに修復処置の内容と意味を理解する。

美術館における保存修復活動を見学し、理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 博物館における資料保存の意義、文化財保護の歴史 1

第 3 回 博物館における資料保存の意義、文化財保護の歴史 2

第 4 回 資料の保存環境－温湿度－

第 5 回 資料の保存環境－空気汚染物質－

第 6 回 資料の保存環境－生物被害とIPM（総合的有害生物管理）－

第 7 回 資料の保存環境－光と照明－

第 8 回 資料の保存環境－振動・衝撃－

第 9 回 資料の保存環境－伝統的な保存方法－

第 10 回 資料の修復－理念・調査－

第 11 回 資料の修復－日本画－

第 12 回 資料の修復－洋画－

第 13 回 資料の修復－屋外文化財－

第 14 回 文化財レスキュー活動

第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義を中心に授業を進める。

※学外見学を実施する場合がある。見学に関わる費用は履修者の負担とする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業中に適宜指示する。

積極的に博物館に足を運び、各館の資料保存に関する取り組みを知ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加態度30%、小レポート20%、定期試験50%に基づいて総合的に行う。

欠席回数が3分の1を超過した場合には単位を与えない。

各回終了時に感想用紙を配布する。必要に応じて、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

内容や進行状況に応じて各回の内容は変わります。

施設見学に関わる費用は履修者の負担となります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜、資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『博物館資料保存論』/石崎武志(編著)/講談社/2012/9.784061565036E12

『文化財の保存環境』/東京文化財研究所(編)/中央公論美術出版/2011/9.784805506486E12

その他、適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 学芸員(保存修復)として、美術館での勤務経験あり。

博物館実習Ⅰ(学内)

MUS3800NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格(実践的科目)

3年次 4年次

2単位 前期

木曜 5限 その他

—

60

博物館概論

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学芸員資格に向けた最終段階の科目の一つとして、学芸員業務に関する実践的な力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

様々な館の見学、作品取り扱いの実習、学内展示の企画・実施を通して、博物館学の知識を実地に応用する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	展示企画について主体的に取り組んでいない	展示企画について主体的に取り組む	展示企画について積極的にアイデアを探す	適切に進行管理して展示企画を実行することができる

知識・理解力	展示会をお客様の立場でしか見ていない	展示会を企画する側の立場で観察できる	展示会の開催に関わる業務について基本的な知識がある	必要があれば簡便で小型の展示を自力で企画実施することが出来る
言語力	展示企画について明確に説明できない	企画内容についてわかりやすく説明できる	わかりやすいキャプション・章解説パネルを書ける	展示会全体として説得力のある展示を構築できる
思考・解決力	展示企画について意見やアイデアを出せない	展示企画について自分の意見やアイデアを述べる事が出来る	展示企画について困難な点を明らかにし、解決方法を考える事が出来る	時間・手段などの制限内で実行可能な展示企画を立案実行できる
共生・協働する力	展示会は多くの人の力で可能になることを理解していない	展示会にまつわる多くの業務を理解している	展示会を通じて可能になるコミュニケーションを理解している	すべての人に開かれた社会教育施設としての博物館の役割を理解している
創造・発信力	展示企画の概念を理解していない	表現形態としての展示を理解している	展示の様々な技術を知っている	実行可能な技術を最大限用いて、わかりやすく楽しい展示を開催できる

〔授業計画〕

- 第1回 博物館実習の意義について・展示企画の検討
- 第2回 美術系博物館の見学と検討(実施回未定)
- 第3回 考古系博物館の見学と検討(実施回未定)
- 第4回 自然系博物館の見学と検討(実施回未定)
- 第5回 調書の作成について
- 第6回 自記記録計・照度計の扱い
- 第7回 作品の取り扱い(平面)
- 第8回 作品の取り扱い(立体)
- 第9回 作品の写真撮影
- 第10回 展示内容の企画案発表会(より早い回に実施する可能性がある)
- 第11回 博物館における印刷物の作成について
- 第12回 展示図面の作成
- 第13回 作品貸出・借用の実際について
- 第14回 解説・キャプションの作成
- 第15回 展示作業とギャラリー・トーク

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ 博物館施設を見学し、展示等について検討する
- ・ 作品管理に関わる実務、取り扱いについて実習を行い、博物館実習Ⅱに備える
- ・ 学内展示の企画・実施
- ・ 各回の作業内容・作成物について随時講評することでフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ 指示された課題を準備すること
- ・ 施設のスケジュールによっては、時間内に見学を実施することが不可能なので、各自が個別に見学を行うことを求める可能性もある

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・ 参加態度50%、課題の成果50%

〔留意事項 (Other Information)〕

博物館実習Ⅰ・Ⅱは、学芸員課程の最終段階に位置づけられる科目の一つであるので、その他の必要科目をほとんど取得していることが望ましい。

また、博物館概論を履修済であることを登録の要件とする。

〔重要〕

(1) 学内で実施する実習とともに、博物館・美術館の見学会(3回分)をもうけている。実施回は上記予定(第2～4回)から変更される可能性が高く、日程については随時決定するので、情報に留意すること。

(2) 作品梱包実習(1日間)を隔年実施する予定である。こちらは任意の参加であるが、大変貴重な機会であるので、極力参加して様々な技術を学ぶこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫(兵庫県立美術館で学芸員として勤務)

博物館実習Ⅱ (館園)

MUS3801N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

3年次 4年次

1単位 集中

その他

ー

15

博物館概論

集中

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

博物館・美術館での実習を通して、学芸員の業務を深く理解する。事前準備と事後報告を行い、博物館学的な観点から総括する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学芸員の業務
2. 美術品・資料の取り扱いについて
3. 美術館・博物館の様々な業務について

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	実習に対して主体的に取り組んでいない	実習に主体的に取り組んでいる	実習での経験を自分の問題として考察出来る	実習での経験を様々な局面で生かすことが出来る
知識・理解力	博物館をお客様の立場で見ている	博物館を内部の視点から見る事ができる	博物館職員の指示を博物館学的に理解し、動くことが出来る	博物館実習での体験を博物館学的な観点から総括できる
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力	実習が多くの人との協力で可能になっていることを理解していない	博物館が多く人の業務の中で実習を受け入れていることを深く理解している	博物館職員や他の実習生と前向きなコミュニケーションを築く	すべての人に開かれた社会教育施設としての博物館の役割を理解している
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・実習前に、派遣先についての調査を行い、発表する。
- ・実習は、学芸員の業務を体験するために行うが、具体的な内容は、各博物館、美術館、資料館により、異なる。
- ・実習後は、実習内容についてのレポートを書き、発表する。
- ・実習ノート、レポートを講評して返却することでフィードバックとする。

<Course Schdule (授業予定)>

学内では事前・事後の研修を行う。また、派遣先に関する調査レポートも課す。

館園での具体的な実習スケジュールは派遣先施設により異なるが、一例として、次のような日程が考えられる。

- (1日目) オリエンテーション 施設見学 講義 (展覧会について)
- (2日目) 講義 (特別展について) イベント補助
- (3日目) 展覧会補助
- (4日目) ワークショップ補助 保存修復施設の見学と体験
- (5日目) 展覧会補助
- (6日目) イベント (スタッフとして) 実施
- (7日目) 展覧会補助
- (8日目) グループワークとまとめ

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

博物館学芸員資格科目で学習したことを実習で活かせるように復習し、実習先の施設についてできるだけ多くの情報を収集しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設からの評価を基準としつつ、事前・事後の取り組み、博物館日誌の内容と実習後に提出するレポートとを合わせて評価する。(実習施設が評価を点数化しない場合もある。その場合は、事前事後の取り組み・日誌・レポートをもとに評価する。)

〔留意事項 (Other Information)〕

博物館概論の単位を修得済みであることを登録の要件とする。

博物館実習Ⅰ・Ⅱは、学芸員課程の最終段階に位置づけられる科目の一つであるので、その他の必要科目をほとんど取得していることが望ましい。また、各受入施設は、多忙な業務の中で、実習生を受け入れていることを念頭に置き、

大学を代表していることを忘れずに、礼儀正しく真摯な態度で実習に参加すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (兵庫県立美術館で学芸員として勤務)

人間形成演習

890002N0J
大学院
教職・資格
1年次
2単位 後期
木曜 3限
60
石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は、中学校および高等学校教諭の専修免許取得を目指す受講生に向けて、思想史的な観点から教育観・子ども観・人間観を問い直す視座の形成を目指すものである。教育の歴史の展開についての基礎を押さえた上で、主要な教育思想とその論者に関わる文献を精読する。これらの作業を通じ教育と人間の関係性を考察することで、人間を立体的および変化の相において捉えるレッスンをおこなう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

主要な教育思想とその論者に関わる文献を読み、受講生同士の議論を重ねることでテーマのつながりについて考察を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーションー教育と人間をめぐる問いー
- 第 2 回 人類の歴史と教育①ー古代ギリシア・ローマ時代の教育ー

- 第 3 回 人類の歴史と教育②－中世の社会と教育－
- 第 4 回 人類の歴史と教育③－ルネサンス期の人間観と教育－
- 第 5 回 人類の歴史と教育④－近代国家の誕生と「国民教育」－
- 第 6 回 文献読解①－例) ソクラテスおよびプラトンの思想と教育、そして人間－
- 第 7 回 文献読解②－例) コメニウスの思想と教育、そして人間－
- 第 8 回 文献読解③－例) ロックの思想と教育、そして人間－
- 第 9 回 文献読解④－例) ルソーの思想と教育、そして人間－
- 第 10 回 文献読解⑤－例) ピアジェの思想と教育、そして人間－
- 第 11 回 文献読解⑥－例) ペスタロッチの思想と教育、そして人間－
- 第 12 回 文献読解⑦－例) フレーベルの思想と教育、そして人間－
- 第 13 回 文献読解⑧－例) デューイの思想と教育、そして人間－
- 第 14 回 文献読解⑨－例) ブーバーの思想と教育、そして人間－
- 第 15 回 まとめ－再び、教育と人間をめぐる問い－

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各回のテーマに関するテキストを精読し、議論を通じて各テーマに対する理解を深める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回テーマにかかわる文献を読み、理解を深める。担当者は議論のベースとなるレジュメを作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (60%)

レポート (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で適宜提示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育の方法及び技術

TEA3850N0J
大学
教職・資格
3年次
2単位 後期
火曜1限
ー
60
東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育に関する歴史的な流れや国内外の動向を踏まえつつ、教育方法の意義を知ることを目指します。そのうえで、学習者の「学び」に着目し、それを促進する教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間における指導の方法と技術およびその評価の方法を、クラスメートとの協働を通して習得し、実践に役立てられるように理解を深めます。同時にさまざまなICTの特性とその使用方法についても理解を深めます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.教育方法の基本原理がわかる。
- 2.主体的な学習についてわかる。
- 3.主体的な学習を実現する授業構成がわかり、その指導技術を身につける。
- 4.情報通信機器 (ICT) と教材の活用方法について理解し、提案できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教育の方法や技術に興味・関心がない	教えられた教育の方法や技術についてのみ理解する	教えられた教育の方法や技術をもとに、関連した方法・技術について関心を持ち、調べたうえで理解する	これまでの経験や、今後の予測をもとに、教えられていない教育の方法や技術について関心を持ち、調べたうえで理解する
情報活用能力	情報機器を使おうとしない	最低限必要な情報機器を使って、教材を提示できる	情報機器の特性を理解し、効果的に活用できる	情報機器の特性を活かし、生徒を巻き込んで、適材適所で情報機器を活用できる

生徒主体の授業案作成力	教師主導の授業案しか作成できない	生徒同士の活動を取り入れた授業案を作成できる	教師主導の環境下でなら、生徒同士が考えた、議論したり、解決したりする授業案を作成できる	教師はファンリテータ役となり、学生が主体となり、自ら考えて行動できる授業案を作成できる
共生・協働する力	受講生の模擬授業や発表に対してコメントできない	受講生の模擬授業や発表に対して、相手が喜ぶコメントであれば発言できる	受講生の模擬授業や発表に対して、限定的であれば、否定的なコメントも発言できる	どんな状況であっても、同じ授業を受ける受講生に対して、批判的かつ共感的にコメントできる

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義の概要とアイスブレイキング
0
- 第 2 回 学ぶ意味の再考
「第1章：『私が学ぶ』の意味を探る」を中心とした活動及びディスカッション
- 第 3 回 主体的な学習を知る 1
「第3章：学びの場と学習者の変容」を中心とした活動及びディスカッション
- 第 4 回 主体的な学習を知る 2
協同学習を通して
- 第 5 回 教育史上での主体的な教育
ネット検索と共有
- 第 6 回 自分の授業観について
国内外の教育学史上にある教育者の思想と教育方法紹介を通して
- 第 7 回 主体的な学習を実現する授業構成及び指導案解説
「第4章：イメージ図による学習の改善と変革」を中心とした活動及びディスカッション
- 第 8 回 海外での主体的な学習実践事例
ーネット検索と共有ー（目標 1、4）
- 第 9 回 教育改革に対する国際的な動向
ーネット検索と共有ー（目標 1、4）
- 第 10 回 ICT（情報通信機器）を使った指導案の提案
※場合によって、実際の中高等学校に出向く校外学習を予定しています。
- 第 11 回 授業と評価方法
「第9章：教える目標と学ぶ目標」を中心とした活動及びディスカッション
- 第 12 回 授業分析
「第5章：観察する」を中心とした活動及びディスカッション
- 第 13 回 マイクロ模擬授業の実践と記録
- 第 14 回 授業分析と再設計
MACITOモデルの特性理解と応用

第 15 回 最終報告書の共有とディスカッション
ーレポート提出準備ー

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

演習を中心として授業を展開します。受講生のみなさんは教師役と生徒役の両者を体験することにより、教師主導に偏らない学習指導方法の習得を目指します。演習中はクラス全体が「学習する組織」として機能するよう活発な意見交換が求められます。

課題・レポートに関するフィードバックは、必要に応じて、授業内、web上で、個人または全体に対して行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回該当する章や参考文献を読んで、お互いに議論や質問できる状態になっていること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

〔授業中の参加度 30%、発表 30%、課題レポート 40%〕の3観点をもとに、教員が総合的に判断し、評価します。評価方法は最初に提示しますので、各自到達目標をめざして計画的に学習を進めてください。

〔留意事項（Other Information）〕

●遅刻は授業の進行の妨げとなるため、10分以上の遅刻は欠席とします。

●授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、必ず指定された予習や課題を行って授業に臨んでください。

●実習等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストを読んで、レポートにまとめて提出してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

教えるから学ぶへの変革[電子書籍,Kindle] (学習開発研究所) 2014

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新しい教育の方法と技術』/篠原正典、宮寺晃夫編著/ミネルヴァ書房/2012/9.784623063253E12

『学習ガイドブック教育の技術と方法 チームによる問題解決のために』/西之園晴夫編著/ミネルヴァ書房//

『学習ガイドブッカー「教える」から「学ぶ」への変革』(学習開発研究所) 2014 <http://www.u-manabi.org/nc2/htdocs/>

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

教育原論

TEA1850NOJ
 大学
 教職・資格
 1年次
 2単位 後期
 火曜2限
 ー
 60
 石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、教職課程「教育の基礎的理解に関する科目」として、教育を支える理念、教育の歴史および思想について学ぶことを目的とする。私たちが持っている教育や子どもに対する見方や考え方、さらに学校教育を中心とした現在の教育のあり方は、長い時間をかけて人類が築き上げてきた教育の理念・歴史・思想の上に成り立っている。今日、私たちが「当たり前」と考えている教育の姿も、地域や時代によっては決して「当たり前」のものでなかった。皆さんには本科目において日本と西洋における代表的な教育の理念・歴史・思想について学ぶことを通じ、自らの教育観や子ども観、現在の教育のあり方と、教育の理念・歴史・思想との間にどのような関係があるのかについて思いを巡らし、世の中の教育事象を原理的・根本的な視点から捉える目を養っていただきたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 教育の諸概念やそれらの相互関係を理解することで、人間と教育の関係について原理的・根本的に問う視点を身に付けている。
- (2) 過去から現在に至るまでの教育および学校の歴史の変遷について理解し、それらを現在の学校や教育のあり方と結び付けて考えることができる。
- (3) 教育に関する主要な思想と教育観・子ども観の関係について理解し、それらを実際の学校や教育のあり方と結び付けて考えることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
人間と教育の関係	教育の諸概念についての基本的理解が不十分である。	教育の諸概念についての基本的理解は十分であるが、それらをもとに人間と教育の関係について問う視点が不十分である。	教育の諸概念についての深く理解できているが、それらをもとに人間と教育の関係について問う視点が不十分である。	教育の諸概念についての深く理解できているが、さらにそれらをもとに人間と教育の関係について問う視点を身に付けている。

教育および学校の歴史の変遷	教育および学校の歴史の変遷についての基本的理解が不十分である。	教育および学校の歴史の変遷についての基本的理解は十分であるが、それらを現在の学校や教育のあり方と結び付けて考えることができない。	教育および学校の歴史の変遷について深く理解できているが、それらを現在の学校や教育のあり方と結び付けて考えることができない。	教育および学校の歴史の変遷について深く理解できているが、さらにそれらを現在の学校や教育のあり方と結び付けて考えることができる。
教育に関する主要な思想と教育観・子ども観の関係	教育に関する主要な思想と教育観・子ども観の関係についての基本的理解が不十分である。	教育に関する主要な思想と教育観・子ども観の関係についての基本的理解は十分であるが、それらを実際の学校や教育のあり方と結び付けて考えることができない。	教育に関する主要な思想と教育観・子ども観の関係について深く理解できているが、それらを実際の学校や教育のあり方と結び付けて考えることができない。	教育に関する主要な思想と教育観・子ども観の関係について深く理解できているが、さらにそれらを実際の学校や教育のあり方と結び付けて考えることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育の諸概念について－教育とは何か－
- 第 2 回 教育の本質および目標－2つの視点－
- 第 3 回 教育制度の成立－教育のはじまり－
- 第 4 回 教育制度の歴史的展開－教育の後退および停滞－
- 第 5 回 近代公教育制度の成立と展開－日本と西洋－
- 第 6 回 近代日本と教育の社会的機能－学歴社会の誕生－
- 第 7 回 近代的教育観と教育学の成立－コメニウス－
- 第 8 回 子ども観と教育の思想（1）－ロック－
- 第 9 回 子ども観と教育の思想（2）－ルソー－
- 第 10 回 幼児に関する教育の思想－フレーベル－
- 第 11 回 学校と社会に関する教育の思想－デューイ－
- 第 12 回 民主主義と教育の思想－デューイ以降の展開－
- 第 13 回 現代の教育課題（1）－シティズンシップの教育－
- 第 14 回 現代の教育課題（2）－多文化社会を生きるための教育－
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は講義を中心とするが、教員と学生および学生同士の双方向的なコミュニケーションを通じた深い学びを追求す

る。適宜、質疑応答やディスカッションをおこなうので、積極的に参加すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本講義を理解するには、高校卒業レベルの公民（現代社会・倫理・政治・経済）および歴史（西洋史・日本史）に関する知識が必要となる。これらに関して自分の知識が不足していると思う場合は、授業外での予習・復習を欠かさないこと。その他、必要な予習・復習の内容については授業中に指示する。しっかりと準備をおこない毎回の授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 定期試験：60%（授業で学習した内容全体を出題範囲とする）

(2) 提出物：20%（毎回授業の最後に理解度を問うコメントシートを提出させる）

(3) 授業態度：20%（授業中の質問や応答、学生同士のディスカッションなど授業への参加度と貢献度を評価する）

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定せず、授業中に配布するプリントを使用する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育社会学

TEA2850N0J

大学

教職・資格

2年次

2単位 前期

月曜1限

ー

60

原 清治

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し社会の平等化を推進したが、その反面、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生み出してしまった。それを解決するための施策が、ここ数年にわたって、教育改革として次々に展開されている。

本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなるのは、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層と教育」「若年未就労者と教育」などである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

教育社会学は、現代社会の変化と、それに伴って変動する学校世界との因果関係を明確にすることを目的とした学問領域である。したがって、本講の目的は以下の3点となる。

1. 教育と社会の因果関係について理解する視点をもつ。
2. 実証的な調査データにもとづいて分析する方法論を身につける。
3. 現状を正確に理解した上で、それをどのような方向へ転換すればよいのかの視点を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育社会学とは何か、イントロダクション
- 第 2 回 学校をとりまくさまざまな問題
- 第 3 回 いじめ問題のとらえ方
- 第 4 回 学歴社会とは何か
- 第 5 回 学歴社会への批判と考察
- 第 6 回 学力低下論の構造
- 第 7 回 力低下論の構造
- 第 8 回 学力低下の解釈をめぐって
- 第 9 回 教育改革を考える 日本の教育改革
- 第 10 回 教育改革を考える アメリカの教育改革
- 第 11 回 教育改革を考える イギリスの教育改革
- 第 12 回 教育のあり方を問う 学校病理からみる
- 第 13 回 教育のあり方を問う フリーター・ニート問題からみる
- 第 14 回 教育のあり方を問う 学力問題からみる
- 第 15 回 試験とまとめ、教育改革のパラダイム

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストによる講義形式を原則とするが、学生とのツウウェイによる討論も毎回おこなう予定である。

原則として出席を重視する。また、コンテキストごとに期限厳守で小レポートを課す場合がある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教育と社会との関連について学習するため、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層」「若年未就労者」等の用語については、新聞やインターネット等を参考にしながらその事柄について理解しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験 60%

授業内課題40%

〔留意事項 (Other Information)〕

講義計画は受講生の状況により予定を変更することもある。実習などで長期に欠席する場合は単位修得に影響するので事前に報告すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『増補版教育の比較社会学』/原清治他/学文社/2008年/978-4-7620-1741-4/学内販売予定

2008年に改訂された増補版をテキストとして用いるため、購入時は注意すること。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜、指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育人間学特論

890001N0J

大学院

教職・資格

2単位 前期

金曜 4限

一

30

研究科共通科目 修了に必要な単位とならない

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は、中学校および高等学校教諭の専修免許取得を目指す受講生に向けて、「教育人間学」の歴史的展開を概説することで、「教育と人間」を問うことの意味について考える。教育人間学は、端的に言うと「人間とは何か」「教育とは何か」そして、「人間にとって教育とは何か」を問う学問である。この問いに先立つのは、1920年代における人間の現実の生への関心に根差した哲学的人間学の展開がある。教育を考える上での歴史的な視座を培いながら、受講生がそれぞれに「教育と人間」をめぐる問いを練り上げることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1) 教育人間学に関する主要な文献の内容について理解している。

2) 「教育と人間」の関係について主体的・能動的に問う視座を身に付けている。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 人間とは何か

第 3 回 諸科学における人間の問われ方

第 4 回 文化人類学の展開

第 5 回 哲学的人間学の展開

第 6 回 子ども人間学の展開

第 7 回 言語論的転回のインパクト

第 8 回 物語論のインパクト

第 9 回 他者論のインパクト

第 10 回 教育人間学における問いの転回

第 11 回 日本の教育人間学の展開①「関係」という観点

第 12 回 日本の教育人間学の展開②「臨床」という観点

第 13 回 日本の教育人間学の展開③「贈与」という観点

第 14 回 変容する教育人間学

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを作成する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

基本的には講義形式で授業を進めるが、適宜ゼミ形式でのディスカッションをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回の課題文献を読み、理解を深める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (60%)

レポート (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で適宜提示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教師論

TEA2800NOJ
 大学
 教職・資格
 2年次
 2単位 前期
 木曜 5限
 ー
 60
 石川 裕之

教師が学校現場で直面している諸問題について理解していない	教師が学校現場で直面している諸問題について理解している	教師が学校現場で直面している諸問題について深く理解している	教師が学校現場で直面している諸問題について深く理解しており、それをもとに教職に関する自らの学びについて省察できる
------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	----------------------------------------------------------

【科目の教育目標 (Course Description)】

①教師の仕事の使命やその意義、さらに、②教師が働く場である「学校」の特性を理解し、③教師が学校現場で直面している諸問題について学ぶことで、教職に就いた際に自らの仕事を反省する土台を形成する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- 1) 教師の仕事の使命やその意義について理解している。
- 2) 職場としての「学校」の特性について理解している。
- 3) 教師が学校現場で直面している諸問題について理解している。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教師の仕事の使命やその意義についての理解	教師の仕事の使命やその意義について理解していない	教師の仕事の使命やその意義について理解している	教師の仕事の使命やその意義について深く理解している	教師の仕事の使命やその意義について深く理解しており、それをもとに教職に関する自らの学びについて省察できる
職場としての「学校」の特性についての理解	職場としての「学校」の特性について理解していない	職場としての「学校」の特性について理解している	職場としての「学校」の特性について深く理解している	職場としての「学校」の特性について深く理解しており、それをもとに教職に関する自らの学びについて省察できる

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 教師と「先生」
- 第 3 回 法令からみる教師という職業
- 第 4 回 社会の変化と教師の役割
- 第 5 回 教師・生徒の関係と教師文化
- 第 6 回 教師に求められる力量と資質・能力
- 第 7 回 家庭と教師の役割
- 第 8 回 地域と教師の役割
- 第 9 回 教師のライフサイクルとキャリア
- 第 10 回 教員養成改革と現在の教師
- 第 11 回 「学び続ける教師」と教師の能力開発
- 第 12 回 諸外国の教員養成と教師①ー欧米Ⅰー
- 第 13 回 諸外国の教員養成と教師②ー欧米Ⅱー
- 第 14 回 諸外国の教員養成と教師③ーアジアⅠー
- 第 15 回 諸外国の教員養成と教師④ーアジアⅡー

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

定期試験を実施する。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

本科目は講義を中心とするが、教員と学生および学生同士の双方向的なコミュニケーションを通じた深い学びを追求する。適宜、質疑応答やディスカッションをおこなうので、積極的に参加すること。毎回授業の最後に提出させるコメントシートはチェックしたのち次の回に返却するので、授業内容に対する理解度の確認や復習に活用すること。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

本講義を理解するには、高校卒業レベルの公民（現代社会・倫理・政治・経済）に関する知識が必要となる。これらに関して自分の知識が不足していると思う場合は、授業外での予習・復習を欠かさないこと。その他、必要な予習・復習の内容については授業中に指示する。しっかりと準備をおこない毎回の授業に臨むこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

- (1) 定期試験：60%（授業で学習した内容全体を出題範囲とする）
- (2) 提出物：20%（毎回授業の最後に理解度を問うコメントシートを提出させる）

(3) 授業態度：20%（授業中の質問や応答、学生同士のディスカッションなど授業への参加度と貢献度を評価する）

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

特に指定せず、授業中に配布するプリントを使用する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教職実践演習（中・高）

TEA4850N0J

大学

教職・資格

4年次

2単位 後期集中

その他

ー

90

別に定める

石川 裕之 堀 勝博 加藤 佐千子 東郷 多津 太田 容次 江川 正一

〔科目の教育目標（Course Description）〕

教員として求められる実践的指導力を学生が体得すること、および教職課程での学びにおける実践的指導力の体得過程を可視化することを通して、教員としての適格性を最終確認することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

①教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項（A領域）

②社会性や対人関係能力に関する事項（B領域）

③生徒理解や学級経営等に関する事項（C領域）

④教科内容等の指導力に関する事項（D領域）

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等	教育に対する使命感や責任感が十分身に付いていない。	教育に対する基本的な使命感や責任感をしっかりと身に付けている。		
教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等	教職としての倫理観や規範意識が十分身に付いていない。	教職としての倫理観や規範意識をしっかりと身に付けている。		

教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等	生徒の成長や安全、健康等を第一に考えることができない。	生徒の成長や安全、健康等を第一に考えることができる。		
社会性や対人関係能力に関する事項	目的や状況、相手に応じて、教員としての職責や義務に基づいた適切な言動をとることができない。	目的や状況、相手に応じて、教員としての職責や義務に基づいた適切な言動をとることができる。		
社会性や対人関係能力に関する事項	組織の一員として他の教職員と連携・協力しつつ職務を遂行することができない。	組織の一員として他の教職員と連携・協力しつつ職務を遂行することができる。		
社会性や対人関係能力に関する事項	保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができない。	保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。		
生徒理解や学級経営等に関する事項	生徒に対して公平かつ受容的な態度で接することができない。	生徒に対して公平かつ受容的な態度で接することができる。		
生徒理解や学級経営等に関する事項	生徒の発達や心身の状況、抱える課題に応じた適切な指導ができない。	生徒の発達や心身の状況、抱える課題に応じた適切な指導ができる。		
生徒理解や学級経営等に関する事項	生徒との信頼関係を土台として規律ある学級経営をおこなうことができない。	生徒との信頼関係を土台として規律ある学級経営をおこなうことができる。		

教科内容等の指導力	教科に関する基本的な知識や技能等を身に付けていない。	教科に関する基本的な知識や技能等を身に付けている。		
教科内容等の指導力	板書や話し方、発問の仕方、表情など、授業をおこなう上で必要な基本的な表現力を身に付けていない。	板書や話し方、発問の仕方、表情など、授業をおこなう上で必要な基本的な表現力を身に付けている。		
教科内容等の指導力	生徒の状況に応じて、適切な指導計画を作成したり学習方法を選択したりできない。	生徒の状況に応じて、適切な指導計画を作成したり学習方法を選択したりできる。		

〔授業計画〕

- 第 1 回 学校が当面する諸問題と教職の使命、責任感、教育的愛情①ーケースメソッドⅠー【A領域】(石川)
- 第 2 回 学校が当面する諸問題と教職の使命、責任感、教育的愛情②ーケースメソッドⅡー【A領域】(石川)
- 第 3 回 教職としての実践的指導力の体得過程についての相互確認①ー教育実習を中心にー【A・B・C・D領域】(石川、堀、加藤、○)
- 第 4 回 教員における対人援助職としての専門性①ーケースメソッドⅢー【B領域】(石川)
- 第 5 回 教員における対人援助職としての専門性②ーケースメソッドⅣー【B領域】(石川)
- 第 6 回 生徒指導上当面する諸問題に対する対応ーケースメソッドⅤー【C領域】(石川)
- 第 7 回 学級経営上当面する諸問題に対する対応ーケースメソッドⅥー【C領域】(石川)
- 第 8 回 教科内容等の指導力に関する検討と相互確認①ー授業テーマの設定ー【D領域】(石川、堀、加藤、○)
- 第 9 回 教科内容等の指導力に関する検討と相互確認②ー授業構想の検討ー【D領域】(石川、堀、加藤、○)
- 第 10 回 教科内容等の指導力に関する検討と相互確認③ー教材の選択と内容把握ー【D領域】(石川、堀、加藤、○)
- 第 11 回 教科内容等の指導力に関する検討と相互確認④ー指導計画案の作成ー【D領域】(石川、堀、加藤、○)

- 第 12 回 教科内容等の指導力に関する検討と相互確認⑤ー授業の実践ー【D領域】(石川、堀、加藤、○)
- 第 13 回 教科内容等の指導力に関する検討と相互確認⑥ー授業実践の分析と相互評価ー【D領域】(石川、堀、加藤、○)
- 第 14 回 教職としての実践的指導力の体得過程についての相互確認②ー履修カルテによる振り返りー【A・B・C・D領域】(石川)
- 第 15 回 教職としての実践的指導力の体得過程についての相互確認③ー成長過程と到達点の可視化・発表・共有ー【A・B・C・D領域】(石川、堀、加藤、○)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目では、教職担当教員と教科担当教員 (指導法の担当を兼ねる) が連携・協力しつつ、上記「2. 教育・学習の個別課題」に掲げたA～Dの各領域に関する内容について授業を展開する。その際、ケースメソッドを用いたグループ討議や教材研究、指導計画案作成、模擬授業、相互評価、履修カルテを用いた自己省察および学習成果の発表など、授業内容に応じた多様な方法を取り入れながら授業をおこなう。このような授業の性質上、2～4コマ連続の開講方式を採ることとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

グループ討議のための準備資料作り、模擬授業のための指導計画案作成、プレゼンテーションなど、各回の授業内容に応じて適宜準備学習が必須となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準により評価する。

- ①授業参加度 (発言の積極性やグループ討議への貢献度等) : 30%
- ②提出物 (各回の振り返りシート等を含む) : 20%
- ③授業内レポート (学習指導案および模擬授業に対するコメント等を含む) : 30%
- ④発表 (プレゼンテーション「教職課程の履修を通じた4年間の私の成長過程および到達点、そして10年後の自分」) : 20%

ただし、学習状況が著しく不良で教員としての実践的指導力の適格性がないと判断する場合は、全担当教員の合意の上で、評定点にかかわらず不合格とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

11月から毎週金曜日1・2講時の開講を基本とするが、追加で1～2コマ (計3～4コマ/日) 開講される日もあるため、十分に留意すること。

10回以上の出席を前提に評価するが、その場合においても、A～Dの各領域中、いずれかが全て欠席の場合、不合格とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは特に指定しない。必要に応じて担当教員が資料等を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて担当教員から提示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

情報資源組織演習Ⅰ

LIB2852N0J

大学

教職・資格

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 3限

ー

60

定員44人 「図書館概論」「情報資源組織論」履修者であること

設楽 馨

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

〈ねらい〉「情報資源組織論」において学習した、記述目録法の内容について、更に理解を深めるため、実際の目録作成を行う。〈到達目標〉①書誌作成のルールが理解できる。②書誌ユーティリティ環境下で、目録作成することの意義、ルール、方法、などの実際が理解できる。③ネットワーク情報資源のメタデータを作成できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

情報資源組織演習(目録)では、書誌ユーティリティを活用した書誌レコードの作成(和図書、雑誌)、所蔵データの作成等を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	目録の意義を意識できない	目録を利用者のツールとして考える	目録における正確な記述を考える	目録の正確な記述と目録の活用を考える
知識・理解力	情報資源から書誌データを取り出せない	情報資源から書誌データを取り出せる	規則に従って書誌データを記述できる	利用者に応じたメタデータを作成できる
言語力	目録作成に関する用語を理解しようとなしない	目録作成に関する用語を理解する	用語を使って目録作成を説明できる	利用者に理解できる用語の言い換えができる

思考・解決力	教えられた記述のルール以外は考えようとなしない	記述に一定のルールがあることを考える	NCRやAASR2など書誌作成のルールの違いを考える	利用状況に応じたメタデータを考える
共生・協働する力	書誌ユーティリティの意義を考えない	目録所在情報サービスの意義を理解する	目録所在情報サービスへの貢献を考える	書誌ユーティリティの課題や今後を考える
創造・発信力	誤った書誌データを作成・公開する	正しい書誌データであることを精査する	正確な書誌データの確認を怠らせずに新規の正確な書誌データを作成する	レベル3に加えて書誌データの活用方法を周知する

〔授業計画〕

- 第1回 司書課程における本科目の位置づけ
科目概要の確認、目録作成の基礎を理解する。また、CiNiiなどOPACを使って目録の内容を確認する。
- 第2回 日本目録規則を知る
「日本目録規則」を学び、目録規則の構成・総則を理解する。また、CiNiiなどOPACを使って、専門用語と実際の目録の内容を結び付けて理解する。
- 第3回 図書資料の記述「タイトルと責任表示」
図書資料において、本タイトルやタイトル関連情報を区別し、責任表示を理解する。また、タイトルと責任表示と区切り記号を記述する。
- 第4回 図書資料の記述「出版・頒布等」「形態」
図書資料において出版地・出版者・出版年、形態を理解する。また、出版・頒布等と形態を記述する。
- 第5回 図書資料の記述「シリーズ」「注記」ほか
シリーズ情報、注記、標準番号等を含め、単発で刊行される図書資料を記述する。また、シリーズ情報を記述するための書誌階層構造を理解する。
- 第6回 標目の理解と記述
タイトル標目ほか、4種の標目を区別し、記述する。
- 第7回 継続資料ほか図書以外の目録作成
図書以外の目録作成として、地図資料や録音資料の記述を理解する。また、継続資料における順序表示や所蔵事項を理解し、記述する。
- 第8回 目録記述の確認テスト
これまでに学んだ目録記述を試し、理解や定着の度合いを測る。場合によって、補助演習課題に取り組む。
- 第9回 英米目録規則の解説
AACR2とRDAについて理解する。
- 第10回 コンピュータ目録によるサービス

- 目録所在情報サービスについて、その意義とシステムを理解する。
- 第 11 回 目録システム入門
目録情報の基準とレコードの特性を理解する。
- 第 12 回 目録所在情報サービスの登録と所蔵データ
目録システムにおける登録の概要と、所蔵データを理解する。
- 第 13 回 用語解説や目録作成の復習
内容理解を測るテストに向けて、基本用語や目録作成の演習を振り返り、記述などの苦手部分を克服する。
- 第 14 回 内容理解を測るテストと振り返り
本科目における学習事項の理解や定着を測る。場合によって、補助課題に取り組む。
- 第 15 回 目録作成における弱点の克服
全体のまとめをし、補助課題にて弱点を十全に克服する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

情報資源組織演習 (目録) では、コンピュータを使用し、書誌ユーティリティを活用して、目録の記述について理解する。次に、図書本体の情報から書誌情報を記述し、目録作成を演習する。さらに、コンピュータを使用し、書誌ユーティリティを活用して、書誌データベース構築を演習する。多くの演習問題を通じて、実践的能力を獲得する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

「情報資源組織論」で学習した内容をよく復習しておくこと。特に、目録規則の部分と書誌ユーティリティの考え方を抑える。また、NACSIS-CATのファイル構成について、読んでおく。専門書でも小説でも、自身が読んだ本についてはOPACで書誌情報を確認し、本の実物とメタ情報とを確認すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

目録 (書誌レコード) 作成について、

1. 演習課題またはレポート提出 20%
2. 確認テストおよび補助演習課題 30%
3. 内容理解を測るテスト 50%

で合算して最終評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

目録演習では、コンピュータを使用するため、マウスやキーボードの操作、かな漢字変換、全角と半角の判別などは事前に習得しておくことが望ましい。また、各自の演習データ保存用に、USBメモリーを毎回必ず持参すること。USBを持参しない場合は大学のサーバに割り当てられる個人用ファイルへの保存方法・取り出し方法を確認しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』//日本図書館研究会/2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報資源組織論』/田窪直規/樹村房/2016/978-4-88367-259-2

『情報資源組織演習』/小西和信/樹村房/2017/978-4-88367-280-6

『情報資源組織演習』//J L A/2016/

『情報資源組織演習』/竹之内 禎/ミネルヴァ書房/2016/9784623076451

〔参考URL(URL for Reference)〕

国立国会図書館サーチ

<http://iss.ndl.go.jp/>

CiNii books

<http://ci.nii.ac.jp/books/?l=ja>

国立情報学研究所のサービス事業

NACSIS-CAT/ILLセルフラーニング教材

<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/product/cat/slcat.html>

目録所在情報サービスの自主学習

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報資源組織演習 II

LIB2853N0J

大学

教職・資格

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 2限

—

60

定員44人 「図書館概論」「情報資源組織論」履修者であること

米谷 優子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

〈ねらい〉「情報資源組織論」において学習した、記述目録法および主題索引法の内容について更に理解を深め実践力を養うための演習として、本科目では、主題索引作業の実際を取り上げる。

〈到達目標〉①日本十進分類法 (NDC) を使用し適切な分類記号の付与ができる、②基本件名標目表 (BSH) を使用し、適切な件名標目を付与することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

『日本十進分類法』および『基本件名標目表』を使用し、適切に主題索引を実施する能力を身に付ける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、情報資源組織化のプロセス
- 第 2 回 主題分析、日本十進分類法
- 第 3 回 分類規程
- 第 4 回 分類演習 1 (相関索引)
- 第 5 回 分類演習 2 (一般補助表 1 (形式区分))
- 第 6 回 分類演習 3 (一般補助表 2 (地理区分、海洋区分))
- 第 7 回 分類演習 4 (一般補助表 3 (言語区分))
- 第 8 回 分類演習 5 (固有補助表)
- 第 9 回 分類演習 6 (各類概説)
- 第 10 回 分類総復習、件名標目表と件名規程
- 第 11 回 件名演習 1
- 第 12 回 件名演習 2
- 第 13 回 分類・件名総復習 1
- 第 14 回 分類・件名総復習 2
- 第 15 回 理解度確認テストとまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

分類付与ならびに件名付与に関する問題演習を多数実施し、実践的能力を育成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

「情報資源組織論」で学習した内容をよく復習しておくこと。授業外課題は、次回の授業で内容確認し、解説をする。授業の復習そして次回授業への備えとして真摯に取り組み、次回授業には必ず完成させて持参すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 演習課題またはレポート提出 20%
2. 授業参加度 10%
3. 理解度テスト 70%

で合算して最終的評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

ほぼ毎回、授業外課題を課す。課題は必ず仕上げしてから、授業に臨むこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』/日本図書館研究会/日本図書館研究会/2015/9784930992222/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本十進分類法 新訂10版』日本図書館協会 2014

『基本件名標目表第4版』日本図書館協会 1999

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

図書・図書館史

LIB2806N0J

大学

教職・資格

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜4限

—

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

書籍といった文字を中心とした資料と出版の歴史、また図書館の歴史について、時代における社会との関わりとその変遷を理解する。図書の歴史や図書館の歴史を、日本、西洋、中国に及んで学習し、現在の図書館がどのようになりたってきたかを知る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

書籍などの文字資料と出版の歴史の基礎事項を理解する。

図書館の歴史の基礎事項を理解する。

書籍、出版の文化的、社会的役割を理解する。

図書館の意義と役割についてその歴史の変遷に基づいて理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	個々の基本的事項についての知識とそれらの歴史的意義についての理解がほとんど見られない	個々の基本的事項についての知識とそれらの歴史的意義についての理解が十分でない	個々の基本的事項についての知識とそれらの歴史的意義についての理解がある程度見られる	個々の基本的事項についての知識とそれらの歴史的意義についての理解が十分に見られる

言語力	課題として課された内容についての論述が適切かつ十分でない	課題として課された内容についての論述の適切さ、十分さについて不足している箇所が多い	課題として課された内容についての論述がある程度適切かつ十分である	課題として課された内容についての論述が適切かつ十分である
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業内容の説明：言葉と文字の発明（テキスト1）
- 第 2 回 記録の保存と図書館の始まり（テキスト1）
- 第 3 回 ギリシャ、ローマの図書館（テキスト2）
- 第 4 回 古代中国の図書館、仏教伝播と書籍（テキスト3、4）
- 第 5 回 古代日本の図書館（テキスト5）
- 第 6 回 中世ヨーロッパの図書館とキリスト教（テキスト6）
- 第 7 回 中世日本の書籍（テキスト7）
- 第 8 回 ヨーロッパ近世の出版と図書館（テキスト8）
- 第 9 回 近世日本と中国の出版（テキスト9、10）
- 第 10 回 近代社会の成立と図書館（テキスト11）
- 第 11 回 日本の近代化と図書館（テキスト12）
- 第 12 回 20世紀の図書館（テキスト13）
- 第 13 回 戦後日本の図書館（テキスト14）
- 第 14 回 基礎事項の確認テストと解説
- 第 15 回 まとめ：これからの図書館（テキスト15）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1 テキスト、講義によって基本的事項を理解する。
- 2 授業内課題によって、学習した歴史的事項の意味について考える。
- 3 レポート課題によって、歴史的事項を有機的に関連づけて総合的に理解する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストの該当する箇所を読んでおく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度10% 授業内課題20% 基礎事項の確認テスト30% 期末レポート40%

確認テストはテスト終了後に解説する。期末レポートの講評はmanabaにて個別にコメントする。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『図書・図書館史』/佃 一可 編/樹村房/2012/9784883672110/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

図書館実習

LIB4800N0J

大学

教職・資格

4年次

1単位 集中

その他 木曜 5限

ー

45

集中

岩崎 れい 鎌田 均

〔科目の教育目標（Course Description）〕

図書館での実習を通して、図書館司書の業務を深く理解する。実習前の準備と事後の振り返り学習を通じて、図書館での仕事の内容と課題を的確に把握する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1. 実習前に図書館業務の概要を復習し、また、実習先について詳しく知る。
- 2. 実習中は、実習先の指示に従い、できるだけ多くの学びを得る。
- 3. 実習後は、振り返り学習を行い、実習中の経験や学習成果について、発表し、レポートを書く。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
図書館サービスに関する知識・技術	基本的な知識が身につけていない。	図書館サービスに関する基本的な知識・技術を身につけている。	実習先で求められるおはなし会やレファレンスサービスに関する知識・技術がある。	実習先で求められるおはなし会やレファレンスサービスなど諸業務に関する十分な知識・技術がある。
実習において協働する力	実習で求められたことをこなすことができない。	実習先の指示に従って、実習を行うことができる。	実習先で一定の業務をこなすことができる。	企画やサービスなどにおいて、実習館を納得させる業務を行うことができる。

〔授業計画〕

- 事前授業（第1回） 図書館実習に関するオリエンテーション
- 事前授業（第2回） 図書館実習のための準備（1）おはなし会企画等
- 事前授業（第3回） 図書館実習のための準備（2）レファレンスサービス等
- 事後授業（第1回） 図書館実習の振り返り
- 事後授業（第2回） 図書館実習の成果発表会のための準備と議論

事後授業（第3回） 図書館実習成果発表会と意見交換
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 図書館業務と実習先について学ぶ。
2. 実習の際、必要な事柄について整理する。
3. 図書館サービスの課題を把握する。
4. 実習の経験を自分のものとして行うことができるよう、発表やレポートを通して振り返り学習を行う。

＜Course Schedule（授業予定）＞

事前授業：第1回（5月14日5講時）、第2回（5月21日5講時）、第3回（5月28日5講時）

事後授業：第1回（10月22日5講時）、第2回（11月12日5講時）、第3回（1月21日5講時）

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 司書課程で学んだことについて復習しておく。
2. 実習先の図書館のサービスや特徴についてできるだけ詳しい情報を収集しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

実習日誌・実習先の評価40%、実習後の発表・レポート40%、事前事後指導における取り組み20%の割合で、総合的に評価する。レポート等の提出物へのフィードバックは事後指導時に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

実習費として、5,000円が必要となる。内訳は、先方への実習委託費及び実習日誌印刷・実習受入作業にかかる郵送費等の実費である。

甲群の科目はできるだけ履修し終えていることが望ましい。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

鎌田均：大学図書館司書としての勤務経験あり

図書館情報資源概論

LIB1850NOJ
大学
教職・資格
1年次 2年次
2単位 後期
火曜3限
ー
60
米谷 優子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

図書館を構成する要素の一つである、図書館情報資源について、歴史的経緯を概観したのち、その類型と各情報資源の特質ならびに、出版流通のしくみや、情報資源の選択・収集、及び蔵書管理など、図書館情報資源についての基本的知識を学習する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

図書館情報資源についての基本的知識を獲得し、図書館業務の実践に活用する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション／情報とメディア
- 第2回 情報と記録の歴史
- 第3回 図書館情報資源の定義とその類型
- 第4回 図書館情報資源1（印刷資料1：図書）
- 第5回 図書館情報資源2（印刷資料2：逐次刊行物その他）
- 第6回 図書館情報資源3（非印刷資料）
- 第7回 図書館情報資源4（特殊な資料）
- 第8回 図書館情報資源5（電子資料）
- 第9回 出版流通システム
- 第10回 蔵書構成と「図書館の自由」
- 第11回 図書館情報資源の収集と選択
- 第12回 図書館情報資源の組織化
- 第13回 蔵書管理
- 第14回 情報の保存・提供・利用と著作権

第 15 回 まとめと確認テスト

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に、ビデオ視聴等も含める。製本技術講習会には必ず参加すること。

授業内容に関連して、課題を課すこともある。その場合は指示を厳守のうえ期限内に提出すること。提出課題は、個別に添削して返却または全体的な講評と解説のいずれかの方法でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書や参考書の該当箇所を読んで、内容を把握するように予習するとともに、授業後は図書館に向いて、授業で学習した内容について実際に観察して、実践に即した知識の定着を図ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

まとめの確認テスト (70%)、授業中の課題および参加度 (20%)、製本技術講習会参加及びレポート提出 (10%) で総合的に評価する。3分の2以上出席が、確認テスト受験の要件である。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業予定は、理解度その他によって変更する場合がある

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『図書館情報資源概論』/馬場俊明/日本図書館協会/2018/9784820418085/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

// //

授業時に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生涯学習概論

LIB2800NOJ

大学

教職・資格

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 3限

ー

60

学芸員に関する科目を兼ねる。

池内 正史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「生涯学習」という用語そのものはすでに社会的に定着しているが、その理念・現状についての理解が共有されているとは言いがたい。本講義では、生涯学習の理念やその社会

的・歴史的背景、日本における政策的展開と課題などを紹介・検討しつつ、それらの理解を目指す。また、特に生涯学習社会の重要課題の一角に位置づく「学校外、地域における子ども・青少年の育ち・学び」の現状に注目していくことにしたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)生涯学習の基本的理念を理解する

(2)国・地方の各レベルでの生涯学習政策・施策の現状を理解する

(3)生涯学習のおこなわれる多様な機会や場所、専門職員等についての基本的知識を得る

(4)生涯学習社会における「子ども・青少年の育ちや学び」についての理解を深める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 生涯学習論を学ぶにあたって
講義計画・評価方法等のガイダンス
- 第 2 回 生涯学習と現代
ユネスコにおける1960年代の生涯教育論の提唱、およびその後の展開について
- 第 3 回 日本における生涯学習政策
日本における生涯教育論の登場と「生涯学習」政策への転換について
- 第 4 回 生涯学習の振興政策をめぐって
国・地方の各レベルでの生涯学習政策・施策の概要
- 第 5 回 生涯学習の諸領域と学習者像
日本における生涯学習の全体像と現状
- 第 6 回 生涯学習と学校教育
生涯学習社会において求められる学校教育のあり方について
- 第 7 回 生涯学習と社会教育
「社会教育」をめぐる戦前・戦後の歴史と現状
- 第 8 回 社会教育と公民館・図書館
身近な社会教育施設である公民館・図書館について再考する
- 第 9 回 中間まとめ
生涯学習の導入・普及と今後の課題
- 第 10 回 青少年と社会教育
学校外・地域での青少年の育ち・学びの意義
- 第 11 回 青少年を対象とした社会教育政策・施策
「青少年の社会教育」をめぐる国・地方レベルでの政策・施策の実際
- 第 12 回 社会教育施設の訪問・調査
生涯学習社会の実際をめぐる調査・報告① ー私たちの身近な生涯学習施策・施設のあり方を調査するー
- 第 13 回 社会教育施設についての議論・分析
生涯学習社会の実際をめぐる調査・報告② ー調査の結果を分析するー

第 14 回 社会教育施設の訪問結果の報告
生涯学習社会の実際をめぐる調査・報告③ 一調査・分析の結果を報告する

第 15 回 全体のまとめ
授業内容をふりかえる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業で配布するプリントに基づき、講義を進めていきます。受講生には授業内でコメントを求める場合や、グループでの活動・発表なども取り入れていく予定です。積極的な参加を期待します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

生涯学習・社会教育をはじめ、広く子ども・教育・学習に関する資料や新聞記事等に関心を持ち、目を通していただきます。参考文献などは、随時、授業中にも紹介していきます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 [50%]

レポート [50%]

レポートのテーマとして、生涯学習施設へのグループ訪問・調査を設定の予定。調査結果に関しては授業内で講評を行います。グループ内や教員との話し合いを含め、取り組みへの積極的な参加を期待します。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生徒指導・進路指導の理論及び方法

TEA2855N0J

大学

教職・資格

2年次 3年次

2単位 集中

その他

—

60

集中

池島 徳大 河佐 英俊

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業では、すべての生徒の健全な発達を促す視点から、思春期・青年期の心理に触れながら、生徒指導及び進路指導の理論と方法について、講義と演習を織り混ぜて行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 生徒指導・進路指導の理論と方法が分かる。
2. 思春期・青年期の心理と多様な生徒理解の方法が分かる。
3. いじめ・不登校など学校で生起する生徒指導上の諸問題への対応と方法が分かる。
4. 生徒指導・進路指導における学校カウンセリングの意義と方法が分かる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 生徒指導の意義と課題 (担当：池島徳大)
- 第 2 回 生徒指導の原理 (担当：池島徳大)
- 第 3 回 青年期の心理と生徒指導 (担当：池島徳大)
- 第 4 回 生徒理解 (担当：池島徳大)
- 第 5 回 生徒指導と教育課程 (担当：池島徳大)
- 第 6 回 生徒指導における教育相談の意義と進め方 (担当：池島徳大)
- 第 7 回 少年非行の現状と対応 (担当：池島徳大)
- 第 8 回 いじめの現状と対応 (担当：池島徳大)
- 第 9 回 不登校の現状と対応 (担当：池島徳大)
- 第 10 回 開発的・予防的視点にたつ生徒指導の在り方 (担当：池島徳大)
- 第 11 回 まとめ (担当：池島徳大)
- 第 12 回 進路指導の意義と課題 (担当：河佐英俊)
- 第 13 回 進路指導の原理と方法 (担当：河佐英俊)
- 第 14 回 学校における生徒指導・進路指導体制 (担当：河佐英俊)
- 第 15 回 進路指導における教育相談の意義と進め方 (担当：河佐英俊)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

上記 1 については、講義とワーク形式を進める。2 については、適宜、関連する文献及び資料を参照しながらワーク形式を進める。3 については、いじめや不登校、ひきこもりの指導事例を提示し、各自の意見を発表することを通し

て理解を深める。4については、講義と演習を取り入れて行う。最後は、まとめとしてレポートを課す。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

生徒指導・進路指導に関して、up-to-dateな問題も取り上げるので、課題意識を持っての受講を期待します。そのため、本講義と関わる書籍や文献を読んでおいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

おおよそ以下の割合で評価を行う。

①まとめのレポートにて、学習内容に関する知識・理解の定着度をみる。(評価割合60%) ②生徒指導・進路指導に関する意欲・態度の評価を以下で行う。・「感想ノート」の提出(評価割合15%)・生徒指導に関するレポートの提出2回<課題は、講義中に提示>(評価割合25%)

〔留意事項 (Other Information)〕

生徒指導・進路指導に関する知識の獲得、演習によるスキルの獲得、感受性の開発の3つをキーワードに進めます。講義中心からできる限り演習を取り入れた授業を展開します。生徒指導・進路指導に関して多様な視点からの確に対応できる基礎能力の育成を目指します。課題意識を持っての受講を期待します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法！―指導用ビデオと指導案ですぐできるピア・メディエーションとクラスづくり』/池島徳大監修・他著/ほんの森出版/2011//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『図説生徒指導と教育臨床』/秋山俊夫監修/北大路書房/1993/

『いじめ解決への教育的支援』/池島徳大/日本教育新聞社/1997/

『学校カウンセリングの理論と実践』/佐藤修策総監修、池島徳大他著/ナカニシヤ出版/2007/

『生徒指導提要』/文部科学省//2010/

必要に応じて資料を配布する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中等教育実習 I

TEA4856NOJ

大学

教職・資格

4年次

2単位 集中

その他

ー

90

別に定める

集中

石川 裕之 堀 勝博 加藤 佐千子 東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深めることができている。
2. 教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つことができている。
3. 学校という組織の一員としての教員の職責・義務を自覚できている。
4. 教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。
5. 教員としての専門的な知識や技能を習得している。
6. 指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認できている。
7. 教員としての自分の長所と短所に気づき、資質向上のための努力目標を知ることができている。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等	主体的・積極的に教育実習に参加できていない。	主体的・積極的に教育実習に参加できている。		
教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等	実習以前と比べ、教職のあり方や教員としての使命感・責任感についての認識や自覚が深まっていない。	実習以前と比べ、教職のあり方や教員としての使命感・責任感についての認識や自覚が深まっている。		

社会性や対人関係能力	実習以前と比べ、学校という組織の一員としての教員の職責や義務についての理解や自覚が深まっていない。	実習以前と比べ、学校という組織の一員としての教員の職責や義務についての理解や自覚がより深まっている。		
生徒理解や学級経営等	生徒に対して自ら積極的に関わり、働きかけようとしていない。	生徒に対して自ら積極的に関わり、働きかけようとしている。		
生徒理解や学級経営等	実習以前と比べ、教員の働きかけに対する生徒の思考・行動について把握する力が向上していない。	実習以前と比べ、教員の働きかけに対する生徒の思考・行動について把握する力が向上している。		
教科内容等の指導力	基本的な指導技術を使って筋の通った1時間の授業を実践することができない。	基本的な指導技術を使って筋の通った1時間の授業を実践することができる。		
課題の発見と探究	実習以前と比べ、教員としての自分の長所と短所に対する認識が深まっていない。	実習以前と比べ、教員としての自分の長所と短所に対する認識が深まっている。		
課題の発見と探究	教員としての資質向上に向けた今後の努力目標を設定できていない。	教員としての資質向上に向けた今後の努力目標を設定できている。		

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。

具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせや相談をおこない、指導を踏まえて取り組むこと。

研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教育実習生としての自覚を持つこと。

教材研究を十分におこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

＜評価基準＞

実習に積極的に臨んだか

＜評価方法＞

レポート

実習校の評価

教育実習ノート

〔留意事項 (Other Information)〕

特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席・遅刻・早退は認めない。

就職活動、スポーツ・文化クラブ活動などの欠席も認めない。

「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。

教職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。

教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

＜実践的科目＞

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

中等教育実習 II

TEA4857N0J

大学
教職・資格
4年次
2単位 集中
その他
—
90
別に定める
集中

石川 裕之 堀 勝博 加藤 佐千子 東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深めることができている。
2. 教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つことができている。
3. 学校という組織の一員としての教員の職責・義務を自覚できている。
4. 教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。
5. 教員としての専門的な知識や技能を習得している。
6. 指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認できている。
7. 教員としての自分の長所と短所に気付き、資質向上のための努力目標を知ることができている。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等	主体的・積極的に教育実習に参加できていない。	主体的・積極的に教育実習に参加できている。		
教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等	実習以前と比べ、教職のあり方や教員としての使命感・責任感についての認識や自覚が深まっていない。	実習以前と比べ、教職のあり方や教員としての使命感・責任感についての認識や自覚が深まっている。		

社会性や対人関係能力	実習以前と比べ、学校という組織の一員としての教員の職責や義務についての理解や自覚が深まっていない。	実習以前と比べ、学校という組織の一員としての教員の職責や義務についての理解や自覚がより深まっている。		
生徒理解や学級経営等	生徒に対して自ら積極的に関わり、働きかけようとしていない。	生徒に対して自ら積極的に関わり、働きかけようとしている。		
生徒理解や学級経営等	実習以前と比べ、教員の働きかけに対する生徒の思考・行動について把握する力が向上していない。	実習以前と比べ、教員の働きかけに対する生徒の思考・行動について把握する力が向上している。		
教科内容等の指導力	基本的な指導技術を使って筋の通った1時間の授業を実践することができない。	基本的な指導技術を使って筋の通った1時間の授業を実践することができる。		
課題の発見と探究	実習以前と比べ、教員としての自分の長所と短所に対する認識が深まっていない。	実習以前と比べ、教員としての自分の長所と短所に対する認識が深まっている。		
課題の発見と探究	教員としての資質向上に向けた今後の努力目標を設定できていない。	教員としての資質向上に向けた今後の努力目標を設定できている。		

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動など、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。

具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせや相談をおこない、指導を踏まえて取り組むこと。

研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教育実習生としての自覚を持つこと。

教材研究を十分おこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

<評価基準>

実習に積極的に臨んだか

<評価方法>

レポート

実習校の評価

教育実習ノート

〔留意事項 (Other Information)〕

特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席・遅刻・早退は認めない。

「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。

教職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。

教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

中等教育実習事前事後指導

TEA4855NOJ

大学

教職・資格

4年次

1単位 集中

その他

ー

45

集中

石川 裕之 堀 勝博 加藤 佐千子 東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「教育実習事前・事後指導」は、教育実習の事前と事後に行う教育実習に関する指導を通して、教育実習の目的達成をより確かなものとするために行う。そのため「事前指導」では、大学での教育と教育実習との間の距離を可能な限り埋め、教育実習に抵抗感なく臨めるようにするため、実習に際して必要不可欠な基礎的・基本的な事柄を確実に身につけることをめざす。「事後指導」では、教育実習での学び、体験、反省をもとに、実習前の自己の教育観、学校観、生徒観との比較、整理を行い、教職への意義を高めることを目的とする。また、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、自らの学習や研究課題に役立てることをめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.教育実習の意義・心構えについて理解している。
- 2.実習に意欲的に取り組もうとする意識を持っている。
- 3.特別支援教育・人権教育について理解している。
- 4.実習生としての基本的なマナーやルールを理解し、それを守って行動できる。
- 5.記録や参観の意義・方法を理解できている。
- 6.実習を振り返り客観的に自己を見つめることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等	教育実習の意義・心構えについての理解が不十分である。	教育実習の意義・心構えについて理解している。		
教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等	実習に意欲的に取り組もうとする意識が不十分である。	実習に意欲的に取り組もうとする意識を持っている。		
教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等	特別支援教育・人権教育についての理解が不十分である。	特別支援教育・人権教育について理解している。		

社会性や対人関係能力	実習生としての基本的なマナーやルールが理解できていないか、理解できていてもそれを守って行動できない。	実習生としての基本的なマナーやルールを理解し、それを守って行動できる。		
生徒理解や学級経営等	生徒に対し公平かつ親しみをもち接しようという姿勢が不十分である。	生徒に対し公平かつ親しみをもち接しようという姿勢を持っている。		
教科内容等の指導力	記録や参観の意義・方法を理解できていない。	記録や参観の意義・方法を理解している。		
課題の発見と探究	実習を振り返り客観的に自己を見つめることができない。	実習を振り返り客観的に自己を見つめることができる。		

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育実習オリエンテーション、実習の手続き、評価の観点
- 第 2 回 教育実習の意義、内容、心構えと自覚、服装、授業の予習・復習、礼儀、実習日誌の書き方
- 第 3 回 教員に求められる資質
- 第 4 回 教員の仕事内容、サービス等
- 第 5 回 特別支援教育：特別な教育的ニーズのある子どもの理解（特別講師を予定）
- 第 6 回 特別支援教育：特別支援学校、特別支援学級、通級による指導について（特別講師を予定）
- 第 7 回 人権教育：性的少数者の人権・在日外国人の人権
- 第 8 回 人権教育：同和教育の成果とインクルーシブ教育・人権教育（特別講師を予定）
- 第 9 回 学級経営・道徳・特別活動・生徒指導
- 第 10 回 教育課程と教育評価
- 第 11 回 実習報告書の書き方
- 第 12 回 教科内容等に関する指導（教科内容と評価方法の確認および指導計画上での配慮事項）
- 第 13 回 教科内容等に関する指導（授業形態別指導と生徒とのコミュニケーションにおける注意事項）
- 第 14 回 事後指導（実習の振り返りと自己評価）
- 第 15 回 事後指導（グループワークや全体会による実習の考察・反省・まとめと課題認知）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義、演習形式および特別講師による講義によりおこなう。事後指導は、個別指導、全体学習および、報告会での発表形式によりおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

教育実習に行くための自覚を持つこと。

各教科の教材研究や資料の準備を常に心がけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

＜評価基準＞

実習における意義や心構えを理解し、意欲的な態度であったか

指導案の書き方、基本的な事柄が理解できたか

実習を振り返り、客観的に自己を見つめることができたか

＜評価方法＞

記録・レポートの内容（50％）

発表内容・態度（50％）

最終授業で全体に対するフィードバックをおこなう。

〔留意事項（Other Information）〕

特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席・遅刻・早退は認めない。

特別講師による講義のときは、スーツで講義を受け、礼儀正しくすること

「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。

各教科の指導法をすべて合格しているものしか履修できない。

教育実習に関する各種説明会への出席、書類提出など、重要な連絡事項は掲示によって行われるので注意されたい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

道徳の指導法（中等）

TEA2803N0J
 大学
 教職・資格
 2年次 3年次
 2単位 前期
 金曜5限
 ー
 60
 石川 裕之

〔科目の教育目標（Course Description）〕

①道徳教育に関する基礎理論や歴史を学ぶとともに、②中等学校における道徳教育の基本的な指導力を培う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

道徳教育の理論や歴史を含む理論的側面と、具体的な授業の実践例や指導案の作成法を含む実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な知識を身につけることを目指す。時に「当たり前」や「あるべき姿」を一方向的に押し付けるものとして疎まれることもある道徳教育について、「道徳」とは何かという根本的な問いにまで遡りながら学んでいく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
道徳教育に関する基礎理論や歴史についての理解	道徳教育に関する基礎理論や歴史について理解していない	道徳教育に関する基礎理論や歴史について理解している	道徳教育に関する基礎理論や歴史について深く理解している	道徳教育に関する基礎理論や歴史について深く理解しており、それを念頭に置いた上で実際の授業内容を考えることができる
中等学校における道徳教育の基本的な指導力	中等学校における道徳教育の基本的な指導力が身につけていない	中等学校における道徳教育の基本的な指導力が身につけている	中等学校における道徳教育の基本的な指導力が十分に身につけている	中等学校における道徳教育の基本的な指導力が十分に身につけており、さらにそれを伸ばしていくという姿勢が見られる
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 道徳教育の基礎①－「道徳」を教えることはできるのか－
- 第 3 回 道徳教育の基礎②－学校における道徳教育－
- 第 4 回 道徳教育の歴史①－戦前の道徳教育－
- 第 5 回 道徳教育の歴史②－戦後の道徳教育－
- 第 6 回 道徳教育の歴史③－道徳教育の新たな展開－
- 第 7 回 発達に応じた道徳教育①－小学校－
- 第 8 回 発達に応じた道徳教育②－中学校－
- 第 9 回 道徳教育の教育方法①－教材－
- 第 10 回 道徳教育の教育方法②－実践方法－
- 第 11 回 道徳教育の授業づくり①－学習指導案の基礎・基本－
- 第 12 回 道徳教育の授業づくり②－学習指導案の作成－
- 第 13 回 道徳教育の授業づくり③－学習指導案の振り返り－
- 第 14 回 道徳教育の評価
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

「道徳」について、また、道徳を学校で教え・学ぶということについて自ら問い・考えるために、理論・歴史・実践例などを学ぶ。学習指導案等の提出物については適宜フィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

学習指導要領およびその解説編を読み、道徳教育の特質や指導のポイントについて考えておくこと。学習指導案の作成などでは各自事前準備が必要となるので、積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度（授業中の質問や応答、学生同士のディスカッションなど授業への参加度と貢献度を評価する）：60%
 提出物（学習指導案などの提出物を評価する）：40%

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編』教育出版、2018年、ISBN：978-4316300849、学内販売無（下記「13. 参考URL」から閲覧可能）

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で適宜紹介する。

[参考URL(URL for Reference)]

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/
micro_detail/_icsFiles/afieldfile/
2019/03/18/1387018_011.pdf

[実務経験のある教員による実践的科目]

特別活動・総合的な学習の時間の指導法

TEA2853NOJ
大学
教職・資格
2年次 3年次
2単位 後期
月曜 2限
ー
90
松田 忠喜

[科目の教育目標 (Course Description)]

「なすことによって学ぶ」という原理に基づく特別活動の意義や目標を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点を持つとともに、特別活動の特質を踏まえた知識や素養、実践的な指導力を身に付ける。

総合的な学習の時間の意義や目標を理解し、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習の実現のために指導計画の作成、具体的な指導方法、学習活動の評価など必要な基礎的な知識・技能を身に付ける。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 特別活動・総合的な学習の時間の歴史の変遷と位置づけ、子どもたちの現状と課題
2. 特別活動の意義、目標・内容
3. 特別活動の各内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）とその具体的な活動
4. 特別活動の指導計画と学習過程及び留意事項
5. 特別活動と人間形成
6. 特別活動と各教科等の往還関係、家庭・地域連携
7. 特別活動と学級・学校経営
8. 総合的な学習の時間の意義、目標・内容
9. 総合的な学習の時間の指導計画と評価
10. 総合的な学習の時間の探究的な学習過程及び留意事項

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・技能	特別活動や総合的な学習の時間の教育的意義や目標、主な内容を理解していない。	特別活動や総合的な学習の時間の教育的意義や目標、おまかな内容を理解している。ひな型をもとに学習指導案を作成することができる。	特別活動や総合的な学習の時間の教育的意義や目標、主な内容を十分に理解している。自分で学習指導案を作成することができる。	特別活動や総合的な学習の時間の教育的意義や目標、主な内容を十分に理解するとともに自らの生活に生かすことができる。また、指導計画や評価を含めた学習指導案を自ら作成することができる。
思考・判断・表現力等	生徒の学びについて具体的な事例を通して考察することができない。	生徒の学びについて具体的事例を通して考察する。模擬授業に取り組むことができる。	生徒の学びについて具体的事例を通して考察できる。授業を通して指導方法の在り方を探究し、授業を行うための必要な基礎的能力を身に付ける。	生徒の学びについて具体的事例を通して考察でき、実践に生かすことができる。授業を通して指導方法の在り方を探究し、実践的な指導力を身に付ける。
主体的な態度	意欲的に授業に参加できない。	自主的、主体的に授業に参加しようとする。	自発的、主体的に授業に参加し、自らの学びを振り返ることができる。	自発的、主体的に授業に参加し、自らの学びを振り返り、次の授業に生かすことができる。

[授業計画]

- 第 1 回 開講にあたって（ガイダンス）
特別活動・総合的な学習の時間の歴史の変遷と位置づけ、子どもたちの現状と課題
- 第 2 回 特別活動「目標・内容」
特別活動の意義、目標・内容
- 第 3 回 特別活動「学級活動・ホームルーム活動」
学級活動・ホームルーム活動（1）目標・内容、全体計画・年間計画、指導上の留意点
- 第 4 回 特別活動「学級活動・ホームルーム活動」
学級活動・ホームルーム活動（2）「話し合い活動」
指導のポイント、学習指導案作成
- 第 5 回 特別活動「生徒会活動」

- 生徒会活動：目標・内容、全体計画・年間計画、指導上の留意点
- 第 6 回 特別活動「学校行事」
学校行事：目標・内容、全体計画・年間計画、指導上の留意点
人間形成と部活動・サークル活動
- 第 7 回 特別活動「キャリア教育・評価」
特別活動における進路指導・キャリア教育・言語活動の充実・特別活動の評価
- 第 8 回 特別活動「他教科等との関連・家庭・地域連携」
特別活動と他教科等との往還関係、生徒指導、学級経営、家庭・地域及び関係機関との連携
- 第 9 回 特別活動「模擬授業」
学級活動・ホームルーム活動：模擬授業「話し合い活動・集会活動」
- 第 10 回 総合的な学習の時間「目標・内容」
総合的な学習の時間の意義、目標・内容
- 第 11 回 総合的な学習の時間「指導計画」
総合的な学習の時間の年間指導計画、単元計画、実践例
- 第 12 回 総合的な学習の時間「学習過程、評価」
総合的な学習の時間の探究的な学習過程、評価、実践上の留意点
- 第 13 回 総合的な学習の時間「学習指導案作成」
総合的な学習の時間の学習指導案づくりと実際、充実させる体制づくり
- 第 14 回 総合的な学習の時間「模擬授業」
総合的な学習の時間：模擬授業
- 第 15 回 指導法のまとめ
特別活動・総合的な学習の時間との関連、指導法のまとめ、これからの学校教育と特別活動・総合的な学習の時間

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

一方的な講義に終始するのではなく、3分間スピーチ・話し合い・模擬授業などを織り交ぜ、主体的に授業に取り組めるようにすることで、特別活動及び総合的な学習の時間の指導法を身に付ける。また、授業の終わりに毎回「振り返りカード」に記入することで、自らの考えを深め、学習事項の深化充実を図るとともに、今後の学びや実践に生かす。

「振り返りカード」については、個別にコメントを加えて返却するとともに、質問や意見等全体に広げて共有することが望ましい内容については、次の授業の最初に取り上げる。また、提出したレポートについても、コメントを加えて返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

シラバスで指定しているテキストの授業範囲を読み、内容を把握するように学習すること。

子どもたちの現状と課題に関心を持ち、その要因と対策、解決への道筋などを教育課題として主体的に考えて授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

日常の評価（授業参加意欲、振り返りカード、模擬授業・日常の役割分担等）20%、授業案づくり・課題レポート20%、定期試験60%により総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

「なすことによって学ぶ」という特別活動の指導原理に基づき、授業への主体的・意欲的な参加を望む。また、総合的な学習の時間の目標にもあるように、授業内容を「探究的な見方・考え方を働かせ、多様な角度から捉える」ことができるよう努力してほしい。

なお、講義では、3分間スピーチ（司会・発表）を取り入れるとともに、模擬授業を2回行う予定。

授業に必要な教材は、指定された「テキスト2冊」と適宜授業で配布する「資料」。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

小・中・高等学校新学習指導要領 [準拠版] 『21世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む 特別活動の理論と実践』/中国大三郎・松田 修/学術研究出版/2018年/9784865842944/学内販売有り

小・中・高等学校 『総合的な学習・探究の時間の指導 一新学習指導要領に準拠した理論と実践』/中国大三郎 他/学術研究出版/2019年/9784865843781/学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中学校学習指導要領解説 特別活動編』/文部科学省/(文部科学省ホームページ) /2017年/

『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』/文部科学省/(文部科学省ホームページ) /2018年/

『学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）』/文部科学省国立教育政策所教育課程研究センター/東京書籍/2016年/9784487809615

『よりよい人間関係を築く特別活動』/杉田 洋/図書文化/2009年/9784810095463

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫特別活動・総合的な学習の時間の指導法の科目について

実務経験等：大阪府公立学校教員（教諭・首席）及び教頭・校長としての勤務、授業経験あり。現職教員による特別活動の実践研究会「大阪府小中学校特別活動研究会」会長等役員経験あり。また、特別活動は、全国大会をはじめ実践研究発表多数。総合的な学習の時間においても実践発表あり。

日本語教育実習Ⅲ

JLT3855NOJ
 大学
 教職・資格
 3年次
 2単位 後期集中
 その他
 ー
 60
 日本語教育実習I
 集中
 堀 勝博

共生・協働する力	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との協働・コミュニケーションがでない	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との協働・コミュニケーションがある程度可能である	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との協働・コミュニケーションがじゅうぶん可能である	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との積極的な協働・コミュニケーションが可能であり、常に周囲の状況への心配りができる
----------	-------------------------------------------	-------------------------------------------------	--------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語教員養成課程の主要科目を修得した最終年次生が、実際に学外の日本語教育の現場に赴き、初級～初中級の日本語授業の見学・実践を行い、日本語教育の実践的知識を体得することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 初級～初中級日本語クラスで教授される主な学習事項について理解する
2. 実際に日本語教育機関に赴き、授業を見学・補助する
3. 日本語教育機関の初級～初中級日本語クラスで、指導案を作成し、授業を10コマ程度実施する
4. 外国人学習者に接し、日本語教師として実際の教室でどのようなことが求められるかを体験的に学習する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	日本語教授事項への知識・理解が薄弱である	日本語教授事項への知識・理解がある程度見られる	日本語教授事項への知識・理解がかなり見られる	日本語教授事項への知識・理解がきわまえて深い
言語力	教室での言語が不明瞭で、学習者とのコミュニケーションを取ることができない	教室での言語がある程度明瞭で、学習者とのコミュニケーションをある程度取ることができる	教室での言語が程度明瞭で、学習者とのコミュニケーションをかなり取り取ることができる	教室での言語がある程度明瞭で、学習者とのコミュニケーションをある程度取ることができる
思考・解決力	教材研究ができず、授業計画を自分で立てることができない	授業計画を自分で作ることはできるが、教材研究が不足しており、やや魅力や個性に欠ける授業である	一定の教材研究により、授業計画を自分で作ることができ、ある程度魅力的・個性的な授業を実施することができる	十分な教材研究が行われ、よく練った授業計画により、きわめて魅力的・個性的な授業を実施することができる

〔授業計画〕

1. 事前授業 (実施日は掲示するのでよく見ておくこと)

- ・テキストにもとづき、教材研究を行う
- ・実習に関する心構えや注意点について理解する

2. 学外での実習

- ・日本語教師の授業を見学する
- ・10時間程度、外国人学習者のクラス(20名前後の教室)で授業を実施する

3. 事後授業

- ・学外実習を振り返り、学んだことや課題点などについてレポートする

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 学外の日本語教育機関において、授業の見学・実践を行う
2. 『みんなの日本語』Ⅰ・Ⅱの主要な教授項目について理解する
3. 上記2にもとづき、教材研究を行い、指導案を作成し、授業を実践する
4. 日本語教育実習日誌に日々の学習事項を記録する
5. 実習で体験したことを振り返り、課題をまとめる

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指示された課題を、事前にきちんと準備しておくこと。授業実施にあたっては、教材研究・指導案作成にじゅうぶん時間をかけて当たること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に取り組む意欲・態度の評価点10%、作成教材、指導案および実施模擬授業の内容60%、日本語教育実習日誌の内容20%、最終レポートの内容10%で評価する。なお、この科目に関しては、遅刻・欠席はゆるぎない。

〔留意事項 (Other Information)〕

この科目の履修に際しては、実習費を必要とする。また、この授業の履修条件は、以下の通りである。日本語教育実

習Iの単位を修得済みであり、かつ必修科目22単位のうち16単位以上（平成26年度以降入学者は24単位中18単位）を修得済みであること。留学生は、日本留学試験日本語科目（3領域総合得点）320点以上の成績を取得していることが求められる。卒業後、日本語教員として就職することを考えている人は、本科目だけでなく、他の「日本語教育実習」科目も履修することが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 / スリーエーネットワーク 編著 / スリーエーネットワーク / 1998年 / ISBN:9784883196036 / 無

『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 本冊』 / スリーエーネットワーク 編著 / スリーエーネットワーク / 1998年 / ISBN:9784883196463 / 無

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 教え方の手引き』 / スリーエーネットワーク 編著 / スリーエーネットワーク / 1998年 / ISBN:9784883197347 / 無

『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 教え方の手引き』 / スリーエーネットワーク 編著 / スリーエーネットワーク / 1998年 / ISBN:9784883197453 / 無

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

大阪外国語大学外国人研究生日本語チューター（1983～4年）同志社国際高校帰国生徒クラス（1984年）大阪外国語大学留学生別科日本語科目（1985～1986年）など、留学生や帰国生徒に対する日本語教育を担当した

日本語教育実習Ⅳ

JLT4850NOJ
大学
教職・資格
4年次
4単位 集中
その他
180
集中
堀 勝博

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

初級から上級まで各レベルの日本語授業の実践を通して、日本語教育の方法について体得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

詳細は、海外実習校との打ち合わせによって決定し、事前指導の授業中に指示する。例年、香港の幼稚園や中学校の児童・生徒を対象に、日本語や日本文化を紹介する授業を3週間にわたって担当しているが、国際情勢等の状況によっては、実施国や実施方法を全面的に変更することがある。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	日本語教授事項への知識・理解が薄弱である	日本語教授事項への知識・理解がある程度見られる	日本語教授事項への知識・理解がかなり見られる	日本語教授事項への知識・理解がきわめて深い
言語力	教室での言語が不明瞭で、学習者とのコミュニケーションを取ることができない	教室での言語がある程度明瞭で、学習者とのコミュニケーションを取ることができている	教室での言語が程度明瞭で、学習者とのコミュニケーションをかなり取ることができる	教室での言語がある程度明瞭で、学習者とのコミュニケーションをある程度取ることができる
思考・解決力	教材研究ができず、授業計画を自分で立てることができない	授業計画を自分で作ることができ、教材研究が不足しており、やや魅力や個性に欠ける授業である	一定の教材研究により、授業計画を自分で作ることができ、ある程度魅力的・個性的な授業を実施することができる	十分な教材研究が行われ、よく練った授業計画により、きわめて魅力的・個性的な授業を実施することができる
共生・協働する力	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との協働・コミュニケーションができない	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との協働・コミュニケーションがある程度可能である	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との協働・コミュニケーションがじゅうぶん可能である	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との積極的な協働・コミュニケーションが可能であり、常に周囲の状況への心配りができる
創造・発信力	受け入れ機関から与えられる諸課題に対応できず、かつ、さまざまな外国人学習者に対する日本語・日本文化発信としての授業や交流活動の提案がほとんどできない	受け入れ機関から与えられる諸課題にある程度対応でき、さまざまな外国人学習者に対する日本語・日本文化発信としての授業や交流活動の提案も、あ	受け入れ機関から与えられる諸課題によく対応し、さまざまな外国人学習者に対する日本語・日本文化発信としての授業や交流活動の提案も積極的に行うことができる	受け入れ機関から与えられる諸課題にきわめてよく対応し、さまざまな外国人学習者に対する日本語・日本文化発信としての授業や交流活動の提案もきわめて積極的かつ魅力的

		る程度で ける	に行うこ と が で き る の で、 在 外 担 当 者 か ら 高 く 評 価 さ れ た
--	--	------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〔授業計画〕

- 4月 導入授業 —実習の概要説明
- 5～6月 事前指導 —過去の取り組みの紹介、指導案の書き方など
- 7月～8月 事前指導 —指導案作成、模擬授業実施
- 9月初旬 実習機関訪問、挨拶と打ち合わせ
- 9月中旬 3週間にわたり実習実施
- 9月末 事後指導

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

この科目は、本学日本語教員養成課程の主要科目を修得した最終年次生が、実際に海外の日本語教育の現場（香港YMCA系列の教育施設を予定）に赴き、外国人学習者を直接教えることで、日本語教育の実践的知識を体得することを目的とするものである。レポート課題等の連絡、授業内容に関する指導や助言は、manaba、Eメール、LINE動画等により行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

指示された課題は、事前にきちんと準備すること。とくに、海外実習校においては、教材研究・指導案作成は周到に行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

現地教員の評価をもとに、実習期間中に作成した教材や指導案、最終レポートなどにより、総合的に判定する。なお、遅刻・欠席はゆるされない。

〔留意事項（Other Information）〕

別途渡航費、滞在費が必要である。また、この授業の履修条件は、以下の通りである。日本語教育実習Iの単位を修得済みであり、かつ必修科目22単位のうち16単位以上（平成26年度以降入学者は24単位中18単位）を修得済みであること、また、Toeic600点以上の英語能力を有すること。留学生は、日本留学試験日本語科目（3領域総合得点）320点以上の成績を取得していることが求められる。卒業後、日本語教員として就職することを考えている人は、本科目を含む実習科目をすべて履修することが望ましい。

※注意：国際情勢等の状況に鑑み、授業の実施方法を大幅に変更する（科目不開講を含む）ことがある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

大阪外国語大学外国人研究生日本語チューター（1983～4年）同志社国際高校帰国生徒クラス（1984年）大阪外国語大学留学生別科日本語科目（1985～6年）など、留学生や帰国生徒に対する日本語教育を担当した

博物館資料論

MUS2800NOJ

大学

教職・資格

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜1限

—

60

山田 由希代

〔科目の教育目標（Course Description）〕

博物館を他の社会教育施設や研究所等と区別する指標は、博物館資料の存在である。博物館におけるさまざまな活動は、博物館資料なしには成り立たない。そして、博物館資料の取り扱いは、学芸員の最も基本的な業務である。そのため、博物館資料とは何かといったことから、どのように収集、整理、保管、展示するのか、その活用に至るまでを学習する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1.博物館資料の種類と分類に関する視点を理解する。
- 2.資料の収集・保管について理解する。
- 3.資料の調査・研究について理解する。
- 4.資料の展示・公開について理解する。
- 5.資料を取り巻く多様な課題について考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 博物館資料の意義と種類
- 第 3 回 資料の収集の方法（採集、購入、寄託、寄贈、交換など）
- 第 4 回 資料の収集の手続き（寄託、寄贈、交換）
- 第 5 回 資料の保管（受け入れ時の対応・調書の作成）
- 第 6 回 資料の保管（資料の管理）
- 第 7 回 資料の公開（台帳とデータベース）
- 第 8 回 美術館見学
- 第 9 回 資料の利用（研究と展示）
- 第 10 回 資料の利用（利用の促進）
- 第 11 回 博物館見学
- 第 12 回 コレクションの育成
- 第 13 回 博物館資料に関わる法律
- 第 14 回 利用者の視点と博物館の視点
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1.授業方法

*必要に応じて資料を配布し、講義を行う。

2.テキスト・参考資料

*テキストは使用しない。

*参考文献については必要に応じて紹介する。

3.その他

*他の博物館学関連の科目と緊密に関連するため、それらにも留意して学習する。

*博物館施設見学の費用は履修者の負担とする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

講義が中心であるが、履修者の積極的な発言を求めため、博物館や美術館に足を運び、展覧会および博物館施設の諸活動を現場で観察する機会を多く持つように心がけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、平常点（態度、発言、感想、授業内での作業、授業内の小テスト）とレポートにより総合的に行う。評価基準は、平常点60%、まとめのレポート40%とする。

なお、課題に関しては直接コメントしてフィードバックとする。

〔留意事項（Other Information）〕

フィールドワークとして施設見学を行う場合、各自入館料を必要とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

美術館学芸員として勤務するなか、美術工芸品を扱うことや作家およびその制作過程に触れる経験を有しているため、実際的な視点から授業を行う。

博物館展示論

MUS1851N0J

大学

教職・資格

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜3限

ー

60

山田 由希代

〔科目の教育目標（Course Description）〕

展示の歴史、展示メディア、展示の諸形態等に関する知識及び方法に関する知識を習得するとともに、博物館および美術館での展示技術に関する基礎的能力を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1.博物館において中心的活動のひとつである展示についての知識を身につける。

2.展示方法、技術について学び、博物館において展示が及ぼす影響について多角的に考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 博物館展示の意義について
- 第 2 回 展示と展示論の歴史
- 第 3 回 博物館の見学
- 第 4 回 展示製作の流れ（企画・デザイン・照明など）
- 第 5 回 展示パネル・解説パネル・人や機器による解説
- 第 6 回 展示解説（図録・パンフレット）
- 第 7 回 関係者との協力（業者等）
- 第 8 回 美術館の見学

- 第 9 回 展示を企画してみる（企画概要作成）
 - 第 10 回 出品リストを作ってみる
 - 第 11 回 展示の構成を作って整理してみる
 - 第 12 回 企画展の見学
 - 第 13 回 展示図面を作ってみる（画像の配置）
 - 第 14 回 展示図面を作ってみる（全体の調整）
 - 第 15 回 発表とまとめ
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業方法

* 必要に応じて資料を配布し、講義を行う。

2. テキスト・参考資料

* テキストは使用しない。

* 参考文献については必要に応じて紹介する。

3. その他

* 他の博物館学関連の科目と緊密に関連するため、それらにも留意して学習する。

* 博物館施設見学の費用は履修者の負担とする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

履修者の積極的な発言を求めため、博物館や美術館で展示を見学すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（態度、発言内容）やレポート等により、総合的に行う。

評価基準は、授業への参加態度50%、まとめのレポート50%とする。

なお、課題に関しては直接コメントしてフィードバックとする。

〔留意事項（Other Information）〕

フィールドワークとして施設見学を行う場合、各自入館料を必要とする。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

美術館学芸員として実際に展示作業を行う経験を有しているため、現場での実質的な知識を伝える。

発達と学習の教育心理

TEA2801N0J

大学

教職・資格

2年次

2単位 後期

木曜4限

ー

60

障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む

畠山 寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕

教育活動における心理学的理解は重要である。教授方法や学習理論、あるいは、教育の対象である児童・生徒の理解がなければ、適切で効果的な教育活動は行えない。この科目では、学習心理学、発達心理学、社会心理学の基礎的な知見の紹介にとどまらず、教育に活かす方法について講義することによって、適切で効果的な教育活動について理解することを目標にする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 学習に関する心理学的な理解
2. 児童・生徒の心身の発達、及び、障害に対する理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学習に関する心理学的理解	学習に関する心理学的な理解ができていない。	学習に関する心理学的な理解が、一部できている。	学習に関する心理学的な理解が、十分にできている。	レベル3に加え、実践できる。
児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解ができていない。	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解が、一部できている。	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解が、十分にできている。	レベル3に加え、発達や障害に見合ったかわりが考えられる。

〔授業計画〕

第 1 回 教育における児童・生徒の発達理解、学習理解の重要性

第 2 回 学習①：行動主義の学習理論

第 3 回 学習②：認知主義の学習理論

第 4 回 学習③：メタ認知、学習方略

第 5 回 記憶：記憶のメカニズムと効果的な記憶法

第 6 回 動機づけ：やる気の引き出し方

第 7 回 発達①：発達に関する基礎的理解

第 8 回 発達②：乳幼児期の発達

第 9 回 発達③：児童期・青年期の発達

第 10 回 個人差：知能、性格特性の把握

第 11 回 障害の理解①：知的障害、自閉症

第 12 回 障害の理解②：ADHD、学習障害

第 13 回 学級集団：教師のあり方と生徒間関係
 第 14 回 教育評価の考え方
 第 15 回 形成テストとテストの解説
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 授業は講義形式・演習形式で行う。
2. 適宜必要なプリントなどを配布する。
3. 必要に応じてパワーポイント、ビデオなどを使用する。
4. 形成テスト実施後にテスト解説を行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

成績は、形成テスト (50%)、レポート課題 (50%) を総合したものから、授業中のスマホ利用等で減点した点数とする。

[留意事項 (Other Information)]

1. 授業で配布する資料の予備は保管しません。
2. 携帯電話、スマートフォンの電源を切り、鞆の中にしまうこと。
3. 水、お茶以外の飲食については禁止します。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『Next 教科書シリーズ 発達と学習』/内藤佳津雄・北村世都・市川優一郎 編/ 弘文堂/2016/9.784335002212E12/学内販売予定

内藤・北村・市川編 (2016) Next 教科書シリーズ 発達と学習. 弘文堂

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

特別支援教育

TEA2852N0J
 大学
 教職・資格
 2年次
 2単位 後期
 水曜 4限
 60
 坂井 美恵子

[科目の教育目標 (Course Description)]

- ①特別の支援を必要とする幼児、児童、及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解する。
- ②特別の支援を必要とする幼児、児童、及び生徒の教育的ニーズに必要な知識や支援の方法を理解する。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

障害のある子どもや、障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもたちが、学校現場にはたくさんいます。これからの学校教育では、様々な環境や考え方で育ってきた子どもたちへの理解や対応が求められています。本講義では、特別の支援が必要とされる人たちの生活やコミュニケーション、かかわり方などの学習をとおして、教師として必要な知識の理解を図ります。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学習指導要領の理解	学習指導要領や幼稚園教育要領を知らない	学習指導要領や幼稚園教育要領を理解している	学習指導要領や幼稚園教育要領を理解し、授業や保育に生かそうとする	学習指導要領や幼稚園教育要領を完全に理解し、観点ごとの評価に生かそうとする
主体的に学ぶこと	先生主導の教育のみを行っている	子どもの状況に配慮しつつ、先生主導の教育を行う	子どもの主体的な学びを尊重し子どものための教材を提供できる。	子どものための教材を提供でき、その周辺の知識に詳しく学習の動機付けをすることができ、自己評価につなげることができる
特別支援教育について	子どもの障害や貧困、外国籍などについて知らない	子どもの障害や貧困、外国籍などについて理解している	子どもの障害や貧困、外国籍などについて理解し、授業や保育に生かすことができる	子どもの障害や貧困、外国籍などについて理解し、関連する医療や福祉の知識に詳しく授業や保育に生かすことができる
教育技術・教材・補助具の知識について	障害や貧困、外国籍の子どもの指導技術や教材、補助具を知らない	障害や貧困、外国籍の子どもの指導技術や教材、補助具を知っている	障害や貧困、外国籍の子どもの指導技術や教材、補助具を知って、活用したり、操作できる	障害や貧困、外国籍の子どもの指導技術や教材、補助具を知って、有効に活用したり、適正に操作できる

[授業計画]

- 第 1 回：授業の進め方，学校現場の現状
- 第 2 回：ICF (国際生活機能分類) の理解と活用 (発達障害)

- 第3回：日本における子どもの貧困の現状
- 第4回：貧困に直面する子どもへの教育支援
- 第5回：外国にルーツを持つ子どもの現状と言語に関する問題
- 第6回：外国にルーツを持つ子どもへの教育支援
- 第7回：障害のある子ども（1）見え方に困難がある子ども（視覚障害）
- 第8回：障害のある子ども（2）分かることに困難がある子ども（学習障害 LD・ASD・ADHD）
- 第9回：特別支援学校の教育（自立活動・通級指導教室）（構音・言語障害）
- 第10回：特別支援教育の実際（1）合科領域の指導（知的障害・ASD）
- 第11回：特別支援教育の実際（2）バリアフリー・ユニバーサルデザイン（肢体不自由）
- 第12回：特別支援教育の実際（3）障害の理解・コミュニケーション（聴覚障害）
- 第13回：教育・医療・福祉・行政の連携（病弱・虚弱教育）
- 第14回：保護者への理解（重複障害）
- 第15回：学習内容の振り返りとまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない。

15回の講義中に4回、テーマを指定したレポートの提出をもとめ、第15回では総合レポートを課して評価をする。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義に先立ち「事前学修課題」を提出し、音声付与したVTR資料を視聴して、「授業後記録」を作成しメールで提出する。「授業後記録」の提出で出欠を確認する。字数は各1000字程度とする。VTR資料は1週間繰り返し視聴でき、別にPDF資料はダウンロードできるようにする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

事前に「事前学修課題」を作成し、提出する。その際に、疑問や質問があれば記載する。

質問がなければ記載なしでよい。インターネットを活用した検索が中心となる。

今回は対面授業ではないのでペアワークやグループワークが実施できないので、記載された質問については氏名を臥し、Q&Aを作成し、全体で共有する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

予習復習など60時間

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

平常点（グループ作業の成果など）30%

授業ごとの小レポート及び4回の中レポート 60%

期末レポート 10%

第15回では、補足授業又は全体的な授業講評を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

対象とする障害種は、授業予定回を変更して行う場合がある。授業方法等については、第1回授業のすすめ方を参照して下さい。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無〕

『特別のニーズのある子どもの教育』中瀬浩一・井上智義（樹林房）

その他、必要に応じてプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN〕

特別支援学校幼稚部教育要領・小学部中学部学習指導要領・高等学校学習指導要領／海文堂出版、2018年

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

聾学校高等部教員として、国語科、自立活動を担当、進学指導に実績がある。

その後、養護学校教頭、聾学校長等の管理職を経て、大阪府教育センター特別支援教育室首席指導主事を務めた。